

お客様各位

カタログ等資料中の旧社名の扱いについて

2010年4月1日を以ってNECエレクトロニクス株式会社及び株式会社ルネサステクノロジが合併し、両社の全ての事業が当社に承継されております。従いまして、本資料中には旧社名での表記が残っておりますが、当社の資料として有効ですので、ご理解の程宜しくお願ひ申し上げます。

ルネサスエレクトロニクス ホームページ (<http://www.renesas.com>)

2010年4月1日
ルネサスエレクトロニクス株式会社

【発行】ルネサスエレクトロニクス株式会社 (<http://www.renesas.com>)

【問い合わせ先】<http://japan.renesas.com/inquiry>

ご注意書き

1. 本資料に記載されている内容は本資料発行時点のものであり、予告なく変更することがあります。当社製品のご購入およびご使用にあたりましては、事前に当社営業窓口で最新の情報をご確認いただきますとともに、当社ホームページなどを通じて公開される情報に常にご注意ください。
2. 本資料に記載された当社製品および技術情報の使用に関連し発生した第三者の特許権、著作権その他の知的財産権の侵害等に関し、当社は、一切その責任を負いません。当社は、本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他の知的財産権を何ら許諾するものではありません。
3. 当社製品を改造、改変、複製等しないでください。
4. 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関する情報は、半導体製品の動作例、応用例を説明するものです。お客様の機器の設計において、回路、ソフトウェアおよびこれらに関する情報を使用する場合には、お客様の責任において行ってください。これらの使用に起因しお客様または第三者に生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
5. 輸出に際しては、「外国為替及び外国貿易法」その他輸出関連法令を遵守し、かかる法令の定めるところにより必要な手続を行ってください。本資料に記載されている当社製品および技術を大量破壊兵器の開発等の目的、軍事利用の目的その他軍事用途の目的で使用しないでください。また、当社製品および技術を国内外の法令および規則により製造・使用・販売を禁止されている機器に使用することができません。
6. 本資料に記載されている情報は、正確を期すため慎重に作成したものですが、誤りがないことを保証するものではありません。万一、本資料に記載されている情報の誤りに起因する損害がお客様に生じた場合においても、当社は、一切その責任を負いません。
7. 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」、「高品質水準」および「特定水準」に分類しております。また、各品質水準は、以下に示す用途に製品が使われることを意図しておりますので、当社製品の品質水準をご確認ください。お客様は、当社の文書による事前の承諾を得ることなく、「特定水準」に分類された用途に当社製品を使用することができません。また、お客様は、当社の文書による事前の承諾を得ることなく、意図されていない用途に当社製品を使用することができません。当社の文書による事前の承諾を得ることなく、「特定水準」に分類された用途または意図されていない用途に当社製品を使用したことによりお客様または第三者に生じた損害等に関し、当社は、一切その責任を負いません。なお、当社製品のデータ・シート、データ・ブック等の資料で特に品質水準の表示がない場合は、標準水準製品であることを表します。

標準水準： コンピュータ、OA機器、通信機器、計測機器、AV機器、家電、工作機械、パソコン機器、産業用ロボット

高品質水準： 輸送機器（自動車、電車、船舶等）、交通用信号機器、防災・防犯装置、各種安全装置、生命維持を目的として設計されていない医療機器（厚生労働省定義の管理医療機器に相当）

特定水準： 航空機器、航空宇宙機器、海底中継機器、原子力制御システム、生命維持のための医療機器（生命維持装置、人体に埋め込み使用するもの、治療行為（患部切り出し等）を行うもの、その他直接人命に影響を与えるもの）（厚生労働省定義の高度管理医療機器に相当）またはシステム等

8. 本資料に記載された当社製品のご使用につき、特に、最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件その他諸条件につきましては、当社保証範囲内でご使用ください。当社保証範囲を超えて当社製品をご使用された場合の故障および事故につきましては、当社は、一切その責任を負いません。
9. 当社は、当社製品の品質および信頼性の向上に努めておりますが、半導体製品はある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。また、当社製品は耐放射線設計については行っておりません。当社製品の故障または誤動作が生じた場合も、人身事故、火災事故、社会的損害などを生じさせないようお客様の責任において冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全設計およびエーペンギング処理等、機器またはシステムとしての出荷保証をお願いいたします。特に、マイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様が製造された最終の機器・システムとしての安全検証をお願いいたします。
10. 当社製品の環境適合性等、詳細につきましては製品個別に必ず当社営業窓口までお問合せください。ご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制する RoHS 指令等、適用される環境関連法令を十分調査のうえ、かかる法令に適合するようご使用ください。お客様がかかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関して、当社は、一切その責任を負いません。
11. 本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾を得ることなく転載または複製することを固くお断りいたします。
12. 本資料に関する詳細についてのお問い合わせその他お気付きの点等がございましたら当社営業窓口までご照会ください。

注 1. 本資料において使用されている「当社」とは、ルネサスエレクトロニクス株式会社およびルネサスエレクトロニクス株式会社がその総株主の議決権の過半数を直接または間接に保有する会社をいいます。

注 2. 本資料において使用されている「当社製品」とは、注 1 において定義された当社の開発、製造製品をいいます。



ユーザーズ・マニュアル

V850ES/Fx3

32ビット・シングルチップ・マイクロコントローラ

ハードウェア編

V850ES/FE3 : V850ES/FF3 :

μ PD70F3370A μ PD70F3372

μ PD70F3371 μ PD70F3373

V850ES/FG3 :

μ PD70F3374

μ PD70F3375

μ PD70F3376A

μ PD70F3377A

V850ES/FJ3 :

μ PD70F3378

μ PD70F3379

μ PD70F3380

μ PD70F3381

μ PD70F3382

V850ES/FK3 :

μ PD70F3383

μ PD70F3384

μ PD70F3385

資料番号 U17793JJ3V1UM00 (第3版)

発行年月 May 2008 NS

© NEC Electronics Corporation 2007

(メモ)

目次要約

第1章 イントロダクション	... 22
第2章 端子機能	... 37
第3章 CPU機能	... 169
第4章 クロック発生機能とスタンバイ制御	... 199
第5章 割り込みコントローラ (INTC)	... 276
第6章 キー割り込み機能	... 327
第7章 フラッシュ・メモリ	... 329
第8章 オプション・バイト	... 358
第9章 データ保護とセキュリティ	... 362
第10章 バス、メモリ制御機能 (BCU, MEMC)	... 367
第11章 DMA機能 (DMAコントローラ)	... 400
第12章 16ビット・タイマ/イベント・カウンタAA	... 425
第13章 16ビット・タイマ/イベント・カウンタAB	... 501
第14章 16ビット・インターバル・タイマM	... 559
第15章 タイマAA/AB同期動作機能	... 565
第16章 時計タイマ機能	... 569
第17章 ウオッチドッグ・タイマ2	... 575
第18章 アシンクロナス・シリアル・インターフェース (UARTD)	... 580
第19章 3線式シリアル・インターフェース (CSIB)	... 635
第20章 I²Cバス	... 671
第21章 CANコントローラ	... 750
第22章 A/Dコンバータ	... 898
第23章 モータ制御機能	... 940
第24章 電 源	... 1004
第25章 リセット機能	... 1008
第26章 低電圧検出回路	... 1014
第27章 オンチップ・デバッグ・ユニット	... 1025
付録A 周辺I/Oレジスタとプログラマブル周辺I/Oレジスタ	... 1041
付録B レジスタ索引	... 1062
付録C 改版履歴	... 1083

CMOSデバイスの一般的注意事項

入力端子の印加波形

入力ノイズや反射波による波形歪みは誤動作の原因になりますので注意してください。

CMOSデバイスの入力がノイズなどに起因して， V_{IL} (MAX.) から V_{IH} (MIN.) までの領域にとどまるような場合は，誤動作を引き起こす恐れがあります。入力レベルが固定な場合はもちろん， V_{IL} (MAX.) から V_{IH} (MIN.) までの領域を通過する遷移期間中にチャタリングノイズ等が入らないようご使用ください。

未使用入力の処理

CMOSデバイスの未使用端子の入力レベルは固定してください。

未使用端子入力については，CMOSデバイスの入力に何も接続しない状態で動作させるのではなく，プルアップかプルダウンによって入力レベルを固定してください。また，未使用の入出力端子が出力となる可能性（タイミングは規定しません）を考慮すると，個別に抵抗を介して V_{DD} またはGNDに接続することが有効です。

資料中に「未使用端子の処理」について記載のある製品については，その内容を守ってください。

静電気対策

MOSデバイス取り扱いの際は静電気防止を心がけてください。

MOSデバイスは強い静電気によってゲート絶縁破壊を生じことがあります。運搬や保存の際には，当社が出荷梱包に使用している導電性のトレー・マガジン・ケース，または導電性の緩衝材，金属ケースなどを利用し，組み立て工程にはアースを施してください。プラスチック板上に放置したり，端子を触ったりしないでください。

また，MOSデバイスを実装したボードについても同様の扱いをしてください。

初期化以前の状態

電源投入時，MOSデバイスの初期状態は不定です。

電源投入時の端子の出力状態や入出力設定，レジスタ内容などは保証しておりません。ただし，リセット動作やモード設定で定義している項目については，これらの動作のうちに保証の対象となります。

リセット機能を持つデバイスの電源投入後は，まずリセット動作を実行してください。

電源投入切断順序

内部動作および外部インターフェースで異なる電源を使用するデバイスの場合，原則として内部電源を投入した後に外部電源を投入してください。切断の際には，原則として外部電源を切断した後に内部電源を切断してください。逆の電源投入切断順により，内部素子に過電圧が印加され，誤動作を引き起こしたり，異常電流が流れ内部素子を劣化させたりする場合があります。

資料中に「電源投入切断シーケンス」についての記載のある製品については，その内容を守ってください。

電源OFF時における入力信号

当該デバイスの電源がOFF状態の時に，入力信号や入出力プルアップ電源を入れないでください。入力信号や入出力プルアップ電源からの電流注入により，誤動作を引き起こしたり，異常電流が流れ内部素子を劣化させたりする場合があります。

資料中に「電源OFF時における入力信号」についての記載のある製品については，その内容を守ってください。

注意：本製品は、Silicon Storage Technology, Inc.からライセンスを受けたSuperFlash®を使用しています。

SuperFlashは、米国Silicon Storage Technology, Inc.の米国、日本などの国における登録商標です。

- 本資料に記載されている内容は2008年5月現在のもので、今後、予告なく変更することがあります。量産設計の際には最新の個別データ・シート等をご参照ください。
- 文書による当社の事前の承諾なしに本資料の転載複製を禁じます。当社は、本資料の誤りに関し、一切その責を負いません。
- 当社は、本資料に記載された当社製品の使用に関連し発生した第三者の特許権、著作権その他の知的財産権の侵害等に関し、一切その責を負いません。当社は、本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他の知的財産権を何ら許諾するものではありません。
- 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報は、半導体製品の動作例、応用例を説明するものです。お客様の機器の設計において、回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報を使用する場合には、お客様の責任において行ってください。これらの使用に起因しお客様または第三者に生じた損害に関し、当社は、一切その責を負いません。
- 当社は、当社製品の品質、信頼性の向上に努めておりますが、当社製品の不具合が完全に発生しないことを保証するものではありません。また、当社製品は耐放射線設計については行っておりません。当社製品をお客様の機器にご使用の際には、当社製品の不具合の結果として、生命、身体および財産に対する損害や社会的損害を生じさせないよう、お客様の責任において冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全設計を行ってください。
- 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」、「特別水準」およびお客様に品質保証プログラムを指定していただく「特定水準」に分類しております。また、各品質水準は、以下に示す用途に製品が使われることを意図しておりますので、当社製品の品質水準をご確認ください。

標準水準：コンピュータ、OA機器、通信機器、計測機器、AV機器、家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット

特別水準：輸送機器（自動車、電車、船舶等）、交通用信号機器、防災・防犯装置、各種安全装置、生命維持を目的として設計されていない医療機器

特定水準：航空機器、航空宇宙機器、海底中継機器、原子力制御システム、生命維持のための医療機器、生命維持のための装置またはシステム等

当社製品のデータ・シート、データ・ブック等の資料で特に品質水準の表示がない場合は、標準水準製品であることを表します。意図されていない用途で当社製品の使用をお客様が希望する場合には、事前に当社販売窓口までお問い合わせください。

(注)

- (1) 本事項において使用されている「当社」とは、NECエレクトロニクス株式会社およびNECエレクトロニクス株式会社がその総株主の議決権の過半数を直接または間接に保有する会社をいう。
- (2) 本事項において使用されている「当社製品」とは、(1)において定義された当社の開発、製造製品をいう。

はじめに

対象者 このマニュアルは、V850ES/Fx3の機能を理解し、それを用いた応用システムを設計するユーザを対象とします。

目的 このマニュアルは、次の構成に示すハードウェア機能をユーザに理解していただくことを目的としています。

構成 V850ES/Fx3のユーザーズ・マニュアルは、ハードウェア編（このマニュアル）と、アーキテクチャ編（V850ES ユーザーズ・マニュアル アーキテクチャ編）の2冊に分かれています。

ハードウェア編

- ・端子機能
- ・CPU機能
- ・内蔵周辺機能
- ・フラッシュ・メモリ・プログラミング

アーキテクチャ編

- ・データ・タイプ
- ・レジスタ・セット
- ・命令形式と命令セット
- ・割り込みと例外
- ・パイプラインの動作

読み方 このマニュアルの読者には、電気、論理回路、およびマイクロコントローラに関する一般知識を必要とします。

命令機能の詳細を理解しようとするとき

別冊のV850ES ユーザーズ・マニュアル アーキテクチャ編を参照してください。

品名表記について

このマニュアルでは、(A)、(A1)、および(A2)を省略して記載しております。(A)、(A1)、および(A2)製品間の違いは品質水準と電気的特性のみです。

製品の端子機能および内蔵周辺機能については、品名を次のように読み替えてください。

- ・ μ PD70F3370A μ PD70F3370A(A), μ PD70F3370A(A1), μ PD70F3370A(A2)
- ・ μ PD70F3371 μ PD70F3371(A), μ PD70F3371(A1), μ PD70F3371(A2)
- ・ μ PD70F3372 μ PD70F3372(A), μ PD70F3372(A1), μ PD70F3372(A2)
- ・ μ PD70F3373 μ PD70F3373(A), μ PD70F3373(A1), μ PD70F3373(A2)
- ・ μ PD70F3374 μ PD70F3374(A), μ PD70F3374(A1), μ PD70F3374(A2)
- ・ μ PD70F3375 μ PD70F3375(A), μ PD70F3375(A1), μ PD70F3375(A2)
- ・ μ PD70F3376A μ PD70F3376A(A), μ PD70F3376A(A1), μ PD70F3376A(A2)
- ・ μ PD70F3377A μ PD70F3377A(A), μ PD70F3377A(A1), μ PD70F3377A(A2)
- ・ μ PD70F3378 μ PD70F3378(A), μ PD70F3378(A1), μ PD70F3378(A2)
- ・ μ PD70F3379 μ PD70F3379(A), μ PD70F3379(A1), μ PD70F3379(A2)
- ・ μ PD70F3380 μ PD70F3380(A), μ PD70F3380(A1), μ PD70F3380(A2)
- ・ μ PD70F3381 μ PD70F3381(A), μ PD70F3381(A1), μ PD70F3381(A2)
- ・ μ PD70F3382 μ PD70F3382(A), μ PD70F3382(A1), μ PD70F3382(A2)
- ・ μ PD70F3383 μ PD70F3383(A), μ PD70F3383(A1), μ PD70F3383(A2)
- ・ μ PD70F3384 μ PD70F3384(A), μ PD70F3384(A1), μ PD70F3384(A2)
- ・ μ PD70F3385 μ PD70F3385(A), μ PD70F3385(A1), μ PD70F3385(A2)

一通りV850ES/Fx3の機能を理解しようとするとき

目次に従ってお読みください。本文欄外の印は、本版で改訂された主な箇所を示しています。

この“”をPDF上でコピーして「検索する文字列」に指定することによって、改版箇所を容易に検索できます。

レジスタ・フォーマットの見方

ビット番号をで囲んでいるものは、そのビット名称がデバイス・ファイルで予約語に定義されているものです。

各レジスタのレジスタ・フォーマットの図で0または1と記載している場合は、それ以外の値は設定しないでください。

V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3, V850ES/FJ3, V850ES/FK3の電気的特性を知りたいとき

次のデータ・シートを参照してください。

μPD70F3370A, 70F3371 データ・シート (U18640J)

μPD70F3372, 70F3373 データ・シート (U18639J)

μPD70F3374, 70F3375, 70F3376A, 70F3377A データ・シート (U18638J)

μPD70F3378, 70F3379, 70F3380, 70F3381, 70F3382 データ・シート (U18608J)

μPD70F3383, 70F3384, 70F3385 データ・シート (U18637J)

注意 このマニュアル中の使用例は、一般電子機器用の(A)品質水準用に作成しております。(A1)品質水準、および(A2)品質水準を要求する用途にこのマニュアル中の使用例を使用する場合は、実際に使用する各部分および回路について、その品質水準についてご検討のうえご使用ください。

凡　例　データ表記の重み：左が上位桁、右が下位桁

アクティブ・ロウの表記： \overline{xx} (端子、信号名称に上線)

メモリ・マップのアドレス：上部 - 上位、下部 - 下位

注：本文中に付けた注の説明

注意：気を付けて読んでいただきたい内容

備考：本文の補足説明

数の表記：2進数 … xxxxまたはxxxxB

10進数 … xxxx

16進数 … xxxxH

2のべき数を示す接頭語（アドレス空間、メモリ容量）：

K(キロ) : 2^{10} ... 1024

M(メガ) : 2^{20} ... 1024²

G(ギガ) : 2^{30} ... 1024³

関連資料 関連資料は暫定版の場合がありますが、この資料では「暫定」の表示をしておりません。あらかじめご了承ください。

V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3, V850ES/FJ3およびV850ES/FK3に関する資料

資料名	資料番号
V850ES ユーザーズ・マニュアル アーキテクチャ編	U15943J
V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3, V850ES/FJ3, V850ES/FK3 ユーザーズ・マニュアル ハードウエア編	このマニュアル
μPD70F3370A, 70F3371 データ・シート	U18640J
μPD70F3372, 70F3373 データ・シート	U18639J
μPD70F3374, 70F3375, 70F3376A, 70F3377A データ・シート	U18638J
μPD70F3378, 70F3379, 70F3380, 70F3381, 70F3382 データ・シート	U18608J
μPD70F3383, 70F3384, 70F3385 データ・シート	U18637J

注意 上記関連資料は予告なしに内容を変更することがあります。設計などには、必ず最新の資料をご使用ください。

開発ツールに関する資料（ユーザーズ・マニュアル）

資料名	資料番号
CA850 Ver.3.20 Cコンパイラ・パッケージ	操作編
	C言語編
	アセンブリ言語編
	リンク・ディレクティブ編
PM+ Ver.6.30 プロジェクト・マネージャ	U18416J
ID850QB Ver3.40 統合デバッガ	操作編
RX850 Ver.3.20 リアルタイムOS	基礎編
	インストレーション編
	テクニカル編
	タスク・デバッガ編
RX850 Pro Ver.3.21 リアルタイムOS	基礎編
	インストレーション編
	テクニカル編
	タスク・デバッガ編
RD850 Ver.3.01 タスク・デバッガ	U13737J
AZ850 Ver.3.30 システム・パフォーマンス・アナライザ	U17423J
PG-FP4 フラッシュ・メモリ・プログラマ	U15260J
PG-FP5 フラッシュ・メモリ・プログラマ	U18865J
QB-V850ESFX3	注
QB-V850MINI（オンチップ・デバッグ・エミュレータ）	U17638J
SM+ システム・シミュレータ	操作編
	ユーザ・オープン・インターフェース編
	U18212J

注 当社販売員にお問い合わせください。

備考 開発ツール、およびその最新バージョンに関しては、下記の当社ホームページをご参照いただくか、または当社販売特約店へお問い合わせください。

<http://www.necel.com/micro/ja/development/asia/v850/index.html>

その他の資料

資料名	資料番号
半導体総合セレクション・ガイド - 製品・パッケージ情報 -	X13769X
半導体デバイス 実装マニュアル	注
NEC半導体デバイスの品質水準	C11531J
NEC半導体デバイスの信頼性品質管理	C10983J
静電気放電(ESD)破壊対策ガイド	C11892J
半導体 品質 / 信頼性ハンドブック	C12769J
マイクロコンピュータ関連製品ガイド 社外メーカー編	U11416J

注 「半導体デバイス実装マニュアル」のホーム・ページ参照

<http://www.necel.com/pkg/ja/jissou/index.html>

注意 上記関連資料は予告なしに内容を変更することがあります。設計などには、必ず最新の資料をご使用ください。

目 次

第1章 イントロダクション ... 22

- 1. 1 概 説 ... 22
- 1. 2 特 徴 ... 22
- 1. 3 機能ブロック構成 ... 27
 - 1. 3. 1 内部ユニット ... 31
- 1. 4 オーダ情報 ... 33
 - 1. 4. 1 V850ES/FE3オーダ情報 ... 33
 - 1. 4. 2 V850ES/FF3オーダ情報 ... 33
 - 1. 4. 3 V850ES/FG3オーダ情報 ... 34
 - 1. 4. 4 V850ES/FJ3オーダ情報 ... 35
 - 1. 4. 5 V850ES/FK3オーダ情報 ... 36

第2章 端子機能 ... 37

- 2. 1 概 要 ... 37
 - 2. 1. 1 解 説 ... 38
 - 2. 1. 2 用 語 ... 43
 - 2. 1. 3 ノイズ除去 ... 43
- 2. 2 ポート・グループを設定するレジスタの構成 ... 44
 - 2. 2. 1 概 要 ... 44
 - 2. 2. 2 端子機能設定用レジスタ ... 45
 - 2. 2. 3 端子データ入出力用レジスタ ... 51
 - 2. 2. 4 プルアップ抵抗設定用レジスタ ... 53
 - 2. 2. 5 オープン・ドレーン設定用レジスタ ... 54
- 2. 3 端子の入出力回路タイプ ... 55
- 2. 4 ポート・タイプ ... 57
 - 2. 4. 1 ポート・タイプC ... 57
 - 2. 4. 2 ポート・タイプC-U ... 58
 - 2. 4. 3 ポート・タイプD0 ... 59
 - 2. 4. 4 ポート・タイプD0-U ... 60
 - 2. 4. 5 ポート・タイプD1 ... 61
 - 2. 4. 6 ポート・タイプD1-U ... 62
 - 2. 4. 7 ポート・タイプD1-UI ... 63
 - 2. 4. 8 ポート・タイプD3-UI ... 64
 - 2. 4. 9 ポート・タイプD1A ... 65
 - 2. 4. 10 ポート・タイプD1O1-UI ... 66
 - 2. 4. 11 ポート・タイプD2 ... 67
 - 2. 4. 12 ポート・タイプE01-U ... 68
 - 2. 4. 13 ポート・タイプE10-U ... 69
 - 2. 4. 14 ポート・タイプE10-UI ... 70
 - 2. 4. 15 ポート・タイプE11-U ... 71

2.4.16	ポート・タイプE11-UI	... 72
2.4.17	ポート・タイプE21-U	... 73
2.4.18	ポート・タイプEx0-U	... 74
2.4.19	ポート・タイプEx1-U	... 75
2.4.20	ポート・タイプEx1-UI	... 76
2.4.21	ポート・タイプEx2-U	... 77
2.4.22	ポート・タイプF010x-U	... 78
2.4.23	ポート・タイプF010x-UI	... 79
2.4.24	ポート・タイプF100x-U	... 80
2.4.25	ポート・タイプF1010-U	... 81
2.4.26	ポート・タイプF101x-U	... 82
2.4.27	ポート・タイプF1100O0-U	... 83
2.4.28	ポート・タイプF1100O1-U	... 84
2.4.29	ポート・タイプF1100-U	... 85
2.4.30	ポート・タイプF1110-UI	... 86
2.4.31	ポート・タイプF113x-UI	... 87
2.4.32	ポート・タイプF1x10-UI	... 88
2.4.33	ポート・タイプF3x1x-UI	... 89
2.4.34	ポート・タイプF1xx0O1-U	... 90
2.4.35	ポート・タイプFx010-U	... 91
2.4.36	ポート・タイプFx01x-U	... 92
2.4.37	ポート・タイプFx103-UI	... 93
2.4.38	ポート・タイプFx10x-U	... 94
2.4.39	ポート・タイプFx10x-UI	... 95
2.4.40	ポート・タイプFx110-U	... 96
2.4.41	ポート・タイプFx120-UFI	... 97
2.4.42	ポート・タイプFx123-UFI	... 98
2.4.43	ポート・タイプFx12x-UFI	... 99
2.4.44	ポート・タイプFx13x-U	... 100
2.4.45	ポート・タイプFx210-U	... 101
2.4.46	ポート・タイプFx2x0-U	... 102
2.4.47	ポート・タイプFxx10-U	... 103
2.4.48	ポート・タイプFxx1x-U	... 104
2.4.49	ポート・タイプFxx2x-U	... 105
2.5	ポート・グループの設定	... 106
2.5.1	ポートと兼用機能の対応	... 106
2.5.2	兼用機能と各製品の対応端子（アルファベット順）	... 113
2.5.3	ポート・グループ0	... 121
2.5.4	ポート・グループ1 (V850ES/FG3, V850ES/FJ3, V850ES/FK3)	... 124
2.5.5	ポート・グループ2 (V850ES/FK3)	... 125
2.5.6	ポート・グループ3	... 126
2.5.7	ポート・グループ4	... 128
2.5.8	ポート・グループ5	... 129
2.5.9	ポート・グループ6 (V850ES/FJ3, V850ES/FK3)	... 132
2.5.10	ポート・グループ7	... 136

2. 5. 11 ポート・グループ8 (V850ES/FJ3, V850ES/FK3)	... 138
2. 5. 12 ポート・グループ9	... 139
2. 5. 13 ポート・グループ12 (V850ES/FJ3, V850ES/FK3)	... 144
2. 5. 14 ポート・グループ15 (V850ES/FK3)	... 145
2. 5. 15 ポート・グループCD (V850ES/FJ3, V850ES/FK3)	... 146
2. 5. 16 ポート・グループCM	... 147
2. 5. 17 ポート・グループCS (V850ES/FF3, V850ES/FG3, V850ES/FJ3, V850ES/FK3)	... 148
2. 5. 18 ポート・グループCT (V850ES/FF3, V850ES/FG3, V850ES/FJ3, V850ES/FK3)	... 149
2. 5. 19 ポート・グループDL	... 150
2. 6 ノイズ除去	... 153
2. 6. 1 アナログ・フィルタ処理を行う入力	... 153
2. 6. 2 ディジタル・フィルタ処理を行う入力	... 154
2. 7 リセット時とスタンバイ機能使用時の端子機能	... 157
2. 8 未使用端子の推奨接続	... 158
2. 9 注意事項	... 159
2. 9. 1 ポート端子設定上の注意事項	... 159
2. 9. 2 ポートnレジスタ (Pn) 対するビット操作命令に関する注意事項	... 162
2. 9. 3 オンチップ・デバッグ用端子に関する注意事項	... 163
2. 9. 4 P05/INTP2/DRST端子に関する注意事項	... 163
2. 9. 5 P53端子に関する電源投入時の注意事項	... 163
2. 10 パッケージの端子接続図	... 164
2. 10. 1 V850ES/FE3端子接続図	... 164
2. 10. 2 V850ES/FF3端子接続図	... 165
2. 10. 3 V850ES/FG3端子接続図	... 166
2. 10. 4 V850ES/FJ3端子接続図	... 167
2. 10. 5 V850ES/FK3端子接続図	... 168

第3章 CPU機能 ... 169

3. 1 特 徴	... 169
3. 2 CPUレジスタ・セット	... 170
3. 2. 1 プログラム・レジスタ・セット	... 171
3. 2. 2 システム・レジスタ・セット	... 172
3. 3 動作モード	... 178
3. 3. 1 通常動作モード	... 178
3. 3. 2 フラッシュ・プログラミング・モード	... 178
3. 3. 3 オンチップ・デバッグ・モード	... 178
3. 4 アドレス空間	... 179
3. 4. 1 CPUアドレス空間と物理アドレス空間	... 179
3. 4. 2 プログラム空間とデータ空間	... 180
3. 5 メモリ	... 182
3. 5. 1 メモリ領域	... 182
3. 5. 2 プログラマブル周辺I/Oレジスタ	... 187
3. 5. 3 データ・アドレス空間の推奨使用方法	... 188
3. 6 特定レジスタ	... 191

3.6.1 コマンド・レジスタ ...	194
3.7 注意事項 ...	196
第4章 クロック発生機能とスタンバイ制御 ...	199
4.1 概要 ...	199
4.1.1 構成 ...	200
4.1.2 クロック・モニタ ...	215
4.1.3 スタンバイ機能概要 ...	215
4.1.4 リセット期間中およびリセット解除時の発振動作 ...	215
4.2 クロック発生回路のレジスタ ...	217
4.2.1 クロック発生回路レジスタ ...	219
4.2.2 PLL制御レジスタ ...	229
4.2.3 SSCGコントロール・レジスタ ...	232
4.2.4 スタンバイ・コントロール・レジスタ ...	237
4.2.5 プリスケーラ・モード・レジスタ ...	239
4.2.6 クロック・モニタ・レジスタ ...	241
4.2.7 セレクタ制御レジスタ ...	242
4.3 クロック発生回路の動作 ...	248
4.3.1 クロック動作制御の設定概要 ...	248
4.3.2 動作状態遷移 ...	249
4.3.3 スタンバイ機能の説明 ...	253
4.3.4 各クロックの動作状態 ...	270
4.3.5 プリスケーラ3の動作 ...	272
4.3.6 クロック・モニタの動作 ...	273
第5章 割り込みコントローラ (INTC) ...	276
5.1 特徴 ...	276
5.2 ノンマスカブル割り込み ...	284
5.2.1 動作 ...	286
5.2.2 復帰 ...	287
5.2.3 ノンマスカブル割り込み状態フラグ (NP) ...	289
5.2.4 NMI制御 ...	289
5.3 マスカブル割り込み ...	290
5.3.1 動作 ...	290
5.3.2 復帰 ...	292
5.3.3 マスカブル割り込みの優先順位 ...	293
5.3.4 割り込み制御レジスタ (xxICn) ...	297
5.3.5 割り込みマスク・レジスタ (IMR0-IMR7) ...	305
5.3.6 インサービス・プライオリティ・レジスタ (ISPR) ...	309
5.3.7 マスカブル割り込み状態フラグ (ID) ...	310
5.3.8 外部マスカブル割り込み ...	310
5.4 外部割り込みエッジ検出設定 ...	311
5.5 ソフトウェア例外 ...	316
5.5.1 動作 ...	316
5.5.2 復帰 ...	317
5.5.3 例外状態フラグ (EP) ...	318

5.6	例外トラップ	... 319
5.6.1	不正命令コード	... 319
5.6.2	デバッグ・トラップ	... 320
5.7	多重割り込み処理制御	... 322
5.8	CPUの割り込み応答時間	... 324
5.9	CPUが割り込みを受け付けない期間	... 326

第6章 キー割り込み機能 ... 327

6.1	機能	... 327
6.2	制御レジスタ	... 328
6.3	注意事項	... 328

第7章 フラッシュ・メモリ ... 329

7.1	コード・フラッシュ・メモリ	... 330
7.1.1	コード・フラッシュ・メモリの特徴	... 330
7.1.2	コード・フラッシュ・メモリのマッピング	... 331
7.1.3	コード・フラッシュ・メモリの機能概要	... 333
7.1.4	コード・フラッシュ・メモリの消去と書き換え	... 336
7.2	データ・フラッシュ・メモリ	... 337
7.2.1	データ・フラッシュ・メモリの特徴	... 337
7.2.2	データ・フラッシュ・メモリ・マップ	... 337
7.2.3	データ・フラッシュ・コントロール・レジスタ	... 338
7.2.4	データ・フラッシュの読み出し設定	... 339
7.2.5	データ・フラッシュの書き込み	... 339
7.3	専用フラッシュ・ライタでの書き換え	... 340
7.3.1	プログラミング環境	... 340
7.3.2	通信方式	... 341
7.3.3	フラッシュ・ライタPG-FP4, PG-FP5との端子処理	... 343
7.3.4	フラッシュ・メモリ制御	... 344
7.4	コード・フラッシュ・セルフ・プログラミング	... 352
7.4.1	フラッシュ関数一覧	... 353
7.4.2	セルフ・プログラミングの許可 (FLMD0端子処理)	... 353
7.4.3	セルフ・プログラミング・ライブラリの機能	... 354
7.4.4	セキュア・セルフ・プログラミング (ブート・スワップ機能)	... 354
7.4.5	フラッシュ・セルフ・プログラミング時の割り込み処理	... 357

第8章 オプション・バイト ... 358

8.1	オプション・バイト (007AH)	... 359
8.2	オプション・バイト (007BH)	... 360

第9章 データ保護とセキュリティ ... 362

9.1	概要	... 362
9.2	N-Wireデバッグ・インターフェースの保護	... 363
9.3	フラッシュ・プログラマとセルフ・プログラミング保護	... 364

第10章 バス , メモリ制御機能 (BCU, MEMC) ... 367

10. 1 特 徴 ... 367
10. 2 説 明 ... 368
10. 2. 1 メモリ・ブロックとチップ・セレクト信号 ... 370
10. 2. 2 周辺I/O領域 ... 371
10. 2. 3 バスのプロパティ ... 371
10. 2. 4 境界動作条件 ... 374
10. 2. 5 外部デバイスに対するアクセスの初期化 ... 375
10. 2. 6 バス・ホールド機能 ... 376
10. 2. 7 端子状態 ... 378
10. 3 レジスタ ... 379
10. 3. 1 BCUレジスタ ... 379
10. 3. 2 メモリ・コントローラ・レジスタ ... 382
10. 4 メモリ・アクセスの設定 ... 385
10. 4. 1 ウエイト機能 ... 385
10. 4. 2 アイドル・ステート挿入機能 ... 386
10. 5 外部デバイス・インターフェース・タイミング ... 387
10. 5. 1 外部デバイスへの書き込み ... 387
10. 5. 2 外部デバイスからの読み取り ... 391
10. 6 データ・アクセス・オーダ ... 394
10. 6. 1 8ビット・データ・バス・アクセス ... 394
10. 6. 2 16ビット・データ・バス・アクセス ... 397

第11章 DMA機能 (DMAコントローラ) ... 400

11. 1 特 徴 ... 400
11. 2 構 成 ... 401
11. 3 レジスタ ... 402
11. 4 転送対象 ... 411
11. 5 転送モード ... 411
11. 6 転送タイプ ... 412
11. 7 DMAチャネルの優先順位 ... 413
11. 8 DMA転送に関する各種時間 ... 413
11. 9 DMA転送起動要因 ... 414
11. 10 DMAの中断要因 ... 415
11. 11 DMA転送の終了 ... 415
11. 12 動作タイミング ... 415
11. 13 注意事項 ... 420

第12章 16ビット・タイマ/イベント・カウンタAA ... 425

12. 1 特 徴 ... 425
12. 2 機能概要 ... 425
12. 3 構 成 ... 426
12. 4 入力選択レジスタ ... 433
12. 5 制御レジスタ ... 438
12. 6 動 作 ... 452

12. 6. 1	随时書き込みとリロード ...	452
12. 6. 2	インターバル・タイマ・モード (TAAAnMD2-TAAAnMD0 = 000) ...	457
12. 6. 3	外部イベント・カウント・モード (TAAAnMD2-TAAAnMD0 = 001) ...	462
12. 6. 4	外部トリガ・パルス出力モード (TAAAnMD2-TAAAnMD0 = 010) ...	466
12. 6. 5	ワンショット・パルス・モード (TAAAnMD2-TAAAnMD0 = 011) ...	469
12. 6. 6	PWMモード (TAAAnMD2-TAAAnMD0 = 100) ...	472
12. 6. 7	フリー・ランニング・モード (TAAAnMD2-TAAAnMD0 = 101) ...	478
12. 6. 8	パルス幅測定モード (TAAAnMD2-TAAAnMD0 = 110) ...	486
12. 6. 9	カスケード機能 ...	493
12. 7	使用上の注意 ...	499

第13章 16ビット・タイマ/イベント・カウンタAB ... 501

13. 1	特 徴 ...	501
13. 2	機能概要 ...	501
13. 3	構 成 ...	502
13. 4	制御レジスタ ...	509
13. 5	動 作 ...	522
13. 5. 1	随时書き込みとリロード ...	522
13. 5. 2	インターバル・タイマ・モード (TABnMD2-TABnMD0 = 000) ...	527
13. 5. 3	外部イベント・カウント・モード (TABnMD2-TABnMD0 = 001) ...	530
13. 5. 4	外部トリガ・パルス出力モード (TABnMD2-TABnMD0 = 010) ...	534
13. 5. 5	ワンショット・パルス・モード (TABnMD2-TABnMD0 = 011) ...	537
13. 5. 6	PWMモード (TABnMD2-TABnMD0 = 100) ...	540
13. 5. 7	フリー・ランニング・モード (TABnMD2-TABnMD0 = 101) ...	546
13. 5. 8	パルス幅測定モード (TABnMD2-TABnMD0 = 110) ...	553
13. 5. 9	三角波PWMモード (TABnMD2-TABnMD0 = 111) ...	555
13. 6	使用上の注意 ...	557

第14章 16ビット・インターバル・タイマM ... 559

14. 1	特 徴 ...	559
14. 2	構 成 ...	560
14. 3	制御レジスタ ...	561
14. 4	動 作 ...	563
14. 4. 1	インターバル・タイマ・モード ...	563
14. 4. 2	注意事項 ...	563

第15章 タイマAA/AB同期動作機能 ... 565

第16章 時計タイマ機能 ... 569

16. 1	機 能 ...	569
16. 2	構 成 ...	570
16. 3	制御レジスタ ...	571
16. 4	動 作 ...	573
16. 4. 1	時計タイマとしての動作 ...	573
16. 4. 2	インターバル・タイマとしての動作 ...	573
16. 4. 3	注意事項 ...	574

第17章 ウォッヂドッグ・タイマ2 ... 575

- 17.1 機能 ... 575
- 17.2 構成 ... 576
- 17.3 制御レジスタ ... 577
- 17.4 動作 ... 579

第18章 アシンクロナス・シリアル・インターフェース (UARTD) ... 580

- 18.1 特徴 ... 581
- 18.2 構成 ... 582
- 18.3 制御レジスタ ... 584
- 18.4 割り込み要求信号 ... 597
- 18.5 動作 ... 598
 - 18.5.1 データ・フォーマット ... 598
 - 18.5.2 SBF送信 / 受信フォーマット ... 600
 - 18.5.3 SBF送信 ... 602
 - 18.5.4 SBF受信 ... 603
 - 18.5.5 データ貫性チェック ... 605
 - 18.5.6 SBF受信モード選択 ... 607
 - 18.5.7 UART送信 ... 616
 - 18.5.8 連続送信の手順説明 ... 617
 - 18.5.9 UART受信 ... 619
 - 18.5.10 受信割り込み発生時の処理手順 ... 620
 - 18.5.11 ステータス割り込み発生要因 ... 622
 - 18.5.12 パリティの種類と動作 ... 624
 - 18.5.13 受信データのノイズ・フィルタ ... 625
- 18.6 専用ポート・レート・ジェネレータ ... 626
- 18.7 使用上の注意 ... 634

第19章 3線式シリアル・インターフェース (CSIB) ... 635

- 19.1 特徴 ... 635
- 19.2 構成 ... 636
- 19.3 制御レジスタ ... 638
- 19.4 割り込み要求信号 ... 645
- 19.5 動作 ... 646
 - 19.5.1 シングル転送モード (マスター・モード, 送受信モード) ... 646
 - 19.5.2 シングル転送モード (マスター・モード, 送信モード) ... 648
 - 19.5.3 シングル転送モード (マスター・モード, 受信モード) ... 649
 - 19.5.4 シングル転送モード (スレーブ・モード, 送受信モード) ... 650
 - 19.5.5 シングル転送モード (スレーブ・モード, 送信モード) ... 651
 - 19.5.6 シングル転送モード (スレーブ・モード, 受信モード) ... 652
 - 19.5.7 連続モード (マスター・モード, 送受信モード) ... 653
 - 19.5.8 連続モード (マスター・モード, 送信モード) ... 654
 - 19.5.9 連続モード (マスター・モード, 受信モード) ... 655
 - 19.5.10 連続受信モード (エラー時) ... 656
 - 19.5.11 連続モード (スレーブ・モード, 送受信モード) ... 657
 - 19.5.12 連続モード (スレーブ・モード, 送信モード) ... 659

19. 5. 13	連続モード(スレーブ・モード, 受信モード) ...	660
19. 5. 14	クロック・タイミング ...	661
19. 5. 15	動作禁止時の出力端子状態 ...	663
19. 6	動作フロー ...	664
19. 7	注意事項 ...	670
第20章	I²Cバス ...	671
20. 1	特 徴 ...	671
20. 2	I ² C端子構成 ...	672
20. 2. 1	UARTD4とI ² C00のモード切り替え ...	672
20. 3	構 成 ...	673
20. 4	レジスタ ...	677
20. 5	I ² Cバス・モードの機能 ...	695
20. 5. 1	端子構成 ...	695
20. 6	I ² Cバスの定義および制御方法 ...	696
20. 6. 1	スタート・コンディション ...	697
20. 6. 2	アドレス ...	698
20. 6. 3	転送方向指定 ...	699
20. 6. 4	アクノリッジ(ACK) ...	700
20. 6. 5	ストップ・コンディション ...	701
20. 6. 6	ウェイト ...	702
20. 6. 7	ウェイト解除方法 ...	704
20. 7	I ² C割り込み要求信号(INTIIC0) ...	705
20. 7. 1	マスタ動作 ...	706
20. 7. 2	スレーブ動作(スレーブ・アドレス・データ受信時(アドレス一致)) ...	709
20. 7. 3	スレーブ動作(拡張コード受信時) ...	713
20. 7. 4	通信不参加の動作 ...	717
20. 7. 5	アービトレーション負けの動作(アービトレーション負けのあと,スレーブとして動作) ...	718
20. 7. 6	アービトレーション負けの動作(アービトレーション負けのあと,不参加) ...	720
20. 8	割り込み要求信号(INTIIC0)発生タイミングおよびウェイト制御 ...	727
20. 9	アドレスの一致検出方法 ...	729
20. 10	エラーの検出 ...	729
20. 11	拡張コード ...	729
20. 12	アービトレーション ...	730
20. 13	ウェイク・アップ機能 ...	731
20. 14	通信予約 ...	732
20. 14. 1	通信予約機能許可の場合(IICF0.IICRSV0ビット = 0) ...	732
20. 14. 2	通信予約機能禁止の場合(IICF0.IICRSV0ビット = 1) ...	736
20. 15	注意事項 ...	737
20. 16	通信動作 ...	738
20. 16. 1	マスタ動作1 ...	738
20. 16. 2	マスタ動作2 ...	739
20. 16. 3	スレーブ動作 ...	740
20. 17	データ通信のタイミング ...	743

第21章 CANコントローラ	... 750
21.1 概要	... 750
21.1.1 特徴	... 750
21.1.2 機能概要	... 751
21.1.3 構成	... 752
21.2 CANプロトコル	... 754
21.2.1 フレーム・フォーマット	... 755
21.2.2 フレーム・タイプ	... 755
21.2.3 データ・フレーム / リモート・フレーム	... 756
21.2.4 エラー・フレーム	... 764
21.2.5 オーバロード・フレーム	... 765
21.3 機能	... 766
21.3.1 バス・プライオリティの決定	... 766
21.3.2 ビット・スタッフ	... 766
21.3.3 マルチマスター	... 766
21.3.4 マルチキャスト	... 767
21.3.5 CANスリープ・モード / CANストップ・モード機能	... 767
21.3.6 エラー制御機能	... 767
21.3.7 ボー・レート制御機能	... 773
21.4 ターゲット・システムとの接続	... 778
21.5 CANコントローラの内部レジスタ	... 779
21.5.1 CANモジュール・レジスタとメッセージ・バッファ・アドレス	... 779
21.5.2 CANコントローラの構成	... 780
21.5.3 CANレジスタ概要	... 781
21.5.4 レジスタのビット構成	... 791
21.6 ビットのセット / クリア機能	... 795
21.7 制御レジスタ	... 797
21.8 CANコントローラの初期化処理	... 832
21.8.1 CANモジュールの初期化	... 832
21.8.2 メッセージ・バッファの初期化	... 832
21.8.3 メッセージ・バッファの再定義	... 833
21.8.4 動作モードへの移行	... 835
21.8.5 CANモジュールのエラー・カウンタCnERCのリセット	... 836
21.9 メッセージ受信	... 837
21.9.1 メッセージ受信	... 837
21.9.2 受信データの読み出し	... 838
21.9.3 受信ヒストリ・リスト機能	... 839
21.9.4 マスク機能	... 841
21.9.5 マルチ・バッファ受信ブロック機能	... 842
21.9.6 リモート・フレーム受信	... 844
21.10 メッセージ送信	... 845
21.10.1 メッセージ送信	... 845
21.10.2 送信ヒストリ・リスト機能	... 847
21.10.3 自動ブロック送信機能 (ABT : Automatic Block Transmission)	... 849
21.10.4 送信中断処理	... 850

21.10.5	リモート・フレーム送信	... 851
21.11	パワー・セーブ・モード	... 852
21.11.1	CANスリープ・モード	... 852
21.11.2	CANストップ・モード	... 855
21.11.3	パワー・セーブ・モード使用例	... 856
21.12	割り込み機能	... 857
21.13	診断機能と特殊動作モード	... 858
21.13.1	受信オンリー・モード	... 858
21.13.2	シングル・ショット・モード	... 859
21.13.3	セルフ・テスト・モード	... 860
21.13.4	各動作モードにおける送受信動作	... 861
21.14	タイム・スタンプ機能	... 862
21.14.1	タイム・スタンプ機能	... 862
21.15	ボー・レート設定について	... 864
21.15.1	ピット・レート設定条件	... 864
21.15.2	代表的なボー・レート設定例	... 868
21.16	CANコントローラの動作	... 872

第22章 A/Dコンバータ ... 898

22.1	機能	... 899
22.2	構成	... 901
22.3	制御レジスタ	... 903
22.4	動作	... 916
22.4.1	基本動作	... 916
22.4.2	トリガ・モード	... 918
22.4.3	動作モード	... 920
22.4.4	パワー・フェイル比較モード	... 925
22.5	注意事項	... 931
22.6	A/Dコンバータ特性表の読み方	... 936

第23章 モータ制御機能 ... 940

23.1	機能概要	... 940
23.2	構成	... 941
23.3	制御レジスタ	... 945
23.4	動作	... 958
23.4.1	システム概要説明	... 958
23.4.2	デッド・タイム制御(逆相波信号の生成)	... 963
23.4.3	割り込み間引き機能	... 970
23.4.4	転送機能付きレジスタの書き換え操作	... 977
23.4.5	A/D変換開始トリガ信号出力用TAA4の同調動作	... 995
23.4.6	A/D変換開始トリガ出力機能	... 999

第24章 電源 ... 1004

24.1	概要	... 1004
24.2	内蔵レギュレータ	... 1007

第25章 リセット機能	... 1008
25.1 概要	... 1008
25.1.1 リセット機能	... 1008
25.1.2 パワーオン・リセット	... 1010
25.1.3 外部RESET	... 1011
25.1.4 ウオッチドッグ・タイマ2によるリセット	... 1012
25.1.5 クロック・モニタによるリセット	... 1012
25.1.6 低電圧検出回路によるリセット	... 1012
25.2 リセット要因を確認するレジスタ	... 1013
第26章 低電圧検出回路	... 1014
26.1 機能	... 1014
26.2 構成	... 1014
26.3 レジスタ	... 1015
26.4 動作	... 1019
26.4.1 LVI (LVIM.LVIMD = 1)からのリセット発生	... 1019
26.4.2 LVI (LVIM.LVIMD = 0)からの割り込み発生	... 1021
26.4.3 RAM保持電圧検出動作	... 1023
第27章 オンチップ・デバッグ・ユニット	... 1025
27.1 機能概要	... 1025
27.1.1 オンチップ・デバッグ・ユニットの種類	... 1025
27.1.2 デバッグ機能	... 1025
27.1.3 インタフェース信号	... 1028
27.1.4 セキュリティ機能	... 1030
27.2 制御レジスタ	... 1032
27.3 N-Wire使用方法	... 1036
27.3.1 RESETおよびRESPOC後の通常動作開始	... 1036
27.3.2 RESETおよびRESPOC後のデバッガ起動	... 1036
27.3.3 RESET端子によるN-Wire起動	... 1037
27.4 オンチップ・デバッグ・エミュレータとの接続	... 1038
27.4.1 接続回路例	... 1038
27.4.2 MINICUBE QB-V850MINIを使用する場合	... 1039
27.5 オンチップ・デバッグ時の注意事項	... 1040
付録A 周辺I/Oレジスタとプログラマブル周辺I/Oレジスタ	... 1041
A.1 プログラマブル周辺I/O領域に割り付けられているレジスタ	... 1041
A.2 周辺I/O領域に割り付けられているレジスタ	... 1045
付録B レジスタ索引	... 1062
付録C 周辺I/Oレジスタとプログラマブル周辺I/Oレジスタ	... 1083
C.1 本版で改訂された主な箇所	... 1083
C.2 前版までの改版履歴	... 1085

第1章 イントロダクション

本マイクロコントローラは、NECエレクトロニクスの車載用アプリケーション向けシングルチップ・マイクロコントローラV850の製品です。

1.1 概 説

本マイクロコントローラは、V850ES CPUを使用し、ROM/RAM、タイマ／カウンタ、シリアル・インターフェース、A/Dコンバータなどの周辺機能を内蔵した32ビット・シングルチップ・マイクロコントローラです。本マイクロコントローラでは、車輌内LANとして、CAN (Controller Area Network) を内蔵しています。

本マイクロコントローラは、高いリアルタイム応答性と1クロック・ピッチの基本命令に加え、ディジタル・サーボ制御の応用に最適な命令として、ハードウェア乗算器による乗算命令、飽和演算命令、ビット操作命令などを持っています。また、リアルタイム制御システム用として、自動車電装分野などへの応用がきわめて高いコスト・パフォーマンスで実現できます。

1.2 特 徴

本マイクロコントローラは次のマイクロコントローラ製品で構成されています。

V850ES/FE3

- μ PD70F3370A
- μ PD70F3371

V850ES/FF3

- μ PD70F3372
- μ PD70F3373

V850ES/FG3

- μ PD70F3374
- μ PD70F3375
- μ PD70F3376A
- μ PD70F3377A

V850ES/FJ3

- μ PD70F3378
- μ PD70F3379
- μ PD70F3380
- μ PD70F3381
- μ PD70F3382

V850ES/FK3

- μ PD70F3383
- μ PD70F3384
- μ PD70F3385

表1 - 1に各製品の機能概要について示します。

表1 - 1 V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3, V850ES/FJ3, V850ES/FK3の機能概要 (1/4)

愛称		V850ES/FE3		V850ES/FF3	
品名		μ PD70F3370A	μ PD70F3371	μ PD70F3372	μ PD70F3373
CPU		V850ES (32ビットRISC)			
内蔵 メモリ	フラッシュROM	128 KB	256 KB	128 KB	256 KB
	マスクROM	-	-	-	-
	RAM	8 KB	16 KB	8 KB	16 KB
	データ・フラッシュ	32 KB			
外部メモリ・インターフェース		-			
動作 クロック	CPU周波数	Max. 32 MHz ^{注1}			
	PLL倍増	$\times 8$			
	SSCG	周波数変調率指定 Typ. $\pm 5.0\%$			
	メインOSC	4 ~ 16 MHz			
	サブOSC	RCまたはクリスタル			
	低速内蔵発振器	Typ. 240 kHz			
	高速内蔵発振器	Typ. 8 MHz			
I/Oポート		51		67	
タイマ	TAA	5 ch			
	TAB	1 ch			
	TMM	1 ch			
	モータ制御	1 ch			
	時計	1 ch			
	WDT2	1 ch			
A/Dコンバータ		10ビット × 10ch		10ビット × 12ch	
シリアル・ インタ フェース	UART (LIN)	2 ch			
	CSI	2 ch			
	IIC	1 ch			
	CAN	1 ch			
DMA		4 ch			
割り込み (マスカブル)	外部	8 ch			
	内部	47 ch			
その他	スタンバイ機能	HALT, IDLE1, IDLE2, STOP, サブクロック動作, サブIDLE			
	キー・リターン入力	8 ch			
	クロック・モニタ機能	あり			
	POC	パワーオン・クリア Typ. 3.5 V以下 ^{注2}			
	LVI	低電圧検出 Typ. 3.7/4.0 V以下 (ソフトウェアにて選択) ^{注2}			
	オンチップ・デバッグ 機能	あり			
動作電圧		3.3 ~ 5.5 V ^{注2}			
パッケージ		64ピンLQFP		80ピンLQFP	

注1. (A2) 製品は, Max.24 MHzです。

2. μ PD70F3370A, 70F3371 データ・シート(U18640J), μ PD70F3372, 70F3373 データ・シート(U18639J)を参照してください。

表1 - 1 V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3, V850ES/FJ3, V850ES/FK3の機能概要 (2/4)

愛称		V850ES/FG3					
品名		μ PD70F3374	μ PD70F3375	μ PD70F3376A	μ PD70F3377A		
CPU		V850ES (32ビットRISC)					
内蔵 メモリ	フラッシュROM	128 KB	256 KB	384 KB	512 KB		
	マスクROM	-	-	-	-		
	RAM	8 KB	16 KB	24 KB	32 KB		
	データ・フラッシュ	32 KB					
外部メモリ・インターフェース		-					
動作 クロック	CPU周波数	Max. 32 MHz ^{注1}		Max. 48 MHz ^{注2}			
	PLL倍増	$\times 8$					
	SSCG	周波数変調率指定 Typ. $\pm 5\%$					
	メインOSC	4 ~ 16 MHz					
	サブOSC	RCまたはクリスタル					
	低速内蔵発振器	Typ. 240 kHz					
	高速内蔵発振器	Typ. 8 MHz					
I/Oポート		84					
タイマ	TAA	5 ch					
	TAB	2 ch					
	TMM	1 ch					
	モータ制御	1 ch					
	時計	1 ch					
	WDT2	1 ch					
A/Dコンバータ		10ビット × 16ch					
シリアル・ インタ フェース	UART (LIN)	3 ch		5 ch			
	CSI	2 ch					
	IIC	1 ch					
	CAN	2 ch					
DMA		4 ch					
割り込み (マスカブル)	外部	11 ch		12 ch			
	内部	59 ch		64 ch			
その他	スタンバイ機能	HALT, IDLE1, IDLE2, STOP, サブクロック動作, サブIDLE					
	キー・リターン入力	8 ch					
	クロック・モニタ機能	あり					
	POC	パワーオン・クリア Typ. 3.5 V以下 ^{注3}					
	LVI	低電圧検出 Typ. 3.7/4.0 V以下 (ソフトウェアにて選択) ^{注3}					
	オンチップ・デバッグ 機能	あり					
動作電圧		3.3 ~ 5.5 V ^{注3}					
パッケージ		100ピンLQFP					

注1. (A2) 製品は, Max.24 MHzです。

2. (A2) 製品は, Max.32 MHzです。

3. μ PD70F3374, 70F3375, 70F3376A, 70F3377A データ・シート (U18638J) を参照してください。

表1 - 1 V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3, V850ES/FJ3, V850ES/FK3の機能概要 (3/4)

愛称		V850ES/FJ3										
品名		μ PD70F3378	μ PD70F3379	μ PD70F3380	μ PD70F3381	μ PD70F3382						
CPU		V850ES (32ビットRISC)										
内蔵 メモリ	フラッシュROM	256 KB	384 KB	512 KB	768 KB	1024 KB						
	マスクROM	-	-	-	-	-						
	RAM	16 KB	24 KB	32 KB	40 KB	48 KB						
	データ・フラッシュ	32 KB										
外部メモリ・インターフェース		16ビット・マルチプレクス・アドレス / データ・バス, 4チップ・セレクト										
動作 クロック	CPU周波数	Max. 32 MHz ^{注1}	Max. 48 MHz ^{注2}									
	PLL倍増	$\times 8$										
	SSCG	周波数変調率指定 typ. $\pm 5\%$										
	メインOSC	4 ~ 16 MHz										
	サブOSC	RCまたはクリスタル										
	低速内蔵発振器	Typ. 240 kHz										
	高速内蔵発振器	Typ. 8 MHz										
I/Oポート		128										
タイマ	TAA	5 ch										
	TAB	3 ch										
	TMM	1 ch										
	モータ制御	1 ch										
	時計	1 ch										
	WDT2	1 ch										
A/Dコンバータ		10ビット × 24ch										
シリアル・ インタ フェース	UART (LIN)	3 ch	6 ch									
	CSI	3 ch			4 ch							
	IIC	1 ch										
	CAN	3 ch	4 ch									
DMA		4 ch										
割り込み (マスカブル)	外部	15 ch										
	内部	70 ch	80 ch	82 ch								
その他	スタンバイ機能	HALT, IDLE1, IDLE2, STOP, サブクロック動作, サブIDLE										
	キー・リターン入力	8 ch										
	クロック・モニタ機能	あり										
	POC	パワーオン・クリア Typ. 3.5 V以下 ^{注3}										
	LVI	低電圧検出 Typ. 3.7/4.0 V以下 (ソフトウェアにて選択) ^{注3}										
	オンチップ・デバッグ機能	あり										
動作電圧		3.3 ~ 5.5 V ^{注3}										
パッケージ		144ピンLQFP										

注1. (A2) 製品は, Max.24 MHzです。

2. (A2) 製品は, Max.32 MHzです。

3. μ PD70F3378, 70F3379, 70F3380, 70F3381, 70F3382 データ・シート (U18608J) を参照してください。

表1 - 1 V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3, V850ES/FJ3, V850ES/FK3の機能概要 (4/4)

愛称		V850ES/FK3			
品名		μ PD70F3383	μ PD70F3384	μ PD70F3385	
CPU		V850ES (32ビットRISC)			
内蔵 メモリ	フラッシュROM	512 KB	768 KB	1024 KB	
	マスクROM	-	-	-	
	RAM	32 KB	48 KB	60 KB	
	データ・フラッシュ	32 KB			
外部メモリ・インターフェース		16ビット・マルチプレクス・アドレス / データ・バス, 4チップ・セレクト			
動作 クロック	CPU周波数	Max. 48 MHz ^{注1}			
	PLL倍倍	$\times 8$			
	SSCG	周波数変調率指定 Typ. $\pm 5\%$			
	メインOSC	4 ~ 16 MHz			
	サブOSC	RCまたはクリスタル			
	低速内蔵発振器	Typ. 240 kHz			
	高速内蔵発振器	Typ. 8 MHz			
I/Oポート		152			
タイマ	TAA	8 ch			
	TAB	3 ch			
	TMM	1 ch			
	モータ制御	1 ch			
	時計	1 ch			
	WDT2	1 ch			
A/Dコンバータ		2ユニット (10ビット × 24ch, 10ビット × 16ch)			
シリアル・ インタ フェース	UART (LIN)	8 ch			
	CSI	4 ch			
	IIC	1 ch			
	CAN	5 ch			
DMA		4 ch			
割り込み (マスカブル)	外部	16 ch			
	内部	100 ch			
その他	スタンバイ機能	HALT, IDLE1, IDLE2, STOP, サブクロック動作, サブIDLE			
	キー・リターン入力	8 ch			
	クロック・モニタ機能	あり			
	POC	パワーオン・クリア Typ. 3.5 V以下 ^{注2}			
	LVI	低電圧検出 Typ. 3.7/4.0 V以下 (ソフトウェアにて選択) ^{注2}			
	オンチップ・デバッグ 機能	あり			
動作電圧		3.3 ~ 5.5 V ^{注2}			
パッケージ		176ピンLQFP			

注1. (A2) 製品は, Max.32 MHzです。

2. μ PD70F3383, 70F3384, 70F3385 データ・シート (U18637J) を参照してください。

1.3 機能ブロック構成

図1-1にV850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3の機能ブロックに図を示します。

図1-1 V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3ブロック図

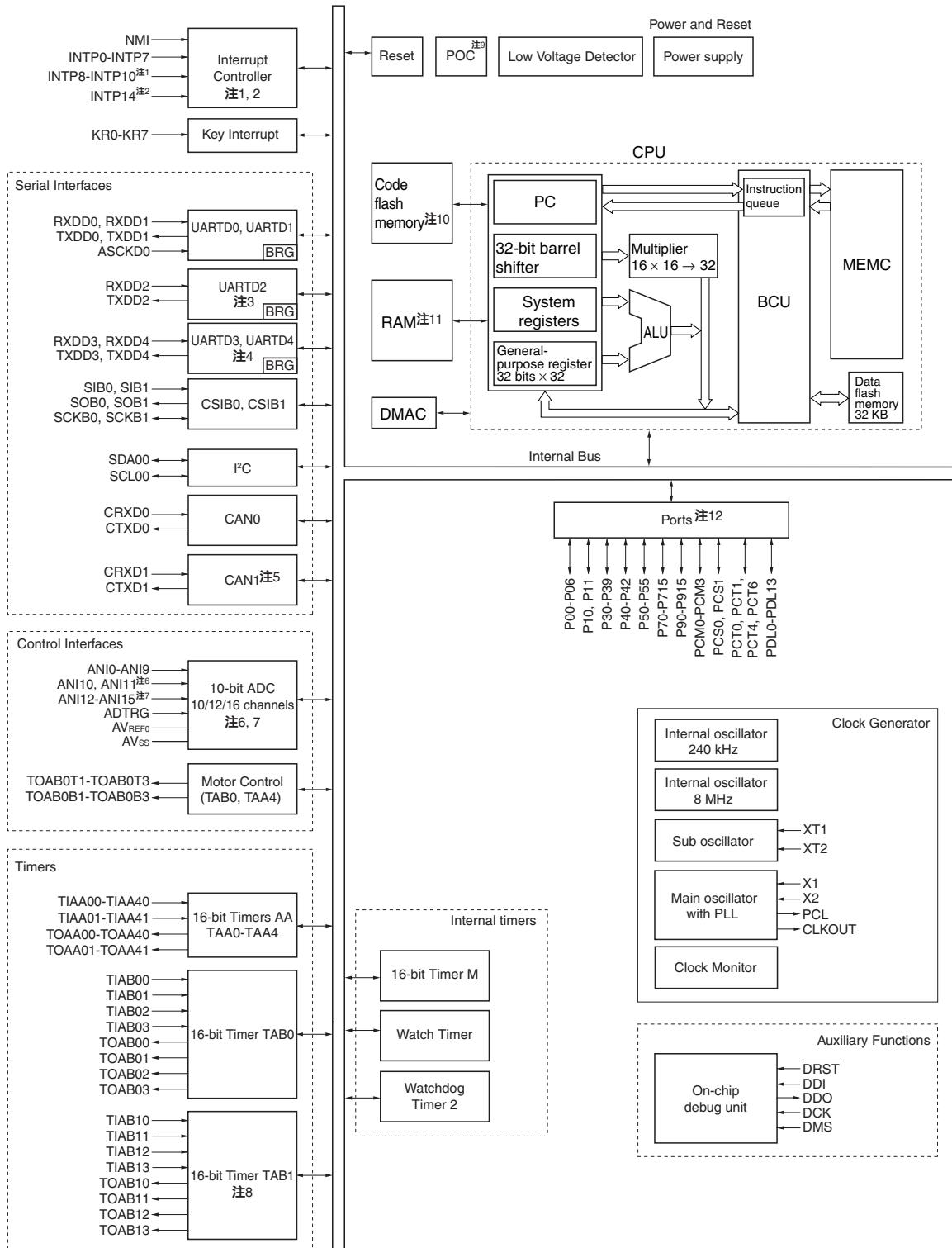


表1-2に、図1-1に「注」を付けたV850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3のデバイス間の機能の違いをまとめます。

表1-2 V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3間の機能の違い

注	端子 / 機能	V850ES/FE3		V850ES/FF3		V850ES/FG3			
		μ PD70F3370A	μ PD70F3371	μ PD70F3372	μ PD70F3373	μ PD70F3374	μ PD70F3375	μ PD70F3376A	μ PD70F3377A
1	INTP8-INTP10	-	-	-	-				
2	INTP14	-	-	-	-	-	-		
3	UARTD2	-	-	-	-				
4	UARTD3, UARTD4	-	-	-	-	-	-		
5	CAN1	-	-	-	-				
6	ANI10, ANI11	-	-						
7	ANI12-ANI15	-	-	-	-				
8	TAB1	-	-	-	-				
9	POC	POC搭載製品のみ							
10	フラッシュROM	128 KB	256 KB	128 KB	256 KB	128 KB	256 KB	384 KB	512 KB
11	RAM	8 KB	16 KB	8 KB	16 KB	8 KB	16 KB	24 KB	32 KB
12	ポート	第2章 端子機能参照							

図1-2にV850ES/FJ3, V850ES/FK3の機能ブロックに図を示します。

図1-2 V850ES/FJ3, V850ES/FK3ブロック図

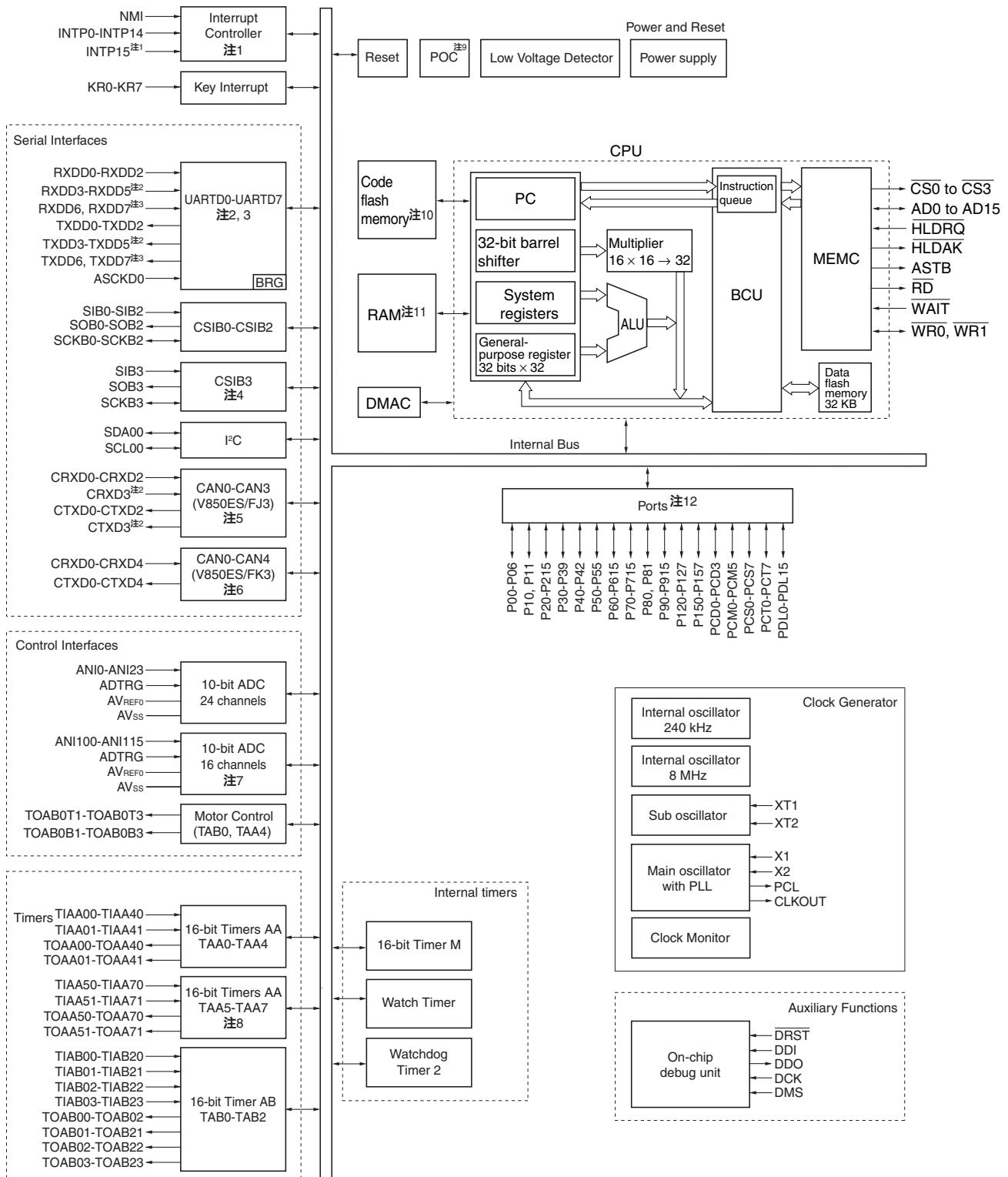


表1-3に、図1-2に「注」を付けたV850ES/FJ3, V850ES/FK3のデバイス間の機能の違いをまとめます。

表1-3 V850ES/FJ3, V850ES/FK3の違い

注	端子 / 機能	V850ES/FJ3						V850ES/FK3		
		μ PD70F3378	μ PD70F3379	μ PD70F3380	μ PD70F3381	μ PD70F3382	μ PD70F3383	μ PD70F3384	μ PD70F3385	
1	INTP15	-	-	-	-	-				
2	UARTD3-UARTD5	-					-	-	-	
3	UARTD6, UARTD7	-	-	-	-	-				
4	CSIB3	-	-	-						
5	CAN3	-								
6	CAN4	-	-	-	-	-				
7	ANI100-ANI115	-	-	-	-	-				
8	TAA5-TAA7	-	-	-	-	-				
9	POC	POC搭載製品のみ								
10	フラッシュROM	256 KB	384 KB	512 KB	768 KB	1024 KB	512 KB	768 KB	1024 KB	
11	RAM	16 KB	24 KB	32 KB	40 KB	48 KB	32 KB	48 KB	60 KB	
12	ポート	第2章 端子機能参照								

1.3.1 内部ユニット

CPU :	アドレス計算 , 算術論理演算 , データ転送などのほとんどの命令処理を , 5段パイプライン制御により1クロックで実行できます。 乗算器や32ビットのパレル・シフタなどの専用ハードウェアを内蔵し , 複雑な命令処理の高速化を図っています。
バス・コントロール・ユニット :	V850ES/FJ3, V850ES/FK3は , バス・コントロール・ユニット (BCU) とメモリ・コントローラ (MEMC) で , 内蔵周辺I/O , データ・フラッシュおよび外部メモリへのアクセスを制御できます。
ROM :	ROMは , 内蔵フラッシュ・メモリで構成されており , コード・フラッシュとデータ・フラッシュに分かれています。各フラッシュ・メモリのサイズに関しては , 表1 - 1を参照してください。
RAM :	使用可能なRAMサイズに関しては , 表1 - 1を参照してください。
DMAコントローラ :	本マイクロコントローラは , 4チャネルのDMAコントローラを内蔵しています。内蔵周辺I/Oによる割り込み要求と外部割り込み要求に基づいて , 内蔵RAM , 内蔵周辺I/O , データ・フラッシュ・メモリ , 外部メモリ間でデータを転送します。
ポート :	汎用ポートとしての機能と制御端子の機能があります。
クロック・ジェネレータ :	クロック・ジェネレータはシステム・クロックを生成します。独立した4つの発振器を内蔵しており , メインの発振器が故障した場合もシステムの動作を継続することが可能です。さらに , パワー・セーブ・モードにおける低速クロックを生成します。
クロック・モニタ :	クロック・モニタはメイン発振器を監視します。メイン発振器が故障した場合 , 他の発振器に切り替えます。
オンチップ・デバッグ機能 :	N-Wireインターフェースを使用するオンチップ・デバッグ機能を内蔵しています。
割り込みコントローラ (INTC) :	内蔵周辺ハードウェア , および外部からのノンマスカブル割り込みやマスカブル割り込み要求を処理します。これらの割り込み要求は , 8レベルの割り込み優先順位を指定でき , 割り込み要因に対し多重処理制御ができます。
キー割り込み機能 :	8チャネルのキー入力端子に立ち下がりエッジを入力することによって , キー割り込み要求信号を発生させることができます。
UARTD :	UARTは2線シンクロナス・シリアル・インターフェースです。
CSIB :	クロック同期式シリアル・インターフェースは3線可変長シリアル・インターフェースです。
CANコントローラ :	CANコントローラは , ユニット間のデータ転送を行うことを目的とした小規模のディジタル・データ伝送システムです。
A/Dコンバータ :	アナログ入力端子を持つ高速 , 高分解能の10ビットA/Dコンバータです。逐次変換方式で変換します。製品ごとの搭載本数は表1 - 1を参照してください。
モータ・コントローラ :	モータ・コントローラはタイマTAA4とTAB0を使って , モータ制御用に3相または6相のパルス幅変調 (PWM) 信号を生成します。
タイマ / カウンタ :	16ビット・タイマ / カウンタTAAと , 16ビット・タイマ / イベント・カウンタTABおよび16ビット・インターバル・タイマTMMがあります。製品ごとの搭載個数は表1 - 1を参照してください。

- 時計用タイマ： ウォッチ・タイマ(WT)出力は日付とカレンダー用の基準時間を生成します。
- ウォッチドッグ・タイマ2： ウォッチドッグ・タイマ(WDT2)は、プログラム・ループやシステム・エラーを検出するために使われます。オーバフローでノンマスカブル割り込み要求信号またはシステム・リセット信号を発生します。

1.4 オーダ情報

1.4.1 V850ES/FE3オーダ情報

オーダ名称	パッケージ	内蔵メモリ	品質水準	備 考
μ PD70F3370AM1GBA-GAH-AX	64ピン・プラス チックLQFP (フайнピッチ) (10 × 10)	128 Kバイト	(A)	パワーオン・ クリア機能非搭載
μ PD70F3370AM1GBA1-GAH-AX			(A1)	
μ PD70F3370AM1GBA2-GAH-AX			(A2)	
μ PD70F3370AM2GBA-GAH-AX			(A)	パワーオン・ クリア機能搭載
μ PD70F3370AM2GBA1-GAH-AX			(A1)	
μ PD70F3370AM2GBA2-GAH-AX			(A2)	
μ PD70F3371M1GBA-GAH-AX			(A)	パワーオン・ クリア機能非搭載
μ PD70F3371M1GBA1-GAH-AX			(A1)	
μ PD70F3371M1GBA2-GAH-AX			(A2)	
μ PD70F3371M2GBA-GAH-AX			(A)	パワーオン・ クリア機能搭載
μ PD70F3371M2GBA1-GAH-AX			(A1)	
μ PD70F3371M2GBA2-GAH-AX			(A2)	

備考1. 各品質水準の動作周囲温度は次のとおりです。

(A) : - 40 ~ +85 , (A1) : - 40 ~ +110 , (A2) : - 40 ~ +125

2. オーダ名称末尾「-AX」の製品は、鉛フリー製品です。

品質水準とその応用分野の詳細については当社発行の資料「NEC 半導体デバイスの品質水準」
(資料番号 C11531J) をご覧ください。

1.4.2 V850ES/FF3オーダ情報

オーダ名称	パッケージ	内蔵メモリ	品質水準	備 考
μ PD70F3372M1GKA-GAK-AX	80ピン・プラス チックLQFP (フайнピッチ) (12 × 12)	128 Kバイト	(A)	パワーオン・ クリア機能非搭載
μ PD70F3372M1GKA1-GAK-AX			(A1)	
μ PD70F3372M1GKA2-GAK-AX			(A2)	
μ PD70F3372M2GKA-GAK-AX			(A)	パワーオン・ クリア機能搭載
μ PD70F3372M2GKA1-GAK-AX			(A1)	
μ PD70F3372M2GKA2-GAK-AX			(A2)	
μ PD70F3373M1GKA-GAK-AX			(A)	パワーオン・ クリア機能非搭載
μ PD70F3373M1GKA1-GAK-AX			(A1)	
μ PD70F3373M1GKA2-GAK-AX			(A2)	
μ PD70F3373M2GKA-GAK-AX			(A)	パワーオン・ クリア機能搭載
μ PD70F3373M2GKA1-GAK-AX			(A1)	
μ PD70F3373M2GKA2-GAK-AX			(A2)	

備考1. 各品質水準の動作周囲温度は次のとおりです。

(A) : - 40 ~ +85 , (A1) : - 40 ~ +110 , (A2) : - 40 ~ +125

2. オーダ名称末尾「-AX」の製品は、鉛フリー製品です。

品質水準とその応用分野の詳細については当社発行の資料「NEC 半導体デバイスの品質水準」
(資料番号 C11531J) をご覧ください。

1.4.3 V850ES/FG3オーダ情報

オーダ名称	パッケージ	内蔵メモリ	品質水準	備考
μ PD70F3374M1GCA-UEU-AX	100ピン・プラス チックLQFP (フайнピッチ) (14 × 14)	128 Kバイト	(A)	パワーオン・ クリア機能非搭載
μ PD70F3374M1GCA1-UEU-AX			(A1)	
μ PD70F3374M1GCA2-UEU-AX			(A2)	
μ PD70F3374M2GCA-UEU-AX			(A)	パワーオン・ クリア機能搭載
μ PD70F3374M2GCA1-UEU-AX			(A1)	
μ PD70F3374M2GCA2-UEU-AX			(A2)	
μ PD70F3375M1GCA-UEU-AX		256 Kバイト	(A)	パワーオン・ クリア機能非搭載
μ PD70F3375M1GCA1-UEU-AX			(A1)	
μ PD70F3375M1GCA2-UEU-AX			(A2)	
μ PD70F3375M2GCA-UEU-AX			(A)	パワーオン・ クリア機能搭載
μ PD70F3375M2GCA1-UEU-AX			(A1)	
μ PD70F3375M2GCA2-UEU-AX			(A2)	
μ PD70F3376AM1GCA-UEU-AX	384 Kバイト	(A)	パワーオン・ クリア機能非搭載	
μ PD70F3376AM1GCA1-UEU-AX		(A1)		
μ PD70F3376AM1GCA2-UEU-AX		(A2)		
μ PD70F3376AM2GCA-UEU-AX		(A)	パワーオン・ クリア機能搭載	
μ PD70F3376AM2GCA1-UEU-AX		(A1)		
μ PD70F3376AM2GCA2-UEU-AX		(A2)		
μ PD70F3377AM1GCA-UEU-AX		(A)	パワーオン・ クリア機能非搭載	
μ PD70F3377AM1GCA1-UEU-AX		(A1)		
μ PD70F3377AM1GCA2-UEU-AX		(A2)		
μ PD70F3377AM2GCA-UEU-AX		(A)	パワーオン・ クリア機能搭載	
μ PD70F3377AM2GCA1-UEU-AX		(A1)		
μ PD70F3377AM2GCA2-UEU-AX		(A2)		

備考1. 各品質水準の動作周囲温度は次のとおりです。

(A) : - 40 ~ +85 , (A1) : - 40 ~ +110 , (A2) : - 40 ~ +125

2. オーダ名称末尾「-AX」の製品は、鉛フリー製品です。

品質水準とその応用分野の詳細については当社発行の資料「NEC 半導体デバイスの品質水準」
(資料番号 C11531J) をご覧ください。

1.4.4 V850ES/FJ3オーダ情報

オーダ名称	パッケージ	内蔵メモリ	品質水準	備考
μ PD70F3378M1GJA-GAE-AX	144ピン・プラス チックLQFP (フайнピッチ) (20 × 20)	256 Kバイト	(A)	パワーオン・ クリア機能非搭載
μ PD70F3378M1GJA1-GAE-AX			(A1)	
μ PD70F3378M1GJA2-GAE-AX			(A2)	
μ PD70F3378M2GJA-GAE-AX			(A)	パワーオン・ クリア機能搭載
μ PD70F3378M2GJA1-GAE-AX			(A1)	
μ PD70F3378M2GJA2-GAE-AX			(A2)	
μ PD70F3379M1GJA-GAE-AX			(A)	パワーオン・ クリア機能非搭載
μ PD70F3379M1GJA1-GAE-AX			(A1)	
μ PD70F3379M1GJA2-GAE-AX			(A2)	
μ PD70F3379M2GJA-GAE-AX			(A)	パワーオン・ クリア機能搭載
μ PD70F3379M2GJA1-GAE-AX			(A1)	
μ PD70F3379M2GJA2-GAE-AX			(A2)	
μ PD70F3380M1GJA-GAE-AX	384 Kバイト	512 Kバイト	(A)	パワーオン・ クリア機能非搭載
μ PD70F3380M1GJA1-GAE-AX			(A1)	
μ PD70F3380M1GJA2-GAE-AX			(A2)	
μ PD70F3380M2GJA-GAE-AX			(A)	パワーオン・ クリア機能搭載
μ PD70F3380M2GJA1-GAE-AX			(A1)	
μ PD70F3380M2GJA2-GAE-AX			(A2)	
μ PD70F3381M1GJA-GAE-AX		768 Kバイト	(A)	パワーオン・ クリア機能非搭載
μ PD70F3381M1GJA1-GAE-AX			(A1)	
μ PD70F3381M1GJA2-GAE-AX			(A2)	
μ PD70F3381M2GJA-GAE-AX			(A)	パワーオン・ クリア機能搭載
μ PD70F3381M2GJA1-GAE-AX			(A1)	
μ PD70F3381M2GJA2-GAE-AX			(A2)	
μ PD70F3382M1GJA-GAE-AX	1024 Kバイト	1024 Kバイト	(A)	パワーオン・ クリア機能非搭載
μ PD70F3382M1GJA1-GAE-AX			(A1)	
μ PD70F3382M1GJA2-GAE-AX			(A2)	
μ PD70F3382M2GJA-GAE-AX			(A)	パワーオン・ クリア機能搭載
μ PD70F3382M2GJA1-GAE-AX			(A1)	
μ PD70F3382M2GJA2-GAE-AX			(A2)	

備考1. 各品質水準の動作周囲温度は次のとおりです。

(A) : - 40 ~ +85 , (A1) : - 40 ~ +110 , (A2) : - 40 ~ +125

2. オーダ名称末尾「-AX」の製品は、鉛フリー製品です。

品質水準とその応用分野の詳細については当社発行の資料「NEC 半導体デバイスの品質水準」
(資料番号 C11531J) をご覧ください。

1.4.5 V850ES/FK3オーダ情報

オーダ名称	パッケージ	内蔵メモリ	品質水準	備考
μ PD70F3383M1GMA-GAR-AX	176ピン・プラス チックLQFP (フайнピッチ) (24 × 24)	512 Kバイト	(A)	パワーオン・クリア機能非搭載
μ PD70F3383M1GMA1-GAR-AX			(A1)	
μ PD70F3383M1GMA2-GAR-AX			(A2)	
μ PD70F3383M2GMA-GAR-AX			(A)	パワーオン・クリア機能搭載
μ PD70F3383M2GMA1-GAR-AX			(A1)	
μ PD70F3383M2GMA2-GAR-AX			(A2)	
μ PD70F3384M1GMA-GAR-AX			(A)	パワーオン・クリア機能非搭載
μ PD70F3384M1GMA1-GAR-AX			(A1)	
μ PD70F3384M1GMA2-GAR-AX			(A2)	
μ PD70F3384M2GMA-GAR-AX			(A)	パワーオン・クリア機能搭載
μ PD70F3384M2GMA1-GAR-AX			(A1)	
μ PD70F3384M2GMA2-GAR-AX			(A2)	
μ PD70F3385M1GMA-GAR-AX	768 Kバイト	1024 Kバイト	(A)	パワーオン・クリア機能非搭載
μ PD70F3385M1GMA1-GAR-AX			(A1)	
μ PD70F3385M1GMA2-GAR-AX			(A2)	
μ PD70F3385M2GMA-GAR-AX			(A)	パワーオン・クリア機能搭載
μ PD70F3385M2GMA1-GAR-AX			(A1)	
μ PD70F3385M2GMA2-GAR-AX			(A2)	

備考1. 各品質水準の動作周囲温度は次のとおりです。

(A) : - 40 ~ +85 , (A1) : - 40 ~ +110 , (A2) : - 40 ~ +125

2. オーダ名称末尾「-AX」の製品は、鉛フリー製品です。

品質水準とその応用分野の詳細については当社発行の資料「NEC 半導体デバイスの品質水準」(資料番号 C11531J) をご覧ください。

第2章 端子機能

本マイクロコントローラのポート端子および兼用端子用ポートの構成を説明します。また、2.8では、未使用端子の推奨接続方法を示します。

2.1 概要

本マイクロコントローラは入出力機能を持ったポートを搭載しています。これらのポートはいくつかのグループで構成されます。

汎用入出力機能の他に、特定機能を持たせるためのいくつかの制御レジスタが存在します。

端子、ポート、ポート・グループといった用語に関しては、2.1.2 用語を参照してください。

特長概要

・ポートとポート・グループの数

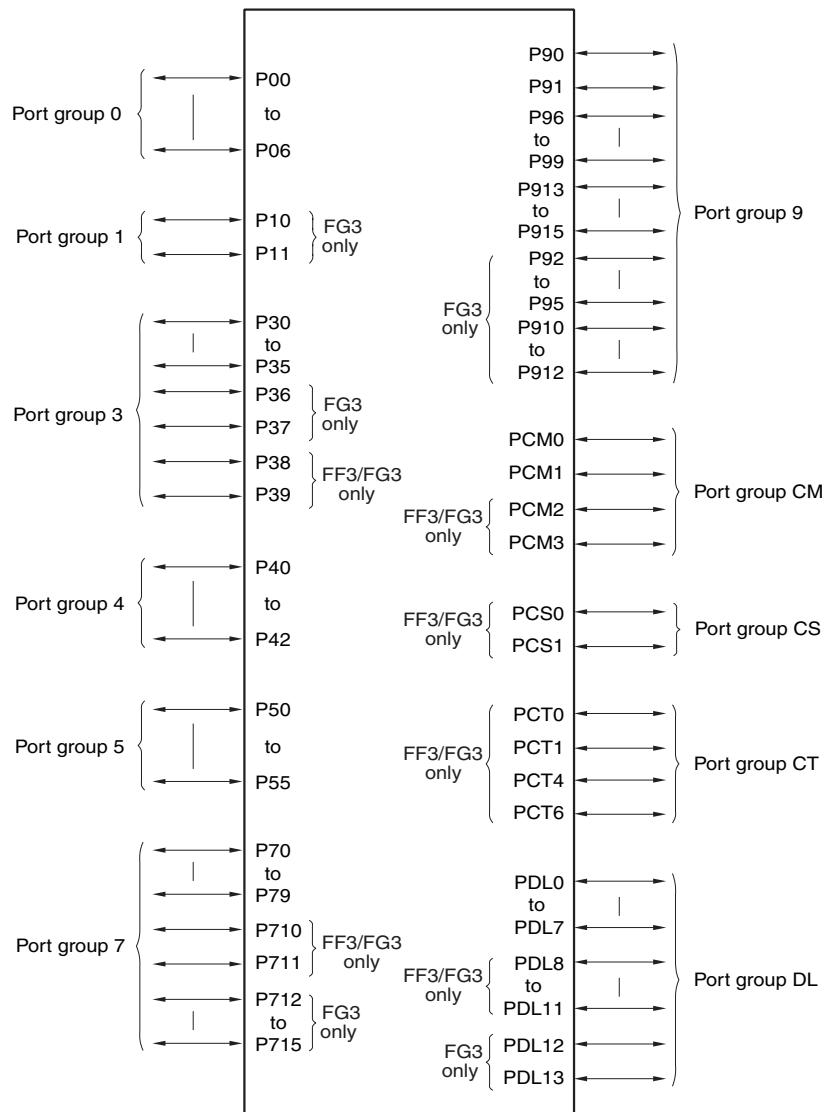
	V850ES/FE3	V850ES/FF3	V850ES/FG3	V850ES/FJ3	V850ES/FK3
ポート・グループ	8	10	11	15	17
入出力ポート	51	67	84	128	152

- ・各端子は個別に設定可能
- ・特定の端子にプルアップ抵抗の接続を選択可能

2.1.1 解説

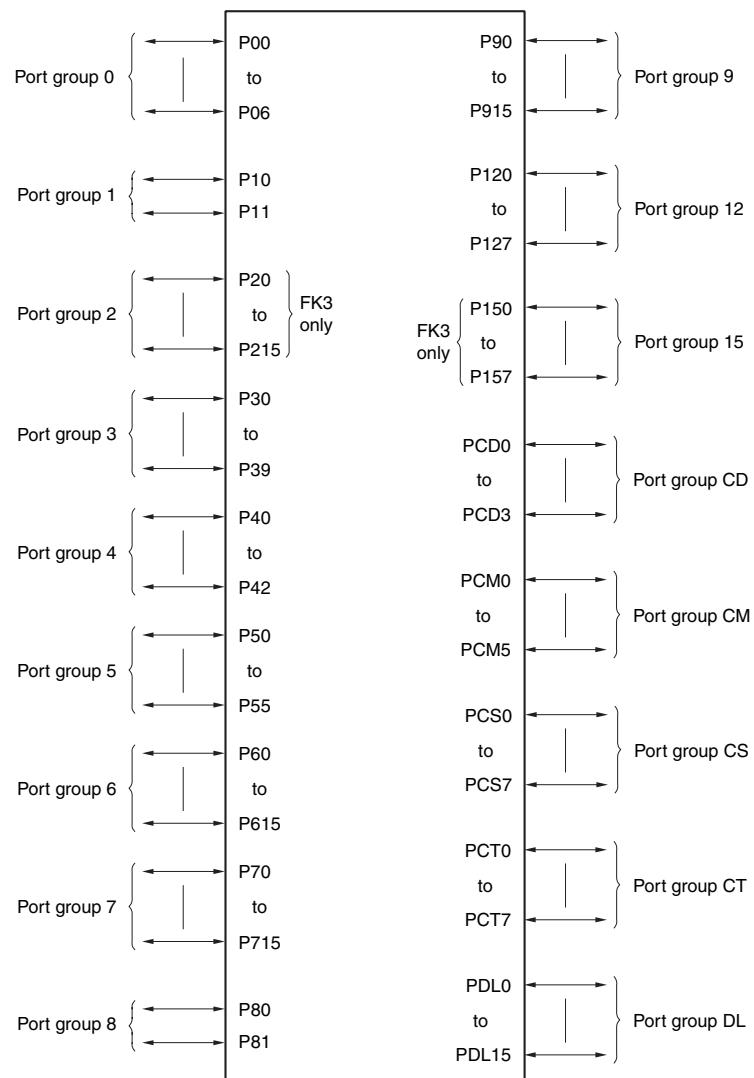
V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3には、次のようなポート・グループがあります。

図2-1 V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3のポート・グループ



V850ES/FJ3, V850ES/FK3には、次のようなポート・グループがあります。

図2-2 V850ES/FJ3, V850ES/FK3のポート・グループ



ポート・グループの概要：表2-1にポート・グループの概要を示します。この表には、各ポート・グループが、ポート・モードと兼用モードで対応する機能が示されています。

備考 表2-1にあるポート・グループと機能のすべてをV850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3, V850ES/FJ3で使用できるわけではありません。製品ごとのポート・グループと機能の搭載状況については、表2-1の注を参照してください。

表2-1 各ポート・グループの機能(1/3)

ポート・ グループ名	機能	
	ポート・モード	兼用モード
0	7ビット入出力	<ul style="list-style-type: none"> ・外部割り込み0-3 ・ノンマスカブル割り込み ・N-Wireデバッグ・インターフェース・リセット ・ADコンバータ外部トリガ入力 ・タイマAA3入出力 ・タイマAA4入出力 ・CAN0送受信データ
1	2ビット入出力	<ul style="list-style-type: none"> ・外部割り込み9, 10^{注1}
2	16ビット入出力	<ul style="list-style-type: none"> ・A/Dコンバータ1入力^{注2}
3	10ビット入出力	<ul style="list-style-type: none"> ・外部割り込み7, 8^{注1} ・タイマAA0入出力 ・タイマAA1入出力 ・CAN0送受信データ ・CAN1送受信データ^{注3} ・UARTD0送受信データ ・UARTD0ポート・レート・クロック入力 ・UARTD2送受信データ^{注4}
4	3ビット入出力	<ul style="list-style-type: none"> ・外部割り込み14^{注5} ・キー割り込み入力0-2 ・クロック同期式シリアル・インターフェースCSIB0データ/クロック ・UARTD3送受信データ^{注6}
5	6ビット入出力	<ul style="list-style-type: none"> ・キー割り込み入力0-5 ・N-Wireデバッグ・インターフェース信号 ・タイマAB0入出力 ・モータ制御出力

注1. V850ES/FE3, V850ES/FF3は外部割り込み8, 9, 10を搭載していません。

2. V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3, V850ES/FJ3はA/Dコンバータ1を搭載していません。

3. V850ES/FE3, V850ES/FF3はCAN1を搭載していません。

4. V850ES/FE3, V850ES/FF3はUARTD2を搭載していません。

5. V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3のμPD70F3374, 70F3375は外部割り込み14を搭載していません。

6. V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3のμPD70F3374, 70F3375はUARTD3, UARTD4を搭載していません。

表2-1 各ポート・グループの機能(2/3)

ポート・ グループ名	ポート・モード	機能
		兼用モード
6	16ビット入出力	<ul style="list-style-type: none"> ・外部割り込み11-13, 15^{注1, 2} ・タイマAB2入出力^{注3} ・CSIB3データ / クロック^{注4} ・CAN2送受信データ^{注5} ・CAN3送受信データ^{注6} ・UARTD6送受信データ^{注7} ・UARTD7送受信データ^{注7} ・A/Dコンバータ1外部トリガ入力^{注8}
7	16ビット入出力	<ul style="list-style-type: none"> ・ADコンバータ入力
8	2ビット入出力	<ul style="list-style-type: none"> ・外部割り込み14^{注9} ・UARTD3送受信データ^{注10}
9	16ビット入出力	<ul style="list-style-type: none"> ・外部割り込み4-6 ・キー割り込み入力6, 7 ・タイマAA2入出力 ・タイマAB0入出力 ・タイマAB1入出力^{注11} ・CSIB1データ / クロック ・CSIB2データ / クロック^{注12} ・UARTD1送受信データ ・UARTD4送受信データ^{注10} ・UARTD5送受信データ^{注13} ・CAN2送受信データ^{注14} ・I²Cデータ / クロック ・プログラマブル・クロック出力
12	8ビット入出力	<ul style="list-style-type: none"> ・ADコンバータ入力^{注9}

- 注 1. V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3は外部割り込み11-13を搭載していません。
2. V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3, V850ES/FJ3は外部割り込み15を搭載していません。
3. V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3はタイマAB3を搭載していません。
4. V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3, V850ES/FJ3のμPD70F3378はCSIB3を搭載していません。
5. V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3はCAN2を搭載していません。
6. V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3, V850ES/FJ3のμPD70F3378はCAN3を搭載していません。
7. V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3, V850ES/FJ3はUARTD6, UARTD7を搭載していません。
8. V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3, V850ES/FJ3はA/Dコンバータ1を搭載していません。
9. V850ES/FJ3, V850ES/FK3のみ搭載。
10. V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3 の μPD70F3374, 70F3375, V850ES/FJ3 の μPD70F3378 はUARTD3, UARTD4を搭載していません。
11. V850ES/FE3, V850ES/FF3はタイマAB1を搭載していません。
12. V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3はCSIB2を搭載していません。
13. V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3, V850ES/FJ3のμPD70F3378はUARTD5を搭載していません。
14. V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3のμPD70F3374, 70F3375はCAN2を搭載していません。

表2-1 各ポート・グループの機能(3/3)

ポート・ グループ名	ポート・モード	機能
		兼用モード
15	8ビット入出力	<ul style="list-style-type: none"> ・タイマAA5入出力^{注1} ・タイマAA6入出力^{注1} ・タイマAA7入出力^{注1} ・CAN4送受信データ^{注2}
CD ^{注3}	4ビット入出力	-
CM	6ビット入出力	<ul style="list-style-type: none"> ・外部メモリ・インターフェース・データ・ウェイト要求^{注4} ・CPUシステム・クロック出力 ・バス・ホールド要求入力^{注4} ・バス・ホールド・アクノリッジ出力^{注4}
CS	8ビット入出力	<ul style="list-style-type: none"> ・外部メモリ・インターフェース・チップ・セレクト信号^{注4}
CT	8ビット入出力	<ul style="list-style-type: none"> ・外部メモリ・インターフェース・リード/ライト/アドレス・ストローブ^{注4}
DL	16ビット	<ul style="list-style-type: none"> ・外部メモリ・インターフェース・アドレス/データ0-15^{注4} ・フラッシュ・プログラミング・モード引き込み端子

注 1. V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3, V850ES/FJ3はタイマAA5-タイマAA7を搭載していません。

2. V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3, V850ES/FJ3はCAN4を搭載していません。

3. V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3はポートCDを搭載していません。

4. V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3はバス、メモリ制御機能を搭載していません。

備考 各ポートの設定については、2.5 ポート・グループの設定を参照してください。

2.1.2 用語

この章では、次のような用語を使用します。

- ・端子

物理的な端子を意味します。各端子は、その端子番号で一意に決められます。端子はいくつかのモードで使用できます。選択されたモードによっては、端子には端子名が割り当てられます。

- ・ポート・グループ

端子のグループを意味します。

- ・ポート・モード / ポート

ポート・モードに設定された端子は、汎用入出力端子として機能します。この場合、端子は「ポート」と呼ばれます。

各ポートの名前は、Pnm (nmは番号) です。たとえば、P04はポート・グループ0のポート4となります。「ポートP04」と呼ぶ場合もあります。

- ・兼用モード

兼用モードにおいて、各端子は兼用（入力 / 出力）機能として動作します（たとえば、内蔵周辺機能の入出力端子など）。

これらの機能に対応する端子の名前は、選択された機能によって異なります。たとえば、端子INTP0は外部割り込み入力端子を意味します。たとえば、P03とINTP0は物理的には同じ端子を指しています。ただし、端子名は現在動作している端子機能を示しています。

2.1.3 ノイズ除去

一部の端子は、入力される信号のノイズを除去するためにフィルタを搭載しています。

詳細については、2.6 ノイズ除去を参照してください。

2.2 ポート・グループを設定するレジスタの構成

設定レジスタの構成と各レジスタの詳細を説明します。設定レジスタは次のように分類されます。

- ・端子機能設定
- ・端子データ入出力
- ・プルアップ抵抗の設定
- ・オープン・ドレーン機能

2.2.1 概 要

ポート・グループ（各端子）を設定するレジスタは、次の表の構成です。

表2-2 ポート・グループ設定用レジスタ

レジスタ名	略 号	機 能
ポート・モード・コントロール・レジスタ	PMCn	端子機能設定
ポート・モード・レジスタ	PMn	
ポート・ファンクション・コントロール・レジスタ	PFCn	
ポート・ファンクション・コントロール拡張レジスタ	PFCEn	
オンチップ・デバッグ・モード・レジスタ	OCDM	
ポート・レジスタ	Pn	端子データ入出力
プルアップ抵抗オプション・レジスタ	PUn	プルアップ抵抗設定
ポート・ファンクション・レジスタ	PFn	オープン・ドレーン設定

備考 V850ES/FE3 : n = 0, 3-5, 7, 9, CM, DL

V850ES/FF3 : n = 0, 3-5, 7, 9, CM, CS, CT, DL

V850ES/FG3 : n = 0, 1, 3-5, 7, 9, CM, CS, CT, DL

V850ES/FJ3 : n = 0, 1, 3-9, 12, CD, CM, CS, CT, DL

V850ES/FK3 : n = 0-9, 12, 15, CD, CM, CS, CT, DL

2.2.2 端子機能設定用レジスタ

端子機能設定用レジスタは、次のような端子の通常機能を設定します。

- ・ポート・モードまたは兼用モード
- ・ポート・モード：入力モードまたは出力モード
- ・兼用モード：兼用モードにおける兼用機能の選択
- ・通常モードまたはオンチップ・デバッグ・モード（N-Wireインターフェース）

レジスタ設定の概要を次の表に示します。

表2-3 端子機能設定の概要（各レジスタ内該当ピットの設定）

選択する機能（モード）	レジスタ					入力(I) / 出力(O) 状態
	OCDM	PMC	PM	PFCE	PFC	
ポート・モード（出力）	0	0	0	×	×	O
ポート・モード（入力）			1	×	×	I
兼用モード（兼用機能1）		1	× ^{注1}	0	0	I/O ^{注2}
兼用モード（兼用機能2）					1	
兼用モード（兼用機能3）				1	0	
兼用モード（兼用機能4）					1	
オンチップ・デバッグ・モード ^{注3}	1	×	×	×	×	I/O

注1. 詳細は、2.2.3 端子データ入出力用レジスタを参照してください。

2. 兼用モードでは、対応する兼用機能により端子が入力もしくは出力に決まります。
3. オンチップ・デバッグ・モードでは、対応する端子は自動的に入力または出力端子として設定され、N-Wireインターフェース端子として機能します。このモードでは、端子の設定は、端子設定レジスタで変更することができません。詳細は、第27章 オンチップ・デバッグ・ユニットを参照してください。

備考 × : Don't Care

(1) ポート・モード・コントロール・レジスタ (PMCn)

PMCnレジスタはポート・グループnの各端子をポート・モードまたは兼用モードに指定します。

最大8つのポートで構成されるポート・グループに対しては、本レジスタは8ビット・レジスタとして動作します。16個のポートで構成されるポート・グループに対しては、本レジスタは16ビット・レジスタとしても動作します。

アクセス： 8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

16ビット・レジスタとして機能する場合は、16ビット単位でリード／ライト可能です。

アドレス： 2.5 ポート・グループの設定を参照してください。

初期値： リセットにより00H、または0000Hになります。

7	6	5	4	3	2	1	0
PMCn7	PMCn6	PMCn5	PMCn4	PMCn3	PMCn2	PMCn1	PMCn0
R/W							

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
PMCn15	PMCn14	PMCn13	PMCn12	PMCn11	PMCn10	PMCn9	PMCn8	PMCn7	PMCn6	PMCn5	PMCn4	PMCn3	PMCn2	PMCn1	PMCn0
R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

表2-4 PMCnレジスタの内容

ビット位置	ビット名	機能
7-0または15-0	PMCn [7:0] または PMCn [15:0]	対応する端子の動作モードを指定。 0：ポート・モード 1：兼用モード

注意 ポートの機能をポート・モード (PMCnm = 0) から外部割り込み入力 (PMCnm = 1) に変更すると、意図しない割り込みが発生する場合があります。

したがって、次の手順を推奨します。

1. 兼用入力機能であるINTPn (1) を選択する場合は、PFCE.PFCEnmとPFC.PFCnmを設定します。
2. PMCnm = 1にセットし、兼用モードに変更します。
3. ノイズ除去フィルタの遅延時間が経過するまで待ちます。
4. INTnIC.INTnIF = 0にクリアして、割り込み要求をクリアします。
5. NTnIC.INTnMK (またはINTMR.INTnMK) をクリアして、割り込みを許可します。

外部割り込み端子はノイズ除去フィルタを備えているため、ステップ3では特定の時間が経過するまで待つ必要があります。このフィルタによって遅延時間が発生し、その間に割り込み要求フラグINTnIC.INTnIFがセットされるため、このフラグをクリアする必要があります（ステップ4）。

(2) ポート・モード・レジスタ (PMn)

PMnレジスタはポート・グループnの各端子を入力モードまたは出力モードに指定します。

最大8つのポートで構成されるポート・グループに対しては、本レジスタは8ビット・レジスタとして動作します。16個のポートで構成されるポート・グループに対しては、本レジスタは16ビット・レジスタとしても動作します。

備考 端子が兼用モードに設定され (PMCn.PMCnm = 1) , 対応するPMnビットがセットされている (PMn.PMnm = 1) 場合 , Pn.Pmnを読み出すと , 端子状態が読み出されます。

アクセス : 8ビットまたは1ビット単位でリード / ライト可能です。

16ビット・レジスタとして機能する場合は , 16ビット単位でリード / ライト可能です。

アドレス : 2.5 ポート・グループの設定を参照してください。

初期値 : リセットによりFFH , またはFFFFHになります。

7	6	5	4	3	2	1	0
PMn7	PMn6	PMn5	PMn4	PMn3	PMn2	PMn1	PMn0
R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
15	14	13	12	11	10	9	8
PMn15	PMn14	PMn13	PMn12	PMn11	PMn10	PMn9	PMn8
R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
7	6	5	4	3	2	1	0
PMn7	PMn6	PMn5	PMn4	PMn3	PMn2	PMn1	PMn0
R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

表2 - 5 PMnレジスタの内容

ビット位置	ビット名	機能
7-0または15-0	PMn [7:0] または PMn [15:0]	対応する端子の入出力モードを指定。 0 : 出力モード 1 : 入力モード

(3) ポート・ファンクション・コントロール・レジスタ (PFCn)

1つの端子に兼用機能が2つ以上存在する場合に、兼用モード (PMCn.PMCnm = 1) で使用する兼用機能を指定します。兼用モードでは、対応する兼用機能により端子が入力または出力に決まります。

アクセス： 8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

16ビット・レジスタとして機能する場合は、16ビット単位でリード／ライト可能です。

アドレス： 2.5 ポート・グループの設定を参照してください。

初期値： リセットにより00H、または0000Hになります。

7	6	5	4	3	2	1	0
PFCn7	PFCn6	PFCn5	PFCn4	PFCn3	PFCn2	PFCn1	PFCn0
R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
15	14	13	12	11	10	9	8
PFCn15	PFCn14	PFCn13	PFCn12	PFCn11	PFCn10	PFCn9	PFCn8
R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
7	6	5	4	3	2	1	0
PFCn7	PFCn6	PFCn5	PFCn4	PFCn3	PFCn2	PFCn1	PFCn0
R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

表2 - 6 PFCnレジスタの内容

ビット位置	ビット名	機能
7-0または15-0	PFCn [7:0] または PFC [15:0]	詳細は、表2 - 3 端子機能設定の概要（各レジスタ内該当ビットの設定）を参照してください。

(4) ポート・ファンクション・コントロール拡張レジスタ (PFCEn)

1つの端子に兼用機能が3つ以上存在する場合に、兼用モード (PMCn.PMCnm = 1) で使用する兼用機能を指定します。端子によっては最大4つまでの兼用機能を持つことになります。

兼用モードでは、対応する兼用機能により端子が入力または出力に決まります。

アクセス： 8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

16ビット・レジスタとして機能する場合は、16ビット単位でリード／ライト可能です。

アドレス： 2.5 ポート・グループの設定を参照してください。

初期値： リセットにより00H、または0000Hになります。

7	6	5	4	3	2	1	0
PFCEn7	PFCEn6	PFCEn5	PFCEn4	PFCEn3	PFCEn2	PFCEn1	PFCEn0
R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
15	14	13	12	11	10	9	8
PFCEn15	PFCEn14	PFCEn13	PFCEn12	PFCEn11	PFCEn10	PFCEn9	PFCEn8
R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
7	6	5	4	3	2	1	0
PFCEn7	PFCEn6	PFCEn5	PFCEn4	PFCEn3	PFCEn2	PFCEn1	PFCEn0
R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

表2 - 7 PFCEnレジスタの内容

ビット位置	ビット名	機能
7-0または15-0	PFCEn [7:0] または PFCE [15:0]	詳細は、表2-3 端子機能設定の概要（各レジスタ内該当ビットの設定）を参照してください。

(5) オンチップ・デバッグ・モード・レジスタ (OCDM)

オンチップ・デバッグ (N-Wireインターフェース) が割り当てられている端子を、通常動作モードで動作するか、N-wireインターフェース動作するか指定します。このレジスタの設定は、N-Wireインターフェースに使用可能な、P05/DRST, P52/DDI, P53/DDO, P54/DCKおよびP55/DMS端子に対してのみ有効です。

詳細は、2. 9. 3 オンチップ・デバッグ用端子に関する注意事項、第27章 オンチップ・デバッグ・ユニットを参照してください。

本レジスタは、不正なデータが書き込まれないように保護されているレジスタ（特定レジスタ）です。

詳細は、第3章 CPU機能を参照してください。

アクセス： 8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

本レジスタへの書き込みは、P05/DRST端子にロウ・レベル入力時のみ有効です。

アドレス： 3FFFF9FCH

初期値： 00H/01H:

- ・パワーオン・クリア (POC) リセット発生時 (POC使用製品) : 00H
- ・外部RESET入力時 : 01H
- ・その他内部要因リセット (POC以外) 発生時 : リセット発生前の値を保持

7	6	5	4	3	2	1	①
0	0	0	0	0	0	0	OCDM0

R R R R R R R R/W

表2 - 8 OCDMレジスタの内容

ビット位置	ビット名	機能
0	OCDM0	N-Wireインターフェースの許可／禁止。 0: 端子は通常動作モード(ポート・モードまたは兼用モード、プルダウン抵抗切断)。 1: 端子はオンチップ・デバッグ・モード(プルダウン抵抗接続)。

備考 P05/DRST, P52/DDI, P53/DDO, P54/DCKおよびP55/DMS端子がN-Wireインターフェース端子として使用される場合、これらの端子の設定を端子設定レジスタで変更することはできません。

DRSTプルダウン抵抗：DRST (P05) はプルダウン抵抗を内蔵しています。このプルダウン抵抗の接続は、OCDM.OCDM0で制御します。

0: プルダウン抵抗をP05/DRSTに接続しない。

1: プルダウン抵抗をP05/DRSTに接続する。

2.2.3 端子データ入出力用レジスタ

端子がポート・モードにある場合、端子データ入出力用のレジスタで外部とのデータ入出力を、Pnレジスタへの書き込み、および読み出しによって行います。

(1) ポート・レジスタ (Pn)

Pnレジスタは、出力データを保持するポート・ラッチ、および端子の状態を読み込む回路で構成されています。

最大8つのポートで構成されるポート・グループに対しては、本レジスタは8ビット・レジスタとして動作します。16個のポートで構成されるポート・グループに対しては、本レジスタは16ビット・レジスタとしても動作します。

アクセス： 8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

16ビット・レジスタとして機能する場合は、16ビット単位でリード／ライト可能です。

アドレス： 2.5 ポート・グループの設定を参照してください。

初期値： 不定

備考 リセット後、ポートは入力モードに設定されます (PMn.PMnm = 1)。読み出し値は、端子状態によって決定されます。

7	6	5	4	3	2	1	0
Pn7	Pn6	Pn5	Pn4	Pn3	Pn2	Pn1	Pn0
R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
15	14	13	12	11	10	9	8
Pn15	Pn14	Pn13	Pn12	Pn11	Pn10	Pn9	Pn8
R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W
7	6	5	4	3	2	1	0
Pn7	Pn6	Pn5	Pn4	Pn3	Pn2	Pn1	Pn0
R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

表2-9 Pnレジスタの内容

ビット位置	ビット名	機能
7-0または15-0	Pn [7:0] または Pn [15:0]	詳細は、表2-10と表2-11を参照してください。

備考 Pnレジスタに書き込まれた値は、同レジスタに新しい値が書き込まれるまで保持されます。

ポート・モード： ポート・モード (PMCn.PMCnm = 0) では、PMnレジスタは各端子が入力モードであるか出力モードであるかを指定します。Pnレジスタのリード／ライトは以下のとおりです。

表2 - 10 ポート・モード (PMCn.PMCnm = 0) でのPnレジスタへのリード / ライト

機能	PM
Pnへの書き込み	
Pnの内容が端子から出力されます。	0(出力モード)
端子状態に影響しません	1(入力モード)
Pnからの読み出し	
出力ラッチの値を読み出します。	0(出力モード)
端子状態を読み出します。	1(入力モード)

兼用モード：兼用モード (PMCn.PMCnm = 1) では、設定する兼用機能により端子の入力または出力が決定されます。Pnレジスタのリード / ライト動作はPMnレジスタの影響を受けます。

表2 - 11 兼用モード (PMCn.PMCnm = 1) でのPnレジスタへのリード / ライト

機能	PM
Pnへの書き込み	
端子状態に影響しません。	×
Pnからの読み出し	
出力ラッチの値を読み出します。	0(出力モード)
端子状態を読み出します。	1(入力モード)

注意 兼用機能としてアナログ入力 (ANIn) を選択している場合、端子状態は読み出しきれません。

備考 × : Don't care

2.2.4 プルアップ抵抗設定用レジスタ

(1) プルアップ抵抗オプション・レジスタ (PUn)

PUnレジスタは、対応する端子にプルアップ抵抗を接続するかどうかを指定します。

アクセス： 8/1ビット単位でリード / ライト可能です。

16ビット・レジスタとして機能する場合は、16ビット単位でリード / ライト可能です。

アドレス： 2.5 ポート・グループの設定を参照してください。

初期値： リセットにより00Hまたは0000Hになります。

7	6	5	4	3	2	1	0
PUn7	PUn6	PUn5	PUn4	PUn3	PUn2	PUn1	PUn0
R/W							

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
PUn15	PUn14	PUn13	PUn12	PUn11	PUn10	PUn9	PUn8	PUn7	PUn6	PUn5	PUn4	PUn3	PUn2	PUn1	PUn0
R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

表2-12 PUnレジスタの内容

ビット位置	ビット名	機能
7-0または15-0	PUn [7:0] または PUn [15:0]	対応する端子へのプルアップ抵抗の接続を指定。 0 : プルアップ抵抗を接続しない。 1 : プルアップ抵抗を接続する。

注意 PUnレジスタのPUnmビットは、ポート・モード(PMCnレジスタのPMcnmビット = 0)かつ入力モード(PMnレジスタのPMnmビット = 1)のとき、またはコントロール・モード(PMCnレジスタのPMcnmビット = 1)で選択されている兼用機能が入力の場合のみ有効です。ポート・モードで出力モード(PMnレジスタのPMnmビット = 0)のとき、またはコントロール・モードで選択されている兼用機能が出力の場合、PUnレジスタの設定値は無効(プルアップ抵抗の接続なし)です。

2.2.5 オープン・ドレーン設定用レジスタ

(1) ポート・ファンクション・レジスタ9H (PF9H)

端子が出力ポート・モード (PMC9.PMC9m = 0, PM9.PM9m = 0), または兼用機能3 (SDA00, SCL00) の場合, PF9Hレジスタは, その端子が通常出力端子として機能するか, オープン・ドレーン出力端子として機能するかを指定します。

このレジスタは, 8ビット・レジスタとして動作します。

アクセス: 8/1ビット単位でリード /ライト可能です。

アドレス: 2.5 ポート・グループの設定を参照してください。

初期値: リセットにより00Hになります。

7	6	5	4	3	2	1	0
PF915	PF914	0	0	0	0	0	0
R/W	R/W	R	R	R	R	R	R

表2 - 13 PF9Hレジスタの内容

ビット位置	ビット名	機能
7, 6	PF91 [5:4]	通常出力またはオープン・ドレーン出力を指定 0: 通常出力 1: オープン・ドレーン出力

2.3 端子の入出力回路タイプ

図2-3 端子の入出力回路タイプ(1/2)

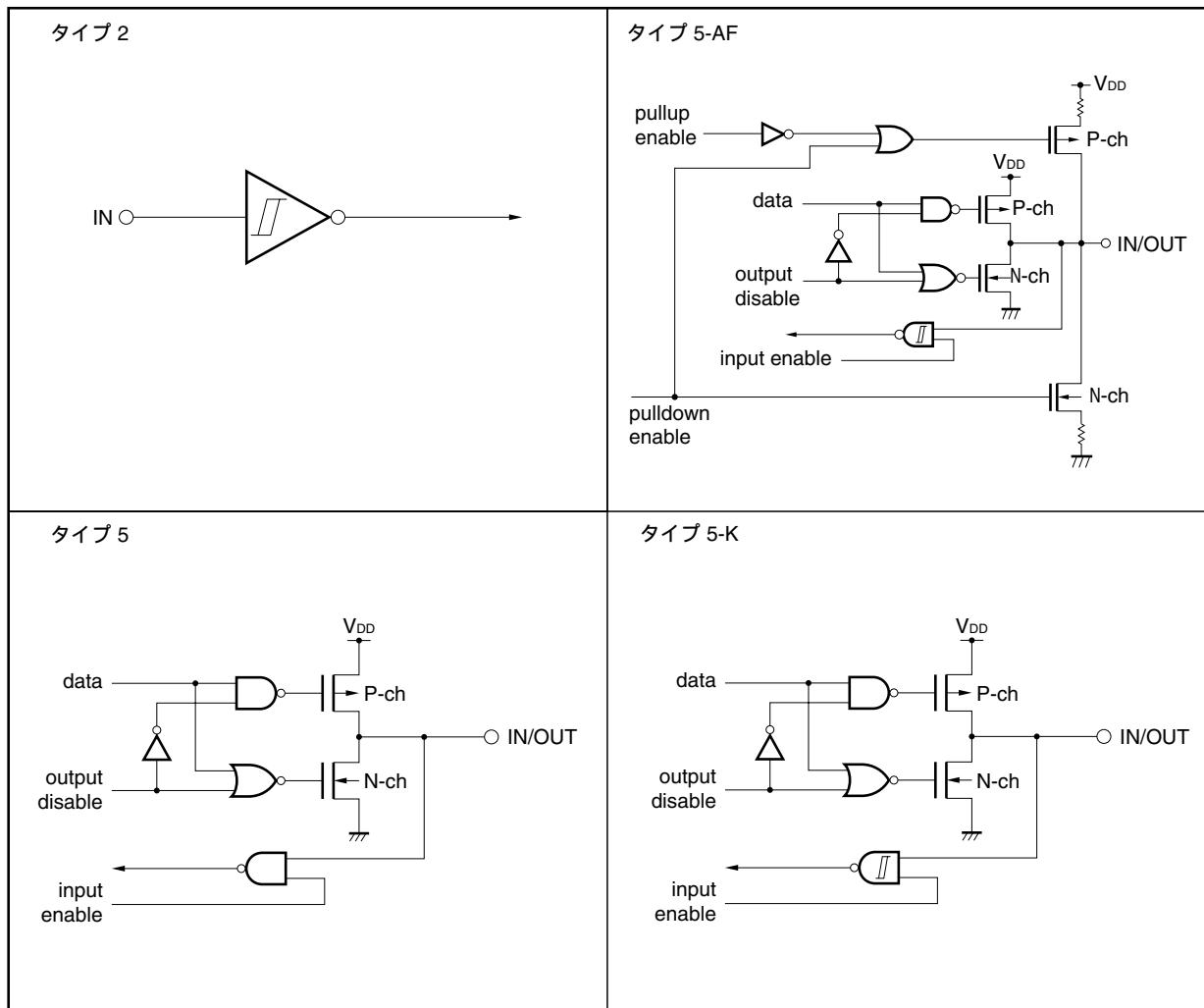
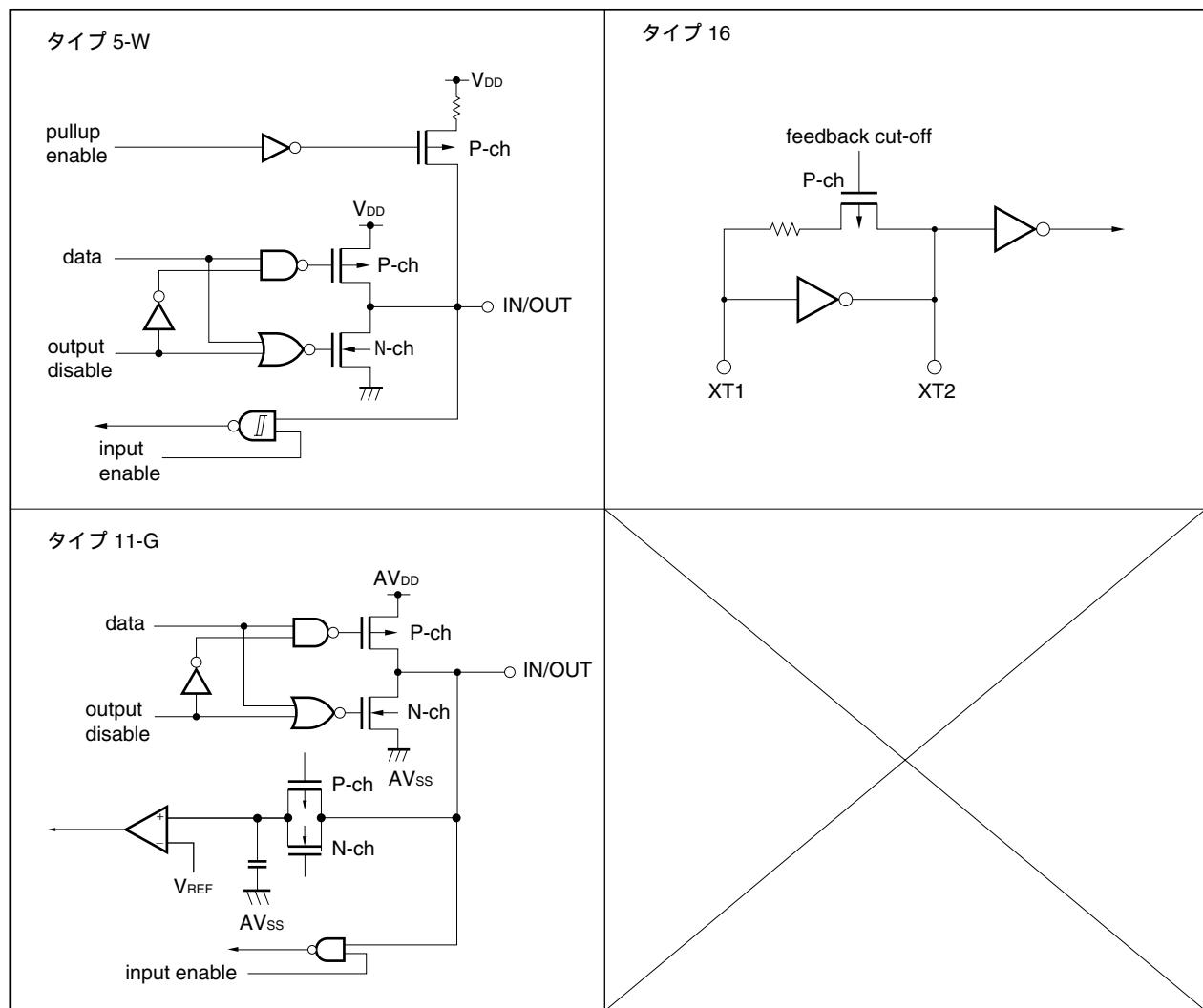


図2-3 端子の入出力回路タイプ (2/2)



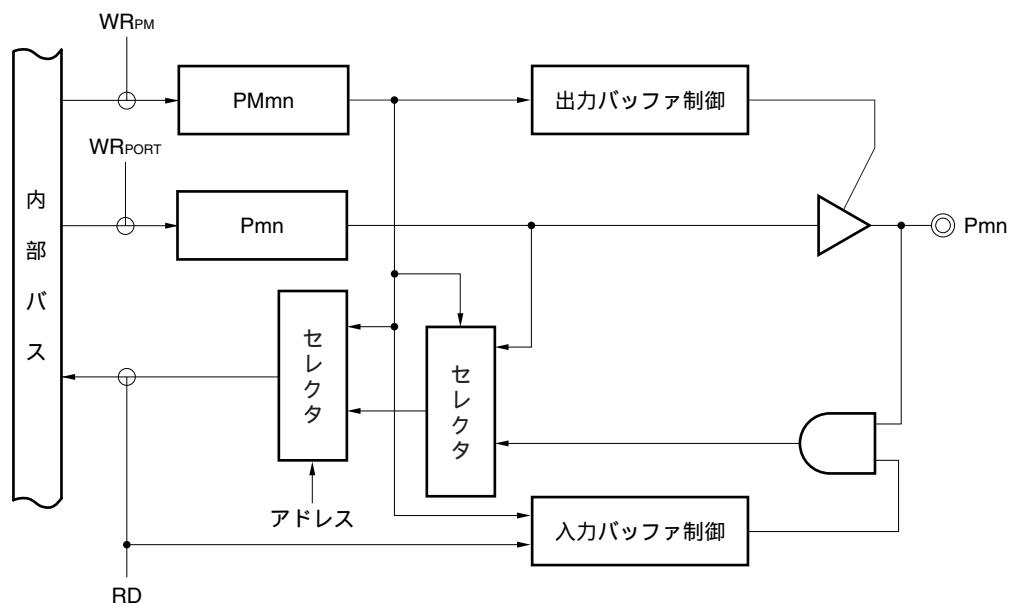
2.4 ポート・タイプ

ポート・タイプのブロック図を列挙します。

各ポート・グループの説明にある表（例：表2-17 ポート・グループ0：端子機能とポート・タイプ）に、各ポートのポート・タイプを示しています。

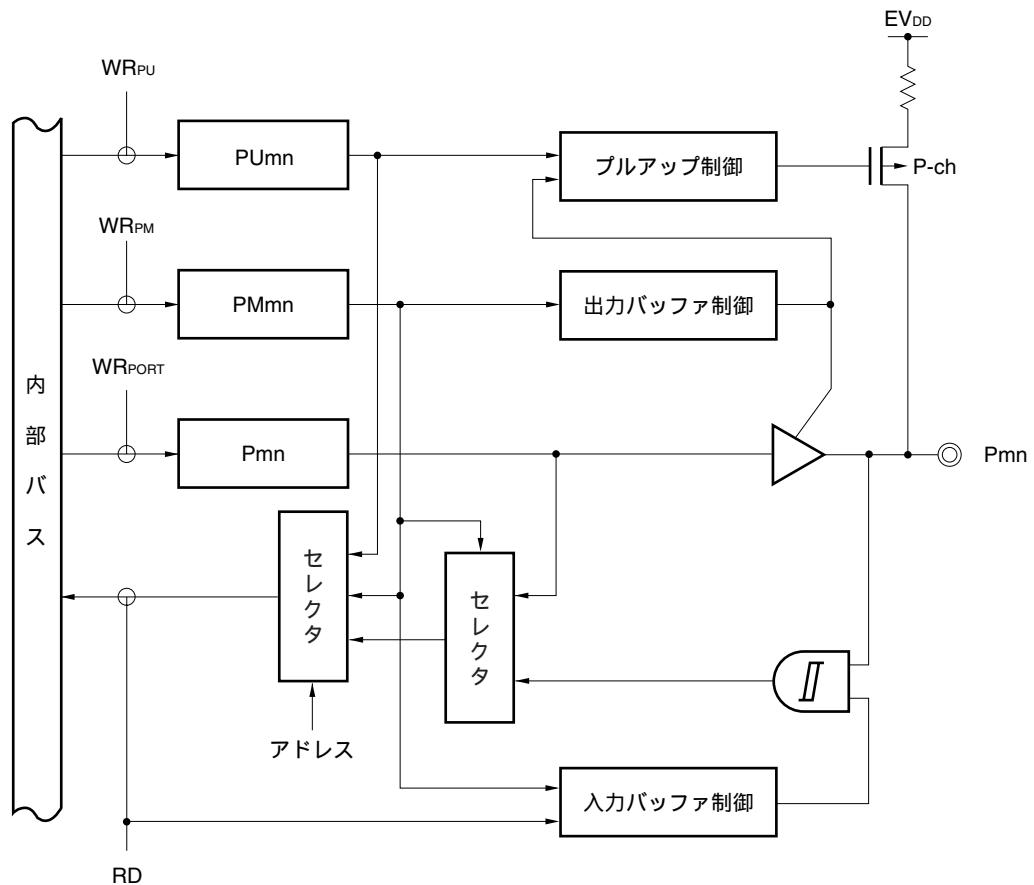
2.4.1 ポート・タイプC

図2-4 ポート・タイプCのブロック図



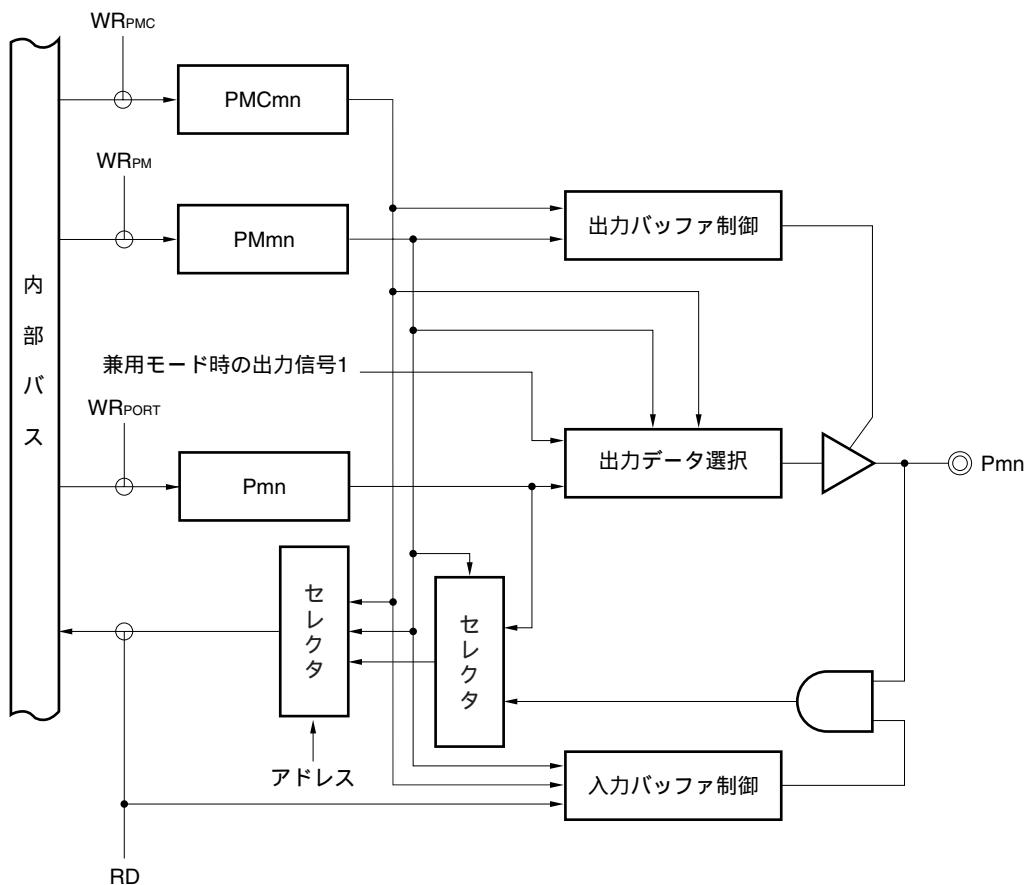
2.4.2 ポート・タイプC-U

図2-5 ポート・タイプC-Uのブロック図



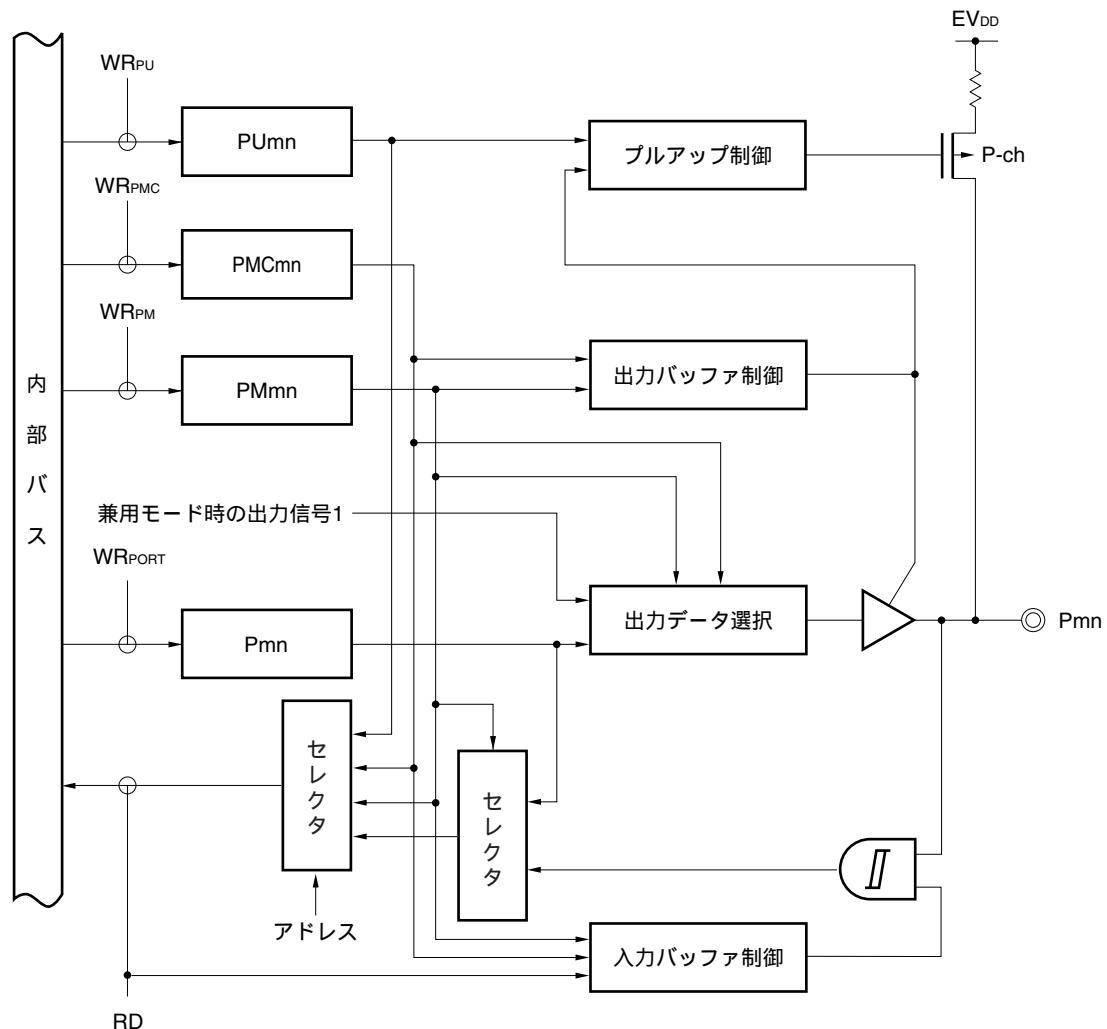
2.4.3 ポート・タイプD0

図2-6 ポート・タイプD0のブロック図



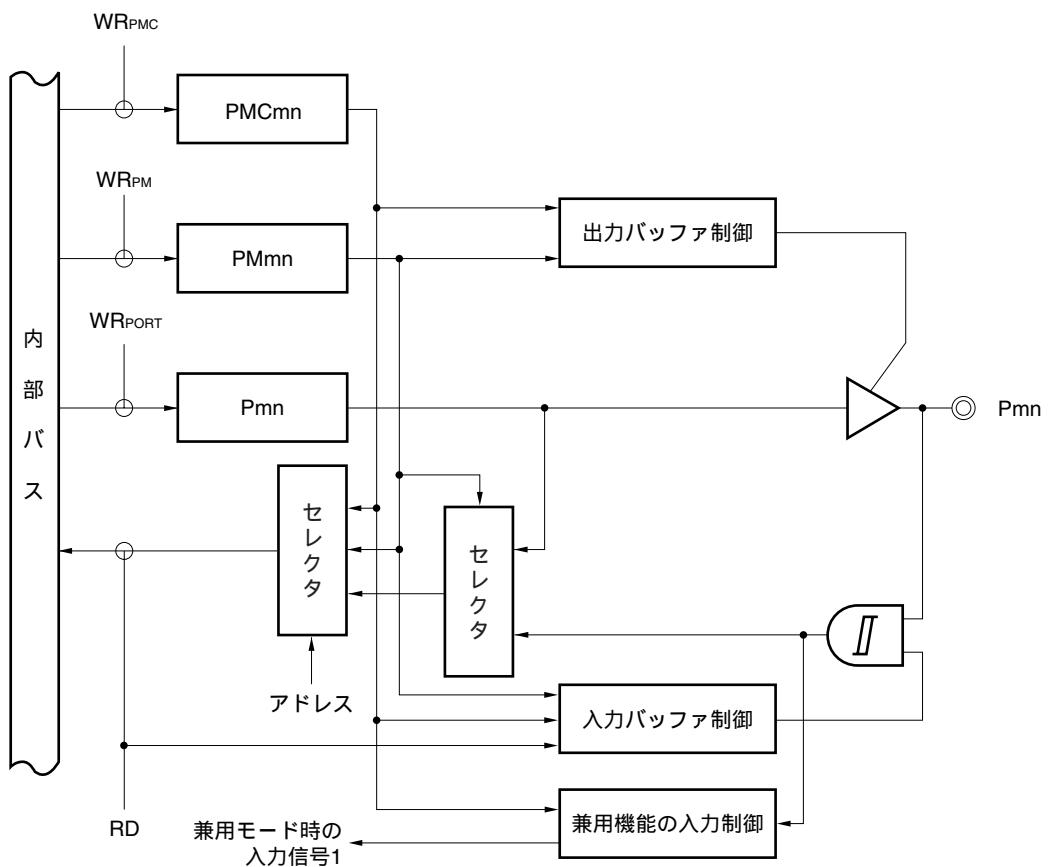
2.4.4 ポート・タイプD0-U

図2-7 ポート・タイプD0-Uのブロック図



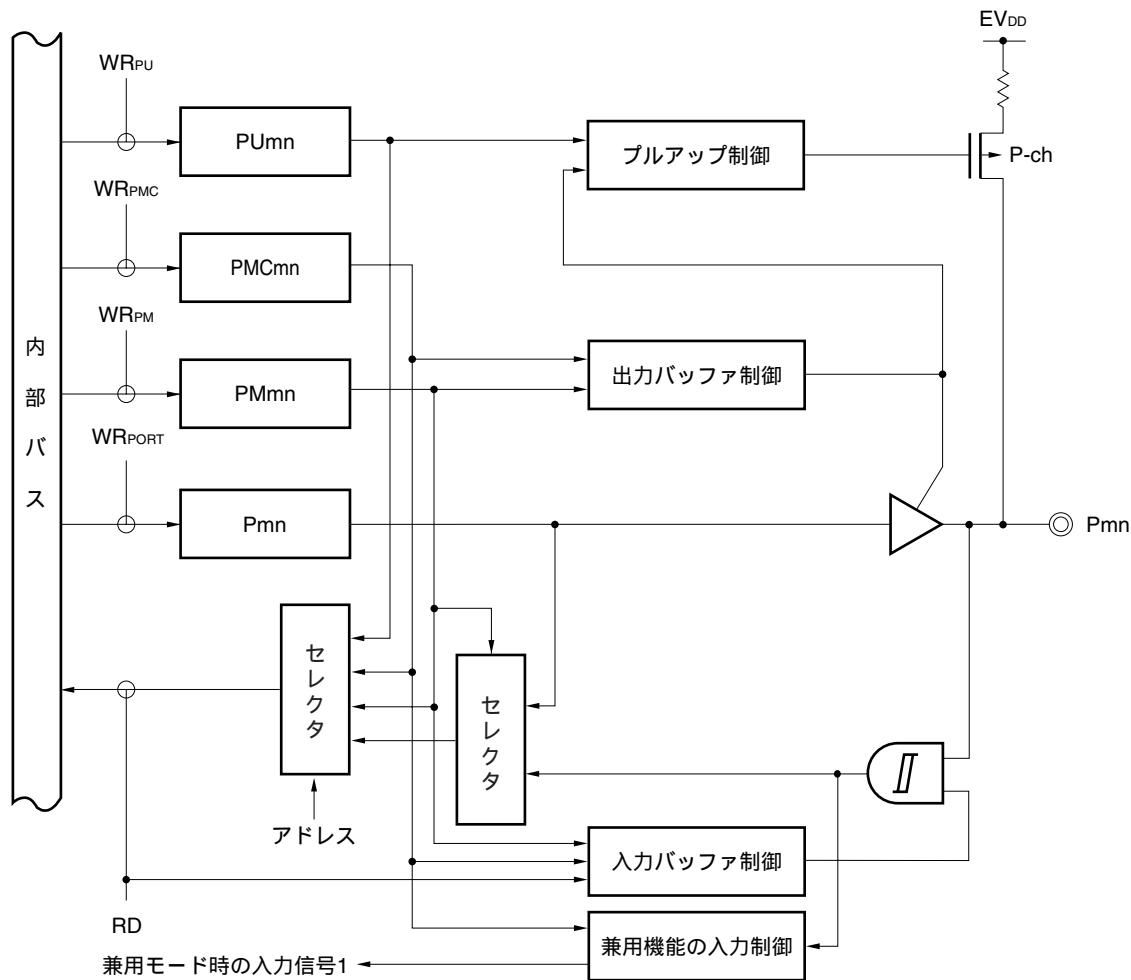
2.4.5 ポート・タイプD1

図2-8 ポート・タイプD1のブロック図



2.4.6 ポート・タイプD1-U

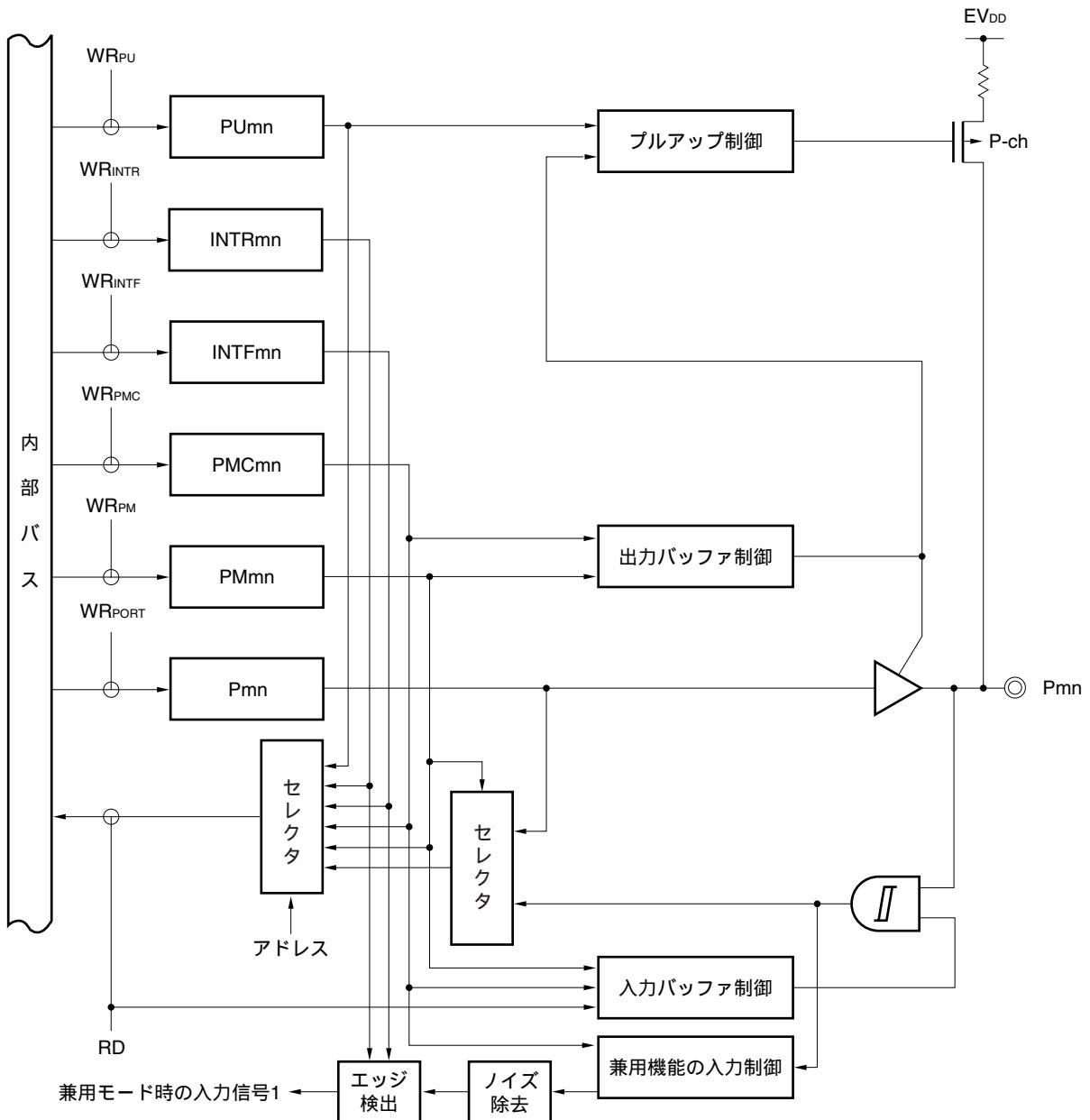
図2-9 ポート・タイプD1-Uのブロック図



備考 ADTRG1入力 (V850ES/FK3のみ搭載) の場合、アナログ・ノイズ除去フィルタが挿入されます。

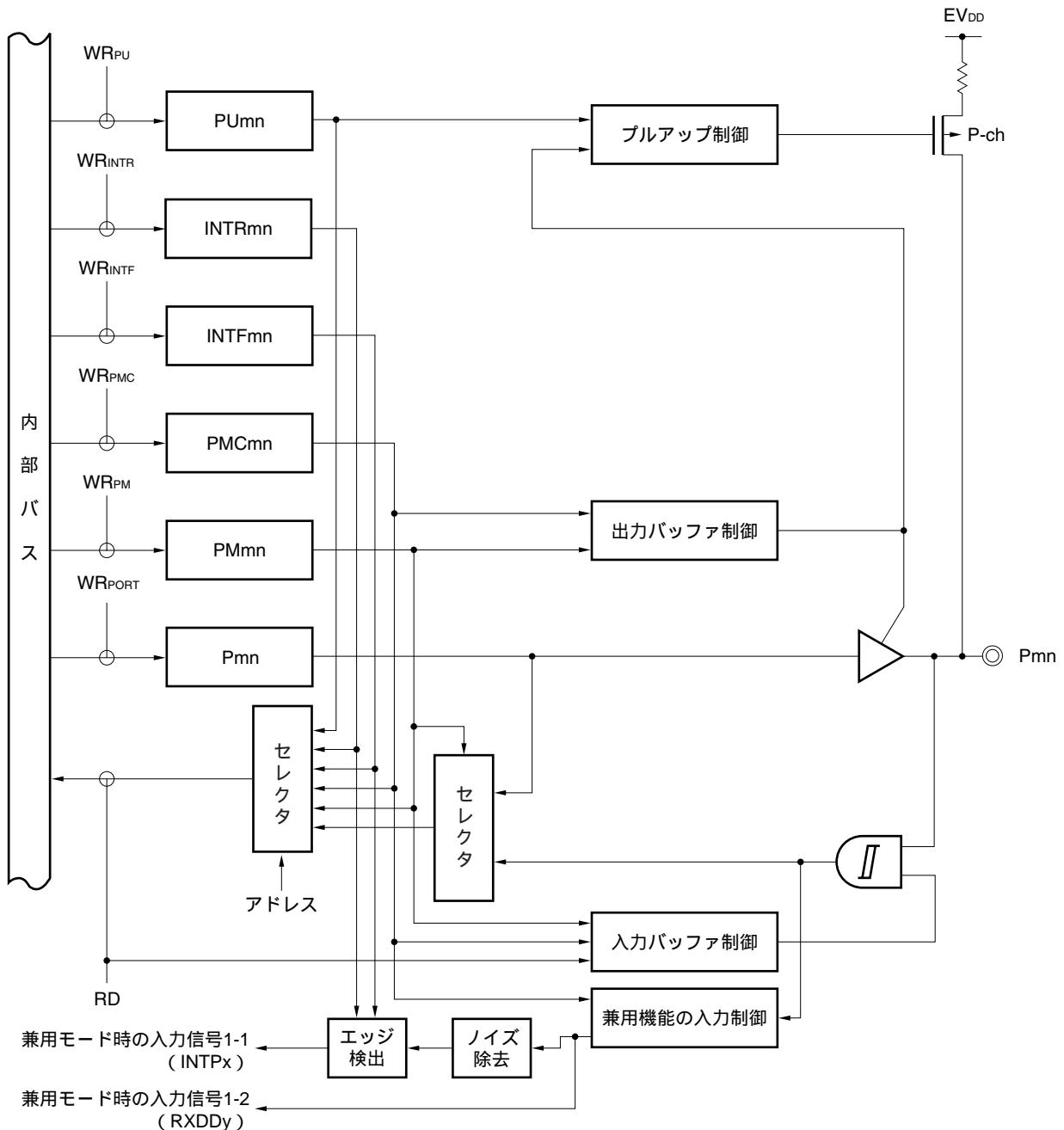
2.4.7 ポート・タイプD1-UI

図2-10 ポート・タイプD1-UIのブロック図



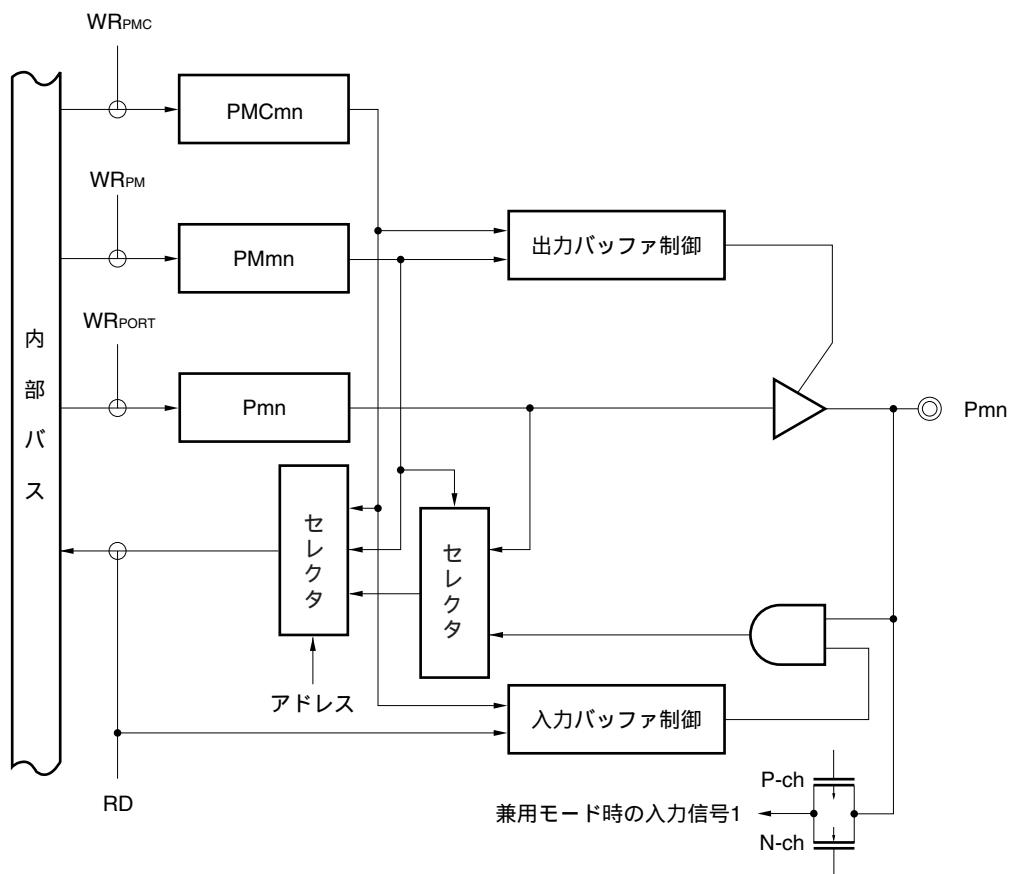
2.4.8 ポート・タイプD3-UI

図2-11 ポート・タイプD3-UIのブロック図



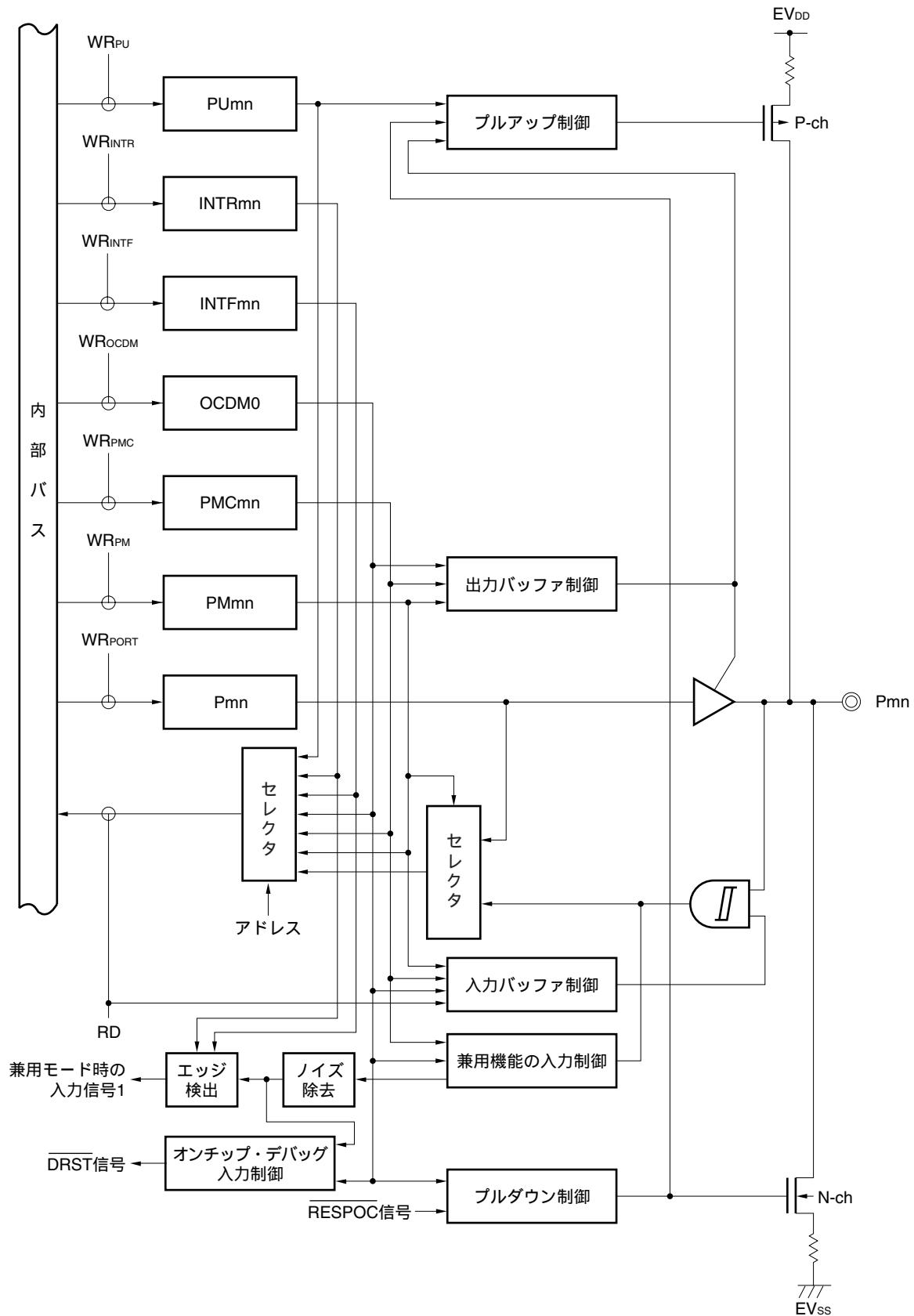
2.4.9 ポート・タイプD1A

図2-12 ポート・タイプD1Aのブロック図



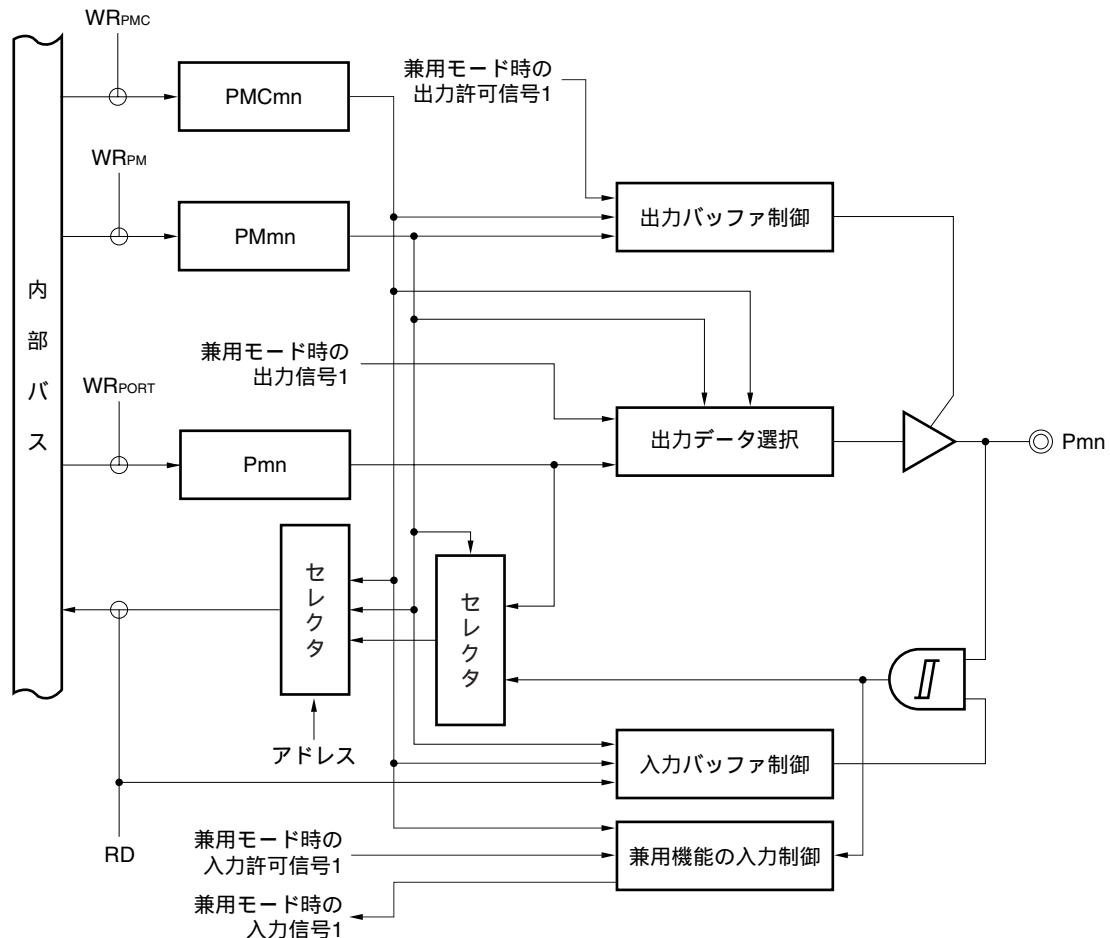
2.4.10 ポート・タイプD1O1-UI

図2-13 ポート・タイプD1O1-UIのブロック図



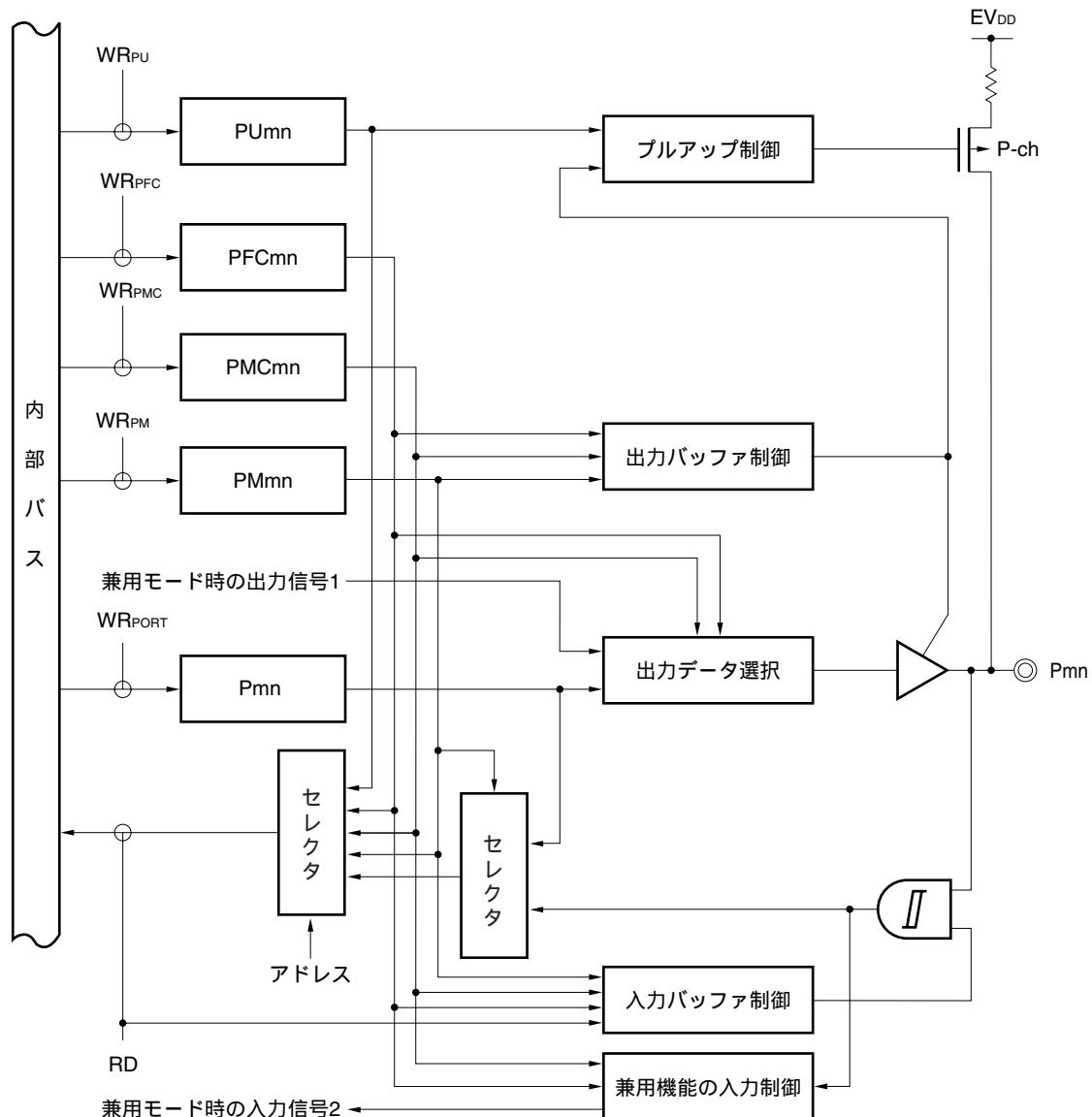
2.4.11 ポート・タイプD2

図2-14 ポート・タイプD2のブロック図



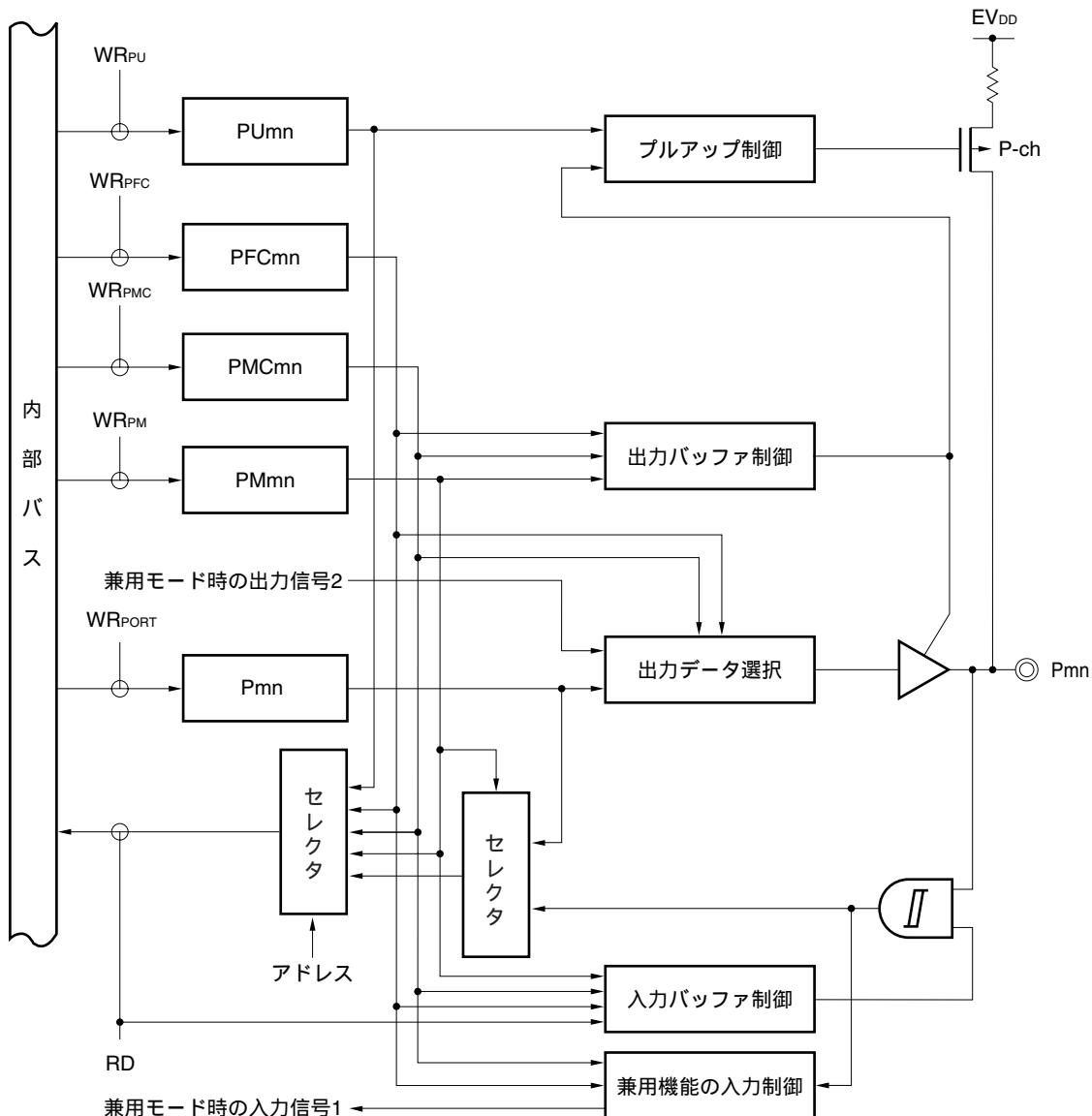
2.4.12 ポート・タイプE01-U

図2-15 ポート・タイプE01-Uのブロック図



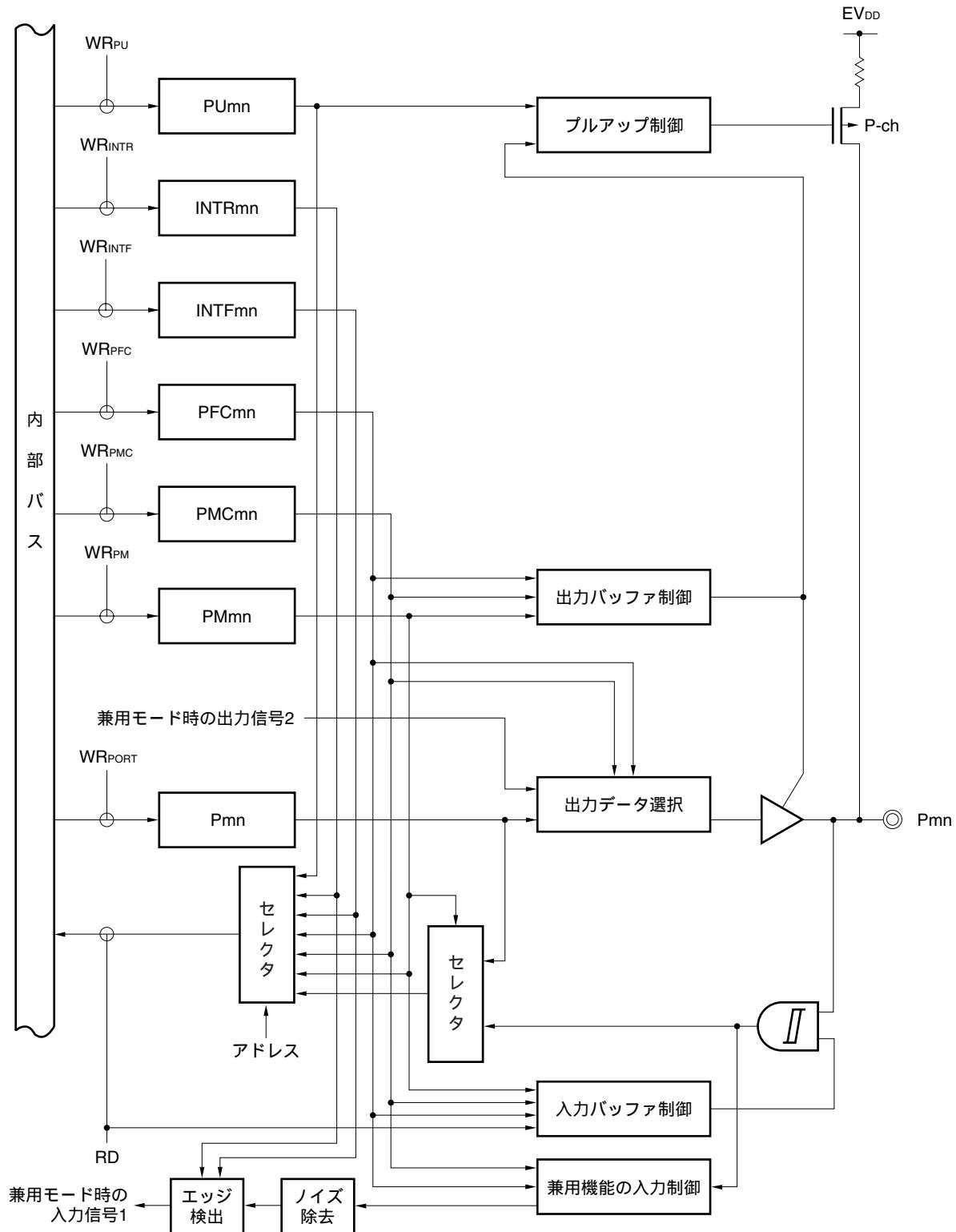
2.4.13 ポート・タイプE10-U

図2-16 ポート・タイプE10-Uのブロック図



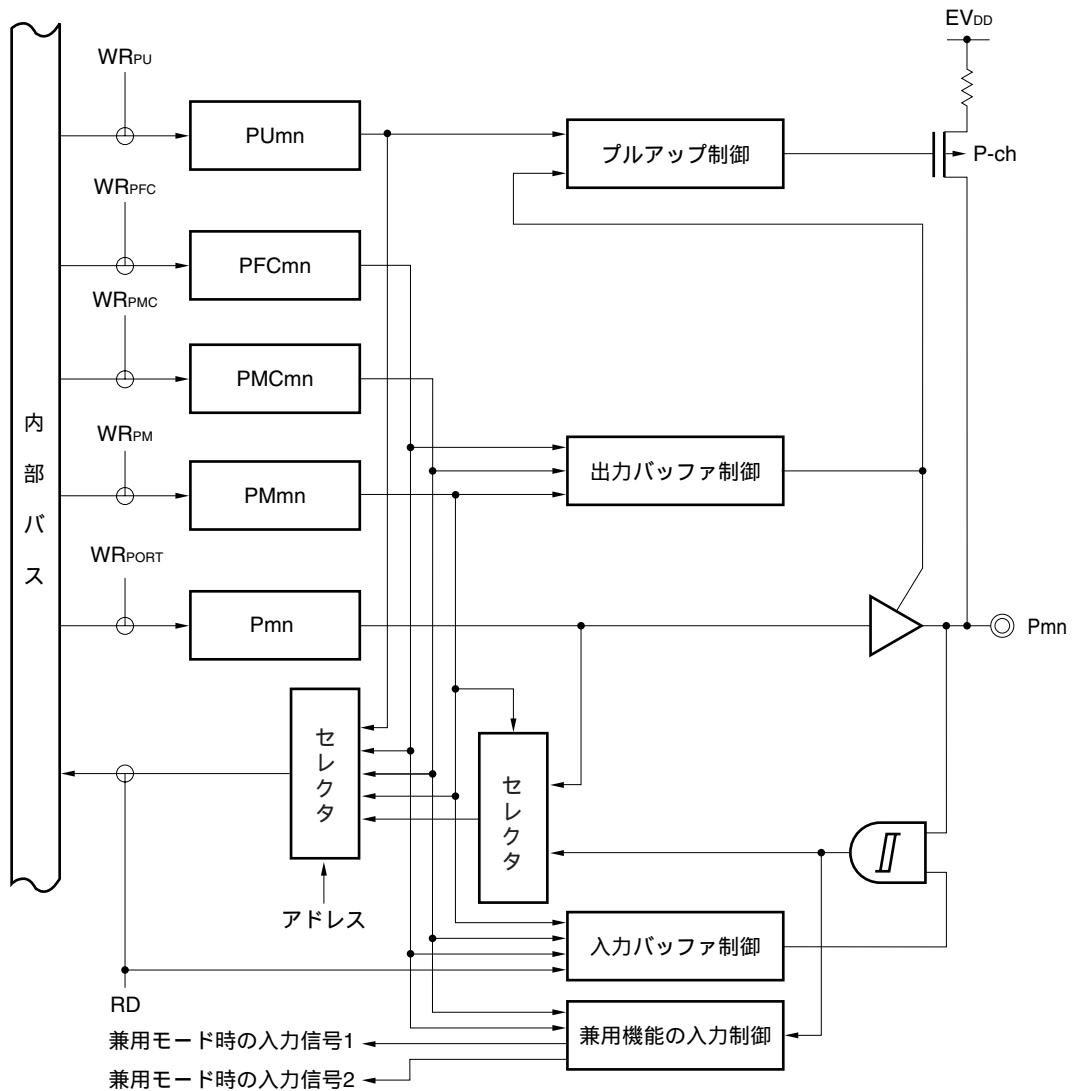
2.4.14 ポート・タイプE10-UI

図2-17 ポート・タイプE10-UIのブロック図



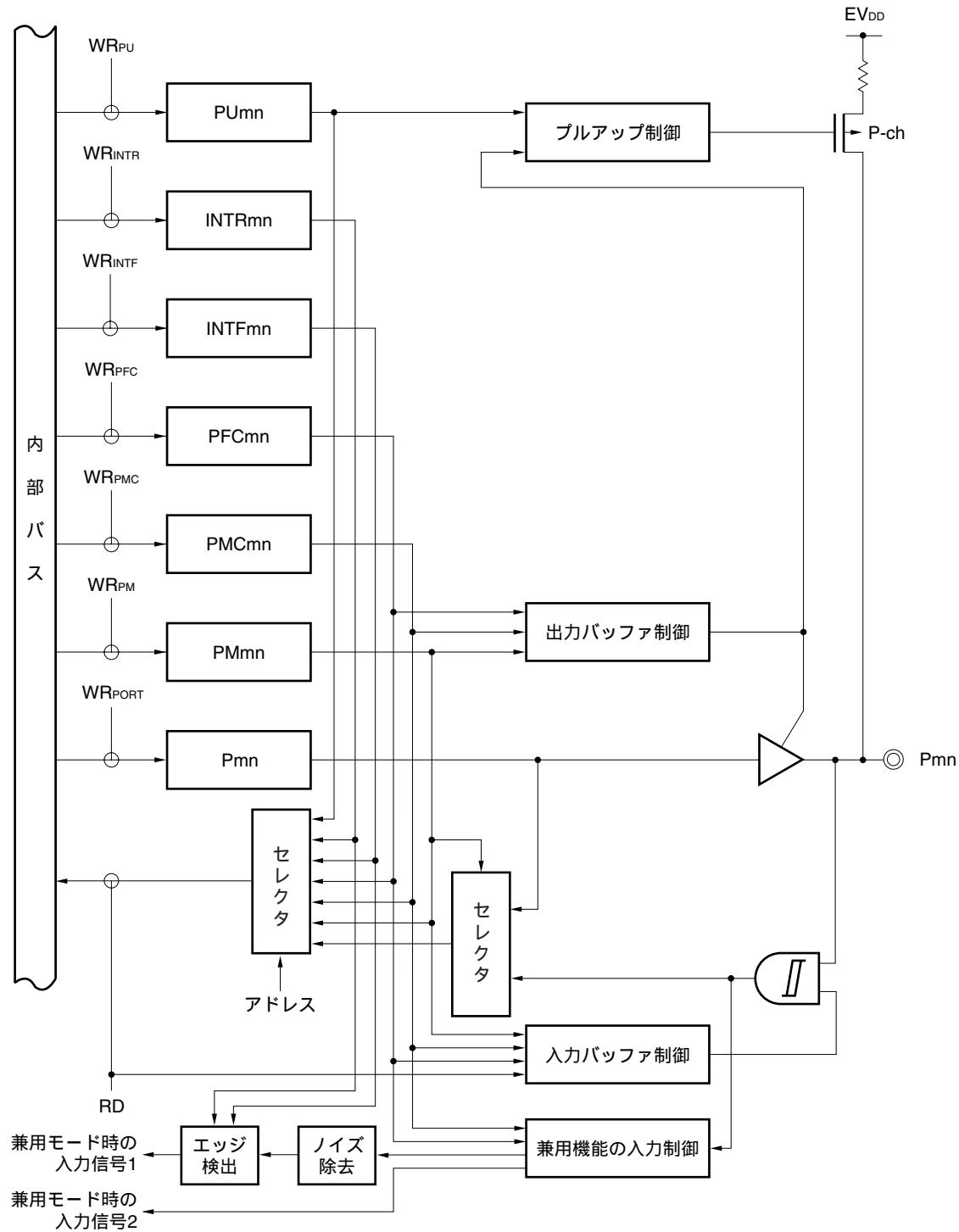
2.4.15 ポート・タイプE11-U

図2-18 ポート・タイプE11-Uのブロック図



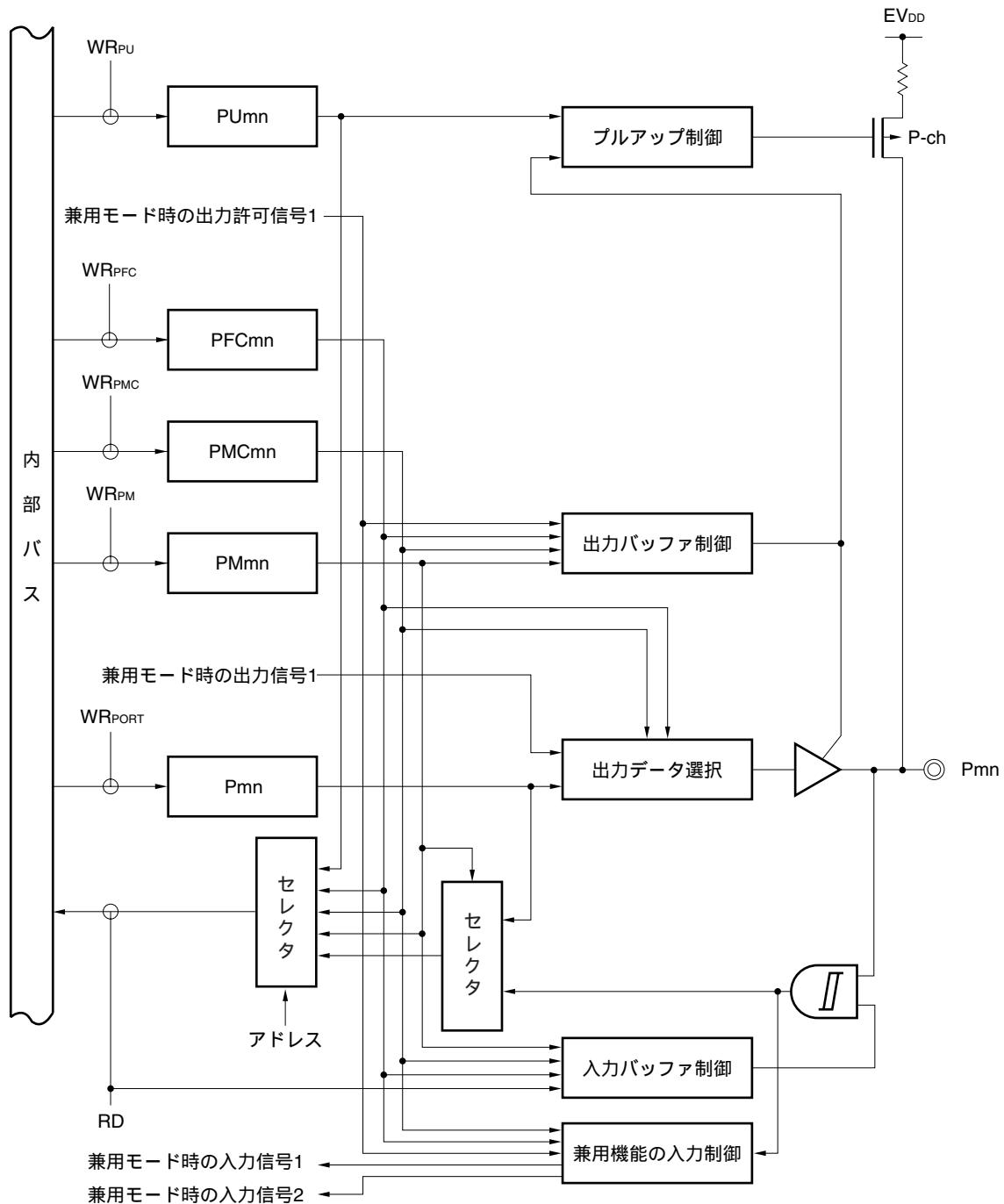
2.4.16 ポート・タイプE11-UI

図2-19 ポート・タイプE11-UIのブロック図



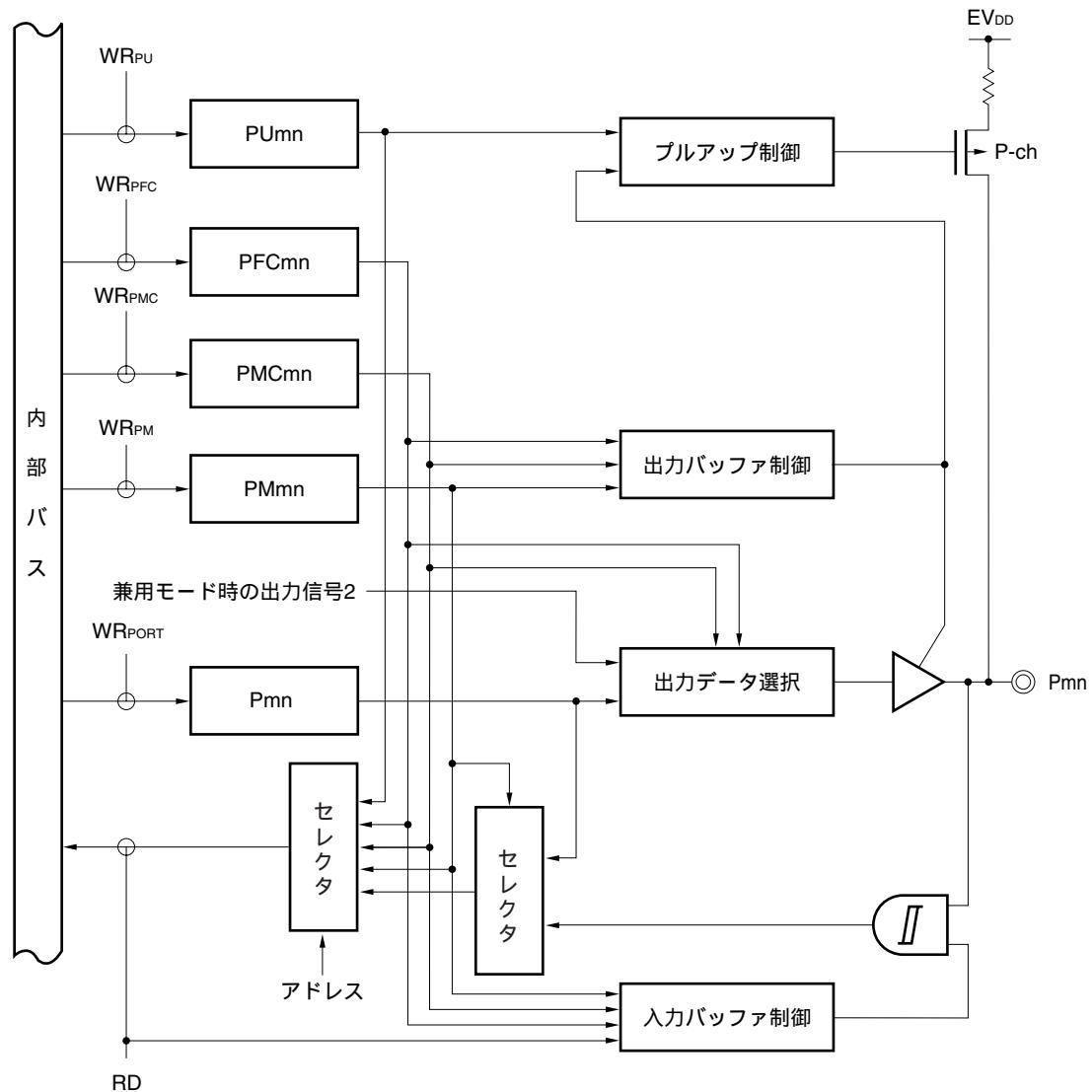
2.4.17 ポート・タイプE21-U

図2-20 ポート・タイプE21-Uのブロック図



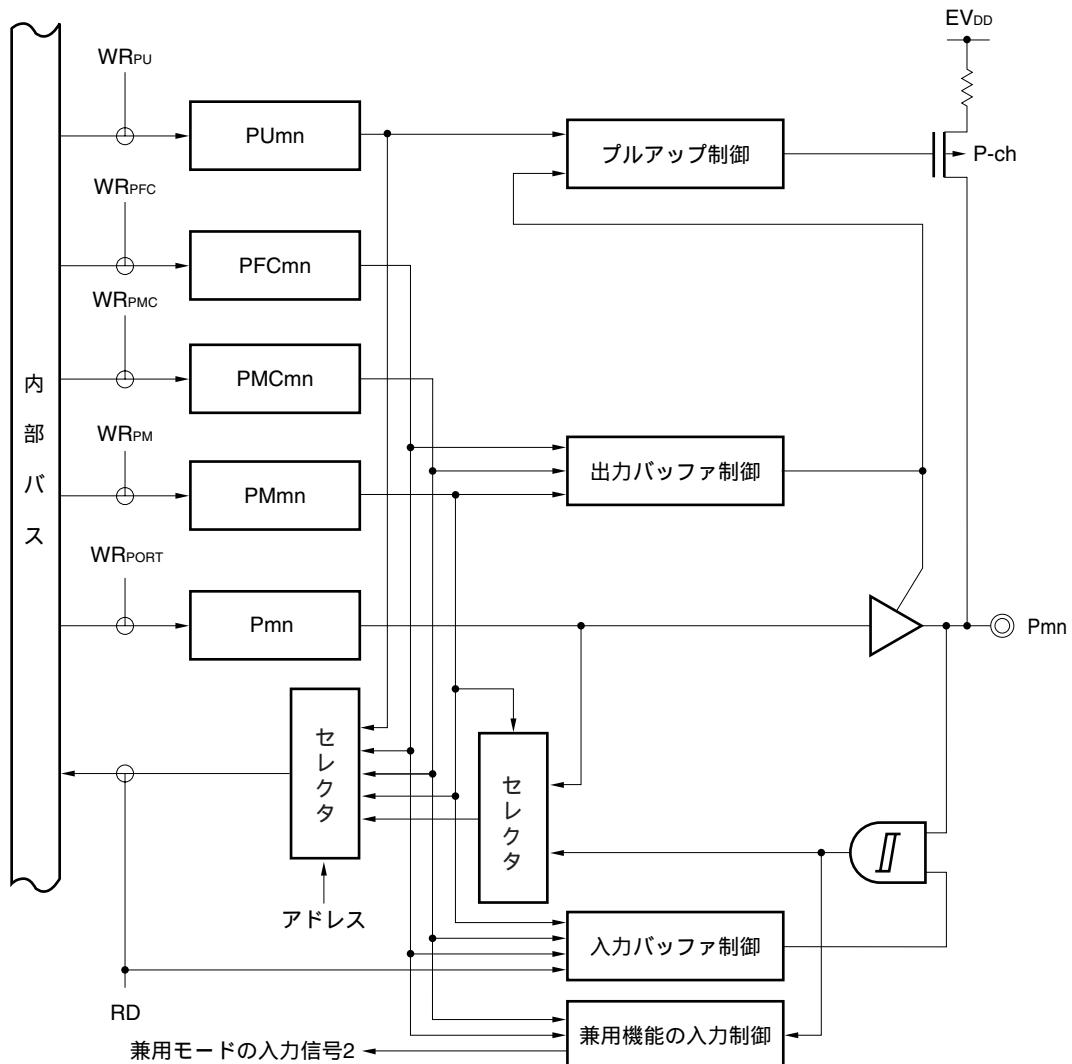
2.4.18 ポート・タイプEx0-U

図2-21 ポート・タイプEx0-Uのブロック図



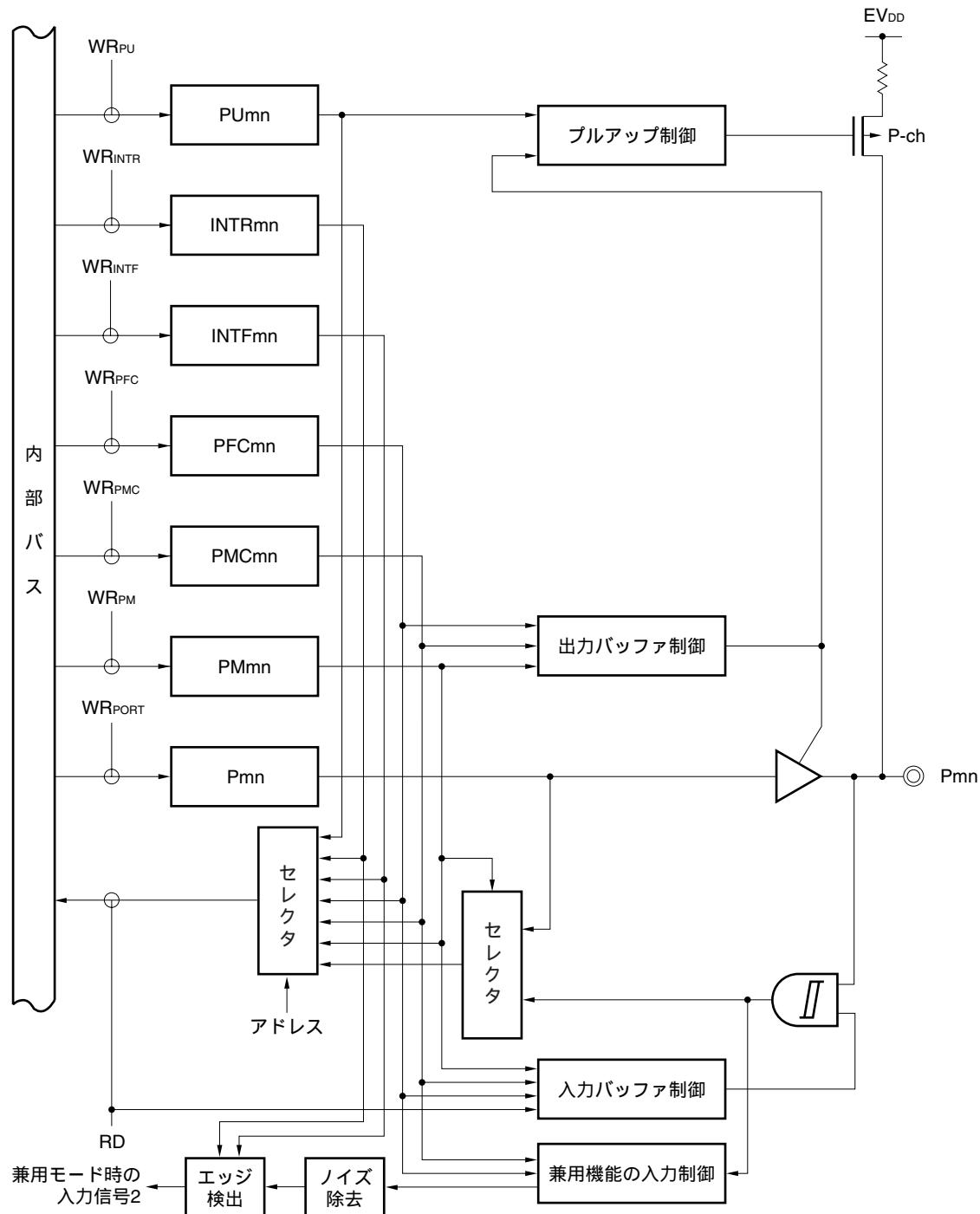
2.4.19 ポート・タイプEx1-U

図2-22 ポート・タイプEx1-Uのブロック図



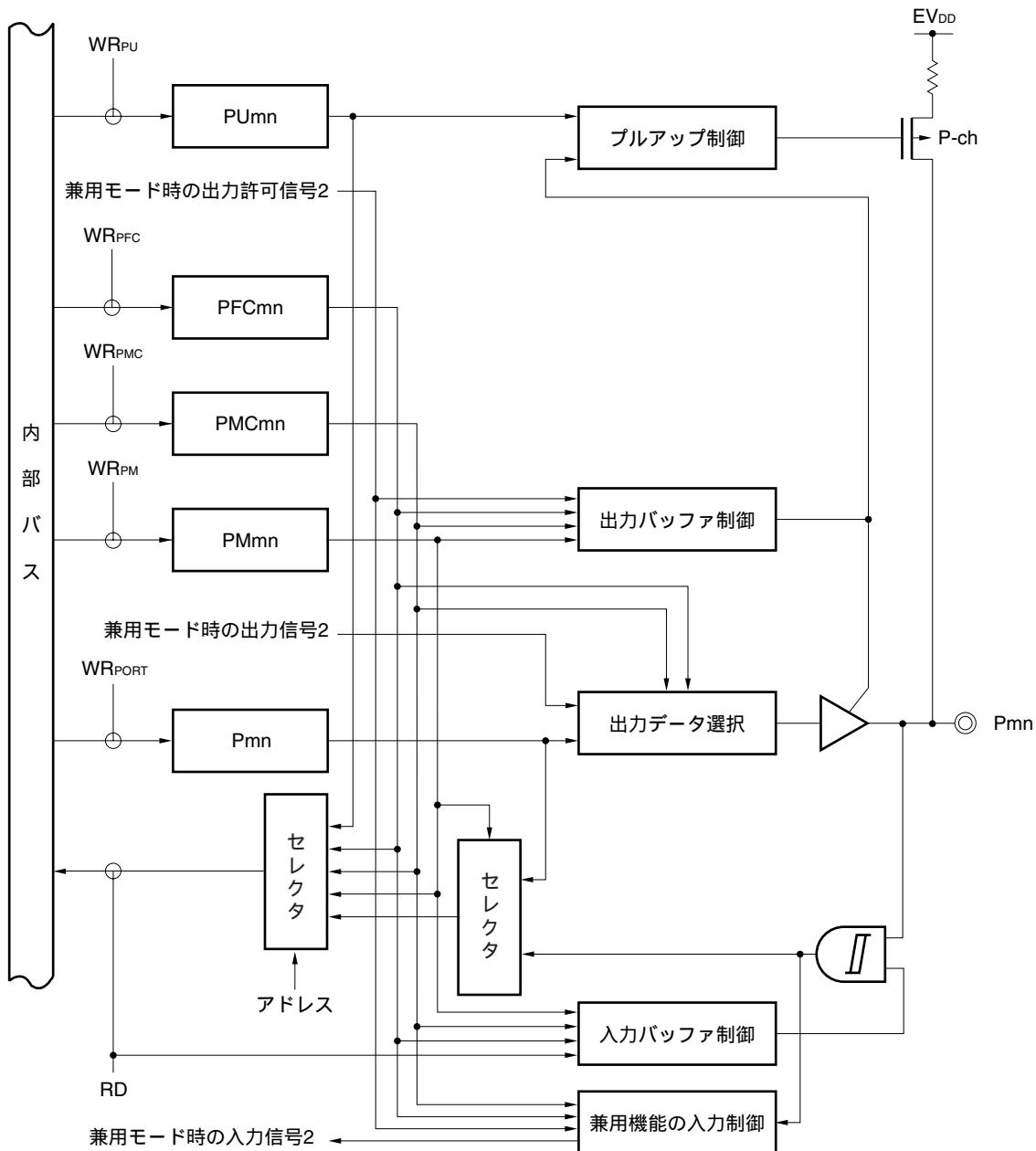
2.4.20 ポート・タイプEx1-UI

図2-23 ポート・タイプEx1-UIのブロック図



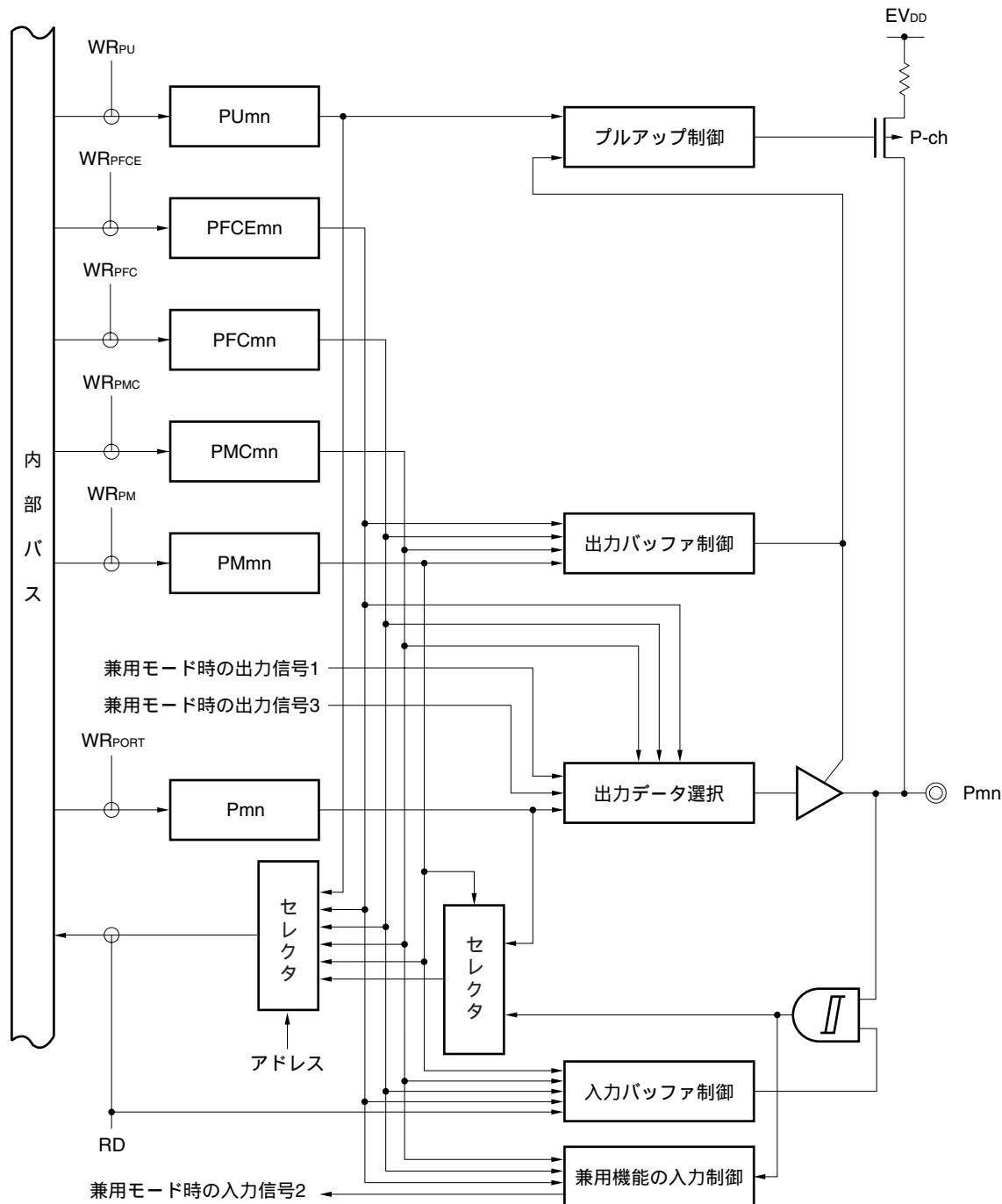
2.4.21 ポート・タイプEx2-U

図2-24 ポート・タイプEx2-Uのブロック図



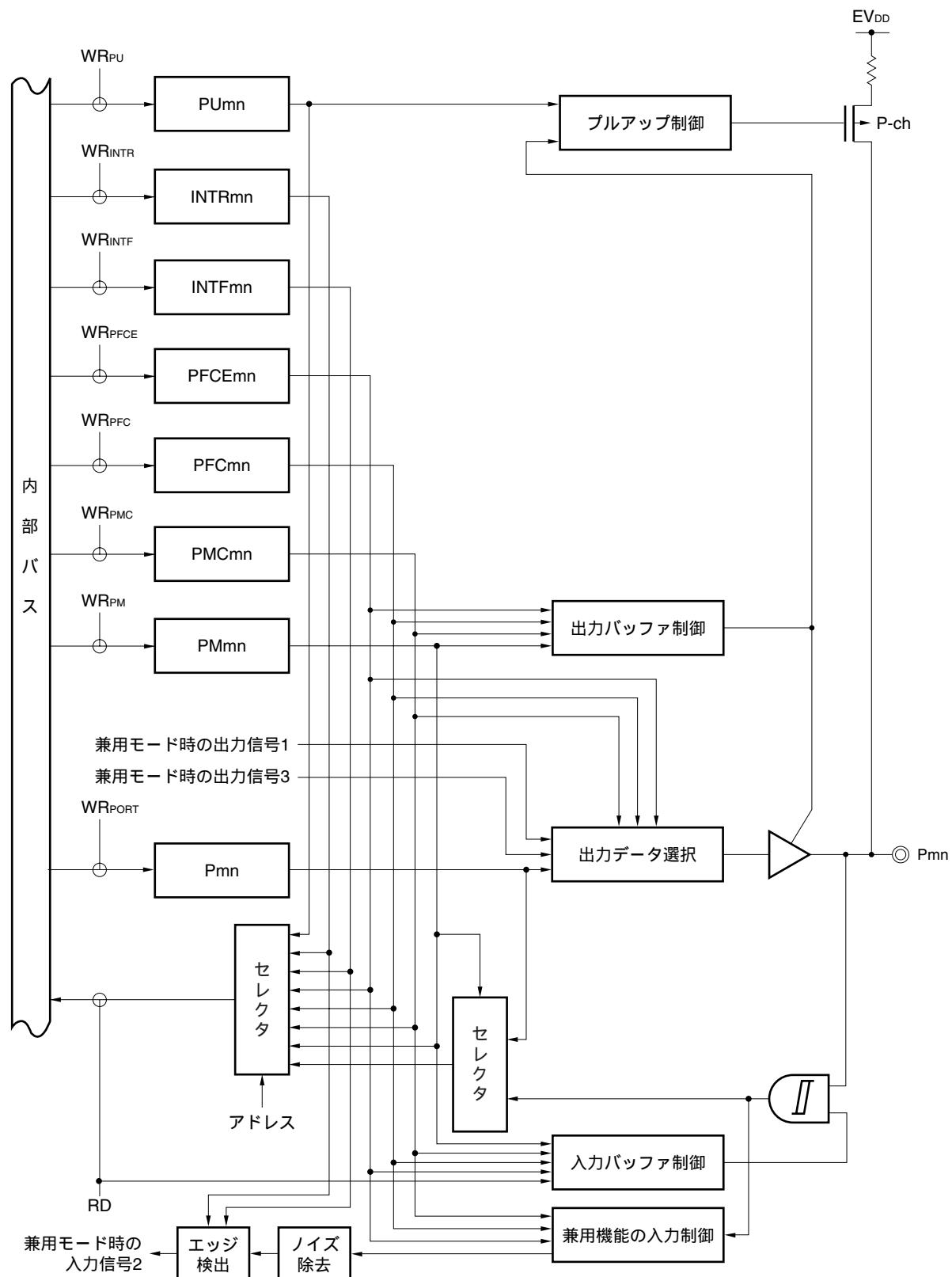
2.4.22 ポート・タイプF010x-U

図2-25 ポート・タイプF010x-Uのブロック図



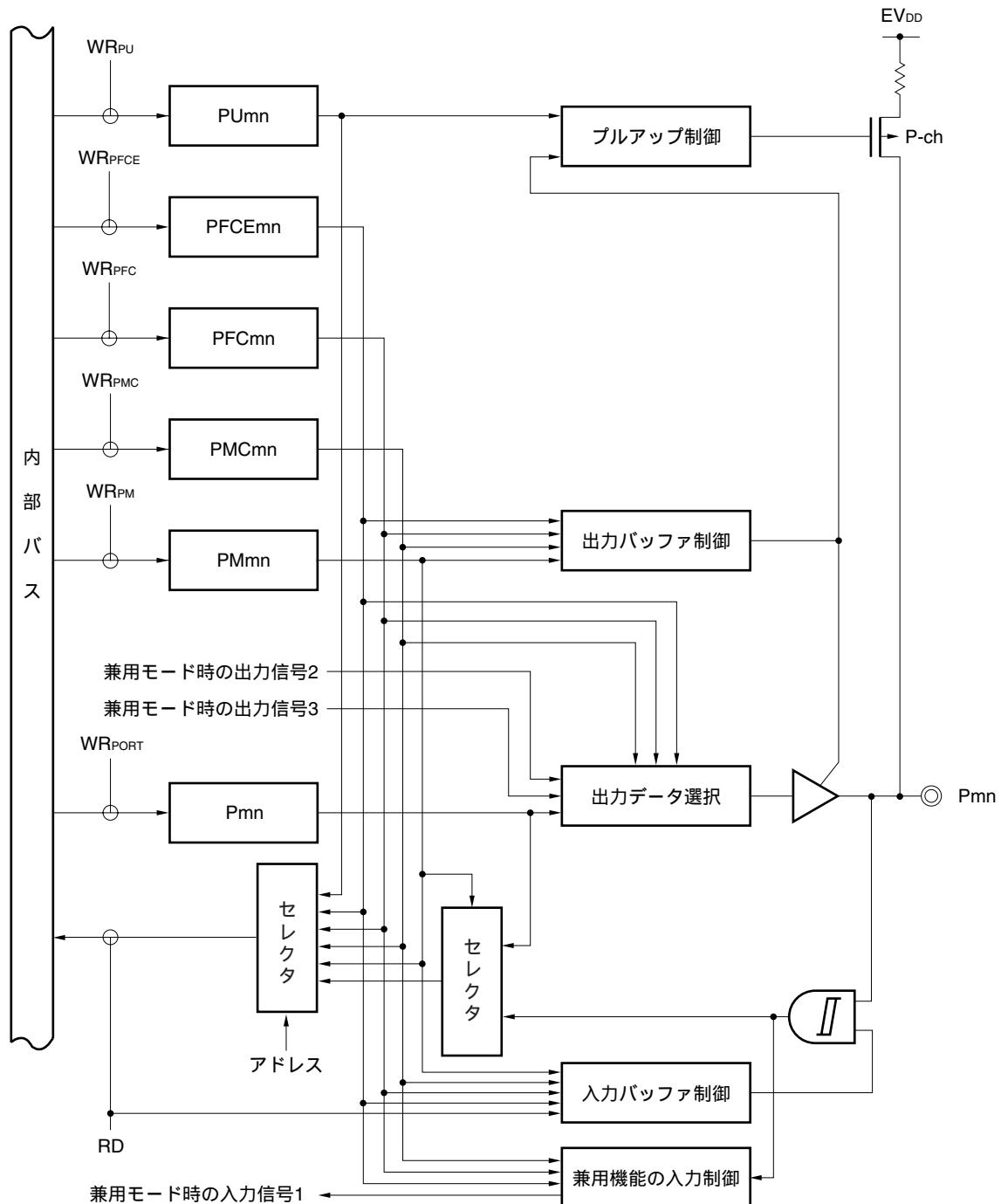
2.4.23 ポート・タイプF010x-UI

図2-26 ポート・タイプF010x-UIのブロック図



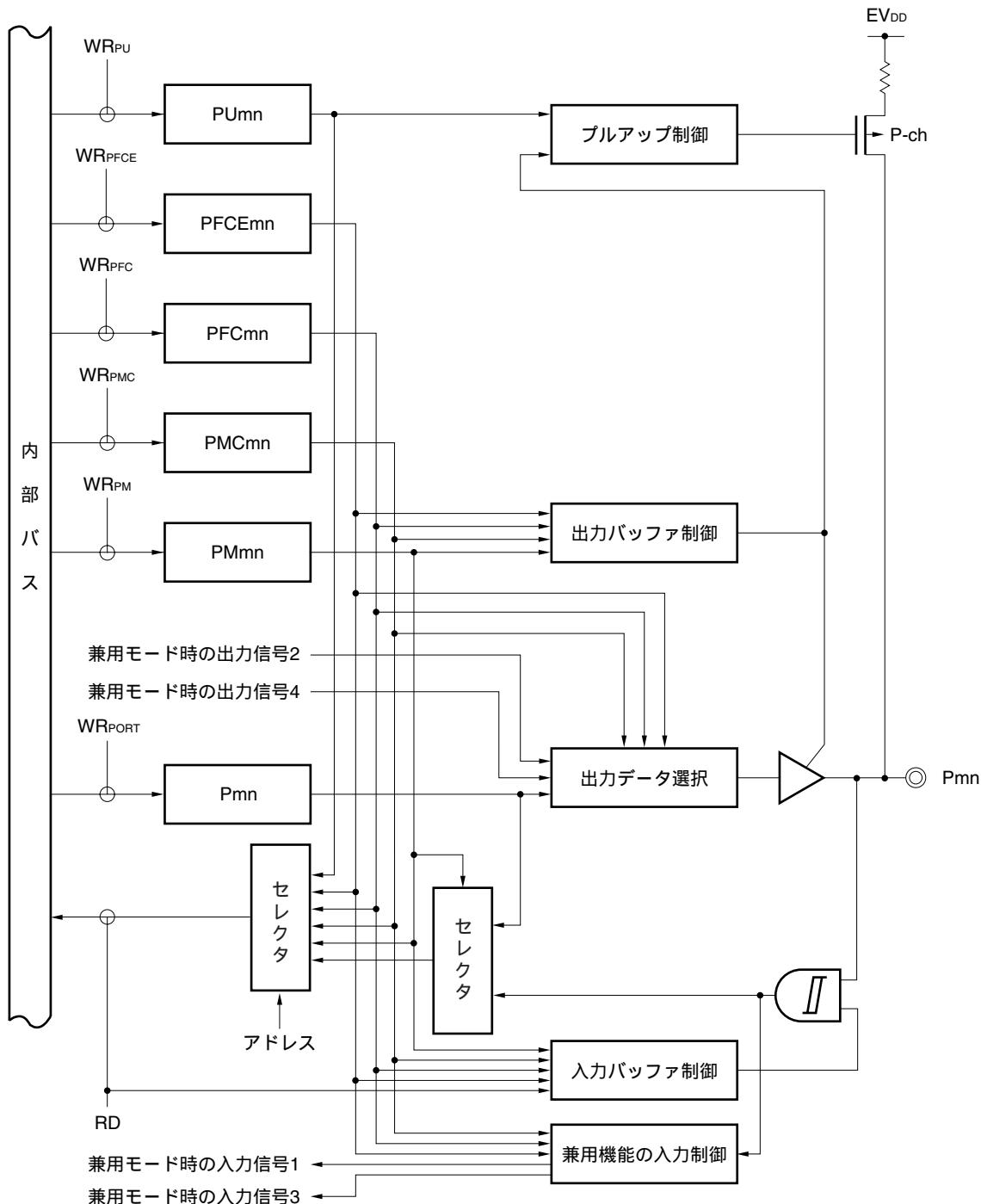
2.4.24 ポート・タイプF100x-U

図2-27 ポート・タイプF100x-Uのブロック図



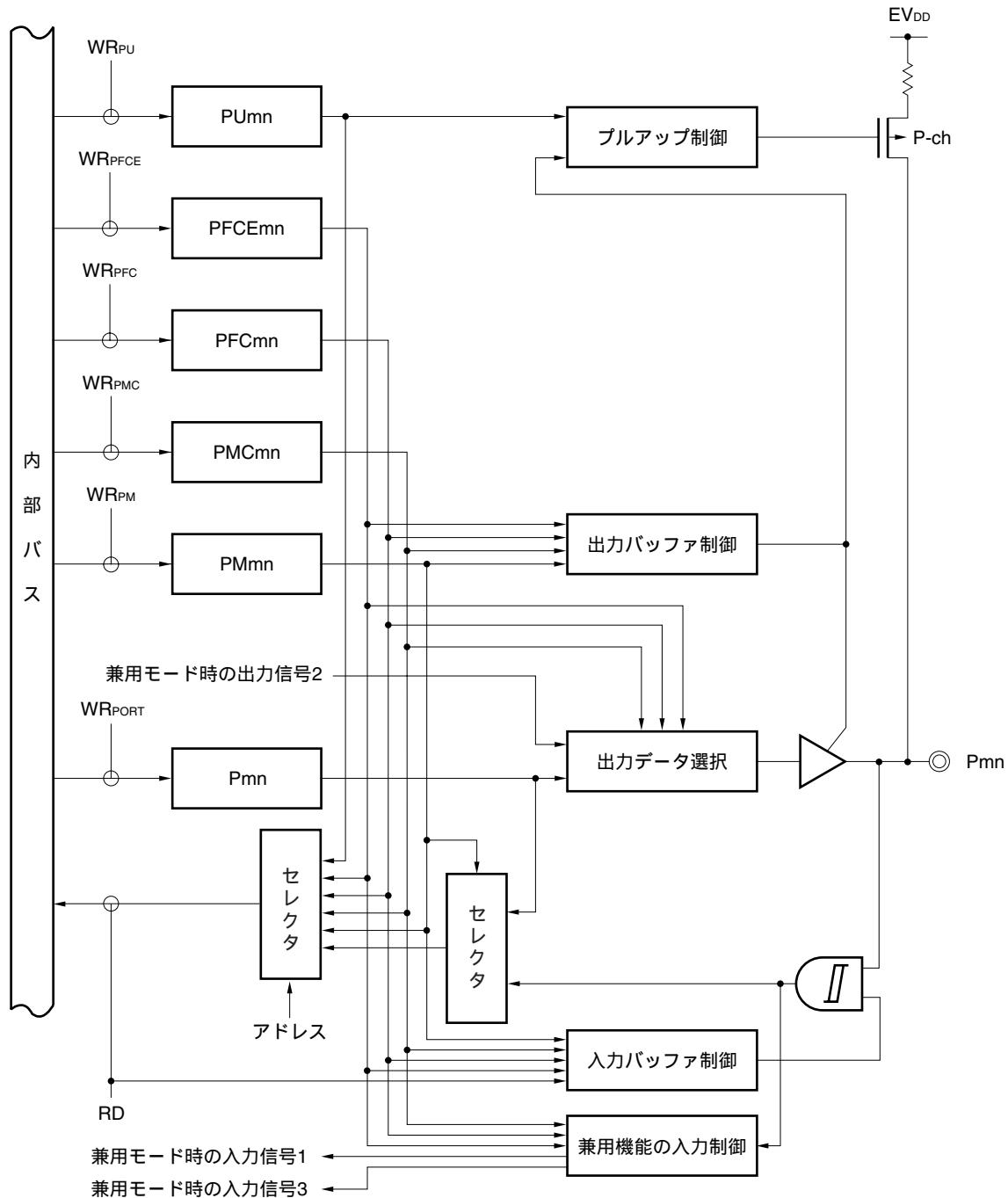
2.4.25 ポート・タイプF1010-U

図2-28 ポート・タイプF1010-Uのブロック図



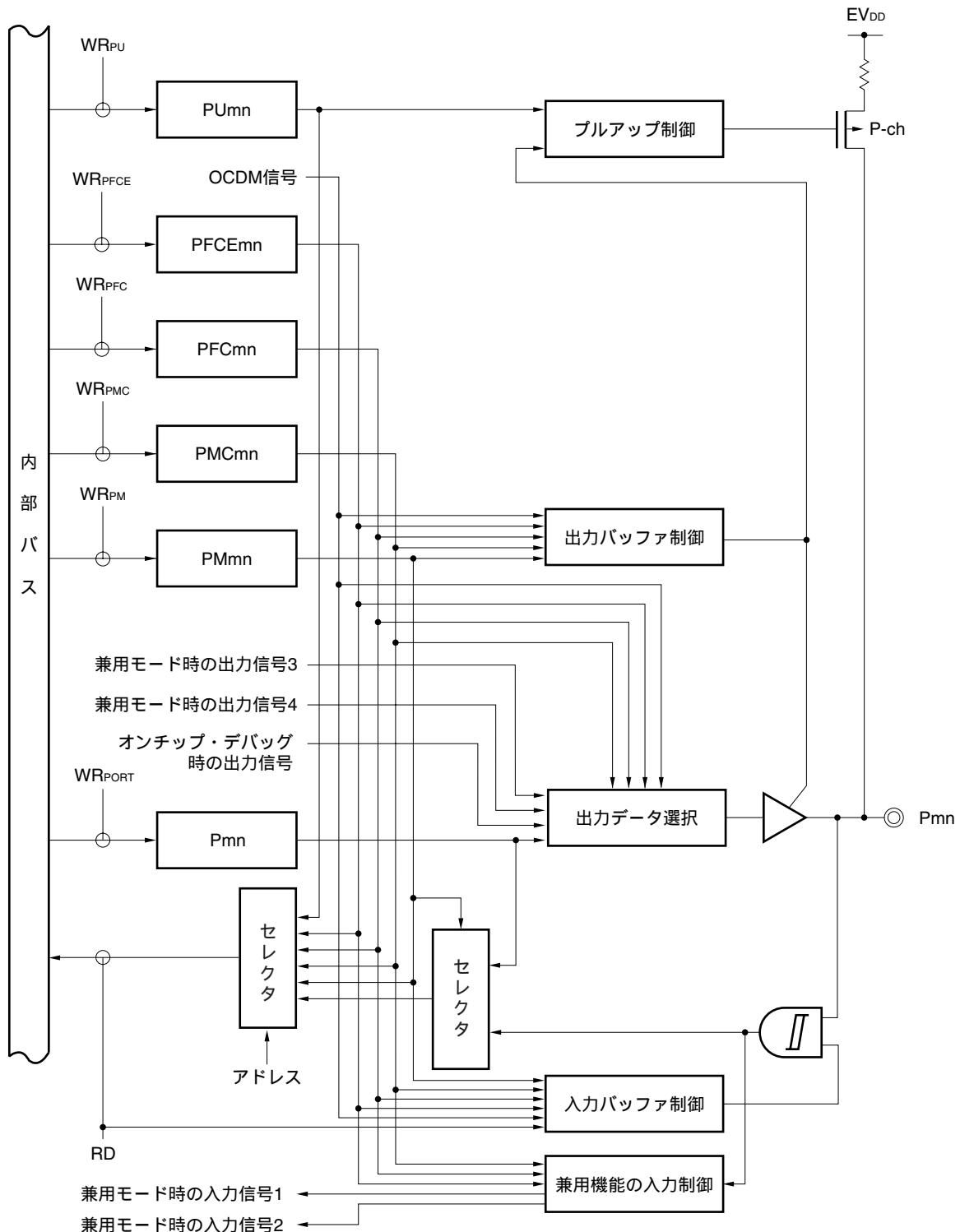
2.4.26 ポート・タイプF101x-U

図2-29 ポート・タイプF101x-Uのブロック図



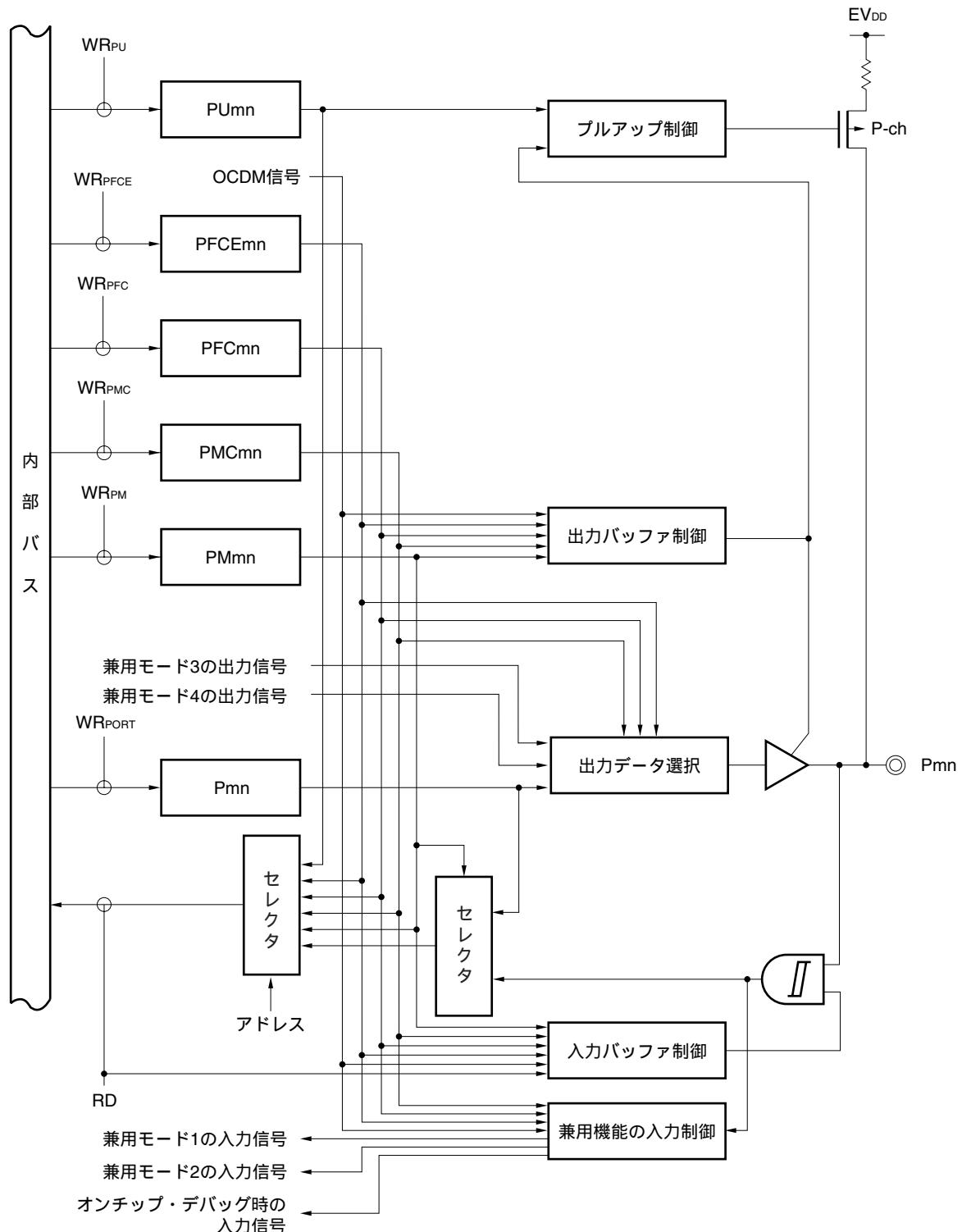
2.4.27 ポート・タイプF1100O0-U

図2-30 ポート・タイプF1100O0-Uのブロック図



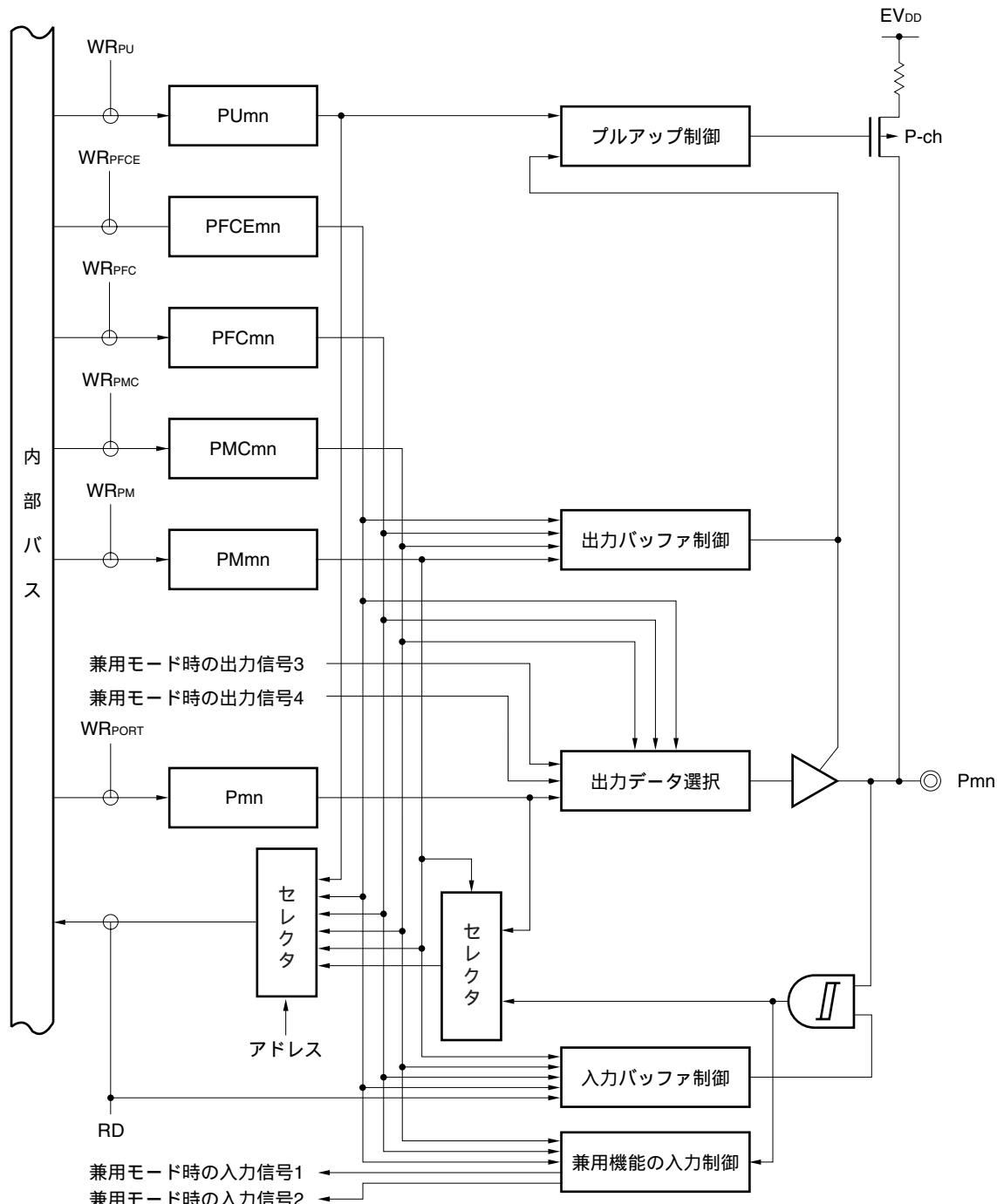
2.4.28 ポート・タイプF1100O1-U

図2-31 ポート・タイプF1100O1-Uのブロック図



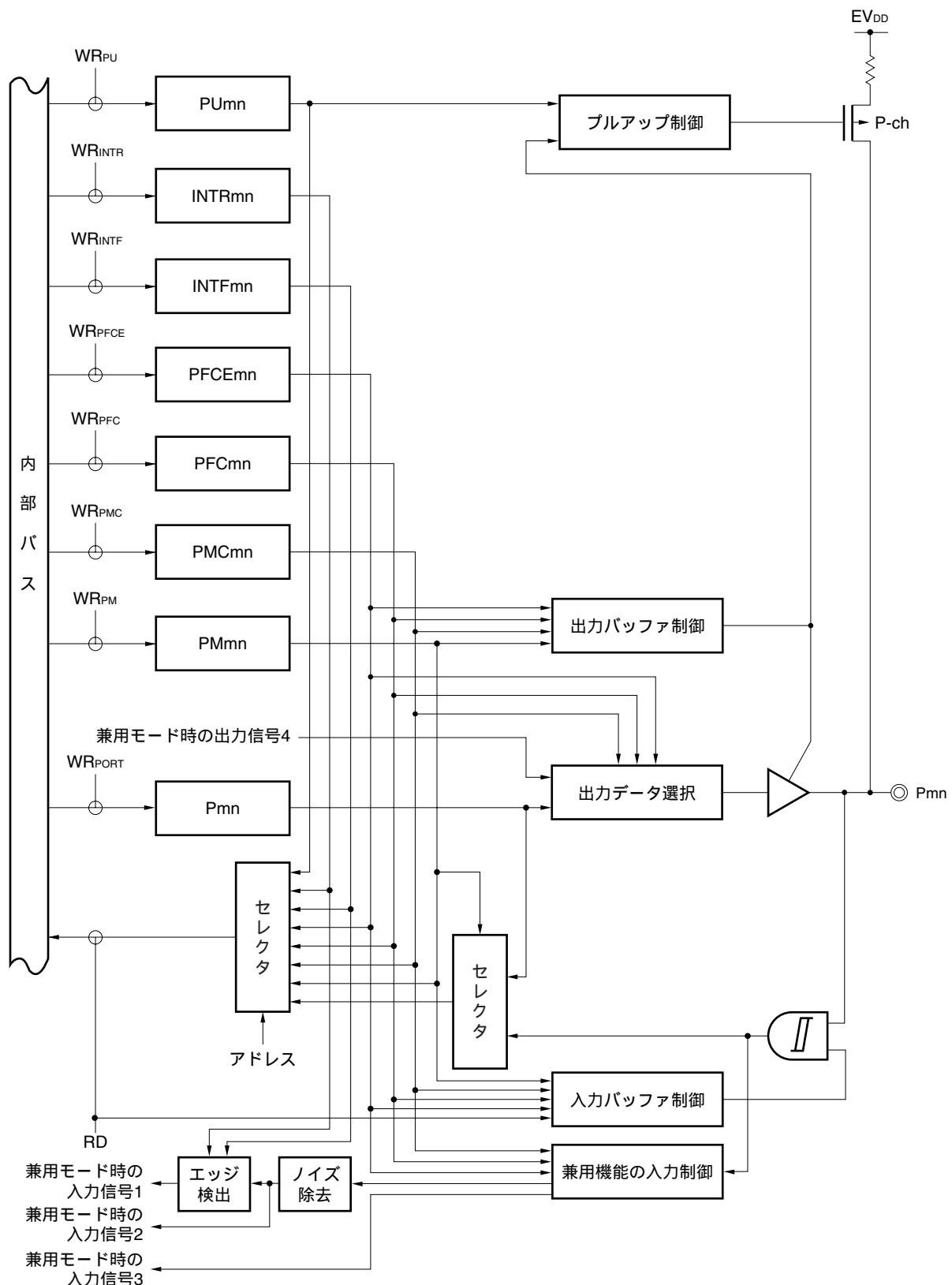
2.4.29 ポート・タイプF1100-U

図2-32 ポート・タイプF1100-Uのブロック図



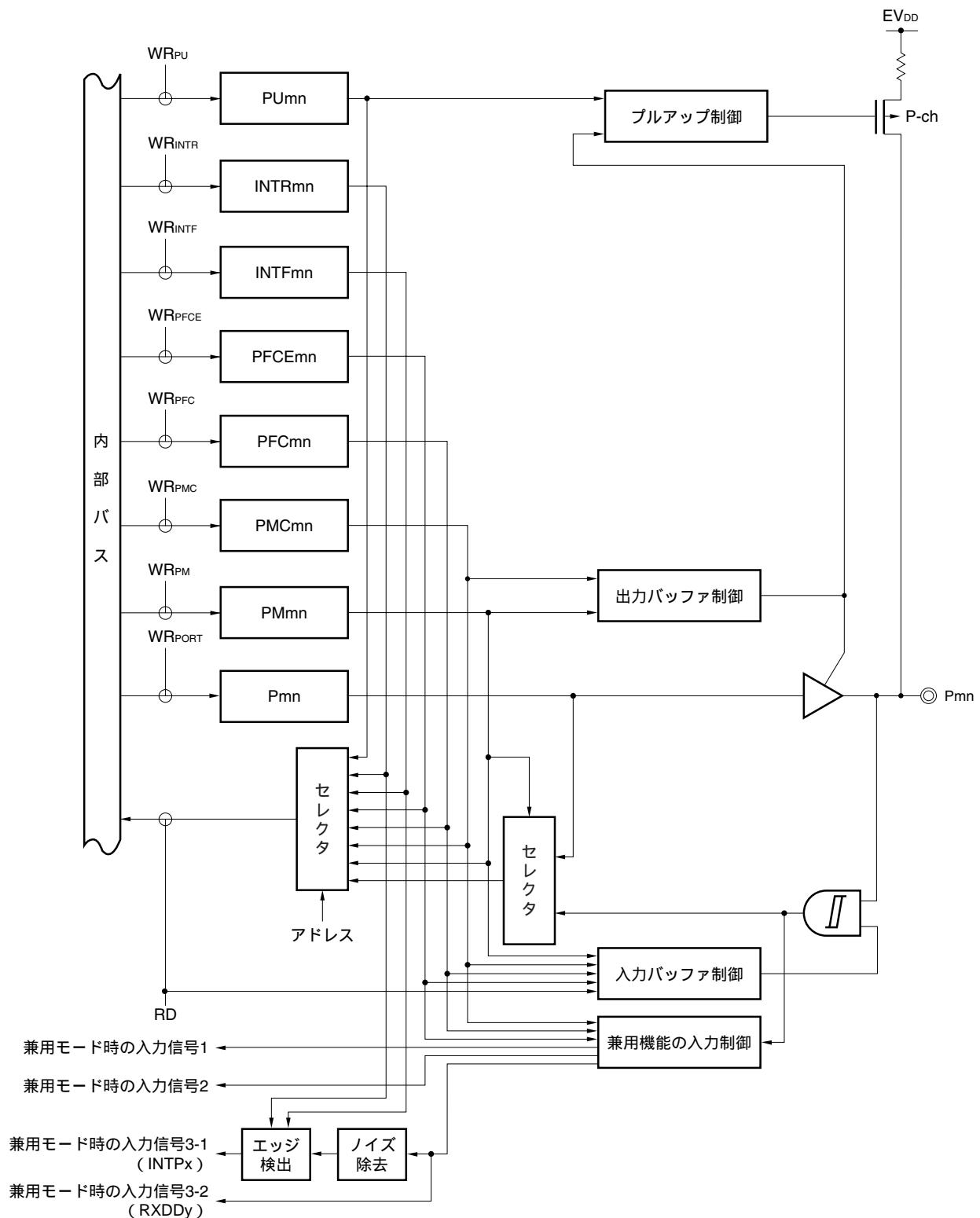
2.4.30 ポート・タイプF1110-UI

図2-33 ポート・タイプF1110-UIのブロック図



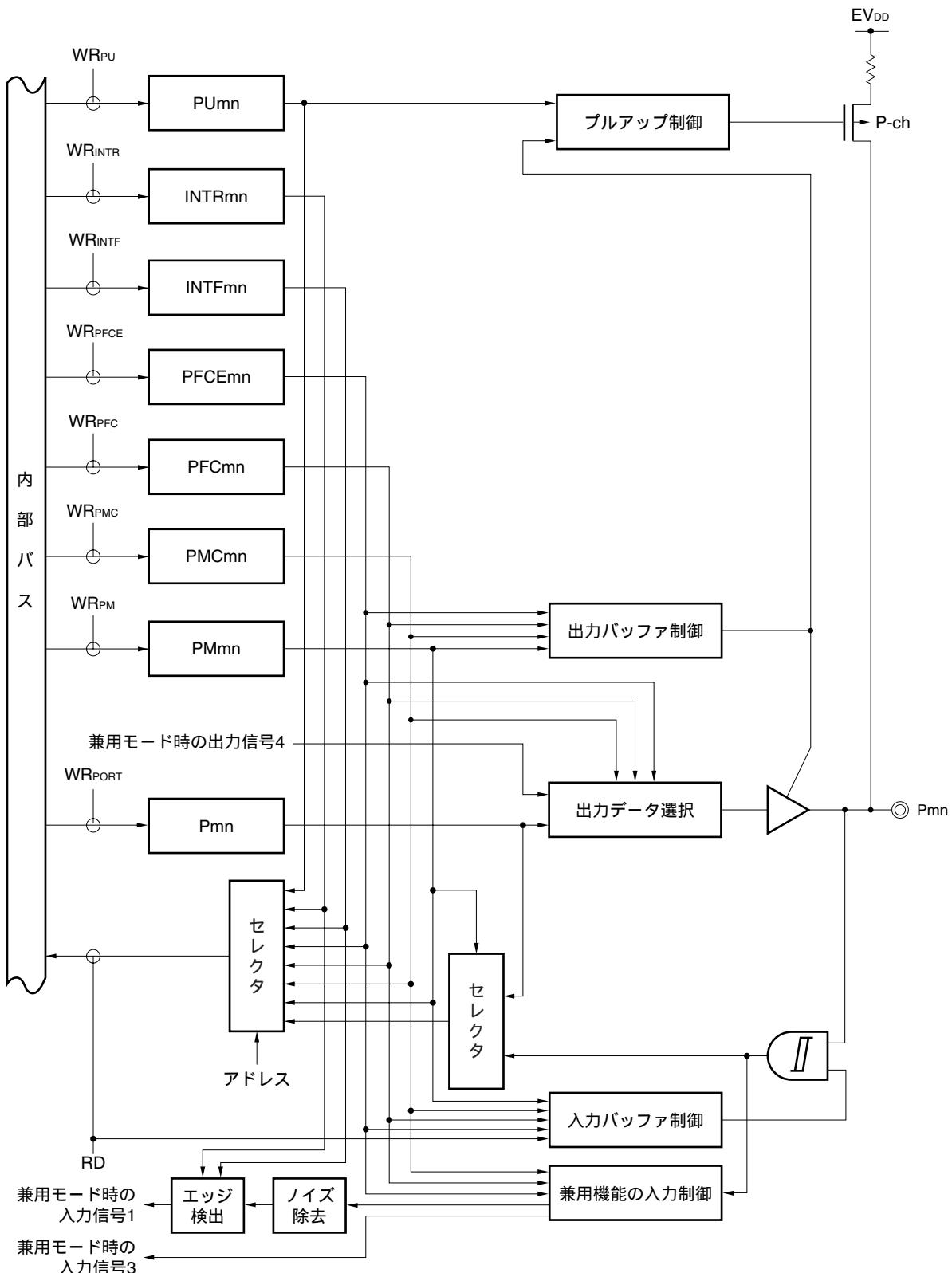
2.4.31 ポート・タイプF113x-UI

図2-34 ポート・タイプF113x-UIのブロック図



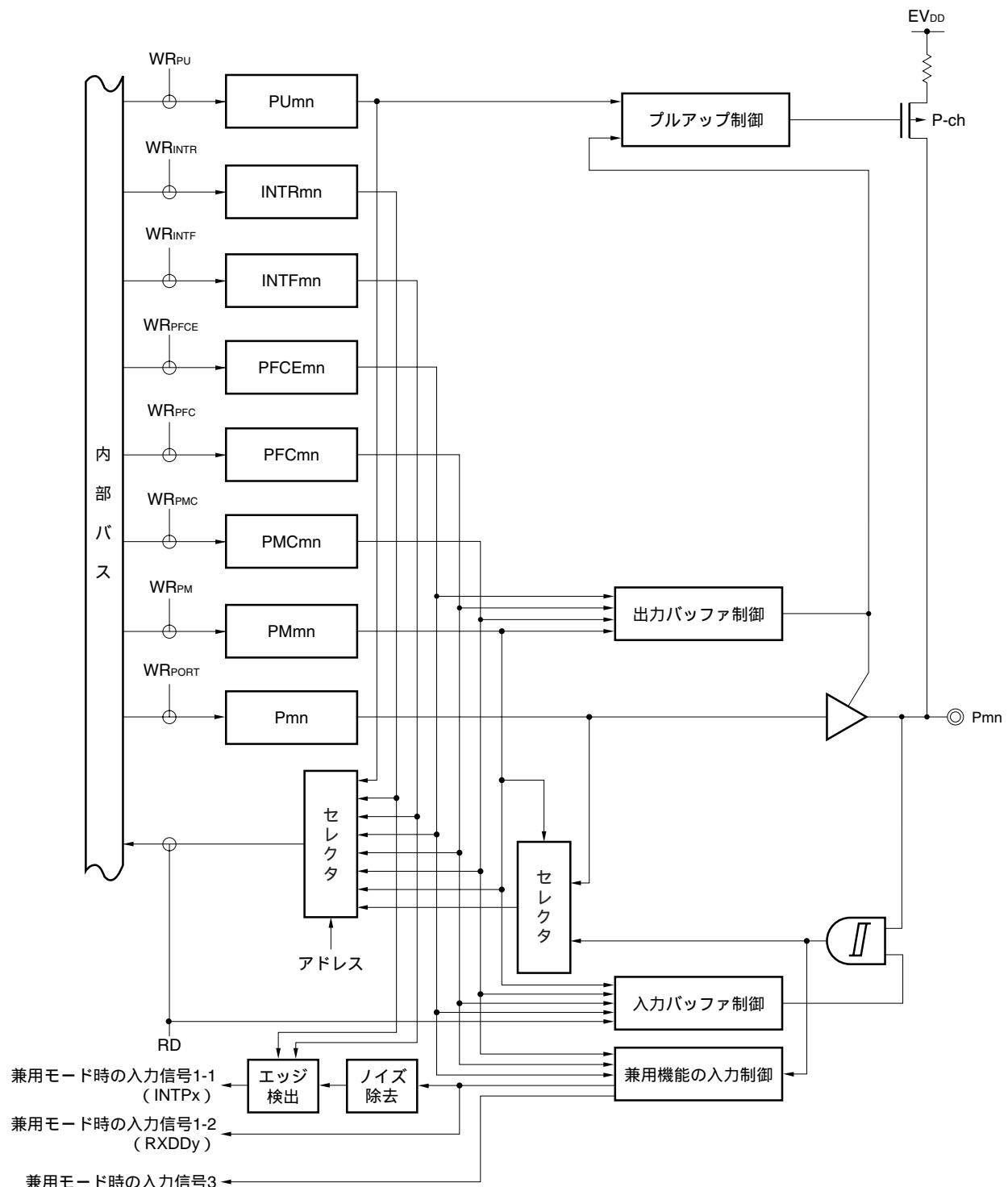
2.4.32 ポート・タイプF1x10-UI

図2-35 ポート・タイプF1x10-UIのブロック図



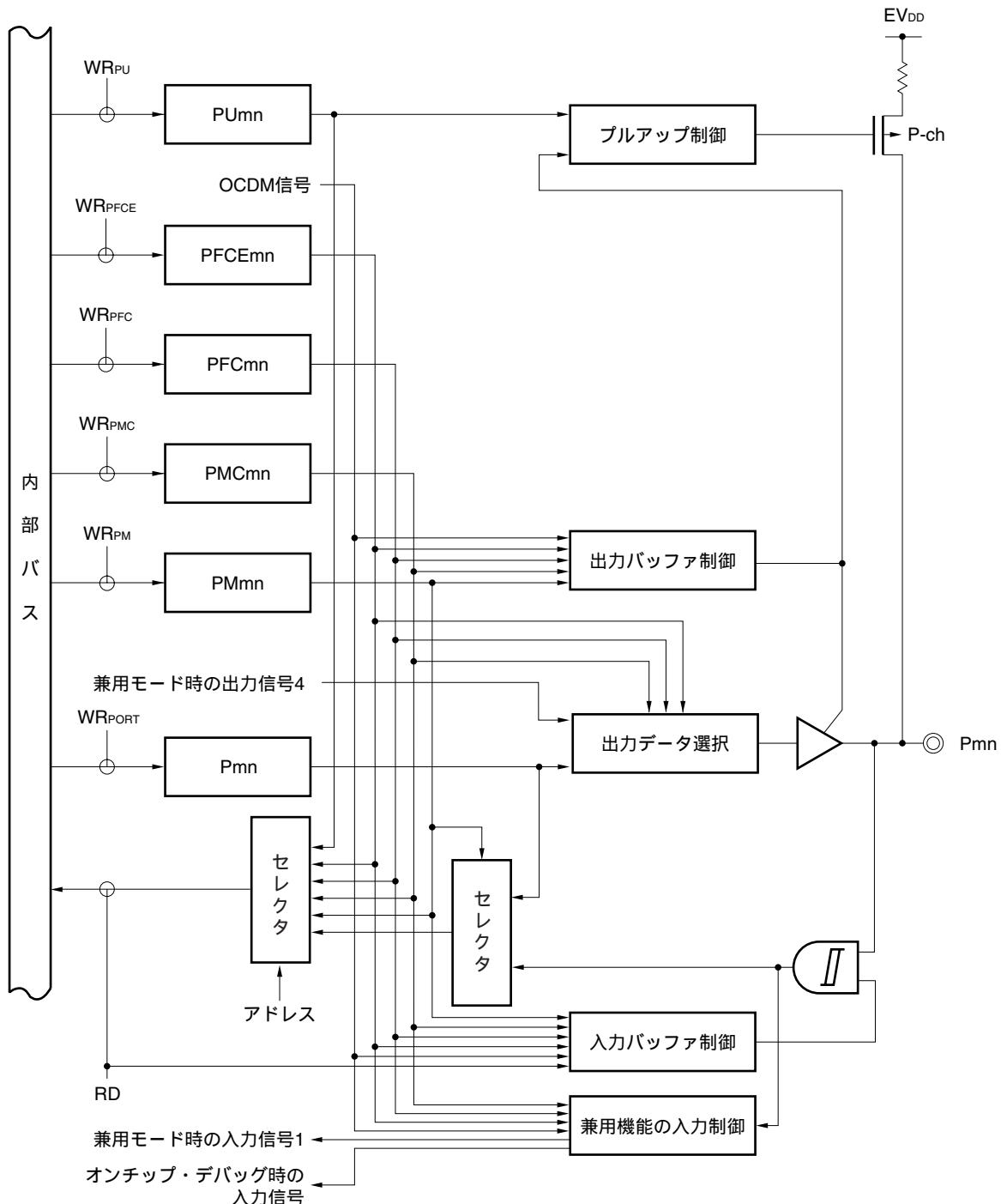
2.4.33 ポート・タイプF3x1x-UI

図2-36 ポート・タイプF3x1x-UIのブロック図



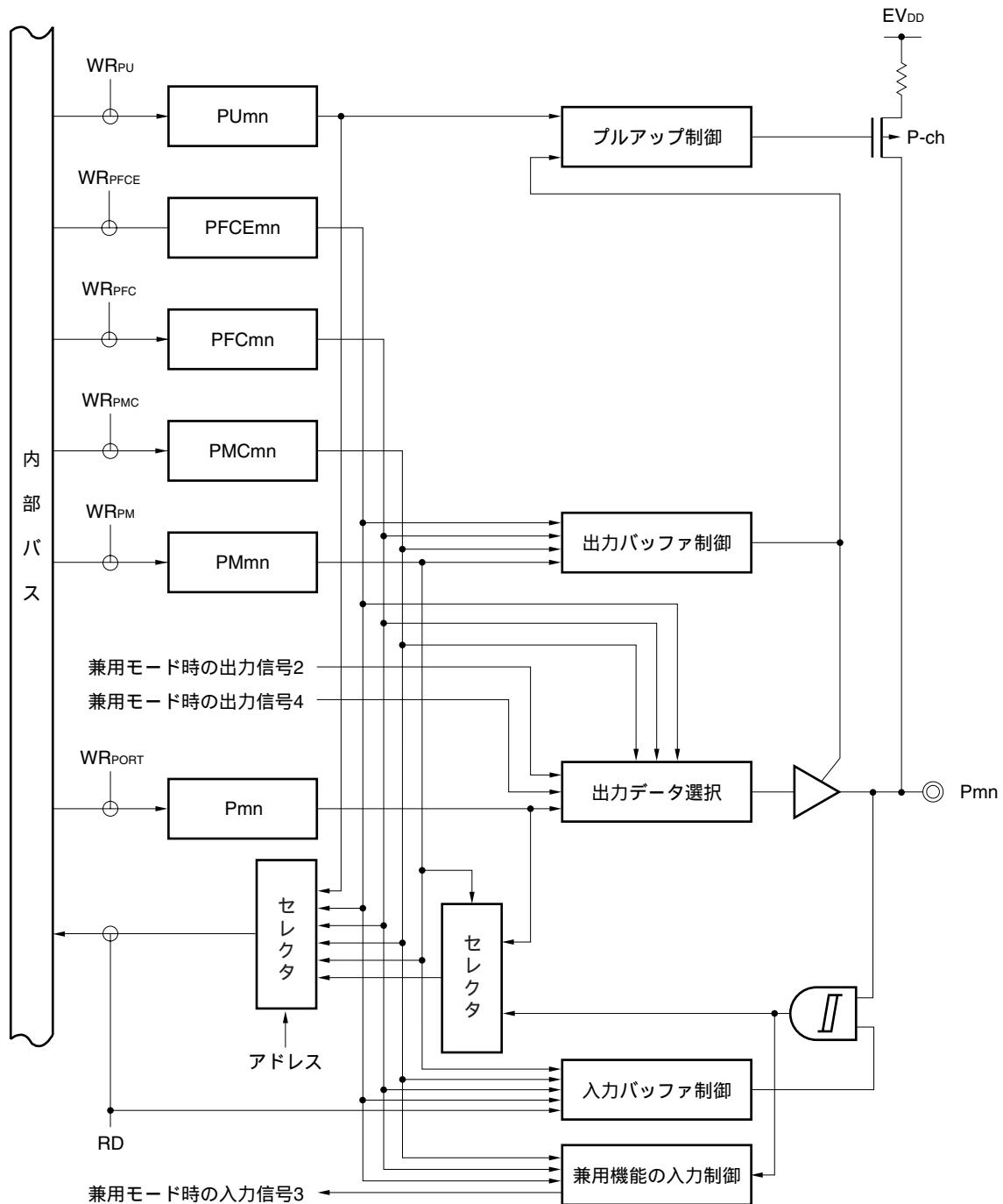
2.4.34 ポート・タイプF1xx0O1-U

図2-37 ポート・タイプF1xx0O1-Uのブロック図



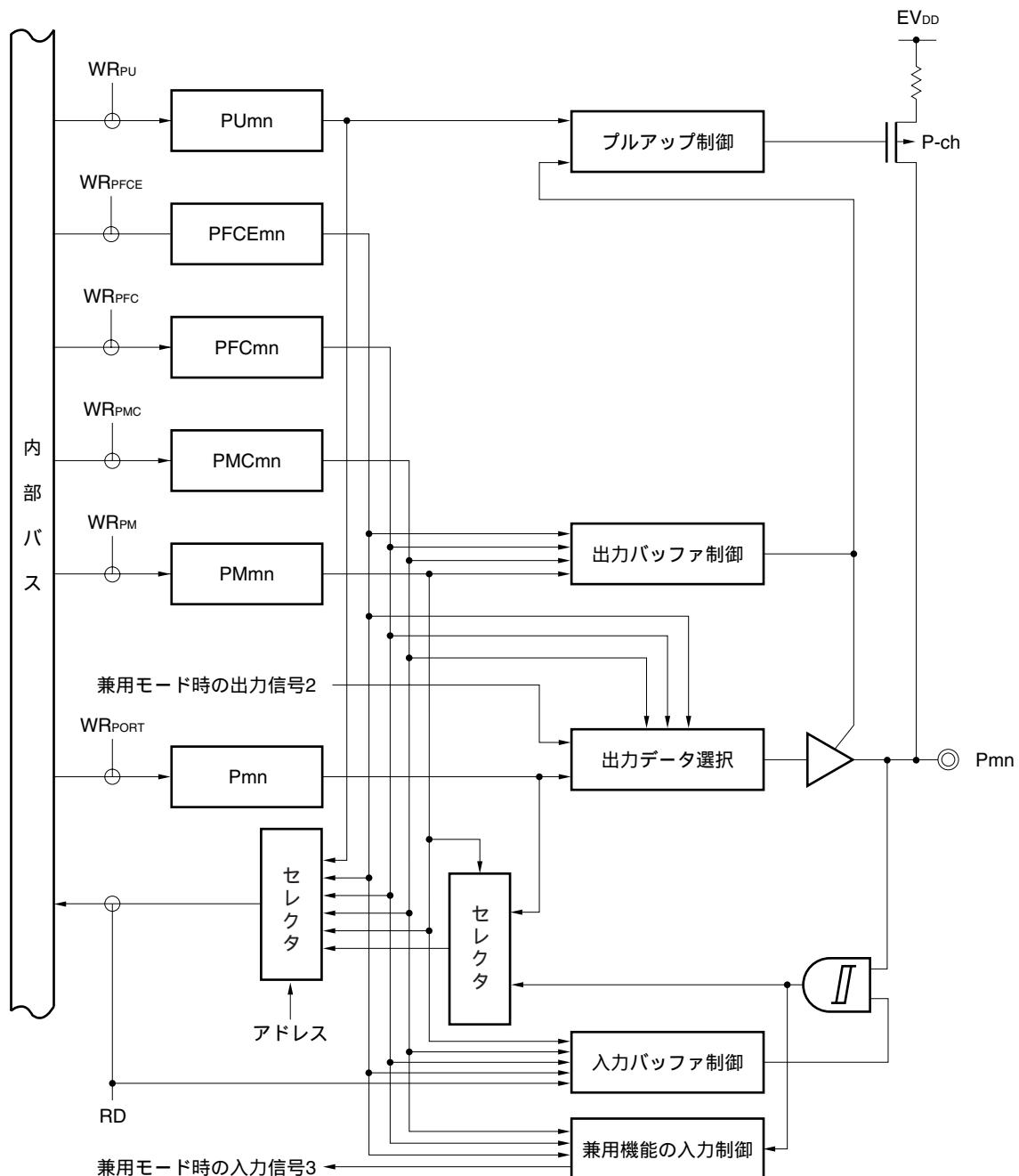
2.4.35 ポート・タイプFx010-U

図2-38 ポート・タイプFx010-Uのブロック図



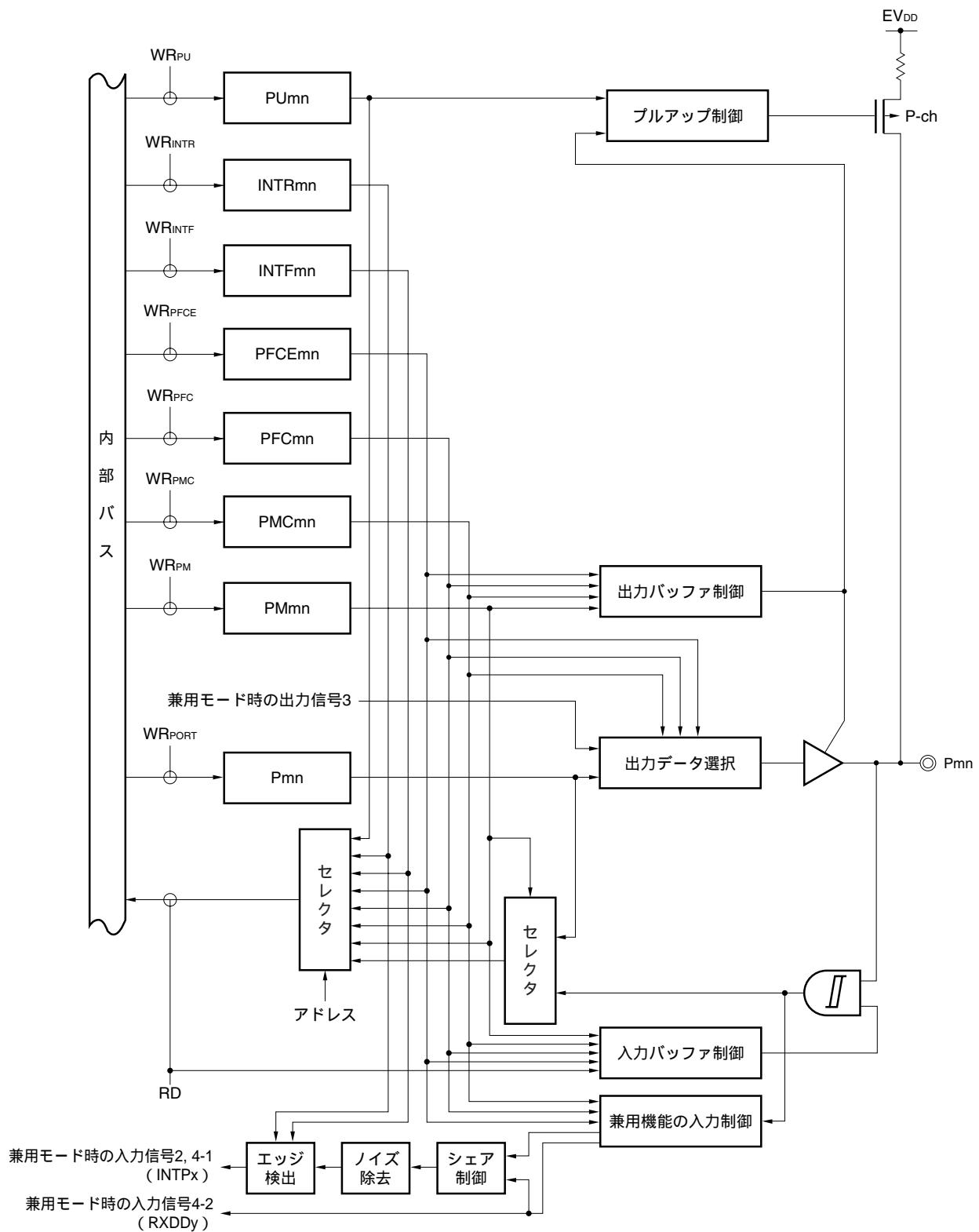
2.4.36 ポート・タイプFx01x-U

図2-39 ポート・タイプFx01x-Uのブロック図



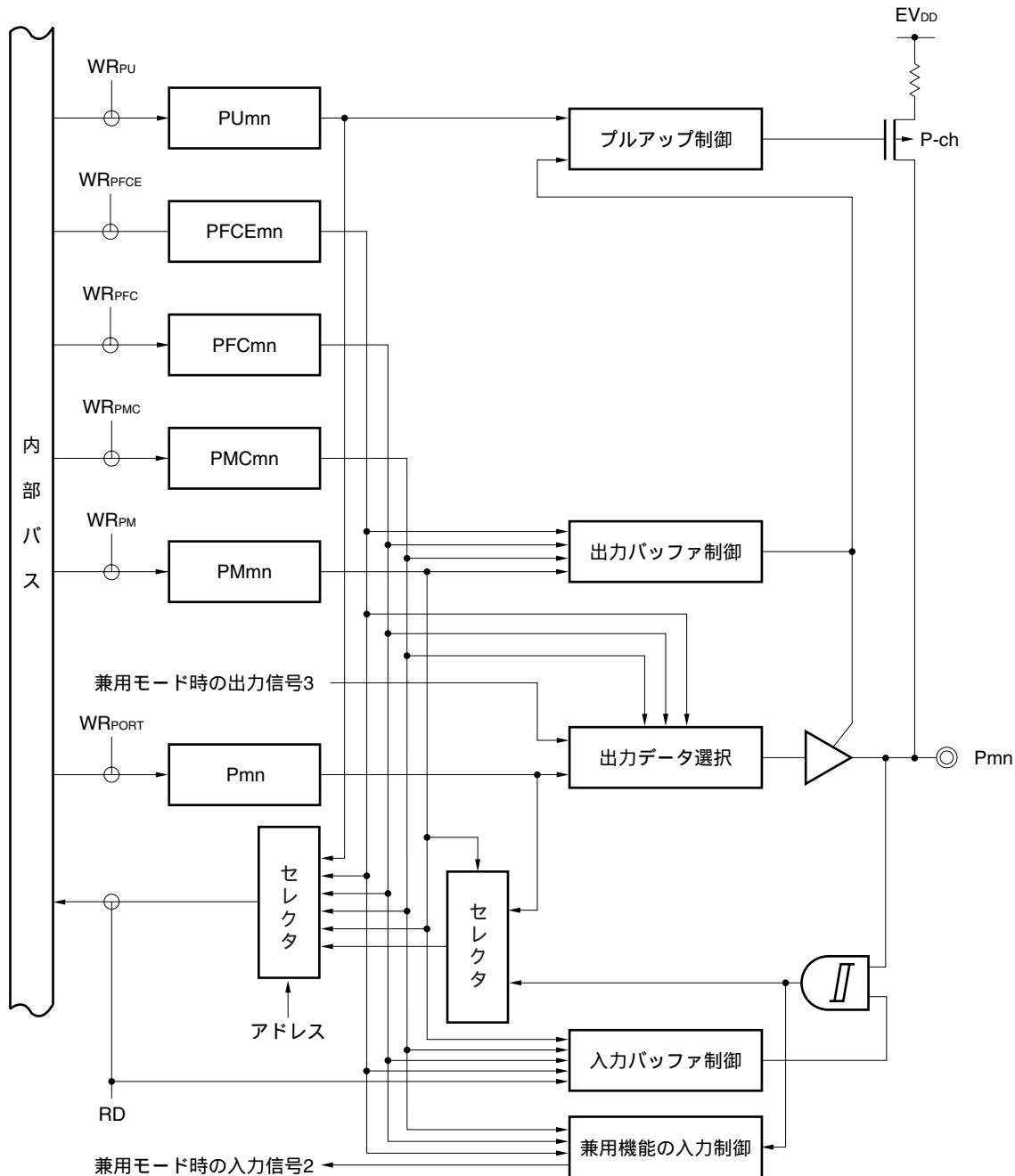
2.4.37 ポート・タイプFx103-UI

図2-40 ポート・タイプFx103-UIのブロック図



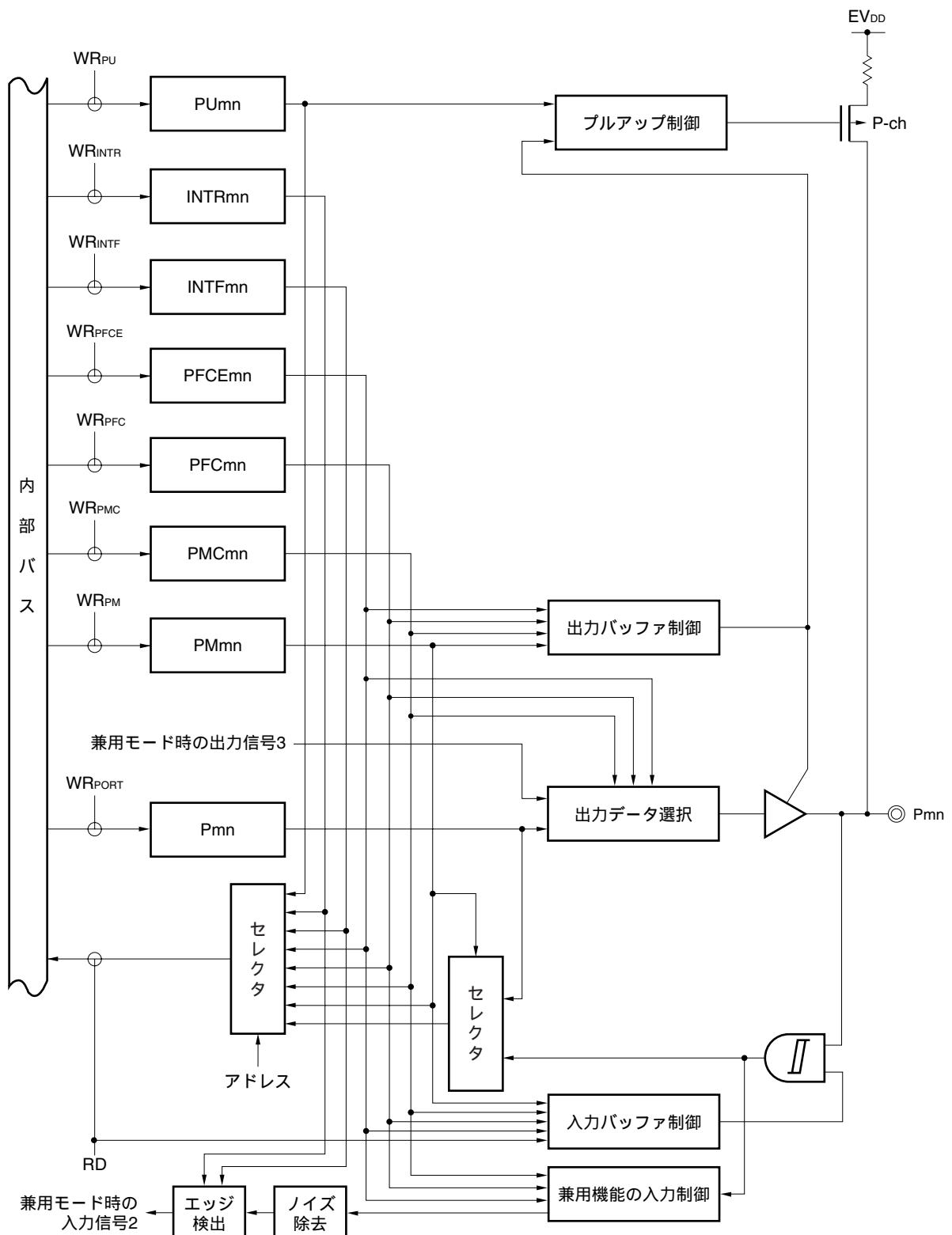
2.4.38 ポート・タイプFx10x-U

図2-41 ポート・タイプFx10x-Uのブロック図



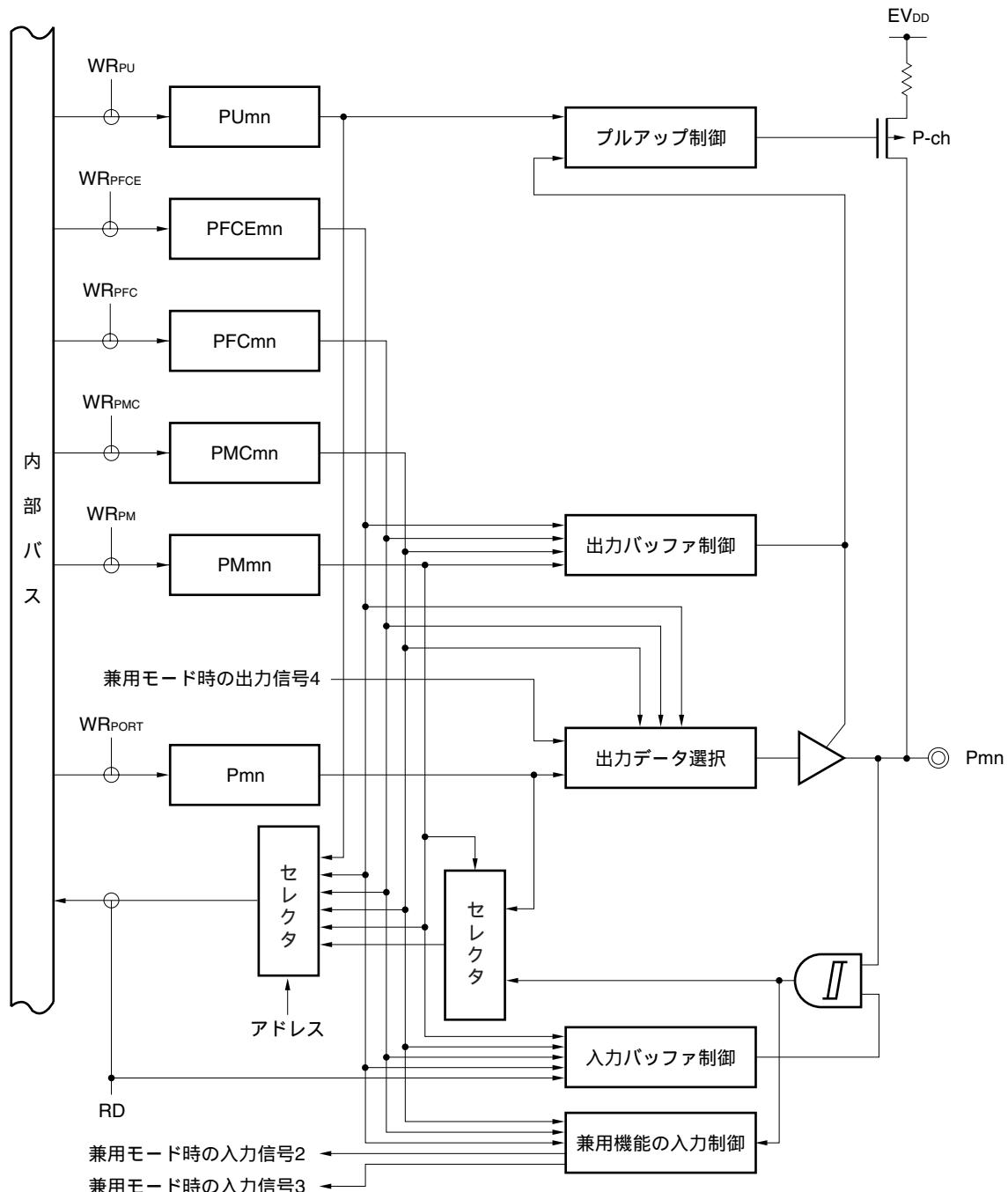
2.4.39 ポート・タイプFx10x-UI

図2-42 ポート・タイプFx10x-UIのブロック図



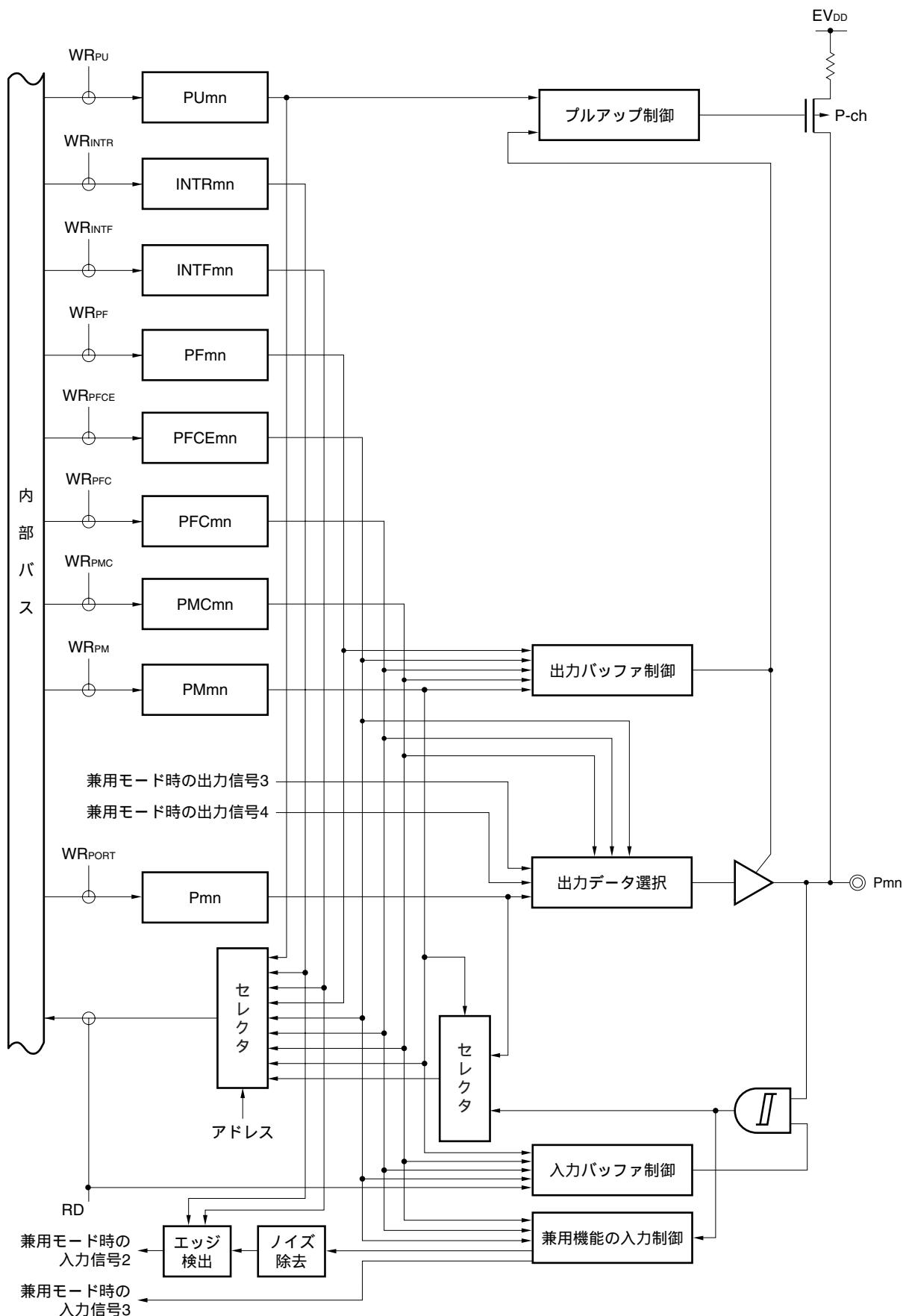
2.4.40 ポート・タイプFx110-U

図2-43 ポート・タイプFx110-Uのブロック図



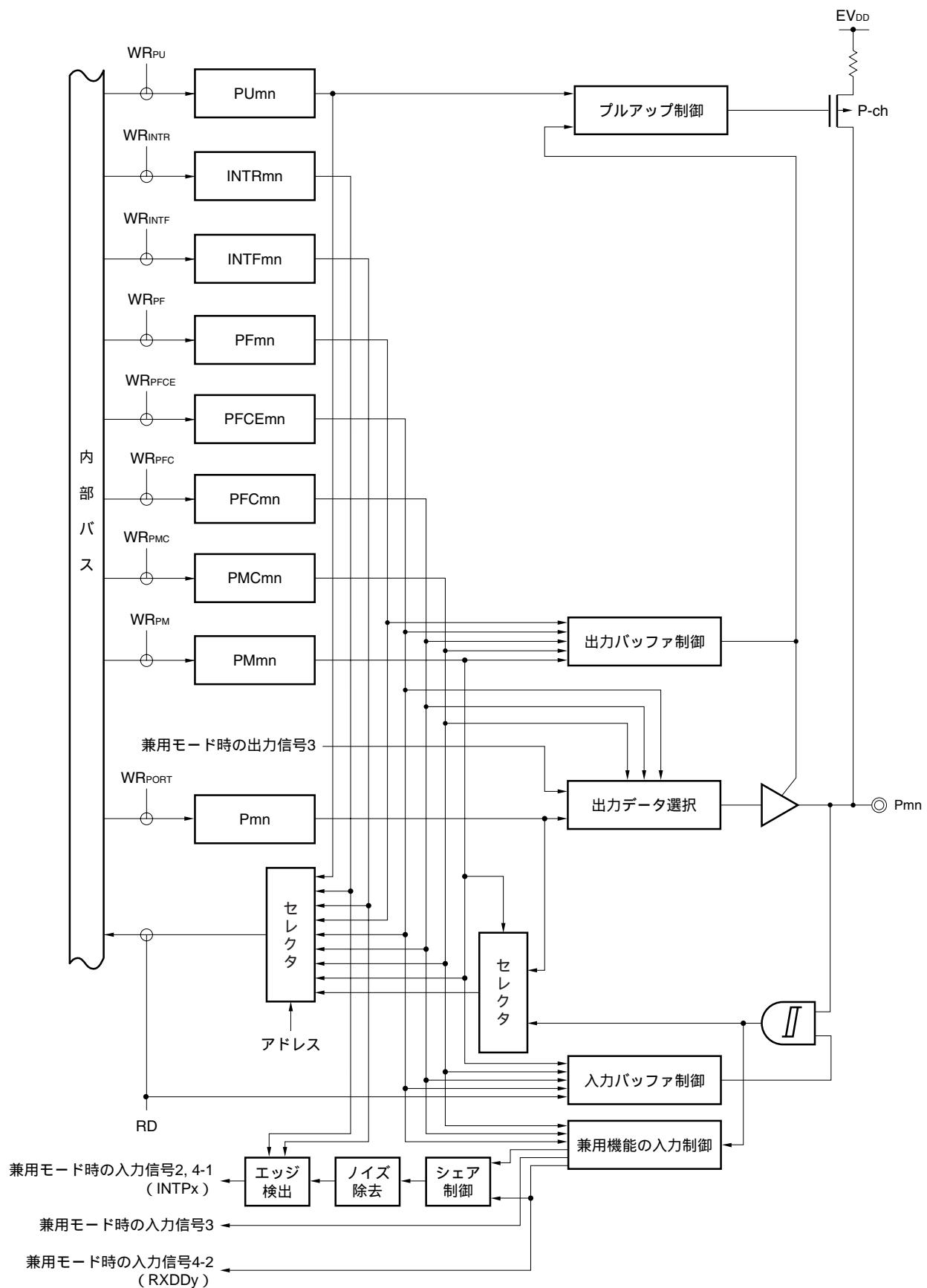
2.4.41 ポート・タイプFx120-UFI

図2-44 ポート・タイプFx120-UFIのブロック図



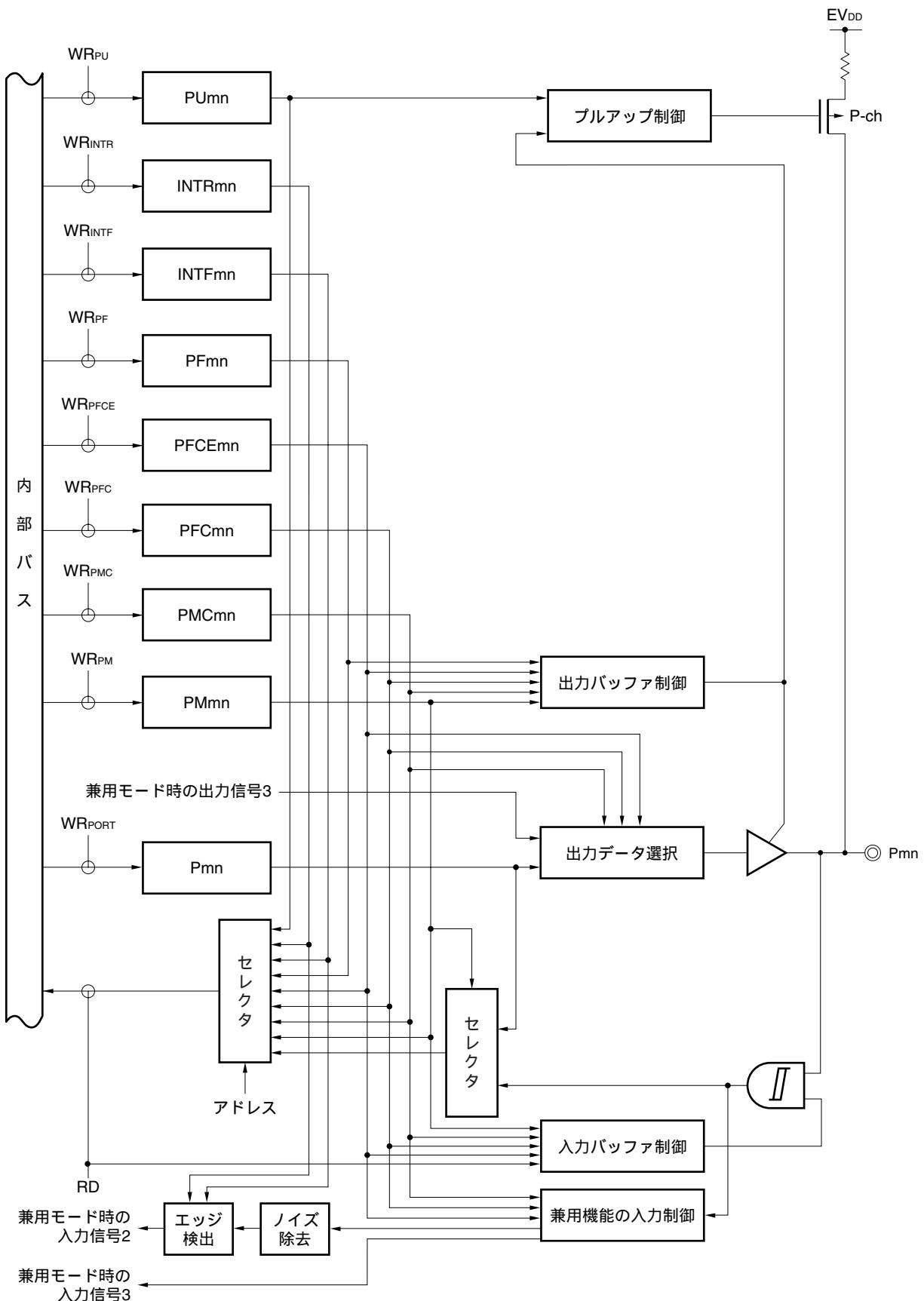
2.4.42 ポート・タイプFx123-UFI

図2-45 ポート・タイプFx123-UFIのブロック図



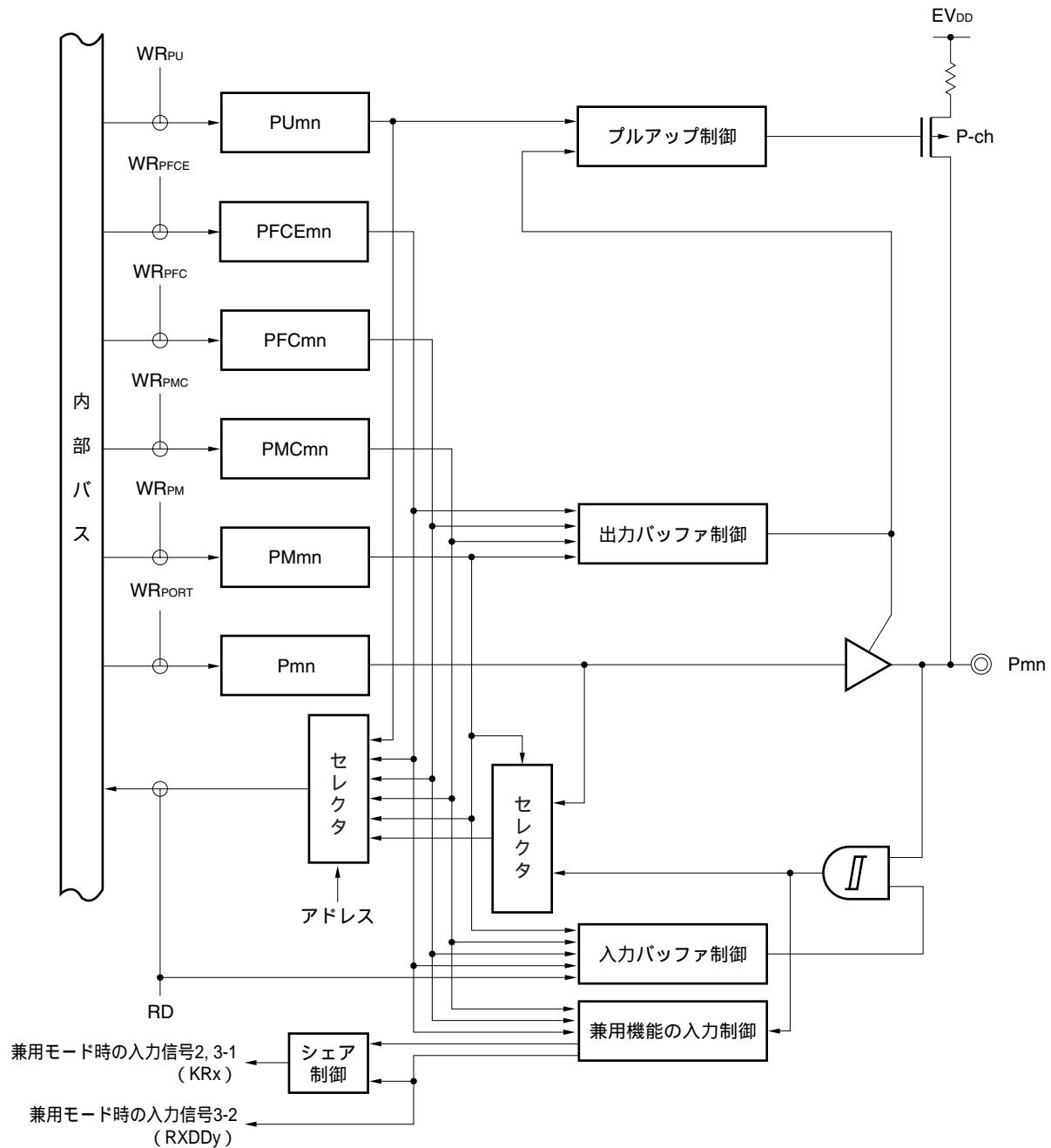
2.4.43 ポート・タイプFx12x-UFI

図2-46 ポート・タイプFx12x-UFIのブロック図



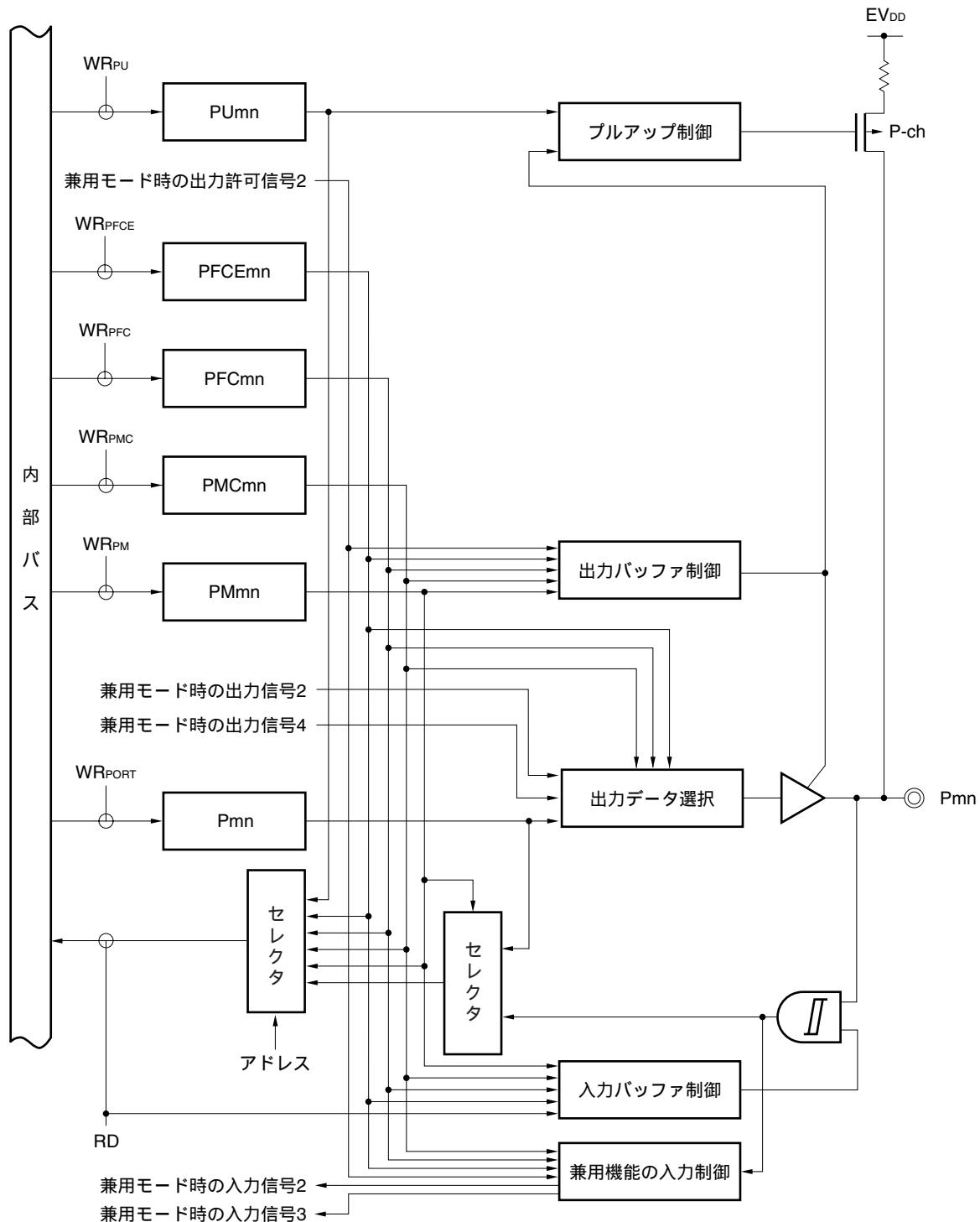
2.4.44 ポート・タイプFx13x-U

図2-47 ポート・タイプFx13x-Uのブロック図



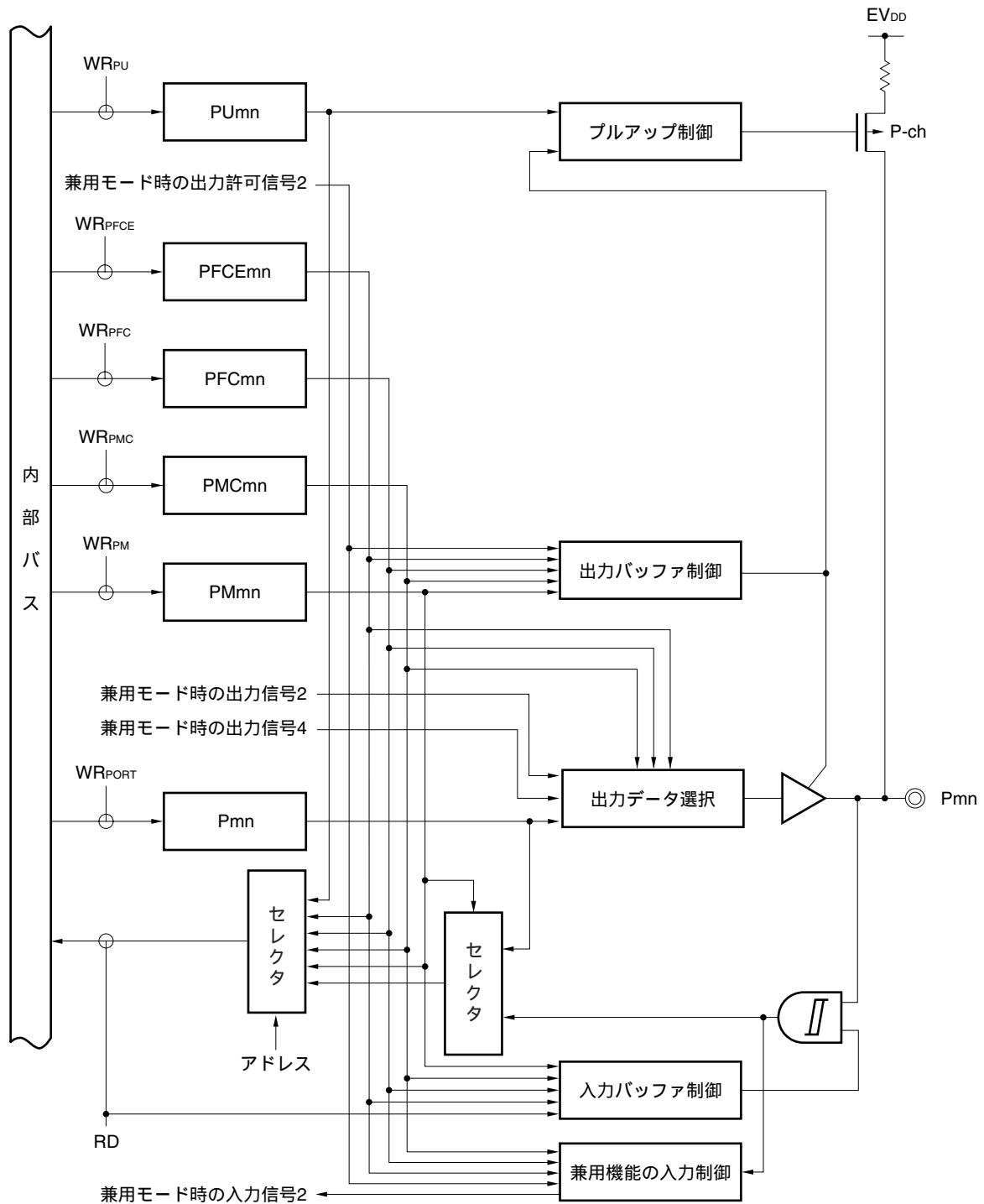
2.4.45 ポート・タイプFx210-U

図2-48 ポート・タイプFx210-Uのブロック図



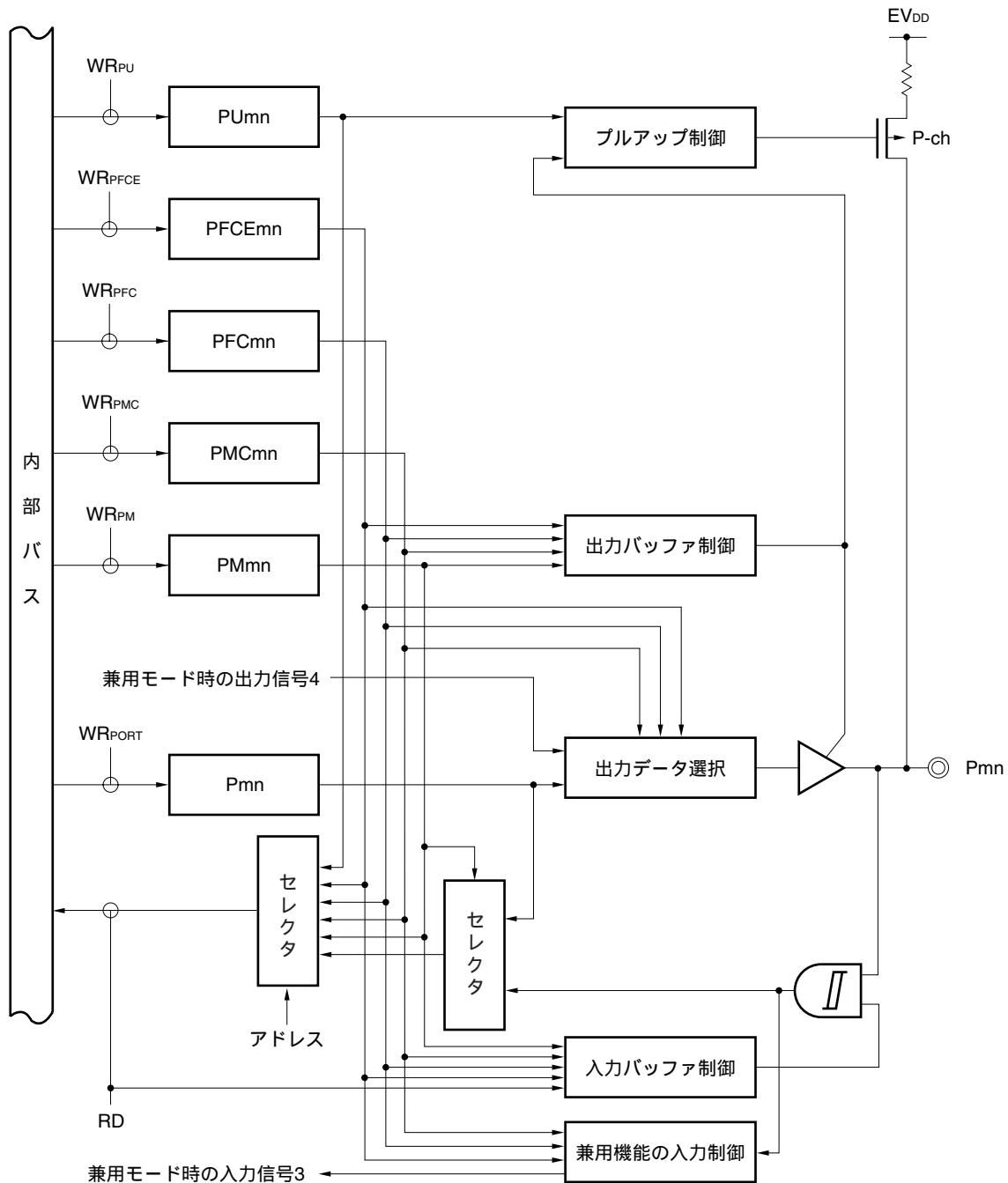
2.4.46 ポート・タイプFx2x0-U

図2-49 ポート・タイプFx2x0-Uのブロック図



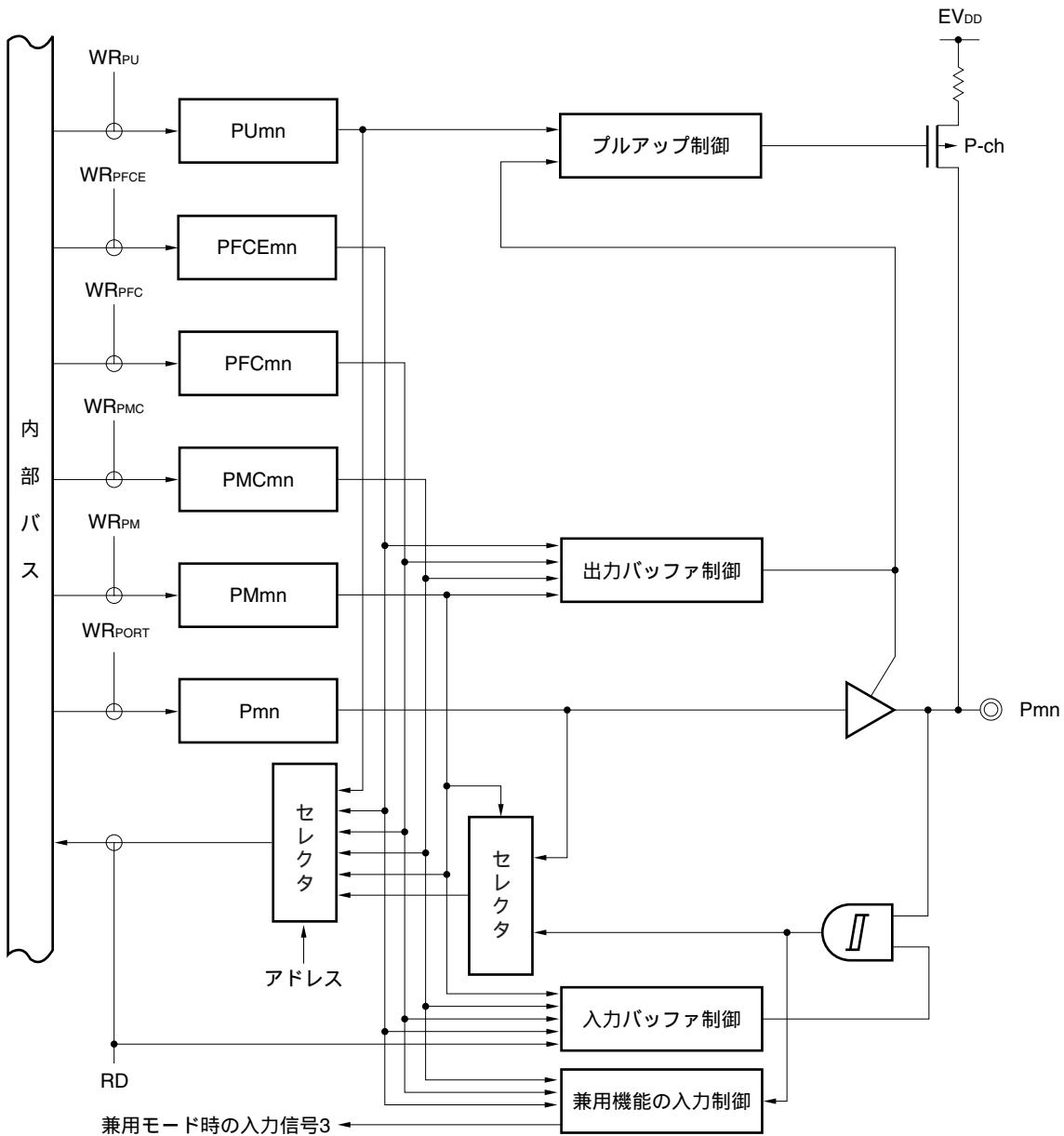
2.4.47 ポート・タイプFxx10-U

図2-50 ポート・タイプFxx10-Uのブロック図



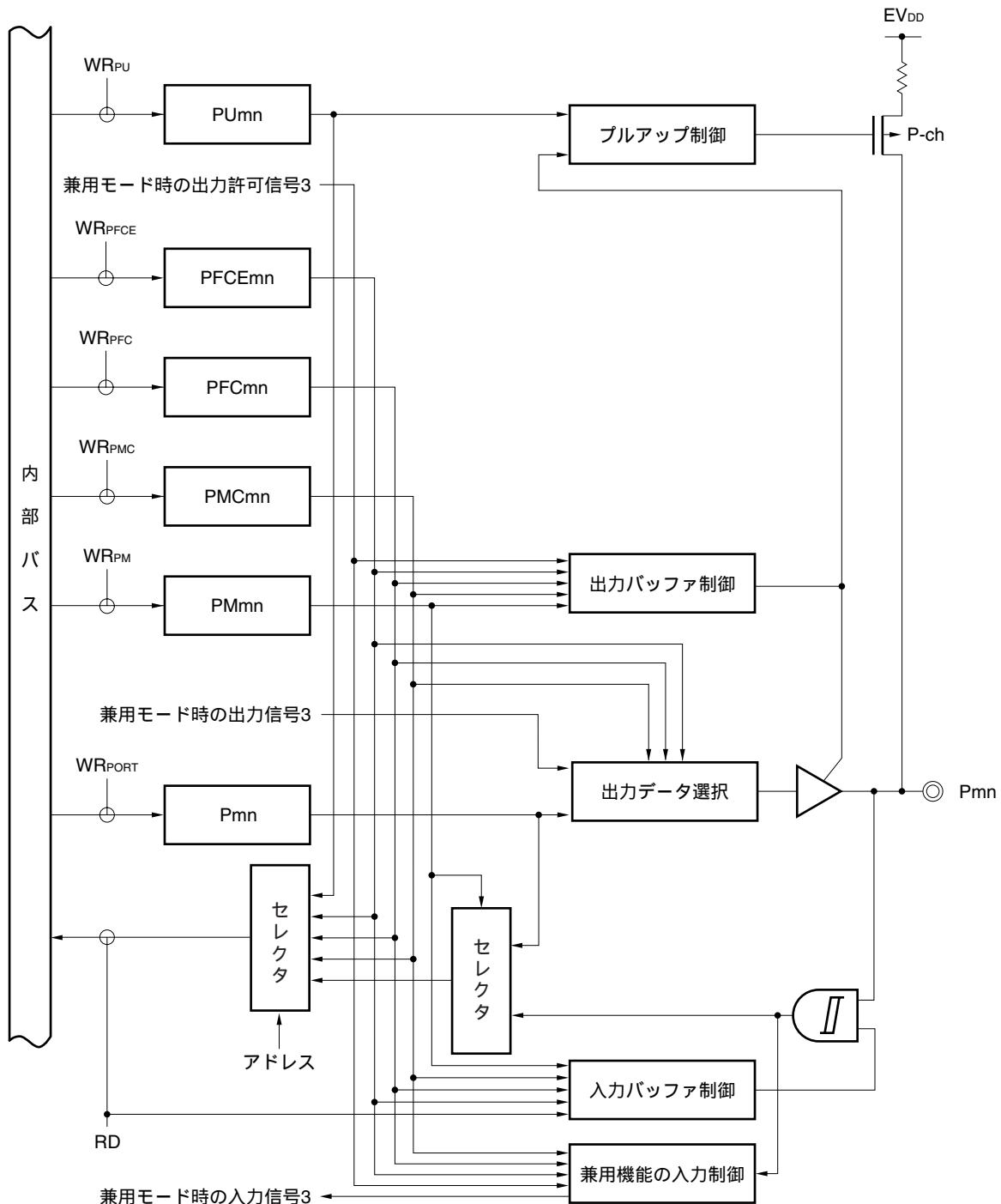
2.4.48 ポート・タイプFxx1x-U

図2-51 ポート・タイプFxx1x-Uのブロック図



2.4.49 ポート・タイプFxx2x-U

図2-52 ポート・タイプFxx2x-Uのブロック図



2.5 ポート・グループの設定

ポートと対応する兼用機能についてまとめた表2-14, 2-15と、兼用機能と各製品の対応端子についてまとめた表2-16を示します。

また、各ポート・グループに対するレジスタの設定を示します。

2.5.1 ポートと兼用機能の対応

表2-14に、各ポート端子で使用可能な機能の概要を示します。

表2-14 V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3(ポートと兼用機能) (1/3)

ポート・グループ名	ポート名	兼用出力機能	兼用入力機能	入出力回路タイプ
0	P00	TOAA31	TIAA31	5-W
	P01	TOAA30	TIAA30	5-W
	P02	TOAA40	NMI/TIAA40	5-W
	P03	TOAA41	INTP0/TIAA41/ADTRG	5-W
	P04	-	INTP1/CRXD0	5-W
	P05	-	INTP2/DRST	5-AF
	P06	CTXD0	INTP3	5-W
1 ^{注1}	P10	-	INTP9	5-W
	P11	-	INTP10	5-W
3	P30	TXDD0	-	5-W
	P31	-	RXDD0/INTP7	5-W
	P32	TOAA00/TOAA01	ASCKD0/TIAA00	5-W
	P33	TOAA01/CTXD0	TIAA01	5-W
	P34	TOAA10	TIAA10/CRXD0	5-W
	P35	TOAA11	TIAA11	5-W
	P36 ^{注1}	CTXD1	-	5-W
	P37 ^{注1}	-	CRXD1	5-W
	P38 ^{注2}	TXDD2 ^{注1}	-	5-W
	P39 ^{注2}	-	RXDD2 ^{注1} /INTP8 ^{注1}	5-W
4	P40	-	SIB0/KR0/RXDD3 ^{注3} /INTP14 ^{注3}	5-W
	P41	SOB0/TXDD3 ^{注3}	KR1	5-W
	P42	SCKB0	SCKB0/KR2	5-W
5	P50	TOAB01/TOAB0T1	KR0/TIAB01	5-W
	P51	TOAB02/TOAB0B1	KR1/TIAB02	5-W
	P52	TOAB03/TOAB0T2	KR2/TIAB03/DDI	5-W
	P53	TOAB00/TOAB0B2/DDO	KR3/TIAB00	5-W
	P54	TOAB0T3	KR4/DCK	5-W
	P55	TOAB0B3	KR5/DMS	5-W

- 1. V850ES/FG3のみ
- 2. V850ES/FF3, V850ES/FG3のみ
- 3. V850ES/FG3のμPD70F3376A, 70F3377Aのみ

表2-14 V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3(ポートと兼用機能)(2/3)

ポート・グループ名	ポート名	兼用出力機能	兼用入力機能	入出力回路タイプ
7	P70	-	ANI0	11-G
	P71	-	ANI1	11-G
	P72	-	ANI2	11-G
	P73	-	ANI3	11-G
	P74	-	ANI4	11-G
	P75	-	ANI5	11-G
	P76	-	ANI6	11-G
	P77	-	ANI7	11-G
	P78	-	ANI8	11-G
	P79	-	ANI9	11-G
	P710 ^{注1}	-	ANI10	11-G
	P711 ^{注1}	-	ANI11	11-G
	P712 ^{注2}	-	ANI12	11-G
	P713 ^{注2}	-	ANI13	11-G
	P714 ^{注2}	-	ANI14	11-G
	P715 ^{注2}	-	ANI15	11-G
9	P90	TXDD1	KR6	5-W
	P91	-	KR7/RXDD1	5-W
	P92 ^{注2}	TOAB11	TIAB11	5-W
	P93 ^{注2}	TOAB12	TIAB12	5-W
	P94 ^{注2}	TOAB13	TIAB13	5-W
	P95 ^{注2}	TOAB10	TIAB10	5-W
	P96	TOAA21	TIAA21	5-W
	P97	TOAA20	SIB1/TIAA20	5-W
	P98	SOB1/TOAB03	TIAB03	5-W
	P99	SCKB1/TOAB00	SCKB1/TIAB00	5-W
	P910 ^{注2}	-	-	5-W
	P911 ^{注2}	-	-	5-W
	P912 ^{注2}	-	-	5-W
	P913	PCL	INTP4	5-W
	P914	SDA00	SDA00/INTP5/RXDD4 ^{注3}	5-W
	P915	SCL00/TXDD4 ^{注3}	SCL00/INTP6	5-W
CM	PCM0	-	-	5
	PCM1	CLKOUT	-	5
	PCM2 ^{注1}	-	-	5
	PCM3 ^{注1}	-	-	5

注1. V850ES/FF3, V850ES/FG3のみ

2. V850ES/FG3のみ

3. V850ES/FG3のμPD70F3376A, 70F3377Aのみ

表2 - 14 V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3（ポートと兼用機能）(3/3)

ポート・グループ名	ポート名	兼用出力機能	兼用入力機能	入出力回路タイプ
CS ^{注1}	PCS0	-	-	5
	PCS1	-	-	5
CT ^{注1}	PCT0	-	-	5
	PCT1	-	-	5
	PCT4	-	-	5
	PCT6	-	-	5
	PDL0	-	-	5-K
DL	PDL1	-	-	5-K
	PDL2	-	-	5-K
	PDL3	-	-	5-K
	PDL4	-	-	5-K
	PDL5	-	FLMD1	5-K
	PDL6	-	-	5-K
	PDL7	-	-	5-K
	PDL8 ^{注1}	-	-	5-K
	PDL9 ^{注1}	-	-	5-K
	PDL10 ^{注1}	-	-	5-K
	PDL11 ^{注1}	-	-	5-K
	PDL12 ^{注2}	-	-	5-K
	PDL13 ^{注2}	-	-	5-K

注1. V850ES/FF3, V850ES/FG3のみ

2. V850ES/FG3のみ

表2-15 V850ES/FJ3, V850ES/FK3(ポートと兼用機能)(1/4)

ポート・グループ名	ポート名	兼用出力機能	兼用入力機能	入出力回路タイプ
0	P00	TOAA31	TIAA31	5-W
	P01	TOAA30	TIAA30	5-W
	P02	TOAA40	NMI/TIAA40	5-W
	P03	TOAA41	INTP0/TIAA41/ADTRG	5-W
	P04	-	INTP1/CRXD0	5-W
	P05	-	INTP2/DRST	5-AF
	P06	CTXD0	INTP3	5-W
1	P10	-	INTP9	5-W
	P11	-	INTP10	5-W
2 ^{注1}	P20	-	ANI100	11-G
	P21	-	ANI101	11-G
	P22	-	ANI102	11-G
	P23	-	ANI103	11-G
	P24	-	ANI104	11-G
	P25	-	ANI105	11-G
	P26	-	ANI106	11-G
	P27	-	ANI107	11-G
	P28	-	ANI108	11-G
	P29	-	ANI109	11-G
	P210	-	ANI110	11-G
	P211	-	ANI111	11-G
	P212	-	ANI112	11-G
	P213	-	ANI113	11-G
	P214	-	ANI114	11-G
	P215	-	ANI115	11-G
3	P30	TXDD0	-	5-W
	P31	-	RXDD0/INTP7	5-W
	P32	TOAA00/TOAA01	ASCKD0/TIAA00	5-W
	P33	TOAA01/CTXD0	TIAA01	5-W
	P34	TOAA10	TIAA10/CRXD0	5-W
	P35	TOAA11	TIAA11	5-W
	P36	CTXD1	-	5-W
	P37	-	CRXD1	5-W
	P38	TXDD2	-	5-W
	P39	-	RXDD2/INTP8	5-W
4	P40	-	SIB0/KR0/RXDD3 ^{注2} /INTP14 ^{注2}	5-W
	P41	SOB0/TXDD3 ^{注2}	KR1	5-W
	P42	SCKB0	SCKB0/KR2	5-W

注1. V850ES/FK3のみ

2. V850ES/FJ3のμPD70F3378には搭載されていません。

表2 - 15 V850ES/FJ3, V850ES/FK3 (ポートと兼用機能) (2/4)

ポート・グループ名	ポート名	兼用出力機能	兼用入力機能	入出力回路タイプ
5	P50	TOAB01/TOAB0T1	KR0/TIAB01	5-W
	P51	TOAB02/TOAB0B1	KR1/TIAB02	5-W
	P52	TOAB03/TOAB0T2	KR2/TIAB03/DDI	5-W
	P53	TOAB00/TOAB0B2/DDO	KR3/TIAB00	5-W
	P54	TOAB0T3	KR4/DCK	5-W
	P55	TOAB0B3	KR5/DMS	5-W
6	P60	-	INTP11	5-W
	P61	-	INTP12	5-W
	P62	SOB3 ^{注1} /TXDD6 ^{注2}	INTP13	5-W
	P63	-	SIB3 ^{注1} /RXDD6 ^{注2} /INTP13 ^{注2}	5-W
	P64	SCKB3 ^{注1}	SCKB3 ^{注1}	5-W
	P65	CTXD2	-	5-W
	P66	-	CRXD2	5-W
	P67	CTXD3 ^{注3}	-	5-W
	P68	-	CRXD3 ^{注3}	5-W
	P69	-	ADTRG1 ^{注2}	5-W
	P610	TOAB20	TIAB20	5-W
	P611	TOAB21	TIAB21	5-W
	P612	TOAB22	TIAB22	5-W
	P613	TOAB23	TIAB23	5-W
7	P614	TXDD7 ^{注2}	-	5-W
	P615	-	RXDD7 ^{注2} /INTP15 ^{注2}	5-W
	P70	-	ANI0	11-G
	P71	-	ANI1	11-G
	P72	-	ANI2	11-G
	P73	-	ANI3	11-G
	P74	-	ANI4	11-G
	P75	-	ANI5	11-G
	P76	-	ANI6	11-G
	P77	-	ANI7	11-G
	P78	-	ANI8	11-G
	P79	-	ANI9	11-G
	P710	-	ANI10	11-G
	P711	-	ANI11	11-G
8	P712	-	ANI12	11-G
	P713	-	ANI13	11-G
	P714	-	ANI14	11-G
	P715	-	ANI15	11-G
	P80	-	RXDD3 ^{注3} /INTP14	5-W
	P81	TXDD3 ^{注3}	-	5-W

注1. V850ES/FJ3のμPD70F3378, 70F3379, 70F3380には搭載されていません。

2. V850ES/FK3のみ
3. V850ES/FJ3のμPD70F3378には搭載されていません。

表2 - 15 V850ES/FJ3, V850ES/FK3 (ポートと兼用機能) (3/4)

ポート・グループ名	ポート名	兼用出力機能	兼用入力機能	入出力回路タイプ
9	P90	TXDD1	KR6	5-W
	P91	-	KR7/RXDD1	5-W
	P92	TOAB11	TIAB11	5-W
	P93	TOAB12	TIAB12	5-W
	P94	TOAB13	TIAB13	5-W
	P95	TOAB10	TIAB10	5-W
	P96	TOAA21	TIAA21	5-W
	P97	TOAA20	SIB1/TIAA20	5-W
	P98	SOB1/TOAB03	TIAB03	5-W
	P99	SCKB1/TOAB00	SCKB1/TIAB00	5-W
	P910	CTXD2	SIB2	5-W
	P911	SOB2	CRXD2	5-W
	P912	SCKB2/TXDD5 ^{注1}	SCKB2	5-W
	P913	PCL	INTP4/RXDD5 ^{注1}	5-W
12	P914	SDA00	SDA00/INTP5/RXDD4 ^{注1}	5-W
	P915	SCL00/TXDD4 ^{注1}	SCL00/INTP6	5-W
	P120	-	ANI16	11-G
	P121	-	ANI17	11-G
	P122	-	ANI18	11-G
	P123	-	ANI19	11-G
	P124	-	ANI20	11-G
	P125	-	ANI21	11-G
15 ^{注2}	P126	-	ANI22	11-G
	P127	-	ANI23	11-G
	P150	TOAA50	TIAA50	5-W
	P151	TOAA51	TIAA51	5-W
	P152	TOAA60	TIAA60	5-W
	P153	TOAA61	TIAA61	5-W
	P154	TOAA70	TIAA70	5-W
	P155	TOAA71	TIAA71	5-W
CD	P156	CTXD4	-	5-W
	P157	-	CRXD4	5-W
	PCD0	-	-	5
	PCD1	-	-	5
PCD2	-	-	-	5
	PCD3	-	-	5

注1. V850ES/FJ3のμPD70F3378には搭載されていません。

2. V850ES/FK3のみ

表2 - 15 V850ES/FJ3, V850ES/FK3 (ポートと兼用機能) (4/4)

ポート・グループ名	ポート名	兼用出力機能	兼用入力機能	入出力回路タイプ
CM	PCM0	-	<u>WAIT</u>	5
	PCM1	CLKOUT	-	5
	PCM2	<u>HLDACK</u>	-	5
	PCM3	-	<u>HLDREQ</u>	5
	PCM4	-	-	5
	PCM5	-	-	5
CS	PCS0	<u>CS0</u>	-	5
	PCS1	<u>CS1</u>	-	5
	PCS2	<u>CS2</u>	-	5
	PCS3	<u>CS3</u>	-	5
	PCS4	-	-	5
	PCS5	-	-	5
	PCS6	-	-	5
	PCS7	-	-	5
CT	PCT0	<u>WR0</u>	-	5
	PCT1	<u>WR1</u>	-	5
	PCT2	-	-	5
	PCT3	-	-	5
	PCT4	<u>RD</u>	-	5
	PCT5	-	-	5
	PCT6	ASTB	-	5
	PCT7	-	-	5
DL	PDL0	AD0	AD0	5-K
	PDL1	AD1	AD1	5-K
	PDL2	AD2	AD2	5-K
	PDL3	AD3	AD3	5-K
	PDL4	AD4	AD4	5-K
	PDL5	AD5	AD5/FLMD1	5-K
	PDL6	AD6	AD6	5-K
	PDL7	AD7	AD7	5-K
	PDL8	AD8	AD8	5-K
	PDL9	AD9	AD9	5-K
	PDL10	AD10	AD10	5-K
	PDL11	AD11	AD11	5-K
	PDL12	AD12	AD12	5-K
	PDL13	AD13	AD13	5-K
	PDL14	AD14	AD14	5-K
	PDL15	AD15	AD15	5-K

2.5.2 兼用機能と各製品の対応端子（アルファベット順）

表2-16はアルファベット順にすべての兼用機能名を並べたものです。

この表は、本マイクロコントローラの各デバイス間の相違を示すものではありません。これらの相違については、表2-14および表2-15を参照してください。

表2-16 兼用機能と各製品の対応端子（アルファベット順）(1/7)

端子名	I/O	機能	ポート	端子番号				
				FE3	FF3	FG3	FJ3	FK3
AD0	I/O	外部メモリ・インターフェース・アドレス / データ0-15	PDL0	-	-	-	105	116
AD1			PDL1	-	-	-	106	117
AD2			PDL2	-	-	-	107	118
AD3			PDL3	-	-	-	108	119
AD4			PDL4	-	-	-	109	120
AD5			PDL5	-	-	-	110	121
AD6			PDL6	-	-	-	111	122
AD7			PDL7	-	-	-	112	123
AD8			PDL8	-	-	-	113	129
AD9			PDL9	-	-	-	114	130
AD10			PDL10	-	-	-	115	131
AD11			PDL11	-	-	-	116	132
AD12			PDL12	-	-	-	117	133
AD13			PDL13	-	-	-	118	134
AD14			PDL14	-	-	-	119	135
AD15			PDL15	-	-	-	120	136
ADTRG	I	A/Dコンバータ0外部トリガ入力	P03	15	6	18	18	19
ADTRG1	I	A/Dコンバータ1外部トリガ入力	P69	-	-	-	-	71

表2-16 兼用機能と各製品の対応端子(アルファベット順)(2/7)

端子名	I/O	端 子	ポート	端子番号				
				FE3	FF3	FG3	FJ3	FK3
ANI0	I	A/Dコンバータ0入力0-23	P70	64	80	100	144	176
ANI1			P71	63	79	99	143	175
ANI2			P72	62	78	98	142	174
ANI3			P73	61	77	97	141	173
ANI4			P74	60	76	96	140	172
ANI5			P75	59	75	95	139	171
ANI6			P76	58	74	94	138	170
ANI7			P77	57	73	93	137	169
ANI8			P78	56	72	92	136	168
ANI9			P79	55	71	91	135	167
ANI10			P710	-	70	90	134	166
ANI11			P711	-	69	89	133	165
ANI12			P712	-	-	88	132	164
ANI13			P713	-	-	87	131	163
ANI14			P714	-	-	86	130	162
ANI15			P715	-	-	85	129	161
ANI16			P120	-	-	-	128	160
ANI17			P121	-	-	-	127	159
ANI18			P122	-	-	-	126	158
ANI19			P123	-	-	-	125	157
ANI20			P124	-	-	-	124	156
ANI21			P125	-	-	-	123	155
ANI22			P126	-	-	-	122	154
ANI23			P127	-	-	-	121	153
ANI100	I	A/Dコンバータ1入力0-15	P20	-	-	-	-	44
ANI101			P21	-	-	-	-	43
ANI102			P22	-	-	-	-	42
ANI103			P23	-	-	-	-	41
ANI104			P24	-	-	-	-	40
ANI105			P25	-	-	-	-	39
ANI106			P26	-	-	-	-	38
ANI107			P27	-	-	-	-	37
ANI108			P28	-	-	-	-	36
ANI109			P29	-	-	-	-	35
ANI110			P210	-	-	-	-	34
ANI111			P211	-	-	-	-	33
ANI112			P212	-	-	-	-	32
ANI113			P213	-	-	-	-	31
ANI114			P214	-	-	-	-	30
ANI115			P215	-	-	-	-	29

表2-16 兼用機能と各製品の対応端子(アルファベット順)(3/7)

端子名	I/O	機能	ポート	端子番号				
				FE3	FF3	FG3	FJ3	FK3
ASCKD0	I	UARTD0ポート・レート・クロック入力	P32	24	24	27	27	48
ASTB	O	外部メモリ・インターフェース・アドレス・ストローブ信号	PCT6	-	-	-	101	143
AV _{REF0}	-	A/Dコンバータ基準電圧入力	-	1	1	1	1	1
AV _{REF1}	-	A/Dコンバータ1基準電圧入力	-	-	-	-	-	45
AV _{ss}	-	A/Dコンバータ用グラウンド電位	-	2	2	2	2	2
AV _{ss1}	-	A/Dコンバータ1用グラウンド電位	-	-	-	-	-	46
BV _{DD}	-	I/Oパッファ電源電圧	-	-	-	70	104	128
BV _{ss}	-	I/Oパッファ電源グラウンド	-	-	-	69	103	127
CLKOUT	O	CPUシステム・クロック出力	PCM1	46	50	62	86	111
CRXD0	I	CAN0-CAN4受信データ	P04	16	7	19	19	20
CRXD1			P34	26	26	29	29	50
CRXD2			P37	-	-	32	32	53
CRXD3			P66	-	-	-	49	68
CRXD4			P911	-	-	-	72	93
CS0	O		P68	-	-	-	51	70
CS1		外部メモリ・インターフェース・チップ・セレクト信号	P157	-	-	-	-	105
CS2			PCS0	-	-	-	81	106
CS3			PCS1	-	-	-	82	107
CS3			PCS2	-	-	-	83	108
PCS3			PCS3	-	-	-	84	109
CTXD0	O	CAN0-CAN4送信データ	P06	18	18	21	21	22
CTXD1			P33	25	25	28	28	49
CTXD2			P36	-	-	31	31	52
CTXD3			P65	-	-	-	48	67
CTXD4			P910	-	-	-	71	92
DCK	I		P67	-	-	-	50	69
DDI	I	デバッグ・データ入力	P156	-	-	-	-	104
DDO	O	デバッグ・データ出力	P54	34	36	41	41	60
DMS	I	デバッグ・モード・セレクト入力	P52	30	34	39	39	58
DRST	I	デバッグ・リセット	P53	31	35	40	40	59
EV _{DD}	-	I/Oパッファ電源電圧	P55	35	37	42	42	61
EV _{ss}	-	I/Oパッファ電源グラウンド	P05	17	17	20	20	21
			-	33	31	5, 34	5, 34	47, 77
			-	32	30	33	33	28, 76

表2-16 兼用機能と各製品の対応端子(アルファベット順)(4/7)

端子名	I/O	機能	ポート	端子番号				
				FE3	FF3	FG3	FJ3	FK3
FLMD0	-	フラッシュ・プログラミング・モード引き込み端子	-	3	8	8	8	8
FLMD1	-	フラッシュ・プログラミング・モード引き込み端子	PDL5	52	62	76	110	121
HLDK	O	バス・ホールド・アクノリッジ出力	PCM2	-	-	-	87	112
HLDRQ	I	バス・ホールド要求入力	PCM3	-	-	-	88	113
INTP0	I	外部割り込み0-15	P03	15	6	18	18	19
INTP1			P04	16	7	19	19	20
INTP2			P05	17	17	20	20	21
INTP3			P06	18	18	21	21	22
INTP4			P913	42	44	56	74	95
INTP5			P914	43	45	57	75	96
INTP6			P915	44	46	58	76	97
INTP7			P31	23	23	26	26	27
INTP8			P39	-	-	36	36	55
INTP9			P10	-	-	3	3	3
INTP10			P11	-	-	4	4	4
INTP11			P60	-	-	-	43	62
INTP12			P61	-	-	-	44	63
INTP13			P62	-	-	-	45	64
INTP14			P63	-	-	-	-	65
INTP15			P40	-	-	22 ^{注1}	22	23
KR0	I	キー割り込み入力0-7	P80	-	-	-	59	80
KR1			P615	-	-	-	-	79
KR2			P40	19	19	22	22	23
KR3			P50	28	32	37	37	56
KR4			P41	20	20	23	23	24
KR5			P51	29	33	38	38	57
KR6			P42	21	21	24	24	25
KR7			P52	30	34	39	39	58
NMI ^{注2}	I	ノンマスカブル割り込み	P53	31	35	40	40	59
PCL	O	プログラマブル・クロック出力	P54	34	36	41	41	60
RD	O	外部メモリ・インターフェース・リード・ストローブ	P55	35	37	42	42	61
REGC	-	レギュレータ出力安定容量接続	P90	36	38	43	61	82
REGC1	-	レギュレータ出力安定容量接続	P91	37	39	44	62	83

注1. V850ES/FG3のμPD70F3374, 70F3375は、INTP14を搭載していません。

2. NMI端子はP02端子と兼用しており、リセット後はP02端子として機能します。NMIを有効にする場合は、PMC0.PMC02ビットをセット(1)してください。また、NMI端子の初期設定は“エッジ検出なし”になっています。INTF0, INTR0レジスタでNMI端子の有効エッジを選択する必要があります。

表2-16 兼用機能と各製品の対応端子(アルファベット順)(5/7)

端子名	I/O	機能	ポート	端子番号				
				FE3	FF3	FG3	FJ3	FK3
RESET	I	リセット入力	-	9	14	14	14	14
RXDD0	I	UARTD0-UARTD7受信データ	P31	23	23	26	26	27
RXDD1			P91	37	39	44	62	83
RXDD2			P39	-	-	36	36	55
RXDD3			P40	-	-	22 ^{注1}	22 ^{注2}	23
RXDD4			P80	-	-	-	59 ^{注2}	80
RXDD5			P914	-	-	57 ^{注1}	75 ^{注2}	96
RXDD6			P913	-	-	-	74 ^{注2}	95
RXDD7			P63	-	-	-	-	65
P615				-	-	-	-	79
SCKB0	I/O	クロック同期式シリアル・インターフェースCSIB0-CSIB3 クロック	P42	21	21	24	24	25
SCKB1			P99	41	43	52	70	91
SCKB2			P912	-	-	-	73	94
SCKB3			P64	-	-	-	47	66
SCL00	I/O	I ² C0クロック	P915	44	46	58	76	97
SDA00	I/O	I ² C0データ	P914	43	45	57	75	96
SIB0	I	クロック同期式シリアル・インターフェースCSIB0-CSIB3 データ入力	P40	19	19	22	22	23
SIB1			P97	39	41	50	68	89
SIB2			P910	-	-	-	71	92
SIB3			P63	-	-	-	46	65
SOB0	O	クロック同期式シリアル・インターフェースCSIB0-CSIB3 データ出力	P41	20	20	23	23	24
SOB1			P98	40	42	51	69	90
SOB2			P911	-	-	-	72	93
SOB3			P62	-	-	-	45	64
TIAA00	I	タイマTAA0-TAA7チャネル0キャプチャ・トリガ入力	P32	24	24	27	27	48
TIAA10			P34	26	26	29	29	50
TIAA20			P97	39	41	50	68	89
TIAA30			P01	13	4	7	7	7
TIAA40			P02	14	5	17	17	18
TIAA50			P150	-	-	-	-	98
TIAA60			P152	-	-	-	-	100
TIAA70			P154	-	-	-	-	102
TIAA01	I	タイマTAA0-TAA7チャネル1キャプチャ・トリガ入力	P33	25	25	28	28	49
TIAA11			P35	27	27	30	30	51
TIAA21			P96	38	40	49	67	88
TIAA31			P00	12	3	6	6	6
TIAA41			P03	15	6	18	18	19
TIAA51			P151	-	-	-	-	99
TIAA61			P153	-	-	-	-	101
TIAA71			P155	-	-	-	-	103

注1. V850ES/FG3のμPD70F3374, 70F3375は, RXDD3, RXDD4を搭載していません。

2. V850ES/FJ3のμPD70F3378は, RXDD3-RXDD5を搭載していません。

表2-16 兼用機能と各製品の対応端子(アルファベット順)(6/7)

端子名	I/O	機能	ポート	端子番号				
				FE3	FF3	FG3	FJ3	FK3
TIAB00	I	タイマTAB0-TAB2チャネル0キャプチャ・トリガ入力	P53	31	35	40	40	59
TIAB10			P99	41	43	52	70	91
TIAB20			P95	-	-	48	66	87
TIAB20			P610	-	-	-	53	72
TIAB01	I	タイマTAB0-TAB2チャネル1キャプチャ・トリガ入力	P50	28	32	37	37	56
TIAB11			P92	-	-	45	63	84
TIAB21			P611	-	-	-	54	73
TIAB02	I	タイマTAB0-TAB2チャネル2キャプチャ・トリガ入力	P51	29	33	38	38	57
TIAB12			P93	-	-	46	64	85
TIAB22			P612	-	-	-	55	74
TIAB03	I	タイマTAB0-TAB2チャネル3キャプチャ・トリガ入力	P52	30	34	39	39	58
TIAB13			P98	40	42	51	69	90
TIAB23			P94	-	-	47	65	86
TIAB23			P613	-	-	-	56	75
TOAA00	O	タイマTAA0-TAA7チャネル0信号出力	P32	24	24	27	27	48
TOAA10			P34	26	26	29	29	50
TOAA20			P97	39	41	50	68	89
TOAA30			P01	13	4	7	7	7
TOAA40			P02	14	5	17	17	18
TOAA50			P150	-	-	-	-	98
TOAA60			P152	-	-	-	-	100
TOAA70			P154	-	-	-	-	102
TOAA01	O	タイマTAA0-TAA7チャネル1信号出力	P32	24	24	27	27	48
TOAA11			P33	25	25	28	28	49
TOAA21			P35	27	27	30	30	51
TOAA31			P96	38	40	49	67	88
TOAA41			P00	12	3	6	6	6
TOAA51			P03	15	6	18	18	19
TOAA61			P151	-	-	-	-	99
TOAA71			P153	-	-	-	-	101
TOAB00	O	タイマTAB0-TAB2チャネル0信号出力	P53	31	35	40	40	59
TOAB10			P99	41	43	52	70	91
TOAB20			P95	-	-	48	66	87
TOAB20			P610	-	-	-	53	72
TOAB01	O	タイマTAB0-TAB2チャネル1信号出力	P50	28	32	37	37	56
TOAB11			P92	-	-	45	63	84
TOAB21			P611	-	-	-	54	73

表2-16 兼用機能と各製品の対応端子(アルファベット順)(7/7)

端子名	I/O	機能	ポート	端子番号				
				FE3	FF3	FG3	FJ3	FK3
TOAB02	O	タイマTAB0-TAB2チャネル2信号出力	P51	29	33	38	38	57
TOAB12			P93	-	-	46	64	85
TOAB22			P612	-	-	-	55	74
TOAB03	O	タイマTAB0-TAB2チャネル3信号出力	P52	30	34	39	39	58
TOAB13			P98	40	42	51	69	90
TOAB23			P94	-	-	47	65	86
TOAB0B1			P613	-	-	-	56	75
TOAB0B2	O	モータ制御出力信号	P51	29	33	38	38	57
TOAB0B3			P53	31	35	40	40	59
TOAB0T1			P55	35	37	42	42	61
TOAB0T2	O	モータ制御出力信号	P50	28	32	37	37	56
TOAB0T3			P52	30	34	39	39	58
TXDD0			P54	34	36	41	41	60
TXDD1	O	UARTD0-UARTD7送信データ	P30	22	22	25	25	26
TXDD2			P90	36	38	43	61	82
TXDD3			P38	-	-	35	35	54
TXDD4			P41	-	-	23 ^{注1}	23 ^{注2}	24
TXDD5			P81	-	-	-	60 ^{注2}	81
TXDD6			P915	-	-	58 ^{注1}	76 ^{注2}	97
TXDD7			P912	-	-	-	73 ^{注2}	94
V _{DD}			P62	-	-	-	-	64
V _{DD1}	-	内部電源電圧	P614	-	-	-	-	78
V _{SS}	-	内部電源グラウンド	-	4	9	9	9	9
V _{SS1}	-	内部電源グラウンド	-	-	-	69	103	124
WAIT	I	外部メモリ・インターフェース・データ・ウェイト要求	PCM0	-	-	-	85	110
WR0	O	外部メモリ・インターフェース・ライト・ストローブ (下位8ビット)	PCT0	-	-	-	95	137
WR1	O	外部メモリ・インターフェース・ライト・ストローブ (上位8ビット)	PCT1	-	-	-	96	138
X1	I	メイン・クロック発振子接続	-	7	12	12	12	12
X2	-	メイン・クロック発振子接続	-	8	13	13	13	13
XT1	I	サブ発振子接続	-	10	15	15	15	15
XT2	-	サブ発振子接続	-	11	16	16	16	16

注1. V850ES/FG3のμPD70F3374, 70F3375は、TXDD3, TXDD4を搭載していません。

2. V850ES/FJ3のμPD70F3378は、TXDD3-TXDD5を搭載していません。

備考 下記の兼用機能は、異なる2つのポート（端子）に備わっています。

ユニット	兼用機能	I/O	ポート1	ポート2
タイマ	TOAA01	O	P33	P32
	TIAB00	I	P53	P99
	TOAB00	O	P53	P99
	TIAB03	I	P52	P98
	TOAB03	O	P52	P98
UARTD	RXDD3	I	P40	P80
	TXDD3	O	P41	P81
CAN	CTXD0	O	P06	P33
	CRXD0	I	P04	P34
	CTXD2	O	P65	P910
	CRXD2	I	P66	P911
外部割り込み	INTP13	I	P62	P63
	INTP14	I	P40	P80
キー割り込み	KR0	I	P40	P50
	KR1	I	P41	P51
	KR2	I	P42	P52

注意 製品によっては搭載していない端子があります。詳細は、表2-16を参照してください。

どちらかの端子の兼用機能を使用するかを選択できます。2.2.2 端子機能設定用レジスタを参照してください。

注意 上表の兼用機能を使用する場合は、ポート1またはポート2のどちらか一方のみを兼用機能に設定してください。なお、兼用入力端子に関してポート1、ポート2を同時に兼用機能に設定すると、正常動作しない可能性があります。ただし、兼用出力端子に関してはポート1、ポート2を同時に兼用機能に設定しても、デバイスの動作に影響しません。また、周辺機能の動作は、ポート1またはポート2のどちらか一方を兼用機能端子に設定後に、動作許可するようにしてください。

2.5.3 ポート・グループ0

ポート・グループ0は、7ビットのポート・グループです。兼用としては、次の機能を持っています。

- ・外部割り込み (INTP0-INTP3)
- ・ノンマスカブル割り込み (NMI)
- ・N-Wireデバッグ・インターフェース・リセット (\overline{DRST})
- ・A/Dコンバータ外部トリガ入力 (ADTRG)
- ・タイマTAA3チャネル (TIAA30, TIAA31とTOAA30, TOAA31)
- ・タイマTAA4チャネル (TIAA40, TIAA41とTOAA40, TOAA41)
- ・CAN0送受信データ (CTXD0, CRXD0)

ポート・グループ0は次の端子で構成されます。

表2-17 ポート・グループ0：端子機能とポート・タイプ

ポート・モード (PMcnm = 0)	各モードにおける端子機能				リセット時 の端子機能 (OCDM0 = 1)	ポート・ タイプ		
	兼用モード (PMcnm = 1)							
	PFCE = 0		PFCE = 1					
	機能1 PFC = 0	機能2 PFC = 1	機能3 PFC = 0	機能4 PFC = 1				
P00	TIAA31 (I)	TOAA31 (O)	-	-	-	P00 (I) E10-U		
P01	TIAA30 (I)	TOAA30 (O)	-	-	-	P01 (I) E10-U		
P02	NMI (I) ^{注1} 禁止	TIAA40 (I)	TOAA40 (O)	-	-	P02 (I) F1x10-UI		
P03	INTP0 (I)	ADTRG (I)	TIAA41 (I)	TOAA41 (O)	-	P03 (I) F1110-UI		
P04	INTP1 (I)	CRXD0 (I)	-	-	-	P04 (I) E11-UI		
P05	INTP2 (I)	-	-	-	\overline{DRST} (I)	P05 (I) または \overline{DRST} (I) ^{注2}		
P06	INTP3 (I) ^{注3}	CTXD0 (O)	-	-	-	P06 (I) E10-UI		

注1. NMI端子はP02端子と兼用しており、リセット後はP02端子として機能します。

NMI端子を有効にする場合は、PMC0.PMC02ビットをセット(1)してください。

またNMI端子の初期設定は“エッジ検出なし”になっています。INTF0.INTF02, INTR0.INTR02ビットでNMI端子の有効エッジを選択してください。

- P05端子はオンチップ・デバッグ用の端子と兼用です。外部リセット後、P05/INTP2/ \overline{DRST} 端子はオンチップ・デバッグ用端子(\overline{DRST})に初期化されます。
P05端子をオンチップ・デバッグ用端子として使用せず、ポートとして使用する場合は、次の処置が必要です。

OCDMレジスタ(特定レジスタ)のOCDM0ビットをクリア(0)します。

の処置を終えるまでP05/INTP2/ \overline{DRST} 端子をロウ・レベル固定にしておきます。

なお、オンチップ・デバッグを使用しない場合、上記処置を行う前に \overline{DRST} 端子にハイ・レベルを入力すると、誤動作(CPUデッド・ロック)の原因となるため、P05端子の取り扱いには十分注意してください。

P05/INTP2/ \overline{DRST} 端子にハイ・レベルを入力しない(ロウ・レベルに固定する)場合は、OCDMレジスタのOCDM0ビットを操作する必要はありません。

P05/INTP2/ \overline{DRST} 端子は、プルダウン抵抗(30 kΩ(TYP.))をバッファに内蔵しているため、外部からロウ・レベル固定に処置する必要はありません。OCDM0ビットをクリア(0)することにより、プルダウン抵抗は切断されます。

詳細は2.2.2(5)オンチップ・デバッグ・モード・レジスタ(OCDM)と第27章 オンチップ・デバッグ・ユニットを参照してください。

- INTP3は、アナログおよびディジタル・ノイズ除去回路を備えています。詳細は、2.6ノイズ除去を参照してください。

注意 外部割り込み機能(兼用機能)とポート機能を切り替える際は、エッジ検出を行う可能性があるため注意してください。詳細は、2.9 注意事項を参照してください。

備考 兼用機能CRXD0とCTXD0は2つの端子に備わっているため、どの端子で兼用機能を使うかを選択できます。

2.2.2 端子機能設定用レジスタを参照してください。

表2-18 ポート・グループ0：設定レジスタ

レジスタ	アドレス	初期値	使用ビット								
PMC0	FFFFF440H	00H	0	PMC06	PMC05	PMC04	PMC03	PMC02	PMC01	PMC00	
PM0	FFFFF420H	FFH	1	PM06	PM05	PM04	PM03	PM02	PM01	PM00	
PFC0	FFFFF460H	00H	0	PFC06	0	PFC04	PFC03	PFC02	PFC01	PFC00	
PFCE0	FFFFF700H	00H	0	0	0	0	PFCE03	PFCE02	0	0	
OCDM	FFFFF9FCH	00H/01H ^{注1}	0	0	0	0	0	0	0	0	OCDM0
P0	FFFFF400H	不定	x	P06	P05	P04	P03	P02	P01	P00	
PU0	FFFFFC40H	00H	0	PU06	PU05 ^{注2}	PU04	PU03	PU02	PU01	PU00	

- 注1. リセット要因による(2.2.2(5)オンチップ・デバッグ・モード・レジスタ(OCDM)と第27章 オンチップ・デバッグ・ユニットを参照してください)。
2. PU05の設定は、OCDMレジスタのOCDM0ビット = 0時のみ有効です。OCDMビット = 1時は、プルアップされません。

アクセス：すべての8ビット・レジスタは8ビットまたは1ビット単位でアクセスできます。

2.5.4 ポート・グループ1 (V850ES/FG3, V850ES/FJ3, V850ES/FK3)

ポート・グループ1は、2ビットのポート・グループです。兼用モードとして、次の機能を持っています。

- 外部割り込み (INTP9, INTP10)

ポート・グループ1は次の端子で構成されます。

注意 ポート・グループ1はV850ES/FG3, V850ES/EJ3, V850ES/FK3のみ

表2-19 ポート・グループ1：端子機能とポート・タイプ

各モードにおける端子機能		リセット時の端子機能	ポート・タイプ
ポート・モード ($PMC_{nm} = 0$)	兼用モード ($PMC_{nm} = 1$)		
P10	INTP9 (I)	P10 (I)	D1-UI
P11	INTP10 (I)	P11 (I)	D1-UI

注意 外部割り込み機能（兼用機能）とポート機能を切り替える際は、エッジ検出を行う可能性があるため注意してください。詳細は、2.9 注意事項を参照してください。

表2-20 ポート・グループ1：設定レジスタ

レジスタ	アドレス	初期値	使用ビット							
			0	0	0	0	0	0	PMC11	PMC10
PMC1	FFFFF442H	00H	FF	FF	FF	FF	FF	FF	PM11	PM10
PM1	FFFFF422H	FFH	1	1	1	1	1	1	PM11	PM10
P1	FFFFF402H	不定	x	x	x	x	x	x	P11	P10
PU1	FFFFFC42H	00H	0	0	0	0	0	0	PU11	PU10

備考 x : Don't care

アクセス：すべての8ビット・レジスタは8ビットまたは1ビット単位でアクセスできます。

2.5.5 ポート・グループ2 (V850ES/FK3)

ポート・グループ2は、16ビットのポート・グループです。兼用モードとして、次の機能を持っています。

- A/Dコンバータ1入力

ポート・グループ1は次の端子で構成されます。

注意 ポート・グループ2はV850ES/FK3のみ

表2 - 21 ポート・グループ2：端子機能とポート・タイプ

各モードにおける端子機能 ポート・モード (PMCnm = 0)	兼用モード (PMCnm = 1)	リセット時の 端子機能	ポート・ タイプ
P20	ANI100 (I)	P20 (I)	D1A
P21	ANI101 (I)	P21 (I)	D1A
P22	ANI102 (I)	P22 (I)	D1A
P23	ANI103 (I)	P23 (I)	D1A
P24	ANI104 (I)	P24 (I)	D1A
P25	ANI105 (I)	P25 (I)	D1A
P26	ANI106 (I)	P26 (I)	D1A
P27	ANI107 (I)	P27 (I)	D1A
P28	ANI108 (I)	P28 (I)	D1A
P29	ANI109 (I)	P29 (I)	D1A
P210	ANI110 (I)	P210 (I)	D1A
P211	ANI111 (I)	P211 (I)	D1A
P212	ANI112 (I)	P212 (I)	D1A
P213	ANI113 (I)	P213 (I)	D1A
P214	ANI114 (I)	P214 (I)	D1A
P215	ANI115 (I)	P215 (I)	D1A

表2 - 22 ポート・グループ2：設定レジスタ

レジスタ	アドレス	初期値	使用ビット									
PMC2L	FFFFF444H	00H	PMC27	PMC26	PMC25	PMC24	PMC23	PMC22	PMC21	PMC20		
PMC2H	FFFFF445H	00H	PMC215	PMC214	PMC213	PMC212	PMC211	PMC210	PMC29	PMC28		
PM2L	FFFFF424H	FFH	PM27	PM26	PM25	PM24	PM23	PM22	PM21	PM20		
PM2H	FFFFF425H	FFH	PM215	PM214	PM213	PM212	PM211	PM210	PM209	PM208		
P2L	FFFFF404H	不定	P27	P26	P25	P24	P23	P22	P21	P20		
P2H	FFFFF405H	不定	P215	P214	P213	P212	P211	P210	P29	P28		

アクセス：すべての8ビット・レジスタは8ビットまたは1ビット単位でアクセスできます。

2.5.6 ポート・グループ3

ポート・グループ3は、10ビットのポート・グループです。兼用モードとして、次の機能を持っています。

- ・外部割り込み (INTP7, INTP8)
- ・タイマTAA0チャネル (TIAA00, TIAA01とTOAA00, TOAA01)
- ・タイマTAA1チャネル (TIAA10, TIAA11とTOAA10, TOAA11)
- ・CAN0送受信データ (CTXD0, CRXD0)
- ・CAN1送受信データ (CTXD1, CRXD1)
- ・UARTD0送受信データ (TXDD0, RXDD0)
- ・UARTD0ポー・レート・クロック入力 (ASCKD0)
- ・UARTD2送受信データ (TXDD2, RXDD2)

ポート・グループ3は次の端子で構成されます。

表2-23 ポート・グループ3：端子機能とポート・タイプ

ポート・モード (PMcnm = 0)	各モードにおける端子機能				リセット時 の端子機能	ポート・タイプ		
	兼用モード (PMcnm = 1)							
	PFCE = 0	PFCE = 1	機能3	機能4				
PFC = 0	PFC = 1	PFC = 0	PFC = 1					
P30	TXDD0 (O)	-	-	-	P30 (I)	D0-U		
P31	RXDD0 (I) / INTP7 (I)	-	-	-	P31 (I)	D3-UI		
P32	ASCKD0 (I)	TOAA01 (O)	TIAA00 (I)	TOAA00 (O)	P32 (I)	F1010-U		
P33	TIAA01 (I)	TOAA01 (O)	CTXD0 (O)	禁止	P33 (I)	F100x-U		
P34	TIAA10 (I)	TOAA10 (O)	CRXD0 (I)	禁止	P34 (I)	F101x-U		
P35	TIAA11 (I)	TOAA11 (O)	-	-	P35 (I)	E10-U		
P36 ^{注1}	CTXD1 (O)	-	-	-	P36 (I)	D0-U		
P37 ^{注1}	CRXD1 (I)	-	-	-	P37 (I)	D1-U		
P38 ^{注2}	TXDD2 (O) ^{注1}	-	-	-	P38 (I)	C-U ^{注3} D0-U		
P39 ^{注2}	RXDD2 (I) ^{注1} / INTP8 (I) ^{注2}	-	-	-	P39 (I)	C-U ^{注3} D3-UI		

注1. V850ES/FE3, V850ES/FF3には搭載されていません。

2. V850ES/FE3には搭載されていません。

3. V850ES/FF3のみ

注意 外部割り込み機能（兼用機能）とポート機能を切り替える際は、エッジ検出を行う可能性があるため注意してください。詳細は、2.9 注意事項を参照してください。

備考 兼用機能CRXD0, CTXD0とTOAA01は2つの端子に備わっているため、どの端子で兼用機能を使うかを選択できます。2.2.2 端子機能設定用レジスタを参照してください。

表2-24 ポート・グループ3：設定レジスタ

レジスタ	アドレス	初期値	使用ビット								
V850ES/FE3											
PMC3L	FFFFF446H	00H	0	0	PMC35	PMC34	PMC33	PMC32	PMC31	PMC30	
PM3L	FFFFF426H	FFH	1	1	PM35	PM34	PM33	PM32	PM31	PM30	
PFC3L	FFFFF466H	00H	0	0	PFC35	PFC34	PFC33	PFC32	0	0	
PFCE3L	FFFFF706H	00H	0	0	0	PFCE34	PFCE33	PFCE32	0	0	
P3L	FFFFF406H	不定	x	x	P35	P34	P33	P32	P31	P30	
PU3L	FFFFFC46H	00H	0	0	PU35	PU34	PU33	PU32	PU31	PU30	
V850ES/FF3											
PMC3L	FFFFF446H	00H	0	0	PMC35	PMC34	PMC33	PMC32	PMC31	PMC30	
PM3L	FFFFF426H	FFH	1	1	PM35	PM34	PM33	PM32	PM31	PM30	
PM3H	FFFFF427H	FFH	1	1	1	1	1	1	PM39	PM38	
PM3 (16ビット)	FFFFF426H	FFFFH	PM315-PM38 (PM3H)				PM37-PM30 (PM3L)				
PFC3L	FFFFF466H	00H	0	0	PFC35	PFC34	PFC33	PFC32	0	0	
PFCE3L	FFFFF706H	00H	0	0	0	PFCE34	PFCE33	PFCE32	0	0	
P3L	FFFFF406H	不定	x	x	P35	P34	P33	P32	P31	P30	
P3H	FFFFF407H	不定	x	x	x	x	x	x	P39	P38	
P3 (16ビット)	FFFFF406H	不定	P315-P38 (P3H)				P37-P30 (P3L)				
PU3L	FFFFFC46H	00H	0	0	PU35	PU34	PU33	PU32	PU31	PU30	
PU3H	FFFFFC47H	00H	0	0	0	0	0	0	PU39	PU38	
PU3 (16ビット)	FFFFFC46H	0000H	PU315-PU38 (PU3H)				PU37-PU30 (PU3L)				
V850ESFG3, V850ES/FJ3, V850ES/FK3											
PMC3L	FFFFF446H	00H	PMC37	PMC36	PMC35	PMC34	PMC33	PMC32	PMC31	PMC30	
PMC3H	FFFFF447H	00H	0	0	0	0	0	0	PMC39	PMC38	
PMC3 (16ビット)	FFFFF446H	0000H	PMC315-PMC38 (PMC3H)				PMC37-PMC30 (PMC3L)				
PM3L	FFFFF426H	FFH	PM37	PM36	PM35	PM34	PM33	PM32	PM31	PM30	
PM3H	FFFFF427H	FFH	1	1	1	1	1	1	PM39	PM38	
PM3 (16ビット)	FFFFF426H	FFFFH	PM315-PM38 (PM3H)				PM37-PM30 (PM3L)				
PFC3L	FFFFF466H	00H	0	0	PFC35	PFC34	PFC33	PFC32	0	0	
PFCE3L	FFFFF706H	00H	0	0	0	PFCE34	PFCE33	PFCE32	0	0	
P3L	FFFFF406H	不定	P37	P36	P35	P34	P33	P32	P31	P30	
P3H	FFFFF407H	不定	x	x	x	x	x	x	P39	P38	
P3 (16ビット)	FFFFF406H	不定	P315-P38 (P3H)				P37-P30 (P3L)				
PU3L	FFFFFC46H	00H	PU37	PU36	PU35	PU34	PU33	PU32	PU31	PU30	
PU3H	FFFFFC47H	00H	0	0	0	0	0	0	PU39	PU38	
PU3 (16ビット)	FFFFFC46H	0000H	PU315-PU38 (PU3H)				PU37-PU30 (PU3L)				

備考 x : Don't care

アクセス：すべての8ビット・レジスタは8ビットまたは1ビット単位でアクセスできます。

すべての16ビット・レジスタは16ビット単位でアクセスできます。

2.5.7 ポート・グループ4

ポート・グループ4は、3ビットのポート・グループです。兼用モードとして、次の機能を持っています。

- 外部割り込み (INTP14)
- キー割り込み入力 (KR0-KR2)
- クロック同期式シリアル・インターフェースCSIB0データ / クロック・ライン (SIB0, SOB0, SCKB0)
- UARTD3送受信データ (TXDD3, RXDD3)

ポート・グループ4は、次の端子で構成されます。

表2-25 ポート・グループ4：端子機能とポート・タイプ

ポート・モード (PMCnm = 0)	各モードにおける端子機能				リセット時 の端子機能	ポート・タイプ		
	兼用モード (PMCnm = 1)							
	PFCE = 0	PFCE = 1	機能3	機能4				
	機能1 PFC = 0	機能2 PFC = 1	機能3 PFC = 0	機能4 PFC = 1				
P40	SIB0 (I)	KR0 (I)	RXDD3 (I) ^注 INTP14 (I) ^注	禁止	P40 (I)	E11-U F113x-U ^注		
P41	SOB0 (O)	KR1 (I)	TXDD3 (O) ^注	禁止	P41 (I)	E01-U F010x-U ^注		
P42	SCKB0 (I/O)	KR2 (I)	-	-	P42 (I)	E21-U		

注 V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3のμPD70F3374, 70F3375, V850ES/FJ3のμPD70F3378には搭載されていません。

注意 外部割り込み機能（兼用機能）とポート機能を切り替える際は、エッジ検出を行う可能性があるため注意してください。詳細は、2.9 注意事項を参照してください。

備考 兼用機能RXDD3, TXDD3, INTP14とKR0-KR2は2つの端子に備わっているため、どの端子で兼用機能を使うかを選択できます。2.2.2 端子機能設定用レジスタを参照してください。

表2-26 ポート・グループ4：設定レジスタ

レジスタ	アドレス	初期値	使用ビット							
PMC4	FFFFF448H	00H	0	0	0	0	0	PMC42	PMC41	PMC40
PM4	FFFFF428H	FFH	1	1	1	1	1	PM42	PM41	PM40
PFC4	FFFFF468H	00H	0	0	0	0	0	PFC42	PFC41	PFC40
PFCE4 ^注	FFFFF708H	00H	0	0	0	0	0	0	PFCE41	PFCE40
P4	FFFFF408H	不定	x	x	x	x	x	P42	P41	P40
PU4	FFFFFC48H	00H	0	0	0	0	0	PU42	PU41	PU40

注 V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3のμPD70F3374, 70F3375, V850ES/FJ3のμPD70F3378には搭載されていません。

備考 x : Don't care

アクセス：すべての8ビット・レジスタは8ビットまたは1ビット単位でアクセスできます。

2.5.8 ポート・グループ5

ポート・グループ5は、6ビットのポート・グループです。兼用モードとして、次の機能を持っています。

- ・キー割り込み入力0-5 (KR0-KR5)
- ・N-Wireデバッグ・インターフェース信号 (DDI, DDO, DCK, DMS)
- ・タイマTAB0チャネル (TIAB00-TIAB03, TOAB00-TOAB03)
- ・モータ制御チャネル (TOAB0B1-TOAB0B3, TOAB0T1-TOAB0T3)

ポート・グループ5は次の端子で構成されます。

表2 - 27 ポート・グループ5：端子機能とポート・タイプ

ポート・モード (PMcnm = 0)	各モードにおける端子機能				リセット時 の端子機能 (OCDM0 = 1)	ポート・ タイプ		
	兼用モード (PMcnm = 1)							
	PFCE = 0		PFCE = 1					
	機能1 PFC = 0	機能2 PFC = 1	機能3 PFC = 0	機能4 PFC = 1				
P50	KR0 (I)	TIAB01 (I)	TOAB01 (O)	TOAB0T1 (O)	-	P50 (I)	F1100-U	
P51	KR1 (I)	TIAB02 (I)	TOAB02 (O)	TOAB0B1 (O)	-	P51 (I)	F1100-U	
P52	KR2 (I)	TIAB03 (I)	TOAB03 (O)	TOAB0T2 (O)	DDI (I)	P52 (I) または DDI (I) ^注	F1100O1-U	
P53	KR3 (I)	TIAB00 (I)	TOAB00 (O)	TOAB0B2 (O)	DDO (O)	P53 (I) または DDO (O) ^注	F1100O0-U	
P54	KR4 (I)	禁止	禁止	TOAB0T3 (O)	DCK (I)	P54 (I) または DCK (I) ^注	F1xx0O1-U	
P55	KR5 (I)	禁止	禁止	TOAB0B3 (O)	DMS (I)	P55 (I) または DMS (I) ^注	F1xx0O1-U	

注 DDI, DDO, DCK, DMS端子はオンチップ・デバッグ用の端子です。外部リセット後，DDI, DDO, DCK, DMS端子をオンチップ・デバッグ用端子として使用せず，ポートとして使用する場合は，次の処置が必要です。

OCDMレジスタ（特定レジスタ）のOCDM0ビットをクリア(0)します。

の処置を終えるまでP05/INTP2/DRST端子をロウ・レベル固定にしておきます。

なお，オンチップ・デバッグを使用しない場合，上記処置を行う前にDRST端子にハイ・レベルを入力すると，誤動作（CPUデッドロック）の原因となるため，P05端子の取り扱いには十分注意してください。

P05/INTP2/DRST端子にハイ・レベルを入力しない（ロウ・レベルに固定する）場合は， OCDMレジスタのOCDM0ビットを操作する必要はありません。

P05/INTP2/DRST端子は，プルダウン抵抗（30 kΩ (TYP.)）をバッファに内蔵しているため，外部からロウ・レベル固定に処置する必要はありません。OCDM0ビットをクリア(0)することにより，プルダウン抵抗は切断されます。

詳細は，2.2.2(5) オンチップ・デバッグ・モード・レジスタ(OCDM)と第27章 オンチップ・デバッグ・ユニットを参照してください。

備考 兼用機能TIAB00, TAIB03, TOAB00, TOAB03とKR0-KR2は2つの端子に備わっているため，どの端子で兼用機能を使うかを選択できます。2.2.2 端子機能設定用レジスタを参照してください。

表2-28 ポート・グループ5：設定レジスタ

レジスタ	アドレス	初期値	使用ビット								
PMC5	FFFFF44AH	00H	0	0	PMC55	PMC54	PMC53	PMC52	PMC51	PMC50	
PM5	FFFFF42AH	FFH	1	1	PM55	PM54	PM53	PM52	PM51	PM50	
PFC5	FFFFF46AH	00H	0	0	PFC55	PFC54	PFC53	PFC52	PFC51	PFC50	
PFCE5	FFFFF70AH	00H	0	0	PFCE55	PFCE54	PFCE53	PFCE52	PFCE51	PFCE50	
OCDM	FFFFF9FCH	00H/01H ^注	0	0	0	0	0	0	0	0	OCDM0
P5	FFFFF40AH	不定	x	x	P55	P54	P53	P52	P51	P50	
PU5	FFFFFC4AH	00H	0	0	PU55	PU54	PU53	PU52	PU51	PU50	

注 リセット要因による(2.2.2(5)オンチップ・デバッグ・モード・レジスタ(OCDM)と第27章 オンチップ・デバッグ・ユニットを参照してください)。

備考 x : Don't care

アクセス：すべての8ビット・レジスタは8ビットまたは1ビット単位でアクセスできます。

2.5.9 ポート・グループ6 (V850ES/FJ3, V850ES/FK3)

ポート・グループ6は、16ビットのポート・グループです。兼用モードとして、次の機能を持っています。

- ・外部割り込み (INTP11-INTP13, INTP15)
- ・タイマTAB2チャネル (TIAB20-TIAB23とTOAB20-TOAB23)
- ・クロック同期式シリアル・インターフェースCSIB3データ / クロック (SIB3, SOB3, SCKB3)
- ・CAN2送受信データ (CTXD2, CRXD2)
- ・CAN3送受信データ (CTXD3, CRXD3)
- ・UARTD6送受信データ (TXDD6, RXDD6)
- ・UARTD7送受信データ (TXDD7, RXDD7)
- ・A/Dコンバータ1外部トリガ入力 (ADTRG1)

注意 ポート・グループ6はV850ES/FJ3, V850ES/FK3のみ

ポート・グループ6は、次の端子で構成されます。

表2 - 29 ポート・グループ6：端子機能とポート・タイプ

ポート・モード (PMCnm = 0)	各モードにおける端子機能				リセット時の端子機能	ポート・タイプ		
	兼用モード (PMCnm = 1)							
	PFCE = 0		PFCE = 1					
	機能1 PFC = 0	機能2 PFC = 1	機能3 PFC = 0	機能4 PFC = 1				
P60	禁止	INTP11 (I)	-	-	P60 (I)	表2 - 30 参照		
P61	禁止	INTP12 (I)	-	-	P61 (I)			
P62	TXDD6 (O) ^{注1}	INTP13 (I)	SOB3 (O) ^{注2}	禁止	P62 (I)			
P63	RXDD6 (I) ^{注1} INTP13 (I) ^{注1}	禁止	SIB3 (I) ^{注2}	禁止	P63 (I)			
P64	禁止	禁止	SCKB3 (I/O) ^{注2}	禁止	P64 (I)			
P65	禁止	CTXD2 (O)	-	-	P65 (I)			
P66	禁止	CRXD2 (I)	-	-	P66 (I)			
P67	禁止	CTXD3 (O) ^{注3}	-	-	P67 (I)			
P68	禁止	CRXD3 (I) ^{注3}	-	-	P68 (I)			
P69	ADTRG1 (I) ^{注1}	-	-	-	P69 (I)			
P610	TIAB20 (I)	TOAB20 (O)	-	-	P610 (I)			
P611	TIAB21 (I)	TOAB21 (O)	-	-	P611 (I)			
P612	TIAB22 (I)	TOAB22 (O)	-	-	P612 (I)			
P613	TIAB23 (I)	TOAB23 (O)	-	-	P613 (I)			
P614	TXDD7 (O) ^{注1}	-	-	-	P614 (I)			
P615	RXDD7 (I) ^{注1} / INTP15 (I) ^{注1}	-	-	-	P615 (I)			

注1. V850ES/FK3のみ

2. V850ES/FJ3のμPD70F3378, 70F3379, 70F3380には搭載されていません。
3. V850ES/FJ3のμPD70F3378には搭載されていません。

注意 外部割り込み機能（兼用機能）とポート機能を切り替える際は、エッジ検出を行う可能性があるため注意してください。詳細は、2.9 注意事項を参照してください。

表2-30 ポート・グループ6：ポート・タイプ

ポート	V850ES/FJ3			V850ES/FK3
	μ PD78F3378	μ PD78F3379, μ PD78F3380	μ PD78F3381, μ PD78F3382	
P60	EX1-UI	EX1-UI	EX1-UI	EX1-UI
P61	EX1-UI	EX1-UI	EX1-UI	EX1-UI
P62	EX1-UI	EX1-UI	Fx10x-UI	F010x-UI
P63	C-U	C-U	Fxx1x-U	F3x1x-UI
P64	C-U	C-U	Fxx2x-U	Fxx2x-U
P65	Ex0-U	Ex0-U	Ex0-U	Ex0-U
P66	Ex1-U	Ex1-U	Ex1-U	Ex1-U
P67	C-U	Ex0-U	Ex0-U	Ex0-U
P68	C-U	Ex1-U	Ex1-U	Ex1-U
P69	C-U	C-U	C-U	D1-U
P610	E10-U	E10-U	E10-U	E10-U
P611	E10-U	E10-U	E10-U	E10-U
P612	E10-U	E10-U	E10-U	E10-U
P613	E10-U	E10-U	E10-U	E10-U
P614	C-U	C-U	C-U	D0-U
P615	C-U	C-U	C-U	D3-UI

備考 兼用機能CRXD2とCTXD2は2つの端子に備わっているため、どの端子で兼用機能を使うかを選択できます。

2.2.2 端子機能設定用レジスタ参照してください。

表2-31 ポート・グループ6：設定レジスタ

レジスタ	アドレス	初期値	使用ビット							
PMC6L	FFFFF44CH	00H	PMC67 ^{注1}	PMC66	PMC65	PMC64 ^{注2}	PMC63 ^{注2}	PMC62	PMC61	PMC60
PMC6H	FFFFF44DH	00H	PMC65 ^{注3}	PMC614 ^{注3}	PMC613	PMC612	PMC611	PMC610	PMC69	PMC68 ^{注1}
PMC6(16ビット)	FFFFF44CH	0000H	PMC613-PMC68 (PMC6H)				PMC67-PMC60 (PMC6L)			
PM6L	FFFFF42CH	FFH	PM67	PM66	PM65	PM64	PM63	PM62	PM61	PM60
PM6H	FFFFF42DH	FFH	PM615	PM614	PM613	PM612	PM611	PM610	PM69	PM68
PM6(16ビット)	FFFFF42CH	FFFFH	PM615-PM68 (PM6H)				PM67-PM60 (PM6L)			
PFC6L	FFFFF46CH	00H	PFC67 ^{注1}	PFC66 ^{注1}	PFC65	PFC64	PFC63 ^{注2}	PFC62	PFC61	PFC60
PFC6H	FFFFF46DH	00H	0	0	PFC613	PFC612	PFC611	PFC610	0	PFC68 ^{注1}
PFC6(16ビット)	FFFFF46CH	0000H	PFC613-PFC68 (PFC6H)				PFC67-PFC60 (PFC6L)			
PFCE6L ^{注2}	FFFFF70CH	00H	0	0	0	PFCE64	PFCE63	PFCE62	0	0
P6L	FFFFF40CH	不定	P67	P66	P65	P64	P63	P62	P61	P60
P6H	FFFFF40DH	不定	P615	P614	P613	P612	P611	P610	P69	P68
P6(16ビット)	FFFFF40CH	不定	P615-P68 (P6H)				P67-P60 (P6L)			
PU6L	FFFFFC4CH	00H	PU67	PU66	PU65	PU64	PU63	PU62	PU61	PU60
PU6H	FFFFFC4DH	00H	PU615	PU614	PU613	PU612	PU611	PU610	PU69	PU68
PU6(16ビット)	FFFFFC4CH	0000H	PU615-PU68 (PU6H)				PU67-PU60 (PU6L)			

注1. V850ES/FJ3のμPD70F3378には搭載されていません。

2. V850ES/FJ3のμPD70F3378, 70F3379, 70F3380には搭載されていません。

3. V850ES/FK3のみ

アクセス：すべての8ビット・レジスタは8ビットまたは1ビット単位でアクセスできます。

すべての16ビット・レジスタは16ビット単位でアクセスできます。

2.5.10 ポート・グループ7

ポート・グループ7は、16ビットのポート・グループです。兼用モードとして、次の機能を持っています。

- A/Dコンバータ入力

ポート・グループ7は次の端子で構成されます。

表2-32 ポート・グループ7：端子機能とポート・タイプ

各モードにおける端子機能		リセット時の 端子機能	ポート・ タイプ
ポート・モード ($PMC_{nm} = 0$)	兼用モード ($PMC_{nm} = 1$)		
P70	ANI0(1)	P70(1)	D1A
P71	ANI1(1)	P71(1)	D1A
P72	ANI2(1)	P72(1)	D1A
P73	ANI3(1)	P73(1)	D1A
P74	ANI4(1)	P74(1)	D1A
P75	ANI5(1)	P75(1)	D1A
P76	ANI6(1)	P76(1)	D1A
P77	ANI7(1)	P77(1)	D1A
P78	ANI8(1)	P78(1)	D1A
P79	ANI9(1)	P79(1)	D1A
P710 ^{注1}	ANI10(1)	P710(1)	D1A
P711 ^{注1}	ANI11(1)	P711(1)	D1A
P712 ^{注2}	ANI12(1)	P712(1)	D1A
P713 ^{注2}	ANI13(1)	P713(1)	D1A
P714 ^{注2}	ANI14(1)	P714(1)	D1A
P715 ^{注2}	ANI15(1)	P715(1)	D1A

注1. V850ES/FE3には搭載されていません。

2. V850ES/FE3, V850ES/FF3には搭載されていません。

表2-33 ポート・グループ7：設定レジスタ

レジスタ	アドレス	初期値	使用ビット									
PMC7L	FFFFF44EH	00H	PMC77	PMC76	PMC75	PMC74	PMC73	PMC72	PMC71	PMC70		
PMC7H	FFFFF44FH	00H	PMC715 ^{注1}	PMC714 ^{注1}	PMC713 ^{注1}	PMC712 ^{注1}	PMC711 ^{注2}	PMC710 ^{注2}	PMC79	PMC78		
PM7L	FFFFF42EH	FFH	PM77	PM76	PM75	PM74	PM73	PM72	PM71	PM70		
PM7H	FFFFF42FH	FFH	PM715 ^{注3}	PM714 ^{注3}	PM713 ^{注3}	PM712 ^{注3}	PM711 ^{注4}	PM710 ^{注4}	PM79	PM78		
P7L	FFFFF40EH	不定	P77	P76	P75	P74	P73	P72	P71	P70		
P7H	FFFFF40FH	不定	P715 ^{注1}	P714 ^{注1}	P713 ^{注1}	P712 ^{注1}	P711 ^{注2}	P710 ^{注2}	P79	P78		

注1. V850ES/FG3, V850ES/FJ3, V850ES/FK3のみ。V850ES/FE3, V850ES/FF3では必ず0を設定してください。

2. V850ES/FF3, V850ES/FG3, V850ES/FJ3, V850ES/FK3のみ。V850ES/FE3では必ず0を設定してください。

3. V850ES/FG3, V850ES/FJ3, V850ES/FK3のみ。V850ES/FE3, V850ES/FF3では必ず1を設定してください。

4. V850ES/FF3, V850ES/FG3, V850ES/FJ3, V850ES/FK3のみ。V850ES/FE3では必ず1を設定してください。

アクセス：すべての8ビット・レジスタは8ビットまたは1ビット単位でアクセスできます。

注意 アナログ入力として使用する場合、ポートの状態は読み出しきれません。

2.5.11 ポート・グループ8 (V850ES/FJ3, V850ES/FK3)

ポート・グループ8は、2ビットのポート・グループです。兼用モードとして、次の機能を持っています。

- 外部割り込み (INTP14)
- UARTD3送受信データ (TXDD3, RXDD3)

注意 ポート・グループ8はV850ES/FE3, V850ES/FF3のみ

ポート・グループ8は、次の端子で構成されます。

表2-34 ポート・グループ8：端子機能とポート・タイプ

各モードにおける端子機能		リセット時の 端子機能	ポート・ タイプ
ポート・モード ($PMC_{nm} = 0$)	兼用モード ($PMC_{nm} = 1$)		
P80	RXDD3 (I) ^注 INTP14 (I)	P80 (I)	D1-U/I D3-U/I ^注
P81	TXDD3 (O) ^注	P81 (I)	C-U D0-U ^注

注 V850ES/FJ3のμPD70F3378には搭載されていません。

注意 外部割り込み機能（兼用機能）とポート機能を切り替える際は、エッジ検出を行う可能性があるため注意してください。詳細は、2.9 注意事項を参照してください。

備考 兼用機能INTP14, RXDD3, TXDD3は2つの端子に備わっているため、どの端子で兼用機能を使うかを選択できます。2.2.2 端子機能設定用レジスタを参照してください。

表2-35 ポート・グループ8：設定レジスタ

レジスタ	アドレス	初期値	使用ビット							
PMC8	FFFFF450H	00H	0	0	0	0	0	0	PMC81 ^注	PMC80
PM8	FFFFF430H	FFH	1	1	1	1	1	1	PM81	PM80
P8	FFFFF410H	不定	x	x	x	x	x	x	P81	P80
PU8	FFFFFC50H	00H	0	0	0	0	0	0	PU81	PU80

注 V850ES/FJ3のμPD70F3378には搭載されていません。

備考 x : Don't care

アクセス：すべての8ビット・レジスタは8ビットまたは1ビット単位でアクセスできます。

2.5.12 ポート・グループ9

ポート・グループ9は、16ビットのポート・グループです。兼用モードとして、次の機能を持っています。

- ・外部割り込み (INTP4-INTP6)
- ・キー割り込み入力6, 7 (KR6, KR7)
- ・タイマTAA2チャネル (TIAA20, TIAA21とTOAA20, TOAA21)
- ・タイマTAB0チャネル (TIAB00, TIAB03とTOAB00, TOAB03)
- ・タイマTAB1チャネル (TIAB10-TIAB13とTOAB10-TOAB13)
- ・クロック同期式シリアル・インターフェースCSIB1データ / クロック (SOB1, SIB1, SCKB1)
- ・クロック同期式シリアル・インターフェースCSIB2データ / クロック (SOB2, SIB2, SCKB2)
- ・UARTD1送受信データ (TXDD1, RXDD1)
- ・UARTD4送受信データ (TXDD4, RXDD4)
- ・UARTD5送受信データ (TXDD5, RXDD5)
- ・CAN2送受信データ (CTXD2, CRXD2)
- ・I²Cデータ / クロック (SDA00, SCL00)
- ・プログラマブル・クロック出力 (PCL)

備考 P914とP915は、出力ポート・モード (PMC9.PMC9m = 0, PM9.PM9m = 0)、または兼用機能3 (SDA00, SCL00) の場合、PF9Hレジスタにより通常出力またはオープン・ドレーン出力を選択できます。

ポート・グループ9は、次の端子で構成されます。

表2 - 36 ポート・グループ9：端子機能とポート・タイプ

ポート・モード ($PMC_{nm} = 0$)	各モードにおける端子機能				リセット時の端子機能	ポート・タイプ		
	兼用モード ($PMC_{nm} = 1$)							
	PFCE = 0		PFCE = 1					
	機能1 PFC = 0	機能2 PFC = 1	機能3 PFC = 0	機能4 PFC = 1				
P90	禁止	KR6 (I)	TXDD1 (O)	禁止	P90 (I)	表2 - 37 参照		
P91	禁止	KR7 (I)	RXDD1 (I) / KR7 (I)	禁止	P91 (I)			
P92 ^{注1}	禁止	TIAB11 (I)	TOAB11 (O)	禁止	P92 (I)			
P93 ^{注1}	禁止	TIAB12 (I)	TOAB12 (O)	禁止	P93 (I)			
P94 ^{注1}	禁止	TIAB13 (I)	TOAB13 (O)	禁止	P94 (I)			
P95 ^{注1}	禁止	TIAB10 (I)	TOAB10 (O)	禁止	P95 (I)			
P96	禁止	禁止	TIAA21 (I)	TOAA21 (O)	P96 (I)			
P97	禁止	SIB1 (I)	TIAA20 (I)	TOAA20 (O)	P97 (I)			
P98	禁止	SOB1 (O)	TIAB03 (I)	TOAB03 (O)	P98 (I)			
P99	禁止	SCKB1 (I/O)	TIAB00 (I)	TOAB00 (O)	P99 (I)			
P910 ^{注1}	禁止	SIB2 (I) ^{注2}	CTXD2 (O) ^{注2}	禁止	P910 (I)			
P911 ^{注1}	禁止	SOB2 (O) ^{注2}	CRXD2 (I) ^{注2}	禁止	P911 (I)			
P912 ^{注1}	禁止	SCKB2 (I/O) ^{注2}	禁止	TXDD5 (O) ^{注3}	P912 (I)			
P913	禁止	INTP4 (I)	PCL (O)	RXDD5 (I) ^{注3} / INTP4 (I) ^{注3}	P913 (I)			
P914	禁止	INTP5 (I)	SDA00 (I/O)	RXDD4 (I) ^{注4} / INTP5 (I) ^{注3}	P914 (I)			
P915	禁止	INTP6 (I)	SCL00 (I/O)	TXDD4 (O) ^{注4}	P915 (I)			

- 注1. V850ES/FE3, V850ES/FF3には搭載されていません。
2. V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3には搭載されていません。
3. V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3, V850ES/FJ3の μ PD70F3378には搭載されません。
4. V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3の μ PD70F3374, 70F3375, V850ES/FJ3の μ PD70F3378には搭載されていません。

注意 外部割り込み機能（兼用機能）とポート機能を切り替える際は、エッジ検出を行う可能性があるため注意してください。詳細は、2.9 注意事項を参照してください。

備考 兼用機能TIAB00, TIAB03, TOAB00, TOAB03, CRXD2, CTXD2は2つの端子に備わっているため、どの端子で兼用機能を使うかを選択できます。2.2.2 端子機能設定用レジスタを参照してください。

表2-37 ポート・グループ9：ポート・タイプ

ポート	V850ES/FE3	V850ES/FF3	V850ES/FG3		V850ES/FJ3		V850ES/FK3
			μPD78F3374, μPD78F3375	μPD78F3376A, μPD78F3377A	μPD78F3378	μPD78F3379, μPD78F3380, μPD78F3381, μPD78F3382	
P90	Fx10x-U	Fx10x-U	Fx10x-U	Fx10x-U	Fx10x-U	Fx10x-U	Fx10x-U
P91	Fx13x-U	Fx13x-U	Fx13x-U	Fx13x-U	Fx13x-U	Fx13x-U	Fx13x-U
P92	-	-	Fx10x-U	Fx10x-U	Fx10x-U	Fx10x-U	Fx10x-U
P93	-	-	Fx10x-U	Fx10x-U	Fx10x-U	Fx10x-U	Fx10x-U
P94	-	-	Fx10x-U	Fx10x-U	Fx10x-U	Fx10x-U	Fx10x-U
P95	-	-	Fx10x-U	Fx10x-U	Fx10x-U	Fx10x-U	Fx10x-U
P96	Fxx10-U	Fxx10-U	Fxx10-U	Fxx10-U	Fxx10-U	Fxx10-U	Fxx10-U
P97	Fx110-U	Fx110-U	Fx110-U	Fx110-U	Fx110-U	Fx110-U	Fx110-U
P98	Fx010-U	Fx010-U	Fx010-U	Fx010-U	Fx010-U	Fx010-U	Fx010-U
P99	Fx210-U	Fx210-U	Fx210-U	Fx210-U	Fx210-U	Fx210-U	Fx210-U
P910	-	-	C-U	C-U	Fx10x-U	Fx10x-U	Fx10x-U
P911	-	-	C-U	C-U	Fx01x-U	Fx01x-U	Fx01x-U
P912	-	-	C-U	C-U	Ex2-U	Fx2x0-U	Fx2x0-U
P913	Fx10x-UI	Fx10x-UI	Fx10x-UI	Fx10x-UI	Fx10x-UI	Fx103-UI	Fx103-UI
P914	Fx12x-UFI	Fx12x-UFI	Fx12x-UFI	Fx123-UFI	Fx12x-UFI	Fx123-UFI	Fx123-UFI
P915	Fx12x-UFI	Fx12x-UFI	Fx12x-UFI	Fx120-UFI	Fx12x-UFI	Fx120-UFI	Fx120-UFI

表2 - 38 ポート・グループ9：設定レジスタ (V850ES/FE3, V850ES/FF3)

レジスタ	アドレス	初期値	使用ビット							
PMC9L	FFFFF452H	00H	PMC97	PMC96	0	0	0	0	PMC91	PMC90
PMC9H	FFFFF453H	00H	PMC915	PMC914	PMC913	0	0	0	PMC99	PMC98
PMC9 (16ビット)	FFFFF452H	0000H	PMC915-PMC98 (PMC9H)				PMC97-PMC90 (PMC9L)			
PM9L	FFFFF432H	FFH	PM97	PM96	1	1	1	1	PM91	PM90
PM9H	FFFFF433H	FFH	PM915	PM914	PM913	1	1	1	PM99	PM98
PM9 (16ビット)	FFFFF432H	FFFFH	PM915-PM98 (PM9H)				PM97-PM90 (PM9L)			
PFC9L	FFFFF472H	00H	PFC97	PFC96	0	0	0	0	PFC91	PFC90
PFC9H	FFFFF473H	00H	PFC915	PFC914	PFC913	0	0	0	PFC99	PFC98
PFC9 (16ビット)	FFFFF472H	0000H	PFC915-PFC98 (PFC9H)				PFC97-PFC90 (PFC9L)			
PFCE9L	FFFFF712H	00H	PFCE97	PFCE96	0	0	0	0	PFCE91	PFCE90
PFCE9H	FFFFF713H	00H	PFCE915	PFCE914	PFCE913	0	0	0	PFCE99	PFCE98
PFCE9 (16ビット)	FFFFF712H	0000H	PFCE915-PFCE98 (PFCE9H)				PFCE97-PFCE90 (PFCE9L)			
P9L	FFFFF412H	不定	P97	P96	x	x	x	x	P91	P90
P9H	FFFFF413H	不定	P915	P914	P913	x	x	x	P99	P98
P9 (16ビット)	FFFFF412H	不定	P915-P98 (P9H)				P97-P90 (P9L)			
PU9L	FFFFFC52H	00H	PU97	PU96	0	0	0	0	PU91	PU90
PU9H	FFFFFC53H	00H	PU915	PU914	PU913	0	0	0	PU99	PU98
PU9 (16ビット)	FFFFFC52H	0000H	PU915-PU98 (PU9H)				PU97-PU90 (PU9L)			
PF9H	FFFFFC73H	00H	PF915	PF914	0	0	0	0	0	0

備考 1. P914とP915は、出力ポート・モード (PMC9.PMC9m = 0 , PM9.PM9m = 0)、または兼用機能3 (SDA00, SCL00) の場合、PF9Hレジスタにより通常出力またはオープン・ドレーン出力を選択できます。詳細は、

2. 2. 5 オープン・ドレーン設定用レジスタを参照してください。

2. x : Don't care

アクセス：すべての8ビット・レジスタは8ビットまたは1ビット単位でアクセスできます。

すべての16ビット・レジスタは16ビット単位でアクセスできます。

表2 - 39 ポート・グループ9：設定レジスタ (V850ES/FG3, V850ES/FJ3, V850ES/FK3)

レジスタ	アドレス	初期値	使用ビット								
PMC9L	FFFFF452H	00H	PMC97	PMC96	PMC95	PMC94	PMC93	PMC92	PMC91	PMC90	
PMC9H	FFFFF453H	00H	PMC915	PMC914	PMC913	PMC912 ^{注1}	PMC911 ^{注1}	PMC910 ^{注1}	PMC99	PMC98	
PMC9 (16ビット)	FFFFF452H	0000H	PMC915-PMC98 (PMC9H)				PMC97-PMC90 (PMC9L)				
PM9L	FFFFF432H	FFH	PM97	PM96	PM95	PM94	PM93	PM92	PM91	PM90	
PM9H	FFFFF433H	FFH	PM915	PM914	PM913	PM912	PM911	PM910	PM99	PM98	
PM9 (16ビット)	FFFFF432H	FFFFH	PM915-PM98 (PM9H)				PM97-PM90 (PM9L)				
PFC9L	FFFFF472H	00H	PFC97	PFC96	PFC95	PFC94	PFC93	PFC92	PFC91	PFC90	
PFC9H	FFFFF473H	00H	PFC915	PFC914	PFC913	PFC912 ^{注1}	PFC911 ^{注1}	PFC910 ^{注1}	PFC99	PFC98	
PFC9 (16ビット)	FFFFF472H	0000H	PFC915-PFC98 (PFC9H)				PFC97-PFC90 (PFC9L)				
PFCE9L	FFFFF712H	00H	PFCE97	PFCE96	PFCE95	PFCE94	PFCE93	PFCE92	PFCE91	PFCE90	
PFCE9H	FFFFF713H	00H	PFCE915	PFCE914	PFCE913	PFCE912 ^{注2}	PFCE911 ^{注1}	PFCE910 ^{注1}	PFCE99	PFCE98	
PFCE9 (16ビット)	FFFFF712H	0000H	PFCE915-PFCE98 (PFCE9H)				PFCE97-PFCE90 (PFCE9L)				
P9L	FFFFF412H	不定	P97	P96	P95	P94	P93	P92	P91	P90	
P9H	FFFFF413H	不定	P915	P914	P913	P912	P911	P910	P99	P98	
P9 (16ビット)	FFFFF412H	不定	P915-P98 (P9H)				P97-P90 (P9L)				
PU9L	FFFFFC52H	00H	PU97	PU96	PU95	PU94	PU93	PU92	PU91	PU90	
PU9H	FFFFFC53H	00H	PU915	PU914	PU913	PU912	PU911	PU910	PU99	PU98	
PU9 (16ビット)	FFFFFC52H	0000H	PU915-PU98 (PU9H)				PU97-PU90 (PU9L)				
PF9H	FFFFFC73H	00H	PF915	PF914	0	0	0	0	0	0	

注1. V850ES/FG3には搭載されていません。

2. V850ES/FJ3のμPD70F3378, V850ES/FG3には搭載されていません。

備考 P914とP915は、出力ポート・モード (PMC9.PMC9m = 0 , PM9.PM9m = 0) , または兼用機能3 (SDA00, SCL00) の場合 , PF9Hレジスタにより通常出力またはオープン・ドレーン出力を選択できます。詳細は , 2.2.5 オープン・ドレーン設定用レジスタを参照してください。

アクセス : すべての8ビット・レジスタは8ビットまたは1ビット単位でアクセスできます。

すべての16ビット・レジスタは16ビット単位でアクセスできます。

2.5.13 ポート・グループ12 (V850ES/FJ3, V850ES/FK3)

ポート・グループ12は、8ビットのポート・グループです。兼用モードとして、次の機能を持っています。

- A/Dコンバータ入力

ポート・グループ12は次の端子で構成されます。

注意 ポート・グループ12はV850ES/FJ3, V850ES/FK3のみ

表2-40 ポート・グループ12：端子機能とポート・タイプ

各モードにおける端子機能 ポート・モード ($PMC_{nm} = 0$)	兼用モード ($PMC_{nm} = 1$)	リセット時の 端子機能	ポート・
			タイプ
P120	ANI16 (I)	P120 (I)	D1A
P121	ANI17 (I)	P121 (I)	D1A
P122	ANI18 (I)	P122 (I)	D1A
P123	ANI19 (I)	P123 (I)	D1A
P124	ANI20 (I)	P124 (I)	D1A
P125	ANI21 (I)	P125 (I)	D1A
P126	ANI22 (I)	P126 (I)	D1A
P127	ANI23 (I)	P127 (I)	D1A

表2-41 ポート・グループ12：設定レジスタ

レジスタ	アドレス	初期値	使用ビット								
PMC12	FFFFF458H	00H	PMC127	PMC126	PMC125	PMC124	PMC123	PMC122	PMC121	PMC120	
PM12	FFFFF438H	FFH	PM127	PM126	PM125	PM124	PM123	PM122	PM121	PM120	
P12	FFFFF418H	不定	P127	P126	P125	P124	P123	P122	P121	P120	

アクセス：すべての8ビット・レジスタは8ビットまたは1ビット単位でアクセスできます。

注意 アナログ入力 (ANIn) として使用する場合、ポートの状態の読み出しあは禁止します。

2.5.14 ポート・グループ15 (V850ES/FK3)

ポート・グループ15は、8ビットのポート・グループです。兼用モードとして、次の機能を持っています。

- ・タイマTAA5チャネル (TIAA50, TIAA51とTOAA50, TOAA51)
- ・タイマTAA6チャネル (TIAA60, TIAA61とTOAA60, TOAA61)
- ・タイマTAA7チャネル (TIAA70, TIAA71とTOAA70, TOAA71)
- ・CAN4送受信データ (CTXD4, CRXD4)

ポート・グループ15は次の端子で構成されます。

注意 ポート・グループ15はV850ES/FK3のみ

表2-42 ポート・グループ15：端子機能とポート・タイプ

ポート・モード (PMCnm = 0)	各モードにおける端子機能		リセット時の端子機能	ポート・タイプ		
	兼用モード (PMCnm = 1)					
	機能1 PFC = 0	機能2 PFC = 1				
P150	TIAA50 (I)	TOAA50 (O)	P150 (I)	E10-U		
P151	TIAA51 (I)	TOAA51 (O)	P151 (I)	E10-U		
P152	TIAA60 (I)	TOAA60 (O)	P152 (I)	E10-U		
P153	TIAA61 (I)	TOAA61 (O)	P153 (I)	E10-U		
P154	TIAA70 (I)	TOAA70 (O)	P154 (I)	E10-U		
P155	TIAA71 (I)	TOAA71 (O)	P155 (I)	E10-U		
P156	CTXD4 (O)	-	P156 (I)	D0-U		
P157	CRXD4 (I)	-	P157 (I)	D1-U		

備考 兼用機能CRXD0とCTXD0は2つの端子に備わっているため、どの端子で兼用機能を使うかを選択できます。

2.2.2 端子機能設定用レジスタを参照してください。

表2-43 ポート・グループ15：設定レジスタ

レジスタ	アドレス	初期値	使用ビット									
PMC15	FFFFF45EH	00H	PMC157	PMC156	PMC155	PMC154	PMC153	PMC152	PMC151	PMC150		
PM15	FFFFF43EH	FFH	PM157	PM156	PM155	PM154	PM153	PM152	PM151	PM150		
PFC15	FFFFF47EH	00H	0	0	PFC155	PFC154	PFC153	PFC152	PFC151	PFC150		
P15	FFFFF41EH	不定	P157	P156	P155	P154	P153	P152	P151	P150		
PU15	FFFFFC5EH	00H	PU157	PU156	PU155	PU154	PU153	PU152	PU151	PU150		

アクセス：すべての8ビット・レジスタは8ビットまたは1ビット単位でアクセスできます。

2.5.15 ポート・グループCD (V850ES/FJ3, V850ES/FK3)

ポート・グループCDは、4ビットのポート・グループです。このポート・グループの端子は、ポート・モードでのみ機能します。

ポート・グループCDは次の端子で構成されます。

注意 ポート・グループCDはV850ES/FJ3, V850ES/FK3のみ

表2-44 ポート・グループCD：端子機能とポート・タイプ

ポート・モード	リセット時の端子機能	ポート・タイプ
PCD0	PCD0 (I)	C
PCD1	PCD1 (I)	C
PCD2	PCD2 (I)	C
PCD3	PCD3 (I)	C

表2-45 ポート・グループCD：設定レジスタ

レジスタ	アドレス	初期値	使用ビット							
PMCD	FFFFF02EH	FFH	1	1	1	1	PMCD3	PMCD2	PMCD1	PMCD0
PCD	FFFFF00EH	不定	x	x	x	x	PCD3	PCD2	PCD1	PCD0

備考 x : Don't care

アクセス：すべての8ビット・レジスタは8ビットまたは1ビット単位でアクセスできます。

2.5.16 ポート・グループCM

ポート・グループCMは、6ビットのポート・グループです。兼用モードとして、次の機能を持っています。

- 外部メモリ・インターフェース・データ・ウェイト要求 ($\overline{\text{WAIT}}$)
- CPUシステム・クロック出力 (CLKOUT)
- バス・ホールド要求入力 (HLDREQ)
- バス・ホールド・アクノリッジ出力 (HLDACK)

ポート・グループCMは次の端子で構成されます。

表2-46 ポート・グループCM：端子機能とポート・タイプ

各モードにおける端子機能		リセット時の 端子機能	ポート・ タイプ
ポート・モード ($\text{PMCnm} = 0$)	兼用モード ($\text{PMCnm} = 1$)		
PCM0	$\overline{\text{WAIT}}(1)^{\text{注1}}$	PCM0(1)	C D1 ^{注1}
PCM1	CLKOUT(0)	PCM1(1)	D0
PCM2 ^{注2}	$\overline{\text{HLDACK}}(0)^{\text{注1}}$	PCM2(1)	C D0 ^{注1}
PCM3 ^{注2}	$\overline{\text{HLDREQ}}(1)^{\text{注1}}$	PCM3(1)	C D1 ^{注1}
PCM4 ^{注1}	-	PCM4(1)	C
PCM5 ^{注1}	-	PCM5(1)	C

注1. V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3には搭載され
ていません。

2. V850ES/FE3には搭載されていません。

表2-47 ポート・グループCM：設定レジスタ

レジスタ	アドレス	初期値	使用ビット								
			0	0	0	0	PMCCM3 ^{注1}	PMCCM2 ^{注1}	PMCCM1	PMCCM0 ^{注1}	
PMCCM	FFFFF04CH	00H	0	0	0	0	PMCCM3 ^{注1}	PMCCM2 ^{注1}	PMCCM1	PMCCM0 ^{注1}	
PMCM	FFFFF02CH	FFH	1	1	PMCM5 ^{注1}	PMCM4 ^{注1}	PMCM3 ^{注2}	PMCM2 ^{注2}	PMCM1	PMCM0	
PCM	FFFFF00CH	不定	x	x	PCM5 ^{注1}	PCM4 ^{注1}	PCM3 ^{注2}	PCM2 ^{注2}	PCM1	PCM0	

注1. V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3には搭載されていません。

2. V850ES/FE3には搭載されていません。

備考 x : Don't care

アクセス：すべての8ビット・レジスタは8ビットまたは1ビット単位でアクセスできます。

2.5.17 ポート・グループCS (V850ES/FF3, V850ES/FG3, V850ES/FJ3, V850ES/FK3)

ポート・グループCSは、8ビットのポート・グループです。兼用モードとして、次の機能を持っています。

- 外部メモリ・インターフェース・チップ・セレクト信号 ($\overline{\text{CS}0}$ - $\overline{\text{CS}3}$)

ポート・グループCSは次の端子で構成されます。

注意 ポート・グループCSはV850ES/FF3, V850ES/FG3, V850ES/FJ3, V850ES/FK3のみ

表2-48 ポート・グループCS：端子機能とポート・タイプ

各モードにおける端子機能		リセット時の 端子機能	ポート・ タイプ
ポート・モード ($\text{PMCn}m = 0$)	兼用モード ($\text{PMCn}m = 1$)		
PCS0	$\overline{\text{CS}0}$ (O) ^注	PCS0 (I)	C D_0 ^注
PCS1	$\overline{\text{CS}1}$ (O) ^注	PCS1 (I)	C D_0 ^注
PCS2 ^注	$\overline{\text{CS}2}$ (O) ^注	PCS2 (I)	D0
PCS3 ^注	$\overline{\text{CS}3}$ (O) ^注	PCS3 (I)	D0
PCS4 ^注	-	PCS4 (I)	C
PCS5 ^注	-	PCS5 (I)	C
PCS6 ^注	-	PCS6 (I)	C
PCS7 ^注	-	PCS7 (I)	C

注 V850ES/FF3, V850ES/FG3には搭載されていません。

表2-49 ポート・グループCS：設定レジスタ

レジスタ	アドレス	初期値	使用ビット								
PMCCS ^注	FFFFF048H	00H	0	0	0	0	PMCCS3	PMCCS2	PMCCS1	PMCCS0	
PMCS	FFFFF028H	FFH	PMCS7 ^注	PMCS6 ^注	PMCS5 ^注	PMCS4 ^注	PMCS3 ^注	PMCS2 ^注	PMCS1	PMCS0	
PCS	FFFFF008H	不定	PCS7 ^注	PCS6 ^注	PCS5 ^注	PCS4 ^注	PCS3 ^注	PCS2 ^注	PCS1	PCS0	

注 V850ES/FF3, V850ES/FG3には搭載されていません。

アクセス：すべての8ビット・レジスタは8ビットまたは1ビット単位でアクセスできます。

2.5.18 ポート・グループCT (V850ES/FF3, V850ES/FG3, V850ES/FJ3, V850ES/FK3)

ポート・グループCTは、8ビットのポート・グループです。兼用モードとして、外部メモリ・インターフェース・リード／ライト／アドレス・ストローブ (\overline{RD} , $\overline{WR0}$, $\overline{WR1}$, ASTB) 用の端子を持っています。

ポート・グループCTは次の端子で構成されます。

注意 ポート・グループCSはV850ES/FF3, V850ES/FG3, V850ES/FJ3, V850ES/FK3のみ

表2-50 ポート・グループCT：端子機能とポート・タイプ

各モードにおける端子機能		リセット時の 端子機能	ポート・ タイプ
ポート・モード ($PMC_{nm} = 0$)	兼用モード ($PMC_{nm} = 1$)		
PCT0	$\overline{WR0}$ (O) ^注	PCT0 (I)	C D0 ^注
PCT1	$\overline{WR1}$ (O) ^注	PCT1 (I)	C D0 ^注
PCT2 ^注	-	PCT2 (I)	C
PCT3 ^注	-	PCT3 (I)	C
PCT4	\overline{RD} (I) ^注	PCT4 (I)	C D0 ^注
PCT5 ^注	-	PCT5 (I)	C
PCT6	ASTB (O) ^注	PCT6 (I)	C D0 ^注
PCT7 ^注	-	PCT7 (I)	C

注 V850ES/FF3, V850ES/FG3には搭載されていません。

表2-51 ポート・グループCT：設定レジスタ

レジスタ	アドレス	初期値	使用ビット								
			0	PMCC7	0	PMCC4	0	0	PMCT1	PMCT0	
PMCC ^注	FFFFF04AH	00H	0	PMCC7	0	PMCC4	0	0	PMCT1	PMCT0	
PMCT	FFFFF02AH	FFH	PMCT7 ^注	PMCT6	PMCT5 ^注	PMCT4	PMCT3 ^注	PMCT2 ^注	PMCT1	PMCT0	
PCT	FFFFF00AH	不定	PCT7 ^注	PCT6	PCT5 ^注	PCT4	PCT3 ^注	PCT2 ^注	PCT1	PCT0	

注 V850ES/FF3, V850ES/FG3には搭載されていません。

アクセス：すべての8ビット・レジスタは8ビットまたは1ビット単位でアクセスできます。

2.5.19 ポート・グループDL

ポート・グループDLは、16ビットのポート・グループです。兼用モードとして、次の機能を持っています。

- 外部メモリ・インターフェース・アドレス / データ・ライン0-15 (AD0-AD15)

ポート・グループDLは次の端子で構成されます。

表2 - 52 ポート・グループDL：端子機能とポート・タイプ

各モードにおける端子機能		リセット時の 端子機能	ポート・ タイプ
ポート・モード ($PMC_{nm} = 0$)	兼用モード ($PMC_{nm} = 1$)		
PDL0	AD0 (I/O) ^{注1}	PDL0 (I)	C D2 ^{注1}
PDL1	AD1 (I/O) ^{注1}	PDL1 (I)	C D2 ^{注1}
PDL2	AD2 (I/O) ^{注1}	PDL2 (I)	C D2 ^{注1}
PDL3	AD3 (I/O) ^{注1}	PDL3 (I)	C D2 ^{注1}
PDL4	AD4 (I/O) ^{注1}	PDL4 (I)	C D2 ^{注1}
PDL5	AD5 (I/O) ^{注1} / FLMD1 (I) ^{注2}	PDL5 (I)	C D2 ^{注1}
PDL6	AD6 (I/O) ^{注1}	PDL6 (I)	C D2 ^{注1}
PDL7	AD7 (I/O) ^{注1}	PDL7 (I)	C D2 ^{注1}
PDL8 ^{注3}	AD8 (I/O) ^{注1}	PDL8 (I)	C D2 ^{注1}
PDL9 ^{注3}	AD9 (I/O) ^{注1}	PDL9 (I)	C D2 ^{注1}
PDL10 ^{注3}	AD10 (I/O) ^{注1}	PDL10 (I)	C D2 ^{注1}
PDL11 ^{注3}	AD11 (I/O) ^{注1}	PDL11 (I)	C D2 ^{注1}
PDL12 ^{注4}	AD12 (I/O) ^{注1}	PDL12 (I)	C D2 ^{注1}
PDL13 ^{注4}	AD13 (I/O) ^{注1}	PDL13 (I)	C D2 ^{注1}
PDL14 ^{注1}	AD14 (I/O) ^{注1}	PDL14 (I)	D2
PDL15 ^{注1}	AD15 (I/O) ^{注1}	PDL15 (I)	D2

注1. V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3には搭載されていません。

2. FLMD1端子は、フラッシュ・プログラミング・モード時に設定する端子のため、ポート制御用レジスタで操作する必要はありません。詳細は、第7章 フラッシュ・メモリを参照してください。
3. V850ES/FE3には搭載されていません。
4. V850ES/FE3, V850ES/FF3には搭載されていません。

表2 - 53 ポート・グループDL : 設定レジスタ

レジスタ	アドレス	初期値	使用ビット								
PMCDLL ^{注1}	FFFFF044H	00H	PMCDL7	PMCDL6	PMCDL5	PMCDL4	PMCDL3	PMCDL2	PMCDL1	PMCDL0	
PMCDLH ^{注1}	FFFFF045H	00H	PMCDL15	PMCDL14	PMCDL13	PMCDL12	PMCDL11	PMCDL10	PMCDL9	PMCDL8	
PMCDL(16ビット) ^{注1}	FFFFF044H	0000H	PMCDL15-PMCDL8 (PMCDLH)				PMCDL7-PMCDL0 (PMCDLL)				
PMDLL	FFFFF024H	FFH	PMDL7	PMDL6	PMDL5	PMDL4	PMDL3	PMDL2	PMDL1	PMDL0	
PMDLH ^{注2}	FFFFF025H	FFH	PMDL15 ^{注1}	PMDL14 ^{注1}	PMDL13 ^{注3}	PMDL12 ^{注3}	PMDL11	PMDL10	PMDL9	PMDL8	
PMDL(16ビット) ^{注2}	FFFFF024H	FFFFH	PMDL15-PMDL8 (PMDLH)				PMDL7-PMDL0 (PMDLL)				
PDLL	FFFFF004H	不定	PDL7	PDL6	PDL5	PDL4	PDL3	PDL2	PDL1	PDL0	
PDLH ^{注2}	FFFFF005H	不定	PDL15 ^{注1}	PDL14 ^{注1}	PDL13 ^{注3}	PDL12 ^{注3}	PDL11	PDL10	PDL9	PDL8	
PDL(16ビット) ^{注2}	FFFFF004H	不定	PDL15-PDL8 (PDLH)				PDL7-PDL0 (PDLL)				

注 1. V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3には搭載されていません。

2. V850ES/FE3には搭載されていません。

3. V850ES/FE3, V850ES/FF3には搭載されていません。

アクセス：すべての8ビット・レジスタは8ビットまたは1ビット単位でアクセスできます。

すべての16ビット・レジスタは16ビット単位でアクセスできます。

2.6 ノイズ除去

端子は、アナログ・フィルタ、デジタル・フィルタ、またはその両方を搭載しているものがあります。

2.6.1 アナログ・フィルタ処理を行う入力

下記の入力信号はアナログ・フィルタ処理を行います。

- ・ノンマスカブル割り込み (NMI)
- ・外部割り込み (INTPn)
- ・キー割り込み入力 (KRn)
- ・タイマAAトリガ入力 (TIAAnm)
- ・タイマABトリガ入力 (TIABnm)
- ・A/Dコンバータ外部入力トリガ (ADTRG, ADTRG1)
- ・N-Wireデバッグ・インターフェース・リセット (\overline{DRST})

アナログ・フィルタは、通常モードおよびスタンバイ・モードで動作しますが、対応する端子が兼用モードで動作するときのみ有効で、汎用I/Oポートとして動作する場合は無効です。

アナログ・フィルタ処理を行う入力信号は、入力信号を一定時間以上維持する必要があります。詳細は、データ・シート^注を参照してください。

- 注 μ PD70F3370A, 70F3371 データ・シート (U18640J)
 μ PD70F3372, 70F3373 データ・シート (U18639J)
 μ PD70F3374, 70F3375, 70F3376A, 70F3377A データ・シート (U18638J)
 μ PD70F3378, 70F3379, 70F3380, 70F3381, 70F3382 データ・シート (U18608J)
 μ PD70F3383, 70F3384, 70F3385 データ・シート (U18637J)

2.6.2 ディジタル・フィルタ処理を行う入力

入力信号INTP3は、アナログとディジタルの両方のフィルタを搭載しており、選択が可能です。

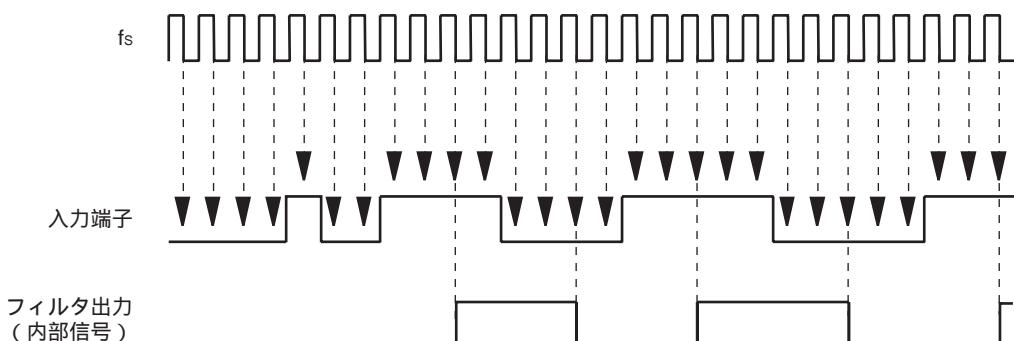
ディジタル・フィルタはPLLが動作状態であるすべてのモードで動作します。ディジタル・フィルタはPLL動作が停止するスタンバイ・モードでは動作しません（サンプリング・クロックにfxTを使用した場合は、スタンバイ・モードでも動作します）。ディジタル・フィルタは、対応する端子が兼用モードで動作するときのみ有効で、汎用I/Oポートとして動作する場合は無効です。

フィルタ動作： 入力端子信号は、サンプリング周波数fsでサンプリングされます。サンプリング・サイクルN-1よりも短いノイズは除去され、内部信号は生成されません。サンプリング・サイクルNよりも長いパルスは、有効パルスとして認識され、内部信号が生成されます。サンプリング・サイクルN-1とN間のパルスは、ノイズとして除去、または有効エッジとして検出されます。ディジタル・ノイズ・フィルタの特性は、レジスタNFCで設定します。

- ・ fsはNFC.NFC [2:0]で選択するサンプリング周波数です。
- ・ NはNFC.NFSTSで定義されます。Nは2または3の選択が可能です。

NFC.NFSTS = 0 (N = 3) の場合のフィルタ動作を図2-53に示します。

図2-53 NFC.NFSTS = 0 (N = 3) のときのディジタル・ノイズ除去例



(1) ディジタル・ノイズ・フィルタ制御レジスタ (NFC)

8ビットのNFCレジスタはINTP3信号のノイズ除去回路を指定します。

アクセス： 8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

アドレス： FFFFFF318H

初期値： リセットにより00Hになります。

7	6	5	4	3	2	1	0
NFEN	NFSTS	0	0	0	NFC2	NFC1	NFC0

R/W R/W R R R R/W R/W R/W

表2 - 54 NFCレジスタの内容

ビット位置	ビット名	機能																																																			
7	NFEN	INTP3端子のディジタル・ノイズ除去の設定 0：ディジタル・ノイズ除去を行わない 1：ディジタル・ノイズ除去を行う																																																			
6	NFSTS	外部信号を有効にするfsのサンプリング周期数Nの設定 0：N = 3 1：N = 2																																																			
2-0	NFC [2:0]	ディジタル・ノイズを除去するサンプリング周波数fsの設定																																																			
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">NFC2</th><th rowspan="2">NFC1</th><th rowspan="2">NFC0</th><th colspan="2">サンプリング周波数fs</th></tr> <tr> <th>OB_7B.PRSI = 0</th><th>OB_7B.PRSI = 1</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>fxx/64</td><td>fxx/128</td></tr> <tr> <td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>fxx/128</td><td>fxx/256</td></tr> <tr> <td>0</td><td>1</td><td>0</td><td>fxx/256</td><td>fxx/512</td></tr> <tr> <td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>fxx/512</td><td>fxx/1024</td></tr> <tr> <td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>fxx/1024</td><td>fxx/2048</td></tr> <tr> <td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>fxT</td><td>fxT</td></tr> <tr> <td>1</td><td>1</td><td>0</td><td colspan="2" style="text-align: center;">設定禁止</td></tr> <tr> <td>1</td><td>1</td><td>1</td><td colspan="2" style="text-align: center;"></td></tr> </tbody> </table>					NFC2	NFC1	NFC0	サンプリング周波数fs		OB_7B.PRSI = 0	OB_7B.PRSI = 1	0	0	0	fxx/64	fxx/128	0	0	1	fxx/128	fxx/256	0	1	0	fxx/256	fxx/512	0	1	1	fxx/512	fxx/1024	1	0	0	fxx/1024	fxx/2048	1	0	1	fxT	fxT	1	1	0	設定禁止		1	1	1		
NFC2	NFC1	NFC0	サンプリング周波数fs																																																		
			OB_7B.PRSI = 0	OB_7B.PRSI = 1																																																	
0	0	0	fxx/64	fxx/128																																																	
0	0	1	fxx/128	fxx/256																																																	
0	1	0	fxx/256	fxx/512																																																	
0	1	1	fxx/512	fxx/1024																																																	
1	0	0	fxx/1024	fxx/2048																																																	
1	0	1	fxT	fxT																																																	
1	1	0	設定禁止																																																		
1	1	1																																																			

注意 サンプリング・クロック変更後、ディジタル・ノイズ除去回路が初期化されるのに、サンプリング・クロック×N（選択しているサンプリング周期数N = 3または2）の時間がかかります。そのため、サンプリング・クロックを変更してから前記の時間までに、INTP3の有効エッジが入力されると、割り込み要求が発生する可能性があります。したがって、割り込み機能、DMA機能を使用する場合は、次の点に注意してください。

- 割り込み機能使用時は、サンプリング・クロック×N（選択しているサンプリング周期数N = 3または2）クロック経過後、割り込み要求フラグ(PIC3.PIF3ビット)をクリアしてから、割り込みを許可してください。
- DMA機能使用時(INTP3で起動)は、DMAを許可してください。

- 備考**1. オプション・バイトによってPRSIを設定します。詳細は、**第8章 オプション・バイト**を参照してください。
2. f_s を $f_{xx}/64$, $f_{xx}/128$, $f_{xx}/256$, $f_{xx}/512$, $f_{xx}/1024$, $f_{xx}/2048$ に設定した場合、IDLE1, IDLE2モード、STOPモード時にサンプリング・クロックが停止するので、スタンバイ解除要因として使用できません。この場合、 f_s を f_{XT} に設定、またはアナログ・ノイズ除去回路を接続（デジタル・ノイズ回路を行わない設定）することで、スタンバイ解除要因として使用することができます。
3. f_{xx} = システム・クロック
 f_{XT} = サブ発振周波数

2.7 リセット時とスタンバイ機能使用時の端子機能

表2-55は、リセット時およびスタンバイ機能使用時、それらの動作状態が解除され通常動作モードになったときの端子状態を示しています。

N-Wireデバッガ・インターフェース端子であるDRST, DDI, DDO, DCK, DMSは、リセット解除後の動作がリセット要因によって異なります。外部RESETまたは内部のパワーオン・クリア要因では、すべての端子が入力モードに設定されますが、その他の内部リセット要因では、端子はデバッガで使用可能になります。

HALTモードはCPUの動作を中断するだけなので、端子状態に影響しません。

表2-55 端子機能とリセット/スタンバイ機能

動作状態		端子機能
外部RESET	リセット中	<ul style="list-style-type: none"> P05/DRST : P05ポート入力、内部ブルダウン抵抗接続。 その他の端子 : ハイ・インピーダンス
	リセット後	<ul style="list-style-type: none"> P05/DRST : DRST入力、内部ブルダウン抵抗接続。 P52/DDI, P54/DCK, P55/DMS : DDI, DCK, DMS入力 P53/DDO : DDO出力 その他の端子 : 入力ポート・モード
パワーオン・クリア(POC) ^{注1}	リセット中	<ul style="list-style-type: none"> P05/DRST : P05ポート入力、内部ブルダウン抵抗接続。 その他の端子 : ハイ・インピーダンス
	リセット後	<ul style="list-style-type: none"> P05/DRST : P05ポート入力(内部ブルダウン抵抗切断) その他の端子 : 入力ポート・モード
その他のリセット要因	リセット中	<ul style="list-style-type: none"> P05/DRST, P52/DDI, P53/DDO, P54/DCK, P55/DMS : リセット前と同じ その他の端子 : 入力ポート・モード
	リセット後	
HALTモード	モード中	HALTモード設定前の状態を保持
	モード解除後	
IDLE1, IDLE2, STOPモード	モード中	<p>スタンバイ機能設定前の状態を保持</p> <ul style="list-style-type: none"> 出力信号有効、出力レベルを維持 スタンバイ機能の解除要因^{注2}となる入力信号は有効 その他入力状態端子への入力信号は無視
	モード解除後	スタンバイ機能設定前の状態を保持

注1. POC使用製品のみ

2. ウエイク・アップ機能を持つ入力信号：外部割り込み (INTP0-INTP14, NMI), CAN0-CAN3受信データ (CRXD0-CRXD3), キー割り込み (KR0-KR7)

2.8 未使用端子の推奨接続

端子が未使用の場合、下記のように接続することを推奨します。

表2-56 未使用端子の推奨接続

端 子	推奨接続
ポート端子	
ポート・グループ0, 1, 3-6, 8, 9, 15の端子（ポート・グループ0のP05端子を除く）	<ul style="list-style-type: none"> 出力時：オープン 入力時：端子ごとに抵抗を介してEV_{DD}またはEV_{SS}に接続
ポート・グループ0のP05端子	<ul style="list-style-type: none"> 出力時：オープン 入力時：端子ごとに抵抗を介してEV_{SS}に接続
ポート・グループ7, 12の端子	<ul style="list-style-type: none"> 出力時：オープン 入力時：端子ごとに抵抗を介してAV_{REF0}またはAV_{SS}に接続
ポート・グループCD, CM, CS, CT, DLの端子	<ul style="list-style-type: none"> 出力時：オープン 入力時：端子ごとに抵抗を介してBV_{DD}またはBV_{SS}に接続 (V850ES/FE3, V850ES/FF3は、端子ごとに抵抗を介してEV_{DD}またはEV_{SS}に接続)
ポート以外の端子	
AV _{REF0} , AV _{REF1}	V _{DD} に直接接続
FLMD0	フラッシュ・メモリ・プログラミング・モード時以外は、V _{SS} に接続
REGC, REGC1	レギュレータ出力安定容量接続
XT1	抵抗を介してV _{SS} に接続
XT2	オープン
未接続端子	
IC	V _{SS} に直接接続

- 備考1.** 未使用端子に抵抗を介して電源またはグランドへ接続する場合、個別に1 k~10 kΩの抵抗を介して接続することを推奨します。
- 2.** 総出力電流が最大値を越えた場合、出力バッファが破損する可能性があります。誤って出力が許可された場合に出力バッファを破損から守るために、直列抵抗の挿入を推奨します。

2.9 注意事項

2.9.1 ポート端子設定上の注意事項

(1) 本マイクロコントローラでは、1本の端子に汎用ポートと複数の周辺機能の入出力端子が兼用されています。

汎用ポート（ポート・モード）と、周辺機能の入出力端子（兼用機能モード）との切り替えは、PMCnレジスタで設定します。このレジスタの設定順序に関して、次の点に注意してください。

(a) ポート・モードから兼用機能モードへ切り替える場合の注意事項

ポート・モードから兼用機能モードへ切り替える場合は、次の順序で行ってください。

PFnレジスタを設定 ^注	: N-chオープン・ドレーン設定
PFCn, PFCEnレジスタを設定	: 兼用端子機能選択
PMCnレジスタの該当ビットに1を設定	: 兼用機能モードへ切り替え

PMCnレジスタを先に設定すると、その瞬間、またその後のPFn, PFCn, PFCEnレジスタの設定に伴う端子状態の変化によっては、意図しない動作に陥る可能性があるので注意してください。

注 N-chオープン・ドレーン出力端子のみ

注意 ポート・モード / 兼用機能モードに関係なく、Pnレジスタのリード / ライトは次のようになります。

- ・ Pnレジスタのリード : ポート出力ラッチの値 (PMn.PMnmビット = 0時)、または端子状態 (PMn.PMnmビット = 1時) の読み出し
- ・ Pnレジスタへのライト : ポート出力ラッチへの書き込み

(b) 兼用機能モード（入力）に関する注意事項

兼用機能ブロックへの入力信号は、PMCnレジスタの設定値と端子レベルのAND出力のため、PMCn.PMCnmビット = 0のときはロウ・レベルとなります。そのため、ポート設定と兼用機能動作許可のタイミングによっては、意図しない動作に陥る可能性があります。したがって、PMCnレジスタによるポート・モードと兼用機能モードの切り替えは、次に示す順序で実行してください。

- ・ ポート・モードから兼用機能モード（入力）へ切り替える場合
PMCnレジスタで端子を兼用機能モードにしてから、兼用機能の動作を許可してください。
- ・ 兼用機能モード（入力）からポート・モードへ切り替える場合
兼用機能の動作を停止してから、端子をポート・モードへ切替えてください。

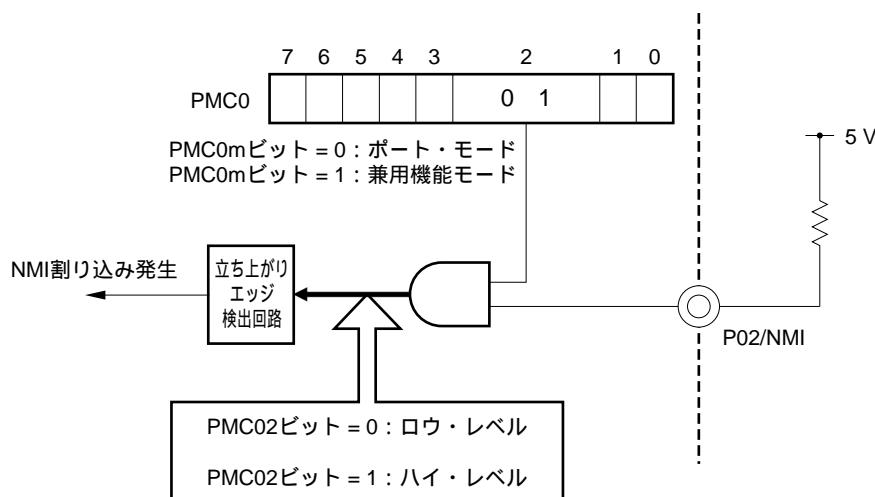
【例1】、【例2】に具体例を示します。

【例1】汎用ポート（P02）から外部割り込み端子（NMI）への切り替え

P02/NMI端子が図2-54のようにプルアップされており、かつNMI端子のエッジ検出設定で立ち上がりエッジを指定している場合に、P02端子からNMI端子へ切り替えたとき（PMC02ビット = 0→1）、NMI端子にはハイ・レベルが入力され続けているにもかかわらず、ロウ・レベル→ハイ・レベルと変化したかのように立ち上がりエッジとして検出し、NMI割り込みが発生します。

対策として、P02端子からNMI端子へ切り替えてから、NMI端子の有効エッジを設定してください。

図2-54 P02からNMIへの切り替え（悪い例）

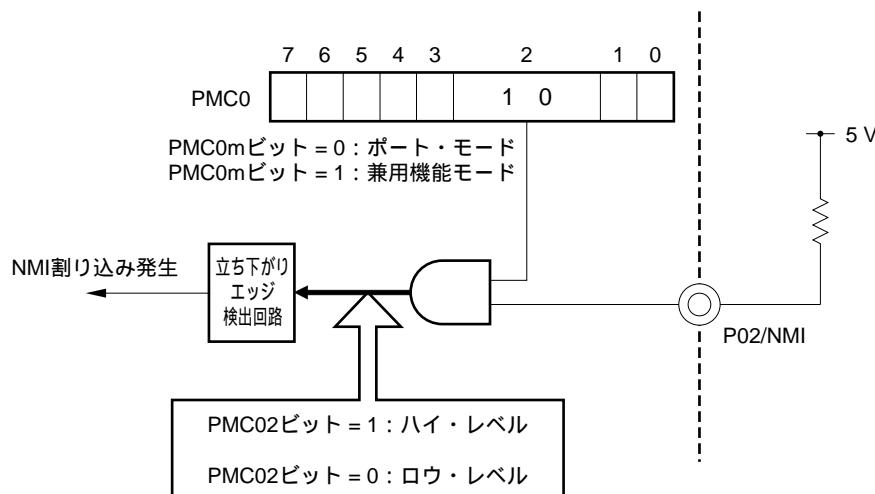


備考 m = 0-7

【例2】外部割り込み端子（NMI）から、汎用ポート（P02）への切り替え

P02/NMI端子が図2-55のようにプルアップされており、かつNMI端子のエッジ検出設定で立ち下がりエッジを指定している場合に、NMI端子からP02端子へ切り替えたとき（PMC02ビット = 1→0）、NMI端子にはハイ・レベルが入力され続けているにもかかわらず、ハイ・レベル→ロウ・レベルと変化したかのように立ち下がりエッジとして検出し、NMI割り込みが発生します。対策として、NMI端子のエッジ検出設定を“エッジ検出しない”にしてから、NMI端子からP02端子へ切り替えてください。

図2-55 NMIからP02への切り替え（悪い例）



備考 m = 0-7

- (2) ポート・モードにおいてPF_n.PF_{nm}ビットは、出力モード（PM_n.PM_{nm}ビット = 0）時のみ有効となります。入力モード（PM_{nm}ビット = 1）のとき、PF_{nm}ビットの値はバッファに反映されません。

2.9.2 ポートnレジスタ (Pn)に対するピット操作命令に関する注意事項

入力 / 出力が混在しているポートに対して1ピット操作命令を行った場合、操作対象のピットだけでなく、操作対象ではない入力ポートの出力ラッチの値も書き換わる可能性があります。

そのため、任意のポートを入力モードから出力モードに切り替える前には、出力ラッチの値を書き直すことを推奨します。

<例> P90端子は出力ポート、P91-P97端子は入力ポート（端子状態はすべてハイ・レベル）で、かつポート・ラッチの値が“00H”的とき、P90端子の出力をピット操作命令により“ロウ・レベル”“ハイ・レベル”とすると、ポート・ラッチの値は、“FFH”になります。

説明：PMnmビット = 1であるポートのPnレジスタへの書き込み / 読み出しの対象は、それぞれ出力ラッチ / 端子状態です。

また、ピット操作命令は本マイクロコントローラ内部で、次の順序で行われます。

<1> Pnレジスタを8ピット単位で読み出し

<2> 対象の1ピットを操作

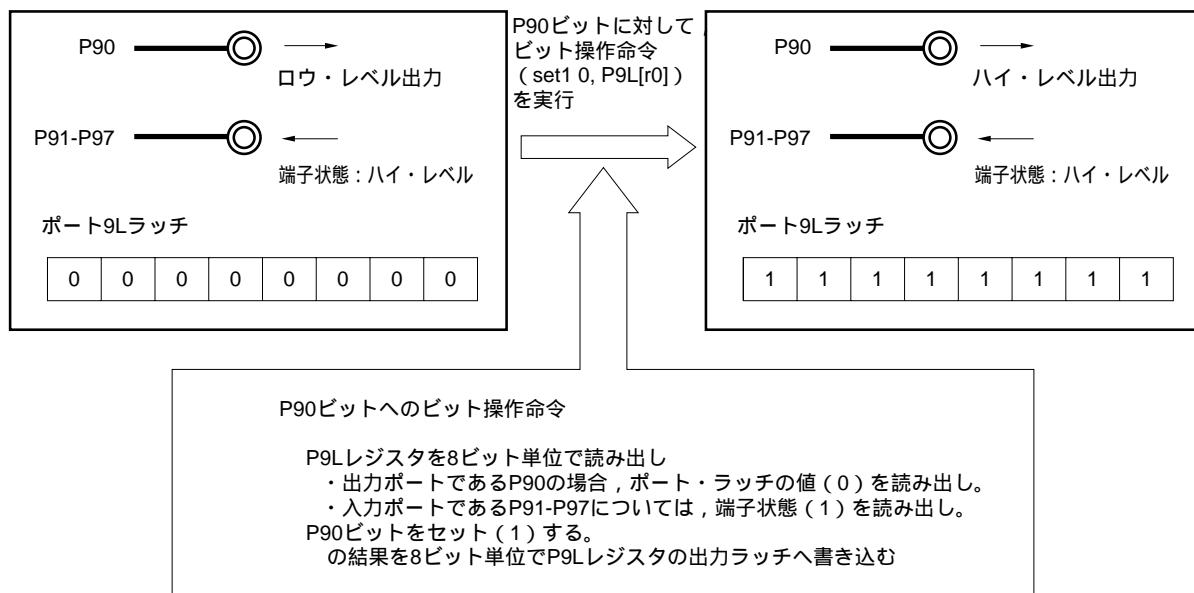
<3> Pnレジスタへ8ピット単位で書き込み

<1> のとき、出力ポートであるP90端子は出力ラッチの値（0）を読み出しますが、入力ポートであるP91-P97端子は端子状態を読み出します。このときP91-P97端子の端子状態が“ハイ・レベル”とすると、読み出し値は“FEH”となります。

<2> の操作で、値は“FFH”となります。

<3> の操作で、出力ラッチに“FFH”が書き込まれます。

図2-56 ピット操作命令 (P90端子の場合)



2.9.3 オンチップ・デバッグ用端子に関する注意事項

DRST, DCK, DMS, DDI, DDO端子はオンチップ・デバッグ用の端子です。

RESET端子によるリセット後, P05/INTP2/**DRST**端子はオンチップ・デバッグ用端子 (**DRST**) に初期化されます。このとき**DRST**端子にハイ・レベルを入力すると, オンチップ・デバッグ・モードになり, DCK, DMS, DDI, DDO端子が使用可能になります。

オンチップ・デバッグを使用しない場合は, 次の処置が必要です。

- OCDMレジスタ（特定レジスタ）のOCDM0ビットをクリア（0）

このとき, **RESET**端子によるリセット解除時から, 上記の処理を終えるまで, P05/INTP2/**DRST**端子をロウ・レベル固定してください。

上記処置を行う前に**DRST**端子にハイ・レベルを入力すると, 誤動作 (CPUデッド・ロック) の原因となるため, P05端子の取り扱いには十分注意してください。

注意 WDT2RES信号, クロック・モニタ (CLM), 低電圧検出回路 (LVI) によるリセット時は, P05/INTP2/**DRST**端子はオンチップ・デバッグ用端子 (**DRST**) に初期化されません。また, OCDMレジスタも値を保持します。

2.9.4 P05/INTP2/**DRST**端子に関する注意事項

P05/INTP2/**DRST**端子はプルダウン抵抗 (30 kΩ (TYP.)) を内蔵しています。**RESET**端子によるリセット後は, プルダウン抵抗が接続されています。OCDM0ビットをクリア (0) することにより, プルダウン抵抗は切断されます。

2.9.5 P53端子に関する電源投入時の注意事項

次に示す端子は, 電源投入時にはリセット中でも一時的に不定レベルを出力する可能性があります。

- P53/KR3/TIAB00/TOAB00/TOAB0B2/DDO端子

2.10 パッケージの端子接続図

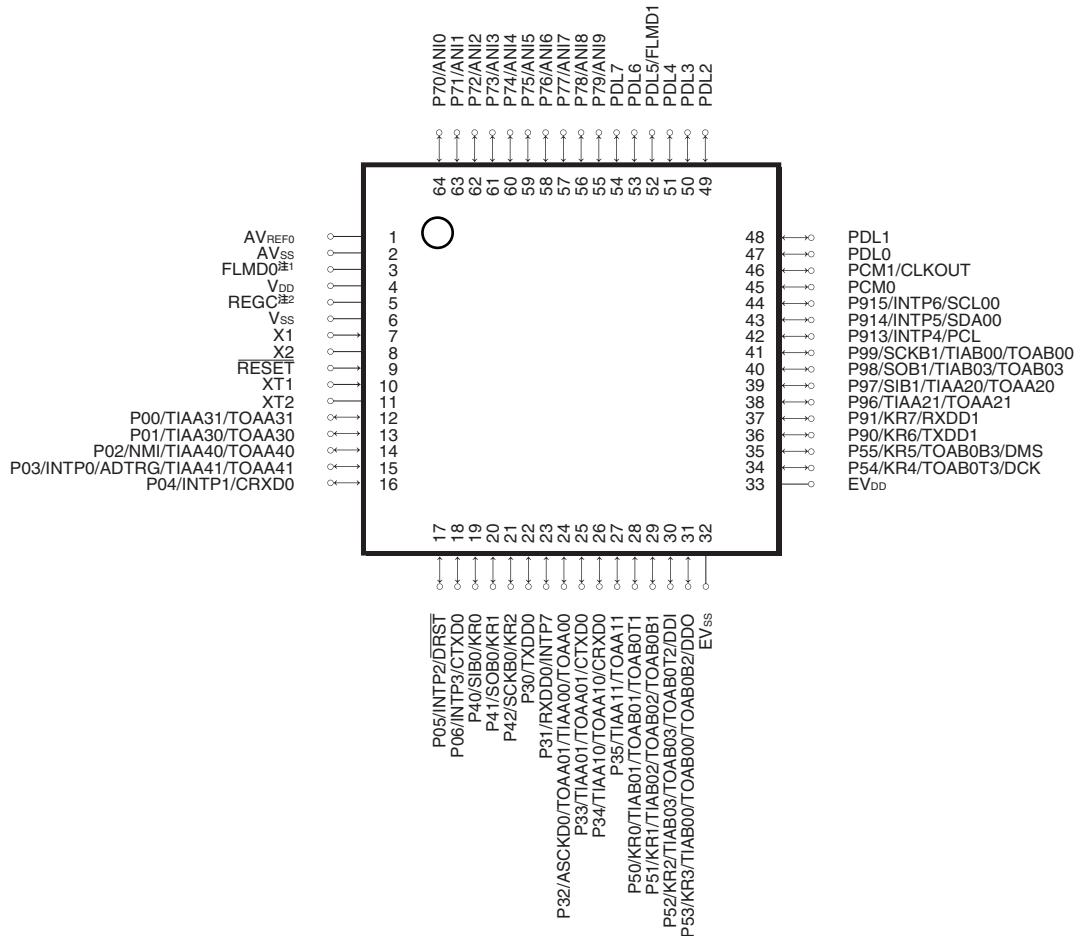
端子接続図を次に示します。各端子には端子番号と端子名が割り当てられています。

2.10.1 V850ES/FE3端子接続図

64ピン・プラスチックLQFP(ファインピッチ)(10×10)

• μ PD70F3370A, 70F3371

図2-57 V850ES/FE3の端子接続図



注1. FLMD0:通常モード時はV_{SS}に接続してください。

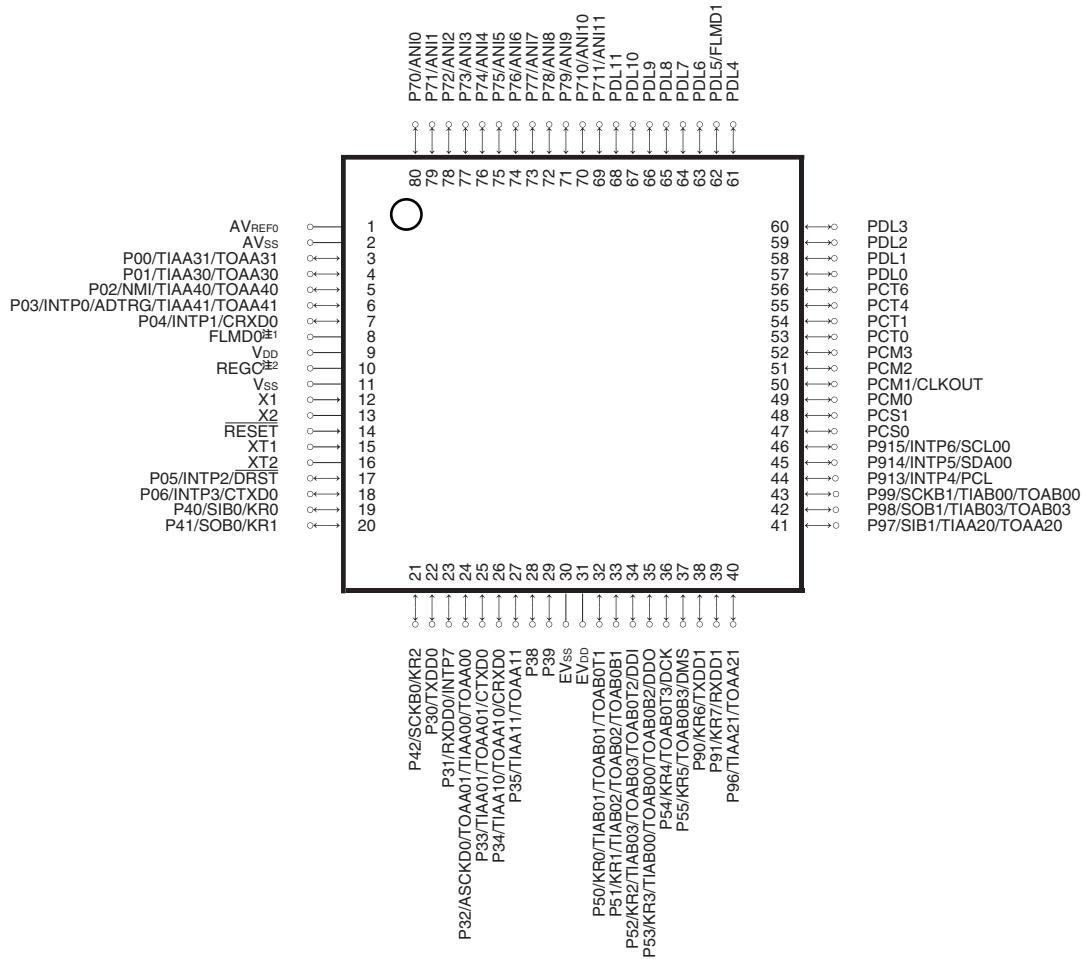
2. REGC端子は4.7 μ Fのコンデンサを介し、V_{SS}に接続してください。

2. 10. 2 V850ES/FF3端子接続図

80ピン・プラスチックLQFP(ファインピッチ)(12×12)

・ μ PD70F3372, 70F3373

図2-58 V850ES/FF3の端子接続図



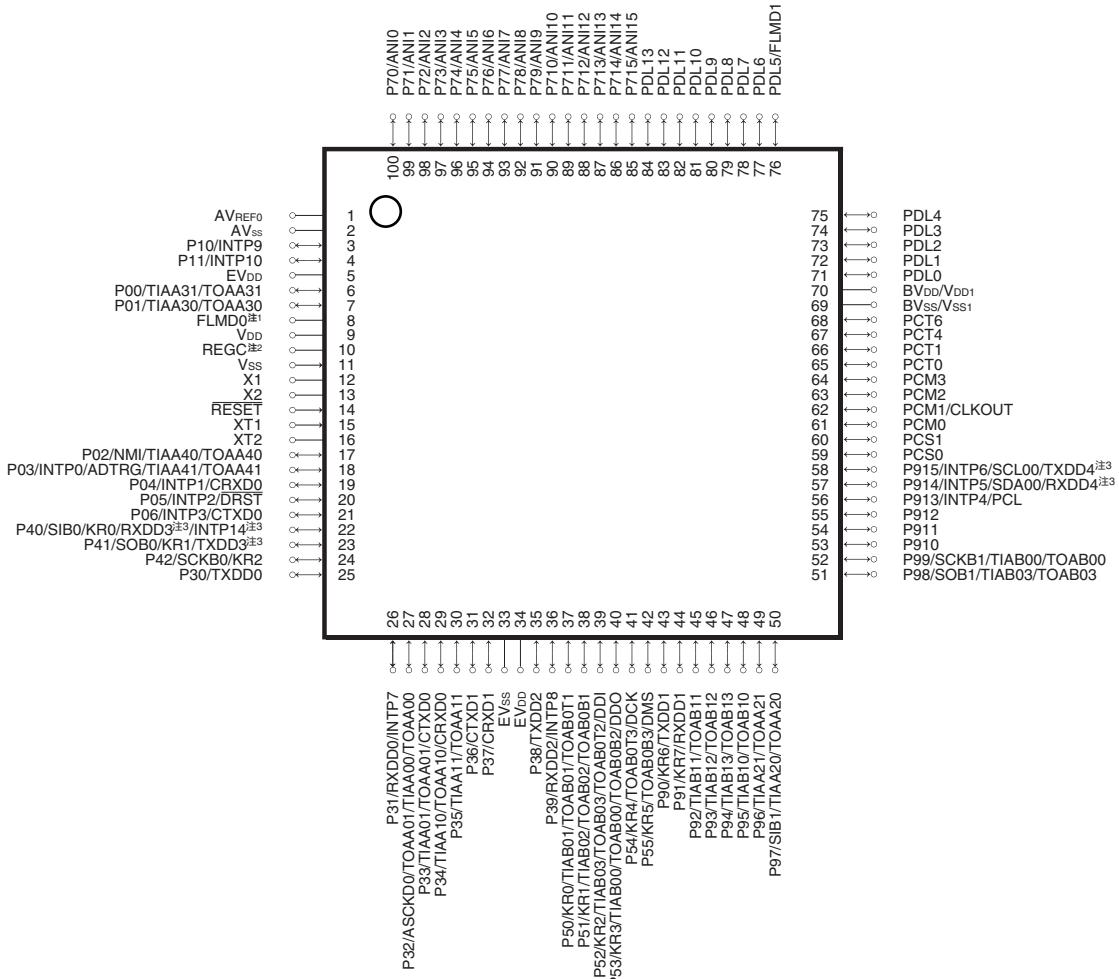
- 注1. FLMD0 : 通常モード時はVssに接続してください。
2. REGC端子は4.7 μ Fのコンデンサを介し, Vssに接続してください。

2. 10. 3 V850ES/FG3端子接続図

100ピン・プラスチックLQFP(ファインピッチ)(14×14)

・μPD70F3374, 70F3375, 70F3376A, 70F3377A

図2-59 V850ES/FG3の端子接続図



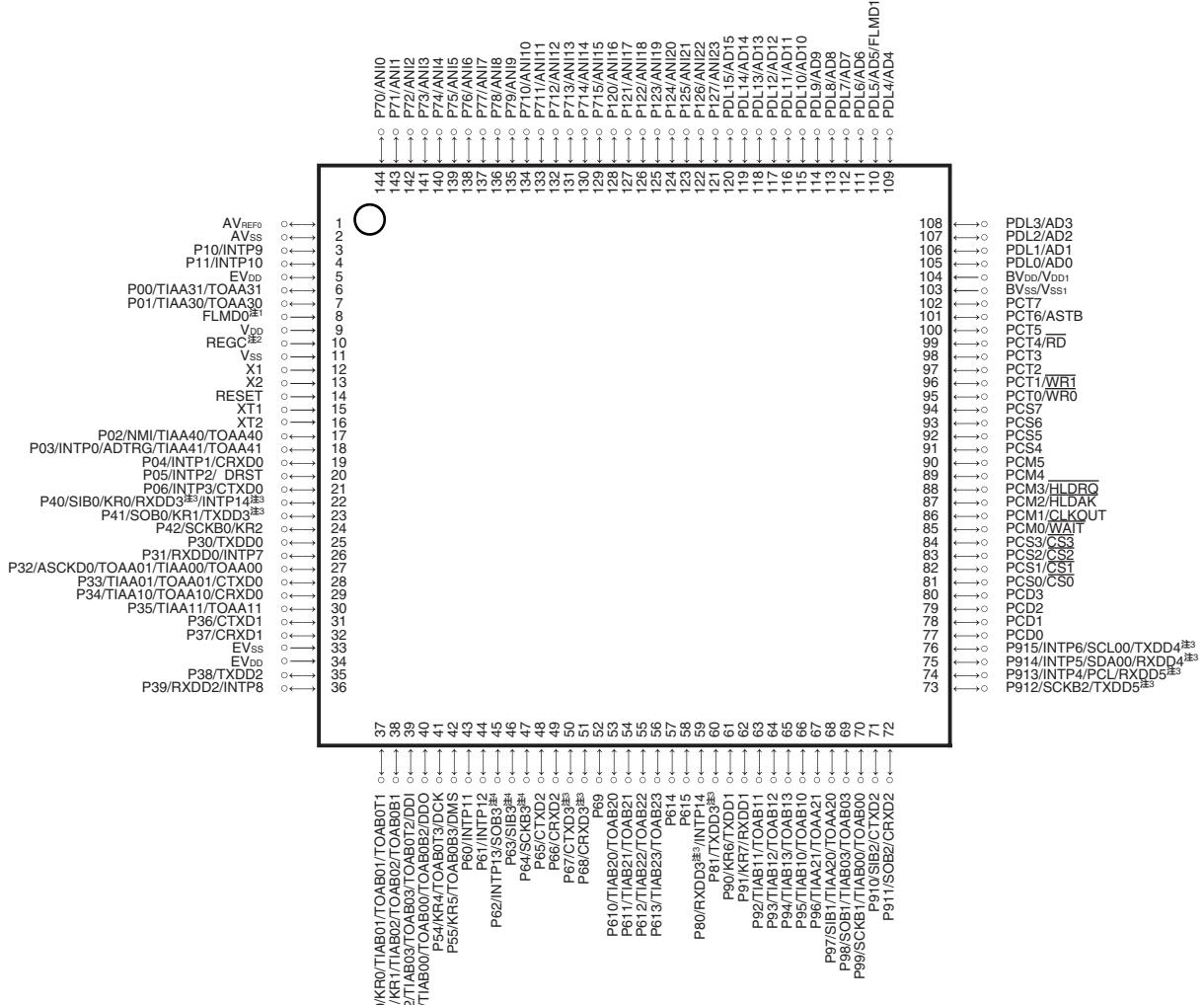
1. FLMD0: 通常モード時はVssに接続してください。
2. REGC端子は4.7 μFのコンデンサを介し, Vssに接続してください。
3. μPD70F3374, 70F3375には搭載されていません。

2. 10. 4 V850ES/FJ3端子接続図

144ピン・プラスチックLQFP(ファインピッチ)(20×20)

・ μ PD70F3378, 70F3379, 70F3380, 70F3381, 70F3382

図2-60 V850ES/FJ3の端子接続図



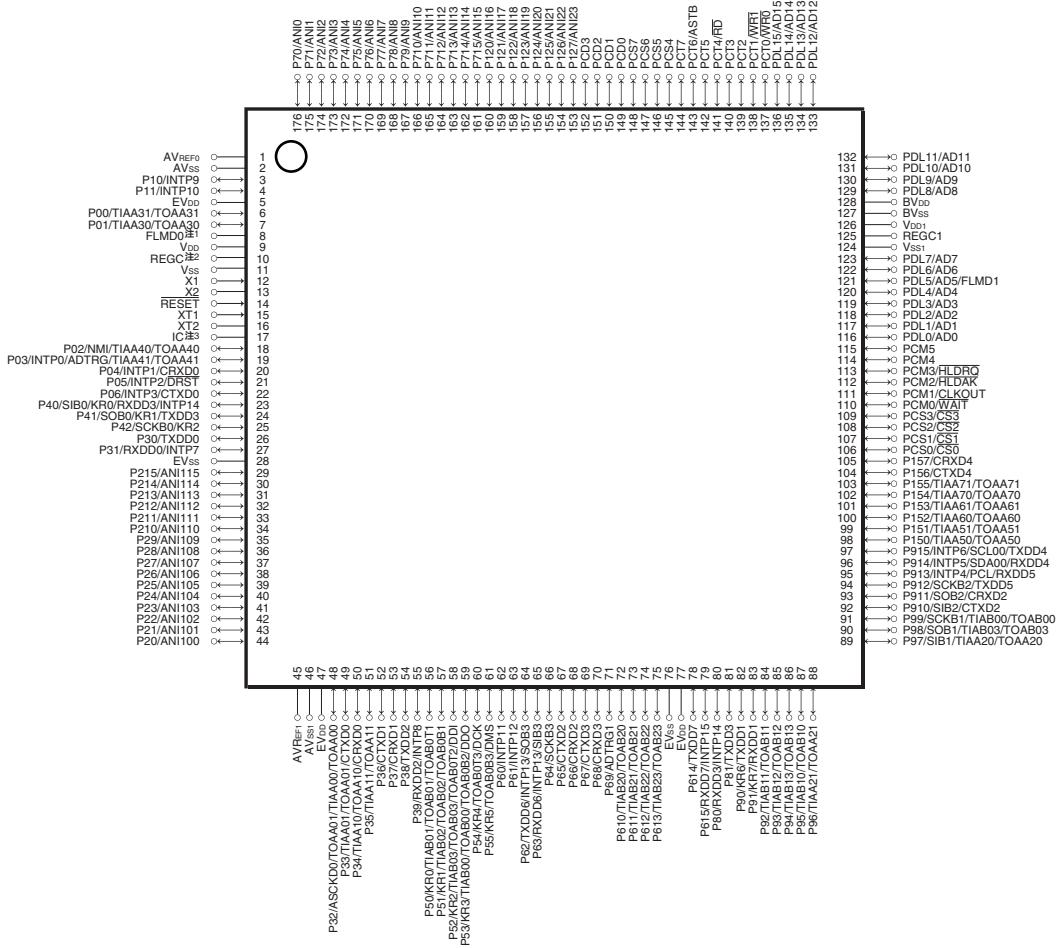
1. FLMD0 : 通常モード時はV_{SS}に接続してください。
2. REGC端子は4.7 μ Fのコンデンサを介し, V_{SS}に接続してください。
3. μ PD70F3378には搭載されていません。
4. μ PD70F3378, 70F3379, 70F3380には搭載されていません。

2. 10. 5 V850ES/FK3端子接続図

176ピン・プラスチックLQFP(ファインピッチ)(24×24)

・ μ PD70F3383, 70F3384, 70F3385

図2-61 V850ES/FK3の端子接続図



注1. FLMDO : 通常モード時はVssに接続してください。

2. REGC端子は4.7 μ Fのコンデンサを介し、Vssに接続してください。
3. IC端子は、Vssに直接接続してください。

第3章 CPU機能

CPUのレジスタ、動作モード、アドレス空間およびメモリ領域を解説します。

3.1 特 徵

最小命令実行時間：21 ns (48 MHz動作時)

メモリ空間 プログラム空間：64 Mバイト・リニア

データ空間 : 4 Gバイト・リニア

汎用レジスタ：32ビット×32本

内部32ビット・アーキテクチャ

5段パイプライン制御

乗除算命令

飽和演算命令

32ビット・シフト命令：1クロック

ロング／ショート形式を持つロード／ストア命令

ビット操作命令4種

- SET1

- CLR1

- NOT1

- TST1

3.2 CPUレジスタ・セット

レジスタは、汎用のプログラム・レジスタ・セットと、専用のシステム・レジスタ・セットの2種類に分類できます。すべてのレジスタは32ビット幅となっています。

詳細はV850ES ユーザーズ・マニュアル アーキテクチャ編を参照してください。

(1) プログラム・レジスタ・セット

31	0
r0	(ゼロ・レジスタ)
r1	(アセンブラー予約レジスタ)
r2	
r3	(スタック・ポインタ (SP))
r4	(グローバル・ポインタ (GP))
r5	(テキスト・ポインタ (TP))
r6	
r7	
r8	
r9	
r10	
r11	
r12	
r13	
r14	
r15	
r16	
r17	
r18	
r19	
r20	
r21	
r22	
r23	
r24	
r25	
r26	
r27	
r28	
r29	
r30	(エレメント・ポインタ (EP))
r31	(リンク・ポインタ (LP))

31	0
PC	(プログラム・カウンタ)

(2) システム・レジスタ・セット

31	0
EIPC	(割り込み時状態退避レジスタ)
EIPSW	(割り込み時状態退避レジスタ)
FEPC	(NMI時状態退避レジスタ)
FEPSW	(NMI時状態退避レジスタ)
ECR	(割り込み要因レジスタ)
PSW	(プログラム・ステータス・ワード)
CTPC	(CALLT実行時状態退避レジスタ)
CTPSW	(CALLT実行時状態退避レジスタ)
DBPC	(例外 / デバッグ・トラップ時状態退避レジスタ)
DBPSW	(例外 / デバッグ・トラップ時状態退避レジスタ)
CTBP	(CALLTベース・ポインタ)

3.2.1 プログラム・レジスタ・セット

プログラム・レジスタには、汎用レジスタとプログラム・カウンタがあります。

(1) 汎用レジスタ (r0-r31)

汎用レジスタとして、r0-r31の32本が用意されています。これらのレジスタは、どれでもデータ変数またはアドレス変数として利用できます。

ただし、r0とr30は命令により暗黙的に使用しますので、これらのレジスタを使用する際には注意が必要です。r0は常に0を保持しているレジスタで、0を使用する演算やオフセット0のアドレッシングで使用されます。r30はSLD命令とSST命令により、メモリをアクセスするときのベース・ポインタとして使用されます。また、r1, r3-r5, r31は、アセンブラーとCコンパイラが暗黙的に使用しますので、これらのレジスタを使用する際にはレジスタの内容を破壊しないように退避してから使用し、使用後に元に戻す必要があります。r2は、リアルタイムOSが使用する場合があります。使用するリアルタイムOSがr2を使用していない場合は、変数用レジスタとしてr2を使用できます。

表3-1 プログラム・レジスター一覧

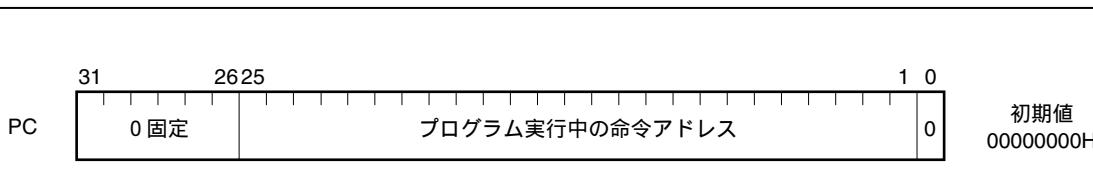
名 称	用 途	動 作
r0	ゼロ・レジスタ	常に0を保持
r1	アセンブラー予約レジスタ	32ビット・イミーディエイト作成用のワーキング・レジスタとして使用
r2	アドレス / データ変数用レジスタ（使用するリアルタイムOSがr2を使用していない場合）	
r3	スタック・ポインタ	関数コール時のスタック・フレーム生成時に使用
r4	グローバル・ポインタ	データ領域のグローバル変数をアクセスするときに使用
r5	テキスト・ポインタ	テキスト領域（プログラム・コードを配置する領域）の先頭を指すレジスタとして使用
r6-r29	アドレス / データ変数用レジスタ	
r30	エレメント・ポインタ	メモリをアクセスするときのベース・ポインタとして使用
r31	リンク・ポインタ	コンパイラが関数コールをするときに使用
PC	プログラム・カウンタ	プログラム実行中の命令アドレスを保持

備考 アセンブラーとCコンパイラで使用されるr1, r3-r5, r31の詳細な説明は、CA850（Cコンパイラ・パッケージ）ユーザーズ・マニュアル アセンブリ言語編を参照してください。

(2) プログラム・カウンタ (PC)

プログラム実行中の命令アドレスを保持します。下位26ビットが有効で、ビット31-26は0に固定されます。ビット25からビット26へのキャリーがあっても無視します。

また、ビット0は0に固定されており、奇数番地への分岐はできません。



3.2.2 システム・レジスタ・セット

システム・レジスタは、CPUの状態制御、割り込み情報保持などを行います。

システム・レジスタへのリード／ライトは、システム・レジスタ・ロード／ストア命令（LDSR, STSR命令）により、次に示すシステム・レジスタ番号を設定することで行います。

表3-2 システム・レジスタ番号

レジスタ番号	システム・レジスタ名称	オペランド指定の可否	
		LDSR命令	STSR命令
0	割り込み時状態退避レジスタ（EIPC） ^{注1}		
1	割り込み時状態退避レジスタ（EIPSW） ^{注1}		
2	NMI時状態退避レジスタ（FEPC）		
3	NMI時状態退避レジスタ（FEPSW）		
4	割り込み要因レジスタ（ECR）	×	
5	プログラム・ステータス・ワード（PSW）		
6-15	将来の機能拡張のための予約番号（アクセスした場合の動作は保証しません）	×	×
16	CALLT実行時状態退避レジスタ（CTPC）		
17	CALLT実行時状態退避レジスタ（CTPSW）		
18	例外／デバッグ・トラップ時状態退避レジスタ（DBPC）	注2	注2
19	例外／デバッグ・トラップ時状態退避レジスタ（DBPSW）	注2	注2
20	CALLTベース・ポインタ（CTBP）		
21-31	将来の機能拡張のための予約番号（アクセスした場合の動作は保証しません）	×	×

注1. このレジスタは1組しかないため、多重割り込みを許す場合はプログラムでこのレジスタを退避する必要があります。

2. DBTRAP命令または不正命令を実行してからDBRET命令を実行するまでの期間のみアクセス可能です。

注意 LDSR命令によりEIPCかFEPC、またはCTPCのビット0をセット(1)しても、割り込み処理後のRETI命令で復帰するときにビット0は無視されます（PCのビット0を0固定してあるため）。EIPC, FEPC, CTPCに値を設定する場合は、偶数値（ビット0=0）を設定してください。

備考 : アクセス可能

 × : アクセス禁止

(1) 割り込み時状態退避レジスタ (EIPC, EIPSW)

割り込み時状態退避レジスタには、EIPCとEIPSWがあります。

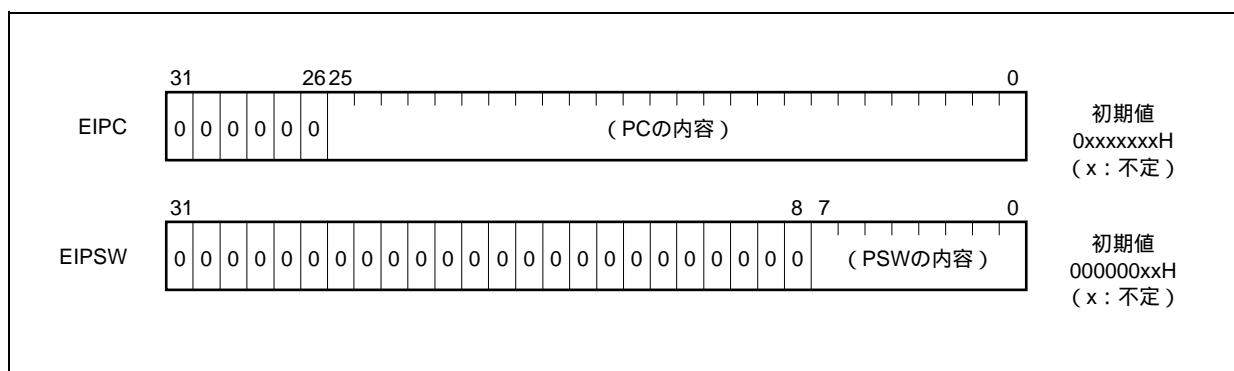
ソフトウェア例外やマスカブル割り込みが発生した場合、プログラム・カウンタ (PC) の内容がEIPCに、プログラム・ステータス・ワード (PSW) の内容がEIPSWに退避されます（ノンマスカブル割り込み (NMI) 発生時には、NMI時状態退避レジスタ (FEPC, FEPFW) に退避されます）。

EIPCには、一部の命令（5.9 CPUが割り込みを受け付けない期間参照）を除き、ソフトウェア例外やマスカブル割り込みが発生したときに実行していた命令の次の命令のアドレスが退避されます。

EIPSWには、現在のPSWの内容が退避されます。

割り込み時状態退避レジスタは1組しかないので、多重割り込みを行う場合はプログラムによってこれらのレジスタの内容を退避する必要があります。

なお、EIPCのビット31-26とEIPSWのビット31-8は、将来の機能拡張のために予約されています（0に固定）。RETI命令により、EIPCの値はPCへ、EIPSWの値はPSWへ復帰します。



(2) NMI時状態退避レジスタ (FEPC, FEPSW)

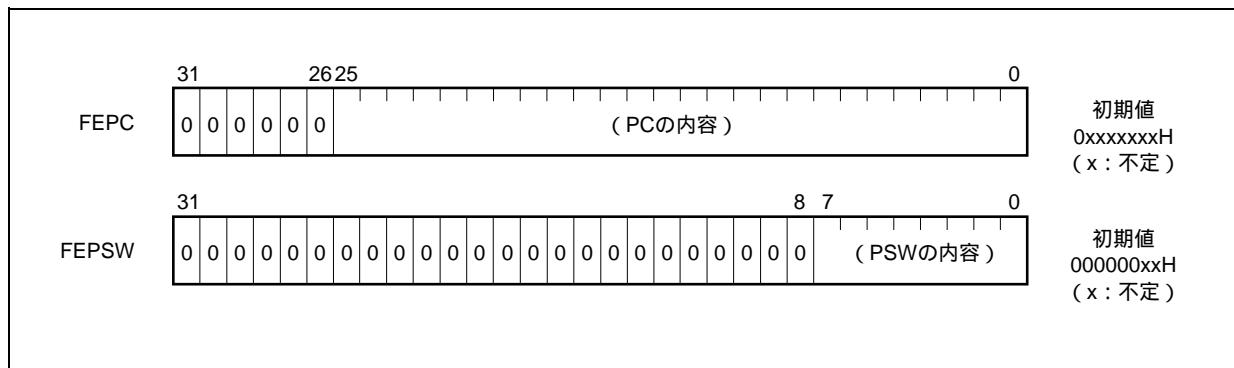
NMI時状態退避レジスタには、FEPCとFEPSWがあります。

ノンマスカブル割り込み (NMI) が発生した場合、プログラム・カウンタ (PC) の内容がFEPCに、プログラム・ステータス・ワード (PSW) の内容がFEPSWに退避されます。

FEPCには、一部の命令を除き、NMIが発生したときに実行していた命令の次の命令のアドレスが退避されます。

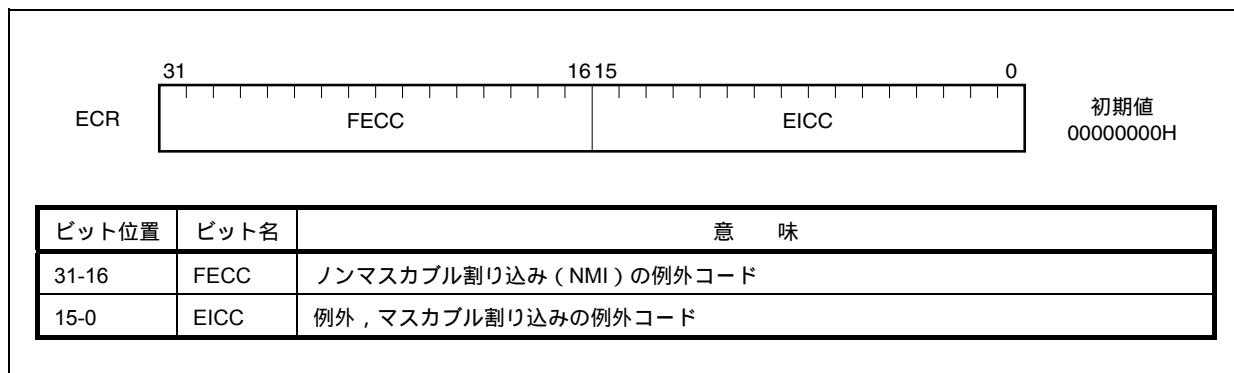
FEPSWには、現在のPSWの内容が退避されます。

なお、FEPCのビット31-26とFEPSWのビット31-8は、将来の機能拡張のために予約されています (0に固定)。



(3) 割り込み要因レジスタ (ECR)

割り込み要因レジスタ (ECR) は、例外や割り込みが発生した場合に、その要因を保持するレジスタです。ECRが保持する値は、割り込み要因ごとにコード化された例外コードです。なお、このレジスタは読み出し専用のため、LDSR命令を使ってこのレジスタにデータを書き込むことはできません。



(4) プログラム・ステータス・ワード (PSW)

プログラム・ステータス・ワード (PSW) は、プログラムの状態（命令実行の結果）やCPUの状態を示すフラグの集合です。

LDSR命令を使用してこのレジスタの各ビットの内容を変更した場合は、LDSR命令実行終了直後から変更内容が有効となります。ただし、IDフラグをセット“1”する場合、LDSR命令実行中から割り込み要求の受け付けを禁止します。

なお、ビット31-8は、将来の機能拡張のために予約されています（0に固定）。

(1/2)

PSW		31	RFU	8	7	6	5	4	3	2	1	0	初期値 00000020H	
ビット位置	フラグ名	意味												
31-8	RFU	予約フィールドです。“0”に固定されています。												
7	NP	ノンマスカブル割り込み (NMI) 処理中であることを示します。NMI要求が受け付けられるときセット“1”され、多重割り込みを禁止します。 0: NMI処理中でない。 1: NMI処理中である。												
6	EP	例外処理中であることを示します。例外の発生でセット“1”されます。なお、このビットがセットされても割り込み要求は受け付けます。 0: 例外処理中でない。 1: 例外処理中である。												
5	ID	マスカブル割り込み要求を受け付ける状態かどうかを示します。 0: 割り込み可 1: 割り込み不可												
4	SAT ^注	飽和演算命令の演算結果がオーバフローし、演算結果が飽和していることを示します。累積フラグのため、飽和演算命令で演算結果が飽和するとセット“1”され、以降の命令の演算結果が飽和しなくてもクリア“0”されません。クリア“0”する場合は、LDSR命令により行います。なお、算術演算命令の実行では、セット“1”もクリア“0”も行いません。 0: 飽和していない。 1: 飽和している。												
3	CY	演算結果にキャリー、またはボローがあったかどうかを示します。 0: キャリー、またはボローは発生していない。 1: キャリー、またはボローが発生した。												
2	OV ^注	演算中にオーバフローが発生したかどうかを示します。 0: オーバフローは発生していない。 1: オーバフローが発生した。												
1	S ^注	演算の結果が負かどうかを示します。 0: 演算の結果は、正または0であった。 1: 演算の結果は負であった。												
0	Z	演算の結果が0かどうかを示します。 0: 演算の結果は0でなかった。 1: 演算の結果は0であった。												

備考 注の説明は次ページに記載しています。

(2/2)

注 飽和演算時の OV フラグと S フラグの内容で飽和処理した演算結果が決まります。また、飽和演算時に OV フラグがセット“1”場合だけ、SAT フラグはセット“1”されます。

演算結果の状態	フラグの状態			飽和処理をした演算結果
	SAT	OV	S	
正の最大値を越えた	1	1	0	7FFFFFFFH
負の最大値を越えた	1	1	1	80000000H
正(最大値を越えない)	演算前の値を 保持	0	0	演算結果そのもの
負(最大値を越えない)			1	

(5) CALLT実行時状態退避レジスタ (CTPC, CTPSW)

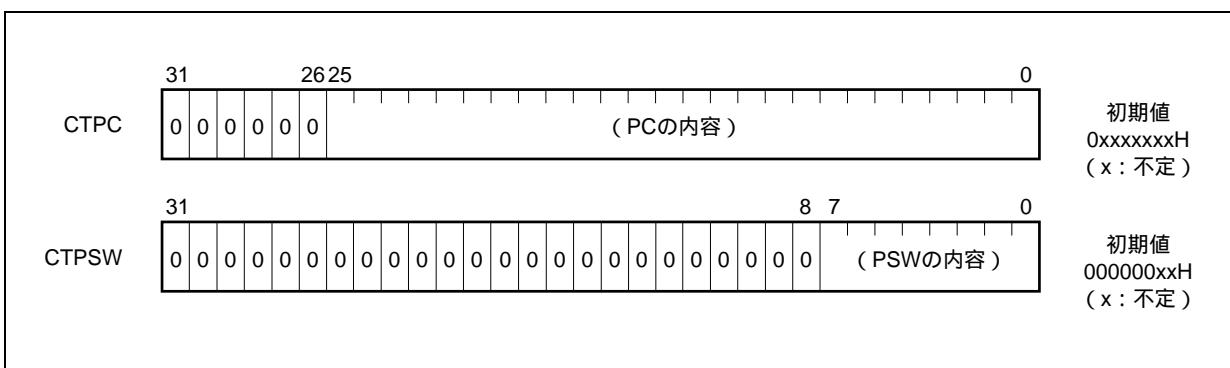
CALLT実行時状態退避レジスタには、CTPCとCTPSWがあります。

CALLT命令が実行されると、プログラム・カウンタ(PC)の内容がCTPCに、プログラム・ステータス・ワード(PSW)の内容がCTPSWに退避されます。

CTPCに退避される内容は、CALLT命令の次の命令のアドレスです。

CTPSWには、現在のPSWの内容が退避されます。

なお、CTPCのビット31-26とCTPSWのビット31-8は、将来の機能拡張のために予約されています(“0”に固定)。



(6) 例外 / デバッグ・トラップ時状態退避レジスタ (DBPC, DBPSW)

例外 / デバッグ・トラップ時状態逃避レジスタとして、DBPCとDBPSWがあります。

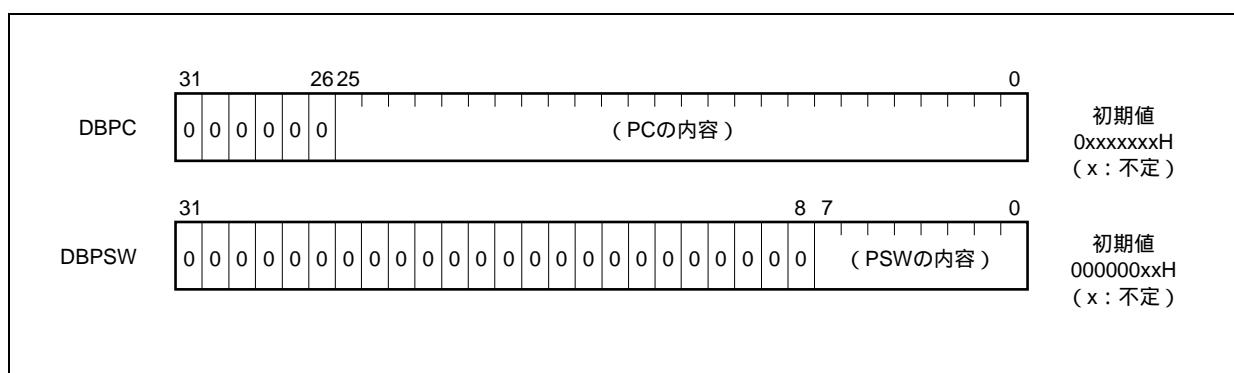
例外トラップ、またはデバッグ・トラップが発生すると、プログラム・カウンタ(PC)の内容がDBPCに、プログラム・ステータス・ワード(PSW)の内容がDBPSWに退避されます。

DBPCに退避される内容は、例外トラップ、またはデバッグ・トラップが発生したときに実行していた命令の次の命令のアドレスです。

DBPSWには、現在のPSWの内容が退避されます。

このレジスタへのリード / ライトはDBTRAP命令または不正命令を実行してからDBRET命令を実行するまでの期間だけ可能です。

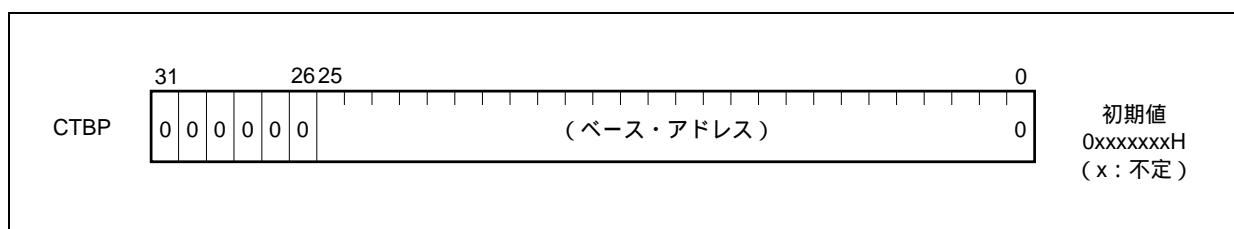
なお、DBPCのビット31-26とDBPSWのビット31-8は、将来の機能拡張のために予約されています（“0”に固定）。DBRET命令によりDBPCの値はPCへ、DBPSWの値はPSWに復帰します。



(7) CALLTベース・ポインタ(CTBP)

CALLTベース・ポインタ (CTBP) は、テーブル・アドレスの指定、ターゲット・アドレスの生成に使用されます (ビット0は“0”に固定)。

なお、ビット31-26は、将来の機能拡張のために予約されています（“0”に固定）。



3.3 動作モード

CPUの動作モードと、どのようにしてモードを指定するかを説明します。
CPUには次の動作モードがあります。

- ・通常動作モード
- ・フラッシュ・プログラミング・モード
- ・オンチップ・デバッグ・モード

FLMD0, FLMD1端子の状態により動作モードを指定します。通常モード時はリセット解除時にFLMD0端子がロウ・レベル入力となるようにしてください。フラッシュ・メモリ・プログラミング・モード時のFLMD0端子へのハイ・レベル入力は、フラッシュ・ライタ接続時はフラッシュ・ライタから行いますが、セルフ・プログラミング時は外部回路で行ってください。

表3-3 動作モードの選択

端 子		動作モード
FLMD0	FLMD1 (PDL5)	
L	x	通常動作モード（フラッシュ・メモリからフェッチ）
H	L	フラッシュ・プログラミング・モード
	H	設定禁止

備考1. FLMD1端子はPDL5端子と兼用になっています。

2. x : 任意

L : ロウ・レベル入力

H : ハイ・レベル入力

3.3.1 通常動作モード

システム・リセット解除後、バス・インターフェース関連の各端子はポート・モードになり、内蔵ROMのリセット・エントリ・アドレスに分岐し、命令処理を開始します。

注意 メモリ領域の下位1 MBは、常に内蔵フラッシュ・メモリにマッピングされています。このため、この領域にマッピングされた外部メモリは通常動作モードではアドレッシングできません。第10章 バス、メモリ制御機能（BCU, MEMC）を参照してください。

3.3.2 フラッシュ・プログラミング・モード

このモードを指定すると、フラッシュ・ライタによる内蔵フラッシュ・メモリへのプログラム動作が可能になります。

詳細は、第7章 フラッシュ・メモリを参照してください。

3.3.3 オンチップ・デバッグ・モード

JTAG (Joint Test Action Group) の通信仕様を利用して、オンチップ・デバッグ・エミュレータを介したオンチップ・デバッグが可能になります。詳細は第27章 オンチップ・デバッグ・ユニットを参照してください。

3.4 アドレス空間

CPUのアドレス空間を解説します。CPUアドレス空間と物理アドレス空間の大きさとアドレスを解説し、また、データ空間とプログラム空間のアドレス範囲を、各空間のラップ・アラウンド特性とともに解説します。

3.4.1 CPUアドレス空間と物理アドレス空間

CPUは次のアドレス空間に対応しています。

- 4 GバイトのCPUアドレス空間

32ビット汎用レジスタを使用して、4 Gバイトのメモリのアドレスを生成できます。これが、CPUが対応する最大アドレス空間となります。

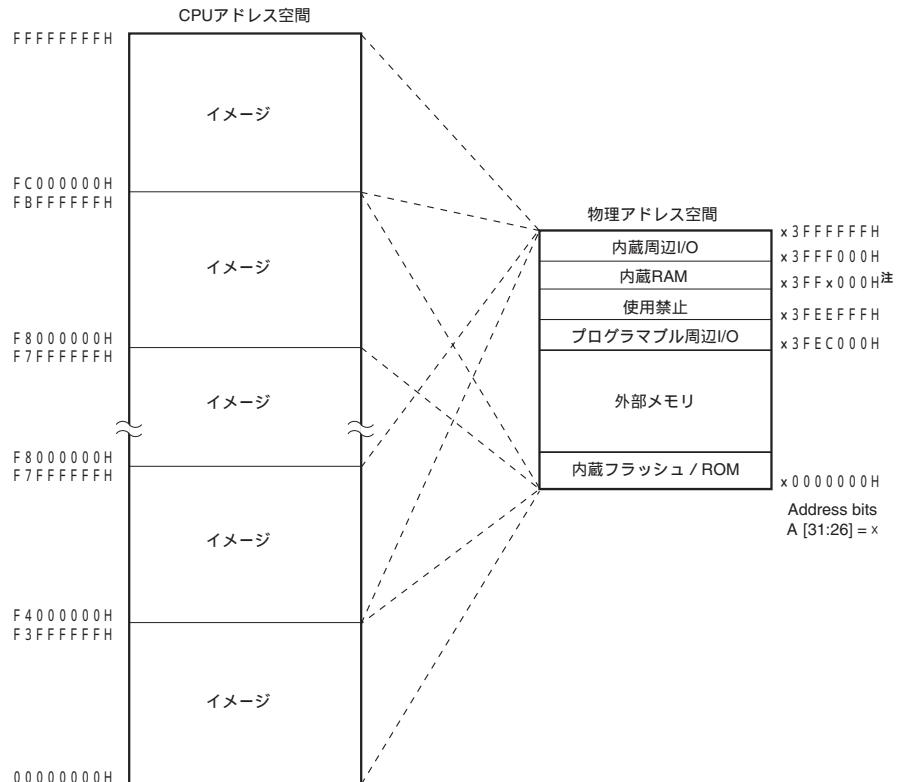
- 64 Mバイトの物理アドレス空間

CPUは64 Mバイトの物理空間を提供します。つまり、最大64 Mバイトの内蔵メモリまたは外部メモリにアクセスできます。

32ビット・アドレスは、対応する物理アドレスに変換されます。この時、アドレスのビット31-ビット26は無視されます。したがって、64個のアドレスが同じ物理アドレスを示すことになります。言い換えれば、物理アドレス00000000Hのデータは、アドレス04000000H, 08000000H,..., F8000000HまたはFC000000Hで追加アクセスできます。

4 GバイトのCPUアドレス空間には64 Mバイトの物理アドレス空間が64個のイメージとして見えます。

図3-1 CPUアドレス空間上のイメージ



注 内蔵RAM領域の開始アドレスは各製品によって異なります。詳細は、3.5.1(2) 内蔵RAM領域を参照してください。プログラマブル周辺I/O領域だけは、4 Gバイトのアドレス空間に256 Mバイトごとのイメージとして見えます。

3.4.2 プログラム空間とデータ空間

CPUアドレス空間には次のようにデータと命令を割り付けることができます。

- ・データ空間として4 Gバイト

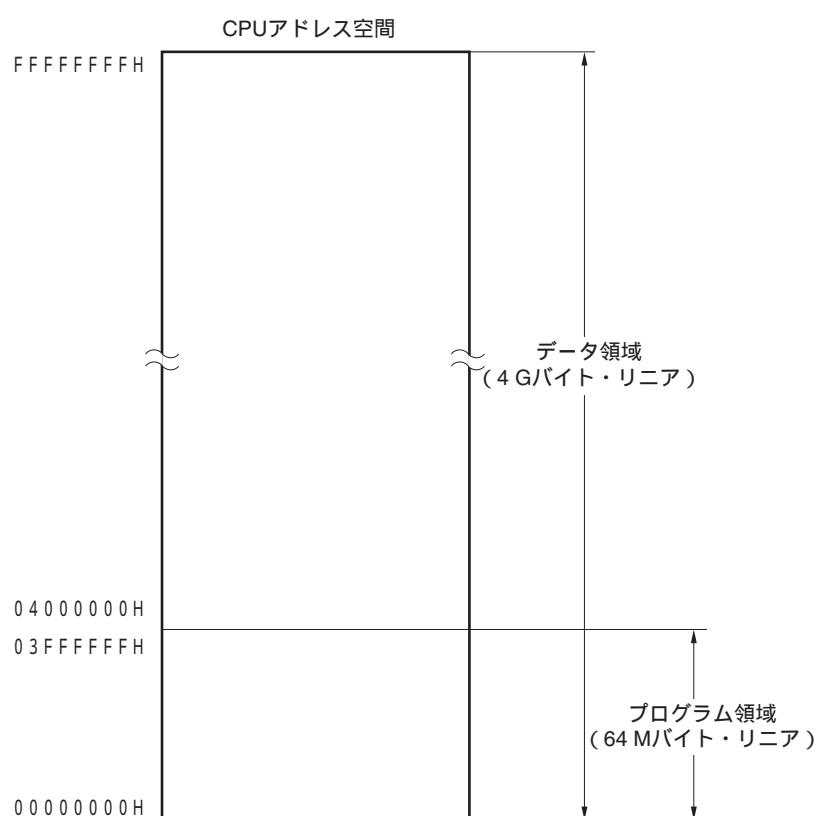
全CPUアドレス空間をオペランド・アドレシングに使用できます。

- ・プログラム空間として64 Mバイト

CPUアドレス空間の下位64 Mバイトだけを命令アドレシングに使用できます。分岐命令の命令アドレスを算出し、プログラム・カウンタ（PC）に転送すると、ビット31-26はゼロにクリアされます。

図3-2にCPUアドレス空間のデータ空間とプログラム空間の割り当てを示します。

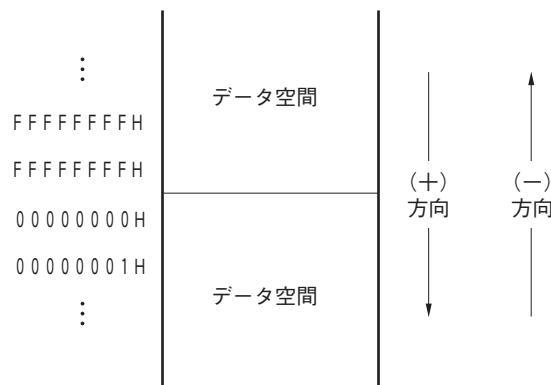
図3-2 CPUアドレス空間



(1) データ空間のラップ・アラウンド

オペランド・アドレス計算で32ビットを越える演算結果は無視し、結果の下位32ビットのみを考慮します。したがって、データ空間の下限である00000000H番地と、上限のFFFFFFFH番地は連続したアドレスになります。結果として、データ空間をラップ・アラウンドします。

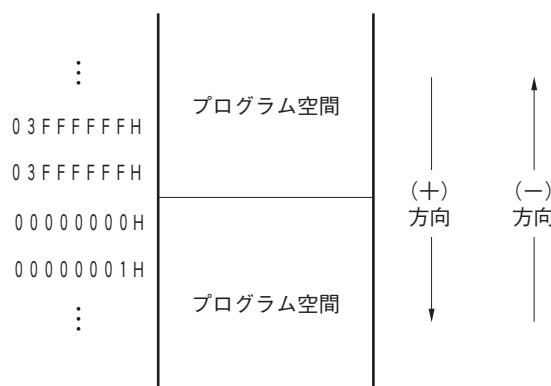
図3-3 データ空間のラップ・アラウンド



(2) プログラム空間のラップ・アラウンド

命令アドレス計算で26ビットを越える演算結果は無視し、結果の下位26ビットのみを考慮します。したがって、データ空間の下限である00000000H番地と、上限の03FFFFFFH番地は連続したアドレスになります。結果として、プログラム空間をラップ・アラウンドします。

図3-4 プログラム空間のラップ・アラウンド



注意 03FFF000H-03FFFFFFHの4 Kバイトの領域は、内蔵周辺I/O領域のため、命令フェッチできません。したがって、この領域に対して分岐命令を実行しないでください。

3.5 メモリ

CPUのメモリに関し説明します。また、特定のメモリ領域を解説し、アドレス空間の推奨使用方法も説明します。

3.5.1 メモリ領域

CPUの内蔵メモリは次の領域で構成されます。

- ・内蔵ROM領域
- ・内蔵RAM領域
- ・内蔵周辺I/O領域
- ・プログラマブルI/O領域
- ・外部メモリ領域

次に、各領域を簡単に説明します。

(1) 内蔵ROM領域

内蔵ROM領域は最大1 Mバイトが予約されています。

表3-4に製品ごとの物理内蔵ROM領域の大きさとアドレス範囲を示します。内蔵ROM領域は、外部メモリへのアクセスに使用できません。

表3-4 物理内蔵ROM領域

製品	デバイス	フラッシュ・メモリ・サイズ	物理内蔵ROM領域
V850ES/FE3	μ PD70F3370A	128 KB	00000000H-0001FFFFH
	μ PD70F3371	256 KB	00000000H-0003FFFFH
V850ES/FF3	μ PD70F3372	128 KB	00000000H-0001FFFFH
	μ PD70F3373	256 KB	00000000H-0003FFFFH
V850ES/FG3	μ PD70F3374	128 KB	00000000H-0001FFFFH
	μ PD70F3375	256 KB	00000000H-0003FFFFH
	μ PD70F3376A	384 KB	00000000H-0005FFFFH
	μ PD70F3377A	512 KB	00000000H-0007FFFFH
V850ES/FJ3	μ PD70F3378	256 KB	00000000H-0003FFFFH
	μ PD70F3379	384 KB	00000000H-0005FFFFH
	μ PD70F3380	512 KB	00000000H-0007FFFFH
	μ PD70F3381	768 KB	00000000H-000BFFFFH
	μ PD70F3382	1 MB	00000000H-000FFFFFFH
V850ES/FK3	μ PD70F3383	512 KB	00000000H-0007FFFFH
	μ PD70F3384	768 KB	00000000H-000BFFFFH
	μ PD70F3385	1 MB	00000000H-000FFFFFFH

注意 内蔵ROM領域として予約している1 MB(0000000H-00FFFFFFH番地)領域のうち、

表3-4の物理内蔵ROM領域以外は使用禁止領域です。

(2) 内蔵RAM領域

内蔵RAM領域は最大60 Kバイトが予約されています。

表3 - 5に製品ごとの物理内蔵RAM領域の大きさとアドレス範囲を示します。

表3 - 5 物理内蔵RAM領域

製品	デバイス	RAMサイズ	物理内蔵RAM領域
V850ES/FE3	μ PD70F3370A	8 KB	03FFD000H-03FFEFFFFH
	μ PD70F3371	16 KB	03FFB000H-03FFEFFFFH
V850ES/FF3	μ PD70F3372	8 KB	03FFD000H-03FFEFFFFH
	μ PD70F3373	16 KB	03FFB000H-03FFEFFFFH
V850ES/FG3	μ PD70F3374	8 KB	03FFD000H-03FFEFFFFH
	μ PD70F3375	16 KB	03FFB000H-03FFEFFFFH
	μ PD70F3376A	24 KB	03FF9000H-03FFEFFFFH
	μ PD70F3377A	32 KB	03FF7000H-03FFEFFFFH
V850ES/FJ3	μ PD70F3378	16 KB	03FFB000H-03FFEFFFFH
	μ PD70F3379	24 KB	03FF9000H-03FFEFFFFH
	μ PD70F3380	32 KB	03FF7000H-03FFEFFFFH
	μ PD70F3381	40 KB	03FF5000H-03FFEFFFFH
	μ PD70F3382	48 KB	03FF3000H-03FFEFFFFH
V850ES/FK3	μ PD70F3383	32 KB	03FF7000H-03FFEFFFFH
	μ PD70F3384	48 KB	03FF3000H-03FFEFFFFH
	μ PD70F3385	60 KB	03FF0000H-03FFEFFFFH

注意 内蔵RAM領域として予約している60 Kバイト(3FF0000H-3FFEFFFFH番地)領域

のうち、表3 - 5の物理内蔵RAM領域以外は使用禁止領域です。

- ・本製品は、内部システム・リセット解除後、ファームウェアにより内蔵RAMの一部が使用されます。したがって、パワーオン状態でのリセットでも一部領域の内蔵RAM内容を保持しません（RAMの先頭アドレスから150バイトおよび最終アドレスから100バイト）。

(ファームウェアが使用する内蔵RAMの領域)

RAMサイズ 8 Kバイト製品 : 03FFD000H-03FFD095Hおよび03FFEF9CH-03FFEFFFFH

RAMサイズ 16 Kバイト製品 : 03FFB000H-03FFB095Hおよび03FFEF9CH-03FFEFFFFH

RAMサイズ 24 Kバイト製品 : 03FF9000H-03FF9095Hおよび03FFEF9CH-03FFEFFFFH

RAMサイズ 32 Kバイト製品 : 03FF7000H-03FF7095Hおよび03FFEF9CH-03FFEFFFFH

RAMサイズ 40 Kバイト製品 : 03FF5000H-03FF5095Hおよび03FFEF9CH-03FFEFFFFH

RAMサイズ 48 Kバイト製品 : 03FF3000H-03FF3095Hおよび03FFEF9CH-03FFEFFFFH

RAMサイズ 60 Kバイト製品 : 03FF0000H-03FF0095Hおよび03FFEF9CH-03FFEFFFFH

(3) 内蔵周辺I/O領域

アドレス03FFF000Hから03FFFFFFHまでの4 Kバイトの領域は、内蔵周辺I/O領域として予約されています。

内蔵周辺I/O領域には、内蔵周辺I/Oの動作モード指定、状態モニタリングなどの機能を割り付けた周辺I/Oレジスタがマッピングされています。

これらの領域は、プログラム・フェッチを行うことができません。

注意1. 物理アドレス空間は64 Mバイトであるため、アドレス・ビットA [31:26]は考慮されません。

したがって、4 Kバイトのアドレス空間をFFFFF0000HからFFFFFFFHの領域を介してアドレッシングすることができるため、オフセットとゼロ・ベース・レジスタr0で本領域を間接的にアドレッシングできます。

このため、このユーザーズ・マニュアルでは、周辺I/O領域の周辺I/Oレジスタのアドレス表記を、03FFF000Hから03FFFFFFHではなく、FFFFF000HからFFFFFFFHの範囲としています。

2. レジスタにワード・アクセスを行うと、アドレスの下位2ビットを無視したワード領域に対して下位、上位の順番でハーフワード・アクセスを2回行います。
3. バイト・アクセス可能なレジスタにハーフワード・アクセスした場合
 - ・リード時：上位8ビットが不定になります。
 - ・ライト時：下位8ビット・データがレジスタに書き込まれます。
4. 内蔵ROM/RAM領域と内蔵周辺I/O領域のアドレスは連続しています。そのため、ポインタ操作などでアドレスをインクリメント/デクリメントしながらアクセスする場合は、誤って内蔵ROM/RAM領域を越えて内蔵周辺I/O領域へアクセスしないでください。
5. レジスタとして定義されていないアドレスは、将来の拡張用に予約されており、アクセスした場合の動作は不定であり、保証しません。

(4) プログラマブル周辺I/O領域

アドレス03FEC000Hから03FEEFFFHの12 Kバイトの領域は、プログラマブル周辺I/O領域として予約されています。

プログラマブル周辺I/O領域にはCANモジュール・レジスタとメッセージ・バッファが割り当てられています。

注意 プログラマブル周辺I/O領域は、4 Gバイトのアドレス空間に256 Mバイトごとのイメージとして見えます。

(5) 外部メモリ領域

外部メモリのアクセスについては、[第10章 パス、メモリ制御機能\(BCU, MEMC\)](#)を参照してください。

データ・フラッシュ領域は外部メモリ領域に割り付けられています。データ・フラッシュ領域のアクセスについては、[第7章 フラッシュ・メモリ](#)と[第10章 パス、メモリ制御機能\(BCU, MEMC\)](#)を参照してください。

(6) 製品選択レジスタ (PRDSEL)

PRDSELレジスタは、製品名や内蔵RAM領域を識別するためのレジスタです。

このレジスタは、PRDSELH, PRDSELLの2つの16ビット・レジスタに分かれます。

16ビット単位でリードのみ可能です。

リセット時：製品依存 R アドレス：PRDSELL FFFFFCC8H, PRDSELH FFFFFCCAH																
PRDSELH	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	RAM3	RAM2	RAM1	RAM0
PRDSELL	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	製品名(下3桁)												x	x	x	x
RAMの先頭アドレス																
RAM3	RAM2	RAM1	RAM0	RAMの先頭アドレス												
0	0	1	0	03FFD000H番地												
0	1	0	0	03FFB000H番地												
0	1	1	0	03FF9000H番地												
0	1	1	1	03FF7000H番地												
1	0	0	0	03FF5000H番地												
1	0	0	1	03FF3000H番地												
1	0	1	0	03FF0000H番地												
製品名(下3桁)																
	ビット 15	ビット 14	ビット 13	ビット 12	ビット 11	ビット 10	ビット 9	ビット 8	ビット 7	ビット 6	ビット 5	ビット 4				
<u><u><u>μPD70F3370A</u></u></u>	0	0	1	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	
<u><u><u>μPD70F3371</u></u></u>	0	0	1	1	0	1	1	1	0	0	0	0	1	0	1	
<u><u><u>μPD70F3372</u></u></u>	0	0	1	1	0	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	
<u><u><u>μPD70F3373</u></u></u>	0	0	1	1	0	1	1	1	0	0	0	1	1	0	1	
<u><u><u>μPD70F3374</u></u></u>	0	0	1	1	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	
<u><u><u>μPD70F3375</u></u></u>	0	0	1	1	0	1	1	1	0	1	0	0	1	0	1	
<u><u><u>μPD70F3376A</u></u></u>	0	0	1	1	0	1	1	1	0	1	1	0	1	1	0	
<u><u><u>μPD70F3377A</u></u></u>	0	0	1	1	0	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	
<u><u><u>μPD70F3378</u></u></u>	0	0	1	1	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	
<u><u><u>μPD70F3379</u></u></u>	0	0	1	1	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	1	
<u><u><u>μPD70F3380</u></u></u>	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
<u><u><u>μPD70F3381</u></u></u>	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
<u><u><u>μPD70F3382</u></u></u>	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
<u><u><u>μPD70F3383</u></u></u>	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	
<u><u><u>μPD70F3384</u></u></u>	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	
<u><u><u>μPD70F3385</u></u></u>	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	

注意 インサーキット・エミュレータ (QB-V850ESFX3) では、PRDSELレジスタの読み出しができません（不定値が読み出されます）。

備考 PRDSELレジスタのビット15-4で製品名の下3桁を表します。例えばμPD70F3370 の場合、ビット15-12 = 3H、ビット11-8 = 7H、ビット7-4 = 0Hとなり、下3桁 “370” を表します。 |

3.5.2 プログラマブル周辺I/Oレジスタ

プログラマブル周辺I/O領域を有効とするために、BPCレジスタの設定が必要です。

(1) 周辺I/O領域セレクト制御レジスタ (BPC)

16ビット単位でリード / ライト可能です。

リセット時は0000Hになります。

リセット時 : 0000H R/W アドレス : FFFFF064H

	15	14	13	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0		
BPC	PA15	0	PA13	PA12	PA11	PA10	PA9	PA8	PA7	PA6	PA5	PA4	PA3	PA2	PA1	PA0

PA15	プログラマブル周辺I/O領域の使用許可 / 禁止
0	プログラマブル周辺I/O領域の使用を禁止
1	プログラマブル周辺I/O領域の使用を許可

PA13-PA0 プログラマブル周辺I/O領域の開始アドレス設定 (A27-A14に対応)。

注意 必ずBPCレジスタに8FFBHを設定してください。

3.5.3 データ・アドレス空間の推奨使用方法

データ空間のオペランド・データ・アクセスを行うときに必ずポインタとなるレジスタをアドレス生成用に確保する必要があります。このレジスタは、ポインタ・レジスタと呼ばれます。相対アドレッシングでは、このポインタ・レジスタに入れたアドレスの記号 $\pm 32\text{ KB}$ には、命令からオペランド・データ・アクセスが行えます。

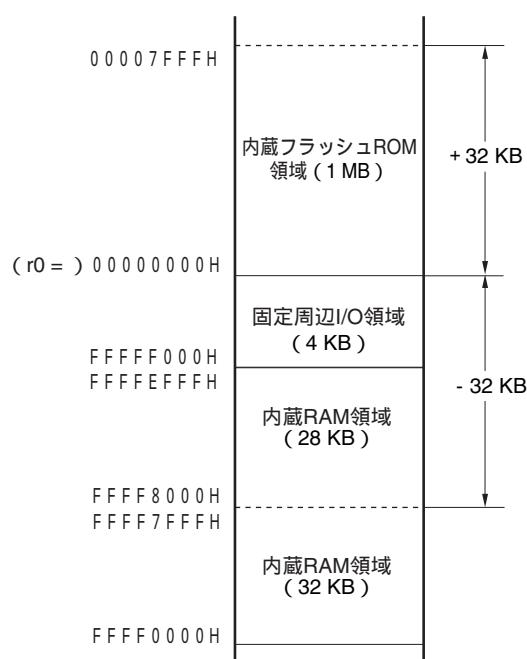
メモリ・マップを考慮したポインタの使用効率を高めるために、次のことが推奨されます。

相対アドレッシングの特長を効率的に活用するには、データ・セグメントはFFFFF800Hから00000000Hと、00000000Hから00007FFFHまでのアドレス範囲に配置しなければなりません。周辺I/Oレジスタと内蔵RAMは上位境界にアラインされるため、これらのレジスタと一部のRAMは相対アドレッシングでアクセスできます。このときのベース・アドレスは0(r0)となります。

フラッシュ・メモリ・データ・セグメントは、00007FFFHまでの領域に配置することを推奨します。これにより、これらの定数データをアクセスするために相対アドレッシングを使うことができます。

オペランド・アドレッシングには、r0レジスタをポインタ・レジスタとして使用します。r0レジスタは、ハードウエアによってゼロに固定されているため、ポインタ・レジスタとして使用すると同時に、ゼロ・レジスタが必要とされるその他の目的にも使用できます。このため、他の汎用レジスタをポインタ・レジスタとして予約する必要がなくなります。

図3-5 ラップ・アラウンドの応用例



(1) プログラム空間

PC(プログラム・カウンタ)は、32ビットのうち上位6ビットは0に固定であり、下位26ビットだけ有効となります。したがって、プログラム空間に関しては無条件に00000000H番地から連続した64 Mバイト空間がそのままメモリ・マップに対応します。

内蔵RAM領域をプログラム空間として使用する場合は、次の番地に対してアクセスしてください。

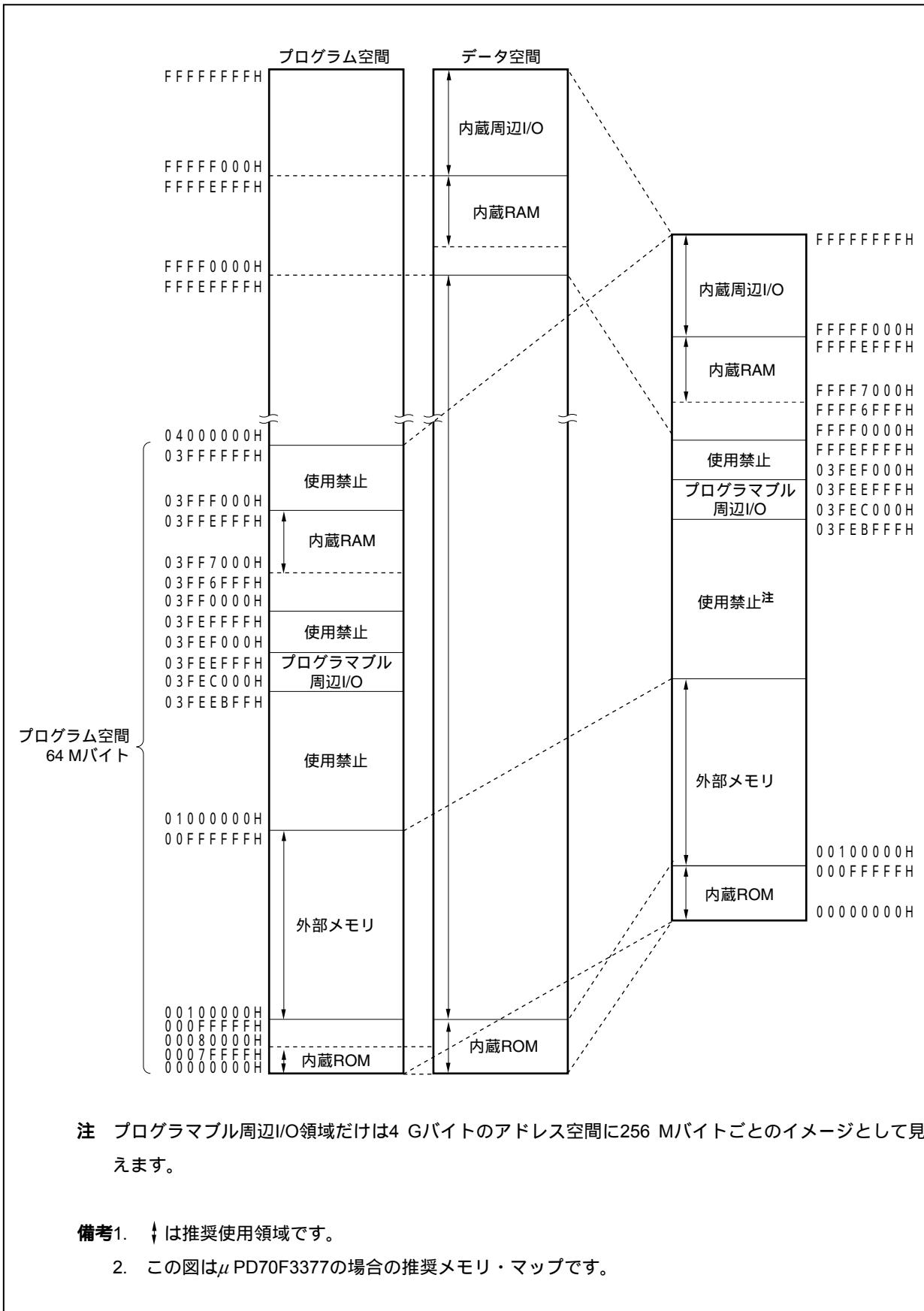
注意 内蔵RAM領域の上限に分岐命令がある場合、内蔵周辺I/O領域にまたがるプリフェッч動作(無効フェッチ)は発生しません。

RAMサイズ	アクセス番地
60 Kバイト	03FF0000H-03FFEFFFH
48 Kバイト	03FF3000H-03FFEFFFH
40 Kバイト	03FF5000H-03FFEFFFH
32 Kバイト	03FF7000H-03FFEFFFH
24 Kバイト	03FF9000H-03FFEFFFH
16 Kバイト	03FFB000H-03FFEFFFH
8 Kバイト	03FFD000H-03FFEFFFH

(2) データ空間

本マイクロコントローラでは、4 GバイトのCPUアドレス空間に64 Mバイトの物理アドレス空間が64個のイメージとして見えるため、この26ビット・アドレスの最上位ビット(ビット25)を32ビット長まで符号拡張したアドレスとして割り当てています。

図3-6 推奨メモリ・マップ



3.6 特定レジスタ

特定レジスタとは、プログラムの暴走などにより不正なデータが書き込まれないよう保護されているレジスタです。特定レジスタに対するライト・アクセスは、コマンド・レジスタにデータを書き込んだ直後にのみ行われます。特定レジスタに書き込みを行う場合は、下記命令を使用する必要があります。

1. ストア命令 (ST/SST命令)
2. ビット操作命令 (SET1/CLR1/NOT1命令)

不正なストア動作はシステム・レジスタ (SYS) に報告されます。

特定レジスタを読み出す場合は、特別なシーケンスは必要ありません。

表3 - 6に特定レジスタの概要を示します。

表3 - 6 特定レジスタの概要

特定レジスタ	略号	参 照
プロセッサ・クロック・コントロール・レジスタ	PCC	第4章 クロック発生機能とスタンバイ制御参照
メイン・システム・クロック・モード・レジスタ	MCM	
メイン・クロック発振回路クロック・モニタ・モード・レジスタ	CLM	
パワー・セーブ・コントロール・レジスタ	PSC	
SSCG周波数制御レジスタ0	SFC0	
SSCG周波数制御レジスタ1	SFC1	
データ・フラッシュ・コントロール・レジスタ	DFLCTL	
リセット要因フラグ・レジスタ	RESF	
内蔵RAMデータ・ステータス・レジスタ	RAMS	
低電圧検出レジスタ	LVIM	第26章 低電圧検出回路参照
オンチップ・デバッグ・モード・レジスタ	OCDM	

(1) 特定レジスタへのデータ設定

特定レジスタへのデータ設定は次のシーケンスで行います。

DMA動作を禁止する。

任意の汎用レジスタに特定レジスタへ設定するためのデータを用意する。

コマンド・レジスタ (PRCMD) にて用意したデータを書き込む。

特定レジスタに設定データを書き込む（次の命令で行う）。

- ・ストア命令 (ST/SST命令)
- ・ビット操作命令 (SET1/CLR1/NOT1命令)
- NOP命令を挿入する（5命令）^注。

DMA動作が必要な場合、DMA動作を許可する。

注 IDLE1, IDLE2, STOPモード, サブIDLEモードに移行する場合 (PSCレジスタのSTPビット = 1) には、直後にNOP命令を5命令以上挿入する必要があります。

[記述例1] PSCレジスタの場合（スタンバイ・モードの設定）

```

ST.B r11, PSMR [ r0 ] ;PSMRレジスタ設定 ( IDLE1, IDLE2, STOPモードの設定 )
CLR1 0, DCHCn [ r0 ] ;DMA動作禁止 , n = 0-3
MOV 0x02, r10
ST.B r10, PRCMD [ r0 ] ;PRCMDレジスタ書き込み
ST.B r10, PSC [ r0 ] ;PSCレジスタ設定
NOP注 ;ダミー命令
NOP注 ;ダミー命令
NOP注 ;ダミー命令
NOP注 ;ダミー命令
NOP注 ;ダミー命令
SET1 0, DCHCn [ r0 ] ;DMA動作許可 , n = 0-3
(next instruction)

```

なお、特定レジスタを読み出す場合は、特別なシーケンスは必要ありません。

注 IDLE1, IDLE2, STOPモード、サブIDLEモードに移行する場合（PSCレジスタのSTPビット = 1）には、直後にNOP命令を5命令以上挿入する必要があります。

- 注意1. コマンド・レジスタに対するストア命令では、割り込みを受け付けません。これはプログラムで上記、 を連続したストア命令で行うことを前提としているためです。 、 の間にほかの命令が置かれていると、その命令で割り込みを受け付けた際、上記シーケンスが成立しなくなる場合があり、誤動作の要因となります。
2. PRCMDレジスタへ書き込むデータはダミーですが、特定レジスタへの設定（例 ）で使用する汎用レジスタと同じレジスタをPRCMDレジスタ書き込み（例 ）でも使用してください。アドレッシングに汎用レジスタを使用する場合も同様です。
3. 特定シーケンス後、DMA動作を禁止する以前の状態でDMA動作を再開するには、DMA動作を禁止する以前に、DCHCnレジスタの状態を格納する必要があります。DCHCnレジスタの状態を格納後、DMA動作を禁止するまでにDMA転送終了が発生する可能性がありますので、DMA動作を再開する前にDCHCn.TCnビットを確認し、TCnビットの状態により処理を次のようにしてください。

- ・TCnビット = 0 (DMA転送終了) のとき： DMA動作を禁止する以前に格納したDCHCnレジスタの内容を、DCHCnレジスタに再度書き込む。

- ・TCnビット = 1 (DMA転送終了) のとき： DMA転送終了処理を行う。

[記述例2] PSCレジスタの場合

```

ST.B r11 , PSMR [ r0 ] ; PSMRレジスタ設定
LD.B DCHCn [ r0 ] , r12 ; (a) DMA転送状態の格納
ANDI 0xfe , r12 , r13
ST.B r13 , DCHCn [ r0 ] ; (b) DMA動作停止注1
MOV 0x02 , r10
ST.B r10 , PRCMD [ r0 ] ; PRCMDレジスタ書き込み
ST.B r10 , PSC [ r0 ] ; PSCレジスタ設定
NOP注2 ; ダミー命令
NOP注2 ; ダミー命令
NOP注2 ; ダミー命令
NOP注2 ; ダミー命令
TST1 7 , DCHCn [ r0 ] ; (a) と (b) の間にDMA転送が終了していないか (DCHCnレジスタの状態が更新されていないか) を確認
BNE next ; 更新されていたならば, DMA転送終了処理 (nextループへ)
ST.B r12 , DCHCn [ r0 ] ; 更新されていなければ, (a) の状態に戻す (DMA転送許可)
:
next : ; DMA転送終了処理
(next instruction)

```

- 注 1.** ビット操作命令を使用しないのは, DMA転送終了ステータス・フラグ (TCnビット) が読み出されることによりクリアされることを防ぐためです。
なお, DMA転送終了ステータス・フラグは0ライトによるクリアはできません。
- 2.** IDLE1, IDLE2, STOPモード, サブIDLEモードに移行する場合 (PSCレジスタのSTPビット = 1) には, 直後にNOP命令を5命令以上挿入する必要があります。

3.6.1 コマンド・レジスタ

特定レジスタへの書き込みアクセスを制御するレジスタを説明します。

(1) コマンド・レジスタ (PRCMD)

8ビットのPRCMDレジスタは、不適切な書き込みから特定レジスタを保護し、プログラムの暴走などによりシステムが不用意に停止しないようにするものです。

PRCMDレジスタに書き込みを行った直後に特定レジスタに1回だけ書き込みを行うことができます。その後2回目に特定レジスタに書き込みを行っても、そのレジスタは書き込みから保護されているため、書き込めません。

アクセス： 8ビット単位でライトのみ可能です。リードした場合、不定データを読み出します。

アドレス： FFFFF1FCH

初期値： リセットにより不定になります。

7	6	5	4	3	2	1	0
x	x	x	x	x	x	x	x

W W W W W W W W

特定レジスタに無効な書き込みを行うと、エラー・フラグSYS.PRERRがセットされます。

(2) システム・レジスタ (SYS)

8ビットのSYSレジスタは、特定レジスタへの書き込みアクセスの状態を示します。

アクセス： 8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

アドレス： FFFFF802H

初期値： リセットにより00Hになります。

7	6	5	4	3	2	1	①
							PRERR
R	R	R	R	R	R	R	R/W

表3 - 7 SYSレジスタの内容

ビット位置	ビット名	機能
0	PRERR	プロテクション・エラーの検出： 0：プロテクション・エラーは発生していない。 1：プロテクション・エラーは発生している。

PRERRフラグの動作条件を次に示します。

(a) セット条件 (PRERRフラグ = 1)

- (i) PRCMDレジスタへの書き込み動作を行なわず、特定レジスタへの書き込み動作を行ったとき
(3.6(1) 特定レジスタへのデータ設定例で示す 行なわずに 行なったとき)。
- (ii) PRCMDレジスタへの書き込み動作後、特定レジスタ以外の内蔵周辺I/Oレジスタに書き込み動作
(ビット操作命令を含む)を行なったとき (3.6(1) 特定レジスタへのデータ設定例で示す が特定レジスタでなかったとき)。

備考 特定レジスタは、PRCMDレジスタへの書き込み動作と特定レジスタへの書き込み動作の間に、内蔵周辺I/Oレジスタの読み出し動作(ビット操作命令を除く)など内蔵RAMへのアクセスを行っても、PRERRフラグはセットされず、特定レジスタに設定データを書き込むことができます。

(b) クリア条件 (PRERRフラグ = 0)

- (i) SYSレジスタのPRERRフラグに0を書き込んだとき。
- (ii) システム・リセットしたとき。

- 注意1.** PRCMDレジスタへの書き込み動作直後に、特定レジスタではないSYSレジスタのPRERRビットに“0”を書き込んだ場合、PRERRビットは“0”になります(ライト優先)。
2. PRCMDレジスタへの書き込み動作直後に、特定レジスタではないPRCMDレジスタへの書き込み動作を行った場合、PRERRビットは“1”になります。

3.7 注意事項

(1) 最初に設定するレジスタ

本マイクロコントローラを使用する際には、必ず最初に次のレジスタを設定してください。

- ・システム・ウェイト・コントロール・レジスタ (VSWC)
- ・オンチップ・デバッグ・モード・レジスタ (OCDM)
- ・ウォッチドッグ・タイマ・モード・レジスタ (WDTM2)

OCDMレジスタを設定したあとに、VSWC, WDTM2レジスタを設定し、その後必要に応じてその他の各レジスタを設定してください。

なお、外部バスを使用する場合は、上記レジスタを設定したあと、ただちにポート関連のレジスタ設定により、各端子を兼用するバス制御端子に設定してください。

(a) システム・ウェイト・コントロール・レジスタ (VSWC)

VSWCレジスタは、内蔵周辺I/Oレジスタに対するバス・アクセスのウェイトを制御するレジスタです。

内蔵周辺I/Oレジスタへのアクセスは3クロック(ノーワエイト時)ですが、本マイクロコントローラでは動作周波数によりウェイトが必要です。使用的な動作周波数に応じて、VSWCレジスタには次に示す値を設定してください。

動作周波数 (f _{CPU})	VSWCの設定値	ウェイト数
f _{CPU} < 16.6 MHz	00H	0
16.6 MHz < f _{CPU} < 25 MHz	01H	1
25 MHz < f _{CPU} < 33.3 MHz ^注	11H	2
33.3 MHz < f _{CPU} < 48 MHz	12H	3

注 128 K, 256 Kバイト品は、16.6 MHz < f_{CPU} < 32 MHzとなります。

(b) オンチップ・デバッグ・モード・レジスタ (OCDM)

詳細は、第27章 オンチップ・デバッグ・ユニットを参照してください。

(c) ウォッチドッグ・タイマ・モード・レジスタ2 (WDT2)

WDTM2レジスタは、ウォッチドッグ・タイマ2のオーバフロー時間およびクロックを設定するレジスタです。

ウォッチドッグ・タイマ2は、リセット解除後、自動的にリセット・モードでスタートします。動作を確保するために、WDT2レジスタへの書き込みを行ってください。

詳細は、第17章 ウォッチドッグ・タイマ2機能を参照してください。

(2) 特定の内蔵周辺I/Oレジスタへのアクセスについて

この製品は、内部に2種類のシステム・バスを持っています。

1つはCPU用バスで、もう1つは低速周辺ハードウェアとのインターフェースを行う周辺用バスです。

CPU用バスのクロックと周辺用バスのクロックは非同期の関係となるため、CPUと周辺ハードウェアとのアクセス間に競合が発生した場合は、予期しない不正データの受け渡しが行われる可能性があります。したがって、競合の恐れがある周辺ハードウェアへのアクセス時は、CPUは正しいデータの受け渡しが行われるよう、アクセス・サイクル数が変わります。その結果、CPUは次の命令処理に移行せず、CPU処理としてウエイト状態となるため、このウエイトが発生した場合、命令の実行クロック数が次に示すウエイト・クロック数分長くなります。

リアルタイム性が要求される処理を行う場合は、この内容に注意してください。

特定の内蔵周辺I/Oレジスタへのアクセス時に、VSWCレジスタで設定したウエイト以外に、さらにウエイトを要する場合があります。

その際のアクセス条件と、挿入されるウエイト数（CPUクロック数）の算出方法を次に示します。

(1/2)

周辺機能	レジスタ名称	アクセス	k
16ビット・タイマ/イベント・カウンタAA (TAA)	TAAAnCNT	リード (TAA動作時)	1
	TAAAnCCR0, TAAAnCCR1	ライト (TAA動作時)	0-4 ^注
		リード (TAA動作時)	1
	TAAnLOC4	ライト (TAA動作時)	0-4 ^注
16ビット・タイマ/イベント・カウンタAB (TAB)	TABnCNT	リード (TAB動作時)	1
	TABnCCR0-TABnCCR3	ライト (TAB動作時)	0-4 ^注
		リード (TAB動作時)	1
	TABnLOC3	ライト (TAB動作時)	0-4 ^注
モータ制御	TABnOPT1	ライト	0-4 ^注
	TABnDTC	ライト	0-4 ^注
ウォッチドッグ・タイマ2 (WDT2)	WDTM2	ライト (WDT2動作時)	3
A/Dコンバータ	ADAnM0	リード	1-3
	ADAnCRm	リード	1-3
	ADAnCRmH	リード	1-3
	ADAnCRDD	リード	1-3
	ADAnCRDDH	リード	1-3
	ADAnCRSS	リード	1-3
	ADAnCRSSH	リード	1-3
I ² C	IICSO	リード	1

注 対象となる同一レジスタに連続してライトする場合にウエイトは発生します。1回のみライトする場合、ウエイトは発生しません。

備考 n, m : 製品により異なります。詳細は、表1-1 V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3, V850ES/FJ3, V850ES/FK3の機能概要を参照してください。

(2/2)

周辺機能	レジスタ名称	アクセス	k
CANコントローラ	CnGMCTRL, CnGMCS, CnGMABT, CnGMABTD, CnMASKaL, CnMASKaH, CnCTRL, CnLEC, CnINFO, CnERC, CnIE, CnINTS, CnBRP, CnBTR, CnTS	リード / ライト	1-2
	CnRGPT, CnLIPT, CnTGPT, CnLOPT	リード	1-3
	CnMDATA01m, CnMDATA0m, CnMDATA1m, CnMDATA23m, CnMDATA2m, CnMDATA3m, CnMDATA45m, CnMDATA4m, CnMDATA5m, CnMDATA67m, CnMDATA6m, CnMDATA7m, CnMDLCm, CnMCONFm, CnMIDLm, CnMIDHm, CnMCTRLm	ライト (8ビット) ライト (16ビット) リード	1-3 1-2 1-3

アクセスに必要なクロック数 = 3 + i + j + (2 + j) × k

注意 次に示す状態において、上記レジスタへのアクセスは禁止です。ウェイトが発生した場合、解除する方法はリセットだけです。

- ・CPUがサブクロックで動作し、かつメイン・クロック発振を停止している場合
- ・CPUが低速内蔵発振器で動作している場合

備考 i : VSWCレジスタの上位4ビットの値 (0, 1)

j : VSWCレジスタの下位4ビットの値 (0, 1, 2)

n, m : 製品により異なります。詳細は、表1 - 1 V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3, V850ES/FJ3, V850ES/FK3の機能概要を参照してください。

第4章 クロック発生機能とスタンバイ制御

クロック発生機能の概要を次に示します。

4.1 概 要

- ・メイン・クロック発振回路： 4 MHzから16 MHzの外付け発振子と接続し発振
- ・サブクロック発振回路： 外付け発振子(32.768 kHz)または外付けRC(20 kHz)と接続し発振(R = 390 kΩ, C = 47 pF)
- ・低速内蔵発振器： 240 kHz (TYP.)
- ・高速内蔵発振器： 8 MHz (TYP.)

特 徴： クロック発生機能には次のような特徴があります。

- ・メイン・クロック用PLL
クロック・スルー・モード : $f_x = 4 \sim 16 \text{ MHz}$ ($f_{xx} = 4 \sim 16 \text{ MHz}$)
PLL (Phase Locked Loop) モード (8倍) :
 - $f_x = 4 \sim 16 \text{ MHz}$ ($f_{xx} = 12 \sim 48 \text{ MHz}$) : フラッシュROM 384 KB製品
 - $f_x = 4 \sim 16 \text{ MHz}$ ($f_{xx} = 12 \sim 32 \text{ MHz}$) : フラッシュROM 256 KB製品周波数変調機能 (SSCG (Spread Spectrum Clock Generator)) : 周波数変調率
最大約 $\pm 5\%$ ^注
- ・サブクロック発振回路 (f_{XT}) : 外付け発振子または外付けRCを選択可能
- ・2つの内蔵発振器 ($f_{RL} = 240 \text{ kHz}$, $f_{RH} = 8 \text{ MHz}$)
- ・内部メイン・システム・クロック生成
7段階 ($f_{xx}, f_{xx}/2, f_{xx}/4, f_{xx}/8, f_{xx}/16, f_{xx}/32, f_{XT}$ または f_{RL})
サブクロック : オプション・バイトの設定で f_{XT} または f_{RL} を選択可能。
- ・周辺クロック生成
- ・クロック出力機能 (CLKOUT端子)
- ・プログラマブル・クロック出力機能 (PCL端子)
- ・時計タイマ, CSIB0およびCANへのメイン発振クロックの直接供給に対応。
- ・メイン・クロック発振回路用クロック・モニタ

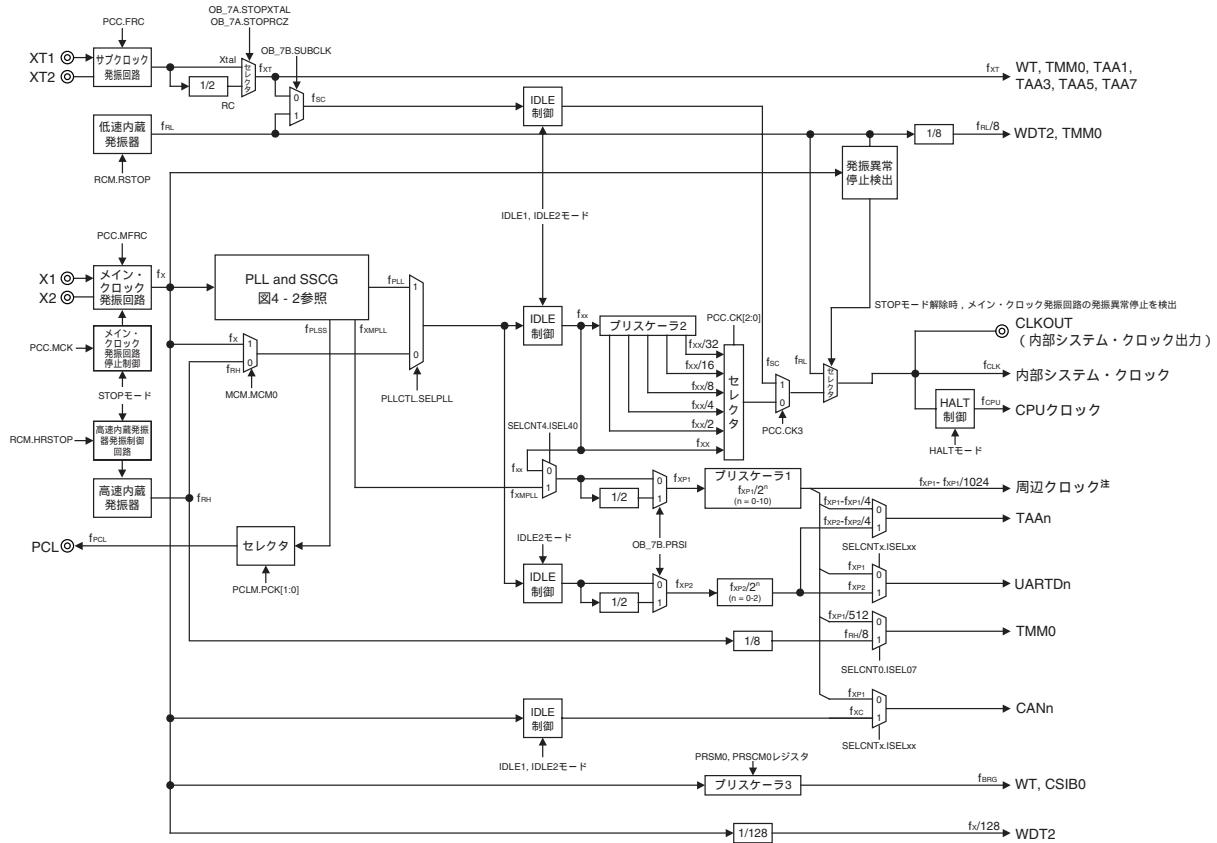
注 SSCGを使用する場合, 变调率の分だけMAX.周波数は落ちます。

- 備考**
- f_x : メイン・クロック発振周波数
 - f_{xx} : メイン・クロック周波数
 - f_{RL} : 低速内蔵発振クロック周波数
 - f_{RH} : 高速内蔵発振クロック周波数
 - f_{XT} : サブクロック発振周波数

4.1.1 構成

下図にクロック発生回路の構成を示します。

図4-1 クロック発生回路



注 $f_{XP1}/2^n$ (n = 3-7) : TAA0, TAA2, TAA4, TAA6

$f_{XP1}/2^n$ (n = 3-6) : TAA1, TAA3, TAA5, TAA7

$f_{XP1}/2^n$ (n = 1-10) : UARTD0-UARTD7

$f_{XP1}/2^n$ (n = 0-2, 6) : TMM0

$f_{XP1}/2^n$ (n = 1-6) : CSIB0, CSIB1, CSIB3,

$f_{XP1}/2^n$ (n = 1-7) : CSIB2

$f_{XP1}/2^n$ (n = 0-7) : TAB0-TAB2

f_{XP1} : I²C, AD0, AD1

注意 f_{XP1} が高速内蔵発振クロック (f_{RH}) をソース・クロックとするよう設定されている場合、3線式シリアル・インターフェース(CSIB)は、 f_{XP1} クロックをその分周クロックを含め、入力クロック(動作クロック)に設定して使用できません。

- 備考1.** OB_7A.ビット名 , OB_7B.ビット名はオプション・バイト007AHと007BHの制御ビットです。
2. f_{BRG} : 時計タイマ , CSIB0入力クロック周波数
 - f_{PLSS} : PCL出力用途遅倍プロック出力周波数
 - f_{XP1} : 周辺クロック用プリスケーラ1入力クロック周波数
 - f_{XP2} : UARTD0, TAA用クロック
 - f_{PLL} : 遅倍プロック出力周波数
 - f_{PLLO} : PLL出力周波数
 - f_{XMPLL} : 周辺クロック用途PLL出力周波数
 - f_{xx} : メイン・クロック周波数
 - f_{PCL} : PCL出力クロック周波数
 - f_{RL} : 低速内蔵発振クロック周波数
 - f_{RH} : 高速内蔵発振クロック周波数
 - f_{XT} : サブクロック発振周波数
 - f_{SC} : サブクロック周波数
 - f_{CLK} : 内部システム・クロック
 - f_{CPU} : CPUクロック
 - f_x : メイン・クロック発振周波数

図4 - 1の左側は, 4種類の発振源が生成するクロックをどのようにしてCPUと周辺モジュールに接続できるかを示しています。クロック経路は, ソフトウェア制御のセレクタで指定します。

メイン・クロック発振回路 : メイン・クロック発振回路 (MainOSC) は, $f_x = 4 \text{ MHz}$ から 16 MHz で発振します。リセット解除後, メイン・クロック発振回路は停止状態です (発振の開始はソフトウェアで設定する必要があります)。

メイン・クロック発振回路の発振はSTOPモードで停止します。また, 発振の許可 / 禁止はPCCレジスタによって制御します。

サブクロック発振回路 : 外付け発振子 (32.768 kHz) での発振, または外付けRCによる発振 (20 kHz (TYP.)) に対応しています。

低速内蔵発振器 : 240 kHz (TYP.) でクロック f_{RL} を生成します。この発振器は, RCMレジスタの設定により停止しますが, オプション・バイト007AHで停止不可を選択している場合, 発振は停止できません。

高速内蔵発振器 : 8 MHzでクロック (f_{RH}) を生成します。この高速内蔵発振器はリセット解除後に起動します。

発振をRCMレジスタの設定によって停止できます。

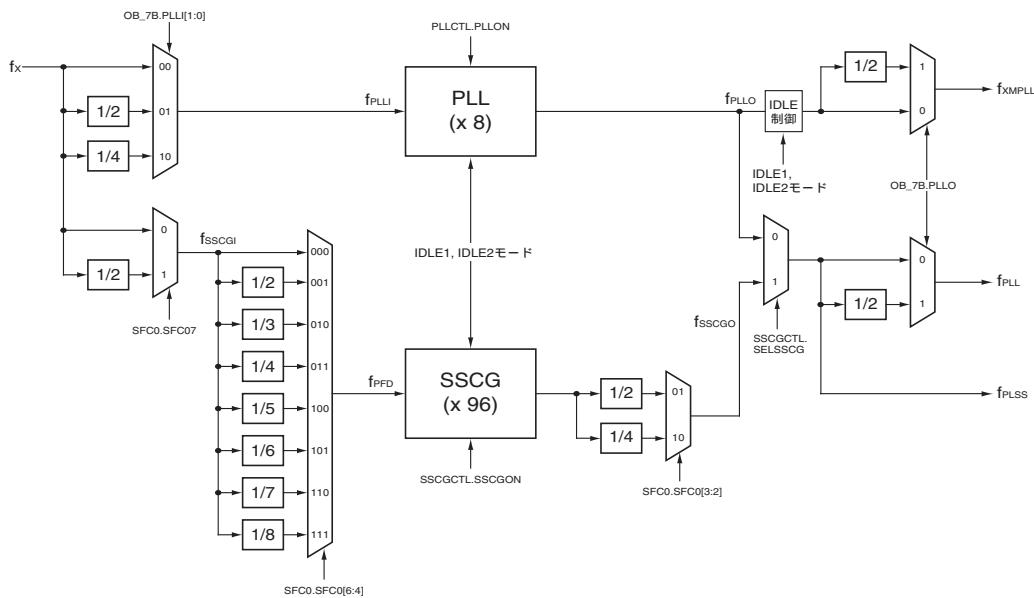
メイン・クロック (f_{xx}) : メイン・システム・クロック (f_{xx}) はクロック源として次から選択できます。

- クロック・スルーモード : メイン・クロック発振周波数 (f_x) または高速内蔵発振クロック周波数 (f_{RH}) から選択。
- PLLモード : f_{PLLO} (PLL出力) または f_{SSCGO} (SSCG出力) から選択。

スルーフクロックが遅倍クロックかの選択は, PLLCTL.SELPLLビットで設定します。

PLLとSSCG : PLLおよびSSCG回路はメイン・クロック (f_{xx}) として使用できるクロック (f_{PLL}) を生成します。次の図は, PLLおよびSSCG回路のブロック図です。

図4-2 PLLおよびSSCGのブロック図



備考1. OB_7B.ビット名はオプション・バイト007BHの制御ビットです。

2. f_{PLL} : PLL入力クロック周波数
- f_{SSCGI} : SSCG用メイン・クロック発振周波数
- f_{PFD} : SSCG入力クロック周波数
- f_{SSCGO} : SSCG出力クロック周波数

f_{PLL}は、SSCGCTL.SELSSCGの設定により、PLL出力またはSSCG出力が選択されます。

オプション・バイト(OB7B.PLLO)の設定により ,f_{PLL} = f_{PLLO}(f_{SSCGO})またはf_{PLL} = f_{PLLO}/2 (f_{SSCGO}/2)が選択されます。

PLLおよびSSCGへの入力クロックは、どちらもメイン・クロック発振周波数(f_x)です。

• PLL

PLL回路の前段には分周器があり、PLLへの入力(f_{PLL})は f_x , f_x/2 または f_x/4 に設定できます。この分周器は、オプション・バイト(OB7B.PLLI [1:0])で設定します。PLL回路は、メイン・クロック発振周波数(f_x)、またはその分周クロックを8倍倍します。

PLLはPLLCTL.PLLONビットによって起動、停止します。

• SSCG (Spread Spectrum Clock Generator)

SSCGへの入力クロック(f_{PFD})は、メイン・クロック発振周波数(f_x)、またはその分周クロックであり、SFC0.SFC07ビットとSFC0.SFC0[6:4]ビットで分周設定します。

SSCGは、f_{PFD}を96倍倍し、周波数変調を加えて出力します。

その出力はSCF0.SCF0[3:2]ビットの設定により分周されます。

(a) PLLを使用する場合のクロック設定例

- (A), (A1) 品質水準品

V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3 の μ PD70F3374, 70F3375, V850ES/FJ3 の μ PD70F3378

(1/2)

f_x [MHz]	PLLCTL.SELPLL	OB_7B.PLLI1	OB_7B.PLLI0	OB_7B.PLLO	f_{xx} [MHz]	動作クロック
4	0	x	x	x	4	クロック・スルー・モード
	1	0	0	0	32	PLLモード ($f_{PLL} = f_x$)
	1	0	0	1	16	
	1	0	1	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLL} = f_x/2$)
	1	0	1	1	設定禁止	
	1	1	x	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLL} = f_x/4$)
	1	1	x	1	設定禁止	
5	0	x	x	x	5	クロック・スルー・モード
	1	0	0	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLL} = f_x$)
	1	0	0	1	20	
	1	0	1	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLL} = f_x/2$)
	1	0	1	1	設定禁止	
	1	1	x	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLL} = f_x/4$)
	1	1	x	1	設定禁止	
6	0	x	x	x	6	クロック・スルー・モード
	1	0	0	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLL} = f_x$)
	1	0	0	1	24	
	1	0	1	0	24	PLLモード ($f_{PLL} = f_x/2$)
	1	0	1	1	12	
	1	1	x	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLL} = f_x/4$)
	1	1	x	1	設定禁止	
8	0	x	x	x	8	クロック・スルー・モード
	1	0	0	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLL} = f_x$)
	1	0	0	1	設定禁止	
	1	0	1	0	32	PLLモード ($f_{PLL} = f_x/2$)
	1	0	1	1	16	
	1	1	x	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLL} = f_x/4$)
	1	1	x	1	設定禁止	
10	0	x	x	x	10	クロック・スルー・モード
	1	0	0	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLL} = f_x$)
	1	0	0	1	設定禁止	
	1	0	1	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLL} = f_x/2$)
	1	0	1	1	20	
	1	1	x	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLL} = f_x/4$)
	1	1	x	1	設定禁止	

(2/2)

f_x [MHz]	PLLCTL.SELPLL	OB_7B.PLLI1	OB_7B.PLLI0	OB_7B.PLLO	f_{xx} [MHz]	動作クロック
12	0	x	x	x	12	クロック・スルー・モード
	1	0	0	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLL} = f_x$)
	1	0	0	1	設定禁止	
	1	0	1	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLL} = f_x/2$)
	1	0	1	1	24	
	1	1	x	0	24	PLLモード ($f_{PLL} = f_x/4$)
	1	1	x	1	12	
16	0	x	x	x	16	クロック・スルー・モード
	1	0	0	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLL} = f_x$)
	1	0	0	1	設定禁止	
	1	0	1	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLL} = f_x/2$)
	1	0	1	1	設定禁止	
	1	1	x	0	32	PLLモード ($f_{PLL} = f_x/4$)
	1	1	x	1	16	

• (A), (A1) 品質水準品

V850ES/FG3 の μ PD70F3376A, 70F3377A, V850ES/FJ3 の μ PD70F3379, 70F3380, 70F3381, 70F3382,
V850ES/FK3

(1/2)

f_x [MHz]	PLLCTL.SELPLL	OB_7B.PLLI1	OB_7B.PLLI0	OB_7B.PLLO	f_{xx} [MHz]	動作クロック
4	0	x	x	x	4	クロック・スルー・モード
	1	0	0	0	32	PLLモード ($f_{PLL} = f_x$)
	1	0	0	1	16	
	1	0	1	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLL} = f_x/2$)
	1	0	1	1	設定禁止	
	1	1	x	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLL} = f_x/4$)
	1	1	x	1	設定禁止	
5	0	x	x	x	5	クロック・スルー・モード
	1	0	0	0	40	PLLモード ($f_{PLL} = f_x$)
	1	0	0	1	20	
	1	0	1	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLL} = f_x/2$)
	1	0	1	1	設定禁止	
	1	1	x	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLL} = f_x/4$)
	1	1	x	1	設定禁止	
6	0	x	x	x	6	クロック・スルー・モード
	1	0	0	0	48	PLLモード ($f_{PLL} = f_x$)
	1	0	0	1	24	
	1	0	1	0	24	PLLモード ($f_{PLL} = f_x/2$)
	1	0	1	1	12	
	1	1	x	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLL} = f_x/4$)
	1	1	x	1	設定禁止	

(2/2)

f_x [MHz]	PLLCTL.SELPLL	OB_7B.PLLI1	OB_7B.PLLI0	OB_7B.PLLO	f_{xx} [MHz]	動作クロック
8	0	x	x	x	8	クロック・スルー・モード
	1	0	0	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLL} = f_x$)
	1	0	0	1	設定禁止	
	1	0	1	0	32	PLLモード ($f_{PLL} = f_x/2$)
	1	0	1	1	16	
	1	1	x	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLL} = f_x/4$)
	1	1	x	1	設定禁止	
10	0	x	x	x	10	クロック・スルー・モード
	1	0	0	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLL} = f_x$)
	1	0	0	1	設定禁止	
	1	0	1	0	40	PLLモード ($f_{PLL} = f_x/2$)
	1	0	1	1	20	
	1	1	x	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLL} = f_x/4$)
	1	1	x	1	設定禁止	
12	0	x	x	x	12	クロック・スルー・モード
	1	0	0	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLL} = f_x$)
	1	0	0	1	設定禁止	
	1	0	1	0	48	PLLモード ($f_{PLL} = f_x/2$)
	1	0	1	1	24	
	1	1	x	0	24	PLLモード ($f_{PLL} = f_x/4$)
	1	1	x	1	12	
16	0	x	x	x	16	クロック・スルー・モード
	1	0	0	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLL} = f_x$)
	1	0	0	1	設定禁止	
	1	0	1	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLL} = f_x/2$)
	1	0	1	1	設定禁止	
	1	1	x	0	32	PLLモード ($f_{PLL} = f_x/4$)
	1	1	x	1	16	

• (A2) 品質水準品

V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3 の μ PD70F3374, 70F3375, V850ES/FJ3 の μ PD70F3378

(1/2)

f_x [MHz]	PLLCTL.SELPLL	OB_7B.PLLI1	OB_7B.PLLI0	OB_7B.PLLO	f_{xx} [MHz]	動作クロック
4	0	x	x	x	4	クロック・スルー・モード
	1	0	0	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLL} = f_x$)
	1	0	0	1	16	
	1	0	1	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLL} = f_x/2$)
	1	0	1	1	設定禁止	
	1	1	x	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLL} = f_x/4$)
	1	1	x	1	設定禁止	
5	0	x	x	x	5	クロック・スルー・モード
	1	0	0	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLL} = f_x$)
	1	0	0	1	20	
	1	0	1	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLL} = f_x/2$)
	1	0	1	1	設定禁止	
	1	1	x	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLL} = f_x/4$)
	1	1	x	1	設定禁止	
6	0	x	x	x	6	クロック・スルー・モード
	1	0	0	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLL} = f_x$)
	1	0	0	1	24	
	1	0	1	0	24	PLLモード ($f_{PLL} = f_x/2$)
	1	0	1	1	12	
	1	1	x	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLL} = f_x/4$)
	1	1	x	1	設定禁止	
8	0	x	x	x	8	クロック・スルー・モード
	1	0	0	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLL} = f_x$)
	1	0	0	1	設定禁止	
	1	0	1	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLL} = f_x/2$)
	1	0	1	1	16	
	1	1	x	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLL} = f_x/4$)
	1	1	x	1	設定禁止	
10	0	x	x	x	10	クロック・スルー・モード
	1	0	0	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLL} = f_x$)
	1	0	0	1	設定禁止	
	1	0	1	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLL} = f_x/2$)
	1	0	1	1	20	
	1	1	x	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLL} = f_x/4$)
	1	1	x	1	設定禁止	

(2/2)

f_x [MHz]	PLLCTL.SELPLL	OB_7B.PLLI1	OB_7B.PLLI0	OB_7B.PLLO	f_{xx} [MHz]	動作クロック
12	0	×	×	×	12	クロック・スルー・モード
	1	0	0	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLLl} = f_x$)
	1	0	0	1	設定禁止	
	1	0	1	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLLl} = f_x/2$)
	1	0	1	1	24	
	1	1	×	0	24	PLLモード ($f_{PLLl} = f_x/4$)
	1	1	×	1	12	
16	0	×	×	×	16	クロック・スルー・モード
	1	0	0	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLLl} = f_x$)
	1	0	0	1	設定禁止	
	1	0	1	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLLl} = f_x/2$)
	1	0	1	1	設定禁止	
	1	1	×	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLLl} = f_x/4$)
	1	1	×	1	16	

• (A2) 品質水準品

V850ES/FG3 の μ PD70F3376A, 70F3377A, V850ES/FJ3 の μ PD70F3379, 70F3380, 70F3381, 70F3382,
V850ES/FK3

(1/2)

f_x [MHz]	PLLCTL.SELPLL	OB_7B.PLLI1	OB_7B.PLLI0	OB_7B.PLLO	f_{xx} [MHz]	動作クロック
4	0	×	×	×	4	クロック・スルー・モード
	1	0	0	0	32	PLLモード ($f_{PLLl} = f_x$)
	1	0	0	1	16	
	1	0	1	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLLl} = f_x/2$)
	1	0	1	1	設定禁止	
	1	1	×	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLLl} = f_x/4$)
	1	1	×	1	設定禁止	
5	0	×	×	×	5	クロック・スルー・モード
	1	0	0	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLLl} = f_x$)
	1	0	0	1	20	
	1	0	1	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLLl} = f_x/2$)
	1	0	1	1	設定禁止	
	1	1	×	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLLl} = f_x/4$)
	1	1	×	1	設定禁止	
6	0	×	×	×	6	クロック・スルー・モード
	1	0	0	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLLl} = f_x$)
	1	0	0	1	24	
	1	0	1	0	24	PLLモード ($f_{PLLl} = f_x/2$)
	1	0	1	1	12	
	1	1	×	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLLl} = f_x/4$)
	1	1	×	1	設定禁止	

(2/2)

f_x [MHz]	PLLCTL.SELPLL	OB_7B.PLLI1	OB_7B.PLLI0	OB_7B.PLLO	f_{xx} [MHz]	動作クロック
8	0	×	×	×	8	クロック・スルー・モード
	1	0	0	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLLl} = f_x$)
	1	0	0	1	設定禁止	
	1	0	1	0	32	PLLモード ($f_{PLLl} = f_x/2$)
	1	0	1	1	16	
	1	1	×	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLLl} = f_x/4$)
	1	1	×	1	設定禁止	
10	0	×	×	×	10	クロック・スルー・モード
	1	0	0	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLLl} = f_x$)
	1	0	0	1	設定禁止	
	1	0	1	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLLl} = f_x/2$)
	1	0	1	1	20	
	1	1	×	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLLl} = f_x/4$)
	1	1	×	1	設定禁止	
12	0	×	×	×	12	クロック・スルー・モード
	1	0	0	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLLl} = f_x$)
	1	0	0	1	設定禁止	
	1	0	1	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLLl} = f_x/2$)
	1	0	1	1	24	
	1	1	×	0	24	PLLモード ($f_{PLLl} = f_x/4$)
	1	1	×	1	12	
16	0	×	×	×	16	クロック・スルー・モード
	1	0	0	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLLl} = f_x$)
	1	0	0	1	設定禁止	
	1	0	1	0	設定禁止	PLLモード ($f_{PLLl} = f_x/2$)
	1	0	1	1	設定禁止	
	1	1	×	0	32	PLLモード ($f_{PLLl} = f_x/4$)
	1	1	×	1	16	

(b) SSCGを使用する場合のクロック設定例

- (A), (A1) 品質水準品

V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3 の μ PD70F3374, 70F3375, V850ES/FJ3 の μ PD70F3378

fx [MHz]	SFC0. [SFC07:SFC04]	f _{PFD} [MHz]	SFC0. [SFC01:SFC00]	SFC0. [SFC03:SFC02]	f _{SSCG0} [MHz]	f _{PLL} [MHz]	
						OB_7B.PLL = 0	OB_7B.PLL = 1
4	0010B	1.333	10B	10B	32 ^注	32	16
	0011B	1	01B	01B	48	設定禁止	24
				10B	24	24	12
5	0010B	1.667	11B	10B	40	設定禁止	20
	0011B	1.25	10B	10B	30	30	15
	0100B	1	01B	01B	48	設定禁止	24
				10B	24	24	12
6	0011B	1.5	11B	10B	36	設定禁止	18
	0100B	1.2	01B	10B	28.8	28.8	14.4
	0101B	1	01B	01B	48	設定禁止	24
				10B	24	24	12
8	0100B	1.6	11B	10B	38.4	設定禁止	19.2
	0101B	1.333	10B	10B	32 ^注	32	16
	0110B	1.143	01B	10B	27.4	27.4	13.7
	0111B	1	01B	01B	48	設定禁止	24
				10B	24	24	12
10	0101B	1.667	11B	10B	40	設定禁止	20
	0110B	1.429	10B	10B	34.2	設定禁止	17.1
	0111B	1.25	01B	10B	30	30	15
	1100B	1	01B	01B	48	設定禁止	24
				10B	24	24	12
12	0110B	1.714	11B	10B	41.1	設定禁止	20.5
	0111B	1.5	11B	10B	36	設定禁止	18
	1100B	1.2	01B	10B	28.8	28.8	14.4
	1101B	1	01B	01B	48	設定禁止	24
				10B	24	24	12
14	1100B	1.4	10B	10B	33.6	設定禁止	16.8
	1101B	1.167	01B	10B	28	28	14
	1110B	1	01B	01B	48	設定禁止	24
				10B	24	24	12
	1111B	0.875	00B	01B	42	設定禁止	21
				10B	21	21	10.5
16	1100B	1.6	11B	10B	38.4	設定禁止	19.2
	1101B	1.333	10B	10B	32 ^注	32	16
	1110B	1.143	01B	10B	27.4	27.4	13.7
	1111B	1	01B	01B	48	設定禁止	24
				10B	24	24	12

注 変調後の周波数が最大動作周波数 (32 MHz) を越えないようにしてください。

• (A), (A1) 品質水準品

V850ES/FG3 の μ PD70F3376A, 70F3377A, V850ES/FJ3 の μ PD70F3379, 70F3380, 70F3381, 70F3382,
V850ES/FK3

f_x [MHz]	SFC0. [SFC07:SFC04]	f_{PFD} [MHz]	SFC0. [SFC01:SFC00]	SFC0. [SFC03:SFC02]	f_{SSCGO} [MHz]	f_{PLL} [MHz]	
						OB_7B.PLLO = 0	OB_7B.PLLO = 1
4	0010B	1.333	10B	10B	32	32	16
	0011B	1	01B	01B	48 ^注	48	24
				10B	24	24	12
5	0010B	1.667	11B	10B	40	40	20
	0011B	1.25	10B	10B	30	30	15
	0100B	1	01B	01B	48 ^注	48	24
				10B	24	24	12
6	0011B	1.5	11B	10B	36	36	18
	0100B	1.2	01B	10B	28.8	28.8	14.4
	0101B	1	01B	01B	48 ^注	48	24
				10B	24	24	12
8	0100B	1.6	11B	10B	38.4	38.4	19.2
	0101B	1.333	10B	10B	32	32	16
	0110B	1.143	01B	10B	27.4	27.4	13.7
	0111B	1	01B	01B	48 ^注	48	24
				10B	24	24	12
10	0101B	1.667	11B	10B	40	40	20
	0110B	1.429	10B	10B	34.2	34.2	17.1
	0111B	1.25	01B	10B	30	30	15
	1100B	1	01B	01B	48 ^注	48	24
				10B	24	24	12
12	0110B	1.714	11B	10B	41.1	41.1	20.5
	0111B	1.5	11B	10B	36	36	18
	1100B	1.2	01B	10B	28.8	28.8	14.4
	1101B	1	01B	01B	48 ^注	48	24
				10B	24	24	12
14	1100B	1.4	10B	10B	33.6	33.6	16.8
	1101B	1.167	01B	10B	28	28	14
	1110B	1	01B	01B	48 ^注	48	24
				10B	24	24	12
	1111B	0.875	00B	01B	42	42	21
				10B	21	21	10.5
16	1100B	1.6	11B	10B	38.4	38.4	19.2
	1101B	1.333	10B	10B	32	32	16
	1110B	1.143	01B	10B	27.4	27.4	13.7
	1111B	1	01B	01B	48 ^注	48	24
				10B	24	24	12

注 変調後の周波数が最大動作周波数 (48 MHz) を越えないようにしてください。

• (A2) 品質水準品

V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3 の μ PD70F3374, 70F3375, V850ES/FJ3 の μ PD70F3378

fx [MHz]	SFC0. [SFC07:SFC04]	f _{PFD} [MHz]	SFC0. [SFC01:SFC00]	SFC0. [SFC03:SFC02]	f _{SSCGO} [MHz]	f _{PLL} [MHz]	
						OB_7B.PLL0 = 0	OB_7B.PLL0 = 1
4	0010B	1.333	10B	10B	32	設定禁止	16
	0011B	1	01B	01B	48	設定禁止	24
				10B	24 ^注	24	12
5	0010B	1.667	11B	10B	40	設定禁止	20
	0011B	1.25	10B	10B	30	設定禁止	15
	0100B	1	01B	01B	48	設定禁止	24
				10B	24 ^注	24	12
6	0011B	1.5	11B	10B	36	設定禁止	18
	0100B	1.2	01B	10B	28.8	設定禁止	14.4
	0101B	1	01B	01B	48	設定禁止	24
				10B	24 ^注	24	12
8	0100B	1.6	11B	10B	38.4	設定禁止	19.2
	0101B	1.333	10B	10B	32	設定禁止	16
	0110B	1.143	01B	10B	27.4	設定禁止	13.7
	0111B	1	01B	01B	48	設定禁止	24
				10B	24 ^注	24	12
10	0101B	1.667	11B	10B	40	設定禁止	20
	0110B	1.429	10B	10B	34.2	設定禁止	17.1
	0111B	1.25	01B	10B	30	設定禁止	15
	1100B	1	01B	01B	48	設定禁止	24
				10B	24 ^注	24	12
12	0110B	1.714	11B	10B	41.1	設定禁止	20.5
	0111B	1.5	11B	10B	36	設定禁止	18
	1100B	1.2	01B	10B	28.8	設定禁止	14.4
	1101B	1	01B	01B	48	設定禁止	24
				10B	24 ^注	24	12
14	1100B	1.4	10B	10B	33.6	設定禁止	16.8
	1101B	1.167	01B	10B	28	設定禁止	14
	1110B	1	01B	01B	48	設定禁止	24
				10B	24 ^注	24	12
	1111B	0.875	00B	01B	42	設定禁止	21
				10B	21	21	10.5
16	1100B	1.6	11B	10B	38.4	設定禁止	19.2
	1101B	1.333	10B	10B	32	設定禁止	16
	1110B	1.143	01B	10B	27.4	設定禁止	13.7
	1111B	1	01B	01B	48	設定禁止	24
				10B	24 ^注	24	12

注 変調後の周波数が最大動作周波数(24 MHz)を越えないようにしてください。

• (A2) 品質水準品

V850ES/FG3 の μ PD70F3376A, 70F3377A, V850ES/FJ3 の μ PD70F3379, 70F3380, 70F3381, 70F3382,
V850ES/FK3

f_x [MHz]	SFC0. [SFC07:SFC04]	f_{PFD} [MHz]	SFC0. [SFC01:SFC00]	SFC0. [SFC03:SFC02]	f_{SSCGO} [MHz]	f_{PLL} [MHz]	
						OB_7B.PLLO = 0	OB_7B.PLLO = 1
4	0010B	1.333	10B	10B	32 [#]	32	16
	0011B	1	01B	01B	48	設定禁止	24
				10B	24	24	12
5	0010B	1.667	11B	10B	40	設定禁止	20
	0011B	1.25	10B	10B	30	30	15
	0100B	1	01B	01B	48	設定禁止	24
				10B	24	24	12
6	0011B	1.5	11B	10B	36	設定禁止	18
	0100B	1.2	01B	10B	28.8	28.8	14.4
	0101B	1	01B	01B	48	設定禁止	24
				10B	24	24	12
8	0100B	1.6	11B	10B	38.4	設定禁止	19.2
	0101B	1.333	10B	10B	32 [#]	32	16
	0110B	1.143	01B	10B	27.4	27.4	13.7
	0111B	1	01B	01B	48	設定禁止	24
				10B	24	24	12
10	0101B	1.667	11B	10B	40	設定禁止	20
	0110B	1.429	10B	10B	34.2	設定禁止	17.1
	0111B	1.25	01B	10B	30	30	15
	1100B	1	01B	01B	48	設定禁止	24
				10B	24	24	12
12	0110B	1.714	11B	10B	41.1	設定禁止	20.5
	0111B	1.5	11B	10B	36	設定禁止	18
	1100B	1.2	01B	10B	28.8	28.8	14.4
	1101B	1	01B	01B	48	設定禁止	24
				10B	24	24	12
14	1100B	1.4	10B	10B	33.6	設定禁止	16.8
	1101B	1.167	01B	10B	28	28	14
	1110B	1	01B	01B	48	設定禁止	24
				10B	24	24	12
	1111B	0.875	00B	01B	42	設定禁止	21
				10B	21	21	10.5
16	1100B	1.6	11B	10B	38.4	設定禁止	19.2
	1101B	1.333	10B	10B	32 [#]	32	16
	1110B	1.143	01B	10B	27.4	27.4	13.7
	1111B	1	01B	01B	48	設定禁止	24
				10B	24	24	12

注 変調後の周波数が最大動作周波数 (32 MHz) を越えないようにしてください。

(1) 内部システム・クロックとCPUクロック

- f_{CLK} : 内部システム・クロック
- f_{CPU} : CPUクロック

表4-1に内部システム・クロックとCPUクロックのクロック・ソースの概要を示します。

表4-1 内部システム・クロックとCPUクロックのクロック・ソース

クロック・ソース	周波数	説明
高速内蔵発振器	Typ.8 MHz	リセット解除後のクロック
低速内蔵発振器	Typ.240 kHz	クロック・ソースとして選択可能。また、メイン・クロック発振回路が停止した場合のクロック
サブクロック発振回路	32 kHzまたは20 kHz	クロック・ソースとして選択可能
メイン・クロック発振回路	4~16 MHz	クロック・スルーモードの内部システム・クロック
PLL	48 MHz ^注 以下	PLL自体は8倍固定。 前後の分周段を使用することにより、メイン・クロック発振回路の1, 2, 4, 8倍を選択可能
SSCG	40 MHz ^注 以下	メイン・クロック発振回路生成クロックを倍増し周波数変調

注 V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3のμPD70F3374, 70F3375, V850ES/FJ3のμPD70F3378の最大クロックは32 MHzです。

メイン・クロック発振回路, PLL/SSCG, 高速内蔵発振器の各クロック・ソースは、メイン・クロック(f_{xx})を生成します。このマスター・クロックはプリスケーラ2に入力されます。プリスケーラ2はメイン・クロック(f_{xx})を1, 2, 4, 8, 16または32分周します。プリスケーラ2の動作はPCCレジスタで設定します。

プリスケーラ2, サブクロック発振回路または低速内蔵発振器が生成するクロックは、CPUクロック(f_{CPU})と内部システム・クロック(f_{CLK})に適用されます。

f_{CLK} は、CLKOUT端子から出力可能です。

(2) 周辺クロック

図4-1 クロック発生回路の中央と右側は、周辺用のクロックがどのように生成、分配されるかを示しています。

周辺クロック用プリスケーラ1 SELCNT4.ISEL40ビットにて、 f_{xx} または f_{XMPPLL} のいずれかを f_{XP1} のクロック・ソースに選択します。 f_{XMPPLL} はPLLの出力クロックを、オプション・バイト(OB7B.PLLO)の設定により f_{PLLO} または $f_{PLLO}/2$ に分周したクロックです。したがって、CPUクロック(f_{CPU})にSSCGを元とする変調されたクロックが供給されている場合でも、周辺クロックにPLL出力クロック(変調されていないクロック)を供給することができます。

プリスケーラ1：周辺クロックはプリスケーラ1から供給されます。
このプリスケーラ1は、タイマ、シリアル・インターフェース、A/Dコンバータといった内蔵周辺機能に供給される周辺クロック($f_{XP1}-f_{XP1}/1024$)を生成します。

(3) 特定クロック

クロック発生回路は、次のような特定クロックを生成し、特定の周辺機能に供給します。

- UARTDn, TAA_nのクロック : このクロックは f_{XP1} または f_{XP2} から選択可能です。
 f_{XP1} はIDLE1, IDLE2モードで停止しますが、 f_{XP2} はIDLE2モードでのみ停止します。
 タイマTAA1, TAA3, TAA5, TAA7にはサブクロック発振周波数(f_{XT})も供給選択可能です。
- TMM0のクロック : TMM0タイマには、どの発振器からでもクロックを供給できます。 f_{XP1} または f_{RH} を供給するかは、SELCNT0.ISEL07ビットで選択できます。
- CAN_nのクロック : CANコントローラには、SELCNTxレジスタで f_{XP1} または f_{XC} を選択し、クロックとして供給できます。 f_{XC} はメイン・クロック発振回路の生成するクロックをCANコントローラに直接供給する場合に選択します。
- 時計タイマ(WT)のクロック : リセット後、時計タイマにはサブクロック発振回路からのクロック(f_{XT})が供給されます。メイン・クロック発振回路の安定後、プリスケーラ3を介し、メイン・クロック発振回路からのクロックを供給するように変更できます。
 プリスケーラ3はボーレート・ジェネレータとして動作します。このプリスケーラ3はPRSM0とPRSCM0レジスタで設定します。レジスタ設定により、 $f_X = 4.19\text{ MHz}$ 以外の周波数であった場合にしても、 32.768 kHz 相当のクロックを生成することができます。詳細は、4.3.5 プリスケーラ3の動作を参照してください。
- PCL : プログラマブル・クロック(PCL)を出力できます。この出力は f_{PLSS} を分周(f_{PLSS} を4, 8, 16または32で分周)したクロック(f_{PLLO} または f_{SSCGO})です。PCLMレジスタで分周設定します。PCL出力を許可するためには、PCLM.PCLEビットをセットする必要があります。
- CLKOUT : 内部システム・クロック(f_{CLK})を出力します。発振安定期間のCLKOUT出力は、Hi-Z状態です。
- WDT2のクロック : WDT2には、選択されたクロック・ソース(低速内蔵発振器またはメイン・クロック発振回路)がクロックを生成している間、クロックが供給され続けます。
 WDT2の動作設定には、オプション・バイト007AHの設定が必要ですので注意してください。

(4) スタンバイ制御

図4-1のクロックのブロック図では、“IDLE制御”または“HALT制御”という表現がありますが、これらはスタンバイ機能の設定による、クロックの供給/停止を示しています(4.1.3 スタンバイ機能概要を参照してください)。

4.1.2 クロック・モニタ

クロック・モニタは、低速内蔵発振クロックでメイン・クロック発振回路が生成するクロックをサンプリングし、クロックの停止を検出した際、リセット要求信号を発生します。詳細は、4.3.6 クロック・モニタの動作を参照してください。

4.1.3 スタンバイ機能概要

消費電力は、スタンバイ機能を使用し、アプリケーションに応じたモードを選択することで、効果的に低減できます。

スタンバイ機能の概要を次に示します。詳細は、4.3.3 スタンバイ機能の説明とレジスタ説明を参照してください。

- HALTモード :** CPUの動作クロック (f_{CPU}) のみが停止します。
このモードは、HALT命令を実行することで設定します。HALTモード解除時、発振安定時間を確保する必要がなく、またPLL/SSCGのロックアップ時間待ちがないので、すばやく通常モードに復帰できます。
- IDLE1モード :** 発振回路、PLL/SSCGは動作を継続しますが、フラッシュ・メモリ以外の内部回路は全て動作を停止します。PLLは以前の動作状態を保持します。
IDLE1モード解除時、発振安定時間を確保する必要がなく、またPLL/SSCGロックアップ時間待ちがないので、すばやく通常モードに復帰できます。
- IDLE2モード :** 発振回路を除くすべての内部回路動作が停止するモードです。
- STOPモード :** サブクロック発振回路を除くすべての内部回路動作が停止するモードです。
- サブクロック動作 :** 内部システム・クロック (f_{CLK})、CPUクロック (f_{CPU}) を、サブクロック (f_{SC}) で動作させるモードです。サブクロックのソースはサブクロック発振回路 (f_{XT}) または低速内蔵発振器 (f_{RL}) のどちらかをオプション・バイト (OB7B.SUBCLK) で選択できます。
- サブIDLEモード :** サブクロック動作モード時、発振回路以外の内部回路をすべて停止するモードです

4.1.4 リセット期間中およびリセット解除時の発振動作

リセット解除後、高速内蔵発振器のセットアップ時間を確保したあと、CPUはプログラムを実行します。内蔵発振器の発振安定時間はハードウエアが確保します。

下表に、リセット期間中およびリセット解除後の発振動作状態を示します。

表4-2 リセット期間中およびリセット解除時の発振動作

項目	リセット期間中	リセット解除後
メイン・クロック発振回路 (f_x)	停止	停止（内蔵高速発振器安定後，ソフトウェアで発振開始設定可能）
サブクロック発振回路 (f_{XT})	発振継続	
低速内蔵発振器	停止	発振開始
高速内蔵発振器	停止	発振開始
PLL (f_{PLL0})	停止	停止（内蔵高速発振器安定後，ソフトウェアで動作開始設定可能）
SSCG (f_{SSCG0})	停止	停止（内蔵高速発振器安定後，ソフトウェアで動作開始設定可能）
内部システム・クロック (f_{CLK})	停止	内蔵発振器安定後，高速内蔵発振器で動作開始
周辺クロック f_{XP1} （とその分周）， f_{XP2}	停止	内蔵発振器安定後，高速内蔵発振器で動作開始
プログラマブル・クロック出力PCL (f_{PCL})	禁止設定 (ロウ・レベル出力)	PLL/SSCG安定後，ソフトウェアで出力許可設定可能
システム・クロック出力CLKOUT (f_{CLK})	停止	内蔵発振器安定後，高速内蔵発振器の出力を，ソフトウェアで出力許可設定可能

4.2 クロック発生回路のレジスタ

クロック発生回路は、下記のレジスタで動作設定をします（下表ではレジスタをメモリ割り当て順に並べてあります）。

表4-3 クロック発生回路のレジスタ概要

レジスタ名	略号	アドレス	備考 ^注
パワー・セーブ・コントロール・レジスタ	PSC	FFFFF1FEH	特定レジスタ
セレクタ動作制御レジスタ0	SELCNT0	FFFFF308H	
セレクタ動作制御レジスタ1	SELCNT1	FFFFF30AH	
セレクタ動作制御レジスタ2	SELCNT2	FFFFF30CH	
セレクタ動作制御レジスタ3	SELCNT3	FFFFF30EH	
セレクタ動作制御レジスタ4	SELCNT4	FFFFF3F8H	
セレクタ動作制御レジスタ5	SELCNT5	FFFFF3FAH	
SSCG制御レジスタ	SSCGCTL	FFFFF3F0H	
SSCG周波数制御レジスタ0	SFC0	FFFFF3F1H	
SSCG周波数制御レジスタ1	SFC1	FFFFF3F2H	
発振安定時間選択レジスタ	OSTS	FFFFF6C0H	
PLLロックアップ時間指定レジスタ	PLLS	FFFFF6C1H	
発振安定時間カウント・ステータス・レジスタ	OSTC	FFFFF6C2H	
内蔵発振モード・レジスタ	RCM	FFFFF80CH	
パワー・セーブ・モード・コントロール・レジスタ	PSMR	FFFFF820H	
PLLロック・レジスタ	LOCKR	FFFFF824H	
プロセッサ・クロック・コントロール・レジスタ	PCC	FFFFF828H	特定レジスタ
PLLコントロール・レジスタ	PLLCTL	FFFFF82CH	
CPU動作クロック・ステータス・レジスタ	CCLS	FFFFF82EH	
プログラマブル・クロック・モード・レジスタ	PCLM	FFFFF82FH	
メイン・システム・クロック・モード・レジスタ	MCM	FFFFF860H	
メイン・クロック発振回路クロック・モニタ・モード・レジスタ	CLM	FFFFF870H	特定レジスタ
プリスケーラ・モード・レジスタ	PRSM0	FFFFF8B0H	
プリスケーラ・コンペア・レジスタ	PRSCM0	FFFFF8B1H	

注 レジスタの中には、不用意に内容が書き換えられないように書き込み保護されたもの（特定レジスタ）もあります。このようなレジスタにデータを書き込むためには特別なシーケンスが必要で、レジスタの内容はプログラムが暴走した場合でも簡単に書き換えられないようになっています。

詳細は、第3章 CPU機能を参照してください。

備考 クロック発生回路の設定は、オプション・バイトにも設定の必要な項目があります。詳細は、第8章 オプション・バイトを参照してください。

レジスタを次のように分類して説明します。

・クロック発生回路レジスタ：

CPU動作クロック・ステータス・レジスタ (CCLS)
メイン・システム・クロック・モード・レジスタ (MCM)
発振安定時間カウント・ステータス・レジスタ (OSTC)
発振安定時間選択レジスタ (OSTS)
プロセッサ・クロック・コントロール・レジスタ (PCC)
プログラマブル・クロック・モード・レジスタ (PCLM)
内蔵発振モード・レジスタ (RCM)

・PLL制御レジスタ：

PLLロック・レジスタ (LOCKR)
PLLコントロール・レジスタ (PLLCTL)
PLLロックアップ時間指定レジスタ (PLLS)

・SSCG制御レジスタ：

SSCG制御レジスタ (SSCGCTL)
SSCG周波数制御レジスタ0 (SFC0)
SSCG周波数制御レジスタ1 (SFC1)

・スタンバイ・コントロール・レジスタ

パワー・セーブ・コントロール・レジスタ (PSC)
パワー・セーブ・モード・コントロール・レジスタ (PSMR)

・プリスケーラ制御レジスタ

プリスケーラ・モード・レジスタ (PRSM0)
プリスケーラ・コンペア・レジスタ (PRSCM0)

・クロック・モニタ・レジスタ

メイン・クロック発振回路クロック・モニタ・モード・レジスタ (CLM)

・セレクタ制御レジスタ

セレクタ動作制御レジスタ0 (SELCNT0)
セレクタ動作制御レジスタ1 (SELCNT1)
セレクタ動作制御レジスタ2 (SELCNT2)
セレクタ動作制御レジスタ3 (SELCNT3)
セレクタ動作制御レジスタ4 (SELCNT4)
セレクタ動作制御レジスタ5 (SELCNT5)

4.2.1 クロック発生回路レジスタ

クロック発生回路レジスタはクロック発生回路の動作を制御し、反映するものです。

(1) CPU動作クロック・ステータス・レジスタ (CCLS)

CCLSレジスタは、CPU動作クロックの状態を示すレジスタです。

アクセス： このレジスタはリードのみ可能です。

アドレス： FFFFF82EH

初期値： 00H。リセットにより初期化されます。

7	6	5	4	3	2	1	0
0	0	0	0	0	0	0	CCLSF

R R R R R R R R

表4-4 CCLSレジスタの内容

ビット位置	ビット名	機能
0	CCLSF	CPU動作クロック状態 0：メイン・システム・クロック (f_{xx}) またはサブクロック (f_{sc}) ^注 で動作。 1：低速内蔵発振クロック (f_{RL}) で動作（メイン・クロック発振が異常停止の場合）。

注 サブクロック (f_{sc}) は、オプション・バイト007BHのSUBCLKビットの設定によって、 f_{XT} または f_{RL} となります。

注意 メイン・クロック発振回路の発振安定時間が経過する前にウォッチドッグ・タイマ2がオーバフローすると、メイン・クロック発振回路が異常停止しているとみなし、内部システム・クロック (f_{CLK})、CPUクロック (f_{CPU}) に低速内蔵発振クロック (f_{RL}) を供給します。

(2) メイン・システム・クロック・モード・レジスタ (MCM)

MCMレジスタはクロック・スルーモードでのメイン・クロック (f_{xx}) ソースを指定し、その状態を示す8ビットのレジスタです。

本レジスタは、特別な命令シーケンスによって書き込みから保護されています。

詳細は、[第3章 CPU機能](#)を参照してください。

アクセス： 8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

アドレス： FFFFF860H

初期値： 00H。リセットにより初期化されます。

7	6	5	4	3	2	①	②
0	0	0	0	0	0	MCS	MCM0

R R R R R R R R/W

表4-5 MCMレジスタの内容

ビット位置	ビット名	機能
1	MCS	メイン・クロック (f_{xx}) の状態 (クロック・スルーモード時, PLLCTL.SELPLL = 0) 0: 高速内蔵発振クロック (f_{RH}) で動作 1: メイン・クロック発振クロック (f_x) で動作
0	MCM0	メイン・クロック (f_{xx}) の選択 (クロック・スルーモード時, PLLCTL.SELPLL = 0) 0: 高速内蔵発振クロック (f_{RH}) 1: メイン・クロック発振クロック (f_x) 注意1. 切り替え先のクロック発振が安定していない場合、書き換えは禁止します。 2. CPUクロックが、PLL/SSCG出力クロック (PLLCTL.SELPLL = 1)、またはサブクロック (PCC.CK3 = 1) の場合、書き換えは禁止します。 3. CPUクロックが低速内蔵発振クロックである場合 (CCLS.CCLSF = 1)、このビットを1にセットすることは禁止します。

(3) 発振安定時間カウント・ステータス・レジスタ (OSTC)

OSTCレジスタはメイン・クロック発振回路の状態を示す8ビットのレジスタです。

7	6	5	4	3	2	1	0
R	R	R	R	R	R	R	MSTS

アクセス：リードのみ可能です。

アドレス：FFFFF6C2H

初期値：00H。リセットにより初期化されます。

表4-6 OSTCレジスタの内容

ビット位置	ビット名	機能
0	MSTS	メイン・クロック発振回路の発振安定状態 0：メイン・クロック発振回路は停止または発振安定待ち。 1：メイン・クロック発振回路発振安定完了。

- 注意1. OSTCレジスタは、メイン・クロックの状態をモニタしているのではなく、OSTSレジスタで選択された発振安定時間を基準に経過状態を示します。
2. メイン・クロック発振回路がソフトウェア (PCC.MCKビット = 1) やSTOPモードにより停止した場合、OSTCレジスタは00Hになります。しかし、メイン発振異常により停止した場合は、状態を保持します。

(4) 発振安定時間選択レジスタ (OSTS)

OSTSレジスタは、STOPモード、IDLE2モード解除後に経過する発振安定時間、セットアップ時間およびメイン・クロック発振回路の動作を許可 (PCC.MCKビット = 0) したときの発振安定時間を指定する8ビットのレジスタです。

アクセス： 8ビット単位でリード / ライト可能です。

アドレス： FFFFF6C0H

初期値： 06H。リセットにより初期化されます。

7	6	5	4	3	2	1	0
0	0	0	OSTS4	OSTS3	OSTS2	OSTS1	OSTS0
R	R	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

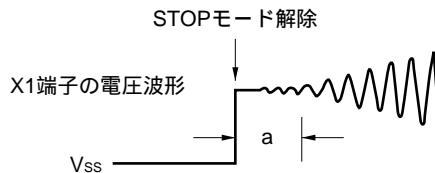
表4-7 OSTSレジスタの内容

ビット位置	ビット名	機能										
4-0	OSTS [4:0]	時間選択	OSTS4 ^{注1}	OSTS3	OSTS2	OSTS1	OSTS0	発振安定時間 / セットアップ 時間の選択 ^{注2}	$f_x =$ 4 MHz	$f_x =$ 5 MHz	$f_x =$ 12 MHz	$f_x =$ 16 MHz
		0	0	0	0	0	0	$2^{10}/f_x$	256 μ s	205 μ s	86 μ s	64 μ s
		0	0	0	0	1	0	$2^{11}/f_x$	521 μ s	410 μ s	171 μ s	128 μ s
		0	0	0	1	0	0	$2^{12}/f_x$	1.03 ms	820 μ s	342 μ s	256 μ s
		0	0	0	1	1	0	$2^{13}/f_x$	2.05 ms	1.64 ms	683 μ s	512 μ s
		0	0	1	0	0	0	$2^{14}/f_x$	4.10 ms	3.28 ms	1.37 ms	1.03 ms
		0	0	1	0	1	0	$2^{15}/f_x$	8.20 ms	6.54 ms	2.74 ms	2.05 ms
		0	0	1	1	0	0	$2^{16}/f_x$	16.39 ms	13.11 ms	5.47 ms	4.10 ms
		0	0	1	1	1	0	$2^{17}/f_x$	32.77 ms	26.22 ms	10.93 ms	8.20 ms
		0	1	0	0	0	0	$2^{18}/f_x$	65.54 ms	52.43 ms	21.85 ms	16.39 ms
		0	1	0	0	1	0	$2^{19}/f_x$	131.08 ms	104.86 ms	43.70 ms	32.77 ms
		0	1	0	1	0	0	$2^{20}/f_x$	262.15 ms	209.72 ms	87.39 ms	65.54 ms
		0	1	0	1	1	0	$2^{21}/f_x$	524.29 ms	349.53 ms	174.77 ms	131.08 ms
		1	0	0	0	0	0	設定禁止				
		1	0	0	0	1	0	設定禁止				
		1	0	0	1	0	0	$2^4/f_x$	設定禁止	設定禁止	設定禁止	
		1	0	0	1	1	0	$2^5/f_x$	設定禁止	設定禁止	設定禁止	
		1	0	1	0	0	0	$2^6/f_x$	設定禁止	設定禁止	設定禁止	
		1	0	1	0	1	0	$2^7/f_x$	設定禁止	設定禁止	設定禁止	
		1	0	1	1	0	0	$2^8/f_x$	64 μ s	設定禁止	設定禁止	
		1	0	1	1	1	0	$2^9/f_x$	128 μ s	103 μ s	設定禁止	
		1	1	0	0	0	0	$2^{10}/f_x$	256 μ s	205 μ s	86 μ s	
		1	1	0	0	1	0	$2^{11}/f_x$	512 μ s	410 μ s	171 μ s	
		1	1	0	1	0	0	$2^{12}/f_x$	1.03 ms	820 μ s	342 μ s	
		1	1	0	1	1	0	$2^{13}/f_x$	2.05 ms	1.64 ms	683 μ s	
		上記以外				設定禁止						

(注、注意、備考は次ページにあります)

- 注1. OSTS4ビットはIDLE2モード解除時のみ有効です。OSTS4ビット = 1のときにSTOPモードに移行した場合は、STOPモード解除後の発振安定時間は、OSTS3-OSTS0ビットで設定された期間となります(この場合、OSTS4ビットは0とみなされます)。
2. 発振安定時間はSTOPモードの解除時に、セットアップ時間はIDLE2モード解除時に必要になります。

注意1. STOPモード解除時の安定時間は、STOPモード解除後クロック発振を開始するまでの時間(下図a)は含みません。



2. ビット7-5には必ず“0”を設定してください。
3. OSTSレジスタの初期値は、06H($2^{16}/f_x$)です。

備考1. IDLE2モードが解除された場合、下記要件を満たすように安定時間を設定してください。

- ・PLL動作時：最小800 μ s (PLLロックアップ時間要件)
- ・PLL停止時：最小54 μ s (フラッシュ・セットアップ時間要件)
- ・SSCG動作時：最小1 ms (SSCGロックアップ時間要件)

次のデータ・シートを参照してください。

- μ PD70F3370A, 70F3371 データ・シート (U18640J)
- μ PD70F3372, 70F3373 データ・シート (U18639J)
- μ PD70F3374, 70F3375, 70F3376A, 70F3377A データ・シート (U18638J)
- μ PD70F3378, 70F3379, 70F3380, 70F3381, 70F3382 データ・シート (U18608J)
- μ PD70F3383, 70F3384, 70F3385 データ・シート (U18637J)

2. STOPモードが解除された場合、下記要件を満たすように安定時間を設定してください。

- ・PLL動作時：最小1600 μ s (PLLロックアップ時間の2倍以上)
- ・PLL停止時：最小64 μ s (フラッシュ・セットアップ時間要件)
- ・SSCG動作時：最小2 ms (SSCGロックアップ時間の2倍以上)

次のデータ・シートを参照してください。

- μ PD70F3370A, 70F3371 データ・シート (U18640J)
- μ PD70F3372, 70F3373 データ・シート (U18639J)
- μ PD70F3374, 70F3375, 70F3376A, 70F3377A データ・シート (U18638J)
- μ PD70F3378, 70F3379, 70F3380, 70F3381, 70F3382 データ・シート (U18608J)
- μ PD70F3383, 70F3384, 70F3385 データ・シート (U18637J)

3. メイン・クロック発振回路の必要発振安定時間が上記の時間を越える場合、メイン・クロック発振回路の必要発振安定時間に値を設定してください。

4. f_x ：メイン・クロック発振周波数

(5) プロセッサ・クロック・コントロール・レジスタ (PCC)

PCCレジスタは内部システム・クロック (f_{CLK}) を制御する8ビットのレジスタです。

アクセス： 8/1ビット単位でリード / ライト可能です。

このレジスタは、特定レジスタです。特定シーケンスの組み合わせによってだけ書き込みができます。[第3章 CPU機能を参照してください。](#)

アドレス： FFFFF828H

初期値： 40H。リセットにより初期化されます。

7	⑥	5	④	③	2	1	0
FRC	MCK	MFRC	CLS	CK3	CK2	CK1	CK0
R/W	R/W	R/W	R	R/W	R/W	R/W	R/W

表4 - 8 PCCレジスタの内容 (1/2)

ビット位置	ビット名	機能
7	FRC	サブクロック発振回路の内蔵帰還抵抗の選択。 0：使用する。 1：使用しない。
6	MCK	メイン・クロック発振回路の動作 / 停止制御。 0：発振許可 1：発振禁止 備考1. CPUがメイン・クロックで動作中，MCKビットに"1"を設定しないでください。 CPUがメイン・クロックで動作中，MCKビットに"1"を設定しても，メイン・クロックは停止しません（MCKビットに"1"ライトは可能）。 2. 高速内蔵発振クロック（MCSビット = 0），またはサブクロック（CLSビット = 1）で動作中にメイン・クロックを停止させ，再度メイン・クロックに切り替えるときは，MCKビットに"0"を設定し，ソフトウェアにて発振安定時間を確保したあとに切り替えてください。 なお，MCKビットを"1" "0"に設定すると，発振安定用タイマがカウント動作を開始し，オーバフローするとOSTSレジスタのMSTSビットが"0" "1"になります。このときの発振安定時間は，OSTSレジスタにより設定します。
5	MFRC	メイン・クロック発振回路の内蔵帰還抵抗の選択。 0：使用する。 1：使用しない。
4	CLS	CPUクロック (f_{CPU}) の状態。 0：メイン・クロック (f_{xx}) 動作。 1：サブクロック (f_{sc}) 動作。

表4-8 PCCレジスタの内容(2/2)

ビット位置	ビット名	機能				
3-0	CK [3:0]	クロック選択				
		CK3	CK2	CK1	CK0	クロック選択 (f_{CPU} , f_{CLK})
		0	0	0	0	f_{xx}
		0	0	0	1	$f_{xx}/2$
		0	0	1	0	$f_{xx}/4$
		0	0	1	1	$f_{xx}/8$
		0	1	0	0	$f_{xx}/16$
		0	1	0	1	$f_{xx}/32$
		0	1	1	x	設定禁止
		1	x	x	x	サブクロック (f_{SC}) (f_{XT} または f_{RL}) ^注
		注 オプション・バイト007BHで選択。				
		<p>注意 1. CLKOUT出力中に(CK [3:0]ビットを使用)CPUクロックを変更しないでください。</p> <p>2. CK3ビットを操作する場合は、必ずMCSビット = 1の状態(メイン・クロック動作)で行ってください。 なお、MCSビット = 0時、CK3ビットに"1"をライトすることはできません。</p> <p>3. CK3ビットを操作するにはビット操作命令を使用してください。8ビット操作命令を使う場合は、CK [2:0]ビットの設定値を変更しないでください。</p> <p>4. オプション・バイト(007BH)のSUBCLK = 0で、かつサブクロック発振回路が発振していない場合、CK3ビット = 1を設定してもCPUクロックはf_{XT}に切り替わりません。</p> <p>5. オプション・バイト(007BH)のSUBCLK = 1で、かつ低速内蔵発振を停止している場合、CK3ビット = 1を設定すると、低速内蔵発振器は発振を開始し、CPUクロックはf_{RL}に切り替わります。</p> <p>6. サブクロック動作モード中は、MCM.MCM0ビット、およびPCC.CK2-CK0ビットの値を変更しないでください。</p>				
		備考 x : 任意				

次に、メイン・クロック動作からサブクロック／低速内蔵発振クロック動作へ切り換える場合の設定例を示します。

(a) メイン・クロック動作 サブクロック／低速内蔵発振クロック動作へ切り換えるときの設定例

- 動作クロック確認： メイン・クロック動作 (MCS = 1) であることを確認します。

なお、高速内蔵発振クロック動作からサブクロック／低速内蔵発振クロック動作への切り換えは禁止です。

高速内蔵発振クロック動作 (MCS = 0) の場合は、MCM.MCM0ビット = 1に設定したあと、再度、MCM.MCSビット = 1であることを確認してください。

- CPUクロック (f_{CPU}) 周波数確認：

f_{CPU} が次の条件であるか確認します。

- OB7B.SUBLCK = 0時、 $f_{CPU} >$ サブクロック発振周波数 (f_{XT})
(32.768 KHz) × 4
- OB7B.SUBCLK = 1時、 $f_{CPU} >$ 低速内蔵発振クロック周波数 (f_{RL})
(TYP.240 KHz) × 4

上記条件を満たしていない場合は、条件を満たすようCK2-CK0ビットを変更してください。このとき、CK3ビットは変更しないでください。

- CK3ビット “1”：ビット操作命令で行ってください。CK2-CK0ビットは変更しないでください。
- サブクロック動作： CK3ビットに = 1に設定したあと、サブクロック／低速内蔵発振クロック動作に切り替わるまでには、最大、次に示す時間がかかります。
 - OB7B.SUBCLK = 0時、最大：(1 / サブクロック発振周波数 (f_{XT}))
 - OB7B.SUBCLK = 1時、最大：(1 / 低速内蔵発振クロック周波数 (f_{RL}))
 CLSビットをリードしてサブクロック／低速内蔵発振クロック動作に切り替わっているかを確認してください。
- MCKビット “1”：メイン・クロック発振回路の動作を停止する場合はMCKビット = 1に設定してください。

注意 メイン・クロック発振回路の動作を停止する場合は、PLL/SSCGを停止してください。また、メイン・クロック周波数 (f_{xx}) で動作する内蔵周辺機能を動作停止にしてください。

(b) サブクロック／低速内蔵発振クロック動作 メイン・クロック動作へ切り換えるときの設定例

- MCKビット “0”： メイン・クロックの発振を許可します。
- ソフトウェア・ウェイト： プログラムによりウェイトを挿入して、メイン・クロック発振回路の発振安定時間が経過する (OSTC.MSTS = 1) まで待ちます。
- CK3ビット “0”： ビット操作命令で行ってください。CK2-CK0ビットは変更しないでください。
- メイン・クロック動作： CK3ビットを設定したあと、CK2-CK0ビットで指定されるメイン・クロック動作に切り替わるまでに、最大、次に示す時間がかかります。
 - OB7B.SUBCLK = 0時、最大：(1 / サブクロック発振周波数 (f_{XT}))
 - OB7B.SUBCLK = 1時、最大：(1 / 低速内蔵発振クロック周波数 (f_{RL}))
 CLSビットをリードしてメイン・クロック動作に切り替わっているかを確認してください。

備考 OB7B.SUBCLK：オプション・バイト007BHのビット7

(6) プログラマブル・クロック・モード・レジスタ (PCLM)

PCLMレジスタは、プログラマブル・クロック出力PCLの設定を指定する8ビットのレジスタです。

アクセス： 8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

アドレス： FFFFF82FH

初期値： 00H。リセットにより初期化されます。

7	6	5	④	3	2	1	0
0	0	0	PCLE	0	0	PCK1	PCK0
R	R	R	R/W	R	R	R/W	R/W

表4-9 PCLMレジスタの内容

ビット位置	ビット名	機能															
4	PCLE	PCL許可／禁止指定 0 : PCL出力禁止 (PCL出力はロウ・レベルに固定) 1 : PCL出力許可															
1, 0	PCK [1:0]	PCLクロック周波数選択 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <th>PCK1</th> <th>PCK0</th> <th>PCL出力クロック</th> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>$f_{PCL} = f_{PLSS}/4$</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>1</td> <td>$f_{PCL} = f_{PLSS}/8$</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>0</td> <td>$f_{PCL} = f_{PLSS}/16$</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>1</td> <td>$f_{PCL} = f_{PLSS}/32$</td> </tr> </table>	PCK1	PCK0	PCL出力クロック	0	0	$f_{PCL} = f_{PLSS}/4$	0	1	$f_{PCL} = f_{PLSS}/8$	1	0	$f_{PCL} = f_{PLSS}/16$	1	1	$f_{PCL} = f_{PLSS}/32$
PCK1	PCK0	PCL出力クロック															
0	0	$f_{PCL} = f_{PLSS}/4$															
0	1	$f_{PCL} = f_{PLSS}/8$															
1	0	$f_{PCL} = f_{PLSS}/16$															
1	1	$f_{PCL} = f_{PLSS}/32$															

(7) 内蔵発振モード・レジスタ (RCM)

RCMレジスタは、低速および高速内蔵発振器の動作を指定し、その状態を表示する8ビットのレジスタです。

アクセス： 8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

アドレス： FFFFF80CH

初期値： 80H。リセットにより初期化されます。

	7	6	5	4	3	2	①	②
	RSTS	0	0	0	0	0	HRSTOP	RSTOP
	R	R	R	R	R	R	R/W	R/W

表4 - 10 RCMレジスタの内容

ビット位置	ビット名	機能
7	RSTS	高速内蔵発振器の発振安定状態 0：高速内蔵発振器は停止、または発振安定化待ち。 1：高速内蔵発振器は動作中。
1	HRSTOP	高速内蔵発振器動作の許可／禁止 0：高速内蔵発振器の動作を許可（発振）。 1：高速内蔵発振器の動作を禁止（停止）。 注意 CPUクロックが高速内蔵発振器の状態時、このビットを1にセットしないでください。
0	RSTOP	低速内蔵発振器の許可／禁止 0：低速内蔵発振器の動作を許可（発振）。 1：低速内蔵発振器の動作を禁止（停止）。 注意 1. オプション・バイト (OB7A.RMOPIN) 設定を、ソフトウェア停止可能にしている場合のみ、本ビットの設定是有効です。 2. CPUクロックが低速内蔵発振器の状態時、本ビットを1にセットしないでください。 CCLS.CCLSFビット = 1の状態時、またはオプション・バイト (OB7B.SUBCLK) = 1かつPCC.CLSビット = 1時に本ビットを"1"に設定しても、低速内蔵発振器は停止しません。 3. RSTOPビット = 1設定時、CCLS.CCLSFビット = 1、またはオプション・バイト (OB7B.SUBCLK = 1) かつPCC.CLSビット = 1になると低速内蔵発振器は発振開始します。ただし、RSTOPビット = 1に設定されたままです。 備考 本ビットの設定はオプション・バイト007AHのRMOPINビットがセット（停止不可に設定）されているときは無視されます。

4.2.2 PLL制御レジスタ

(1) ロック・レジスタ (LOCKR)

電源投入後、またはSTOPモード解除直後から所定の周波数でフェーズ・ロックし、周波数が安定するまでにある程度の時間がかかります。周波数が安定するまでにかかる時間をロックアップ時間（周波数安定時間）と呼び、安定した状態をロック状態と呼びます。

ロック・レジスタ (LOCKR) はPLL周波数安定状態を示すLOCKビットを持っています。

アクセス： 8/1ビット単位でリードのみ可能です。

アドレス： FFFFF824H

初期値： 01H。リセットにより初期化されます。

7	6	5	4	3	2	1	①
LOCK							
R	R	R	R	R	R	R	R

表4-11 LOCKRレジスタの内容

ビット位置	ビット名	機能
0	LOCK	PLLのロック状態 0: ロック状態 1: アンロック（ロックしていない）状態

LOCKフラグはPLLのロック状態をリアルタイムに反映するものではありません。このフラグのセット／クリア条件は次のようにになります。

- セット条件
- ・システム・リセット時（このレジスタはリセットによって01Hに初期化されます）。
 - ・STOPおよびIDLE2モード
 - ・PLLを停止設定時（PLLCTL.PLLONビット = 0設定時）
 - ・高速内蔵発振動作（MCM.MCSビット = 0）またはサブクロック動作モード（PCC.CLSビット = 1）で、かつメイン発振を停止（PCC.MCKビット = 1）
 - ・メイン・クロック発振回路の発振異常停止を検出し、低速内蔵発振クロックで動作時（CCLS.CCLSFビット = 1）
- クリア条件
- ・PLL動作状態でIDLE2モードを設定した場合、IDLE2モード解除後、発振安定タイムのオーバフロー（OSTSレジスタで設定した時間）
 - ・メイン・クロック発振回路が発振状態で、PLL動作を許可（PLLCTL.PLLONビット = 1）に設定したとき、PLLロックアップ時間タイムのオーバフロー（PLLSレジスタで設定した時間）
 - ・PLL動作状態でSTOPモードを設定した場合、STOPモード解除後、発振安定用タイムのオーバフロー（OSTSレジスタで設定した時間）

(2) PLLコントロール・レジスタ (PLLCTL)

PLLCTLレジスタはPLL機能を制御する8ビットのレジスタです。

アクセス： 8/1ビット単位でリード / ライト可能です。

アドレス： FFFFF82CH

初期値： 00H。リセットにより初期化されます。

7	6	5	4	3	2	①	②
0	0	0	0	0	0	SELPLL	PLLON
R	R	R	R	R	R	R/W	R/W

表4 - 12 PLLCTLレジスタの内容

ビット位置	ビット名	機能
1	SELPLL	CPU動作クロック（メイン・クロック動作モード時）選択 0 : クロック・スルーモード（MCM.MCM0ビットに応じて，fxはメイン・クロック発振周波数（fx）または高速内蔵発振クロック（f _{RH} ）になります）。 1 : PLLモード（MCM.MCM0 = 1の場合，fxはPLL出力，f _{PLL} になります）。
0	PLLON	PLL動作 / 停止制御 0 : PLL停止 1 : PLL動作（許可） (PLL動作開始後，周波数安定のためにロックアップ時間が必要となります。)

- 注意 1. SELPLLビットは，メイン・クロック(f_{xx})がメイン・クロック発振周波数(f_x)で動作状態(MCM.MCS = 1)時，かつPLL動作が安定状態(LOCKR.LOCK = 0)時のみ1に設定できます。
2. メイン・クロック(f_{xx})が高速内蔵発振クロック(f_{RH})で動作状態(MCM.MCS = 0)時，またはPLL出力が安定していない状態(LOCKR.LOCK = 1)時にSELPLLビットへ1を書き込む操作をした場合，0が書き込まれます。
3. PLLONビットを0にクリアすると，SELPLLビットも自動的に0にクリアされます(クロック・スルーモード時)。
4. PLLONビット = 1の状態でメイン・クロックが停止した場合，PLLは動作を停止します。
5. PLLが動作開始時は，PLLがロックするまでの時間が必要になります

(3) PLLロックアップ時間指定レジスタ (PLLS)

PLLSレジスタはPLLCTL.PLLONビットを0~1に設定したときのPLLロックアップ時間を選択するレジスタです。

アクセス： 8ビット単位でリード／ライト可能です。

アドレス： FFFFF6C1H

初期値： 03H。リセットにより初期化されます。

7	6	5	4	3	2	1	0
R	R	R	R	R	R/W	R/W	R/W
0	0	0	0	0	PLLS2	PLLS1	PLLS0

表4-13 PLLSレジスタの内容

ビット位置	ビット名	機能																				
2-0	PLLS [2:0]	PLLロックアップ時間の選択 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <th>PLLS2</th> <th>PLLS1</th> <th>PLLS0</th> <th>ロックアップ時間</th> </tr> <tr> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>$2^{12}/f_x$</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>$2^{13}/f_x$ (初期値)</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>$2^{14}/f_x$</td> </tr> <tr> <td colspan="3">上記以外</td><td>設定禁止</td></tr> </table>	PLLS2	PLLS1	PLLS0	ロックアップ時間	0	1	0	$2^{12}/f_x$	0	1	1	$2^{13}/f_x$ (初期値)	1	0	0	$2^{14}/f_x$	上記以外			設定禁止
PLLS2	PLLS1	PLLS0	ロックアップ時間																			
0	1	0	$2^{12}/f_x$																			
0	1	1	$2^{13}/f_x$ (初期値)																			
1	0	0	$2^{14}/f_x$																			
上記以外			設定禁止																			

注意1. ロックアップ時間は、800 μ s以上になるように注意してください。

SSCG機能使用時は、1 ms以上になるように注意してください

2. ロックアップ期間中は、PLLSレジスタの設定を変更しないでください。

4.2.3 SSCGコントロール・レジスタ

スペクトラム拡散クロック・ジェネレータ (SSCG) を制御するレジスタです。

(1) SSCGコントロール・レジスタ (SSCGCTL)

8ビットのSSCGCTLレジスタは、SSCGの動作と f_{PLL} クロックのソース選択を制御します。

アクセス： 8ビットまたは1ビット単位でリード / ライト可能です。

アドレス： FFFFF3F0H

初期値： 00H。リセットにより初期化されます。

7	6	5	4	3	2	①	②
0	0	0	0	0	0	SELSSCG	SSCGON
R	R	R	R	R	R	R/W	R/W

注意 ピット7-2には、必ず0を設定してください。

表4-14 SSCGCTLレジスタの内容

ビット位置	ビット名	機能
1	SELSSCG	倍倍ブロックから出力するクロック (f_{PLL}) の選択 0 : PLL出力を選択 ($f_{PLL} = f_{PLLO}$ または $f_{PLLO}/2$) 1 : SSCG出力を選択 ($f_{PLL} = f_{SSCGO}$ または $f_{SSCGO}/2$)
0	SSCGON	SSCG機能動作の許可 / 禁止設定 0 : SSCG停止 1 : SSCG動作 ^注 (動作開始時、ロックアップ時間が必要です)

注 PLLCTL.PLLON = 0の場合、SSCGは停止します。

- 注意 1. SELSSCGビットへの書き込みは、PLL, SSCGともに停止 (PLLCTL.PLLON = 0) 時、またはPLL/SSCGがロック状態 (LOCKR.LOCK = 0) 時にのみ行ってください (ロックアップ期間中に操作しないでください)。
2. SELSSCGビット = 1の設定は、SSCGONビット = 1時のみ可能です。SELSSCGビットは、SSCGONビット = 0にすると自動的に0になります。
3. SSCGONビット = 1の状態で、PLL停止 (PLLCTL.PLLONビット = 0)、またはメイン・クロック発振 (f_x) が停止した場合、SSCGは動作を停止します。
4. SFC0, SFC1レジスタを設定後、SSCGONビット = 0 → 1へ設定するまでにmin.1 μ sのセットアップ時間をソフトウェアで確保してください。
5. SSCGの起動時には、SSCGがロックするまでの時間が必要となります。

- PLLCTL.PLLONビット = 1の状態で、SSCGONビット = 0 → 1にした場合、ソフトウェアにてSSCGロックアップ時間をカウントしてください。
- ロックアップ時間 = SSCG > PLLのため、SSCGONビット = 1後、PLLCTL.PLLONビット0 → 1にした場合はPLLレジスタにSSCGロックアップ時間を設定してください。
- OSTSレジスタには、SSCGロックアップ時間の2倍以上の値を設定してください。

PLLCTL.PLLON	SSCGCTL.SSCGON	PLL	SSCG
0	0	停止	停止
0	1	停止	停止
1	0	動作	停止
1	1	動作	動作

(2) SSCG周波数コントロール・レジスタ0 (SFC0)

SSCGを制御するレジスタです。

アクセス： 8ビット単位でリード／ライト可能です。

アドレス： FFFFF3F1H

初期値： 00H。リセットにより初期化されます。

	7	6	5	4	3	2	1	0
	SFC07	SFC06	SFC05	SFC04	SFC03	SFC02	SFC01	SFC00
	R/W							

表4-15 SFC0レジスタの内容

ビット位置	ビット名	機能																																				
7	SFC07	SSCGへ入力するクロック (f_{SSCGI}) の分周設定 0 : $f_{SSCGI} = f_x$ (分周なし) 1 : $f_{SSCGI} = f_x/2$ (2分周)																																				
6-4	SFC0 [6:4]	SSCGへ入力するクロック (f_{PFD}) の分周設定 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>SFC06</th> <th>SFC05</th> <th>SFC04</th> <th>SSCG入力クロック (f_{PFD})</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>f_{SSCGI}</td></tr> <tr><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>$f_{SSCGI}/2$</td></tr> <tr><td>0</td><td>1</td><td>0</td><td>$f_{SSCGI}/3$</td></tr> <tr><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>$f_{SSCGI}/4$</td></tr> <tr><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>$f_{SSCGI}/5$</td></tr> <tr><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>$f_{SSCGI}/6$</td></tr> <tr><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>$f_{SSCGI}/7$</td></tr> <tr><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>$f_{SSCGI}/8$</td></tr> </tbody> </table>	SFC06	SFC05	SFC04	SSCG入力クロック (f_{PFD})	0	0	0	f_{SSCGI}	0	0	1	$f_{SSCGI}/2$	0	1	0	$f_{SSCGI}/3$	0	1	1	$f_{SSCGI}/4$	1	0	0	$f_{SSCGI}/5$	1	0	1	$f_{SSCGI}/6$	1	1	0	$f_{SSCGI}/7$	1	1	1	$f_{SSCGI}/8$
SFC06	SFC05	SFC04	SSCG入力クロック (f_{PFD})																																			
0	0	0	f_{SSCGI}																																			
0	0	1	$f_{SSCGI}/2$																																			
0	1	0	$f_{SSCGI}/3$																																			
0	1	1	$f_{SSCGI}/4$																																			
1	0	0	$f_{SSCGI}/5$																																			
1	0	1	$f_{SSCGI}/6$																																			
1	1	0	$f_{SSCGI}/7$																																			
1	1	1	$f_{SSCGI}/8$																																			
3, 2	SFC0 [3:2]	SSCG出力クロックの分周設定 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>SFC03</th> <th>SFC02</th> <th>SSCG出力クロック分周器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>0</td><td>0</td><td>設定禁止</td></tr> <tr><td>0</td><td>1</td><td>2分周</td></tr> <tr><td>1</td><td>0</td><td>4分周</td></tr> <tr><td>1</td><td>1</td><td>設定禁止</td></tr> </tbody> </table>	SFC03	SFC02	SSCG出力クロック分周器	0	0	設定禁止	0	1	2分周	1	0	4分周	1	1	設定禁止																					
SFC03	SFC02	SSCG出力クロック分周器																																				
0	0	設定禁止																																				
0	1	2分周																																				
1	0	4分周																																				
1	1	設定禁止																																				
1, 0	SFC0 [1:0]	SSCGへ入力するクロック (f_{PFD}) の周波数範囲指定 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>SFC01</th> <th>SFC00</th> <th>周波数範囲指定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>0</td><td>0</td><td>0.87 MHz $f_{PFD} < 1.00$ MHz</td></tr> <tr><td>0</td><td>1</td><td>1.00 MHz $f_{PFD} < 1.22$ MHz</td></tr> <tr><td>1</td><td>0</td><td>1.22 MHz $f_{PFD} < 1.45$ MHz</td></tr> <tr><td>1</td><td>1</td><td>1.45 MHz $f_{PFD} < 1.74$ MHz</td></tr> </tbody> </table>	SFC01	SFC00	周波数範囲指定	0	0	0.87 MHz $f_{PFD} < 1.00$ MHz	0	1	1.00 MHz $f_{PFD} < 1.22$ MHz	1	0	1.22 MHz $f_{PFD} < 1.45$ MHz	1	1	1.45 MHz $f_{PFD} < 1.74$ MHz																					
SFC01	SFC00	周波数範囲指定																																				
0	0	0.87 MHz $f_{PFD} < 1.00$ MHz																																				
0	1	1.00 MHz $f_{PFD} < 1.22$ MHz																																				
1	0	1.22 MHz $f_{PFD} < 1.45$ MHz																																				
1	1	1.45 MHz $f_{PFD} < 1.74$ MHz																																				

注意1. SFC0レジスタの設定変更は、SSCG停止 (SSCGCTL.SSCGON = 0) の状態でのみ行ってください。

2. SSCGCTL.SSCGON = 1時にSFC0レジスタへの書き込みを行っても無効となります。

(3) SSCG周波数コントロール・レジスタ1 (SFC1)

SSCGの周波数変調率，変調同期を設定するレジスタです。

アクセス： 8ビット単位でリード／ライト可能です。

アドレス： FFFFF3F2H

初期値： 00H。リセットにより初期化されます。

7	6	5	4	3	2	1	0
SFC17	SFC16	SFC15	SFC14	0	0	SFC11	SFC10

R/W R/W R/W R/W R R R/W R/W

注意 ビット3, 2には，必ず0を設定してください。

表4 - 16 SFC1レジスタの内容

ビット位置	ビット名	機能																																						
7	SFC17	周波数変調許可制御																																						
		0: 変調禁止（変調なし） 1: 変調許可（変調あり）																																						
6-4	SFC1 [6:4]	周波数変調率指定																																						
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>SFC16</th><th>SFC15</th><th>SFC14</th><th>周波数変調率指定</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>±0.5 % (TYP.値)</td></tr> <tr><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>±1.0 % (TYP.値)</td></tr> <tr><td>0</td><td>1</td><td>0</td><td>±2.0 % (TYP.値)</td></tr> <tr><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>±3.0 % (TYP.値)</td></tr> <tr><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>±4.0 % (TYP.値)</td></tr> <tr><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>±5.0 % (TYP.値)</td></tr> <tr><td colspan="3">上記以外</td><td>設定禁止</td></tr> </tbody> </table>							SFC16	SFC15	SFC14	周波数変調率指定	0	0	0	±0.5 % (TYP.値)	0	0	1	±1.0 % (TYP.値)	0	1	0	±2.0 % (TYP.値)	0	1	1	±3.0 % (TYP.値)	1	0	0	±4.0 % (TYP.値)	1	0	1	±5.0 % (TYP.値)	上記以外			設定禁止
SFC16	SFC15	SFC14	周波数変調率指定																																					
0	0	0	±0.5 % (TYP.値)																																					
0	0	1	±1.0 % (TYP.値)																																					
0	1	0	±2.0 % (TYP.値)																																					
0	1	1	±3.0 % (TYP.値)																																					
1	0	0	±4.0 % (TYP.値)																																					
1	0	1	±5.0 % (TYP.値)																																					
上記以外			設定禁止																																					
1, 0	SFC1 [1:0]	周波数変調周期制御																																						
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>SFC11</th><th>SFC10</th><th>変調周期指定</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>0</td><td>0</td><td>約40 kHz</td></tr> <tr><td>0</td><td>1</td><td>約50 kHz</td></tr> <tr><td>1</td><td>0</td><td>約60 kHz</td></tr> <tr><td>1</td><td>1</td><td>設定禁止</td></tr> </tbody> </table>								SFC11	SFC10	変調周期指定	0	0	約40 kHz	0	1	約50 kHz	1	0	約60 kHz	1	1	設定禁止																
SFC11	SFC10	変調周期指定																																						
0	0	約40 kHz																																						
0	1	約50 kHz																																						
1	0	約60 kHz																																						
1	1	設定禁止																																						

注意1. SFC1レジスタの変更は，SSCG停止 (SSCGCTL.SSCGON = 0) 時にのみ行ってください。

SSCGCTL.SSCGON = 0時にSFC1レジスタに書き込みを行っても無効です。

- SSCG出力周波数(f_{SSCG})はSFC1 [6:4]ビットで指定される周波数変調範囲の中心値に応じて次のようになります。

周波数変調を含めて，最大周波数を越えないようにしてください(次のデータ・シート参照)。

μPD70F3370A, 70F3371 データ・シート (U18640J)

μPD70F3372, 70F3373 データ・シート (U18639J)

μPD70F3374, 70F3375, 70F3376A, 70F3377A データ・シート (U18638J)

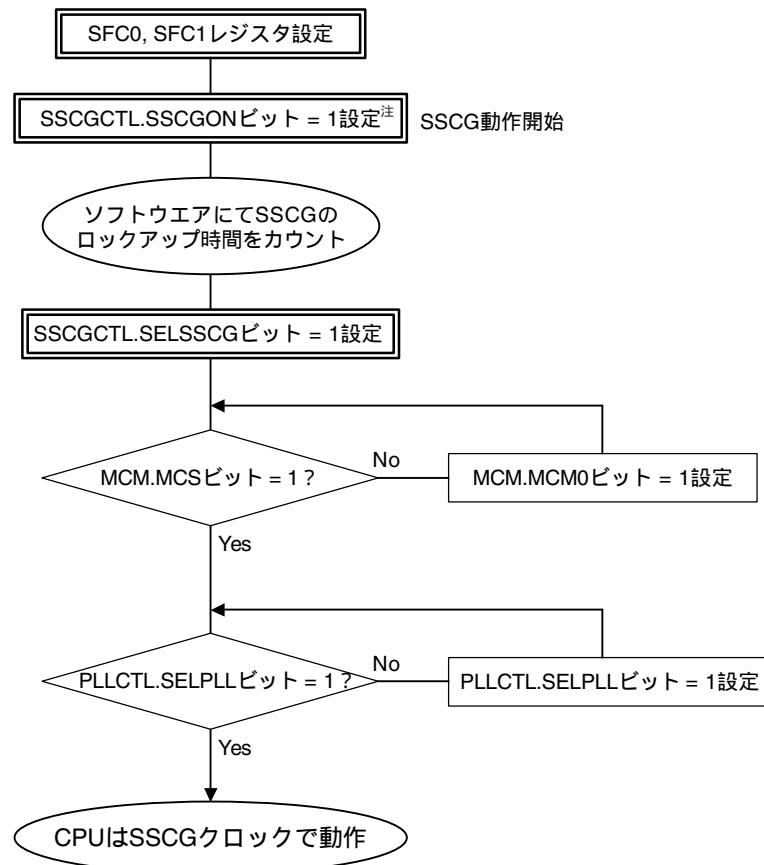
μPD70F3378, 70F3379, 70F3380, 70F3381, 70F3382 データ・シート (U18608J)

μPD70F3383, 70F3384, 70F3385 データ・シート (U18637J)

$$f_{SSCG} = f_{SSCGC} \pm (\text{周波数変調率})$$

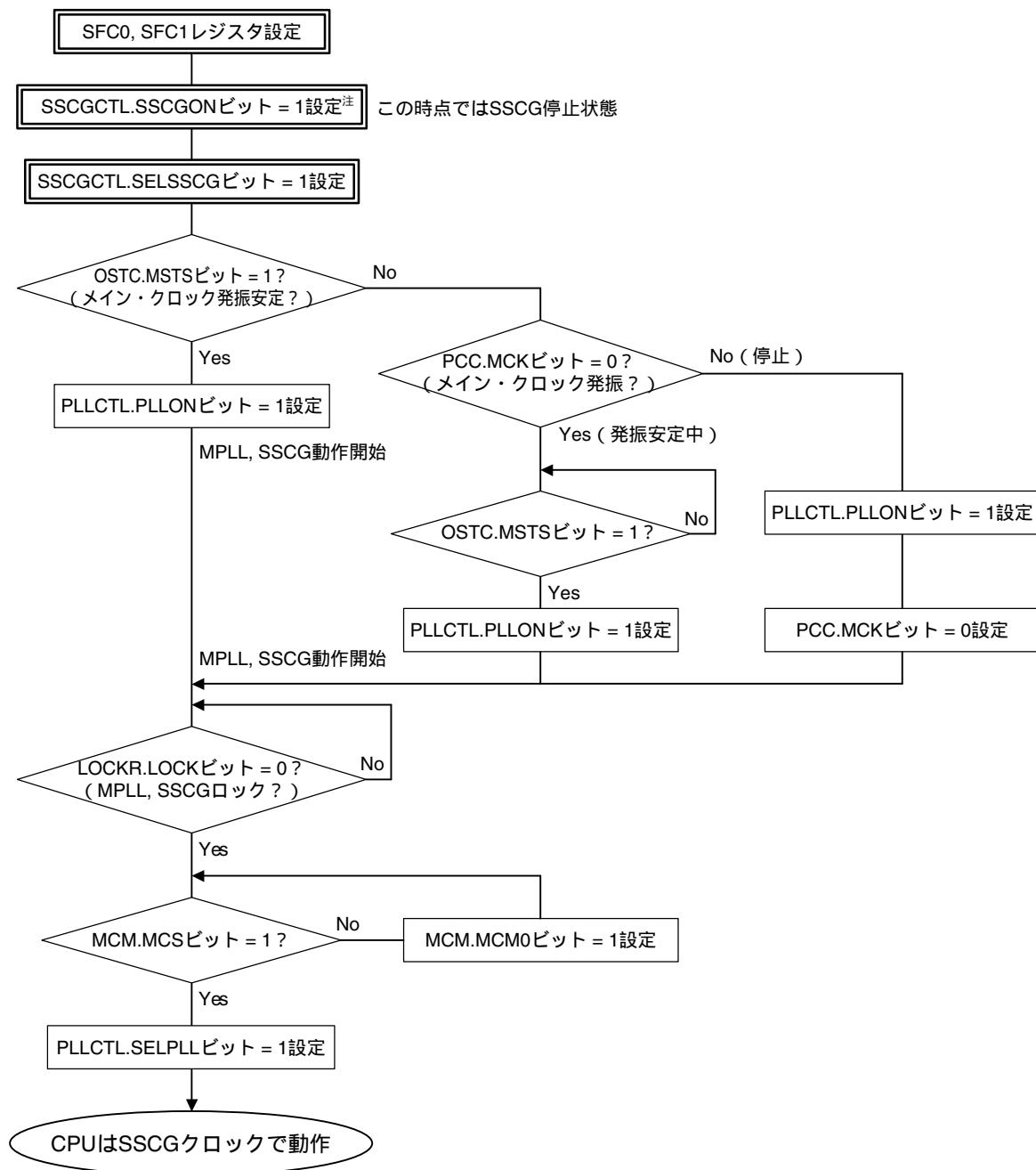
<レジスタ設定手順>

(a) PLLが動作(ロック)している場合(LOCKR.LOCK = 0時)



注 SFC0, SFC1レジスタ設定後, SSCGONビット = 0 ~ 1に設定するまでにmin. 1 μ sのセットアップ時間 をソフトウェアで確保してください。

(b) PLLが停止している場合



注 SFC0, SFC1レジスタ設定後, SSCGONビット = 0 → 1に設定するまでにmin. 1 μsのセットアップ時間 をソフトウェアで確認してください。

4.2.4 スタンバイ・コントロール・レジスタ

(1) パワー・セーブ・コントロール・レジスタ (PSC)

スタンバイ・モードの設定 / 解除を決めるレジスタです。

アクセス : 8/1ビット単位でリード / ライト可能です。

このレジスタは、特定レジスタです。特定シーケンスでのみ書き込み可能です。[第3章 CPU機能](#)を参照してください。

アドレス : FFFFF1FEH

初期値 : 00H。リセットにより初期化されます。

7	6	5	4	3	2	1	0
0	NMI1M	NMI0M	INTM	0	0	STP	0

R R/W R/W R/W R R R/W R

注意 ビット7, 3, 2, 0には、必ず0を設定してください。

表4 - 17 PSCレジスタの内容

ビット位置	ビット名	機能
6	NMI1M	INTWDT2信号によるスタンバイ・モード解除制御 0 : INTWDT2信号によるスタンバイ・モード解除を許可。 1 : INTWDT2信号によるスタンバイ・モード解除を禁止。
5	NMI0M	NMI端子入力によるスタンバイ・モード解除制御 0 : NMI端子入力によるスタンバイ・モード解除を許可。 1 : NMI端子入力によるスタンバイ・モード解除を禁止。
4	INTM	マスカブル割り込み要求信号によるスタンバイ・モード解除制御 0 : マスカブル割り込み要求信号によるスタンバイ・モード解除を許可。 1 : マスカブル割り込み要求信号によるスタンバイ・モード解除を禁止。
1	STP	スタンバイ・モードの設定 0 : 通常モード 1 : スタンバイ・モード 注意1. STPビットで設定可能なスタンバイ・モード : IDLE1モード, IDLE2モード, STOPモード, サブIDLEモード 2. このビットを設定する際は、事前にPSMR.PSM [1:0]ビットを設定してください。

スタンバイ・モードを設定する際は、注意が必要です。

- 注意1. HALTモード解除時、NMI1M, NMI0M, INTMビットの設定は無効です。
- 2. NMI1M, NMI0M, INTMビットとSTPビットを同時にセット(1)した場合、NMI1M, NMI0M, INTMビットの設定は無効になります。したがって、IDLE1/IDLE2/STOP/サブIDLEモードにマスクされていない保留中の割り込み要求信号がある場合は、その割り込み要求信号に対するビット(NMI1M, NMI0M, INTM)をセット(1)したあとにSTPビットをセット(1)してください。

(2) パワー・セーブ・モード・コントロール・レジスタ (PSMR)

パワー・セーブ・モードの動作状態や、クロックの動作を制御するための8ビットのレジスタです。このレジスタの設定は、PSC.STPビット = 1のときのみ有効です。

アクセス： 8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

アドレス： FFFFF820H

初期値： 00H。リセットにより初期化されます。

7	6	5	4	3	2	①	②
0	0	0	0	0	0	PSM1	PSM0
R	R	R	R	R	R	R/W	R/W

注意 ビット7-2には、必ず0を設定してください。

表4-18 PSMRレジスタの内容

ビット位置	ビット名	機能		
1, 0	PSM [1:0]	ソフトウェア・スタンバイ・モードの動作指定		
		PSM1	PSM0	ソフトウェア・スタンバイ・モードの動作指定
		0	0	IDLE1モード
		0	1	STOPモード
		1	0	IDLE2モードまたはサブIDLEモード ^注
		1	1	STOPモード
備考 PSM0とPSM1ビットは、PSC.STP = 1のときのみ有効となります。				

注 サブIDLEモードはサブクロック・モードに設定されている (CPUクロック (f_{CPU})、内部システム・クロック (f_{CLK}) へクロック f_{XT} または f_{RL} が供給されている) 場合に設定されます。

これらのパワー・セーブ・モードに関する詳細は、4.3.3 **スタンバイ機能の説明**を参照してください。

4.2.5 プリスケーラ・モード・レジスタ

プリスケーラ・モード・レジスタは、時計タイマとクロック同期式シリアル・インターフェースCSIB0に供給されるクロック f_{BRG} を生成するプリスケーラ3を制御します。プリスケーラ3はクロック分周器とカウンタ、コンペア・レジスタで構成されています。詳細は、4.3.5 プリスケーラ3の動作を参照してください。

(1) プリスケーラ・モード・レジスタ (PRSM0)

PRSM0はプリスケーラ3へ入力するクロックを制御するレジスタです。

アクセス： 8ビット単位でリード／ライト可能です。

アドレス： FFFFFF8B0H

初期値： 00H。リセットにより初期化されます。

7	6	5	④	3	2	1	0
0	0	0	BGCE0	0	0	BGCS01	BGCS00
R	R	R	R/W	R	R	R/W	R/W

注意 ビット7-5, 3, 2には、必ず0を設定してください。

表4-19 PRSM0レジスタの内容

ビット位置	ビット名	機能															
4	BGCE0	プリスケーラ3出力 0：禁止 1：許可															
1, 0	BGCS0 [1:0]	入力クロックの選択 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <th>BGCS01</th> <th>BGCS00</th> <th>入力クロックの選択</th> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>f_x</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>1</td> <td>$f_x/2$</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>0</td> <td>$f_x/4$</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>1</td> <td>$f_x/8$</td> </tr> </table>	BGCS01	BGCS00	入力クロックの選択	0	0	f_x	0	1	$f_x/2$	1	0	$f_x/4$	1	1	$f_x/8$
BGCS01	BGCS00	入力クロックの選択															
0	0	f_x															
0	1	$f_x/2$															
1	0	$f_x/4$															
1	1	$f_x/8$															

- 注意 1. BGCE0ビットを1にセットする前にBGCS0 [1:0]ビットを設定してください。
- 2. 時計タイマ動作中はBGCS0 [1:0]ビットの値を変更しないでください。
- 3. f_{BRG} の周波数を時計タイマの動作に使用する場合は、32.768 kHzに近くなるよう使用するメイン・クロック発振周波数(f_x)に応じて、PRSM0, PRSCM0レジスタを設定してください。

(2) プリスケーラ・コンペア・レジスタ (PRSCM0)

PRSCM0レジスタは， f_{BRG} の出力周波数を制御するレジスタです。

アクセス： 8ビット単位でリード／ライト可能です。

アドレス： FFFFF8B1H

初期値： 00H。リセットにより初期化されます。

7	6	5	4	3	2	1	0
PRSCM7	PRSCM6	PRSCM5	PRSCM4	PRSCM3	PRSCM2	PRSCM1	PRSCM0

R/W R/W R/W R/W R/W R/W R/W R/W

注意 1. 時計タイマの動作中はPRSCM0レジスタの書き換えを行わないでください。

2. f_{BRG} の周波数を時計タイマの動作に使用する場合は，32.768 kHzに近くなるよう使用するメイン・クロック発振周波数 (f_x) に応じて，PRSM0, PRSCM0レジスタを設定してください。

詳細と計算方法に関しては，4.3.5 プリスケーラ3の動作を参照してください。

4.2.6 クロック・モニタ・レジスタ

クロック・モニタ・レジスタはクロック・モニタの動作を制御するレジスタです。

(1) メイン・クロック発振回路クロック・モニタ・モード・レジスタ (CLM)

CLMレジスタはメイン・クロック発振回路クロックの監視を許可する8ビットのレジスタです。

アクセス： 8/1ビット単位でリード /ライト可能です。

このレジスタは、特定レジスタです。特定のシーケンスでのみ書き込み可能です。**第3章 CPU機能**を参照してください。

アドレス： FFFFF870H

初期値： 00H。リセットにより初期化されます。

7	6	5	4	3	2	1	①
0	0	0	0	0	0	0	CLME

R R R R R R R R/W

表4 - 20 CLMレジスタの内容

ビット位置	ビット名	機能
0	CLME	クロック・モニタの動作許可 / 禁止 0 : クロック・モニタ動作禁止。 1 : クロック・モニタ動作許可。

- 注意1. クロック・モニタによるリセットが発生した場合、CLM.CLMEはクリア(0)され、RESF.CLMRFがセット(1)されます。
2. CLMEビット = 1に設定した場合、リセット以外ではクリア(0)できません。

備考 CLM.CLMEはいつでもセットできますが、クロック・モニタは、メイン発振が安定した (OSTC.MSTS = 1 で示される) あとでのみ起動できます。

4.2.7 セレクタ制御レジスタ

セレクタ制御レジスタはタイマTAA_nとTMM0、およびシリアル・インターフェースUARTD_nとCAN_nのクロックと機能を選択するレジスタです。

備考 ここでは、クロック生成と分配に関わるビットのみを解説します。その他に関しては、各内蔵周辺機能の説明を参照してください。

(1) セレクタ動作制御レジスタ0 (SELCNT0)

SELCNT0レジスタはタイマTMM0のクロックを指定する8ビットのレジスタです。

アクセス： 8/1ビット単位でリード / ライト可能です。

アドレス： FFFFF308H

初期値： 00H。リセットにより初期化されます。

- V850ES/FE3

- V850ES/FF3

(7)	6	5	(4)	(3)	(2)	1	(0)
ISEL07	0	0	ISEL04	ISEL03	ISEL02	0	ISEL00
R/W	R	R	R/W	R/W	R/W	R	R/W

(7)	6	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	(0)
ISEL07	0	ISEL05	ISEL04	ISEL03	ISEL02	ISEL01	ISEL00
R/W	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

- V850ES/FG3 (μ PD70F3374, 70F3375)

- V850ES/FJ3 (μ PD70F3378)

(7)	6	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	(0)
ISEL07	0	ISEL05	ISEL04	ISEL03	ISEL02	ISEL01	ISEL00
R/W	R	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

- V850ES/FG3 (μ PD70F3376A, 70F3377A)

- V850ES/FJ3 (μ PD70F3379, 70F3380, 70F3381, 70F3380)

- V850ES/FK3

(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	(0)
ISEL07	ISEL06	ISEL05	ISEL04	ISEL03	ISEL02	ISEL01	ISEL00
R/W							

注意 1. V850ES/FE3, V850ES/FF3は、ビット6, 5, 1に必ず0を設定してください。

2. V850ES/FG3の μ PD70F3374, 70F3375, V850ES/FJ3の μ PD70F3378は、ビット6を必ず0に設定してください。

表4-21 SELCNT0レジスタの内容

ビット位置	ビット名	機能
7	ISEL07	TMM0のカウント・クロックの選択 0 : クロック = $f_{XP1}/512$ 1 : クロック = $f_{RH}/8$
6-0	ISEL0 [6:0]	第12章 16ビット・タイマ/イベント・カウンタAAを参照してください。

(2) セレクタ動作制御レジスタ1 (SELCNT1)

SELCNT1レジスタは、UARTD5, CAN2, CAN3のクロックを指定する8ビットのレジスタです。

アクセス： 8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

アドレス： FFFFFF30AH

初期値： 00H。リセットにより初期化されます。

・V850ES/FJ3 (μ PD70F3378)

7	6	5	4	③	2	1	①
0	0	0	0	ISEL13	0	0	ISEL10

R R R R R/W R R R/W

・V850ES/FJ3 (μ PD70F3379, 70F3380, 70F3381, 70F3382)

7	6	⑤	④	③	②	①	①
0	0	ISEL15	ISEL14	ISEL13	ISEL12	ISEL11	ISEL10

R R R/W R/W R/W R/W R/W R/W

・V850ES/FK3

7	6	⑤	④	③	②	①	①
-注	0	ISEL15	ISEL14	ISEL13	ISEL12	ISEL11	ISEL10

R/W R R/W R/W R/W R/W R/W R/W

注 初期値は0ですが、必ず1に設定してください。

- 注意 1. V850ES/FJ3の μ PD70F3378は、ビット7-4, 2, 1は必ず0に設定してください。
 2. V850ES/FJ3の μ PD70F3379, 70F3380, 70F3381, 70F3382は、ビット7, 6に必ず0を設定してください。
 3. V850ES/FK3は、ビット6に必ず0を、ビット7に必ず1を設定してください。

表4 - 22 SELCNT1レジスタの内容

ビット位置	ビット名	機能
5	ISEL15	UARTD5クロックの選択 0: クロック = f_{XP1} IDLE1モードで停止するクロック 1: クロック = f_{XP2} IDLE1モードで停止しないクロック
4	ISEL14	CAN3クロックの選択 0: クロック = f_{XP1} 1: クロック = $f_{XC}(fx)$
3	ISEL13	CAN2クロックの選択 0: クロック = f_{XP1} 1: クロック = $f_{XC}(fx)$
2-0	ISEL1 [2:0]	第12章 16ビット・タイマ／イベント・カウンタAAを参照してください。

(3) セレクタ動作制御レジスタ2 (SELCNT2)

SELCNT2レジスタは、UARTD0, UARTD1, CAN0, TAA_nのクロックを指定する8ビットのレジスタです。

アクセス： 8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

アドレス： FFFFFF30CH

初期値： 00H。リセットにより初期化されます。

⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	⑦
ISEL27	ISEL26	ISEL25	ISEL24	ISEL23	ISEL22	ISEL21	ISEL20
R/W							

表4 - 23 SELCNT2レジスタの内容

ビット位置	ビット名	機能
7	ISEL27	UARTD1クロックの選択 0 : クロック = f_{XP1} IDLE1モードで停止するクロック 1 : クロック = f_{XP2} IDLE1モードで停止しないクロック
6	ISEL26	UARTD0クロックの選択 0 : クロック = f_{XP1} IDLE1モードで停止するクロック 1 : クロック = f_{XP2} IDLE1モードで停止しないクロック
5	ISEL25	CAN0クロックの選択 0 : クロック = f_{XP1} 1 : クロック = f_{XC} (f_x)
4	ISEL24	TAA4カウンタ・クロックの選択 0 : クロック = f_{XP1} IDLE1モードで停止するクロック 1 : クロック = f_{XP2} IDLE1モードで停止しないクロック
3	ISEL23	TAA3カウンタ・クロックの選択 0 : クロック = f_{XP1} IDLE1モードで停止するクロック 1 : クロック = f_{XP2} IDLE1モードで停止しないクロック
2	ISEL22	TAA2カウンタ・クロックの選択 0 : クロック = f_{XP1} IDLE1モードで停止するクロック 1 : クロック = f_{XP2} IDLE1モードで停止しないクロック
1	ISEL21	TAA1カウンタ・クロックの選択 0 : クロック = f_{XP1} IDLE1モードで停止するクロック 1 : クロック = f_{XP2} IDLE1モードで停止しないクロック
0	ISEL20	TAA0カウンタ・クロックの選択 0 : クロック = f_{XP1} IDLE1モードで停止するクロック 1 : クロック = f_{XP2} IDLE1モードで停止しないクロック

(4) セレクタ動作制御レジスタ3 (SELCNT3)

SELCNT3レジスタは、UARTD2-UARTD4, CAN1のクロックを指定する8ビットのレジスタです。

アクセス： 8/1ビット単位でリード / ライト可能です。

アドレス： FFFFFF30EH

初期値： 00H。リセットにより初期化されます。

- V850ES/FG3 (μ PD70F3374, 70F3375)

- V850ES/FJ3 (μ PD70F3378)

7	6	5	4	3	②	①	0
0	0	0	0	0	ISEL32	ISEL31	0

R R R R R R/W R/W R

- V850ES/FG3 (μ PD70F3376A, 70F3377A)

- V850ES/FJ3 (μ PD70F3379, 70F3380, 70F3381, 70F3382)

7	6	5	④	③	②	①	①
0	0	0	ISEL34	ISEL33	ISEL32	ISEL31	ISEL30

R R R R/W R/W R/W R/W R/W

- V850ES/FK3

- 7 ⑥ 5 ④ ③ ② ① ①

0	ISEL36	0	ISEL34	ISEL33	ISEL32	ISEL31	ISEL30
---	--------	---	--------	--------	--------	--------	--------

R R/W R R/W R/W R/W R/W R/W

- 注意**
1. V850ES/FG3の μ PD70F3374, 70F3375, V850ES/FJ3の μ PD70F3378は、ビット7-3, 0に必ず0を設定してください。
 2. V850ES/FG3の μ PD70F3376A, 70F3377A, V850ES/FJ3の μ PD70F3379, 70F3380, 70F3381, 70F3382は、ビット7-5に必ず0を設定してください。
 3. V850ES/FK3は、ビット7, 5に必ず0を設定してください。

表4 - 24 SELCNT3レジスタの内容

ビット位置	ビット名	機能
6	ISEL36	第12章 16ビット・タイマ/イベント・カウンタAAを参照してください。
4	ISEL34	UARTD4クロックの選択： 0 : クロック = f_{XP1} IDLE1モードで停止するクロック 1 : クロック = f_{XP2} IDLE1モードで停止しないクロック
3	ISEL33	UARTD3クロックの選択： 0 : クロック = f_{XP1} IDLE1モードで停止するクロック 1 : クロック = f_{XP2} IDLE1モードで停止しないクロック
2	ISEL32	UARTD2クロックの選択： 0 : クロック = f_{XP1} IDLE1モードで停止するクロック 1 : クロック = f_{XP2} IDLE1モードで停止しないクロック
1	ISEL31	CAN1クロックの選択： 0 : クロック = f_{XP1} 1 : クロック = f_{XC} (f_X)
0	ISEL30	第12章 16ビット・タイマ/イベント・カウンタAAを参照してください。

(5) セレクタ動作制御レジスタ4 (SELCNT4)

SELCNT4レジスタは、周辺クロックを指定する8ビットのレジスタです。

アクセス： 8/1ビット単位でリード / ライト可能です。

アドレス： FFFFFF3F8H

初期値： 00H。リセットにより初期化されます。

7	6	5	4	3	2	1	①
0	0	0	0	0	0	0	ISEL40

R R R R R R R R/W

注意 ピット7-1には、必ず0を設定してください。

表4 - 25 SELCNT4レジスタの内容

ピット位置	ピット名	機能
0	ISEL40	周辺クロック (f_{XP1}) の選択 0 : $f_{XP1} = f_{xx}$ (低速内蔵発振、メイン・クロック発振、PLLまたはSSCG) 1 : $f_{XP1} = f_{XMPPLL}$ (PLL)

- 注意1. PLL停止 (PLLCTL.PLLON = 0) 時、ISEL40ピット = 1に設定しないでください。レジスタへ書き込む操作を行っても、データは書き込まれせん (ライトアクセスは無効)。
2. CPUをSSCGで動作している状態で、PLLONピット = 1 0に設定する場合、必ず事前にISEL40ピット = 0に設定してください。
ISEL40ピット = 1のままPLLONピット = 1 0に設定すると、周辺機能はPLLクロックが供給されるので、周辺機能へのクロック供給も停止します。このときISEL40ピットを読み出すと"0"が読み出されます。
3. ISEL40ピットは、CPUをSSCGで動作させる場合のみ設定してください。
SSCGを使用しない (SSCGONピット = 0) 場合、ISEL40ピットには"0"を設定してください。

(6) セレクタ動作制御レジスタ5 (SELCNT5)

SELCNT5レジスタは, TAA5-TAA7, UARTD6, UARTD7, CAN4のクロックを指定する8ビットのレジスタです。

アクセス： 8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

アドレス： FFFFF3FAH

初期値： 00H。リセットにより初期化されます。

• V850ES/FK3							
⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	①
ISEL57	ISEL56	ISEL55	ISEL54	ISEL53	ISEL52	ISEL51	ISEL50
R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

表4 - 26 SELCNT5レジスタの内容

ビット位置	ビット名	機能
7, 6	ISEL5 [7:6]	第12章 16ビット・タイマ／イベント・カウンタAAを参照してください。
5	ISEL55	UARTD7クロックの選択： 0 : クロック = f_{XP1} IDLE1モードで停止するクロック 1 : クロック = f_{XP2} IDLE1モードで停止しないクロック
4	ISEL54	UARTD7クロックの選択： 0 : クロック = f_{XP1} IDLE1モードで停止するクロック 1 : クロック = f_{XP2} IDLE1モードで停止しないクロック
3	ISEL53	CAN0クロックの選択： 0 : クロック = f_{XP1} 1 : クロック = f_{XC} (f_x)
2	ISEL52	TAA7カウント・クロックの選択： 0 : クロック = f_{XP1} IDLE1モードで停止するクロック 1 : クロック = f_{XP2} IDLE1モードで停止しないクロック
1	ISEL51	TAA6カウンタ・クロックの選択： 0 : クロック = f_{XP1} IDLE1モードで停止するクロック 1 : クロック = f_{XP2} IDLE1モードで停止しないクロック
0	ISEL50	TAA5カウンタ・クロックの選択： 0 : クロック = f_{XP1} IDLE1モードで停止するクロック 1 : クロック = f_{XP2} IDLE1モードで停止しないクロック

4.3 クロック発生回路の動作

この節ではクロック発生回路の各特徴を解説します。詳細は、次のとおりです。

- ・クロック動作制御の設定概要
- ・動作状態遷移
- ・パワー・セーブ・モードの説明
- ・パワー・セーブ・モードで使用できるクロック
- ・PLL制御
- ・ウォッチドッグ・タイマ・クロック
- ・CLKOUT機能
- ・プリスケーラ3の動作
- ・クロック・モニタの動作

4.3.1 クロック動作制御の設定概要

表4-27に内部システム・クロック(f_{CLK})の設定概要を示します。

表4-27 内部システム・クロック設定概要

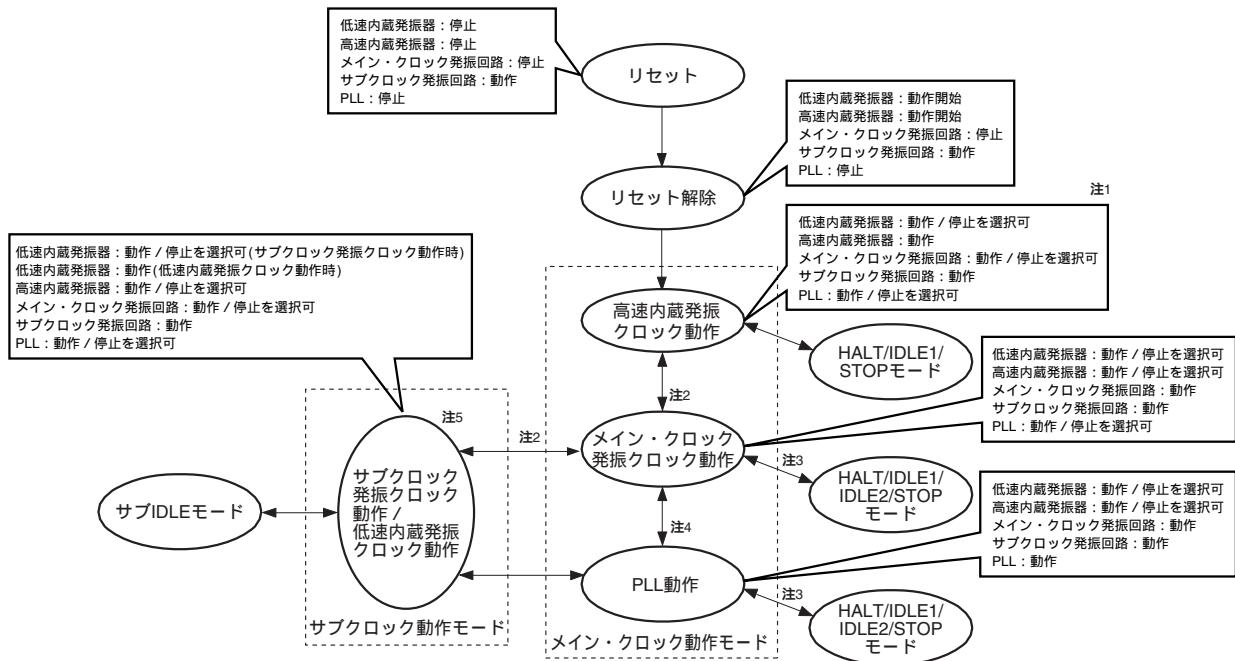
CCLS. CCLSF	PCC.CLS	PLLCTL. SELPPLL	SSCGCTL. SELSSCG	MCM.MCS	オプション・バイト 007B : SUBCLKビット	動作クロック (内部システム・クロック(f_{CLK}))
0	0 (メイン・システム・クロック動作モード)	0 (クロック・スルーモード)	x	0 (高速内蔵発振モード)	x	高速内蔵発振クロック動作
		1 (PLL/SSCGモード)	0 (PLL) 1 (SSCG)	1 (メイン・クロック発振モード)		メイン・クロック発振クロック動作
		1 (サブクロック動作モード)	x	0 (サブクロック発振モード)		PLLクロック動作
				1 (SSCGモード)		SSCGクロック動作
					0 (サブクロック発振モード)	サブクロック発振クロック動作
					1 (低速内蔵発振モード2)	低速内蔵発振クロック動作
1	-					低速内蔵発振クロック動作 (メイン・クロック発振回路の発振異常停止を検出時)
上記以外						設定禁止

備考 x = don't care

4.3.2 動作状態遷移

図4-3は状態遷移を示しています。

図4-3 動作状態遷移図



注1. リセット解除直後（ディフォルト）の状態は次のとおりです。

低速内蔵発振器： 動作

高速内蔵発振器： 動作

メイン・クロック発振回路： 停止

サブクロック発振回路： 動作

PLL： 停止

- メイン・クロック発振クロックへの動作移行時は、PCC.MCKビットに"0"を設定（メイン・クロック発振回路の発振許可）のあと、ソフトウェアで発振安定時間を確保し、OSTC.MSTSビットで発振安定状態を確認してください。PLLを動作許可にする場合は、メイン・クロック発振回路を動作許可にする前、または発振安定後にしてください。
- STOPモード解除時、メイン・クロック発振回路が発振していない（異常停止している）場合は低速内蔵発振クロック動作に移行します。この場合、サブクロック動作（低速内蔵発振クロック）と状態が異なるので注意してください。
- PLL動作移行時は、ソフトウェアでロックアップ時間を確保し、LOCKR.LOCKビットでPLLのロック状態を確認してください。
- サブクロック動作モードでのクロックは、オプション・バイト設定でサブクロック発振クロックか低速内蔵発振クロックのどちらか一方を選択します。

(1) メイン・クロック動作からスタンバイ状態への遷移

図4-4 高速内蔵発振クロック動作からスタンバイ状態への遷移

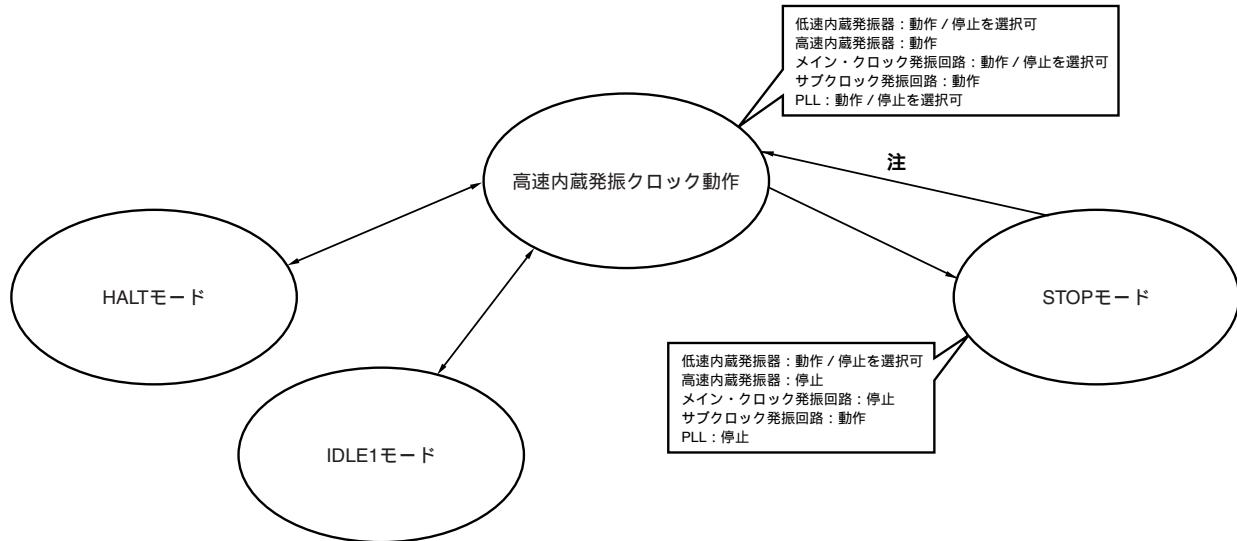
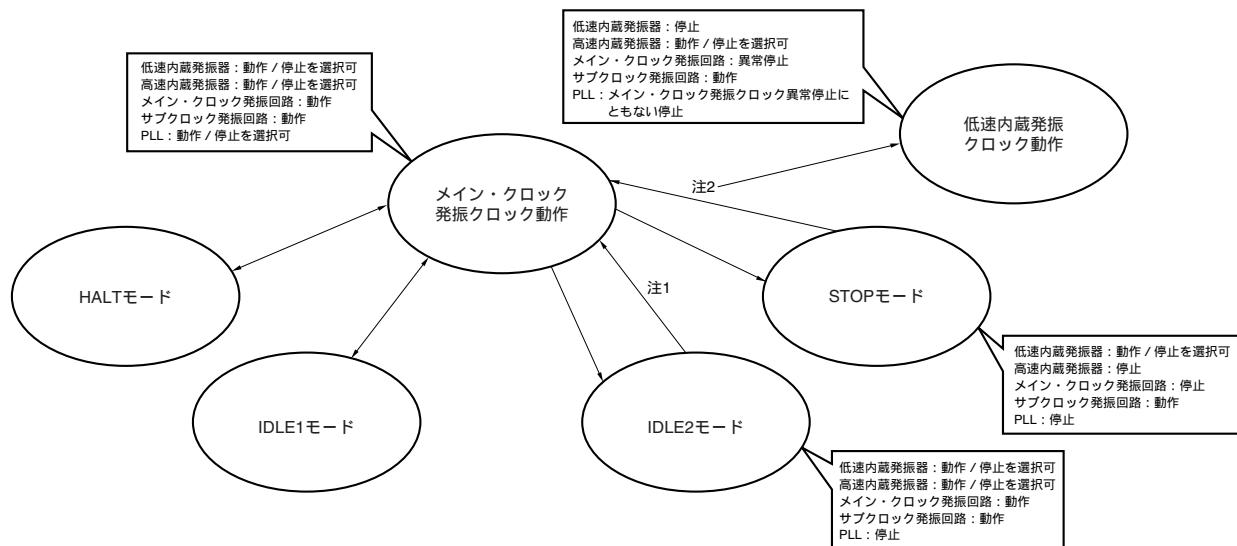
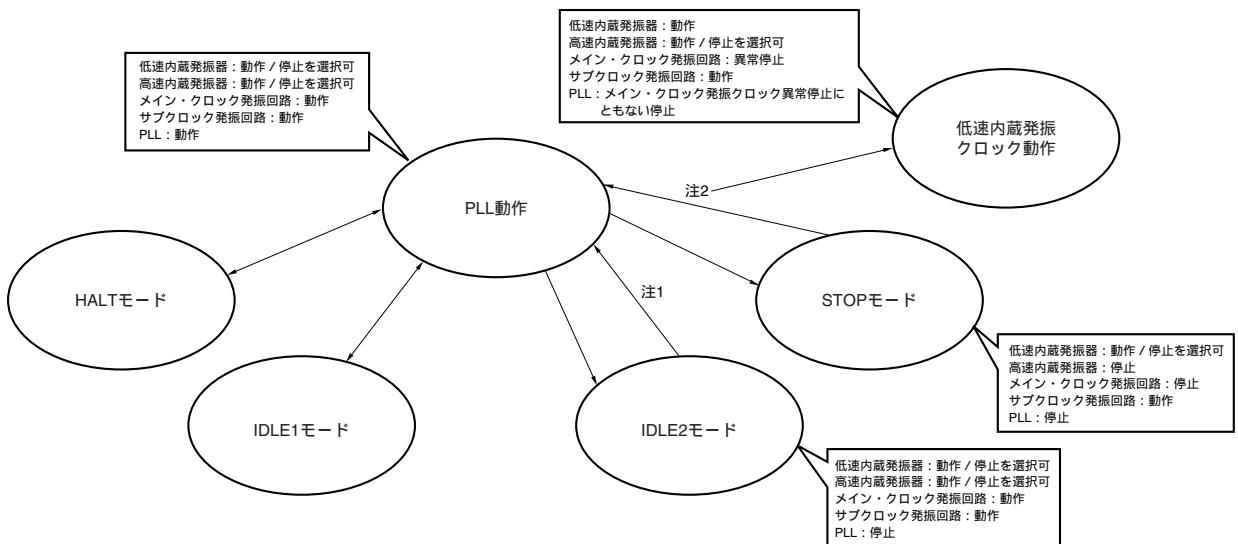


図4-5 メイン・クロック発振クロック動作からスタンバイ状態への遷移



- 注1. OSTSレジスタで設定した発振安定時間カウント後、メイン・クロック発振クロック動作に復帰します。
2. OSTSレジスタで設定した発振安定時間カウント後、メイン・クロック発振クロック動作に復帰します。ただし、メイン・クロック発振回路が発振していない（発振安定時間カウント中にウォッチドッグ・タイマがオーバーフローした）場合は、低速内蔵発振クロック動作に移行します（セーフティ動作）。この場合、サブクロック動作モード（低速内蔵発振クロック動作）と状態が異なりますので注意してください。

図4-6 PLL動作からスタンバイ状態への遷移



- 注1. OSTSレジスタで設定した発振安定時間カウント後，PLLクロック動作に復帰します。
2. OSTSレジスタで設定した発振安定時間カウント後，PLLクロック動作に復帰します。ただし，メイン・クロック発振回路が発振していない（発振安定時間カウント中にウォッチドッグ・タイマがオーバフローした）場合は，低速内蔵発振クロック動作に移行します（セーフティ動作）。この場合，サブクロック動作モード（低速内蔵発振クロック動作）と状態が異なりますので注意してください。

(2) サブクロック動作からスタンバイ状態への遷移

図4-7 サブクロック発振クロック動作からスタンバイ状態への遷移

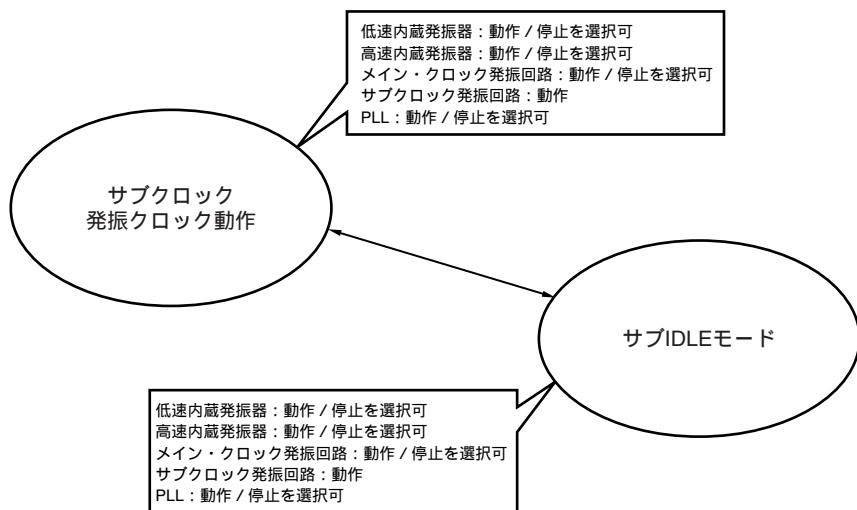
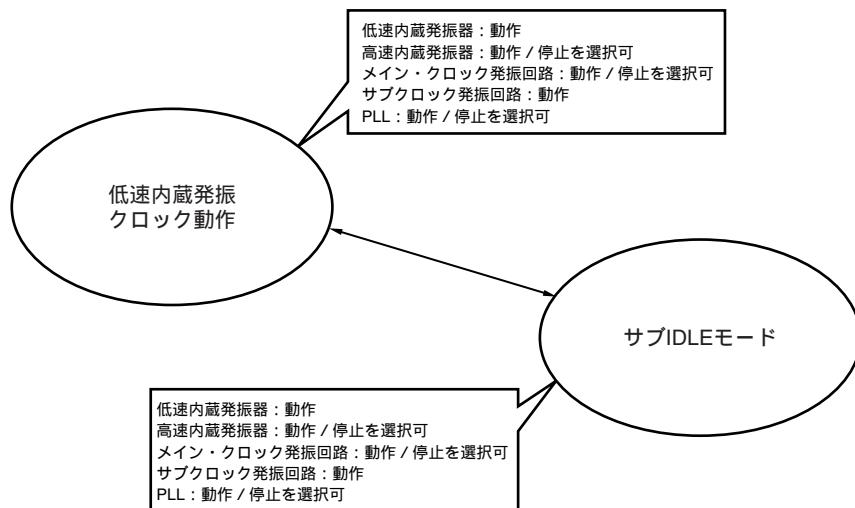


図4-8 低速内蔵発振クロック動作からスタンバイ状態への遷移



4.3.3 スタンバイ機能の説明

ここではスタンバイ機能の各モードを詳細に説明します。

表4-28 スタンバイ機能

モード	機能概要
HALTモード	CPUの動作クロックが停止するモード
IDLE1モード	発振回路とPLL/SSCG ^注 , フラッシュ・メモリを除く, チップのすべての内部動作が停止するモード
IDLE2モード	発振回路を除く, チップのすべての内部回路動作が停止するモード
STOPモード	サブクロック発振回路を除く, チップのすべての内部回路動作が停止するモード
サブクロック動作モード	内部システム・クロック (f_{CLK}), CPUクロック (f_{CPU}) をサブクロック (f_{SC}) で動作させるモード
サブIDLEモード	サブクロック動作モード時, 発振回路以外の内部回路をすべて停止するモード

注 PLL/SSCGは前の動作状態を保持します。

(1) HALTモード

このモードではクロック発振器は動作を継続しますが, CPUへのクロック供給は停止します。その他の内蔵周辺機能へのクロック供給は継続します。

そのため, プログラム実行は停止し, HALTモード設定前の内蔵RAMの内容は保持されます。CPUの命令処理に依存しない内蔵周辺機能は動作を継続します。

HALTモードは, 通常動作と使用して間欠動作を行うことで, システムの平均消費電力を低減することができます。

HALTモードの設定 : 通常動作モードでHALT命令が実行されると, HALTモードが設定されます。

- 注意 1. HALT命令の後には, NOP命令を5命令以上挿入してください。
- 2. マスクされていない割り込み要求信号が保留されている状態でHALT命令を実行した場合, HALTモードに移行しますが, 保留されている割り込み要求によりHALTモードはすぐに解除されます。
- 3. セルフ・プログラミング中に, HALTモードに移行させないでください。

HALTモード状態 : 次の表はHALTモードの動作状態を示しています。

表4 - 29 HALTモードの動作状態

	動作状態	
	サブクロックなし	サブクロックあり
メイン・クロック発振回路 (f_x)	発振可能	
サブクロック発振回路 (f_{XT})	-	発振可能
低速内蔵発振器 (f_{RL})	発振可能	
高速内蔵発振器 (f_{RH})	発振可能	
PLL (f_{PLLO})	動作可能	
SSCG (f_{SSCGO})	動作可能	
CPU	動作停止	
ポート機能	HALTモード設定前の状態を保持。	
外部バス・インターフェース	第10章 パス、メモリ制御機能 (BCU, MEMC) を参照してください。	
タイマ / カウンタ	TAA0-TAA7	TAA0, TAA2, : 動作可能 TAA4, TAA6 TAA1, TAA3, : f_{XT} 以外がカウント・クロックとして選択された場合動作可能。 TAA5, TAA7 ロックとして選択された場合動作可能。
	TAB0-TAB2	動作可能
	TMM0	f_{XT} 以外がカウント・クロックとして選択された場合動作可能。
時計タイマ (WT)		カウント・クロックに f_x (プリスケーラ3 の分周クロック)を選択した場合動作可能
ウォッチドッグ・タイマ (WDT2)	動作可能	
A/Dコンバータ	動作可能	
シリアル・インターフェース	UARTD0- UARTD7	動作可能
	CSIB0-CSIB3	動作可能
	IIC00	動作可能
CANコントローラ (CAN0-CAN4)	動作可能	
DMAコントローラ	動作可能	
割り込みコントローラ	動作可能	
キー割り込み機能	動作可能	
クロック・モニタ	動作可能	
パワー・オン・クリア回路	動作可能	
低電圧検出回路 (LVI)	動作可能	
電圧レギュレータ	動作継続	
内部データ	CPUのレジスタとステート, データおよび内部RAMなどの内部データは,すべてHALTモード設定以前の状態を保持。	

注意 表はV850ES/FK3のものです。各製品がサポートする周辺機能につきましては表1 - 1 V850ES/FE3,

V850ES/FF3, V850ES/FG3, V850ES/FJ3, V850ES/FK3の機能概要を参照してください。

HALTモードの解除： HALTモードは、ノンマスカブル割り込み要求信号（NMI端子またはINTWDT2信号）またはマスクされていない外部割り込み要求信号、HALTモードでも動作する周辺機能のマスクされていない内部割り込み要求信号、リセット信号によって解除されます。HALTモードが解除されると、通常動作モードに復帰します。

(a) ノンマスカブル割り込み要求またはマスクされていないマスカブル割り込み要求による解除

HALTモードは、割り込み要求信号の優先順位に関わらずノンマスカブル割り込み要求またはマスクされていないマスカブル割り込み要求によって解除されます。しかし、HALTモードが割り込みルーチンの中で設定されると、次のような動作が行われます。

- ・現在処理中の割り込み要求よりも低い優先順位を持つ割り込み要求信号が発生すると、HALTモードは解除されますが、この低い優先順位の割り込み要求は保持されます。
- ・現在処理中の割り込み要求よりも高い優先順位を持つ割り込み要求信号（ノン・マスカブル割り込み要求を含む）が発生すると、HALTモードは解除され、この割り込み要求信号は受け付けられます。

表4 - 30 HALTモードが割り込み要求信号で解除された後の動作

解除要因	割り込み許可（EI）状態	割り込み禁止（DI）状態
ノンマスカブル割り込み要求信号	ハンドラ・アドレスに分岐します。	
マスカブル割り込み要求信号	ハンドラ・アドレスに分岐するか、次の命令が実行されます。	次の命令が実行されます。

(b) リセット信号による解除（RESET端子入力によるリセットまたは内部リセット信号であるRESPOC信号（パワーオン・クリア回路）、WDT2RES信号（ウォッチドッグ・タイマ2）、RESLVI信号（低電圧検出回路）、SYSRES信号（クロック・モニタ））

動作は通常のリセット動作と同じです。

(2) IDLE1モード

IDLE1モードでは、メイン・クロック発振回路とPLL、フラッシュ・メモリは動作を継続しますが、CPUとその他の内蔵周辺機能へのクロック供給は停止します。

この結果、プログラム実行は停止し、IDLE1モードが設定される前の内蔵RAMの内容は保持されます。CPUや内蔵周辺機能は動作を停止しますが、サブクロック、内蔵発振クロックまたは外部クロックで動作できる内蔵周辺機能は動作を継続します。

IDLE1モードでは、内蔵周辺機能の動作が停止するため、消費電力をHALTモードよりも低減できます。また、メイン・クロック発振回路は停止しないので、HALTモード同様に、発振安定時間を確保することなく通常モードに復帰できます。

IDLE1モードの設定：IDLE1モードは、通常動作モード時にPSMRレジスタのPSM1とPSM0ビットを“00”にクリアし、PSCレジスタのSTPビットを1にセットすると設定されます。

IDLE1モード状態：次の表はIDLE1モードの動作状態を示しています。

注意 1. IDLE1モードに設定するためのPSCレジスタに対するストア命令のあとには、直後にNOP命令を5命令以上挿入してください。

2. セルフ・プログラミング中に、IDLE1モードに移行させないでください。

表4 - 31 IDLE1モードの動作状態 (1/2)

		動作状態	
		サブクロックなし	サブクロックあり
メイン・クロック発振回路 (fx)		発振可能	
サブクロック発振回路 (fxt)		-	発振可能
低速内蔵発振器 (fRL)		発振可能	
高速内蔵発振器 (fRH)		発振可能	
PLL (fPLLO)		動作可能	
SSCG (fSSCGO)		動作可能	
CPU		動作停止	
ポート機能		IDLE1モード設定前の状態を保持。	
外部バス・インターフェース		第10章 バス、メモリ制御機能 (BCU, MEMC) を参照してください。	
タイマ / カウンタ	TAA0-TAA7	fxP2がカウント・クロックとして選択されている場合動作可能。	TAA0, TAA2, : fxP2がカウント・クロック TAA4, TAA6 として選択されている場合動作可能。 TAA1, TAA3, : fxP2またはfxtがカウント・ TAA5, TAA7 クロックとして選択されている場合動作可能 ^注 。
	TAB0-TAB2	動作停止	
	TMM0	fRH/8, INTWTまたはfRL/8がカウント・クロックとして選択されている場合動作可能。	fRH/8, INTWT, fRL/8またはfxtがカウント・クロックとして選択されている場合動作可能。

注 fxtによるカウント動作は、セレクタ動作制御レジスタ (SELCNTn) のISEL × × ビットが1に設定されている場合 (fxP2) のみ可能です。

注意 表はV850ES/FK3のものです。各製品がサポートする周辺機能につきましては表1 - 1 V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3, V850ES/FJ3, V850ES/FK3の機能概要を参照してください。

表4 - 31 IDLE1モードの動作状態 (2/2)

		動作状態	
		サブクロックなし	サブクロックあり
時計タイマ (WT)		カウント・クロックにfx(プリスケーラ3の分周クロック)を選択した場合動作可能。	
ウォッチドッグ・タイマ(WDT2)		動作可能	
A/Dコンバータ ^注		動作停止	
シリアル・インターフェース	UARTD0-UARTD7	UARTD0 : fx _{P2} またはASCKD0が入力クロックに選択されている場合動作可能。 UARTD1-UARTD7 : 動作クロックとしてfx _{P2} が選択されている場合動作可能。	
	CSIB0-CSIB3	SCKBnが入力クロックとして選択されている場合動作可能。	
	IIC00	動作停止	
CANコントローラ(CAN0-CAN4)		動作停止	
DMAコントローラ		動作停止	
割り込みコントローラ		動作停止 (ただしIDLE1モード解除可能)	
キー割り込み機能		動作可能	
クロック・モニタ		動作可能	
パワー・オン・クリア回路		動作可能	
低電圧検出回路 (LVI)		動作可能	
電圧レギュレータ		動作継続	
内部データ		CPUのレジスタとステート、データおよび内部RAMなどの内部データは、すべてIDLE1モード設定以前の状態を保持。	

注 消費電力を低減するために、IDLE1モードを設定する前にA/Dコンバータを停止してください。

注意 表はV850ES/FK3のものです。各製品がサポートする周辺機能につきましては表1 - 1 V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3, V850ES/FJ3, V850ES/FK3の機能概要を参照してください。

IDLE1モードの解除：IDLE1モードは、ノンマスクブル割り込み要求信号（NMI端子入力またはINTWDT2信号）またはマスクされていない外部割り込み要求信号、IDLE1モードで動作可能な周辺機能のマスクされていない割り込み要求信号、リセット信号により解除されます。
IDLE1モードが解除されると、通常動作モードに復帰します。

- 注意1. PSCレジスタのNMI1M, NM10MおよびINTMビットで禁止される割り込み要求信号は無効で、IDLE1モードを解除しません。
2. INTP3端子は、NFCレジスタの設定によりディジタル・ノイズ除去を選択し、かつサンプリング・クロックをfx_x/64, fx_x/128, fx_x/256, fx_x/512, fx_x/1024, fx_x/2048から選択した場合、IDLE1モードの解除はできません。
詳細は、第2章 端子機能を参照してください。

(a) ノンマスカブル割り込み要求またはマスクされていないマスカブル割り込み要求による解除

IDLE1モードは、割り込み要求信号の優先順位に関わらずノンマスカブル割り込み要求またはマスクされていないマスカブル割り込み要求によって解除されます。IDLE1モードが割り込みルーチンの中で設定されると、次のような動作が行われます。

- ・現在処理中の割り込み要求よりも低い優先順位を持つ割り込み要求信号が発生すると、IDLE1モードは解除されますが、この低い優先順位の割り込み要求信号は保持されます。
- ・現在処理中の割り込み要求よりも高い優先順位を持つ割り込み要求信号（ノン・マスカブル割り込み要求を含む）が発生すると、IDLE1モードは解除され、この割り込み要求信号は受け付けられます。

表4-32 IDLE1モードが割り込み要求信号で解除された後の動作

解除要因	割り込み許可 (EI) 状態	割り込み禁止 (DI) 状態
ノンマスカブル割り込み要求信号	ハンドラ・アドレスに分岐します。	
マスカブル割り込み要求信号	ハンドラ・アドレスに分岐するか、次の命令が実行されます。	

(b) リセット信号による解除 (RESET端子入力によるリセットまたは内部リセット信号であるRESPROC信号 (パワーオン・クリア回路), WDT2RES信号 (ウォッチドッグ・タイマ2), RESLVI信号 (低電圧検出回路), SYSRES信号 (クロック・モニタ))

動作は通常のリセット動作と同じです。

(3) IDLE2モード

IDLE2モードでは、メイン・クロック発振回路は動作を継続しますが、CPU, PLL/SSCG, フラッシュ・メモリとその他の内蔵周辺機能へのクロック供給は停止します。

この結果、プログラム実行は停止し、IDLE2モードが設定される前の内蔵RAMの内容は保持されます。CPUや内蔵周辺機能は動作を停止しますが、サブクロック、内蔵発振クロックまたは外部クロックで動作できる内蔵周辺機能は動作を継続します。

IDLE2モードでは、PLL/SSCG、内蔵周辺機能とフラッシュ・メモリの動作が停止するため、消費電力をIDLE1モードよりも低減できます。また、PLL/SSCGとフラッシュ・メモリが停止するため、IDLE2モードの解除後、PLL/SSCGとフラッシュ・メモリのセットアップ時間が必要です。

IDLE2モードの設定：IDLE2モードは、通常動作モード時にPSMRレジスタのPSM1とPSM0ビットを“10”にクリアし、PSCレジスタのSTPビットを1にセットすると設定されます。

- 注意1.** IDLE2モードを設定するためには、PSCレジスタを操作するストア命令の直後に、5つ以上のNOP命令を挿入してください。
2. セルフ・プログラミング中に、IDLE2モードに移行させないでください。

IDLE2モード状態： 次の表はIDLE2モードの動作状態を示しています。

表4 - 33 IDLE2モードの動作状態

	動作状態	
	サブクロックなし	サブクロックあり
メイン・クロック発振回路 (f_x)	発振可能	
サブクロック発振回路 (f_{XT})	-	発振可能
低速内蔵発振器 (f_{RL})	発振可能	
高速内蔵発振器 (f_{RH})	発振可能	
PLL (f_{PLLO})	動作停止	
SSCG (f_{SSCGO})	動作停止	
CPU	動作停止	
ポート機能	IDLE2モード設定前の状態を保持。	
外部バス・インターフェース	第10章 パス、メモリ制御機能 (BCU, MEMC) を参照してください。	
タイマ / カウンタ	TAA0-TAA7	動作停止
	TAB0-TAB2	動作停止
	TMM0	$f_{RH}/8$, INTWT, または $f_{RL}/8$ がカウント・クロックとして選択されている場合動作可能。 $f_{RH}/8$, INTWT, $f_{RL}/8$ または f_{XT} がカウント・クロックとして選択されている場合動作可能。
時計タイマ (WT)	カウント・クロックに f_x (プリスケーラ3の分周クロック)を選択した場合動作可能。	動作可能
ウォッチドッグ・タイマ (WDT2)	動作可能	
A/Dコンバータ ^注	動作停止	
シリアル・インターフェース	UARTD0-UARTD7	UARTD0 : ASCKD0が入力クロックに選択されている場合動作可能。 UARTD1-UARTD7 : 動作停止。
	CSIB0-CSIB3	SCKBnが入力クロックとして選択されている場合動作可能。
	IIC00	動作停止
CANコントローラ (CAN0-CAN4)	動作停止 (ただしスリープ・モードからのウエイクアップは可能)	
DMAコントローラ	動作停止	
割り込みコントローラ	動作停止 (ただしIDLE2モードの解除は可能)	
キー割り込み機能	動作可能	
クロック・モニタ	動作可能	
パワー・オン・クリア回路	動作可能	
低電圧検出回路 (LVI)	動作可能	
電圧レギュレータ	動作継続	
内部データ	CPUのレジスタとステート、データおよび内部RAMの内容などの内部データは、すべてIDLE2モード設定以前の状態を保持。	

注 消費電力を低減するためには、IDLE2モードを設定する前にA/Dコンバータを停止してください。

注意 表はV850ES/FK3のものです。各製品がサポートする周辺機能につきましては表1 - 1 V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3, V850ES/FJ3, V850ES/FK3の機能概要を参照してください。

IDLE2モードの解除：IDLE2モードは、ノンマスクブル割り込み要求信号 (NMI端子入力またはINTWDT2信号) またはマスクされていない外部割り込み要求信号、IDLE2モードで動作可能な周辺機能のマスクされていない割り込み要求信号、リセット信号により解除されます。IDLE2モードが解除されると、通常動作モードに復帰します。

- 注意1.** PSCレジスタのNMI1M, NMI0MおよびINTMビットで禁止される割り込み要求信号は無効で、IDLE2モードを解除しません。
2. INTP3端子は、NFCレジスタの設定によりディジタル・ノイズ除去を選択し、かつサンプリング・クロックをf_{XX}/64, f_{XX}/128, f_{XX}/256, f_{XX}/512, f_{XX}/1024, f_{XX}/2048から選択した場合、IDLE2モードの解除はできません。詳細は、第2章 端子機能を参照してください。

(a) ノンマスカブル割り込み要求またはマスクされていないマスカブル割り込み要求による解除

IDLE2モードは、割り込み要求信号の優先順位に関わらずノンマスカブル割り込み要求またはマスクされていないマスカブル割り込み要求によって解除されます。しかし、IDLE2モードが割り込みルーチンの中で設定されると、次のような動作が行われます。

- ・現在処理中の割り込み要求よりも低い優先順位を持つ割り込み要求信号が発生すると、IDLE2モードは解除されますが、この低い優先順位の割り込み要求は保持されます。
- ・現在処理中の割り込み要求よりも高い優先順位を持つ割り込み要求信号が発生すると、IDLE2モードは解除され、この割り込み要求信号は受け付けられます。

表4 - 34 IDLE2モードが割り込み要求信号で解除された後の動作

解除要因	割り込み許可 (EI) 状態	割り込み禁止 (DI) 状態
ノンマスカブル割り込み要求信号	所定のセットアップ時間が経過後、ハンドラ・アドレスに分岐します。	
マスカブル割り込み要求信号	所定のセットアップ時間経過後、ハンドラ・アドレスに分岐するか、次の命令が実行されます。	所定のセットアップ時間経過後、次の命令が実行されます。

(b) リセット信号による解除 (RESET端子入力によるリセットまたは内部リセット信号であるRESPROC信号 (パワーオン・クリア回路), WDT2RES信号 (ウォッチドッグ・タイマ2), RESLVI信号 (低電圧検出回路), SYSRES信号 (クロック・モニタ))

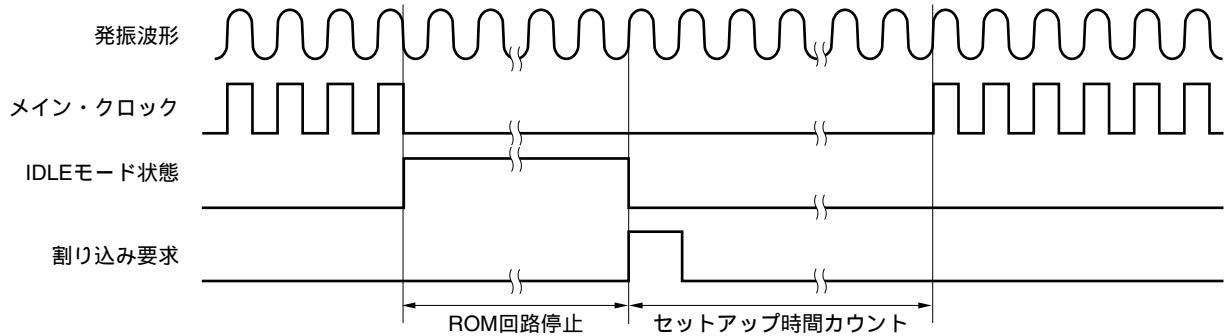
動作は通常のリセット動作と同じです。

(c) IDLE2モードを解除時のセットアップ時間の確保

IDLE2モードが設定されると、メイン・クロック発振回路以外は停止します。したがって、IDLE2モードを解除した後にROM (フラッシュ・メモリ) のセットアップ時間を確保してください。

- ・ノンマスカブル割り込み要求信号またはマスクされていないマスカブル割り込み要求信号による解除
所定のセットアップ時間はOSTSレジスタの設定により確保します。
IDLE2モードを解除する要因が発生した場合、内部専用タイマがOSTSレジスタの設定にしたがってカウントを開始します。このタイマがオーバフローした時、通常動作モードに復帰します。

図4-9 IDLE2モード・タイミング



- リセット信号による解除 (RESET端子入力によるリセットまたは内部リセット信号であるRESPOC信号(パワーオン・クリア回路), WDT2RES信号(ウォッチドッグ・タイマ2), RESLVI信号(低電圧検出回路), SYSRES信号(クロック・モニタ))

動作は通常のリセット動作と同じです。

発振安定時間はOSTSレジスタのディフォールト値 $2^{16}/f_x$ です。

(4) STOPモード

STOPモードではサブクロック発振回路は動作を継続しますが、メイン・クロック発振回路は停止します。また、CPUと内蔵周辺機能へのクロック供給も停止します。

この結果、プログラム実行は停止し、STOPモードが設定される前の内蔵RAMの内容は保持されます。CPUの内蔵周辺機能は動作を停止しますが、サブクロック、内部発振クロックまたは外部クロックで動作できる内蔵周辺機能は動作を継続します。

STOPモードでは、メイン・クロック発振回路の動作が停止するため、消費電力をIDLE2モードよりも低減できます。また、サブクロック発振回路と内蔵発振器、外部クロックを使用していない場合、リーク電流のみの低消費電力を実現できます。

STOPモードの設定：STOPモードは、通常動作モード時にPSMRレジスタのPSM1とPSM0ビットを“01”または“11”に設定し、PSCレジスタのSTPビットを1にセットすると設定されます。

- STOPモードを設定するためには、PSCレジスタを操作するストア命令の直後に、5つ以上のNOP命令を挿入してください。
- セルフ・プログラミング中に、STOPモードに移行させないでください。

STOPモード状態：次の表はSTOPモードの動作状態を示しています。

表4 - 35 STOPモードの動作状態

	動作状態	
	サブクロックなし	サブクロックあり
メイン・クロック発振回路 (fx)	動作停止	
サブクロック発振回路 (fXT)	-	発振可能
低速内蔵発振器 (fRL)	発振可能	
高速内蔵発振器 (fRH)	発振停止	
PLL (fPLLO)	動作停止	
SSCG (fSSCGO)	動作停止	
CPU	動作停止	
ポート機能	STOPモード設定前の状態を保持。	
外部バス・インターフェース	第10章 バス、メモリ制御機能 (BCU, MEMC) を参照してください。	
タイマ / カウンタ	TAA0-TAA7	動作停止
	TAB0-TAB2	動作停止
	TMM0	カウント・クロックにfRL/8を選択時、動作可能。INTWT, fRL/8またはfXTがカウント・クロックとして選択されている場合動作可能。
時計タイマ (WT)	動作停止	タイマ / カウンタfXTがカウント・クロックとして選択されている場合動作可能。
ウォッチドッグ・タイマ (WDT2)	タイマ / カウンタfRLがカウント・クロックとして選択されている場合動作可能。	
A/Dコンバータ	動作停止	
シリアル・インターフェース	UARTD0-UARTD7	UARTD0 : ASCKD0が入力クロックに選択されている場合動作可能。 UARTD1-UARTD7 : 動作停止。
	CSIB0-CSIB3	SCKBnが入力クロックとして選択されている場合動作可能。
	IIC00	動作停止
CANコントローラ (CAN0-CAN4)	動作停止 (ただしSTOPモードからのウエイクアップは可能)	
DMAコントローラ	動作停止	
割り込みコントローラ	動作停止 (ただしSTOPモードの解除は可能)	
キー割り込み機能	動作可能	
クロック・モニタ	動作停止	
パワー・オン・クリア回路	動作可能	
低電圧検出回路 (LVI)	動作可能	
電圧レギュレータ	動作継続	
内部データ	CPUのレジスタとステート、データおよび内部RAMなどの内部データは、すべてSTOPモード設定以前の状態を保持。	

注意 表はV850ES/FK3のものです。各製品がサポートする周辺機能につきましては表1 - 1 V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3, V850ES/FJ3, V850ES/FK3の機能概要を参照してください。

- 注意1. A/Dコンバータの動作中にSTOPモードが設定された場合、A/Dコンバータは自動的に動作を停止し、STOPモード解除後に動作を再開します。この場合、STOPモード解除後から2回目までの変換結果は無効になります(3回目以降の変換結果は有効です)。STOPモードが設定される前のすべてのA/D変換結果は無効となります。
2. A/Dコンバータを動作したままSTOPモードに遷移した場合でも、STOPモード遷移前にA/Dコンバータを停止した場合と同等の消費電力を低減できます。

STOPモードの解除： STOPモードは、ノンマスクブル割り込み要求信号(NMI端子入力またはINTWDT2信号)またはマスクされていない外部割り込み要求信号、STOPモードで動作可能な周辺機能のマスクされていない割り込み要求信号、リセット信号により解除されます。

STOPモードが解除されると、通常動作モードに復帰します。

- 注意1.** PSCレジスタのNMI1M, NMI0MおよびINTMビットで禁止される割り込み要求信号は無効で、STOPモードを解除しません。
2. INTP3端子は、NFCレジスタの設定によりディジタル・ノイズ除去を選択し、かつサンプリング・クロックをfxx/64, fxx/128, fxx/256, fxx/512, fxx/1024, fxx/2048から選択した場合、STOPモードの解除はできません。詳細は、第2章 端子機能を参照してください。

(a) ノンマスクブル割り込み要求またはマスクされていないマスクブル割り込み要求による解除

STOPモードは、割り込み要求信号の優先順位に関わらずノンマスクブル割り込み要求またはマスクされていないマスクブル割り込み要求によって解除されます。しかし、STOPモードが割り込みルーチンの中で設定されると、次のような動作が行われます。

- ・現在処理中の割り込み要求よりも低い優先順位を持つ割り込み要求信号が発生すると、STOPモードは解除されますが、この低い優先順位の割り込み要求は保持されます。
- ・現在処理中の割り込み要求よりも高い優先順位を持つ割り込み要求信号が発生すると、STOPモードは解除され、この割り込み要求信号は受け付けられます。

表4 - 36 STOPモードが割り込み要求信号で解除された後の動作

解除要因	割り込み許可(EI)状態	割り込み禁止(DI)状態
ノンマスクブル割り込み要求信号	発振安定時間が経過後、ハンドラ・アドレスに分岐します。	
マスクブル割り込み要求信号	発振安定時間経過後、ハンドラ・アドレスに分岐するか、次の命令が実行されます。	発振安定時間経過後、次の命令が実行されます。

(b) STOPモードを解除時の発振安定時間の確保

STOPモードが設定されると、メイン・クロック発振回路は停止します。したがって、STOPモードを解除した後にメイン・クロックの発振安定時間を確保してください。

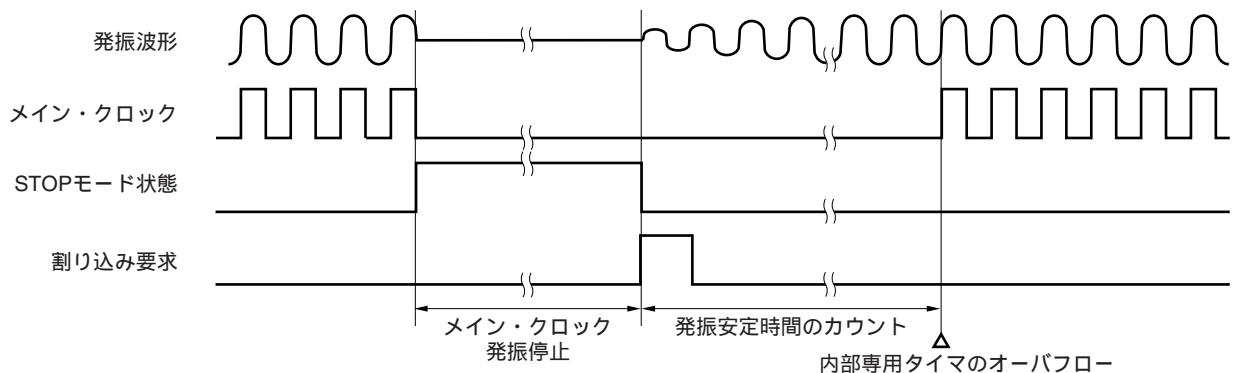
ノンマスクブル割り込み要求信号またはマスクされていないマスクブル割り込み要求信号による解除：

(i) メイン・クロック発振クロック動作時

- ・セットアップ時間はOSTSレジスタの設定により確保します。
- ・STOPモードを解除する要因が発生した場合、内部専用タイマが、OSTSレジスタの設定にしたがってカウントを開始します。このタイマがオーバフローした時、通常動作モードに復帰します。

STOPモードを割り込みで解除した場合の動作を次の図に示します。

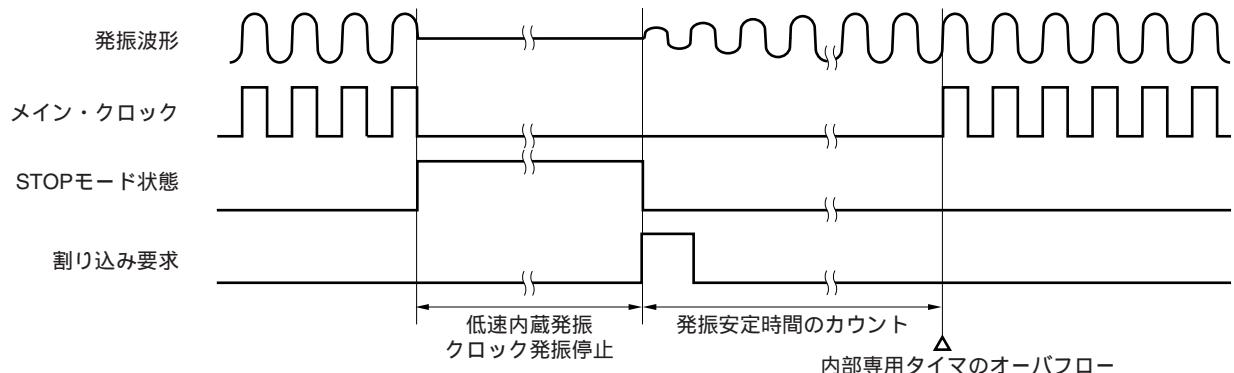
図4-10 STOPモード・タイミング



(ii) 高速内蔵発振クロック動作時

STOPモードを解除すると、所定の時間だけ発振安定時間を確保します。STOPモードを解除する要因が発生した場合、メイン・クロック発振用とは異なる内部専用タイマがカウントを開始します。このタイマがオーバフローしたとき、通常動作モードに復帰します。STOPモードを割り込みで解除した場合の動作を次の図に示します。

図4-11 STOPモード・タイミング(高速内蔵発振クロック動作の場合)



(c) リセット信号による解除 (RESET端子入力によるリセットまたは内部リセット信号であるRESPOC信号(パワーオン・クリア回路), WDT2RES信号(ウォッチドッグ・タイマ2), RESLVI信号(低電圧検出回路), SYSRES信号(クロック・モニタ))

動作は、通常リセット動作と同じです。

(5) サブクロック動作モード

サブクロック動作モードが設定されると、内部システム・クロック (f_{CLK}) はメイン・システム・クロックからサブクロックに切り換わります。サブクロックはサブクロック発振 (f_{XT}) または低速内蔵発振 (f_{RL}) からオプション・バイト007BHのSUBCLKビットで選択できます。

内部システム・クロックが切り換わったかどうかは、PCCレジスタのCLSビットを使用して確認してください。

PCCレジスタのMCKビットを1にセットすることにより、メイン・クロック発振回路の動作を停止します。この結果、システム全体がサブクロックでのみ動作します。

サブクロック動作モードでは、内部システム・クロックとしてサブクロックが使われるため、通常動作モードよりも消費電力が低減できます。また、メイン・クロック発振回路の発振を停止することにより、STOPモードに近い消費電力を実現できます。

サブクロック・モードの設定：通常動作モード時、サブクロック動作モードはPCCレジスタのCK3ビットを1にセットすることで設定されます。

- 注意**
1. PCCレジスタのCK3ビットを操作(0から1または1から0)する場合、CK2-CK0ビットの値を変更しないでください。CK3ビットはビット操作命令を使用してセットしてください。PCCレジスタに関する詳細は、4.2.1(5) プロセッサ・クロック・コントロール・レジスタ(PCC)を参照してください。
 2. セルフ・プログラミング中に、STOPモードに移行させないでください。
 3. 次の条件を満たしていない場合は、条件を満たすようにCK2-CK0ビットを変更後、サブクロック動作モードに移行してください。

内部システム・クロック (f_{CLK}) > サブクロック (f_{SC}) × 4

サブクロック・モード状態：次の表にサブクロック・モードにおける状態を示します。

表4-37 サブクロック・モードの動作状態

	動作状態	
	メイン・クロック発振回路発振時	メイン・クロック発振回路停止時
サブクロック発振回路 (f_{XT})	発振可能	
低速内蔵発振器 (f_{RL})	発振可能	
高速内蔵発振器 (f_{RH})	発振可能	
PLL (f_{PLL0})	動作可能	動作停止 ^{注1}
SSCG (f_{SSCG0})	動作可能	動作停止 ^{注1}
CPU	動作可能	
ポート機能	設定可能	
外部バス・インターフェース	第10章 バス、メモリ制御機能 (BCU, MEMC) を参照してください。	
タイマ / カウンタ	TAA0-TAA7	動作可能
	TAB0-TAB2	動作可能
	TMM0	動作可能 $f_{RH}/8, f_{RL}/8, INTWT$ または f_{XT} がカウント・クロックとして選択されている場合動作可能。
時計タイマ (WT)	動作可能	f_{XT} がカウント・クロックとして選択されている場合動作可能。
ウォッチドッグ・タイマ (WDT2)	動作可能	f_{RL} がカウント・クロックとして選択されている場合動作可能。
A/Dコンバータ	動作可能	動作停止
シリアル・インターフェース	UARTD0- UARTD7	動作可能 UARTD0 : ASCKD0が入力クロックに選択されている場合動作可能。 UARTD1- : 動作停止。 UARTD7
	CSIB0- CSIB3	動作可能 SCKBnが入力クロックとして選択されている場合動作可能。
	IIC00	動作停止
CANコントローラ (CAN0-CAN4)	動作可能	動作停止
DMAコントローラ	動作可能	
割り込みコントローラ	動作可能	
キー割り込み機能	動作可能	
クロック・モニタ	動作可能	動作停止
パワー・オン・クリア回路	動作可能	
低電圧検出回路 (LVI)	動作可能	
電圧レギュレータ	動作継続	
内部データ	設定可能 ^{注2}	

注1. メイン・クロック発振回路を停止する場合、PLL, SSCGも停止してください (PLLCTL.PLLON = 0, SSCGCTL.SSCGON = 0)。

2. データ・フラッシュからのデータ読み出しができません。第7章 フラッシュ・メモリを参照してください。

注意1. 表はV850ES/FK3のものです。各製品がサポートする周辺機能につきましては表1-1 V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3, V850ES/FJ3, V850ES/FK3の機能概要を参照してください。

2. CPUがサブクロックで動作し、メイン・クロックの発振が停止している場合、ウェイトが発生するレジスタへのアクセス禁止です。ウェイトが発生した場合、解除する方法はリセットのみです。

サブクロック・モードの解除： サブクロック・モードは、PCC.CK3ビットを0にクリアするか、リセット信号で解除します。

注意 PCCレジスタのCK3ビットを操作する場合（CK3ビットはビット操作命令でセットしてください），CK2-CK0ビットの値を変更することは禁止です。PCCレジスタに関する詳細は、4.2.1 (5) プロセッサ・クロック・コントロール・レジスタ（PCC）を参照してください。

メイン・クロック発振回路の発振が停止している場合（PCC.MCK = 1），MCKビットを0にクリアして、ソフトウェアでメイン・クロックの発振安定時間を確保したあと、CK3ビットを0に設定してください。サブクロック動作モードが解除されると通常動作モードに復帰します。

(6) サブIDLEモード

サブIDLEモードでは、クロック発振器は動作を継続しますが、CPUとフラッシュ・メモリ、内蔵周辺機能へのクロック供給は停止します。

その結果、プログラム実行は停止し、サブIDLEモード設定以前の内蔵RAMの内容は保持されます。CPUだけでなく、内蔵周辺機能の動作を停止しますが、サブクロック、内蔵発振クロック、外部クロックで動作可能な内蔵周辺機能は動作を継続します。

CPUとフラッシュ・メモリ、内蔵周辺機能の動作が停止するため、サブIDLEモードの消費電力はサブクロック動作モードよりも低減できます。

メイン・クロックを停止したあとでサブIDLEモードに設定した場合、STOPモードに近い消費電力を実現できます。

サブIDLEモードの設定： サブIDLEモードは、サブクロック動作モードに設定されているときにPSMRレジスタのPSM1とPSM0ビットを“10”に設定し、PSCレジスタのSTPビットを1にセットすることにより設定されます。

注意 サブIDLEモードを設定するためにPSCレジスタヘストア命令の直後、5つ以上のNOP命令を挿入してください。

サブIDLEモード状態： 次の表にサブIDLEモードの動作状態を示します。

表4 - 38 サブIDLEモードの動作状態

	動作状態	
	メイン・クロック発振回路発振時	メイン・クロック発振回路停止時
サブクロック発振回路 (fx)	発振可能	
低速内蔵発振器 (fRL)	発振可能	
高速内蔵発振器 (fRH)	発振可能	
PLL (f _{PLL0})	動作可能	動作停止 ^注
SSCG (f _{SSCG0})	動作可能	動作停止 ^注
CPU	動作停止	
ポート機能	サブIDLEモード設定前の状態を保持。	
外部バス・インターフェース	第10章 バス、メモリ制御機能 (BCU, MEMC) を参照してください。	
タイマ / カウンタ	TAA0-TAA7	動作停止
	TAB0-TAB2	動作停止
	TMM0	INTWT, f _{RH} /8, f _{RL} /8, f _{XT} がカウント・クロックとして選択されている場合動作可能。
時計タイマ (WT)	動作可能	f _{XT} がカウント・クロックとして選択されている場合動作可能。
ウォッチドッグ・タイマ (WDT2)	動作可能	f _{RL} がカウント・クロックとして選択されている場合動作可能。
A/Dコンバータ	動作停止	
シリアル・インターフェース	UARTD0-UARTD7	UARTD0 : ASCKD0が入力クロックに選択されている場合動作可能。 UARTD1-UARTD7 : 動作停止。
	CSIB0-CSIB3	SCKBnが入力クロックとして選択されている場合動作可能。
	IIC00	動作停止
CANコントローラ (CAN0-CAN4)	動作停止	
DMAコントローラ	動作停止	
割り込みコントローラ	動作停止 (サブIDLEモードの解除は可能)	
キー割り込み機能	動作可能	
クロック・モニタ	動作可能	動作停止
パワー・オン・クリア回路	動作可能	
低電圧検出回路 (LVI)	動作可能	
電圧レギュレータ	動作継続	
内部データ	CPUのレジスタとステート、データおよび内部RAMなどの内部データは、すべてサブIDLEモード設定以前の状態を保持。	

注 メイン・クロック発振回路を停止するときは、PLL/SSCGも停止 (PLLCTL.PLLON = 0, SSCGCTL.SSCGON = 0) してください。

注意 表はV850ES/FK3のものです。各製品がサポートする周辺機能につきましては表1 - 1 V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3, V850ES/FJ3, V850ES/FK3の機能概要を参照してください。

サブIDLEモードの解除：サブIDLEモードは、ノンマスカブル割り込み要求信号（NMI端子入力またはINTWDT2信号）またはマスクされていない外部割り込み要求信号、サブIDLEモードで動作可能な周辺機能のマスクされていない割り込み要求信号、リセット信号により解除されます。

PLLは、サブIDLEモードが設定される前の動作状態に戻ります。

サブIDLEモードが割り込み要求信号で解除された場合、サブクロック動作モードに復帰します。サブIDLEモードがRESETで解除された場合は、通常動作モードに復帰します。

- 注意1.** PSCレジスタのNMI1M, NMI0MおよびINTMビットで禁止される割り込み要求信号は無効で、**サブIDLEモードを解除しません。**
2. INTP3端子は、NFCレジスタの設定によりディジタル・ノイズ除去を選択し、かつサンプリング・クロックを $f_{xx}/64$, $f_{xx}/128$, $f_{xx}/256$, $f_{xx}/512$, $f_{xx}/1024$, $f_{xx}/2048$ から選択した場合、**サブIDLEモードの解除はできません。** 詳細は、**第2章 端子機能**を参照してください。

(a) ノンマスカブル割り込み要求またはマスクされていないマスカブル割り込み要求による解除

サブIDLEモードは、割り込み要求信号の優先順位に関わらずノンマスカブル割り込み要求またはマスクされていないマスカブル割り込み要求によって解除されます。しかし、サブIDLEモードが割り込みルーチンの中で設定されると、次のような動作が行われます。

- ・現在処理中の割り込み要求よりも低い優先順位を持つ割り込み要求信号が発生すると、サブIDLEモードは解除されますが、この低い優先順位の割り込み要求は保持されます。
- ・現在処理中の割り込み要求よりも高い優先順位を持つ割り込み要求信号が発生すると、サブIDLEモードは解除され、この割り込み要求信号は受け付けられます。

表4-39 サブIDLEモードが割り込み要求信号で解除された後の動作

解除要因	割り込み許可(EI)状態	割り込み禁止(DI)状態
ノンマスカブル割り込み要求信号	ハンドラ・アドレスに分岐します。	
マスカブル割り込み要求信号	ハンドラ・アドレスに分岐するか、次の命令が実行されます。	次の命令が実行されます。

(b) リセット信号による解除 (RESET端子入力によるリセットまたは内部リセット信号であるRESPOC信号(パワーオン・クリア回路), WDT2RES信号(ウォッチドッグ・タイマ2), RESLVI信号(低電圧検出回路), SYSRES信号(クロック・モニタ))

動作は、通常動作モードと同様です。

4.3.4 各クロックの動作状態

次の表は、各動作状態における、各クロックの動作状態概要を示しています。

表4-40 各動作状態における、各クロックの動作状態概要

動作状態		f_x/f_{PLL1} ^{注2}	f_{XT} ^{注2}	f_{RL} ^{注2}	f_{RH} ^{注2}	f_{PLL0} f_{SSCG0} f_{PCL}	f_{xx}	f_{XP1}	f_{CLK}	f_{CPU}	f_{XP2}	f_{xc}
リセット期間		×		×	×	×	×	×	×	×	×	×
リセット解除から高速内蔵発振器のセットアップまで		×				×		×	×	×	×	×
高速内蔵発振器 ^{注1}	通常動作	可能		可能		可能						可能
	HALTモード	可能		可能		可能				×		可能
	IDLE1モード	可能		可能		可能	×	×	×	×		×
	STOPモード	×		可能	×	×	×	×	×	×	×	×
	STOPモード解除から発振安定まで	可能		可能		×		×	×	×		可能
メイン発振器 ^{注1}	通常動作			可能	可能	可能						
	HALTモード			可能	可能	可能				×		
	IDLE1モード			可能	可能	可能	×	×	×	×		×
	IDLE2モード			可能	可能	可能	×	×	×	×	×	×
	IDLE2解除からセットアップまで			可能	可能	×	×	×	×	×	×	×
	STOPモード	×		可能	×	×	×	×	×	×	×	×
	STOPモード解除から発振安定まで			可能	可能	×	×	×	×	×	×	×
PLL/SSCG ^{注1}	通常動作			可能	可能							
	HALTモード			可能	可能					×		
	IDLE1モード			可能	可能		×	×	×	×		×
	IDLE2モード			可能	可能	×	×	×	×	×	×	×
	IDLE2解除からセットアップまで			可能	可能	×	×	×	×	×	×	×
	STOPモード	×		可能	×	×	×	×	×	×	×	×
	STOPモード解除から発振安定まで			可能	可能	×	×	×	×	×	×	×
サブ発振器 ^{注1}	通常動作	可能		可能	可能	可能	可能	可能			可能	可能
	IDLEモード	可能		可能	可能	可能	×	×	×	×	×	×
(サブクロック用)低速内蔵発振器 ^{注1}	通常動作	可能			可能	可能	可能	可能			可能	可能
	IDLEモード	可能			可能	可能	×	×	×	×	×	×
(セーフティ動作用)低速内蔵発振器 ^{注1}	通常動作	-			可能	-	可能	可能			可能	可能
	HALTモード	-			可能	-	可能	可能		×	可能	可能

備考 ○：動作 ×：停止

可能：動作可能（制御レジスタとオプション・バイトの設定による）

注1. 動作条件は次のとおりです。

高速内蔵発振器 :	高速内蔵発振クロック動作
メイン発振 :	メイン・クロック発振回路クロック動作
PLL/SSCG :	PLL/SSCGクロック動作
サブ発振器 :	サブクロック発振回路クロック動作
(サブクロック用)低速内蔵発振器 :	サブクロック用低速内蔵発振クロック動作
(セーフティ動作用)低速内蔵発振器 :	セーフティ用低速内蔵発振クロック動作 (STOPモード解除時, メイン・クロック発振回路の発振異常停止を検出した場合の動作)

2. クロック信号の略号の意味は次のようにになります。

f_x :	メイン・クロック発振クロック
f_{XT} :	サブクロック発振クロック
f_{RL} :	低速内蔵発振クロック
f_{RH} :	高速内蔵発振クロック
f_{PLLO} :	PLL出力クロック
f_{SSCGO} :	SSCG出力クロック
f_{PCL} :	プログラマブル・クロック出力
f_{xx} :	メイン・クロック
f_{CLK} :	内部システム・クロック
f_{CPU} :	CPUクロック
f_{XP1} :	周辺クロック用プリスケーラ1入力クロック
f_{XP2} :	UARTD, TAA用クロック
f_{xc} :	CAN用クロック

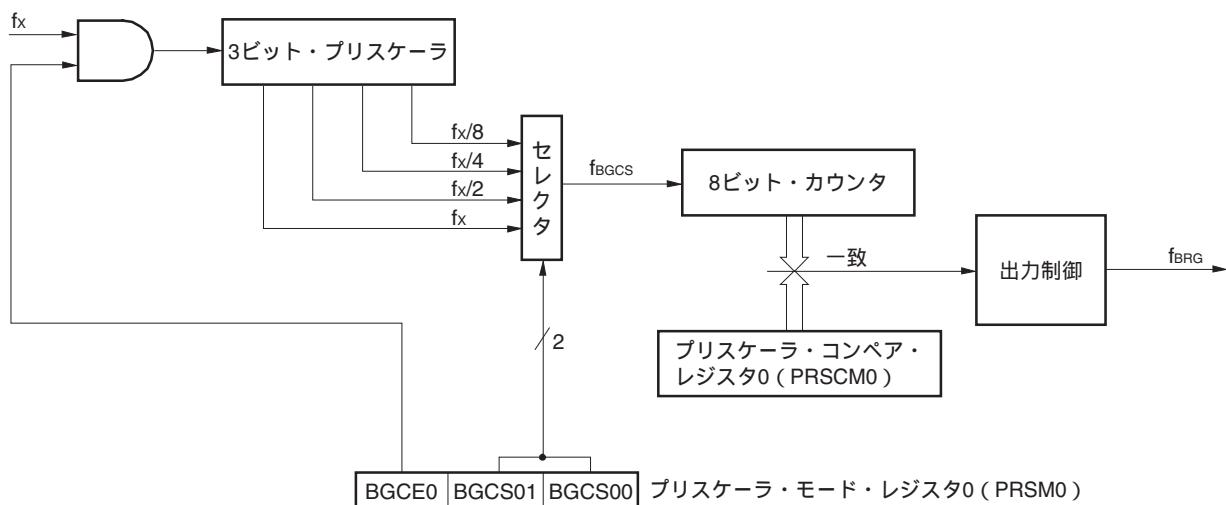
4.3.5 プリスケーラ3の動作

プリスケーラ3はメイン・クロック発振回路の出力信号 f_x を分周してクロック f_{BRG} を生成します。

(1) 構成

プリスケーラ3はクロック分周器、カウンタ、コンパレータで構成されます。

図4-12 プリスケーラ3のブロック図



備考 PRSM0レジスタについての詳細は、4.2.5(1) プリスケーラ・モード・レジスタ0 (PRSM0) を、PRSCM0レジスタについての詳細は、4.2.5(2) プリスケーラ・コンペア・レジスタ0 (PRSCM0) をそれぞれ参照してください。

(2) 算出方法

メイン・クロック発振クロック(f_x)とプリスケーラ・クロック分周器の設定値を選択するPRSM0.BGCS0 [1:2]ビット、PRSCM0コンペア・レジスタの値、出力されるクロック f_{BRG} の関係は次のようにになります。

$$f_{BRG} = f_x / (2^m \times N \times 2)$$

f_{BRG} = 出力クロック周波数

f_x = 入力クロック周波数

m = BGCS0 [1:0]の値 (0-3)

N = PRSCM0レジスタの値 (1-FFH)。PRSCM0 = 00Hの場合、 $N = 256$

例 $f_x = 4$ MHz

$m = 0$

$N = 3DH$

の場合、

$f_{BRG} = 32.787$ kHz

となります。

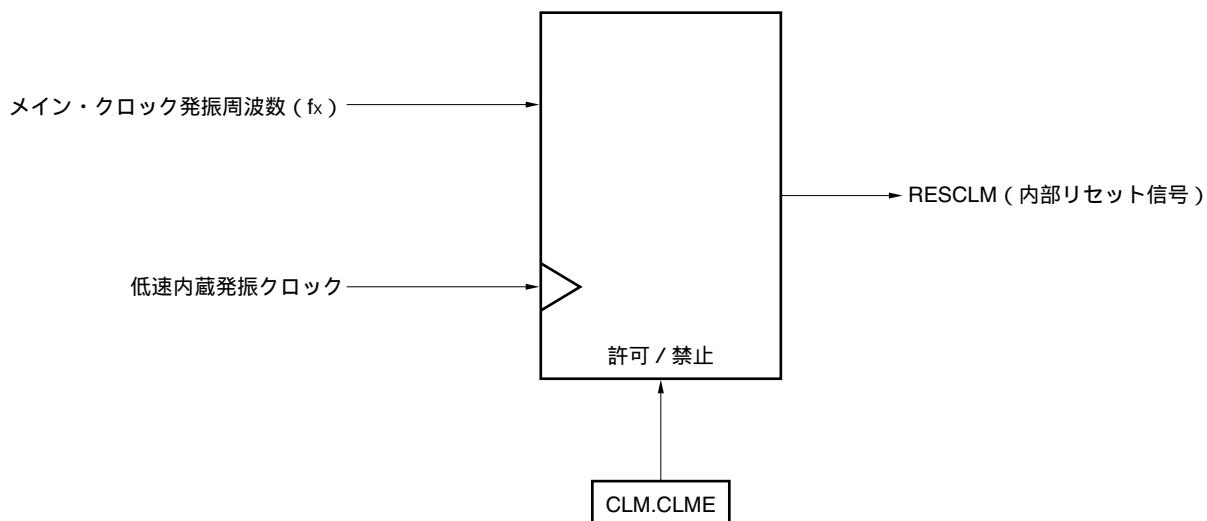
4.3.6 クロック・モニタの動作

クロック・モニタは、低速内蔵発振器を使用してメイン・クロックをサンプリングし、メイン・クロックの発振が停止した場合、リセット要求信号を生成します。

(1) 構成

クロック・モニタのブロック図を示します。

図4-13 クロック・モニタのブロック図



クロック・モニタはメイン・クロック発振周波数 (fx) を低速内蔵発振クロックでサンプリングします。
メイン・クロック発振の停止を検出すると、RESCLM信号 (内部リセット信号) が生成されます。

表4-41 クロック・モニタの動作状態 (CLM.CLMEビット = 1, 低速内蔵発振クロック動作中)

内部システム・クロック (f_{CLK})	動作モード	メイン・クロック 発振回路の状態	低速内蔵発振 回路の状態	クロック・ モニタの状態
メイン・クロック	HALTモード	発振	発振 ^{注1}	動作 ^{注2}
	IDLE1モード, IDLE2モード	発振	発振 ^{注1}	動作 ^{注2}
	STOPモード	停止	発振 ^{注1}	停止
サブクロック (PCCレジスタのMCKビット = 0)	サブIDLEモード	発振	発振 ^{注1}	動作 ^{注2}
サブクロック (PCCレジスタのMCKビット = 1)	サブIDLEモード	停止	発振 ^{注1}	停止
低速内蔵発振クロック	-	停止	停止 ^{注1}	停止
リセット中	-	停止	停止	停止

- 注1. 低速内蔵発振器は、オプション・バイトによりソフトウェアで停止可に設定されている場合のみ、RCMレジスタのRSTOPビットを1にセットすることで停止できます。
2. 低速内蔵発振器が停止するとクロック・モニタも停止します。

(2) 始動と停止

クロック・モニタの動作を許可するには，CLM.CLMEビットを1にセットします。このビットは1度セットされると，リセット以外ではクリアされません。

メイン・クロック発振回路が安定すると(OSTC.MSTSビット = 1)，クロック・モニタは自動的に始動します。

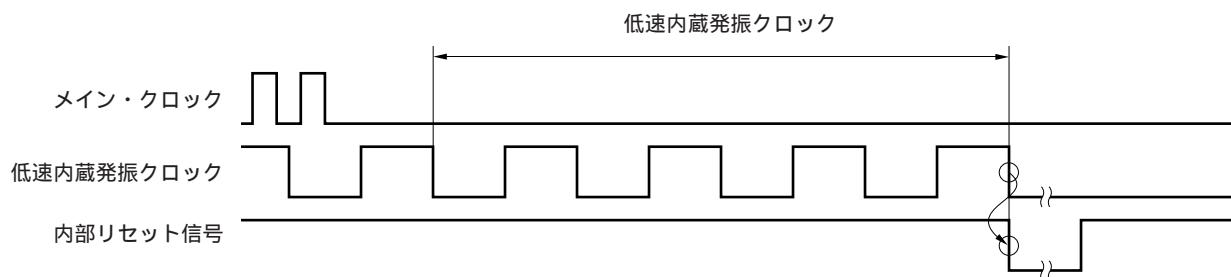
クロック・モニタは次の条件下で自動的に停止します。

- ・STOPモード解除後の発振安定時間のカウント中
- ・メイン・クロックが停止した場合(サブクロック動作中にPCC.MCKビット = 1の場合または，メイン・クロック動作中にPCC.CLSビット = 0の場合)
- ・サンプリング・クロックが停止した場合(低速内蔵発振器の停止)
- ・CPUが高速内蔵発振クロックで動作している場合
- ・CPUが低速内蔵発振クロックで動作している場合(セーフティ動作)

(3) メイン・クロック発振が停止した場合の動作(CLMEビット = 1)

CLMEビット = 1に設定されてメイン・クロックの発振が停止した場合，下図に示すように内部リセット信号が生成されます。

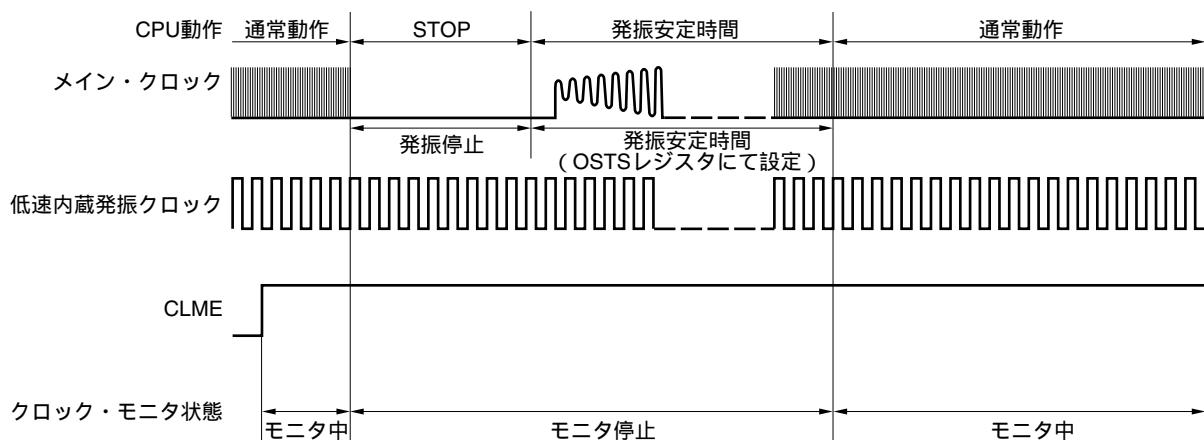
図4-14 メイン・クロックの発振が停止した場合



(4) ストップ・モード中または解除後の動作

CLMEビット = 1に設定されSTOPモードが設定された場合，発振安定時間のカウント中はモニタ動作はSTOPモードで停止します。発振安定時間の経過後，モニタ動作は自動的に開始されます。

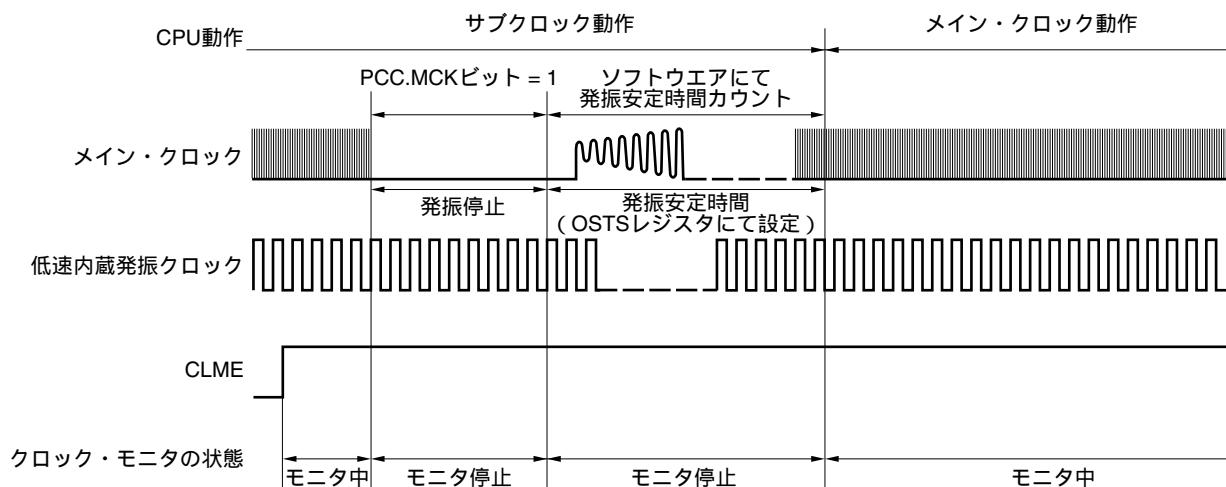
図4-15 ストップ・モード中または解除後の動作



(5) メイン・クロック停止時の動作

サブクロック動作時 (PCCレジスタのCLSビット = 1) または, PCCレジスタのMCKビットを1にセットしてメイン・クロックを停止した場合, メイン・クロック動作が開始されるまで (PCCレジスタのCLSビット = 0) モニタ動作は停止します。メイン・クロック動作が開始されると, モニタ動作は自動的に開始されます。

図4-16 メイン・クロック停止時の動作



(6) スタンバイ機能中および解除後の動作

メイン・クロック発振回路が停止した場合: メイン・クロック発振回路が停止した場合, クロック・モニタは停止します。パワー・セーブ・モードが解除されメイン発振が再開されると, クロック・モニタは自動的に再開します。

低速内蔵発振器が停止した場合: 低速内蔵発振器が停止した場合, クロック・モニタの動作は停止します。低速内蔵発振が再開されるとクロック・モニタの動作は自動的に再開されます。

(7) CPUが低速内蔵発振クロックで動作時 (CCLS.CCLSFビット = 1) のクロック・モニタ動作

CCLSFビット = 1のとき, CLMEビット = 1に設定してもモニタ動作を開始しません。

(8) CPUが高速内蔵発振クロックで動作時 (MCM.MCMSビット = 0) のクロック・モニタ動作

MCSビット = 0のとき, CLMEビット = 1に設定してもモニタ動作を開始しません。

第5章 割り込みコントローラ (INTC)

本マイクロコントローラは、割り込み処理用に専用割り込みコントローラ (INTC) を備えており、多くのマスカブル割り込み要求と2つのノンマスカブル割り込み要求を処理できます。

割り込みとは、プログラムの実行と独立して発生する事象（イベント）であり、例外とはプログラムの実行に依存して発生するイベントです。通常、例外は割り込みに優先します。

本割り込みコントローラは、内蔵周辺ハードウェアと外部要因からの割り込み要求を処理します。また、例外処理はTRAP命令の実行（ソフトウェア例外）または例外イベント（つまり不正オペコードのフェッチ）（例外トラップ）によって起動します。

各割り込み要求には、ソフトウェアでプログラム可能な8種類の優先順位を指定できます。割り込み要求が発生してから割り込み処理が開始されるまでには、最低5システム・クロックが必要です。

5.1 特 徴

・割り込み

ノンマスカブル割り込み：2要因

マスカブル割り込み

割り込み要因	V850ES/FE3, V850ES/FF3	V850ES/FG3		V850ES/FJ3			V850ES/FK3
		μ PD70F3374,	μ PD70F3376A, μ PD70F3375	μ PD70F3378	μ PD70F3379, μ PD70F3380	μ PD70F3381, μ PD70F3382	
内部	47	59	64	70	80	82	100
外部	8	11	12	15	15	15	16

8レベルのプログラマブル優先順位（マスカブル割り込み）

優先順位による多重割り込み制御

各マスカブル割り込みにマスク指定可能。

外部割り込み要求信号には、ノイズ除去、エッジ検出と有効エッジ指定およびレベル検出を指定可能。

ウエイクアップ機能（外部割り込み要求信号のアナログ・ノイズ除去）

・例外

ソフトウェア例外：2チャネル、16要因

例外トラップ：2要因（不正命令コード例外とデバッグ・トラップ）

表5 - 1 V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3 (割り込み / 例外要因) (1/3)

種類	割り込み / 例外要因				ディフォー ルト・プラ イオリティ	例外 コード	ハンドラ・ アドレス	復帰PC
	名 称	割り込み制御 レジスタ	発生要因	発生 ユニット				
リセット	リセット	-	内部要因からのリセット入力	リセット	-	0000H	00000000H	不定
ノンマス カブル	NMI	-	NMI端子有効エッジ入力	端子	-	0010H	00000010H	nextPC
	INTWDT2	-	WDT2のオーバフロー	WDT2	-	0020H	00000020H	nextPC
ソフト ウエア 例外	TRAP0n (n = 0-FH)	-	TRAP命令	-	-	004nH	00000040H	nextPC
	TRAP1n (n = 0-FH)	-	TRAP命令	-	-	005nH	00000050H	nextPC
例外ト ラップ	ILGOP/ DBG0	-	不正命令コード / DBTRAP命令	-	-	0060H	00000060H	nextPC
マスカ ブル	INTLVIL	LVLIC	低電圧検出 (基準レベルを下まわる電圧)	POCLVI	0	0080H	00000080H	nextPC
	INTLVIH	LVIHIC	低電圧検出 (基準レベルを上まわる電圧)	POCLVI	1	0090H	00000090H	nextPC
	INTP0	PIC0	外部割り込み0 (INTP0)	端子	2	00A0H	000000A0H	nextPC
	INTP1	PIC1	外部割り込み1 (INTP1)	端子	3	00B0H	000000B0H	nextPC
	INTP2	PIC2	外部割り込み2 (INTP2)	端子	4	00C0H	000000C0H	nextPC
	INTP3	PIC3	外部割り込み3 (INTP3)	端子	5	00D0H	000000D0H	nextPC
	INTP4	PIC4	外部割り込み4 (INTP4)	端子	6	00E0H	000000E0H	nextPC
	INTP5	PIC5	外部割り込み5 (INTP5)	端子	7	00F0H	000000F0H	nextPC
	INTP6	PIC6	外部割り込み6 (INTP6)	端子	8	0100H	00000100H	nextPC
	INTP7	PIC7	外部割り込み7 (INTP7)	端子	9	0110H	00000110H	nextPC
	INTTAB0OV	TAB0OVIC	TAB0オーバフロー	TAB0	10	0120H	00000120H	nextPC
	INTTAB0CC0	TAB0CCIC0	TAB0キャプチャ0 / コンペア0一致	TAB0	11	0130H	00000130H	nextPC
	INTTAB0CC1	TAB0CCIC1	TAB0キャプチャ1 / コンペア1一致	TAB0	12	0140H	00000140H	nextPC
	INTTAB0CC2	TAB0CCIC2	TAB0キャプチャ2 / コンペア2一致	TAB0	13	0150H	00000150H	nextPC
	INTTAB0CC3	TAB0CCIC3	TAB0キャプチャ3 / コンペア3一致	TAB0	14	0160H	00000160H	nextPC
	INTTAA0OV	TAA0OVIC	TAA0オーバフロー	TAA0	15	0170H	00000170H	nextPC
	INTTAA0CC0	TAA0CCIC0	TAA0キャプチャ0 / コンペア0一致	TAA0	16	0180H	00000180H	nextPC
	INTTAA0CC1	TAA0CCIC1	TAA0キャプチャ1 / コンペア1一致	TAA0	17	0190H	00000190H	nextPC
	INTTAA1OV	TAA1OVIC	TAA1オーバフロー	TAA1	18	01A0H	000001A0H	nextPC
	INTTAA1CC0	TAA1CCIC0	TAA1キャプチャ0 / コンペア0一致	TAA1	19	01B0H	000001B0H	nextPC
	INTTAA1CC1	TAA1CCIC1	TAA1キャプチャ1 / コンペア1一致	TAA1	20	01C0H	000001C0H	nextPC
	INTTAA2OV	TAA2OVIC	TAA2オーバフロー	TAA2	21	01D0H	000001D0H	nextPC
	INTTAA2CC0	TAA2CCIC0	TAA2キャプチャ0 / コンペア0一致	TAA2	22	01E0H	000001E0H	nextPC
	INTTAA2CC1	TAA2CCIC1	TAA2キャプチャ1 / コンペア1一致	TAA2	23	01F0H	000001F0H	nextPC
	INTTAA3OV	TAA3OVIC	TAA3オーバフロー	TAA3	24	0200H	00000200H	nextPC
	INTTAA3CC0	TAA3CCIC0	TAA3キャプチャ0 / コンペア0一致	TAA3	25	0210H	00000210H	nextPC
	INTTAA3CC1	TAA3CCIC1	TAA3キャプチャ1 / コンペア1一致	TAA3	26	0220H	00000220H	nextPC
	INTTAA4OV	TAA4OVIC	TAA4オーバフロー	TAA4	27	0230H	00000230H	nextPC
	INTTAA4CC0	TAA4CCIC0	TAA4キャプチャ0 / コンペア0一致	TAA4	28	0240H	00000240H	nextPC
	INTTAA4CC1	TAA4CCIC1	TAA4キャプチャ1 / コンペア1一致	TAA4	29	0250H	00000250H	nextPC
INTTM0EQ0	TM0EQIC0	TMM0コンペア一致		TMM0	30	0260H	00000260H	nextPC
INTCB0R	CB0RIC	CSIB0受信完了 / オーバラン・エラー		CSIB0	31	0270H	00000270H	nextPC
INTCB0T	CB0TIC	CSIB0連続送信書き込み許可		CSIB0	32	0280H	00000280H	nextPC

表5 - 1 V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3 (割り込み / 例外要因) (2/3)

種類	割り込み / 例外要因				ディフォー ルト・プラ イオリティ	例外 コード	ハンドラ・ アドレス	復帰PC
	名 称	割り込み制御 レジスタ	発生要因	発生 ユニット				
マスカル ブル	INTCB1R	CB1RIC	CSIB1受信完了 / オーバラン・エラー	CSIB1	33	0290H	00000290H	nextPC
	INTCB1T	CB1TIC	CSIB1連続送信書き込み許可	CSIB1	34	02A0H	000002A0H	nextPC
	INTUD0S	UD0SIC	UARTD0状態割り込み	UARTD0	35	02B0H	000002B0H	nextPC
	INTUD0R	UD0RIC	UARTD0受信完了	UARTD0	36	02C0H	000002C0H	nextPC
	INTUD0T	UD0TIC	UARTD0連続送信許可	UARTD0	37	02D0H	000002D0H	nextPC
	INTUD1S	UD1SIC	UARTD1状態割り込み	UARTD1	38	02E0H	000002E0H	nextPC
	INTUD1R	UD1RIC	UARTD1受信完了	UARTD1	39	02F0H	000002F0H	nextPC
	INTUD1T	UD1TIC	UARTD1連続送信許可	UARTD1	40	0300H	00000300H	nextPC
	INTIIC0	IIC0IC	IIC0送信完了	IIC0	41	0310H	00000310H	nextPC
	INTUD4S ^{注1}	UD4SIC	UARTD4状態割り込み	UARTD4				
	INTAD	ADIC	A/D変換終了	AD	42	0320H	00000320H	nextPC
	INTC0ERR	C0ERRIC	CAN0エラー	CAN0	43	0330H	00000330H	nextPC
	INTC0WUP	C0WUPIC	CAN0ウェイクアップ	CAN0	44	0340H	00000340H	nextPC
	INTC0REC	C0RECIC	CAN0受信	CAN0	45	0350H	00000350H	nextPC
	INTC0TRX	C0TRXIC	CAN0送信	CAN0	46	0360H	00000360H	nextPC
	INTDMA0	DMAIC0	DMA0送信完了	DMA	47	0370H	00000370H	nextPC
	INTDMA1	DMAIC1	DMA1送信完了	DMA	48	0380H	00000380H	nextPC
	INTDMA2	DMAIC2	DMA2送信完了	DMA	49	0390H	00000390H	nextPC
	INTDMA3	DMAIC3	DMA3送信完了	DMA	50	03A0H	000003A0H	nextPC
	INTKR	KRIC	キーリターン割り込み	KR	51	03B0H	000003B0H	nextPC
	INTWTI	WTIIC	時計タイマのインターバル	WT	52	03C0H	000003C0H	nextPC
	INTWT	WTIC	時計タイマの基準時間	WT	53	03D0H	000003D0H	nextPC
	INTFL	FLIC	フラッシュ・プログラミング完了	FLASH	54	03F0H	000003F0H	nextPC
	INTP8 ^{注2}	PIC8	外部割り込み8 (INTP8)	端子	55	0400H	00000400H	nextPC
	INTP9 ^{注2}	PIC9	外部割り込み9 (INTP9)	端子	56	0410H	00000410H	nextPC
	INTP10 ^{注2}	PIC10	外部割り込み10 (INTP10)	端子	57	0420H	00000420H	nextPC
	INTTAB1OV ^{注2}	TAB1OVIC	TAB1オーバフロー	TAB1	58	0430H	00000430H	nextPC
	INTTAB1CC0 ^{注2}	TAB1CCIC0	TAB1キャプチャ0 / コンペア0一致	TAB1	59	0440H	00000440H	nextPC
	INTTAB1CC1 ^{注2}	TAB1CCIC1	TAB1キャプチャ1 / コンペア1一致	TAB1	60	0450H	00000450H	nextPC
	INTTAB1CC2 ^{注2}	TAB1CCIC2	TAB1キャプチャ2 / コンペア2一致	TAB1	61	0460H	00000460H	nextPC
	INTTAB1CC3 ^{注2}	TAB1CCIC3	TAB1キャプチャ2 / コンペア3一致	TAB1	62	0470H	00000470H	nextPC
	INTUD2S ^{注2}	UD2SIC	UARTD2状態割り込み	UARTD2	63	0480H	00000480H	nextPC
	INTUD2R ^{注2}	UD2RIC	UARTD2受信完了	UARTD2	64	0490H	00000490H	nextPC
	INTUD2T ^{注2}	UD2TIC	UARTD2連続送信許可	UARTD2	65	04A0H	000004A0H	nextPC
	INTC1ERR ^{注2}	C1ERRIC	CAN1エラー	CAN1	66	04B0H	000004B0H	nextPC
	INTC1WUP ^{注2}	C1WUPIC	CAN1ウェイクアップ	CAN1	67	04C0H	000004C0H	nextPC
	INTC1REC ^{注2}	C1RECIC	CAN1受信	CAN1	68	04D0H	000004D0H	nextPC
	INTC1TRX ^{注2}	C1TRXIC	CAN1送信	CAN1	69	04E0H	000004E0H	nextPC

注 1. V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3のμPD70F3374, 70F3375には搭載されていません。

2. V850ES/FE3, V850ES/FF3には搭載されていません。

表5 - 1 V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3 (割り込み / 例外要因) (3/3)

種類	割り込み / 例外要因				ディフォールト・プライオリティ	例外コード	ハンドラ・アドレス	復帰PC
	名 称	割り込み制御 レジスタ	発生要因	発生 ユニット				
マスカブル	INTP14 ^注	PIC14	外部割込み14 (INTP14)	端子	70	0520H	00000520H	nextPC
	INTUD3S ^注	UD3SIC	UARTD3状態割り込み	UARTD3	71	0530H	00000530H	nextPC
	INTUD3R ^注	UD3RIC	UARTD3受信完了	UARTD3	72	0540H	00000540H	nextPC
	INTUD3T ^注	UD3TIC	UARTD3連続送信許可	UARTD3	73	0550H	00000550H	nextPC
	INTUD4R ^注	UD4RIC	UARTD4受信完了	UARTD4	74	0560H	00000560H	nextPC
	INTUD4T ^注	UD4TIC	UARTD4連続送信許可	UARTD4	75	0570H	00000570H	nextPC

注 V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3のμPD70F3374, 70F3375には搭載されていません。

- 備考1. ディフォールト・プライオリティ：複数の同一優先順位レベルのマスカブル割り込み要求信号が同時に発生している場合に優先される順位です。0が最高優先順位です。
2. 復帰PC：割り込み処理起動時に、CPUのEIPCまたはFEPCにセーブされるプログラム・カウンタ (PC) のことです。なお、次の命令実行中にノンマスカブル / マスカブル割り込みを受け付けた場合の復帰PCはnextPCとはなりません（命令実行中に割り込みを受け付けると実行を中止し、割り込み処理完了後に再実行されます）。
- ・ロード命令 (SLD.B, SLD.BU, SLD.H, SLD.HU, SLD.W)
 - ・除算命令 (DIV, DIVH, DIVU, DIVHU)
 - ・PREPARE, DISPOSE命令 (スタック・ポインタの更新前に割り込みが発生した場合のみ)
3. nextPC：割り込み / 例外処理後に処理を開始するPC値です。
4. 不正命令コード例外時の不正命令の実行アドレスは、(復帰PC - 4) で求められます。

兼用割り込み： 割り込み要因の中には同じマスカブル割り込みを使うものもあります（表5 - 2を参照してください）。

表5 - 2 V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3 (兼用マスカブル割り込み)

割り込み要因				ディフォールト・ プライオリティ
名 称	発生ユニット	名 称	発生ユニット	
INTIIC0	IIC0	INTUD4S	UARTD4	41

注意 表5 - 2に掲げた割り込み要因を同時に使用しないでください。

表5 - 3 V850ES/FJ3, V850ES/FK3 (割り込み / 例外要因) (1/4)

種類	割り込み / 例外要因				ディフォー ルト・プラ イオリティ	例外 コード	ハンドラ・ アドレス	復帰PC
	名 称	割り込み制御 レジスタ	発生要因	発生 ユニット				
リセット	リセット	-	内部要因からのリセット入力	リセット	-	0000H	00000000H	不定
ノンマス カブル	NMI	-	NMI端子有効エッジ入力	端子	-	0010H	00000010H	nextPC
	INTWDT2	-	WDT2のオーバフロー	WDT2	-	0020H	00000020H	nextPC
ソフト ウエア 例外	TRAP0n (n = 0-FH)	-	TRAP命令	-	-	004nH	00000040H	nextPC
	TRAP1n (n = 0-FH)	-	TRAP命令	-	-	005nH	00000050H	nextPC
例外ト ラップ	ILGOP/ DBG0	-	不正命令コード / DBTRAP命令	-	-	0060H	00000060H	nextPC
マスカ ブル	INTLVIL	LVLIC	低電圧検出 (基準レベルを下まわる電圧)	POCLVI	0	0080H	00000080H	nextPC
	INTLVIH	LVIHIC	低電圧検出 (基準レベルを上まわる電圧)	POCLVI	1	0090H	00000090H	nextPC
	INTP0	PIC0	外部割り込み0 (INTP0)	端子	2	00A0H	000000A0H	nextPC
	INTP1	PIC1	外部割り込み1 (INTP1)	端子	3	00B0H	000000B0H	nextPC
	INTP2	PIC2	外部割り込み2 (INTP2)	端子	4	00C0H	000000C0H	nextPC
	INTP3	PIC3	外部割り込み3 (INTP3)	端子	5	00D0H	000000D0H	nextPC
	INTP4	PIC4	外部割り込み4 (INTP4)	端子	6	00E0H	000000E0H	nextPC
	INTP5	PIC5	外部割り込み5 (INTP5)	端子	7	00F0H	000000F0H	nextPC
	INTP6	PIC6	外部割り込み6 (INTP6)	端子	8	0100H	00000100H	nextPC
	INTP7	PIC7	外部割り込み7 (INTP7)	端子	9	0110H	00000110H	nextPC
	INTTAB0OV	TAB0OVIC	TAB0オーバフロー	TAB0	10	0120H	00000120H	nextPC
	INTTAB0CC0	TAB0CCIC0	TAB0キャプチャ0 / コンペア0一致	TAB0	11	0130H	00000130H	nextPC
	INTTAB0CC1	TAB0CCIC1	TAB0キャプチャ1 / コンペア1一致	TAB0	12	0140H	00000140H	nextPC
	INTTAB0CC2	TAB0CCIC2	TAB0キャプチャ2 / コンペア2一致	TAB0	13	0150H	00000150H	nextPC
	INTTAB0CC3	TAB0CCIC3	TAB0キャプチャ3 / コンペア3一致	TAB0	14	0160H	00000160H	nextPC
	INTTAA0OV	TAA0OVIC	TAA0オーバフロー	TAA0	15	0170H	00000170H	nextPC
	INTTAA0CC0	TAA0CCIC0	TAA0キャプチャ0 / コンペア0一致	TAA0	16	0180H	00000180H	nextPC
	INTTAA0CC1	TAA0CCIC1	TAA0キャプチャ1 / コンペア1一致	TAA0	17	0190H	00000190H	nextPC
	INTTAA1OV	TAA1OVIC	TAA1オーバフロー	TAA1	18	01A0H	000001A0H	nextPC
	INTTAA1CC0	TAA1CCIC0	TAA1キャプチャ0 / コンペア0一致	TAA1	19	01B0H	000001B0H	nextPC
	INTTAA1CC1	TAA1CCIC1	TAA1キャプチャ1 / コンペア1一致	TAA1	20	01C0H	000001C0H	nextPC
	INTTAA2OV	TAA2OVIC	TAA2オーバフロー	TAA2	21	01D0H	000001D0H	nextPC
	INTTAA2CC0	TAA2CCIC0	TAA2キャプチャ0 / コンペア0一致	TAA2	22	01E0H	000001E0H	nextPC
	INTTAA2CC1	TAA2CCIC1	TAA2キャプチャ1 / コンペア1一致	TAA2	23	01F0H	000001F0H	nextPC
	INTTAA3OV	TAA3OVIC	TAA3オーバフロー	TAA3	24	0200H	00000200H	nextPC
	INTTAA3CC0	TAA3CCIC0	TAA3キャプチャ0 / コンペア0一致	TAA3	25	0210H	00000210H	nextPC
	INTTAA3CC1	TAA3CCIC1	TAA3キャプチャ1 / コンペア1一致	TAA3	26	0220H	00000220H	nextPC
	INTTAA4OV	TAA4OVIC	TAA4オーバフロー	TAA4	27	0230H	00000230H	nextPC
	INTTAA4CC0	TAA4CCIC0	TAA4キャプチャ0 / コンペア0一致	TAA4	28	0240H	00000240H	nextPC
	INTTAA4CC1	TAA4CCIC1	TAA4キャプチャ1 / コンペア1一致	TAA4	29	0250H	00000250H	nextPC
INTTM0EQ0	TM0EQIC0	TMM0コンペア一致		TMM0	30	0260H	00000260H	nextPC
INTCB0R	CB0RIC	CSIB0受信完了 / オーバラン・エラー		CSIB0	31	0270H	00000270H	nextPC
INTCB0T	CB0TIC	CSIB0連続送信書き込み許可		CSIB0	32	0280H	00000280H	nextPC

表5 - 3 V850ES/FJ3, V850ES/FK3 (割り込み / 例外要因) (2/4)

種類	割り込み / 例外要因				ディフォー ルト・プラ イオリティ	例外 コード	ハンドラ・ アドレス	復帰PC
	名 称	割り込み制御 レジスタ	発生要因	発生 ユニット				
マスカ ブル	INTCB1R	CB1RIC	CSIB1受信完了 / オーバラン・エラー	CSIB1	33	0290H	00000290H	nextPC
	INTCB1T	CB1TIC	CSIB1連続送信書き込み許可	CSIB1	34	02A0H	000002A0H	nextPC
	INTUD0S	UD0SIC	UARTD0状態割り込み	UARTD0	35	02B0H	000002B0H	nextPC
	INTUD0R	UD0RIC	UARTD0受信完了	UARTD0	36	02C0H	000002C0H	nextPC
	INTUD0T	UD0TIC	UARTD0連続送信許可	UARTD0	37	02D0H	000002D0H	nextPC
	INTUD1S	UD1SIC	UARTD1状態割り込み	UARTD1	38	02E0H	000002E0H	nextPC
	INTUD1R	UD1RIC	UARTD1受信完了	UARTD1	39	02F0H	000002F0H	nextPC
	INTUD1T	UD1TIC	UARTD1連続送信許可	UARTD1	40	0300H	00000300H	nextPC
	INTIIC0	IIC0IC	IIC0送信完了	IIC0	41	0310H	00000310H	nextPC
	INTUD4S ^注	UD4SIC	UARTD4状態割り込み	UARTD4				
	INTAD	ADIC	A/D変換終了	AD	42	0320H	00000320H	nextPC
	INTC0ERR	C0ERRIC	CAN0エラー	CAN0	43	0330H	00000330H	nextPC
	INTC0WUP	C0WUPIC	CAN0ウェイクアップ	CAN0	44	0340H	00000340H	nextPC
	INTC0REC	C0RECIC	CAN0受信	CAN0	45	0350H	00000350H	nextPC
	INTC0TRX	C0TRXIC	CAN0送信	CAN0	46	0360H	00000360H	nextPC
	INTDMA0	DMAIC0	DMA0送信完了	DMA	47	0370H	00000370H	nextPC
	INTDMA1	DMAIC1	DMA1送信完了	DMA	48	0380H	00000380H	nextPC
	INTDMA2	DMAIC2	DMA2送信完了	DMA	49	0390H	00000390H	nextPC
	INTDMA3	DMAIC3	DMA3送信完了	DMA	50	03A0H	000003A0H	nextPC
	INTKR	KRIC	キーリターン割り込み	KR	51	03B0H	000003B0H	nextPC
	INTWTI	WTIIC	時計タイマのインターバル	WT	52	03C0H	000003C0H	nextPC
	INTWT	WTIC	時計タイマの基準時間	WT	53	03D0H	000003D0H	nextPC
	INTFL	FLIC	フラッシュ・プログラミング完了	FLASH	54	03F0H	000003F0H	nextPC
	INTP8	PIC8	外部割り込み8 (INTP8)	端子	55	0400H	00000400H	nextPC
	INTP9	PIC9	外部割り込み9 (INTP9)	端子	56	0410H	00000410H	nextPC
	INTP10	PIC10	外部割り込み10 (INTP10)	端子	57	0420H	00000420H	nextPC
	INTTAB1OV	TAB1OVIC	TAB1オーバフロー	TAB1	58	0430H	00000430H	nextPC
	INTTAB1CC0	TAB1CCIC0	TAB1キャプチャ0 / コンペア0一致	TAB1	59	0440H	00000440H	nextPC
	INTTAB1CC1	TAB1CCIC1	TAB1キャプチャ1 / コンペア1一致	TAB1	60	0450H	00000450H	nextPC
	INTTAB1CC2	TAB1CCIC2	TAB1キャプチャ2 / コンペア2一致	TAB1	61	0460H	00000460H	nextPC
	INTTAB1CC3	TAB1CCIC3	TAB1キャプチャ2 / コンペア3一致	TAB1	62	0470H	00000470H	nextPC
	INTUD2S	UD2SIC	UARTD2状態割り込み	UARTD2	63	0480H	00000480H	nextPC
	INTUD2R	UD2RIC	UARTD2受信完了	UARTD2	64	0490H	00000490H	nextPC
	INTUD2T	UD2TIC	UARTD2連続送信許可	UARTD2	65	04A0H	000004A0H	nextPC
	INTC1ERR	C1ERRIC	CAN1エラー	CAN1	66	04B0H	000004B0H	nextPC
	INTC1WUP	C1WUPIC	CAN1ウェイクアップ	CAN1	67	04C0H	000004C0H	nextPC
	INTC1REC	C1RECIC	CAN1受信	CAN1	68	04D0H	000004D0H	nextPC
	INTC1TRX	C1TRXIC	CAN1送信	CAN1	69	04E0H	000004E0H	nextPC
	INTP11	PIC11	外部割込み11 (INTP11)	端子	70	04F0H	000004F0H	nextPC
	INTP12	PIC12	外部割込み12 (INTP12)	端子	71	0500H	00000500H	nextPC
	INTP13	PIC13	外部割込み13 (INTP13)	端子	72	0510H	00000510H	nextPC

注 V850ES/FJ3のμPD70F3378には搭載されていません。

表5 - 3 V850ES/FJ3, V850ES/FK3 (割り込み / 例外要因) (3/4)

種類	割り込み / 例外要因				ディフォー ルト・プラ イオリティ	例外 コード	ハンドラ・ アドレス	復帰PC
	名 称	割り込み制御 レジスタ	発生要因	発生 ユニット				
マスカ ブル	INTP14	PIC14	外部割込み14 (INTP14)	端子	73	0520H	00000520H	nextPC
	INTUD3S ^{注1}	UD3SIC	UARTD3状態割り込み	UARTD3	74	0530H	00000530H	nextPC
	INTUD3R ^{注1}	UD3RIC	UARTD3受信完了	UARTD3	75	0540H	00000540H	nextPC
	INTUD3T ^{注1}	UD3TIC	UARTD3連続送信許可	UARTD3	76	0550H	00000550H	nextPC
	INTUD4R ^{注1}	UD4RIC	UARTD4受信完了	UARTD4	77	0560H	00000560H	nextPC
	INTUD4T ^{注1}	UD4TIC	UARTD4連続送信許可	UARTD4	78	0570H	00000570H	nextPC
	INTTAB2OV	TAB2OVIC	TAB2オーバフロー	TAB2	79	0580H	00000580H	nextPC
	INTTAB2CC0	TAB2CCIC0	TAB2キャプチャ0 / コンペア0一致	TAB2	80	0590H	00000590H	nextPC
	INTTAB2CC1	TAB2CCIC1	TAB2キャプチャ1 / コンペア1一致	TAB2	81	05A0H	000005A0H	nextPC
	INTTAB2CC2	TAB2CCIC2	TAB2キャプチャ2 / コンペア2一致	TAB2	82	05B0H	000005B0H	nextPC
	INTTAB2CC3	TAB2CCIC3	TAB2キャプチャ2 / コンペア3一致	TAB2	83	05C0H	000005C0H	nextPC
	INTUD5S ^{注1}	UD5SIC	UARTD5状態割り込み	UARTD5	84	05D0H	000005D0H	nextPC
	INTCB2R	CB2RIC	CSIB2受信完了 / オーバラン・エラー	CSIB2	85	05E0H	000005E0H	nextPC
	INTUR5R ^{注1}	UR5RIC	UARTD5受信完了	UARTD5				
	INTCB2T	CB2TIC	CSIB2連続送信書き込み許可	CSIB2	86	05F0H	000005F0H	nextPC
	INTUD5T ^{注1}	UD5TIC	UARTD5連続送信許可	UARTD5				
	INTC2ERR	C2ERRIC	CAN2エラー	CAN2	87	0600H	00000600H	nextPC
	INTC2WUP	C2WUPIC	CAN2ウェイクアップ	CAN2	88	0610H	00000610H	nextPC
	INTC2REC	C2RECIC	CAN2受信	CAN2	89	0620H	00000620H	nextPC
	INTC2TRX	C2TRXIC	CAN2送信	CAN2	90	0630H	00000630H	nextPC
	INTC3ERR ^{注1}	C3ERRIC	CAN3エラー	CAN3	91	0640H	00000640H	nextPC
	INTC3WUP ^{注1}	C3WUPIC	CAN3ウェイクアップ	CAN3	92	0650H	00000650H	nextPC
	INTC3REC ^{注1}	C3RECIC	CAN3受信	CAN3	93	0660H	00000660H	nextPC
	INTC3TRX ^{注1}	C3TRXIC	CAN3送信	CAN3	94	0670H	00000670H	nextPC
	INTP15 ^{注2}	PIC15	外部割り込み15 (INTP15)	端子	95	0680H	00000680H	nextPC
	INTTAA5OV ^{注2}	TAA5OVIC	TAA5オーバフロー	TAA5	96	0690H	00000690H	nextPC
	INTTAA5CC0 ^{注2}	TAA5CCIC0	TAA5キャプチャ0 / コンペア0一致	TAA5	97	06A0H	000006A0H	nextPC
	INTTAA5CC1 ^{注2}	TAA5CCIC1	TAA5キャプチャ1 / コンペア1一致	TAA5	98	06B0H	000006B0H	nextPC
	INTTAA6OV ^{注2}	TAA6OVIC	TAA6オーバフロー	TAA6	99	06C0H	000006C0H	nextPC
	INTTAA6CC0 ^{注2}	TAA6CCIC0	TAA6キャプチャ0 / コンペア0一致	TAA6	100	06D0H	000006D0H	nextPC
	INTTAA6CC1 ^{注2}	TAA6CCIC1	TAA6キャプチャ1 / コンペア1一致	TAA6	101	06E0H	000006E0H	nextPC
	INTTAA7OV ^{注2}	TAA7OVIC	TAA7オーバフロー	TAA7	102	06F0H	000006F0H	nextPC
	INTTAA7CC0 ^{注2}	TAA7CCIC0	TAA7キャプチャ0 / コンペア0一致	TAA7	103	0700H	00000700H	nextPC
	INTTAA7CC1 ^{注2}	TAA7CCIC1	TAA7キャプチャ1 / コンペア1一致	TAA7	104	0710H	00000710H	nextPC
	INTUD6S ^{注2}	UD6SIC	UARTD6状態割り込み	UARTD6	105	0720H	00000720H	nextPC
	INTCB3R ^{注3}	CB3RIC	CSIB3受信完了 / オーバラン・エラー	CSIB3	106	0730H	00000730H	nextPC
	INTUR6R ^{注2}	UR6RIC	UARTD6受信完了	UARTD6				
	INTCB3T ^{注3}	CB3TIC	CSIB3連続送信書き込み許可	CSIB3	107	0740H	00000740H	nextPC
	INTUD6T ^{注2}	UD6TIC	UARTD6連続送信許可	UARTD6				

注 1. V850ES/FJ3のμPD70F3378には搭載されていません。

2. V850ES/FJ3には搭載されていません。

3. V850ES/FJ3のμPD70F3378, 70F3379, 70F3380には搭載されていません。

表5 - 3 V850ES/FJ3, V850ES/FK3 (割り込み / 例外要因) (4/4)

種類	割り込み / 例外要因				ディフォールト・プライオリティ	例外コード	ハンドラ・アドレス	復帰PC
	名 称	割り込み制御レジスタ	発生要因	発生ユニット				
マスカブル	INTUD7S ^注	UD7SIC	UARTD7状態割り込み	UARTD7	108	0750H	00000750H	nextPC
	INTUD7R ^注	UD7RIC	UARTD7受信完了	UARTD7	109	0760H	00000760H	nextPC
	INTUD7T ^注	UD7TIC	UARTD7連続送信許可	UARTD7	110	0770H	00000770H	nextPC
	INTAD1 ^注	AD1IC	A/D1変換終了	AD1	111	0780H	00000780H	nextPC
	INTC4ERR ^注	C4ERRIC	CAN4エラー	CAN4	112	0790H	00000790H	nextPC
	INTC4WUP ^注	C4WUPIC	CAN4ウェイクアップ	CAN4	113	07A0H	000007A0H	nextPC
	INTC4REC ^注	C4RECIC	CAN4受信	CAN4	114	07B0H	000007B0H	nextPC
	INTC4TRX ^注	C4TRXIC	CAN4送信	CAN4	115	07C0H	000007C0H	nextPC

注 V850ES/FJ3には搭載されていません。

備考1. ディフォールト・プライオリティ：複数の同一優先順位レベルのマスカブル割り込み要求信号が同時に発生している場合に優先される順位です。0が最高優先順位です。

2. 復帰PC：割り込み処理起動時に、CPUのEIPCまたはFEPCにセーブされるプログラム・カウンタ (PC) のことです。なお、次の命令実行中にノンマスカブル / マスカブル割り込みを受け付けた場合の復帰PCはnextPCとはなりません（命令実行中に割り込みを受け付けると実行を中止し、割り込み処理完了後に再実行されます）。
 - ・ロード命令 (SLD.B, SLD.BU, SLD.H, SLD.HU, SLD.W)
 - ・除算命令 (DIV, DIVH, DIVU, DIVHU)
 - ・PREPARE, DISPOSE 命令 (スタック・ポインタの更新前に割り込みが発生した場合のみ)
3. nextPC：割り込み / 例外処理後に処理を開始するPC値です。
4. 不正命令コード例外時の不正命令の実行アドレスは、(復帰PC - 4)で求められます。

兼用割り込み： 割り込み要因の中には同じマスカブル割り込みを使うものもあります(表5 - 4を参照してください)。

表5 - 4 兼用マスカブル割り込み

割り込み要因				ディフォールト・ プライオリティ
名 称	発生ユニット	名 称	発生ユニット	
INTIIC0	IIC0	INTUD4S	UARTD4	41
INTCB2R	CSIB2	INTUD5R	UARTD5	86
INTCB2T		INTUD5T		87
INTCB3R	CSIB3	INTUD6R	UARTD6	107
INTCB3T		INTUD6T		108

注意 表5 - 4に掲げた割り込み要因を同時に使用しないでください。

5.2 ノンマスカブル割り込み

ノンマスカブル割り込み要求信号は、CPUが割り込み禁止（DI）状態でも無条件に受け付けられます。この製品のノンマスカブル割り込み要求信号には、次の2つがあります。

- ・NMI端子入力（NMI）
- ・ウォッチドッグ・タイマのオーバフローによるノンマスカブル割り込み要求信号（INTWDT2）

INTR0.INTR02ビットおよびINTF0.INTF02ビットで指定された有効エッジがNMI端子上で検出されるとNMI割り込みが発生します。

ウォッチドッグ・タイマ割り込み要求は、ウォッチドッグ・タイマ・モード・レジスタでWDTM2.WDM2[1:0]ビットに01Bを選択した場合のみにノンマスカブル割り込みとして有効になります。

複数のノンマスカブル割り込み要求信号が重なって発生した場合は、次の優先順位に従って順位の高い処理が実行されます（優先順位の低い割り込み要求信号は無視されます）。

INTWDT2 > NMI

なお、NMI処理中に、新たにNMI、INTWDT2要求信号が発生した場合は次のような処理を行います。

（1）NMI処理中に、新たにNMI要求信号が発生した場合

PSWのNPビットの値によらず、新たなNMI要求信号は保留されます。保留されたNMIVC要求信号は、現在実行中のNMI処理終了後（RETI命令実行後）に受け付けられます。

（2）NMI処理中に、新たにINTWDT2要求信号が発生した場合

NMI処理中にPSWのNPビットがセット（1）されたままであれば、新たなINTWDT2要求信号は保留されます。保留されたINTWDT2要求信号は、現在実行中のNMI処理終了後（RETI命令実行後）に受け付けられます。

NMI処理中にPSWのNPビットをクリア（0）すれば、新たに発生したINTWDT2要求信号が実行されます（NMI処理は中断されます）。

- 注意1. ノンマスカブル割り込み要求信号が発生した場合、PC、PSWの値はNMI時状態退避レジスタ（FEPC、FEPSW）に退避されますが、このときRETI命令によって復帰できるのはNMI信号だけです。INTWDT2信号の場合はRETI命令による復帰はできないため、割り込み処理終了後にシステム・リセットを行ってください。
2. ノンマスカブル割り込み処理中にLDSR命令でPSW.NPビットが0にクリアされると、その後のNMI割り込みは正しく受け付けられません。

図5-1 ノンマスカブル割り込み要求信号の受け付け動作：多重NMI割り込み要求が同時発生

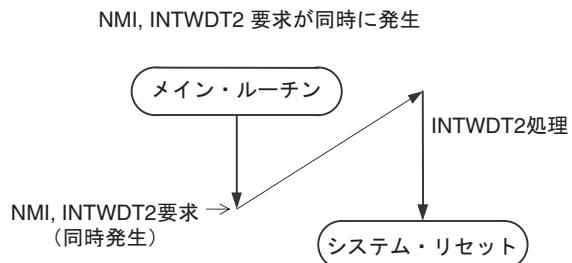


図5-2 ノンマスカブル割り込み要求信号の受け付け動作：NMI処理中に発生したNMI要求

処理中の ノンマスカブル 割り込み	ノンマスカブル割り込み処理中に新たに発生するノンマスカブル割り込み要求	
	NMI	INTWDT2
NMI	<p>NMI処理中にNMI要求が発生</p> <p>メイン・ルーチン</p> <p>NMI要求</p> <p>NMI処理</p> <p>保留されたNMI処理</p> <p>NMI要求 (保留)</p> <p>INTWDT2要求が発生 (INTWDT2要求前にNP = 1のまま)</p> <p>メイン・ルーチン</p> <p>NMI要求</p> <p>INTWDT2要求</p> <p>NMI処理</p> <p>INTWDT2処理</p> <p>システム・リセット</p>	<p>NMI処理中にINTWDT2要求が発生 (INTWDT2要求前にNP = 1のまま)</p> <p>メイン・ルーチン</p> <p>NMI要求</p> <p>INTWDT2要求</p> <p>NMI処理</p> <p>INTWDT2処理</p> <p>システム・リセット</p> <p>NMI処理中にINTWDT2要求が発生 (INTWDT2要求前にNP = 0にする)</p> <p>メイン・ルーチン</p> <p>NMI要求</p> <p>NP = 0</p> <p>NMIWDT要求</p> <p>NMI処理</p> <p>INTWDT2処理</p> <p>システム・リセット</p> <p>NMI処理中にINTWDT2要求が発生 (INTWDT2要求後にNP = 0にする)</p> <p>メイン・ルーチン</p> <p>NMI要求</p> <p>INTWDT2要求</p> <p>NP = 0</p> <p>NMI処理</p> <p>INTWDT2処理</p> <p>システム・リセット</p>
INTWDT2	<p>INTWDT2処理中にNMI要求が発生</p> <p>メイン・ルーチン</p> <p>INTWDT2要求</p> <p>INTWDT2処理</p> <p>NMI要求 (無効)</p> <p>システム・リセット</p>	<p>INTWDT2処理中にINTWDT2要求が発生</p> <p>メイン・ルーチン</p> <p>INTWDT2要求</p> <p>INTWDT2処理</p> <p>INTWDT2要求 (無効)</p> <p>システム・リセット</p>

5.2.1 動 作

ノンマスカブル割り込み要求信号が発生した場合、CPUは次の処理を行い、ハンドラ・ルーチンへ制御を移します。

復帰PCをFEPCに退避します。

現在のPSWをFEPSWに退避します。

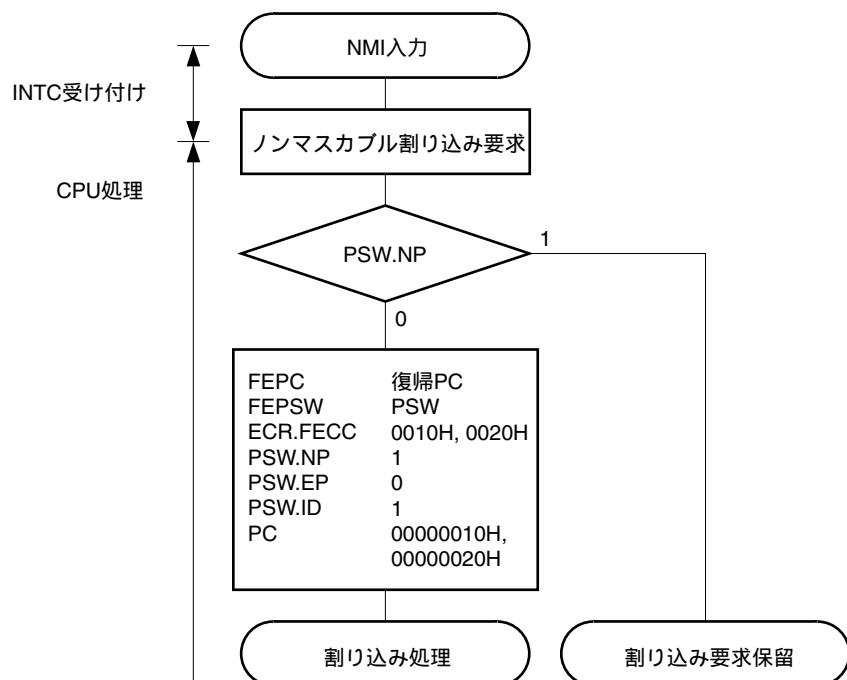
ECRの上位ハーフワード (FECC) に例外コード (0010H) を書き込みます。

PSWのNP, IDビットをセットし、EPビットをクリアします。

PCにノンマスカブル割り込みに対するハンドラ・アドレス (00000010H, 00000020H) をセットし、制御を移します。

ノンマスカブル割り込みの処理形態を図5-3に示します。

図5-3 ノンマスカブル割り込みの処理形態



5.2.2 復 帰

(1) NMI

NMI処理からの復帰は、RETI命令により行います。

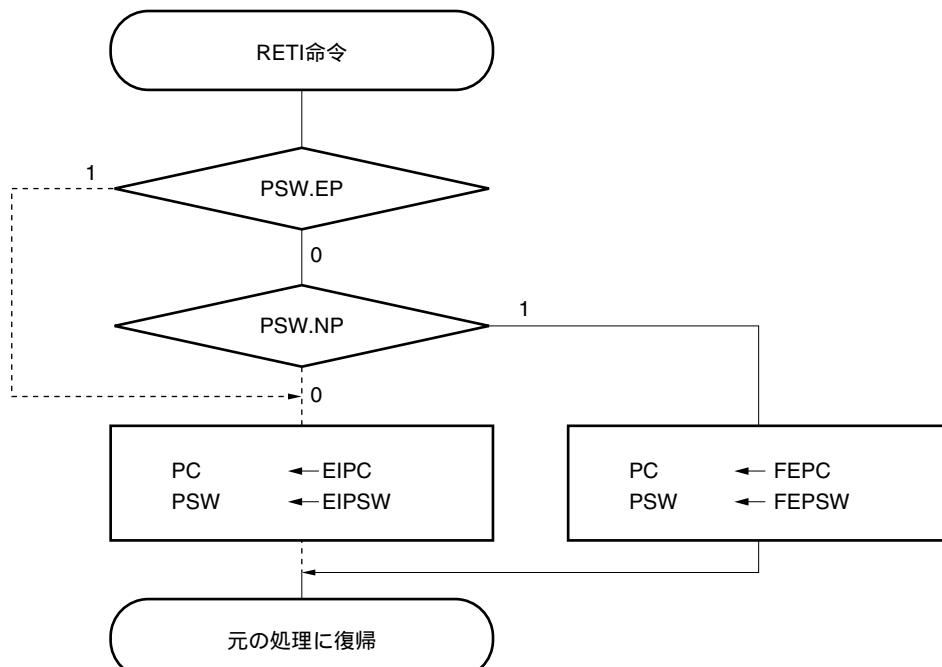
RETI命令の実行により、CPUは次の処理を行い復帰PCのアドレスへの制御を移します。

PSWのEPビットが0かつPSWのNPビットが1なので、FEPC, FEPSWから復帰PC, PSWを取り出します。

取り出した復帰PCのアドレス、PSWの状態に制御を移します。

RETI命令の処理形態を図5-4に示します。

図5-4 RETI命令の処理形態



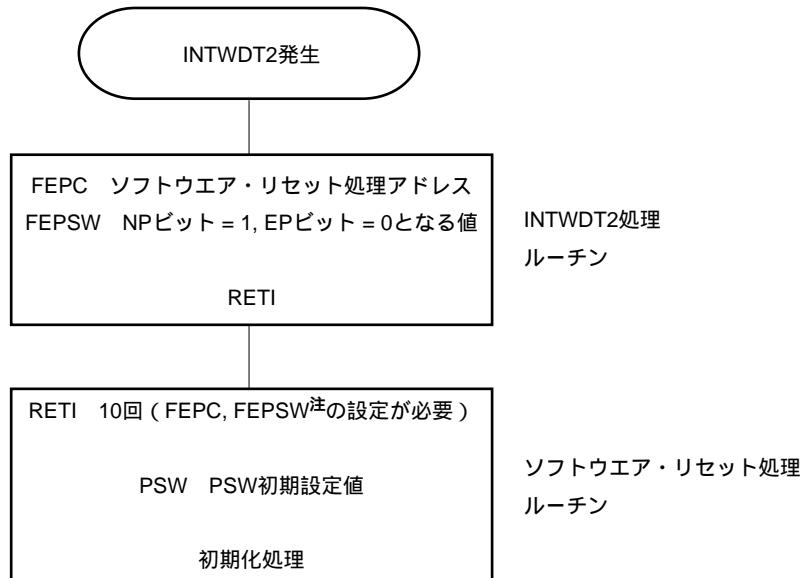
注意 ノンマスカブル割り込み処理中にLDSR命令によりPSW.EPビット、PSW.NPビットを変更した場合には、RETI命令による復帰時にPCとPSWを正常にリストアするために、RETI命令の直前で、LDSR命令を使用してPSW.EP = 0かつPSW.NP = 1に戻しておく必要があります。

備考 CPUは実線のフローで処理します。

(2) INTWDT2

RETI命令による復帰は、できません。割り込み処理後に、システム・リセットを行ってください。

図5-5 ソフトウェア・リセット処理



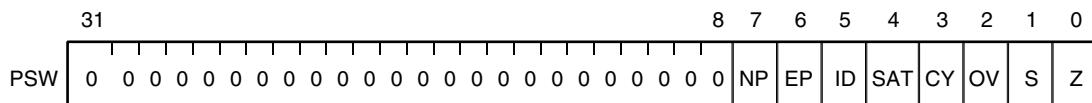
注 FEPSW NPビット = 1, EPビット = 0となる値

5.2.3 ノンマスカブル割り込み状態フラグ (NP)

NPフラグは、ノンマスカブル割り込みの処理中であることを示すステータス・フラグです。

ノンマスカブル割り込み要求信号を受け付けるとセットされ、すべての割り込みおよび例外をマスクし、多重割り込みの受け付けを禁止します。

リセット時 : 00000020H



ビット位置	ビット名	機能
7	NP	ノンマスカブル割り込み処理状態 0 : ノンマスカブル割り込み処理中でない 1 : ノンマスカブル割り込み処理中

5.2.4 NMI制御

NMIは、NMI端子上で立ち上がりエッジあるいは立ち下がりエッジ、または両方のエッジが検出されたときに発生するノンマスカブル割り込みです。NMIが検出するエッジの指定方法に関しては、5.4 外部割り込みエッジ検出設定を参照してください。

5.3 マスカブル割り込み

マスカブル割り込み要求信号は、割り込み制御レジスタにより、割り込み受け付けをマスクできる割り込み要求信号で、製品により55/70/76/85/95/97/116種類の割り込み要因があります。

複数のマスカブル割り込み要求信号が同時に発生した場合は、ディフォールト・プライオリティにより、その優先順位が決定します。また、ディフォールト・プライオリティとは別に、割り込み制御レジスタによって、8レベルの割り込み優先順位を設定できます（プログラマブル優先順位制御）。

割り込み要求信号が受け付けられると割り込み禁止（DI）状態になり、以後のマスカブル割り込み要求信号の受け付けを禁止します。

割り込み処理ルーチン内でEI命令を実行すると割り込み許可（EI）状態となり、受け付け中の割り込み要求信号の優先順位レベル（割り込み制御レジスタで指定）よりも高い優先順位の割り込み要求信号の受け付けを許可します。同一レベル同士のネスティングはできません。

ただし、多重割り込みを許可するときは、次の処理が必要となります。

1. EI命令を実行前にEIPCとEIPSWをメモリまたは汎用レジスタに退避します。
2. RETI命令を実行する前にDI命令を実行し、（1）で退避した値でEIPCとEIPSWを再設定します。

5.3.1 動 作

マスカブル割り込みが発生した場合、CPUは次の処理を行い、ハンドラ・ルーチンへ制御を移します。

復帰PCをEIPCに退避します。

現在のPSWをEIPSWに退避します。

ECRの下位ハーフワード（EICC）に例外コードを書き込みます。

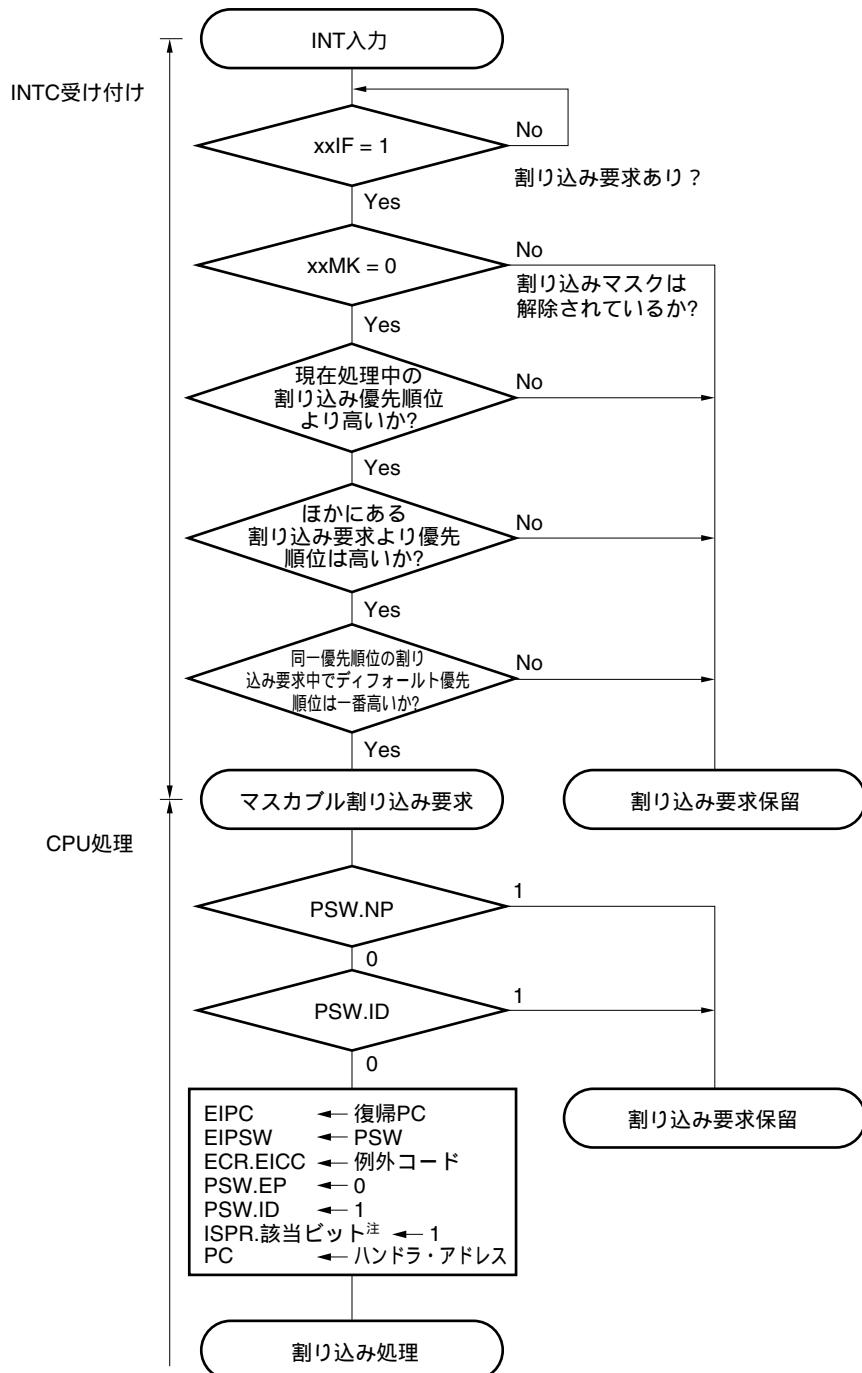
PSWのIDビットをセットし、EPビットをクリアします。

PCに各割り込みに対するハンドラ・アドレスをセットし、制御を移します。

なお、INTCでマスクされているマスカブル割り込み要求信号と、他の割り込み処理中（PSW.NPビット = 1、またはIDビット = 1）に発生したマスカブル割り込み要求信号は、INTC内部で保留されます。この場合、マスクを解除するか、またはRETI命令、LDSR命令を使用してNPビット = 0かつIDビット = 0にすると、保留していたマスカブル割り込み要求信号の優先順位に従い、新たなマスカブル割り込み処理が開始されます。

図5-6にマスカブル割り込みの処理形態を示します。

図5-6 マスカブル割り込みの処理形態



注 ISPRレジスタについては、5.3.6 インサービス・プライオリティ・レジスタ (ISPR) を参照してください。

5.3.2 復 帰

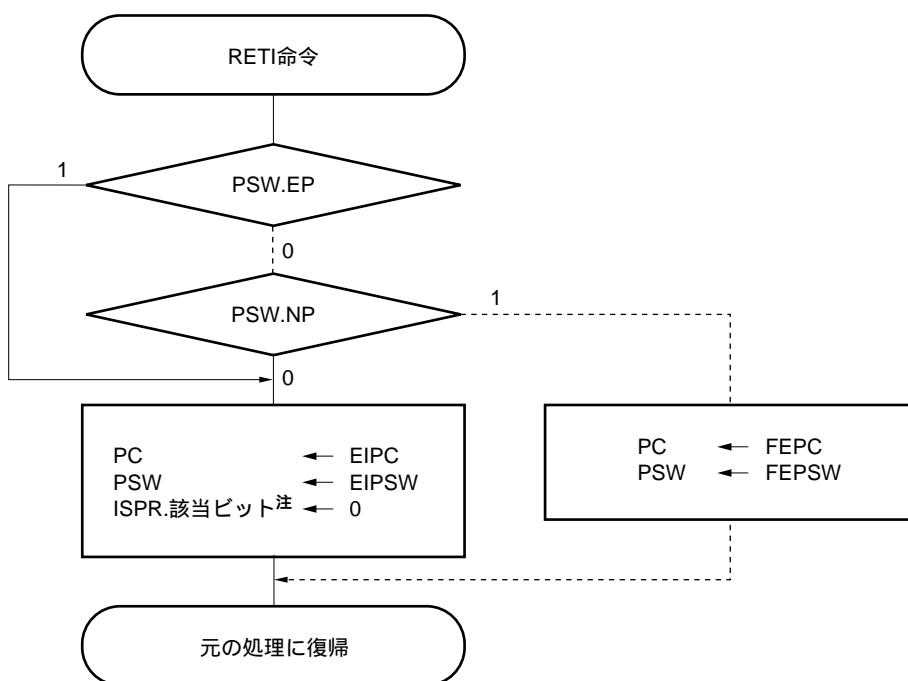
マスカブル割り込み処理からの復帰は、RETI命令により行います。

RETI命令の実行により、CPUは次の処理を行い復帰PCのアドレスへ制御を移します。

PSWのEPビットが0かつPSWのNPビットが0なので、EIPC, EIPSWから復帰PC, PSWを取り出します。
取り出した復帰PCのアドレス、PSWの状態に制御を移します。

RETI命令の処理形態を図5-7に示します。

図5-7 RETI命令の処理形態



注 ISPRレジスタについては、5.3.6 インサービス・プライオリティ・レジスタ (ISPR) を参照してください。

注意 マスカブル割り込み処理中にLDSR命令によりPSW.EPビット、PSW.NPビットを変更した場合は、RETI命令による復帰時にPCとPSWを正常にリストアするために、RETI命令の直前で、LDSR命令を使用してPSW.EP = 0かつPSW.NP = 0に戻しておく必要があります。

備考 CPUは実線のフローで処理します。

5.3.3 マスカブル割り込みの優先順位

INTCは、割り込み処理中にさらに別の割り込みを受け付ける多重割り込みの処理を行います。多重割り込みは、優先順位によって制御できます。

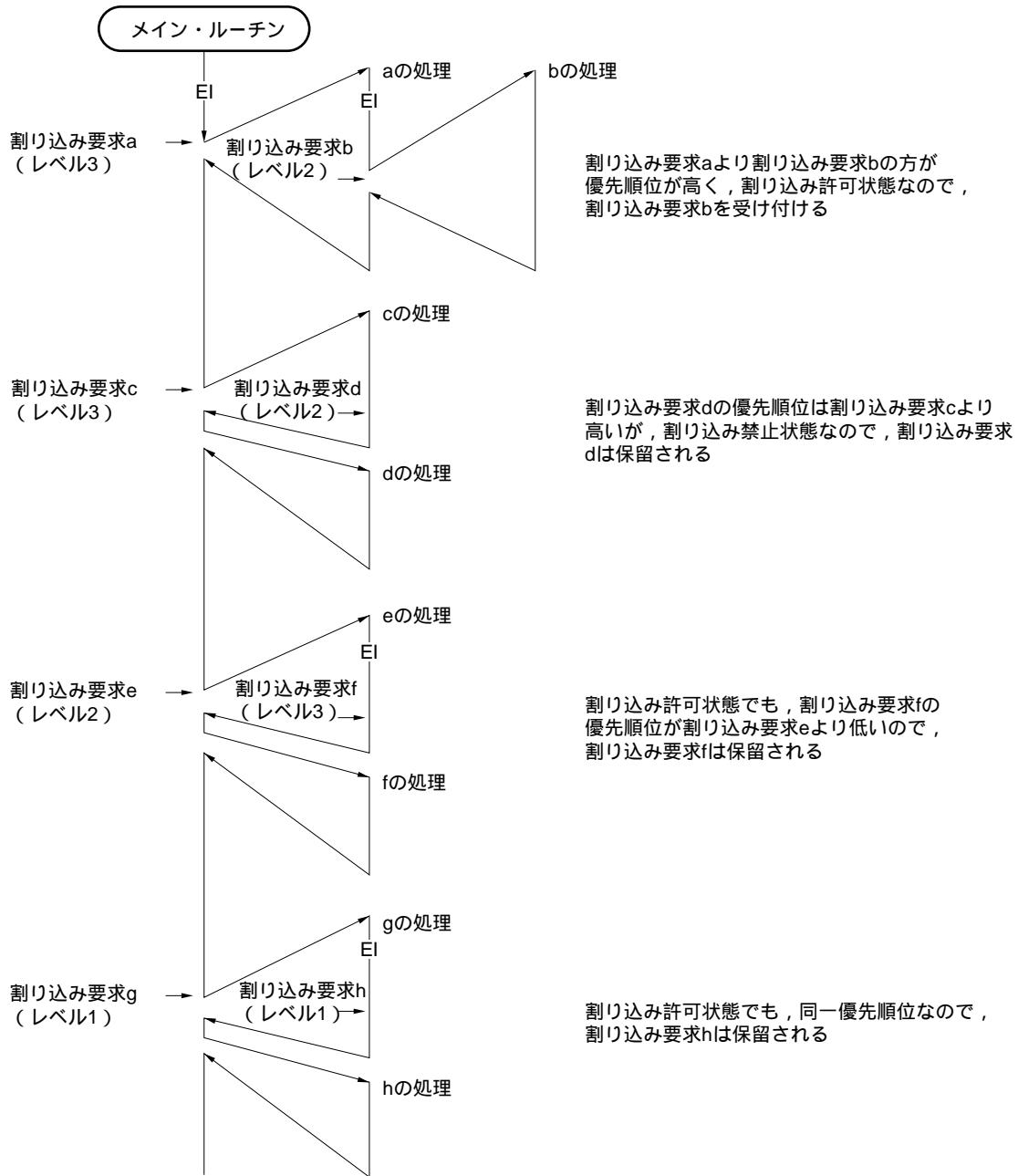
優先順位制御には、ディフォールト・プライオリティによる制御と、割り込み制御レジスタ ($xxICn$) の割り込み優先順位指定ビット ($xxPRn$) によるプログラマブル優先順位制御があります。ディフォールト・プライオリティ順位制御は、 $xxPRn$ ビットによる複数の同一優先順位レベルの割り込みが同時に発生している場合、各割り込み要求信号にあらかじめ割り付けてある優先順位（ディフォールト・プライオリティ）に従って割り込みを処理します（表5-1 割り込み／例外要因参照）。プログラマブル優先順位制御は、各割り込み要求信号を優先順位指定フラグの設定によって8レベルに分けます。

なお、割り込み要求信号を受け付けるとPSWのIDフラグが自動的にセット(1)されるので、多重割り込みを使用する場合は、割り込み処理プログラム内でEI命令を実行するなどしてIDフラグをクリア(0)し、割り込み許可状態にしてください。

備考 xx : 各周辺ユニット識別名称（表5-5 割り込み制御レジスタ ($xxICn$) のアドレスとピット一覧参照）

n : 周辺ユニット番号（表5-5 割り込み制御レジスタ ($xxICn$) のアドレスとピット一覧参照）

図5-8 割り込み処理中にほかの割り込み要求信号が発生した場合の処理例 (1/2)



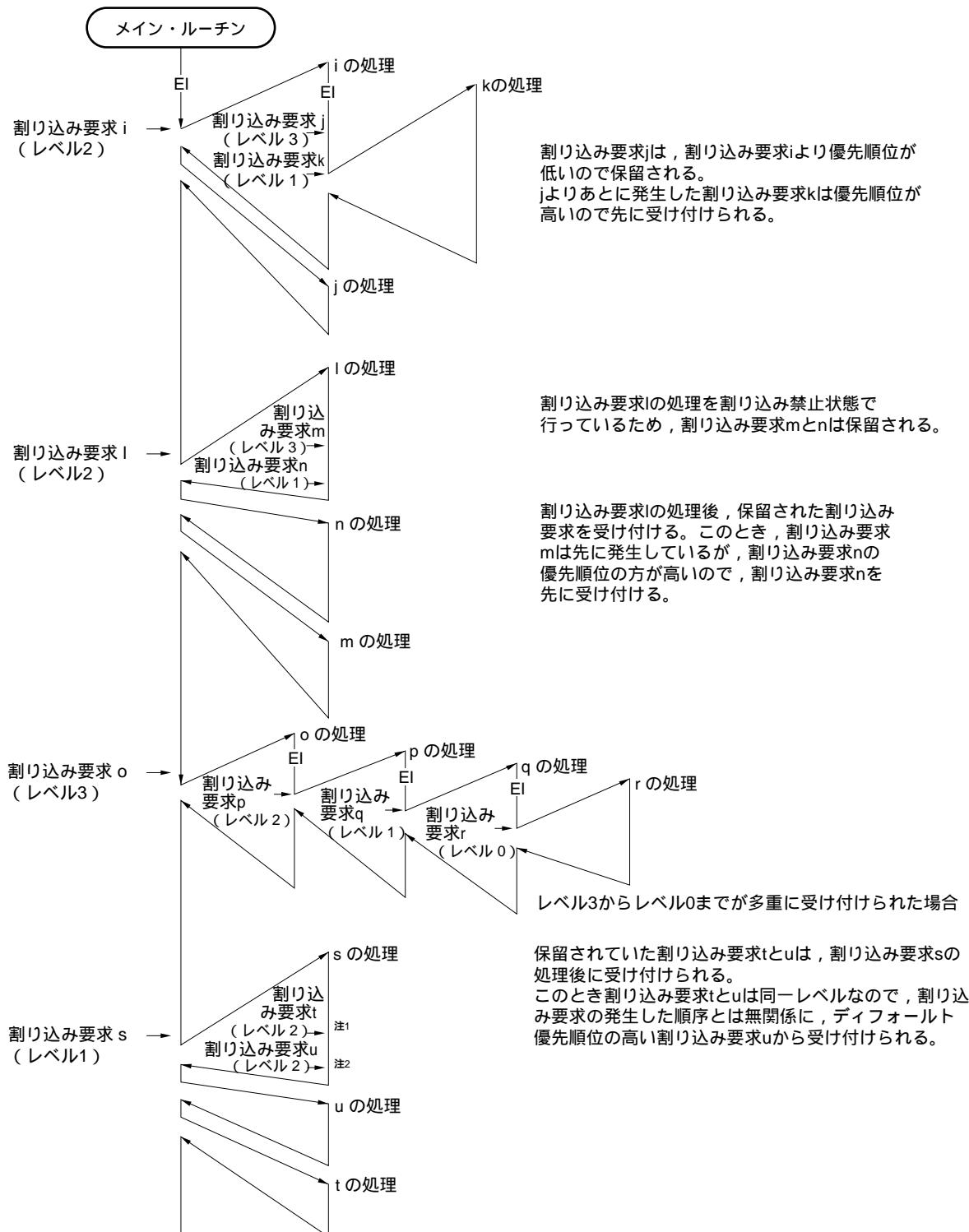
注意 多重割り込みを行うときはEI命令を実行する前に,EIPC,EIPSWの内容を退避する必要があります。

また、多重割り込みから復帰する際は、DI命令を実行したあとに,EIPC,EIPSWの内容を復帰してください。

備考1. 図中のa-uは、各割り込み要求信号を区別するために付けた仮の名称です。

2. 図中のディフォールト・プライオリティの高い／低いは、2つの割り込み要求信号間の相対的な優先順位の高さを示します。

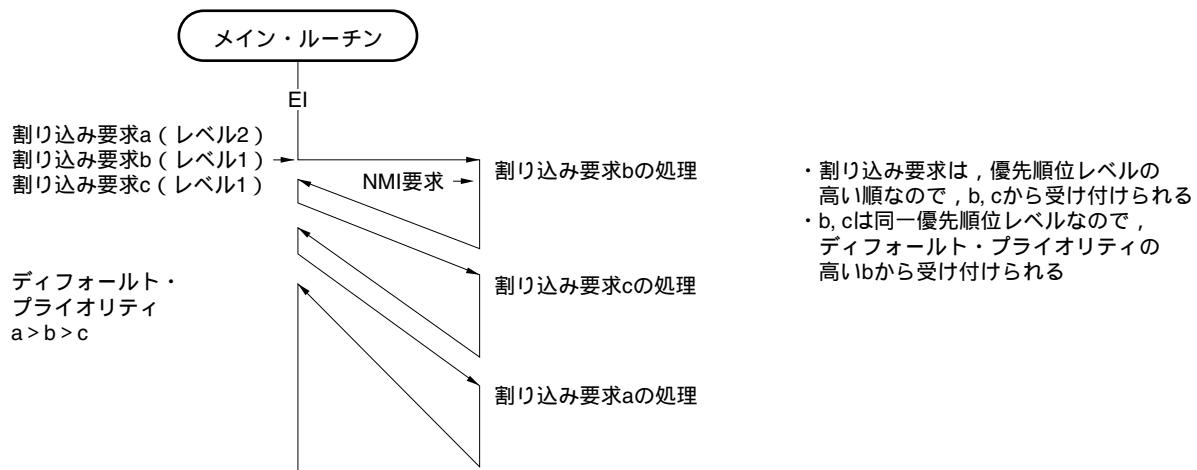
図5-8 割り込み処理中にほかの割り込み要求信号が発生した場合の処理例 (2/2)



注意 多重割り込みを行うときはEI命令を実行する前に、EIPC, EIPSWの内容を退避する必要があります。
また、多重割り込みから復帰する際は、DI命令を実行したあとに、EIPC, EIPSWの内容を復帰してください。

1. ディフォールト・プライオリティが低い
2. ディフォールト・プライオリティが高い

図5-9 同時発生した割り込み要求信号の処理例



注意 多重割り込みを行うときはEI命令を実行する前に、EIPC, EIPSWの内容を退避する必要があります。

また、多重割り込みから復帰する際は、DI命令を実行したあとに、EIPC, EIPSWの内容を復帰してください。

- 備考**
1. 図中のa-cは、各割り込み要求信号を区別するために付けた仮の名称です。
 2. 図中のディフォールト・プライオリティの高い／低いは、2つの割り込み要求信号間の相対的な優先順位の高さを示します。

5.3.4 割り込み制御レジスタ (xxICn)

割り込み要求信号(マスクブル割り込み)ごとに割り当てられ、各割り込みに対する制御条件を設定します。

8/1ビット単位でリード / ライト可能です。

		リセット時 : 47H アドレス : FFFFF110H-FFFFF1F8H ^注							
		⑦ ⑥ 5 4 3 2 1 0							
xxICn	xxIFn	xxMKn	0	0	0	xxPR2	xxPR1	xxPR0	

注 製品により異なります。

- 注意1. xxICnレジスタのxxIFnビットを読み出す場合は、割り込み禁止(DI)状態、または割り込みをマスクした状態で行ってください。割り込み許可(EI)、または割り込みマスクを解除した状態でxxIFnビットを読み出すと、割り込みの受け付けとビットの読み出しのタイミングが競合した場合に、正常な値が読み出せないことがあります。
2. 割り込み要求が発生する状態(割り込み禁止(DI)状態を含む)でxxICnレジスタのxxMKnビットを操作する場合は、必ずビット操作命令で操作するか、またはIMRmレジスタのxxMKnビットで操作してください(m = 0-7)。

ビット位置	ビット名	機能																																				
7	xxIFn	割り込み要求フラグ 0 : 割り込み要求信号なし 1 : 割り込み要求信号あり xxIFnフラグは割り込み要求が受け付けられるとハードウェアにより自動的にリセットされます。																																				
6	xxMKn	割り込みマスク・フラグ 0 : 割り込み処理を許可 1 : 割り込み処理を禁止(保留)																																				
2-0	xxPR2-xxPR0	割り込みに8レベルの優先順位を指定。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>xxPR2</th> <th>xxPR1</th> <th>xxPR0</th> <th>割り込み優先順位指定ビット</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>レベル0(最高位)を指定</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>レベル1を指定</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>レベル2を指定</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>レベル3を指定</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>レベル4を指定</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>レベル5を指定</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>レベル6を指定</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>レベル7(最低位)を指定</td> </tr> </tbody> </table>	xxPR2	xxPR1	xxPR0	割り込み優先順位指定ビット	0	0	0	レベル0(最高位)を指定	0	0	1	レベル1を指定	0	1	0	レベル2を指定	0	1	1	レベル3を指定	1	0	0	レベル4を指定	1	0	1	レベル5を指定	1	1	0	レベル6を指定	1	1	1	レベル7(最低位)を指定
xxPR2	xxPR1	xxPR0	割り込み優先順位指定ビット																																			
0	0	0	レベル0(最高位)を指定																																			
0	0	1	レベル1を指定																																			
0	1	0	レベル2を指定																																			
0	1	1	レベル3を指定																																			
1	0	0	レベル4を指定																																			
1	0	1	レベル5を指定																																			
1	1	0	レベル6を指定																																			
1	1	1	レベル7(最低位)を指定																																			

備考 xx : 各周辺ユニット識別名称 (LVIL, LVIH, P, TAB0OV-TAB2OV, TAB0CC-TAB2CC, TAA0OV-TAA4OV, TAA0CC-TAA4CC, TM0EQ, CB0R-CB3R, CB0T-CB3T, UD0S-UD5S, UD0R-UD5R, UD0T-UD5T, IIC0, AD, C0ERR-C4ERR, C0WUP-C4WUP, C0REC-C4REC, C0TRX-C4TRX, DMA, KR, WTI, WT, ECCD, FL)

n : 周辺ユニット番号 (表5-5 割り込み制御レジスタ (xxICn) のアドレスとビット一覧参照)

各割り込み制御レジスタのアドレスとビットを次に示します。

表5 - 5 割り込み制御レジスタ (xxICn) のアドレスとピット一覧 (1/3)

アドレス	レジスタ	ピット							
		(7)	(6)	5	4	3	2	1	0
FFFFF110H	LVLIC	LVILIF	LVILMK	0	0	0	LVLPR2	LVLPR1	LVLPR0
FFFFF112H	LVIHIC	LVIHIF	LVIHMK	0	0	0	LVIHPR2	LVIHPR1	LVIHPR0
FFFFF114H	PIC0	PIF0	PMK0	0	0	0	PPR02	PPR01	PPR00
FFFFF116H	PIC1	PIF1	PMK1	0	0	0	PPR12	PPR11	PPR10
FFFFF118H	PIC2	PIF2	PMK2	0	0	0	PPR22	PPR21	PPR20
FFFFF11AH	PIC3	PIF3	PMK3	0	0	0	PPR32	PPR31	PPR30
FFFFF11CH	PIC4	PIF4	PMK4	0	0	0	PPR42	PPR41	PPR40
FFFFF11EH	PIC5	PIF5	PMK5	0	0	0	PPR52	PPR51	PPR50
FFFFF120H	PIC6	PIF6	PMK6	0	0	0	PPR62	PPR61	PPR60
FFFFF122H	PIC7	PIF7	PMK7	0	0	0	PPR72	PPR71	PPR70
FFFFF124H	TAB0OVIC	TAB0OVIF	TAB0OVMK	0	0	0	TAB0OVR2	TAB0OVR1	TAB0OVR0
FFFFF126H	TAB0CCIC0	TAB0CCIF0	TAB0CCMK0	0	0	0	TAB0CCPR02	TAB0CCPR01	TAB0CCPR00
FFFFF128H	TAB0CCIC1	TAB0CCIF1	TAB0CCMK1	0	0	0	TAB0CCPR12	TAB0CCPR11	TAB0CCPR10
FFFFF12AH	TAB0CCIC2	TAB0CCIF2	TAB0CCMK2	0	0	0	TAB0CCPR22	TAB0CCPR21	TAB0CCPR20
FFFFF12CH	TAB0CCIC3	TAB0CCIF3	TAB0CCMK3	0	0	0	TAB0CCPR32	TAB0CCPR31	TAB0CCPR30
FFFFF12EH	TAA0OVIC	TAA0OVIF	TAA0OVMK	0	0	0	TAA0OVR2	TAA0OVR1	TAA0OVR0
FFFFF130H	TAA0CCIC0	TAA0CCIF0	TAA0CCMK0	0	0	0	TAA0CCPR02	TAA0CCPR01	TAA0CCPR00
FFFFF132H	TAA0CCIC1	TAA0CCIF1	TAA0CCMK1	0	0	0	TAA0CCPR12	TAA0CCPR11	TAA0CCPR10
FFFFF134H	TAA1OVIC	TAA1OVIF	TAA1OVMK	0	0	0	TAA1OVR2	TAA1OVR1	TAA1OVR0
FFFFF136H	TAA1CCIC0	TAA1CCIF0	TAA1CCMK0	0	0	0	TAA1CCPR02	TAA1CCPR01	TAA1CCPR00
FFFFF138H	TAA1CCIC1	TAA1CCIF1	TAA1CCMK1	0	0	0	TAA1CCPR12	TAA1CCPR11	TAA1CCPR10
FFFFF13AH	TAA2OVIC	TAA2OVIF	TAA2OVMK	0	0	0	TAA2OVR2	TAA2OVR1	TAA2OVR0
FFFFF13CH	TAA2CCIC0	TAA2CCIF0	TAA2CCMK0	0	0	0	TAA2CCPR02	TAA2CCPR01	TAA2CCPR00
FFFFF13EH	TAA2CCIC1	TAA2CCIF1	TAA2CCMK1	0	0	0	TAA2CCPR12	TAA2CCPR11	TAA2CCPR10
FFFFF140H	TAA3OVIC	TAA3OVIF	TAA3OVMK	0	0	0	TAA3OVR2	TAA3OVR1	TAA3OVR0
FFFFF142H	TAA3CCIC0	TAA3CCIF0	TAA3CCMK0	0	0	0	TAA3CCPR02	TAA3CCPR01	TAA3CCPR00
FFFFF144H	TAA3CCIC1	TAA3CCIF1	TAA3CCMK1	0	0	0	TAA3CCPR12	TAA3CCPR11	TAA3CCPR10
FFFFF146H	TAA4OVIC	TAA4OVIF	TAA4OVMK	0	0	0	TAA4OVR2	TAA4OVR1	TAA4OVR0
FFFFF148H	TAA4CCIC0	TAA4CCIF0	TAA4CCMK0	0	0	0	TAA4CCPR02	TAA4CCPR01	TAA4CCPR00
FFFFF14AH	TAA4CCIC1	TAA4CCIF1	TAA4CCMK1	0	0	0	TAA4CCPR12	TAA4CCPR11	TAA4CCPR10
FFFFF14CH	TM0EQIC0	TM0EQIF0	TM0EQMK0	0	0	0	TM0EQPR02	TM0EQPR01	TM0EQPR00
FFFFF14EH	CB0RIC	CB0RIF	CB0RMK	0	0	0	CB0RPR2	CB0RPR1	CB0RPR0
FFFFF150H	CB0TIC	CB0TIF	CB0TMK	0	0	0	CB0TPR2	CB0TPR1	CB0TPR0
FFFFF152H	CB1RIC	CB1RIF	CB1RMK	0	0	0	CB1RPR2	CB1RPR1	CB1RPR0
FFFFF154H	CB1TIC	CB1TIF	CB1TMK	0	0	0	CB1TPR2	CB1TPR1	CB1TPR0
FFFFF156H	UD0SIC	UD0SIF	UD0SMK	0	0	0	UD0SPR2	UD0SPR1	UD0SPR0
FFFFF158H	UD0RIC	UD0RIF	UD0RMK	0	0	0	UD0RPR2	UD0RPR1	UD0RPR0
FFFFF15AH	UD0TIC	UD0TIF	UD0TMK	0	0	0	UD0TPR2	UD0TPR1	UD0TPR0
FFFFF15CH	UD1SIC	UD1SIF	UD1SMK	0	0	0	UD1SPR2	UD1SPR1	UD1SPR0

備考 表はV850ES/FK3(最大仕様)のものです。各製品がサポートする割り込みにつきましては表5 - 6を参照してください。

表5 - 5 割り込み制御レジスタ (xxICn) のアドレスとピット一覧 (2/3)

アドレス	レジスタ	ピット							
		(7)	(6)	5	4	3	2	1	0
FFFFF15EH	UD1RIC	UD1RIF	UD1RMK	0	0	0	UD1RPR2	UD1RPR1	UD1RPR0
FFFFF160H	UD1TIC	UD1TIF	UD1TMK	0	0	0	UD1TPR2	UD1TPR1	UD1TPR0
FFFFF162H	IIC0IC	IIC0IF	IIC0MK	0	0	0	IIC0PR2	IIC0PR1	IIC0PR0
	UD4SIC	UD4SIF	UD4SMK	0	0	0	UD4SPR2	UD4SPR1	UD4SPR0
FFFFF164H	ADIC	ADIF	ADMK	0	0	0	ADPR2	ADPR1	ADPR0
FFFFF166H	C0ERRIC	C0ERRIF	C0ERRMK	0	0	0	C0ERRPR2	C0ERRPR1	C0ERRPR0
FFFFF168H	C0WUPIC	C0WUPIF	C0WUPMK	0	0	0	C0WUPPR2	C0WUPPR1	C0WUPPR0
FFFFF16AH	C0RECIC	C0RECIF	C0RECMK	0	0	0	C0RECPR2	C0RECPR1	C0RECPR0
FFFFF16CH	C0TRXIC	C0TRXIF	C0TRXMK	0	0	0	C0TRXPR2	C0TRXPR1	C0TRXPR0
FFFFF16EH	DMAIC0	DMAIF0	DMAMK0	0	0	0	DMAPR02	DMAPR01	DMAPR00
FFFFF170H	DMAIC1	DMAIF1	DMAMK1	0	0	0	DMAPR12	DMAPR11	DMAPR10
FFFFF172H	DMAIC2	DMAIF2	DMAMK2	0	0	0	DMAPR22	DMAPR21	DMAPR20
FFFFF174H	DMAIC3	DMAIF3	DMAMK3	0	0	0	DMAPR32	DMAPR31	DMAPR30
FFFFF176H	KRIC	KRIF	KRMK	0	0	0	KRPR2	KRPR1	KRPR0
FFFFF178H	WTIIC	WTIIF	WTIMK	0	0	0	WTIPR2	WTIPR1	WTIPR0
FFFFF17AH	WTIC	WTIF	WTMK	0	0	0	WTPR2	WTPR1	WTPR0
FFFFF17EH	FLIC	FLIF	FLMK	0	0	0	FLPR2	FLPR1	FLPR0
FFFFF180H	PIC8	PIF8	PMK8	0	0	0	PPR82	PPR81	PPR80
FFFFF182H	PIC9	PIF9	PMK9	0	0	0	PPR92	PPR91	PPR90
FFFFF184H	PIC10	PIF10	PMK10	0	0	0	PPR102	PPR101	PPR100
FFFFF186H	TAB1OVIC	TAB1OVIF	TAB1OVMK	0	0	0	TAB1OVPR2	TAB1OVPR1	TAB1OVPR0
FFFFF188H	TAB1CCIC0	TAB1CCIF0	TAB1CCMK0	0	0	0	TAB1CCPR02	TAB1CCPR01	TAB1CCPR00
FFFFF18AH	TAB1CCIC1	TAB1CCIF1	TAB1CCMK1	0	0	0	TAB1CCPR12	TAB1CCPR11	TAB1CCPR10
FFFFF18CH	TAB1CCIC2	TAB1CCIF2	TAB1CCMK2	0	0	0	TAB1CCPR22	TAB1CCPR21	TAB1CCPR20
FFFFF18EH	TAB1CCIC3	TAB1CCIF3	TAB1CCMK3	0	0	0	TAB1CCPR32	TAB1CCPR31	TAB1CCPR30
FFFFF190H	UD2SIC	UD2SIF	UD2SMK	0	0	0	UD2SPR2	UD2SPR1	UD2SPR0
FFFFF192H	UD2RIC	UD2RIF	UD2RMK	0	0	0	UD2RPR2	UD2RPR1	UD2RPR0
FFFFF194H	UD2TIC	UD2TIF	UD2TMK	0	0	0	UD2TPR2	UD2TPR1	UD2TPR0
FFFFF196H	C1ERRIC	C1ERRIF	C1ERRMK	0	0	0	C1ERRPR2	C1ERRPR1	C1ERRPR0
FFFFF198H	C1WUPIC	C1WUPIF	C1WUPMK	0	0	0	C1WUPPR2	C1WUPPR1	C1WUPPR0
FFFFF19AH	C1RECIC	C1RECIF	C1RECMK	0	0	0	C1RECPR2	C1RECPR1	C1RECPR0
FFFFF19CH	C1TRXIC	C1TRXIF	C1TRXMK	0	0	0	C1TRXPR2	C1TRXPR1	C1TRXPR0
FFFFF19EH	PIC11	PIF11	PMK11	0	0	0	PPR112	PPR111	PPR110
FFFFF1A0H	PIC12	PIF12	PMK12	0	0	0	PPR122	PPR121	PPR120
FFFFF1A2H	PIC13	PIF13	PMK13	0	0	0	PPR132	PPR131	PPR130
FFFFF1A4H	PIC14	PIF14	PMK14	0	0	0	PPR142	PPR141	PPR140
FFFFF1A6H	UD3SIC	UD3SIF	UD3SMK	0	0	0	UD3SPR2	UD3SPR1	UD3SPR0
FFFFF1A8H	UD3RIC	UD3RIF	UD3RMK	0	0	0	UD3RPR2	UD3RPR1	UD3RPR0
FFFFF1AAH	UD3TIC	UD3TIF	UD3TMK	0	0	0	UD3TPR2	UD3TPR1	UD3TPR0
FFFFF1ACH	UD4RIC	UD4RIF	UD4RMK	0	0	0	UD4RPR2	UD4RPR1	UD4RPR0
FFFFF1AEH	UD4TIC	UD4TIF	UD4TMK	0	0	0	UD4TPR2	UD4TPR1	UD4TPR0

備考 表はV850ES/FK3(最大仕様)のものです。各製品がサポートする割り込みにつきましては表5 - 6を参照してください。

表5 - 5 割り込み制御レジスタ (xxICn) のアドレスとビット一覧 (3/3)

アドレス	レジスタ	ビット							
		(7)	(6)	5	4	3	2	1	0
FFFFF1B0H	TAB2OVIC	TAB2OVIF	TAB2OVMK	0	0	0	TAB2OVPR2	TAB2OVPR1	TAB2OVPR0
FFFFF1B2H	TAB2CCIC0	TAB2CCIF0	TAB2CCMK0	0	0	0	TAB2CCPR02	TAB2CCPR01	TAB2CCPR00
FFFFF1B4H	TAB2CCIC1	TAB2CCIF1	TAB2CCMK1	0	0	0	TAB2CCPR12	TAB2CCPR11	TAB2CCPR10
FFFFF1B6H	TAB2CCIC2	TAB2CCIF2	TAB2CCMK2	0	0	0	TAB2CCPR22	TAB2CCPR21	TAB2CCPR20
FFFFF1B8H	TAB2CCIC3	TAB2CCIF3	TAB2CCMK3	0	0	0	TAB2CCPR32	TAB2CCPR31	TAB2CCPR30
FFFFF1BAH	UD5SIC	UD5SIF	UD5SMK	0	0	0	UD5SPR2	UD5SPR1	UD5SPR0
FFFFF1BCH	CB2RIC	CB2RIF	CB2RMK	0	0	0	CB2RPR2	CB2RPR1	CB2RPR0
	UR5RIC	UR5RIF	UR5RMK	0	0	0	UR5RPR2	UR5RPR1	UR5RPR0
FFFFF1BEH	CB2TIC	CB2TIF	CB2TMK	0	0	0	CB2TPR2	CB2TPR1	CB2TPR0
	UD5TIC	UD5TIF	UD5TMK	0	0	0	UD5TPR2	UD5TPR1	UD5TPR0
FFFFF1C0H	C2ERRIC	C2ERRIF	C2ERRMK	0	0	0	C2ERRPR2	C2ERRPR1	C2ERRPR0
FFFFF1C2H	C2WUPIC	C2WUPIF	C2WUPMK	0	0	0	C2WUPPR2	C2WUPPR1	C2WUPPR0
FFFFF1C4H	C2RECIC	C2RECIF	C2RECMK	0	0	0	C2RECPR2	C2RECPR1	C2RECPR0
FFFFF1C6H	C2TRXIC	C2TRXIF	C2TRXMK	0	0	0	C2TRXPR2	C2TRXPR1	C2TRXPR0
FFFFF1C8H	C3ERRIC	C3ERRIF	C3ERRMK	0	0	0	C3ERRPR2	C3ERRPR1	C3ERRPR0
FFFFF1CAH	C3WUPIC	C3WUPIF	C3WUPMK	0	0	0	C3WUPPR2	C3WUPPR1	C3WUPPR0
FFFFF1CCH	C3RECIC	C3RECIF	C3RECMK	0	0	0	C3RECPR2	C3RECPR1	C3RECPR0
FFFFF1CEH	C3TRXIC	C3TRXIF	C3TRXMK	0	0	0	C3TRXPR2	C3TRXPR1	C3TRXPR0
FFFFF1D0H	PIC15	PIF15	PMK15	0	0	0	PPR152	PPR151	PPR150
FFFFF1D2H	TAA5OVIC	TAA5OVIF	TAA5OVMK	0	0	0	TAA5OVPR2	TAA5OVPR1	TAA5OVPR0
FFFFF1D4H	TAA5CCIC0	TAA5CCIF0	TAA5CCMK0	0	0	0	TAA5CCPR02	TAA5CCPR01	TAA5CCPR00
FFFFF1D6H	TAA5CCIC1	TAA5CCIF1	TAA5CCMK1	0	0	0	TAA5CCPR12	TAA5CCPR11	TAA5CCPR10
FFFFF1D8H	TAA6OVIC	TAA6OVIF	TAA6OVMK	0	0	0	TAA6OVPR2	TAA6OVPR1	TAA6OVPR0
FFFFF1DAH	TAA6CCIC0	TAA6CCIF0	TAA6CCMK0	0	0	0	TAA6CCPR02	TAA6CCPR01	TAA6CCPR00
FFFFF1DCH	TAA6CCIC1	TAA6CCIF1	TAA6CCMK1	0	0	0	TAA6CCPR12	TAA6CCPR11	TAA6CCPR10
FFFFF1DEH	TAA7OVIC	TAA7OVIF	TAA7OVMK	0	0	0	TAA7OVPR2	TAA7OVPR1	TAA7OVPR0
FFFFF1E0H	TAA7CCIC0	TAA7CCIF0	TAA7CCMK0	0	0	0	TAA7CCPR02	TAA7CCPR01	TAA7CCPR00
FFFFF1E2H	TAA7CCIC1	TAA7CCIF1	TAA7CCMK1	0	0	0	TAA7CCPR12	TAA7CCPR11	TAA7CCPR10
FFFFF1E4H	UD6SIC	UD6SIF	UD6SMK	0	0	0	UD6SPR2	UD6SPR1	UD6SPR0
FFFFF1E6H	CB3RIC	CB3RIF	CB3RMK	0	0	0	CB3RPR2	CB3RPR1	CB3RPR0
	UD6RIC	UR6RIF	UR6RMK	0	0	0	UR6RPR2	UR6RPR1	UR6RPR0
FFFFF1E8H	CB3TIC	CB3TIF	CB3TMK	0	0	0	CB3TPR2	CB3TPR1	CB3TPR0
	UD6TIC	UD6TIF	UD6TMK	0	0	0	UD6TPR2	UD6TPR1	UD6TPR0
FFFFF1EAH	UD7SIC	UD7SIF	UD7SMK	0	0	0	UD7SPR2	UD7SPR1	UD7SPR0
FFFFF1ECH	UD7RIC	UR7RIF	UR7RMK	0	0	0	UR7RPR2	UR7RPR1	UR7RPR0
FFFFF1EEH	UD7TIC	UD7TIF	UD7TMK	0	0	0	UD7TPR2	UD7TPR1	UD7TPR0
FFFFF1F0H	AD1IC	AD1IF	AD1MK	0	0	0	AD1PR2	AD1PR1	AD1PR0
FFFFF1F2H	C4ERRIC	C4ERRIF	C4ERRMK	0	0	0	C4ERRPR2	C4ERRPR1	C4ERRPR0
FFFFF1F4H	C4WUPIC	C4WUPIF	C4WUPMK	0	0	0	C4WUPPR2	C4WUPPR1	C4WUPPR0
FFFFF1F6H	C4RECIC	C4RECIF	C4RECMK	0	0	0	C4RECPR2	C4RECPR1	C4RECPR0
FFFFF1F8H	C4TRXIC	C4TRXIF	C4TRXMK	0	0	0	C4TRXPR2	C4TRXPR1	C4TRXPR0

備考 表はV850ES/FK3(最大仕様)のものです。各製品がサポートする割り込みにつきましては表5 - 6を参照してください。

各デバイスにおける各割り込み制御レジスタのアドレスと使用可否を表5 - 6に示します。

表5 - 6 製品ごとの割り込み制御レジスタ (xxICn) (1/4)

アドレス	レジスタ	V850ES/FE3, V850ES/FF3	V850ES/FG3		V850ES/FJ3			V850ES/FK3
			μ PD70F3374,	μ PD70F3376A, μ PD703375	μ PD70F3378	μ PD70F3379	μ PD70F3381, μ PD703380	
FFFFF110H	LVIIC							
FFFFF112H	LVIHIC							
FFFFF114H	PIC0							
FFFFF116H	PIC1							
FFFFF118H	PIC2							
FFFFF11AH	PIC3							
FFFFF11CH	PIC4							
FFFFF11EH	PIC5							
FFFFF120H	PIC6							
FFFFF122H	PIC7							
FFFFF124H	TAB0OVIC							
FFFFF126H	TAB0CCIC0							
FFFFF128H	TAB0CCIC1							
FFFFF12AH	TAB0CCIC2							
FFFFF12CH	TAB0CCIC3							
FFFFF12EH	TAA0OVIC							
FFFFF130H	TAA0CCIC0							
FFFFF132H	TAA0CCIC1							
FFFFF134H	TAA1OVIC							
FFFFF136H	TAA1CCIC0							
FFFFF138H	TAA1CCIC1							
FFFFF13AH	TAA2OVIC							
FFFFF13CH	TAA2CCIC0							
FFFFF13EH	TAA2CCIC1							
FFFFF140H	TAA3OVIC							
FFFFF142H	TAA3CCIC0							
FFFFF144H	TAA3CCIC1							
FFFFF146H	TAA4OVIC							
FFFFF148H	TAA4CCIC0							
FFFFF14AH	TAA4CCIC1							
FFFFF14CH	TM0EQIC0							
FFFFF14EH	CB0RIC							
FFFFF150H	CB0TIC							
FFFFF152H	CB1RIC							
FFFFF154H	CB1TIC							
FFFFF156H	UD0SIC							

備考 表内の記号は次を意味します。

- ：デバイスで使用できるレジスタ
- : デバイスで使用できないレジスタ

表5-6 製品ごとの割り込み制御レジスタ (xxICn) (2/4)

アドレス	レジスタ	V850ES/FE3, V850ES/FF3	V850ES/FG3		V850ES/FJ3			V850ES/FK3
			μ PD70F3374,	μ PD70F3376A, μ PD703375	μ PD70F3378	μ PD70F3379, μ PD703380	μ PD70F3381, μ PD703382	
FFFFF158H	UD0RIC							
FFFFF15AH	UD0TIC							
FFFFF15CH	UD1SIC							
FFFFF15EH	UD1RIC							
FFFFF160H	UD1TIC							
FFFFF162H	IIC0IC							
	UD4SIC	-	-		-			
FFFFF164H	ADIC							
FFFFF166H	C0ERRIC							
FFFFF168H	C0WUPIC							
FFFFF16AH	C0RECIC							
FFFFF16CH	C0TRXIC							
FFFFF16EH	DMAIC0							
FFFFF170H	DMAIC1							
FFFFF172H	DMAIC2							
FFFFF174H	DMAIC3							
FFFFF176H	KRIC							
FFFFF178H	WTIIC							
FFFFF17AH	WTIC							
FFFFF17EH	FLIC							
FFFFF180H	PIC8	-						
FFFFF182H	PIC9	-						
FFFFF184H	PIC10	-						
FFFFF186H	TAB1OVIC	-						
FFFFF188H	TAB1CCIC0	-						
FFFFF18AH	TAB1CCIC1	-						
FFFFF18CH	TAB1CCIC2	-						
FFFFF18EH	TAB1CCIC3	-						
FFFFF190H	UD2SIC	-						
FFFFF192H	UD2RIC	-						
FFFFF194H	UD2TIC	-						
FFFFF196H	C1ERRIC	-						
FFFFF198H	C1WUPIC	-						
FFFFF19AH	C1RECIC	-						
FFFFF19CH	C1TRXIC	-						
FFFFF19EH	PIC11	-	-	-				
FFFFF1A0H	PIC12	-	-	-				
FFFFF1A2H	PIC13	-	-	-				

備考 表内の記号は次を意味します。

: デバイスで使用できるレジスタ

- : デバイスで使用できないレジスタ

表5 - 6 製品ごとの割り込み制御レジスタ (xxICn) (3/4)

アドレス	レジスタ	V850ES/FE3, V850ES/FF3	V850ES/FG3		V850ES/FJ3			V850ES/FK3
			μ PD70F3374,	μ PD70F3376A, μ PD703375	μ PD70F3378	μ PD70F3379, μ PD703380	μ PD70F3381, μ PD703382	
FFFFF1A4H	PIC14	-	-					
FFFFF1A6H	UD3SIC	-	-		-			
FFFFF1A8H	UD3RIC	-	-		-			
FFFFF1AAH	UD3TIC	-	-		-			
FFFFF1ACH	UD4RIC	-	-		-			
FFFFF1AEH	UD4TIC	-	-		-			
FFFFF1B0H	TAB2OVIC	-	-	-				
FFFFF1B2H	TAB2CCIC0	-	-	-				
FFFFF1B4H	TAB2CCIC1	-	-	-				
FFFFF1B6H	TAB2CCIC2	-	-	-				
FFFFF1B8H	TAB2CCIC3	-	-	-				
FFFFF1BAH	UD5SIC	-	-	-	-			
FFFFF1BCH	CB2RIC	-	-	-				
	UR5RIC	-	-	-	-			
FFFFF1BEH	CB2TIC	-	-	-				
	UD5TIC	-	-	-	-			
FFFFF1C0H	C2ERRIC	-	-	-				
FFFFF1C2H	C2WUPIC	-	-	-				
FFFFF1C4H	C2RECIC	-	-	-				
FFFFF1C6H	C2TRXIC	-	-	-				
FFFFF1C8H	C3ERRIC	-	-	-	-			
FFFFF1CAH	C3WUPIC	-	-	-	-			
FFFFF1CCH	C3RECIC	-	-	-	-			
FFFFF1CEH	C3TRXIC	-	-	-	-			
FFFFF1D0H	PIC15	-	-	-	-	-	-	
FFFFF1D2H	TAA5OVIC	-	-	-	-	-	-	
FFFFF1D4H	TAA5CCIC0	-	-	-	-	-	-	
FFFFF1D6H	TAA5CCIC1	-	-	-	-	-	-	
FFFFF1D8H	TAA6OVIC	-	-	-	-	-	-	
FFFFF1DAH	TAA6CCIC0	-	-	-	-	-	-	
FFFFF1DCH	TAA6CCIC1	-	-	-	-	-	-	
FFFFF1DEH	TAA7OVIC	-	-	-	-	-	-	
FFFFF1E0H	TAA7CCIC0	-	-	-	-	-	-	
FFFFF1E2H	TAA7CCIC1	-	-	-	-	-	-	
FFFFF1E4H	UD6SIC	-	-	-	-	-	-	
FFFFF1E6H	CB3RIC	-	-	-	-	-	-	
	UD6RIC	-	-	-	-	-	-	

備考 表内の記号は次を意味します。

: デバイスで使用できるレジスタ

- : デバイスで使用できないレジスタ

表5 - 6 製品ごとの割り込み制御レジスタ (xxICn) (4/4)

アドレス	レジスタ	V850ES/FE3, V850ES/FF3	V850ES/FG3		V850ES/FJ3			V850ES/FK3
			μ PD70F3374,	μ PD70F3376A, μ PD703375	μ PD70F3378	μ PD70F3379, μ PD703380	μ PD70F3381, μ PD703382	
FFFFF1E8H	CB3TIC	-	-	-	-	-	-	
	UD6TIC	-	-	-	-	-	-	
FFFFF1EAH	UD7SIC	-	-	-	-	-	-	
FFFFF1ECH	UD7RIC	-	-	-	-	-	-	
FFFFF1EEH	UD7TIC	-	-	-	-	-	-	
FFFFF1F0H	AD1IC	-	-	-	-	-	-	
FFFFF1F2H	C4ERRIC	-	-	-	-	-	-	
FFFFF1F4H	C4WUPIC	-	-	-	-	-	-	
FFFFF1F6H	C4RECIC	-	-	-	-	-	-	
FFFFF1F8H	C4TRXIC	-	-	-	-	-	-	

備考 表内の記号は次を意味します。

: デバイスで使用できるレジスタ

- : デバイスで使用できないレジスタ

5.3.5 割り込みマスク・レジスタ (IMR0-IMR7)

マスカブル割り込みの割り込みマスク状態を設定します。

IMR_m ($m = 0-7$) レジスタのxxMKnビットは, xxICnレジスタのxxMKnビットとそれぞれ連結しています。

- 16ビットのIMR_mレジスタへのアクセス。

16ビットのIMR_mに, 16ビット単位でリード / ライト可能

8ビットのIMR_{mL} = IMR_m[7:0] レジスタに, 8ビットまたは1ビット単位でリード / ライト可能

8ビットのIMR_{mH} = IMR_m[15:8] レジスタに, 8ビットまたは1ビット単位でリード / ライト可能

- 8ビットのIMR_mレジスタへのアクセス。

8ビットのIMR_mまたはIMR_{mL}レジスタに, 8ビットまたは1ビット単位でリード / ライト可能

- 注意1.** 機能割り当てのないマスク・ビットの設定(1)を変更しないでください。レジスタに書き込みを行う場合は, 必ずこれらのマスク・ビットに“1”を設定してください。
2. デバイス・ファイルでは, xxICnレジスタのxxMKnビットを予約語として定義しています。したがって, xxMKnビットの名称でビット操作を行うと, IMR_mレジスタではなくxxICnレジスタを書き換えます(結果としてIMR_mレジスタも書き換わります)。

ビット位置	ビット名	機能
15-0	xxMKn	割り込みマスク・フラグの設定 0 : 割り込み処理を許可 1 : 割り込み処理を禁止(保留)

備考 xx: 各周辺ユニット識別名称 (5.3.4 割り込み制御レジスタ (xxICn) 参照)

(1) 割り込みマスク・レジスタ0 (IMR0)

リセット時 : FFFFH アドレス : IMR0 FFFFF100H
IMR0L FFFFF100H, IMR0H FFFFF101H

15	14	13	12	11	10	9	8	
IMR0	TAA00VMK	TAB0CCMK3	TAB0CCMK2	TAB0CCMK1	TAB0CCMK0	TAB00VMK	PMK7	PMK6
7	6	5	4	3	2	1	0	
	PMK5	PMK4	PMK3	PMK2	PMK1	PMK0	LVIHMK	LVILMK

(2) 割り込みマスク・レジスタ1 (IMR1)

リセット時 : FFFFH アドレス : IMR1 FFFFF102H
IMR1L FFFFF102H, IMR1H FFFFF103H

15	14	13	12	11	10	9	8	
IMR1	CB0RMK	TM0EQMK0	TAA4CCMK1	TAA4CCMK0	TAA40VMK	TAA3CCMK1	TAA3CCMK0	TAA30VMK
7	6	5	4	3	2	1	0	
	TAA2CCMK1	TAA2CCMK0	TAA20VMK	TAA1CCMK1	TAA1CCMK0	TAA10VMK	TAA0CCMK1	TAA0CCMK0

(3) 割り込みマスク・レジスタ2 (IMR2)

- V850ES/FE3
- V850ES/FF3
- V850ES/FG3のμ PD70F3374, 70F3375
- V850ES/FJ3のμ PD70F3378

リセット時 : FFFFH アドレス : IMR2 FFFFF104H
IMR2L FFFFF104H, IMR2H FFFFF105H

15	14	13	12	11	10	9	8	
IMR2	DMAMK0	C0TRXMK	C0RECMK	C0WUPMK	C0ERRMK	ADMK	IIC0MK	UD1TMK
	7	6	5	4	3	2	1	0
	UD1RMK	UD1SMK	UD0TMK	UD0RMK	UD0SMK	CB1TMK	CB1RMK	CB0TMK

- V850ES/FG3のμ PD70F3376A, 70F3377A
- V850ES/FJ3のμ PD70F3379, 70F3380, 70F3381, 70F3382
- V850ES/FK3

リセット時 : FFFFH アドレス : IMR2 FFFFF104H
IMR2L FFFFF104H, IMR2H FFFFF105H

15	14	13	12	11	10	9	8	
IMR2	DMAMK0	C0TRXMK	C0RECMK	C0WUPMK	C0ERRMK	ADMK	IIC0MK/ UD4SMK	UD1TMK
	7	6	5	4	3	2	1	0
	UD1RMK	UD1SMK	UD0TMK	UD0RMK	UD0SMK	CB1TMK	CB1RMK	CB0TMK

(4) 割り込みマスク・レジスタ3 (IMR3)

- V850ES/FE3
- V850ES/FF3

リセット時 : FFH アドレス : FFFFF106H

7	6	5	4	3	2	1	0	
IMR3L	FLMK	1	WTMK	WTIMK	KRMK	DMAMK3	DMAMK2	DMAMK1

注意 ピット6は必ず“1”をセットしてください。

- V850ES/FG3
- V850ES/FJ3
- V850ES/FK3

リセット時 : FFFFH アドレス : IMR3 FFFFF106H
IMR3L FFFFF106H, IMR3H FFFFF107H

15	14	13	12	11	10	9	8	
IMR3	TAB1CCMK3	TAB1CCMK2	TAB1CCMK1	TAB1CCMK0	TAB10VMK	PMK10	PMK9	PMK8
	7	6	5	4	3	2	1	0
	FLMK	1	WTMK	WTIMK	KRMK	DMAMK3	DMAMK2	DMAMK1

注意 ピット6は必ず“1”をセットしてください。

(5) 割り込みマスク・レジスタ4 (IMR4)

- V850ES/FG3のμPD70F3374, 70F3375

リセット時 : FFH アドレス : FFFFF108H

	7	6	5	4	3	2	1	0
IMR4L	1	C1TRXMK	C1RECMK	C1WUPMK	C1ERRMK	UD2TMK	UD2RMK	UD2SMK

注意 ピット7は必ず“1”をセットしてください。

- V850ES/FG3のμPD70F3376A, 70F3377A

リセット時 : FFFFH アドレス : IMR4 FFFFF108H
IMR4H FFFFF108H, IMR4L FFFFF109H

	15	14	13	12	11	10	9	8
IMR4	UD4TMK	UD4RMK	UD3TMK	UD3RMK	UD3SMK	PMK14	1	1
	7	6	5	4	3	2	1	0
	1	C1TRXMK	C1RECMK	C1WUPMK	C1ERRMK	UD2TMK	UD2RMK	UD2SMK

注意 ピット9-7は必ず“1”をセットしてください。

- V850ES/FJ3のμPD70F3378

リセット時 : FFFFH アドレス : IMR4 FFFFF108H
IMR4H FFFFF108H, IMR4L FFFFF109H

	15	14	13	12	11	10	9	8
IMR4	1	1	1	1	1	PMK14	PMK13	PMK12
	7	6	5	4	3	2	1	0
	PMK11	C1TRXMK	C1RECMK	C1WUPMK	C1ERRMK	UD2TMK	UD2RMK	UD2SMK

注意 ピット15-11は必ず“1”をセットしてください。

- V850ES/FJ3のμPD70F3379, 70F3380, 70F3381, 70F3382

- V850ES/FK3

リセット時 : FFFFH アドレス : IMR4 FFFFF108H
IMR4H FFFFF108H, IMR4L FFFFF109H

	15	14	13	12	11	10	9	8
IMR4	UD4TMK	UD4RMK	UD3TMK	UD3RMK	UD3SMK	PMK14	PMK13	PMK12
	7	6	5	4	3	2	1	0
	PMK11	C1TRXMK	C1RECMK	C1WUPMK	C1ERRMK	UD2TMK	UD2RMK	UD2SMK

(6) 割り込みマスク・レジスタ5 (IMR5)

- V850ES/FJ3のμPD70F3378

リセット時 : FFFFH アドレス : IMR5 FFFFF10AH
IMR5L FFFFF10AH, IMR5H FFFFF10BH

	15	14	13	12	11	10	9	8
IMR5	1	1	1	1	C2TRXMK	C2RECMK	C2WUPMK	C2ERRMK
	7	6	5	4	3	2	1	0
	CB2TMK	CB2RMK	1	TAB2CCMK3	TAB2CCMK2	TAB2CCMK1	TAB2CCMK0	TAB2OVMK

注意 ビット15-12, 5は必ず“1”をセットしてください。

- V850ES/FJ3のμPD70F3379, 70F3380, 70F3381, 70F3382
- V850ES/FK3

リセット時 : FFFFH アドレス : IMR5 FFFFF10AH
IMR5L FFFFF10AH, IMR5H FFFFF10BH

	15	14	13	12	11	10	9	8
IMR5	C3TRXMK	C3RECMK	C3WUPMK	C3ERRMK	C2TRXMK	C2RECMK	C2WUPMK	C2ERRMK
	7	6	5	4	3	2	1	0
	CB2TMK/ UD5TMK	CB2RMK/ UD5RMK	UD5SMK	TAB2CCMK3	TAB2CCMK2	TAB2CCMK1	TAB2CCMK0	TAB2OVMK

(7) 割り込みマスク・レジスタ6 (IMR6)

- V850ES/FJ3のμPD70F3381, 70F3382

リセット時 : FFH アドレス : FFFFF10CH

	7	6	5	4	3	2	1	0
IMR6H	1	1	1	CB3TMK	CB3RMK	1	1	1

注意 ビット7-5, 2-0は必ず“1”をセットしてください。

- V850ES/FK3

リセット時 : FFFFH アドレス : IMR6 FFFFF10CH
IMR6L FFFFF10CH, IMR6H FFFFF10DH

	15	14	13	12	11	10	9	8
IMR6	UD7TMK	UD7RMK	UD7SMK	CB3TMK/ UD6TMK	CB3RMK/ UD6RMK	UD6SMK	TAA7CCMK1	TAA7CCMK0
	7	6	5	4	3	2	1	0
	TAA7OVMK	TAA6CCMK1	TAA6CCMK0	TAA6OVMK	TAA5CCMK1	TAA5CCMK0	TAA5OVMK	PMK15

(8) 割り込みマスク・レジスタ7 (IMR7)

・V850ES/FK3

リセット時 : 1FH アドレス : FFFFF10EH

	7	6	5	4	3	2	1	0
IMR7L	0	0	0	C4TRXMK	C4RECMK	C4WUPMK	C4ERRMK	AD1MK

注意 ピット7-5は必ず“0”をセットしてください。

5.3.6 インサービス・プライオリティ・レジスタ (ISPR)

受け付け中のマスカブル割り込みの優先順位レベルを保持します。割り込み要求信号が受け付けられると、その割り込み要求信号の優先順位レベルに対応するビットがセット(1)され、サービス中保持されます。

RETI命令の実行時、ISPRレジスタ内でセット(1)されているビットのうち、最も優先順位の高い割り込み要求信号に対応するビットがハードウェアにより自動的にリセット(0)されます。ただし、ノンマスカブルの割り込み処理や例外処理からの復帰の場合はリセット(0)されません。

8/1ビット単位でリードのみ可能です。

リセット時 : 00H アドレス : FFFFF1FAH

	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	⑦
ISPR	ISPR7	ISPR6	ISPR5	ISPR4	ISPR3	ISPR2	ISPR1	ISPR0

注意 割り込み許可(EI)状態において、ISPRレジスタをリード中に割り込みを受け付けた場合、その割り込み受け付けによるビットがセット(1)されたあとのISPRレジスタ値がリードされることがあります。割り込み受け付け前のISPRレジスタの値を確実にリードしたい場合は、割り込み禁止(DI)状態でリードしてください。

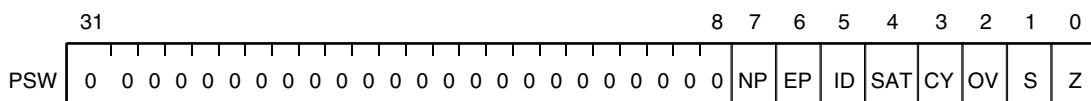
ビット位置	ビット名	機能
7-0	ISPR7-ISPR0	受け付け中の割り込みの優先順位 0 : 優先順位nの割り込み要求信号を受け付けていない 1 : 優先順位nの割り込み要求信号を受け付け中

備考 n : 0-7 (優先順位のレベル)

5.3.7 マスカブル割り込み状態フラグ (ID)

IDフラグはPSWのビット5です。マスカブル割り込みの動作状態を制御し、割り込み要求信号受け付けの許可／禁止制御情報を記憶します。

リセット時 : 00000020H



ビット位置	ビット名	機能
5	ID	マスカブル割り込み処理の指定 0 : マスカブル割り込み要求信号の受け付けを許可 1 : マスカブル割り込み要求信号の受け付けを禁止（保留） DI命令でセット(1), EI命令でリセット(0)されます。また, RETI命令およびPSWへのLDSR命令により値が書き換えられます。 ノンマスカブル割り込み要求信号および例外は、このフラグの状態に関係なく受け付けられます。また、マスカブル割り込み要求信号を受け付けると、IDフラグはハードウェアで自動的にセット(1)されます。 受け付け禁止期間中 (ID = 1) に発生した割り込み要求信号は、xxICnのxxIFnビットがセット(1)され、IDフラグがリセット(0)されると受け付けられます。

5.3.8 外部マスカブル割り込み

外部マスカブル割り込みINTPnは次のような特徴を備えています。

- ・アナログ入力フィルタ (2.6.1 アナログ・フィルタ処理を行う入力を参照してください)。
- ・INTP3用ディジタル入力フィルタ (2.6.2 ディジタル・フィルタ処理を行う入力を参照してください)。
- ・各割り込み入力の検出方法を選択可能。

立ち上がりエッジ

立ち下がりエッジ

両エッジ（立ち上がりエッジと立ち下がりエッジ）

外部割り込みイベントの設定に関しては、5.4 外部割込みエッジ検出設定を参照してください。

5.4 外部割り込みエッジ検出設定

本マイクロコントローラは外部マスカブル割り込みINTPnと1つのノンマスカブル割り込み（NMI）を備えています。

INTPnとNMIは、立ち上がりエッジ、立ち下がりエッジ、または両エッジの検出時に割り込みを発生するように設定できます。2つのレジスタで各外部割り込みに対するエッジとレベルを指定します。

注意 リセット後のNMIは、エッジ件出なしになっているので、INTF0、INTR0レジスタで有効エッジを許可しないと、割り込み要求信号を受け付けません。

(1) 外部割り込み立ち上がりエッジ指定レジスタ (INTRm)

INTRmレジスタは、対応する外部割り込み信号のエッジ検出に立ち上がりエッジを指定します。

8ビットまたは1ビット単位でリード／ライト可能です。

16ビット・レジスタとして使用するときは、16ビット単位でリード／ライト可能です。

ビット位置	ビット名	機能
15-0	INTRm [15 : 0]	外部割り込み信号のエッジ検出を指定します。 0：立ち上がりエッジを検出しない。 1：立ち上がりエッジを検出。

- 注意 1. 端子の機能を外部割り込み機能（兼用機能）からポート機能に変更した場合、エッジが検出される場合があります。したがって、INTRm.INTRmk ($k = 0-15$) を0にクリアしてからポート・モードを設定してください。
2. 外部割り込み入力には、アナログ・ディレイによるノイズ除去回路を内蔵します。

(2) 外部割り込み立ち下がりエッジ指定レジスタ (INTFm)

INTFmレジスタは、対応する外部割り込み信号のエッジ検出に立ち下がりエッジを指定します。

このレジスタは、8ビットまたは1ビット単位で読み出しおよび書き込みができます。

16ビット・レジスタとして使用するときは、16ビット単位で読み出しおよび書き込みができます。

ビット位置	ビット名	機能
15-0	INTFm [15 : 0]	外部割り込み信号のエッジ検出を指定します。 0：立ち下がりエッジを検出しない。 1：立ち下がりエッジを検出。

- 注意 1. 端子の機能を外部割り込み機能（兼用機能）からポート機能に変更した場合、エッジが検出される場合があります。したがって、INTFm.INTFmk ($k = 0-15$) を0にクリアしてからポート・モードを設定してください。
2. 外部割り込み入力には、アナログ・ディレイによるノイズ除去回路を内蔵します。

備考 V850ES/FE3, V850ES/FF3 : $m = 0, 3, 9$

V850ES/FG3の μ PD70F3374, 70F3375 : $m = 0, 1, 3, 9$

V850ES/FG3の μ PD70F3376A, 70F3377A : $m = 0, 1, 3, 4, 9$

V850ES/FJ3の μ PD70F3378 : $m = 0, 1, 3, 6, 8, 9$

V850ES/FJ3の μ PD70F3379, 70F3380, 70F3381, 70F3382, V850ES/FK3 : $m = 0, 1, 3, 4, 6, 8, 9$

(a) 外部割り込みエッジ指定レジスタ0 (INTF0/INTR0)

リセット時 : 00H アドレス : FFFFFC20H

	7	6	5	4	3	2	1	0
INTR0	0	INTR06	INTR05	INTR04	INTR03	INTR02	0	0
	INTP3	INTP2	INTP1	INTP0	NMI			

リセット時 : 00H アドレス : FFFFFC00H

	7	6	5	4	3	2	1	0
INTF0	0	INTF06	INTF05	INTF04	INTF03	INTF02	0	0
	INTP3	INTP2	INTP1	INTP0	NMI			

(b) 外部割り込みエッジ指定レジスタ1 (INTF1/INTR1)

- V850ES/FG3
- V850ES/FJ3
- V850ES/FK3

リセット時 : 00H アドレス : FFFFFC02H

	7	6	5	4	3	2	1	0
INTF1	0	0	0	0	0	0	INTF11	INTF10
							INTP10	INTP9

リセット時 : 00H アドレス : FFFFFC22H

	7	6	5	4	3	2	1	0
INTR1	0	0	0	0	0	0	INTR11	INTR10
							INTP10	INTP9

(c) 外部割り込みエッジ指定レジスタ3 (INTF3/INTR3)

- V850ES/FE3
- V850ES/FF3

リセット時 : 00H アドレス : FFFFFC26H

	7	6	5	4	3	2	1	0
INTR3L	0	0	0	0	0	0	INTR31	0

INTP7

リセット時 : 00H アドレス : FFFFFC06H

	7	6	5	4	3	2	1	0
INTF3L	0	0	0	0	0	0	INTF31	0

INTP7

- V850ES/FG3
- V850ES/FJ3
- V850ES/FK3

リセット時 : 0000H アドレス : INTR3 FFFFFC26H
INTR3L FFFFFC26H, INTR3H FFFFFC27H

	15	14	13	12	11	10	9	8
INTR3	0	0	0	0	0	0	INTR39	0

INTP8

	7	6	5	4	3	2	1	0
INTR3	0	0	0	0	0	0	INTR31	0

INTP7

リセット時 : 0000H アドレス : INTF3 FFFFFC06H
INTF3L FFFFFC06H, INTF3H FFFFFC07H

	15	14	13	12	11	10	9	8
INTF3	0	0	0	0	0	0	INTF39	0

INTP8

	7	6	5	4	3	2	1	0
INTF3	0	0	0	0	0	0	INTF31	0

INTP7

(d) 外部割り込みエッジ指定レジスタ4 (INTF4/INTR4)

- V850ES/FG3の μ PD70F3376A, 70F3377A
- V850ES/FJ3の μ PD70F3379, 70F3380, 70F3381, 70F3382
- V850ES/FK3

リセット時 : 00H アドレス : FFFFFC28H

	7	6	5	4	3	2	1	0	
INTR4	0	0	0	0	0	0	0	INTR40	INTP14

リセット時 : 00H アドレス : FFFFFC08H

	7	6	5	4	3	2	1	0	
INTF4	0	0	0	0	0	0	0	INTF40	INTP14

(e) 外部割り込みエッジ指定レジスタ6 (INTF6/INTR6)

- V850ES/FJ3

リセット時 : 00H アドレス : FFFFFC2CH

	7	6	5	4	3	2	1	0	
INTR6L	0	0	0	0	0	INTR62	INTR61	INTR60	INTP13 INTP12 INTP11

リセット時 : 00H アドレス : FFFFFC0CH

	7	6	5	4	3	2	1	0	
INTF6L	0	0	0	0	0	INTF62	INTF61	INTF60	INTP13 INTP12 INTP11

- V850ES/FK3

リセット時 : 0000H アドレス : INTR6 FFFFFC2CH
INTR6L FFFFFC2CH, INTR6H FFFFFC2DH

	15	14	13	12	11	10	9	8	
INTR6	INTR615	0	0	0	0	0	0	0	INTP15

	7	6	5	4	3	2	1	0	
	0	0	0	0	INTR63	INTR62	INTR61	INTR60	INTP13 INTP13 INTP12 INTP11

リセット時 : 0000H アドレス : INTF6 FFFFFC0CH
INTF6L FFFFFC0CH, INTF6H FFFFFC0DH

	15	14	13	12	11	10	9	8	
INTF6	INTF615	0	0	0	0	0	0	0	INTP15

	7	6	5	4	3	2	1	0	
	0	0	0	0	INTF63	INTF62	INTF61	INTF60	INTP13 INTP13 INTP12 INTP11

(f) 外部割り込みエッジ指定レジスタ8 (INTF8/INTR8)

- V850ES/FJ3
- V850ES/FK3

リセット時 : 00H アドレス : FFFFFC30H

	7	6	5	4	3	2	1	0	
INTR8	0	0	0	0	0	0	0	INTR80	INTP14

リセット時 : 00H アドレス : FFFFFC10H

	7	6	5	4	3	2	1	0	
INTF8	0	0	0	0	0	0	0	INTF80	INTP14

(g) 外部割り込みエッジ指定レジスタ9H (INTF9H/INTR9H)

リセット時 : 00H アドレス : FFFFFC33H

	7	6	5	4	3	2	1	0	
INTR9H	INTR915	INTR914	INTR913	0	0	0	0	0	INTP6 INTP5 INTP4

リセット時 : 00H アドレス : FFFFFC13H

	7	6	5	4	3	2	1	0	
INTF9H	INTF915	INTF914	INTF913	0	0	0	0	0	INTP6 INTP5 INTP4

5.5 ソフトウェア例外

ソフトウェア例外は、CPUのTRAP命令の実行により発生する例外で、常に受け付け可能です。

5.5.1 動 作

ソフトウェア例外が発生した場合、CPUは次の処理を行い、ハンドラ・ルーチンへ制御を移します。

復帰PCをEIPCに退避します。

現在のPSWをEIPSWに退避します。

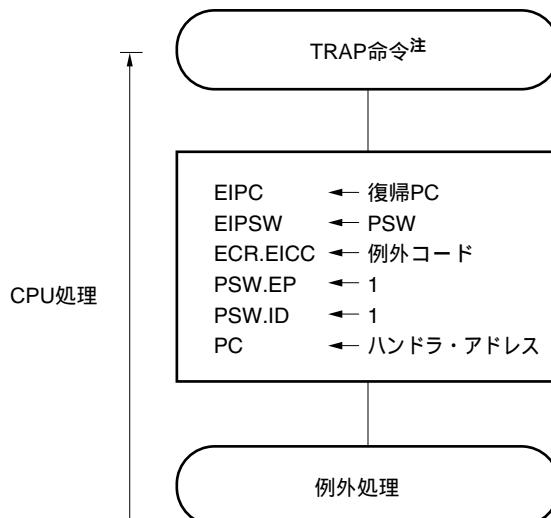
ECR（割り込み要因）の下位16ビット（EICC）に例外コードを書き込みます。

PSWのEP, IDビットをセットします。

PCにソフトウェア例外に対するハンドラ・アドレス（00000040Hまたは00000050H）をセットし、制御を移します。

ソフトウェア例外の処理形態を、図5-10に示します。

図5-10 ソフトウェア例外の処理形態



注 TRAP命令フォーマット：TRAP vector（ただし、vectorは0-1FHの値）

ハンドラ・アドレスは、TRAP命令のオペランド（vector）によって決まります。vectorが0-0FHの場合は00000040Hとなり、10-1FHの場合は00000050Hとなります。

5.5.2 復 帰

ソフトウェア例外処理からの復帰は、RETI命令により行います。

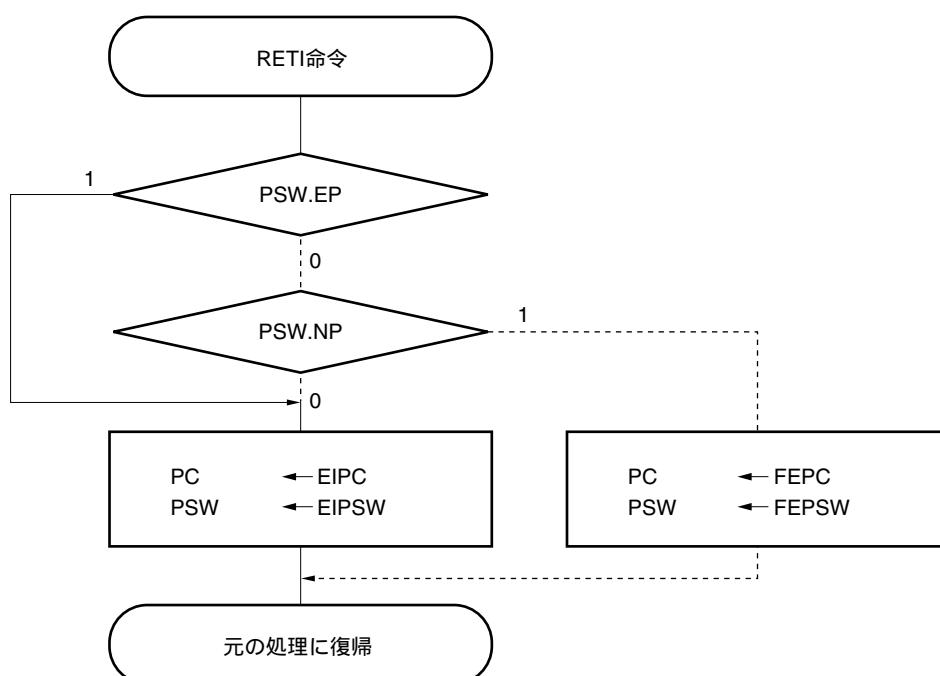
RETI命令の実行により、CPUは次の処理を行い復帰PCのアドレスへ制御を移します。

PSWのEPビットは1なので、EIPC, EIPSWから復帰PC, PSWを取り出します。

取り出した復帰PCのアドレス、PSWの状態に制御を移します。

RETI命令の処理形態を図5-11に示します。

図5-11 RETI命令の処理形態



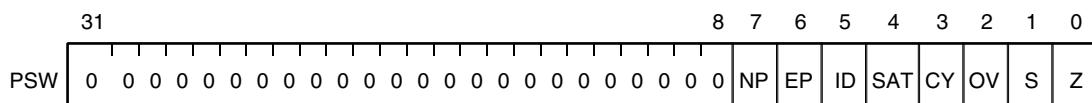
注意 ソフトウェア例外処理中にLDSR命令によりPSW.EPビット、PSW.NPビットを変更した場合には、RETI命令による復帰時にPCとPSWを正常にリストアするために、RETI命令の直前で、LDSR命令を使用してPSW.EP = 1に戻しておく必要があります。

備考 CPUは実線のフローで処理します。

5.5.3 例外状態フラグ (EP)

EPフラグは、PSWのビット6です。EPフラグは例外処理中であることを示すステータス・フラグです。例外の発生でセットされます。

リセット時 : 00000020H



ビット位置	ビット名	機能
6	EP	例外処理状態 0 : 例外処理中でない 1 : 例外処理中

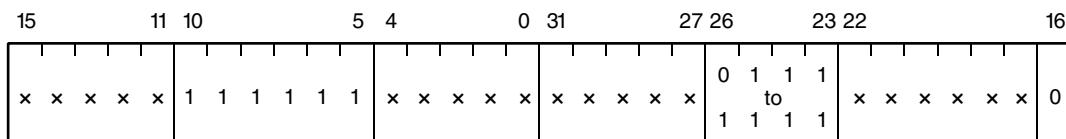
5.6 例外トラップ

例外トラップは、命令の不正実行が発生した場合に要求される割り込みです。本マイクロコントローラでは、不正命令コード・トラップ (ILGOP : Illegal Opcode Trap) が例外トラップに当たります。

5.6.1 不正命令コード

不正命令は、命令のオペコード（ビット10-5）が11111Bで、サブオペコード（ビット26-23）が0111B-1111B、サブオペコード（ビット16）が0Bであるものです。この不正命令に当てはまる命令を実行したときに、例外トラップが発生します。

注意 不正命令コードには、将来、新規に命令を割り当てる可能性があるため、使用しないことを推奨します。



備考 X : 任意

(1) 動 作

例外トラップが発生した場合、CPUは次の処理を行い、ハンドラ・ルーチンへ制御を移します。

復帰PCをDBPCに退避します。

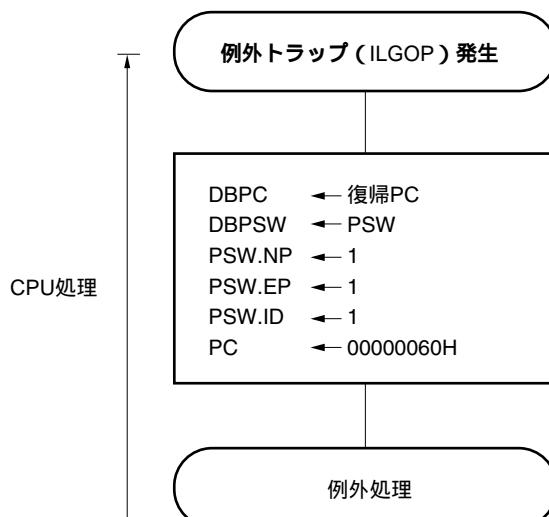
現在のPSWをDBPSWに退避します。

PSWのNP, EP, IDビットをセットします。

PCに例外トラップに対するハンドラ・アドレス (00000060H) をセットし、制御を移します。

例外トラップの処理形態を図5 - 12に示します。

図5 - 12 例外トラップの処理形態



(2) 復 帰

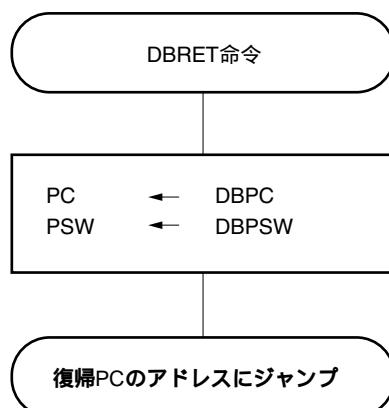
例外トラップからの復帰は、DBRET命令により行われます。DBRET命令の実行により、CPUは次の処理を行い復帰PCのアドレスを制御します。

DBPC, DBPSWから復帰PC, PSWを取り出します。

取り出した復帰PC, PSWのアドレスに制御を移します。

例外トラップからの復帰の処理形態を図5-13に示します。

図5-13 例外トラップからの復帰の処理形態



5.6.2 デバッグ・トラップ

デバッグ・トラップは、DBTRAP命令の実行により発生する常時受け付けが可能な例外です。

デバッグ・トラップが発生した場合、CPUは次の処理を行います。

(1) 動 作

デバッグ・トラップが発生した場合、CPUは制御をデバッグ・モニタ・ルーチンに移し、デバッグ・モードに遷移します。

復帰PCをDBPCに退避します。

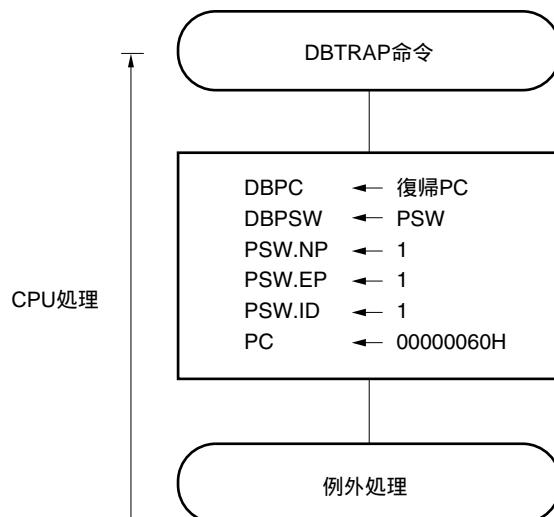
現在のPSWをDBPSWに退避します。

PSWのNP, EP, IDビットをセットします。

PCにデバッグ・トラップに対するハンドラ・アドレス(00000060H)をセットし、制御を移します。

デバッグ・トラップの処理形態を図5-14に示します。

図5-14 デバッグ・トラップの処理形態



(2) 復 帰

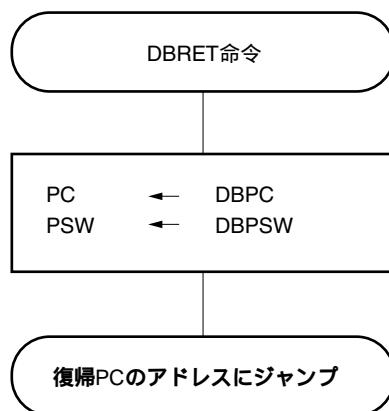
デバッグ・トラップからの復帰は、DBRET命令により行われます。DBRET命令の実行により、CPUは次の処理を行い復帰PCのアドレスを制御します。

DBPC, DBPSWから復帰PC, PSWを取り出します。

取り出した復帰PC, PSWのアドレスに制御を移します。

デバッグ・トラップからの復帰の処理形態を図5-15に示します。

図5-15 デバッグ・トラップからの復帰の処理形態



注意 DBPCとDBPSWへは、DBTRAP命令または不正命令を実行してからDBRET命令を実行するまでの期間のみアクセス可能です。

5.7 多重割り込み処理制御

多重割り込み処理制御は、現在割り込み要求を処理中に高位の優先順位を持つ割り込み要求が発生した場合、高位の優先順位の割り込みを受け付けて先に処理する制御です。

割り込み処理中に低位の優先順位を持つ割り込み要求が発生した場合は、その割り込み要求は保留されます。

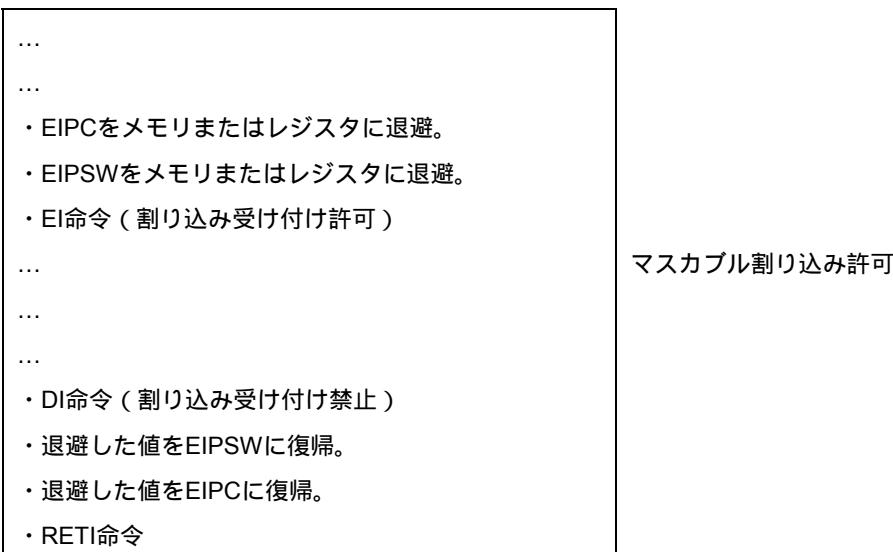
マスカブル割り込み要求の多重処理制御は、割り込みが許可状態(ID = 0)の場合に実行されます。したがって、多重割り込みを実行する場合、割り込み処理ルーチンも割り込み許可状態(ID = 0)になっている必要があります。

マスカブル割り込み許可またはソフトウェア例外が、マスカブル割り込みまたはソフトウェア例外処理プログラム中で発生した場合は、EIPCとEIPSWを退避しなければなりません。

これは次の手順で行います。

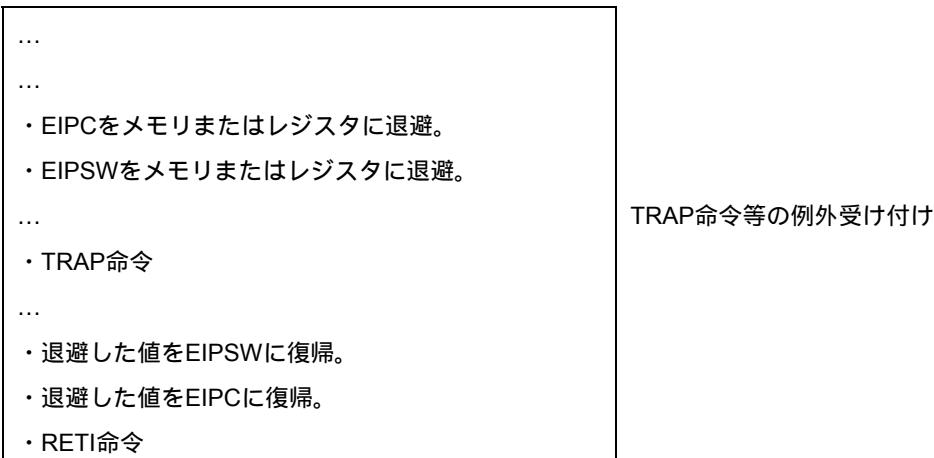
(1) 処理プログラム中のマスカブル割り込み受け付け

マスカブル割り込みまたは例外処理プログラム



(2) 処理プログラム中の例外発生

マスカブル割り込みまたは例外処理プログラム



多重割り込み処理制御の優先順位には、各マスカブル割り込み要求に0から7まで8つのレベルがあり（0が最高位の優先順位），ソフトウェアで希望の優先レベルを設定できます。優先レベルは、各マスカブル割り込み要求に具備された割り込み制御レジスタ（PICn）のPPRn0-PPRn2ビットを使用して設定します。システム・リセット後、割り込み要求はPMKnビットでマスクされ、優先レベルはPPRn0-PPRn2ビットで7に設定されます。

マスカブル割り込みの優先レベルは次のようにになります。

（高）レベル0 > レベル1 > レベル2 > レベル3 > レベル4 >
レベル5 > レベル6 > レベル7（低い）

多重割り込み制御によって一時停止（サスPEND）された割り込み処理は、高位の優先順位の割り込みの処理が完了し、RETI命令が実行されると再開されます。

保留された割り込み要求は、現在の割り込み処理が完了し、RETI命令が実行されると受け付けられます。

注意 ノンマスカブル割り込み処理ルーチンでは（RETI命令が実行されるまで）、マスカブル割り込みはサスPENDされ受け付けられません。

5.8 CPUの割り込み応答時間

表5-7, 5-8は割り込み応答時間（割り込み発生から処理開始までの時間）を示しています。

次の場合を除き、CPUの割り込み応答時間は、最小5クロックとなります。

STOPモード時

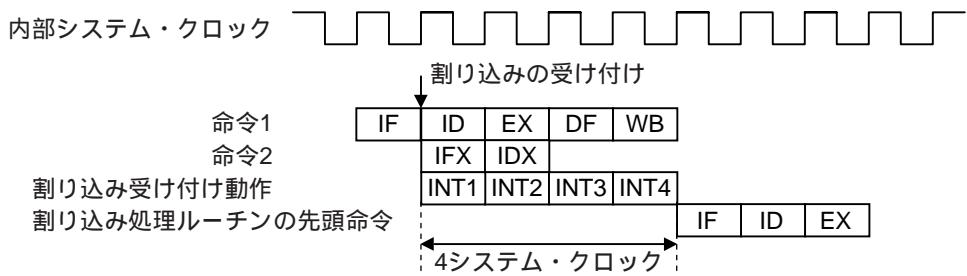
外部バス・アクセス時

割り込み要求非サンプル命令（5.9 CPUが割り込みを受け付けない期間参照）が連続しているとき

割り込み制御レジスタへのアクセス時

- ・フラッシュROM容量 256 KB以下の製品でかつ、LATENCYオプション設定 = 0（レイテンシ2）の場合

図5-16 割り込み要求信号受け付け時のパイプライン動作例1（概略）



備考1. INT1-INT4：割り込み受け付け処理

IFX：無効となる命令フェッチ

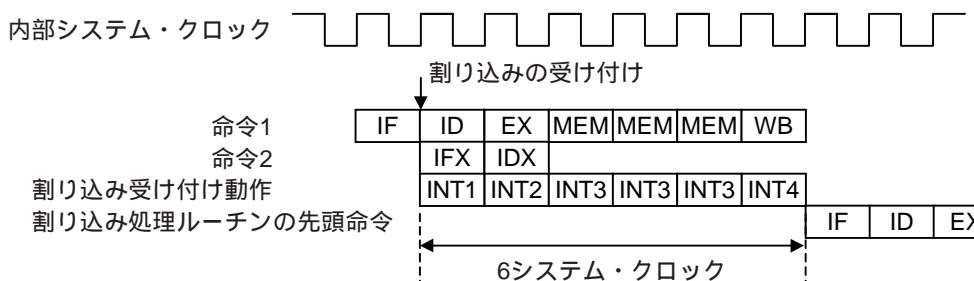
IDX：無効となる命令デコード

2. 4サイクルの割り込み受け付け時間中に同じ割り込みが発生すると、新しい割り込みは破棄されます。同じ要因からの次の割り込みは、4サイクル後に登録されます。

表5-7 割り込み応答時間1

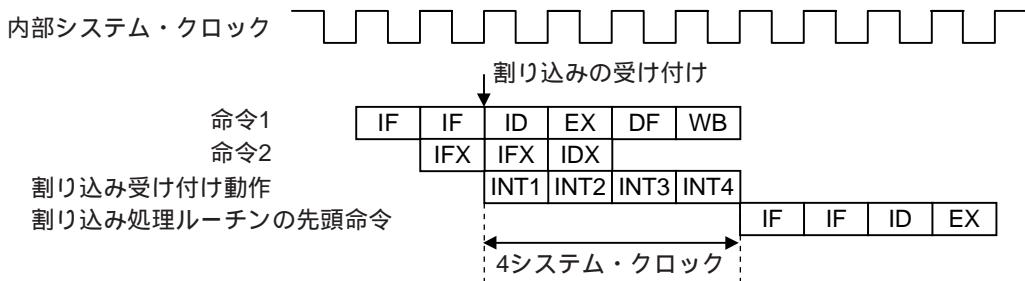
割り込み応答時間（内部システム・クロック）			条件
	内部割り込み	外部割り込み	
最小	4	4 + アナログ・ディレイ時間	次の場合は除きます。 ・IDLE1/IDLE2/STOPモード時 ・外部バス・アクセス時
最大	6	6 + アナログ・ディレイ時間	・割り込み要求非サンプル命令が連続しているとき ・割り込み制御レジスタへのアクセス時 ・プログラマブル周辺I/Oレジスタへのアクセス時 ・周辺I/Oレジスタへのアクセス時

図5-17 割り込み要求信号受け付け時のパイプライン動作例1（最大時）



- ・フラッシュROM容量 256 KB以下の製品でかつ，LATENCYオプション設定 = 1 (レイテンシ3) の場合
- ・フラッシュROM容量 384 KB以上の製品

図5 - 18 割り込み要求信号受け付け時のパイプライン動作例2(概略)

**備考1.** INT1-INT4 : 割り込み受け付け処理

IFX : 無効となる命令フェッチ

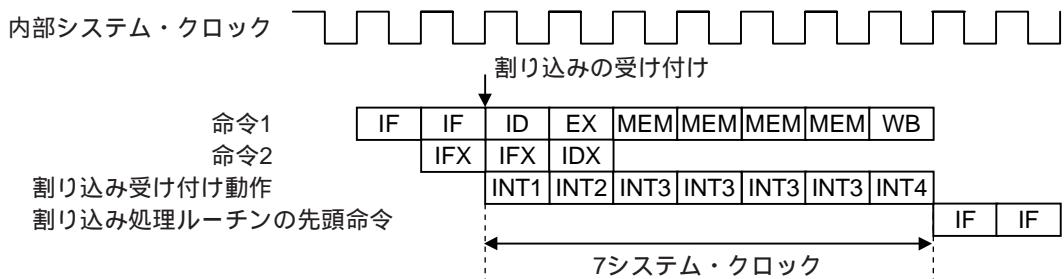
IDX : 無効となる命令デコード

2. 4サイクルの割り込み受け付け時間中に同じ割り込みが発生すると，新しい割り込みは破棄されます。同じ要因からの次の割り込みは，4サイクル後に登録されます。

表5 - 8 割り込み応答時間2

割り込み応答時間 (内部システム・クロック)		条件
	内部割り込み	
最小	4	次の場合は除きます。 ・IDLE1/IDLE2/STOPモード時 ・外部バス・アクセス時 ・割り込み要求非サンプル命令が連続しているとき ・割り込み制御レジスタへのアクセス時 ・周辺I/Oレジスタへのアクセス時 ・プログラマブル周辺I/Oレジスタへのアクセス時
最大	7	7 + アナログ・ディレイ時間

図5 - 19 割り込み要求信号受け付け時のパイプライン動作例2(最大時)



5.9 CPUが割り込みを受け付けない期間

CPUの割り込み受け付けは、命令の実行中に行います。ただし、割り込み要求非サンプル命令とその次の命令の間では、割り込みを受け付けません（割り込みは保留されます）。

割り込み要求非サンプル命令は次のとおりです。

EI命令

DI命令

LDSR reg2, 0x5命令（対PSW）

次のレジスタに対するストア命令およびSET1, NOT1, CLR1命令

- ・割り込み関連のレジスタ：

 割り込み制御レジスタ (xxICn) , 割り込みマスク・レジスタ0-7 (IMR0-IMR7)

- ・インサービス・プライオリティ・レジスタ (ISPR)
- ・コマンド・レジスタ (PRCMD)
- ・パワー・セーブ・コントロール・レジスタ (PSC)
- ・オンチップ・デバッグ・モード・レジスタ (OCDM)
- ・周辺エミュレーション・レジスタ1 (PEMU1)

備考 xx : 各周辺ユニット識別名称

n : 周辺ユニット番号

（表5-5 割り込み制御レジスタ (xxICn) のアドレスとピット一覧参照）

第6章 キー割り込み機能

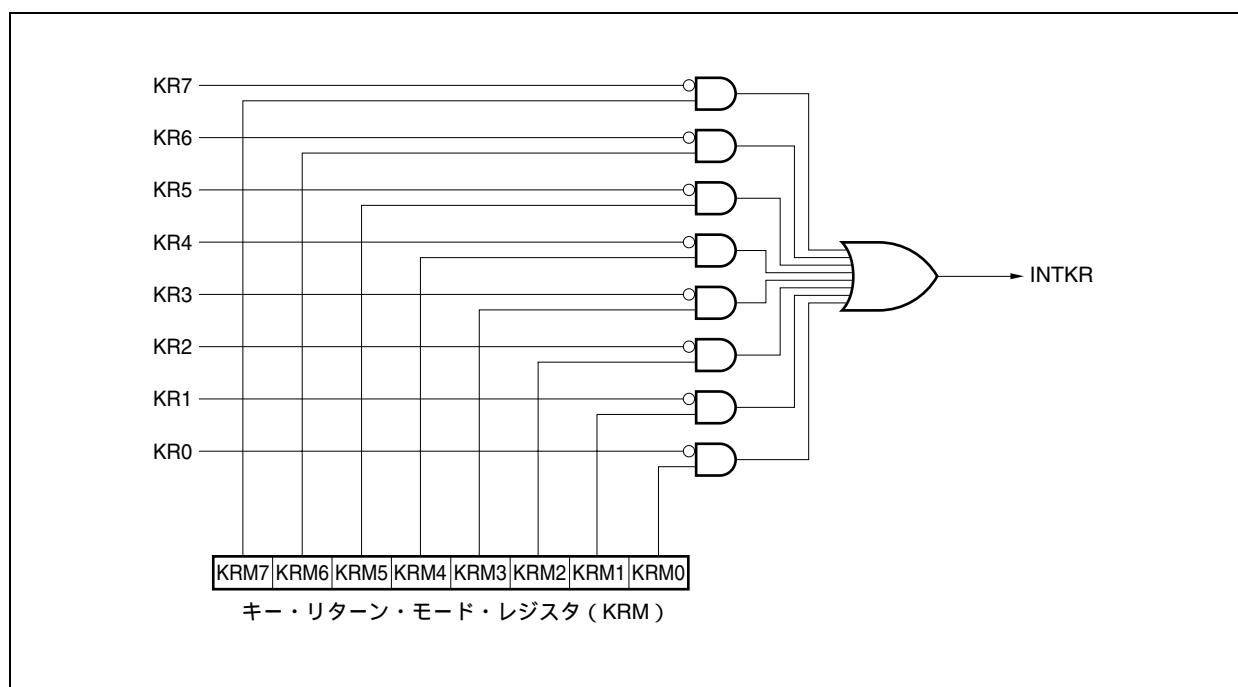
6.1 機能

キー・リターン・モード・レジスタ (KRM) の設定により、キー入力端子 (KR0-KR7) に立ち下がりエッジを入力することによって、キー割り込み要求信号 (INTKR) を発生させることができます。

表6-1 キー・リターン検出端子の割り当て

フラグ	設定される端子
KRM0	KR0信号を1ビット単位で制御
KRM1	KR1信号を1ビット単位で制御
KRM2	KR2信号を1ビット単位で制御
KRM3	KR3信号を1ビット単位で制御
KRM4	KR4信号を1ビット単位で制御
KRM5	KR5信号を1ビット単位で制御
KRM6	KR6信号を1ビット単位で制御
KRM7	KR7信号を1ビット単位で制御

図6-1 キー・リターンのブロック図



6.2 制御レジスタ

(1) キー・リターン・モード・レジスタ (KRM)

KRMレジスタは、KRM0-KRM7ビットでそれぞれKR0-KR7信号を制御するレジスタです。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

アクセス： 8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

アドレス： FFFFFF300H

初期値： 00H。リセットにより初期化されます。

	7	6	5	4	3	2	1	0
KRM	KRM7	KRM6	KRM5	KRM4	KRM3	KRM2	KRM1	KRM0
KRMn	キー・リターン・モードの制御							
0	キー・リターン信号を検出しない							
1	キー・リターン信号を検出する							

注意 KRMレジスタを書き換える場合は、一度00Hとしてから書き換えてください。

備考 兼用端子の設定は第2章 端子機能を参照してください。

6.3 注意事項

- (1) KR0-KR7端子のうち1つでもロウ・レベルが入力されると、別の端子の立ち下がりエッジを入力してもINTKR信号が発生しません。
- (2) KRMレジスタを変更すると、割り込み要求信号 (INTKR) が発生する場合があります。したがって、あらかじめ割り込みを禁止 (DI) してからKRMレジスタを変更し、割り込み要求フラグ (KRIC.KRIFビット) をクリア (0) してから、割り込みを許可 (EI) してください。
- (3) キー割り込み機能を使用する場合は、必ずポート端子をキー・リターン用端子に設定してからKRMレジスタで動作を許可してください。また、逆にキー・リターン用端子からポート端子に切り替える場合は、KRMレジスタで動作を禁止してからポート端子の設定を行ってください。

第7章 フラッシュ・メモリ

本マイクロコントローラはフラッシュ・メモリを内蔵しています。

シリーズ	製品名	コード・フラッシュ	データ・フラッシュ
V850ES/FE3	μ PD70F3370A	128 KB	32 KB
	μ PD70F3371	256 KB	32 KB
V850ES/FF3	μ PD70F3372	128 KB	32 KB
	μ PD70F3373	256 KB	32 KB
V850ES/FG3	μ PD70F3374	128 KB	32 KB
	μ PD70F3375	256 KB	32 KB
	μ PD70F3376A	384 KB	32 KB
	μ PD70F3377A	512 KB	32 KB
V850ES/FJ3	μ PD70F3378	256 KB	32 KB
	μ PD70F3379	384 KB	32 KB
	μ PD70F3380	512 KB	32 KB
	μ PD70F3381	768 KB	32 KB
	μ PD70F3382	1024 KB	32 KB
V850ES/FK3	μ PD70F3383	512 KB	32 KB
	μ PD70F3384	768 KB	32 KB
	μ PD70F3385	1024 KB	32 KB

コード・フラッシュ・メモリは、プログラム・コードや定数データを格納します。

データ・フラッシュ・メモリは、外部メモリ領域の一部として割り当てられます。またデータ・フラッシュ・メモリは、当社ライブラリ（対応予定）によるプログラム動作中のプログラミングが可能です。

フラッシュ・メモリを使用した開発環境および用途として次のようなことが考えられます。

- ・ターゲット・システムにマイクロコントローラを半田実装後、ソフトウェアの変更可能
- ・ソフトウェアを区別することで少量多品種生産が容易
- ・ユーザ規格ごとに量産立ち上げ時のデータ調整が容易
- ・在庫管理が容易
- ・出荷後のソフトウェアのアップデートが容易

フラッシュ・メモリは次のさまざまな方法で書き換え可能です。

- ・専用のアダプタ（FAシリーズ）に実装し、専用のフラッシュ・ライタとのシリアル・インターフェース通信を介しての書き換え（オフボード・プログラミング）
- ・ターゲット・システムに実装し、専用のフラッシュ・ライタとのシリアル・インターフェース通信を介しての書き換え（オンボード・プログラミング）
- ・ユーザ・プログラミング（アプリケーション）によるフラッシュ・メモリの書き換え（セルフ・プログラミング）

備考 FAシリーズは、(株)内藤電誠町田製作所の製品です。

また、フラッシュ・メモリには、本製品のオプション機能を設定するオプション・バイト領域があります。

オプション・バイトでは、低速内蔵発振器のソフトウェアによる停止許可／禁止設定や、ウォッチドッグ・タイマ2などの動作モード設定を行います。

フラッシュ・メモリにプログラムを書き込む際、必ずオプション・バイト領域にデータを設定してください。詳細は、[第8章 オプション・バイト](#)を参照してください。

7.1 コード・フラッシュ・メモリ

7.1.1 コード・フラッシュ・メモリの特徴

- 4バイト / 1クロック・アクセス（命令フェッチ時）
- 全ブロック一括消去、複数ブロック一括消去、または单一ブロック消去が可能
- 単一電源による消去／書き込みが可能
- 専用フラッシュ・ライタとの各種シリアル・インターフェースを介しての通信が可能
- オンボード、オフボード・プログラミングが可能
- セルフ・プログラミングによるフラッシュ・メモリ・プログラミングが可能
- フラッシュ・メモリの書き換え禁止機能をサポート（セキュリティ機能）
- ブート・スワップ機能により、セルフ・プログラミングによる全フラッシュ・メモリ領域のセキュアな書き換えが可能
- セルフ・プログラミングの割り込み受け付けが可能

7.1.2 コード・フラッシュ・メモリのマッピング

本マイクロコントローラの内蔵コード・フラッシュ・メモリ領域は、2 Kバイトまたは4 Kバイトのブロック単位に分割されており、全ブロックまたはブロック単位でのプログラミングおよび消去が可能です。また、複数ブロックの一括消去も可能です。

ブロック構造とアドレス割り当てについて、図7-1, 7-2に示します。

- ブート・スワップ・クラスタ・サイズ

セキュア・セルフ・プログラミング用ブート・クラスタの構成可能なサイズ。詳しくは、7.4.4 セキュア・セルフ・プログラミング（ブート・スワップ機能）を参照してください。

図7-1 コード・フラッシュ・メモリ 256 Kバイト製品の構成

Block 127 (2 KB)		0003 FFFFH 0003 F800H ...	ブロ ック
		...	
Block 64 (2 KB)		0002 07FFH 0002 0000H	
Block 63 (2 KB)	Block 63 (2 KB)	0001 FFFFH 0001 F800H	
...	
Block 1 (2 KB)	Block 1 (2 KB)	0000 0FFFH 0000 0800H	
Block 0 (2 KB)	Block 0 (2 KB)	0000 07FFH 0000 0000H	
128 KB	256 KB	コード・フラッシュ・サイズ	
8/16/32/64 KB		ブート・スワップ・クラスタ・サイズ	
μ PD70F3370A μ PD70F3372 μ PD70F3374	μ PD70F3371 μ PD70F3373 μ PD70F3375 μ PD70F3378	製品	

図7-2 コード・フラッシュ・メモリ > 256 Kバイト製品の構成

				アドレス
Block 255 (4 KB)			000F FFFFH 000F F000H	
...			...	
Block 192 (4 KB)			000C 0FFFH 000C 0000H	
Block 191 (4 KB)	Block 191 (4 KB)		000B FFFFH 000B F000H	
...	
Block 128 (4 KB)	Block 128 (4 KB)	Block 128 (4 KB)	0008 0FFFH 0008 0000H	
Block 127 (4 KB)	Block 127 (4 KB)	Block 127 (4 KB)	0007 FFFFH 0007 F000H	
...	
Block 96 (4 KB)	Block 96 (4 KB)	Block 96 (4 KB)	0006 0FFFH 0006 0000H	
Block 95 (4 KB)	Block 95 (4 KB)	Block 95 (4 KB)	0005 FFFFH 0005 F000H	
...	
Block 1 (4 KB)	Block 1 (4 KB)	Block 1 (4 KB)	Block 1 (4 KB)	0000 1FFFH 0000 1000H
Block 0 (4 KB)	Block 0 (4 KB)	Block 0 (4 KB)	Block 0 (4 KB)	0000 0FFFH 0000 0000H
384 KB	512 KB	768 KB	1024 KB	コード・フラッシュ・サイズ
16/32/64/128 KB				ブート・スワップ・クラスタ・サイズ
μPD70F3376A μPD70F3379	μPD70F3377A μPD70F3380 μPD70F3383	μPD70F3381 μPD70F3384	μPD70F3382 μPD70F3385	製 品

7.1.3 コード・フラッシュ・メモリの機能概要

専用フラッシュ・ライタによるプログラミング	:マイクロコントローラがターゲット・システムに実装されている、または実装されていないかにかかわらず、内蔵フラッシュ・メモリは専用フラッシュ・ライタによる書き換えが可能です（オフボード／オンボード・プログラミング）。
セルフ・プログラミング	:セルフ・プログラミング機能はユーザ・プログラムによるフラッシュ・メモリの書き換えを容易にし、製造および出荷後のプログラム・アップデートに適しています。また、セルフ・プログラミング中の割り込み処理をサポートしており、外部との通信処理を行いながら書き換えを行うなど、さまざまな条件での書き替えが可能です。
	セルフ・プログラミング・モードは通常動作モードで開始できますが、専用フラッシュ・ライタによるプログラミングはシステム・リセットの解除直後に設定されます。
	セルフ・プログラミングに関しては、7.4 コード・フラッシュ・セルフ・プログラミングを参照してください。専用フラッシュ・ライタによるプログラミングの設定方法に関しては、7.3 専用フラッシュ・ライタでの書き換えを参照してください。
ブート・スワップ	:書き換え中に電源遮断が発生しても、常に正常なユーザ・プログラムが存在する状態となるため、全領域の書き換えが安全に実行できます。
	ブート・スワップの詳細は、7.4.4 セキュア・セルフ・プログラミング（ブート・スワップ機能）を参照してください。
保護	:フラッシュ・メモリ・プログラミング中に保護フラグのセットを指定し、フラッシュ・メモリにアクセスするさまざまな方法を禁止できます。
	データ保護の詳細は、第9章 データ保護とセキュリティを参照してください。
リセット・ベクタ・ハンドリング	:リセット・ベクタ・ハンドリング機能とは、リセット・ベクタ・アドレスを任意のアドレスに設定することができる機能です。詳細は、データ・フラッシュ・メモリ・アクセス・ライブラリに関するマニュアル（作成中）を参照してください。

表7-1 フラッシュ・メモリの書き換え方法

環 境	インタフェース	概 要	動作モード
専用フラッシュ・ライタによるプログラミング	シリアル・インターフェース (UARTD, CSIB)	<ul style="list-style-type: none"> ターゲット・システム上に実装後、フラッシュ・メモリの書き換えが可能（オンボード・プログラミング） 専用プログラム・アダプタ・ボード（FAシリーズ）を用いることにより、ターゲット・システムへ実装する前にフラッシュ・メモリの書き換えが可能（オフボード・プログラミング） 	フラッシュ・メモリ・プログラミング・モード
セルフ・プログラミング	セルフ・プログラミング・ライブラリ	<p>あらかじめオフボード／オンボード・プログラミングによりフラッシュ・メモリに書き込まれたユーザ・プログラムを実行することで書き換えが可能です。</p> <p>セルフ・プログラミング中は、内蔵フラッシュ・メモリ領域からの命令フェッチおよびデータ・アクセスはできませんので、内蔵RAM、または外部メモリへ書き換え用のプログラムをあらかじめ転送して実行する必要があります。</p>	通常動作モード

備考 FAシリーズは、（株）内藤電誠町田製作所の製品です。

表7-2は、フラッシュ・メモリの内容を変更する機能をまとめたものです。

表7-2 基本機能一覧

機能	機能概要	対応 (: 対応, × : 未対応)	
		専用フラッシュ・ライタによるプログラミング	セルフ・プログラミング
ロック消去	指定したメモリ・ブロックの内容を消去します。		
複数ブロック消去	指定した連続する複数のブロックの内容を消去します。		
チップ消去	メモリ領域全体の内容を一括消去します(書き換え禁止のセキュリティ・フラグがセットされたブート・ブロック・クラスタを除く)。 注意 チップ消去機能は、データ・フラッシュ・メモリも消去します。		× ^{注1}
書き込み (プログラム)	指定したアドレスに書き込み、書き込みレベルが確保されているかどうかのペリファイ・チェックを実行します。		
読み出し(リード)	指定したアドレスのデータを読み出します。		× ^{注2}
ペリファイ	フラッシュ・メモリから読み出したデータをフラッシュ・ライタから転送されたデータと比較します。		× ^{注2}
チェックサム	フラッシュ・メモリからチェック・サム値の読み出しを行います。		×
ブランク・チェック	全メモリの消去状態を確認します。		
セキュリティ設定	次の機能を禁止できます。 <ul style="list-style-type: none">・チップ消去・ブロック消去・プログラム・リード・ブート・ブロック・クラスタの書き換え		× ^{注3}

注1. セルフ・プログラミング・モードでは、ブロック消去によりすべてのブロックを一括消去するように指定できます。

2. ユーザ・プログラムで読み出しが可能です。
3. ブート・ブロック・クラスタの書き換えに対するセキュリティ設定(書き換え禁止)を除き、他のすべてのセキュリティ設定はセルフ・プログラミング・モードでは無効です。

セキュリティ設定は、セルフ・プログラミング・モードでも行うことができます。しかし、既にアクティブ(禁止設定)になっているセキュリティ設定をインアクティブ(許可設定)にすることは不可能です。

次の表に使用可能なフラッシュ・メモリ・セキュリティ機能を示します。

詳細は、第9章 データ保護とセキュリティを参照してください。

表7-3 セキュリティ機能一覧

機能	機能概要	適用(:適用 , × :未適用)	
		専用フラッシュ・ライタによるプログラミング	セルフ・プログラミング
チップ消去コマンド禁止 ^{注1}	全ブロックに対してフラッシュ全体(データ・フラッシュも含む)および单一ブロックの消去が不可能になります。		×
ブロック消去コマンド禁止 ^{注2}	全ブロックに対して单一ブロックの消去が不可能になります。		×
プログラム・コマンド禁止 ^{注2}	全ブロックに対して消去と書き換えが不可能になります。		×
リード・コマンド禁止 ^{注2}	全ブロックに対してリード・コマンドの実行を禁止します。		×
ブート領域書き換え禁止 ^{注3}	ブート・ブロック・クラスタの(ブロック消去またはチップ消去による)消去および書き換えが不可能になります。		

- 注1. 一度禁止設定になると、チップ消去コマンド禁止が初期化できなくなります。
2. チップ消去コマンドの実行によって、禁止設定が初期化可能です。
3. 一度禁止設定になると、ブート領域書き換え禁止設定が初期化できなくなります。チップ消去コマンドは実行できません。ブート領域以外に対するブロック消去コマンド、プログラム・コマンドの実行は可能です。

7.1.4 コード・フラッシュ・メモリの消去と書き換え

消去

: フラッシュ・メモリの消去は、次の2つの方法により行うことができます。

- チップ消去(セルフ・プログラミングでは未対応)
 - 全ブロックを一括消去できます。
 - ブロック消去
 - ブロック単位(製品により2Kバイトまたは4Kバイト)で指定して消去できます。
 - セルフ・プログラミング・モードでは、任意の数の連続するフラッシュ・メモリ・ブロックを消去できます。

書き込み(プログラム) : 専用フラッシュ・ライタによるプログラミングでは、全ブロックまたは任意のブロックを指定して書き込むことができます。

セルフ・プログラミング・モードでは、フラッシュ・メモリを1ブロックよりも小さな単位で書き込みます。1つのブロックを消去したあと、ワード単位で書き込みが可能です。書き込みは、1つのブロックを完全に消去後、そのブロックに対し1回のみ可能です。

7.2 データ・フラッシュ・メモリ

本マイクロコントローラは、32 Kバイトのデータ・フラッシュを内蔵しています。このデータ・フラッシュは外部メモリ領域の一部として割り当てられます。

7.2.1 データ・フラッシュ・メモリの特徴

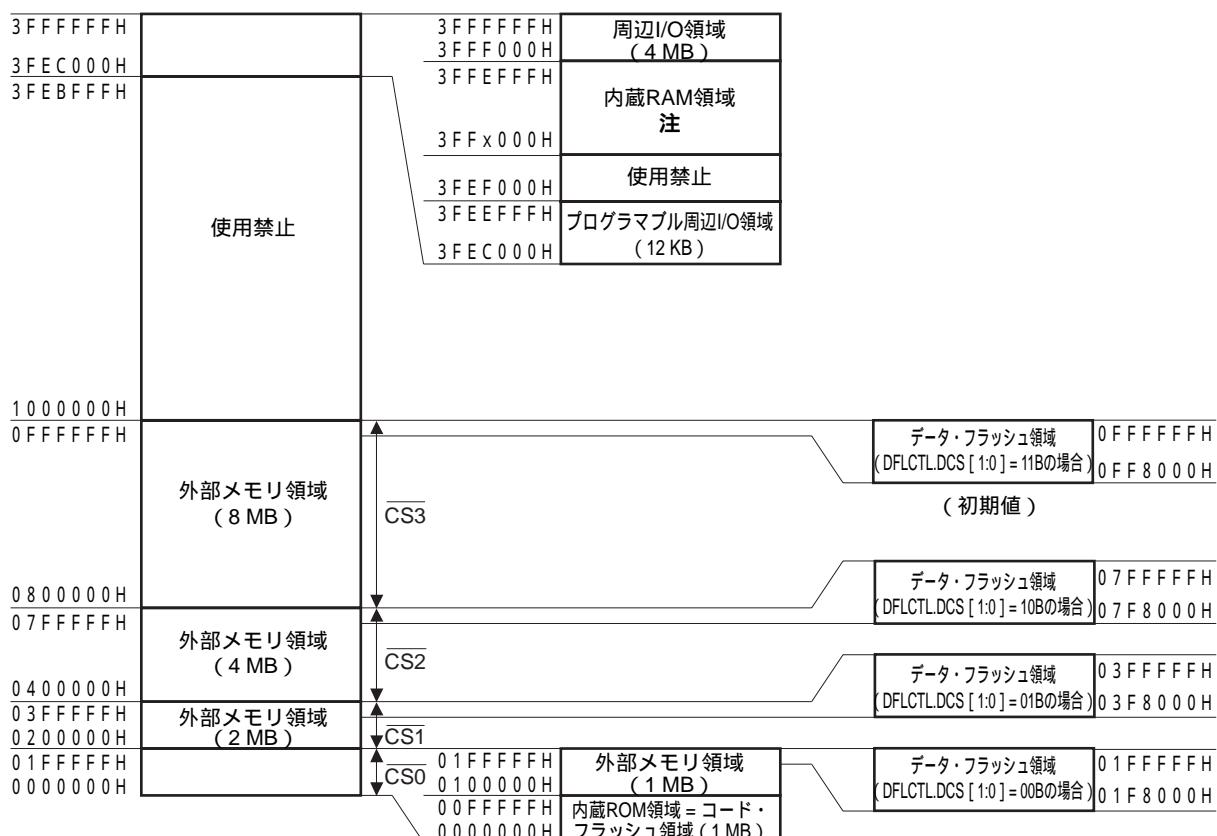
データ・フラッシュには次のような特徴があります。

- ・1ブロック（2 Kバイト）×16で構成
- ・32ビット単位で書き込み可能。
- ・ブロック単位（2 Kバイト）で消去可能。
- ・アプリケーション実行中（コード・フラッシュ・メモリをフェッチ）にデータ・フラッシュの書き込み、消去が可能。

7.2.2 データ・フラッシュ・メモリ・マップ

データ・フラッシュは、ソフトウェアで異なるメモリ・アドレス位置にマッピングできます。

図7-3 データ・フラッシュのメモリ・マップ



注 製品により内蔵RAMの容量は異なります。

注意 データ・フラッシュ（32 KB）は、外部メモリ領域のいずれか1つの領域にマッピング可能です。

データ・フラッシュ領域を割り当てる外部メモリ領域に対して、次の設定を行う必要があります。

レジスタ・ビット	設 定	設定備考
BSC.BSn0	1	バス・サイズ：16ビット
DWC0.DWn [2:0]	001B	f _{CPU} 40 MHz
	010B	40 MHz < f _{CPU} 48 MHz
AWC.AHWn	0	アドレス・ホールド・ウェイト・ステートなし
AWC.ASWn	0	f _{CPU} 24 MHzの場合：アドレス・セットアップ・ウェイトを挿入しない
	1	24 MHz < f _{CPU} 48 MHzの場合：1アドレス・セットアップ・ウェイトを挿入する
BCC.BCn1	0	アイドル・ステートを挿入しない

メモリ・インターフェース構成の詳細については、第10章 バス、メモリ制御機能(BCU, MEMC)を参照してください。

7.2.3 データ・フラッシュ・コントロール・レジスタ

(1) データ・フラッシュ・コントロール・レジスタ (DFLCTL)

データ・フラッシュの読み出しを制御するレジスタで、データ・フラッシュ領域の割り当て、および読み出しの許可を設定します。

DFLCTLレジスタは特定レジスタです。特定シーケンスの組み合わせによってのみ書き込みができます。詳細は、3.6 特定レジスタを参照してください。

アクセス： 8/1ビット単位でリード /ライト可能です。

アドレス： FFFFFCF8H

初期値： 03H

⑦	6	5	4	3	2	1	0
DFLEN	0	0	0	0	0	DCS1	DCS0
R/W	R	R	R	R	R	R/W	R/W

表7-4 DFLCTLレジスタの内容

ビット位置	ビット名	機 能																	
7	DFLEN	データ・フラッシュのリード・アクセス設定： 0：禁止 1：許可																	
1-0	DCS [1:0]	データ・フラッシュの割り当て領域の選択： <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <th colspan="2">チップ・セレクト・アドレス範囲</th> </tr> <tr> <td>DCS1</td> <td>DCS0</td> <td>チップ・セレクト・アドレス範囲</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>CS0領域 (01F8000H-01FFFFFFH)</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>1</td> <td>CS1領域 (03F8000H-03FFFFFFH)</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>0</td> <td>CS2領域 (07F8000H-07FFFFFFH)</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>1</td> <td>CS3領域 (0FF8000H-0FFFFFFH) (初期値)</td> </tr> </table>	チップ・セレクト・アドレス範囲		DCS1	DCS0	チップ・セレクト・アドレス範囲	0	0	CS0領域 (01F8000H-01FFFFFFH)	0	1	CS1領域 (03F8000H-03FFFFFFH)	1	0	CS2領域 (07F8000H-07FFFFFFH)	1	1	CS3領域 (0FF8000H-0FFFFFFH) (初期値)
チップ・セレクト・アドレス範囲																			
DCS1	DCS0	チップ・セレクト・アドレス範囲																	
0	0	CS0領域 (01F8000H-01FFFFFFH)																	
0	1	CS1領域 (03F8000H-03FFFFFFH)																	
1	0	CS2領域 (07F8000H-07FFFFFFH)																	
1	1	CS3領域 (0FF8000H-0FFFFFFH) (初期値)																	

注意 外部バス・インターフェース機能で外部アクセスを行っているとき、このレジスタへの書き込みは禁止です。

7.2.4 データ・フラッシュの読み出し設定

データ・フラッシュは外部メモリ領域の一部として割り当てられます。

ただし、サブクロック動作モード時にデータ・フラッシュを読み出さないでください。サブクロック動作モード時に読み出した場合、不定値が読み出されます。

また、データ・フラッシュの読み出しを行う前に、次の設定を1~5の順で行う必要があります。

1. DFLCTL [DCS1:DCS0]ビットを設定し、データ・フラッシュを割り当てるCS0-CS3領域を指定。
2. 1で割り当てたCSn領域に対応するBSC.BSn0を1にして、16ビット・データバス幅に設定(8ビット・データバス幅に設定した場合のリード・データは保証しない)。
3. 1で割り当てたCSn領域に対応するDWC0 [DWn2:DWn0]を001Bまたは010Bに設定(下表参照、0ウエイに設定した場合のリード・データは保証しない)。
4. 1で割り当てたCSn領域に対応するAWC.ASWnを0または1に設定(下表参照)。
5. DFLCTL.DFLEN = 1に設定し、データ・フラッシュへのリード・アクセスを許可。

上記3、4については、CPU動作周波数に応じて設定を変更する必要があります。次にその設定を示します。

CPUクロック周波数 (f _{CPU})	DWC [DWn2-DWn0]	AWC.ASWn	最小リード・サイクル数
f _{CPU} 24 MHz	001B	0B	4
24 MHz < f _{CPU} 40 MHz	001B	1B	5
40 MHz < f _{CPU} 48 MHz	010B	1B	6

注意1. 最小リード・サイクル数は、ミスアライン・アクセスしない場合のものです。

2. CPUクロック周波数はあくまでもターゲット(目標値)であり、デバイス評価後に変更の可能性があります。

7.2.5 データ・フラッシュの書き込み

データ・フラッシュへの書き込みは、専用フラッシュ・ライタによるプログラミングおよびデータ・フラッシュに対応する当社ライブラリ(対応予定)によるアプリケーション実行中の書き込みに対応します。

ライブラリによる書き込みについては、データ・フラッシュ・メモリ・アクセス・ライブラリに関するマニュアル(作成中)を参照してください。

備考 専用フラッシュ・ライタでのチップ消去コマンドは、データ・フラッシュも消去します。

7.3 専用フラッシュ・ライタでの書き換え

専用フラッシュ・ライタにより、オンボードまたはオフボードでフラッシュ・メモリの書き換えができます。

・オンボード・プログラミング

ターゲット・システム上にマイクロコントローラを実装後、フラッシュ・メモリの内容を書き換えます。ターゲット・システム上には、専用フラッシュ・ライタを接続するためのコネクタなどを実装しておく必要があります。

・オフボード・プログラミング

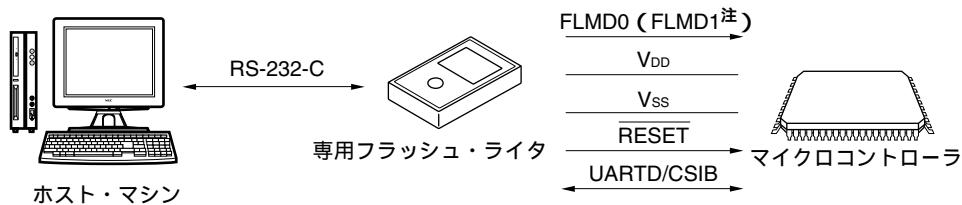
ターゲット・システム上にマイクロコントローラを実装する前に専用プログラム・アダプタ（FAシリーズ）などでフラッシュ・メモリに書き込みます。

備考 FAシリーズは、(株)内藤電誠町田製作所の製品です。

7.3.1 プログラミング環境

本マイクロコントローラのフラッシュ・メモリにプログラムを書き込むために必要な環境を示します。

図7-4 フラッシュ・メモリにプログラムを書き込むための環境



注 FLMD1端子は、フラッシュ・ライタと接続するか、ボード上でプルダウン抵抗を介してGNDに接続してください。

7.3.2 通信方式

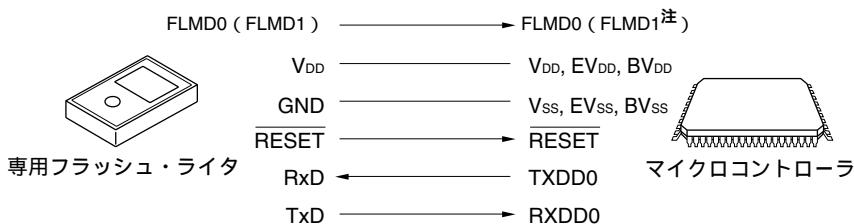
専用フラッシュ・ライタとマイクロコントローラとの通信には、シンクロナス・シリアル・インターフェースUARTD0または3線式シリアル・インターフェースCSIB0を使用します。

CSIB0を介したプログラミングでは、ハンドシェークなしまたはハンドシェーク付きモードをサポートしています。ハンドシェーク付きモードでは、ポート端子PCM0をプログラマのハンドシェーク信号HSに使用します。

(1) UARTD0

転送レート：9600～153600 bps

図7-5 専用フラッシュ・ライタとの通信 (UARTD0)



注 FLMD1端子は、フラッシュ・ライタと接続するか、ボード上でプルダウン抵抗を介してGNDに接続してください。

- 注意1.** 記述していない端子は、未使用時の端子処理に従って処理してください。**抵抗を介する場合**、
1 kΩ～10 kΩの**抵抗を接続してください**。
2. **DRST**端子には、ハイ・レベルを入力しないでください。

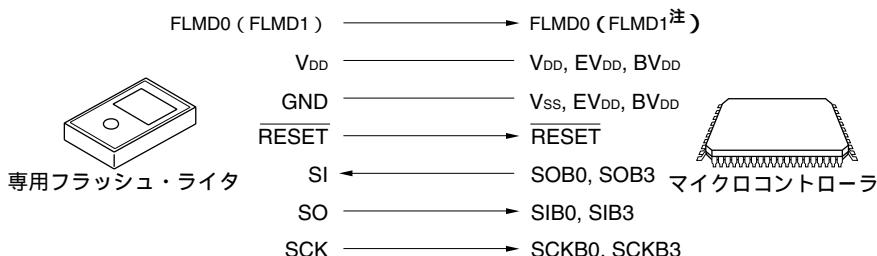
(2) ハンドシェークなしCSIB0

シリアル・クロック

PG-FP4使用時：2.4 kHz～2.5 MHz (MSBファースト)

PG-FP5使用時：9.8 kHz～5.0 MHz (MSBファースト)

図7-6 専用フラッシュ・ライタとの通信 (ハンドシェークなしCSIB0)



注 FLMD1端子は、フラッシュ・ライタと接続するか、ボード上でプルダウン抵抗を介してGNDに接続してください。

- 注意1.** 記述していない端子は、未使用時の端子処理に従って処理してください。**抵抗を介する場合**、
1 kΩ～10 kΩの**抵抗を接続してください**。
2. **DRST**端子には、ハイ・レベルを入力しないでください。

フラッシュ・ライタが転送クロックを出力し、マイクロコントローラはスレーブとして動作します。

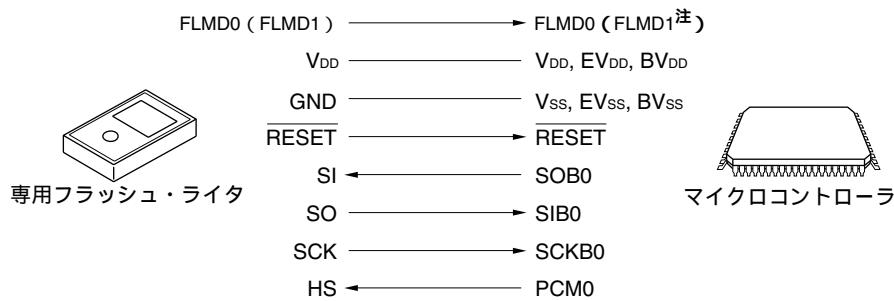
(3) ハンドシェーク付きCSIB0 (CSIB0 + HS)

シリアル・クロック

PG-FP4使用時 : 2.4 kHz ~ 2.5 MHz (MSBファースト)

PG-FP5使用時 : 9.8 kHz ~ 5.0 MHz (MSBファースト)

図7-7 専用フラッシュ・ライタとの通信 (ハンドシェーク付きCSIB0)



注 FLMD1端子は、フラッシュ・ライタと接続するか、ボード上でプルダウン抵抗を介してGNDに接続してください。

- 注意1. 記述していない端子は、未使用時の端子処理に従って処理してください。抵抗を介する場合、
1 kΩ ~ 10 kΩの抵抗を接続してください。
2. DRST端子には、ハイ・レベルを入力しないでください。

専用フラッシュ・ライタが転送クロックを出力し、マイクロコントローラはスレーブとして動作します。

7.3.3 フラッシュ・ライタPG-FP4, PG-FP5との端子処理

オンボード書き込みを行う場合は、ターゲット・システム上に専用フラッシュ・ライタと接続するためのコネクタを設けます。また、オンボード上に通常動作モードからフラッシュ・メモリ・プログラミング・モードへの切り替え機能を設けてください。

フラッシュ・メモリ・プログラミング・モードに遷移すると、フラッシュ・メモリ・プログラミングに使用しない端子は、すべてリセット直後と同じ状態になります。

専用フラッシュ・ライタとしてPG-FP4, PG-FP5を使用した場合、PG-FP4, PG-FP5はマイクロコントローラに対して次の信号を生成します。詳細はPG-FP4 ユーザーズ・マニュアル(U15260J), PG-FP5 ユーザーズ・マニュアル(U18865J)を参照してください。

表7-5 専用フラッシュ・ライタ(PG-FP4, PG-FP5)の信号接続

PG-FP4, PG-FP5			マイクロ コントローラ	接続時の処置		
信号名	入出力	端子機能	端子名	UARTD0	CSIB0	CSIB0 + HS
FLMD0	出力	書き込み許可 / 禁止	FLMD0			
FLMD1	出力	書き込み許可 / 禁止	FLMD1	×	×	×
V _{DD}	入出力	V _{DD} 電圧生成/電圧監視	V _{DD} , EV _{DD} , BV _{DD} , AV _{REF0} , AV _{REF1}			
GND	-	グランド	V _{SS} , EV _{SS} , BV _{SS} , AV _{SS}			
CLK	出力	コントローラへのクロック出力	- ^{注2, 3}	×	×	×
RESET	出力	リセット信号	RESET			
SI/RxD	入力	受信信号	SOBO/TXDD0			
SO/TxD	出力	送信信号	SIB0/RXDD0			
SCK	出力	転送クロック	SCKB0	×		
HS	入力	CSIB0 + HS通信のハンドシェーク信号	PCM0	×	×	

注1. 接続するか、もしくはボード上でプルダウン抵抗を介してGNDに接続してください。

2. フラッシュ・ライタのCLK端子からのクロック供給はできません。

ボード上に発振回路を作成してクロックを供給してください。

3. 水晶 / セラミック発振子のみサポートします。

注意 1. PLL倍倍数は、発振周波数(f_x)に応じて次の表のとおり設定してください。

コード・フラッシュ容量 256 KBの製品

発振周波数(f _x)	PLL倍倍数
4 MHz	8.00
4 MHz < f _x 8 MHz	4.00
8 MHz < f _x 16 MHz	2.00

コード・フラッシュ容量 384 KBの製品

発振周波数(f _x)	PLL倍倍数
4 MHz < f _x 6 MHz	8.00
6 MHz < f _x 12 MHz	4.00
12 MHz < f _x 16 MHz	2.00

2. クロック・スルー・モード(フラッシュ・ライタGUI上: Internal/Direct mode)では使用しないでください。

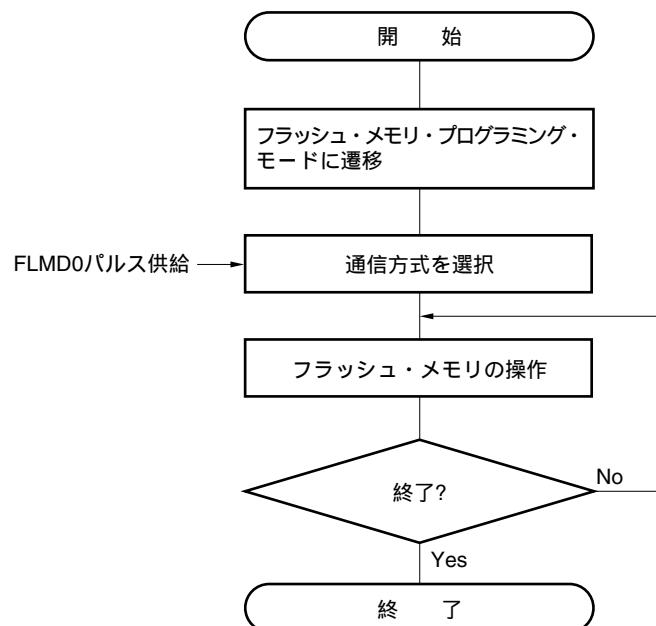
備考 : 必ず接続してください。

× : 接続の必要はありません。

7.3.4 フラッシュ・メモリ制御

フラッシュ・メモリを操作する手順を次に示します。

図7-8 フラッシュ・メモリの操作手順



(1) フラッシュ・ライタへの接続

専用フラッシュ・ライタでフラッシュ・メモリの内容を書き換えるには、マイクロコントローラをフラッシュ・メモリ・プログラミング・モードに設定します。

このモードを遷移させるには、表7-6の設定に示すように、FLMD0端子とFLMD1端子を設定し、RESETを解除します。

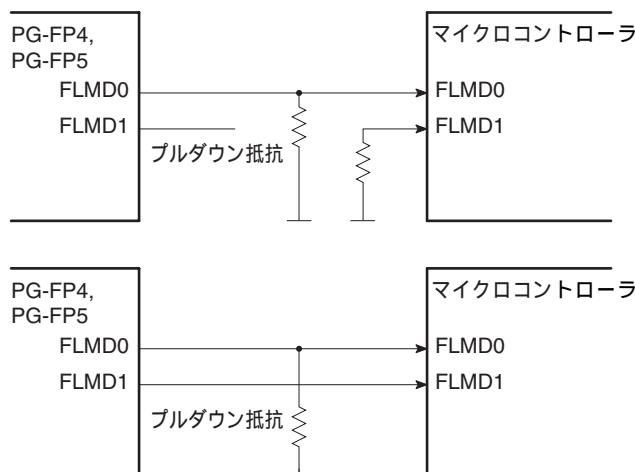
通常動作モード時は、FLMD0端子にV_{SS}レベルを入力します。フラッシュ・メモリ・プログラミング・モード時は、FLMD0端子にV_{DD}の書き込み電圧を供給します。また、PDL5ポートと兼用するFLMD1端子はV_{SS}レベルを保持します。

表7-6 動作モードの設定

端子		動作モード
FLMD0	FLMD1 (PDL5)	
0	x	通常動作モード（フラッシュからフェッチ）
1	0	フラッシュ・メモリ・プログラミング・モード
	1	設定禁止

FLMD0端子とFLMD1端子の接続例を次に示します。FLMD1は抵抗を介してV_{SS}に接続、または専用フラッシュ・ライタのFLMD1信号に直接接続してください。

図7-9 専用フラッシュ・ライタPG-FP4, PG-FP5への接続例



(a) FLMD0端子

通常動作モード時は、FLMD0端子にV_{SS}レベルの電圧を入力します。フラッシュ・メモリ・プログラミング・モード時は、FLMD0端子にV_{DD}レベルの書き込み電圧を供給します。また、FLMD0端子は、セルフ・プログラミング・モード時に書き換え保護用端子となります。そのため、書き換え前に接続する他のポートを制御して、FLMD0端子にV_{DD}レベルの電圧を供給する必要があります。詳細は、7.4.2 セルフ・プログラミングの許可（FLMD0端子処理）を参照してください。

(b) FLMD1端子

FLMD0端子にV_{SS}レベル電圧を入力した場合、FLMD1端子は機能しません。FLMD0端子にV_{DD}が供給された場合、フラッシュ・メモリ・プログラミング・モードに遷移させるため、FLMD1端子にV_{SS}レベルの電圧を入力する必要があります。

注意 オンボード書き込み時、リセット直後に他のデバイスからFLMD1端子にV_{DD}の信号が入力される場合、この信号をアイソレートしてください。

(2) シリアル・インターフェース端子

各シリアル・インターフェースが使用する端子を次に示します。

表7-7 各シリアル・インターフェースが使用する端子

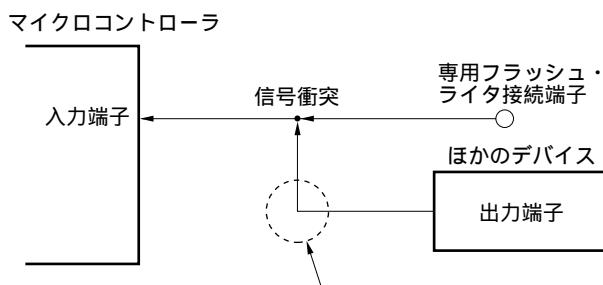
シリアル・インターフェース	使用端子
CSIB0	SOB0, SIB0, SCKB0
CSIB0 + HS	SOB0, SIB0, SCKB0, PCM0
UARTAO	TXDD0, RXDD0

オンボード上でほかのデバイスと接続しているシリアル・インターフェース用の端子に、専用フラッシュ・ライタを接続する場合、信号の衝突、ほかのデバイスの異常動作などに注意してください。

(a) 信号の衝突

ほかのデバイス（出力）と接続しているシリアル・インターフェース用の端子（入力）に、専用フラッシュ・ライタ（出力）を接続すると、信号の衝突が発生します。この信号の衝突を避けるため、ほかのデバイスとの接続をアイソレートするか、またはほかのデバイスを出力ハイ・インピーダンス状態にしてください。

図7-10 信号の衝突（シリアル・インターフェースの入力端子）

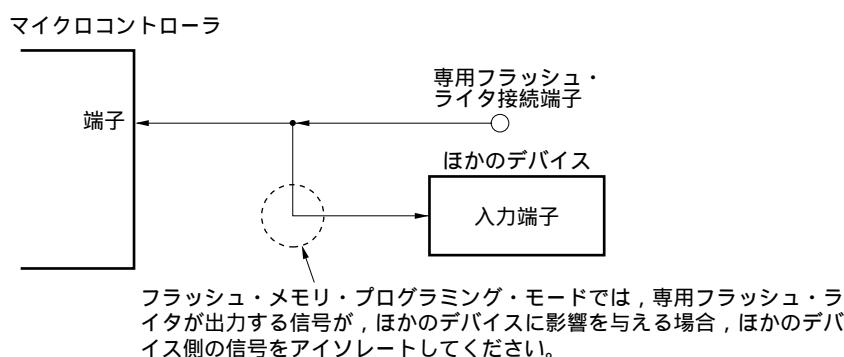
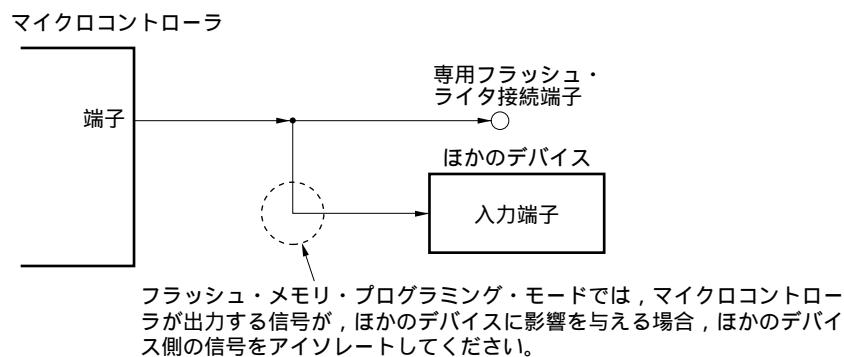


フラッシュ・メモリ・プログラミング・モードでは、ほかのデバイスが出力する信号と専用フラッシュ・ライタから送り出される信号が衝突するため、ほかのデバイス側の信号をアイソレートしてください。

(b) ほかのデバイスの異常動作

ほかのデバイス(入力)と接続しているシリアル・インターフェース用の端子(入力または出力)に、専用フラッシュ・ライタ(出力または入力)を接続する場合、ほかのデバイスに信号が出力され、異常動作を起こす可能性があります。この異常動作を避けるため、ほかのデバイスとの接続をアイソレートするか、またはほかのデバイスで入力信号を無視するように設定してください。

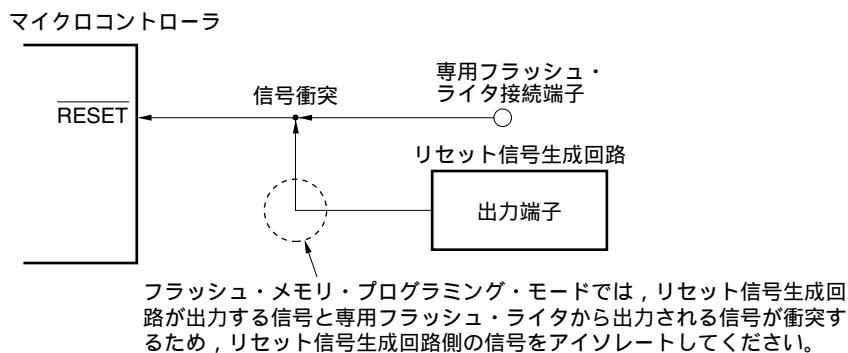
図7-11 ほかのデバイスの異常動作



(3) RESET端子

オンボード上で、リセット信号生成回路と接続しているRESET端子に、専用フラッシュ・ライタのリセット信号を接続する場合、信号の衝突が発生します。この信号の衝突を避けるため、リセット信号生成回路との接続をアイソレートしてください。

また、フラッシュ・メモリ・プログラミング・モード期間中に、ユーザ・システムからリセット信号を入力した場合、正常なプログラミング動作が行われなくなるので、専用フラッシュ・ライタからのリセット信号以外は入力しないでください。

図7-12 信号の衝突(RESET端子)

(4) ポート端子(NMIを含む)

フラッシュ・メモリ・プログラミング・モードに設定すると、専用フラッシュ・ライタと通信する端子を除くすべてのポート端子はリセット直後と同じ状態になります。なお、ポートに接続されている外部デバイスがリセット直後のポート状態を認めない場合には、抵抗を介してV_{DD}に接続するか、または抵抗を介してV_{SS}に接続するなどの処置をしてください。

(5) その他の信号端子

X1, X2, XT1, XT2は、通常動作モード時と同じ状態に接続してください。

また、フラッシュ・メモリ・プログラミング中、DRST端子はロウ・レベル入力またはオープンにし、ハイ・レベル入力しないようにしてください。

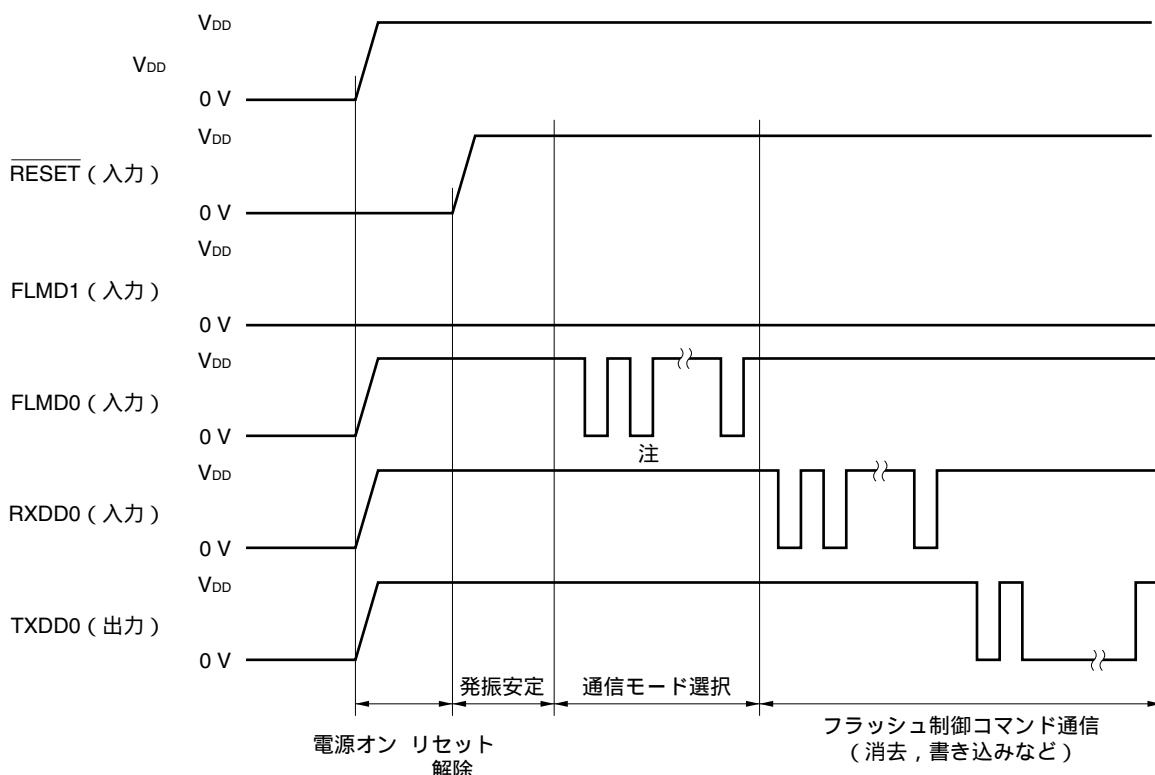
(6) 電 源

電源(V_{DD}, V_{SS}, EV_{DD}, EV_{SS}, BV_{DD}, BV_{SS}, AV_{REF0}, AV_{SS}, REGC)は、通常動作モード時と同じ電源を供給してください。

(3) 通信方式の選択

リセット解除後にFLMD0端子に特定のパルス数を印加することで通信方式を選択します。このパルスは専用フラッシュ・ライタが生成します。

図7-13 通信方式の選択



注 挿入されるクロック数は通信方式によって異なります。詳細は表7-8を参照してください。

表7-8 通信方式一覧

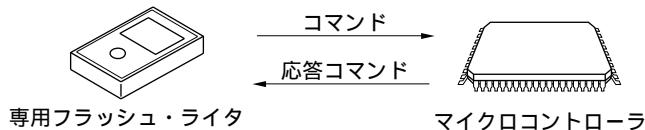
FLMD0パルス	通信方式	備 考
0	UARTD0 ^注	通信レート：9600 bps (リセット時), LSBファースト
8	CSIB0	マイクロコントローラはスレーブ動作, MSBファースト
11	CSIB0 + HS	マイクロコントローラはスレーブ動作, MSBファースト
その他	-	設定禁止

注 UARTD0選択時, フラッシュ・ライタはユーザが選択したボーレートにて, 最初に00Hのデータをマイクロコントローラへ送信します。マイクロコントローラは, そのデータ波形からボーレートを算出し, 設定します。

(4) 通信コマンド

マイクロコントローラと専用フラッシュ・ライタは、コマンドを介して通信します。専用フラッシュ・ライタからマイクロコントローラへ送られるコマンドを「コマンド」と呼び、マイクロコントローラから専用フラッシュ・ライタへ送られる応答信号を「応答コマンド」と呼びます。

図7-14 通信コマンド



本マイクロコントローラのフラッシュ・メモリ制御用コマンドを次に示します。これらのコマンドはすべて専用フラッシュ・ライタから発行され、マイクロコントローラがコマンドに対応した各処理を行います。

表7-9 フラッシュ・メモリ制御用コマンド

分類	コマンド名称	対応			機能
		CSIB0	CSIB0+HS	UARTD0	
ブランク・チェック	ブロック・ブランク・チェック・コマンド				全メモリの消去状態を確認
消去 ^{注1}	チップ消去コマンド				全メモリの内容を消去 ^{注2}
	ブロック消去コマンド				指定したブロックのメモリの内容を消去
書き込み ^{注1}	プログラム・コマンド				書き込みアドレス、書き込みバイト数の指定によりデータを書き込み、ベリファイ・チェックを実行
ベリファイ ^{注1}	ベリファイ・コマンド				指定したアドレス範囲のメモリの内容とフラッシュ・ライタから転送されたデータの内容を比較
	チェックサム・コマンド				指定したアドレス範囲のチェック・サムを読み出す
システム設定、制御	シリコン・シグネチャ・コマンド				シリコン・シグネチャ情報を読み出す
	セキュリティ設定コマンド				チップ消去コマンド、ブロック消去コマンド、プログラム・コマンド、リード・コマンドの禁止設定、およびブート領域の書き換え禁止設定。

- 注1. セルフ・プログラミング環境で書き終えたあと、再度フラッシュ・ライタを使用して書き込みを行う場合、専用フラッシュ・ライタのEPVコマンドは使用しないでください。その場合、専用フラッシュ・ライタのCHIP Eraseコマンドで消去し、リセットしたあと、Programコマンドで書き込んでください。ただし、ブロックを対象とするEPVコマンドは使用可能です。
2. コード・フラッシュ・メモリとデータ・フラッシュ・メモリを消去します。またセキュリティ機能（ブロック消去コマンド禁止、プログラム・コマンド禁止、リード・コマンド禁止）設定が解除されます。

マイクロコントローラは、専用フラッシュ・ライタから発行されたコマンドに対して、応答コマンドを返します。マイクロコントローラが送出する応答コマンドを次に示します。

表7-10 応答コマンド

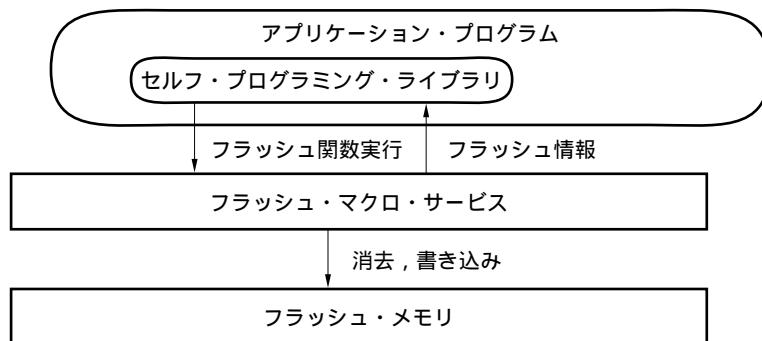
応答コマンド名称	機能
ACK	コマンド/データなどのアクノリッジ
NACK	不正なコマンド/データなどのアクノリッジ

7.4 コード・フラッシュ・セルフ・プログラミング

本マイクロコントローラは、ユーザ・プログラム自身で内蔵フラッシュ・メモリの書き換えを行うための、フラッシュ・マクロ・サービスをサポートしています。

このインターフェースおよび、当社セルフ・プログラミング・ライブラリを使用することにより、内蔵RAMもしくは、外部メモリへあらかじめ転送しておいたユーザ・アプリケーションから、フラッシュ・メモリの書き換えが可能になり、フィールドでのユーザ・プログラムのアップグレードや、定数データ書き換えを行うことができます。

図7-15 セルフ・プログラミングの概念図



セルフ・プログラミング中は、フラッシュ・メモリにアクセスできなくなります。したがって、内蔵RAMまたは外部メモリからの命令フェッチによってのみ、プログラムの実行が可能となります。

このため、セルフ・プログラミングをアクティブにする（フラッシュ環境初期化処理を実行する）前に、セルフ・プログラミング用プログラム自体をフラッシュ・メモリから内蔵RAMまたは外部メモリにコピーする必要があります。セルフ・プログラミング中は、フラッシュ・メモリ内の割り込みベクタを使用した割り込み処理も不可能になります。このため、内蔵RAM上にて割り込み受け付けを行う特別な機能が用意されています。詳細は、

7.4.5 フラッシュ・セルフ・プログラミング時の割り込み処理を参照してください。

フラッシュ・セルフ・プログラミングに関しては、データ・フラッシュ・メモリ・アクセス・ライブラリに関するマニュアル（作成中）を参照してください。

7.4.1 フラッシュ関数一覧

表7-11 フラッシュ関数一覧

関数名	概要
FlashInit	セルフ・ライブラリの初期化
FlashEnv	フラッシュ環境の開始 / 終了
FlashFLMDCheck	FLMD0端子のチェック
FlashStatusCheck	ハードウェア処理の実況チェック
FlashBlockErase	ブロックの消去
FlashWordWrite	データの書き込み
FlashBlockVerify	ブロックの内部ベリファイ
FlashBlockBlankCheck	ブロックのブランク・チェック
FlashSetInfo	フラッシュ情報の設定
FlashGetInfo	フラッシュ情報の獲得
FlashBootSwap	ブート・スワップの実行

7.4.2 セルフ・プログラミングの許可 (FLMD0端子処理)

FLMD0端子は、リセット解除時の動作モード設定と、セルフ書き換え時の書き換え保護機能の兼用端子となっているため、リセット解除～通常動作実行時は、FLMD0端子へ印加される電圧を0 Vに保持し、セルフ・プログラミング・モードの期間は、書き換え前にポート制御などによって、FLMD0端子にV_{DD}レベルの電圧を印加する必要があります。

また、セルフ・プログラミングが終了したあとは、FLMD0端子への印加電圧を0 Vに戻す必要があります。

図7-16 セルフ・プログラミングの許可



注意 リセット解除時は、必ずFLMD0端子を0 Vにしてください。

7.4.3 セルフ・プログラミング・ライブラリの機能

セルフ・プログラミング・ライブラリを使用することで、ユーザ・プログラムによるコード・フラッシュ・メモリ・セルフ・プログラミングに対応しています。

このライブラリには、次の基本機能を実行するC関数の呼び出しセットが用意されています。

- フラッシュのブランク・チェック / 消去 / 書き込み / ベリファイ
- ブート・ブロック・クラスタの設定、ブート・スワップ設定
- リセット・ベクタ・ハンドリング機能設定
- セキュリティ情報設定
- コード・フラッシュ・メモリに関する情報の取得

ライブラリ機能の使用方法の詳細に関しては、**データ・フラッシュ・メモリ・アクセス・ライブラリに関するマニュアル（作成中）**を参照してください。

7.4.4 セキュア・セルフ・プログラミング（ブート・スワップ機能）

本マイクロコントローラは、アドレス00000000Hから始まるコード・フラッシュ・メモリ・ブロックのブロック群（クラスタ）を、そのクラスタのアドレス上位に位置する同じサイズの異なるクラスタとスワップする機能をサポートしています。

注意 ブート・スワップ機能は、異なるリセット・ベクタが初期値の状態（00000000H）のままである場合のみ使用可能です。

リセット・ベクタ・ハンドリング機能でリセット・ベクタを初期値から変更している場合、ブート・スワップは行えません。

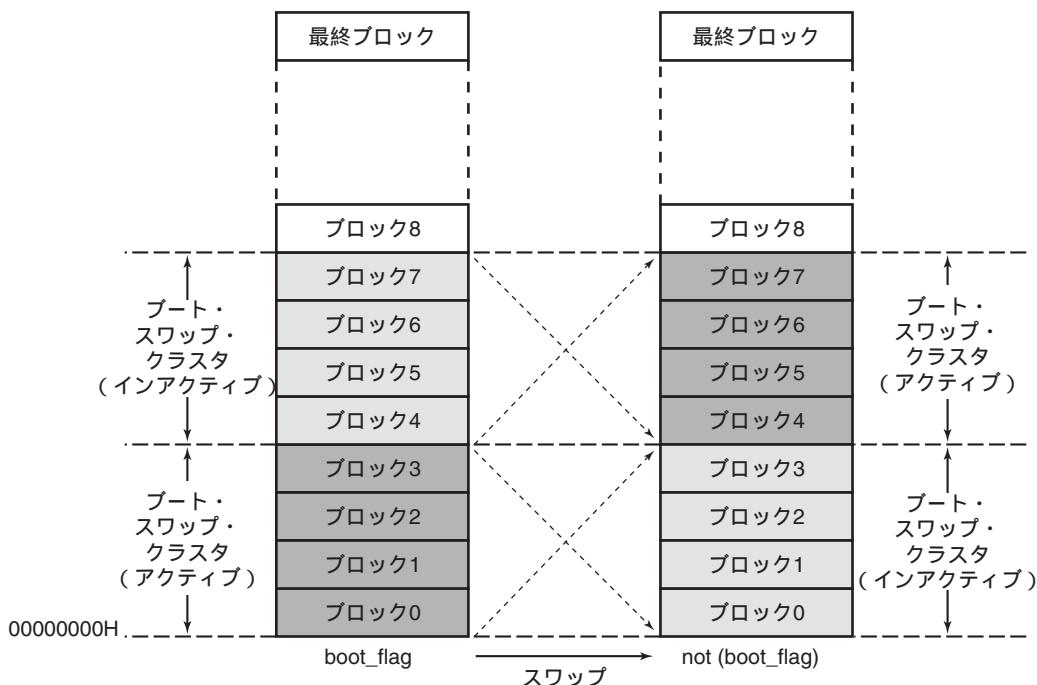
ブート・スワップ・クラスタ：ブート・スワップする際のスワップするブロック群です。ブート・スワップ・クラスタのサイズは、ブート・ブロック・クラスタの設定により決まります。その領域に対してブート・スワップ機能を実行することが可能ですが、詳細は、**表7-12 ブート・ブロックとブート・スワップ・クラスタの関係**を参照してください。

ブート・フラグ : 2つのクラスタのうち、どちらがアクティブな（ブートする）クラスタであるかを制御します。

ブート・フラグは、フラッシュ情報用の領域に格納されます。

図7-17は、4つのフラッシュ・メモリ・ブロックから構成されるクラスタのブート・スワップ機能の一例です。boot_flagの反転後はnot (boot_flag)になります。ブロック4から7がアクティブなブート・ブロック・クラスタになります。したがって、次のリセット解除後からユーザ・プログラムは新しいブート・スワップ・クラスタより起動されます。

図7-17 ブート・スワップ・クラスタのスワップ機能



セキュア・セルフ・プログラミング：ブート・スワップ機能は、セキュア・セルフ・プログラミングを実現します。ブート・コードを書き換える場合、boot_flagは元の状態（ブロック0-3のクラスタがアクティブ）のまま、アクティブでないクラスタ（ブロック4-7）に新しいコードを書き込みます。

アクティブでないクラスタ（ブロック4-7）の書き換えが正常に完了したあと、boot_flagを変更（ブート・スワップ）し、新しいブート・コード（ブロック4-7のクラスタ）をアクティブにします。

たとえば、停電や不用意なリセットなどにより新しいブート・コードの書き換えに失敗した場合でも、元のブート・コードがアクティブなままであります。書き換えを再開できます。

ブート・ブロック・クラスタ：アプリケーション・プログラムのブート領域であり、領域の選択が可能です。

ブート・ブロック・クラスタに対しては、書き換えを禁止するセキュリティ設定が可能です。

表7-12は、ブート・ブロック・クラスタの領域設定と、それにより決まるブート・スワップ・クラスタとの関係を示します。

表7-12 ブート・ブロックとブート・スワップ・クラスタの関係

ブート・ ブロック・ クラスタ設定 ^注	コード・フラッシュ・サイズ 256 Kバイトの製品		コード・フラッシュ・サイズ 384 Kバイトの製品			
	ブート・ブロック・ クラスタ	ブート・スワップ・ クラスタ	ブート・ブロック・ クラスタ	ブート・スワップ・ クラスタ		
00H	00000000H-000007FFH (2 KB)	00000000H-00001FFFH (8 KB)	00000000H-00000FFFH (4 KB)	00000000H-00003FFFH (16 KB)		
01H	RESV-00000FFFH (MAX.4 KB)		RESV-00001FFFH (MAX.8 KB)			
02H	RESV-000017FFFH (MAX.6 KB)		RESV-00002FFFH (MAX.12 KB)			
03H	RESV-00001FFFH (MAX.8 KB)		RESV-00003FFFH (MAX.16 KB)			
04H	RESV-000027FFFH (MAX.10 KB)	00000000H-00003FFFH (16 KB)	RESV-00004FFFH (MAX.20 KB)	00000000H-00007FFFH (32 KB)		
:	:		:			
07H	RESV-00003FFFH (MAX.16 KB)		RESV-00007FFFH (MAX.32 KB)			
08H	RESV-000047FFFH (MAX.18 KB)		RESV-00008FFFH (MAX.36 KB)			
:	:	00000000H-00007FFFH (32 KB)	:	00000000H-0000FFFFH (64 KB)		
0FH	RESV-00007FFFH (MAX.32 KB)		RESV-0000FFFFH (MAX.64 KB)			
10H	RESV-000087FFFH (MAX.34 KB)		RESV-00010FFFH (MAX.68 KB)			
:	:		:			
1FH	RESV-0000FFFFH (MAX.64 KB)	00000000H-0000FFFFH (64 KB)	RESV-0001FFFH (MAX.128 KB)	00000000H-0001FFFFH (128 KB)		
20H	RESV-000107FFFH (MAX.66 KB)		RESV-00020FFFH (MAX.132 KB)			
:	:		:			
7FH	RESV-0003FFFFH (MAX.256 KB)		RESV-0007FFFFH (MAX.512 KB)			
80H	設定禁止					
:						
FFH						

注 フラッシュ・ライタのGUI、またはフラッシュ・セルフ・プログラミングにて設定可能です。

注意 1. ブート・ブロック・クラスタのサイズは、リセット・ベクタの設定値に依存します。

2. ブート・ブロック・クラスタは、製品のROMサイズ以下に設定してください。

備考 RESV：リセット・ベクタ・ハンドリング機能で設定したベクタを含むブロックの最下位アドレスです。

7.4.5 フラッシュ・セルフ・プログラミング時の割り込み処理

本マイクロコントローラは、セルフ・プログラミング中でも割り込み処理を行うことが可能です。

セルフ・プログラミング中には、通常フラッシュ・メモリに配置された割り込みベクタ・テーブルも割り込みハンドラ・ルーチンもアクセスできないため、割り込み受け付けは、内蔵RAMを通して行う必要があります。

したがって、セルフ・プログラミング中に割り込み処理を許可するには、次の2つの要件を満たさなければなりません。

- ・必要となる割り込みハンドラ・ルーチンは、内蔵RAMと外部メモリにコピーしなければなりません。
- ・割り込み受け付けは、そのハンドラを通して行わなければなりません。

セルフ・プログラミング・ライブラリは、このような割り込みを初期化、処理する機能を備えています。

割り込みハンドラ・ルーチンは、セルフ・プログラミング・ライブラリ機能を使用することでフラッシュから内蔵RAMにコピーすることができます。

割り込みハンドラ・ルーチンのアドレスは、セルフ・プログラミング・ライブラリ機能で設定します。

詳細は、データ・フラッシュ・メモリ・アクセス・ライブラリに関するマニュアル（作成中）を参照してください。

注意 フラッシュ環境時の割り込み処理の流れは、通常の割り込み処理の流れと異なります。

- 備考**
1. このフラッシュ環境での割り込みは、通常の割り込み処理に比べ応答遅延時間が長くなりますので、注意してください。
 2. フラッシュ・プログラミング環境時のみ、この特殊な割り込み処理が実行されます。

第8章 オプション・バイト

フラッシュ・メモリ内には、本マイクロコントローラのオプション機能を設定するオプション・バイト領域があります。フラッシュ・メモリにプログラムを書き込む場合は、下記のオプションに対応するオプション・バイト領域を必ず設定してください。

オプション・バイトで決定するオプション機能は次のとあります。

- ・ソフトウェアによる低速内蔵発振器の停止許可／禁止
- ・WDT2動作モードの指定
- ・サブクロック発振回路の外部接続（クリスタル振動子またはRC発振子）の選択
- ・サブクロック動作モードでのクロック・ソースの選択（サブクロック発振回路または低速内蔵発振器）
- ・PLL入力クロックの選択
- ・PLL出力クロックの選択
- ・周辺クロックの選択
- ・分岐レイテンシの選択

オプション・バイトは、内蔵フラッシュ・メモリのアドレス007AHおよび007BHに16ビット・データとして格納されています。

8.1 オプション・バイト(007AH)

アドレス： 007AH

7	6	5	4	3	2	1	0
STOPXTAL	STOPRCZ	0	0	0	0	WDTMD1	RMOPIN

表8-1 オプション・バイト(007AH)の設定

ビット位置	ビット名	機能												
7-6	STOPXTAL, STOPRCZ	サブ発振器の選択： <table border="1"> <tr> <td>STOPXTAL</td><td>STOPRCZ</td><td>サブ発振器の選択</td></tr> <tr> <td>0</td><td>0</td><td>水晶 / セラミック発振 (32.768 kHz)</td></tr> <tr> <td>1</td><td>1</td><td>RC発振 (20 kHz)</td></tr> <tr> <td colspan="2">上記以外</td><td>設定禁止</td></tr> </table>	STOPXTAL	STOPRCZ	サブ発振器の選択	0	0	水晶 / セラミック発振 (32.768 kHz)	1	1	RC発振 (20 kHz)	上記以外		設定禁止
STOPXTAL	STOPRCZ	サブ発振器の選択												
0	0	水晶 / セラミック発振 (32.768 kHz)												
1	1	RC発振 (20 kHz)												
上記以外		設定禁止												
1	WDTMD1	WDT2動作モードの指定： 0 : カウント動作 : WDTM2.WDCS24で停止可能。 入力クロック : WDTM2レジスタで選択可能。低速内蔵発振器またはメイン・クロック発振回路。 動作モード : WDTM2レジスタで選択可能。NMI割り込み (INTWDT2) またはリセット・モード (WDT2RES) が選択可能。 1 : カウント動作 : 停止不可。 入力クロック : 低速内蔵発振器に固定。 動作モード : リセット・モードに固定 (WDT2RES) 。												
0	RMOPIN	ソフトウェアで低速内蔵発振器を停止するオプション： 0 : ソフトウェアで停止可能。 1 : 停止不可。												

注意 ビット5-2には“0”を設定してください。

8.2 オプション・バイト(007BH)

アドレス： 007BH

7	6	5	4	3	2	1	0
SUBCLK	0	0	LATENCY	PLLO	PRSI	PLL1	PLLIO

表8-2 オプション・バイト007BHの設定

ビット位置	ビット名	機能																		
7	SUBCLK	サブクロック動作モードのクロック・ソース： 0：サブクロック発振回路を選択。 1：低速内蔵発振器を選択。																		
4	LATENCY	分岐レイテンシの選択 ^注 ： 0：分岐レイテンシ：2 1：分岐レイテンシ：3																		
3	PLLO	PLL出力クロック (f_{PLL} , f_{XMPLL}) の選択： <table border="1"> <thead> <tr> <th>SSCGCTL.SELSSCG</th> <th>PLLO</th> <th>f_{XMPLL}</th> <th>f_{PLL}</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">0</td> <td>0</td> <td>f_{PLLO}</td> <td>f_{PLLO}</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>$f_{PLLO}/2$</td> <td>$f_{PLLO}/2$</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">1</td> <td>0</td> <td>f_{PLLO}</td> <td>f_{SSCGO}</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>$f_{PLLO}/2$</td> <td>$f_{SSCGO}/2$</td> </tr> </tbody> </table>	SSCGCTL.SELSSCG	PLLO	f_{XMPLL}	f_{PLL}	0	0	f_{PLLO}	f_{PLLO}	1	$f_{PLLO}/2$	$f_{PLLO}/2$	1	0	f_{PLLO}	f_{SSCGO}	1	$f_{PLLO}/2$	$f_{SSCGO}/2$
SSCGCTL.SELSSCG	PLLO	f_{XMPLL}	f_{PLL}																	
0	0	f_{PLLO}	f_{PLLO}																	
	1	$f_{PLLO}/2$	$f_{PLLO}/2$																	
1	0	f_{PLLO}	f_{SSCGO}																	
	1	$f_{PLLO}/2$	$f_{SSCGO}/2$																	
2	PRSI	周辺クロック f_{XP1} と f_{XP2} の分周設定。 0 : $f_{XP1}, f_{XP2} = f_{xx}$ f_{xx} 32 MHzの場合 ($f_{xx} > 32$ MHzの場合は設定禁止) 1 : $f_{XP1}, f_{XP2} = f_{xx}/2$ f_{xx} 48 MHzの場合																		
1, 0	PLL1 [1:0]	PLL入力クロック周波数の選択： <table border="1"> <thead> <tr> <th>PLL1</th> <th>PLL0</th> <th>PLL入力クロック</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>$f_{PLL1} = f_x$</td> </tr> <tr> <td>0</td> <td>1</td> <td>$f_{PLL1} = f_x/2$</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>x</td> <td>$f_{PLL1} = f_x/4$</td> </tr> </tbody> </table>	PLL1	PLL0	PLL入力クロック	0	0	$f_{PLL1} = f_x$	0	1	$f_{PLL1} = f_x/2$	1	x	$f_{PLL1} = f_x/4$						
PLL1	PLL0	PLL入力クロック																		
0	0	$f_{PLL1} = f_x$																		
0	1	$f_{PLL1} = f_x/2$																		
1	x	$f_{PLL1} = f_x/4$																		

注 次の製品において、LATENCYビットの設定は無効で、分岐レイテンシの設定は3固定となります。

- V850ES/FG3のμPD70F3376A, 70F3377A
- V850ES/FJ3のμPD70F3379, 70F3380, 70F3381, 70F3382
- V850ES/FK3

注意 ビット6, 5には“0”を設定してください。

次に、CA850をご使用の場合のプログラム例を示します。

[プログラム例]

```
#-----
# OPTION_BYTES
#-----
.section "OPTION_BYTES"
.byte 0b00000001 -- 0x7a
.byte 0b00000000 -- 0x7b
.byte 0b00000000 -- 0x7c
.byte 0b00000000 -- 0x7d
.byte 0b00000000 -- 0x7e
.byte 0b00000000 -- 0x7f
```

注意 このセクションは必ず6バイト分を記述してください。6バイト以下の場合は、リンクの際にエラーとなります。

エラー・メッセージ： F4112: illegal "OPTION_BYTES" section size.

備考 007CH-007FH番地には0x00を設定してください。

第9章 データ保護とセキュリティ

9.1 概 要

このマイクロコントローラは、内蔵フラッシュ・メモリの安全なプログラミングと再プログラミングに対応し、不正な読み出しや再プログラミングなどの望ましくないアクセスからフラッシュ・メモリ・データを保護する多様な手段をサポートしています。

セキュリティ機能 セキュリティ機能は、再プログラミング処理中の予期しない失敗などへの対策をサポートします。基本機能は、次のとおりです。

- セキュア・セルフ・プログラミング
- ブート・スワップ
- ブート・ブロック・クラスタの保護

これらの機能についての詳細は、[第7章 フラッシュ・メモリ](#)を参照してください。

保護機能 保護機能は、権限のない人物による内蔵フラッシュ・メモリ・データの読み出し、消去、書き込みを防止する手順を提供します。

基本機能は、次のとおりです。

- 内蔵 (N-Wire) デバッグ・インターフェースの保護
- フラッシュ・メモリの消去 / 書き込み / 読み出しの保護

N-Wireデバッグ・インターフェース、外部フラッシュ・プログラマ・インターフェースやセルフ・プログラミング機能など、一部のインターフェースは、内蔵フラッシュ・メモリへのアクセスが通常可能です。これらのインターフェースすべてに対して、内蔵フラッシュ・メモリ・データの読み出し、消去、書き込みを禁止することができます。

サポートされている保護方法について次ページに示します。

9.2 N-Wireデバッグ・インターフェースの保護

通常、フラッシュ・メモリの内容の不正な読み出しあは、N-Wireデバッグ・インターフェースを介して可能になります。フラッシュ・メモリを保護するために、デバッグ・インターフェースの使用を保護または禁止できます。デバッグ・インターフェースには、10バイトのIDコードと内部フラグ（N-Wire使用許可フラグ）を設けています。

デバッガが起動されると、フラグの状態が照会されます（N-Wire使用許可フラグ）。N-Wireインサーキット・エミュレータの使用を禁止する場合は、このフラグを0に設定します。

デバッガが許可されている（N-Wire使用許可が設定されている）場合は、デバッガを介して10バイトのIDコードを入力する必要があります。このコードは、内蔵フラッシュ・メモリに保存されているIDコードと比較されます。2つのコードが一致しない場合、デバッガは実行できません。

N-Wire使用許可フラグは、外部フラッシュ・プログラマまたはセルフ・プログラミング機能によるフラッシュのプログラミング中に設定できます。このフラグは、00000079H番地のビット7に配置されます。

ユーザ独自のIDコードを指定し、これを外部フラッシュ・プログラマまたはセルフ・プログラミング機能を使用して内蔵フラッシュ・メモリにプログラムすることも可能です。IDコードは、00000070H番地から00000079H番地の範囲に配置されます。

保護レベルの概要は、表9-1にまとめられています。

表9-1 IDコード比較の結果一覧

N-Wire使用許可フラグ	IDコード	保護レベル
0	x ^{注1}	レベル2： 完全な保護 N-Wireデバッグ・インターフェースは使用できません。 ^{注2}
1	ユーザ定義IDコード	レベル1： ユーザIDコードによるIDコード保護 ユーザが正しいIDコードを入力した場合のみN-Wireデバッグ・インターフェースを使用できます。
	すべてのIDコードが同じ ^{注3}	レベル0： デフォルトのIDコードFFHをすべてのIDコードに入力すると、N-Wireデバッグ・インターフェースを使用できます。

注1. コードは比較されません。

2. N-Wire デバッグ・インターフェースが「使用禁止」に設定されると、フラッシュ・メモリの再プログラマで再度使用許可設定を行うまで使用できなくなります。
3. フラッシュ・メモリ消去後は、これがデフォルト（FFH）の状態となります。

備考 保護レベル1または2設定後は、ロック消去禁止機能を用いて、許可フラグ、IDコードを保護してください。保護を行わない場合、権限のない人物がIDコードまたは「N-Wire使用許可フラグ」を含むロックを消去して、保護レベルが0の状態とされる可能性があることに注意してください。

9.3 フラッシュ・プログラマとセルフ・プログラミング保護

通常、フラッシュ・メモリの内容の不正な読み出しや再プログラミングは、フラッシュ・プログラマ・インターフェースとセルフ・プログラミング機能を介して可能になります。フラッシュ・メモリの保護について次に記します。

外部プログラミング	外部フラッシュ・プログラマなど、外部からのアクセスを一切禁止できます。内蔵フラッシュ・メモリのブロック単位またはフラッシュ・メモリ全体での消去、読み出し、書き込みを禁止できます。
セルフ・プログラミング	セルフ・プログラミング中のフラッシュ・メモリの消去、読み出し、またはプログラミングなどすべての操作は、ユーザ・プログラムにより制御されます。したがって、セルフ・プログラミング・モードでは保護は働きません。ただし、ブート・ブロック・クラスタの書き換えは禁止できます。
保護フラグ	保護フラグは、外部フラッシュ・プログラマによってセット、リセットできます（禁止設定されている場合を除く）。 セルフ・プログラミング・モードでは、有効となっている保護フラグをリセットできません。ただし、保護レベルを強化するために別の保護フラグを有効となるようセットすることは可能です。

保護機能は、他の保護機能と組み合わせて使用できます。

(1) プログラム（書き込み）保護フラグ（プログラム・コマンド禁止）

外部フラッシュ・プログラマ・インターフェースを介してのプログラミング機能を禁止する場合は、このフラグをセットします。
このフラグがセットされると、フラッシュ・メモリの内容を外部から書き込めなくなります。
单一ブロックの消去も同様に禁止されます。
この保護機能は、セルフ・プログラミングには適用されません。

(2) チップ消去保護フラグ（チップ消去コマンド禁止）

外部フラッシュ・プログラマ・インターフェースを介してのチップ消去機能を禁止する場合は、このフラグをセットします。
このフラグがセットされると、单一ブロックまたはフラッシュ・メモリ全体のフラッシュ・メモリの内容を消去できなくなります。
セルフ・プログラミング・モードでは、全ブロックを一括消去するようにブロック消去を行うことでフラッシュ・メモリの全内容を消去することは可能です。
この方法の場合、保護（禁止）フラグ、変数リセット・ベクタ・ハンドリング機能の設定変更は行えません。

(3) ブロック消去保護フラグ（ブロック消去コマンド禁止）

外部フラッシュ・プログラマ・インターフェースを介しての單一ブロックを消去する機能を禁止する場合は、このフラグをセットします。

单一ブロックは、消去できなくなります。ただし、チップ消去保護フラグがセットされていない場合、チップ消去は可能です。

この保護機能は、セルフ・プログラミングには適用されません。

(4) 読み出し保護フラグ（リード・コマンド禁止）

外部フラッシュ・プログラマ・インターフェースを介してのフラッシュ・メモリを読み戻す機能を禁止する場合は、このフラグをセットします。

フラッシュの内容を読み出せなくなります。

この保護機能は、セルフ・プログラミングには適用されません。

(5) ブート・ブロック・クラスタ保護フラグ（ブート領域書き換え禁止）

ブート・ブロック・クラスタの消去と書き換えを禁止する場合は、このフラグをセットします。

ブート・ブロック・クラスタは、全く操作できなくなります（消去／書き込み不可）。

これは、外部フラッシュ・プログラマ・インターフェースおよびセルフ・プログラミングの両方に適用されます。

このフラグをセットすると、フラグのリセットが不可能になります。したがって、これ以降ブート・ブロック・クラスタの内容は、変更不可能になります。

出荷時、すべての保護は無効になっています。

この保護フラグをセットする、つまり保護を有効にすると、フラッシュ・メモリ全体を消去するチップ消去コマンドの実施でのみ、保護をリセット（無効）することができます。

そのため、チップ消去を行わない限り、保護の追加設定のみが可能です。

表9-2 セキュリティ機能一覧

機能	機能概要	適用(:適用 , × :未適用)	
		専用フラッシュ・ライタによるプログラミング	セルフ・プログラミング
チップ消去コマンド禁止 ^{注1}	全ブロックに対してフラッシュ全体(データ・フラッシュも含む)および单一ブロックの消去が不可能になります。		×
ブロック消去コマンド禁止 ^{注2}	全ブロックに対して单一ブロックの消去が不可能になります。		×
プログラム・コマンド禁止 ^{注2}	全ブロックに対して消去と書き換えが不可能になります。		×
リード・コマンド禁止 ^{注2}	全ブロックに対してリード・コマンドの実行を禁止します。		×
ブート領域書き換え禁止 ^{注3}	ブート・ブロック・クラスタの(ブロック消去またはチップ消去による)消去および書き換えが不可能になります。		

- 注1. 一度禁止設定になると、チップ消去コマンド禁止が初期化できなくなります。
2. チップ消去コマンドの実行によって、禁止設定が初期化可能です。
3. 一度禁止設定になると、ブート領域書き換え禁止設定が初期化できなくなります。チップ消去コマンドは実行できません。ブート領域以外に対するブロック消去コマンド、プログラム・コマンドの実行は可能です。

第10章 バス，メモリ制御機能（BCU, MEMC）

V850ES/FJ3, V850ES/FK3は、外部ROM, RAMなどの外部メモリや外部I/Oなどへのアクセスをサポートしています。バス・コントロール・ユニット（BCU）とメモリ・コントローラ（MEMC）は、内蔵周辺I/Oと外部デバイスへのアクセスを制御します。

また、外部メモリ領域には、データ・フラッシュ領域を割り当てるこども可能です。

注意 V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3は、外部バス・インターフェース機能をサポートしていません。

内蔵データ・フラッシュを使用する際は、外部バス・インターフェース機能のレジスタを参照する必要があります（7.2 データ・フラッシュ・メモリ参照）。

10.1 特 徴

最小で3バス・サイクルのマルチプレクスト・バス出力

8ビット/16ビット・データ・バス切り替え可能

ウエイト機能

- 各メモリ・ブロックごとに最大で7ステートのプログラマブル・ウエイト機能
- WAIT端子による外部ウエイト機能

アイドル・ステート挿入機能

バス・ホールド機能

ポートとの兼用端子で、外部デバイスに接続可能

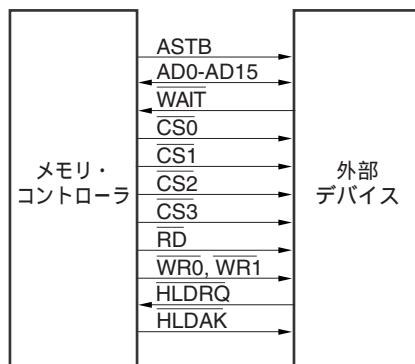
リトル・エンディアン固定

ミスアライン・アクセス可能

チップ・セレクト機能（4空間）

10.2 説 明

図10-1 パス , メモリ制御機能ブロック図



メモリ・コントローラ : 64 Mバイトのアドレス空間は , 下位2 M, 4 M, 8 Mバイト単位のメモリ・ブロックに分割されます。各ブロック単位に外部デバイスを割り当てることが可能です。

外部デバイスに割り当てたアドレスが命令で使用されている場合 , チップ・セレクト信号が生成されます。本マイクロコントローラは , 4本のチップ・セレクト信号 ($\overline{CS0}$ - $\overline{CS3}$) をサポートしています。各チップ・セレクト信号は , 「チップ・セレクト領域」と呼ばれる一定のアドレス範囲を含みます。詳細は , 10.2.1 メモリ・ブロックとチップ・セレクト信号を参照してください。

メモリ・コントローラは , 外部デバイスにアクセスするための制御信号を生成します。たとえば , リード・ストローブ (\overline{RD}) とライト・ストローブ ($\overline{WR0}$, $\overline{WR1}$) を生成します。26ビットのCPUアドレスのうち , 下位16ビットが外部デバイスに渡されます。

メモリ・コントローラの外部信号を次の表に示します。

表10 - 1 メモリ・コントローラ外部接続

信号名	I/O	アクティブ・レベル	端子	機能
$\overline{CS0}$	O	L	$\overline{CS0}$	チップ・セレクト信号
$\overline{CS1}$	O	L	$\overline{CS1}$	チップ・セレクト信号
$\overline{CS2}$	O	L	$\overline{CS2}$	チップ・セレクト信号
$\overline{CS3}$	O	L	$\overline{CS3}$	チップ・セレクト信号
AD [0:15]	I/O	-	AD0-AD15	アドレス / データ・バス
ASTB	O	-	ASTB	アドレス・ストローブ
\overline{WAIT}	I	L	\overline{WAIT}	データ・ウェイト
$\overline{WR0}$	O	L	$\overline{WR0}$	ライト・ストローブ (下位8ビット)
$\overline{WR1}$	O	L	$\overline{WR1}$	ライト・ストローブ (上位8ビット)
\overline{RD}	O	L	\overline{RD}	リード・ストローブ
HLDREQ	I	L	\overline{HLDREQ}	バス・ホールド・コントロール
HLDAK	O	L	\overline{HLDAK}	

すべての端子は、リセットにより入力ポート・モードになります。詳細は、[第2章 端子機能](#)を参照してください。

備考 端子が外部メモリ・バスの端子として設定されている場合、入出力の切り替えはメモリ・コントローラのリード / ライト操作により自動的に行われます。

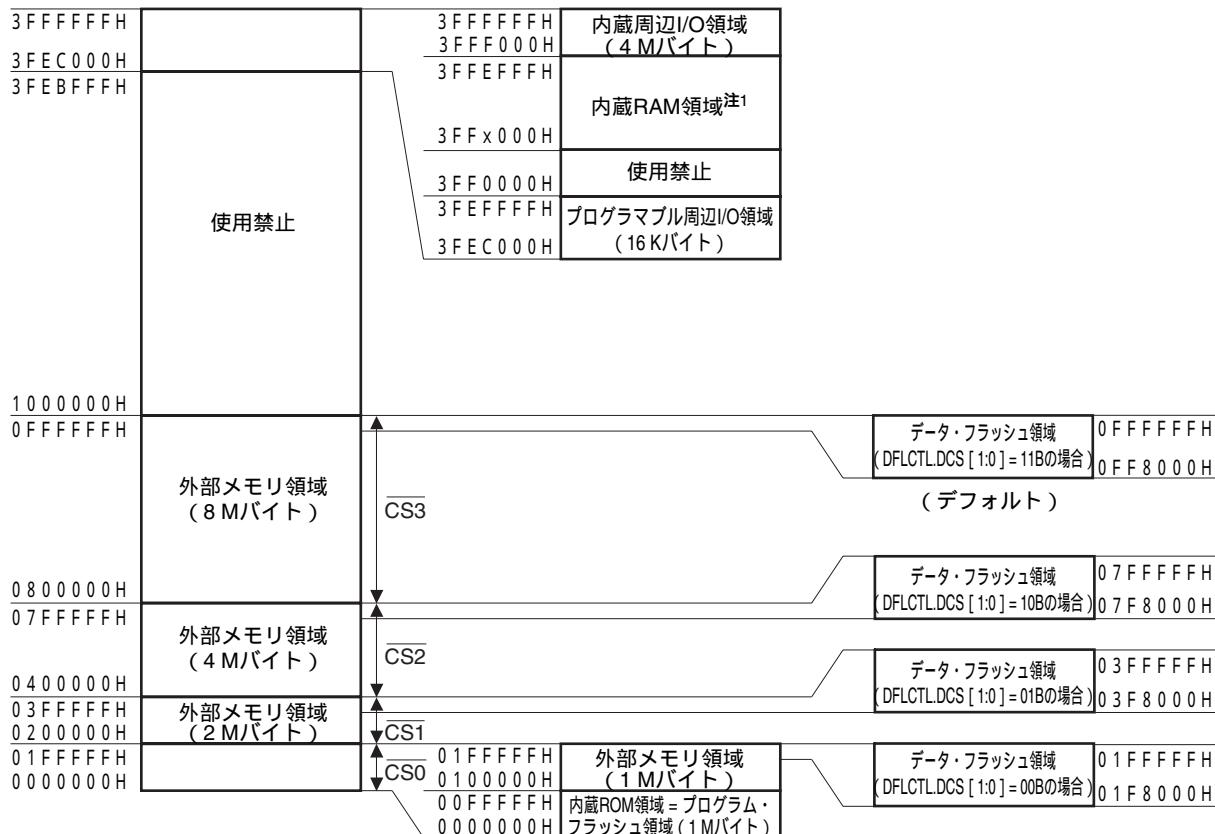
構成 成：本マイクロコントローラは、外部接続されたデバイスにインターフェースを最適化するため、ウェイト機能とアイドル・ステート挿入機能を設定できます。

詳細は、[10.4 メモリ・アクセスの設定](#)を参照してください。

10.2.1 メモリ・ブロックとチップ・セレクト信号

64 Mバイトのアドレス範囲は、メモリ・ブロックに分割されます。各メモリ・ブロックには、チップ・セレクト(\overline{CS})信号が割り当てられています。メモリ・ブロックが外部アクセス用に設定されている場合、そのメモリ・ブロックにアクセスすることにより該当するチップ・セレクト信号が生成されます(図10-2参照)。チップ・セレクト信号を有効にするメモリ・ブロックは、チップ・セレクト領域と呼ばれます。

図10-2 メモリ・ブロックとチップ・セレクト信号



注1. 内蔵RAM領域のサイズと開始アドレスは、製品によって異なります。詳細は、第3章 CPU機能を参照してください。

- この章では、各チップ・セレクト領域を“k”(k=0-3)で識別します。たとえば、 \overline{CS}_k はチップ・セレクト信号kを意味し、BSC.BSC_k[1:0]はチップ・セレクト領域kのデータ・バス幅の設定を意味します。
- メモリ領域の下位1 Mバイトは、常に内蔵フラッシュ・メモリにマッピングされています。したがって、この領域にマッピングされた外部メモリは通常動作モードではアドレス指定できません。
- データ・フラッシュ領域は、いずれか1つのチップ・セレクト領域の上位境界に任意でマッピングできます。データ・フラッシュの詳細は、第7章 フラッシュ・メモリを参照してください。

10.2.2 周辺I/O領域

アドレス内 , 2つのメモリ領域は , 内蔵周辺機能のレジスタのために予約されています (表10 - 2参照)。

表10 - 2 周辺I/O領域

名 前	アドレス範囲	サイズ
内蔵周辺I/O領域	03FFF000H-03FFFFFFH	4 Kバイト
プログラマブル周辺I/O領域	03FEC000H-03FEEFFFFH	12 Kバイト

(1) 内蔵周辺I/O領域

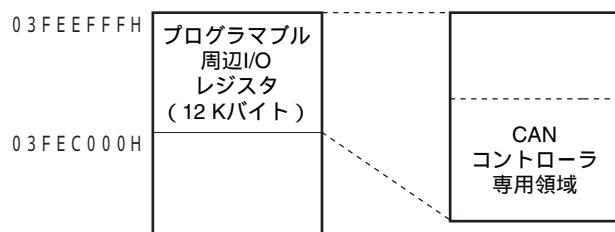
内蔵周辺I/O領域には , 内蔵周辺機能のレジスタが配置されています。

備考 アドレス空間は64 Mバイトであるため , アドレス・ビットA [31:26]は考慮されません。したがって , このマニュアルでは4 Kバイトの周辺I/O領域にある周辺I/Oレジスタのすべてのアドレスは , 03FFF000H-03FFFFFFHではなくFFFFFF000H-FFFFFFFFFHです。

(2) プログラマブル周辺I/O領域

プログラマブルI/O領域を次に示します。この領域には , CANコントローラ用のレジスタが割り付けられています。

図10 - 3 プログラマブル周辺I/O領域



CANコントローラのレジスタとメッセージ・バッファのアドレスについては , 21.5.1 CANモジュール・レジスタとメッセージ・バッファ・アドレスを参照してください。

10.2.3 パスのプロパティ

ここでは , 外部バスのプロパティを説明します。

(1) バス幅

本マイクロコントローラは , 外部メモリと外部I/Oに8/16ビット単位でアクセスします。

各チップ・セレクト領域のデータ・バス・サイズは , バス・サイズ・コンフィギュレーション・レジスタ (BSC) で設定します。

アクセスの種類については , 10.6.1 8ビット・データ・バス・アクセスと10.6.2 16ビット・データ・バス・アクセスを参照してください。

(2) パスの優先順位

外部バス・サイクルには、次の表に示す種類があります。優先順位はバス・ホールドが最も高く、DMAサイクル、オペランド・データ・アクセス、命令フェッチの順で低くなります。

表10-3 パスの優先順位

優先順位	外部バス・サイクル	バス・マスター
高い	バス・ホールド	外部デバイス
	DMAサイクル	DMAコントローラ
	オペランド・データ・アクセス	CPU
	命令フェッチ(分岐)	CPU
	命令フェッチ(連続)	CPU

リード・モディファイ・ライト・アクセスのリード・アクセスとライト・アクセスの間には、命令フェッチが挿入されることがあります。

なお、バス・サイズの関係で、数回のアクセスにより命令を実行するとき、アクセスとアクセスの間に命令フェッチとバス・ホールドが挿入されません。

(3) パス・アクセス

各リソースに対するアクセスに要するCPUクロック数を次に示します。

表10-4 アクセス・クロック数(分岐レイテンシ:2の場合)

領域(バス幅) バス・サイクル・タイプ	内蔵ROM (32ビット)	内蔵RAM (32ビット)	外部メモリ (16ビット)
命令フェッチ(通常アクセス)	1	1 ^注	3+n
命令フェッチ(分岐)	2	2 ^注	3+n
オペランド・データ・アクセス	3	1	3+n

注 データ・アクセスと競合した場合、+1されます。

備考 単位:クロック/アクセス

n : ウエイト挿入数

分岐レイテンシは、オプション・バイト(007BH)のLATENCYビットで設定します。

次の製品においては、LATENCYビットの設定値によらず、分岐レイテンシは3固定となります。

- V850ES/FG3のμPD70F3376A, 70F3377A
- V850ES/FJ3のμPD70F3379, 70F3380, 70F3381, 70F3382
- V850ES/FK3

表10-5 アクセス・クロック数(分岐レイテンシ:3の場合)

領域(バス幅) バス・サイクル・タイプ	内蔵ROM (32ビット)	内蔵RAM (32ビット)	外部メモリ (16ビット)
命令フェッチ(通常アクセス)	1	1 ^注	3+n
命令フェッチ(分岐)	3	2 ^注	3+n
オペランド・データ・アクセス	4	1	3+n

注 データ・アクセスと競合した場合、+1されます。

備考 単位: クロック/アクセス

n : ウエイト挿入数

分岐レイテンシは、オプション・バイト(007BH)のLATENCYビットで設定します。

次の製品においては、LATENCYビットの設定値によらず、分岐レイテンシは3固定となります。

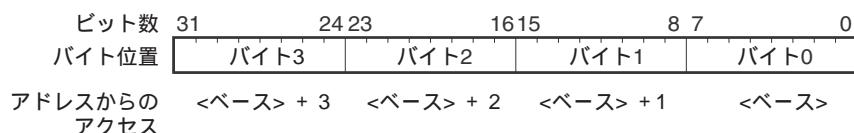
- ・V850ES/FG3のμPD70F3376A, 70F3377A
- ・V850ES/FJ3のμPD70F3379, 70F3380, 70F3381, 70F3382
- ・V850ES/FK3

(4) エンディアン形式

エンディアン形式は、リトル・エンディアン形式に固定されています。

エンディアン形式は、ワード・データを格納するバイトの順序を決定します。「リトル・エンディアン」では、ワードの最低位バイトがメモリ内の最低位アドレスに格納され、最高位バイトが最高位アドレスに格納されます。したがって、ワード・アドレスのベース・アドレスは最低位バイトになります。

図10-4 ワード内のリトル・エンディアン・アドレス



10.2.4 境界動作条件

(1) プログラム空間

内蔵ROM領域から外部メモリに分岐せず、外部メモリ領域へ命令実行を続けることはできません。
内蔵RAM領域の上限に分岐命令がある場合、内蔵周辺I/O領域にまたがるプリフェッч動作（無効フェッチ）は発生しません。

(2) データ空間

本マイクロコントローラはアドレス・ミスマップ機能を内蔵しています。この機能により、データの形式（32ビットのワード・データ、16ビットのハーフワード・データ、8ビットのバイト・データ）にかかわらず、メモリ内のすべてのアドレスに対してデータを配置できます。たとえアドレスがデータ境界整列していないなくても（すなわちワード・データに対してアドレス $4n$ 、ハーフワード・データに対してアドレス $2n$ でなくとも）、データを配置できます。

- ・境界整列していないハーフワード・データ・アクセス
アドレスの LSB が A0 = 1 の場合、2回のバイト・アクセスが実行されます。
- ・境界整列していないワード・データ・アクセス
アドレスの LSB が A0 = 1 の場合、2回のバイト・アクセスと1回のハーフワード・アクセスが実行されます。全部で3回のバス・サイクルが発生します。
- アドレスの LSB が A[1:0] = 10B の場合、2回のハーフワード・アクセスが実行されます。

備考 境界整列していないアドレスのデータにアクセスすると、データのリード /ライトを完了するためにはバス・サイクルが最低2回は発生します。その結果、バス効率が低下します。

10.2.5 外部デバイスに対するアクセスの初期化

外部デバイスに対するアクセスを許可するには、次のレジスタを初期化してください。

1. バス・サイズ・コンフィギュレーション・レジスタ (BSC)
有効なチップ・セレクト領域のデータ・バス幅を設定します。
2. データ・ウエイト・コントロール・レジスタ (DWCn)
起動されるバス・サイクルのデータ・ウエイト・ステート数を設定します。
3. バス・サイクル・コントロール・レジスタ (BCC)
各チップ・セレクト領域k = 0-3のアイドル・ステート数を設定します。

注意1. 初期化後に、これらのレジスタを変更しないでください。

2. 初期化が終了する前に、外部デバイスにアクセスしないでください。

10.2.6 バス・ホールド機能

バス・ホールド機能はマルチプロセッサ構成など、バス・マスタが複数存在するようなシステムを構成できます。

バス・ホールド期間中は、外部アドレス / データ・バスを解放します。また、周辺I/Oレジスタ・アクセスあるいは、外部メモリ・アクセスがあるまで、内蔵ROM、内蔵RAMからのプログラムの実行を継続します。

(1) バス・ホールド状態の開始 / 解除

バス・ホールド状態は、HLDRQ端子がロウ・レベルになると開始されます。本マイクロコントローラはHLDAKをロウ・レベルに設定し、外部バスを解放します。

例外：

- ・バス・ホールド状態は、STOP, IDLE1, IDLE2, サブIDLEモードでは開始できません。
これは、内部システム・クロックが停止しているためです。
- ・バス・ホールド状態は、アイドル・ステート中に開始できません。
- ・バス・ホールド状態は、バス・サイジングおよびビット操作命令による複数アクセスのサイクル中に開始できません。HLDRQを受け付けないタイミングを表10-6に示します。

表10-6 HLDRQを受け付けないタイミング

状態	データ・バス幅	アクセス形態	<u>HLDRQ</u> を受け付けないタイミング
CPUバス・ロック	16ビット	偶数番地へのワード・アクセス	1回目と2回目の間
		奇数番地へのワード・アクセス	1回目と2回目の間
			2回目と3回目の間
		奇数番地へのハーフワード・アクセス	1回目と2回目の間
	8ビット	ワード・アクセス	1回目と2回目の間
			2回目と3回目の間
		ハーフワード・アクセス	3回目と4回目の間
ビット操作命令のリード・モディファイ・ライト・アクセス	-	-	リード・アクセスとライト・アクセスの間

バス・ホールド状態は、HLDRQ端子がハイ・レベルになると解除されます。HLDAK端子は、再びハイ・レベルになります。

(2) バス・ホールド状態の監視

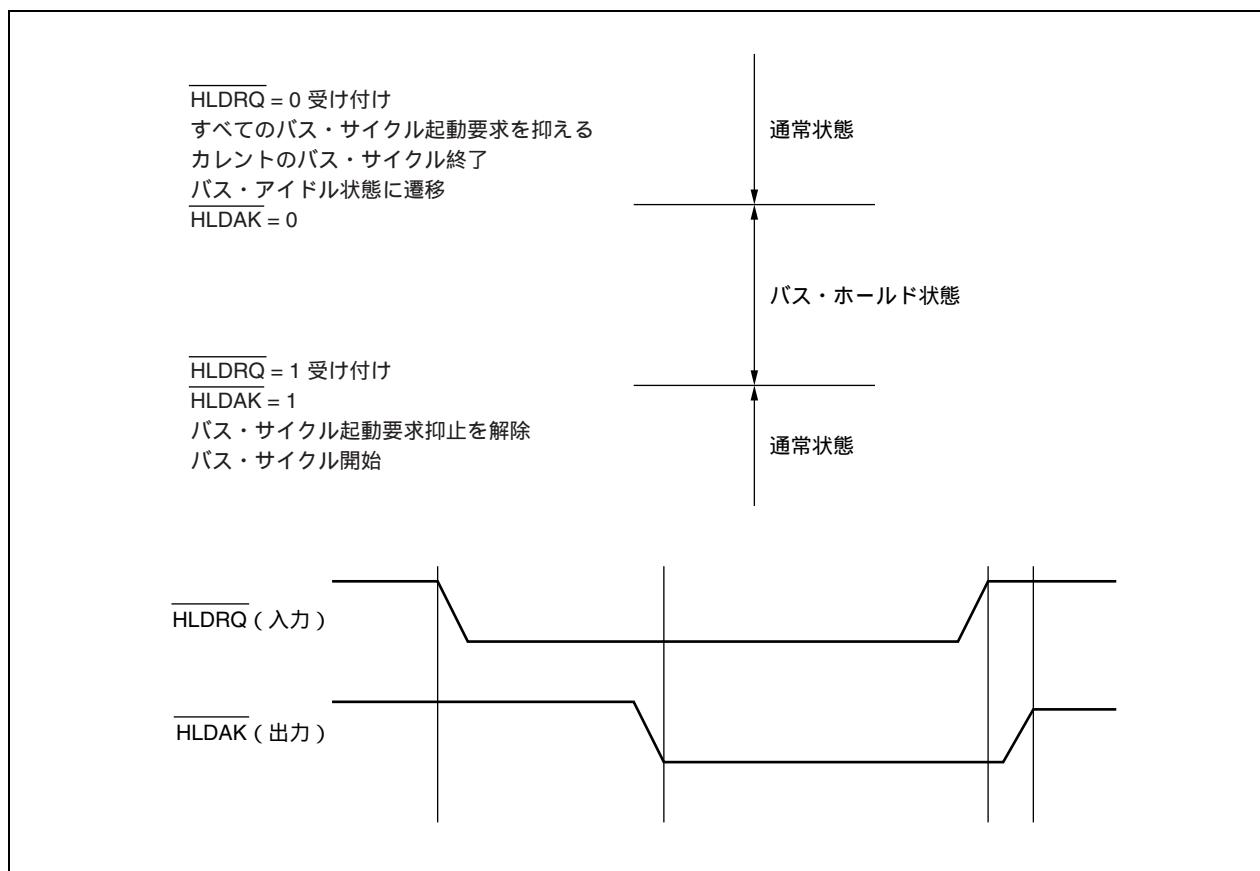
HLDAK端子によりバス・ホールド状態を監視できます。

- ・HLDAKがロウ・レベル：バスは解放されています（バス・ホールド状態）
- ・HLDAKがハイ・レベル：本マイクロコントローラがバス・マスタです（バス・ホールド状態ではない）

(3) パス・ホールド手順

バス・ホールド状態遷移の手順を図10-5に示します。

図10-5 パス・ホールド状態遷移



(4) パワー・セーブ・モード時の動作

STOPモード期間中およびIDLE1, IDLE2, サブIDLEモード期間中は、内部システム・クロックが停止するため、 \overline{HLDRQ} 端子がアクティブになっても受け付けられずバス・ホールド状態にはなりません。

HALTモードでは、 \overline{HLDRQ} 端子がアクティブになると、ただちに \overline{HLDAK} 端子がアクティブになり、バス・ホールド状態になります。その後、 \overline{HLDRQ} 端子がインアクティブになると、 \overline{HLDAK} 端子もインアクティブになり、バス・ホールド状態は解除されます。

10.2.7 端子状態

アイドル・ステートあるいはバス・ホールド状態で内蔵メモリへアクセスした場合の端子状態を示します。

リセット時、パワー・セーブ・モードでの端子状態については、[第2章 端子機能](#)を参照してください。

(1) 内蔵メモリ・アクセス時の端子状態

内蔵ROM、内蔵RAM、内蔵周辺I/Oへアクセスした場合、各端子状態は次のようにになります。

表10-7 内蔵メモリ・アクセス時の端子状態

アクセス先	アドレス・バスAD [15:0]で ASTBがハイ・レベル	データ・バスAD [15:0]で ASTBがロウ・レベル	制御信号
内蔵ROM	不定	Hi-Z	インアクティブ
内蔵RAM	不定	Hi-Z	インアクティブ
内蔵周辺I/O	注	Hi-Z	インアクティブ

注 内蔵周辺I/Oへアクセス時、内蔵周辺I/Oがアクセスするアドレスは、アドレス・バスを介して出力されます。

(2) アイドル・ステートおよびバス・ホールド時の端子状態

アイドル・ステート、バス・ホールド期間中の各端子状態は次のようにになります。

表10-8 アイドル・ステートおよびバス・ホールド時の端子状態

端子	アイドル・ステート時の状態 ^注	バス・ホールド時の状態	IDLEモードおよびSTOPモード時の状態
AD [15:0]	保持	Hi-Z	Hi-Z
WR0, WR1, RD, ASTB	H	Hi-Z	H
CLKOUT	動作	動作	L
HLDAK	H	L	H
HLDREQ	-	動作	-
CS0-CS3	保持	Hi-Z	H

注 アイドル・ステートはBCC.BCK1 = 1(k = 0-3)の場合、2回のバス・アクセス・サイクル間のバス・ステートTIです。

10.3 レジスタ

内蔵周辺機器 , 外部メモリ , 外部I/Oに対するアクセスは , バス・コントロール・ユニット (BCU) とメモリ・コントローラのレジスタにより制御 , 操作できます。

表10-9 パス , メモリ制御レジスタの概要

モジュール	レジスタ名	略号	アドレス
バス・コントロール・ユニット (BCU)	周辺I/O領域セレクト制御レジスタ	BPC	FFFFF064H
	バス・サイズ・コンフィギュレーション・レジスタ	BSC	FFFFF066H
	システム・ウェイト・コントロール・レジスタ	VSWC	FFFFF06EH
メモリ・コントローラ	アドレス・ウェイト・コントロール・レジスタ	AWC	FFFFF488H
	データ・ウェイト・コントロール・レジスタ	DWC0	FFFFF484H
	バス・サイクル・コントロール・レジスタ	BCC	FFFFF48AH

10.3.1 BCUレジスタ

次のレジスタは , BCUの一部です。これらのレジスタは , プログラマブル周辺I/O領域とデータ・バス幅の使用許可 / 禁止を定義します。

(1) 周辺I/O領域セレクト制御レジスタ (BPC)

BPCレジスタは , プログラマブル周辺I/O領域の使用を許可 / 禁止し , PPAの開始アドレスを決定する16ビットのレジスタです。

- ・本マイクロコントローラでは , プログラマブル周辺I/O領域のベース・アドレスは03FEC000Hに固定されています。したがって , BPC.PA [13:0]に書き込んでもプログラマブル周辺I/O領域のベース・アドレスは変更されません。それでも , BPC.PA15 = 1にすることで , プログラマブル周辺I/O領域の使用を許可する必要があります。
- ・エミュレーション・ツールではプログラマブル周辺I/O領域の使用を許可し , 8FFBHをBPCレジスタに書き込むことによりベース・アドレスを設定する必要があります。

ソフトウェアをマイクロコントローラとエミュレーション・ツールの両方に最適化するには , ソフトウェアにBPC = 8FFBHでプログラマブル周辺I/O領域の設定を組み込む必要があります。

アクセス : 16ビット単位でリード / ライト可能です。

アドレス : FFFFF064H

初期値 : 0000H

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
PA15	0	PA13	PA12	PA11	PA10	PA9	PA8	PA7	PA6	PA5	PA4	PA3	PA2	PA1	PA0

注意 ビット14には , 必ず0を設定してください。

プログラマブル周辺I/O領域のベース・アドレスPPAは , 12 Kバイトのプログラマブル周辺I/O領域開始アドレスを256 Mバイトの範囲内で設定します。256 Mバイトのページは , 32ビットのアドレス範囲全体に16回ミラーリングされます。

表10 - 10 BPCレジスタの内容

ビット位置	ビット名	機能
15	PA15	プログラマブル周辺I/O領域の使用許可 / 禁止 0 : PPAの使用を禁止 1 : PPAの使用を許可
11-0	PA [13:0]	ビットPA [13:0]は、プログラマブル周辺I/O領域の開始アドレスのビット27-14を指定します。

ベース・アドレスPBAは、次のように求められます。

$$PBA = BPC.PA [13:0] \times 2^{14}$$

プログラマブル周辺I/O領域のアドレス構成を表10 - 11に示します。ベース・アドレスPBAがハイライトされています。

表10 - 11 プログラマブル周辺I/O領域のアドレス範囲 (12 Kバイト)

31	...	28	27	...	14	13	...	1	0	ビット
0	...	0		BPC.PA [13 : 0]		1	...	1	1	
...										
0	...	0		BPC.PA [13 : 0]		0	...	0	1	
0	...	0		BPC.PA [13 : 0]		0	...	0	0	PBA

(2) バス・サイズ・コンフィギュレーション・レジスタ (BSC)

BSCレジスタは、各チップ・セレクト領域のデータ・バス幅を制御する16ビットのレジスタです。

アクセス : 16ビット単位でリード / ライト可能です。

アドレス : FFFFF066H

初期値 : 5555H (このレジスタは正しく初期化する必要があります。下記の注意を参照してください)

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
0	1	0	1	0	1	0	1	0	BS30	0	BS20	0	BS10	0	BS00
									CS3		CS2		CS1		CS0

表10 - 12 BSCレジスタの内容

ビット位置	ビット名	機能
6, 4, 2, 0	BSk0 (k = 0-3)	各チップ・セレクト領域kのデータ・バス幅を設定 0 : 8ビット 1 : 16ビット

注意1. ビット15, 13, 11, 9, 7, 5, 3, 1には必ず0を設定してください。

ビット14, 12, 10, 8には必ず1を設定してください。

2. リセット時に外部メモリ領域を初期化する場合は、レジスタBSCを設定してください。初期化後はレジスタを変更しないでください。初期化が終了する前に、外部デバイスにアクセスしないでください。

データ・フラッシュのアクセス : チップ・セレクト領域nを介してデータ・フラッシュにアクセスする場合は、BSC.BSn0 = 1 (バス・サイズ16ビット) に設定してください。

(3) システム・ウェイト・コントロール・レジスタ(VSWC)

VSWCレジスタは、内蔵周辺I/Oレジスタに対するバス・アクセスのウェイトを制御するレジスタです。

内蔵周辺I/Oレジスタへのアクセスは3クロック(ノーワエイト時)ですが、本マイクロコントローラでは動作周波数によりウェイトが必要です。使用する動作周波数に応じて、VSWCレジスタには次に示す値を設定してください。

8ビット単位でリード/ライト可能です(アドレス:FFFFF06EH、初期値:77H)。

表10-13 VSWCの設定値

動作周波数(f_{CPU})	VSWCの設定値	ウェイト数
$f_{CPU} < 16.6 \text{ MHz}$	00H	0
$16.6 \text{ MHz} \leq f_{CPU} < 25 \text{ MHz}$	01H	1
$25 \text{ MHz} \leq f_{CPU} < 33.3 \text{ MHz}$ ^注	11H	2
$33.3 \text{ MHz} \leq f_{CPU} \leq 48 \text{ MHz}$	12H	3

注 256Kバイト品は、16.6MHz $\leq f_{CPU} \leq 32$ MHzとなります。

備考 このレジスタは、RESET時に初期化する必要があります。

10.3.2 メモリ・コントローラ・レジスタ

次のレジスタは、メモリ・コントローラの一部です。これらのレジスタは、データ・ウェイト・ステート数、アドレス・ウェイト・ステート数、アイドル・ステート数を指定します。

(1) アドレス・セットアップ・ウェイト・コントロール・レジスタ (AWC)

AWCレジスタは、各バス・サイクルに対して挿入するアドレス・セットアップ・ウェイト/アドレス・ホールド・ウェイト・ステートを制御する16ビットのレジスタです。アドレス・セットアップ・ウェイト/アドレス・ホールド・ウェイト・ステートは、各チップ・セレクト領域ごとに設定できます。

アクセス： 16ビット単位でリード/ライト可能です。

アドレス： FFFFF488H

初期値： FFFFH。システムのセットアップ後、デフォルトでアドレス・ホールド/ウェイト・ステートの挿入を各チップ・セレクト領域ごとに指定できます。

(このレジスタは正しく初期化する必要があります。下記の注意を参照してください)

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
1	1	1	1	1	1	1	1	AHW3	ASW3	AHW2	ASW2	AHW1	ASW1	AHW0	ASW0
CS3				CS2				CS1				CS0			

表10-14 AWCレジスタの内容

ビット位置	ビット名	機能
1, 3, 5, 7	AHWk (k = 0-3)	各チップ・セレクト領域kのアドレス・ホールド・ウェイト挿入指定 0:挿入しない 1:挿入する
0, 2, 4, 6	ASWk (k = 0-3)	各チップ・セレクト領域kのアドレス・セットアップ・ウェイト挿入指定 0:挿入しない 1:挿入する

注意1. ビット15-8には必ず1を設定してください。

2. リセット時に外部メモリ領域を初期化する場合は、レジスタAWCを設定してください。初期化後はレジスタを変更しないでください。初期化が終了する前に、外部デバイスにアクセスしないでください。

備考 内蔵メモリおよび周辺I/O領域に対するアクセスでは、プログラマブル・ウェイトは実行されません。

データ・フラッシュのアクセス：チップ・セレクト領域nを介してデータ・フラッシュにアクセスする場合は、次の設定を使用してください。

• AWC.AHWn = 0 (アドレス・ホールド・ウェイト・ステートなし)

• fxx 24 MHzの場合 : AWC.ASWn = 0 (アドレス・セットアップ・ウェイト・ステートなし)

24 MHz < fxx 48 MHzの場合 : AWC.ASWn = 1 (1ステートのアドレス・セットアップ・ウェイト挿入)

(2) データ・ウェイト・コントロール・レジスタ (DWC0)

DWC0レジスタは、バス・サイクルに対して挿入するウェイト・ステート数を制御します。

各チップ・セレクト領域を個別に制御できます。最大7ステートのデータ・ウェイトを挿入できます。

アクセス： 16ビット単位でリード／ライト可能です。

アドレス： FFFFFF484H

初期値： 7777H。システムのセットアップ後、デフォルトで7ステートのデータ・ウェイトが各チップ・セレクト領域ごとに挿入されます。

(このレジスタは正しく初期化する必要があります。下記の注意を参照してください)

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
0	DW32	DW31	DW30	0	DW22	DW21	DW20	0	DW12	DW11	DW10	0	DW02	DW01	DW00

CS3	CS2	CS1	CS0
-----	-----	-----	-----

表10-15 DWC0レジスタの内容

ビット位置	ビット名	機能	
14-12, 10-8, 6-4, 2-0	DWk [2:0] (k = 0-3)	各チップ・セレクト領域kごとのT2サイクルの後に挿入するステート数	
		DWk [2:0]	
		000B	なし
		001B	1
		010B	2
		011B	3
	
		111B	7

備考 内蔵メモリに対するアクセスでは、プログラマブル・ウェイトは実行されません。

- 注意1. ビット15, 11, 7, 3には必ず0を設定してください。
2. リセット時に外部メモリ領域を初期化する場合は、このレジスタを設定してください。初期化が終了する前に、外部デバイスにアクセスしないでください。外部デバイスアクセス時に、このレジスタを変更しないでください。また、DWC0レジスタの初期設定が終わるまでは、その初期化ルーチン以外の外部メモリ領域にアクセスしないでください。ただし、初期設定が終了した外部メモリ領域へのアクセスは可能です。
3. 内蔵ROM領域、内蔵RAM領域、内蔵周辺I/O領域はプログラマブル・ウェイトの対象外です。

データ・フラッシュのアクセス：チップ・セレクト領域nを介してデータ・フラッシュにアクセスする場合、次のように設定してください。

- $f_{CPU} \leq 40 \text{ MHz}$ の場合 : DWC0.DWm [2:0] = 001B
- $40 \text{ MHz} < f_{CPU} \leq 48 \text{ MHz}$ の場合 : DWC0.DWm [2:0] = 010B

(3) パス・サイクル・コントロール・レジスタ (BCC)

BCCレジスタは , T3サイクルの後に挿入されるアイドル・ステートを制御する16ビットのレジスタです。

各チップ・セレクト領域を個別に制御できます。

アクセス : 16ビット単位でリード / ライト可能です。

アドレス : FFFFF48AH

初期値 : AAAAH。システム・リセット時にアイドル・ステートが挿入されます。

(このレジスタは正しく初期化する必要があります。下記の注意を参照してください)

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
1	0	1	0	1	0	1	0	BC31	0	BC21	0	BC11	0	BC01	0

CS3	CS2	CS1	CS0
-----	-----	-----	-----

表10 - 16 BCCレジスタの内容

ビット位置	ビット名	機能
7, 5, 3, 1	BCk1 (k = 0-3)	各チップ・セレクト領域kのアイドル・ステート挿入指定 0 : 挿入しない 1 : T3サイクルの後に挿入する

備考 内蔵メモリに対するアクセスの場合 , アイドル・ステートは挿入されません。

注意1. ビット14, 12, 10, 8, 6, 4, 2, 0には必ず0を設定してください。

ビット15, 13, 11, 9には , 必ず1を設定してください。

2. リセット時に外部メモリ領域を初期化する場合は , このレジスタを設定してください。初期化が終了する前に , 外部デバイスにアクセスしないでください。外部デバイスアクセス時に , このレジスタを変更しないでください。また , BCCレジスタの初期設定が終わるまでは , その初期化ルーチン以外の外部メモリ領域にアクセスしないでください。ただし , 初期設定が終了した外部メモリ領域へのアクセスは可能です。
3. 内蔵ROM領域 , 内蔵RAM領域 , 内蔵周辺I/O領域は , アイドル・ステート挿入の対象外です。

データ・フラッシュのアクセス : チップ・セレクト領域nを介してデータ・フラッシュにアクセスする場合は , BCC.BCn1 = 0 (アイドル・ステート挿入なし) に設定してください。

10.4 メモリ・アクセスの設定

本マイクロコントローラは、さまざまなメモリ・デバイスとのインターフェースをサポートしています。したがって、ウェイト機能やアイドル・ステートの挿入を設定できます。

10.4.1 ウエイト機能

いくつかのウェイト機能がサポートされています。

(1) アドレス・セットアップ・ウェイト

本マイクロコントローラでは、最初のアクセス・サイクル(T1ステート)の前に1ステートのアドレス・セットアップ・ウェイトを挿入できます。

アドレス・セットアップ・ウェイト・ステートは、各チップ・セレクト領域ごとにAWC.ASWk = 1で挿入できます。

(2) アドレス・ホールド・ウェイト

本マイクロコントローラでは、最初のアクセス・サイクル(T1ステート)の後に1ステートのアドレス・ホールド・ウェイトを挿入できます。

アドレス・ホールド・ウェイト・ステートは、各チップ・セレクト領域ごとにAWC.AHWk = 1で挿入できます。

(3) プログラマブル・ウェイト機能

低速メモリ、I/Oに対するインターフェースを容易に実現させることを目的とし、2回目のアクセス・サイクル(T2ステート)の後に最大7ステートのデータ・ウェイトを挿入できます。

ウェイト・ステートの数は、データ・ウェイト・コントロール・レジスタ(DWC0)で指定できます。

(4) 外部ウェイト機能

リード/ライトの各動作は、最低3サイクル(T1, T2, T3)を要します。遅いデバイスに接続する場合など、外部デバイスに同期をとる目的でWAIT信号により任意のウェイト・ステートを挿入できます。

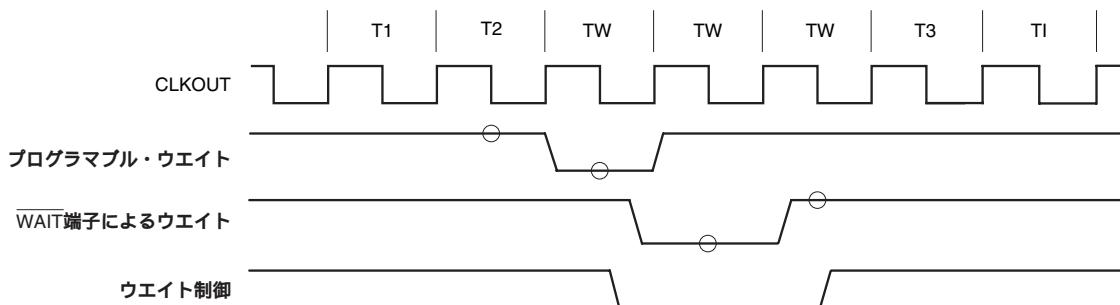
WAIT信号は、システム・クロックと非同期で設定できます。WAIT信号はT2, TWステートのクロックの立ち下がりでサンプリングされます。

サンプル・タイミングにおけるWAIT信号のレベルにより、ウェイト・ステートを挿入するかどうかが決定されます。

(5) プログラマブル・ウェイトと外部ウェイトの関係

ウェイト・サイクルは、プログラマブル・ウェイトの設定値によるウェイト・サイクルと、WAIT端子制御によるウェイト・サイクルの論理和 (OR) として挿入されます。

図10-6 ウェイト挿入例



備考 印はサンプリング・ポイントです。

10.4.2 アイドル・ステート挿入機能

低速メモリに対するインターフェースを容易に実現させることを目的とし、2つのバス・サイクルの間、つまりT3ステートの後に、アイドル・ステート (TI) を挿入できます。アイドル・ステートを挿入することにより、リード/ライト・アクセス時のメモリのデータ出力フロート遅延時間を確保できます。アイドル・ステートの挿入後に、次のバス・サイクルが起動されます。

アイドル・ステートは、BCC.BCK1 = 1 (k = 0-3) で設定します。

10.5 外部デバイス・インターフェース・タイミング

リード／ライト操作の例を紹介します。

- ・T1, T2, T3ステート：アクセス用の基本的なステート。
- ・TWステート：DWC0レジスタの設定とWAIT入力によって挿入されるウェイト・ステート。
- ・TASWステート：AWCレジスタの設定によって挿入されるアドレス・セットアップ・ウェイト・ステート。
- ・TAHWステート：AWCレジスタの設定によって挿入されるアドレス・ホールド・ウェイト・ステート。
- ・TIステート：BCCレジスタの設定によって挿入されるアイドル・ステート
- ・THステート： $\overline{\text{HLDRQ}}$ 入力によって開始されるバス・ホールド状態。

10.5.1 外部デバイスへの書き込み

外部デバイスにデータを書き込む一般的な手順を紹介します。

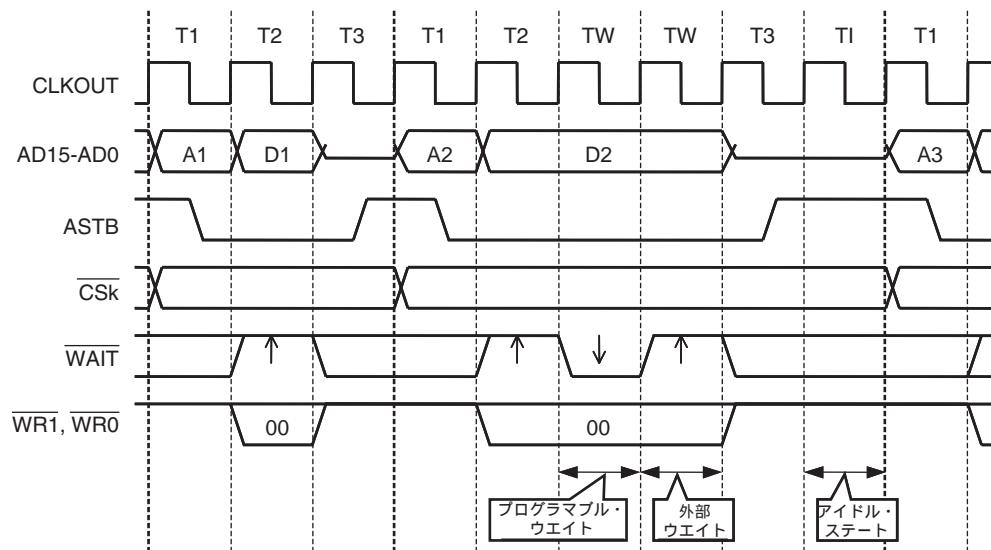
本マイクロコントローラでは、ライト・ストローブ用途で2つの端子($\overline{\text{WR0}}, \overline{\text{WR1}}$)があります。データ・バス幅の設定が16ビットの場合、それらの機能は表10-17のとおりです。

表10-17 ライト・ストローブ(データ・バス幅設定16ビット時)

$\overline{\text{WR1}}$	$\overline{\text{WR0}}$	ライト・アクセス
0	0	16ビットのライト
0	1	奇数アドレス($2n + 1$)番地への8ビット・ライト・アクセス
1	0	偶数アドレス($2n$)番地への8ビット・ライト・アクセス
1	1	-

(1) ウエイト・サイクルとアイドル・ステート挿入時のライト (バス・サイズ : 16ビット)

図10-7 タイミング : 外部 / プログラマブル・ウエイト・サイクル , アイドル・ステート挿入時のライト・データ
(バス・サイズ : 16ビット)



レジスタの設定 :

- BSC.BSk0 = 1B (16ビットのデータ・バス・サイズ)
- AWC.AHWk = AWC.ASWk = 0 (アドレス・セットアップ / ホールド・ウエイト挿入なし)
- DWC0.DWk [2:0] = 001B (1ステートのプログラマブル・データ・ウエイト挿入)
- BCC.BCk1 = 1B (1ステートのアイドル・ステート挿入)

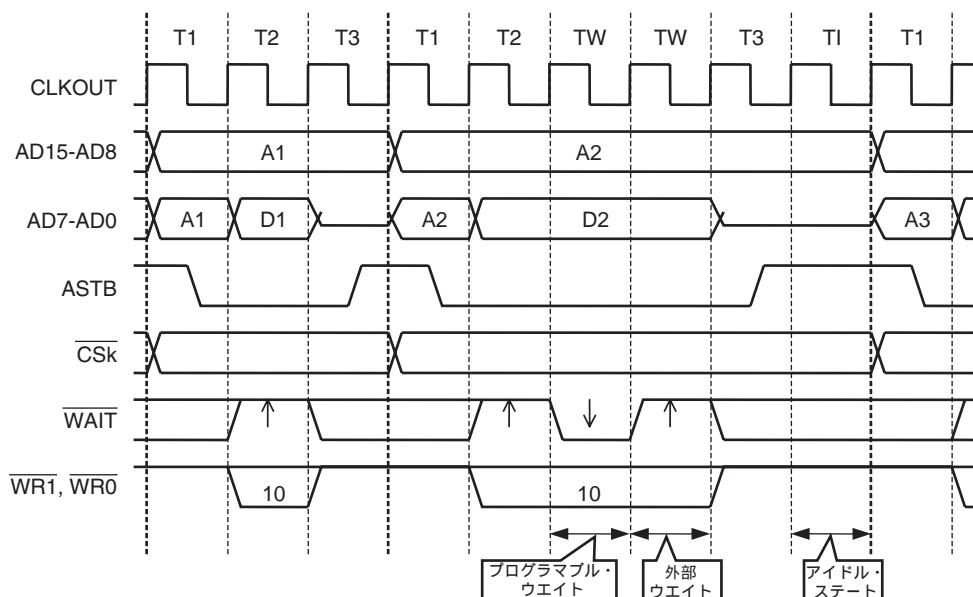
注意 矢印は , サンプル・タイミングを表しています。

備考 \overline{CSk} ($k = 0-3$)

8ビット・アクセス時	奇数番地	偶数番地
AD15-AD8	Data	不定
AD7-AD0	不定	Data
WRn ($n = 1, 0$)	01	10

(2) ウエイト・サイクルとアイドル・ステート挿入時のライト (バス・サイズ : 8ビット)

図10-8 タイミング：外部 / プログラマブル・ウエイト・サイクル、アイドル・ステート挿入時のライト・データ
(バス・サイズ : 8ビット)



レジスタの設定：

- BSC.BSk0 = 0B (8ビットのデータ・バス・サイズ)
- AWC.AHWk = AWC.ASWk = 0 (アドレス・セットアップ / ホールド・ウェイト挿入なし)
- DWC0.DWk [2:0] = 001B (1ステートのプログラマブル・データ・ウェイト挿入)
- BCC.BCk1 = 1B (1ステートのアイドル・ステート挿入)

注意 矢印は、サンプル・タイミングを表しています。

備考 $\overline{CS_k}$ ($k = 0-3$)

データは、 \overline{WR} 信号の立ち上がりエッジで安定していなくてはなりません。詳細は、データ・シート[#]を参照してください。

注 μ PD70F3370A, 70F3371 データ・シート (U18640J)

μ PD70F3372, 70F3373 データ・シート (U18639J)

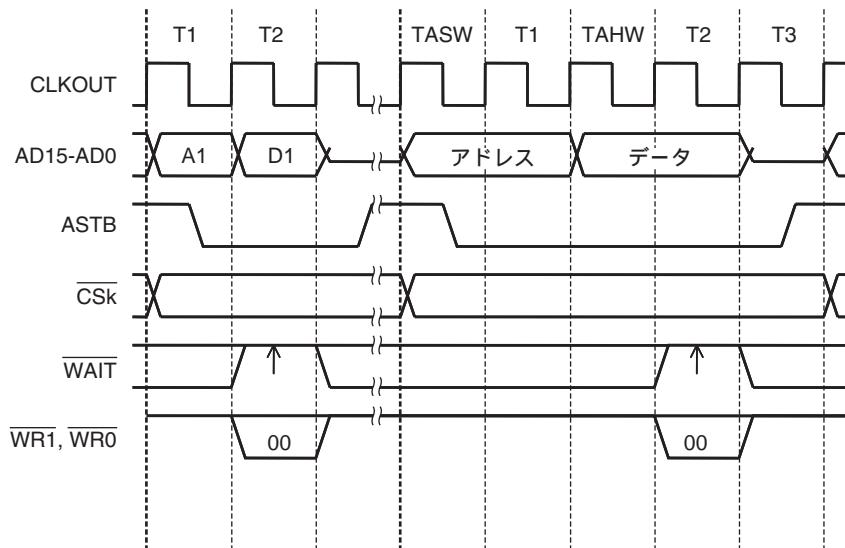
μ PD70F3374, 70F3375, 70F3376A, 70F3377A データ・シート (U18638J)

μ PD70F3378, 70F3379, 70F3380, 70F3381, 70F3382 データ・シート (U18608J)

μ PD70F3383, 70F3384, 70F3385 データ・シート (U18637J)

(3) アドレス・セットアップ/ホールド・ウェイト挿入時のライト(バス・サイズ: 16ビット)

図10-9 タイミング: アドレス・セットアップ/ホールド・ウェイト挿入時のライト(バス・サイズ: 16ビット)



レジスタの設定:

- BSC.BSK0 = 1B (16ビットのデータ・バス・サイズ)
- AWC.AHWk = AWC.ASWk = 1 (1ステートのアドレス・セットアップ/ホールド・ウェイト挿入)
- DWC0.DWK [2:0] = 000B (プログラマブル・データ・ウェイト・ステート挿入なし)
- BCC.BCK1 = 0B (アイドル・ステート挿入なし)

注意 矢印は、サンプル・タイミングを表しています。

備考 \overline{CSk} ($k = 0\text{-}3$)

データは、 \overline{WR} 信号の立ち上がりエッジで安定していなくてはなりません。詳細は、データ・シート^注を参照してください。

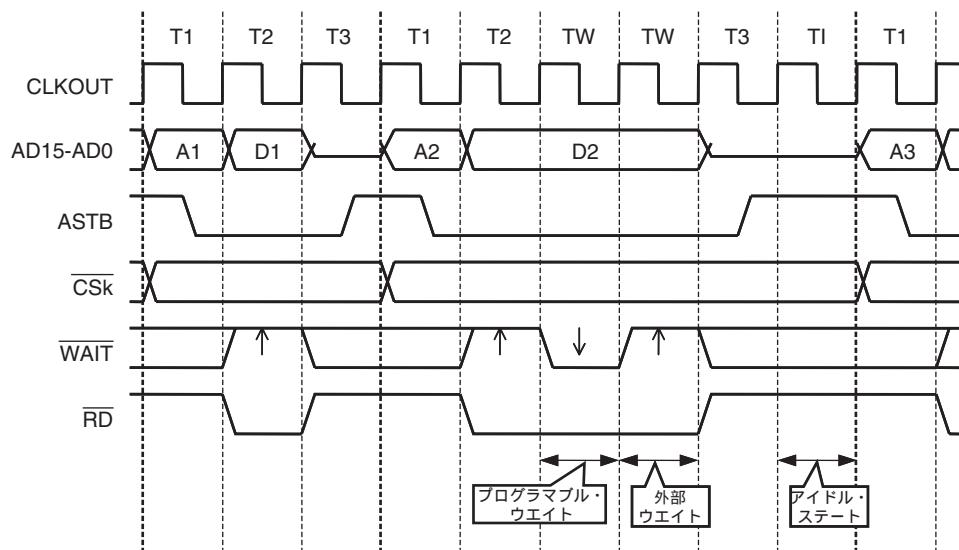
- 注 μ PD70F3370A, 70F3371 データ・シート (U18640J)
 μ PD70F3372, 70F3373 データ・シート (U18639J)
 μ PD70F3374, 70F3375, 70F3376A, 70F3377A データ・シート (U18638J)
 μ PD70F3378, 70F3379, 70F3380, 70F3381, 70F3382 データ・シート (U18608J)
 μ PD70F3383, 70F3384, 70F3385 データ・シート (U18637J)

10.5.2 外部デバイスからの読み取り

外部デバイスからデータを読み取る一般的な手順を紹介します。

(1) ウエイト・サイクルとアイドル・ステート挿入時のリード (バス・サイズ: 16ビット)

図10-10 タイミング: 外部 / プログラマブル・ウェイト・サイクル, アイドル・ステート挿入時のリード・データ
(バス・サイズ: 16ビット)



レジスタの設定:

- BSC.BSk0 = 1B (16ビットのデータ・バス・サイズ)
- AWC.AHWk = AWC.ASWk = 0 (アドレス・セットアップ / ホールド・ウェイト挿入なし)
- DWC0.DWk [2:0] = 001B (1ステートのプログラマブル・データ・ウェイト挿入)
- BCC.BCk1 = 1B (1ステートのアイドル・ステート挿入)

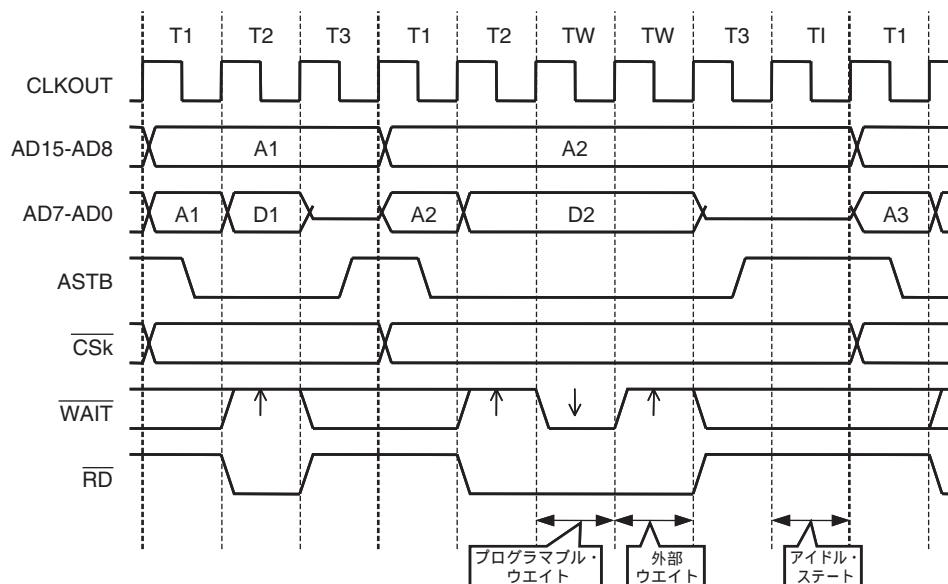
注意 矢印は、サンプル・タイミングを表しています。

備考 \overline{CSk} ($k = 0-3$)

8ビット・アクセス時	奇数番地	偶数番地
AD15-AD8	Data	-
AD7-AD0	-	Data

(2) ウエイト・サイクルとアイドル・ステート挿入時のリード (バス・サイズ : 8ビット)

図10-11 タイミング：外部 / プログラマブル・ウェイト・サイクル , アイドル・ステート挿入時のリード・データ
(バス・サイズ : 8ビット)



レジスタの設定：

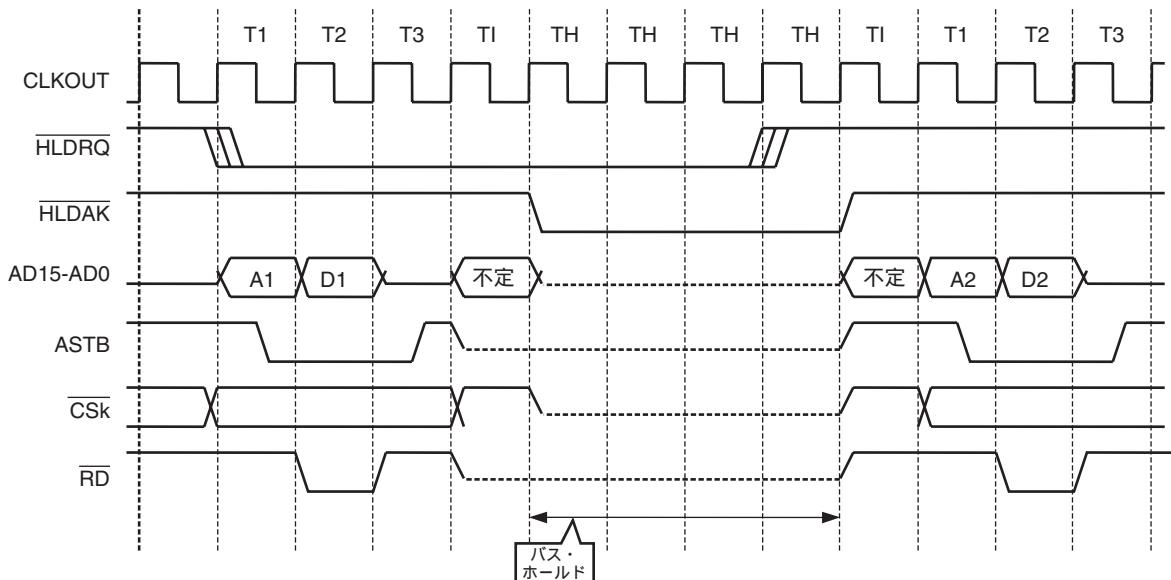
- BSC.BSk0 = 0B (8ビットのデータ・バス・サイズ)
- AWC.AHWk = AWC.ASWk = 0 (アドレス・セットアップ / ホールド・ウェイト挿入なし)
- DWC0.DWk [2:0] = 001B (1ステートのプログラマブル・データ・ウェイト挿入)
- BCC.BCk1 = 1B (1ステートのアイドル・ステート挿入)

注意 矢印は、サンプル・タイミングを表しています。

備考 \overline{CSk} ($k = 0-3$)

(3) パス・ホールド状態とアイドル・ステート挿入時のリード (バス・サイズ : 16ビット)

図10-12 タイミング：バス・ホールド状態とアイドル・ステート挿入時のリード (バス・サイズ : 16ビット)



レジスタの設定：

- BSC.BSK0 = 1B (16ビットのデータ・バス・サイズ)
- AWC.AHWk = AWC.ASWk = 0 (アドレス・セットアップ/ホールド・ウェイト挿入なし)
- DWC0.DWk [2:0] = 001B (1ステートのプログラマブル・データ・ウェイト挿入)
- BCC.BCK1 = 0B (アイドル・ステート挿入なし。下記の備考を参照してください)

注意1. 矢印は、サンプル・タイミングを表しています。

2. BCC.BCK1の設定に依存しないアイドル・ステート (TI)

備考 \overline{CSk} ($k = 0-3$)

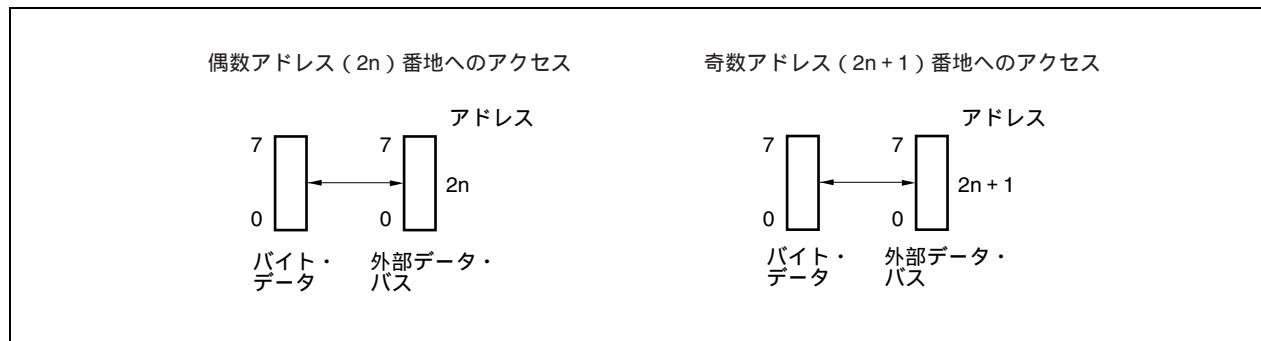
10.6 データ・アクセス・オーダ

10.6.1 8ビット・データ・バス・アクセス

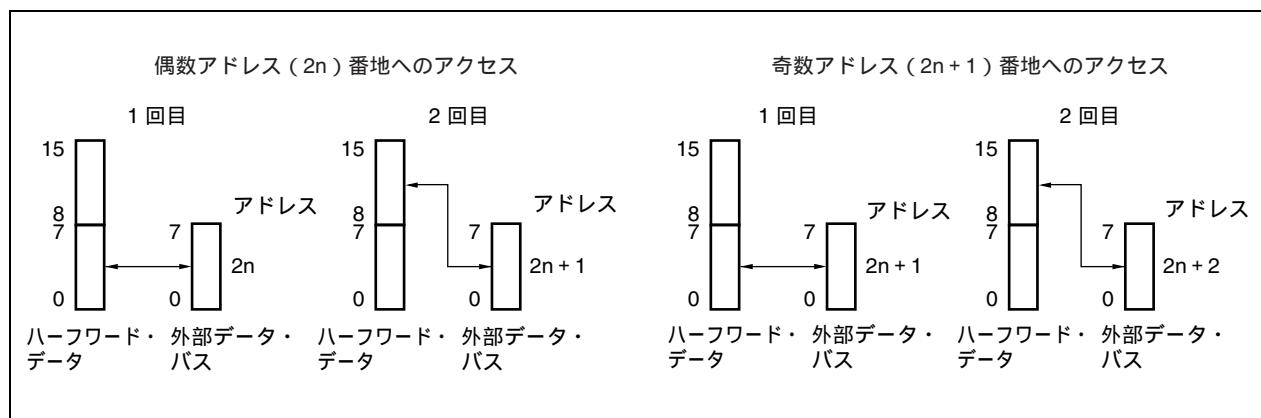
ここでは、8ビット・データ・バスの場合のバイト・アクセス、ハーフワード・アクセス、ワード・アクセスの動作を示します。

リトル・エンディアン形式のみ対応しています。

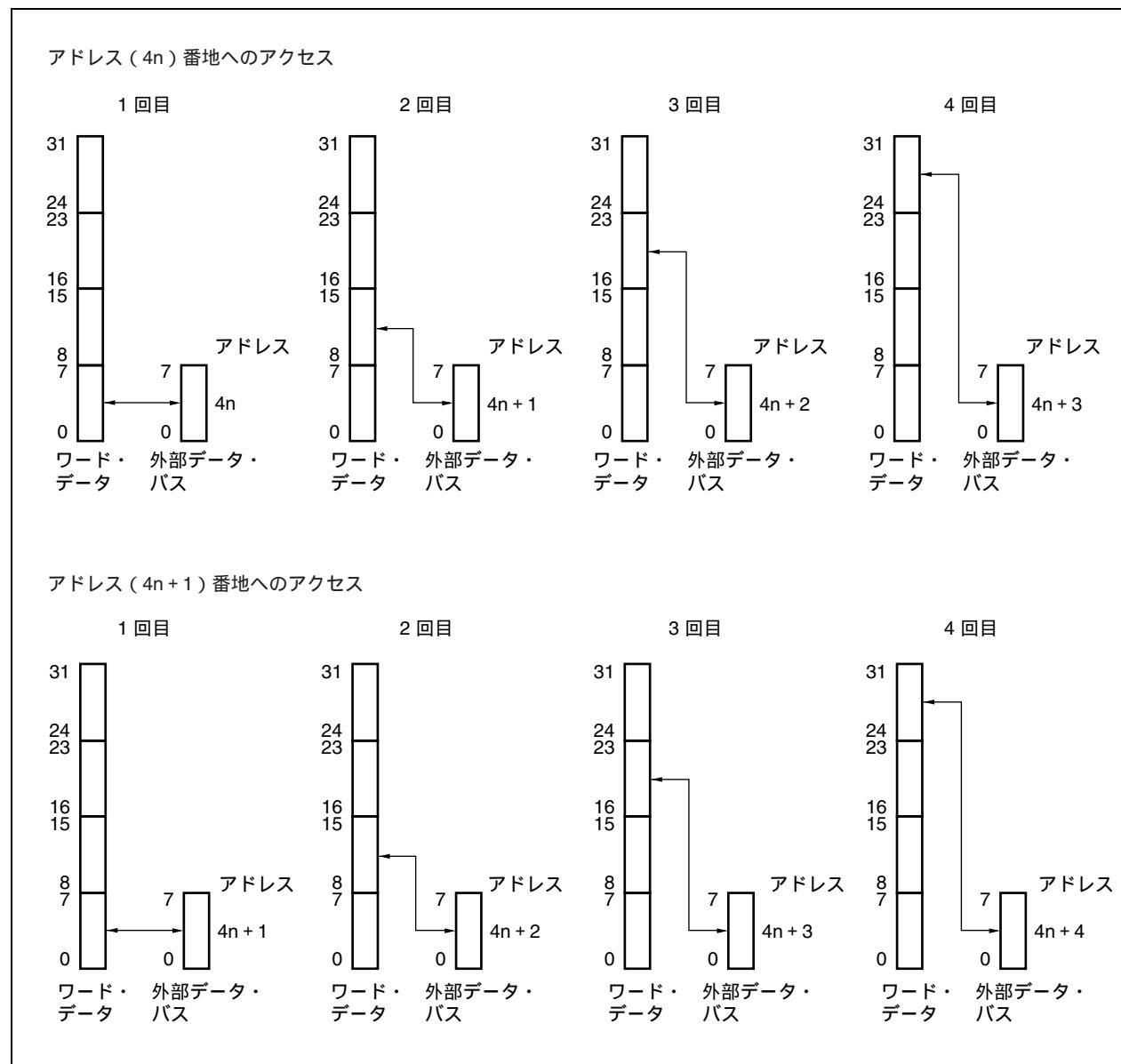
(1) バイト・アクセス(8ビット)

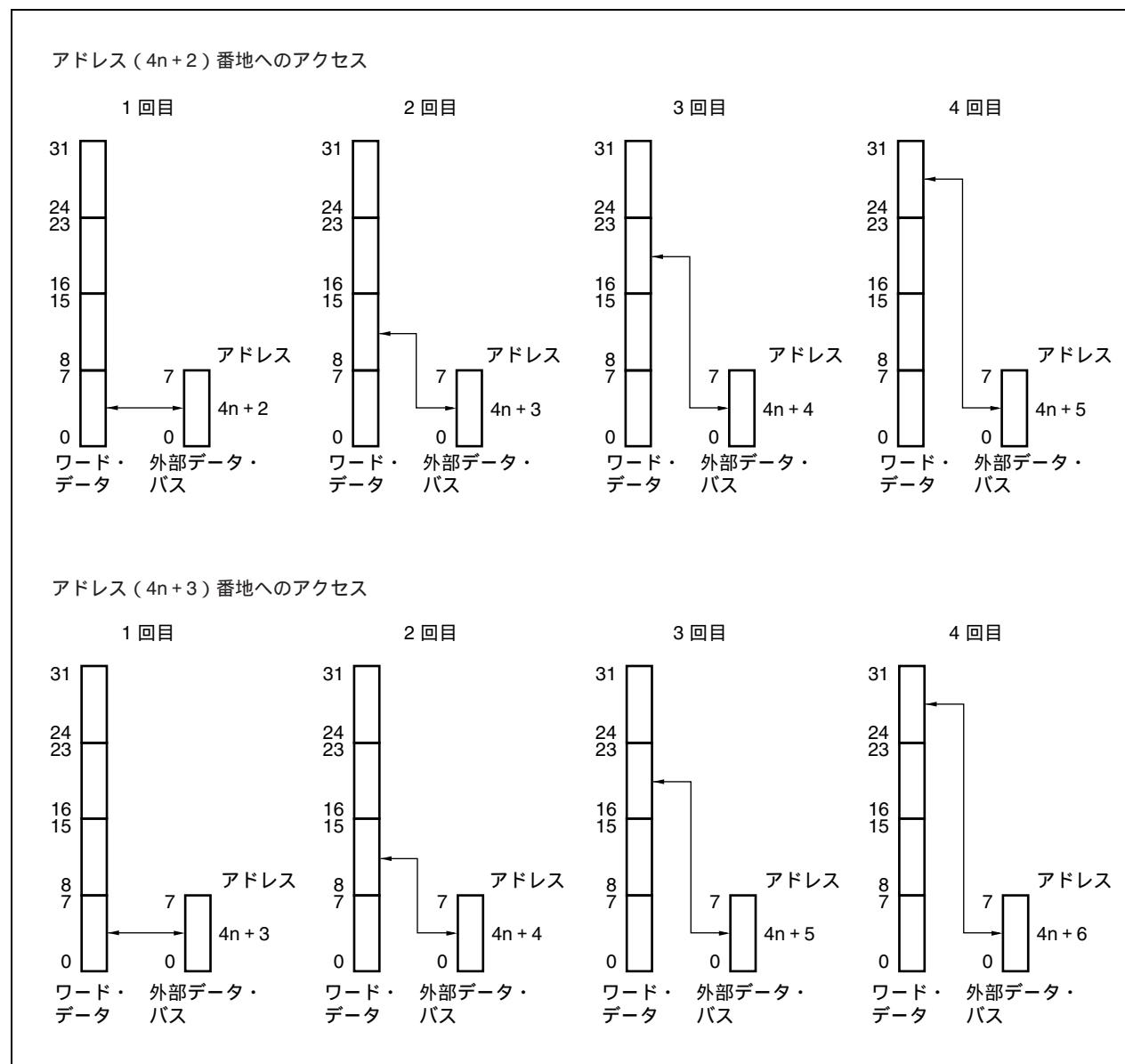


(2) ハーフワード・アクセス(16ビット)



(3) ワード・アクセス(32ビット)





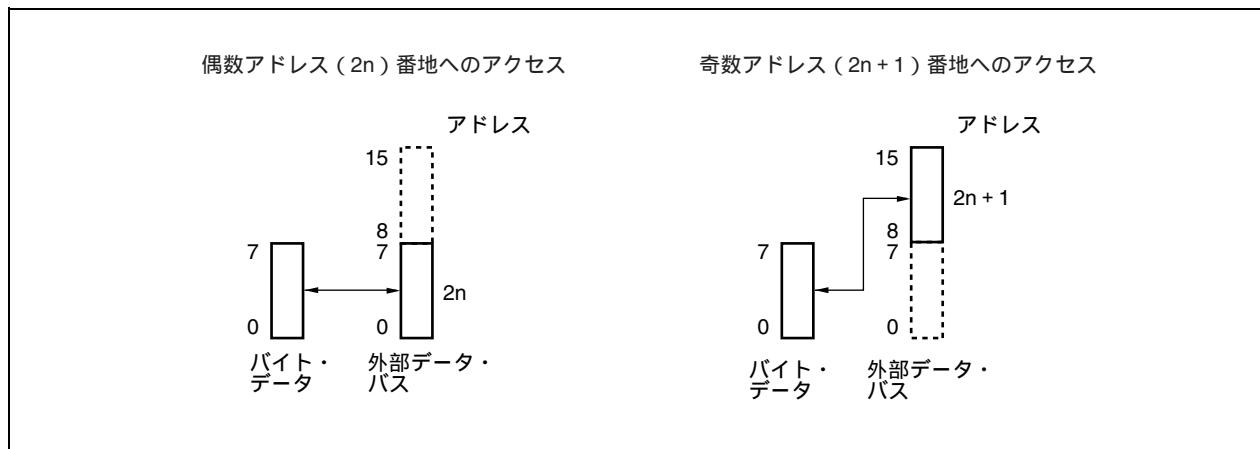
10.6.2 16ビット・データ・バス・アクセス

ここでは、16ビット・データ・バスの場合のバイト・アクセス、ハーフワード・アクセス、ワード・アクセスの動作を示します。

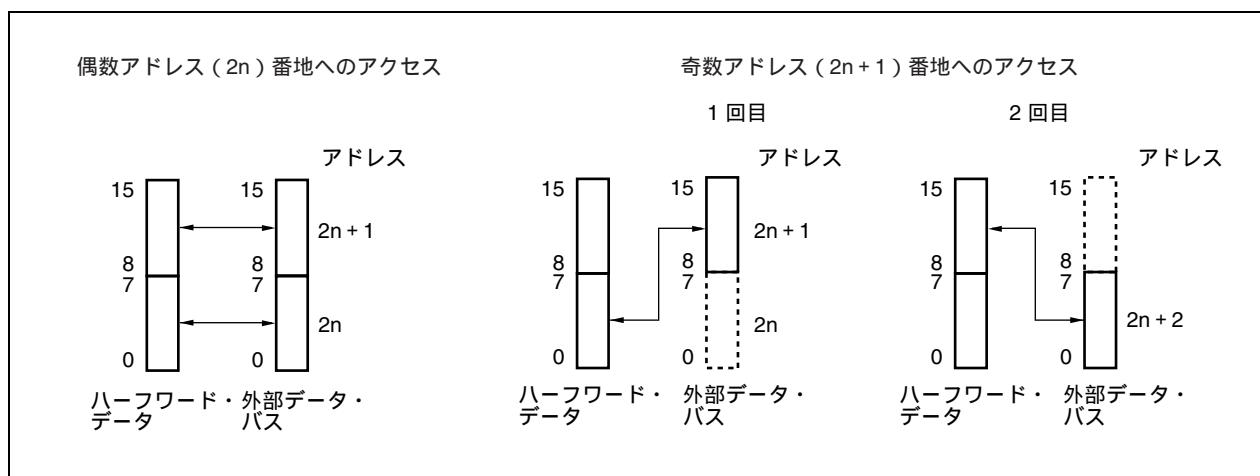
リトル・エンディアン形式のみ対応しています。

すべてデータの下位側から順にアクセスします。

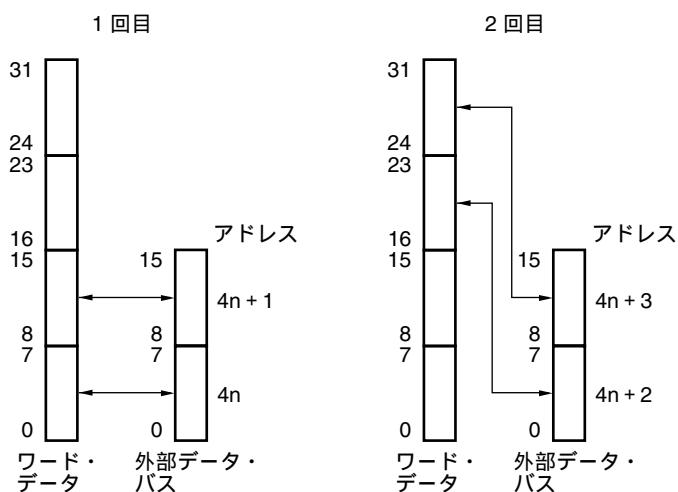
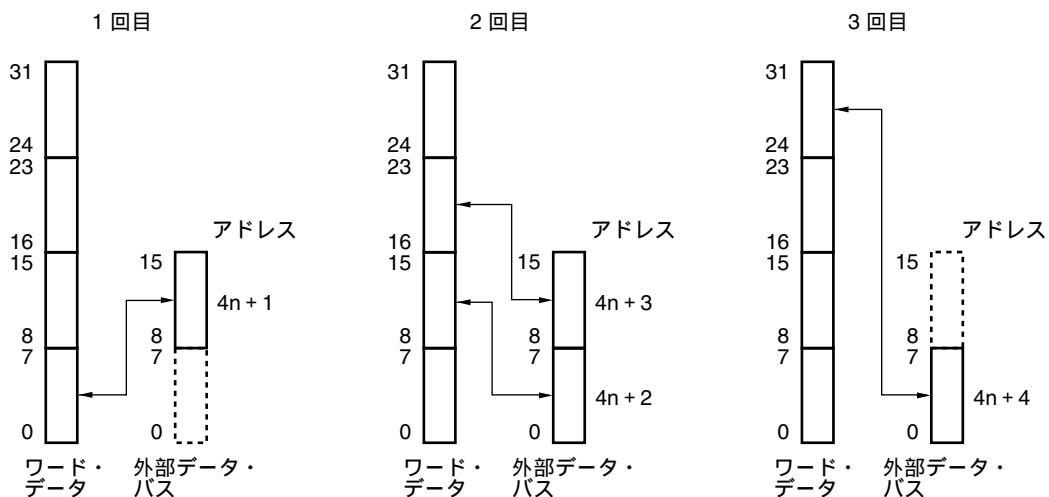
(1) バイト・アクセス(8ビット)

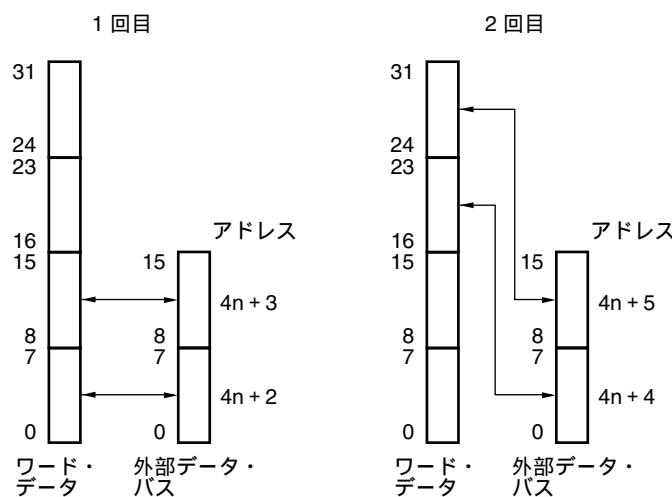
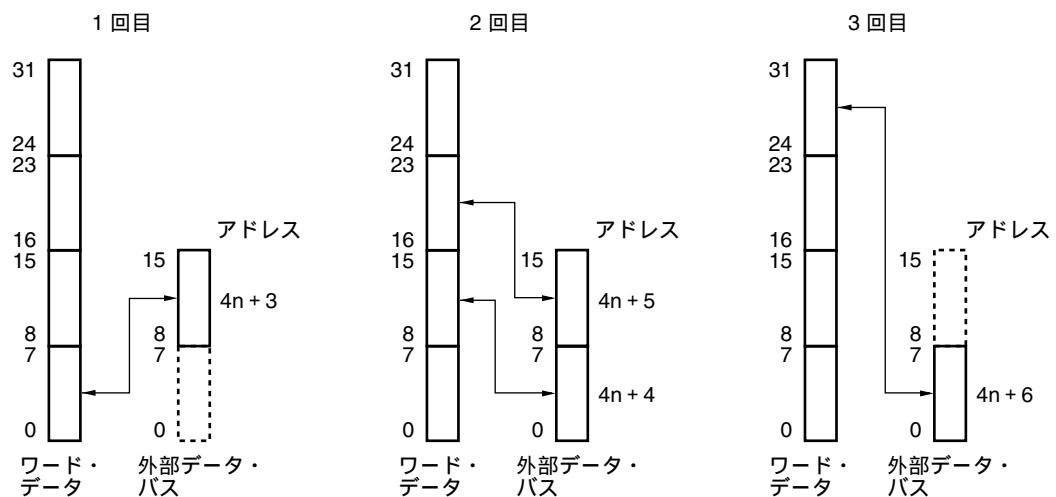


(2) ハーフワード・アクセス(16ビット)



(3) ワード・アクセス (32ビット)

アドレス ($4n$) 番地へのアクセスアドレス ($4n + 1$) 番地へのアクセス

アドレス ($4n + 2$) 番地へのアクセスアドレス ($4n + 3$) 番地へのアクセス

第11章 DMA機能(DMAコントローラ)

本マイクロコントローラは、DMA転送を実行制御するDMA (Direct Memory Access) コントローラ (DMAC) を備えています。

DMACは、内蔵周辺I/O (シリアル・インターフェース、タイマ / カウンタ、A/Dコンバータ)、外部入力端子からの割り込みによる要求、またはソフトウェア・トリガによるDMA要求に基づいて、メモリ I/O間、メモリ メモリ間、I/O I/O間でのデータ転送を制御します (メモリは内蔵RAM、または外部メモリを意味します)。

11.1 特 徴

4つの独立なDMAチャネル

転送単位 : 8ビット / 16ビット

最大転送回数 : 65536 (2^{16}) 回

転送タイプ : 2サイクル転送

転送モード : シングル転送モード

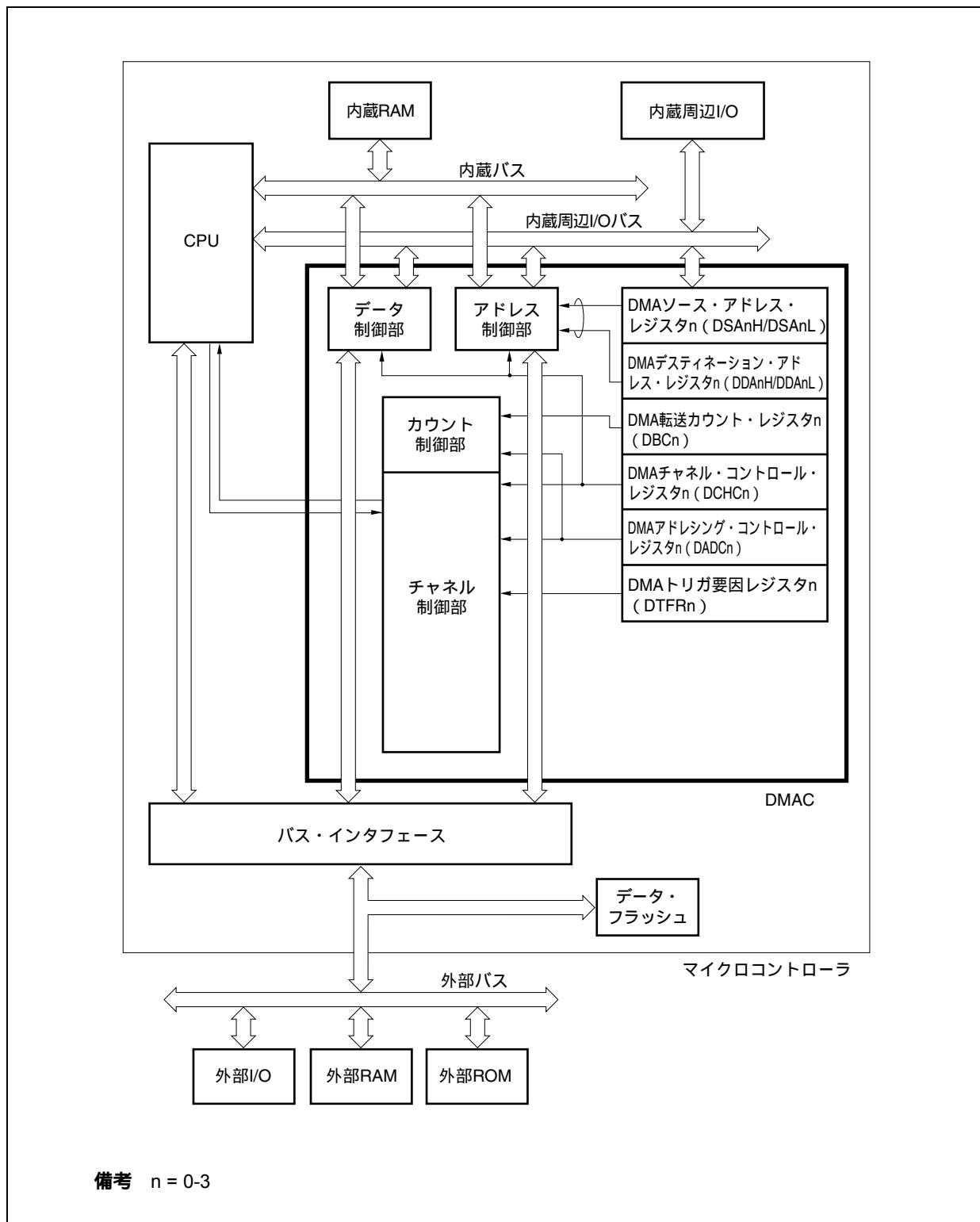
転送要求

- ・内蔵周辺I/O (シリアル・インターフェース、タイマ / カウンタ、A/Dコンバータ)、外部入力端子からの割り込みによる要求
- ・ソフトウェア・トリガによる要求

転送対象

- ・内蔵RAM 周辺I/O
- ・周辺I/O 周辺I/O
- ・内蔵RAM 外部メモリ
- ・外部メモリ 周辺I/O
- ・外部メモリ 外部メモリ
- ・データ・フラッシュ 周辺I/O
- ・データ・フラッシュ 外部メモリ
- ・データ・フラッシュ 内蔵RAM

11.2 構成



11.3 レジスタ

(1) DMAソース・アドレス・レジスタ0-3 (DSA0-DSA3)

DMAチャネルnのDMA転送元アドレス(26ビット)を設定します(n=0-3)。

このレジスタは, DSA_nH, DSA_nLの2つの16ビット・レジスタに分かれます。

16ビット単位でリード/ライト可能です。

リセット時: 不定 R/W アドレス: DSA0H FFFFF082H, DSA1H FFFFF08AH,

DSA2H FFFFF092H, DSA3H FFFFF09AH,

DSA0L FFFFF080H, DSA1L FFFFF088H,

DSA2L FFFFF090H, DSA3L FFFFF098H

	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
DSAnH (n=0-3)	IRn	0	0	0	0	0	SAn25	SAn24	SAn23	SAn22	SAn21	SAn20	SAn19	SAn18	SAn17	SAn16

	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
DSAnL (n=0-3)	SAn15	SAn14	SAn13	SAn12	SAn11	SAn10	SAn9	SAn8	SAn7	SAn6	SAn5	SAn4	SAn3	SAn2	SAn1	SAn0

IRn	DMA転送元の指定
0	外部メモリ, 内蔵周辺I/O, データ・フラッシュ
1	内蔵RAM

SAn25-SAn16	DMA転送元のアドレス(A25-A16)を設定してください(初期値不定)。 DMA転送中は, 次のDMA転送元アドレスを保持します。 DMA転送が完了すると, 最初に設定されたDMAアドレスが保持されます。
-------------	---

SAn15-SAn0	DMA転送元のアドレス(A15-A0)を設定してください(初期値不定)。 DMA転送中は, 次のDMA転送元アドレスを保持します。 DMA転送が完了すると, 最初に設定されたDMAアドレスが保持されます。
------------	--

- 注意1. DSA_nHレジスタのビット14-10には, 必ず“0”を設定してください。
- 2. DSA_nH, DSA_nLレジスタの設定は, DMA転送禁止状態(DCHCn.ENnビット=0)である次のいずれかのタイミングで行ってください。
 - ・リセット後から最初のDMA転送起動までの期間
 - ・DCHCn.INITnビットによるチャネル初期化後からDMA転送起動までの期間
 - ・DMA転送完了後(DCHCn.TCnビット=1の状態)から次のDMA転送起動までの期間
- 3. DSA_nレジスタの値を読み出す際, DSA_nHレジスタとDSA_nLレジスタの2つの16ビット・レジスタごとに読み出すため, 読み出しと更新のタイミングが競合した場合, 更新途中の値が読み出されることがあります(11.13 注意事項参照)。
- 4. リセット後,DMA転送を開始する前にDSA_nH, DSA_nL, DDA_nH, DDA_nL, DBC_nレジスタを設定してください。これらのレジスタを設定しないでDMA転送を開始した場合は, 動作を保証しません。

(2) DMAデスティネーション・アドレス・レジスタ0-3 (DDA0-DDA3)

DMAチャネルnのDMA転送先アドレス (26ビット) を設定します (n = 0-3)。

このレジスタは, DDAH, DDALの2つの16ビット・レジスタに分かれます。

16ビット単位でリード / ライト可能です。

リセット時 : 不定 R/W アドレス : DDA0H FFFFF086H, DDA1H FFFFF08EH,
DDA2H FFFFF096H, DDA3H FFFFF09EH,
DDA0L FFFFF084H, DDA1L FFFFF08CH,
DDA2L FFFFF094H, DDA3L FFFFF09CH

	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
DDAH (n = 0-3)	IRn	0	0	0	0	0	DA25	DA24	DA23	DA22	DA21	DA20	DA19	DA18	DA17	DA16
DDAL (n = 0-3)	DA15	DA14	DA13	DA12	DA11	DA10	DA9	DA8	DA7	DA6	DA5	DA4	DA3	DA2	DA1	DA0

IR	DMA転送先の指定
0	外部メモリ, 内蔵周辺I/O, データ・フラッシュ
1	内蔵RAM

DA25- DA16	DMA転送先のアドレス (A25-A16) を設定してください (初期値不定)。 DMA転送中は, 次のDMA転送先アドレスを保持します。 DMA転送が終了すると, 最初に設定されたDMA転送元アドレスを保持します。
---------------	--

DA15- DA0	DMA転送先のアドレス (A15-A0) を設定してください (初期値不定)。 DMA転送中は, 次のDMA転送先アドレスを保持します。 DMA転送が終了すると, 最初に設定されたDMA転送元アドレスを保持します。
--------------	---

- 注意1. DDAHレジスタのピット14-10には, 必ず“0”を設定してください。
2. DDAH, DDALレジスタの設定は, DMA転送禁止状態 (DCHCn.ENnピット = 0) である次のいずれかのタイミングで行ってください。
- ・リセット後から最初のDMA転送起動までの期間
 - ・DCHCn.INITnピットによるチャネル初期化後からDMA転送起動までの期間
 - ・DMA転送完了後 (DCHCn.TCnピット = 1の状態) から次のDMA転送起動までの期間
3. DDAnレジスタの値を読み出す際, DDAHレジスタとDDALレジスタの2つの16ビット・レジスタごとに読み出すため, 読み出しと更新のタイミングが競合した場合, 更新途中の値が読み出されることがあります (11.13 注意事項参照)。
4. リセット後,DMA転送を開始する前にDSAnH, DSAnL, DDAH, DDAL, DBCnレジスタを設定してください。これらのレジスタを設定しないでDMA転送を開始した場合は, 動作を保証しません。

(3) DMA転送カウント・レジスタ0-3 (DBC0-DBC3)

DMAチャネルnの転送数を設定する16ビット・レジスタです (n = 0-3)。

DMA転送中は、残りの転送数を保持します。

転送データ単位 (8/16ビット) にかかわらず、1回の転送につき1ずつデクリメントされ、ボローが発生すると転送を終了します。

16ビット単位でリード / ライト可能です。

備考 DMA転送中にDBCnレジスタを書き換えることなくターミナル・カウントが発生したあと、DBCnレジスタを読み出した場合は、DMA転送の直前に設定された値が読み出されます(転送終了後でも0000Hは読み出されません)。

リセット時：不定 R/W アドレス : DBC0 FFFFF0C0H, DBC1 FFFFF0C2H,
DBC2 FFFFF0C4H, DBC3 FFFFF0C6H

DBCn (n = 0-3)	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	BCn15	BCn14	BCn13	BCn12	BCn11	BCn10	BCn9	BCn8	BCn7	BCn6	BCn5	BCn4	BCn3	BCn2	BCn1	BCn0

BCn15-BCn0	転送数の設定、またはDMA転送中の残りの転送数
0000H	1回の転送、または残り転送数
0001H	2回の転送、または残り転送数
:	:
FFFFH	65536 (2 ¹⁶) 回の転送、または残り転送数
DMA転送が完了すると、最初に設定された転送データ数を保持します。	

- 注意1. DBCnレジスタの設定は、DMA転送禁止状態 (DCHCn.ENnビット = 0) である次のいずれかのタイミングで行ってください。
- ・リセット後から最初のDMA転送起動までの期間
 - ・DCHCn.INITnビットによるチャネル初期化後からDMA転送起動までの期間
 - ・DMA転送完了後 (DCHCn.TCnビット = 1の状態) から次のDMA転送起動までの期間
2. リセット後、DMA転送を開始する前にDSAnH, DSAnL, DDAnH, DDAnL, DBCnレジスタを設定してください。これらのレジスタを設定しないでDMA転送を開始した場合は、動作を保証しません。

(4) DMAアドレッシング・コントロール・レジスタ0-3 (DADC0-DADC3)

DMAチャネルnのDMA転送モードを制御する16ビット・レジスタです（n = 0-3）。

16ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより0000Hになります。

リセット時 : 0000H R/W アドレス : DADC0 FFFFF0D0H, DADC1 FFFFF0D2H,
DADC2 FFFFF0D4H, DADC3 FFFFF0D6H

DADCn (n = 0-3)	15	14	13	12	11	10	9	8
	0	DSn0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
	SADn1	SADn0	DADn1	DADn0	0	0	0	0

DSn0	転送データ・サイズの設定
0	8ビット
1	16ビット

SADn1	SADn0	転送元アドレスのカウント方向の設定
0	0	インクリメント
0	1	デクリメント
1	0	固定
1	1	設定禁止

DADn1	DADn0	転送先アドレスのカウント方向の設定
0	0	インクリメント
0	1	デクリメント
1	0	固定
1	1	設定禁止

1. DADCnレジスタのビット15, 13-8, 3-0には、必ず“0”を設定してください。
 2. DADCnレジスタの設定は、DMA転送禁止状態 (DCHCn.Ennビット = 0) である次のいずれかのタイミングで行ってください。
 - ・リセット後から最初のDMA転送起動までの期間
 - ・DCHCn.INITnビットによるチャネル初期化後からDMA転送起動までの期間
 - ・DMA転送完了後 (DCHCn.TCnビット = 1の状態) から次のDMA転送起動までの期間
 3. DS0ビットは転送データ・サイズを設定するものであり、バス・サイジングを制御するものではありません。したがって、8ビット・データ (DS0ビット = 0) を設定した場合でも、必ずしも下位データ・バスを使用するわけではありません。
 4. 転送データ・サイズを16ビットに設定した場合 (DS0ビット = 1)、奇数アドレスから始まる転送はできません。下位アドレスの1ビットを“0”にアラインしたアドレスから必ず転送を開始します。
 5. 内蔵周辺I/Oレジスタを対象 (転送元 / 転送先) とするDMA転送の場合、必ずレジスタ・サイズと同じ転送サイズを指定してください。たとえば、8ビットのレジスタに対するDMA転送の場合は、必ず (8ビット) 転送を指定してください。

(5) DMAチャネル・コントロール・レジスタ0-3 (DCHC0-DCHC3)

DMAチャネルnのDMA転送動作モードを指定する8ビット・レジスタです。

8/1ビット単位でリード / ライト可能です(ただし、ビット7はリードだけ、ビット2, 1はライトだけ可能です。ビット2, 1をリードした場合は0が読み出されます。)。

リセットにより00Hになります。

リセット時 : 00H R/W アドレス : DCHC0 FFFFF0E0H, DCHC1 FFFFF0E2H,
DCHC2 FFFFF0E4H, DCHC3 FFFFF0E6H

DCHCn	⑦ TCn ^{注1}	6	5	4	3	② INITn ^{注2}	① STGn ^{注2}	③ Enn
-------	------------------------	---	---	---	---	--------------------------	-------------------------	----------

(n = 0-3)

TCn ^{注1}	DMAチャネルnのDMA転送の完了 / 未完了を示すステータス・フラグ
0	DMA転送未完了
1	DMA転送完了

DMA転送の最後の転送時にセット(1)され、読み出しによってクリア(0)されます。

INITn ^{注2}	DMA転送が禁止された状態で(Ennビット=0), INITnビットをセット(1)するとDMA転送のステータスを初期化できます。 DMA転送が完了する前に(TCnビットがセット(1)される前), DMA転送ステータスの再設定(DDAnH, DDAnL, DSAnH, DSAnL, DBCn, DADCnレジスタの再設定)を行う場合は、必ずDMAチャネルの初期化後にやってください。 ただし、DMAコントローラの初期化は、必ず11.13 注意事項に示す手順にしたがって行ってください。
---------------------	--

STGn ^{注2}	DMA転送のソフトウェア起動トリガです。 DMA転送が許可の状態(TCnビット=0, Ennビット=1)でこのビットをセット(1)するとDMA転送を開始します。
--------------------	---

Enn	DMAチャネルnのDMA転送の許可 / 禁止の設定
0	DMA転送の禁止
1	DMA転送の許可

Ennビットをセット(1)するとDMA転送が許可されます。
DMA転送が完了(ターミナル・カウント発生)すると、自動的にクリア(0)されます。
なお、DMA転送を中断するには、ソフトウェアでEnnビットをクリア(0)してください。再開するには、再度Ennビットをセット(1)してください。
ただし、DMA転送の中断 / 再開は、必ず11.13 注意事項に示す手順にしたがって行ってください。

注1. TCnビットはリードのみ可能です。

2. INITn, STGnビットはライトのみ可能です。

注意1. DCHCnレジスタのビット6-3には、必ず“0”を設定してください。

2. DMA転送完了時(ターミナル・カウント時)は、Ennビットのクリア(0) TCnビットのセット(1)の順で各ビットの更新が行われます。そのため、DCHCnレジスタの各ビットの更新途中にDCHCnレジスタを読み出した場合、「転送未完了、かつ転送禁止」の状態を示す値(TCnビット=0, かつEnnビット=0)が読み出されることがあります。

3. ソフトウェアによるDMA転送要求を発生させるときには、TCnビットがセット(1)されていることを確認してから、TCnビットをクリア(0)してください。

4. INITnビットのセットと他のチャネルのDMA転送が競合すると、初期化が行われない場合があります。

(6) DMAトリガ要因レジスタ0-3 (DTFR0-DTFR3)

内蔵周辺I/Oからの割り込み要求信号によるDMA転送開始トリガを制御する8ビット・レジスタです。

このレジスタで設定した割り込み要求信号が、DMA転送の起動要因になります。

8ビット単位でリード／ライト可能です。ただし、DFnビットのみ1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

(1/2)

リセット時 : 00H R/W アドレス : DTFR0 FFFFF810H, DTFR1 FFFFF812H,
DTFR2 FFFFF814H, DTFR3 FFFFF816H

	(7)	6	5	4	3	2	1	0
DTFRn	DFn	0	IFCn5	IFCn4	IFCn3	IFCn2	IFCn1	IFCn0

(n = 0-3)

DFn注	DMA転送要求フラグ
0	DMA転送要求なし
1	DMA転送要求あり

注 DFnビットは、ソフトウェアにより“1”を設定しないでください。DMA転送を禁止している間にDMA転送の起動要因に設定している割り込みが発生し、DMA転送要求をクリアする必要がある場合に0をライトします。

注意1. IFCn5-IFCn0ビットの設定は、DMA転送禁止状態 (DCHCn.ENnビット = 0) である次のいずれかのタイミングで行ってください。

- ・リセット後から最初のDMA転送起動までの期間
- ・DCHCn.INITnビットによるチャネル初期化後からDMA転送起動までの期間
- ・DMA転送完了後 (DCHCn.TCnビット = 1の状態) から次のDMA転送起動までの期間

- 注意2.** DTFRnレジスタの設定を変更する場合は必ず次の手順で行ってください。
- IFCn5-IFCn0ビットに設定する値が他チャネルのIFCm5-IFCm0ビットに設定されていない場合 (n = 0-3, m = 0-3, n ≠ m)
 - 書き換え対象となるチャネルのDMA_n動作を停止 (DCHCn.Ennビット = 0) する。
 - DTFRnレジスタの設定を変更する (必ずDFnビット = 0とし, かつ8ビット操作で行ってください)。
 - DFnビット = 0であることを確認する (あらかじめ, 割り込み発生要因の動作を停止しておいてください)。
 - DMA_n動作を許可 (Ennビット = 1) する。
 - IFCn5-IFCn0ビットに設定する値がすでに他チャネルのIFCm5-IFCm0ビットに設定されている場合 (n = 0-3, m = 0-3, n = m)
 - 書き換え対象となるチャネルのDMA_n動作を停止 (DCHCn.Ennビット = 0) する。
 - IFCn5-IFCn0ビットに書き換える値と同じ値がIFCm5-IFCm0ビットに設定されているチャネルのDMA_m転送を停止 (DCHCm.Emmビット = 0) する。
 - DTFRnレジスタの設定を変更する (必ずDFnビット = 0とし, かつ8ビット操作で行ってください)。
 - DFnビット = 0およびDFmビット = 0であることを確認する (あらかじめ, 割り込み発生要因の動作を停止しておいてください)。
 - DMA_n動作を許可 (Ennビット = 1およびEmmビット = 1) する。
3. スタンバイ・モード (IDLE1, IDLE2, STOP, サブIDLEモード) 中に発生した割り込み要求は, DMA転送サイクルの起動要因にはなりません (DFnビットもセット (1) されません)。
 4. IFCn5-IFCn0ビットで任意のDMA起動要因を選択したあとは, DMA転送の許可 / 禁止にかかわらず, 選択した内蔵周辺I/Oからの割り込みが発生するとDFnビットはセット (1) されます。この状態でDMA許可とした場合, ただちにDMA転送が起動されます。
 5. DTFRnの値を変更する場合, DTFRnを変更しようとするDMAチャネルより優先順位の低いDMAチャネルの転送を禁止 (DCHCm.Ennビット = 0) してください (n < m)。

備考 IFCn5-IFCn0ビットについては表11-1 DMA起動要因を参照してください。

表11-1 DMA起動要因(1/2)

IFCn5	IFCn4	IFCn3	IFCn2	IFCn1	IFCn0	割り込み要因
0	0	0	0	0	0	割り込みによるDMA要求禁止
0	0	0	0	0	1	INTLVIL
0	0	0	0	1	0	INTP0
0	0	0	0	1	1	INTP1
0	0	0	1	0	0	INTP2
0	0	0	1	0	1	INTP3
0	0	0	1	1	0	INTP4
0	0	0	1	1	1	INTP5
0	0	1	0	0	0	INTP6
0	0	1	0	0	1	INTP7
0	0	1	0	1	0	INTTAB0OV
0	0	1	0	1	1	INTTAB0CC0
0	0	1	1	0	0	INTTAB0CC1
0	0	1	1	0	1	INTTAB0CC2
0	0	1	1	1	0	INTTAB0CC3
0	0	1	1	1	1	INTTAA0OV
0	1	0	0	0	0	INTTAA0CC0
0	1	0	0	0	1	INTTAA0CC1
0	1	0	0	1	0	INTTAA1OV
0	1	0	0	1	1	INTTAA1CC0
0	1	0	1	0	0	INTTAA1CC1
0	1	0	1	0	1	INTTAA2OV
0	1	0	1	1	0	INTTAA2CC0
0	1	0	1	1	1	INTTAA2CC1
0	1	1	0	0	0	INTTAA3OV
0	1	1	0	0	1	INTTAA3CC0
0	1	1	0	1	0	INTTAA3CC1
0	1	1	0	1	1	INTTM0EQ0
0	1	1	1	0	0	INTCB0R
0	1	1	1	0	1	INTCB0T
0	1	1	1	1	0	INTCB1R
0	1	1	1	1	1	INTCB1T
1	0	0	0	0	0	INTUD0R
1	0	0	0	0	1	INTUD0T
1	0	0	0	1	0	INTUD1R
1	0	0	0	1	1	INTUD1T
1	0	0	1	0	0	INTAD
1	0	0	1	0	1	INTTAA4OV
1	0	0	1	1	0	INTTAA4CC0
1	0	0	1	1	1	INTTAA4CC1
1	0	1	0	0	0	INTIIC0
1	0	1	0	0	1	INTKR

備考 n = 0-3

表11-1 DMA起動要因(2/2)

IFCn5	IFCn4	IFCn3	IFCn2	IFCn1	IFCn0	割り込み要因
1	0	1	0	1	0	INTTAB1OV ^{注1}
1	0	1	0	1	1	INTTAB1CC0 ^{注1}
1	0	1	1	0	0	INTTAB1CC1 ^{注1}
1	0	1	1	0	1	INTTAB1CC2 ^{注1}
1	0	1	1	1	0	INTTAB1CC3 ^{注1}
1	0	1	1	1	1	INTUD2R ^{注1}
1	1	0	0	0	0	INTUD2T ^{注1}
1	1	0	0	0	1	INTLVIH
1	1	0	0	1	0	INTUD3R ^{注2}
1	1	0	0	1	1	INTUD3T ^{注2}
1	1	0	1	0	0	INTTAB2OV ^{注3}
1	1	0	1	0	1	INTTAB2CC0 ^{注3}
1	1	0	1	1	0	INTTAB2CC1 ^{注3}
1	1	0	1	1	1	INTTAB2CC2 ^{注3}
1	1	1	0	0	0	INTTAB2CC3 ^{注3}
1	1	1	0	0	1	INTCB2R ^{注3}
1	1	1	0	1	0	INTCB2T ^{注3}
1	1	1	0	1	1	INTUD4R ^{注2}
1	1	1	1	0	0	INTUD4T ^{注2}
1	1	1	1	0	1	INTUD5R ^{注4}
1	1	1	1	1	0	INTUD5T ^{注4}
1	1	1	1	1	1	INTAD1 ^{注5}

注1. V850ES/FE3, V850/FF3には搭載されていません。

2. V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3のμPD70F3374, 70F3375, V850ES/FJ3のμPD70F3378には搭載されていません。
3. V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3には搭載されていません。
4. V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3, V850ES/FJ3のμPD70F3378には搭載されていません。
5. V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3, V850ES/FJ3には搭載されていません。

備考 n = 0-3

11.4 転送対象

転送対象の関係を次に示します(: 転送可 , × : 転送不可)。

表11-2 転送対象の関係

		転送先				
		内蔵ROM	内蔵周辺I/O	内蔵RAM	外部メモリ	データ・フラッシュ
転送元	内蔵周辺I/O	×				×
	内蔵RAM	×		×		×
	データ・フラッシュ	×				×
	外部メモリ	×				×
	内蔵ROM	×	×	×	×	×

注意 表11-2に示す転送先と転送元で、「×」が表記されている組み合わせで転送を行った場合の動作は保証できません。

11.5 転送モード

転送モードとして、シングル転送をサポートしています。

シングル転送では、1回のバイト／ハーフワード転送ごとにバスを解放します。その後、DMA転送要求があると再度1回の転送を行います。この動作をターミナル・カウントが発生するまで続けます。

DMACがバスを解放している間にほかの優先順位が高いDMA転送要求が発生した場合、常に優先順位が高いDMA要求を優先させます。

ただし、転送サイクル中に同一チャネルの新たな転送要求と、他の優先順位が低いチャネルの転送要求が発生した場合、CPUにバスを解放した次の転送は、新たに要求のあった優先順位の低いチャネルのDMA転送となります（転送サイクル中は、同一チャネルの新たな転送要求は無視されます）。

11.6 転送タイプ

転送タイプとして、2サイクル転送をサポートしています。

2サイクル転送は、リード・サイクル、ライト・サイクルと2回のサイクルでデータを転送します。

リード・サイクルでは、転送元のアドレスを出力し転送元からDMACへのリードを行い、ライト・サイクルでは、転送先のアドレスを出力しDMACから転送先への書き込みを行います。

リード・サイクルとライト・サイクルの間には、必ず1クロック分のアイドル・サイクルが挿入されます。

2サイクルのDMA転送で、転送元と転送先のデータ・バス幅が異なる場合、次のような動作になります。

<16ビット・データ転送の場合>

32ビット・バス 16ビット・バスへの転送

リード・サイクル(上位16ビットはハイ・インピーダンス)が発生し、その後ライト・サイクル(16ビット)が発生します。

16/32ビット・バス 8ビット・バスへの転送の場合

16ビットのリード・サイクルが1回発生し、その後8ビットのライト・サイクルが2回発生します。

8ビット・バス 16/32ビット・バスへの転送の場合

8ビットのリード・サイクルが2回発生し、その後16ビットのライト・サイクルが1回発生します。

16ビット・バス 32ビット・バスへの転送の場合

16ビットのリード・サイクルが1回発生し、その後16ビットのライト・サイクルが1回発生します。

なお、内蔵周辺I/Oレジスタを対象(転送元/転送先)とするDMA転送の場合、必ずレジスタ・サイズと同じ転送サイズを指定してください。たとえば、8ビットのレジスタに対するDMA転送の場合は、必ずバイト(8ビット)転送を指定してください。

備考 各転送対象(転送元/転送先)のバス幅は次のとおりです。

- ・内蔵周辺I/O : 16ビット・バス幅
- ・内蔵RAM : 32ビット・バス幅
- ・外部メモリ : 8もしくは16ビット・バス幅
- ・データ・フラッシュ : 16ビット・バス幅

11.7 DMAチャネルの優先順位

DMAチャネルの優先順位は固定で、次のようにになります。

DMAチャネル0 > DMAチャネル1 > DMAチャネル2 > DMAチャネル3

1回の転送サイクルの度に優先順位がチェックされます。

注意 同じ起動要因で複数のDMAチャネルを起動した場合、優先順位の低いDMAチャネルが優先順位の高いDMAチャネルより先に受け付けられる場合があります。

11.8 DMA転送に関する各種時間

DMA要求に対する応答時間、DMA転送にかかる最小クロック数を次に示します。

シングル転送 : DMA応答時間() + 転送元メモリ・アクセス() + ^{注1}1 + 転送先メモリ・アクセス()

DMAサイクル		最小実行クロック数
DMA要求に対する応答時間		4クロック (MIN.) + ノイズ除去時間 ^{注2}
メモリ・アクセス	外部メモリ・アクセス	接続するメモリで異なります
	データ・フラッシュ (読み出しのみ)	$f_{CPU} = 24\text{ MHz}$: 4クロック $24\text{ MHz} < f_{CPU} = 40\text{ MHz}$: 5クロック $40\text{ MHz} < f_{CPU} = 48\text{ MHz}$: 6クロック
	内蔵RAMアクセス	2クロック ^{注3}
	周辺I/Oレジスタ・アクセス	3クロック + VSWCレジスタによるウェイト数 ^{注4}

- 注1. DMA転送のリード・サイクルとライト・サイクルの間には、必ず1クロック挿入されます。
- 2. 外部割り込み (INTPn) をDMA転送の起動要因に指定した場合、ノイズ除去時間が加算されます ($n = 0-7$)。
- 3. DMAサイクルの場合は、2クロックかかります。
- 4. 特定の周辺I/Oレジスタへのアクセスについては、さらにウェイトが必要となります（詳細は第3章 CPU機能を参照してください）。

11.9 DMA転送起動要因

DMA転送の起動要因には、次の2種類があります。

(1) ソフトウェアによる要求

DCHCn.TCnビット = 0,かつEnnビット = 1 (DMA転送許可) の状態で, STGnビットをセット(1)すると,DMA転送を起動します。

続けて次のDMA転送サイクルを要求するには, DBCnレジスタにて, 先のDMA転送サイクルが完了したことを確認してから, 再度STGnビットをセット(1)してください(n=0-3)。

TCnビット = 0, Ennビット = 1

STGnビット = 1 ... 1回目のDMA転送開始

DBCnレジスタの内容が更新されたことを確認

STGnビット = 1 ... 2回目のDMA転送開始

:

ターミナル・カウント発生...Ennビット = 0, TCnビット = 1かつINTDMA_n信号発生

(2) 内蔵周辺I/Oによる要求

DCHCn.TCnビット = 0,かつEnnビット = 1 (DMA転送許可) の状態で, DTFRnレジスタに設定している内蔵周辺I/Oからの割り込み要求が発生すると, DMA転送を起動します。

- 注意1. 同一のDMAチャネルに対して, 2つの起動要因(ソフトウェア・トリガ, ハードウェア・トリガ)を併用できません。1つのDMAチャネルに対して, 2つの起動要因が同時に発生した場合, どちらか一方だけが有効となります。有効となった起動要因の特定はできません。
- 2. 先のDMA転送要求が発生してから, または先のDMA転送サイクル中に新たな転送要求が発生しても, その要求は無視(クリア)されます。
- 3. 同一のDMAチャネルに対する転送要求間隔は, DMA転送サイクル中のバス・ウェイトの設定やほかのチャネルの起動状況, または外部バス・ホールド要求により変化します。特に注意2のとおり, DMA転送サイクル前, または転送サイクル中に同一チャネルの新たな転送要求が発生しても, その要求は無視されてしまいます。したがって, 同一のDMAチャネルに対する転送要求間隔は, システム上で十分な間隔をもつようにしてください。ソフトウェア・トリガ時は, DBCnレジスタの更新により, 先に発生したDMA転送サイクルの完了を確認できます。

11.10 DMAの中断要因

DMA転送は、バス・ホールドが発生すると中断されます。

内部メモリ / 内蔵周辺I/O 内部メモリ / 内蔵周辺I/O時も同様です。

バス・ホールドが解除されると、引き続きDMA転送を開始します。

11.11 DMA転送の終了

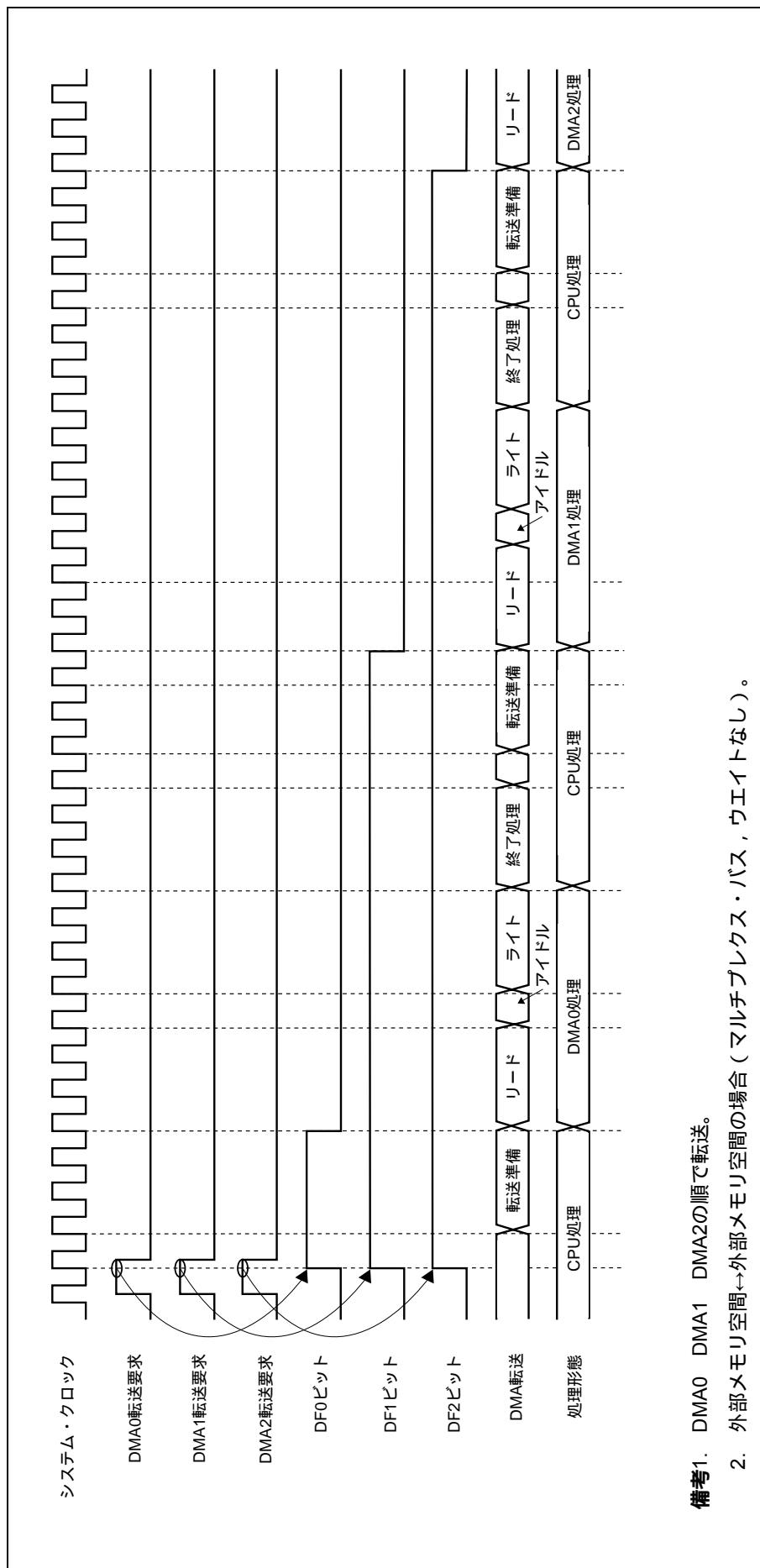
DBCnレジスタに設定した回数分DMA転送が終了し,DCHCn.E_nビットがクリア(0),TCnビットがセット(1)されると、割り込みコントローラ(INTC)に対して、DMA転送終了割り込み要求信号(INTDMA_n)を発生します($n = 0-3$)。

本マイクロ・コントローラでは、ターミナル・カウント信号を外部に出力していませんので、DMA転送終了割り込み、またはTCnビットのポーリングによりDMA転送の完了を確認してください。

11.12 動作タイミング

図11-1から図11-4にDMAの動作タイミングを示します。

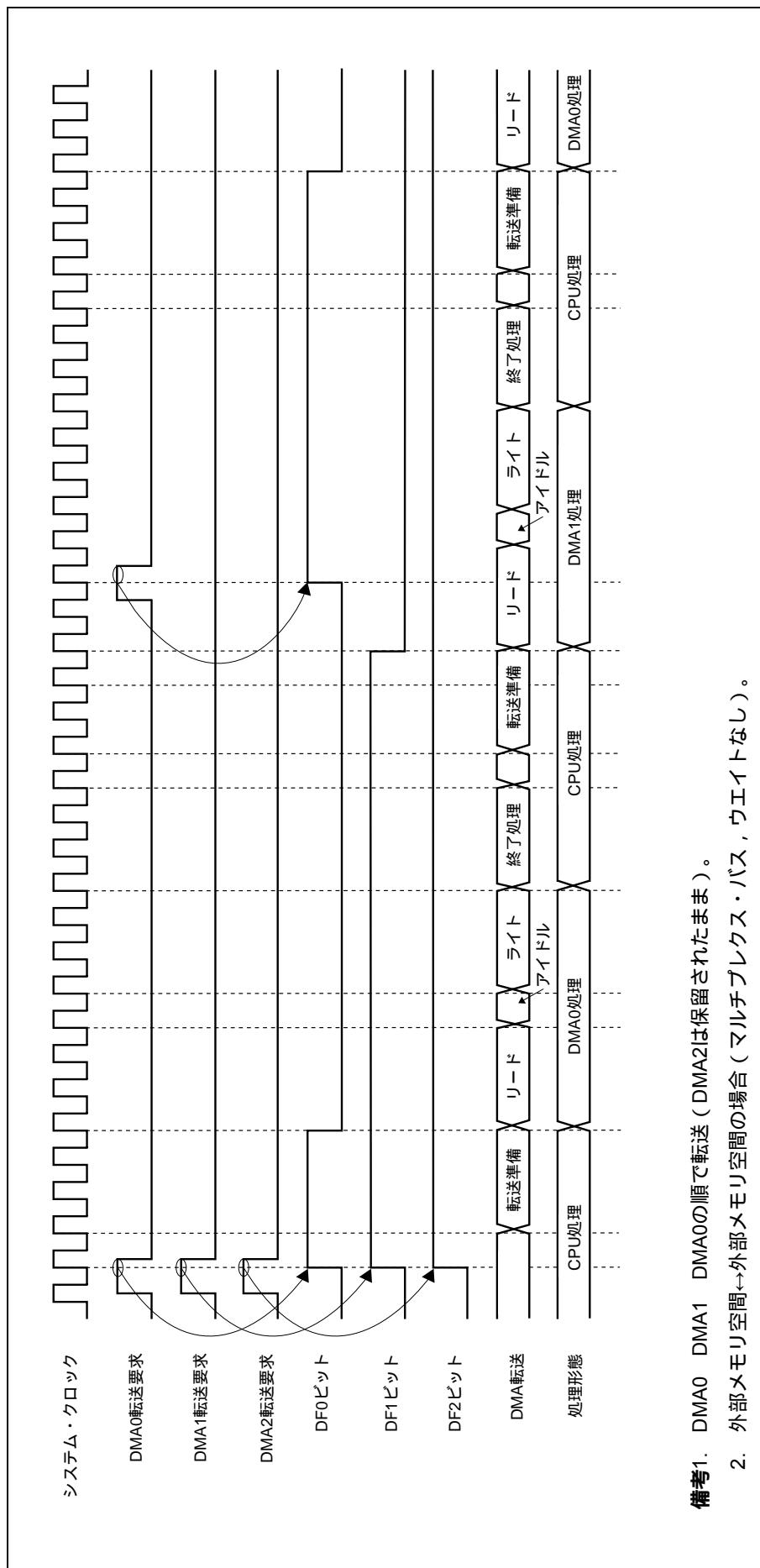
図11-1 DMAの優先順位(1)



備考1. DMA0 DMA1 DMA2 の順で転送。

2. 外部メモリ空間→外部メモリ空間の場合(マルチブレクス・バス、ウエイトなし)。

図11-2 DMA0の優先順位(2)



備考1. DMA0 DMA1 DMA0の順で転送 (DMA2は保留されたまま)。

2. 外部メモリ空間→外部メモリ空間の場合(マルチプレクス・バス, ウエイトなし)。

図11-3 DMAの転送要求が無視される期間(1)

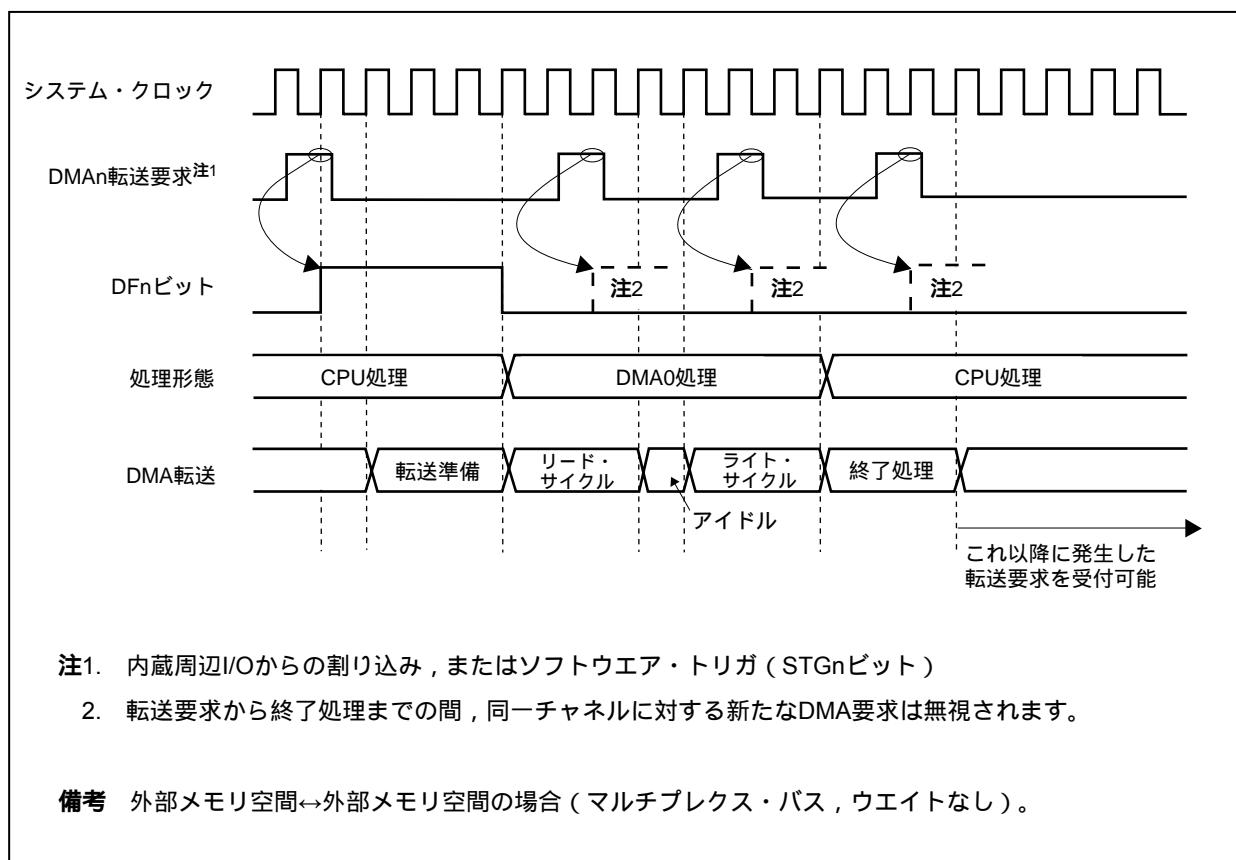
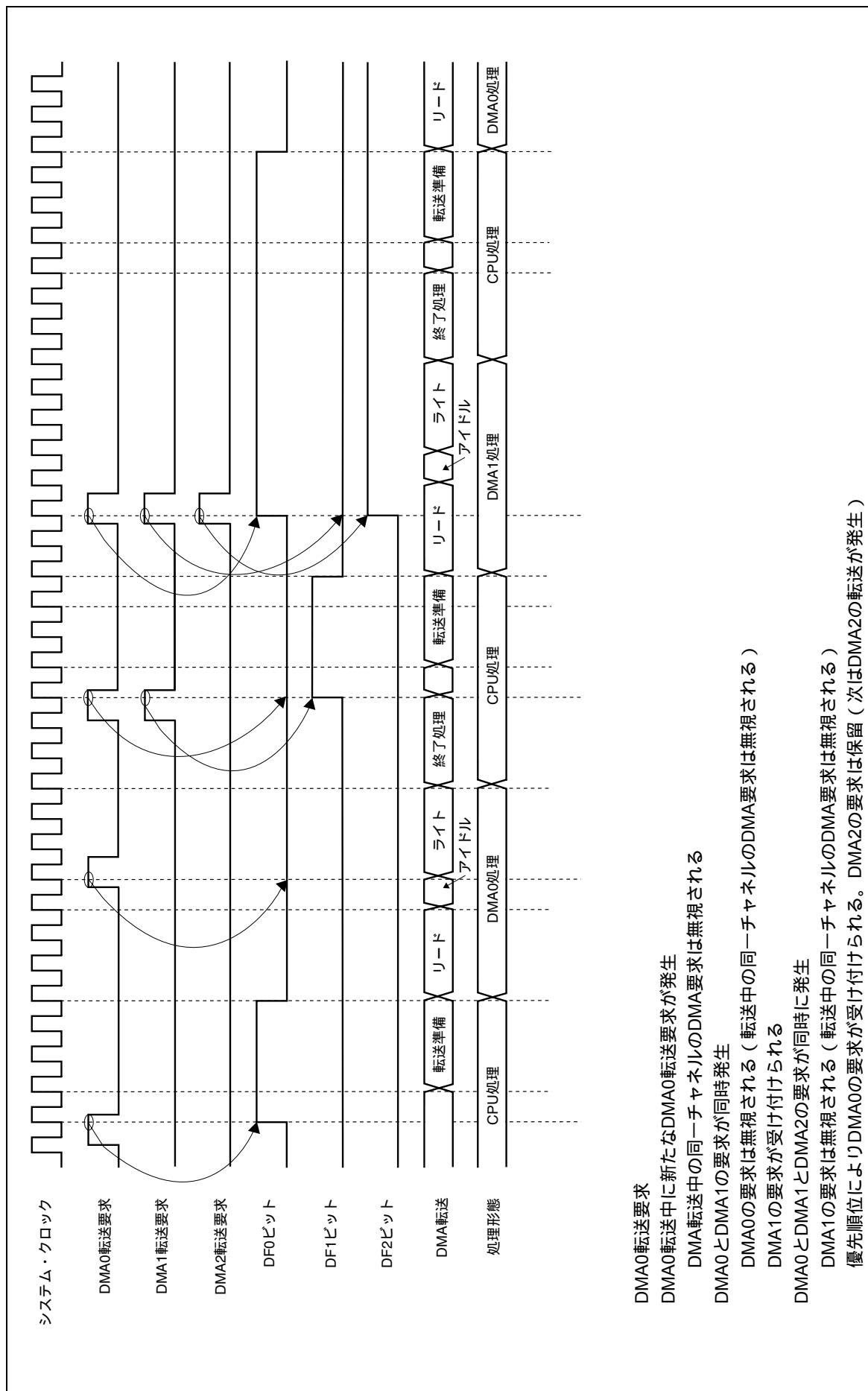


図11-4 DMAの転送要求が無視される期間(2)



11.13 注意事項

(1) VSWCレジスタに関する注意

DMACを使用する際は、必ずVSWCレジスタに、動作周波数に応じた最適な値を設定してください。

VSWCレジスタの初期値(77H)、または最適な値以外で使用した場合は正常に動作できません。

VSWCレジスタの詳細については、3.7 注意事項、10.3 レジスタを参照してください。

(2) 内蔵RAMを転送対象とするDMA転送時の注意

内蔵RAMに配置された次の命令を実行する場合は、内蔵RAMを対象(転送先/転送元)とするDMA転送を行わないでください。その後CPUが正常に動作しない可能性があります。

- ・内蔵RAMに配置されたビット操作命令(SET1, CLR1, NOT1)
- ・内蔵RAMに配置されたミス・アライン・アドレスに対するデータ・アクセス命令

逆に、内蔵RAMを対象(転送先/転送元)としたDMA転送を行う場合は、上の2つの命令を実行しないでください。

(3) DCHCn.TCnビットのリードに関する注意事項(n=0-3)

TCnビットは、読み出しによりクリア(0)されますが、ある特定タイミングにおいてTCnビットをリードしても、自動的にクリア(0)されません。TCnビットのクリアを確実に実行するために次の処理を追加してください。

(a) TCnビットをポーリングしてDMA転送完了の待ち合わせを行う場合

TCnビットがセット(1)されたことを確認したあと(TCnビット = 1が読み出されたあと)、さらに3回のTCnビットのリードを行ってください。

(b) 割り込み処理ルーチンでTCnビットのリードを行う場合

TCnビットのリードを3回実行してください。

(4) DMA転送の初期化手順について(DCHCn.INITnビットのセット(1))

DMA転送中のチャネルを初期化するときに, INITnビットをセット(1)しても, チャネルの初期化が行われない場合があります。初期化を確実に実行するために, 次に示す2つの手順のいずれかを実行させてください。

(a) 一時的にすべてのDMAチャネルの転送を停止させる方法

次に示す ~ の手順で初期化を実行してください。

ただし, 次の ~ に示す処理の実行により, TCnビットがクリア(0)されてしまいます。ほかの処理において, TCnビット = 1となっていることを期待したプログラムになつてないことを確認してください。

割り込み禁止状態(DI)にする。

強制終了したいチャネル以外に使用しているDMAチャネルのDCHCn.Ennビットを読み出し, 汎用レジスタに転送する。

使用しているDMAチャネル(強制終了するチャネルを含む)のEnnビットをクリア(0)する。

最終のDMAチャネルの場合にはEnnビットのクリア命令を2回実行する。このとき, 転送対象(転送元 / 転送先)が内蔵RAMの場合は, 3回実行する。

例 チャネル0, 1, 2を使用している場合には, 次の順で命令を実行する(転送対象が内蔵RAMでない場合)。

- ・ DCHC0.E00ビットをクリア(0)
- ・ DCHC1.E11ビットをクリア(0)
- ・ DCHC2.E22ビットをクリア(0)
- ・ 再度, DCHC2.E22ビットをクリア(0)

強制終了するチャネルのINITnビットをセット(1)する。

強制終了しない各チャネルのTCnビットを読み出し, TCnビットと ~ で読み出したEnnビットが, ともに1(論理積(AND)が1)の場合は退避していたEnnビットをクリア(0)する。

で操作後のEnnビットをDCHCnレジスタに書き込む。

割り込み許可状態(EI)にする。

注意 上記 ~ は, ~ の間に正常終了したチャネルに対して, 再度Ennビットを不正にセットすることを防ぐため, 必ず行ってください。

(b) 正常に強制終了するまでINITnビットのセットを繰り返し実行する方法

強制終了したいチャネルのDMA要求元からのリクエストが発生しないようにする(内蔵周辺I/Oの動作停止)。

DTFRn.DFnビットにより、強制終了するチャネルのDMA転送要求が保留されていないかを確認する。保留されている場合は、保留されているDMA転送要求の実行が完了するまで待つ。

強制終了するチャネルのDMA要求が保留されていないことが確認できたら、Ennビットをクリア(0)する。

再度、強制終了するチャネルのEnnビットをクリア(0)する。

ただし、強制終了するチャネルの転送対象(転送元/転送先)が内蔵RAMの場合は、この操作をさらにもう一度実行する。

強制終了するチャネルの初期転送回数を汎用レジスタにコピーする。

強制終了するチャネルのINITnビットをセット(1)する。

強制終了するチャネルのDBCnレジスタの値を読み出し、でコピーした値と比較する。比較した結果、一致しない場合はから操作を繰り返す。

注意1. でDBCnレジスタの値を読み出すと、正常に強制終了を完了した場合は初期転送回数が読み出されます。未完了の場合は残りの転送回数が読み出されます。

2. (b)の方法は、強制終了の対象となっているDMAチャネル以外のDMA転送が頻繁に行われるようなアプリケーションの場合、強制終了されるまでに時間を要する可能性があるので注意してください。

(5) DMA転送の一時中断手順について(Ennビットのクリア)

実行中のDMA転送を中断し、再開するには次の手順にしたがってください。

DMA要求元からの転送要求が発生しないようにする(内蔵周辺I/Oの動作を停止)。

DFnビットによりDMA転送要求が保留されていないかを確認する(DFnビット = 0であることを確認)。保留されている場合は、保留されているDMA転送要求の実行が完了するまで待つ。

DMA転送要求が保留されていないことを確認できたら、Ennビットをクリア(0)する(この操作により、DMA転送が中断される)。

DMA転送を再開させるためにEnnビットをセット(1)する。

停止しているDMA要求元の動作を再開する(内蔵周辺I/Oの動作を開始)。

(6) メモリ境界

DMA転送中に、転送元、または転送先のアドレスがDMA対象(外部メモリ、内蔵RAM、内蔵周辺I/O)の領域を越えた場合の動作は保証できません。

(7) ミス・アライン・データの転送

16ビット・バス幅のミス・アライン・データのDMA転送はサポートしていません。

奇数アドレスを転送元、または転送先に指定した場合、アドレスの最下位ビットは強制的に0として扱われます。

(8) CPUへのバス・アービトリレーション

バス使用権の優先順位はCPUよりDMAコントローラが高いため,DMA転送中に発生したCPUのアクセスは,DMA転送サイクルが完了しCPUにバスが開放されるまで待たれます。

ただし,CPUはDMA転送を行っていない外部メモリ,内蔵周辺I/O,内蔵RAMとのアクセスが可能です。

- ・外部メモリ 内蔵周辺I/Oとの間でDMA転送が行われているとき,CPUは内蔵RAMにアクセスできます。
- ・外部メモリ 外部メモリでDMA転送が行われているときは,CPUは内蔵RAM,内蔵周辺I/Oにアクセスできます。

(9) DMA動作中の書き換え禁止レジスタ/ビット

次のレジスタの設定は,DMA動作中でない次のいずれかのタイミングで行ってください。

【対象レジスタ】

- ・DSAnH, DSAnL, DDAnH, DDAnL, DBCn, DADCnレジスタ
- ・DTFRn.IFCn5-IFCn0ビット

【設定可能タイミング】

- ・リセット後から最初のDMA転送開始までの期間
- ・チャネル初期化後からDMA転送開始までの時間
- ・DMA転送完了後(TCnビット = 1の状態)から次のDMA転送開始までの期間

(10) 次のレジスタの各ビットには,必ず“0”を設定してください。

- ・DSAnHレジスタのビット14-10
- ・DDAnHレジスタのビット14-10
- ・DADCnレジスタのビット15, 13-8, 3-0
- ・DCHCnレジスタのビット6-3

(11) DMA起動要因

2つ以上のDMAチャネルを同じ起動要因で起動しないでください。2つ以上のチャネルが同じ起動要因で起動されると,優先順位の低いDMAチャネルの方が優先順位の高いDMAチャネルよりも先に受け付けられる可能性があります。

(12) DSAn, DDAAnレジスタの読み出し値

DMA転送中にDSAn, DDAAnレジスタの値を読み出した場合, 更新途中の値が読み出されことがあります($n = 0\text{--}3$)。

たとえば, DMA転送元アドレス(DSAnレジスタ)が0000FFFFH, カウント方向がインクリメント(DADCn.SAD1, SAD0ビット = 00)の場合, DSAnHレジスタ DSAnLレジスタの順に読み出しを行うと, DSAnHレジスタ読み出し直後のDMA転送の有無によって, DSAnLレジスタの値が次のように異なります。

(a) DSAnレジスタの読み出し中にDMA転送が発生しない場合

DSAnHレジスタの読み出し : DSAnH = 0000H

DSAnLレジスタの読み出し : DSAnL = FFFFH

(b) DSAnレジスタの読み出し中にDMA転送が発生する場合

DSAnHレジスタの読み出し : DSAnH = 0000H

DMA転送の発生

DSAnレジスタのインクリメント : DSAn = 00100000H

DSAnLレジスタの読み出し : DSAnL = 0000H

(13) オンチップ・デバッグ・モードにおける注意

オンチップ・デバッグ(OCD)モード下においてbreakコマンドが起動されたとき, (DMA動作が保証された)周辺機器は, DMAがトリガとなるリード動作が認識されません。

第12章 16ビット・タイマ/イベント・カウンタAA

本マイクロコントローラは、16ビット・タイマ/イベント・カウンタAA (TAA_n) を搭載しています。

製品 TAA	V850ES/FE3	V850ES/FF3	V850ES/FG3	V850ES/FJ3	V850ES/FK3
本数	5			8	
名称	TAA0-TAA4			TAA0-TAA7	

タイマAAは、ほかのV850EシリーズおよびV850ESシリーズで使用されているタイマPの上位互換になります。

12.1 特徴

タイマAA (TAA) は16ビット・タイマ/イベント・カウンタです。

TAAは、次のような動作を行うことができます。

- PWM出力
- インターバル・タイマ
- 外部イベント・カウンタ（クロック停止時動作不可）
- TAAの2ch カスケード接続による32ビット・キャプチャ・タイマ機能
- ワンショット・パルス出力
- パルス幅測定機能
- タイマ同期動作機能
- フリー・ランニング機能
- 外部トリガ・パルス出力機能

12.2 機能概要

- キャプチャ・トリガ入力信号 ×2
- 外部トリガ入力信号 ×1
- クロック選択 ×8
- 外部イベント・カウント入力 ×1
- リーダブル・カウンタ ×1
- キャプチャ / コンペア・リロード・レジスタ ×2
- キャプチャ / コンペア一致割り込み ×2
- タイマ出力 (TOAAn0, TOAAn1) ×2
- 2つのタイマAAのカスケード接続による32ビット・キャプチャ (TAA0 + TAA1, TAA2 + TAA3, TAA5 + TAA6)

備考 n = 0-7 (V850ES/FK3)

n = 0-4 (V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3, V850ES/FJ3)

この章では n = 0-7 の場合について記述しています。

12.3 構成

TAAは、次のハードウェアで構成されています。

表12-1 TAAAnの構成

項目	構成
タイマ・レジスタ	16ビット・カウンタ
レジスタ	TAAAnキャプチャ/コンペア・レジスタ0,1 (TAAAnCCR0, TAAAnCCR1) TAAAnカウンタ・リード・バッファ・レジスタ (TAAAnCNT) CCR0バッファ・レジスタ, CCR1バッファ・レジスタ
入力選択レジスタ	セレクタ動作制御レジスタ0,1,3,5 (SELCNT0, SELCNT1, SELCNT3, SELCNT5)
タイマ入力	2本 (TIAAn0 ^注 , TIAAn1)
タイマ出力	2本 (TOAAn0, TOAAn1)
制御レジスタ	TAAAn制御レジスタ0,1 (TAAAnCTL0, TAAAnCTL1) TAAAn I/O制御レジスタ0-2,4 (TAAAnIOC0-TAAAnIOC2, TAAAnIOC4) TAAAnオプション・レジスタ0,1 (TAAAnOPT0, TAAAnOPT1)

注 TIAAn0 には、キャプチャ・トリガ入力信号、外部トリガ入力信号、外部イベント・カウント入力信号が兼用になっています。

備考 n = 0-7

タイマAA(TAA)端子は、ポート端子の兼用機能です。兼用機能の設定方法については、[第2章 端子機能を参照してください。](#)

タイマTAAのブロック図を以下に示します。図12-2から図12-5は、個々のタイマTAAの入力回路のブロック図です。

図12-1 タイマAAのブロック図

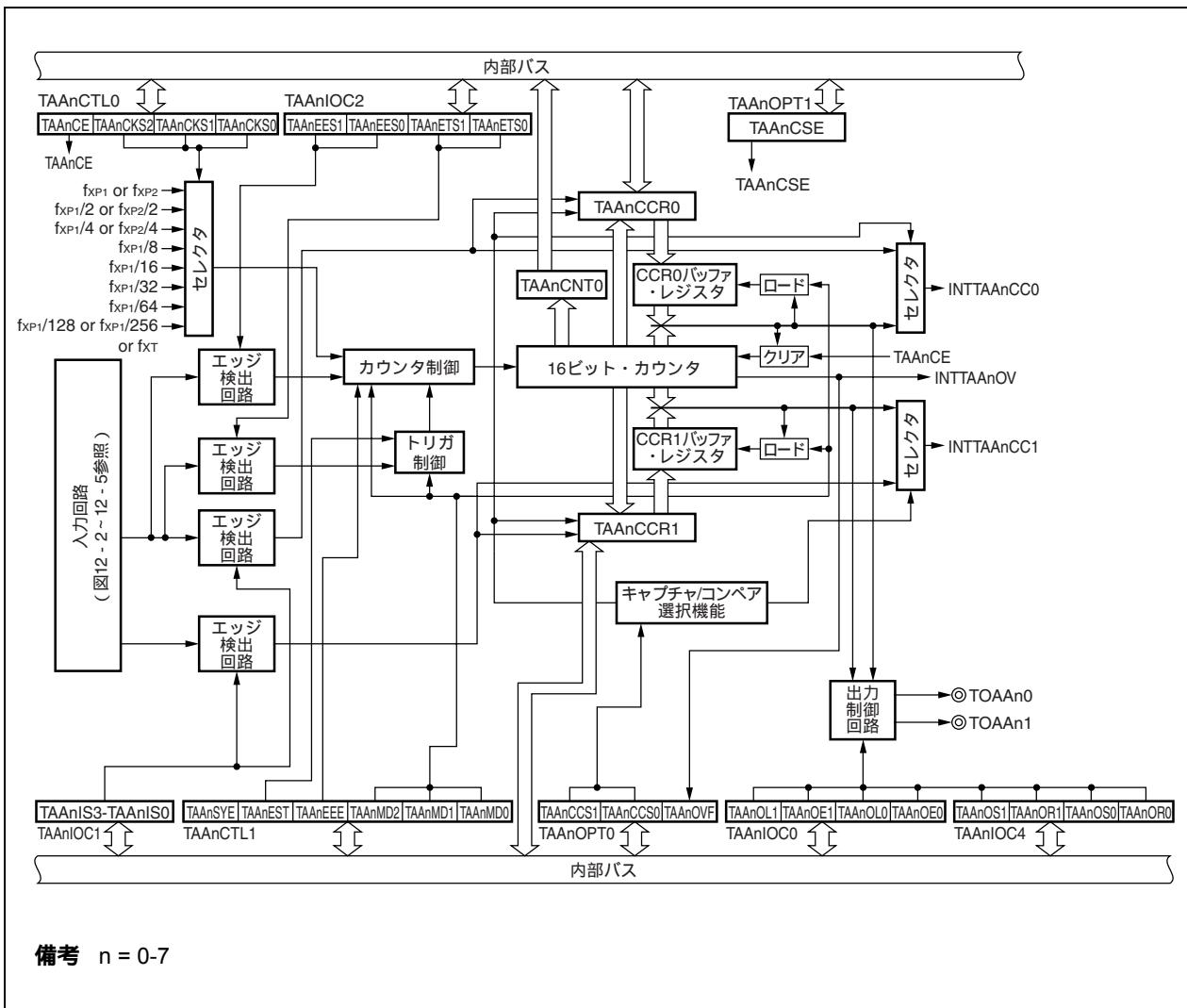


図12-2 TAA0, TAA1の入力回路

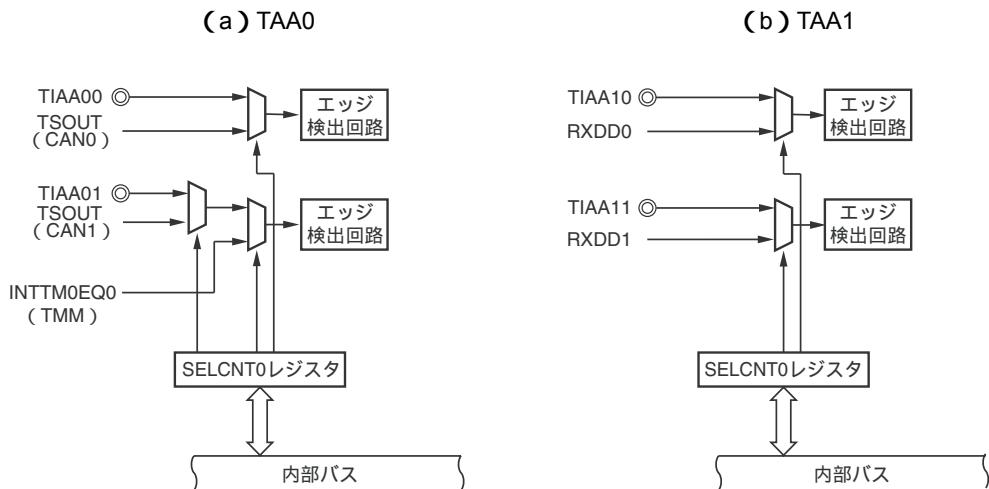


図12-3 TAA2, TAA3の入力回路

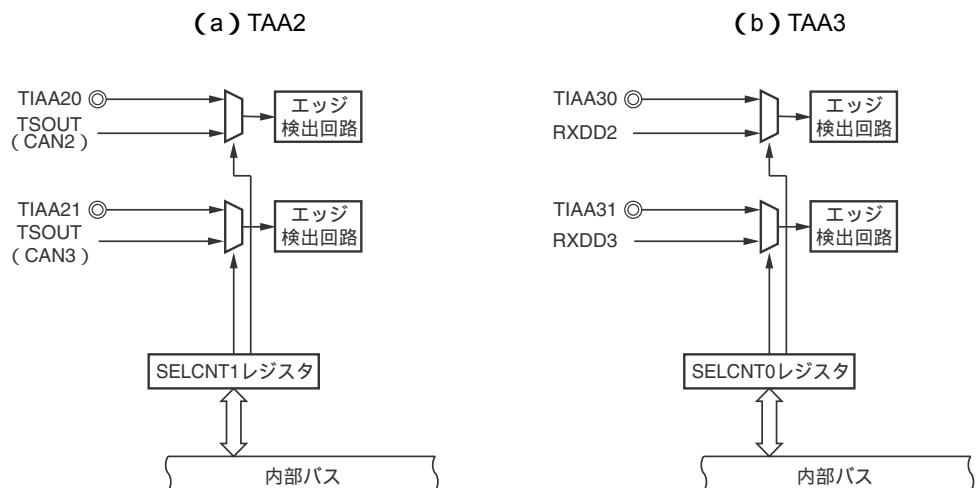
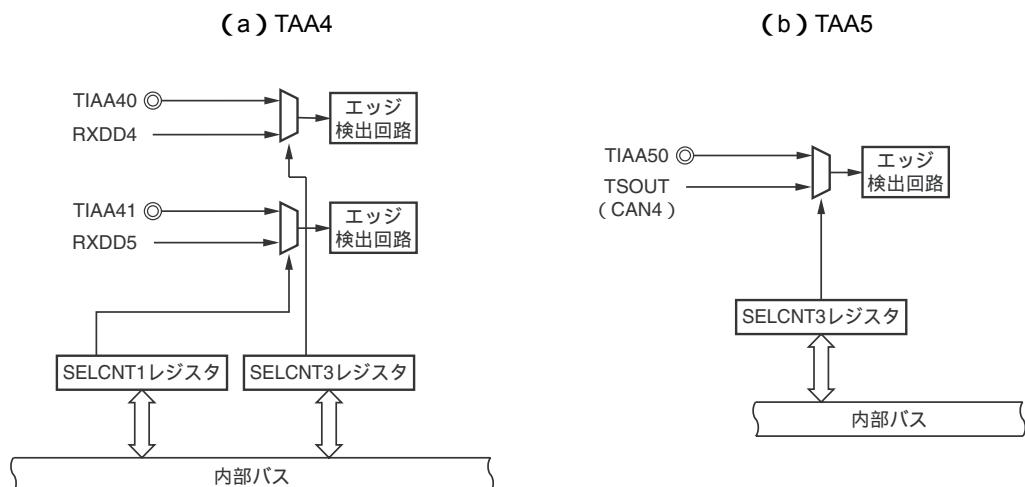
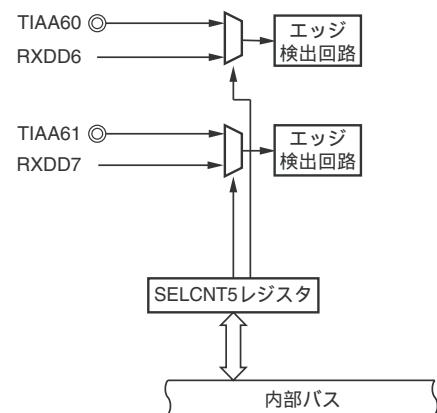


図12-4 TAA4, TAA5の入力回路



備考 SELCNT0, SELCNT1, SELCNT3レジスタに関しては、12.4 入力選択レジスタを参照してください。

図12-5 TAA6の入力回路



備考 SELCNT5 レジスタに関しては、12.4 入力選択レジスタを参照してください。

(1) TAA_n キャプチャ / コンペア・レジスタ 0 (TAA_nCCR0)

TAA_nCCR0 レジスタはキャプチャ機能とコンペア機能を兼用させた 16 ビットのレジスタです。

フリー・ランニング・モードの場合のみ TAA_nOPT0 レジスタの TAA_nCCS0 ビットの設定によりキャプチャ・レジスタまたはコンペア・レジスタに設定できます。

パルス幅測定モード時はキャプチャ・レジスタ専用として機能します。

フリー・ランニング・モードとパルス幅測定モード以外のモードではすべてコンペア・レジスタ専用として機能します。

初期状態では、TAA_nCCR0 レジスタはコンペア・レジスタとなります。

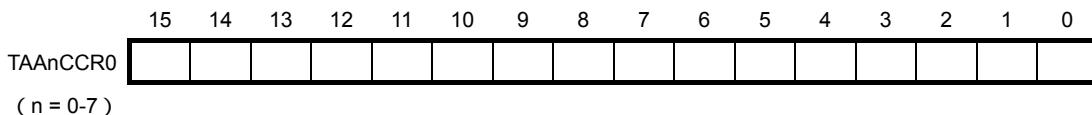
16 ビット単位でリード / ライト可能です。

リセットにより 0000H になります。

注意 1. 外部イベント・カウンタ・モード使用時、TAA_nCCR0 レジスタを 0000H に設定しないでください。

2. サブクロック動作時、かつメイン・クロック停止時の TAA_nCCR0 レジスタへのアクセスは禁止です。

リセット時 : 0000H R/W アドレス : TAA0CCR0: FFFFF596H, TAA1CCR0: FFFFF5A6H,
 TAA2CCR0: FFFFF5B6H, TAA3CCR0: FFFFF5C6H,
 TAA4CCR0: FFFFF5D6H, TAA5CCR0: FFFFF5E6H,
 TAA6CCR0: FFFFF5F6H, TAA7CCR0: FFFFF606H



- コンペア・レジスタとして使用する場合

TAA_nCE = 1 時の TAA_nCCR0 の書き換えは可能です。

- キャプチャ・レジスタとして使用する場合

キャプチャ・トリガ (TIAA_n0) 入力のエッジ検出によりカウンタ値を TAA_nCCR0 に格納します。

各動作モードと、対応するキャプチャ / コンペア・レジスタの機能、およびコンペア・レジスタの書き込み方法は次のとおりです。

TAA動作モード	TAA _n CCR0 レジスタの書き込み方法
PWMモード、 外部トリガ・パルス出力モード	リロード
フリー・ランニング・モード、 外部イベント・カウント・モード、 ワンショット・パルス・モード、 インターバル・タイマ・モード	随時書き込み
パルス幅測定モード	キャプチャ専用であるため書き込み不可

備考 TAA_n 制御レジスタ 0 (TAA_nCTL0) の TAA_nCE ビット = 1 の場合、書き込み / 読み出しが可能です。

(2) TAA_n キャプチャ / コンペア・レジスタ 1 (TAA_nCCR1)

TAA_nCCR1 レジスタはキャプチャ機能とコンペア機能を兼用させた 16 ビットのレジスタです。

フリー・ランニング・モードの場合のみ TAA_nOPT0 レジスタの TAA_nCCS1 ビットの設定によりキャプチャ・レジスタまたはコンペア・レジスタに設定できます。

パルス幅測定モード時はキャプチャ・レジスタ専用として機能します。

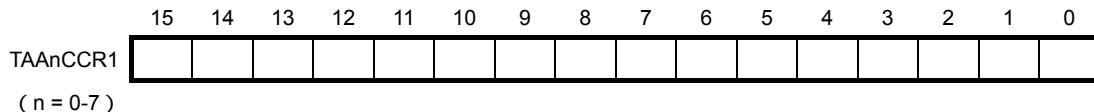
フリー・ランニング・モードとパルス幅測定モード以外のモードではすべてコンペア・レジスタ専用として機能します。

16 ビット単位でリード / ライト可能です。

リセットにより 0000H になります。

注意 サブクロック動作時、かつメイン・クロック停止時のTAA_nCCR1レジスタへのアクセスは禁止です。

リセット時 : 0000H R/W アドレス : TAA0CCR1: FFFFF598H, TAA1CCR1: FFFFF5A8H,
 TAA2CCR1: FFFFF5B8H, TAA3CCR1: FFFFF5C8H,
 TAA4CCR1: FFFFF5D8H, TAA5CCR1: FFFFF5E8H,
 TAA6CCR1: FFFFF5F8H, TAA7CCR1: FFFFF608H



- コンペア・レジスタとして使用する場合

TAA_nCE = 1 時の TAA_nCCR1 の書き換えは可能です。

- キャプチャ・レジスタとして使用する場合

キャプチャ・トリガ (TIA_n1) 入力のエッジ検出によりカウンタ値を TAA_nCCR1 に格納します。

各動作モードと、対応するキャプチャ / コンペア・レジスタの機能、およびコンペア・レジスタの書き込み方法は次のとおりです。

TAA動作モード	TAA _n CCR1レジスタの書き込み方法
PWMモード、 外部トリガ・パルス出力モード	リロード
フリー・ランニング・モード、 外部イベント・カウント・モード、 ワンショット・パルス・モード、 インターバル・タイマ・モード	随時書き込み
パルス幅測定モード	キャプチャ専用であるため書き込み不可

備考 TAA_n 制御レジスタ 0 (TAA_nCTL0) の TAA_nCE ビット = 1 の場合、
 TAA_nCCR1 レジスタの書き込み / 読み出しが可能です。

(3) TAA_n カウンタ・リード・バッファ・レジスタ (TAA_nCNT)

TAA_nCNT レジスタは 16 ビット・カウンタの値をリードできるリード・バッファ・レジスタです。

16 ビット単位でリードのみ可能です。

リセットにより FFFFH になります。

TAA_nCE = 0 のとき , ハードウェアの状態は FFFFH ですが , このレジスタをリードすると 0000H がリードされます。TAA_nCE = 1 のとき , このレジスタをリードすると 16 ビット・カウンタのカウント値をリードできます。

リセット時 : 0000H R アドレス : TAA0CNT: FFFFF59AH, TAA1CNT: FFFFF5AAH, TAA2CNT: FFFFF5BAH, TAA3CNT: FFFFF5CAH, TAA4CNT: FFFFF5DAH, TAA5CNT: FFFFF5EAH, TAA6CNT: FFFFF5FAH, TAA7CNT: FFFFF60AH															
TAA _n CNT															0
(n = 0-7)															

(4) CCR0 バッファ・レジスタ

16 ビット・カウンタのカウント値を比較する 16 ビットのコンペア・レジスタです。

TAA_nCCR0 レジスタをコンペア・レジスタとして使用するとき , TAA_nCCR0 レジスタにライトした値が CCR0 バッファ・レジスタに転送され , 16 ビット・カウンタのカウント値と CCR0 バッファ・レジスタの値が一致すると , コンペア一致割り込み要求信号 (INTTAA_nCC0) を発生します。

CCR0 バッファ・レジスタは , 直接リード / ライトできません。

リセットにより TAA_nCCR0 レジスタが 0000H になるため , CCR0 バッファ・レジスタも 0000H になります。

(5) CCR1 バッファ・レジスタ

16 ビット・カウンタのカウント値を比較する 16 ビットのコンペア・レジスタです。

TAA_nCCR1 レジスタをコンペア・レジスタとして使用するとき , TAA_nCCR1 レジスタにライトした値が CCR1 バッファ・レジスタに転送され , 16 ビット・カウンタのカウント値と CCR1 バッファ・レジスタの値が一致すると , コンペア一致割り込み要求信号 (INTTAA_nCC1) を発生します。

CCR1 バッファ・レジスタは , 直接リード / ライトできません。

リセットにより TAA_nCCR1 レジスタが 0000H になるため , CCR1 バッファ・レジスタも 0000H になります。

12.4 入力選択レジスタ

セレクタ動作制御レジスタ0, 1, 3, 5 (SELCNT0, SELCNT1, SELCNT3, SELCNT5) は、タイマへの入力を選択します。

備考 ここでは、タイマAA入力の選択に関するビットだけを説明しています。それ以外のビットについては、[第4章 クロック発生機能とスタンバイ制御](#)を参照してください。

(1) セレクタ動作制御レジスタ0 (SELCNT0)

SELCNT0 レジスタは、TAA_n のキャプチャ・トリガを選択する 8 ビット・レジスタです。

8/1 ビット単位でリード / ライト可能です。

リセットにより 00H になります。

(1/2)

リセット時 : 00H R/W アドレス : FFFFF308H													
<ul style="list-style-type: none"> • V850ES/FE3 • V850ES/FF3 													
SELCNT0	⑦ ISEL07	⑥ 0	⑤ 0	④ ISEL04	③ ISEL03	② ISEL02	① 0 ③ ISEL00						
<ul style="list-style-type: none"> • V850ES/FG3 の μPD70F3374, 70F3375 • V850ES/FJ3 の μPD70F3378 													
SELCNT0	⑦ ISEL07	6	⑤ ISEL05	④ ISEL04	③ ISEL03	② ISEL02	① ISEL01 ③ ISEL00						
<ul style="list-style-type: none"> • V850ES/FG3 の μPD70F3376A, 70F3377A • V850ES/FJ3 の μPD70F3379, 70F3380, 70F3381, 70F3382 • V850ES/FK3 													
SELCNT0	⑦ ISEL07	⑥ ISEL06	⑤ ISEL05	④ ISEL04	③ ISEL03	② ISEL02	① ISEL01 ③ ISEL00						
ISEL07 第4章 クロック発生機能とスタンバイ制御を参照してください。													
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">ISEL06^{注1}</td><td style="padding: 2px;">TIAA31入力信号選択 (TAA3)</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">0</td><td style="padding: 2px;">TIAA31端子入力</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">1</td><td style="padding: 2px;">RXDD3端子入力</td></tr> </table>								ISEL06 ^{注1}	TIAA31入力信号選択 (TAA3)	0	TIAA31端子入力	1	RXDD3端子入力
ISEL06 ^{注1}	TIAA31入力信号選択 (TAA3)												
0	TIAA31端子入力												
1	RXDD3端子入力												
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">ISEL05^{注2}</td><td style="padding: 2px;">TIAA30入力信号選択 (TAA3)</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">0</td><td style="padding: 2px;">TIAA30端子入力</td></tr> <tr> <td style="padding: 2px;">1</td><td style="padding: 2px;">RXDD2端子入力</td></tr> </table>								ISEL05 ^{注2}	TIAA30入力信号選択 (TAA3)	0	TIAA30端子入力	1	RXDD2端子入力
ISEL05 ^{注2}	TIAA30入力信号選択 (TAA3)												
0	TIAA30端子入力												
1	RXDD2端子入力												
<p>注1. V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3 の μPD70F3374, 70F3375, V850ES/FJ3 の μPD70F3378 は、RXDD3端子を搭載していません。この製品では、ISEL06ビットを “0” 固定で使用してください。</p> <p>2. V850ES/FE3, V850ES/FF3 は、RXDD2端子を搭載していません。この製品では、ISEL05ビットを “0” 固定で使用してください。</p>													

ISEL04		TIAA11入力信号選択 (TAA1)
0		TIAA11端子入力
1		RXDD1端子入力

ISEL03		TIAA10入力信号選択 (TAA1)
0		TIAA10端子入力
1		RXDD0端子入力

ISEL02 ^{注1}	ISEL01 ^{注2}	TIAA01入力信号選択 (TAA0)
0	0	TIAA01端子入力
0	1	CAN1のTSOUT信号
1	x	TMM0のINTTM0EQ0割り込み

ISEL00		TIAA00入力信号選択 (TAA0)
0		TIAA00端子入力
1		CAN0のTSOUT信号

注1. INTTM0EQ0割り込み信号をTIAA01入力信号に使用する場合は、次の範囲内で使用してください。

TMM動作クロック周期 TAA動作クロック周期 × 4

2. V850ES/FE3, V850ES/FF3は、CAN1を搭載していません。この製品では、ISEL01ビットを“0”固定で使用してください。

注意1. ISEL06-ISEL00の各ビットを“1”に設定する場合は、対応する機能端子（タイマ入力）をキャプチャ入力に設定してください。

2. ISEL00ビットを設定する場合はTAA0およびCAN0を動作禁止にしてから設定してください。

ISEL01ビットを設定する場合はTAA0およびCAN1を動作禁止にしてから設定してください。

ISEL02ビットを設定する場合はTAA0およびTMM0を動作禁止にしてから設定してください。

ISEL03ビットを設定する場合はTAA1およびUARTD0を動作禁止にしてから設定してください。

ISEL04ビットを設定する場合はTAA1およびUARTD1を動作禁止にしてから設定してください。

ISEL05ビットを設定する場合はTAA3およびUARTD2を動作禁止にしてから設定してください。

ISEL06ビットを設定する場合はTAA3およびUARTD3を動作禁止にしてから設定してください。

(2) セレクタ動作制御レジスタ1 (SELCNT1)

SELCNT1 レジスタは、TAA_n のキャプチャ・トリガを選択する 8 ビット・レジスタです。

8/1 ビット単位でリード / ライト可能です。

リセットにより 00H になります。

リセット時 : 00H R/W アドレス : FFFFFF30AH

・V850ES/FJ3のμPD70F3378

	7	6	5	4	(3)	2	1	(0)
SELCNT1	0	0	0	0	ISEL13	0	0	ISEL10

・V850ES/FJ3のμPD70F3379, 70F3380, 70F3381, 70F3382

	7	6	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	(0)
SELCNT1	0	0	ISEL15	ISEL14	ISEL13	ISEL12	ISEL11	ISEL10

・V850ES/FK3

	(7)	6	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	(0)
SELCNT1	ISEL17	0	ISEL15	ISEL14	ISEL13	ISEL12	ISEL11	ISEL10

ISEL17, ISEL15- ISEL13 ^{注1, 2}	第4章 クロック発生機能とスタンバイ制御を参照してください。
---	--------------------------------

ISEL12	TIAA41入力信号選択 (TAA4)
0	TIAA41端子入力
1	RXDD5端子入力

ISEL11	TIAA21入力信号選択 (TAA2)
0	TIAA21端子入力
1	CAN3のTSOUT信号

ISEL10	TIAA20入力信号選択 (TAA2)
0	TIAA20端子入力
1	CAN2のTSOUT信号

注1. V850ES/FJ3は、ISEL17ビットを“0”固定で使用してください。

2. V850ES/FJ3のμPD70F3378は、ISEL15, ISEL14, ISEL12, ISEL11ビットを“0”固定で使用してください。

- 注意1. ISEL12-ISEL10の各ビットを“1”に設定する場合は、対応する機能端子（タイマ入力）をキャプチャ入力に設定してください。
2. ISEL10ビットを設定する場合は、TAA2およびCAN2を動作禁止にしてから設定してください。ISEL11ビットを設定する場合は、TAA2およびCAN3を動作禁止にしてから設定してください。ISEL12ビットを設定する場合は、TAA4およびUARTD5を動作禁止にしてから設定してください。
3. ビット6は、“0”固定で使用してください。

(3) セレクタ動作制御レジスタ3 (SELCNT3)

SELCNT3 レジスタは、TAA_n のキャプチャ・トリガを選択する 8 ビット・レジスタです。

8/1 ビット単位でリード / ライト可能です。

リセットにより 00H になります。

リセット時 : 00H R/W アドレス : FFFFFF30EH

・V850ES/FG3のμPD70F3374, 70F3375

・V850ES/FJ3のμPD70F3378

7	6	5	4	3	(2)	(1)	0
SELCNT3	0	0	0	0	ISEL32	ISEL31	0

・V850ES/FG3のμPD70F3376A, 70F3377A

・V850ES/FJ3のμPD70F3379, 70F3380, 70F3381, 70F3382

7	6	5	(4)	(3)	(2)	(1)	(0)
SELCNT3	0	0	0	ISEL34	ISEL33	ISEL32	ISEL31

・V850ES/FK3

(7)	(6)	5	(4)	(3)	(2)	(1)	(0)
SELCNT3	ISEL37	ISEL36	0	ISEL34	ISEL33	ISEL32	ISEL31

ISEL37 ^{注1}	第4章 クロック発生機能とスタンバイ制御を参照してください。
----------------------	--------------------------------

ISEL36 ^{注1}	TIAA50入力信号選択 (TAA5)
----------------------	---------------------

0	TIAA50端子入力
---	------------

1	CAN4のTSOUT信号
---	--------------

ISEL34- ISEL31 ^{注2}	第4章 クロック発生機能とスタンバイ制御を参照してください。
---------------------------------	--------------------------------

ISEL30 ^{注2}	TIAA40入力信号選択 (TAA4)
----------------------	---------------------

0	TIAA40端子入力
---	------------

1	RXDD4端子入力
---	-----------

1. V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3, V850ES/FJ3は, ISEL36, ISEL37ビットを“0”固定で使用してください。
2. V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3のμPD70F3374, 70F3375, V850ES/FJ3のμPD70F3378は, ISEL34, ISEL33, ISEL30ビットを“0”固定で使用してください。

1. ISEL36, ISEL30を“1”に設定する場合は、対応する機能端子（タイマ入力）をキャプチャ入力に設定してください。
2. ISEL36ビットを設定する場合は、TAA5およびCAN4を動作禁止にしてから設定してください。ISEL30ビットを設定する場合は、TAA4およびUARTD4を動作禁止にしてから設定してください。
3. ビット5は，“0”固定で使用してください。

(4) セレクタ動作制御レジスタ5 (SELCNT5)

SELCNT5 レジスタは、TAA_n のキャプチャ・トリガを選択する 8 ビット・レジスタです。

8/1 ビット単位でリード / ライト可能です。

リセットにより 00H になります。

リセット時 : 00H R/W アドレス : FFFFFF3FAH

・V850ES/FK3

	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	(0)
SELCNT5	ISEL57	ISEL56	ISEL55	ISEL54	ISEL53	ISEL52	ISEL51	ISEL50

ISEL57	TIAA61入力信号選択 (TAA6)
0	TIAA61端子入力
1	RXDD7端子入力

ISEL56	TIAA60入力信号選択 (TAA6)
0	TIAA60端子入力
1	RXDD6端子入力

ISEL55- ISEL50	第4章 クロック発生機能とスタンバイ制御を参照してください。
-------------------	--------------------------------

- 注意1. ISEL57, ISEL56の各ビットを“1”に設定する場合は、対応する機能端子をキャプチャ入力に設定してください。
2. ISEL56ビットを設定する場合は、TAA6およびUARTD6を動作禁止にしてから設定してください。
- ISEL57ビットを設定する場合は、TAA6およびUARTD7を動作禁止にしてから設定してください。

12.5 制御レジスタ

(1) TAA_n 制御レジスタ 0 (TAA_nCTL0)

TAACTL0 レジスタはタイマ AA の動作を制御する 8 ビット・レジスタです。

8/1 ビット単位でリード / ライト可能です。

リセットにより初期値 00H になります。

注意 TAACTL0 レジスタは、動作中 (TAACE = 1) 書き換え禁止ですが、同値書き込みのみ常時可能です。また、TAACE ビットのみ常時書き換え可能です。

(1/2)

リセット時 : 00H R/W アドレス : TAA0CTL0:FFFFF590H, TAA1CTL0:FFFFF5A0H,
TAA2CTL0:FFFFF5B0H, TAA3CTL0:FFFFF5C0H,
TAA4CTL0:FFFFF5D0H, TAA5CTL0:FFFFF5E0H,
TAA6CTL0:FFFFF5F0H, TAA7CTL0:FFFFF600H

TAAnCE	タイマAAnの動作の制御
0	内部動作クロック動作禁止 (TAAn内部回路を非同期にリセット)
1	内部動作クロック動作許可

TAAnCEビットにより、内部動作クロックの制御とTAAnの非同期リセットを行います。TAAnCEビット

TAAAnCEビットにより、内部動作クロックの制御とTAAAnの非同期リセットを行います。TAAAnCEビットを“0”にすると、TAAAnの内部動作クロックは停止（ロウ・レベル固定）し、TAAAnを非同期にリセットします。

TAAnCEピットを“1”にすると、TAAnCEピットを“1”にしたタイミングから入力クロックの2ケロック以内に内部動作クロックが許可されカウント・アップします。

注意 次のモードでは、TAAnCTL0.TAAnCE に “1” を設定しても、内部動作クロックは許可されません（カウント・アップしません）。

- ・同調動作モード時のスレーブ・タイマ
タイマが同調動作モードでスレーブ・タイマとして動作している
(TAAhCTL1.TAAhSYE = 1) 場合。
 - ・カスケード機能(32 ビット)使用時のスレーブ・タイマ
タイマがカスケード機能(32 ビット)使用時にスレーブ・タイマ(上位 16 ビット側)として動作している (TAAhOPT1.TAAhCSE = 1 (n = 1, 3, 6)) 場合。

SELCNTx. ISELy ^{注1}	TAAAnCTL0レジスタ			内部カウント・クロックの選択				
	TAAAnCKS2	TAAAnCKS1	TAAAnCKS0	入力	n = 0, 2, 4, 6		n = 1, 3, 5, 7	
					PRSI = 0	PRSI = 1	PRSI = 0	PRSI = 1
0	0	0	0	f _{XP1}	f _{xx}	f _{xx} /2	f _{xx}	f _{xx} /2
1				f _{XP2} ^{注2}	f _{xx}	f _{xx} /2	f _{xx}	f _{xx} /2
0	0	0	1	f _{XP1} /2	f _{xx} /2	f _{xx} /4	f _{xx} /2	f _{xx} /4
1				f _{XP2} /2 ^{注2}	f _{xx} /2	f _{xx} /4	f _{xx} /2	f _{xx} /4
0	0	1	0	f _{XP1} /4	f _{xx} /4	f _{xx} /8	f _{xx} /4	f _{xx} /8
1				f _{XP2} /4 ^{注2}	f _{xx} /4	f _{xx} /8	f _{xx} /4	f _{xx} /8
x	0	1	1	f _{XP1} /8	f _{xx} /8	f _{xx} /16	f _{xx} /8	f _{xx} /16
x	1	0	0	f _{XP1} /16	f _{xx} /16	f _{xx} /32	f _{xx} /16	f _{xx} /32
x	1	0	1	f _{XP1} /32	f _{xx} /32	f _{xx} /64	f _{xx} /32	f _{xx} /64
x	1	1	0	f _{XP1} /64	f _{xx} /64	f _{xx} /128	f _{xx} /64	f _{xx} /128
x	1	1	1	f _{XP1} /128	f _{xx} /128	f _{xx} /256	-	-
				f _{XT}	-	-	f _{XT}	f _{XT}

注1. SELCNT2レジスタ、またはSELCNT5レジスタ内の対応するISELビットの設定。詳しくは第4章 クロック発生機能とスタンバイ制御を参照してください。

2. f_{XP2}は、IDLE1モードでは停止しません。詳しくは第4章 クロック発生機能とスタンバイ制御を参照してください。

注意1. TAAAnCKS2-TAAAnCKS0ビットは、TAAAnCE = 0とき設定してください。

TAAAnCEビットを“0”から“1”に設定するとき、同時にTAAAnCKS2-TAAAnCKS0ビットを設定することは可能です。

メイン・クロック停止時は、サブクロックによるカウント動作はできません。

2. 32 MHz < f_x 48 MHzでは、対応するISELビットを“1”に設定しないでください。
3. PRSIはオプション・バイトにより設定します。

- PRSI = 0 : f_{xx} 32 MHz (f_{xx} > 32 MHzの場合は設定禁止)
- PRSI = 1 : f_{xx} 48 MHz

詳しくは第8章 オプション・バイトを参照してください。

備考 f_{xx} : メイン・クロック周波数

f_{XT} : サブクロック発振周波数

f_{XP1} : 周辺クロック用プリスケーラ1入力クロック周波数

f_{XP2} : UARTD, TAA用クロック

(2) TAA_n 制御レジスタ 1 (TAA_nCTL1)

TAA_nCTL1 制御レジスタはタイマ AA の動作を制御する 8 ビット・レジスタです。

8/1 ビット単位でリード / ライト可能です。

リセットにより初期値 00H になります。

(1/2)

リセット時 : 00H R/W アドレス : TAA0CTL1:FFFFF591H, TAA1CTL1:FFFFF5A1H,
 TAA2CTL1:FFFFF5B1H, TAA3CTL1:FFFFF5C1H,
 TAA4CTL1:FFFFF5D1H, TAA5CTL1:FFFFF5E1H,
 TAA6CTL1:FFFFF5F1H, TAA7CTL1:FFFFF601H

	(7)	(6)	(5)	4	3	2	1	0
TAA _n CTL1	TAA _n SYE	TAA _n EST	TAA _n EEE	0	0	TAA _n MD2	TAA _n MD1	TAA _n MD0
(n = 0-7)								

TAA _n SYE	同調動作モード許可制御													
0	独立動作モード (アシンクロナス動作モード)													
1	同調動作モード (スレーブ動作の指定) マスターとなるタイマに同期して動作させることができます。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>マスター・タイマ</td> <td>スレーブ・タイマ</td> </tr> <tr> <td>TAA0</td> <td>TAA1</td> </tr> <tr> <td>TAA2</td> <td>TAA3</td> </tr> <tr> <td>TAA0</td> <td>TAA4</td> </tr> <tr> <td>TAA5</td> <td>TAA6</td> </tr> <tr> <td></td> <td>TAA7</td> </tr> </table>		マスター・タイマ	スレーブ・タイマ	TAA0	TAA1	TAA2	TAA3	TAA0	TAA4	TAA5	TAA6		TAA7
マスター・タイマ	スレーブ・タイマ													
TAA0	TAA1													
TAA2	TAA3													
TAA0	TAA4													
TAA5	TAA6													
	TAA7													
このモードでは、タイマAAをマスターとなるタイマに同期して動作させることができます。TAA _n SYE = 1の場合、TAA _n CTL0.TAA _n CEに“1”を設定しても、内部動作クロックは許可されません（カウント・アップしません） 同調動作モードについては、第15章 タイマ同期動作機能を参照してください。 注意 TAA0SYE, TAA2SYE, TAA5SYEビットには必ず、0を設定してください。														

TAA _n EST	ソフトウェア・トリガ制御
0	非動作
1	ワンショット・パルス・モード時：ワンショット・パルス・ソフトウェア・トリガ 外部トリガ・パルス出力モード時：パルス出力ソフトウェア・トリガ
TAA _n ESTビットはワンショット・パルス・モード時 / 外部トリガ・パルス出力モード時にソフトウェア・トリガとして機能します（それ以外のモード時に制御しても無効です）。TAA _n CE = 1のときにTAA _n EST = 1にすることでソフトウェア・トリガとして機能します。したがって、必ずTAA _n CE = 1のときにTAA _n EST = 1に設定してください。 外部トリガは、TIAAn0端子を使用します。TAA _n ESTビットのリード値は常に“0”です。	

TAA _n EEE	カウント・クロックの選択
0	内部クロック (TAA _n CKS2-TAA _n CKS0ビットで選択したクロック) を使用
1	外部イベント・カウント入力 (TIAAn0入力のエッジ) を使用
TAA _n EEE = 1 (外部イベント・カウント入力 : TIAAn0) のときの有効エッジの指定はTAA _n EES1, TAA _n EES0ビットで設定します。	

			タイマ・モードの選択
TAAnMD2	TAAnMD1	TAAnMD0	
0	0	0	インターパル・タイマ・モード
0	0	1	外部イベント・カウント・モード
0	1	0	外部トリガ・パルス出力モード
0	1	1	ワンショット・パルス・モード
1	0	0	PWMモード
1	0	1	フリー・ランニング・モード
1	1	0	パルス幅測定モード
1	1	1	設定禁止

- 注意1. TAAnEEE, TAAnMD2-TAAnMD0ビットは, TAAnCE = 0のとき設定してください
(TAAnCE = 1のときの同値書き込みは可能) TAAnCE = 1のとき書き換えた場合の動作の保証はできません。誤って書き換えた場合は, TAAnCE = 0に設定してから再設定してください。
2. 外部イベント・カウント・モードのときは, TAAnEEEビットの値にかかわらず外部イベント・カウント入力が選択されます。
 3. 外部トリガ・パルス・モード, ワンショット・パルス・モード, パルス長測定モードを使用する場合, カウント・クロックは内部クロック (TAAnEEE = 0) に設定してください。
 4. 外部イベント・カウント・モードを使用する場合, TIAAn0キャプチャ入力のエッジ検出を検出しない (TAAnIOC2レジスタのTAAnEES1, TAAnEES0 = 00) に設定してください。
 5. ビット3, 4には必ず“0”を設定してください。

(3) TAA_n I/O 制御レジスタ 0 (TAA_nIOC0)

TAAAnIOC0 レジスタは、タイマ出力 (TOAAn0, TOAAn1) を制御する 8 ビット・レジスタです。

8/1 ビット単位でリード / ライト可能です。

リセットにより 00H になります。

リセット時 : 00H R/W アドレス : TAA0IOC0:FFFFF592H, TAA1IOC0:FFFFF5A2H,
TAA2IOC0:FFFFF5B2H, TAA3IOC0:FFFFF5C2H,
TAA4IOC0:FFFFF5D2H, TAA5IOC0:FFFFF5E2H,
TAA6IOC0:FFFFF5F2H, TAA7IOC0:FFFFF602H

	7	6	5	4	3	(2)	1	(0)
TAAnLOC0	0	0	0	0	TAAnOL1	TAAnOE1	TAAnOL0	TAAnOE0
(n = 0-7)								

TAAnOLm	TOAAnm出力レベルの設定 (m = 0, 1)
0	通常出力
1	反転出力

TAAnOLmビットでタイマ出力を反転できます。

TAAnOE _m	TOAAn _m 出力の設定 ($m = 0, 1$)
0	タイマ出力禁止 (TOAAn _m 端子から TAAnOL _m = 0 のときロウ・レベルが出力 TAAnOL _m = 1 のときハイ・レベルが出力)
1	タイマ出力許可 (TOAAn _m 端子からパルスを出力)

- 注意1.** TAA_nOL1, TAA_nOE1, TAA_nOL0, TAA_nOE0ビットは, TAA_nCE = 0のときに書き換えてください(TAA_nCE = 1のときの同値書き込みは可能)。誤って書き換えた場合は, TAA_nCE = 0に設定してから再設定してください。

2. タイマ出力を許可する場合は,必ず, TAA_nIOC1レジスタの対応する兼用端子のTAA_nIS3-TAA_nIS0を「エッジ検出しない」に設定し, キャプチャ動作を無効にしてください。そのあと, 対応する兼用ポートの設定を出力モードにしてください。

3. TAA_nCEビット = 0, TAA_nOEmビット = 0の状態において, TAA_nOLmビットを操作した場合でも, TOAA_nm端子の出力レベルは変化します。

(4) TAAAn I/O 制御レジスタ1 (TAAAnIOC1)

TAAAnIOC1 レジスタは、外部入力信号 (TIAAn0, TIAAn1) に対する有効エッジを制御する 8 ビット・レジスタです。

8/1 ビット単位でリード / ライト可能です。

リセットにより 00H になります。

リセット時 : 00H R/W アドレス : TAA0IOC1:FFFFF593H, TAA1IOC1:FFFFF5A3H,
 TAA2IOC1:FFFFF5B3H, TAA3IOC1:FFFFF5C3H,
 TAA4IOC1:FFFFF5D3H, TAA5IOC1:FFFFF5E3H,
 TAA6IOC1:FFFFF5F3H, TAA7IOC1:FFFFF603H

TAAAnIOC1 (n = 0-7)	7	6	5	4	3	2	1	0
	0	0	0	0	TAAAnIS3	TAAAnIS2	TAAAnIS1	TAAAnIS0

TAAAnIS3	TAAAnIS2	キャプチャ入力 (TIAAn1) の有効エッジの設定
0	0	エッジ検出なし (キャプチャ動作無効)
0	1	立ち上がりエッジを検出
1	0	立ち下がりエッジを検出
1	1	両エッジを検出

TAAAnIS1	TAAAnIS0	キャプチャ入力 (TIAAn0) の有効エッジの設定
0	0	エッジ検出なし (キャプチャ動作無効)
0	1	立ち上がりエッジを検出
1	0	立ち下がりエッジを検出
1	1	両エッジを検出

- 注意1. TAAAnIS3-TAAAnIS0 ビットは、フリー・ランニング・キャプチャ・モードと、パルス幅測定モードのときのみ有効です。それ以外のモードではキャプチャ動作は行われません。
2. キャプチャ入力として使用する場合は、必ず TAAAnIOC0 レジスタの対応する兼用端子の TAAAnOE1, TAAAnOE0 ビットを「タイマ出力禁止」に設定し、キャプチャ入力の有効エッジを設定してください。その後、対応する兼用ポートを入力モードに設定してください。
3. 外部イベント・カウント・モードで使用 (TAAAnCTL1.TAAAnEEE = 1) する場合、TIAAn0 キャプチャ入力をエッジ検出なし (TAAAnIS1, TAAAnIS0 ビット = 00) に設定してください。

タイマ動作時の書き換え フリー・ランニング・モードで動作中，TAAAnLOC1.TAAAnIS[k:i]を操作してキャプチャ機能の有効エッジを切り換える場合，2ビットで制御しているTIAAn入力の有効エッジを1ビット単位で書き換える必要があります。

次に手順を示します。手順に従わない場合のキャプチャ値は保障できません。

- 立ち上がりエッジから立ち下がりエッジへの変更手順

現在のステータス，TAAAnLOC1.TAAAnIS[1:0] = 01B：“立ち上がりエッジ”

TAAAnLOC1.TAAAnIS[1:0] = 00B に設定：“エッジなし”の指定

TAAAnLOC1.TAAAnIS[1:0] = 10B に設定：“立ち下がりエッジ”の指定

- 立ち下がりエッジから立ち上がりエッジへの変更手順

現在のステータス，TAAAnLOC1.TAAAnIS[1:0] = 10B：“立ち下がりエッジ”

TAAAnLOC1.TAAAnIS[1:0] = 00B に設定：“エッジなし”の指定

TAAAnLOC1.TAAAnIS[1:0] = 01B に設定：“立ち上がりエッジ”の指定

- 立ち上がりエッジまたは立ち下がりエッジから両エッジに変更順

現在のステータス，TAAAnLOC1.TAAAnIS[1:0] = 01B または 10B：“立ち上がりエッジ”

または“立ち下がりエッジ”

TAAAnLOC1.TAAAnIS[1:0] = 11B に設定：“両エッジ”の指定

(5) TAAAn I/O 制御レジスタ 2 (TAAAnIOC2)

TAAAnIOC2 レジスタは、外部イベント・カウント入力信号 (TIAAn0), 外部トリガ入力信号 (TIAAn0) に対する有効エッジを制御する 8 ビット・レジスタです。

8/1 ビット単位でリード / ライト可能です。

リセットにより 00H になります。

リセット時 : 00H R/W アドレス : TAA0IOC2:FFFFF594H, TAA1IOC2:FFFFF5A4H,
 TAA2IOC2:FFFFF5B4H, TAA3IOC2:FFFFF5C4H,
 TAA4IOC2:FFFFF5D4H, TAA5IOC2:FFFFF5E4H,
 TAA6IOC2:FFFFF5F4H, TAA7IOC2:FFFFF604H

TAAAnIOC2 (n = 0-7)	7	6	5	4	3	2	1	0
	0	0	0	0	TAAAnEES1	TAAAnEES0	TAAAnETS1	TAAAnETS0

TAAAnEES1	TAAAnEES0	外部イベント・カウント入力 (TIAAn0) の有効エッジの設定
0	0	エッジ検出なし (外部イベント・カウント無効)
0	1	立ち上がりエッジを検出
1	0	立ち下がりエッジを検出
1	1	両エッジを検出

TAAAnETS1	TAAAnETS0	外部トリガ入力 (TIAAn0) の有効エッジの設定
0	0	エッジ検出なし (外部トリガ無効)
0	1	立ち上がりエッジを検出
1	0	立ち下がりエッジを検出
1	1	両エッジを検出

- 注意1. TAAAnEES1, TAAAnEES0 ビットは、TAAnEEE = 1, または、外部イベント・カウント・モード (TIAAnCTL1 レジスタの TAAAnMD2-TAAAnMD0 = 001) に設定したときのみ有効です。
2. TAAAnETS1, TAAAnETS0 ビットは、外部トリガ・パルス出力モード (TAAAnCTL レジスタの TAAAnMD2-TAAAnMD0 = 010), ワンショット・パルス出力モード (TAAAnCTL1 レジスタの TAAAnMD2-TAAAnMD0 = 011) に設定したときのみ有効です。

タイマ動作時の書き換え 外部イベント・カウント入力 (TIAA00), または外部トリガ入力 (TIAA00) の有効エッジを切り換える場合, 2 ビットで制御している TIAAn 入力の有効エッジを 1 ビット単位で書き換える必要があります。

次に手順を示します。手順に従わない場合のキャプチャ値は保障できません。

[外部イベント・カウント入力の場合]

- 立ち上がりエッジから立ち下がりエッジへの変更手順

現在のステータス, TAAAnIOC2.TAAAnEES[1:0] = 01B : “立ち上がりエッジ”

TAAAnIOC2.TAAAnEES[1:0] = 00B に設定：“エッジなし”の指定

TAAAnIOC2.TAAAnEES[1:0] = 10B に設定：“立ち下がりエッジ”の指定

- 立ち下がりエッジから立ち上がりエッジへの変更手順

現在のステータス, TAAAnIOC2.TAAAnEES[1:0] = 10B : “立ち下がりエッジ”

TAAAnIOC2.TAAAnEES[1:0] = 00B に設定：“エッジなし”の指定

TAAAnIOC2.TAAAnEES[1:0] = 01B に設定：“立ち上がりエッジ”の指定

[外部トリガ入力の場合]

- 立ち上がりエッジから立ち下がりエッジへの変更手順

現在のステータス, TAAAnIOC2.TAAAnETS[1:0] = 01B : “立ち上がりエッジ”

TAAAnIOC2.TAAAnETS[1:0] = 00B に設定：“エッジなし”の指定

TAAAnIOC2.TAAAnETS[1:0] = 10B に設定：“立ち下がりエッジ”の指定

- 立ち下がりエッジから立ち上がりエッジへの変更手順

現在のステータス, TAAAnIOC2.TAAAnETS[1:0] = 10B : “立ち下がりエッジ”

TAAAnIOC2.TAAAnETS[1:0] = 00B に設定：“エッジなし”の指定

TAAAnIOC2.TAAAnETS[1:0] = 01B に設定：“立ち上がりエッジ”の指定

注意 外部入力信号のレベルが変化しない状態で行ってください。

(6) TAAAn I/O 制御レジスタ4 (TAAAnIOC4)

TAAAnIOC4 レジスタは、タイマ AA の出力機能を制御する 8 ビットのレジスタです。

8/1 ビット単位でリード / ライト可能です。

リセットにより 00H になります。

リセット時 : 00H R/W アドレス : TAA0IOC4:FFFFF59CH, TAA1IOC4:FFFFF5ACH,
 TAA2IOC4:FFFFF5BCH, TAA3IOC4:FFFFF5CCH,
 TAA4IOC4:FFFFF5DCH, TAA5IOC4:FFFFF5ECH,
 TAA6IOC4:FFFFF5FCH, TAA7IOC4:FFFFF60CH

	7	6	5	4	3	2	1	0
TAAAnIOC4	0	0	0	0	TAAAnOS1	TAAAnOR1	TAAAnOS0	TAAAnR0

TAAAnOS1	TAAAnOR1	TOAAn1のトグル制御
0	0	通常動作
0	1	次のトグル・タイミングで出力レベルを強制的にインアクティブ・レベルに設定
1	0	次のトグル・タイミングで出力レベルを強制的にアクティブ・レベルに設定
1	1	次のトグル・タイミングでも現在の出力レベルを保持

TAAAnOS0	TAAAnOR0	TOAAn0のトグル制御
0	0	通常動作
0	1	次のトグル・タイミングで出力レベルを強制的にインアクティブ・レベルに設定
1	0	次のトグル・タイミングで出力レベルを強制的にアクティブ・レベルに設定
1	1	次のトグル・タイミングでも現在の出力レベルを保持

- 注意 1. TAAAnIOC4が使えるのは、インターバル・モードまたはフリー・ランニング・モードが選択されたときだけです。他のモードでは、このレジスタを00Hに設定してください。
2. フリー・ランニング・モードにおいて、TAAAnIOC4レジスタの設定が有効になるのは、コンペア機能を選択している場合のみです。キャプチャ機能を選択している場合は無効です。

- 備考1. 出力レベルを強制的にインアクティブまたはアクティブ・レベルにしたあと、TAAAnOS1 (TAAAnOS0) とTAAAnOR1 (TAAAnOS0) がクリアされて通常動作に戻るまで、TOAAn1 (TAAAnOS0) はそのレベルを維持します（その後のトグル動作は行いません）。
2. 出力レベルの強制変更は次のトグル・イベントの発生時に起こり、出力保持は直ちに有効になります。
3. TAAAnCTL0.TAAAnCE = 1のとき、TAAAnIOC4への書き込みが可能です。

(7) TAA_n オプション・レジスタ 0 (TAA_nOPT0)

TAA_nOPT0レジスタは、キャプチャ / コンペア動作の設定、オーバフローの検出をする8ビット・レジスタです。

8/1ビット単位でリード / ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

(1/2)

リセット時 : 00H R/W アドレス : TAA0OPT0:FFFFF595H, TAA1OPT0:FFFFF5A5H,
 TAA2OPT0:FFFFF5B5H, TAA3OPT0:FFFFF5C5H,
 TAA4OPT0:FFFFF5D5H, TAA5OPT0:FFFFF5E5H,
 TAA6OPT0:FFFFF5F5H, TAA7OPT0:FFFFF605H

	7	6	5	4	3	2	1	①
TAA _n OPT0 (n = 0-7)	0	0	TAAnCCS1	TAAnCCS0	0	0	0	TAAnOVF

TAAnCCSm	TAAnCCR _m レジスタのキャプチャ / コンペア選択 (m = 0, 1)
0	コンペア・レジスタ選択
1	キャプチャ・レジスタ選択

TAAnCCSmビットの設定はフリー・ランニング・モードのときのみ有効になります。

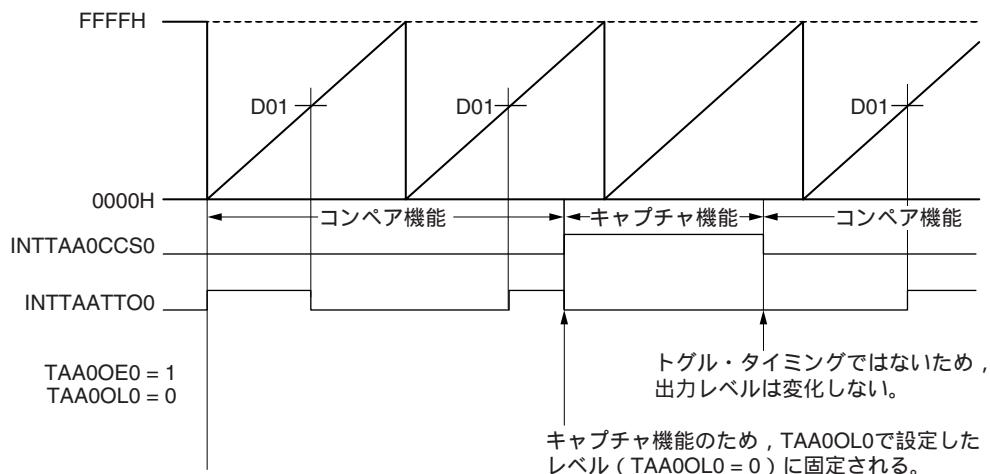
TAAnOVF	タイマAAのオーバフロー検出
セット (1)	オーバフロー発生
リセット (0)	TAAnOVFビットの0書き込みまたはTAAnCE = 0

- ・ TAAnOVFビットはフリー・ランニング・モードおよびパルス幅測定モード時に16ビット・カウタの値がFFFFHから0000Hにオーバフローするときセットされます。
- ・ TAAnOVFビットがセット (1) されると同時に割り込み要求信号 (INTTAA_nOV) が発生します。フリー・ランニング・モードおよびパルス幅測定モード以外では、INTTAA_nOV信号は発生しません。
- ・ TAAnOVF = 1のときにTAAnOVFビットおよびTAA_nOPT0レジスタをリードしてもTAAnOVFビットはクリアされません。
- ・ TAAnOVFビットは、R/W可能ですがCPUからTAAnOVFビットに“1”を書き込むことはできません。1をライトしてもタイマAAの動作に影響はありません。

注意 TAAAnCCS1, TAAhCCS0ビットを、タイマ動作中 (TAAAnCE = 1) に書き換える場合は、次の手順に従ってください。

- ・コンペア機能からキャプチャ機能への切り換え
 1. コンペア・レジスタの設定値を別領域へ格納し、カウンタをリードする。
(コンペア・レジスタの設定値とカウンタが一致するタイミングでなければ“2”へ進む)
 2. 割り込み要求信号 (INTTAAAnCC0, INTTAAAnCC1, INTTAAAnOV) をマスクする。
TIAAn0, TIAAn1の入力をポートでマスクする。
 3. コンペア・レジスタの設定値とカウンタが一致するタイミング以外でコンペア機能 (TAAAnCCSm = 0) からキャプチャ機能 (TAAAnCCSm = 1) へ変更する。
コンペア機能からキャプチャ機能への切り換えによりタイマ出力は TAAAnOLmビットで設定したレベルに固定される。
 4. オーバフロー・フラグ (TAAAnOVF) を“0”ライト・クリアする。
 5. 割り込み要求信号 (INTTAAAnCC0, INTTAAAnCC1, INTTAAAnOV) 信号のマスクを解除する。
TIAAn0, TIAAn1の入力のマスクを解除する。

- ・キャプチャ機能からコンペア機能への切り換え
 1. カウンタをリードし、コンペア・レジスタに設定する値を決定する。
 2. 割り込み要求信号 (INTTAAAnCC0, INTTAAAnCC1, INTTAAAnOV) をマスクする。
 3. キャプチャ機能 (TAA0CCSm = 1) からコンペア機能 (TAA0CCSm = 0) へ変更する。
 4. “1”で決定した値を、コンペア・レジスタにライトする。
 5. オーバフロー・フラグ (TAA0OVF) を“0”ライト・クリアする。
 6. 割り込み要求信号 (INTTAAAnCC0, INTTAAAnCC1, INTTAAAnOV) のマスクを解除する。



(8) TAA_n オプション・レジスタ1 (TAA_nOPT1)

TAA_nOPT1レジスタは、2つのタイマAAをカスケード接続して32ビットのキャプチャ・モードを設定する8ビットのレジスタです。

8/1ビット単位でリード/ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

(1/2)

リセット時 : 00H R/W アドレス : TAA1OPT1:FFFFF5ADH, TAA3OPT1:FFFFF5CDH
TAA6OPT1:FFFFF5FDH

	(7)	6	5	4	3	2	1	0
TAA _n OPT1	TAAnCSE	0	0	0	0	0	0	0

(n = 1, 3, 6)

TAAnCSE	カスケード制御
0	単体動作
1	32ビットのカスケード機能動作 (タイマAAnは上位16ビットのスレーブとして動作し、マスタ・タイマはTAAmとなります (m = n - 1))

- 注意1. TAA_nCSEビットをセットする場合は、タイマは32ビット・タイマの上位16ビットとして動作します。
2. TAA_nCSEビット = 1の場合、TAA_nCTL0.TAA_nCSEは強制的に“0”になります。
3. TAA_nCSEビット = 1の場合、TAA_nCTL1.TAA_nSYE = 0に必ず設定してください。
4. TAA_nCSEビット = 1の場合、必ずフリー・ランニング・モードに設定し、キャプチャ/コンペア・レジスタ (TAA_nCCR0, TAA_nCCR1) は必ずキャプチャ機能に設定してください。
5. カスケード接続できるタイマのペアを次に示します。
- TAA0とTAA1
(TAA0がマスタとして動作し、下位16ビットとして動作します。)
 - TAA2とTAA3
(TAA2がマスタとして動作し、下位16ビットとして動作します。)
 - TAA5とTAA6
(TAA5がマスタとして動作し、下位16ビットとして動作します。)

(2/2)

TAAAnCSEビットのタイマ動作への影響を次に示します。

	TAAAnCSE = 0	TAAAnCSE = 1
内部動作クロックの禁止/許可	TAAAnCTL0.TAAAnCEビット	TAAAmCTL0.TAAAmCEビット
カウント・イネーブル	TAAAnCTL0のTAAAnCEビット	TAAAmのTAAAmCEビット
カウント・クロック	TAAAnCKS [2:0]で選択	TAAAmからのカウンタ・オーバフロー
キャプチャ信号0	TAAAnIS [1:0]で選択した, 有効エッジ入力TIAAn0	TAAAmの有効エッジ入力TIAAm0
キャプチャ信号1	TAAAnIS [3:2]で選択した, 有効エッジ入力TIAAn1	TAAAmの有効エッジ入力TIAAm1
キャプチャ割り込み	INTTAAAnCC0またはINTTAAAnCC1	INTTAAmCC0またはINTTAAmCC1

備考 n = 1, 3, m = (n-1)

32ビット・キャプチャ・モードの詳細については, 12.6.9 カスケード機能を参照してください

12.6 動 作

タイマAAには次のような動作があります。

動 作	TAAnEST (ソフトウェア・ トリガ・ビット)	TIAAn0 (外部トリガ 入力)	TAAnEEE カウント・ クロック選択	キャプチャ / コンペア選択	コンペア 書き込み
インターバル・タイマ・モード	無効	無効	内部 / TIAAn0 端子	コンペア専用	随時書き込み
外部イベント・カウント・モード ^{注1}	無効	無効	外部のみ	コンペア専用	随時書き込み
外部トリガ・パルス出力モード ^{注2}	有効	有効	内部のみ	コンペア専用	リロード
ワンショット・パルス出力モード ^{注2}	有効	有効	内部のみ	コンペア専用	随時書き込み
PWMモード	無効	無効	内部 / TIAAn0 端子	コンペア専用	リロード
フリー・ランニング・モード	無効	無効	内部 / TIAAn0 端子	キャプチャ / コン ペア切り換え可	随時書き込み
パルス幅測定モード ^{注2}	無効	無効	内部のみ	キャプチャ専用	対象外

注1. 外部イベント・カウント機能を使用する場合、TIAAn0キャプチャ入力のエッジ検出を、エッジを検出しない
(TAAnIOC1レジスタのTAAnIS1, TAAnIS0ビットを“00”)に設定してください。

2. 外部トリガ・パルス出力モード、ワンショット・パルス・モード、パルス幅測定モードを使用する場合、カ
ウント・クロックを選択 (TAAnCTL1レジスタのTAAnEEEビット = 0に設定) してください。

12.6.1 随時書き込みとリロード

タイマAAではタイマ動作中 (TAAnCE = 1) のときのTAAnCCR0, TAAnCCR1レジスタの書き換えを許可して
いますがモードによって書き込み方法 (随時書き込み, リロード) が異なります。

(1) 随時書き込み

タイマ動作中に TAAnCCRm レジスタの書き込みを行ったとき CCRm バッファ・レジスタに随時転送さ
れ, 16 ビット・カウンタの比較値となります。

備考 n = 0-7,

m = 0, 1

図12-6 隨時書き込みの基本動作フロー・チャート

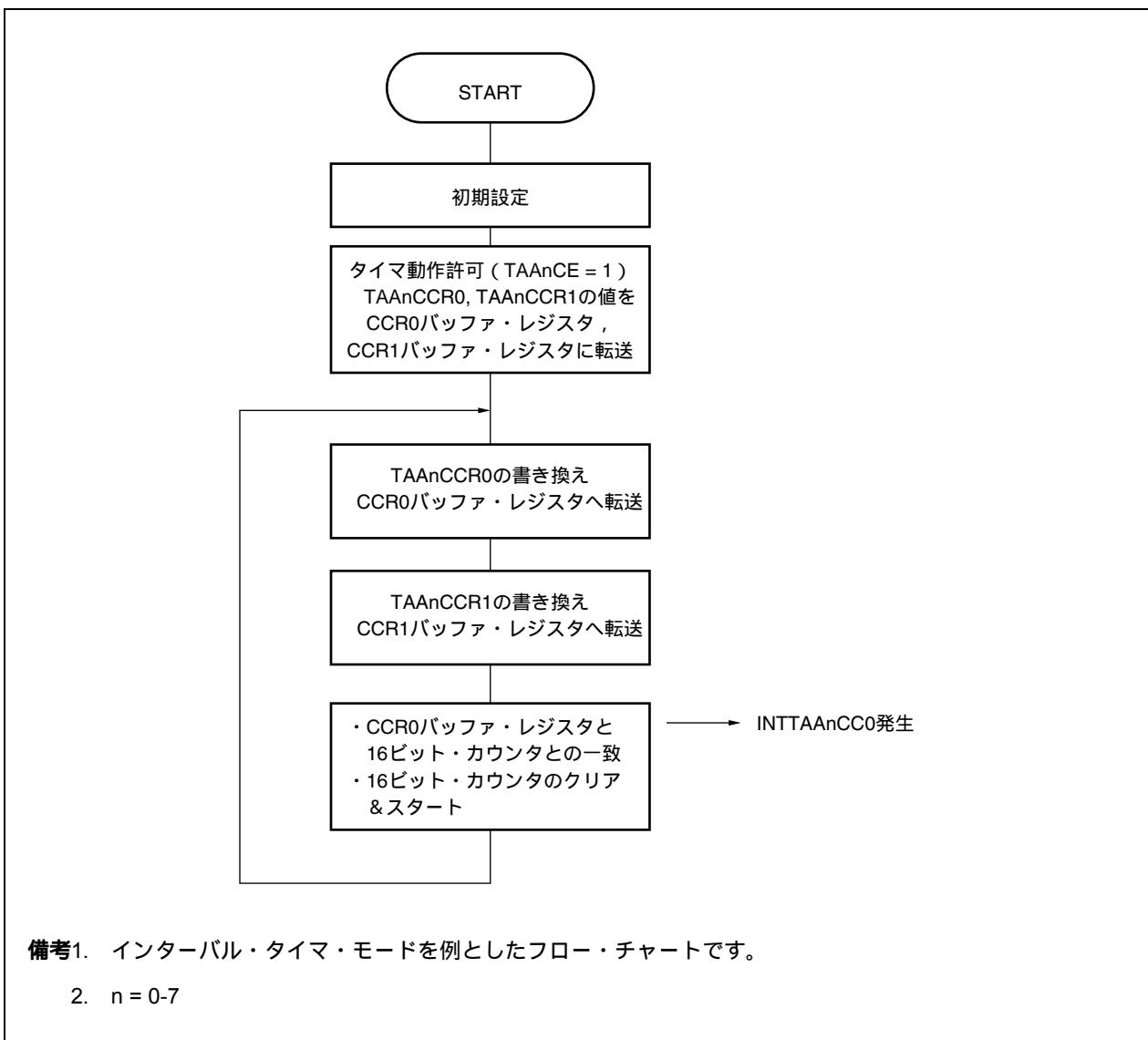
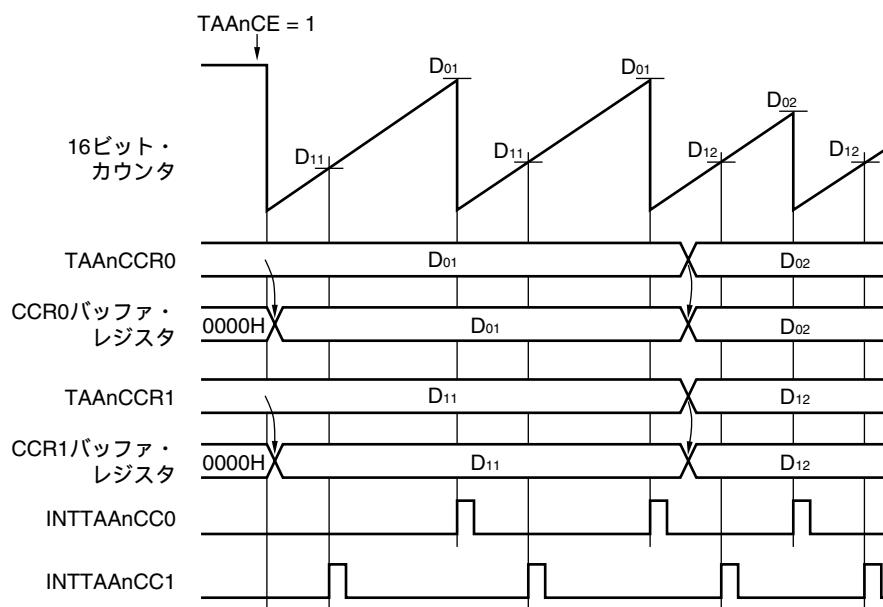


図12-7 隨時書き込みのタイミング図



- 備考1.** D₀₁, D₀₂ : TAAnCCR0レジスタの設定値 (0000H-FFFFH)
 D₁₁, D₁₂ : TAAnCCR1レジスタの設定値 (0000H-FFFFH)
2. インターバル・タイマ・モードを例としたタイミング図です。
 3. n = 0-7

(2) リロード

タイマ動作中に TAAAnCCR0, TAAAnCCR1 レジスタの書き込みを行ったとき、書き込んだ値は特定の状態になるまで保留されたあと、CCRm バッファ・レジスタへ転送され、16 ビット・カウンタの比較値となります。TAAAnCCR0 レジスタおよび TAAAnCCR1 レジスタは TAAAnCE = 1 時書き換えが可能です。

TAAAnCCR0 レジスタおよび TAAAnCCR1 レジスタを書き換えた場合の設定値が 16 ビット・カウンタの比較値となる（CCRm バッファ・レジスタにリロードされる）には 16 ビット・カウンタの値と TAAAnCCR0 レジスタの値が一致する前に TAAAnCCR0 を書き換え、次に TAAAnCCR1 レジスタを書き込む必要があります。そのあと TAAAnCCR0 レジスタの一致タイミングで TAAAnCCR0 レジスタと TAAAnCCR1 レジスタの値はリロードされます。

TAAAnCCR1 レジスタの書き込みで次のリロード・タイミングを有効とするか無効とするか制御します。したがって TAAAnCCR0 レジスタの値だけ書き換えたい場合でも、TAAAnCCR1 レジスタを同値書き込みしてください。

図12-8 リロードの基本動作フロー・チャート

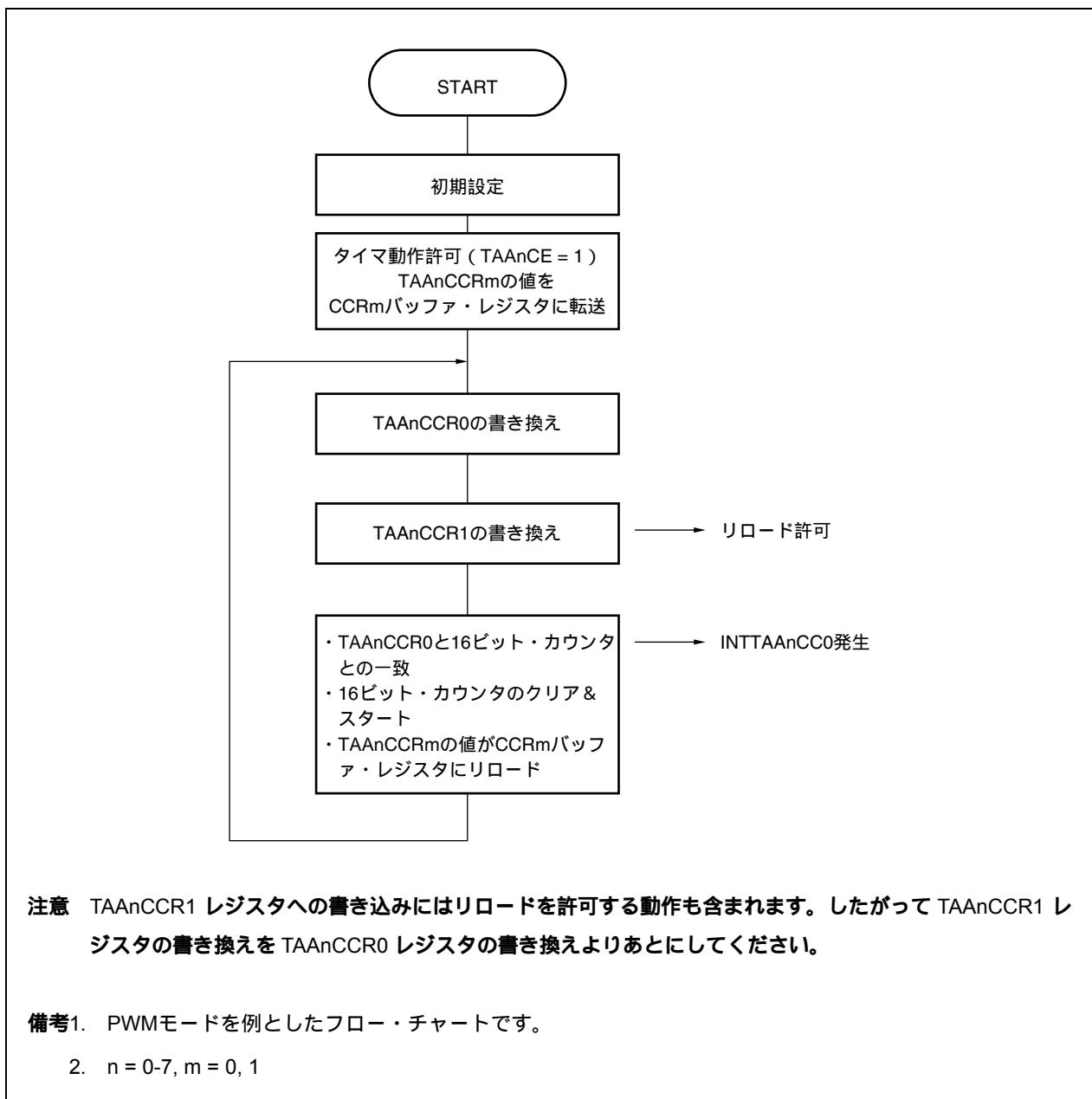
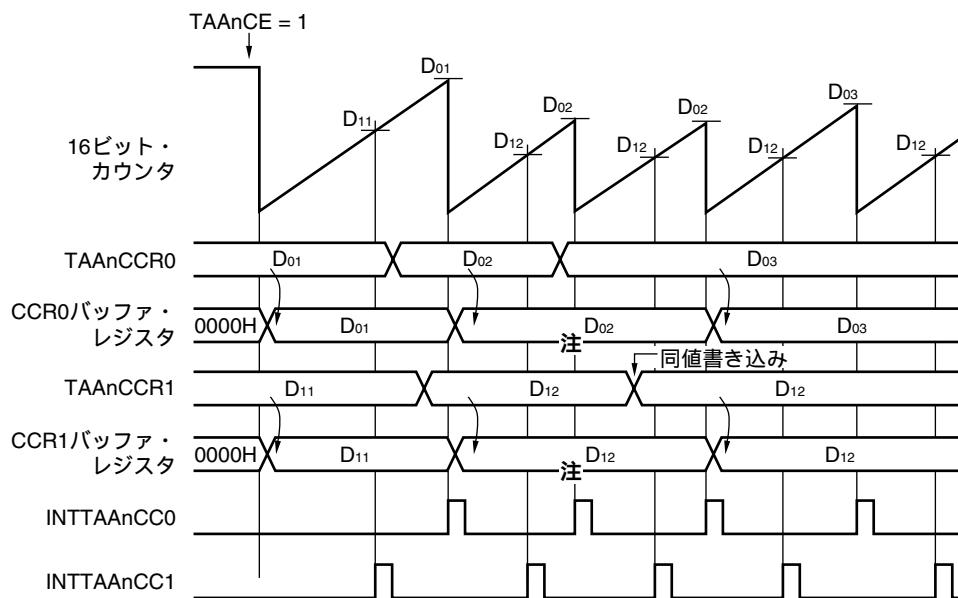


図12-9 リロードのタイミング図



注 TAAAnCCR1 レジスタの書き込みがなかったためリロードしません。

- 備考1.**
1. D_{01}, D_{02}, D_{03} : TAAAnCCR0レジスタの設定値 (0000H-FFFFH)
 2. D_{11}, D_{12} : TAAAnCCR1レジスタの設定値 (0000H-FFFFH)
 3. PWMモードを例としたタイミング図です。

12.6.2 インターバル・タイマ・モード (TAAnMD2-TAAnMD0 = 000)

インターバル・タイマ・モードではTAAnCCR0レジスタの設定値と16ビット・カウンタの値の一致で割り込み要求信号(INTTAAAnCC0)を発生し16ビット・カウンタをクリアします。TAAnCCRMレジスタはTAAnCE = 1のときに書き換えを許可しており、TAAnCCRMレジスタに値を設定すると随時書き込みによりCCRMバッファ・レジスタに転送され、16ビット・カウンタ値との比較対象値となります。

TAAnCCR1レジスタを使用しての16ビット・カウンタのクリア動作は行いません。

ただし、TAAnCCR1レジスタ設定値はCCR1バッファ・レジスタに転送され、16ビット・カウンタと比較されることで、割り込み要求(INTTAAAnCC1)が発生します。

また、TAAnOEmビットを1に設定することにより、TOAAAnm端子出力も可能です。

TAAnCCR1レジスタを使用しない場合はTAAnCCR1レジスタの設定値はFFFFHを設定することを推奨します。

備考1. タイマ動作中(TAAnCE = 1)のときのTAAnCCR0, TAAnCCR1の書き換え動作については、12.6.1(1)随時書き込みを参照してください。

2. n = 0-7, m = 0, 1

図12-10 インターバル・タイマ・モード時の基本動作フロー・チャート

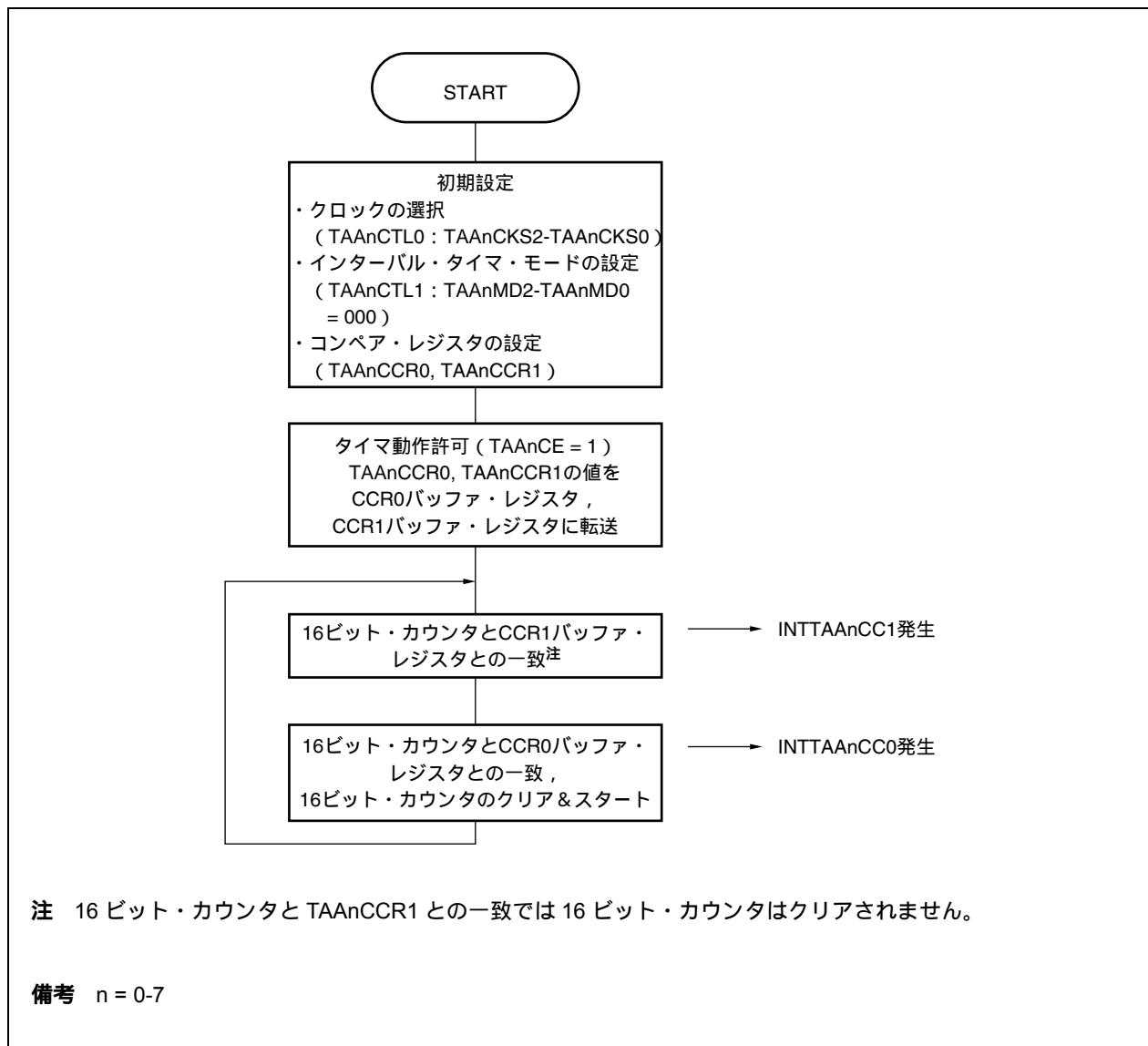
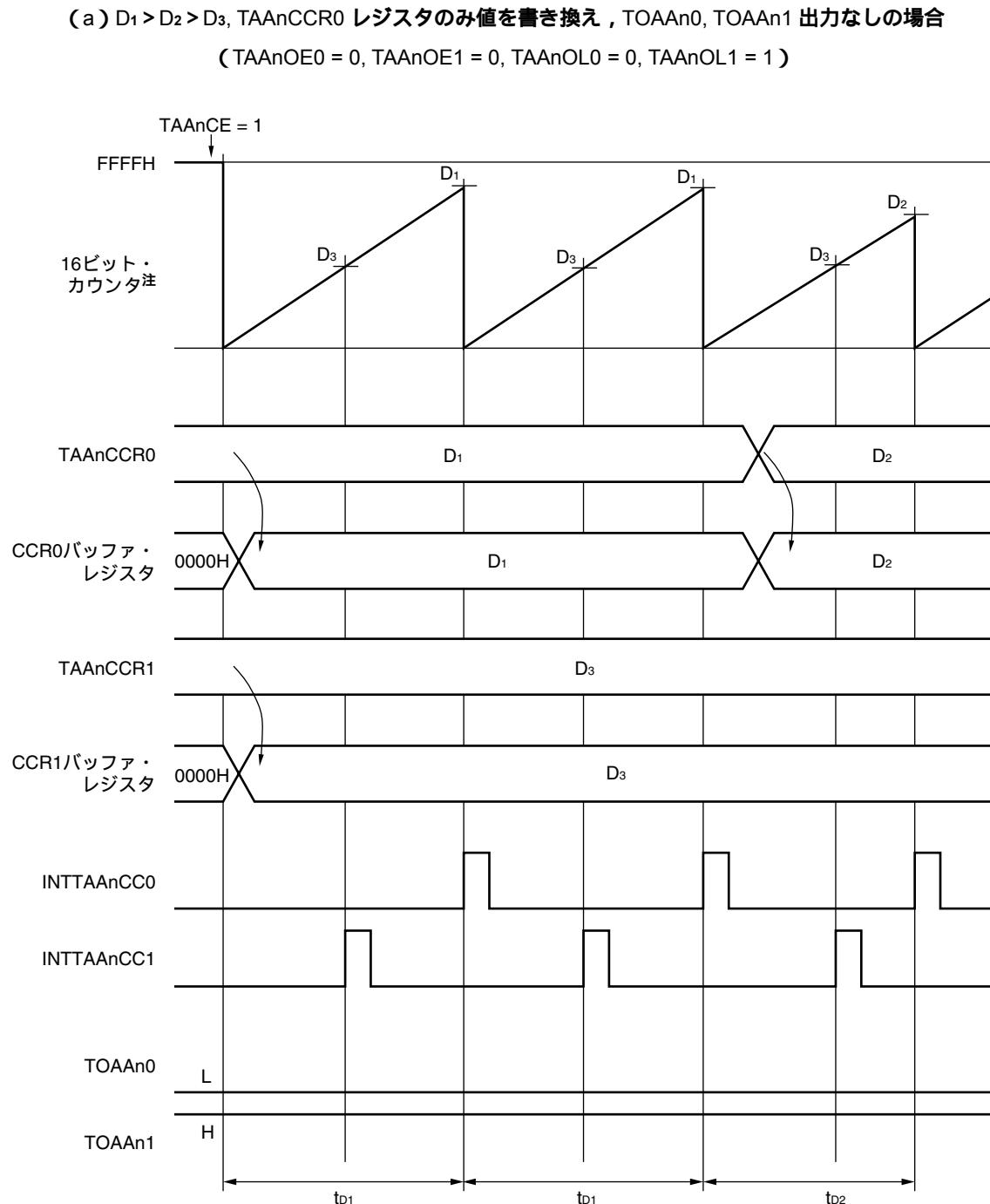


図12-11 インターバル・タイマ・モード時の基本動作タイミング (1/2)



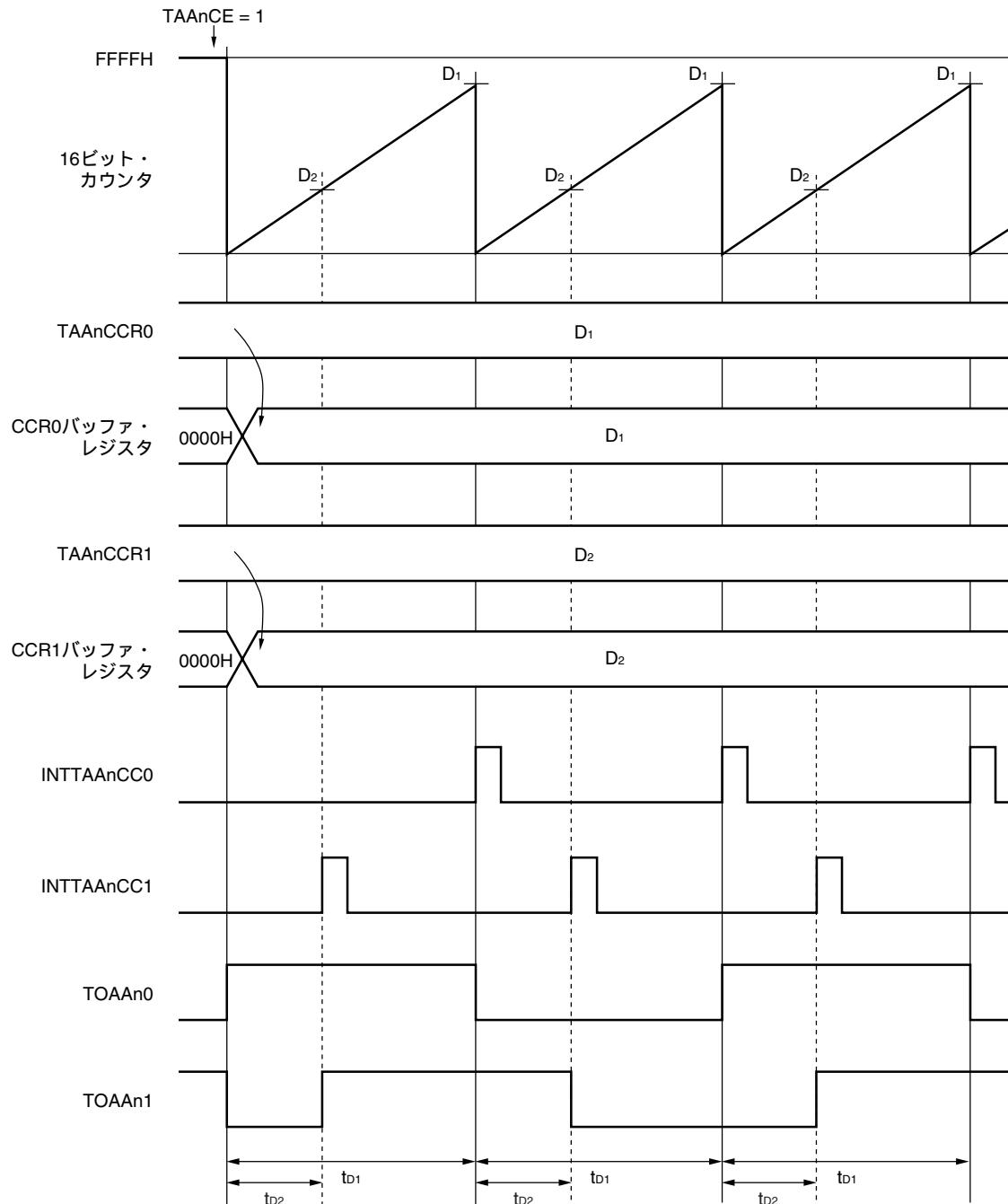
注 16ビット・カウンタと TAAAnCCR1との一致では16ビット・カウンタはクリアされません。

- 備考1.**
- 1. D_1, D_2 : TAAAnCCR0レジスタの設定値 (0000H-FFFFH)
 - 2. D_3 : TAAAnCCR1レジスタの設定値 (0000H-FFFFH)
 - 3. インターバル時間 (t_{Dn}) = ($D_n + 1$) × (カウント・クロック周期)
 - 4. $n = 0\text{--}7$

図12-11 インターバル・タイマ・モード時の基本動作タイミング (2/2)

(b) D₁ D₂, TAAAnCCR0, TAAAnCCR1 書き換えなし , TOAAn0, TOAAn1 出力ありの場合

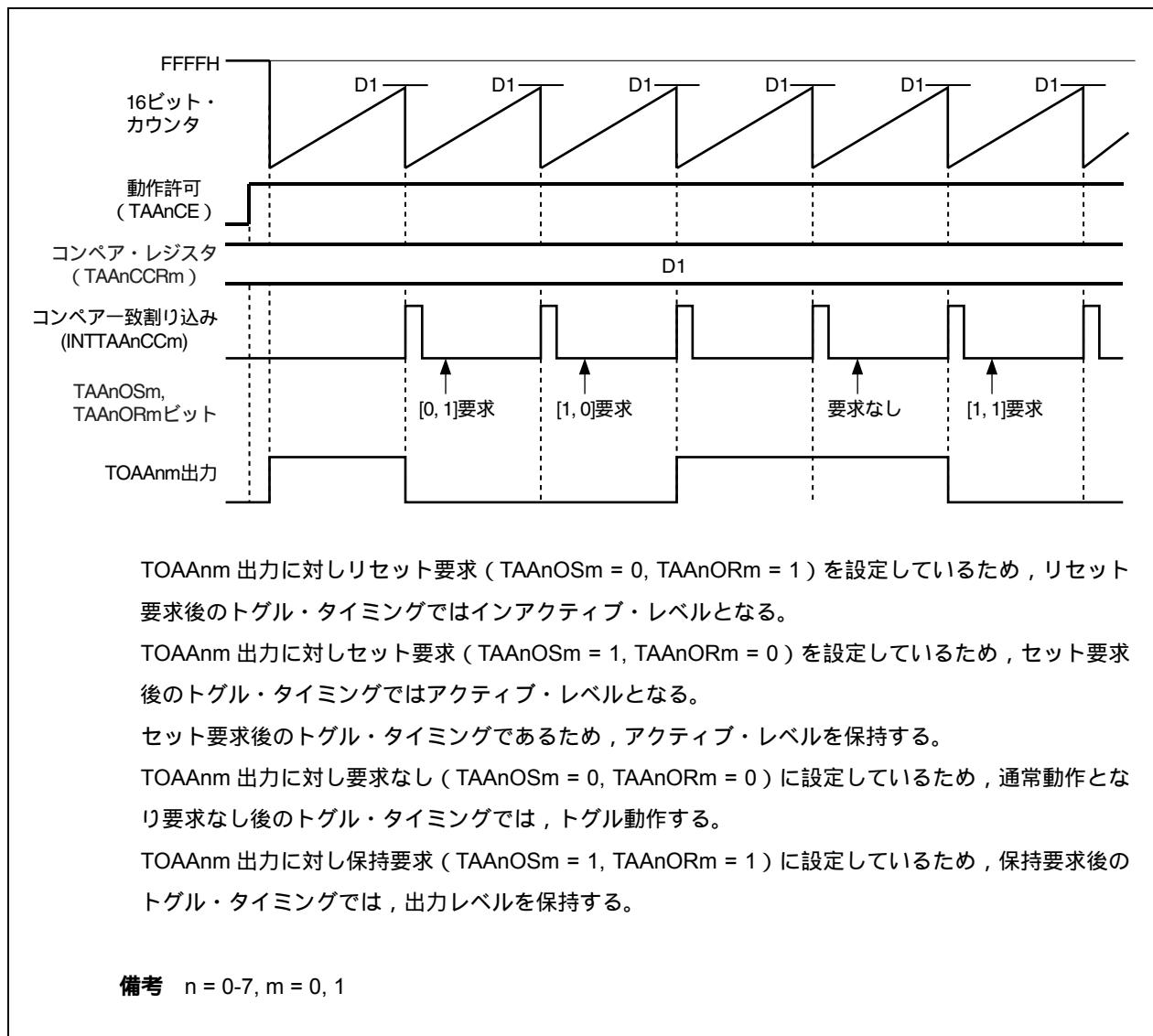
(TAAAnOE0 = 1, TAAAnOE1 = 1, TAAAnOL0 = 0, TAAAnOL1 = 1)



- 備考1.**
1. D₁ : TAAAnCCR0レジスタの設定値 (0000H-FFFFH)
 2. D₂ : TAAAnCCR1レジスタの設定値 (0000H-FFFFH)
 3. D₁ < D₂の場合 ,16ビット・カウンタとTAAAnCCR1レジスタの値が一致することがないため ,INTTAAAnCC1 割り込み要求およびTOAAn1出力の反転は発生しません。
 4. n = 0-7

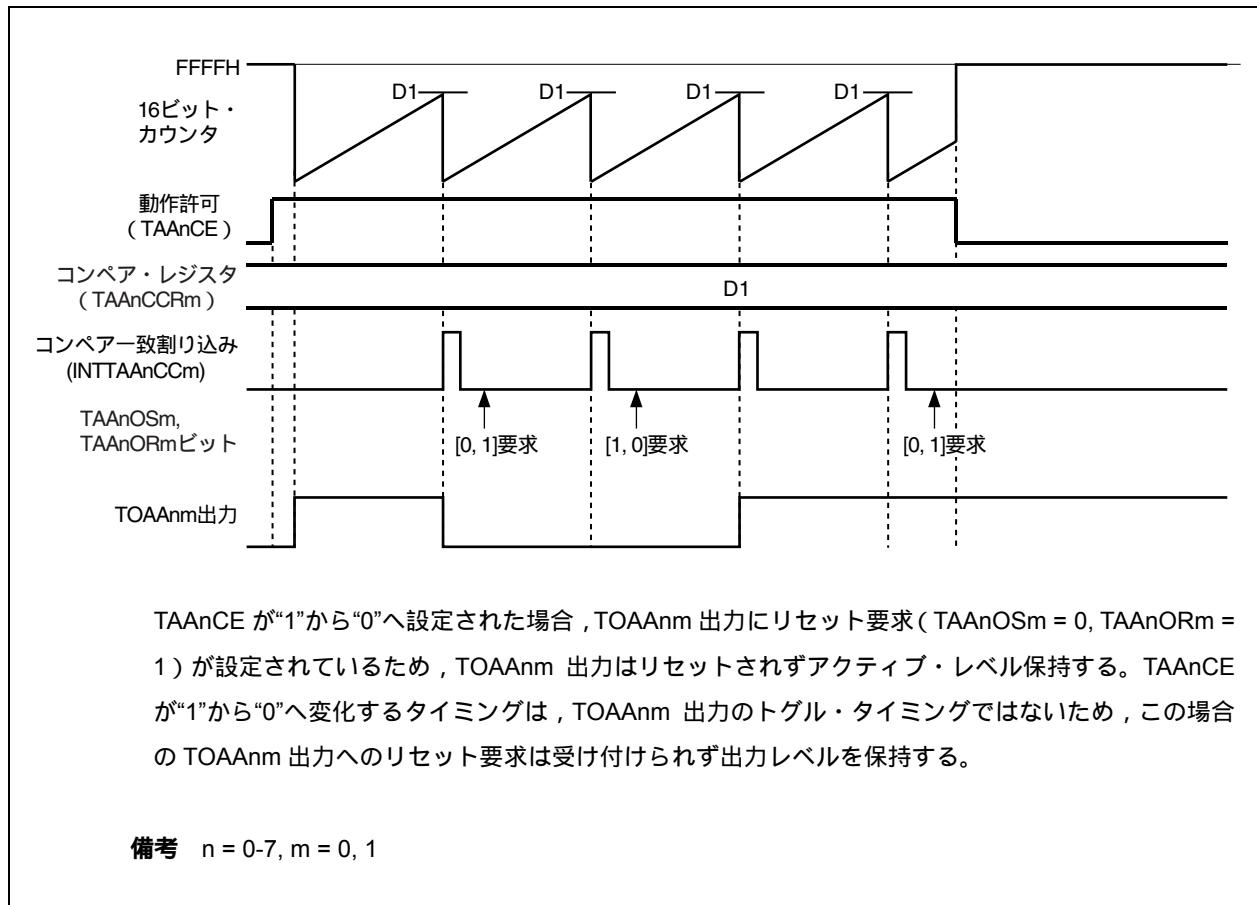
(1) 特殊 TOAAnm 出力動作 (強制インアクティブ(リセット) / 強制アクティブ(セット) / 保持)

TAAAnIOC4.TAAAnOS, TAAAnIOC4.TAAAnOR ビットの設定により、TOAAnm 出力レベルを次回トグル発生タイミングで固定することができます。アクティブ・レベルは、TAAAnIOC0.TAAAnOLm ビットで設定したレベルとなります。



(2) 特殊 TOAAn0, TOAAn1 出力動作(動作停止)

インターバル・タイマ・モードで動作しているとき, TAAAnCTL.TAAAnCE ビットが“1”から“0”へ設定されると, TAAAnIOC4.TAAAnOS, TAAAnIOC4.TAAAnOR ビットの設定値どちらかが“1”, または両方“1”的場合, TOAAnm 出力はリセットされず出力レベルを保持します。



12.6.3 外部イベント・カウント・モード (TAAAnMD2-TAAAnMD0 = 001)

外部イベント・カウント・モードでは外部イベント・カウント入力 (TIAAn0端子入力) をカウント・アップ信号として動作させます。TAAAnCTL0レジスタのTAAAnEEEビットの設定にかかわらず外部イベント・カウント・モードに設定すると外部イベント・カウント入力 (TIAAn0端子入力) によりカウント・アップを行います。

外部イベント・カウント・モードではTAAAnCCR0レジスタの設定値と16ビット・カウンタ値の一致で一致割り込み要求 (INTTAAAnCC0) を発生し16ビット・カウンタの値をクリアします。

TAAAnCCRmレジスタに値を設定すると随時書き込みにより, CCRmバッファ・レジスタに転送され, 16ビット・カウンタ値との比較対象値となります。

TAAAnCCR1レジスタを使用しての16ビット・カウンタのクリア動作は行いません。

ただし, TAAAnCCR1レジスタ設定値はCCR1バッファ・レジスタに転送され, 16ビット・カウンタと比較されることで, 割り込み要求 (INTTAAAnCC1) が発生します。

また, TAAAnOEmビットを1に設定することにより, TOAAnm端子出力も可能です。

TAAAnCCR0レジスタはTAAAnCE = 1のときに書き換えを許可しています。TAAAnCCR1レジスタを使用しない場合はTAAAnCCR1の設定値はFFFFHを設定することを推奨します。

注意1. 外部イベント・カウント・モードでの TOAAn0 端子出力は使用できません。

外部イベント・カウント・モードでの TOAAn1 端子出力を使用する場合は, インターバル・タイマ・モード (TAAAnMD2-TAAAnMD0 = 000) で TAAAnEEE = 1 に設定し使用してください。

2. 外部イベント・カウント・モードを使用する場合, TOAAn0 キャプチャ入力のエッジ検出を検出しない (TAAAnIOC2 レジスタの TAAAnEES1, TAAAnEES0 = 00) に設定してください

備考1. タイマ動作中 (TAAAnCE = 1) のときのTAAAnCCR0, TAAAnCCR1の書き換え動作については, 12.6.1(1) 随時書き込みを参照してください。

2. n = 0-7, m = 0, 1

図12-12 外部イベント・カウント・モード時の基本動作フロー・チャート

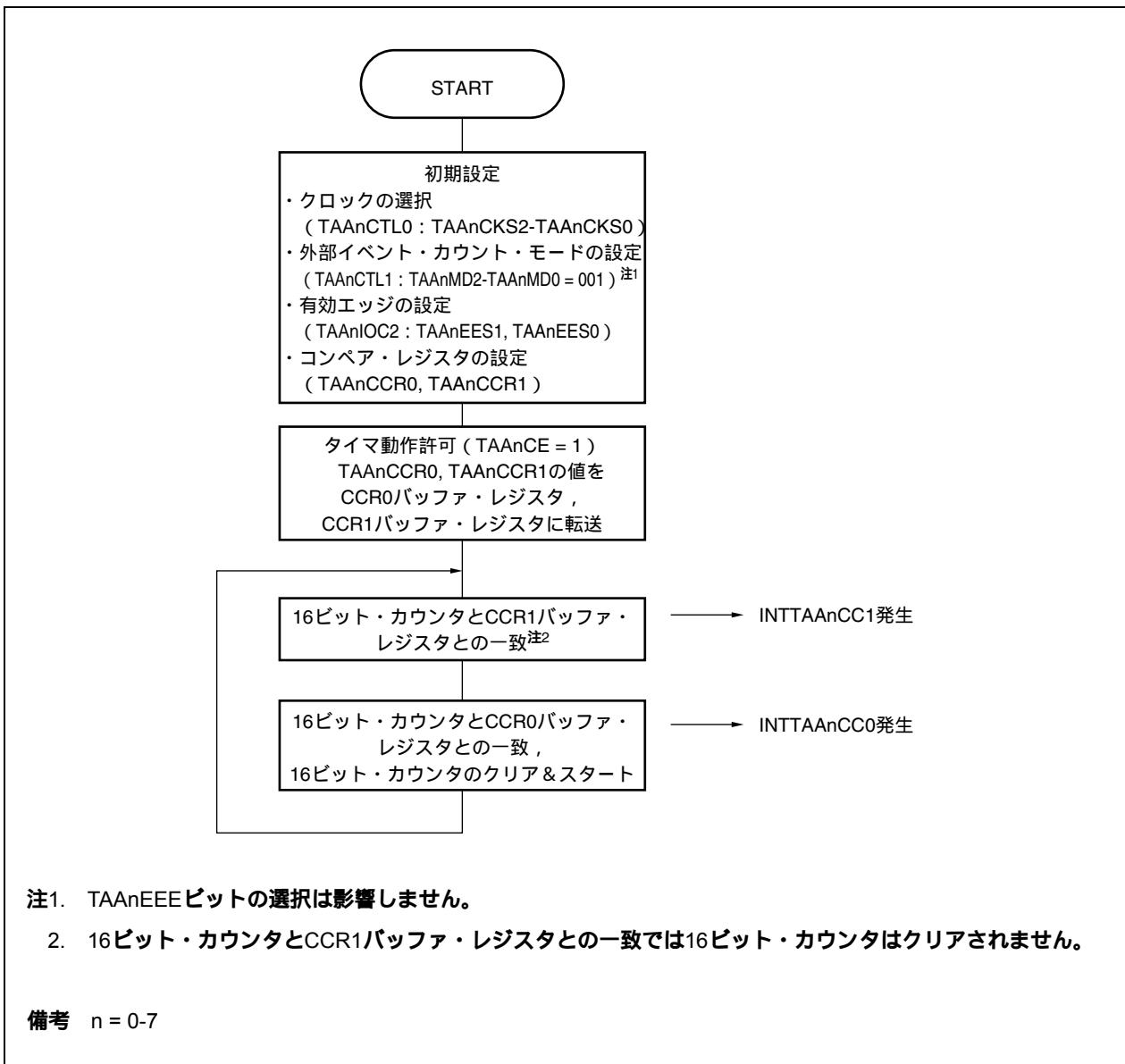
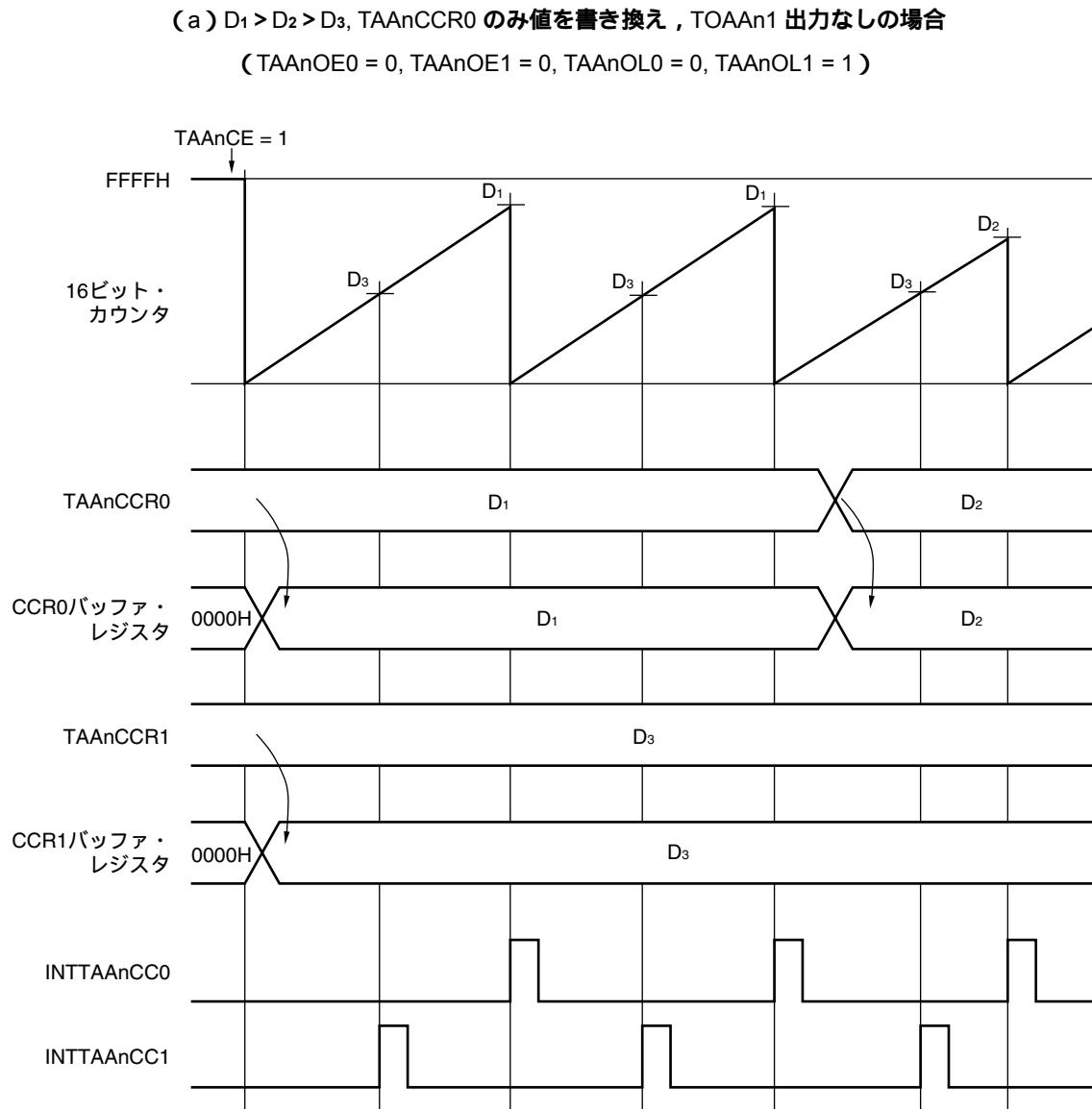
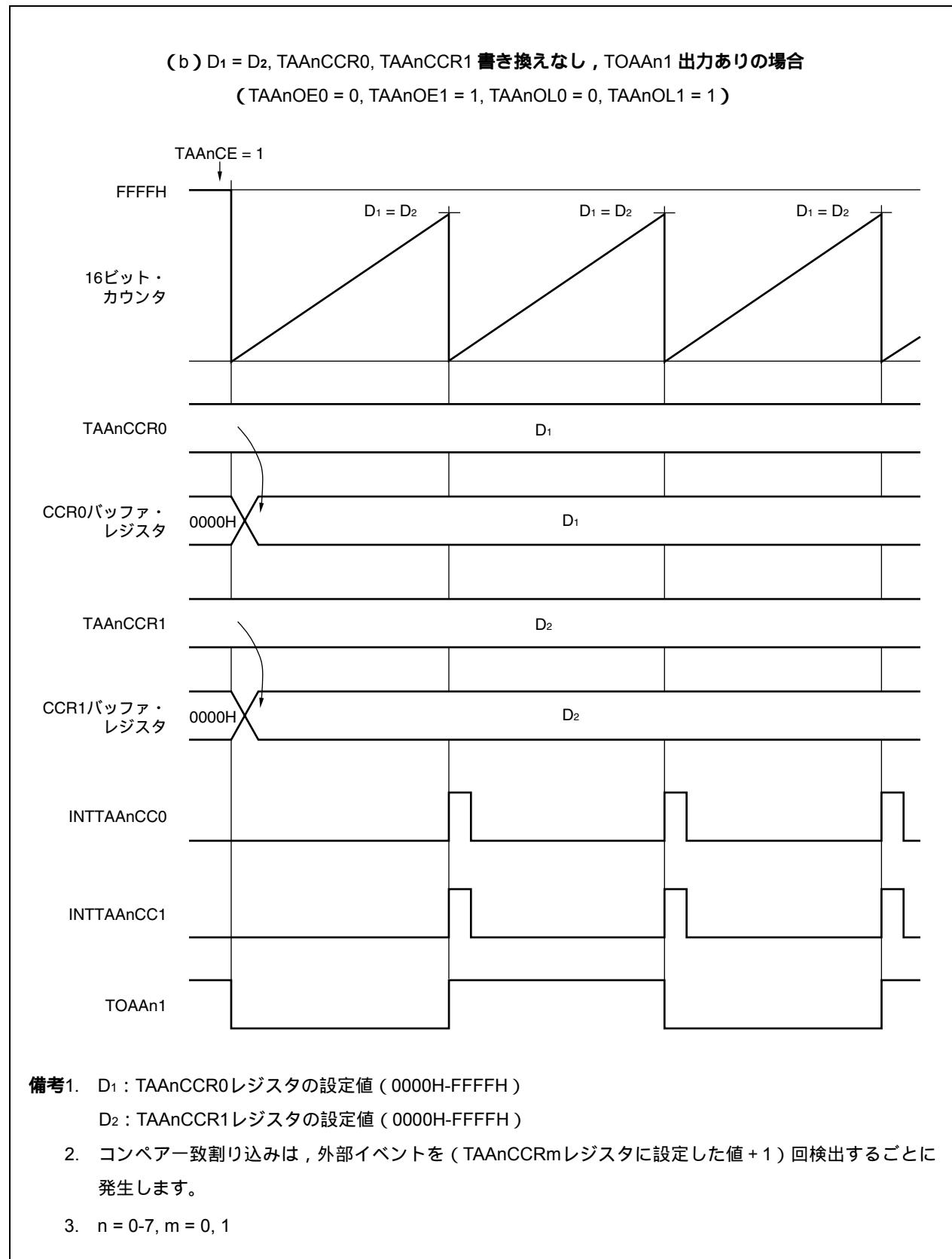


図12-13 外部イベント・カウント・モード時の基本動作タイミング(1/2)



- 備考1.** D₁, D₂ : TAAnCCR0レジスタの設定値 (0000H-FFFFH)
 D₃ : TAAnCCR1レジスタの設定値 (0000H-FFFFH)
2. コンペア一致割り込みは、外部イベントを (TAAnCCRmレジスタに設定した値 + 1) 回検出することに発生します。
3. n = 0-7, m = 0, 1

図12-13 外部イベント・カウント・モード時の基本動作タイミング(2/2)



12. 6. 4 外部トリガ・パルス出力モード (TAAnMD2-TAAnMD0 = 010)

外部トリガ・パルス出力モードではTAAnCE = 1にすると、16ビット・カウンタはFFFFHを保持したまま、外部トリガ入力 (TIAAn0端子入力、もしくはTAAnESTビットのセット) 待ちとなります。トリガを入力するとカウント・アップを開始します。

TOAAn1出力制御について、デューティ用の設定レジスタはリロード・レジスタ (TAAnCCR1) とし、周期用の設定レジスタはコンペア・レジスタ (TAAnCCR0) とします。

TAAnCCR0レジスタおよびTAAnCCR1レジスタはTAAnCE = 1の時も書き換えが可能です。

TAAnCCR0およびTAAnCCR1レジスタに書き込んだ設定値が確実に16ビット・カウンタの比較値となる (CCRmバッファ・レジスタにリロードされる) には、16ビット・カウンタの値とTAAnCCR0レジスタの値が一致する前にTAAnCCR0レジスタを書き換え、次にTAAnCCR1レジスタの値を書き換える必要があります。

その後TAAnCCR0レジスタの値と16ビット・カウンタが一致すると、TAAnCCR0およびTAAnCCR1レジスタの値はCCRmバッファ・レジスタにリロードされます。

TAAnCCR1レジスタの書き込みで次のリロード・タイミングを有効とするか無効とするかを制御します。したがって、TAAnCCR0レジスタの値だけ書き換えた場合でも、TAAnCCR1レジスタに同値を書き込んでください。

TAAnCCR0レジスタのみを書き換えると、リロードは無効になります。

タイマAAを停止するにはTAAnCE = 0にしてください。外部トリガ・パルス出力モード中に複数回、外部トリガ (TIAAn0端子入力、もしくはTAAnESTビットのセット) が入力されると検出したタイミングで16ビット・カウンタはクリアされカウント・アップを再開すると同時にTOAAn0、TOAAn1端子は初期化されます。

なお、外部トリガ入力 (TIAAn0端子入力) の代わりにソフトウェア・トリガを使用して、外部トリガ・パルス出力モードと同じ機能 (ソフトウェア・トリガ・パルス・モード) を実現するには、TAAnCTL1レジスタのTAAnESTビットを1にセットすることにより、ソフトウェア・トリガが発生します。

ソフトウェア・トリガ時は、周期の半分として1周期のPWM波形を持つ方形波をTOAAn0端子から出力します。

外部トリガ・パルスの波形はTOAAn1から出力します。TAAnCCR0レジスタの値と16ビット・カウンタの値が一致すると、TOAAn0端子はトグル出力します。

注意1. 外部トリガ・パルス出力モード時のカウント・クロックは内部クロック (TAAnCTL1レジスタのTAAnEEE = 0) を選択してください。

2. 外部トリガ・パルス出力モード時はTAAnCCR0レジスタおよびTAAnCCR1レジスタはコンペア・レジスタとして機能が固定されるため、キャプチャ機能は使用できません。

備考1. タイマ動作中のTAAnCCR0、TAAnCCR1の書き換え時のリロード動作については12. 6. 1(2) リロードを参照してください。

2. n = 0-7, m = 0, 1

図12-14 外部トリガ・パルス出力モード時の基本動作フロー・チャート

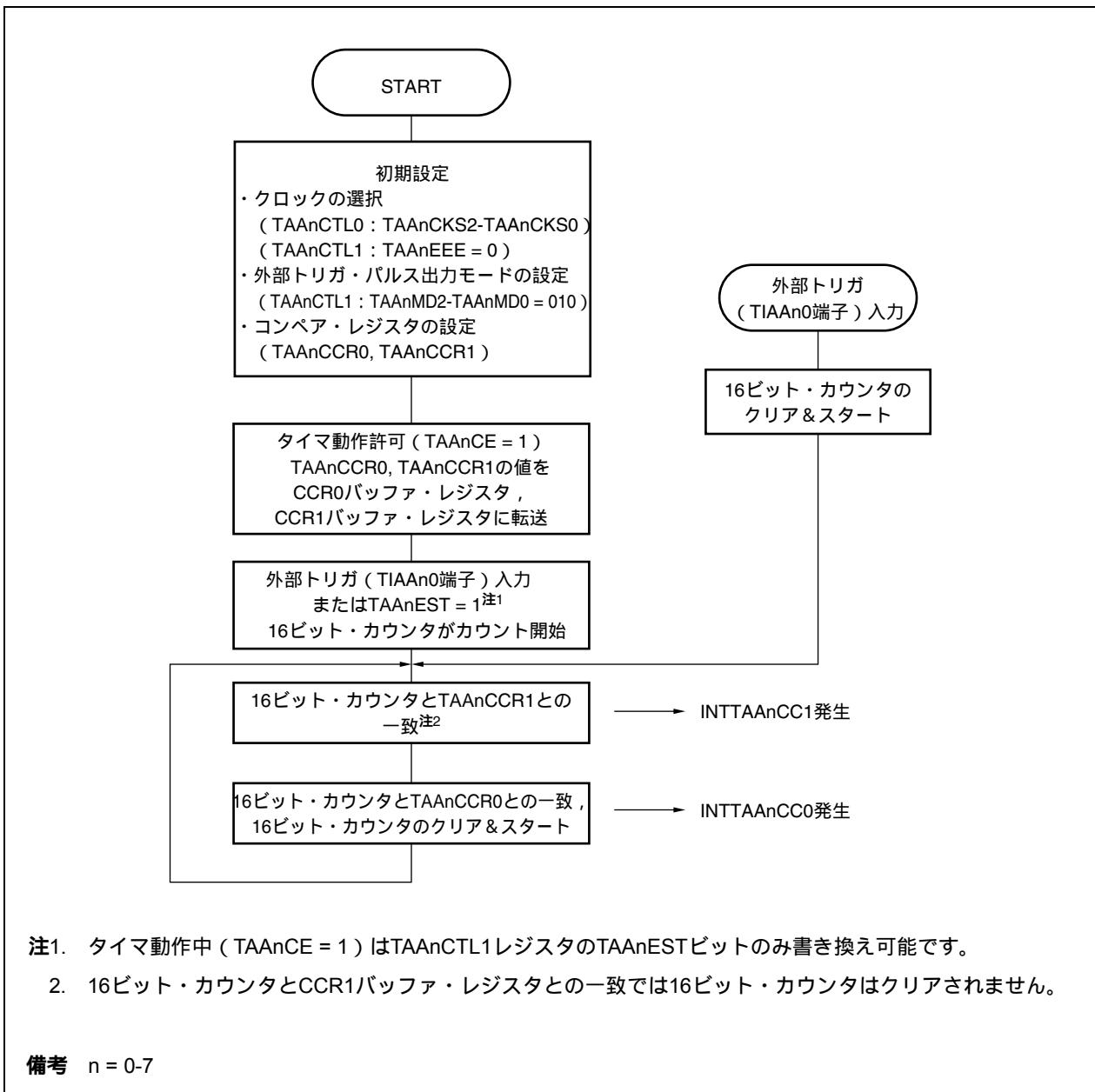
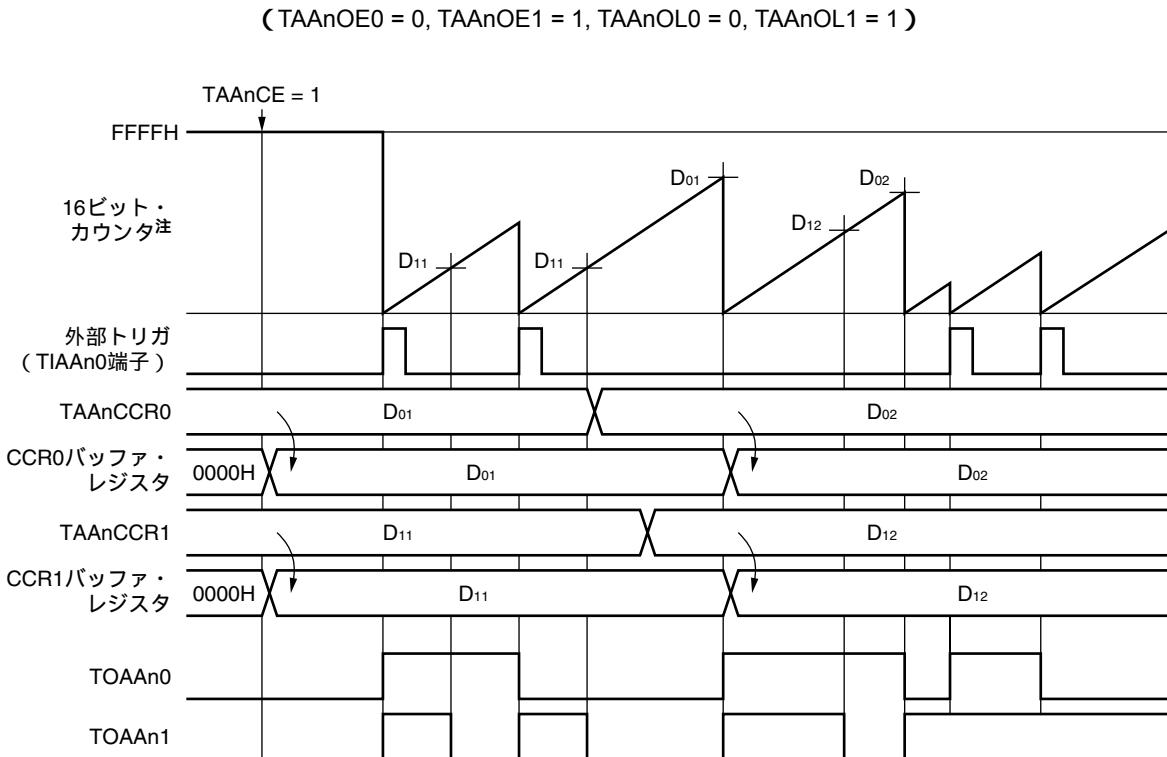


図12-15 外部トリガ・パルス出力モード時の基本動作タイミング



注 16ビット・カウンタとCCR1バッファ・レジスタとの一致では16ビット・カウンタはクリアされません。

- 備考1.** D₀₁, D₀₂ : TAAAnCCR0レジスタの設定値 (0000H-FFFFH)
D₁₁, D₁₂ : TAAAnCCR1レジスタの設定値 (0000H-FFFFH)
- TOAAn1出力のデューティ = (TAAAnCCR1レジスタの設定値) / (TAAAnCCR0レジスタの設定値 + 1)
TOAAn1出力の周期 = (TAAAnCCR0 レジスタの設定値 + 1) × (カウント・クロック周期)
 - n = 0-7

12.6.5 ワンショット・パルス・モード (TAAnMD2-TAAnMD0 = 011)

ワンショット・パルス・モードではTAAnCE = 1にすると、16ビット・カウンタはFFFFHを保持したままTAAnESTビットのセット(1)もしくはTIAAn0端子エッジ検出のトリガ待ちとなります。トリガを入力すると16ビット・カウンタがカウント・アップを開始し、16ビット・カウンタの値とTAAnCCR1レジスタから転送されたCCR1バッファ・レジスタの値が一致するとTOAAn1がハイ・レベルとなり16ビット・カウンタの値とTAAnCCR0レジスタから転送されたCCR0バッファ・レジスタの値が一致するとTOAAn1はロウ・レベルとなり16ビット・カウンタは0000Hにクリアされ停止します。16ビット・カウンタ動作中に2回以上のトリガを入力しても無視されます。2回目のトリガは必ず16ビット・カウンタが0000Hに停止しているタイミングに入力してください。TAAnCCRMレジスタはTAAnCE = 1のときに書き換えを許可しており、TAAnCCRMレジスタに値を設定すると随时書き込みによりCCRMバッファ・レジスタに転送され、16ビット・カウンタ値との比較対象値となります。

ワンショット・パルスの波形はTOAAn1端子から出力します。TOAAn0端子からは、タイマ・カウンタがカウントを行っている期間、アクティブ・レベルを出力します。アクティブ・レベルはTAAnOL0ビットによって設定します。

- 注意1.** ワンショット・パルス・モード時、カウント・クロックは内部クロック(TAAnCTL1レジスタのTAAnEEE = 0)を選択してください。
- 2. ワンショット・パルス・モード時はTAAnCCR0, TAAnCCR1レジスタはコンペア・レジスタとして機能が固定されるので、キャプチャ・レジスタとしての機能は使用できません。
- 3. ワンショット・パルス・モードにおいて、TAAnCCR1の設定値がTAAnCCR0の設定値より大きい場合、ワンショット・パルスは出力しません。

- 備考1.** タイマ動作中(TAAnCE = 1)のTAAnCCR0, TAAnCCR1の書き換え時の随时書き込み動作は、12.6.1(1)随时書き込みを参照してください。
- 2. n = 0-7

図12-16 ワンショット・パルス・モード時の基本動作フロー・チャート

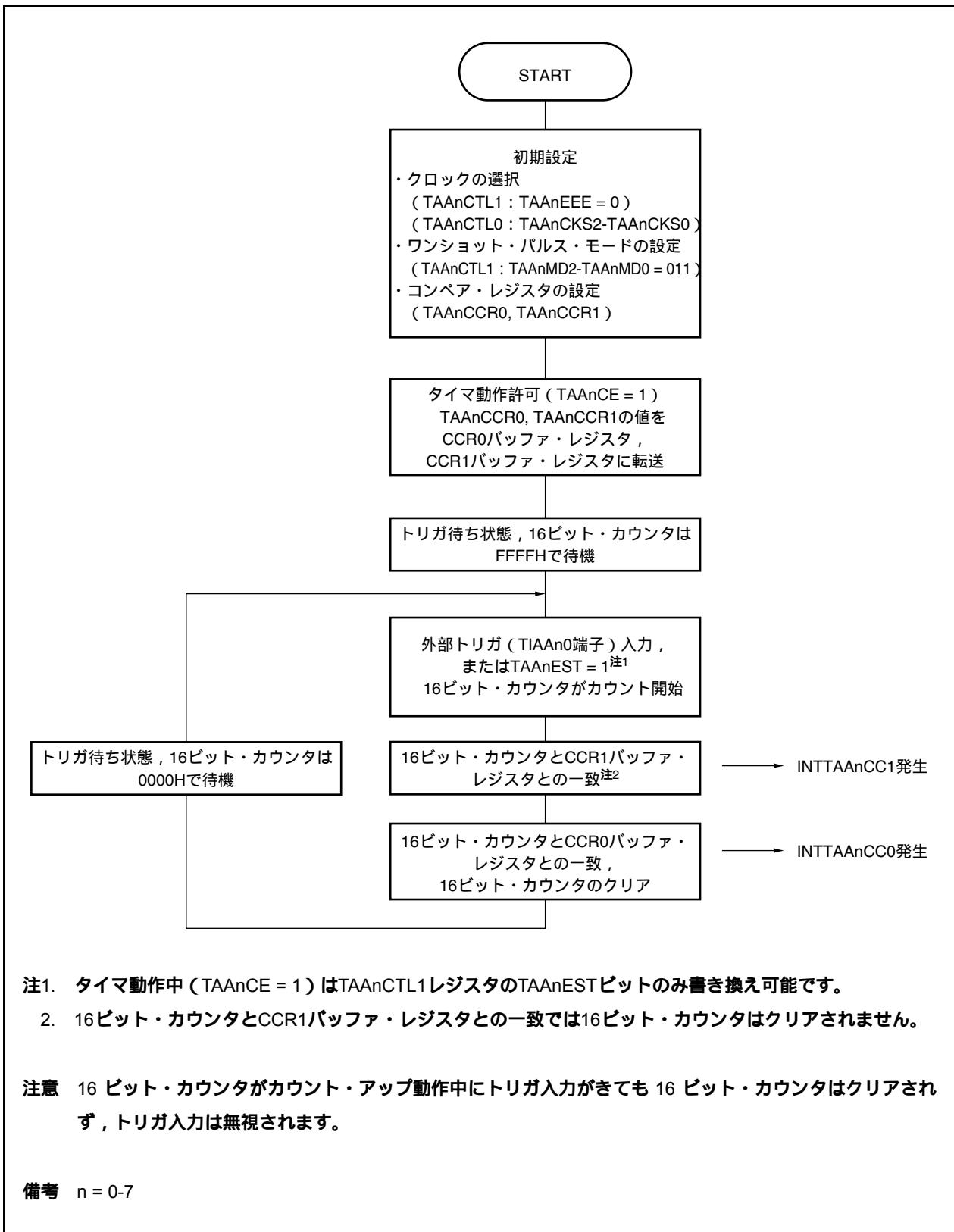
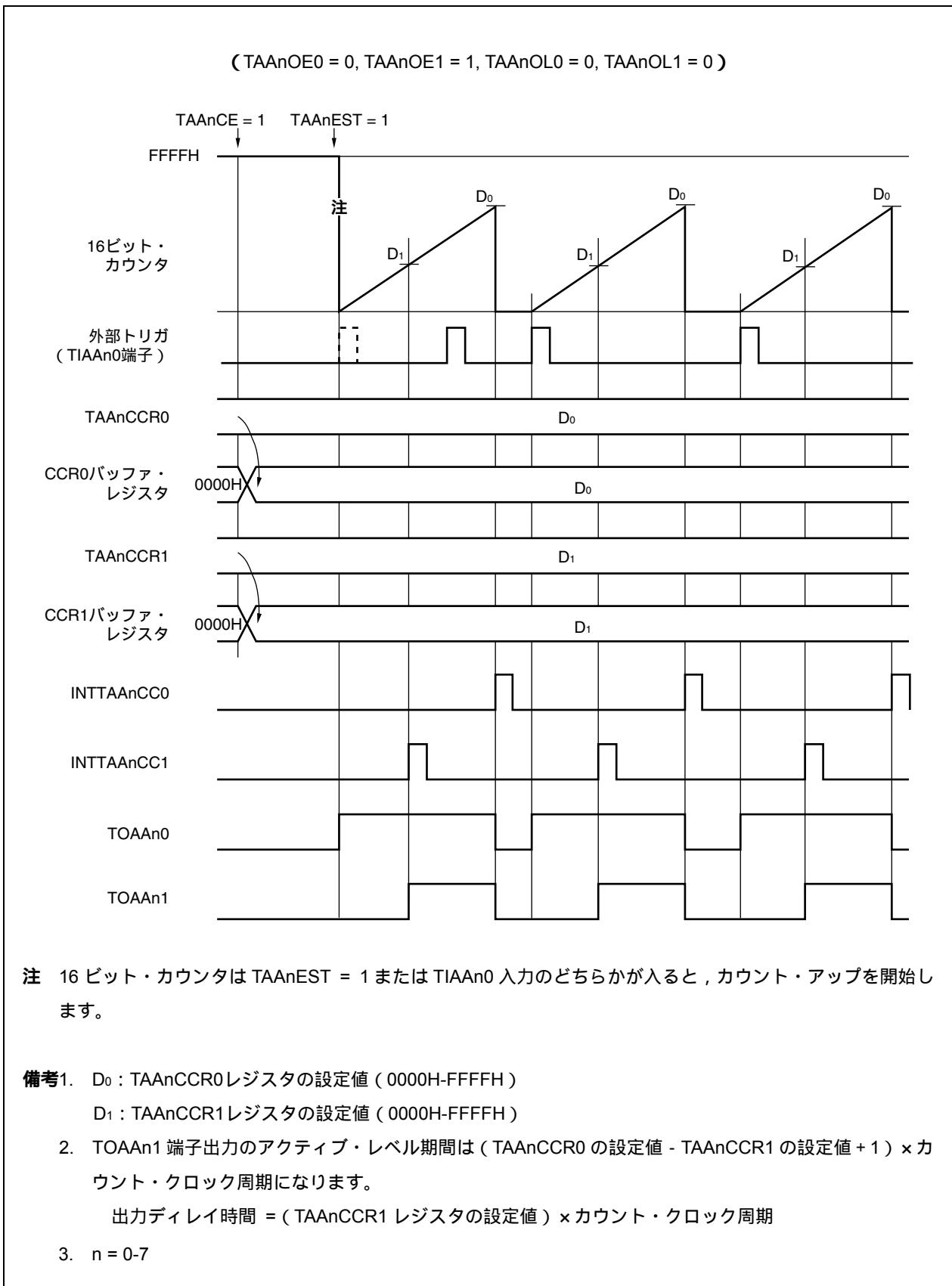


図12-17 ワンショット・パルス・モード時の基本動作タイミング



12. 6. 6 PWM モード (TAAAnMD2-TAAAnMD0 = 100)

PWMモードではデューティ用の設定レジスタはTAAAnキャプチャ/コンペア・レジスタ1 (TAAAnCCR1) とし、周期用の設定レジスタはTAAAnキャプチャ/コンペア・レジスタ0 (TAAAnCCR0) となります。

この2つのレジスタを設定し、タイマを動作させることでデューティ可変型のPWMを出力します。

TAAAnCCR0レジスタおよびTAAAnCCR1レジスタはTAAAnCE = 1時書き換えを許可しています。

タイマAAを停止するにはTAAAnCE = 0にしてください。PWMの波形出力はTOAAn1端子から出力します。TOAAn0端子はPWM周期を半周期とするパルスを出力します。

PWMモードではデューティ用の設定レジスタはTAAAnキャプチャ/コンペア・レジスタ1 (TAAAnCCR1) とし、周期用の設定レジスタはTAAAnキャプチャ/コンペア・レジスタ0 (TAAAnCCR0) となります。この2つのレジスタを設定し、タイマを動作させることでデューティ可変型のPWMを出力します。

TAAAnCCR0レジスタおよびTAAAnCCR1レジスタはTAAAnCE = 1のとき、書き換えが可能です。

TAAAnCCR0およびTAAAnCCR1レジスタの設定値が16ビット・カウンタの比較値となる (CCR0 および CCR1 バッファ・レジスタにリロードされる) には、16ビット・カウンタの値とTAAAnCCR0レジスタの値が一致する前にTAAAnCCR0レジスタを書き換え、次にTAAAnCCR1レジスタに値を書き込む必要があります。

その後TAAAnCCR0レジスタの値と16ビット・カウンタの値が一致すると、TAAAnCCR0およびTAAAnCCR1レジスタの値はリロードされます。

TAAAnCCR1レジスタの書き込みで次のリロード・タイミングを有効とするか無効とするかを制御します。したがって、TAAAnCCR0レジスタの値だけ書き換える場合でも、TAAAnCCR1レジスタに同値を書き込んでください。TAAAnCCR0レジスタの値のみを書き換えると、リロードは無効になります。

タイマAAを停止するにはTAAAnCE = 0にしてください。

PWM波形は、TOAAn1端子から出力されます。16ビット・カウンタとTAAAnCCR0レジスタが一致すると、TOAAn0端子はトグル出力します。

注意 PWMモード時はTAAAnCCR0, TAAAnCCR1レジスタはコンペア・レジスタとして機能が固定されるためキャプチャ・レジスタとしての機能は使用できません。

備考1. タイマ動作中 (TAAAnCE1) のTAAAnCCR0, TAAAnCCR1の書き換え時のリロード動作は、12. 6. 1(2)

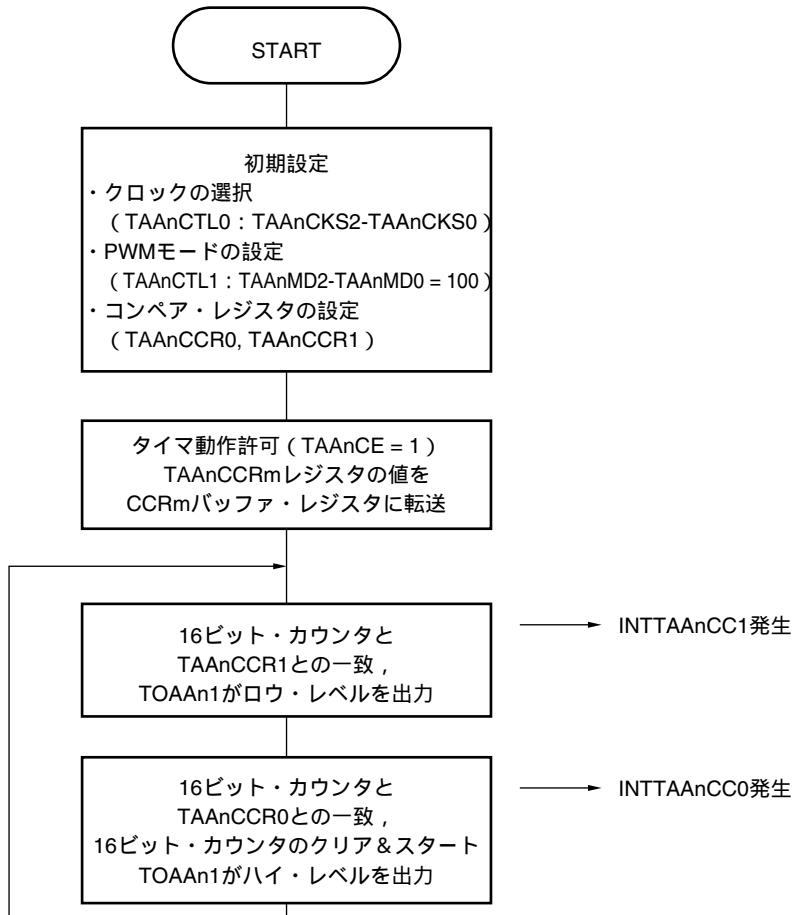
リロードを参照してください。

2. n = 0-7

(1) PWM モード動作フロー

図12-18 PWMモードの基本動作フロー・チャート(1/2)

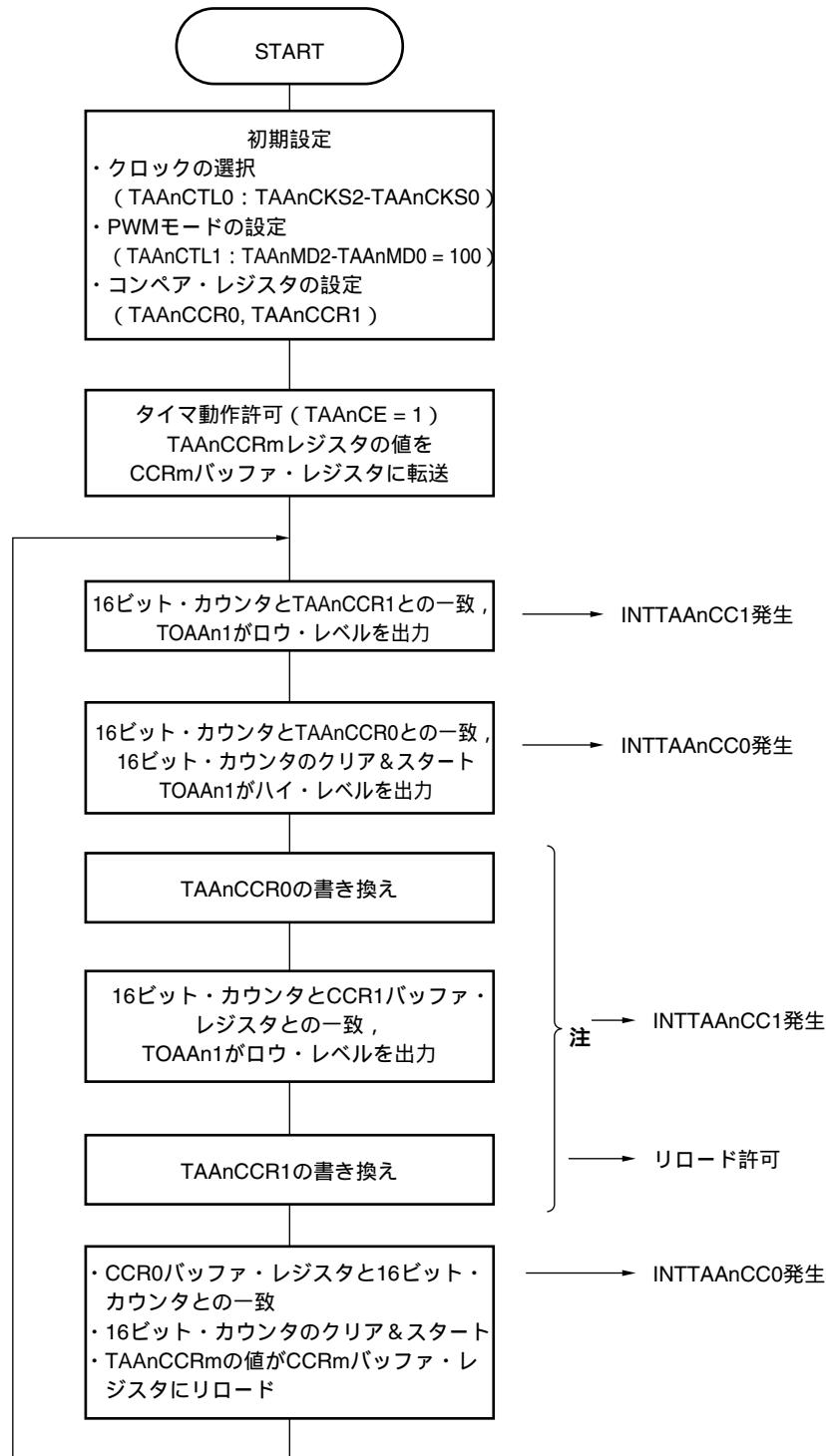
(a) タイマ動作中に TAAAnCCR0, TAAAnCCR1 レジスタの値を書き換えなかった場合



備考 n = 0-7, m = 0, 1

図12-18 PWMモードの基本動作フロー・チャート(2/2)

(b) タイマ動作中に TAAAnCCR0, TAAAnCCR1 の値を書き換えた場合



注 順番は、
の書き換えタイミング、TAAAnCCR1 の値などにより
のタイミングが異なる場合があります
が、
と
では必ず
を最後にしてください。

備考 n = 0-7, m = 0, 1

(2) PWM モード動作タイミング

(a) 動作中のパルス幅の変更

動作中に PWM 波形を変更する場合には、最後に TAAAnCCR1 レジスタにライトしてください。

TAAAnCCR1 レジスタにライト後、再度 TAAAnCCR0 レジスタの書き換えを行う場合には、INTTAAAnCC1 信号を検出後に書き換えてください。

図12-19 PWMモード時の基本動作タイミング (1/2)

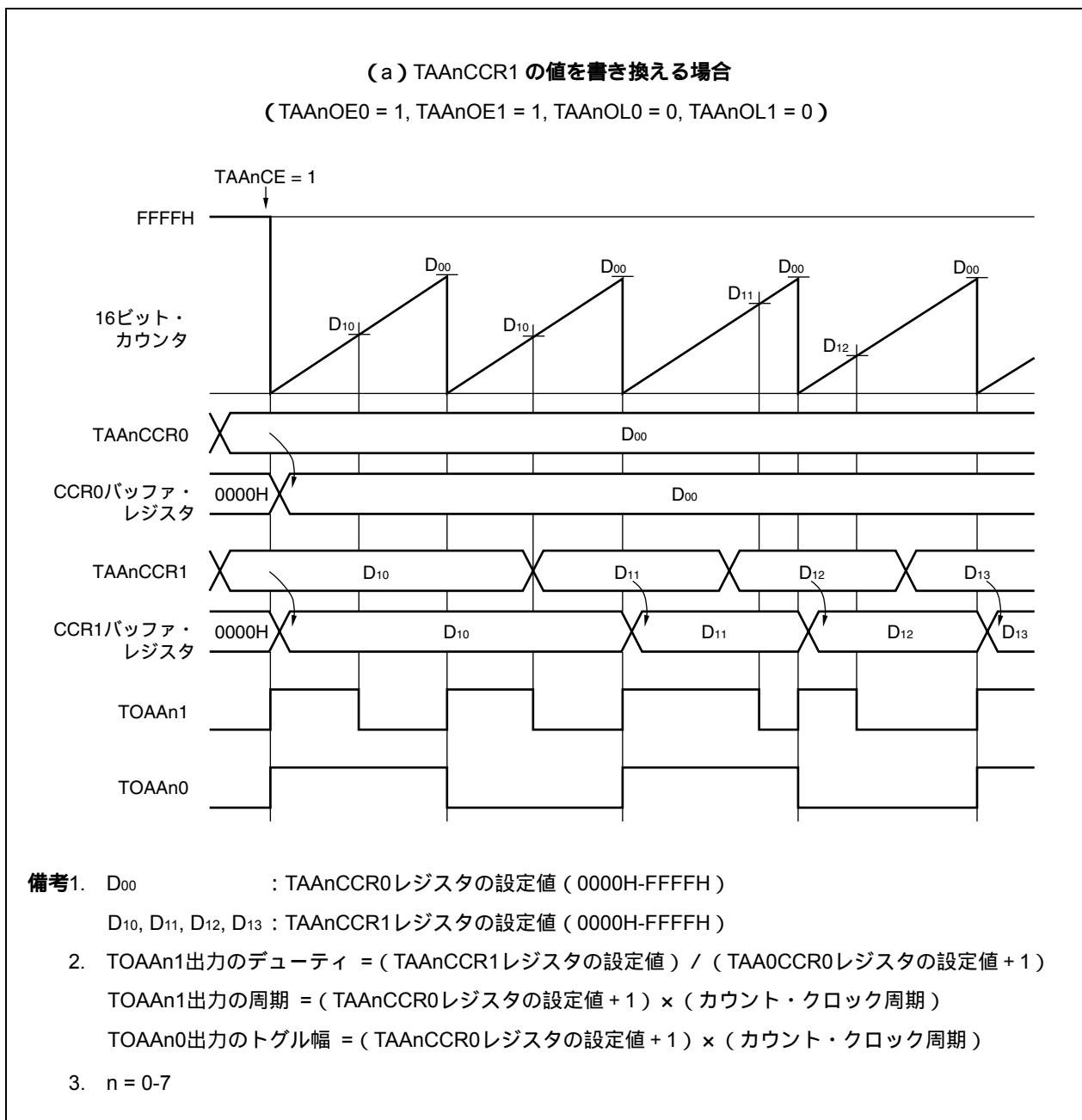
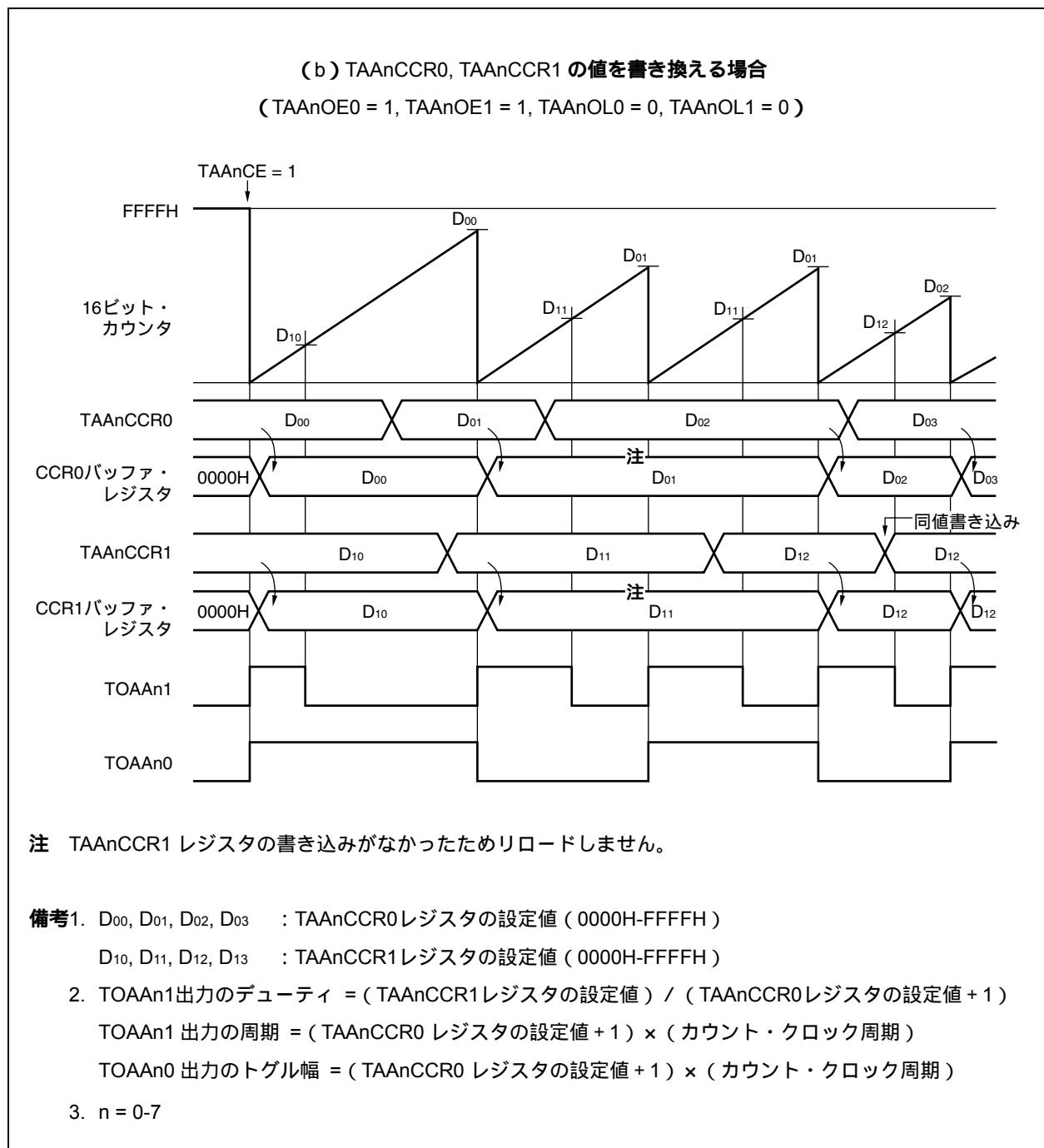


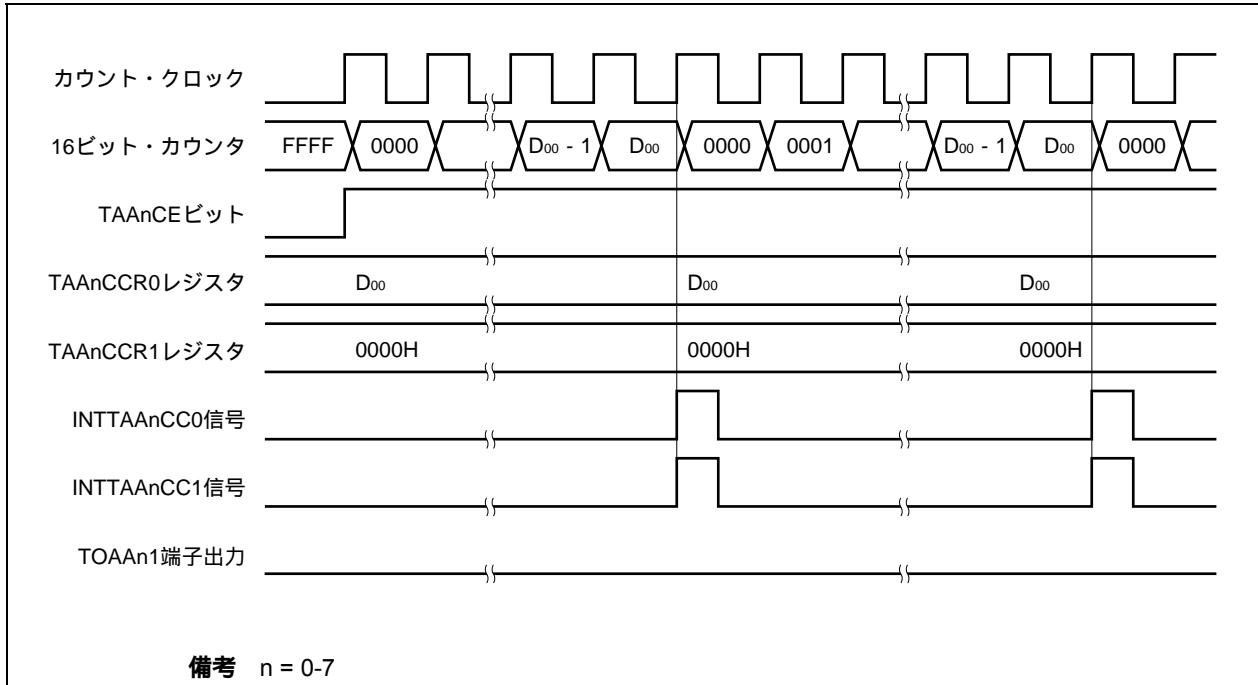
図12-19 PWMモード時の基本動作タイミング(2/2)



(b) PWM波形の0 % / 100 %出力

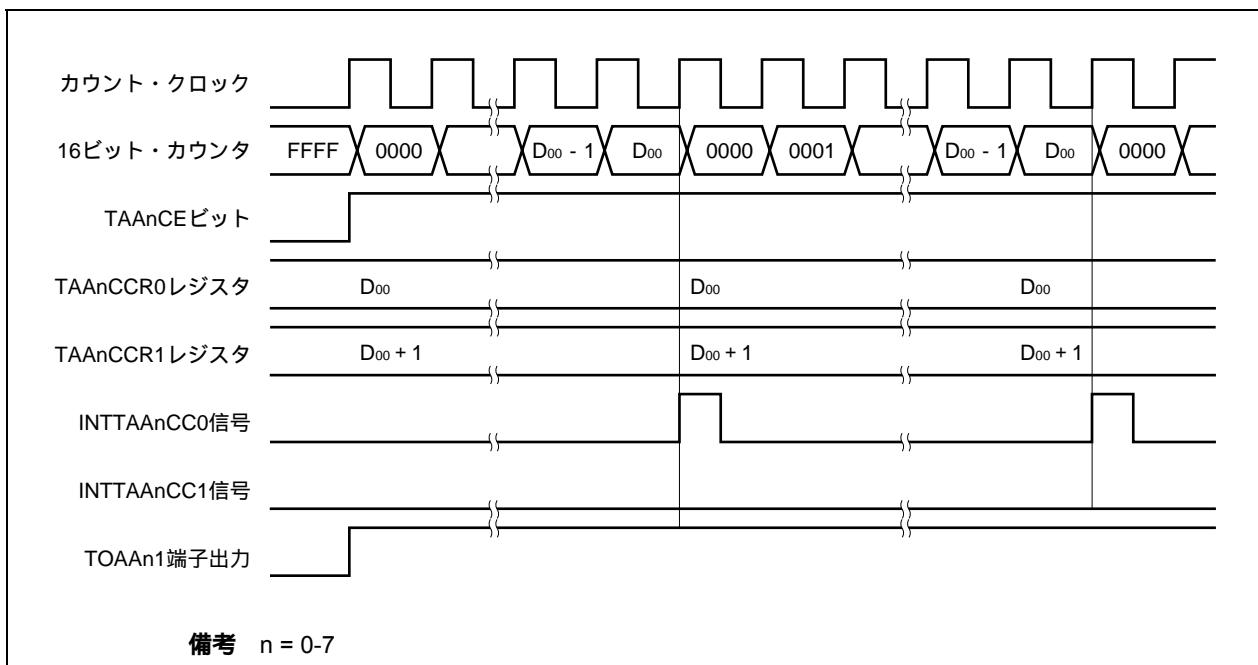
0 %波形を出力するためには、TAAnCCR1レジスタに対して0000Hを設定します。ただし、TAAnCCR0レジスタの設定値がFFFFHの場合には、INTTAAAnCC1信号が定期的に発生します。

図12-20 PWM波形の0 %出力



100 %波形を出力するためには、TAAnCCR1レジスタに対して(TAAnCCR0レジスタの設定値 + 1)の値を設定してください。TAAnCCR0レジスタの設定値がFFFFHの場合には、100 %出力はできません。

図12-21 PWM波形の100 %出力



12. 6. 7 フリー・ランニング・モード (TAAAnMD2-TAAAnMD0 = 101)

フリー・ランニング・モードは、16ビット・カウンタをフリー・ランニングさせTAAAnCCS1, TAAAnCCS0ビットの設定によりコンペア・レジスタまたはキャプチャ・レジスタの選択ができます。

フリー・ランニング・モード時のみ、TAAAnOPT0レジスタのTAAAnCCS1, TAAAnCCS0ビットの設定が有効となります。

注意 フリー・ランニング・モード時はコンペア・レジスター一致によるカウンタ・クリア動作は行いません。

TAAAnCCS1	動作
0	TAAAnCCR1レジスタをコンペアとして使用
1	TAAAnCCR1レジスタをキャプチャとして使用

TAAAnCCS0	動作
0	TAAAnCCR0レジスタをコンペアとして使用
1	TAAAnCCR0レジスタをキャプチャとして使用

- TAAAnCCR1 レジスタをコンペア・レジスタとして使用した場合

フリー・ランニング・モードで 16 ビット・カウンタと CCR1 バッファ・レジスタの一致で割り込みが発生します。

TAAAnCCR1 レジスタは TAAAnCE = 1 のときに書き換えを許可しており ,TAAAnCCR1 レジスタに値を設定すると随時書き込みにより CCR1 バッファ・レジスタに転送され ,16 ビット・カウンタ値との比較対象値となります。

タイマ出力 (TOAAn1) を許可した場合 ,TOAAn1 出力は 16 ビット・カウンタと CCR1 バッファ・レジスタの一致でトグル出力します。

- TAAAnCCR1 レジスタをキャプチャ・レジスタとして使用した場合

TIAAn1 端子のエッジ検出により 16 ビット・カウンタの値を TAAAnCCR1 レジスタに格納します。

- TAAAnCCR0 レジスタをコンペア・レジスタとして使用した場合

フリー・ランニング・モードで 16 ビット・カウンタと CCR0 バッファ・レジスタの一致で割り込みが発生します。

TAAAnCCR0 レジスタは TAAAnCE = 1 のときに書き換えを許可しており ,TAAAnCCR0 レジスタに値を設定すると随時書き込みにより CCR0 バッファ・レジスタに転送され ,16 ビット・カウンタ値との比較対象値となります。

タイマ出力 (TOAAn0) を許可した場合 ,TOAAn0 出力は 16 ビット・カウンタと CCR0 バッファ・レジスタの一致でトグル出力します。

- TAAAnCCR0 レジスタをキャプチャ・レジスタとして使用した場合

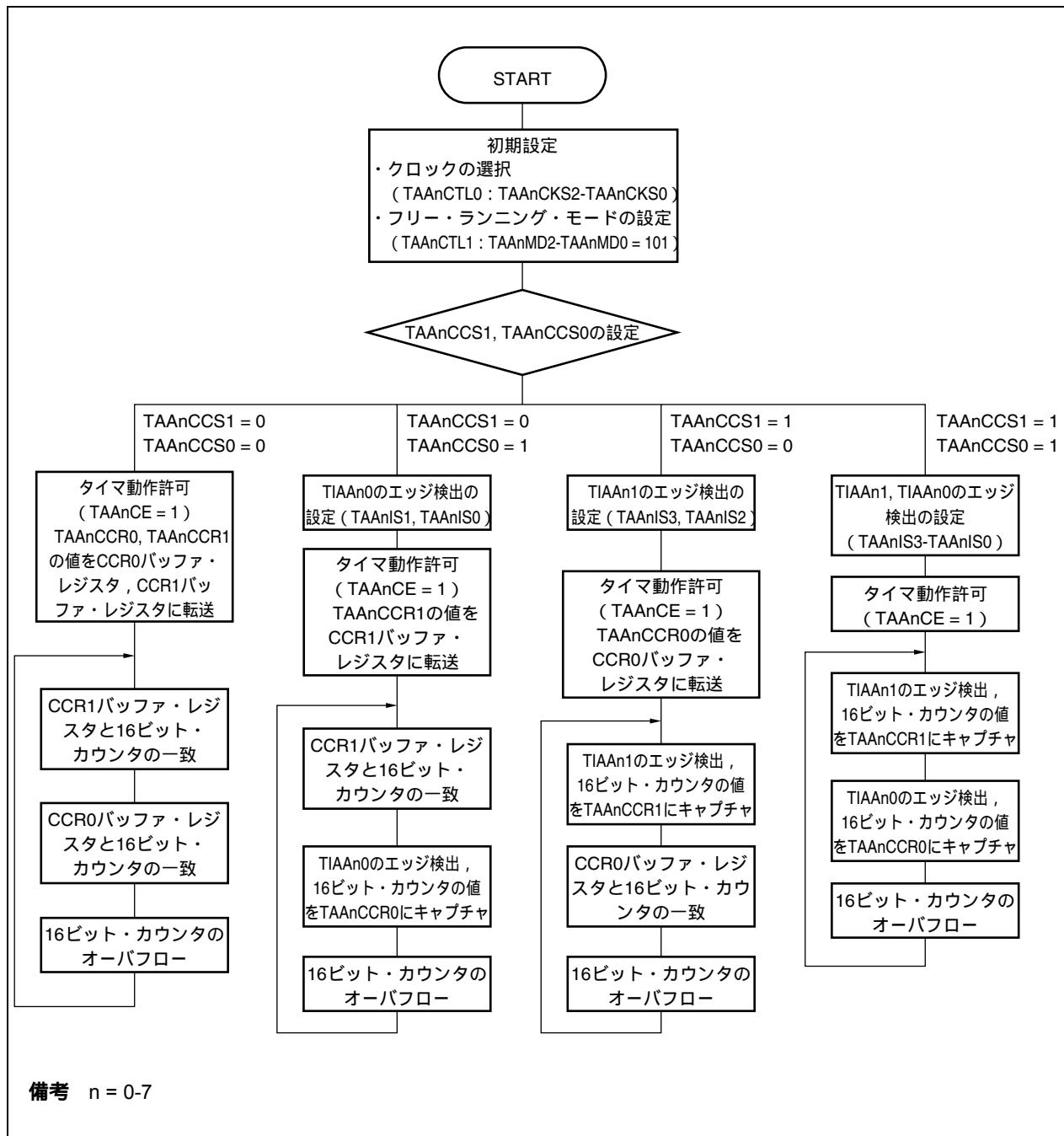
TIAAn0 端子のエッジ検出により 16 ビット・カウンタの値を TAAAnCCR0 レジスタに格納します。

注意 TAAAnCTL1レジスタのTAAAnEEEビット = 1にし , カウント・クロックを外部イベント・カウント入力としたとき , TAAAnCCR0レジスタはキャプチャ・レジスタとして使用できません。

備考1. TAAAnCCR0, TAAAnCCR1レジスタをコンペア・レジスタとして使用した場合 , タイマ動作中 (TAAAnCE = 1) の書き換え動作は , 12. 6. 1 (1) 随時書き込みを参照してください。

2. n = 0-7

図12-22 フリー・ランニング・モードの基本動作フロー・チャート

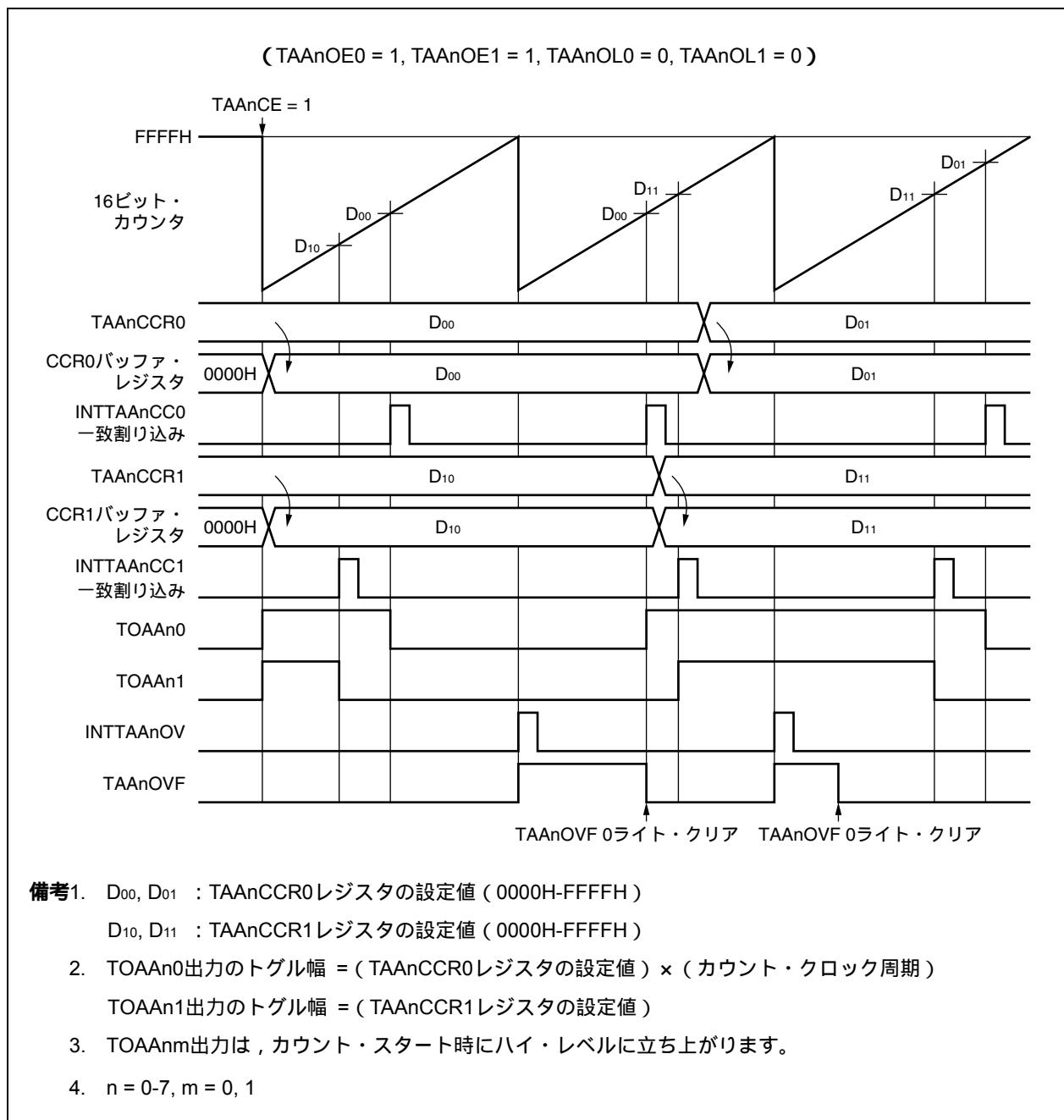


(1) TAAAnCCS1 = 0, TAAAnCCS0 = 0 に設定した場合(コンペア機能の説明)

TAAAnCE = 1 にすると、16 ビット・カウンタは 0000H から FFFFH までカウントし TAAAnCE = 0 にするまでフリー・ランニングでカウント・アップを継続します。このモードで TAAAnCCR0, TAAAnCCR1 レジスタに値を書き込むと CCR0 バッファ・レジスタ, CCR1 バッファ・レジスタに転送されます(随時書き込み)。このモードにおいて、ワンショット・パルス・トリガが入力されてもワンショット・パルスは発生しません。また TAAAnOE_m = 1 にすると 16 ビット・カウンタの値と CCR_m バッファ・レジスタの設定値の一致で TOAAn_m がトグル出力します。

備考 n = 0-7, m = 0, 1

図12-23 フリー・ランニング・モード時の基本動作タイミング (TAAAnCCS1 = 0, TAAAnCCS0 = 0)

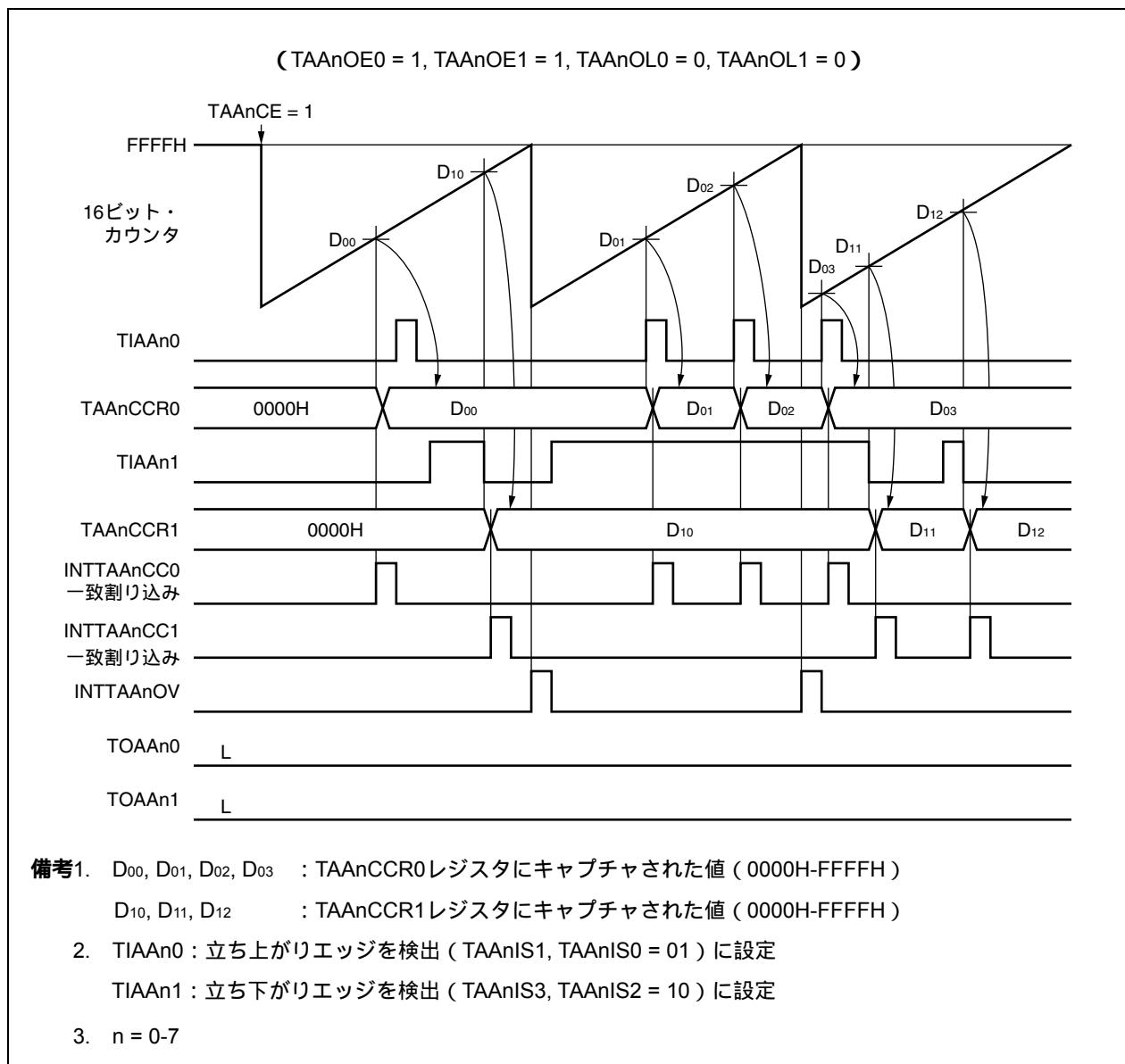


(2) TAAAnCCS1 = 1, TAAAnCCS0 = 1 に設定した場合(キャプチャ機能の説明)

TAAAnCE = 1 にすると、16 ビット・カウンタは 0000H から FFFFH までカウントし TAAAnCE = 0 にするまでフリー・ランニングでカウント・アップを継続します。その間キャプチャ・トリガによりキャプチャしキャプチャした値を TAAAnCCR0, TAAAnCCR1 レジスタに書き込みます。

オーバーフロー(FFFFH)近辺のキャプチャについてはオーバーフロー・フラグ(TAAAnOVF)で判断します。ただしオーバーフローが 2 回発生する(フリー・ランニングが 2 周期以上)のようなキャプチャ・トリガの間隔だと TAAAnOVF フラグでは判断できません。このような場合は、設定を見直す必要があります。

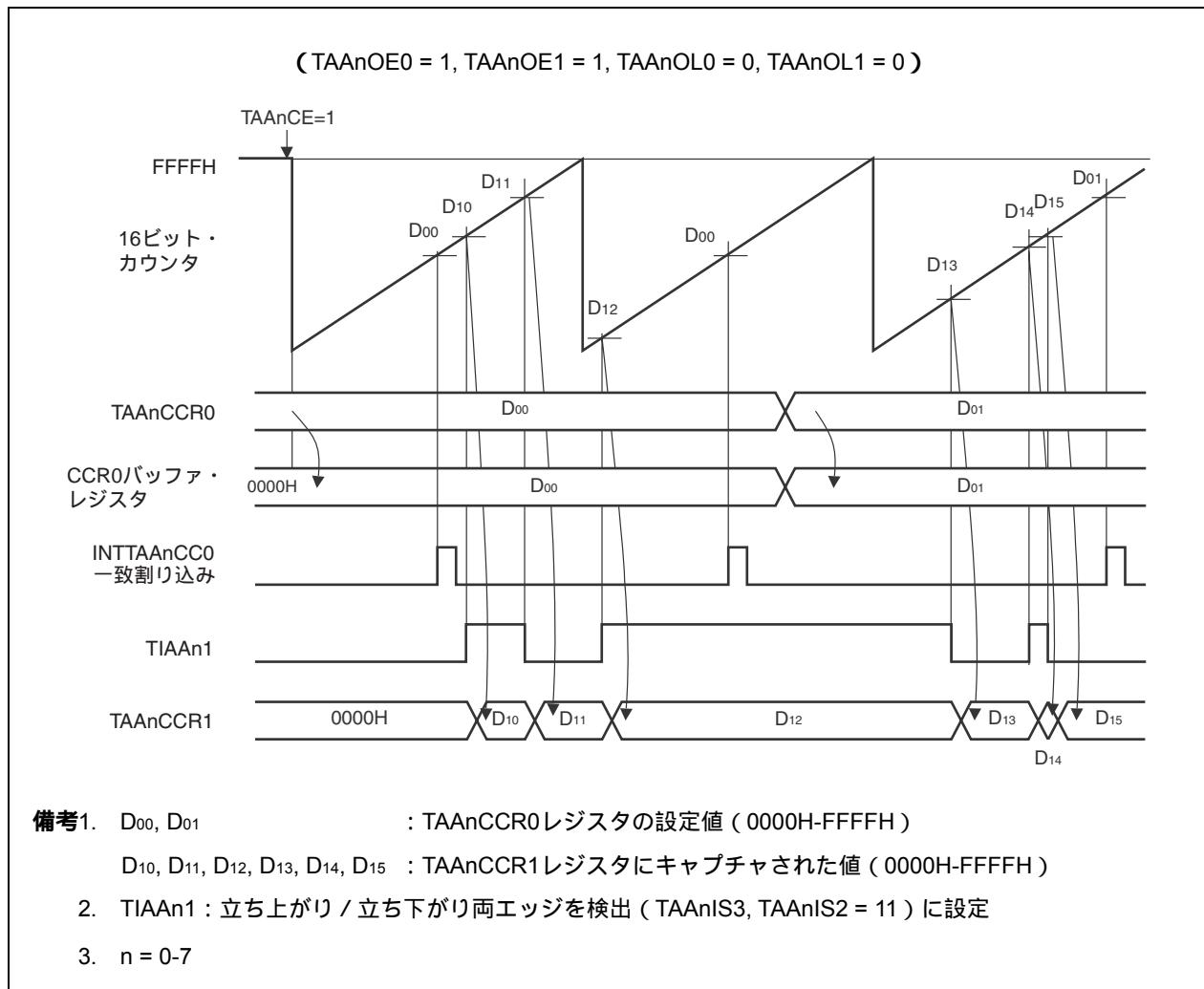
図12-24 フリー・ランニング・モード時の基本動作タイミング (TAAAnCCS1 = 1, TAAAnCCS0 = 1)



(3) TAAAnCCS1 = 1, TAAAnCCS0 = 0 に設定した場合

TAAAnCE = 1 にすると、16 ビット・カウンタは 0000H から FFFFH までカウントし TAAAnCE = 0 にするまでフリー・ランニングでカウント・アップを継続します。TAAAnCCR1 レジスタをコンペア・レジスタとして使用します。インターバル機能として 16 ビット・カウンタの値と、CCR0 バッファ・レジスタに転送された TAAAnCCR1 レジスタの設定値との一致で割り込み信号を出力します。出力機能を使用するため TAAAnOE1 = 1 に設定しても、TAAAnCR1 レジスタをキャプチャ・レジスタとして使用するため TOAAn1 は出力できません。

図12-25 フリー・ランニング・モード時の基本動作タイミング (TAAAnCCS1 = 1, TAAAnCCS0 = 0)

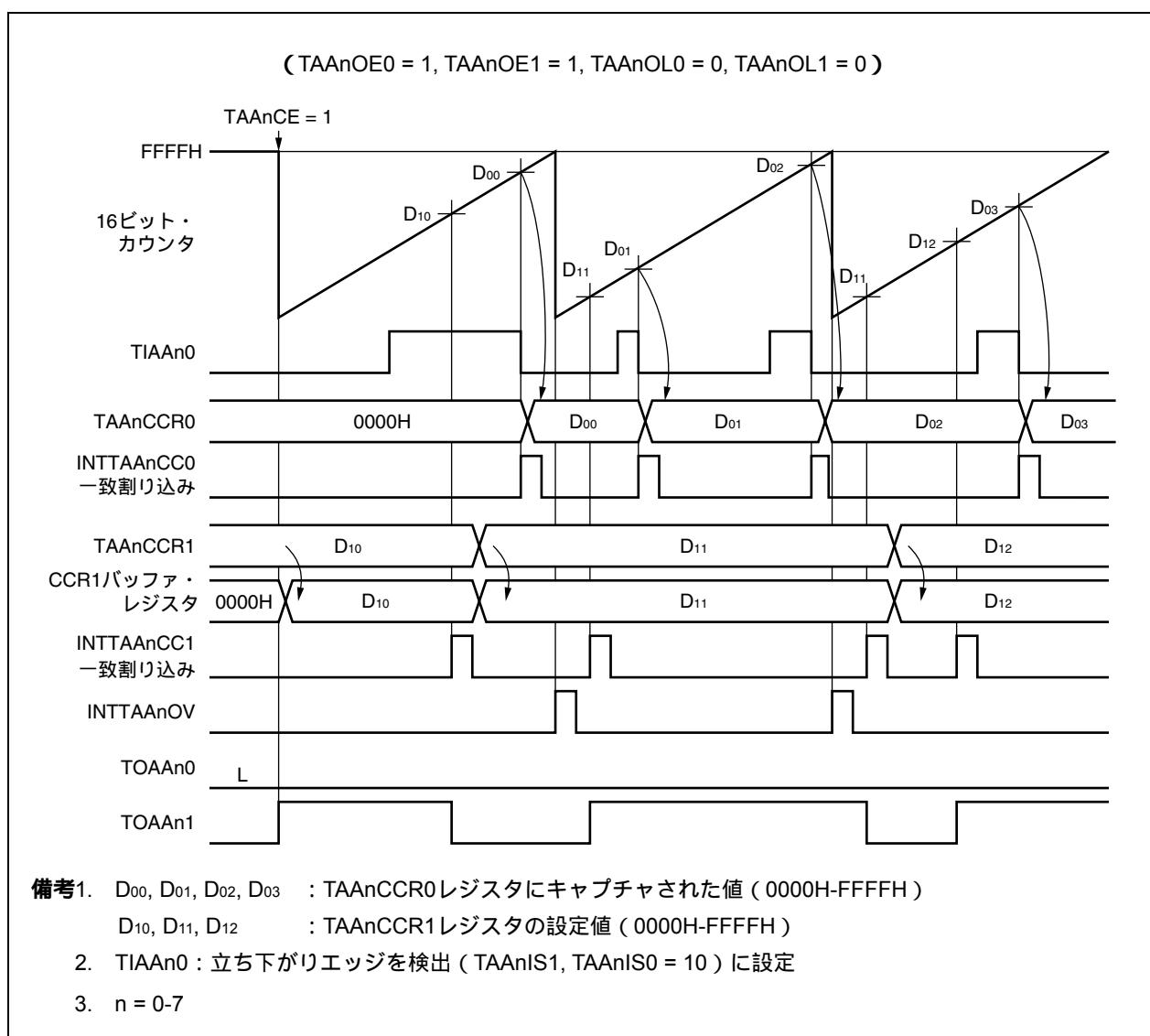


(4) TAAAnCCS1 = 0, TAAAnCCS0 = 1 に設定した場合

TAAAnCE = 1 にすると、16 ビット・カウンタは 0000H から FFFFH までカウントし TAAAnCE = 0 にするまでフリー・ランニングでカウント・アップを継続します。TAAAnCCR1 レジスタをコンペア・レジスタとして使用します。インターバル機能として 16 ビット・カウンタの値と TAAAnCCR1 レジスタの設定値との一致で割り込み信号を出力します。TAAAnOE1 = 1 に設定すると 16 ビット・カウンタの値と TAAAnCCR1 レジスタの設定値の一致で TOAAAn1 はトグル出力します。

出力機能を使用するために TAAAnOE0 = 1 に設定しても、TAAAnCCR0 レジスタをキャプチャ・レジスタとして使用するため、TOAAAn0 は出力できません。

図12-26 フリー・ランニング・モード時の基本動作タイミング (TAAAnCCS1 = 0, TAAAnCCS0 = 1)



(5) オーバフロー・フラグについて

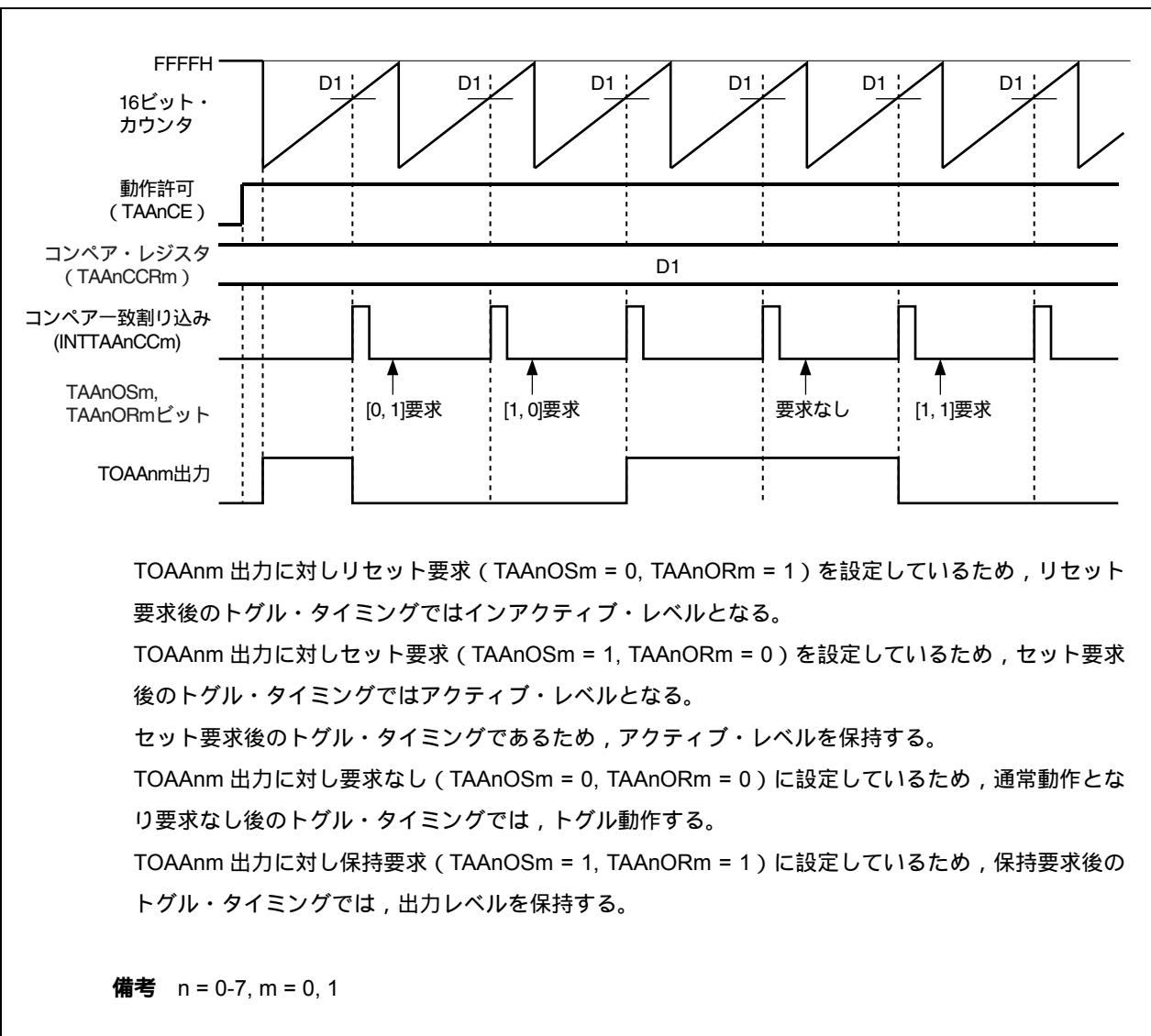
フリー・ランニング・モードにおいてカウンタが FFFFH から 0000H にオーバフローするとオーバフロー・フラグ (TAAAnOVF) が “1” にセットされ、オーバフロー割り込み (INTTAAAnOV) が発生します。

オーバフロー割り込み (INTTAAAnOV) 発生後は必ずオーバフロー・フラグ (TAAAnOVF) に “1” がセットされているのを確認してください。

オーバフロー・フラグについては、“0” を書き込むことによりクリアされます。

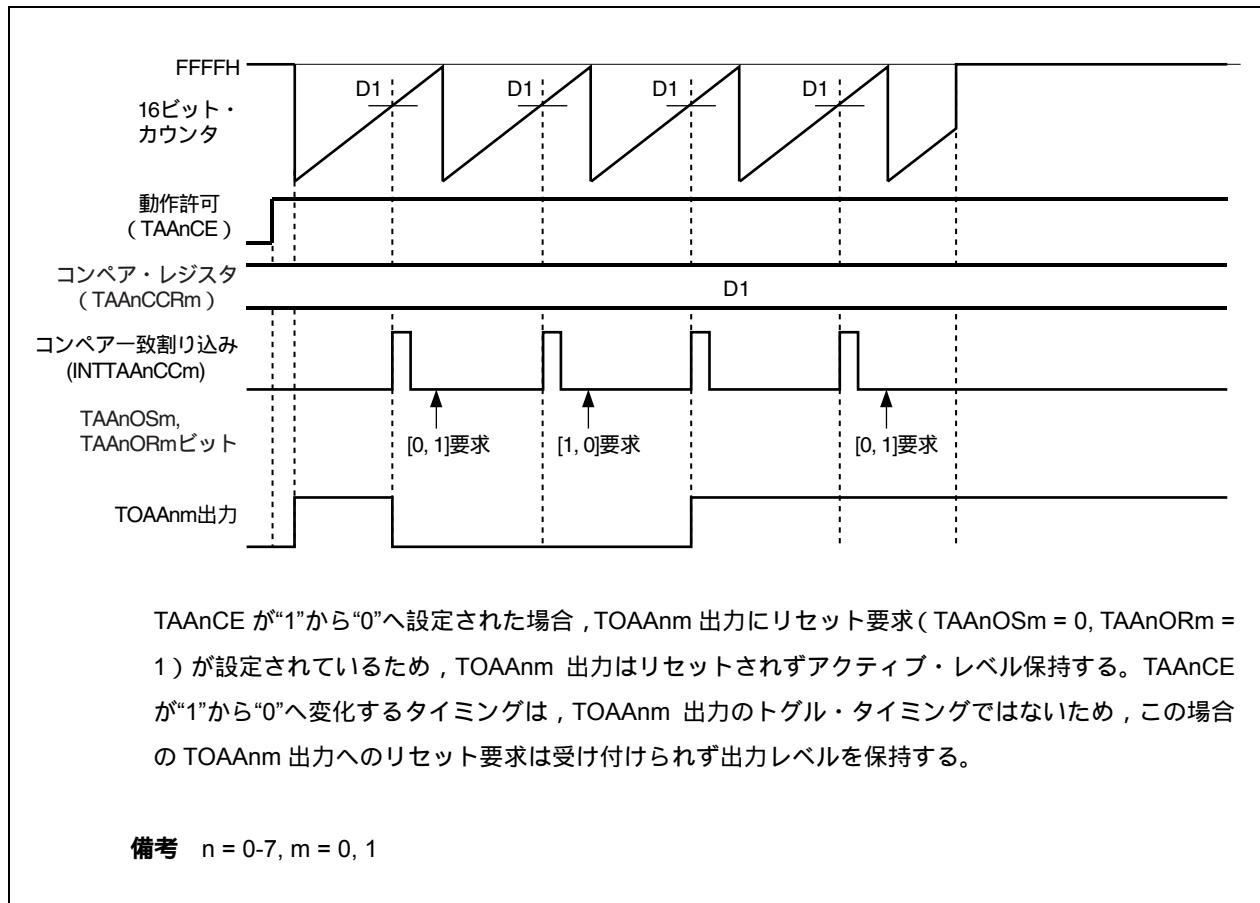
(6) 特殊 TOAAnm 出力動作 (強制インアクティブ(リセット) / 強制アクティブ(セット) / 保持)

TAAnIOC4.TAAnOS, TAAnIOC4.TAAnOR ビットの設定により、TOAAnm 出力レベルを次回トグル発生タイミングで固定することができます。アクティブ・レベルは、TAAnIOC0.TAAnOLm ビットで設定したレベルとなります。



(7) 特殊 TOAAn0, TOAAn1 出力動作(動作停止)

フリー・ランニング・モードで TAAAnCCRm がコンペア機能として動作しているとき, TAAAnCTL.TAAAnCE ビットが“1”から“0”へ設定されると, TAAAnIOC4.TAAAnOS, TAAAnIOC4.TAAAnOR ビットの設定値どちらかが“1”, または両方“1”的場合, TOAAnm 出力はリセットされず出力レベルを保持します。



12.6.8 パルス幅測定モード (TAAnMD2-TAAnMD0 = 110)

パルス幅測定モードではフリー・ランニング・カウントを行い,TIAAn0端子の立ち上がり / 立ち下がり両エッジ検出により16ビット・カウンタの値をキャプチャ・レジスタ0 (TAAnCCR0) に格納し, 16ビット・カウンタを0000Hにクリアします。これにより外部入力パルス幅を測定できます。

ただし, 16ビット・カウンタのオーバフローを越えるような長いパルス幅を測定する場合は, オーバフロー・フラグで判断してください。オーバフローが2回以上生じるパルスの測定はオーバフロー割り込みを使用するなどして回数をカウントしてください。またTIAAn1端子のエッジ検出でもキャプチャ・レジスタ1 (TAAnCCR1) に16ビット・カウンタの値を格納し16ビット・カウンタをクリアします。

選択したキャプチャ入力ソースと指定したエッジ検出に応じて, 次の3つの測定方法を利用できます。

1. パルス周期測定
2. パルス幅とパルス間隔の交互測定
3. パルス幅とパルス間隔の同時測定

パルス幅とパルス間隔を同時に測定するため, 両方のキャプチャ入力が必要となります。

測定方法については, 以降の項目で説明します。

注意 パルス幅測定モード時のカウント・クロックは内部クロック(TAAnCTL1 レジスタの TAAnEEE = 0)を選択してください。

(1) パルス周期測定

TIAAn0 と TIAAn1 入力の一方のエッジ検出が “立ち上がりエッジ” または “立ち下がりエッジ” のいずれかに設定されているとき、パルス幅測定モードで信号のパルス周期を測定することができます。もう一方の入力のエッジ検出は “エッジ検出なし” に設定してください。

指定エッジの検出により、結果の値が対応するキャプチャ・レジスタ (TAAAnCCR0 または TAAAnCCR1) にキャプチャされ、タイマはクリアされカウントを再開します。

図12-27 パルス周期測定のフロー・チャート

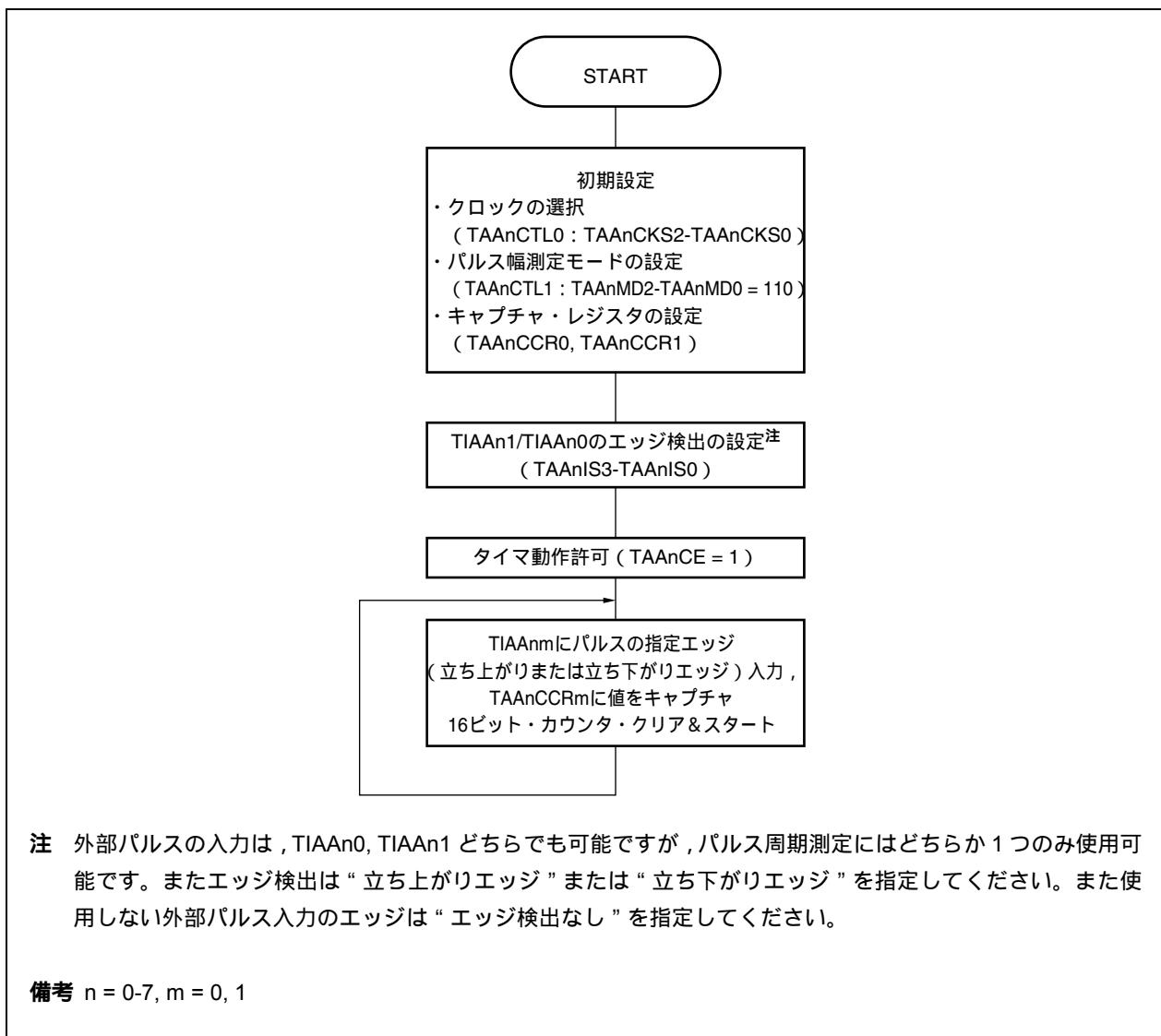
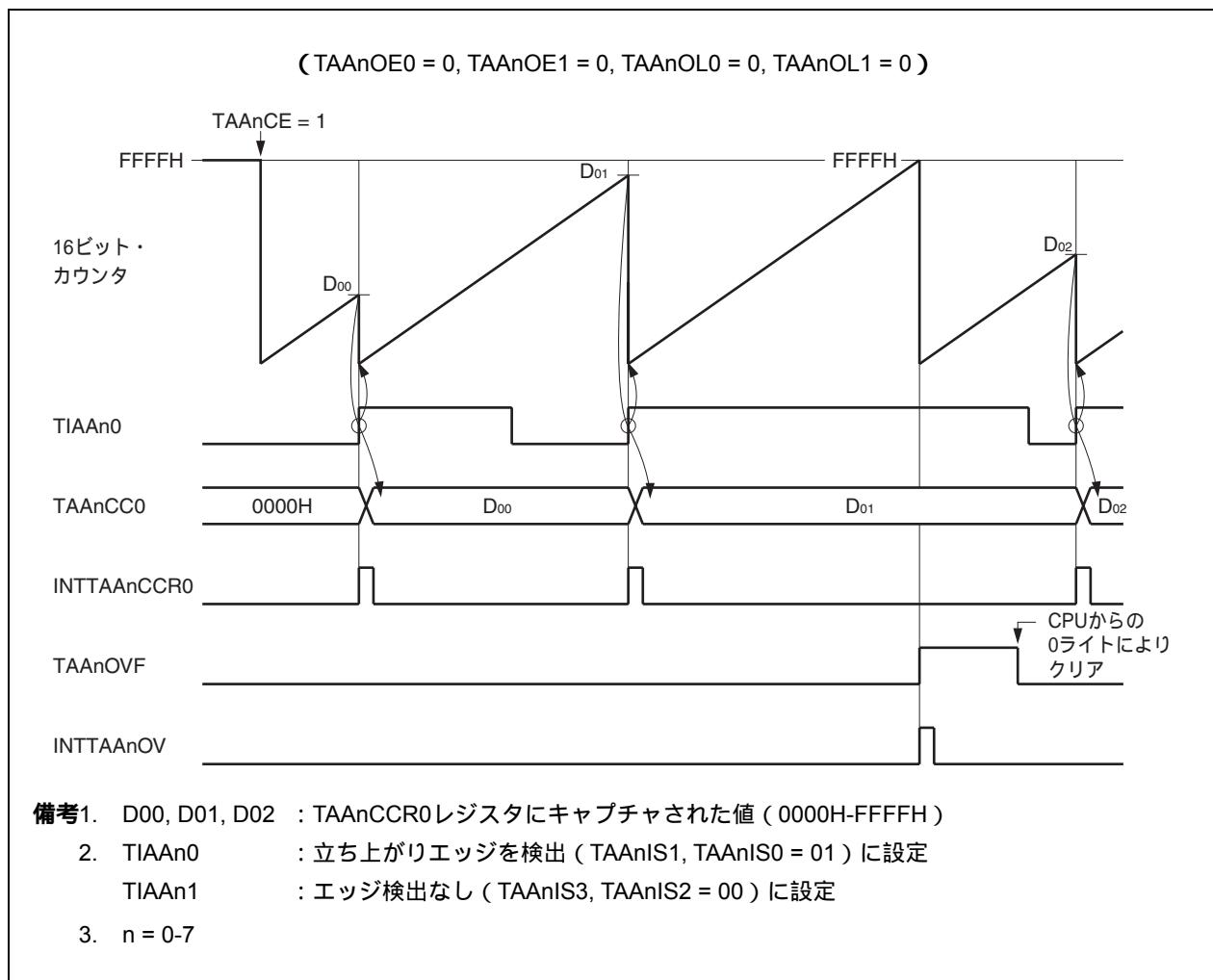


図12-28 パルス周期測定の基本動作タイミング



(2) パルス幅とパルス間隔の交互測定

TIAAn0 と TIAAn1 入力の一方のエッジ検出が “立ち上がり / 立ち下がり両エッジ” に設定されているとき、パルス幅測定モードで、1つのキャプチャ・レジスタでパルス幅とパルス間隔を交互に測定することができます。もう一方の入力の検出は “エッジ検出なし” に設定してください。

立ち上がりまたは立ち下がりエッジの検出により、結果の値が対応するキャプチャ・レジスタ (TAAAnCCR0 または TAAAnCCR1) にキャプチャされ、タイマはクリアされカウントを再開します。

図12-29 パルス幅とパルス間隔の交互測定のフロー・チャート

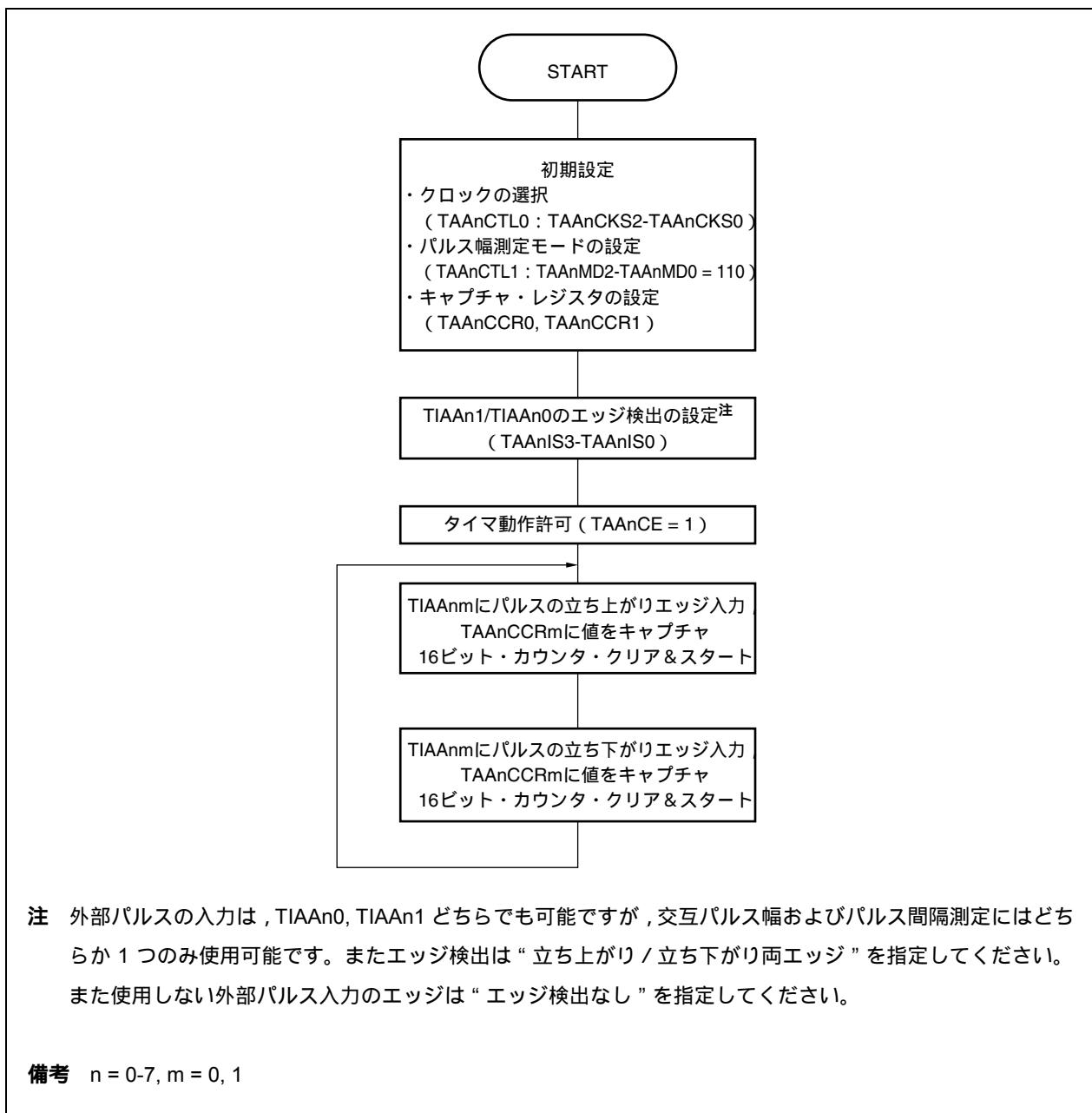
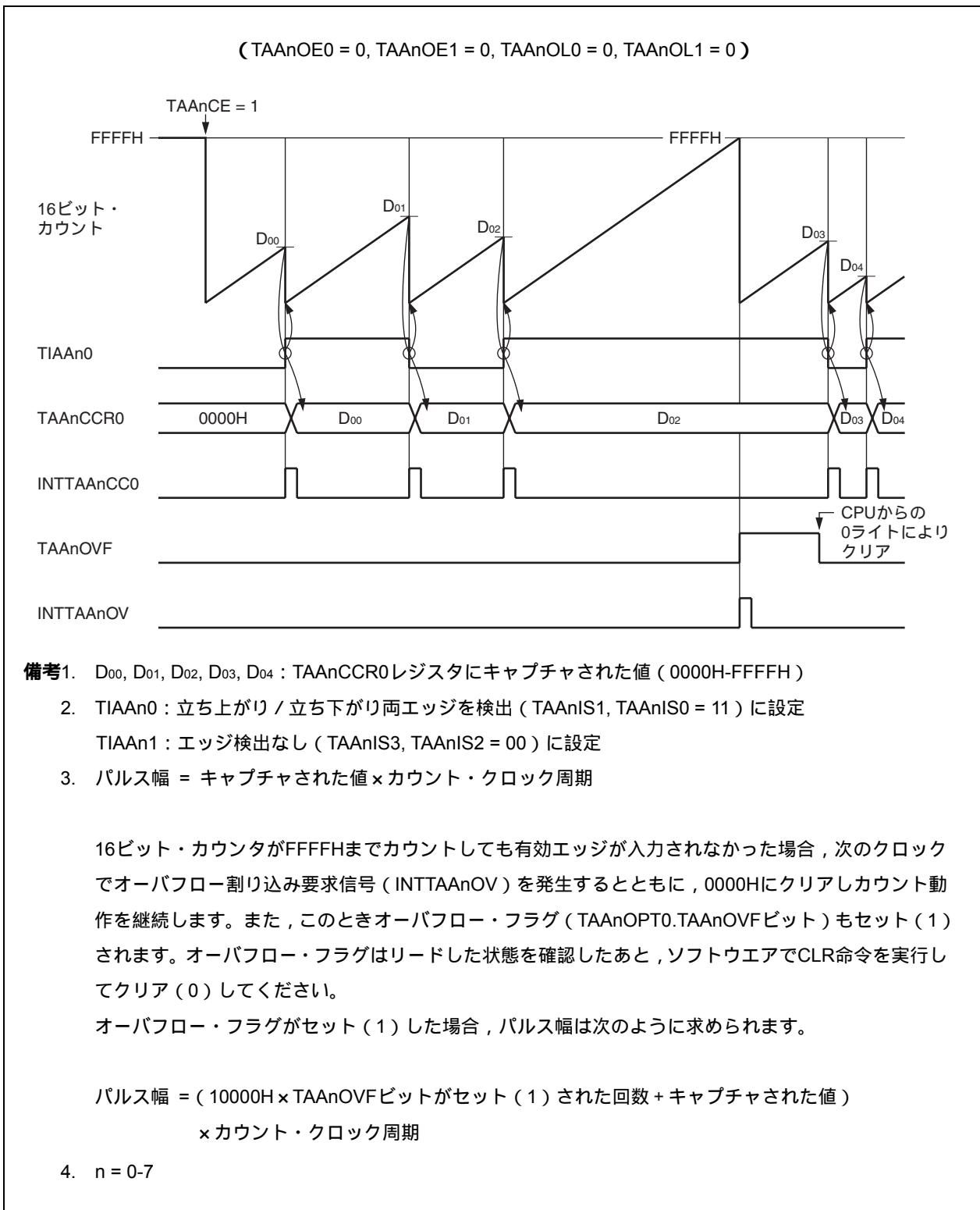


図12-30 パルス幅とパルス間隔の交互測定の基本動作タイミング



(3) パルス幅とパルス間隔の同時測定

TIAAn0 と TIAAn1 入力の両方に信号が入力され、かつ両方のエッジ検出がお互いに反対のエッジを検出するとき、パルス幅測定モードでパルス幅とパルス間隔を同時に測定することができます。

指定エッジの検出により、パルス幅またはパルス間隔の結果の値が対応するキャプチャ・レジスタ (TAAAnCCR0 または TAAAnCCR1) にキャプチャされ、タイマはクリアされカウントを再開します。

図12-31 パルス幅とパルス間隔の同時測定の基本動作フロー・チャート

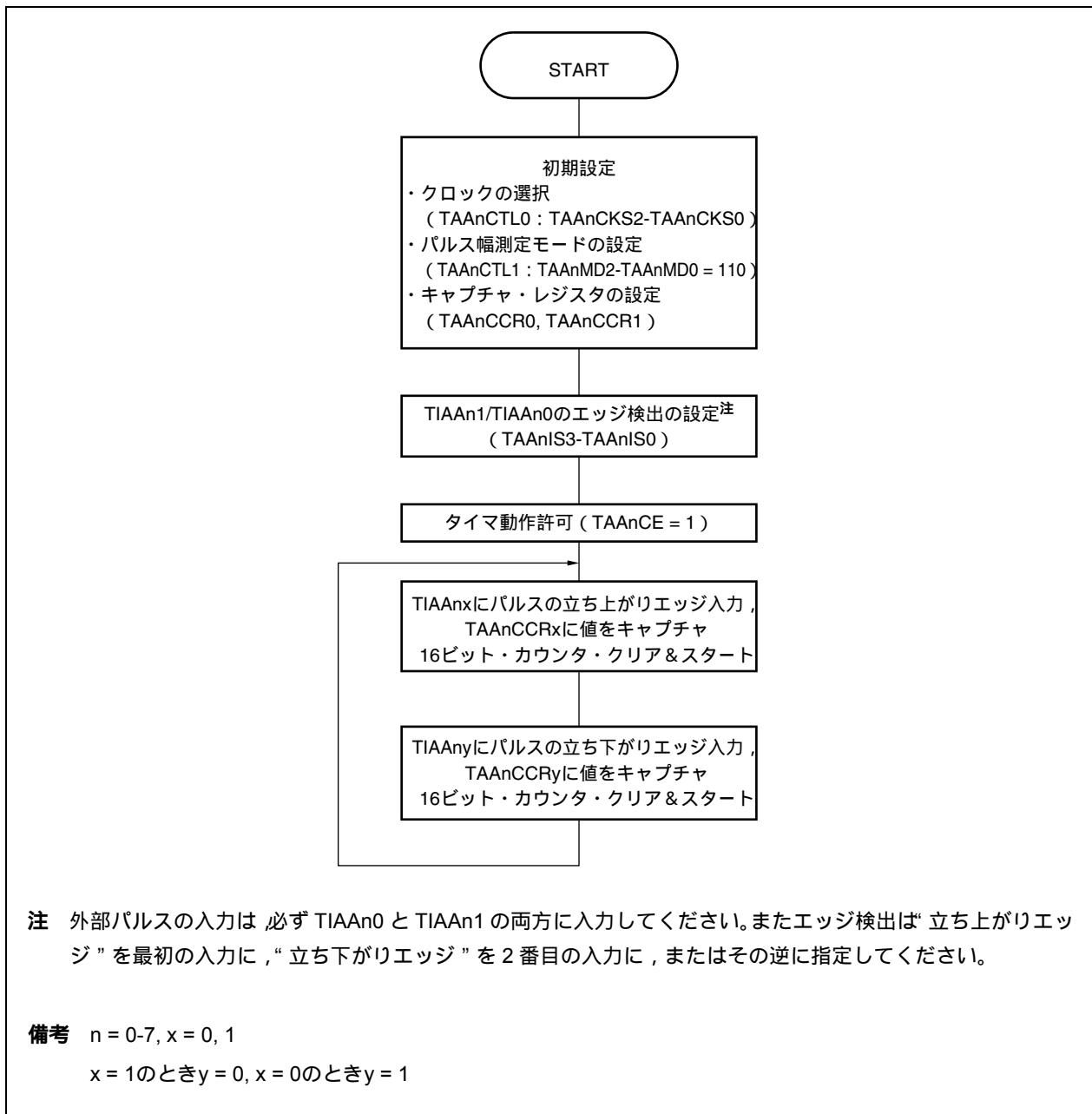
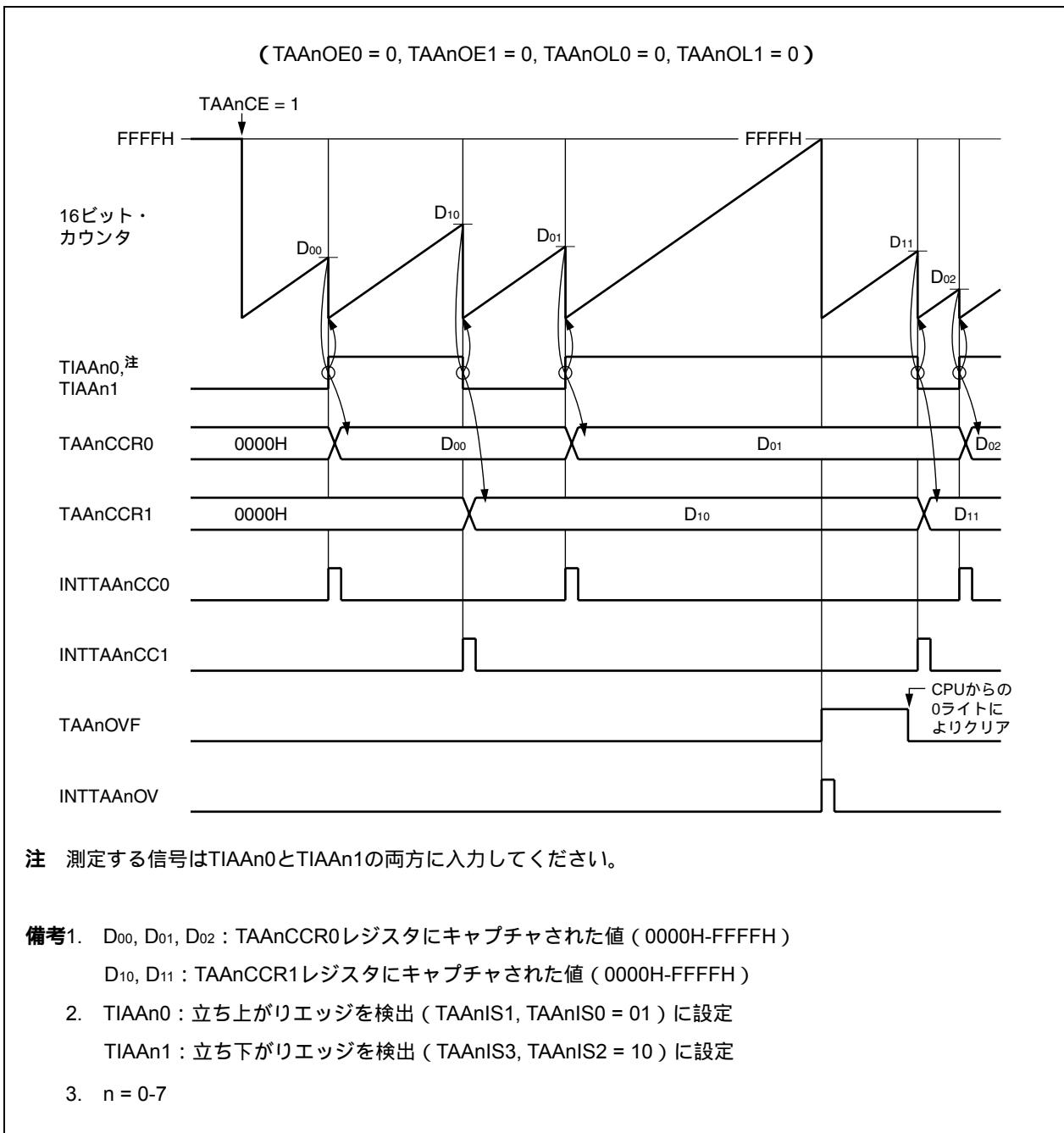


図12-32 パルス幅とパルス間隔の同時測定の基本動作タイミング



注 測定する信号はTIAAn0とTIAAn1の両方に入力してください。

- 備考1.**
1. D₀₀, D₀₁, D₀₂ : TAAAnCCR0レジスタにキャプチャされた値 (0000H-FFFFH)
D₁₀, D₁₁ : TAAAnCCR1レジスタにキャプチャされた値 (0000H-FFFFH)
 2. TIAAn0 : 立ち上がりエッジを検出 (TAAAnIS1, TAAAnIS0 = 01) に設定
TIAAn1 : 立ち下がりエッジを検出 (TAAAnIS3, TAAAnIS2 = 10) に設定
 3. n = 0-7

12.6.9 カスケード機能

2つのタイマAA (TAA0とTAA1, TAA2とTAA3またはTAA5とTAA6の組み合わせ)接続により, 32ビット・キャプチャ・タイマとして動作し, カスケード機能を使用できます。

カスケード機能は, 必ずフリー・ランニング・モードに設定し, かつすべてのキャプチャ・コンペア・レジスタをキャプチャ機能 (TAA_nCCSmビット = 1) に設定する必要があります。

下位TAAの制御ビットおよび端子名称をTAA_{xxx_L}, 上位TAAの制御ビットおよび端子名称をTAA_{xxx_H}と表現します。

また, カスケード動作時のマスタを下位, スレーブを上位と表現します。

カスケード機能では, 低い数のタイマ (TAA0, TAA2またはTAA5) が動作を制御します (マスタ・タイマとなります)。

(1) カスケード機能の動作概要

下位TAA_nCEビットを1に設定し, クロックが供給されるとカウント動作を開始します。

下位カウンタのFFFFH検出により, 上位カウンタがカウント・アップします。

図12-33 32ビット・キャプチャ・モードでのTAA_nとTAA_mのブロック図

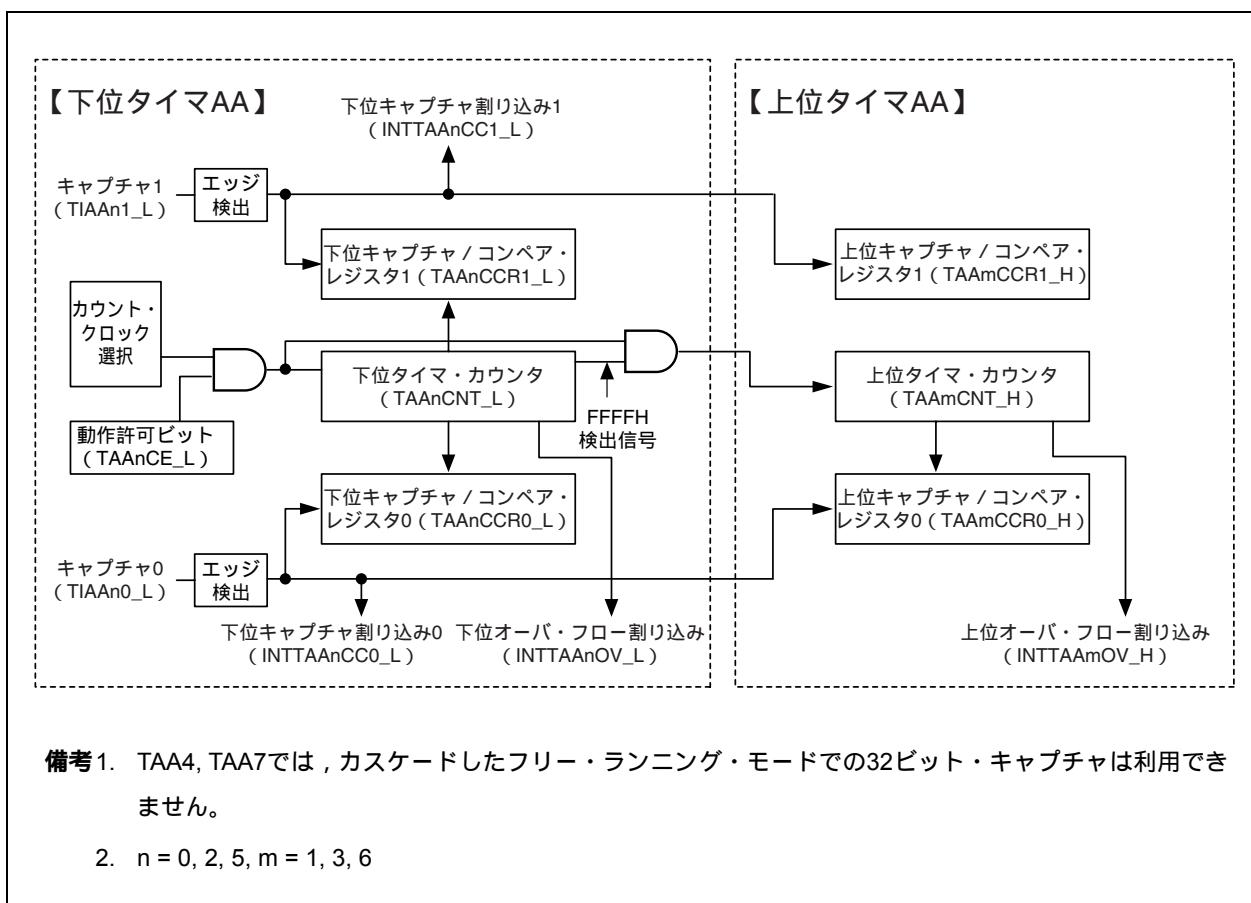
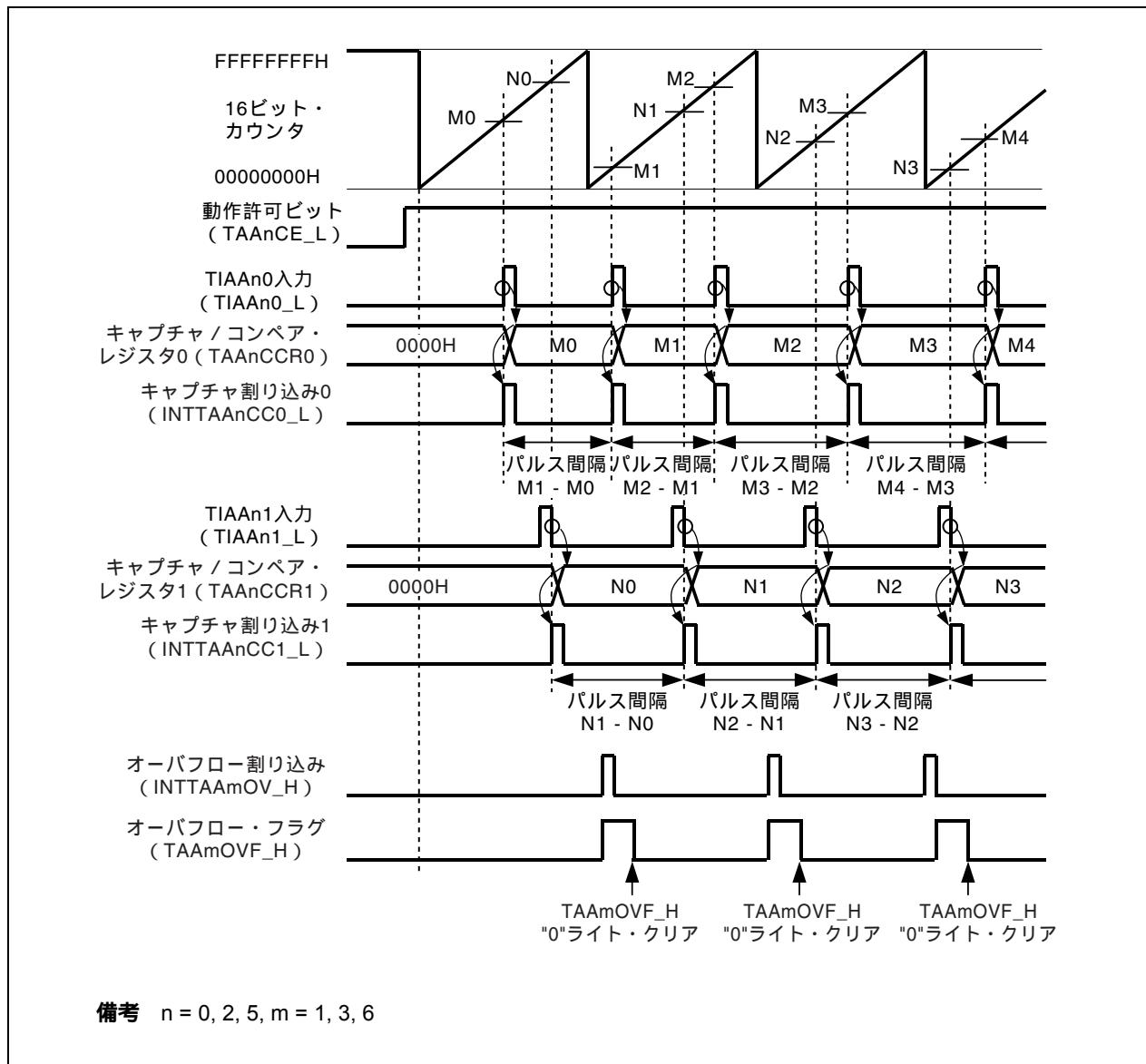


図12-34 基本タイミング



(2) 動作説明

TAAnCE_L ビットを“1”に設定し、クロックを供給するとカウント動作を開始します。

その後、TIAAn0_L 入力の有効エッジを検出する事によりカウント値をキャプチャ・レジスタ 0 (TAAmCCR0_H, TAAnCCR0_L) に格納し、キャプチャ割り込み 0 (INTTAAAnCCR0_L) が発生します。

カウンタはカウント・クロックに同期してカウント動作を続け、FFFFFFFFFFH までカウント後、次のクロックでオーバフロー割り込み (INTTAAmOV_H) を発生します。それにより、オーバフロー・フラグ (INTTAAmOV_H) が 1 にセットされ、カウンタを 00000000H にクリアしカウント・アップを継続します。

オーバフロー・フラグは、CPU からの“0”書き込みでクリアされます。

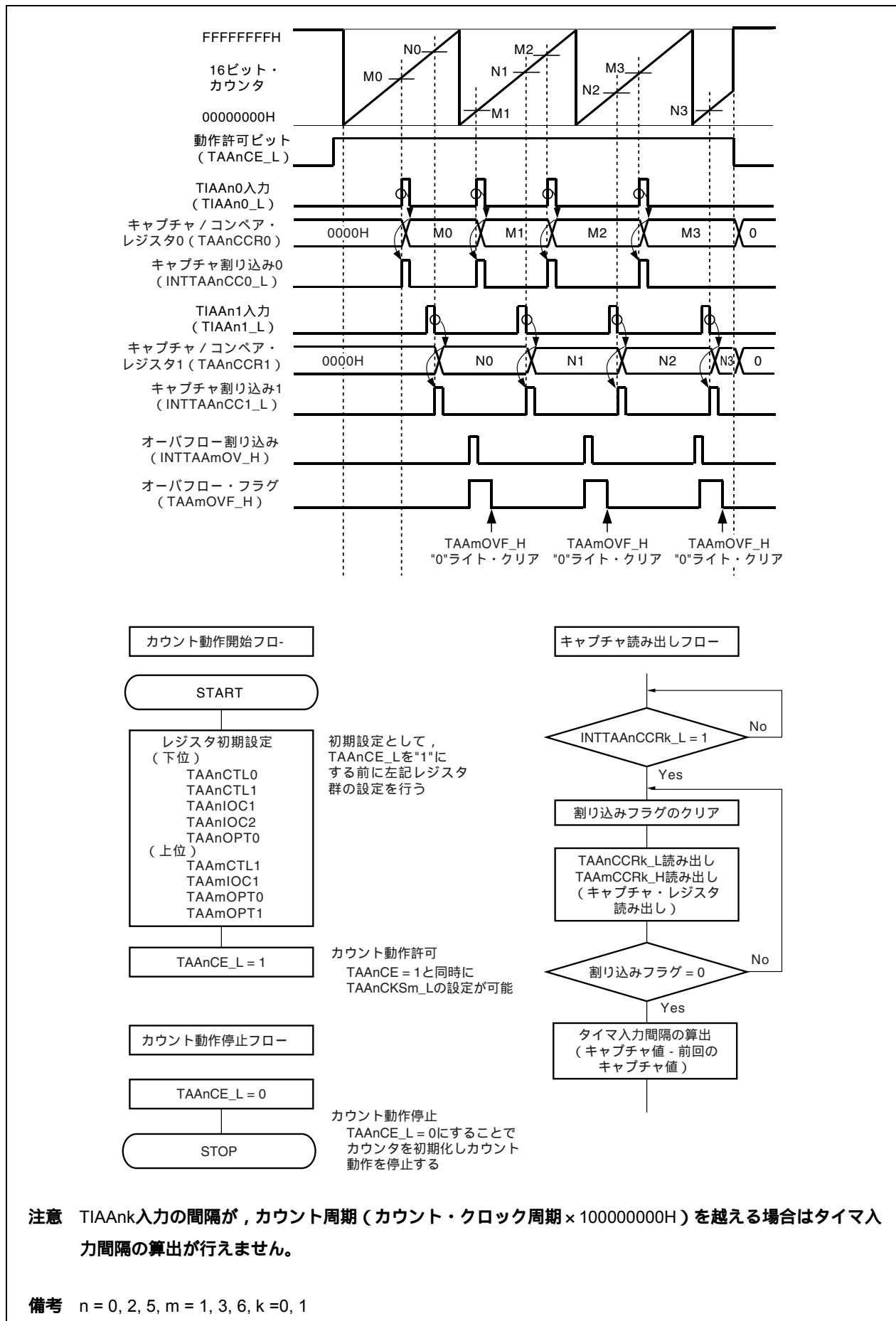
カスケード動作では、TIAAn0 入力の有効エッジ検出によりカウンタをクリアしません。

キャプチャ/コンペア・レジスタ 1 も、同様に動作します。

下位カウンタがオーバフローした場合、オーバフロー割り込み (INTTAAAnOV_L) が発生しますが、32 ビット・カウンタとしてのオーバフローではないため、割り込みをマスクしてください。

備考 n = 0, 2, 5, m = 1, 3, 6

図12-35 カスケード機能の動作フロー



注意 TIAAnk入力の間隔が、カウント周期（カウント・クロック周期 × 100000000H）を越える場合はタイマ入力間隔の算出が行えません。

備考 n = 0, 2, 5, m = 1, 3, 6, k = 0, 1

(3) 16ビット・レジスタ・リード・アクセス時の注意事項

タイマ AA のタイマ・カウント・レジスタ (TAAncnt_L/TAAmCnt_H), キャプチャ・レジスタ (TAAncr0_L/TAAmCr0_H, TAAncr1_L/TAAmCr0_H)に対するリード・アクセスは, 16ビット・アクセスとなっている。そのため, 次の点に注意してください。

・TAAncnt レジスタ (カウンタ) をリードする場合

TAAncnt_L TAAmCnt_H とアクセスする必要があるため, アクセス期間中にカウント・クロックが発生するとリード値と実カウント値が変わってしまいます。

そのため, リードする場合は TAAncovf_L をクリアし, TAAncnt_L, TAAmCnt_H の順に読み出したあと, TAAncovf_L を確認してください。TAAncovf_L = 0 の場合, リード値は実カウント値となります。ただし, アクセス期間中にカウント・クロックが発生した場合は, TAAncnt_L のカウント値は, 保証できません。TAAncovf_L = 1 の場合, TAAmCnt_H のカウント値が変化している可能性があるため, リード値が保証できません。再度 TAAncovf_L をクリアし, 読み出しを行ってください。

・TAAncr0, TAAncr1 レジスタ (キャプチャ) をリードする場合

TAAncr_L TAAmCr_L とアクセスする必要があるため, アクセス期間中にキャプチャ・トリガが入力されるとキャプチャ値が変わってしまいます。

TAAncr_L, TAAmCr_L のリード期間中, キャプチャ・トリガ入力を禁止してください。

備考 n = 0, 2, 5, m = 1, 3, 6, k = 0, 1

図12-36 カスケード機能の動作タイミング (1/2)

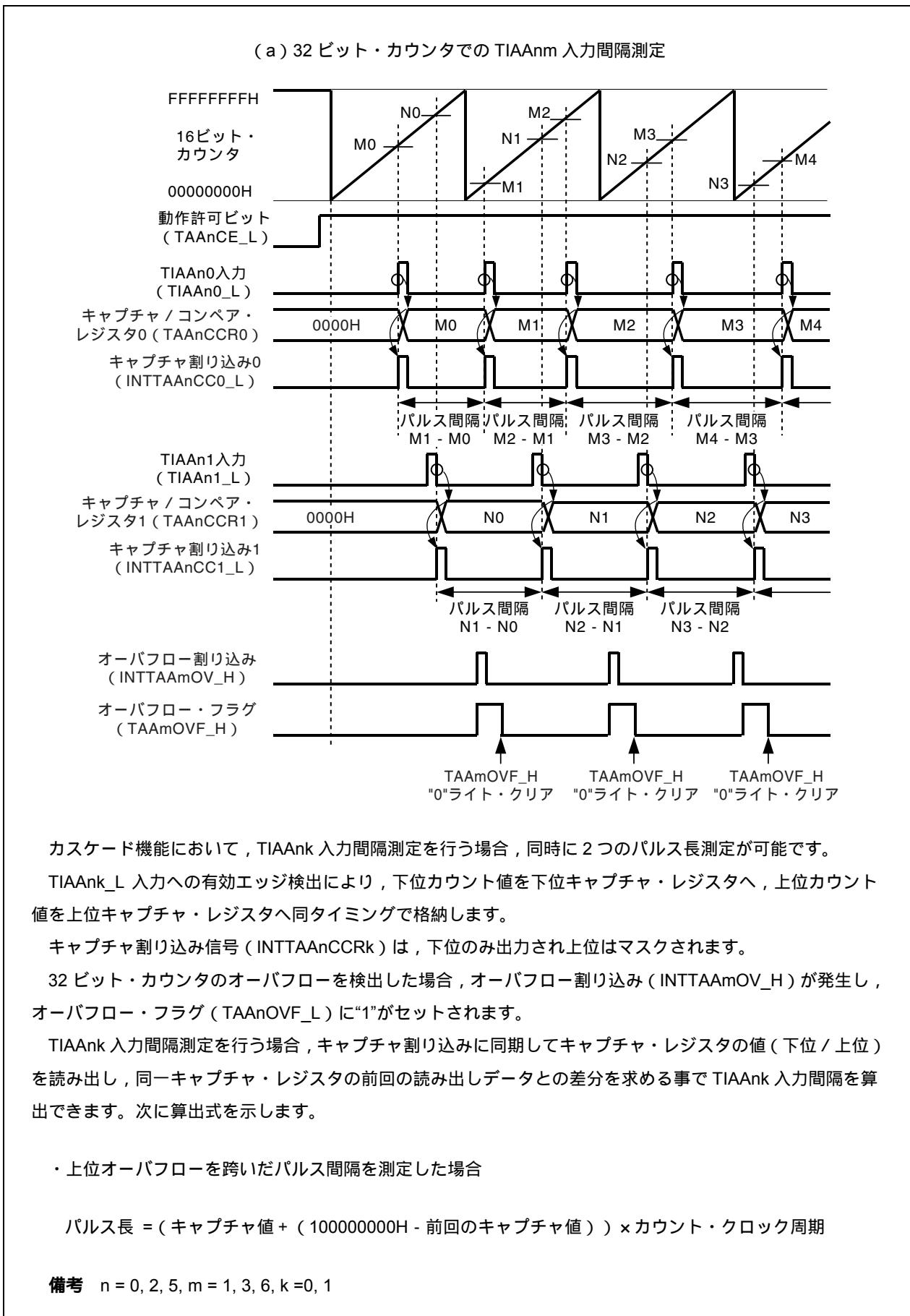
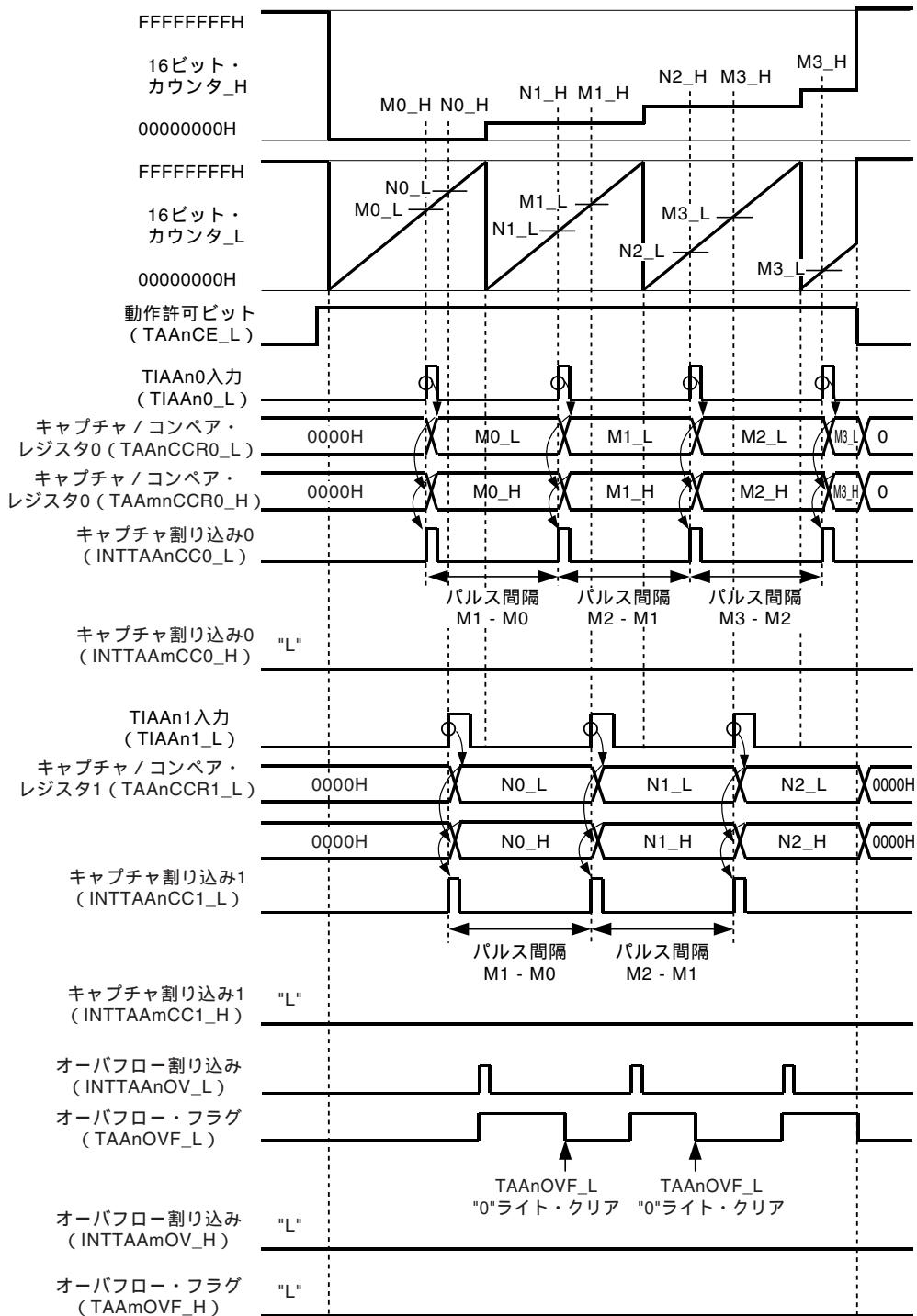


図12-36 カスケード機能の動作タイミング (2/2)

(b) 32ビット・キャプチャ動作と下位16ビットのオーバフロー動作



下位 16 ビット・カウンタのオーバフローを検出した場合、オーバフロー割り込み (INTTAAOV_L) が発生し、オーバフロー・フラグ (TAAnOVF_L) に“1”がセットされます。

下位 16 ビット・カウンタがオーバフローした場合、オーバフロー割り込み (INTTAAOV_L) が発生しますが、32 ビット・カウンタのオーバフローではないため、割り込みをマスクしてください。

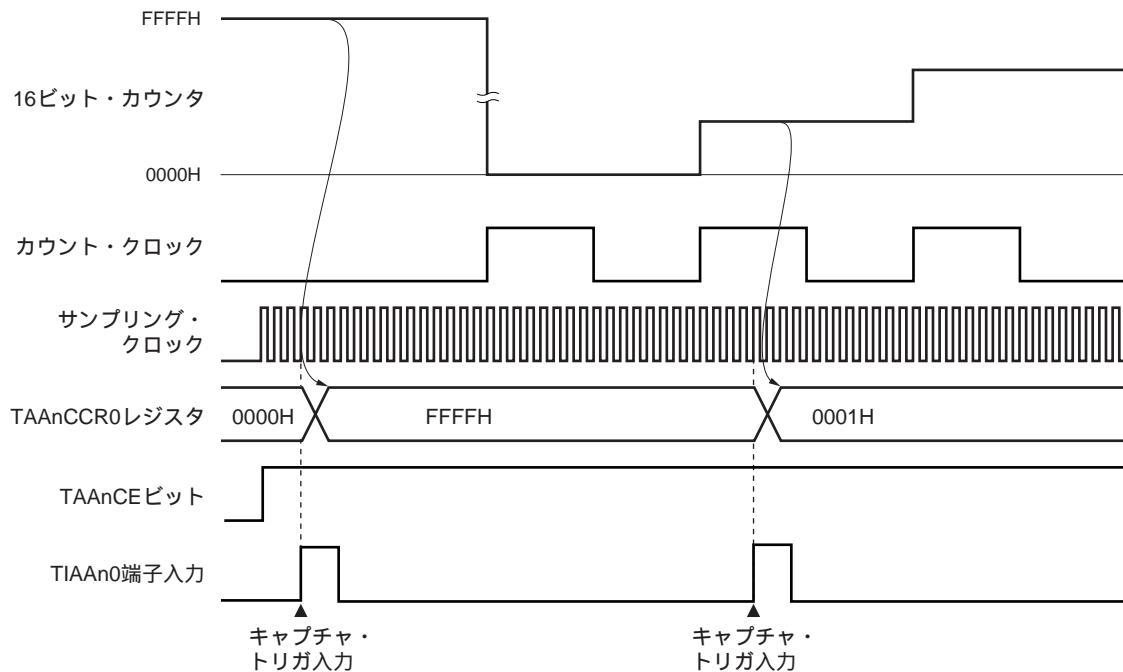
備考 n = 0, 2, 5, m = 1, 3, 6

12.7 使用上の注意

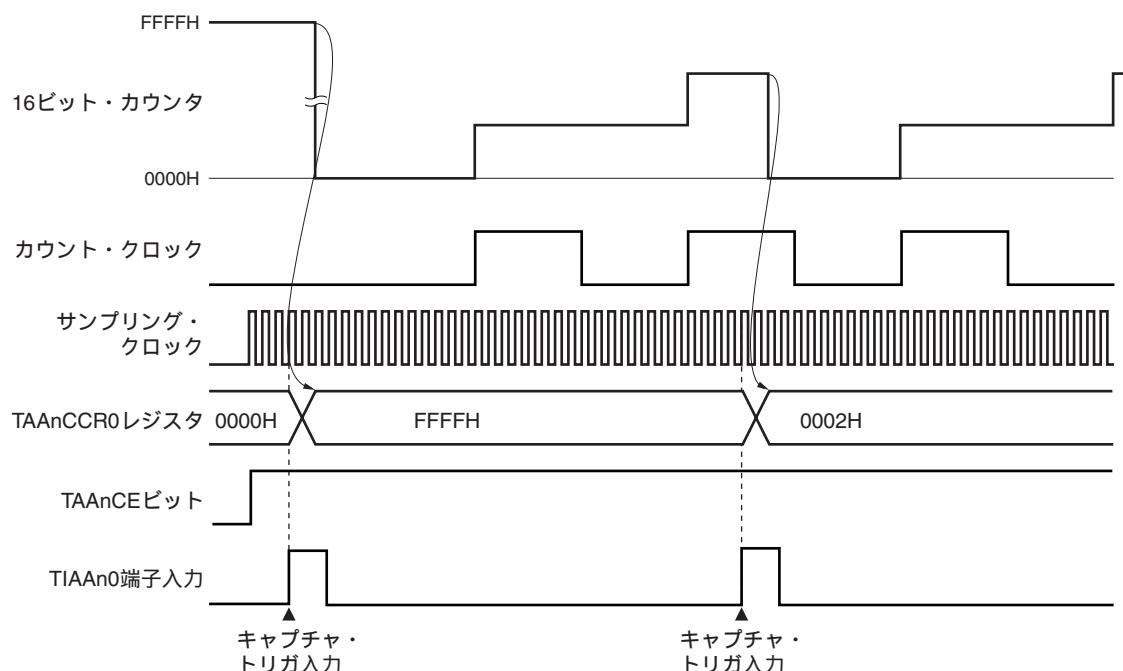
(1) キャプチャ動作

キャプチャ動作を使用し、かつカウント・クロックとして遅いクロックを選択した場合、TAAAnCE ビットをセット(1)し、カウント・クロックが動作開始するまでに、キャプチャ・トリガが入力されると、TAAAnCCR0, TAAAnCCR1 レジスタに 0000H ではなく FFFFH がキャプチャされる場合があります。

(a) フリー・ランニング・タイマ・モード



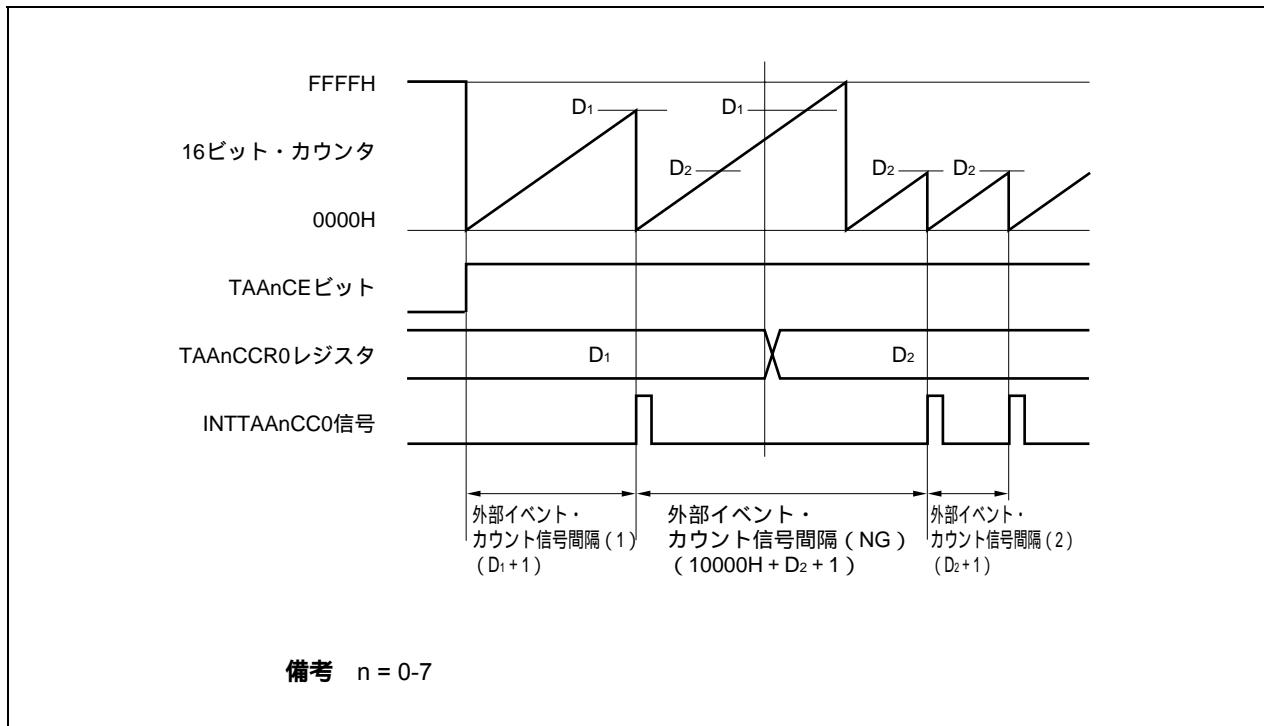
(b) パルス幅測定モード



(2) インターパル・タイマ・モード時のコンペア・レジスタの書き換え

TAAAnCCR0 レジスタの設定値を小さい値に変更する場合には、一度カウント動作を停止させ、その後、設定値を変更してください。

カウント動作中に TAAAnCCR0 レジスタの値を小さい値に書き換えると、16 ビット・カウンタがオーバーフローする場合があるので注意してください。



カウント値が D_2 よりも大きく D_1 よりも小さい状態において、TAAAnCCR0 レジスタを D_1 から D_2 に書き換えると、書き換えたタイミングで CCR0 バッファ・レジスタに転送されるため、16 ビット・カウンタとのコンペア値が D_2 となります。

しかし、カウント値はすでに D_2 を越えているために FFFFH までカウントを行い、オーバーフロー後、0000H から再度カウント・アップを行います。そして、 D_2 との一致で INTTAAAnCC0 信号を発生します。

したがって、本来期待している外部イベント・カウント数である「 (D_1+1) 回」または「 (D_2+1) 回」の有効エッジ数で INTTAAAnCC0 信号は発生せずに、「 $(10000H + D_2 + 1)$ 回」の有効エッジ数で INTTAAAnCC0 信号が発生する場合があります。

第13章 16ビット・タイマ/イベント・カウンタAB

本マイクロコントローラは、16ビット・タイマ/イベント・カウンタAB (TAB0-TAB2) を搭載しています。

製品 TAB	V850ES/FE3	V850ES/FF3	V850ES/FG3	V850ES/FJ3	V850ES/FK3
本数	1	2	3		
名称	TAB0	TAB0, TAB1	TAB0-TAB2		

タイマABは、V850EシリーズおよびV850ESシリーズに搭載されているタイマQに対して上位互換性があります。

13.1 特徴

タイマAB (TAB) は16ビット・タイマ/イベント・カウンタです。

TABは、次のような動作を行うことができます。

- ・PWM出力
- ・インターバル・タイマ
- ・外部イベント・カウント (クロック停止時動作不可)
- ・ワンショット・パルス出力
- ・パルス幅測定機能
- ・三角波PWM出力
- ・タイマAAおよびタイマABのタイマ同調動作機能 (詳細は第15章 タイマAA/AB 同調動作機能を参照)
- ・外部トリガ・パルス出力機能
- ・フリー・ランニング機能

13.2 機能概要

- ・キャプチャ・トリガ入力信号 ×4
- ・外部トリガ入力信号 ×1
- ・クロック選択 ×8
- ・外部イベント・カウント入力 ×1
- ・リーダブル・カウンタ ×1
- ・キャプチャ / コンペア・リロード・レジスタ ×4
- ・キャプチャ / コンペア一致割り込み ×4
- ・タイマ出力 (TOABn0-TOABn3) ×4

備考 n = 0-2 (V850ES/FJ3, V850ES/FK3)

n = 0, 1 (V850ES/FG3)

n = 0 (V850ES/FE3, V850ES/FF3)

この章ではn = 0-2の場合について記述しています。

13.3 構成

TABは、次のハードウェアで構成されています。

表13-1 TAB0-TAB2の構成

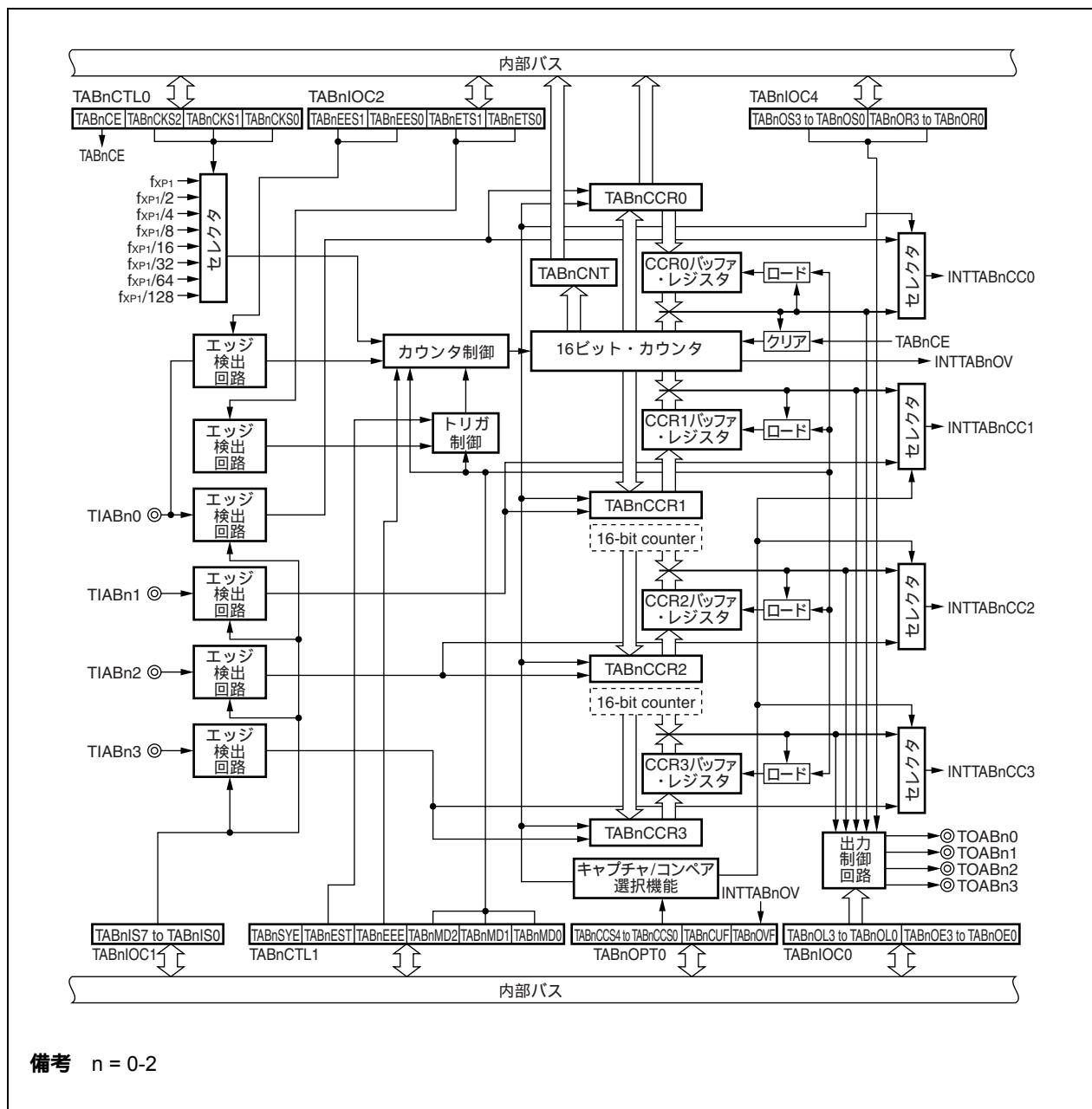
項目	構成
タイマ・レジスタ	16ビット・カウンタ
レジスタ	TABnキャプチャ/コンペア・レジスタ0-3 (TABnCCR0-TABnCCR3) TABnカウンタ・リード・バッファ・レジスタ (TABnCNT) CCR0バッファ・レジスタ-CCR3バッファ・レジスタ
タイマ入力	4本 (TIABn0 ^注 -TIABn3)
タイマ出力	4本 (TOABn0-TOABn3)
制御レジスタ	TABn制御レジスタ0, 1 (TABnCTL0, TABnCTL1) TABn I/O制御レジスタ0-2, 4 (TABnIOC0-TABnIOC2, TABnIOC4) TABnオプション・レジスタ0 (TABnOPT0)

注 TIABn0には、キャプチャ・トリガ入力信号、外部トリガ入力信号、外部イベント・カウント入力信号が兼用になっています。

備考 n = 0-2

TABの端子は、ポート端子と兼用になっています。兼用機能の設定方法については、**第2章 端子機能を参照してください。**

図13-1 タイマABのブロック図



(1) TABnキャプチャ/コンペア・レジスタ0 (TABnCCR0)

TABnCCR0レジスタはキャプチャ機能とコンペア機能を兼用させた16ビットのレジスタです。

フリー・ランニング・モードの場合のみTABnOPT0レジスタのTABnCCS0 ビットの設定によりキャプチャ・レジスタ、またはコンペア・レジスタに設定できます。

パルス幅測定モード時はキャプチャ・レジスタ専用として機能します。

フリー・ランニング・モードとパルス幅測定モード以外のモードではすべてコンペア・レジスタ専用として機能します。

初期状態では、TABnCCR0レジスタはコンペア・レジスタとなります。

16ビット単位でリード/ライト可能です。

リセットにより0000Hになります。

注意 サブクロック動作時、かつメイン・クロック停止時、TABnCCR0レジスタへのアクセスは禁止です。

リセット時 : 0000H R/W アドレス : TAB0CCR0 : FFFFF546H, TAB1CCR0 : FFFFF616H, TAB2CCR0 : FFFFF626H															
15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0															
TABnCCR0															

(n = 0-2)

・コンペア・レジスタとして使用する場合

TABnCE = 1時のTABnCCR0の書き換えは可能です。

各動作モードとキャプチャ/コンペア・レジスタの機能およびコンペア・レジスタの書き込み方法は次のとおりです。

TAB動作モード	TABnCCR0レジスタの書き込み方法
PWMモード、 外部トリガ・パルス出力モード、 三角波PWMモード	リロード
フリー・ランニング・モード、 外部イベント・カウント・モード、 ワンショット・パルス・モード、 インターバル・タイマ・モード	随時書き込み
パルス幅測定モード	キャプチャ専用であるため書き込み不可

・キャプチャ・レジスタとして使用する場合

キャプチャ・トリガ(TIABn0)入力のエッジ検出によりカウンタ値をTABnCCR0に格納します。

(2) TABnキャプチャ/コンペア・レジスタ1 (TABnCCR1)

TABnCCR1レジスタはキャプチャ機能とコンペア機能を兼用させた16ビットのレジスタです。

フリー・ランニング・モードの場合のみTABnOPT0レジスタのTABnCCS1ビットの設定によりキャプチャ・レジスタ、またはコンペア・レジスタに設定できます。

パルス幅測定モード時はキャプチャ・レジスタ専用として機能します。

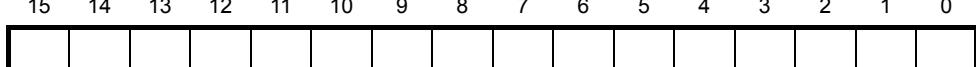
フリー・ランニング・モードとパルス幅測定モード以外のモードではすべてコンペア・レジスタ専用として機能します。

初期状態では、TABnCCR1レジスタはコンペア・レジスタとなります。

16ビット単位でリード/ライト可能です。

リセットにより0000Hになります。

- 注意1.** ワンショット・パルス・モード時は、TABnCCR1レジスタを0000Hに設定することは禁止です。
- 2.** サブクロック動作時、かつメイン・クロック停止時、TABnCCR1レジスタへのアクセスは禁止です。

リセット時 : 0000H R/W アドレス : TAB0CCR1 : FFFFF548H, TAB1CCR1 : FFFFF618H, TAB2CCR1 : FFFFF628H															
15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0															
TABnCCR1 															
(n = 0-2)															

・コンペア・レジスタとして使用する場合

TABnCE = 1時のTABnCCR1の書き換えは可能です。

各動作モードとキャプチャ/コンペア・レジスタの機能およびコンペア・レジスタの書き込み方法は次のとおりです。

TAB動作モード	TABnCCR1レジスタの書き込み方法
PWMモード、 外部トリガ・パルス出力モード、 三角波PWMモード	リロード
フリー・ランニング・モード、 外部イベント・カウント・モード、 ワンショット・パルス・モード、 インターバル・タイマ・モード	随時書き込み
パルス幅測定モード	キャプチャ専用であるため書き込み不可

・キャプチャ・レジスタとして使用する場合

キャプチャ・トリガ(TIABn1)入力のエッジ検出によりカウンタ値をTABnCCR1に格納します。

(3) TABnキャプチャ/コンペア・レジスタ2 (TABnCCR2)

TABnCCR2レジスタはキャプチャ機能とコンペア機能を兼用させた16ビットのレジスタです。

フリー・ランニング・モードの場合のみTABnOPT0レジスタのTABnCCS2ビットの設定によりキャプチャ・レジスタ、またはコンペア・レジスタに設定できます。

パルス幅測定モード時はキャプチャ・レジスタ専用として機能します。

フリー・ランニング・モードとパルス幅測定モード以外のモードではすべてコンペア・レジスタ専用として機能します。

初期状態では、TABnCCR2レジスタはコンペア・レジスタとなります。

16ビット単位でリード/ライト可能です。

リセットにより0000Hになります。

注意 サブクロック動作時、かつメイン・クロック停止時、TABnCCR2レジスタへのアクセスは禁止です。

リセット時 : 0000H R/W アドレス : TAB0CCR2 : FFFFF54AH, TAB1CCR2 : FFFFF61AH, TAB2CCR2 : FFFFF62AH															
15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0															
TABnCCR2															

(n = 0-2)

・コンペア・レジスタとして使用する場合

TABnCE = 1時のTABnCCR2の書き換えは可能です。

各動作モードとキャプチャ/コンペア・レジスタの機能およびコンペア・レジスタの書き込み方法は次のとおりです。

TAB動作モード	TABnCCR2レジスタの書き込み方法
PWMモード、 外部トリガ・パルス出力モード、 三角波PWMモード	リロード
フリー・ランニング・モード、 外部イベント・カウント・モード、 ワンショット・パルス・モード、 インターバル・タイマ・モード	随時書き込み
パルス幅測定モード	キャプチャ専用であるため書き込み不可

・キャプチャ・レジスタとして使用する場合

キャプチャ・トリガ(TIABn2)入力のエッジ検出によりカウンタ値をTABnCCR2に格納します。

(4) TABnキャプチャ/コンペア・レジスタ3 (TABnCCR3)

TABnCCR3レジスタはキャプチャ機能とコンペア機能を兼用させた16ビットのレジスタです。

フリー・ランニング・モードの場合のみTABnOPT0レジスタのTABnCCS3ビットの設定によりキャプチャ・レジスタ、またはコンペア・レジスタに設定できます。

パルス幅測定モード時はキャプチャ・レジスタ専用として機能します。

フリー・ランニング・モードとパルス幅測定モード以外のモードではすべてコンペア・レジスタ専用として機能します。

初期状態では、TABnCCR3レジスタはコンペア・レジスタとなります。

16ビット単位でリード/ライト可能です。

リセットにより0000Hになります。

注意 サブクロック動作時、かつメイン・クロック停止時、TABnCCR3レジスタへのアクセスは禁止です。

リセット時 : 0000H R/W アドレス : TAB0CCR3 : FFFFF54CH, TAB1CCR3 : FFFFF61CH, TAB2CCR3 : FFFFF62CH															
TABnCCR3 [15:0]															
(n = 0-2)															

・コンペア・レジスタとして使用する場合

TABnCE = 1時のTABnCCR3の書き換えは可能です。

各動作モードとキャプチャ/コンペア・レジスタの機能およびコンペア・レジスタの書き込み方法は次のとおりです。

TAB動作モード	TABnCCR3レジスタの書き込み方法
PWMモード、 外部トリガ・パルス出力モード、 三角波PWMモード	リロード
フリー・ランニング・モード、 外部イベント・カウント・モード、 ワンショット・パルス・モード、 インターバル・タイマ・モード	随時書き込み
パルス幅測定モード	キャプチャ専用であるため書き込み不可

・キャプチャ・レジスタとして使用する場合

キャプチャ・トリガ(TIABn3)入力のエッジ検出によりカウンタ値をTABnCCR3に格納します。

(5) TABnカウンタ・リード・バッファ・レジスタ (TABnCNT)

TABnCNTレジスタは16ビット・カウンタの値をリードできるリード・バッファ・レジスタです。

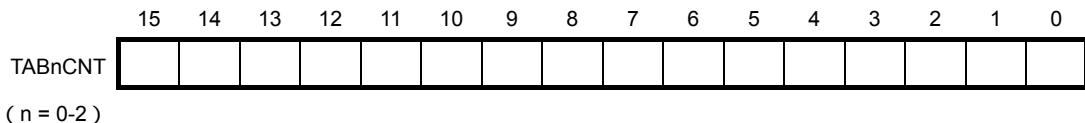
16ビット単位でリードのみ可能です。

リセットにより0000Hになります。

TABnCEビット = 0のとき、TABnCNTレジスタは0000Hになります。このときにTABnCNTレジスタをリードすると、16ビット・カウンタの値 (FFFFH) をリードせず、そのまま0000Hをリードします。

TABnCE = 1 のとき、このレジスタをリードすると16ビット・カウンタのカウント値がリードできます。

リセット時 : 0000H R アドレス : TAB0CNT : FFFFF54EH, TAB1CNT : FFFFF61EH,
TAB2CNT : FFFFF62EH



13.4 制御レジスタ

(1) TABn制御レジスタ0 (TABnCTL0)

TABnCTL0レジスタはタイマABの動作を制御する8ビット・レジスタです。

8/1ビット単位でリード/ライト可能です。

リセットにより初期値00Hになります。

注意 TABnCTL0レジスタは動作中 (TABnCE = 1) 書き換え禁止ですが、同値書き込みのみ常時可能です。また、TABnCEビットのみ常時書き換えができます。

(1/2)

リセット時 : 00H R/W アドレス : TAB0CTL0 : FFFFF540H, TAB1CTL0 : FFFFF610H,

TAB2CTL0 : FFFFF620H

⑦	6	5	4	3	2	1	0	
TABnCTL0	TABnCE	0	0	0	0	TABnCKS2	TABnCKS1	TABnCKS0

(n = 0-2)

TABnCE	タイマ ABn の動作の制御
0	内部動作クロック動作禁止 (TABn を非同期にリセット)
1	内部動作クロック動作許可

TABnCEビットにより、内部動作クロックの制御とTABnの非同期リセットを行います。TABnCEビットを“0”にすると、TABnの内部動作クロックは停止（ロウ・レベル固定）し、TABnを非同期にリセットします。

TABnCEビットを“1”にすると、TABnCEビットを“1”にしたタイミングから入力クロックの2クロック以内に内部動作クロックが許可されカウント・アップします。

備考 タイマが同調動作モード(ABnCTL1.TABnSYE = 1の状態)時、TABnCTL0.TABnCEに“1”を設定しても、内部動作クロックは許可されません（カウント・アップしません）。

TABnCKS2	TABnCKS1	TABnCKS0	入力	内部カウント・クロックの選択	
				PRSI = 0	PRSI = 1
0	0	0	f _{P1}	f _{xx}	f _{xx} /2
0	0	1	f _{P1} /2	f _{xx} /2	f _{xx} /4
0	1	0	f _{P1} /4	f _{xx} /4	f _{xx} /8
0	1	1	f _{P1} /8	f _{xx} /8	f _{xx} /16
1	0	0	f _{P1} /16	f _{xx} /16	f _{xx} /32
1	0	1	f _{P1} /32	f _{xx} /32	f _{xx} /64
1	1	0	f _{P1} /64	f _{xx} /64	f _{xx} /128
1	1	1	f _{P1} /128	f _{xx} /128	f _{xx} /256

(2/2)

- 注意1.** TABnCKS2-TABnCKS0ビットは, TABnCE = 0のとき設定してください。TABnCE
ビットを“0”から“1”に設定するときに同時に同時にTABnCKS2-TABnCKS0ビットを
設定することは可能です。
2. ビット3-6は必ず0に設定してください。
 3. PRSIはオプション・バイトにより設定します。
 - PRSI = 0 : f_{xx} 32 MHz (f_{xx} > 32 MHzの場合は設定禁止)
 - PRSI = 1 : f_{xx} 48 MHz
- 詳しくは第8章 オプション・バイトを参照してください。

備考 f_{xx} : メイン・クロック周波数
f_{XP1} : 周辺クロック用プリスケーラ1入力クロック周波数

(2) TABn制御レジスタ1 (TABnCTL1)

TABnCTL1レジスタはタイマABの動作を制御する8ビット・レジスタです。

8/1ビット単位でリード/ライト可能です。

リセットにより初期値00Hになります。

(1/2)

リセット時 : 00H R/W アドレス : TAB0CTL1 : FFFFF541H, TAB1CTL1 : FFFFF611H

	7	⑥	⑤	4	3	2	1	0
TABnCTL1	0	TABnEST	TABnEEE	0	0	TABnMD2	TABnMD1	TABnMD0

(n = 0, 1)

リセット時 : 00H R/W アドレス : TAB2CTL1 : FFFFF621H

	⑦	⑥	⑤	4	3	2	1	0
TAB2CTL1	TAB2SYE	TAB2EST	TAB2EEE	0	0	TAB2MD2	TAB2MD1	TAB2MD0

TAB2SYE	同調動作モード許可制御
0	独立動作モード (アシンクロナス動作モード)
1	同調動作モード (スレーブ動作の指定) マスターとなるタイマに同期して動作させることができます。 TAB2SYE = 1の場合, TAB2CTL0.TAB2CEに“1”を設定しても, 内部動作クロックは許可されません(カウント・アップしません)。同調動作モードについては, 第15章 タイマ同期動作機能を参照してください。

注意 同調動作モードでは, マスター・タイマは PWM モード, 外部トリガ・パルス出力モード, フリー・ランニング・モード時にのみ使用できます。

スレーブ・タイマは, フリー・ランニング・モードに設定する必要があります。

外部イベント・カウント・モード, ワンショット・パルス・モード, パルス幅測定モードは禁止されています(使用できません)。

TABnEST	ソフトウェア・トリガ制御
0	非動作
1	ワンショット・パルス・モード時: ワンショット・パルス・ソフトウェア・トリガ 外部トリガ・パルス出力モード時: パルス出力ソフトウェア・トリガ

TABnESTビットはワンショット・パルス・モード時 / 外部トリガ・パルス出力モード時にソフトウェア・トリガとして機能します(それ以外のモード時に制御しても無効です)。TABnCE = 1のときにTABnEST = 1にすることでソフトウェア・トリガとして機能します。したがって, 必ずTABnCE = 1のときにTABnEST = 1に設定してください。

外部トリガは, TIA0n0端子を使用します。TABnESTビットのリード値は常に“0”です。

TABnEEE		カウント・クロックの選択
0	内部クロック (TABnCKS2-TABnCKS0ビットで選択したクロック) を使用	
1	外部イベント・カウント入力 (TIABn0入力のエッジ) を使用	
TABnEEE = 1 (外部イベント・カウント入力 : TIABn0) のときの有効エッジの指定はTABnEES1, TABnEES0ビットで設定します。		

TABnMD2	TABnMD1	TABnMD0	タイマ・モードの選択
0	0	0	インターバル・タイマ・モード
0	0	1	外部イベント・カウント・モード
0	1	0	外部トリガ・パルス出力モード
0	1	1	ワンショット・パルス・モード
1	0	0	PWMモード
1	0	1	フリー・ランニング・モード
1	1	0	パルス幅測定モード
1	1	1	三角波PWMモード

- 注意1.** TABnSYE, TABnEEE, TABnMD2-TABnMD0ビットは, TABnCE = 0のとき設定してください (TABnCE = 1のときの同値書き込みは可能)。TABnCE = 1 のときの書き換えた場合の動作の保証はできません。誤って書き換えた場合は, TABnCE = 0に設定してから再設定してください。
2. 外部イベント・カウント・モードのときはTABnEEEビットの値にかかわらず外部イベント・カウント入力が選択されます。
 3. 外部トリガ・パルス・モード, ワンショット・パルス・モード, パルス長測定モードを使用する場合, カウント・クロックは内部クロック (TABnEEE = 0) に設定してください。
 4. 外部イベント・カウント・モードを使用する場合, TOAAn0キャプチャ入力のエッジ検出を検出しない (TABnIOC2レジスタのTABnEES1, TABnEES0 = 00) に設定してください。
 5. ビット3, 4には必ず“0”を設定してください。

(3) TABn I/O制御レジスタ0 (TABnIOC0)

TABnIOC0レジスタは、タイマ出力を制御する8ビット・レジスタです。
8/1ビット単位でリード/ライト可能です。
リセットにより00Hになります。

リセット時 : 00H R/W アドレス : TAB0IOC0 : FFFFF542H, TAB1IOC0 : FFFFF612H,
TAB2IOC0 : FFFFF622H

	7	⑥	5	④	3	②	1	①
TABnIOC0	TABnOL3	TABnOE3	TABnOL2	TABnOE2	TABnOL1	TABnOE1	TABnOL0	TABnOE0

(n = 0-2)

TABnOLm	TOABnm出力レベルの設定 (m = 0-3)
0	通常出力
1	反転出力

TABnOEm	TOABnm出力の設定 (m = 0-3)
0	タイマ出力禁止 (TOABnm端子からTABnOLm = 0のときロウ・レベルが出力 TABnOLm = 1のときハイ・レベルが出力)
1	タイマ出力許可 (TOABnm端子からパルスを出力)

- 注意1. TABnOLm, TABnOEm ビットは, TABnCE = 0 のときに書き換えてください
(TABnCE = 1 のときの同値書き込みは可能)。誤って書き換えた場合は, TABnCE = 0 に設定してから再設定してください。
2. タイマ出力を許可する場合は, 必ず, TABnIOC1レジスタの対応する兼用端子の TABnIS7-TABnIS0を「エッジ検出しない」に設定し, キャプチャ動作を無効にしてください。その後, 対応する兼用ポートの設定を出力モードにしてください。
 3. 端子をコントロール出力モードとしている場合, TABnCE = 0, TABnOEm = 0 の状態においても TABnOLm ビットを操作すると TOABnm 端子の出力レベルが変化します。

(4) TABn I/O制御レジスタ1 (TABnIOC1)

TABnIOC1レジスタは、外部入力信号 (TIABn0-TIABn3) に対する有効エッジを制御する8ビット・レジスタです。

8/1ビット単位でリード/ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

リセット時 : 00H R/W アドレス : TAB0IOC1 : FFFFF543H, TAB1IOC1 : FFFFF613H,
TAB2IOC1 : FFFFF623H

	7	6	5	4	3	2	1	0
TABnIOC1	TABnIS7	TABnIS6	TABnIS5	TABnIS4	TABnIS3	TABnIS2	TABnIS1	TABnIS0

(n = 0-2)

TABnIS7	TABnIS6	キャプチャ入力 (TIABn3) の有効エッジの設定
0	0	エッジ検出なし (キャプチャ動作無効)
0	1	立ち上がりエッジを検出
1	0	立ち下がりエッジを検出
1	1	両エッジを検出

TABnIS5	TABnIS4	キャプチャ入力 (TIABn2) の有効エッジの設定
0	0	エッジ検出なし (キャプチャ動作無効)
0	1	立ち上がりエッジを検出
1	0	立ち下がりエッジを検出
1	1	両エッジを検出

TABnIS3	TABnIS2	キャプチャ入力 (TIABn1) の有効エッジの設定
0	0	エッジ検出なし (キャプチャ動作無効)
0	1	立ち上がりエッジを検出
1	0	立ち下がりエッジを検出
1	1	両エッジを検出

TABnIS1	TABnIS0	キャプチャ入力 (TIABn0) の有効エッジの設定
0	0	エッジ検出なし (キャプチャ動作無効)
0	1	立ち上がりエッジを検出
1	0	立ち下がりエッジを検出
1	1	両エッジを検出

- 注意1. TABnIS7-TABnIS0ビットは、TABnCE = 0のときに書き換えてください (TABnCE = 1のとき、同値書き込みが可能)。誤って書き換えた場合は、TABnCE = 0に設定してから再設定してください。フリー・ランニング・モード時は、後述の手順に沿って書き換えが可能です。
2. TABnIS7-TABnIS0ビットは、フリー・ランニング・キャプチャ・モードと、パルス幅測定モードのときのみ有効です。それ以外のモードではキャプチャ動作は行なわれません。

タイマ動作時の書き換え^注： フリー・ランニング・モードでタイマ動作中 (TABnCTL0.TABnCE = 1) の場合、 TABnIS7-TABnIS0 ビットを操作し、キャプチャ機能の有効エッジを切り替えることが可能。2 ビットで制御している TIABn 入力の有効エッジを変更する場合、1 ビット単位で書き換える必要があります。

次の手順に従ってください（ここでは、例として TIABn0 を使用しています）

- 立ち上がりエッジから立ち下がりエッジへの変更

現在のステータス、TABnIOC1.TABnIS[1:0] = 01B：“立ち上がりエッジ”

TABnIOC1.TABnIS[1:0] = 00B に設定：“エッジなし”の指定

TABnIOC1.TABnIS[1:0] = 10B に設定：“立ち下がりエッジ”の指定

- 立ち下がりエッジから立ち上がりエッジへの変更

現在のステータス、TABnIOC1.TABnIS[1:0] = 10B：“立ち下がりエッジ”

TABnIOC1.TABnIS[1:0] = 00B に設定：“エッジなし”の指定

TABnIOC1.TABnIS[1:0] = 01B に設定：“立ち上がりエッジ”の指定

- 立ち上がりエッジまたは立ち下がりエッジから両エッジに変更

現在のステータス、TABnIOC1.TABnIS[1:0] = 01B または 10B：“立ち上がりエッジ”または“立ち下がりエッジ”

TABnIOC1.TABnIS[1:0] = 11B に設定：“両エッジ”の指定

注 フリー・ランニング・モードのみ

(5) TABn I/O制御レジスタ2 (TABnIOC2)

TABnIOC2レジスタは、外部イベント・カウント入力信号 (TIABn0), 外部トリガ入力信号 (TIABn0) に対する有効エッジを制御する8ビット・レジスタです。

8/1ビット単位でリード/ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

リセット時 : 00H R/W アドレス : TAB0IOC2 : FFFFF544H, TAB1IOC2 : FFFFF614H,
TAB2IOC2 : FFFFF624H

	7	6	5	4	3	2	1	0
TABnIOC2	0	0	0	0	TABnEES1	TABnEES0	TABnETS1	TABnETS0
(n = 0-2)								

TABnEES1	TABnEES0	外部イベント・カウント入力 (TIABn0) の有効エッジの設定
0	0	エッジ検出なし (外部イベント・カウント無効)
0	1	立ち上がりエッジを検出
1	0	立ち下がりエッジを検出
1	1	両エッジを検出

TABnETS1	TABnETS0	外部トリガ入力 (TIABn0) の有効エッジの設定
0	0	エッジ検出なし (外部トリガ無効)
0	1	立ち上がりエッジを検出
1	0	立ち下がりエッジを検出
1	1	両エッジを検出

- 注意1.** TABnEES1, TABnEES0, TABnETS1, TABnETS0 ビットは, TABnCE = 0のときに書き換えてください (TABnCE = 1のときの同値書き込みは可能)。誤って書き換えた場合は, TABnCE = 0に設定してから再設定してください。
1. TABnEES1, TABnEES0ビットは, TABnEEE = 1, または, 外部イベント・カウント・モード (TIABnCTL1レジスタのTABnMD2-TABnMD0 = 001) に設定したときのみ有効です。
 2. TABnEES1, TABnEES0ビットは外部トリガ・パルス出力モード (TABnCTL1レジスタのTABnMD2-TABnMD0 = 010) もしくは, ワンショット・パルス出力モード (TABnCTL1レジスタのTABnMD2-TABnMD0 = 011) に設定したときのみ有効です。
 3. TABnETS1, TABnETS0ビットは外部トリガ・パルス出力モード (TABnCTL1レジスタのTABnMD2-TABnMD0 = 010) もしくは, ワンショット・パルス出力モード (TABnCTL1レジスタのTABnMD2-TABnMD0 = 011) に設定したときのみ有効です。

タイマ動作時の書き換え 外部イベント・カウント入力 (TIABn0), または外部トリガ入力 (TIABn0) の有効エッジを切り換える場合, 2 ビットで制御している TIABn0 入力の有効エッジを 1 ビット単位で書き換える必要があります。

次に手順を示します。手順に従わない場合のキャプチャ値は保障できません。

[外部イベント・カウント入力の場合]

- 立ち上がりエッジから立ち下がりエッジへの変更手順

現在のステータス, TABnLOC2.TABnEES[1:0] = 01B : “立ち上がりエッジ”

TABnLOC2.TABnEES[1:0] = 00B に設定：“エッジなし”の指定

TABnLOC2.TABnEES[1:0] = 10B に設定：“立ち下がりエッジ”の指定

- 立ち下がりエッジから立ち上がりエッジへの変更手順

現在のステータス, TABnLOC2.TABnEES[1:0] = 10B : “立ち下がりエッジ”

TABnLOC2.TABnEES[1:0] = 00B に設定：“エッジなし”の指定

TABnLOC2.TABnEES[1:0] = 01B に設定：“立ち上がりエッジ”の指定

[外部トリガ入力の場合]

- 立ち上がりエッジから立ち下がりエッジへの変更手順

現在のステータス, TABnLOC2.TABnETS[1:0] = 01B : “立ち上がりエッジ”

TABnLOC2.TABnETS[1:0] = 00B に設定：“エッジなし”の指定

TABnLOC2.TABnETS[1:0] = 10B に設定：“立ち下がりエッジ”の指定

- 立ち下がりエッジから立ち上がりエッジへの変更手順

現在のステータス, TABnLOC2.TABnETS[1:0] = 10B : “立ち下がりエッジ”

TABnLOC2.TABnETS[1:0] = 00B に設定：“エッジなし”の指定

TABnLOC2.TABnETS[1:0] = 01B に設定：“立ち上がりエッジ”の指定

注意 外部入力信号のレベルが変化しない状態で行ってください。

(6) TABn I/O制御レジスタ4 (TABnIOC4)

TABnIOC4レジスタは、タイマABの出力機能を制御する8ビットのレジスタです。

8/1ビット単位でリード/ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

リセット時 : 00H R/W アドレス : TAB0IOC4 : FFFFF550H, TAB1IOC4 : FFFFF660H,
TAB2IOC4 : FFFFF670H

	7	6	5	4	3	2	1	0
TABnIOC4	TABnOS3	TABnOR3	TABnOS2	TABnOR2	TABnOS1	TABnOR1	TABnOS0	TABnOR0

(n = 0-2)

TABnOSm	TABnORm	TOABnm のトグル制御
0	0	通常動作
0	1	次のトグル・タイミングで出力レベルを強制的にインアクティブ・レベルに固定
1	0	次のトグル・タイミングで出力レベルを強制的にアクティブ・レベルに固定
1	1	次のトグル・タイミングでも現在の出力レベルを保持

注意 TABnIOC4が使用できるのは、インターバル・モードまたはフリー・ランニング・コンペア・モードが選択されたときのみです。その他のモードでは、このレジスタを00Hに設定してください。

- 備考**
- 出力レベルを強制的にインアクティブまたはアクティブ・レベルにしたあと、TABnOSmとTABnORmがクリアされて通常動作に戻るまで、TOABnmはそのレベルを維持します（その後のトグル動作を行いません）。
 - 出力レベルの強制変更は次のトグル・タイミングの発生時に起こり、保持は直ちに有効になります。
 - TABnCTL0.TABnCE = 1のとき、TABnIOC4レジスタは書き込み可能です。
 - m = 0-3

(7) TABnオプション・レジスタ0 (TABnOPT0)

TABnOPT0レジスタは、キャプチャ/コンペア動作の設定、オーバフローの検出をする8ビット・レジスタです。

8/1ビット単位でリード/ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

(1/3)

リセット時 : 00H R/W アドレス : TAB0OPT0 : FFFFF545H

	7	6	5	4	3	2	1	①
TAB0OPT0	TAB0CCS3	TAB0CCS2	TAB0CCS1	TAB0CCS0	0	TAB0CMS	TAB0CUF	TAB0OVF

リセット時 : 00H R/W アドレス : TAB1OPT0 : FFFFF615H, TAB2OPT0 : FFFFF625H

	7	6	5	4	3	2	1	①
TABnOPT0	TABnCCS3	TABnCCS2	TABnCCS1	TABnCCS0	0	0	TABnCUF	TABnOVF

(n = 1, 2)

TABnCCSm	TABnCCRmレジスタのキャプチャ/コンペア選択 (m = 0-3)
0	コンペア・レジスタ選択
1	キャプチャ・レジスタ選択

TABnCCSmビットの設定はフリー・ランニング・モードのときのみ有効になります。

TABnCMS	コンペア・レジスタ書き換え方式の選択 (m = 0-3)
0	リロード方式選択 カウンタ値とTAB0CCR0の設定値の一致タイミングで、TAB0CCRm, TAA0CCRmレジスタがすべてリロードされ、書き込んだ値がカウンタ値の比較値となります。
1	随时書き込み方式選択 TAB0CCRmレジスタへ書き込んだ2クロック後、書き込んだレジスタからリロードされ、カウンタ値の比較値となります。

注意 6相PWMモード時以外は、0に設定してください。

TABnCUF	タイマABのカウント・ダウン・フラグ
0	タイマABがアップ・カウント中
1	タイマABがダウン・カウント中

TABnCUFビットは、三角波PWMモード時のみ有効です。このモード以外では、TABnCUFビットは0に固定されます。
リード・オンリーのため、書き込みした場合の値は無効です。

TABnOVF	タイマABのオーバフロー検出
セット(1)	オーバフロー発生
リセット(0)	TABnOVFビットの0書き込みまたはTABnCE = 0 • TABnOVFビットは、フリー・ランニング・モードおよびパルス幅測定モード時に、16ビット・カウンタの値がFFFFHから0000Hにオーバフローするときセットされます。 • TABnOVFビットがセット(1)されると同時に割り込み要求信号(INTTABnOV)が発生します。フリー・ランニング・モードおよびパルス幅測定モード以外では、INTTABnOV信号は発生しません。 • TABnOVF = 1のときにTABnOVFビットおよびTABnOPT0レジスタをリードしてもTABnOVFビットはクリアされません。 • TABnOVFビットは、リード/ライト可能ですがCPUからTABnOVFビットに“1”を書き込むことはできません。1をライトしてもタイマABの動作に影響はありません。

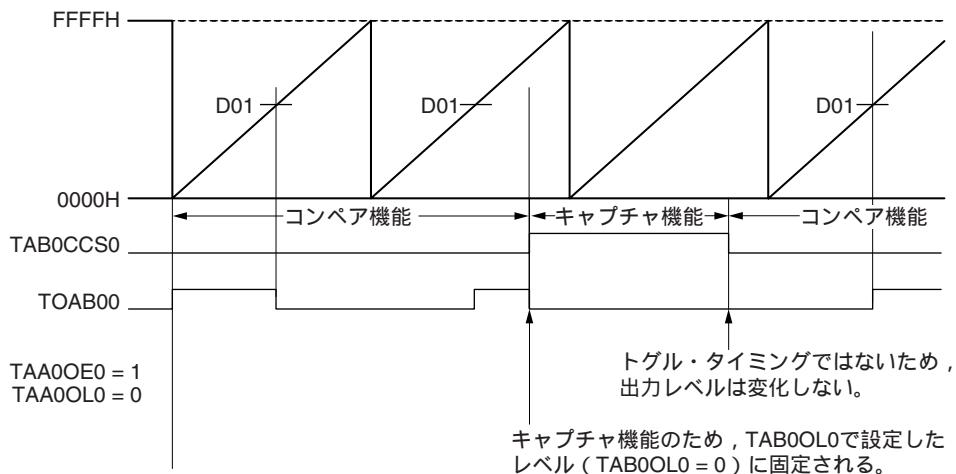
備考 TAB0CMS, TABnCUFビットの詳細については、[第23章 モータ制御機能](#)を参照してください。

(注意は次ページにあります)

注意 TABnCCS3-TABnCCS0 ビットを、タイマ動作中 (TABnCE = 0) に書き換える場合は、次の手順に従ってください。

- ・コンペア機能からキャプチャ機能への切り換え
 1. コンペア・レジスタの設定値を別領域へ格納し、カウンタをリードする。
(コンペア・レジスタの設定値とカウンタが一致するタイミングでなければ“2”へ進む)
 2. 割り込み要求信号 (INTTABnCC0, INTTABnCC1, INTTABnCC2, INTTABnCC3, INTTABnOV) をマスクする。
TIABn0, TIABn1, TIABn2, TIABn3の入力をポートでマスクする。
 3. コンペア・レジスタの設定値とカウンタが一致するタイミング以外でコンペア機能 (TAB0CCSm = 0) からキャプチャ機能 (TAB0CCSm = 1) へ変更する。
コンペア機能からキャプチャ機能への切り換えによりタイマ出力は TAB0OLm で設定したレベルに固定される。
 4. オーバフロー・フラグ (TAB0OVF) を“0”ライト・クリアする。
 5. INTTABnCC0, INTTABnCC1, INTTABnCC2, INTTABnCC3, INTTABnOV 信号のマスクを解除する。
TIABn0, TIABn1, TIABn2, TIABn3の入力のマスクを解除する。
- ・キャプチャ機能からコンペア機能への切り換え
 1. カウンタをリードし、コンペア・レジスタに設定する値を決定する。
 2. INTTABnCC0, INTTABnCC1, INTTABnCC2, INTTABnCC3, INTTABnOV 信号をマスクする。
 3. キャプチャ機能 (TAB0CCSm = 1) からコンペア機能 (TAB0CCSm = 0) へ変更する。
 4. “1”で決定した値を、コンペア・レジスタにライトする。
 5. オーバフロー・フラグ (TAB0OVF) を“0”ライト・クリアする。
 6. INTTABnCC0, INTTABnCC1, INTTABnCC2, INTTABnCC3, INTTABnOV 信号のマスクを解除する。

(TAB0CCR0の例)



13.5 動 作

タイマABには次のような動作があります。

動作	TABnEST (ソフトウェア・トリガ・ビット)	TIABn0 (外部トリガ入力)	TABnEEE カウント・クロック選択	キャプチャ/コンペア切り換え	コンペア書き込み
インターバル・タイマ・モード	無効	無効	内部 / TIABn0端子	コンペア専用	随时書き込み
外部イベント・カウント・モード ^{注1}	無効	無効	TIABn0端子のみ	コンペア専用	随时書き込み
外部トリガ・パルス出力モード ^{注2}	有効	有効	内部のみ	コンペア専用	リロード
ワンショット・パルス出力モード ^{注2}	有効	有効	内部のみ	コンペア専用	随时書き込み
PWMモード	無効	無効	内部 / TIABn0端子	コンペア専用	リロード
フリー・ランニング・モード	無効	無効	内部 / TIABn0端子	キャプチャ/コンペア切り換え可	随时書き込み
パルス幅測定モード ^{注2}	無効	無効	内部のみ	キャプチャ専用	対象外
三角波PWMモード	無効	無効		コンペア専用	リロード

- 注1. 外部イベント・カウント入力を使用する場合、TIABn0キャプチャ入力のエッジ検出を、エッジを検出しない(TABnLOC1レジスタのTABnIS1, TABnIS0ビットを“00”)に設定してください。
2. 外部トリガ・パルス出力モード、ワンショット・パルス・モード、パルス幅測定モードを使用する場合、カウント・クロックは内部クロックを選択(TABnCTL1レジスタのTABnEEEビット = 0に設定)してください。

注意 ワンショット・パルス・モード時は、TABnCCR1レジスタを0000Hにクリアすることは禁止です。

13.5.1 随時書き込みとリロード

タイマABではタイマ動作中(TABnCE = 1)のときのTABnCCR0-TABnCCR3レジスタの書き換えを許可していますがモードによって書き込み方法(随时書き込み、リロード)が異なります。

(1) 随時書き込み

タイマ動作中にTABnCCR0-TABnCCR3レジスタの書き込みを行ったときCCR0-CCR3バッファ・レジスターに随時転送され、16ビット・カウンタの比較値となります。

図13-2 隨時書き込みの基本動作フロー・チャート

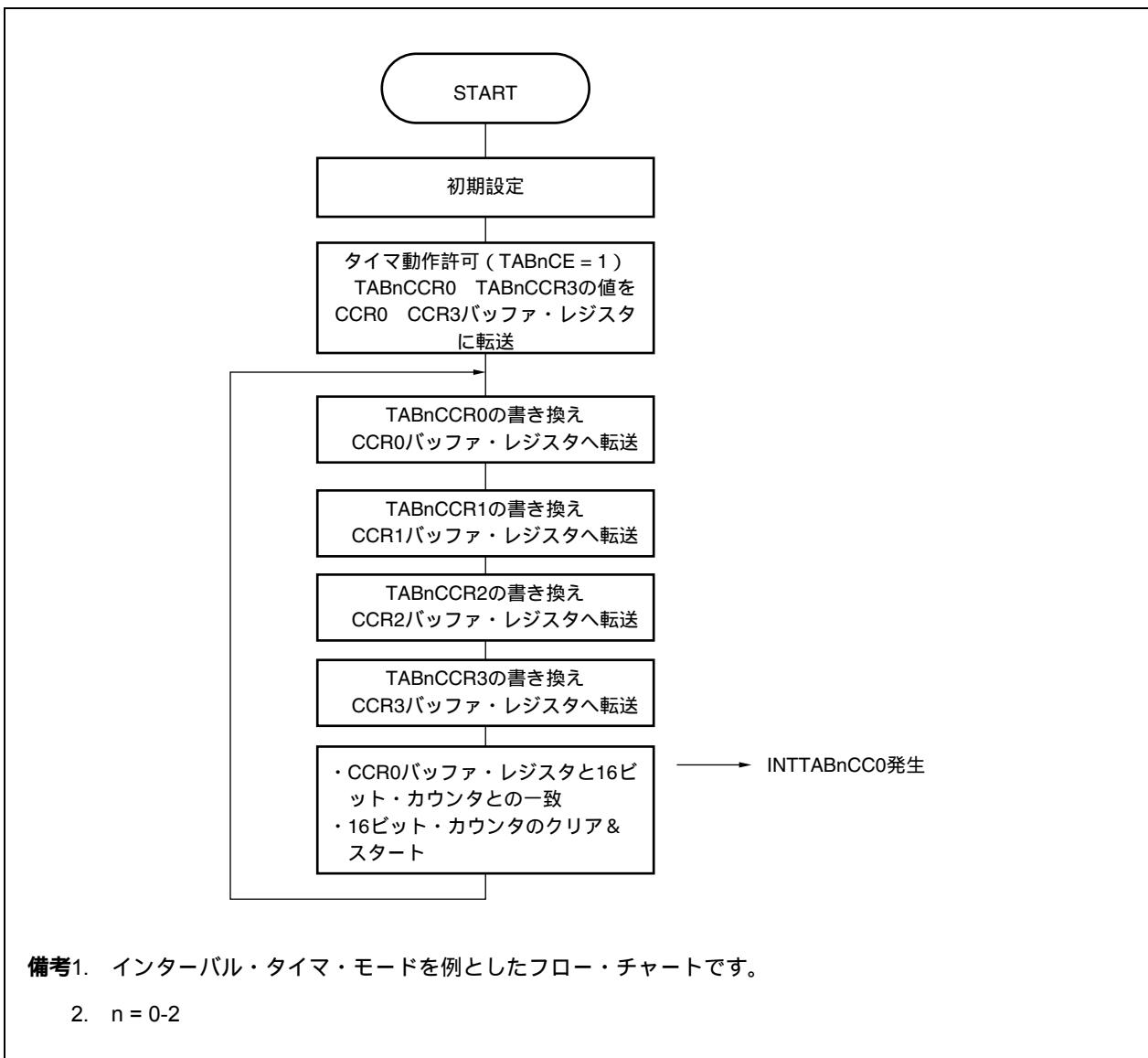
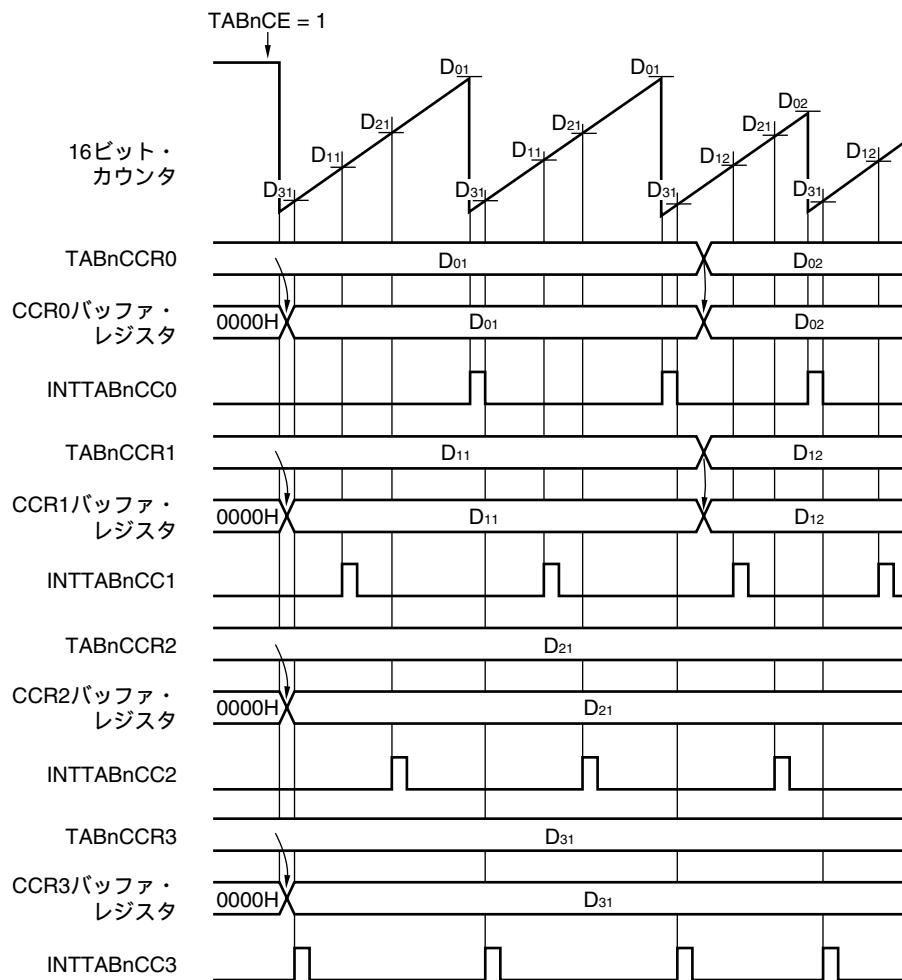


図13-3 隨時書き込みのタイミング図



備考1. D₀₁, D₀₂ : TABnCCR0レジスタの設定値 (0000H-FFFFH)

D₁₁, D₁₂ : TABnCCR1レジスタの設定値 (0000H-FFFFH)

D₂₁ : TABnCCR2レジスタの設定値 (0000H-FFFFH)

D₃₁ : TABnCCR3レジスタの設定値 (0000H-FFFFH)

2. インターバル・タイマ・モードを例としたタイミング図です。

3. n = 0-2

(2) リロード

タイマ動作中にTABnCCRmレジスタの書き込みを行ったとき、書き込んだ値は特定の状態になるまで保留されたあと、CCRmバッファ・レジスタへ転送され、16ビット・カウンタの比較値となります。TABnCCRmレジスタはTABnCE = 1のとき、書き換えが可能です。

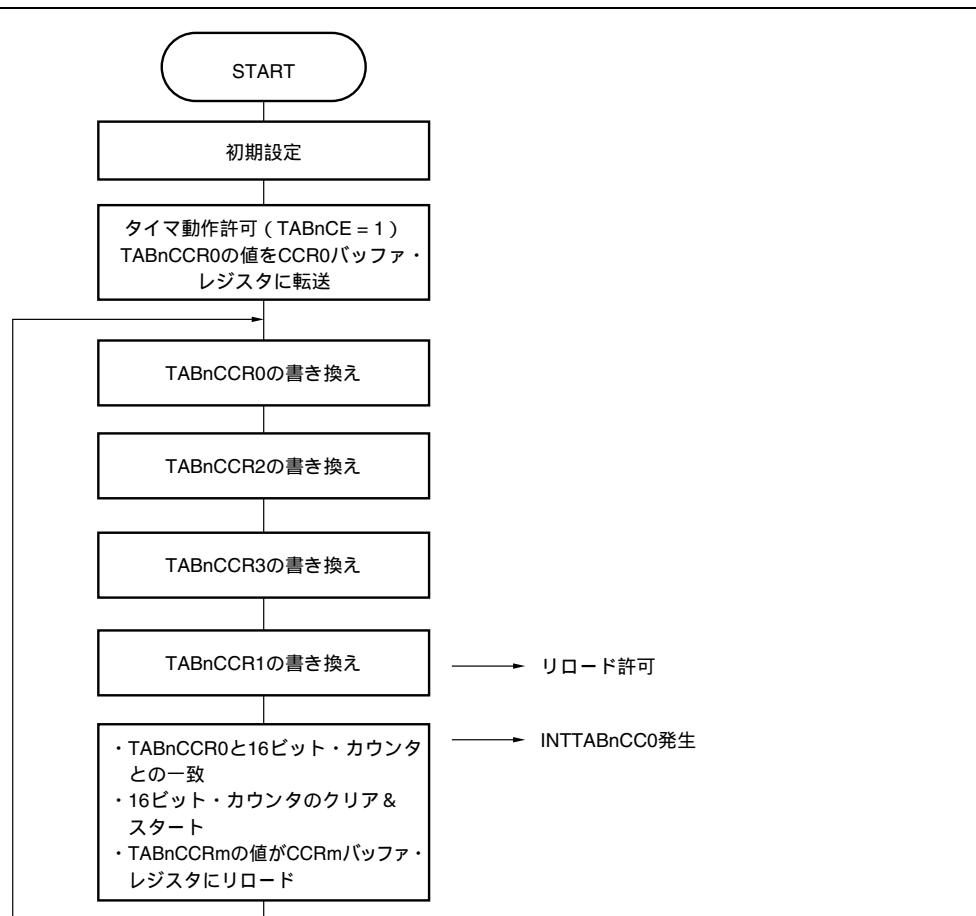
TABnCCRmレジスタを書き換えた場合の設定値が16ビット・カウンタの比較値となる（CCRmバッファ・レジスタにリロードされる）には16ビット・カウンタの値とCCR0バッファ・レジスタの値が一致する前にTABnCCR0、TABnCCR2、TABnCCR3レジスタを書き換え、最後にTABnCCR1レジスタを書き込む必要があります。

その後CCR0バッファ・レジスタと16ビット・カウンタが一致すると、TABnCCRmレジスタの値はCCRmバッファ・レジスタにリロードされます。

TABnCCR1レジスタの書き込みで次のリロード・タイミングを有効とするか無効とするか制御します。

したがって、TABnCCR0、TABnCCR2、TABnCCR3レジスタのいずれかの値だけ書き換えたい場合でも、TABnCCR1レジスタに同値（すでに設定したTABnCCR1レジスタと同じ値）を書き込んでください。

図13-4 リロードの基本動作フロー・チャート



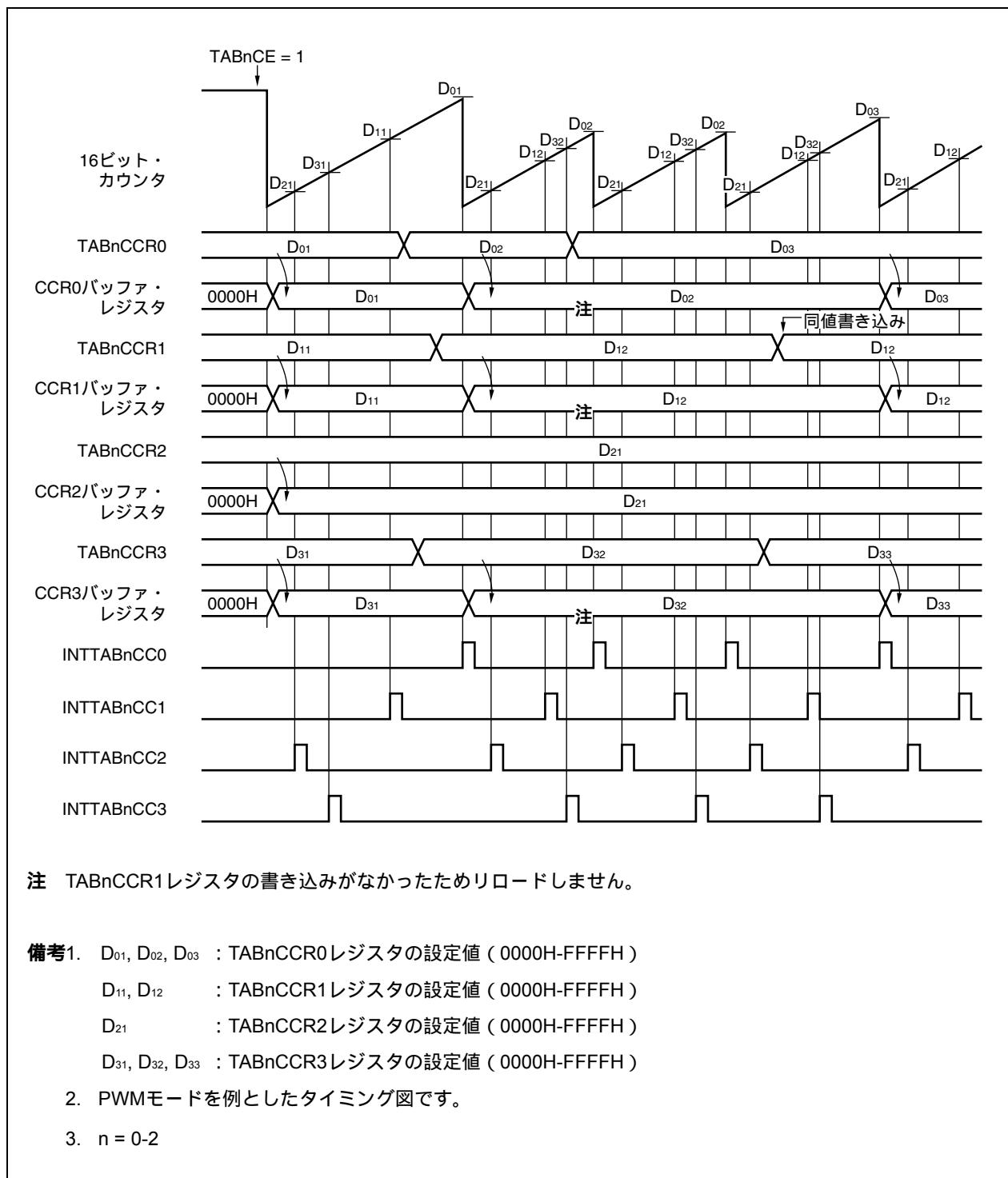
注意 TABnCCR1レジスタへの書き込みにはリロードを許可する動作も含まれます。

したがって、TABnCCR0、TABnCCR1、TABnCCR2ひとつのみ書き換えたい場合でも、次のリロードを有効にするためにTABnCCR1レジスタに同値書き込みをする必要があります。また、TABnCCR1レジスタの書き換えは、ほかのTABnCCRレジスタの書き換えよりあとにしてください。

備考1. PWMモードを例としたフロー・チャートです。

2. n = 0-2, m = 0-3

図13-5 リロードのタイミング図



13.5.2 インターバル・タイマ・モード (TABnMD2-TABnMD0 = 000)

インターバル・タイマ・モードではTABnCCR0レジスタの設定値と16ビット・カウンタの値の一致で割り込み要求信号(INTTABnCC0)を発生し16ビット・カウンタをクリアします。TABnCCRMレジスタはTABnCE = 1のときに書き換えを許可しており、TABnCCRMレジスタに値を設定すると随時書き込みによりCCRMバッファ・レジスタに転送され、16ビット・カウンタ値との比較対象値となります。

TABnCCRkレジスタを使用しての16ビット・カウンタのクリア動作は行いません。

ただし、TABnCCRkレジスタ設定値はCCRkバッファ・レジスタに転送され、16ビット・カウンタと比較されることで、割り込み要求(INTTABnCCk)が発生します。

また、TABnOEkビットを1に設定することにより、TOABnk端子出力も可能です。

TABnCCRkレジスタを使用しない場合はTABnCCRkレジスタの設定値はFFFFFHを設定してください。

備考1. タイマ動作中(TABnCE = 1)のときのTABnCCR0-TABnCCR3の書き換えについては13.5.1(1)
随时書き込みを参照してください。

2. n = 0-2, m = 0-3, k = 1-3

図13-6 インターバル・タイマ・モード時の基本動作フロー・チャート

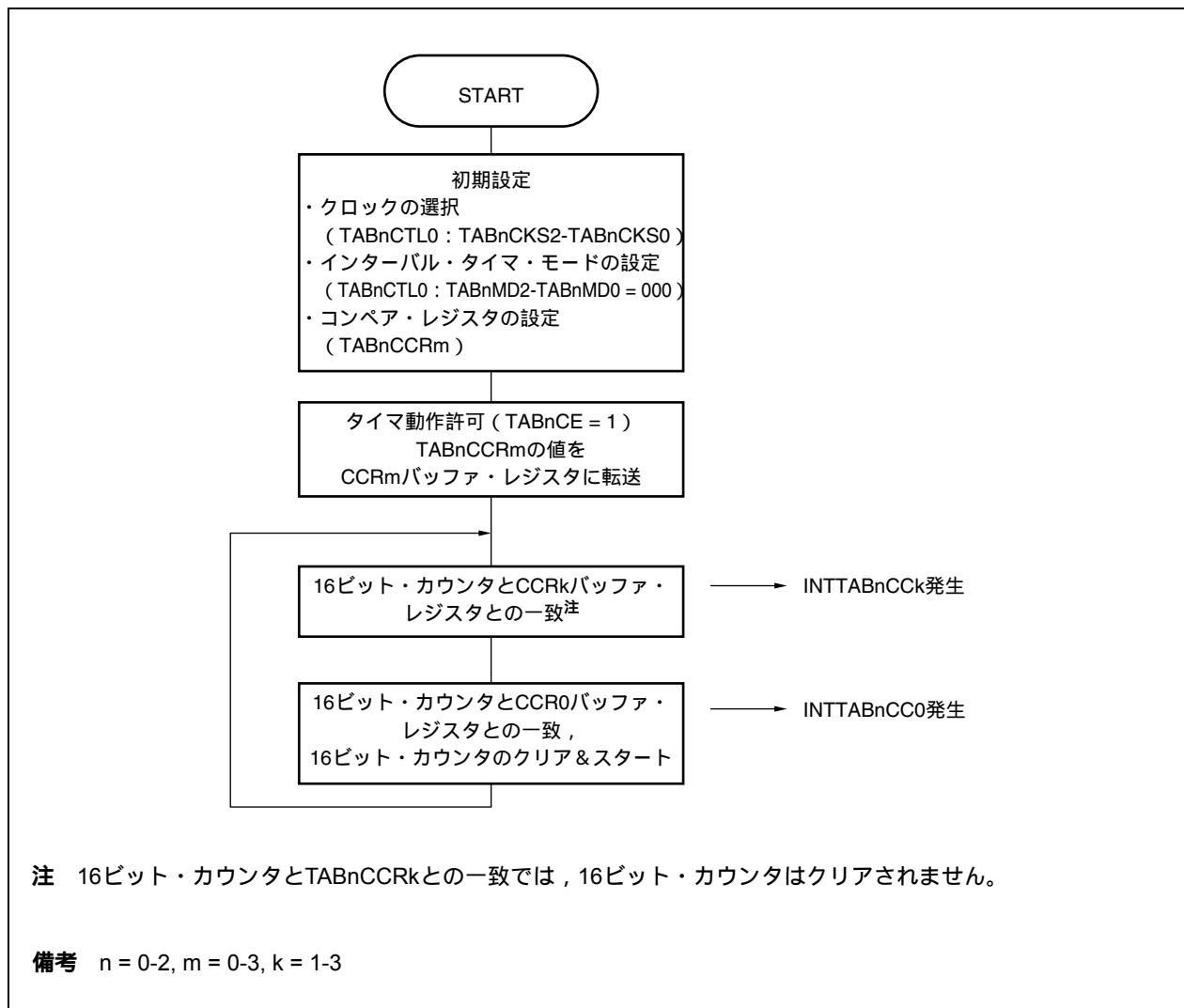
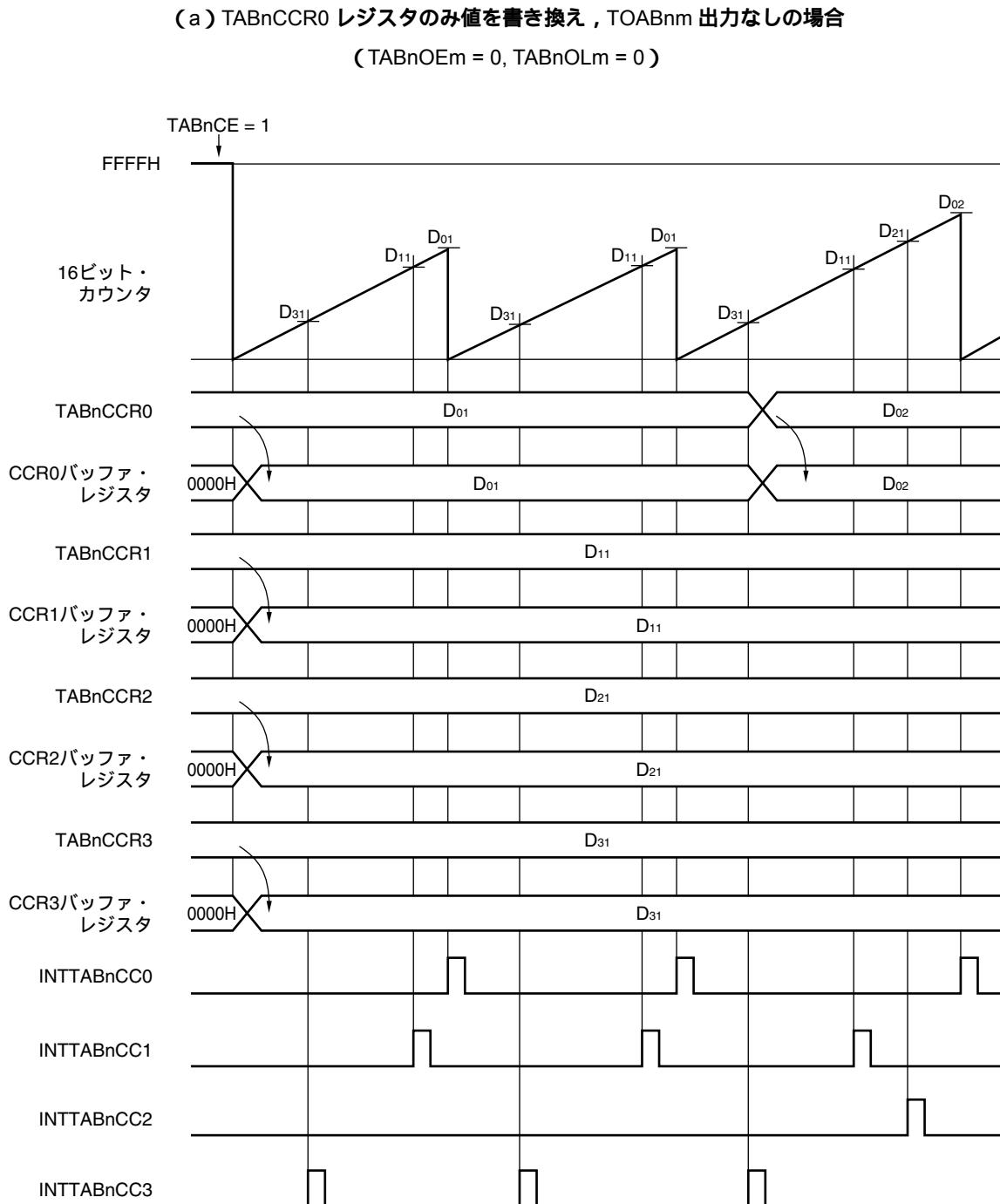


図13-7 インターバル・タイマ・モード時の基本動作タイミング (1/2)



備考1. D₀₁, D₀₂ : TABnCCR0レジスタの設定値 (0000H-FFFFH)

D₁₁ : TABnCCR1レジスタの設定値 (0000H-FFFFH)

D₂₁ : TABnCCR2レジスタの設定値 (0000H-FFFFH)

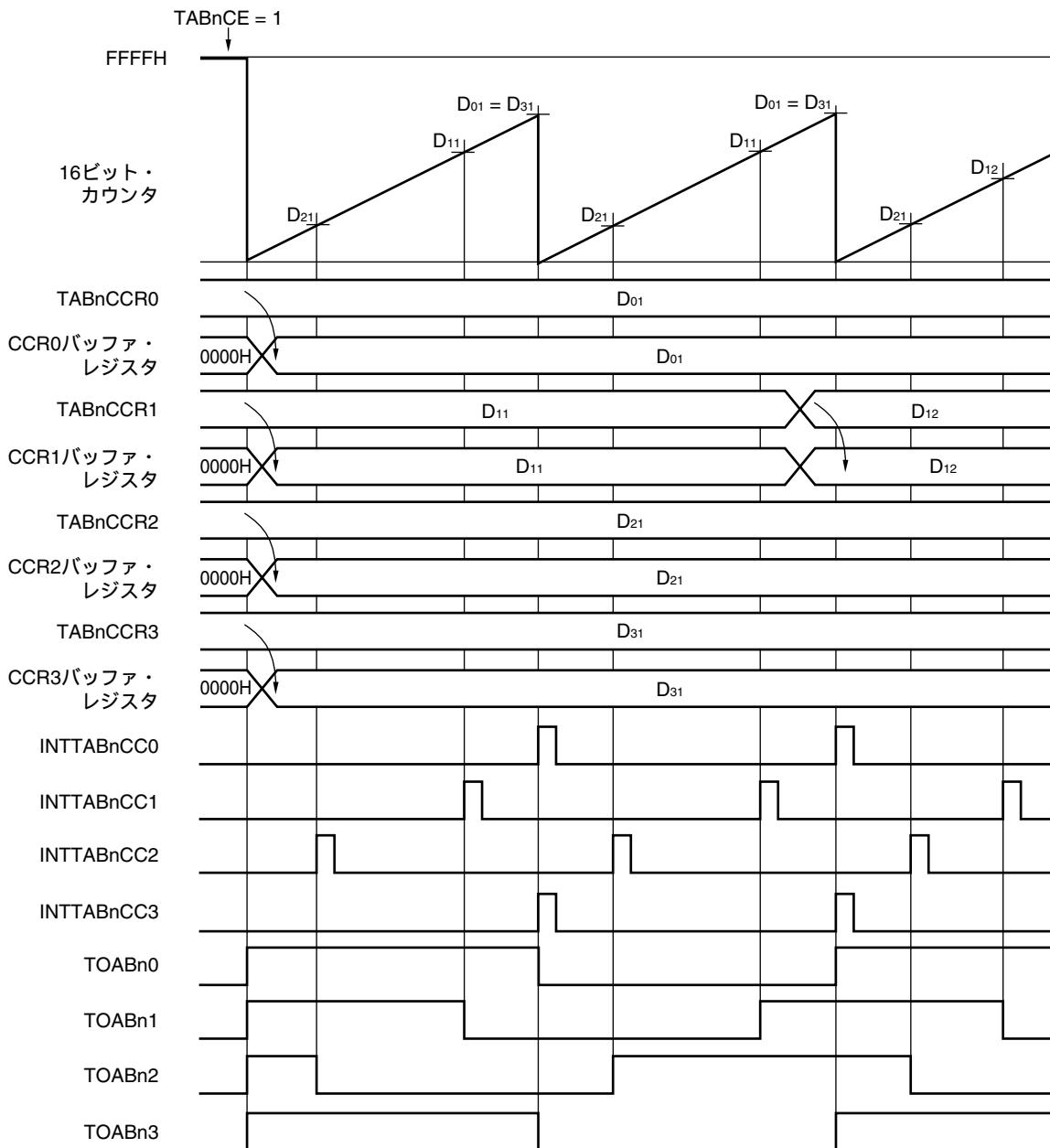
D₃₁ : TABnCCR3レジスタの設定値 (0000H-FFFFH)

2. インターバル時間 = (D_{mk} + 1) × (カウント・クロック周期)

3. n = 0-2, m = 0-3, k = 1, 2

図13-7 インターバル・タイマ・モード時の基本動作タイミング (2/2)

(b) D01 = D31, TABnCCR1 レジスタのみ値を書き換え, TOABnm 出力ありの場合
(TABnOE_m = 1, TABnOL_m = 0)



- 備考1.**
- 1. D₀₁ : TABnCCR0レジスタの設定値 (0000H-FFFFH)
 - 2. D₁₁, D₁₂ : TABnCCR1レジスタの設定値 (0000H-FFFFH)
 - 3. D₂₁ : TABnCCR2レジスタの設定値 (0000H-FFFFH)
 - 4. D₃₁ : TABnCCR3レジスタの設定値 (0000H-FFFFH)
2. インターバル時間 = (Dmk + 1) × (カウント・クロック周期)
3. n = 0-2, m = 0-3, k = 1, 2

13.5.3 外部イベント・カウント・モード (TABnMD2-TABnMD0 = 001)

外部イベント・カウント・モードでは外部イベント・カウント入力 (TIABn0端子入力) をカウント・アップ信号として動作させます。TABnCTL0レジスタのTABnEEEビットの設定にかかわらず外部イベント・カウント・モードに設定すると外部イベント・カウント入力(TIABn0端子入力)によりカウント・アップをおこないます。

外部イベント・カウント・モードではTABnCCR0レジスタの設定値 (CCR0バッファ・レジスタの値) と16ビット・カウンタ値の一致で一致割り込み要求 (INTTABnCC0) を発生し16ビット・カウンタの値をクリアします。

TABnCCRmレジスタに値を設定すると随时書き込みにより, CCRmバッファ・レジスタに転送され, 16ビット・カウンタ値との比較対象値となります。

TABnCCRkレジスタを使用しての16ビット・カウンタのクリア動作は行いません。

ただし, TABnCCRkレジスタ設定値はCCRkバッファ・レジスタに転送され, 16ビット・カウンタと比較されることで, 割り込み要求 (INTTABnCCK) が発生します。

また, TABnOEkビットを1に設定することにより, TOABnk端子出力も可能です。TOABn0端子は使用できません。TABnCCRkレジスタを使用しない場合はTABnCCRkの設定値はFFFFHを設定してください。

注意 外部イベント・カウント・モード時, TABnCCR0レジスタには0000Hを設定しないでください。

備考1. タイマ動作中 (TABnCE = 1) のときのTABnCCR0-TABnCCR3の書き換えについては13.5.1(1)
随时書き込みを参照してください。

2. n = 0-2, m = 0-3, k = 1-3

図13-8 外部イベント・カウント・モード時の基本動作フロー・チャート

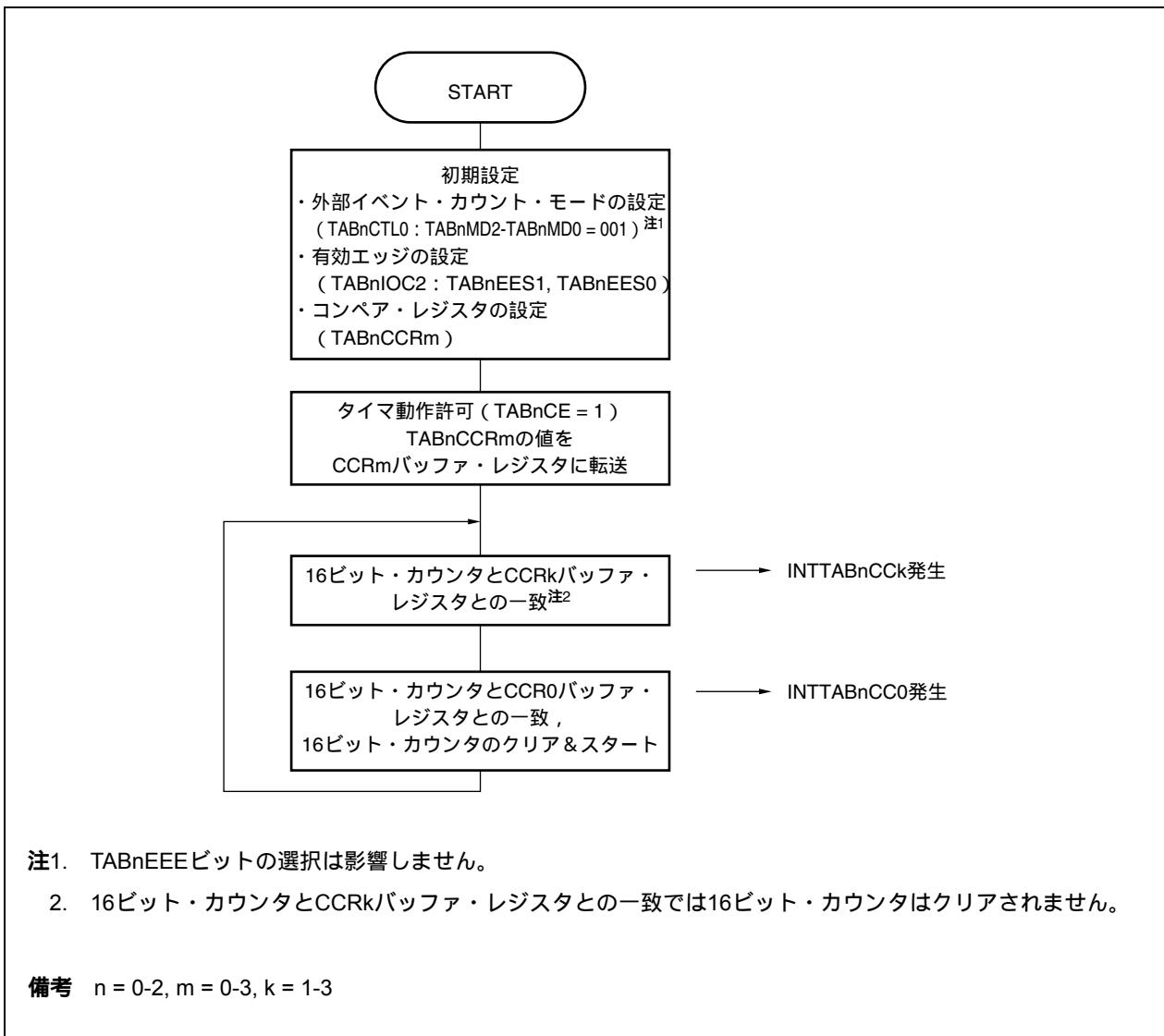


図13-9 外部イベント・カウント・モード時の基本動作タイミング (1/2)

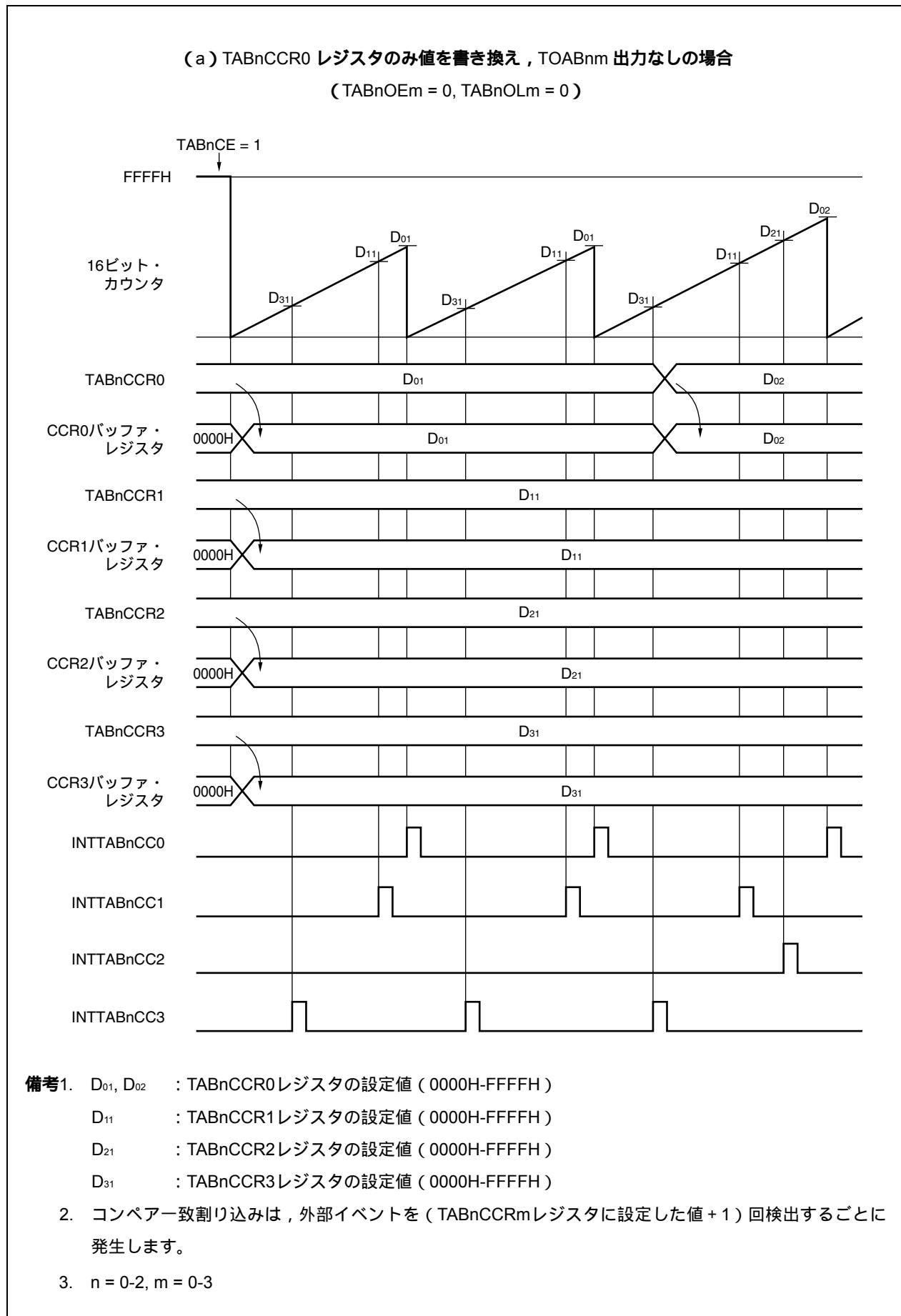
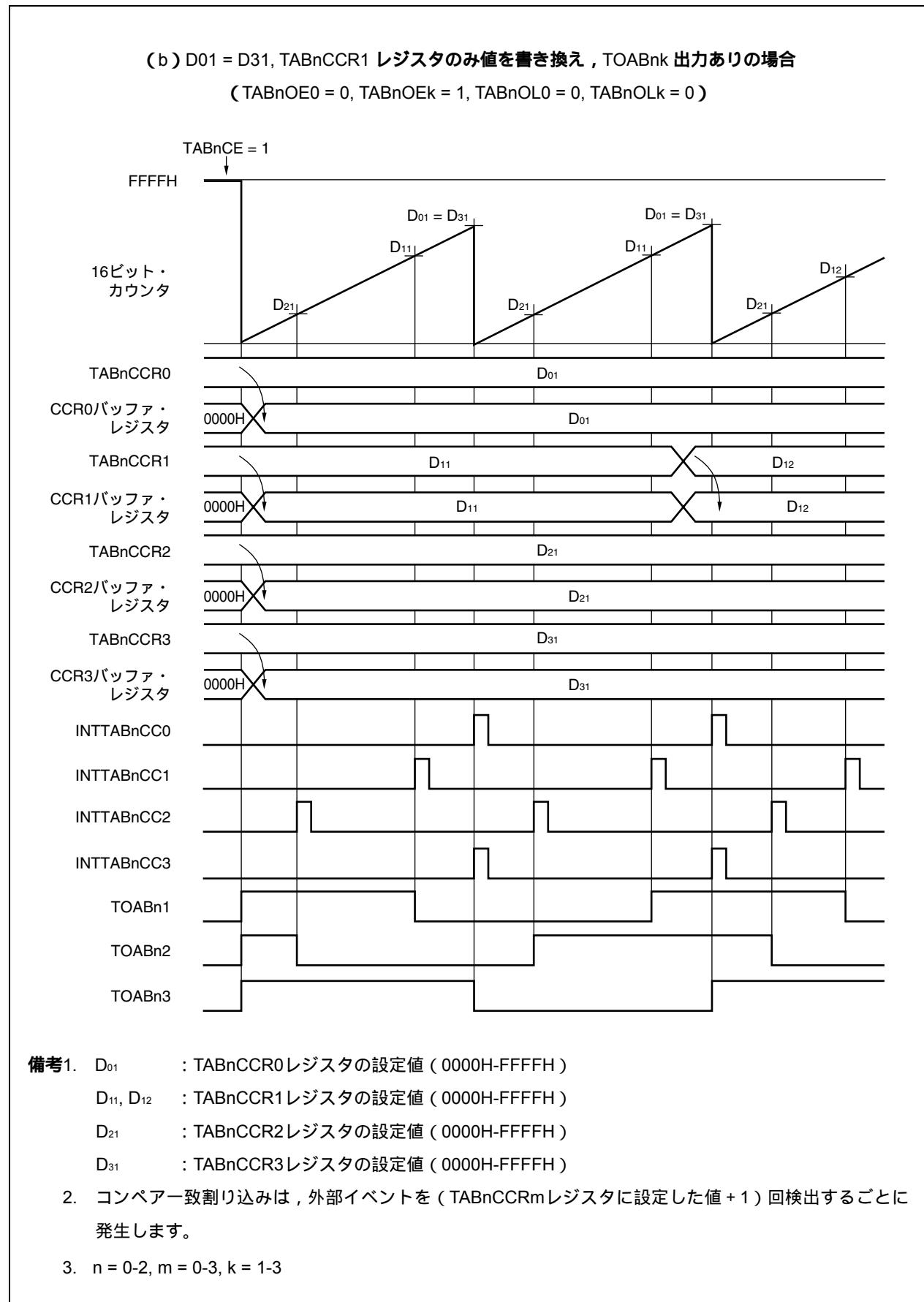


図13-9 外部イベント・カウント・モード時の基本動作タイミング (2/2)



13.5.4 外部トリガ・パルス出力モード (TABnMD2-TABnMD0 = 010)

外部トリガ・パルス出力モードではTABnCE = 1にすると、16ビット・カウンタはFFFFHで停止したまま、外部トリガ入力 (TIABn0端子入力) 待ちとなります。外部トリガ入力 (TIABn0端子入力) のエッジを検出するとカウント・アップを開始します。

TOABnk出力制御についてデューティ用の設定レジスタはリロード・レジスタ (TABnCCRk) とし周期用の設定レジスタはコンペア・レジスタ (TABnCCR0) で行います。

TABnCCRmレジスタはTABnCE = 1時書き換えを許可しています。

タイマABを停止するにはTABnCE = 0にしてください。外部トリガ・パルス出力モード中に複数回、外部トリガ (TIABn0 端子入力) のエッジ検出がされると、エッジ検出したタイミングで16ビット・カウンタはクリアされ、カウント・アップを再開すると同時にTOABn0端子は初期化されます。なお、外部トリガ入力 (TIABn0 端子入力) の代わりにソフトウェア・トリガを使用して、外部トリガ・パルス・出力モードと同じ機能 (ソフトウェア・トリガ・パルス・モード) を実現するには、TABnCTL1レジスタのTABnESTビットを1にセットすることにより、ソフトウェア・トリガが発生します。外部トリガ・パルスの波形はTOABnkから出力します。

外部トリガ・パルス出力モード時、TABnCCRmレジスタはコンペア・レジスタとして機能が固定されるため、キャプチャ機能は使用できません。

注意 外部トリガ・パルス出力モード時、カウント・クロックは内部クロック (TABnCTL1レジスタのTABnEEE = 0) を選択してください。

備考1. タイマ動作中 (TABnCE = 1) のときのTABnCCR0-TABnCCR3の書き換えについては13.5.1(2) リロードを参照してください。

2. n = 0-2, m = 0-3, k = 1-3

図13-10 外部トリガ・パルス出力モード時の基本動作フロー・チャート

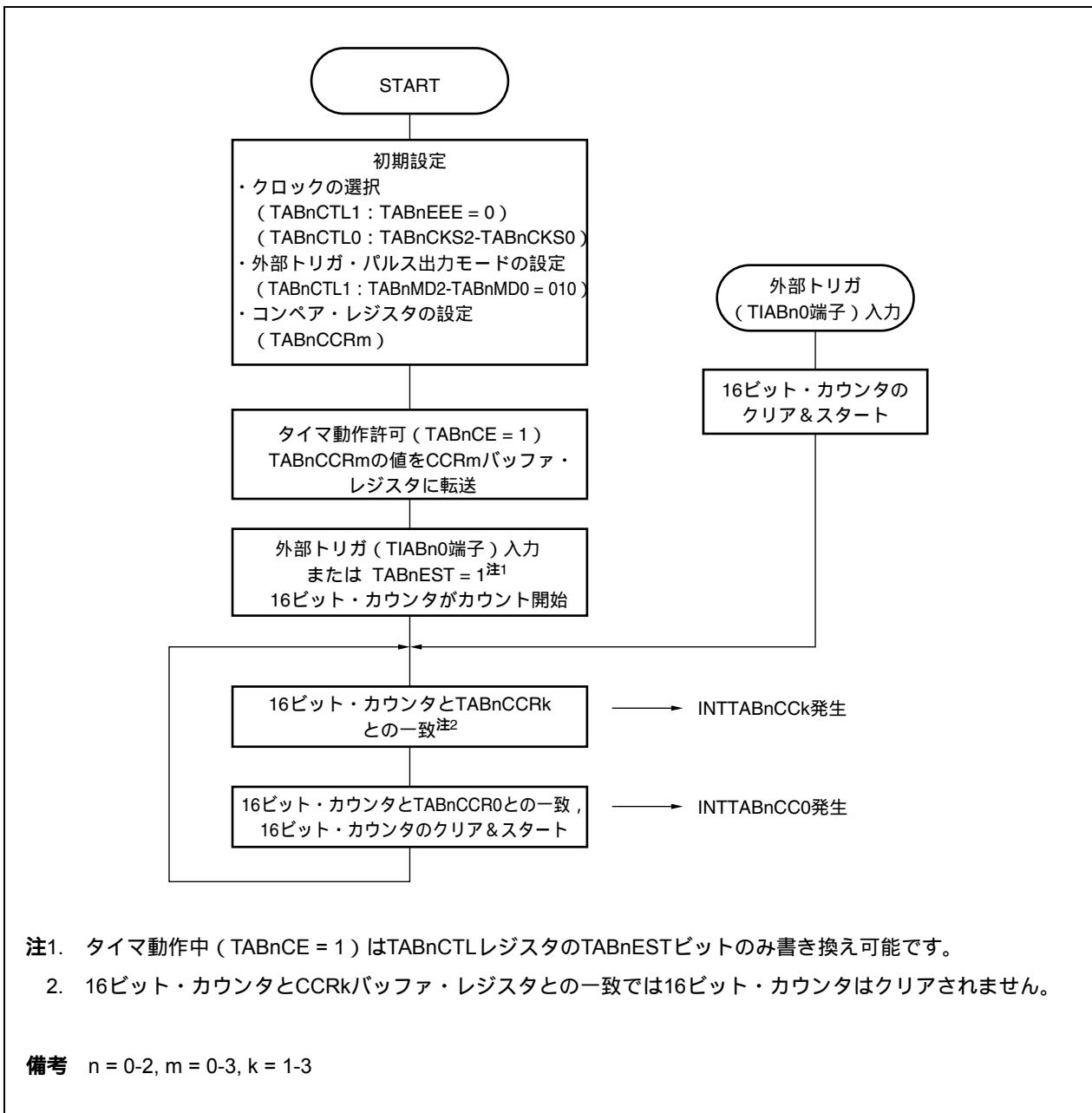
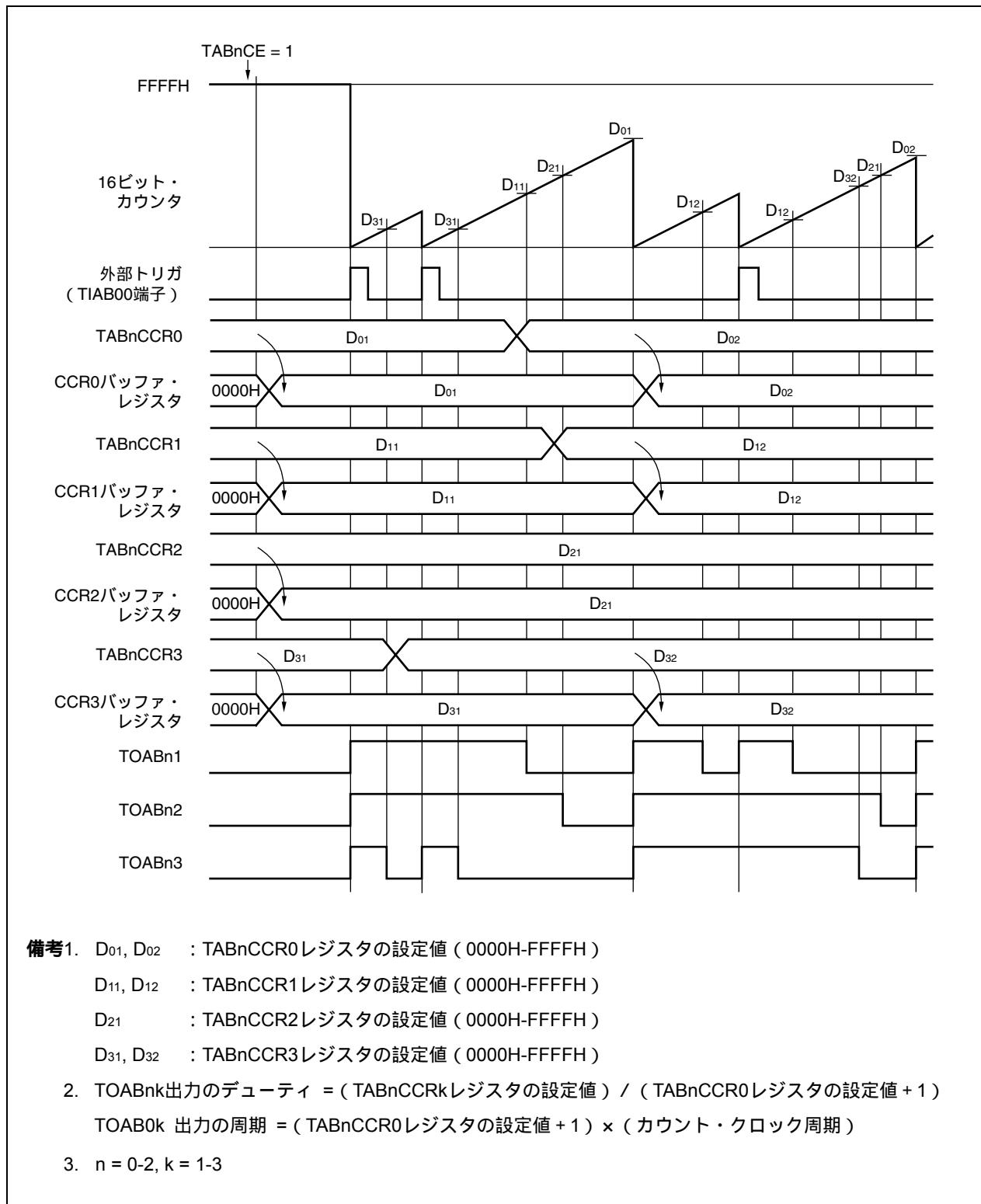


図13-11 外部トリガ・パルス出力モード時の基本動作タイミング

(TABnOE0 = 0, TABnOEK = 1, TABnOL0 = 0, TABnOLk = 0)



13.5.5 ワンショット・パルス・モード (TABnMD2-TABnMD0 = 011)

ワンショット・パルス・モードではTABnCE = 1にすると、16ビット・カウンタはFFFFHを保持したままTABnESTビットのセット(1)もしくはTIABn0端子エッジ検出のトリガ待ちとなります。トリガを入力すると16ビット・カウンタがカウント・アップを開始し、16ビット・カウンタの値とTABnCCRkレジスタから転送されたCCRkバッファ・レジスタの値が一致するとTOABnkがハイ・レベルとなり16ビット・カウンタの値とTABnCCR0レジスタから転送されたCCR0バッファ・レジスタの値が一致するとTOABnkはロウ・レベルとなり16ビット・カウンタは0000Hにクリアされ停止します。16ビット・カウンタ動作中に2回以上のトリガを入力しても無視されます。2回目のトリガは必ず16ビット・カウンタが0000Hに停止しているタイミングに入力してください。ワンショット・パルス・モードではTABnCE = 1時、TABnCCRmレジスタの書き換えを許可しています。TABnCCRmレジスタに値を設定すると随时書き込みにより、CCRmバッファ・レジスタに転送され、16ビット・カウンタ値との比較対象値となります。

ワンショット・パルスの波形はTOABnk端子から出力します。TOABnm端子からは、タイマ・カウンタがカウントを行っている期間アクティブ・レベルを出力します。アクティブ・レベルはTABnOL0ビットによって設定します。

- 注意1.** ワンショット・パルス・モード時、カウント・クロックは内部クロック (TABnCTL1レジスタのTABnEEE = 0) を選択してください。
- 2. ワンショット・パルス・モード時、TABnCCRmレジスタはコンペア・レジスタとして機能が固定されるので、キャプチャ・レジスタとしての機能は使用できません。
- 3. ワンショット・パルス・モードにおいてTABnCCRkの設定値がTABnCCR0の設定値より大きい場合、ワンショット・パルスは出力しません。

- 備考1.** タイマ動作中 (TABnCE = 1) のときのTABnCCR0-TABnCCR3の書き換えについては13.5.1(1)
随时書き込みを参照してください。

2. n = 0-2, m = 0-3, k = 1-3

図13-12 ワンショット・パルス・モード時の基本動作フロー・チャート

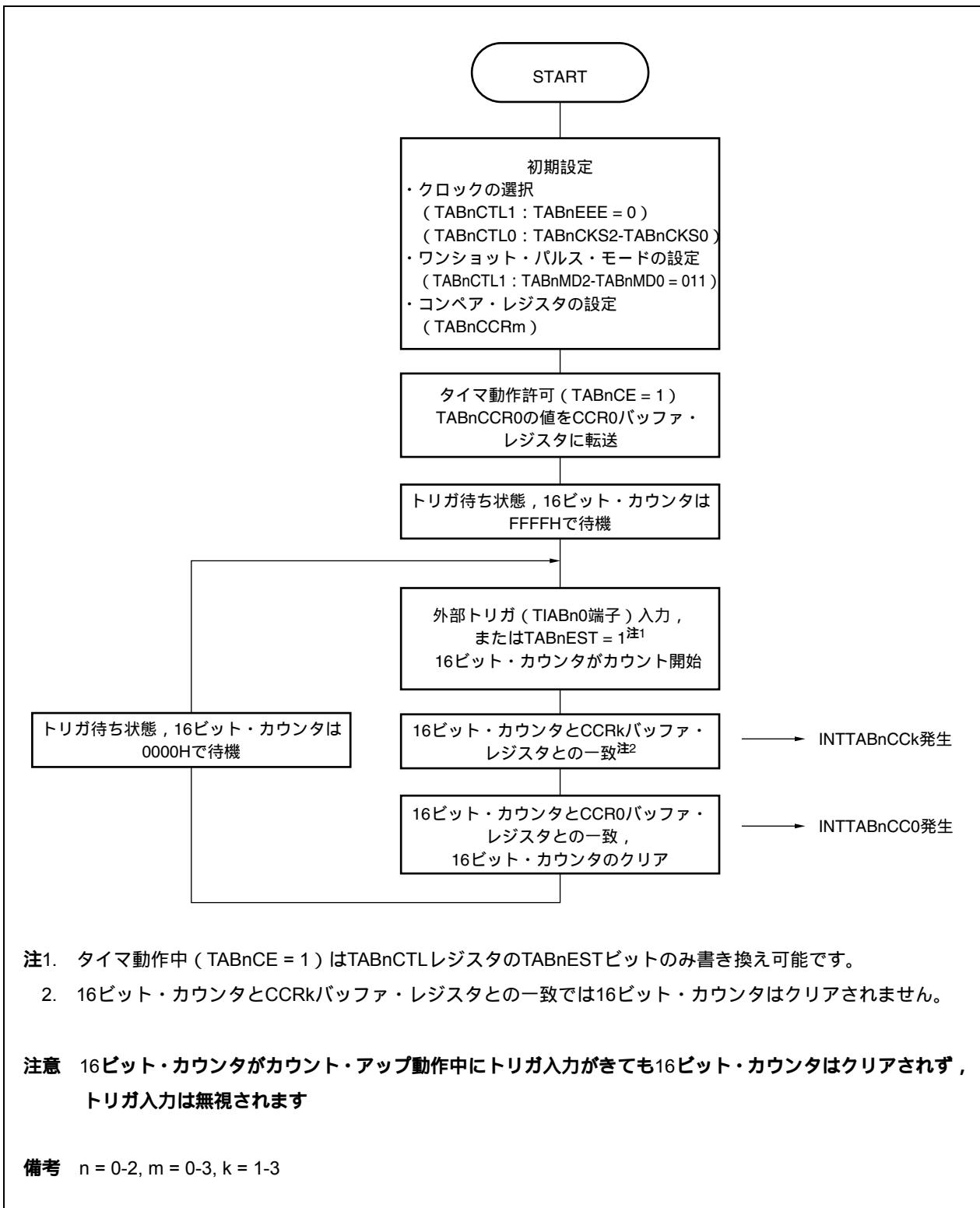
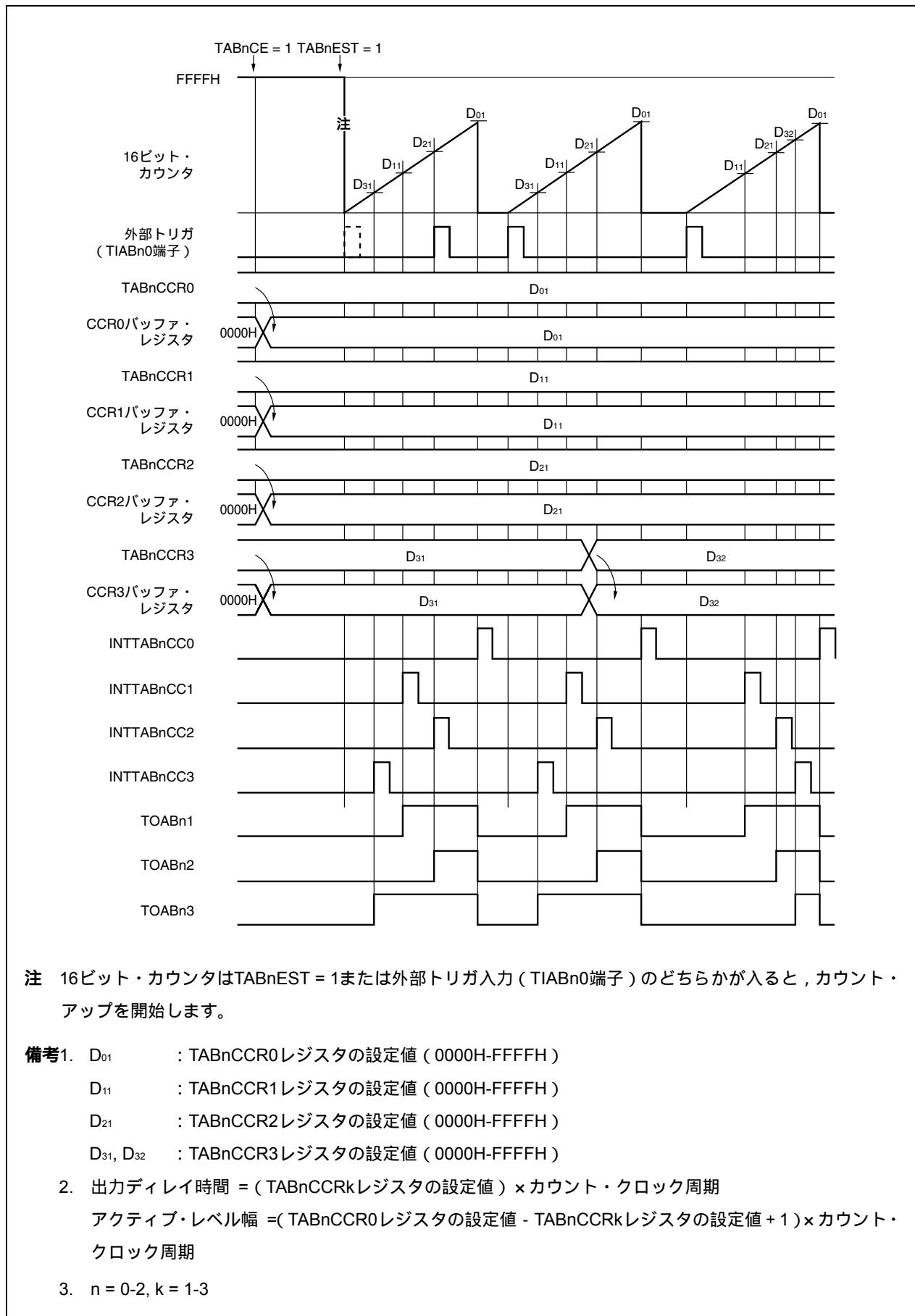


図13-13 ワンショット・パルス・モード時の基本動作タイミング

(TABnOE0 = 0, TABnOEK = 1, TABnOL0 = 0, TABnOLk = 0)



13.5.6 PWMモード (TABnMD2-TABnMD0 = 100)

PWMモードではデューティ用の設定レジスタはTABnキャプチャ/コンペア・レジスタk (TABnCCRk) とし、周期用の設定レジスタはTABnキャプチャ/コンペア・レジスタ0 (TABnCCR0) となります。

この4つのレジスタを設定し、タイマを動作させることでデューティ可変型のPWMを出力します。

TABnCCRmレジスタはTABnCE = 1時の書き換えを許可しています。

タイマABを停止するにはTABnCE = 0にしてください。PWMの波形出力はTOABnk端子から出力します。TOABn0端子は16ビット・カウンタとTABnCCR0レジスタとの一致で、PWM周期を半周期とするパルスを出力します。

注意 PWMモード時、TABnCCRmレジスタはコンペア・レジスタとして機能が固定されるためキャプチャ・レジスタとしての機能は使用できません。

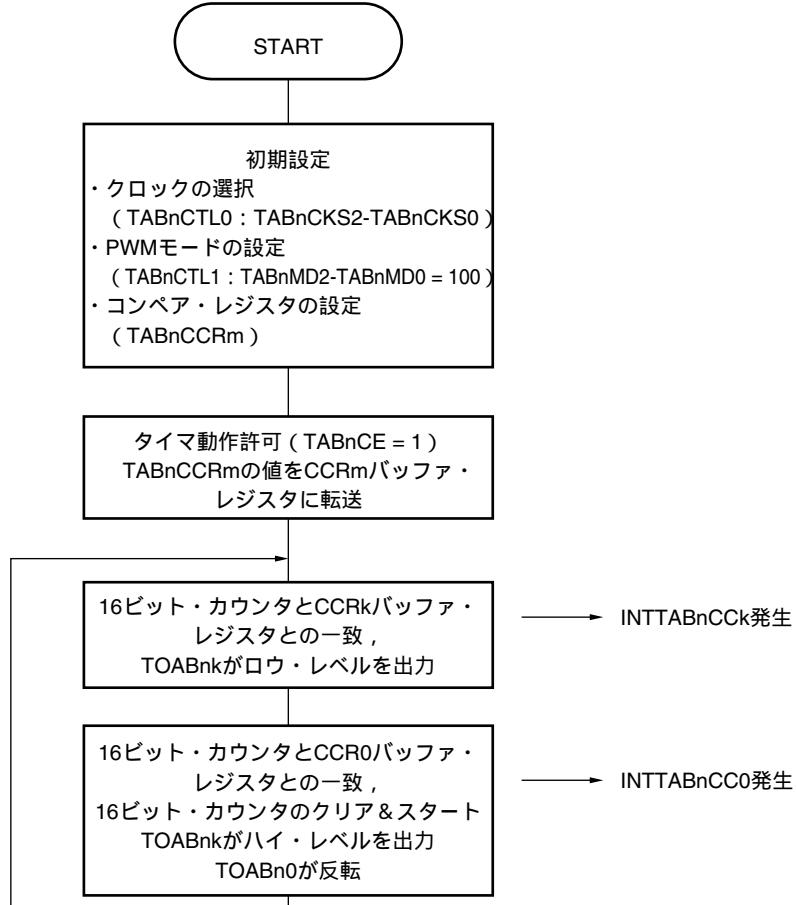
備考 1. タイマ動作中 (TABnCE = 1) のときのTABnCCR0-TABnCCR3の書き換えについては13.5.1(2)リロードを参照してください。

2. n = 0-2, m = 0-3, k = 1-3

(1) PWMモード動作フロー

図13-14 PWMモード時の基本動作フロー・チャート(1/2)

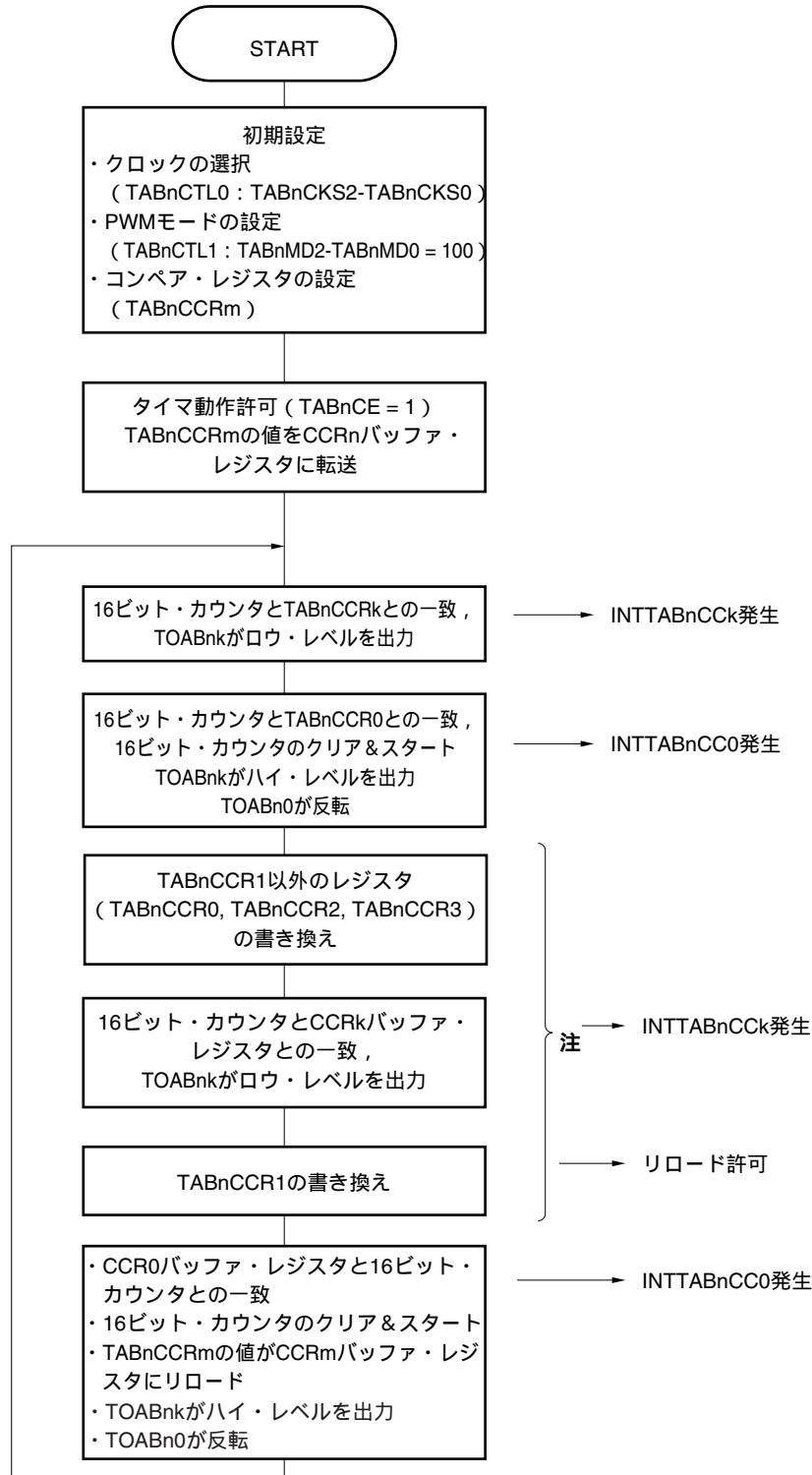
(a) タイマ動作中に TABnCCRm レジスタの値を書き換えなかった場合



備考 n = 0-2, m = 0-3, k = 1-3

図13-14 PWMモード時の基本動作フロー・チャート(2/2)

(b) タイマ動作中に TABnCCRm の値を書き換えた場合



注 順番は、
、
の書き換えタイミング、TABnCCRkの値などにより
のタイミングが異なる場合があります
が、
と
では必ず
を最後にしてください。

備考 n = 0-2, m = 0-3, k = 1-3

(2) PWMモード動作タイミング

(a) 動作中のパルス幅の変更

動作中にPWM波形を変更する場合には、最後にTABnCCR1レジスタにライトしてください。

TABnCCR1レジスタにライト後、再度TABnCCRkレジスタの書き換えを行う場合には、INTTABnCC1信号を検出後に書き換えてください。

図13-15 PWMモード時の基本動作タイミング(1/2)

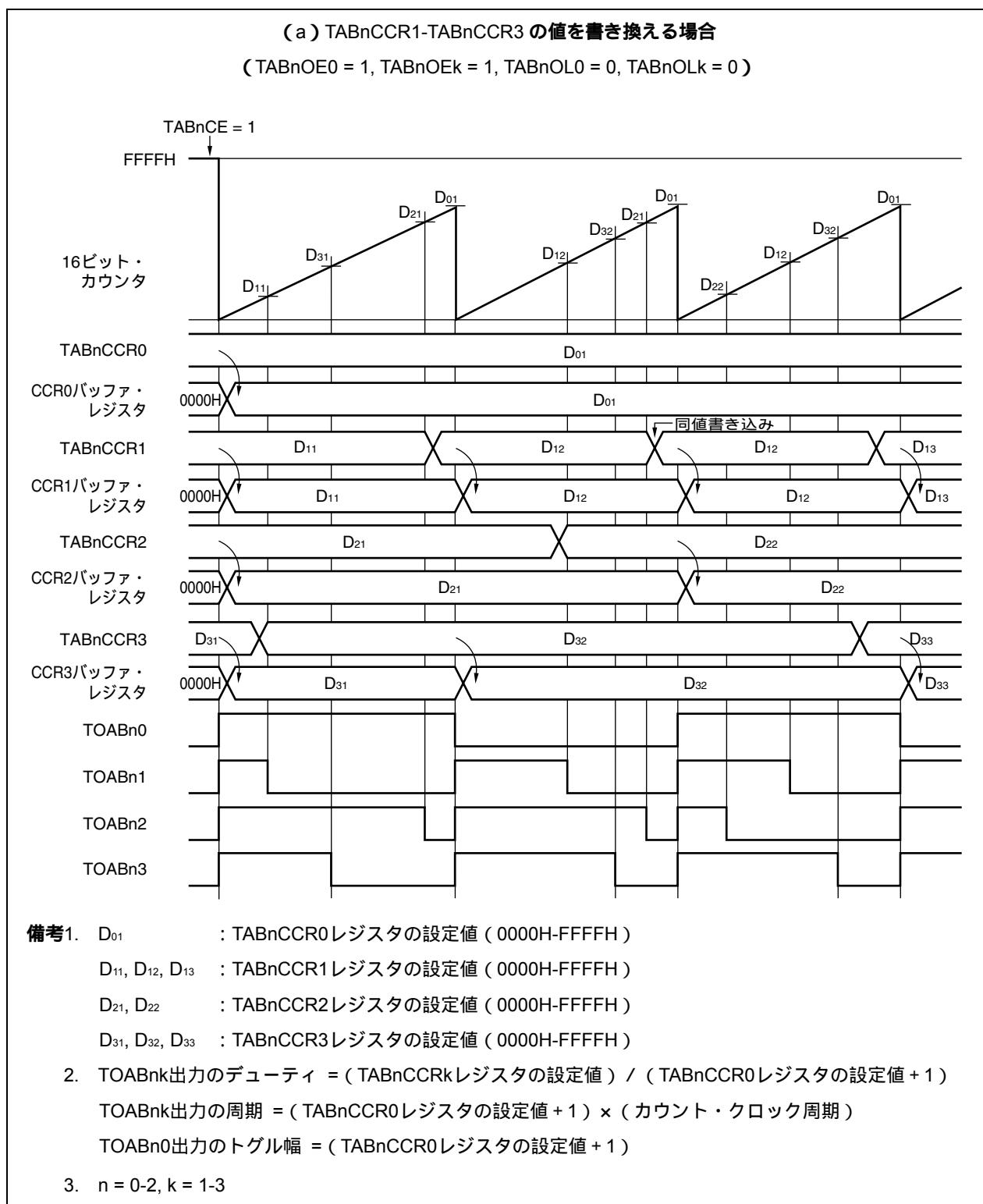
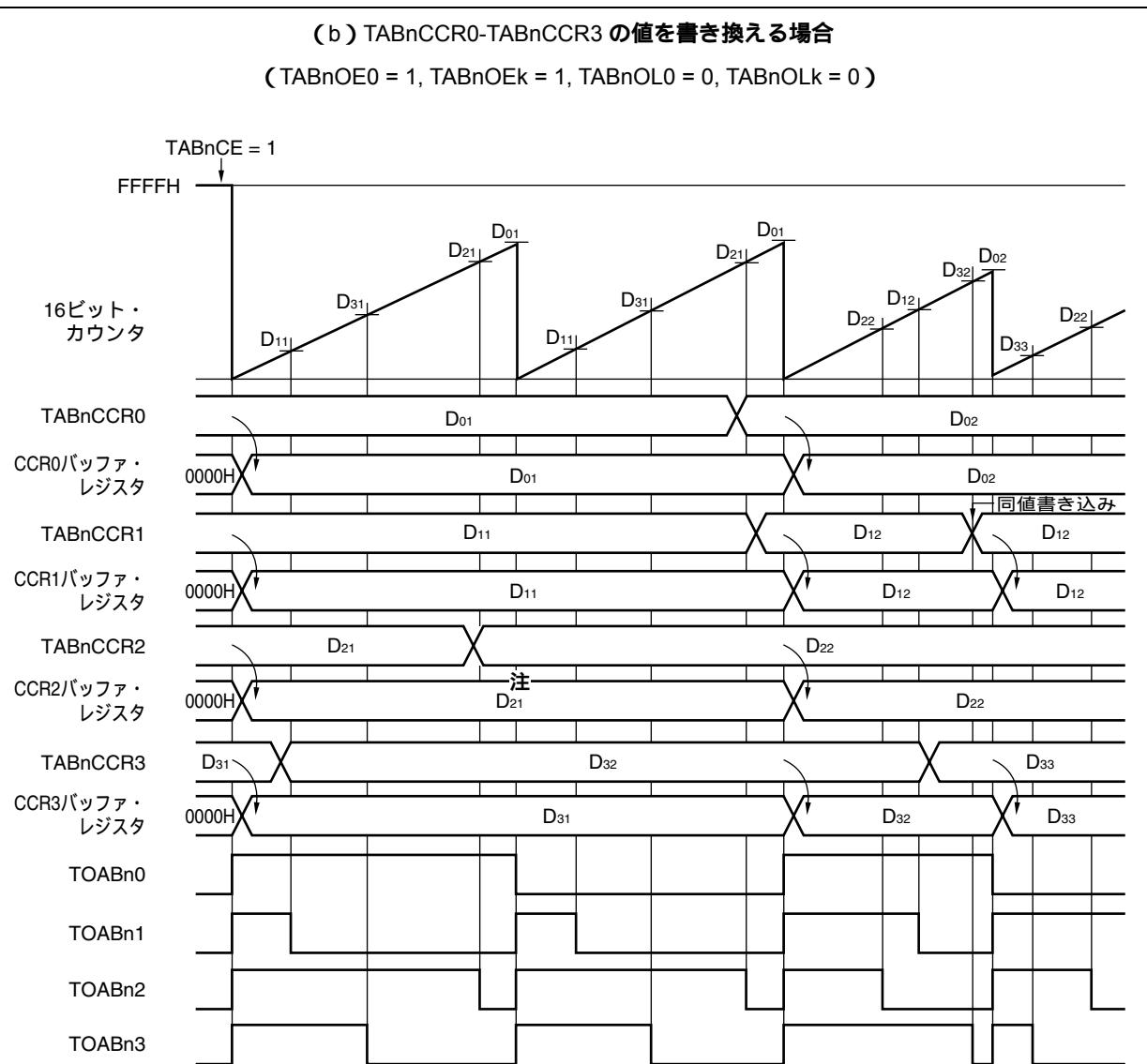


図13-15 PWMモード時の基本動作タイミング(2/2)



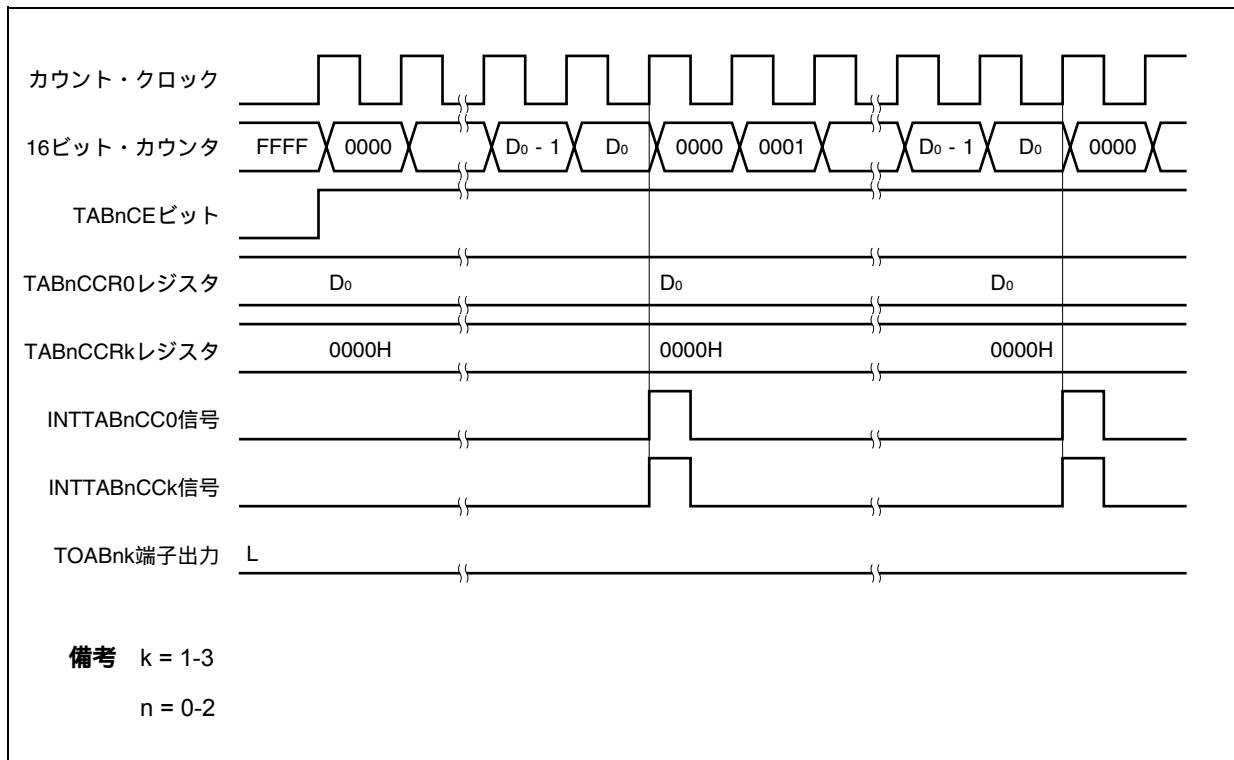
注 TABnCCR1レジスタの書き込みがなかったためリロードしません。

- 備考**

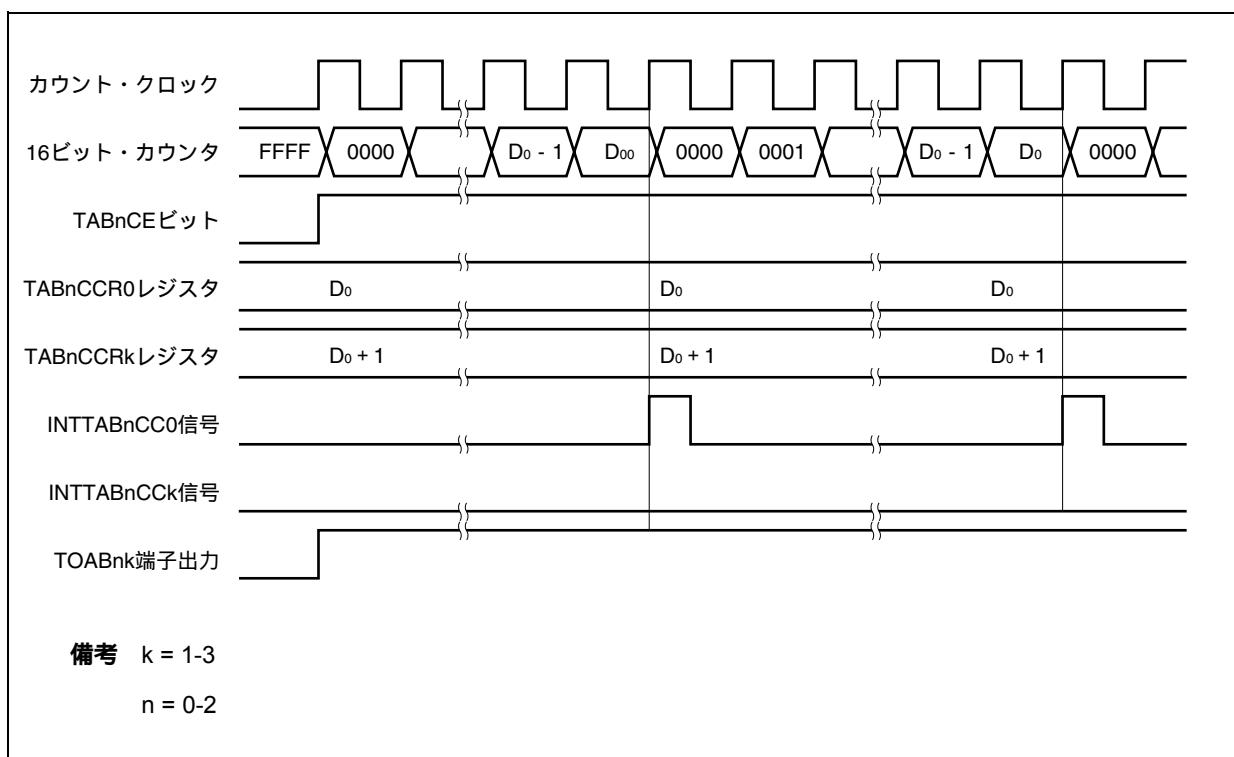
 1. D_{01}, D_{02} : TABnCCR0レジスタの設定値 (0000H-FFFFH)
 D_{11}, D_{12} : TABnCCR1レジスタの設定値 (0000H-FFFFH)
 D_{21}, D_{22} : TABnCCR2レジスタの設定値 (0000H-FFFFH)
 D_{31}, D_{32}, D_{33} : TABnCCR3レジスタの設定値 (0000H-FFFFH)
 2. TOABn k 出力のデューティ = (TABnCCR k レジスタの設定値) / (TABnCCR0レジスタの設定値 + 1)
TOABn出力の周期 = (TABnCCR0レジスタの設定値 + 1) × (カウント・クロック周期)
TOABn0出力のトグル幅 = (TABnCCR0レジスタの設定値 + 1) × (カウント・クロック周期)
 3. $n = 0\text{-}2, k = 1\text{-}3$

(b) PWM 波形の 0 % / 100 %出力

0 %波形を出力するためには、TABnCCRkレジスタに対して0000Hを設定します。ただし、TABnCCR0レジスタの設定値がFFFFHの場合には、INTTABnCCk信号が定期的に発生します。



100 % 波形を出力するためには、TABnCCRkレジスタに対して (TABnCCR0レジスタの設定値 + 1) の値を設定してください。TABnCCR0レジスタの設定値がFFFFHの場合には、100 %出力はできません。



13.5.7 フリー・ランニング・モード (TABnMD2-TABnMD0 = 101)

フリー・ランニング・モードは、16ビット・カウンタをフリー・ランニングさせTABnOPT0レジスタのTABnCCS3-TABnCCS0ビットの設定によりコンペア・レジスタまたはキャプチャ・レジスタの選択ができます。

フリー・ランニング・モード時のみ、TABnOPT0レジスタのTABnCCS3-TABnCCS0ビットの設定が有効となります。

注意 フリー・ランニング・モード時はコンペア・レジスター一致によるカウンタ・クリア動作は行いません。

TABnCCSm	動作
0	TABnCCRmレジスタをコンペアとして使用
1	TABnCCRmレジスタをキャプチャとして使用

- TABnCCRmレジスタをコンペア・レジスタとして使用した場合

フリー・ランニング・モードで16ビット・カウンタとCCRmバッファ・レジスタの一致で割り込みが発生します。

TABnCCRmレジスタはTABnCE = 1のときに書き換えを許可しており、TABnCCRmレジスタに値を設定すると随時書き込みによりCCRmバッファ・レジスタに転送され、16ビット・カウンタ値との比較対象値となります。

タイマ出力 (TOABnm) を許可した場合、TOABnm出力は16ビット・カウンタとCCRmバッファ・レジスタの一致でトグル出力します。

- TABnCCRmレジスタをキャプチャ・レジスタとして使用した場合

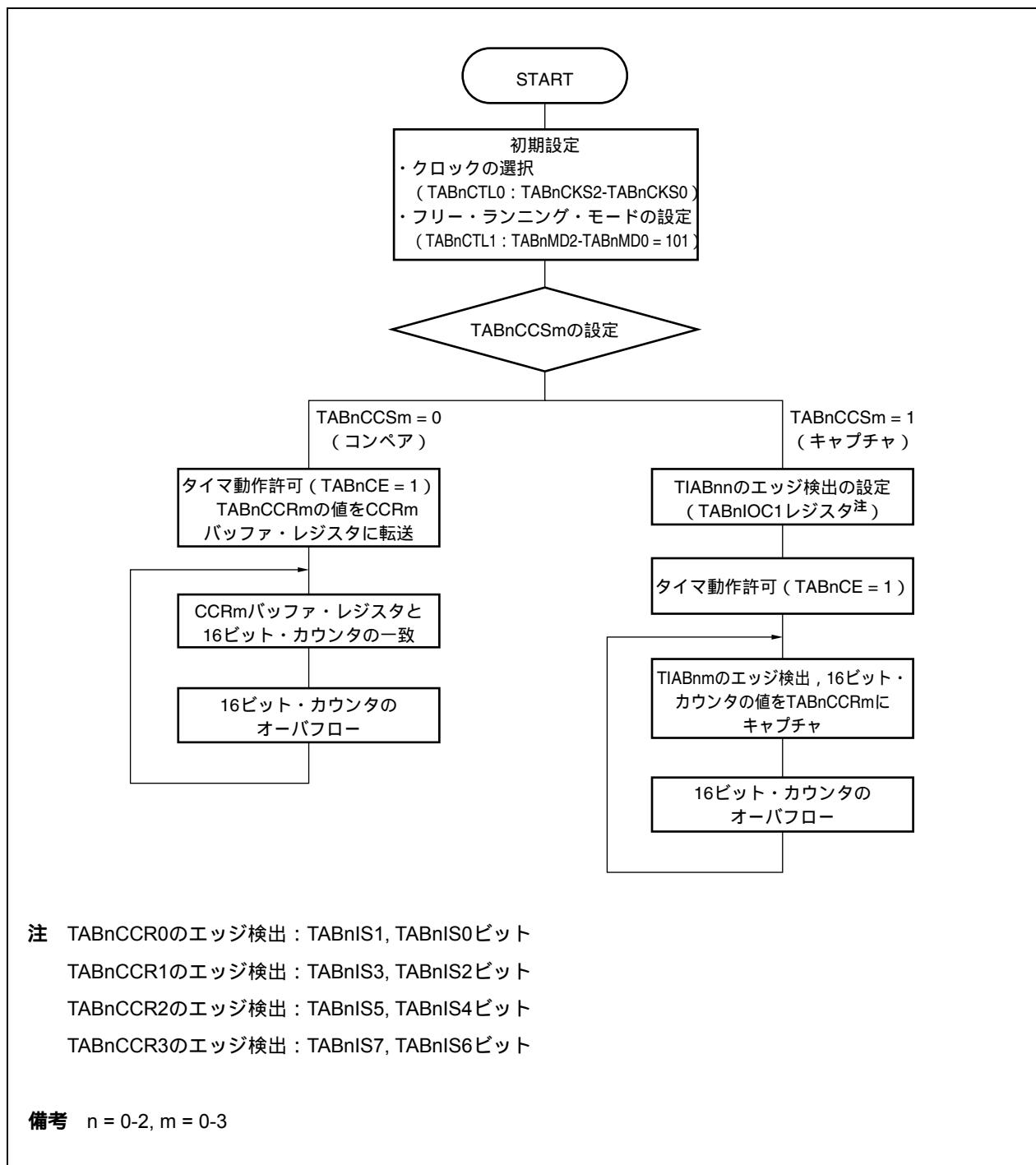
TIABnm端子のエッジ検出により16ビット・カウンタの値をTABnCCRmレジスタに格納します。

注意 TABnCTL1レジスタのTABnEEEビット = 1にしカウント・クロックを外部イベント・カウント入力としたとき、TABnCCR0レジスタはキャプチャ・レジスタとして使用できません。

備考1. タイマ動作中(TABnCE = 1)のときのTABnCCR0-TABnCCR3の書き換えについては13.5.1(1)
随時書き込みを参照してください。

2. n = 0-2, m = 0-3

図13-16 フリー・ランニング・モード時の基本動作フロー・チャート



(1) TABnCCSm = 0に設定した場合（コンペア機能の説明）

TABnCE = 1にすると、16ビット・カウンタは0000HからFFFFHまでカウントしTABnCE = 0にするまでフリー・ランニングでカウント・アップを継続します。このモードでTABnCCRmレジスタに値を書き込むとCCRmバッファ・レジスタに転送されます（随時書き込み）。このモードにおいて、ワンショット・パルス・トリガが入力されてもワンショット・パルスは発生しません。またTABnOEm = 1にすると16ビット・カウンタの値とCCRmバッファ・レジスタの設定値の一致でTOABnmがトグル出力します。

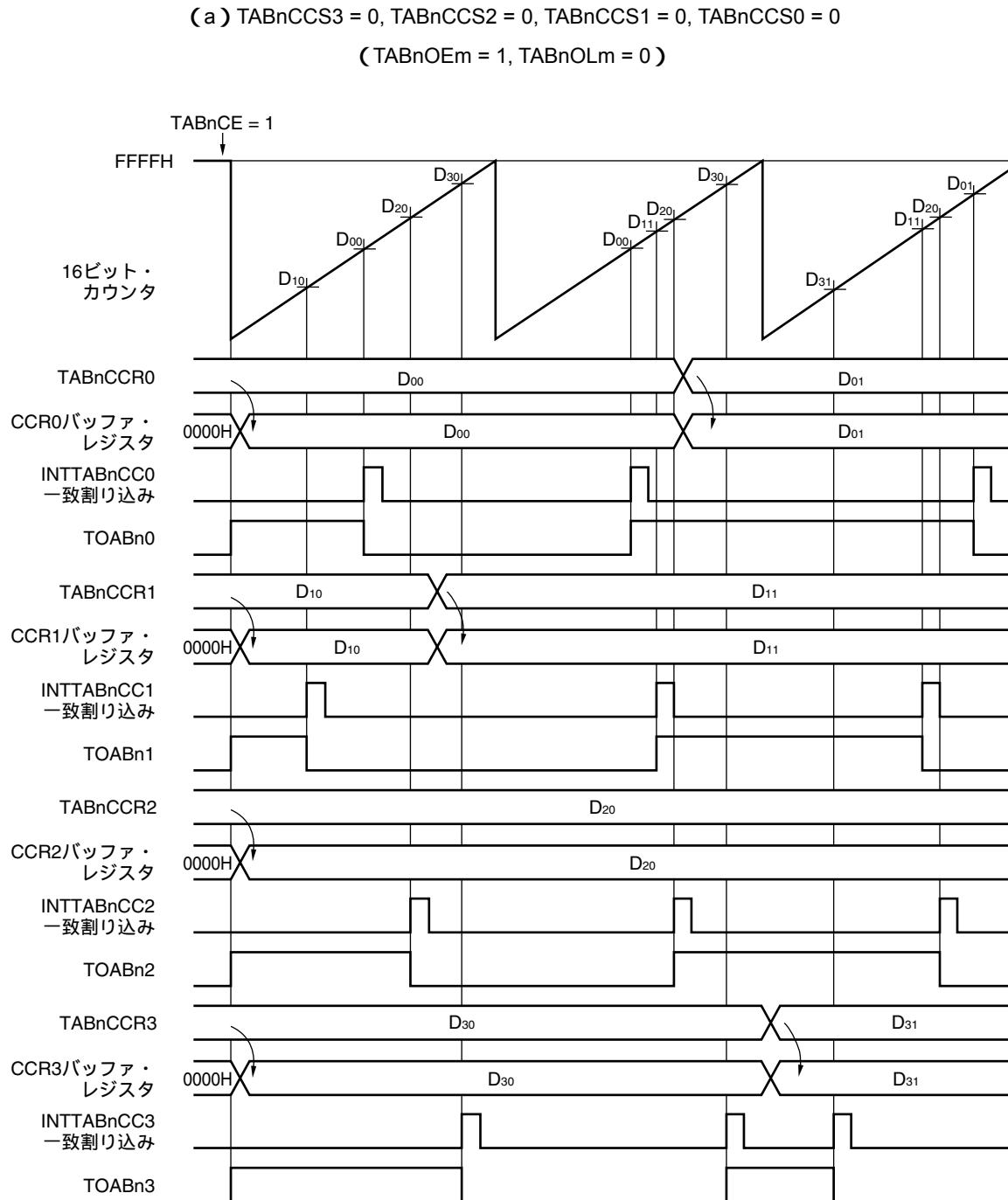
(2) TABnCCSm = 1に設定した場合（キャプチャ機能の説明）

TABnCE = 1にすると、16ビット・カウンタは0000HからFFFFHまでカウントしTABnCE = 0にするまでフリー・ランニングでカウント・アップを継続します。その間キャプチャ・トリガによりキャプチャしキャプチャした値をTABnCCRmレジスタに書き込みます。

オーバフロー（FFFFH）近辺のキャプチャについてはオーバフロー・フラグ（TABnOVF）で判断します。ただしオーバフローが2回発生する（フリー・ランニングが2周期以上）とキャプチャ・トリガの間隔だとTABnOVFフラグでは判断できません。

備考 n = 0-2, m = 0-3

図13-17 フリー・ランニング・モード時の基本動作タイミング(1/4)



備考1. D₀₀, D₀₁ : TABnCCR0レジスタの設定値 (0000H-FFFFH)

D₁₀, D₁₁ : TABnCCR1レジスタの設定値 (0000H-FFFFH)

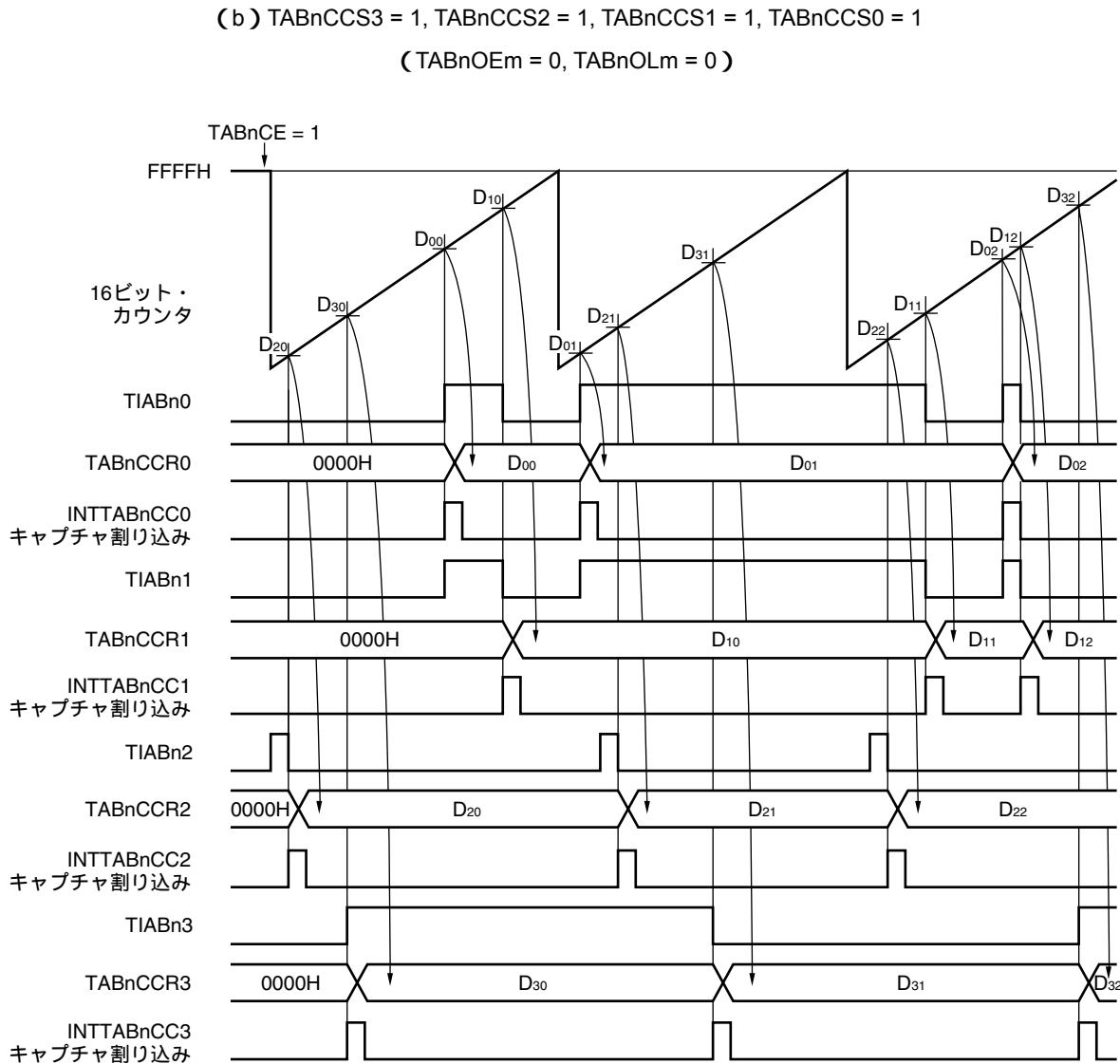
D₂₀ : TABnCCR2レジスタの設定値 (0000H-FFFFH)

D₃₀, D₃₁ : TABnCCR3レジスタの設定値 (0000H-FFFFH)

2. TOABnm出力はカウント・スタート時にハイ・レベルに立ち上がります。

3. $n = 0-2, m = 0-3$

図13-17 フリー・ランニング・モード時の基本動作タイミング (2/4)



- 備考1.**
- 1. D_{00}, D_{01}, D_{02} : TABnCCR0レジスタにキャプチャされた値 (0000H-FFFFH)
 - 2. D_{10}, D_{11}, D_{12} : TABnCCR1レジスタにキャプチャされた値 (0000H-FFFFH)
 - 3. D_{20}, D_{21}, D_{22} : TABnCCR2レジスタにキャプチャされた値 (0000H-FFFFH)
 - 4. D_{30}, D_{31}, D_{32} : TABnCCR3レジスタにキャプチャされた値 (0000H-FFFFH)
2. TIABn0 : 立ち上がりエッジを検出 (TABnIS1, TABnIS0 = 01) に設定
 TIABn1 : 立ち下がりエッジを検出 (TABnIS3, TABnIS2 = 10) に設定
 TIABn2 : 立ち下がりエッジを検出 (TABnIS5, TABnIS4 = 10) に設定
 TIABn3 : 両エッジを検出 (TABnIS7, TABnIS6 = 11) に設定
3. $n = 0\text{-}2, m = 0\text{-}3$

図13-17 フリー・ランニング・モード時の基本動作タイミング (3/4)

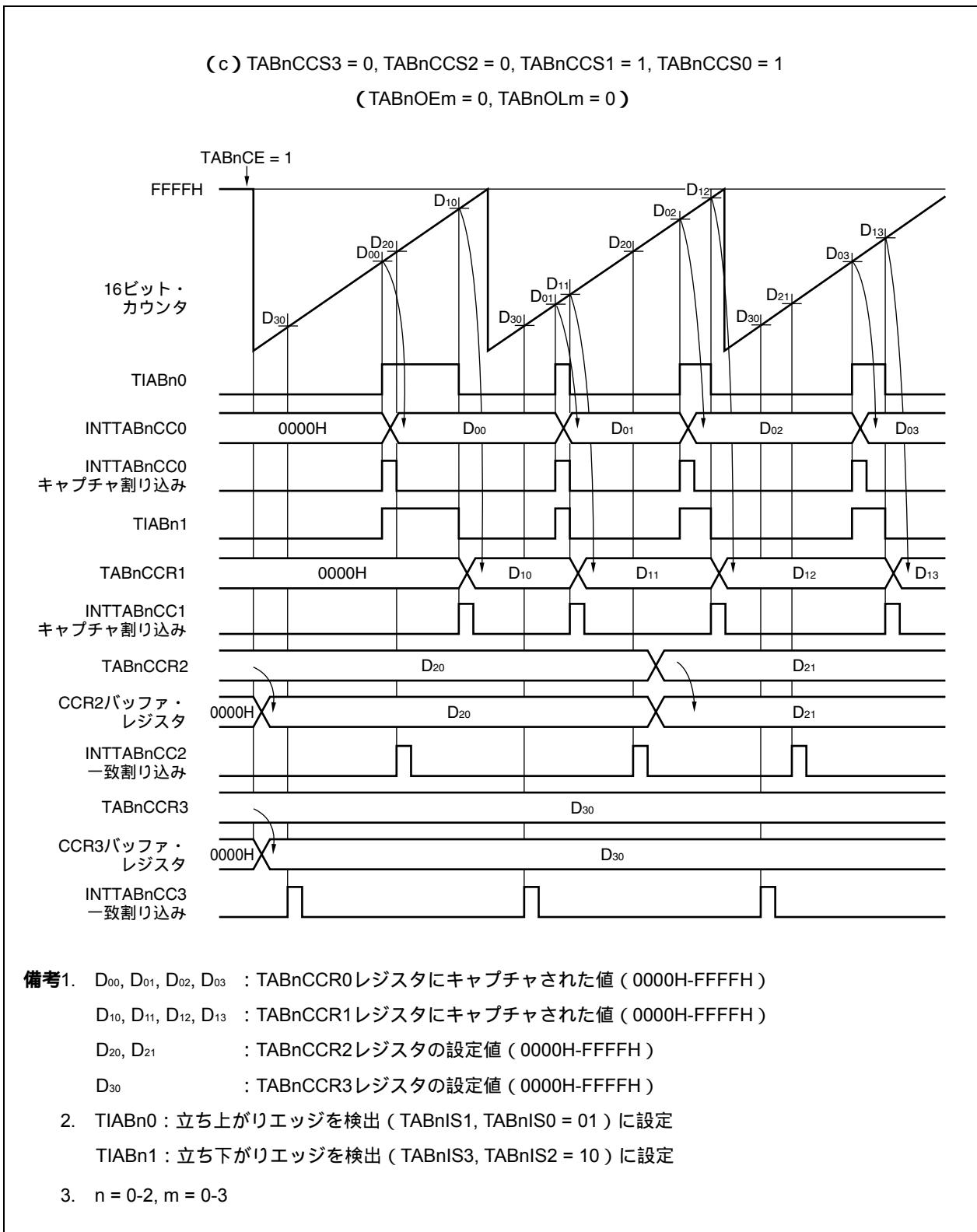
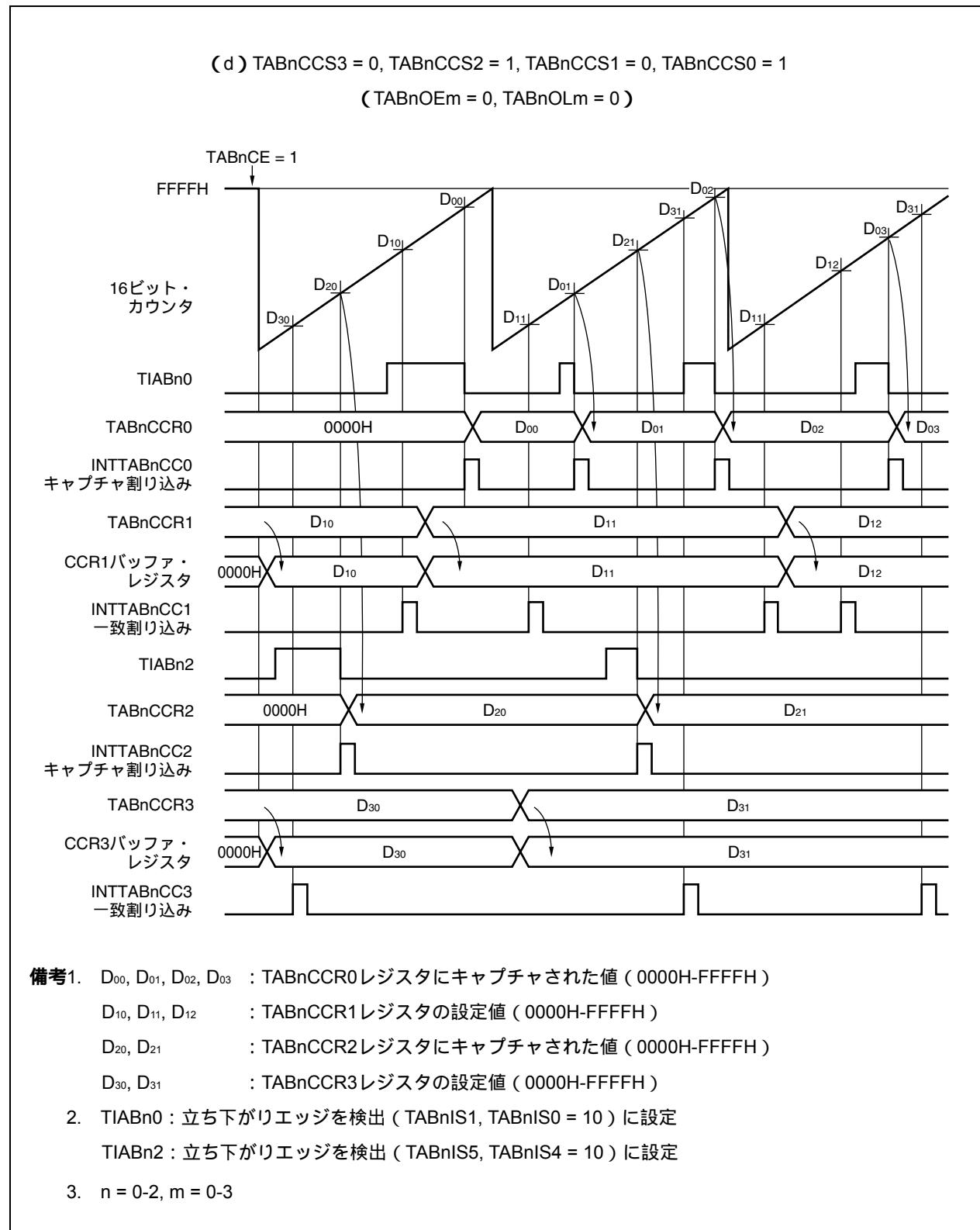


図13-17 フリー・ランニング・モード時の基本動作タイミング (4/4)



(3) オーバフロー・フラグについて

フリー・ランニング・モードにおいてカウンタがFFFFHから0000Hにオーバフローするとオーバフロー・フラグ (TABnOVF) が“1”にセットされ、オーバフロー割り込み (INTTABnOV) が発生します。オーバフロー・フラグについては、“0”を書き込むことによりクリアされます。

13.5.8 パルス幅測定モード (TABnMD2-TABnMD0 = 110)

パルス幅測定モードではフリー・ランニング・カウントを行い、TIABnmの立ち上がり / 立ち下がり両エッジ検出により16ビット・カウンタの値をキャプチャ・レジスタn (TABnCCRm) に格納し、16ビット・カウンタを0000Hにクリアします。これにより外部入力パルス幅を測定できます。

ただし、16ビット・カウンタのオーバフローを越えるような長いパルス幅を測定する場合は、オーバフロー・フラグで判断してください。オーバフローが2回以上生じるパルスの測定はオーバフロー割り込みを使用するなどして回数をカウントしてください。

注意 パルス幅測定モード時、カウント・クロックは内部クロック (TABnCTL1レジスタのTABnEEE = 0) を選択してください。

図13-18 パルス幅測定モードの基本動作フロー・チャート

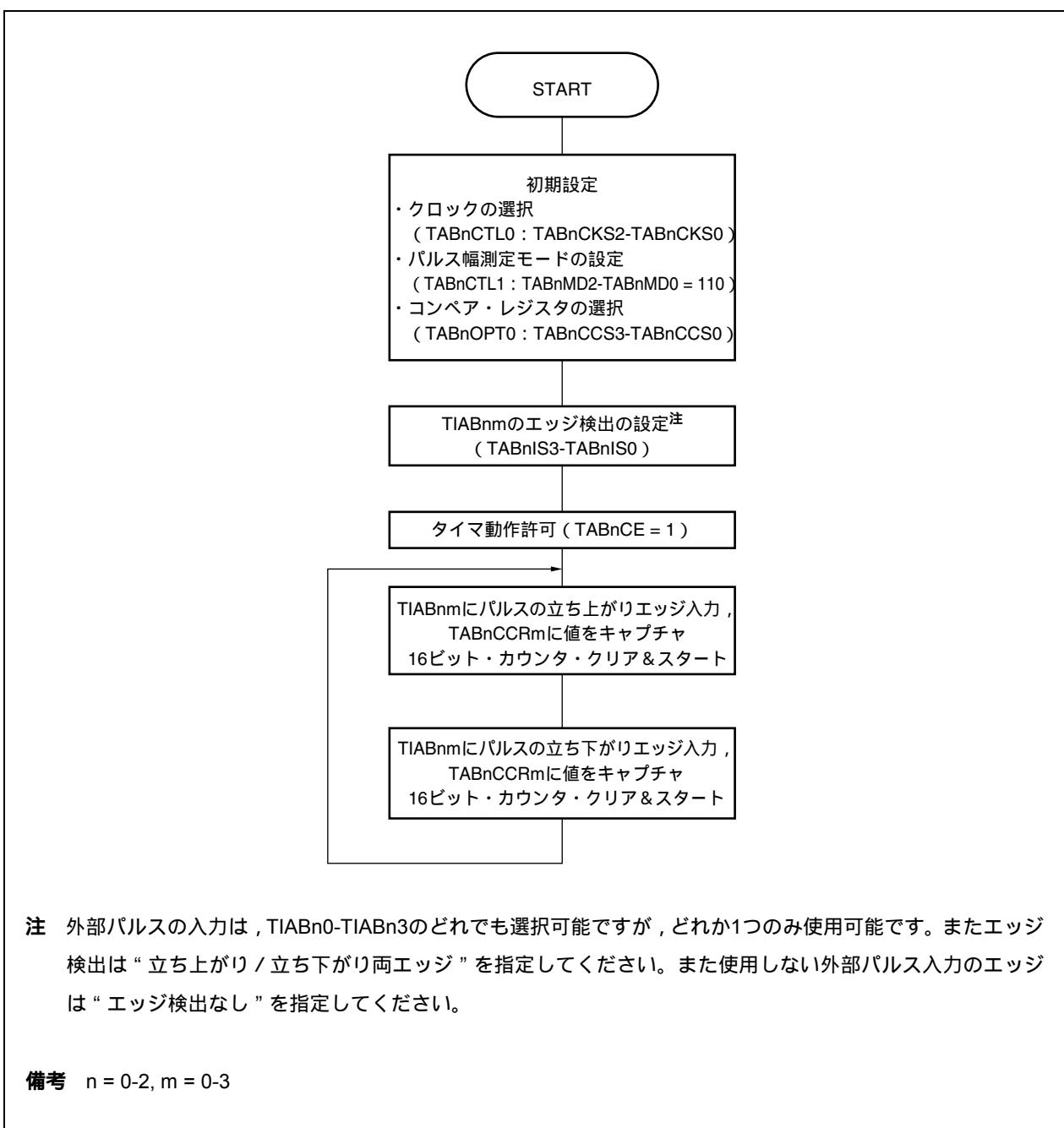
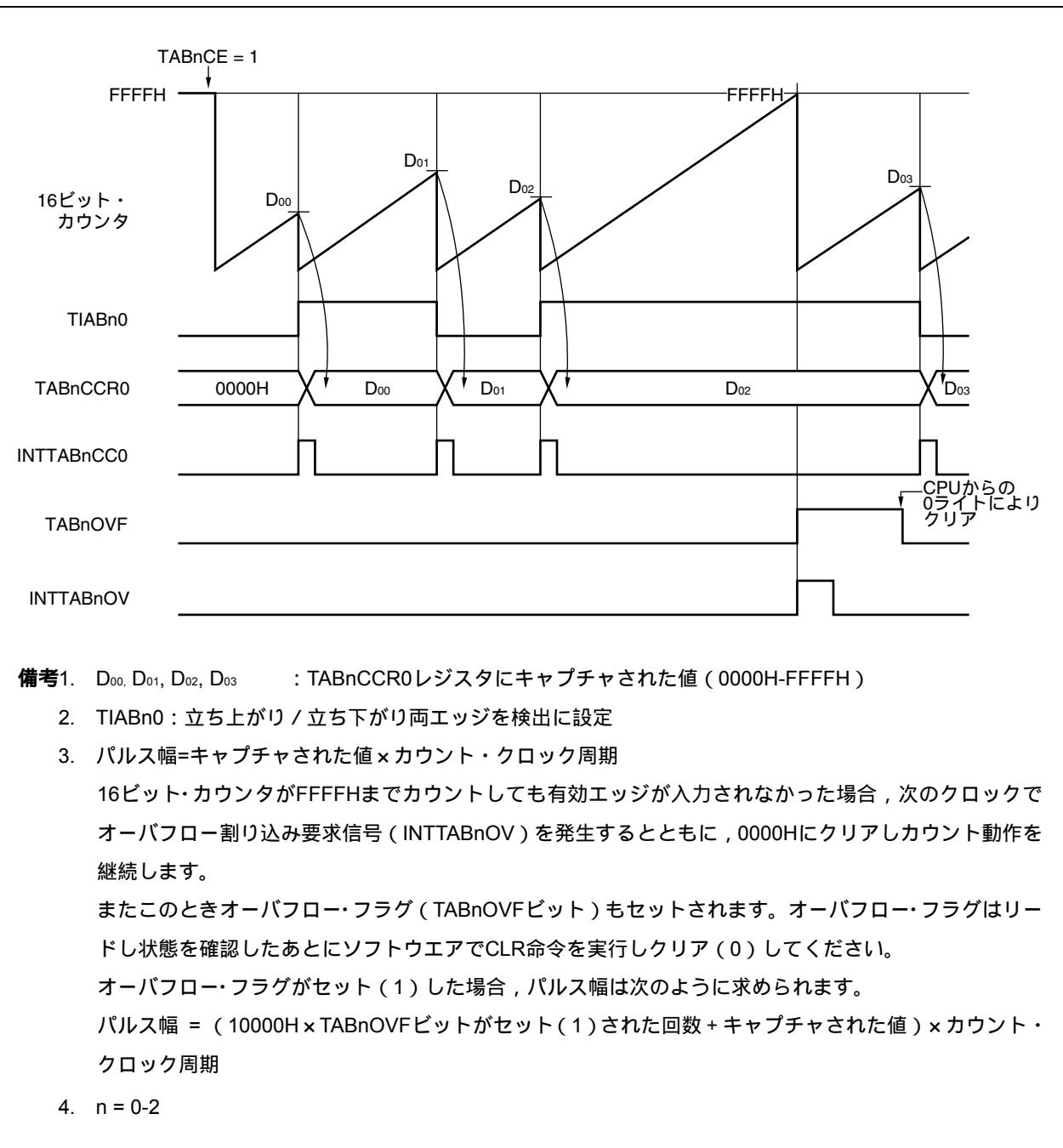


図13-19 パルス幅測定モードの基本動作タイミング



13.5.9 三角波PWMモード (TABnMD2-TABnMD0 = 111)

三角波PWMモードではデューティ用の設定レジスタはTABnキャプチャ/コンペア・レジスタk(TABnCCRk)とし周期用の設定レジスタはTABnキャプチャ/コンペア・レジスタ0(TABnCCR0)となります。

この4つのレジスタを設定し、タイマを動作させることでデューティおよび周期可変型の三角波PWMを出力します。

TABnCCRMレジスタはTABnCE = 1時の書き換えを許可しています。

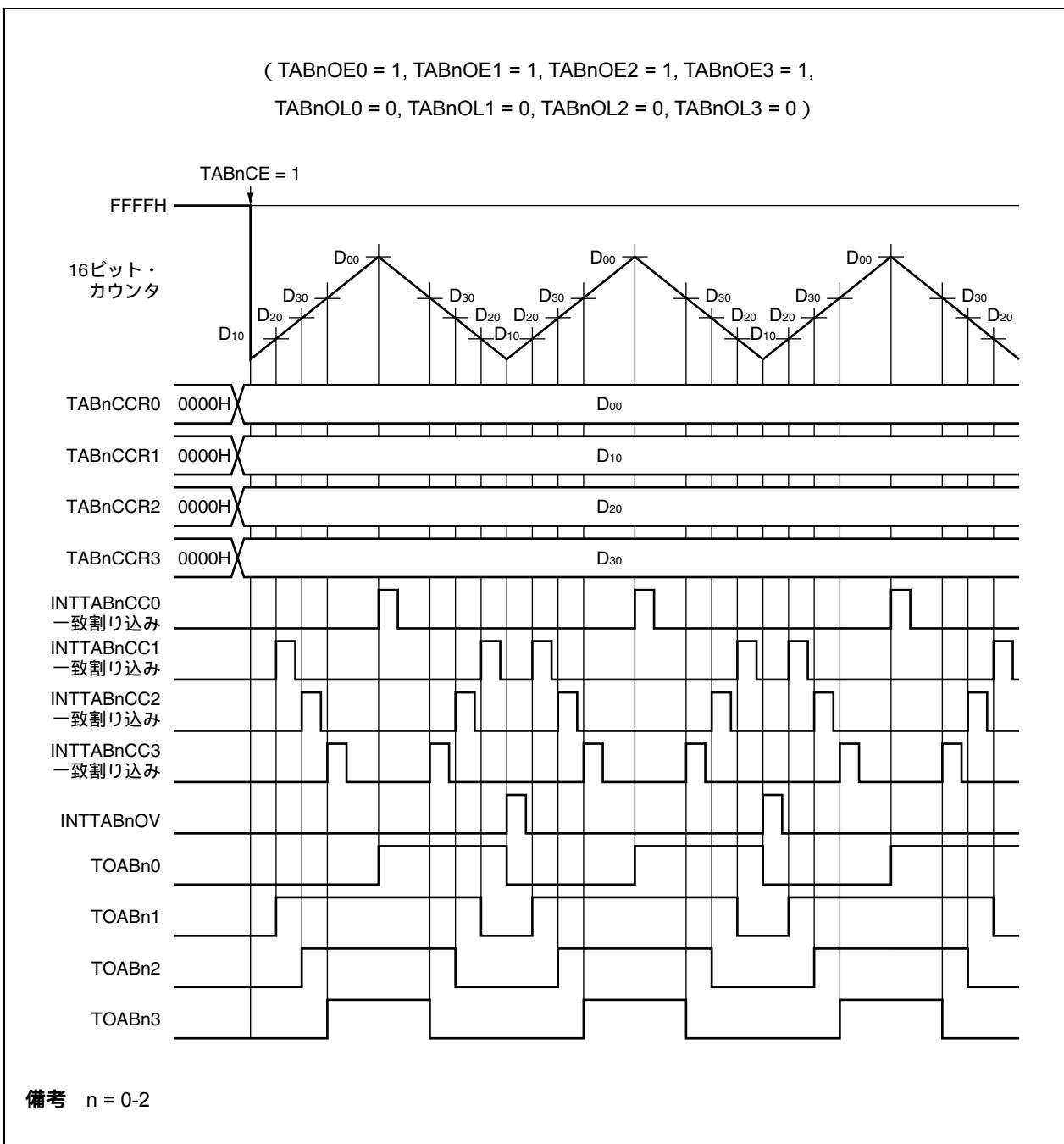
タイマABを停止するにはTABnCE = 0にしてください。PWMの波形出力はTOABnk端子から出力します。TOABn0端子は16ビット・カウンタとTABnCCR0レジスタとの一致とアンダーフローのタイミングでトグル出力します。

注意 PWMモード時、TABnCCRMレジスタはコンペア・レジスタとして機能が固定されるためキャプチャ・レジスタとしての機能は使用できません。

備考1. タイマ動作中 (TABnCE = 1) のときのTABnCCR0-TABnCCR3の書き換えについては13.5.1(2)リードを参照してください。

2. n = 0-2, m = 0-3, k = 1-3

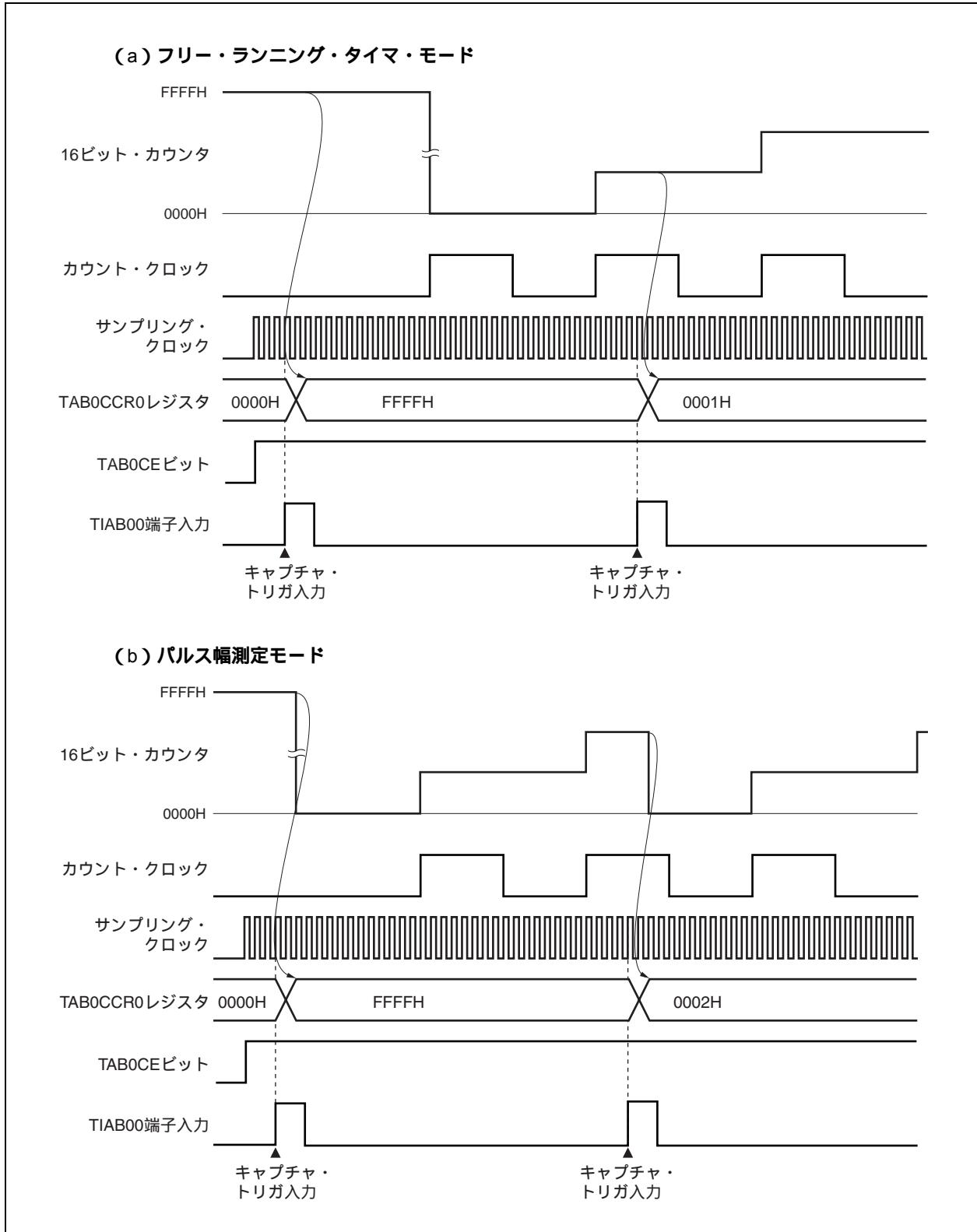
図13-20 三角波PWMモードの基本動作タイミング



13.6 使用上の注意

(1) キャプチャ動作

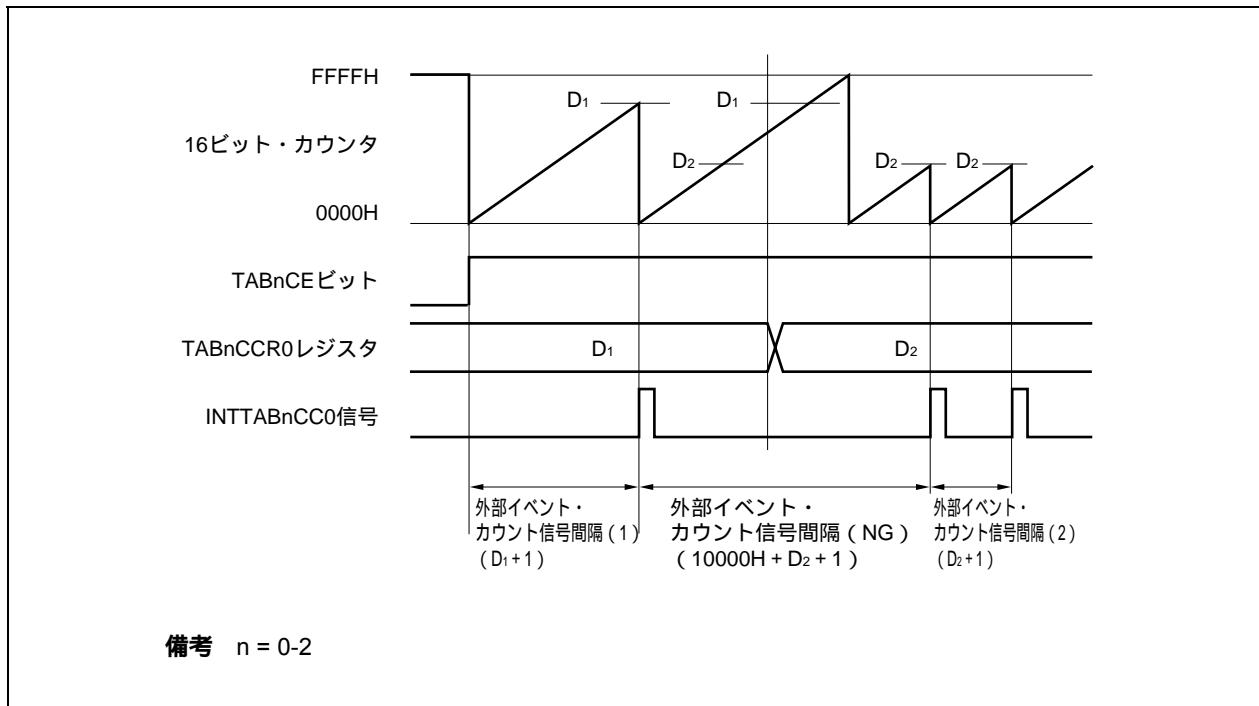
キャプチャ動作を使用し、かつカウント・クロックとして遅いクロックを選択した場合、TABnCEビットをセット(1)し、カウント・クロックが動作開始するまでに、キャプチャ・トリガが入力されると、TABnCCR0、TABnCCR1、TABnCCR2、TABnCCR3レジスタに0000HではなくFFFFHがキャプチャされる場合があります。



(2) インターパル・タイマ・モード時のTABnCCR0レジスタの書き換えに関する注意事項

TABnCCR0レジスタの設定値を小さい値に変更する場合には、一度カウント動作を停止させ、その後、設定値を変更してください。

カウント動作中にTABnCCR0レジスタの値を小さい値に書き換えると、16ビット・カウンタがオーバフローする場合があるので注意してください。



カウント値がD₂よりも大きくD₁よりも小さい状態において、TABnCCR0レジスタをD₁からD₂に書き換えると、書き換えたタイミングでCCR0バッファ・レジスタに転送されるため、16ビット・カウンタとのコンペア値がD₂となります。

しかし、カウント値はすでにD₂を越えているためにFFFFHまでカウントを行い、オーバフロー後、0000Hから再度カウント・アップを行います。そして、D₂との一致でINTTABnCC0信号を発生します。

したがって、本来期待している外部イベント・カウント数である「(D₁+1)回」または「(D₂+1)回」の有効エッジ数でINTTABnCC0信号は発生せずに、「(10000H + D₂ + 1)回」の有効エッジ数でINTTABnCC0信号が発生する場合があります。

第14章 16 ビット・インターバル・タイマ M

本マイクロコントローラは、16ビット・インターバル・タイマM(TMM0)を搭載しています。

14.1 特 徴

タイマM(TMM)はクリア&スタート・モードのみサポートしています。フリー・ランニング・モードはサポートしていません。フリー・ランニング・モードと同等に使用したい場合は、コンペア・レジスタにFFFFHを設定し16ビット・カウンタをスタートさせることで一致割り込みをオーバフロー・タイミングとして機能を実現することが可能です。

- ・インターバル機能
- ・クロック選択×8
- ・シンプル・カウンタ×1
 - (シンプル・カウンタとはカウンタ・リード・バッファ未使用タイプのカウンタでありタイマ・カウント動作中のカウンタ・リードはできません。)
- ・シンプル・コンペア×1
 - (シンプル・コンペアとはコンペア・ライト・バッファ未使用タイプでありタイマ・カウント動作中のコンペア・レジスタへのライトはできません。)
- ・コンペア一致割り込み×1

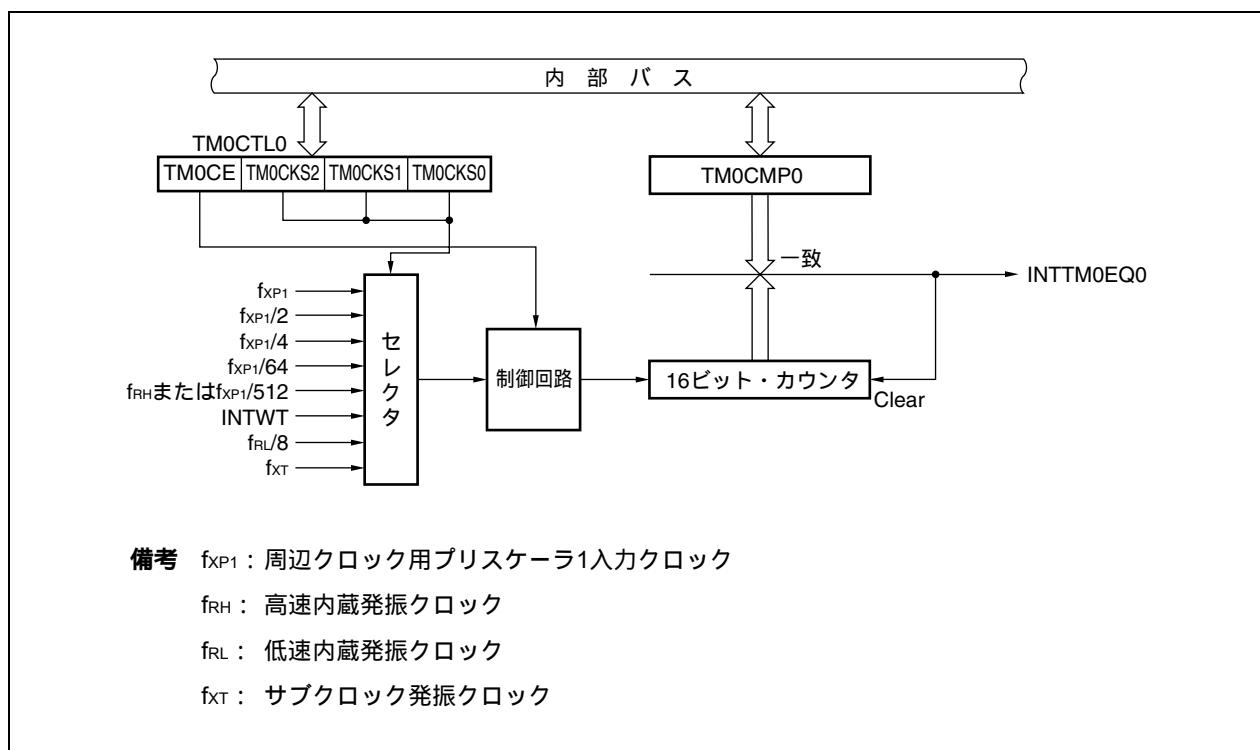
14.2 構成

TMMは、次のハードウェアで構成されています。

表14-1 TMMの構成

項目	構成
タイマ・レジスタ	16ビット・カウンタ
レジスタ	TMMコンペア・レジスタ0 (TM0CMP0)
制御レジスタ	TMM0制御レジスタ (TM0CTL0)

図14-1 タイマMのブロック図



14.3 制御レジスタ

(1) TMM0コンペア・レジスタ0 (TM0CMP0)

TM0CMP0レジスタは16ビットのコンペア・レジスタです。

16ビット単位でリード / ライト可能です。

リセットにより初期値0000Hになります。

注意 タイマ動作中 (TM0CE = 1) のTM0CMP0レジスタの書き換えは禁止です。同値書き込みは可能です。

リセット時 : 0000H R/W アドレス : TM0CMP0: FFFFF694H

	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
TM0CMP0	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	

(2) TMM0制御レジスタ0 (TM0CTL0)

TM0CTL0レジスタはTMMのタイマ動作を制御する8ビット・レジスタです。

8/1ビット単位でリード / ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

TM0CTL0レジスタは動作中 (TM0CE = 1) 書き換え禁止です。

ただし, TM0CEビットのみ常時書き換えができます。

リセット時 : 00H R/W アドレス : TM0CTL0: FFFFF690H

(7)	6	5	4	3	2	1	0	
TM0CTL0	TM0CE	0	0	0	0	TM0CKS2	TM0CKS1	TM0CKS0

TM0CE	タイマM0の動作の制御
0	内部動作クロック動作禁止 (TMM0を非同期にリセット)
1	内部動作クロック動作許可
TM0CEビットにより、内部動作クロックの制御とTMM0の非同期リセットを行います。TM0CEビットを“0”にすると、TMM0の内部動作クロックは停止（ロウ・レベル固定）し、TMM0を非同期にリセットします。	
TM0CEビットを“1”にすると、TM0CEビットを“1”にしたタイミングから入力クロックの2クロック以内に内部動作クロックが許可されカウントアップします。	

SELCNT0 レジスタ ^注	TM0CTL0レジスタ			内部カウント・クロックの選択		
SEL07ビット	TM0CKS2	TM0CKS1	TM0CKS0	入力	PRSI = 0	PRSI = 1
×	0	0	0	f _{XP1}	f _{xx}	f _{xx} /2
×	0	0	1	f _{XP1} /2	f _{xx} /2	f _{xx} /4
×	0	1	0	f _{XP1} /4	f _{xx} /4	f _{xx} /8
×	0	1	1	f _{XP1} /64	f _{xx} /64	f _{xx} /128
0	1	0	0	f _{XP1} /512	f _{xx} /512	f _{xx} /1024
1				f _{RH} /8		
×	1	0	1	INTWT		
×	1	1	0	f _{RL} /8		
×	1	1	1	f _{XT}		

注 SELCNT0レジスタの詳細については、第4章 クロック発生機能とスタンバイ制御を参照してください。

注意1. TM0CKS2-TM0CKS0ビットはTM0CE = 0のとき設定してください。

TM0CEビットを0から1に設定するとき同時にTM0CKS2-TM0CKS0ビットを設定できません。

2. ビット3-6は必ず0に設定してください。

3. PRSIはオプション・バイトにより設定します。

・ PRSI = 0 : f_{xx} 32 MHz (f_{xx} > 32 MHzの場合は設定禁止)

・ PRSI = 1 : f_{xx} 48 MHz

詳しくは第8章 オプション・バイトを参照してください。

備考 f_{xx} : メイン・クロック周波数

f_{RL} : 低速内蔵発振クロック周波数

f_{RH} : 高速内蔵発振クロック周波数

f_{XP1} : 周辺クロック用プリスケーラ1入力クロック

f_{XT} : サブクロック発振周波数

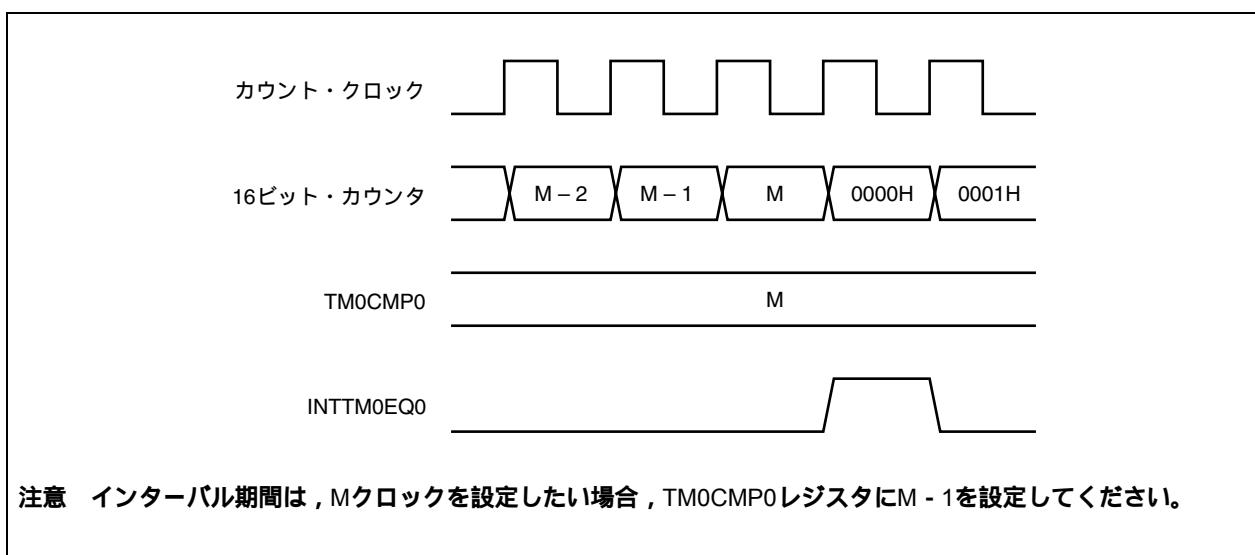
14.4 動 作

14.4.1 インターバル・タイマ・モード

インターバル・タイマ・モードは16ビット・カウンタとTM0CMP0コンペア・レジスタ0 (TM0CMP0) により TM0CMP0レジスタの値とカウンタ値が一致すると一致割り込み信号 (INTTM0EQ0) を出力し，かつ同タイミングでカウンタを0000Hにクリアさせ再度カウントアップを開始します。

TM0CMP0レジスタにFFFFHを設定すると，フリー・ランニング・モードと同様の動作を行います。

図14-2 インターバル・タイマ・モードの動作タイミング

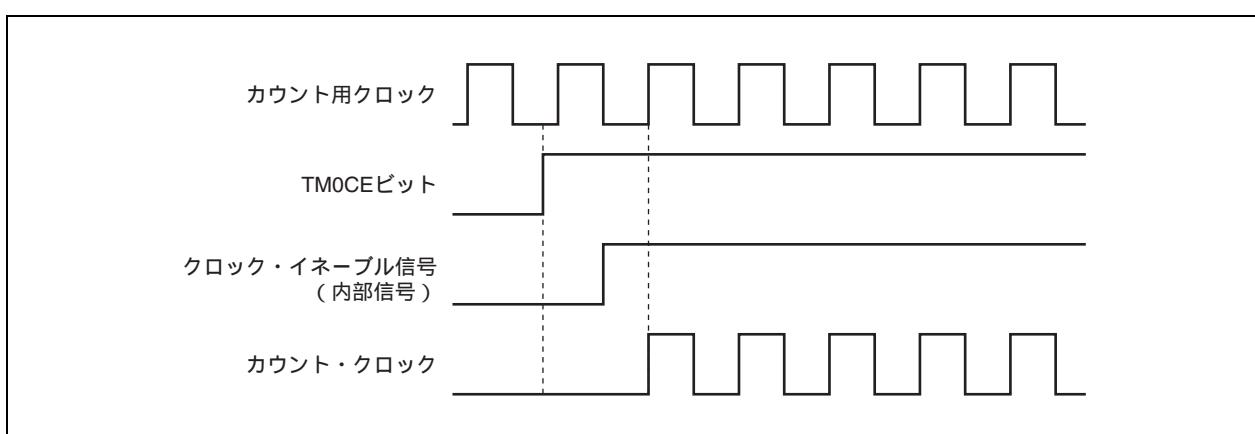


14.4.2 注意事項

(1) クロック生成回路およびクロック・イネーブル・タイミング

TM0CEビット = 0から1に設定し，クロックの2クロック目がタイマ・カウント・アップ信号の最初のパルスとなるため，1クロック分少なくカウントしてしまいます。

図14-3 カウント動作開始タイミング



(2) TM0動作中のレジスタ書き換え

TM0CMP0, TM0CTL0レジスタはTM0動作中の書き換えは禁止です。

TM0CEビット = 1のときに書き換えた場合、動作を保証できません。誤って書き換えた場合は, TM0CTL0, TM0CEビットをクリア(0)してから再設定してください。

第15章 タイマ AA/AB 同期動作機能

タイマAAおよびタイマABには、タイマ同期動作機能（同調動作モード）があります。
同調させることのできるタイマを表15-1に示します。

表15-1 同調動作のタイマ組み合わせ

マスタ・タイマ	スレーブ・タイマ	V850ES/FE3	V850ES/FF3	V850ES/FG3	V850ES/FJ3	V850ES/FK3
TAA0	TAA1					
TAA2	TAA3					
TAB0	TAA4					
TAB1	TAB2	-	-	-		
TAA5	TAA6	-	-	-	-	
	TAA7	-	-	-	-	

次に、マスタ・タイマとスレーブ・タイマの同調動作を設定する手順を示します。例としてTABmをマスタ・タイマとし、TAAkをスレーブ・タイマとします。

- スレーブ・タイマの設定

TAAkCTL1.TAAkSYE = 1 : 同期動作の許可

TAAkCTL1.TAAkMD[2:0] = 101B : フリー・ランニング・モード

TAAkCCR0, TAAkCCR1 : コンペア値の設定

- マスタ・タイマの設定

TABmCTL1.TABmMD[2:0]

= 101B : フリー・ランニング・モード

= 100B : PWMモード

= 111B : 三角波PWMモード

TABmCCR0, TABmCCR1 : コンペア値の設定

TABmCTL0.TABmC = 1 : 動作の許可

同調動作モード時に使用できるタイマ・モードを表15-2, 15-3に示します。

注意 同調動作モードの許可 / 禁止は、TAAkCTL1レジスタのTAAkSYEビットおよびTAB2CTL1レジスタのTAB2SYEビットで設定します。

備考 n = 0, 2, 5

m = 0, 1

k = 1, 3, 4, 6, 7

表15-2 同調動作モードで使用可能なタイマ・モード

マスタ・タイマ	スレーブ・タイマ	フリー・ランニング・モード	PWMモード	三角波PWMモード
TAA0	TAA1			×
TAA2	TAA3			×
TAB0	TAA4			×
TAB1	TAB2			
TAA5	TAA6			×
	TAA7			×

備考 : 設定可能 , × : 設定不可

表15-3 タイマ出力機能一覧

同調 チャネル	タイマ	端子	フリー・ランニング・モード		PWMモード		三角波PWMモード	
			同調OFF	同調ON	同調OFF	同調ON	同調OFF	同調ON
Ch0	TAA0 (マスタ)	TOAA00	PPG	←	トグル	←	N/A	←
		TOAA01	PPG	←	PWM	←	N/A	←
	TAA1 (スレーブ)	TOAA10	PPG	←	トグル	PWM	N/A	←
		TOAA11	PPG	←	PWM	←	N/A	←
Ch1	TAA2 (マスタ)	TOAA20	PPG	←	トグル	←	N/A	←
		TOAA21	PPG	←	PWM	←	N/A	←
	TAA3 (スレーブ)	TOAA30	PPG	←	トグル	PWM	N/A	←
		TOAA31	PPG	←	PWM	←	N/A	←
Ch2	TAB0 (マスタ)	TOAB00	PPG	←	トグル	←	N/A	←
		TOAB01-TOAB03	PPG	←	PWM	←	N/A	←
	TAA4 (スレーブ)	TOAA40	PPG	←	トグル	PWM	N/A	←
		TOAA41	PPG	←	PWM	←	N/A	←
Ch3	TAB1 (マスタ)	TOAB10	PPG	←	トグル	←	トグル	←
		TOAB11-TOAB13	PPG	←	PWM	←	三角波 PWM	←
	TAB2 (スレーブ)	TOAB20	PPG	←	トグル	PWM	トグル	三角波 PWM
		TOAB21-TOAB23	PPG	←	PWM	←	三角波 PWM	←
Ch4	TAA5 (マスタ)	TOAA50	PPG	←	トグル	←	N/A	←
		TOAA51	PPG	←	PWM	←	N/A	←
	TAA6 (スレーブ1)	TOAA60	PPG	←	トグル	PWM	N/A	←
		TOAA61	PPG	←	PWM	←	N/A	←
	TAA7 (スレーブ2)	TOAA70	PPG	←	トグル	PWM	N/A	←
		TOAA71	PPG	←	PWM	←	N/A	←

備考 マスタ・タイマのコンペア・レジスタからスレーブ・タイマのコンペア・レジスタへの送信タイミングは、次のとおりです。

PPG : CPU書き込みのタイミング

トグル, PWM, 三角波 PWM : タイマ・カウンタとコンペア・レジスタが TOAAm0 や TOABm0 (n = 0-7, m = 0-2) と一致したタイミング

同調機能により、マスタ (TAA0/TABm) に対し、スレーブ (TAAk/TAB2) のキャプチャ、またはコンペア数を追加したタイマ動作が可能となります。

TAA0とTAA1を同調動作させ、PWM動作させた例を図15-1, 15-2に示します。

備考 n = 0, 2, 5

m = 0, 1

k = 1, 3, 4, 6, 7

図15-1 同調動作イメージ (TAA0, TAA1)

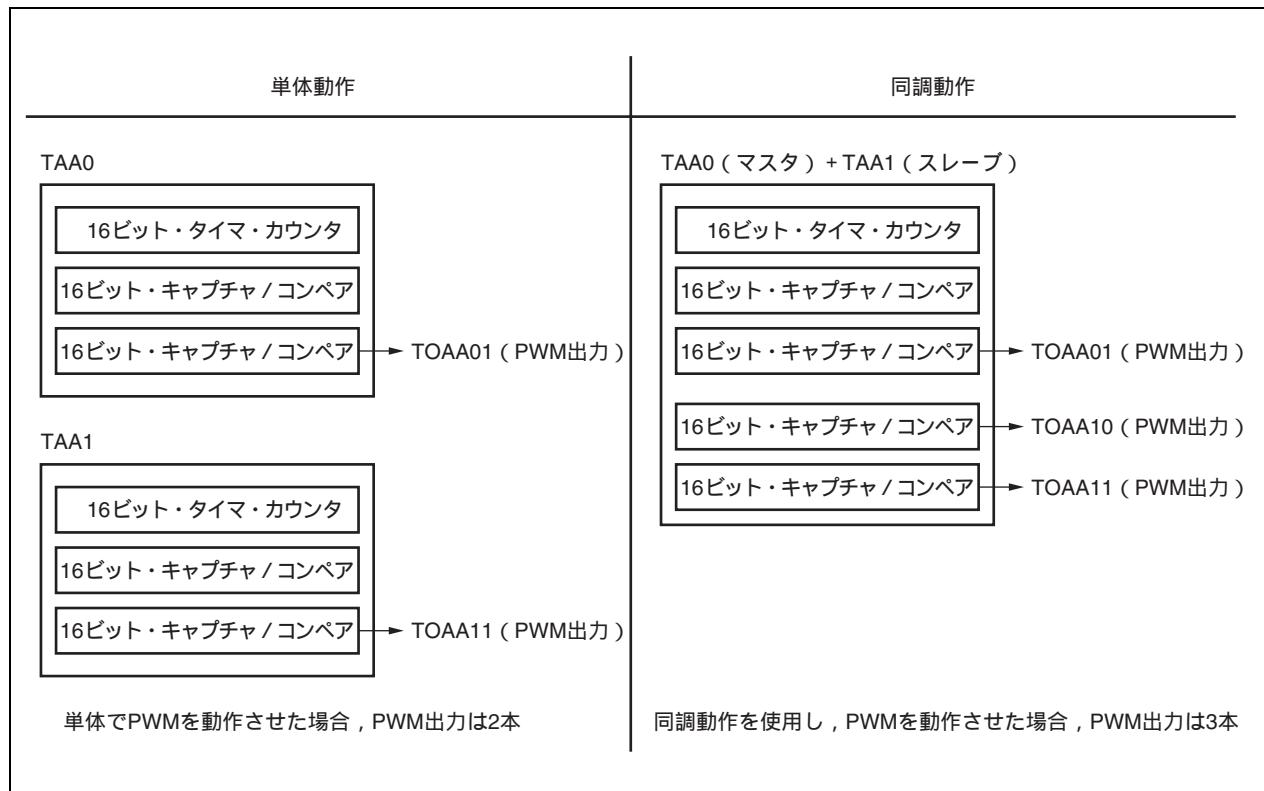
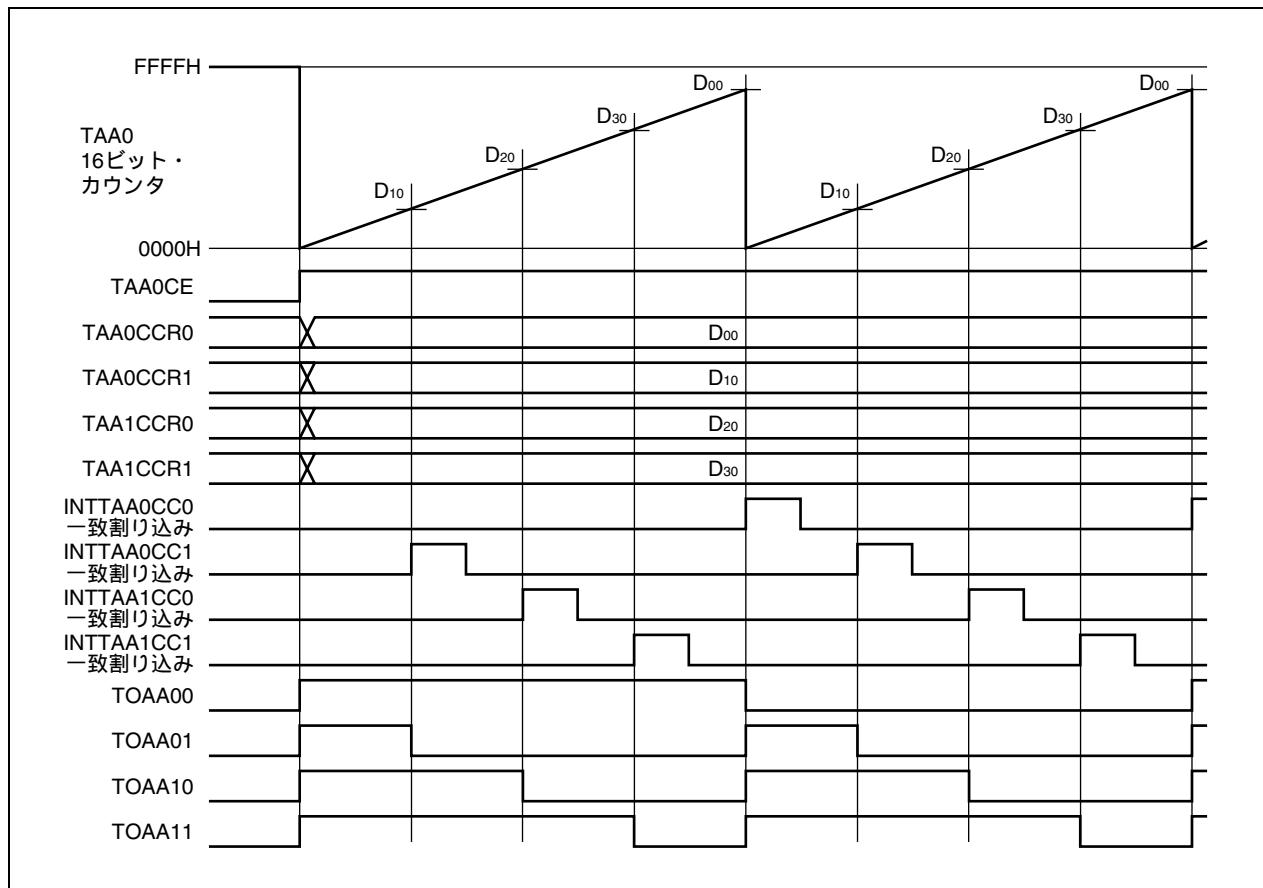


図15-2 同調PWM機能の基本動作タイミング (TAA0, TAA1)



動作説明 :

- ・マスタ側の TAA0CTL0.TAA0CE ビットを “1” に設定すると , マスタ側およびスレーブ側が同時に タイマ動作を開始します
- ・マスタ側からスレーブ側へカウント・アップ信号が供給され , スレーブ側のカウンタがカウント・アップします。
- ・マスタ側とスレーブ側のカウンタは , 同一のカウント動作をします。そのため , マスタ側で同期一致によりカウンタが 0000H にクリアされると , スレーブ側のカウンタも同時に 0000H にクリアされます。
- ・コンペア・レジスタがリロード書き換え方式の場合 , マスタ側のリロード・タイミングに同期して マスタ側 , スレーブ側すべてのコンペア・レジスタの値がリロードされます。

第16章 時計タイマ機能

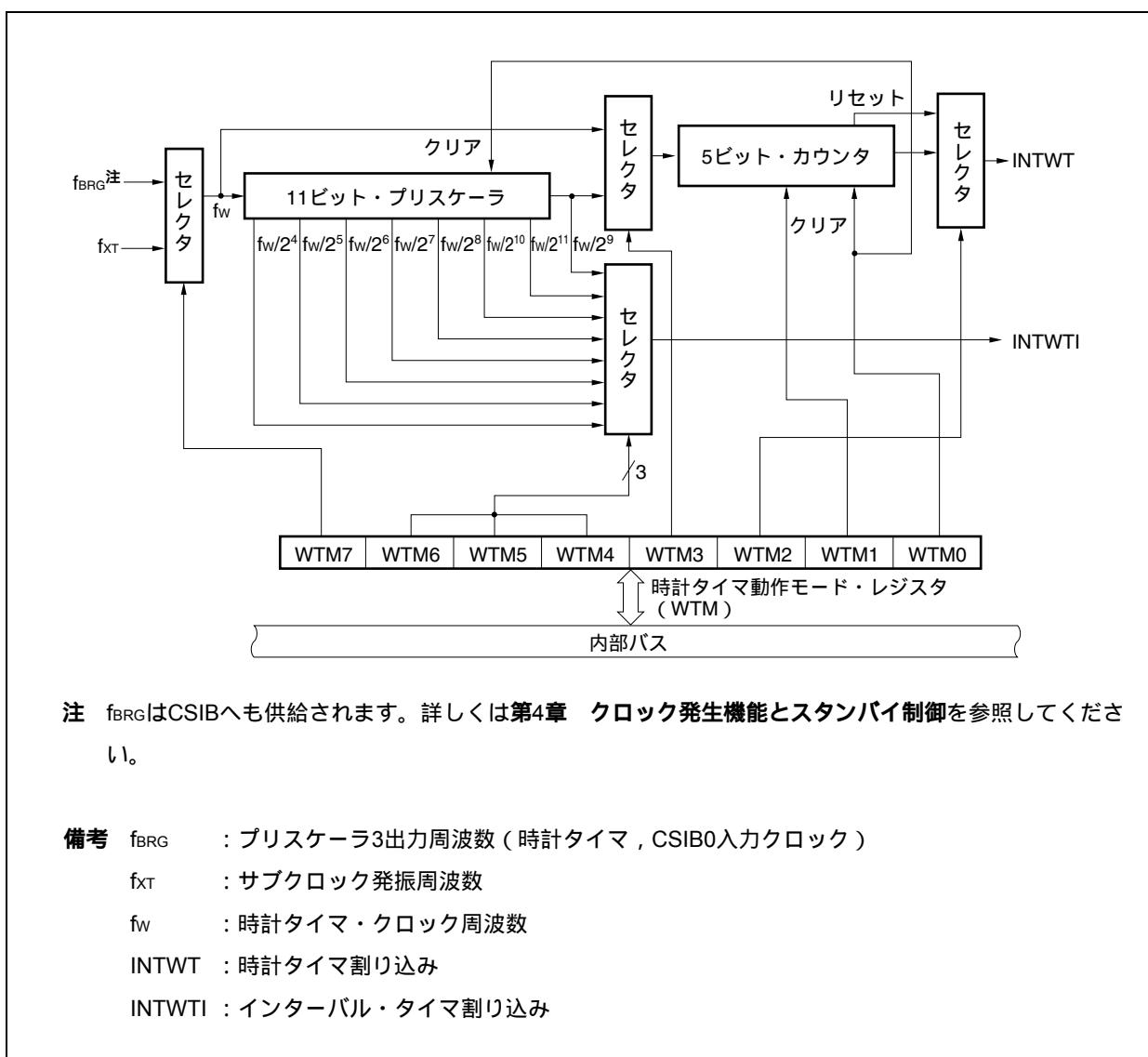
16.1 機能

時計タイマには、次のような機能があります。

- ・時計タイマ
- ・インターバル・タイマ

時計タイマとインターバル・タイマは、同時に使用できます。

図16-1 時計タイマのブロック図



注 f_{BRG}はCSIBへも供給されます。詳しくは第4章 クロック発生機能とスタンバイ制御を参照してください。

備考 f_{BRG} : プリスケーラ3出力周波数（時計タイマ、CSIB0入力クロック）

f_{XT} : サブクロック発振周波数

fw : 時計タイマ・クロック周波数

INTWT : 時計タイマ割り込み

INTWTI : インターバル・タイマ割り込み

(1) 時計タイマ

サブクロック ($f_{XT} = 32.768 \text{ kHz}$) を使用して、0.5秒または0.25秒の時間間隔で割り込み要求 (INTWT) を発生させます。

- 注意1.** 時計タイマのカウント・クロック (f_W) として、メイン・クロック (f_X) からプリスケーラ3の分周クロック (f_{BRG}) を選択する場合、分周クロック周波数が32.768 kHzとなるよう、使用的するメイン・クロック周波数にあわせてPRSM0レジスタおよびPRSCM0レジスタの設定をしてください。
32.768 kHzを生成できない場合は、ソフトウェアにて補正を行い、時計機能を実現してください。
2. 発振子に水晶振動子（およびセラミック振動子）を用いたサブクロック発振は、(A) 水準品のみ対応可能です。(A1), (A2) 水準品は、RC発振子のみサブクロック発振回路に対応可能です。

(2) インターバル・タイマ

あらかじめ設定した時間間隔で、割り込み要求 (INTWTI) を発生します。

表16-1 インターバル・タイマのインターバル時間

インターバル時間	$f_W = f_{XT} = 32.768 \text{ kHz}$ 動作時
$2^4 \times 1/f_W$	488 μs
$2^5 \times 1/f_W$	977 μs
$2^6 \times 1/f_W$	1.95 ms
$2^7 \times 1/f_W$	3.91 ms
$2^8 \times 1/f_W$	7.81 ms
$2^9 \times 1/f_W$	15.6 ms
$2^{10} \times 1/f_W$	31.2 ms
$2^{11} \times 1/f_W$	62.5 ms

備考 f_W : 時計タイマ・クロック周波数

f_{XT} : サブクロック発振周波数

16.2 構成

時計タイマは、次のハードウェアで構成されています。

表16-2 時計タイマの構成

項目	構成
カウンタ	5ビット×1本
プリスケーラ	11ビット×1本
制御レジスタ	時計タイマ動作モード・レジスタ (WTM)

16.3 制御レジスタ

時計タイマを制御するレジスタには、時計タイマ動作モード・レジスタ（WTM）があります。時計タイマは、カウント・クロックやインターバル時間を設定したあとに動作させてください。

(1) 時計タイマ動作モード・レジスタ（WTM）

時計タイマのカウント・クロックおよび動作の許可／禁止、プリスケーラのインターバル時間、5ビット・

カウンタの動作制御および時計フラグのセット時間を設定するレジスタです。

WTMレジスタは、8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

(1/2)

リセット時: 00H R/W アドレス : FFFFF680H

WTM	WTM7	WTM6	WTM5	WTM4	WTM3	WTM2	WTM1	WTM0	①	②
-----	------	------	------	------	------	------	------	------	---	---

WTM7	時計タイマのカウント・クロックの選択
0	f_{XT}
1	f_{BRG}

WTM6	WTM5	WTM4	プリスケーラのインターバル時間の選択
0	0	0	$2^4/f_w$
0	0	1	$2^5/f_w$
0	1	0	$2^6/f_w$
0	1	1	$2^7/f_w$
1	0	0	$2^8/f_w$
1	0	1	$2^9/f_w$
1	1	0	$2^{10}/f_w$
1	1	1	$2^{11}/f_w$

備考 f_{XT} : サブクロック発振周波数

f_{BRG} : プリスケーラ3周波数（時計タイマ、CSIB0入力クロック）

f_w : 時計タイマ・クロック周波数

(2/2)

WTM3	WTM2	時計タイマの割り込み時間の選択
0	0	$2^{14}/f_w$
0	1	$2^{13}/f_w$
1	0	$2^5/f_w$
1	1	$2^4/f_w$

WTM1	5ビット・カウンタの動作制御
0	動作停止後クリア
1	スタート

WTM0	時計用タイマの動作許可
0	動作停止（プリスケーラ、5ビット・カウンタとともにクリア）
1	動作許可

注意 WTM2-WTM7ビットを書き換える場合は、WTM0, WTM1ビットがともに0の状態で行ってください。

備考 fw : 時計タイマ・クロック周波数

16.4 動 作

16.4.1 時計タイマとしての動作

時計タイマは、一定の時間間隔ごとに割り込み要求を発生します。

サブクロック ($f_{XT} = 32.768 \text{ kHz}$) を使用すると、0.5秒または0.25秒の時間間隔の時計タイマとして動作します。

WTMレジスタのWTM1, WTM0ビットに“11”を設定するとカウント動作がスタートします。WTM0ビットに0を設定すると11ビット・プリスケーラと5ビット・カウンタがクリアされ、カウント動作が停止します。

時計タイマは、WTM1ビットをクリア(0)して5ビット・カウンタをクリアすることにより、時刻合わせができます。このとき最大で15.6 msの誤差が発生することがあります。

また、インターバル・タイマは、WTM0ビットをクリア(0)することによりクリアできます。ただし、5ビット・カウンタも同時にクリアされるため、時計タイマのオーバフロー(INTWT)には、最大で0.5秒の誤差が発生することがあります。

16.4.2 インターバル・タイマとしての動作

あらかじめ設定したカウント値をインターバルとし、繰り返し割り込みを発生するインターバル・タイマとして動作します。

WTMレジスタのWTM4-WTM7ビットにより、インターバル時間を選択できます。

表16-3 インターバル・タイマのインターバル時間

WTM7	時計タイマのカウント・クロックの選択
0	f_{XT}
1	f_{BRG}

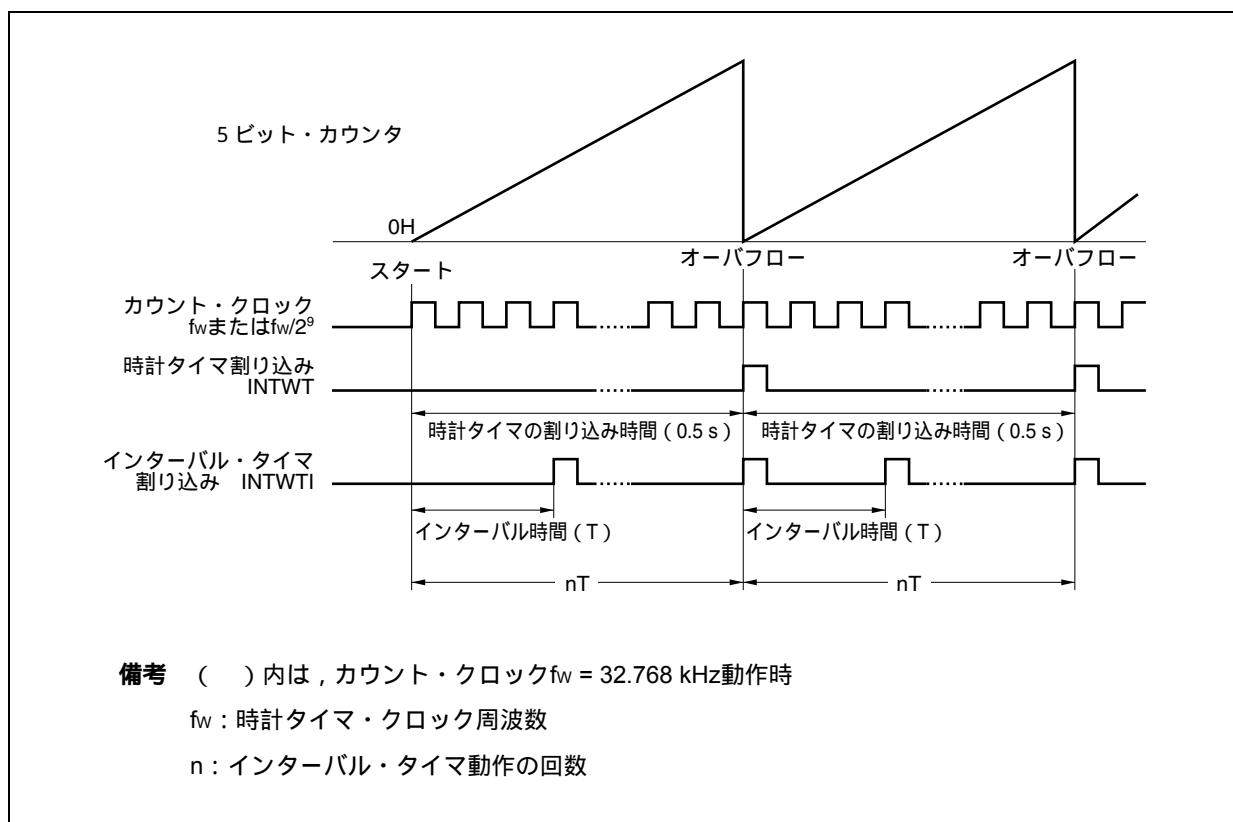
WTM6	WTM5	WTM4	インターバル時間
0	0	0	$2^4 \times 1/f_w$
0	0	1	$2^5 \times 1/f_w$
0	1	0	$2^6 \times 1/f_w$
0	1	1	$2^7 \times 1/f_w$
1	0	0	$2^8 \times 1/f_w$
1	0	1	$2^9 \times 1/f_w$
1	1	0	$2^{10} \times 1/f_w$
1	1	1	$2^{11} \times 1/f_w$

備考 f_w : 時計タイマ・クロック周波数

f_{XT} : サブクロック発振周波数

f_{BRG} : プリスケーラ3出力周波数(時計タイマ, CSIB0入力クロック)

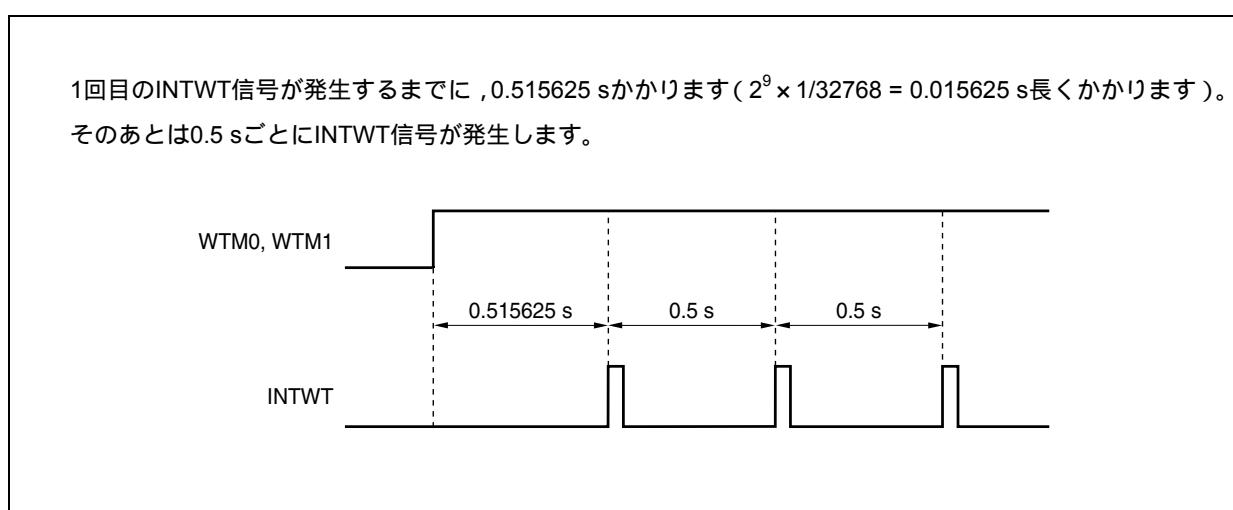
図16-2 時計タイマ/インターバル・タイマの動作タイミング



16.4.3 注意事項

動作許可 (WTMレジスタのWTM1, WTM0ビット = 1) してから、最初の1回目の時計タイマ割り込み要求信号 (INTWT) が発生するまで以下に示す時間がかかります。

図16-3 時計タイマ割り込み要求信号 (INTWT) の発生例 (割り込み周期 = 0.5 sの場合)



第17章 ウオッヂドッグ・タイマ2

17.1 機能

ウォッヂドッグ・タイマ2には、次のような機能があります。

ディフォ - ルト・スタート・ウォッヂドッグ・タイマ

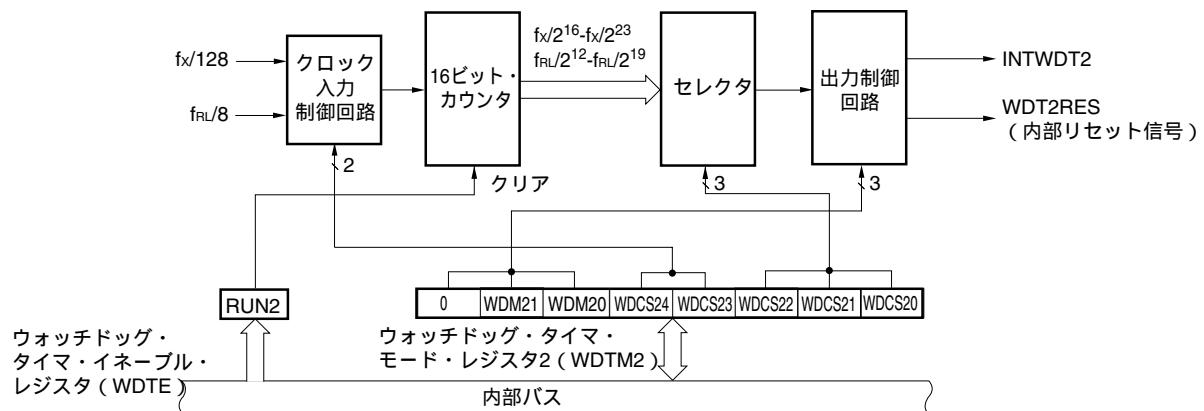
- リセット・モード：ウォッヂドッグ・タイマ2のオーバフローによるリセット動作 (WDT2RES信号を発生)
- ノンマスカブル割り込み要求モード：ウォッヂドッグ・タイマ2のオーバフローによるNMI動作 (INTWDT2信号を発生)

ソース・クロックとしてメイン・クロック、低速内蔵発振器からの入力を選択可能

注意1. ウォッヂドッグ・タイマ2は、リセット解除後に自動的にスタートします。ソース・クロックは低速内蔵発振器です。

- オプション・バイトで、WDT2の動作を低速内蔵発振器ソース・クロック固定、リセット・モード固定にできます(インターバル時間のみ制御レジスタで変更可能)。この場合、制御レジスタによるソース・クロックの変更、モードの変更が無効となります。
- WDT2を使用しない場合、またはクロック・ソースと動作モードを変更する場合は、オプション・バイトの設定をソース・クロック選択可、モード選択可にしてください。
この場合、リセット後の最初のWDT2のオーバフロー前に設定を変更するか、または一度WDT2をクリアし、次のインターバル時間内で設定変更を行ってください。そのとき、WDT2は停止させてください。
- WDTM2レジスタは、リセット後に1回だけ書き込みができます。WDTM2の初期値の設定で変更する必要がない場合でも、動作を確認するために、WDTM2レジスタに1回だけ書き込みを行ってください。
- ノンマスカブル割り込み要求信号 (INTWDT2) によるノンマスカブル割り込み処理後に、RETI命令による復帰はできません。割り込み処理後、システム・リセットを行ってください。

図17-1 ウオッチドッグ・タイマ2のブロック図



備考 f_x : メイン・クロック発振周波数

f_{RL} : 低速内蔵発振クロック周波数

INTWDT2 : ウオッチドッグ・タイマ2によるノンマスカブル割り込み要求信号

WDT2RES : ウオッチドッグ・タイマ2リセット信号

17.2 構成

ウォッチドッグ・タイマ2は、次のハードウェアで構成されています。

表17-1 ウオッチドッグ・タイマ2の構成

項目	構成
制御レジスタ	ウォッチドッグ・タイマ・モード・レジスタ2 (WDTM2) ウォッチドッグ・タイマ・イネーブル・レジスタ (WDTE)

17.3 制御レジスタ

(1) ウオッチドッグ・タイマ・モード・レジスタ2 (WDTM2)

WDTM2レジスタは、ウォッチドッグ・タイマ2のオーバフロー時間および動作クロックを設定するレジスタです。

アクセス： 8ビット単位でリード／ライト可能です。

ただし、リードは何回でもできますが、ライトはリセット解除後に1回のみできます。

アドレス： FFFFF6D0H

初期値： 67H。リセットにより初期化されます。

7	6	5	4	3	2	1	0
0	WDM21	WDM20	WDCS24	WDCS23	WDCS22	WDCS21	WDCS20
R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W	R/W

表17-2 動作モードの選択

WDCM21	WDCM20	機能
0	0	動作停止
0	1	ノンマスカブル割り込み要求モード (INTWDT2信号を発生)
1	x	リセット・モード (RESWDT2信号を発生)

表17-3 ウォッチドッグ・タイマ2のクロック選択

WDCS24	WDCS23	WDCS22	WDCS21	WDCS20	選択クロック周期	$f_{RL} = 240 \text{ kHz (typ.)}$	
0	0	0	0	0	$2^{12}/f_{RL}$	17.1 ms	
0	0	0	0	1	$2^{13}/f_{RL}$	34.1 ms	
0	0	0	1	0	$2^{14}/f_{RL}$	68.3 ms	
0	0	0	1	1	$2^{15}/f_{RL}$	136.5 ms	
0	0	1	0	0	$2^{16}/f_{RL}$	273.1 ms	
0	0	1	0	1	$2^{17}/f_{RL}$	546.1 ms	
0	0	1	1	0	$2^{18}/f_{RL}$	1092.3 ms	
0	0	1	1	1	$2^{19}/f_{RL}$ (デフォルト)	2184.5 ms	
					$f_x = 4 \text{ MHz}$	$f_x = 16 \text{ MHz}$	
0	1	0	0	0	$2^{16}/f_x$	16.4 ms	4.1 ms
0	1	0	0	1	$2^{17}/f_x$	32.8 ms	8.2 ms
0	1	0	1	0	$2^{18}/f_x$	65.5 ms	16.4 ms
0	1	0	1	1	$2^{19}/f_x$	131.1 ms	32.8 ms
0	1	1	0	0	$2^{20}/f_x$	262.1 ms	65.3 ms
0	1	1	0	1	$2^{21}/f_x$	524.3 ms	131.1 ms
0	1	1	1	0	$2^{22}/f_x$	1048.6 ms	262.2 ms
0	1	1	1	1	$2^{23}/f_x$	2097.2 ms	524.3 ms
1	x	x	x	x	停止		

- 注意1.** ウオッチドッグ・タイマ2動作中 ,WDTM2レジスタに2回書き込んだ場合 ,強制的にオーバフロー信号を発生します。ただし , ウオッチドッグ・タイマ2を停止させたあと , WDTM2レジスタに2回書き込んでもオーバフロー信号は発生しません。
2. ウオッチドッグ・タイマ2の動作を停止する場合は , RCMレジスタのRSTOPビットに“1”を設定(低速内蔵発振の停止)するとともに , WDTM2レジスタに“1FH”を設定してください。

(2) ウオッチドッグ・タイマ・イネーブル・レジスタ (WDTE)

WDTEレジスタに“ACH”を書き込むことにより , ウオッチドッグ・タイマ2のカウンタをクリアし , 再びカウントを開始します。

アクセス : 8ビット単位でリード / ライト可能です。

アドレス : FFFFF6D1H

初期値 : 9AH。リセットにより初期化されます。

7	6	5	4	3	2	1	0
R/W							

- 注意1.** WDTEレジスタに“ACH”以外の値を書き込んだ場合 , 強制的にオーバフロー信号を出力します。
2. WDTEレジスタに1ビット・メモリ操作命令を実行した場合 , 強制的にオーバフロー信号を出力します。
3. WDTEレジスタのリード値は , “9AH”(書き込んだ値(“ACH”))とは異なる値)になります。

17.4 動 作

ウォッチドッグ・タイマ2は、リセット解除後に自動的にリセット・モードでスタートします。

WDTM2レジスタへの書き込みは、バイト・アクセスのみリセット後に一度だけ可能です。ウォッチドッグ・タイマ2を使用する場合は、動作モードとインターバル時間を8ビット・メモリ操作でWDTM2レジスタに書き込んでください。この操作後、動作停止することはできません。

WDTM2レジスタのWDCTS24-WDCS20ビットで、ウォッチドッグ・タイマ2の暴走検出時間間隔を選択できます。WDTEレジスタにACHを書き込むことにより、ウォッチドッグ・タイマ2のカウンタをクリアし、再度カウント動作を開始します。カウント動作を開始したあと、設定した暴走検出時間間隔内にWDTEレジスタにACHを書き込んでください。

WDTEレジスタにACHが書き込まれず、暴走検出時間を越えてしまった場合は、WDTM2レジスタのWDM21、WDM20ビットの設定値により、リセット信号(WDT2RES)またはノンマスカブル割り込み要求信号(INTWDT2)が発生します。

ウォッチドッグ・タイマ2を使用しない場合は、WDTM2レジスタに1FHを書き込んでください。

また、ノンマスカブル割り込み要求モードに設定した場合、ノンマスカブル割り込み処理後にRETI命令による復帰はできません。割り込み処理後にシステム・リセットを行ってください。

注意 WDTM2, WDTM21ビット = 1(リセット・モード)に設定している場合、スタンバイ解除後の発振安定時間中にWDTオーバフローが発生すると、内部リセットは発生せずに、CPUクロックが内蔵発振クロックに切り替わります。

第18章 アシンクロナス・シリアル・インターフェース (UARTD)

本マイクロコントローラは、アシンクロナス・シリアル・インターフェース (UARTD) を搭載しています。

各製品により、チャネル数が異なります。表18-1に各製品のチャネル数を示します。

表18-1 アシンクロナス・シリアル・インターフェースのチャネル数

製品 UARTD	V850ES/FE3	V850ES/FF3	V850ES/FG3		V850ES/FJ3		V850ES/FK3	
			μPD70F3374, μPD70F3375	μPD70F3376A, μPD70F3377A	μPD70F3378	μPD70F3379, μPD70F3380, μPD70F3381, μPD70F3382		
チャネル数	2		3	5	3	6	8	
名称	UARTD0, UARTD1		UARTD0- UARTD2	UARTD0- UARTD4	UARTD0- UARTD2	UARTD0- UARTD5	UARTD0- UARTD7	

18.1 特 徴

転送速度 300 bps ~ 1.5 Mbps (専用ポート・レート・ジェネレータ使用)

全二重通信 UARTD受信データ・レジスタn (UDnRX) 内蔵

UARTD送信データ・レジスタn (UDnTX) 内蔵

2端子構成 TXDDn : 送信データの出力端子

RXDDn : 受信データの入力端子

受信エラー検出機能

- ・ パリティ・エラー
- ・ フレーミング・エラー
- ・ オーバラン・エラー
- ・ LIN通信データ一貫性エラー検出機能
- ・ SBF受信成功検出機能

割り込みソース : 3種類

- ・ 受信完了割り込み (INTUDnR) : 受信許可状態において、シリアル転送完了後、シフト・レジスタから受信バッファ・レジスタnへ受信データを転送すると発生
- ・ 送信許可割り込み (INTUDnT) : 送信許可状態において、送信バッファ・レジスタからシフト・レジスタへ送信データを転送すると発生
- ・ ステータス割り込み (INTUDnS) : 受信エラー、LIN通信データ一貫性エラー、またはSBF受信成功を検出すると発生

キャラクタ長 : 7, 8ビット

パリティ機能 : 奇数、偶数、0、なし

送信ストップ・ビット : 1, 2ビット

専用ポート・レート・ジェネレータ内蔵

MSB/LSBファースト転送選択可能

送受信データの反転入出力が可能

LIN (Local Interconnect Network) 通信フォーマットにおけるSBF (Sync Break Field) 送受信可能

- ・ SBF送信は、13-20ビットまで選択可能
- ・ LIN通信フォーマットにおけるSBF受信は11ビット以上認識可能
- ・ SBF受信フラグあり
- ・ データ通信中に、新規のSBF受信を検出可能。
- ・ 送信データの一貫性チェック機能あり (送信データと受信データを比較し、不一致を検出する機能)

備考 n = 0, 1 (V850ES/FE3, V850ES/FF3)

n = 0-2 (V850ES/FG3のμPD70F3374, 70F3375, V850ES/FJ3のμPD70F3378)

n = 0-4 (V850ES/FG3のμPD70F3376A, 70F3377A)

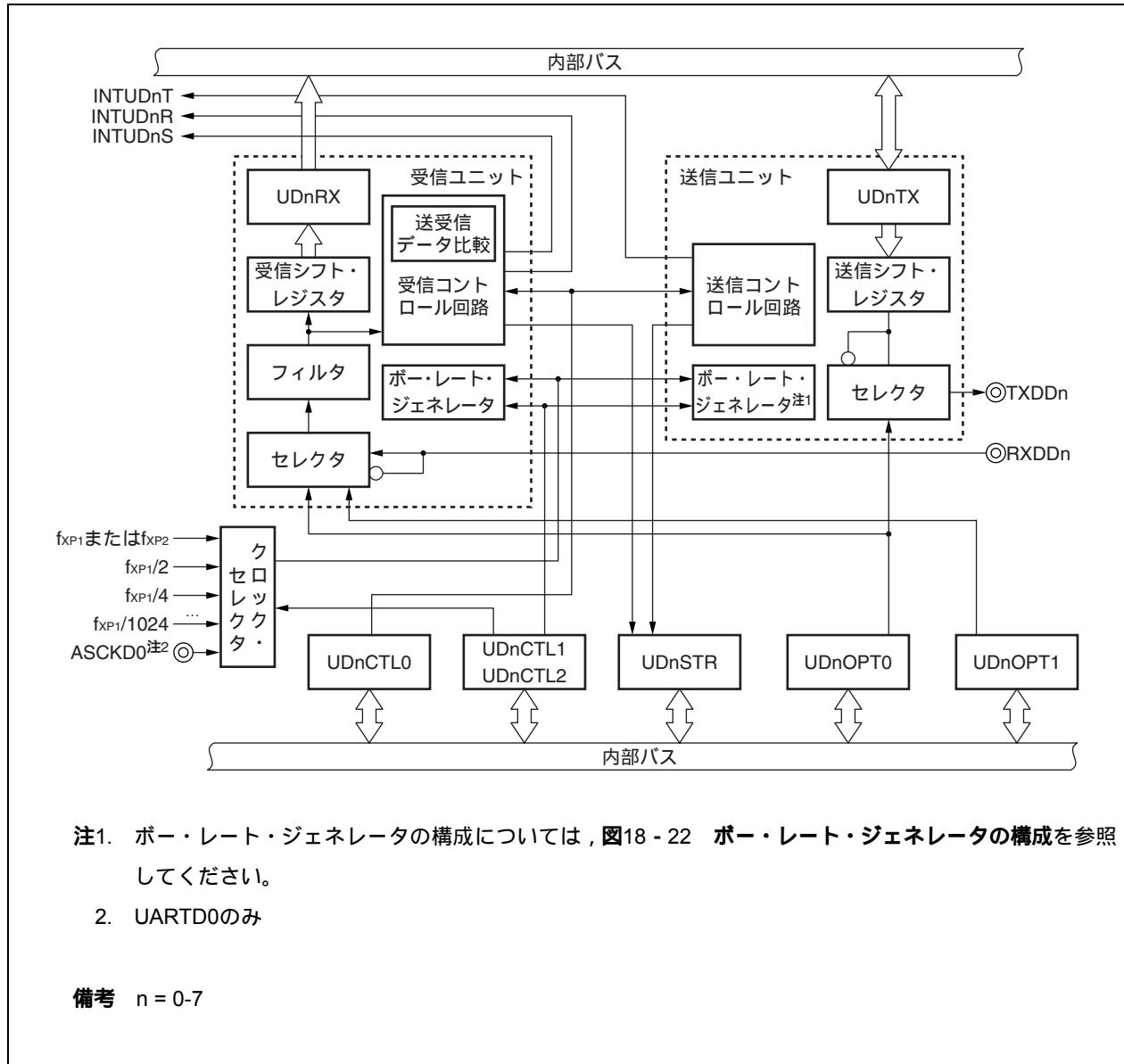
n = 0-5 (V850ES/FJ3のμPD70F3379, 70F3380, 70F3381, 70F3382)

n = 0-7 (V850ES/FK3)

この章ではn = 0-7の場合について記述しています。

18.2 構成

図18-1 アシンクロナス・シリアル・インターフェースのブロック図



- 注1. ボー・レート・ジェネレータの構成については、図18-22 ボー・レート・ジェネレータの構成を参照してください。
 2. UARTD0のみ

備考 n = 0-7

UARTDは、次のハードウェアで構成されています。

表18-2 UARTDnの構成

項目	構成
レジスタ	UARTDn 制御レジスタ 0-2 (UDnCTL0-UDnCTL2) UARTDn オプション制御レジスタ 0 (UDnOPT0) UARTDn 状態レジスタ (UDnSTR) UARTDn 受信シフト・レジスタ UARTDn 受信データ・レジスタ (UDnRX) UARTDn 送信シフト・レジスタ UARTDn 送信データ・レジスタ (UDnTX)

備考 n = 0-7

(1) UARTDn 制御レジスタ 0 (UDnCTL0)

UDnCTL0レジスタは、UARTDnの動作を指定する8ビット・レジスタです。

(2) UARTDn制御レジスタ1 (UDnCTL1)

UDnCTL1レジスタは、UARTDnの入力クロックを選択する8ビット・レジスタです。

(3) UARTDn制御レジスタ2 (UDnCTL2)

UDnCTL2レジスタは、UARTDnのボーレートを制御する8ビット・レジスタです。

(4) UARTDnオプション制御レジスタ0 (UDnOPT0)

UDnOPT0レジスタは、UARTDnのシリアル転送を制御する8ビット・レジスタです。

(5) UARTDnオプション制御レジスタ1 (UDnOPT1)

UDnOPT1レジスタは、UARTDnのシリアル転送を制御する8ビット・レジスタです。

(6) UARTDn状態レジスタ (UDnSTR)

UDnSTRレジスタは、UARTDnの通信状態と受信エラー発生時のエラー内容を示すフラグの集合レジスタです。通信の所定状態を検出した際、対応するフラグがセットされます。

(7) UARTDn受信シフト・レジスタ

RXDDn端子に入力されたシリアル・データをパラレル・データに変換するシフト・レジスタです。1バイト分データを受信し、トップ・ビットを検出すると、受信データをUDnRXレジスタへ転送します。このレジスタを直接操作することはできません。

(8) UARTDn受信データ・レジスタ (UDnRX)

UDnRXレジスタは、受信データを保持する8ビットのバッファ・レジスタです。7キャラクタの受信では上位ビットには0が格納されます（LSBファースト受信時）。受信許可状態中は、受信データは1フレーム分のシフト・イン処理終了に同期してUARTDn受信シフト・レジスタからUDnRXレジスタに転送されます。また、UDnRXレジスタへの転送により、受信完了割り込み要求信号（INTUDnR）が発生します。

(9) UARTDn送信シフト・レジスタ

送信シフト・レジスタは、UDnTXレジスタから転送されたパラレル・データをシリアル・データに変換するシフト・レジスタです。UDnTXレジスタから1バイト分のデータが転送されると、シフト・レジスタのデータをTXDDn端子から出力します。このレジスタは直接操作することはできません。

(10) UARTDn送信データ・レジスタ (UDnTX)

UDnTXレジスタは、8ビットの送信データ用バッファです。UDnTXレジスタへ送信データを書き込むことにより、送信動作が開始されます。UDnTXレジスタにデータの書き込みが可能になる（UDnTXレジスタからUARTDn送信シフト・レジスタに1フレーム分のデータが転送される）と、送信許可割り込み要求信号（INTUDnT）が発生します。

18.3 制御レジスタ

(1) UARTDn制御レジスタ0 (UDnCTL0)

UDnCTL0レジスタは、UARTDnシリアル転送動作を制御する8ビットのレジスタです。

8/1ビット単位でリード / ライト可能です。

リセットにより10Hになります。

リセット時 : 10H R/W アドレス : UD0CTL0 : FFFFFA00H, UD1CTL0 : FFFFFA10H,
 UD2CTL0 : FFFFFA20H, UD3CTL0 : FFFFFA30H,
 UD4CTL0 : FFFFFA40H, UD5CTL0 : FFFFFA50H,
 UD6CTL0 : FFFFFA60H, UD7CTL0 : FFFFFA70H

	(7)	(6)	(5)	(4)	3	2	1	0
UDnCTL0 (n = 0-7)	UDnPWR	UDnTXE	UDnRXE	UDnDIR	UDnPS1	UDnPS0	UDnCL	UDnSL

UDnPWR	UARTDnの動作の制御
0	UARTDn動作禁止 (UARTDnを非同期にリセット)
1	UARTDn動作許可

UDnPWRビットにより、動作クロックの制御とUARTDnの非同期リセットを行います。UDnPWRビットが“0”的とき、TXDDn端子の出力はUDnOPT0.UDnTDLビットの設定にしたがって固定されます。

- UDnTDLビット = 0のとき、TXDDn端子出力はハイ・レベル
- UDnTDLビット = 1のとき、TXDDn端子出力はロウ・レベル

UDnTXE	送信動作許可
0	送信動作停止
1	送信動作許可

UDnOPT0レジスタのUDnTDLビットが“0”的とき、UDnTXEビットを“0”にすると、TXDDn端子の出力をハイ・レベルに固定します。
 UDnOPT0レジスタのUDnTDLビットが“1”的とき、UDnTXEビットを“0”にすると、TXDDn端子の出力をロウ・レベルに固定します。

- 送信ユニットを初期化する場合は、UDnTXEビットをクリア(0)して、基本クロックの2周期分以上の時間が経過してから、再びUDnTXEビットをセット(1)してください。基本クロックの2周期分に満たない時間で再びUDnTXEビットをセット(1)した場合、状態の初期化がされない場合があります。
- UDnTXEビット = 1の状態でUDnPWRビット = 0にすると、UDnTXEビット = 0時と同じ状態(送信動作停止)になります。再びUDnPWRビット = 1に設定すると、送信動作許可状態になります。

UDnRXE	受信動作許可
0	受信動作停止
1	受信動作許可

受信ユニットを初期化する場合は、UDnRXEビットをクリア(0)して、基本クロックの2周期分の時間が必要です。基本クロックの2周期分の時間が経過する以前に再びUDnRXEビット = 1とすることを禁止します。

受信動作は、UDnRXEビット = 1を設定後、基本クロックの2周期分が経過後に許可状態となります。RXDD端子の立ち下がりエッジ検出が有効になるのは、UDnRXEビット = 1に設定したあと、基本クロックの4周期分経過後です。

UDnRXEビット = 1の状態でUDnPWRビット = 0に設定すると、UDnRXEビット = 0時と同じ状態(受信動作禁止)になります。再びUDnPWRビット = 1に設定すると受信動作許可状態となり、基本クロックの4周期分経過後にRXDDn端子の立ち下がりエッジ検出が有効になります。

UDnDIR	転送方向モード (MSB/LSB) 選択
0	MSBファースト
1	LSBファースト

・UDnPWRビット = 0, またはUDnTXEビット = UDnRXEビット = 0の場合のみ書き換え可能です。
 ・LINのフォーマットで送信受信を行う場合は, UDnDIRビットは“1”に設定してください。

UDnPS1	UDnPS0	送信時のパリティ選択	受信時のパリティ選択
0	0	パリティを出力しない	パリティなしで受信
0	1	0パリティを出力	0パリティとして受信 (パリティを判定しない)
1	0	奇数パリティを出力	奇数パリティとして判定を行う
1	1	偶数パリティを出力	偶数パリティとして判定を行う

・UDnPWRビット = 0, またはUDnTXEビット = UDnRXEビット = 0の場合のみ書き換え可能です。
 ・受信時に「0パリティとして受信」を選択した場合, パリティ判定を行いません。
 したがって, UDnSTRレジスタのUDnPEビットはセットされないため, パリティ・エラーでのステータス割り込み (INTUDnS) も発生しません。
 ・LINのフォーマットで送受信を行う場合, UDnPS1, UDnPS0ビットは“00”に設定してください。

UDnCL	送受信データ1フレームのデータ・キャラクタ長指定
0	7ビット
1	8ビット

・UDnPWRビット = 0, またはUDnTXEビット = UDnRXEビット = 0の場合のみ書き換え可能です。
 ・LINのフォーマットで送信受信を行う場合は, UDnCLビットは“1”に設定してください。

UDnSL	送信データのストップ・ビット長指定
0	1ビット
1	2ビット

UDnPWRビット = 0, またはUDnTXEビット = UDnRXEビット = 0の場合のみ書き換え可能です。

- 備考1.** パリティについての詳細は, 18.5.12 パリティの種類と動作を参照してください。
 2. UDnDIRビット, UDnPS1ビット, UDnPS0ビット, UDnCLビット, UDnSLビットの設定は, UDnPWRビット, UDnTXEビット, UDnRXEビットを“1”に書き換える際, 同時に行うことが可能です。

(2) UARTDn 制御レジスタ1 (UDnCTL1)

詳細は, 18.6 (2) UARTDn制御レジスタ1 (UDnCTL1) を参照してください。

(3) UARTDn制御レジスタ2 (UDnCTL2)

詳細は, 18.6 (3) UARTDn制御レジスタ2 (UDnCTL2) を参照してください。

(4) UARTDn オプション制御レジスタ 0 (UDnOPT0)

UDnOPT0レジスタは、UARTDnのシリアル転送動作を制御する8ビットのレジスタです。

8/1ビット単位でリード / ライト可能です。

リセットにより14Hになります。

(1/4)

リセット時 : 14H R/W アドレス : UD0OPT0 : FFFFFA03H, UD1OPT0 : FFFFFA13H,
 UD2OPT0 : FFFFFA23H, UD3OPT0 : FFFFFA33H,
 UD4OPT0 : FFFFFA43H, UD5OPT0 : FFFFFA53H,
 UD6OPT0 : FFFFFA63H, UD7OPT0 : FFFFFA73H

	(7)	6	5	4	3	2	1	0
UDnOPT0 (n = 0-7)	UDnSRF	UDnSRT	UDnSTT	UDnSLS2	UDnSLS1	UDnSLS0	UDnTDL	UDnRDL

UDnSRF	SBF受信フラグ
0	<ul style="list-style-type: none"> UDnCTL0.UDnPWRビット = 0またはUDnRXEビット = 0のとき SBF受信を正常終了したとき。
1	<p>SBF受信の成功（正常終了）待ち状態</p> <ul style="list-style-type: none"> LIN通信でのSBF（Sync Brake Field）を受信していることを判断します。 SBF受信エラー時に、UDnSRFビットは“1”を保持し、その後再度SBF受信を開始して正常終了すると“0”になります。UDnSRFビットへの“0”書き込みは無視されます。 UDnSRFビットはリードのみ可能です。
<p>注意 UDnSRF = 1の場合、SBF受信が正常に終了したかどうかの判断は、SBF受信モード選択ビット（UDnSRS）の値によって異なります。UDnSRSビット = 0の場合は、ノイズ等を含め一瞬でも受信入力データにハイ・レベルが入力されると、その時点でロウ・レベル期間が11ビット以上かどうかを判断します。UDnSRSビット = 1の場合は、設定されたポー・レートに合わせて受信入力データをサンプリングし、ロウ・レベル期間が11ビット以上のときは、SBF受信に成功したと判断します。</p>	

UDnSRT	SBF受信トリガ
0	-
1	SBF受信トリガ (UDnSRTビットをセット(1)することでSBF受信可能状態となります。)

- LIN通信でのSBFの受信トリガ・ビットであり、読み出した場合、常に“0”が読み出されます。UDnSRTビットへの“0”書き込みは無視されます。SBFを受信する場合、UDnSRTビットをセット(1)しSBF受信可能状態にしてください。
- UDnCTL0.UDnPWRビット = 1, UDnCTL0.UDnRXEビット = 1の状態としてからUDnSRTビットを設定してください。
- UDnSRTビットは受信動作中でもセットできますが、受信動作は中断されます。ステータス・フラグの更新、割り込み要求信号の発生、データの格納は行われないため、セット時の受信データは保証されません。
- UDnSRTビットをセット後、SBF受信に成功してUDnSRFがクリアされ、それによる割り込み要求信号 (INTUDnRまたはINTUDnS) が発生するまで、UDnSRTビットを再セットしても無効です。
- SBF受信の検出は、次の受信入力データの立ち下がリエッジから開始されます。LIN-Busの状態が SBF時間途中であるときに、SBF受信可能状態にした(UDnSRTビットをセット)場合、そのSBFは受信できないので、SBF受信待ち状態を継続します(次のSBFを受信成功するまでその他の受信動作を行いません)。

- 注意**
1. SBFを受信せずにSBF受信許可状態を解除するには、UDnPWRビット = 0またはUDnRXEビット = 0にする必要があります。
 2. UDnSRTビットをセットした状態でのSBF受信完了の確認方法は、SBF受信モード選択ビット (UDnSRS) の値によって異なります。UDnSRSビットがクリア(0)されている場合は、SBF受信トリガ・ビット設定後の受信完了割り込み検出により確認可能です。UDnSRSビットがセット(1)されている場合は、SBF受信トリガ・ビット設定後のステータス割り込み検出の際、SBF受信成功フラグ(UDnSSF)が“1”かどうかで確認可能です。受信完了割り込み検出、またはステータス割り込み検出後に、UDnSRFビットが“0”であることでも確認できます。
いずれの場合もSBFの受信が成功したあと、次の受信からUARTの通常受信として動作します。
 3. UDnDCSビット = 1かつUDnSRFビット = 1の状態でデータ送信を行うことは禁止です。
ただし、SBF送信は可能です。

UDnSTT	SBF送信トリガ
0	-
1	SBF送信トリガ

- LIN通信でのSBFの送信トリガ・ビットであり、読み出した場合、常に“0”が読み出されます。UDnSTTビットへの“0”書き込みは無視されます。
- UDnCTL0レジスタのUDnPWRビット = UDnTXEビット = 1としてからUDnSTTビットを設定してください。

注意 1. データ送信中に、次の送信データのライトとUDnSTTビットのセットの両方を行うことは禁止します。つまり送信割り込み処理においては、次の送信データのライトまたはUDnSTTビットのセットのどちらか一方しか実行できません。

またSBF送信中にUDnSTTビットをセットしても無効です（SBF送信1回で終了）。

2. SBFの送信完了は、SBF送信トリガ・ビット設定後のUDnTSFビットが“0”になっている事により確認可能です。ただし、SBF送信中に次の送信データをUDnTXレジスタに書き込んだ場合は、UDnTSFビットはSBFの送信完了時にクリアされず、“1”を保持します。
また、SBF受信モード選択ビット（UDnSRS）がセット（1）されている場合は、ステータス割り込み検出後にSBF受信成功フラグ（UDnSSF）が“1”になっている事でも確認可能です。
3. SBF受信モード選択ビット（UDnOPT1.UDnSRS）がクリア（0）状態時にSBF送信を行う場合、SBF受信トリガ・ビット（UDnOPT0.UDnSRT）をセット（1）したあとに、SBF送信トリガ・ビット（UDnSTT）をセット（1）してください。
SBF受信フラグ（UDnOPT0.UDnSRF）がクリア（0）状態のときにSBF送信を行うと、10ビット目でフレーミング・エラーを検出します。
4. SBF受信モード選択ビット（UDnOPT1.UDnSRS）が“0”かつSBF受信フラグ（UDnOPT0.UDnSRF）が“0”状態時にSBF送信を行うことは禁止です。

備考 SBF送信トリガ・ビット（UDnSTT）をセットする前に、送信状態ではない（UDnSTR.UDnTSFフラグ = 0）ことを確認してください。

UDnSLS2	UDnSLS1	UDnSLS0	SBF長選択
1	0	1	13ビット長で出力（リセット値）
1	1	0	14ビット長で出力
1	1	1	15ビット長で出力
0	0	0	16ビット長で出力
0	0	1	17ビット長で出力
0	1	0	18ビット長で出力
0	1	1	19ビット長で出力
1	0	0	20ビット長で出力

UDnCTL0レジスタのUDnPWRビット = 0またはUDnCTL0レジスタのUDnTXEビット = 0の状態時に設定してください。

UDnTDL	送信データ・レベル制御
0	送信データ通常出力
1	送信データ反転出力

- UDnTDLビットの設定により、TXDDn端子の出力論理値を反転させることができます。
- UDnCTL0レジスタのUDnPWRビット = 0またはUDnCTL0レジスタのUDnTXEビット = 0の状態時に設定してください。

注意 UDnTDLビットの制御により、UDnPWR、UDnTXEビットの値に関係なくTXDDn出力のレベルは反転します（動作禁止状態（UDnPWRビット = 0）のときに、UDnTDLビットをセット（1）すると、TXDDn端子の出力はロウ・レベルとなります）。

UDnRDL	受信データ・レベル制御
0	受信データ通常入力
1	受信データ反転入力

- UDnRDLビットの設定により、RXDDn端子から入力された値を論理反転して取り込むことができます。
- UDnCTL0レジスタのUDnPWRビット = 0またはUDnCTL0レジスタのUDnRXEビット = 0の状態時に設定してください。

(5) UARTDnオプション制御レジスタ1 (UDnOPT1)

UDnOPT1レジスタは、UARTDnのシリアル転送動作を制御する8ビットのレジスタです。

8ビット単位でリード / ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

UDnOPT1レジスタは、UDnCTL0.UDnPWRビット = 0のときに設定してください。

リセット時 : 00H R/W アドレス : UD0OPT1 : FFFFFA05H, UD1OPT1 : FFFFFA15H,
 UD2OPT1 : FFFFFA25H, UD3OPT1 : FFFFFA35H,
 UD4OPT1 : FFFFFA45H, UD5OPT1 : FFFFFA55H,
 UD6OPT1 : FFFFFA65H, UD7OPT1 : FFFFFA75H

UDnOPT1	7	6	5	4	3	2	1	0
	0	0	0	0	0	0	UDnSRS	UDnDCS

UDnSRS	SBF受信モード選択ビット
0	データの通信中は新しいISBFを検出しません(ストップ・ビットの位置でロウ・レベルが検出されると、フレーミング・エラーとして認識されます)。
1	データの通信中に新しいISBFを検出します(ストップ・ビットの位置でロウ・レベルが検出されると、次にハイ・レベルが検出されるまで待ち、ロウ・レベル期間が11ビット以上であれば、新しいISBFとして認識します)。

注意 1. LIN通信を使用する場合のみ、UDnSRSビットをセットしてください。それ以外（通常のUART通信など）の場合は、必ず“0”を設定してください。
 2. このビットをセット(1)する際は、UDnDCSビットも“1”に設定する必要があります。

UDnDCS	データ一貫性チェック選択ビット
0	データの一貫性をチェックしません。
1	データの一貫性をチェックします。

UDnDCSビットはLIN通信においてデータを送信する場合、データの一貫性チェックの取り扱いを選択します。
 UDnDCSビット = 1の場合、LIN通信においてデータを送信するときに送信データと受信データを比較します。不一致が検出されるとデータの一貫性エラー・フラグがセットされ、ステータス割り込み要求信号 (INTUDnS) が発生します。

注意 1. LIN通信を使用する場合、UDnDCSビットをセットしてください。それ以外の場合は、必ず“0”を設定してください。
 2. このビットをセット(1)する際は、データ・ビット長を8ビットに固定し、parity・ビットの付加は禁止です。

(6) UARTDn状態レジスタ (UDnSTR)

UDnSTRレジスタは、UARTDnの通信状態と受信エラー内容を示す8ビットのレジスタです。

8/1ビット単位でリード / ライト可能ですが、UDnTSFビットはリードのみ可能で、UDnSSF、UDnDCE、UDnPE、UDnFE、UDnOVEビットについてはR/W可能ですが、“0”ライトによるクリアのみ可能で、“1”ライトによるセット動作は無視されます (“1”をライトした場合には、保持状態となります)。

次に初期化条件を示します。

レジスタ / ビット	初期化条件
UDnSTRレジスタ	<ul style="list-style-type: none"> リセット入力 UDnCTL0レジスタのUDnPWRビット = 0
UDnSSFビット	<ul style="list-style-type: none"> UDnCTL0レジスタのUDnRXEビット = 0 UDnOPT1レジスタのUDnSRSビット = 0
UDnDCEビット	<ul style="list-style-type: none"> UDnOPT1レジスタのUDnDCSビット = 0 UDnCTL0レジスタのUDnTXEビット = 0
UDnTSFビット	<ul style="list-style-type: none"> UDnCTL0レジスタのUDnTXEビット = 0
UDnPE, UDnFE, UDnOVEビット	<ul style="list-style-type: none"> 0の書き込み UDnCTL0レジスタのUDnRXEビット = 0

注意 ステータス・フラグをクリアする場合は、1ビット操作命令で行うか、またはリードした値の反転値を8ビット操作命令でライトするなどして、リード時にセットされていたビットをまとめてクリアしてください。

リセット時 : 00H R/W アドレス : UD0STR : FFFFFA04H, UD1STR : FFFFFA14H,
 UD2STR : FFFFFA24H, UD3STR : FFFFFA34H,
 UD4STR : FFFFFA44H, UD5STR : FFFFFA54H,
 UD6STR : FFFFFA64H, UD7STR : FFFFFA74H

	(7)	6	5	4	3	(2)	(1)	(0)
UDnSTR	UDnTSF	0	0	UDnSSF	UDnDCE	UDnPE	UDnFE	UDnOVE
(n = 0-7)								

UDnTSF	送信状態フラグ
0	<ul style="list-style-type: none"> UDnPWRビット = 0, または UDnTXEビット = 0に設定したとき<small>注</small> 転送完了後に, 送信データ・レジスタ (UDnTX) に次の送信データがなかったとき SBF送信を終えたあと, 送信データ・レジスタ (UDnTX) に次の送信データがなかったとき
1	<ul style="list-style-type: none"> UDnTXレジスタへの書き込み SBF送信トリガ・ビット (UDnSST) をセットしたとき
<ul style="list-style-type: none"> 連続送信を行っている場合にはUDnTSFビットは常に“1”になっています。 送信ユニットの初期化 (UDnCTL0.UDnTXEビットのクリア(0)) を行う場合には, UDnTSFビット = 0になっていることを確認してから初期化 (UDnCTL0.UDnTXEビットのクリア(0)) を行ってください。UDnTSFビット = 1の状態で初期化 (UDnCTL0.UDnTXEビットのクリア(0)) を行った場合, 送信が途中で中断されるため, 送信データは保証できません。 	
注 通信動作中の場合, 基本クロック周波数 (f _{CLK}) の2クロック後にクリア(0)されます。基本クロック周波数 (f _{CLK}) については, 18.6(1)(a) 基本クロック (Clock) を参照してください。	

UDnSSF	SBF受信成功フラグ
0	<ul style="list-style-type: none"> UDnCTL0.UDnPWR ビット = 0 時 UDnCTL0.UDnRXE ビット = 0 時 UDnOPT1.UDnSRS ビット = 0 時 UDnSSF ビットをクリア(0)したとき
1	<ul style="list-style-type: none"> 11ビット以上の連続するロウ・レベル (SBF) を受信したとき
<ul style="list-style-type: none"> SBF受信モード選択ビットをセット(1)しているとき (UDnOPT1.UDnSRSビット = 1), 11ビット以上の連続するロウ・レベル (SBF) を受信すると, UDnSSFビットは“1”となります。 SBF受信モード選択ビットをセット(1)しているとき (UDnOPT1.UDnSRSビット = 1), SBFは, データ通信中でも受信される可能性があるので, ステータス割り込み (INTUDnS) 時の処理内でUDnSSFビットをリードし, 新たなフレーム・スロットの開始を確認してください。 このビットは, 0が書き込まれるまで現在の状態を保持します。UDnSRS = 0の場合は, このビットは常に0となります。 	
UDnSSFビットへの“1”書き込みは無視されます。	

UDnDCE	データ一貫性エラー・フラグ
0	<ul style="list-style-type: none"> UDnCTL0.UDnPWR ビット = 0 時 UDnCTL0.UDnTXE ビット = 0 時 UDnOPT1.UDnDCS ビット = 0 時 UDnDCE ビットをクリア (0) したとき
1	<p>送信データが受信データと一致しないとき</p> <ul style="list-style-type: none"> データの一貫性チェック選択ビットをセット (1) している場合 (UDnOPT1.UDnDCS ビット = 1), データを送信するときに送信データと受信データを比較し, 不一致を検出した場合, UDnDCE ビットは “1” となります。 このビットは, 0 が書き込まれるまで現在の状態を保持します。UDnDCS = 0 の場合は, このビットは常に 0 となります。 <p>UDnDCE ビットへの “1” 書き込みは無視されます。</p>
UDnPE	パリティ・エラー・フラグ
0	<ul style="list-style-type: none"> UDnCTL0.UDnPWR ビット = 0 時 UDnCTL0.UDnRXE ビット = 0 時 UDnPE ビットをクリア (0) したとき
1	<p>受信データのパリティ計算結果と受信したパリティ・ビットの値が一致しないとき</p> <ul style="list-style-type: none"> UDnPE ビットの動作は, パリティ選択ビット (UDnCTL0.UDnPS1 ビット, UDnPS0 ビット) の設定に従います。 UDnPE フラグへの書き込みは, クリア (0) のみ可能です。“1” の書き込みは無視されます。
UDnFE	フレーミング・エラー・フラグ
0	<ul style="list-style-type: none"> UDnCTL0.UDnPWR ビット = 0 時 UDnCTL0.UDnRXE ビット = 0 時 UDnFE ビットをクリア (0) したとき
1	<p>受信時, ストップ・ビットが検出されないとき</p> <ul style="list-style-type: none"> 受信においてストップ・ビットの検出に異常があったときに UDnFE ビットは “1” となります。受信データのストップ・ビットは, 送信データのストップ・ビット長指定 (UDnCTL0.UDnSL ビット) にかかわらず, 最初の1ビットのみを検出判定対象とします。 UDnFE フラグへの書き込みは, クリア (0) のみ可能です。“1” の書き込みは無視されます。
UDnOVE	オーバラン・エラー・フラグ
0	<ul style="list-style-type: none"> UDnCTL0.UDnPWR ビット = 0 時 UDnCTL0.UDnRXE ビット = 0 時 UDnOVE ビットをクリア (0) したとき
1	<p>受信データ・レジスタ (UDnRX) に受信データが格納され, そのデータを読み出す前に次の受信動作が完了したとき</p> <ul style="list-style-type: none"> オーバラン・エラーが発生したとき, 次の受信データは UDnRX レジスタに書き込まれず, データは破棄されます。 UDnOVE フラグへの書き込みは, クリア (0) のみ可能です。“1” の書き込みは無視されます。

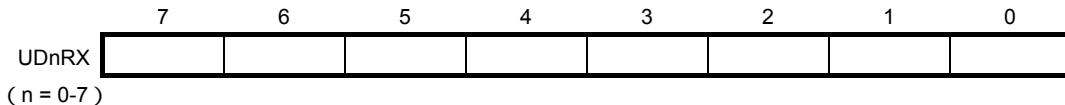
(7) UARTDn受信データ・レジスタ (UDnRX)

UDnRXレジスタは、受信データを格納する8ビット・レジスタです。データ・キャラクタ長指定ビット (UDnCTL0.UDnCLビット) で指定するキャラクタ長の受信データが、受信シフト・レジスタでシリアル-パラレル変換され、受信完了のあとにUDnRXレジスタへ格納されます。

8ビット単位でリードのみ可能です。

リセット以外に、UDnCTL0レジスタのUDnPWRビット = 0によってもUDnRXレジスタはFFHになります。

リセット時 : FFH R アドレス : UD0RX : FFFFFA06H, UD1RX : FFFFFA16H,
 UD2RX : FFFFFA26H, UD3RX : FFFFFA36H,
 UD4RX : FFFFFA46H, UD5RX : FFFFFA56H,
 UD6RX : FFFFFA66H, UD7RX : FFFFFA76H



データ・キャラクタ長を7ビットに指定した場合 (UDnCLビット = 0) :

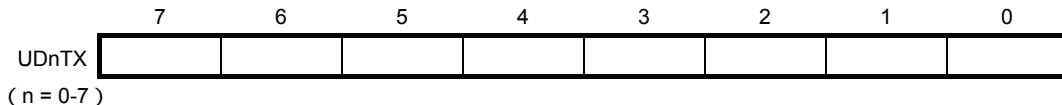
- ・ LSBファースト受信時、受信データはUDnRXレジスタのビット0-6へ転送され、MSBは必ず“0”になります。
- ・ MSBファースト受信時、受信データはUDnRXレジスタのビット7-1へ転送され、LSBは必ず“0”になります。
- ・ オーバラン・エラー (UDnOVE = 1) が発生した場合は、そのときの受信データはUDnRXレジスタに転送されません。

(8) UARTDn送信データ・レジスタ (UDnTX)

UDnTXレジスタは、送信データを設定するための8ビット・レジスタです。

8ビット単位でリード / ライト可能です。

リセット時 : FFH R/W アドレス : UD0TX : FFFFFA07H, UD1TX : FFFFFA17H,
 UD2TX : FFFFFA27H, UD3TX : FFFFFA37H,
 UD4TX : FFFFFA47H, UD5TX : FFFFFA57H,
 UD6TX : FFFFFA67H, UD7TX : FFFFFA77H



データ・キャラクタ長を7ビットに指定した場合 (UDnCLビット = 0) :

- ・ LSBファースト送信時 , 送信データはUDnTXレジスタのビット0-6の順番に転送されます。
- ・ MSBファースト送信時 , 送信データはUDnTXレジスタのビット7-1の順番に転送されます。

注意 送信動作許可状態時(UDnCTL0.UDnPWRビット = 1かつUDnCTL0.UDnTXEビット = 1),UDnTXレジスタへの書き込みは送信開始のトリガとして作用するため ,直前の値と同一の値を書き込むと二度同じデータが送信されます。

送信中の送信データ書き込みは , 必ず送信割り込み要求 (INTUDnT) が発生したあとにしてください。

送信禁止状態において ,UDnTXレジスタへ書き込んだ場合 ,送信開始トリガとして作用しません。そのため , 送信禁止状態にてUDnTXレジスタに書き込み後 , 送信許可状態に設定しても送信は開始されません。

備考 送信割り込み要求信号 (INTUDnT) 発生後 , 送信が完了するまでに次の送信データをUDnTXレジスタへ書き込むことで連続送信が可能です。

18.4 割り込み要求信号

UARTDnからは次の3種類の割り込み要求信号を発生します。

- ・ステータス割り込み要求信号 (INTUDnS)
- ・受信完了割り込み要求信号 (INTUDnR)
- ・連続送信書き込み許可割り込み要求信号 (INTUDnT)

これら3種類の割り込み要求信号のディフォールト・プライオリティを、表18-3に示します。

表18-3 発生する割り込みとディフォールト・プライオリティ

割り込み	ディフォールト・ プライオリティ
ステータス	高
受信完了	中
連続送信書き込み許可	低

(1) ステータス割り込み要求信号 (INTUDnS)

受信中にエラー条件を検出すると、ステータス割り込み要求信号が発生します。検出したエラーに対応するフラグ (UDnPE, UDnFE, UDnOVEビット) がUDnSTRレジスタにセットされます。

- ・SBF受信モード選択ビットがLIN通信モードに設定 (UDnSRSビット = 1) されている場合、11ビット以上の連続するロウ・レベル (SBF) を受信するとステータス割り込み要求信号を発生します。
- ・データの一貫性チェック選択ビットをセット (UDnDCSビット = 1) している場合、データを送信するときに送信データと受信データを比較します。不一致を検出した場合、ステータス割り込み要求が発生します。

(2) 受信完了割り込み要求信号 (INTUDnR)

受信許可状態中で、受信シフト・レジスタにデータがシフト・インされUDnRXレジスタに転送されると受信完了割り込み要求信号が発生します。

受信エラーが起こった場合には、受信完了割り込み要求信号は発生せず、ステータス割り込み要求信号が発生します。

受信禁止状態中は、受信完了割り込み要求信号は発生しません。

(3) 連続送信書き込み許可割り込み要求信号 (INTUDnT)

送信許可状態で、UDnTXレジスタからUARTDn送信シフト・レジスタへ送信データが転送されると送信許可割り込み要求信号を発生します。

18.5 動 作

18.5.1 データ・フォーマット

全二重シリアル・データの送受信を行います。

送受信データのフォーマットは、図18-2に示すとおり、スタート・ビット、キャラクタ・ビット、パリティ・ビット、トップ・ビットで1データ・フレームを構成します。

1データ・フレーム内のキャラクタ・ビット長の指定、パリティ選択、トップ・ビット長の指定、MSB/LSBファーストの転送指定は、UDnCTL0レジスタによって行います。

また、UDnOPT0レジスタのUDnTDLビットでTXDDn端子のUART出力／反転出力の制御を行います。

- ・スタート・ビット 1ビット
- ・キャラクタ・ビット ... 7ビット/8ビット
- ・パリティ・ビット 偶数パリティ/奇数パリティ/0パリティ/パリティなし
- ・トップ・ビット 1ビット/2ビット

図18-2 UARTDの送受信データのフォーマット (1/2)

(a) 8ビット・データ長、 LSB ファースト、偶数パリティ、1トップ・ビット、転送データ：55H



(b) 8ビット・データ長、MSB ファースト、偶数パリティ、1トップ・ビット、転送データ：55H



(c) 8ビット・データ長、MSB ファースト、偶数パリティ、1トップ・ビット、転送データ：55H、TXDA_n 反転



図18-2 UARTDの送受信データのフォーマット (2/2)

(d) 7ビット・データ長, LSBファースト, 奇数parity, 2ストップ・ビット, 転送データ: 36H



(e) 8ビット・データ長, LSBファースト, パリティなし, 1ストップ・ビット, 転送データ: 87H



18.5.2 SBF送信 / 受信フォーマット

本マイクロコントローラにはLIN(Local Interconnect Network)機能として使用するために SBF(Synch Break Field) 送信 / 受信制御機能があります。

備考 LINとは、Local Interconnect Networkの略称で、車載ネットワークのコストダウンを目的とする低速(1 ~ 20 kbps)のシリアル通信プロトコルです。

LINの通信はシングル・マスタ通信で、1つのマスタに対し最大15のスレーブが接続可能です。

LINのスレーブは、スイッチ、アクチュエータ、センサなどの制御に使用され、これらがLINのネットワークを介してLINのマスタに接続されます。

LINのマスタは通常、CAN(Controller Area Network)などのネットワークに接続されます。

また、LINバスはシングル・ワイヤ方式で、ISO9141に準拠したトランシーバを介して各ノードが接続されます。

LINのプロトコルでは、マスタはフレームにポー・レート情報をつけて送信し、スレーブはこれを受信してマスタとのポー・レート誤差を補正します。このため、スレーブのポー・レート誤差が±15 %以下であれば、通信可能です。

図18-3 LINの送信操作概略

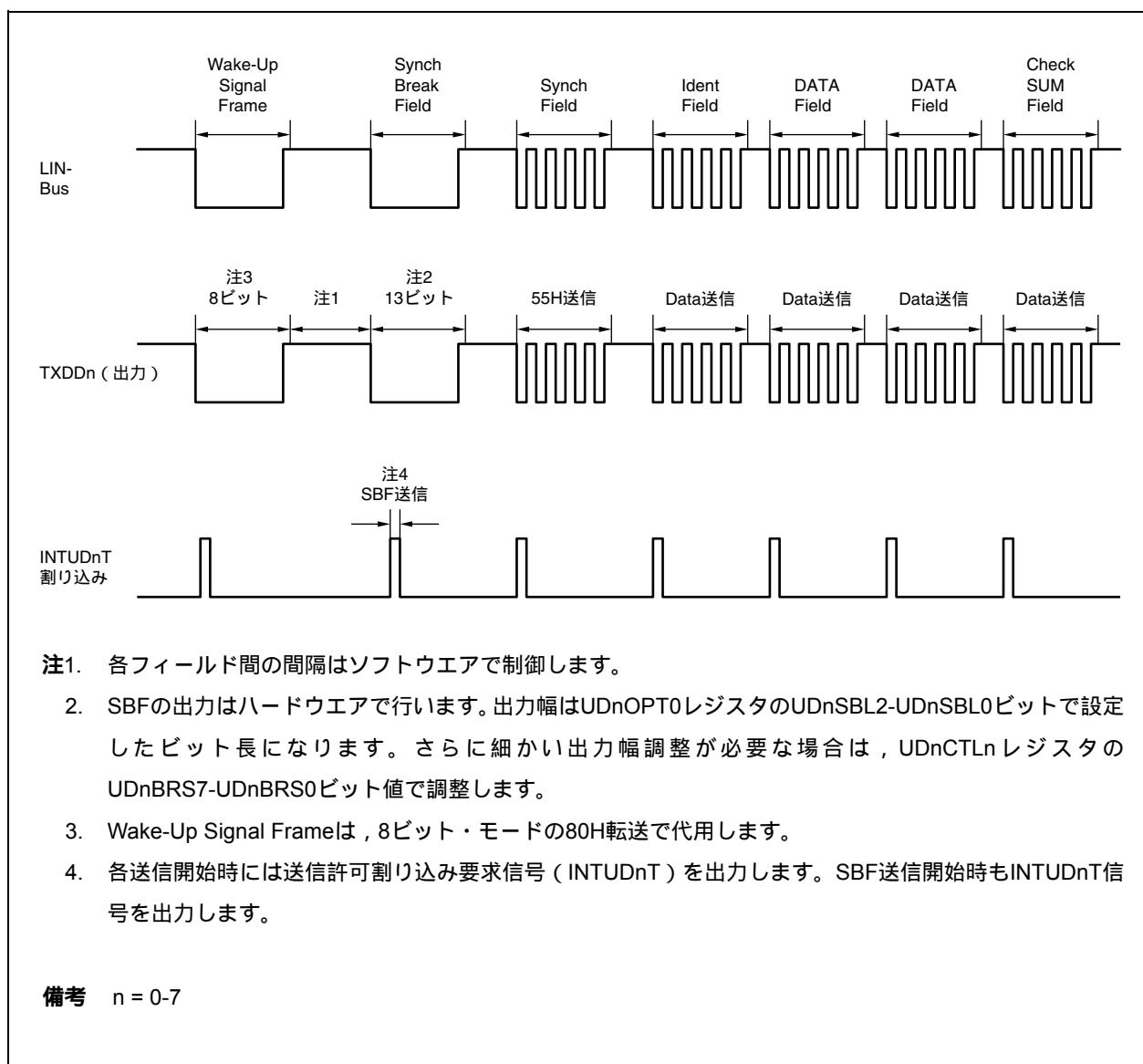
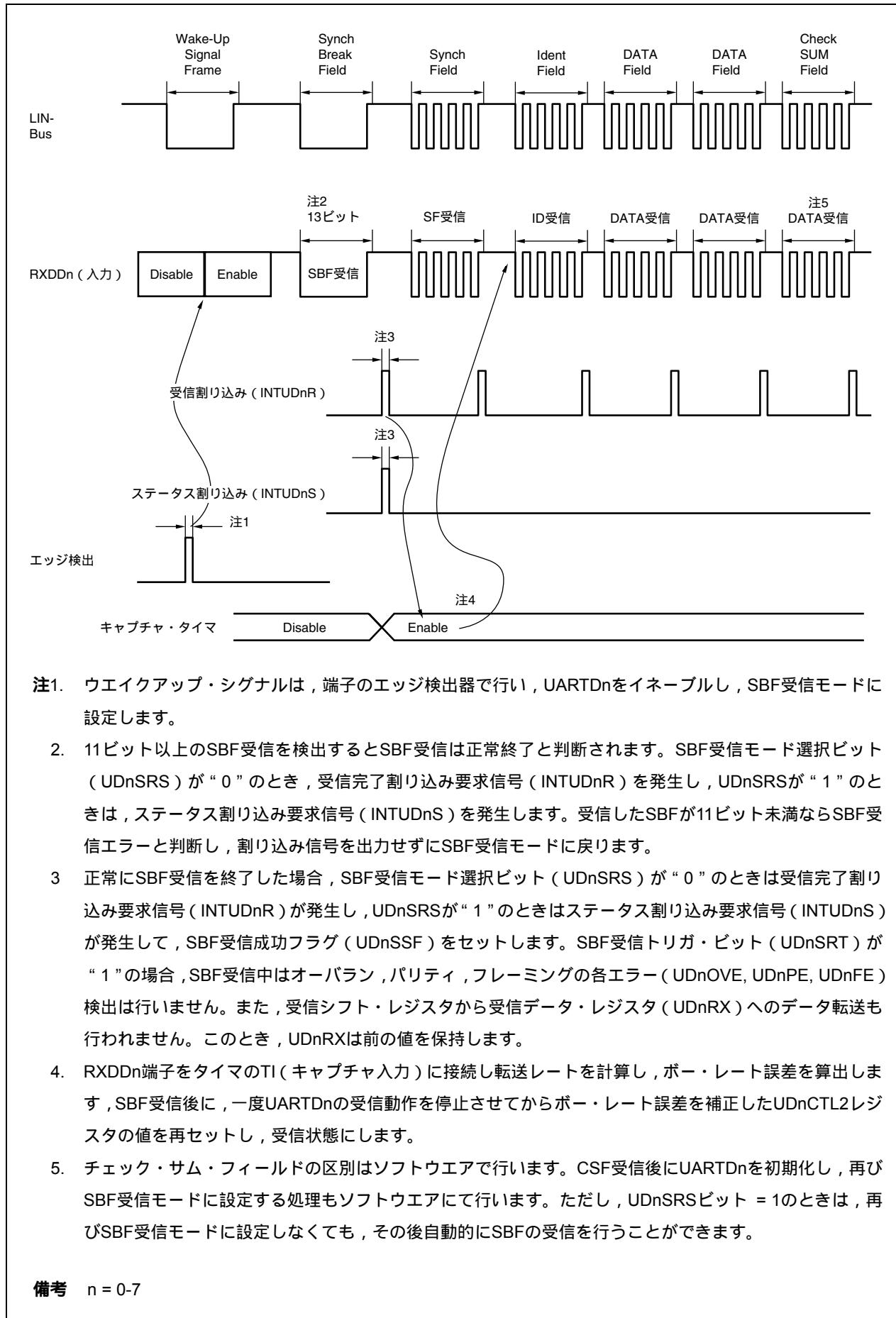


図18-4 LINの受信操作概略



18.5.3 SBF送信

まず次の操作で送信許可状態にします。

- 動作クロックをUARTD制御レジスタ1 (UDnCTL1) で指定。
- ポート・レートをUARTD制御レジスタ2 (UDnCTL2) で指定。
- 出力論理レベルとSBF長をUARTDオプション制御レジスタ0 (UDnPT0) で指定。
- データの一貫性チェック有無とSBF受信モードをUARTDオプション制御レジスタ1(UDnPT1)で指定。
- 通信方向 , パリティ , データ・キャラクタ長 , ストップ・ビット長をUARTD制御レジスタ0(UDnCTL0) で指定。
- パワー・ビットと送信許可ビットをセット (UDnPWR = 1, UDnTXE = 1)。

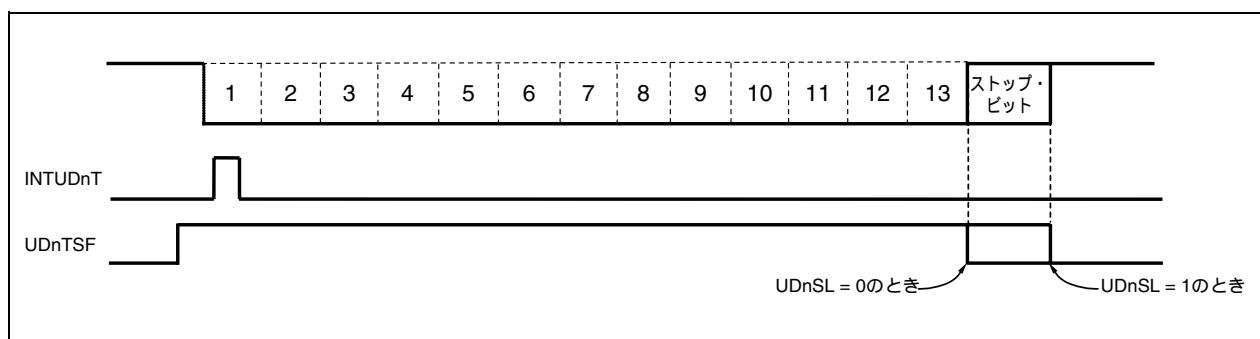
次にSBF送信トリガ (UDnSTT) をセットし , SBF送信動作を起動します。TXDDn出力には , SBF長 (UDnSLS2-UDnSLS0) で指定された13ビットから20ビットまでのロウ・レベルが出力されます。SBF送信開始時には送信割り込み要求信号 (INTUDnT) を発生します。SBF送信を終了後 , SBF送信状態 (SBTT) は自動的に解除され , 通常のUART送信モードに戻ります。

送信するデータをUDnTXレジスタに書き込むか , SBF送信トリガ (UDnSTT) をセットするまで , 送信動作は待機状態となります。SBF送信時の受信完了割り込み (INTUDnR) やステータス割り込み (INTUDnS) などによって , SBFの正常受信を確認してから , 次の送信動作を開始してください。

注意 設定する値が決まっているものを次に示します。

- 出力論理レベルは , 通常出力 (UDnTDL = 0) を設定。
- 通信方向制御は , LSBファースト (UDnDIR = 1) を設定。
- パリティ選択ビットは , パリティ・ビット出力なし (UDnPS1 = 0, UDnPS0 = 0) を設定。
- データ・キャラクタ長は , 8ビット (UDnCL = 1) を設定。

図18-5 SBF送信



18.5.4 SBF受信

まず次の操作で受信許可状態にし、RXDDn入力のモニタとスタート・ビットの検出を行います。

- ・動作クロックをUARTD制御レジスタ1 (UDnCTL1) で指定
- ・バー・レートをUARTD制御レジスタ2 (UDnCTL2) で指定
- ・入力論理レベルをUARTDオプション制御レジスタ0 (UDnOPT0) で指定
- ・データの一貫性チェック有無とSBF受信モードをUARTDオプション制御レジスタ1 (UDnOPT1) で指定
- ・通信方向、パリティ、データ・キャラクタ長、トップ・ビット長をUARTD制御レジスタ0 (UDnCTL0) で指定
- ・パワー・ビットと受信許可ビットをセット (UDnPWR = 1, UDnRXE = 1)

次にSBF受信トリガ・ビット (UDnSRT) をセットすると、SBFの受信待ち状態になり、RXDDn入力をモニタし、スタート・ビットの検出を行います。

RXDDn入力レベルの立ち下がりエッジが検出されると、RXDDn入力のデータ・サンプリングが始まります。ストップ・ビットを検出するまでの間、設定されたバー・レートにあわせて内蔵カウンタをカウント・アップすることでSBFの長さを測定します。トップ・ビットを受信した時点で、SBFの長さが11ビット長以上の場合は正常と判断され、SBF受信モード選択ビット (UDnSRS) が“0”的ときは、受信完了割り込み要求信号 (INTUDnR) を発生します。UDnSRSビットが“1”的ときは、ステータス割り込み要求信号 (INTUDnS) を発生すると同時にSBF受信成功フラグ (UDnSSF) がセットされます。またSBF受信フラグ (UDnSRF) も自動的にクリアされ、SBF受信を終了します。

オーバラン、パリティ、フレーミング (UDnOVE, UDnPE, UDnFE) の各エラー検出は抑制されます。また、受信シフト・レジスタから受信データ・レジスタ (UDnRX) へのデータ転送も行われません。SBFの幅が10ビット長以下の場合は異常と判断します。その場合、受信完了割り込み要求信号 (INTUDnR) や、ステータス割り込み要求信号 (INTUDnS) が発生せず受信を終了し、再びSBF受信モードに戻ります。その際SBF受信フラグ (UDnSRF) はクリアされません。

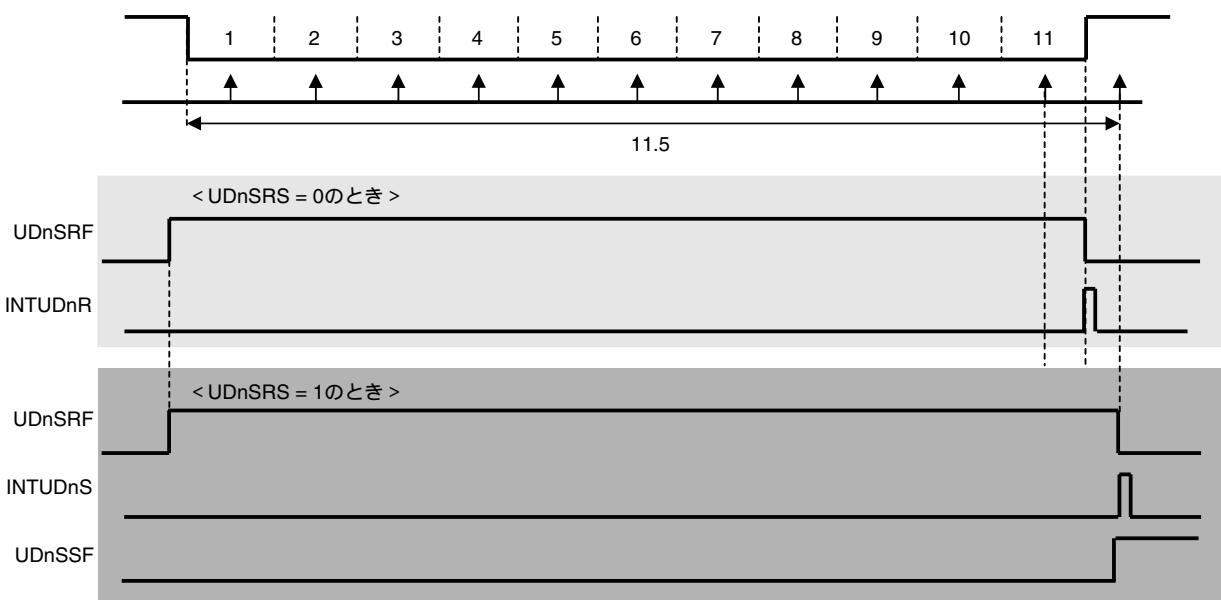
UARTDは、データ通信中でも新規のSBF受信を検出できます。

注意 1. 設定する値が決まっているものを次に示します。

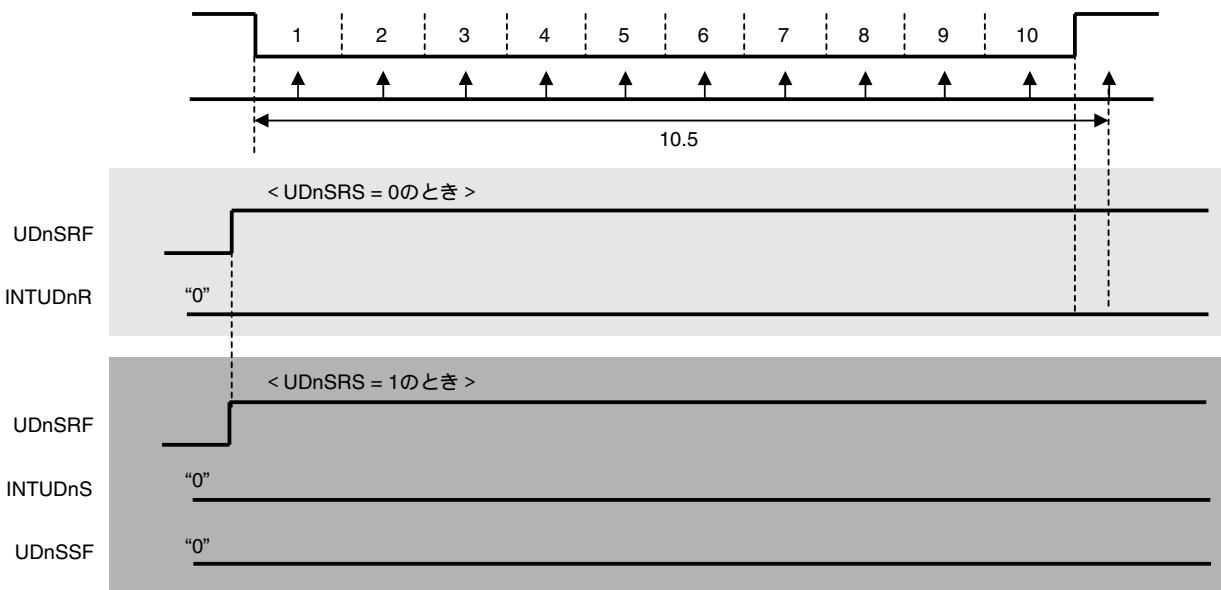
- ・入力論理レベルは、通常入力 (UDnRDL = 0) を設定。
 - ・通信方向制御は、 LSBファースト (UDnDIR = 1) を設定。
 - ・パリティ選択ビットは、パリティ・ビットなしで受信 (UDnPS1 = 0, UDnPS0 = 0) を設定。
 - ・データ・キャラクタ長は、8ビット (UDnCL = 1) を設定。
2. データ受信中に、SBFが送信されてきた場合の動作は、UDnOPT1.UDnSRSビットの設定によります。詳細は、18.3(5)UARTDnオプション制御レジスタ1 (UDnOPT1) を参照してください。

図18-6 SBF受信

- 正常SBF受信 : SBF長が10.5 ピット分を越えてSTOPピットを検出



- SBF受信エラー : SBF長が10.5 ピット分以下でSTOPピットを検出



注意 $UDnSRF$ ビットは、 $UDnSRT$ ビットへの“1”設定によりセット(1)され、SBFの正常受信によってクリアされます。

18.5.5 データ一貫性チェック

データの一貫性チェック選択ビット(UDnDCS)を“1”にすると, Synch Break Field, Synch Field, Ident Field, Check SUM Fieldを含むデータの送信時, 1ビットごとに送信データと受信データの比較を行います。比較の結果, 不一致を検出した場合および, 送信動作終了前に受信動作終了した場合(送信動作と受信動作のいずれに伴う送信データと受信データの不一致を検出するため)に, そのフレームの終了時にステータス割り込み要求信号(INTUDnS)を出力し, データの一貫性エラー・フラグ(UDnDCE)をセットします。

また, 次の送信データがすでに送信データ・レジスタ(UDnTX)にライト済みであった場合でも, 次の送信を行いません(ライトされたUDnTX内のデータは無視)。SBF送信トリガ・ビット(UDnSTT)がセットされていた場合も, SBTTをクリアしてSBFの送信を行いません。送信を再開する場合は, データの一貫性エラー・フラグ(UDnDCE)をクリアしてから, 送信データを送信データ・レジスタ(UDnTX)にライト, またはSBF送信トリガ・ビット(UDnSTT)をセットする必要があります。

データの一貫性チェックは, SBF送信時を含め, 送信のスタート・ビットから1ビット目のストップ・ビットまで行われます。ストップ・ビット長選択ビット(UDnSL)によってストップ・ビット長を2ビットに指定しても, 2ビット目のストップ・ビットの一貫性チェックは行われません。

受信のみの場合(送信していないとき)は, データの一貫性チェックは行われません。送信している場合は受信動作停止設定状態(UDnCTL0.UDnRXE = 0)でも, 送信データと受信データの一貫性チェックが行われます。受信動作停止設定状態(UDnCTL0.UDnRXE = 0)のときは, 受信データの格納を行いません。また, 受信完了割り込み要求信号(INTUDnR)および, UDnSSFフラグ, UDnFEフラグ, UDnOVEフラグのセットによるステータス割り込み要求信号(INTUDnS)も発生しませんので, 受信データを読み出す必要はありません。

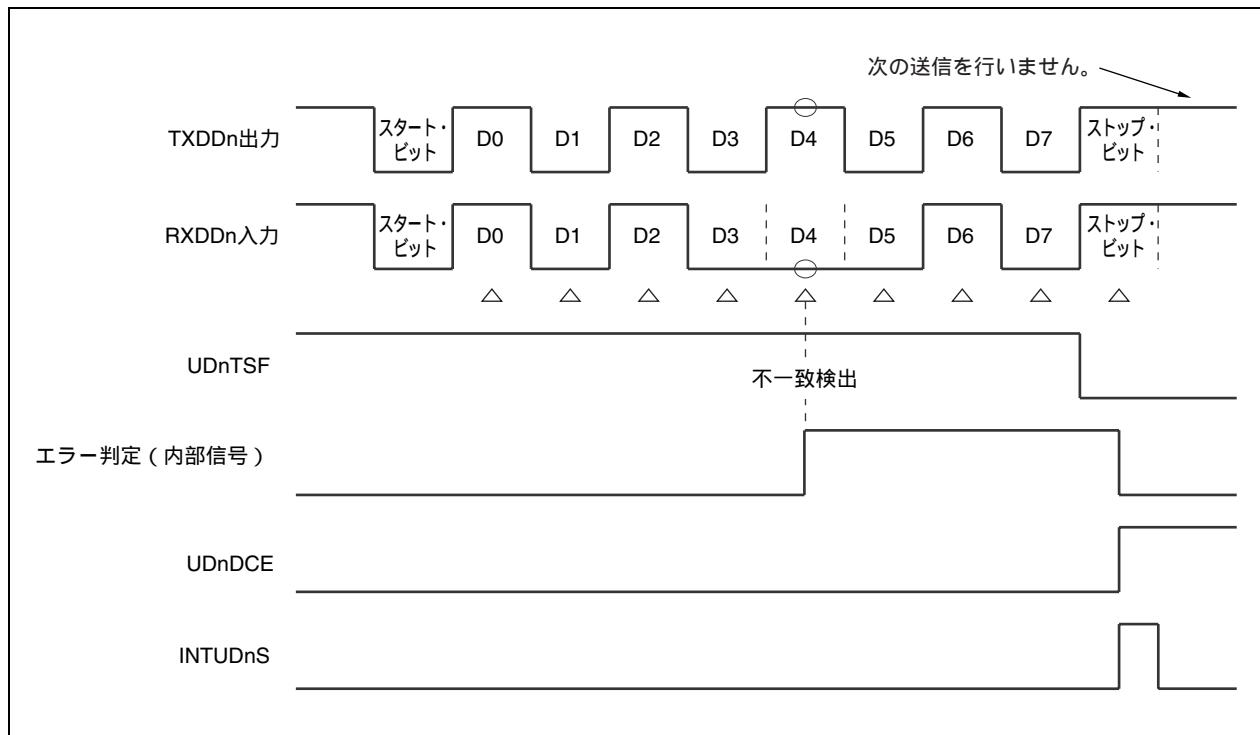
データの一貫性エラーは次の場合に検出されます。

- ・送信中(スタート・ビットから1ビット目のストップ・ビットの間)に, 送信データと受信データの不一致を検出。
- ・UDnSRF = 0のとき, 送信動作終了前に受信動作が終了^注。
- ・UDnSRF = 1かつUDnSRS = 0のとき, SBF送信中に入力データの立ち上がりエッジを検出。
- ・UDnSRF = 1かつUDnSRS = 1のとき, SBF送信中に入力データの“1”を検出。
- ・1ビット目のストップ・ビット送信時に入力データの“0”を検出。

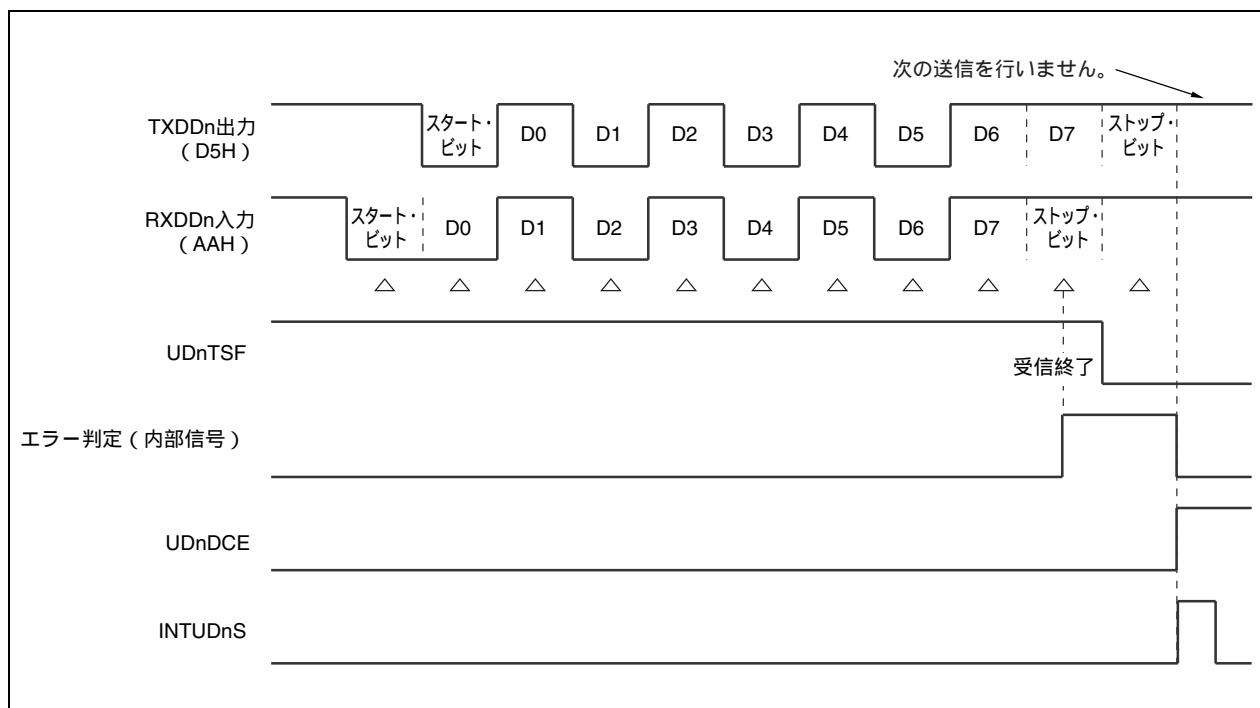
注 ただし, UDnRXE = 0のときは除く。

- 注意1.** データの一貫性チェック選択ビットUDnDCS = 0の場合, データの一貫性エラー・フラグ(UDnDCE)は“0”固定です。
2. データ一貫性エラーの有無は, 受信データのUDnRXレジスタへの格納動作に影響を与えません。ただし格納が行われる場合は, フレーミング・エラーを検出(判定)するタイミングに格納されます。
 3. UDnSRS = 0, UDnDCS = 1かつUDnSRF = 0のときにSBFを送信すると, 受信動作はデータのストップ・ビット位置(10ビット目)に終了するので(送信動作終了前に受信動作が終了), 送信データと受信データに不一致がなくても一貫性エラーとして検出します。

(a) データ一貫性エラーのタイミング例 (UDnSRF = 0)



(b) 送信と受信動作間に遅延がある場合のデータ一貫性エラーのタイミング例



18.5.6 SBF受信モード選択

SBF (Synch Break Field) の受信のために、2種類のモードを備えており、SBF受信モード選択ビット (UDnOPT1.UDnSRS) によって選択します。

UDnSRSビットをセット (1) する際は、データの一貫性チェック選択ビット (UDnOPT1.UDnDCS) も “1” に設定する必要があります。

(1) UDnSRS ビット = 0 (データ送信中は新しい SBF を検出しない) 設定の場合

(a) SBF受信成功待ち状態でない (UDnOPT0.UDnSRF = 0) 場合

データのストップ・ビット位置 (10ビット目) で、フレーミング・エラー / オーバラン・エラーの判定を行います (図18-7参照)。オーバラン・エラーが検出されなかった場合、受信データをUDnRXレジスタへ格納します。

データ一貫性エラー検出時のフラグ (UDnSTR.UDnDCE) とステータス割り込み要求信号 (INTUDnS) について次に示します。

- ・受信動作中にデータ不一致を検出し、ストップ・ビット送信開始時に受信動作中の場合、ストップ・ビット位置で、データ一貫性エラー・フラグ (UDnDCEビット) が “1” となり、割り込み要求 (NTUDnS) が発生します (18.5.5(a) 参照)。
- ・データまたはSBFのストップ・ビット送信開始時に受信動作が停止している場合、(受信動作中のデータ不一致の検出有無によらず) ストップ・ビットの次のビットが開始するときにデータ一貫性エラー・フラグ (UDnDCEビット) が “1” となり、割り込み要求 (NTUDnS) が発生します (18.5.5(b) 参照)。

(b) SBF受信成功待ち状態 (UDnOPT0.UDnSRF = 1) の場合

新規SBFを認識します。フレーミング・エラー / オーバラン・エラーの判定および、受信データのUDnRXレジスタへの格納は行いません。

データ一貫性エラー検出時のフラグ (UDnSTR.UDnDCE) とステータス割り込み要求信号 (INTUDnS) について次に示します。

- ・SBF受信を期待する期間中にエッジを検出し、ストップ・ビット送信開始時に受信動作中の場合、ストップ・ビット以降の入力 (受信) データの立ち上がりエッジ検出時に、データ一貫性エラーフラグ (UDnDCEビット) が “1” となり、割り込み要求 (INTUDnS) が発生します (図18-9参照)。
- ・SBF受信を期待する期間中にエッジを検出し、ストップ・ビット送信開始時に受信動作が停止している場合、ストップ・ビットの次のビットが開始するときにデータ一貫性エラーフラグ (UDnDCEビット) が “1” となり、割り込み要求 (INTUDnS) が発生します (図18-8参照)。

注意 SBF受信モード選択ビット (UDnSRS) = 0の場合、SBF受信成功フラグ (UDnSSF) は “0” 固定です。

図18-7 UDnSRS = 0の場合のフレーミング・エラー / オーバラン・エラー判定タイミング

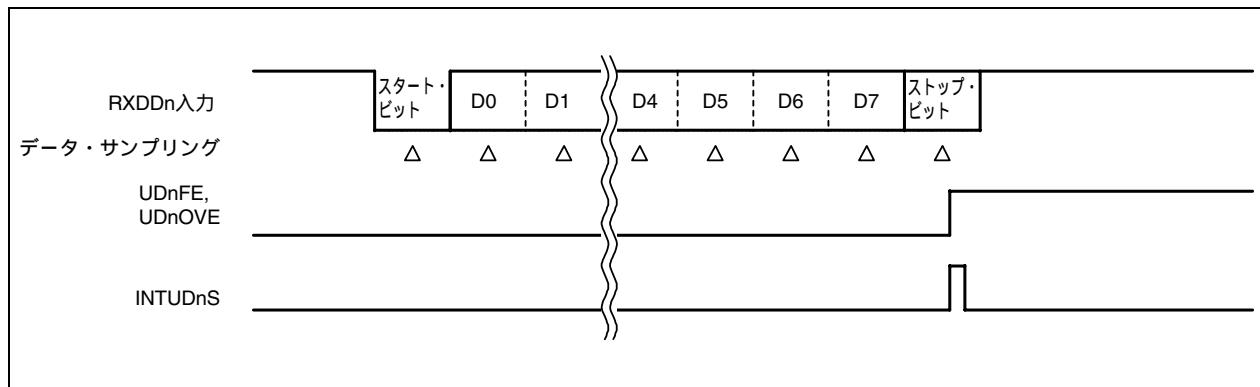
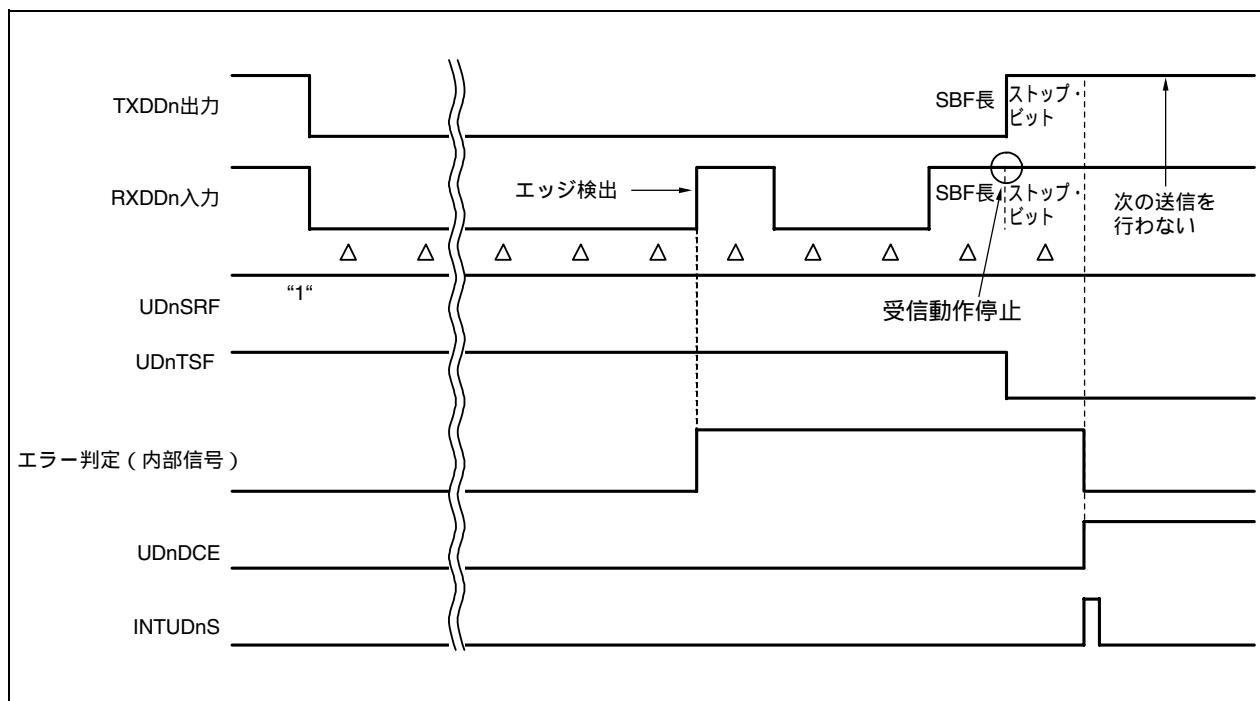
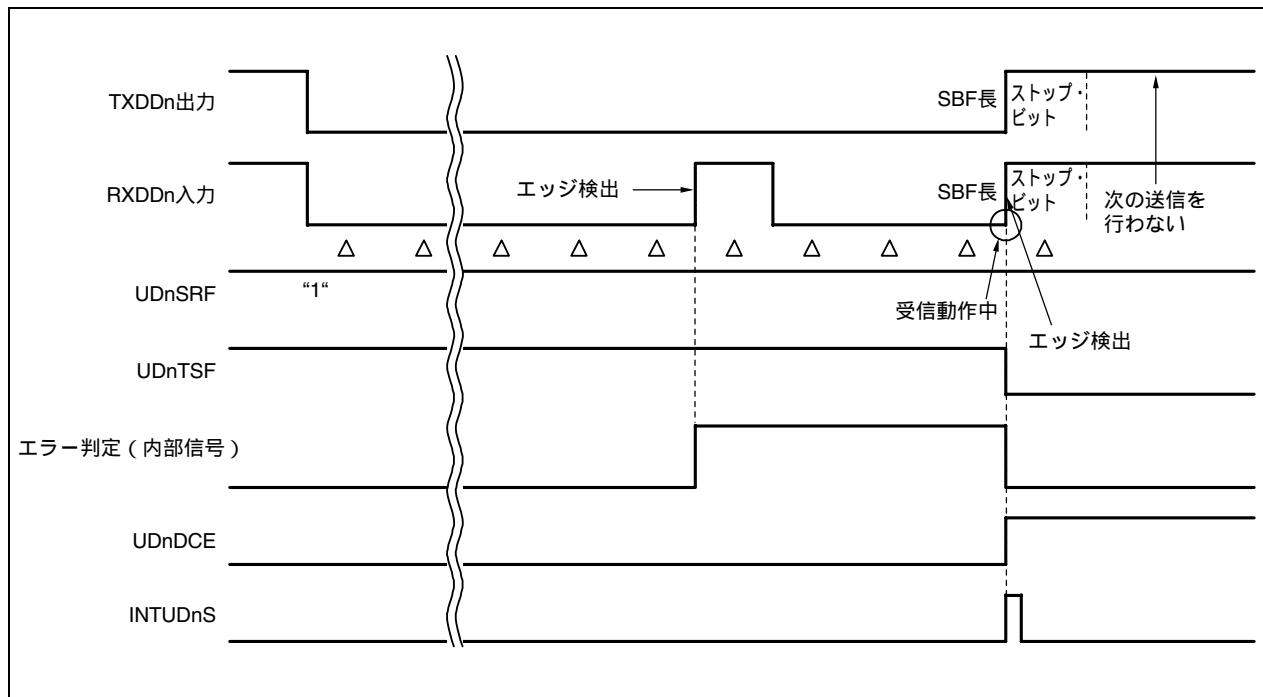
図18-8 UDnSRF = 1の場合のSBF送信時一貫性エラー発生タイミング例
(ストップ・ビット送信開始時に受信動作が停止している場合(直前の入力データが“1”))

図18-9 UDnSRF = 1の場合のSBF送信時一貫性エラー発生タイミング例
(ストップ・ビット送信開始時に受信動作中の場合 (直前の入力データが“0”))



(2) UDnSRS ビット = 1 (データの通信中に新しい SBF を検出する) 設定の場合

(a) SBF受信成功待ち状態でない (UDnOPT0.UDnSRF = 0) 場合

データのストップ・ビット位置 (10ビット目) でロウ・レベルを検出した場合、新規SBFを受信中の可能性があるため、入力 (受信) データがハイ・レベルになるまで、フレーミング・エラー / オーバラン・エラーの判定を行いません。

- ・入力 (受信) データがハイ・レベルになったとき、連続するロウ・レベル期間が11ビット未満であった場合、フレーミング・エラーとして検出します。このとき、オーバラン・エラーでないならば、受信データは、始めの8ビット分がUDnRXレジスタに格納されます (SBF受信成功フラグ (UDnSTR.UDnSSF) はセット (1) されません (図18-10参照))。
- ・入力 (受信) データがハイ・レベルになったとき、連続するロウ・レベル期間が11ビット以上であった場合、新規SBFの受信成功と判定し、SBF受信成功フラグ (UDnSTR.UDnSSF) がセット (1) されます。このとき、フレーミング・エラー / オーバラン・エラーの検出は抑制されます (受信データは、UDnRXレジスタに格納されません (図18-11参照))。

データ貫性エラー検出時のフラグ (UDnSTR.UDnDCE) とステータス割り込み要求信号 (INTUDnS) について次に示します。

- ・ストップ・ビット送信開始時に受信動作中の場合、ストップ・ビット以降に入力 (受信) データで “1” を検出したときにデータ貫性エラーフラグ (UDnDCEビット) が “1” となり、割り込み要求 (INTUDnS) が発生します (18.5.5 (a), 図18-12参照)。
- ・データまたはSBFのストップ・ビット送信開始時に受信動作が停止している場合、(受信動作中でのデータ不一致の検出有無によらず)、ストップ・ビットの次のビットが開始するときにデータ貫性エラー・フラグ (UDnDCEビット) が “1” となり、割り込み要求 (INTUDnS) が発生します (18.5.5 (b) 参照)。

(b) SBF受信成功待ち状態 (UDnOPT0.UDnSRF = 1) の場合

SBF受信待ち状態となります (フレーミング・エラー / オーバラン・エラーの検出および、受信データのUDnRXレジスタへの格納は抑制されます)。

データ貫性エラー検出時のフラグ (UDnSTR.UDnDCE) とステータス割り込み要求信号 (INTUDnS) について次に示します。

- ・データ不一致を検出し、ストップ・ビット送信以降に入力 (受信) データとして “1” を検出したときに受信動作が停止している場合は、次のビット開始時にデータ貫性エラー・フラグ (UDnDCEビット) が “1” となり、割り込み要求 (INTUDnS) が発生します (図18-13 参照)。
- ・ストップ・ビット送信以降に入力 (受信) データとして “1” を検出したときに受信動作中の場合は、“1” を検出したときに、データ貫性エラー・フラグ (UDnDCEビット) が “1” となり、割り込み要求 (INTUDnS) が発生します (図18-14参照)。

図18-10 SBF受信失敗時のフレーミング・エラー / オーバラン・エラー判定タイミング (UDnSRF = 0のとき)

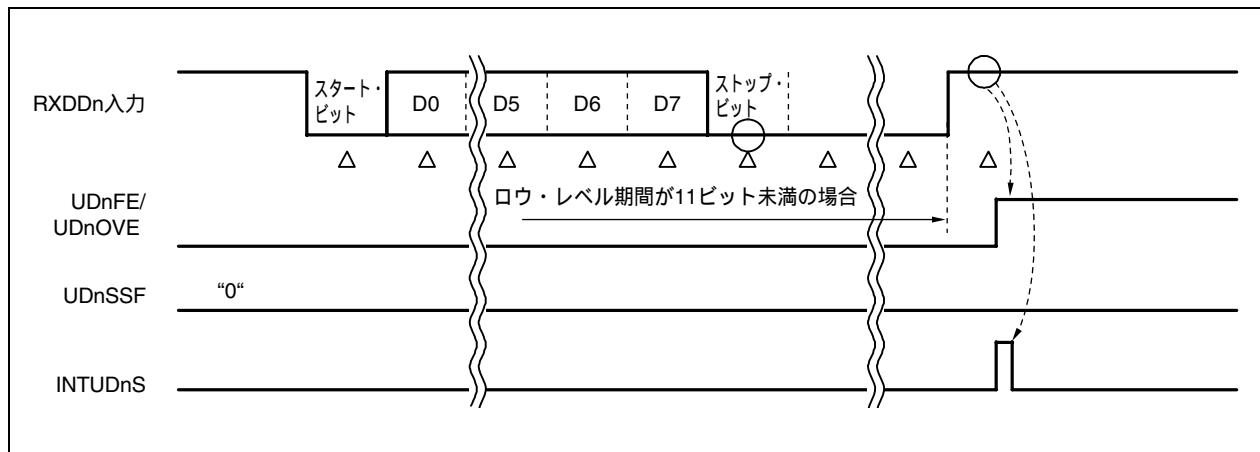


図18-11 SBF受信成功時のステータス割り込みの発生タイミング

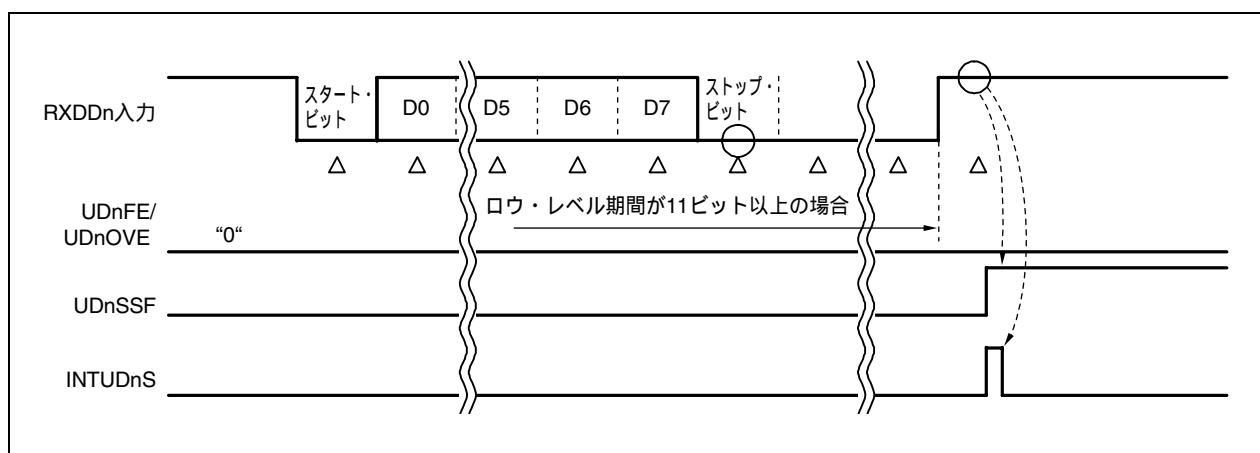


図18-12 UDnSRF = 0の場合のデータの一貫性エラー発生タイミング例

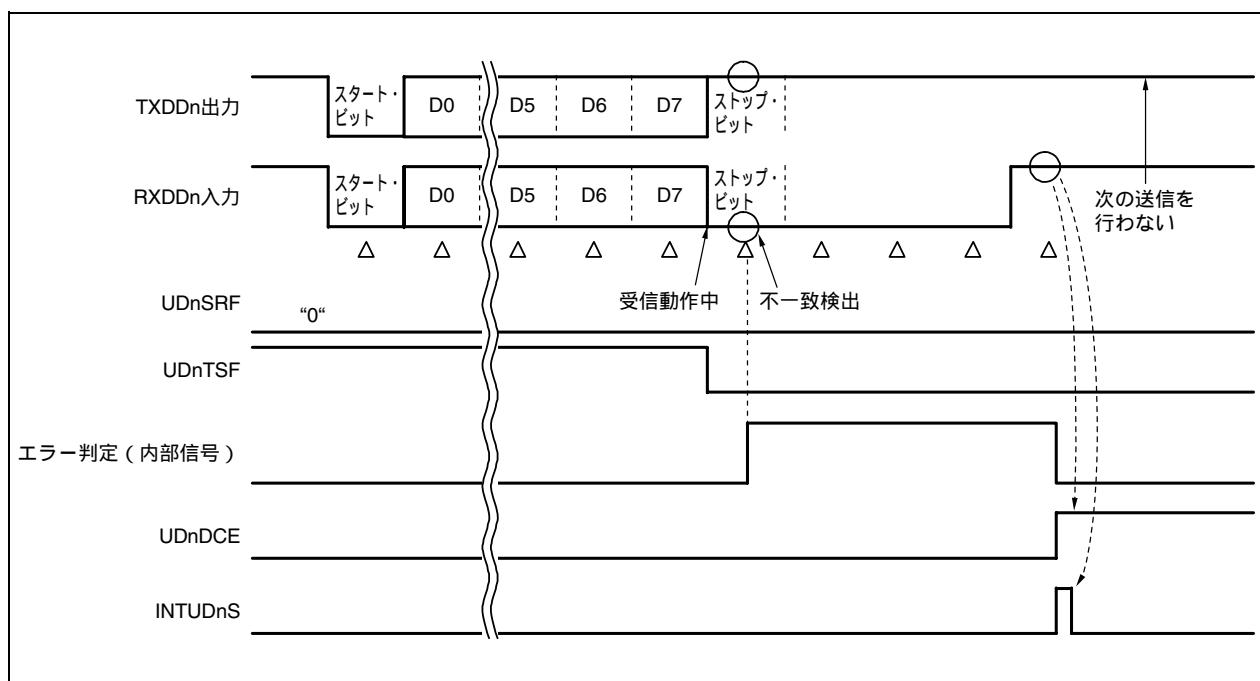


図18 - 13 UDnSRF = 1の場合のSBF送信時一貫性エラー発生タイミング例
(ストップ・ビット以降に入力データ“1”を検出したとき、受信動作が停止している場合(前のビットが“1”))

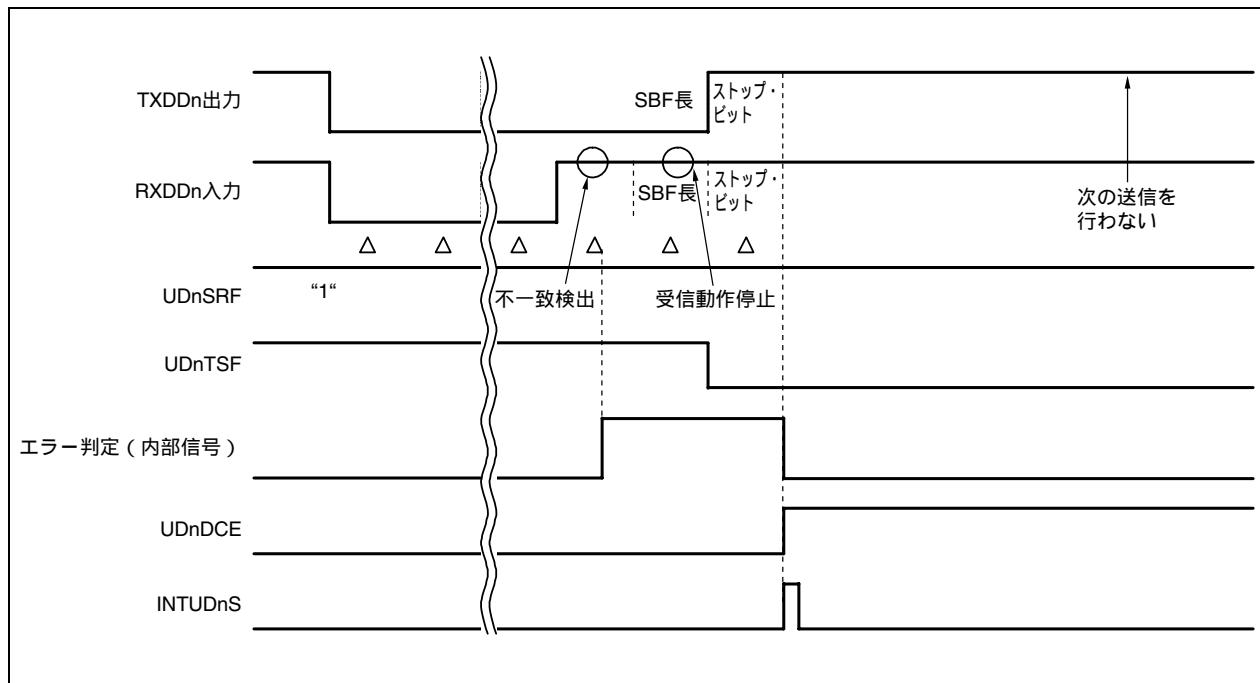
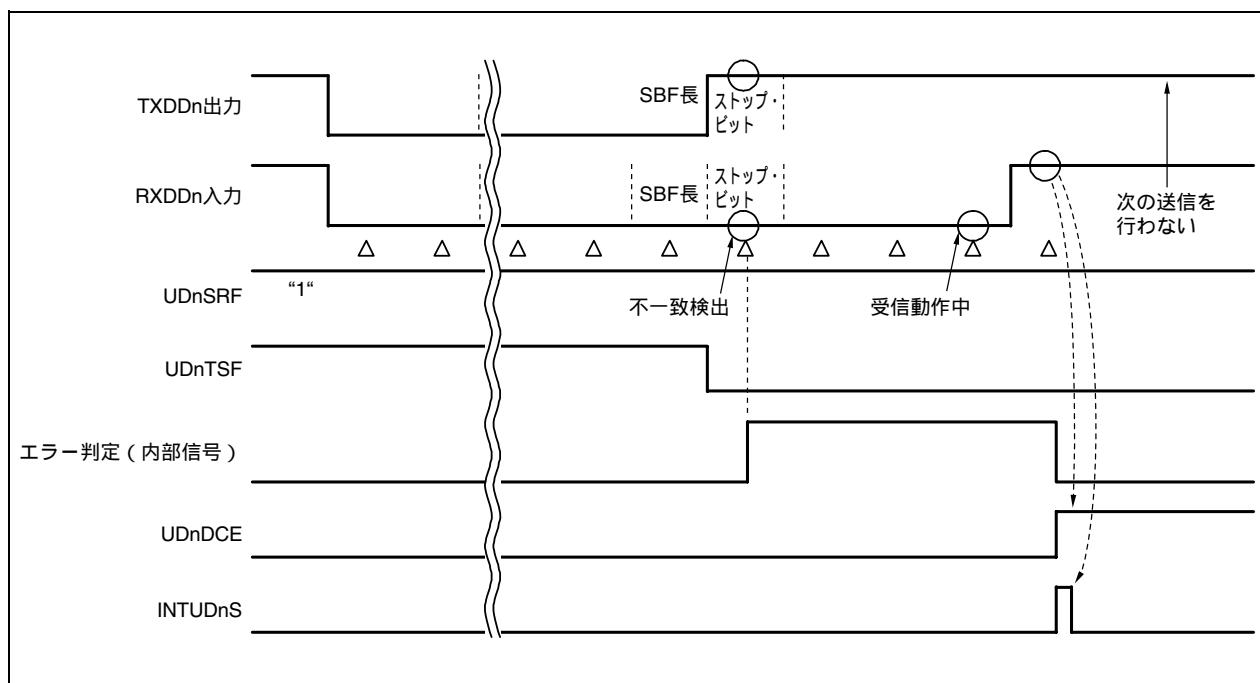


図18 - 14 UDnSRF = 1の場合のSBF送信時一貫性エラー発生タイミング例
(ストップ・ビット以降に入力データ“1”を検出したとき、受信動作中の場合(前のビットが“0”))



(3) SBFの認識について

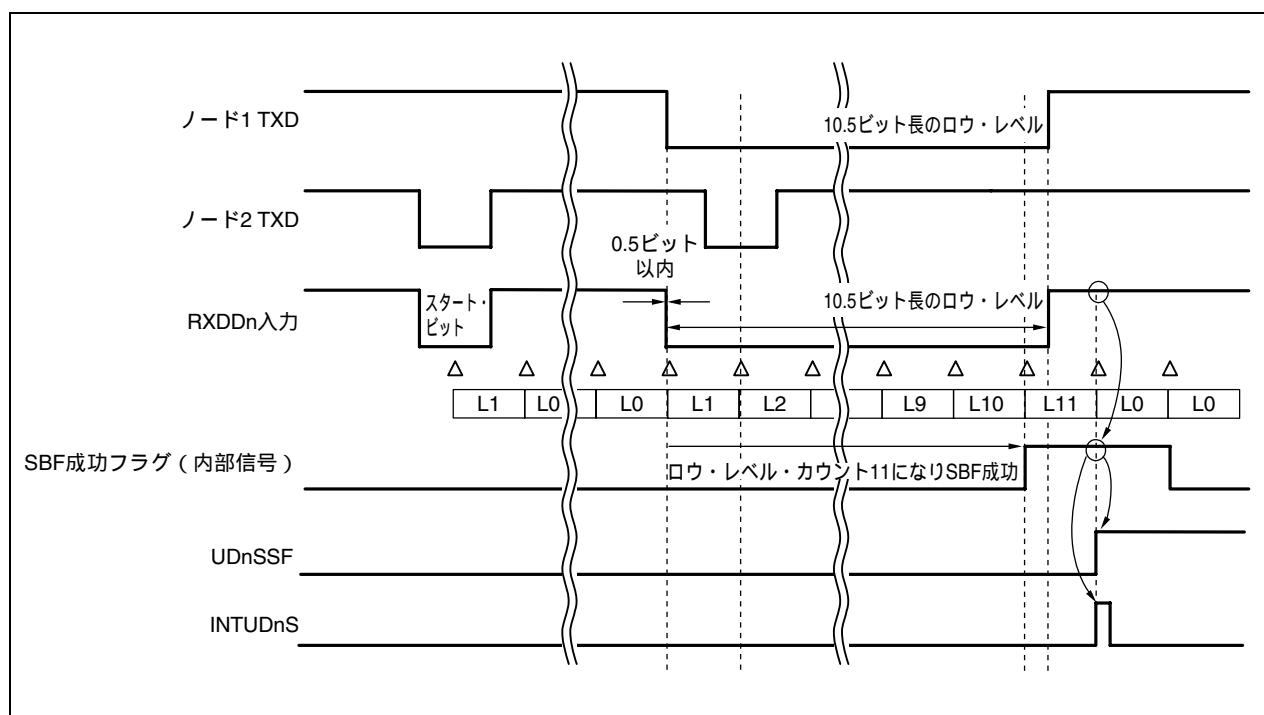
SBF受信、2種類のモードによるSBF認識方法の違いを説明します。

UDnSRS = 1の場合、データの途中からでもSBFを認識するモードですが、SBFの認識はサンプル・ポイントで受信データをサンプリングしロウ・レベルと認識することでカウンタをアップさせ、ハイ・レベルと認識した場合はカウンタをクリア(0)する構造になっています。そして、カウンタ値が“11”になった時点で、SBF受信成立したと判定します。そのため、データ受信中に途中からSBFが送信された場合には、SBFをサンプリングする位置によって10ビット + 1クロックから11ビット未満のSBF長だと受信成功が不確実な期間となります。ただし、11ビット長以上であればSBFは正常に受信されます。

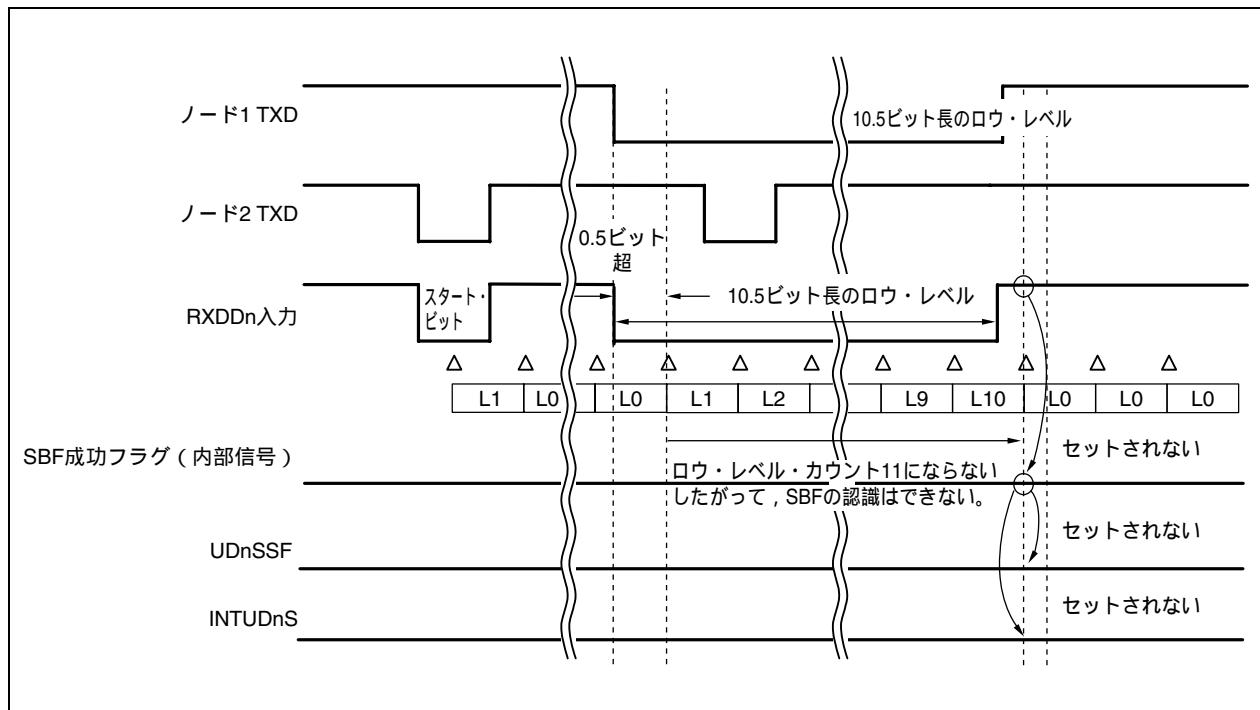
また、受信スタート時からSBFデータであるならば10.5ビット長でもSBFとして認識します。

したがって、このモードを取り扱う場合、他ノードとの送信データの衝突または“0x00H”的送信データが存在すると、ノード間でのオシレータの変動誤差の違いによってSBF判定が行われる可能性がありますので注意してください。

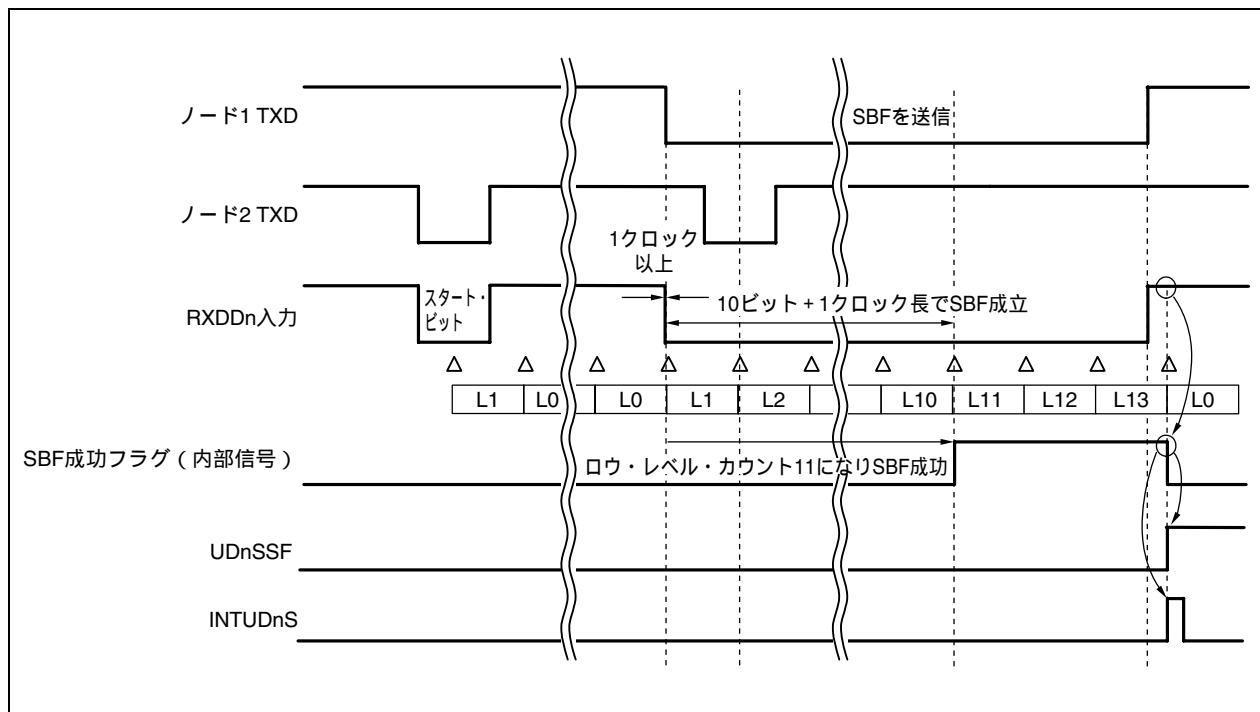
10.5ビット長のロウ・レベルでSBF受信成立（成功）例



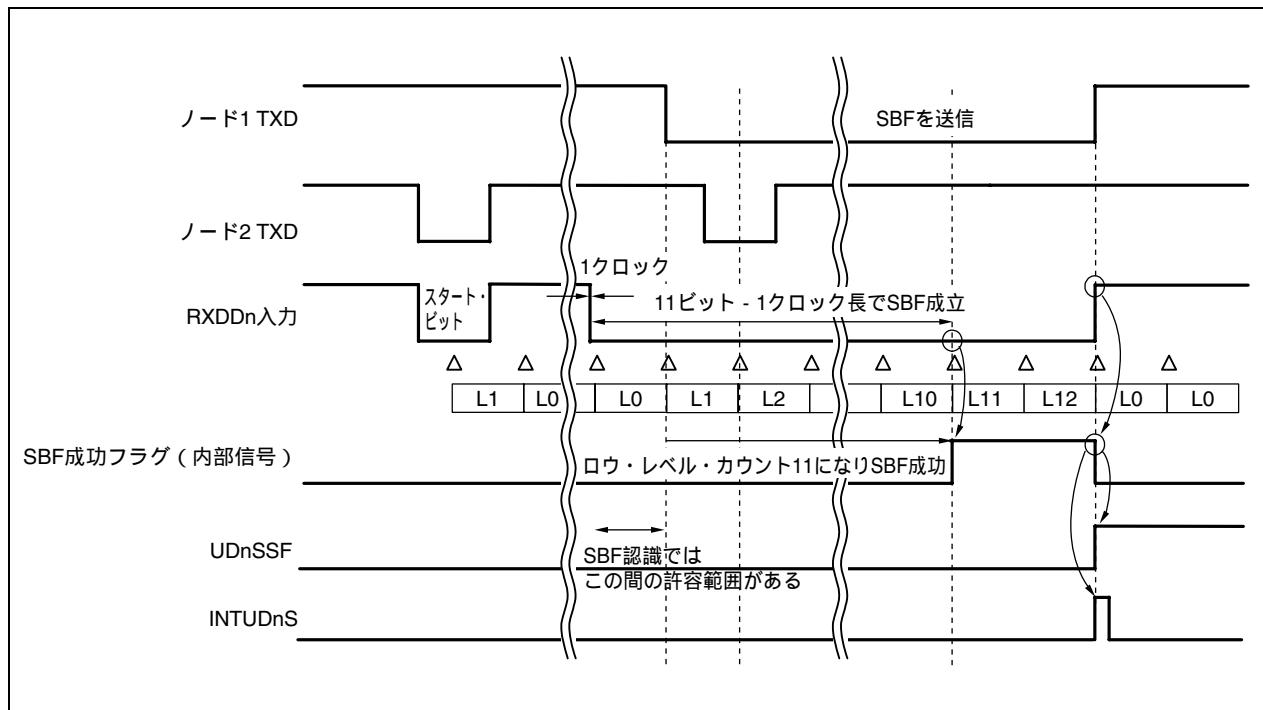
10.5ビット長のロウ・レベルでSBF受信不成立（不成功）例



もっとも短い幅によるSBF受信成立例



もっとも長い幅によるSBF受信成立例



18.5.7 UART送信

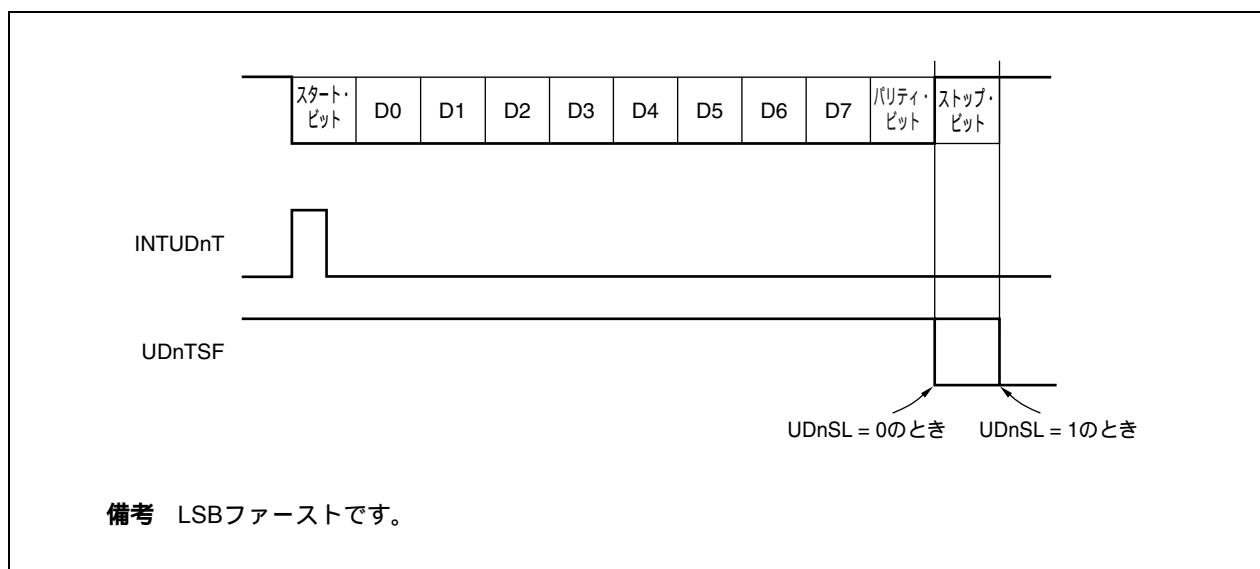
まず次の操作で送信許可状態にしてください。

- 動作クロックをUARTD制御レジスタ1 (UDnCTL1) で指定
- ポート・レートをUARTD制御レジスタ2 (UDnCTL2) で指定
- 出力論理レベルをUARTDオプション制御レジスタ0 (UDnOPT0) で指定
- 通信方向, パリティ, データ・キャラクタ長, ストップ・ビット長をUARTD制御レジスタ0 (UDnCTL0) で指定
- パワー・ビットと送信許可ビットをセット (UDnPWR = 1, UDnTXE = 1)

続いて送信バッファ・レジスタ (UDnTX) に送信データを書き込むことにより送信動作が起動します。通信方向, パリティ, データ・キャラクタ長, ストップ・ビット長の設定を変更する場合には, パワー・ビットをクリア(UDnPWR = 0)した状態, または送信許可ビットと受信許可ビットが共にクリア(UDnTXE = 0, UDnRXE = 0)の状態にしてから, 設定を変更してください。

UDnTXに格納されたデータは送信シフト・レジスタ (UDnTXS) へ転送され, スタート・ビット, パリティ・ビット, ストップ・ビットが付加されて, TXDDn出力から順次シリアル出力されます。またUDnTXに格納されたデータのUDnTXSへの転送が完了するタイミングで, 送信割り込み要求信号 (INTUDnT) を発生します。INTUDnTが発生すると, UDnTXには次の送信データを書き込めます。

図18-15 UART送信



18.5.8 連続送信の手順説明

送信要求割り込み (INTUDnT) が発生したあと、送信中に次の送信データをUDnTXに書き込む事により、連続送信が可能です。INTUDnTが発生するまでにUDnTXレジスタへ値を書き込むと、以前に設定した送信データが最新の送信データに上書きされてしまいます。

- 注意**
1. 送信ユニットを初期化する場合は、送信状態フラグがリセット (UDnTSF = 0) されていることを確認する必要があります。UDnTSF = 1 の状態で初期化すると送信が途中で中断されます。
 2. 連続送信の場合でもストップ・ビット送信後、次のスタート・ビットが送信されるまでに動作クロック2クロック分の間があります。ただし、受信側はスタート・ビットの検出によりタイミングを初期化するため、通信に支障はありません。

図18-16 連続転送の処理フロー

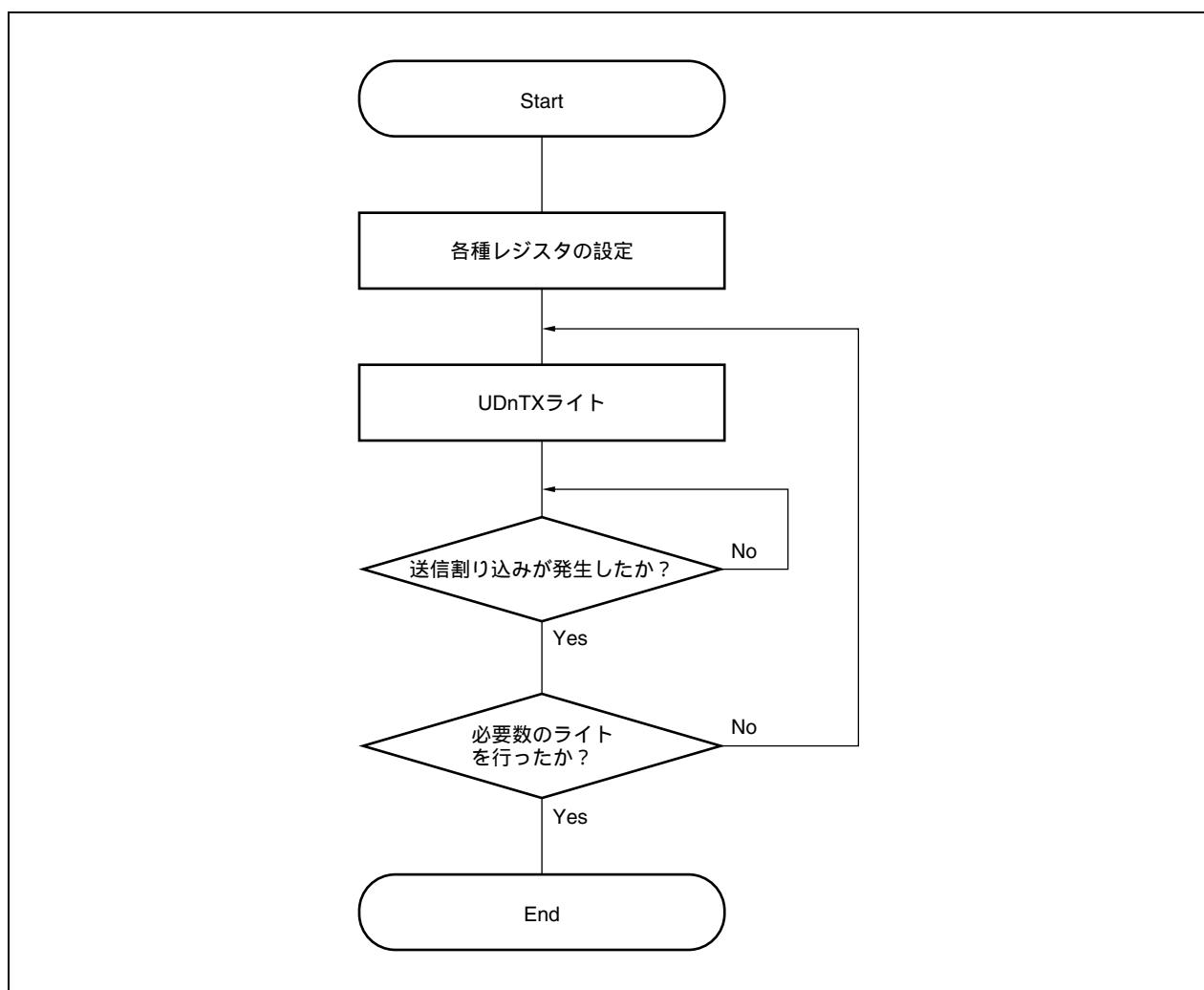
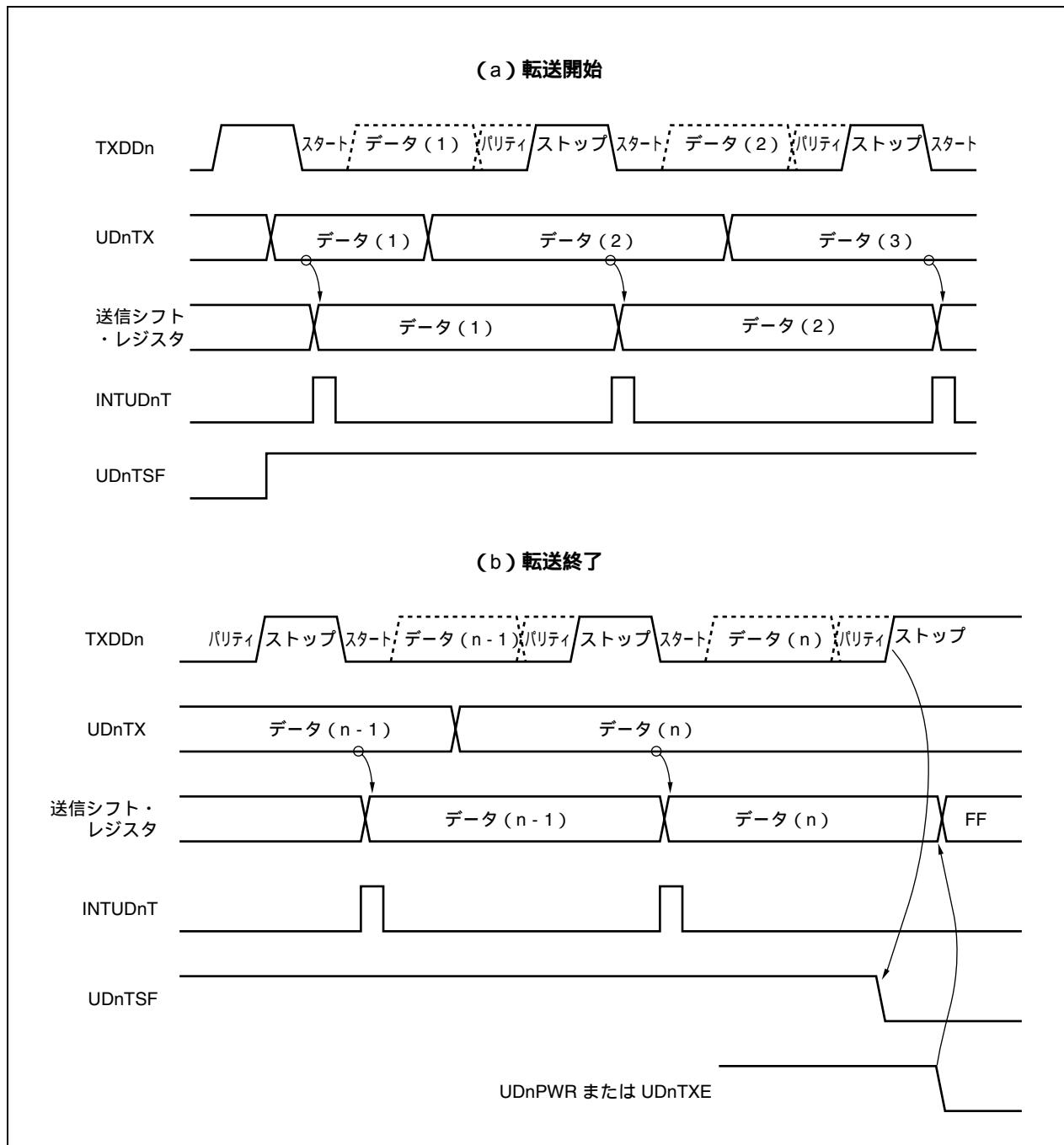


図18-17 連続転送動作のタイミング



18.5.9 UART 受信

まず次の操作で受信許可状態とし、RXDDn入力のモニタとスタート・ビットの検出を行います。

- ・動作クロックをUARTD制御レジスタ1 (UDnCTL1) で指定
- ・バー・レートをUARTD制御レジスタ2 (UDnCTL2) で指定
- ・出力論理レベルをUARTDオプション制御レジスタ0 (UDnOPT0) で指定
- ・通信方向、パリティ、データ・キャラクタ長、トップ・ビット長をUARTD制御レジスタ0 (UDnCTL0) で指定
- ・パワー・ビットと受信許可ビットをセット (UDnPWR = 1, UDnRXE = 1)

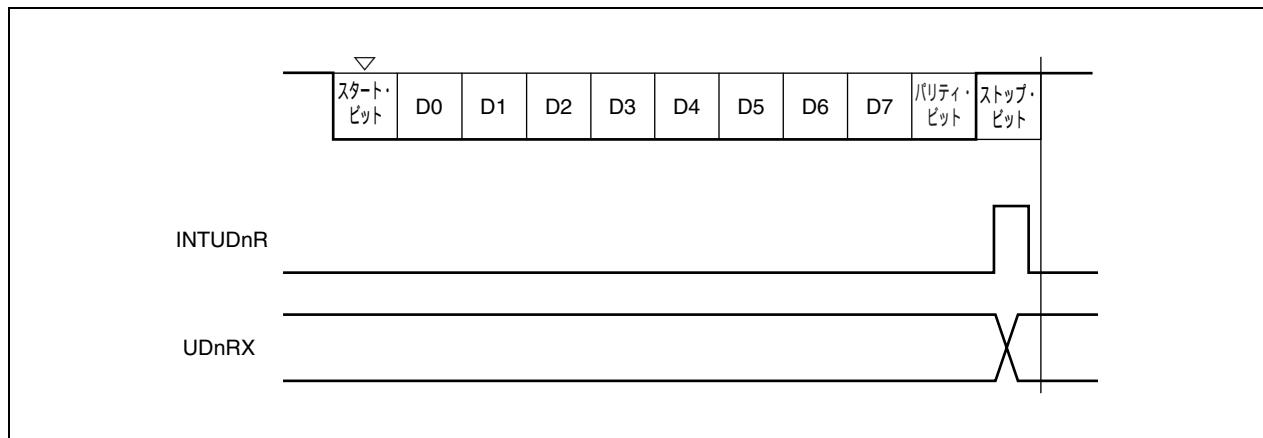
次に通信方向、パリティ、データ・キャラクタ長、トップ・ビット長の設定を変更する場合には、パワー・ビットをクリア (UDnPWR = 0) した状態、または送信許可ビットと受信許可ビットが共にクリア (UDnTXE = 0, UDnRXE = 0) の状態にしてから、設定を変更してください。

RXDDn入力のレベルを動作クロックでサンプリングし、立ち下がりエッジを検出すると、RXDDn入力のデータ・サンプリングが始まり、立ち下がりエッジ検出後の1/2ビット分の時間後 (図18-18の 印) にロウ・レベルであればスタート・ビットと認識します。スタート・ビットが認識されたら、受信動作を開始し、設定されたバー・レートに合わせてシリアル・データを順次、受信シフト・レジスタに格納します。トップ・ビットを受信したら、受信完了割り込み要求信号 (INTUDnR) が発生すると同時に、受信シフト・レジスタに格納されたデータを受信データ・レジスタ (UDnRX) レジスタに転送します。

ただし、オーバラン・エラーが発生 (UDnOVE = 1) した場合、そのときの受信データはUDnRXに転送されず、破棄されます。一方、パリティ・エラー (UDnPE = 1), フレーミング・エラー (UDnFE = 1) が発生しても、トップ・ビットの受信位置までは受信を継続し、受信データはUDnRXに転送されます。どの受信エラーが発生した場合でも、受信完了後にINTUDnSを発生し、INTUDnRは発生しません。

- 注意 1.** 受信エラー発生時にも、受信データ・レジスタ (UDnRX) は必ず読み出してください。
 UDnRXを読み出さないと、次のデータ受信完了時にオーバラン・エラーが発生します。
2. 受信は、常にトップ・ビット数 = 1として動作します。
 そのとき、2ビット目のトップ・ビットは無視されます。
 3. RXDDn入力に、常時Lowレベルが入力されている状態だとスタート・ビットとは判断しません。
 4. 連続受信の場合、最初の受信データのトップ・ビット検出直後 (受信完了割り込み発生時) から、次のスタート・ビットの検出は可能です。
 5. UDnRDL = 1 (受信データ反転入力) を選択した場合には、受信開始時にデータ受信端子をUART受信用端子のモードに変更してから、受信許可にしてください。受信許可後に端子のモードを変更すると、そのときの端子レベルがハイ・レベルの場合、スタート・ビットを誤検出します。

図18-18 受信完了割り込み要求信号発生タイミング図

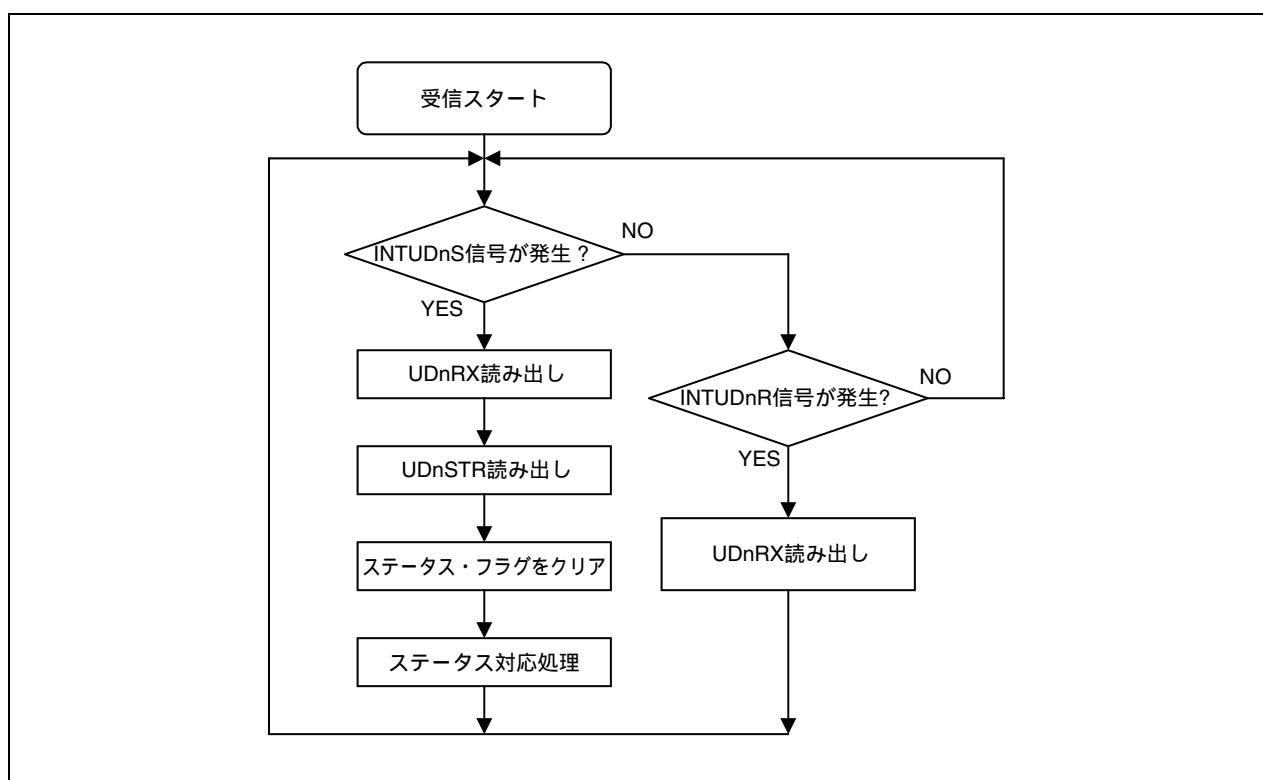


18.5.10 受信割り込み発生時の処理手順

受信割り込み発生時の処理手順は次のとおりです。

なお、次の処理手順におけるステータス・フラグは、UDnTSF以外のフラグとなります。

図18-19 受信データの読み出しフロー



LIN通信を行う場合の前記処理手順におけるステータス対応処理の例を次に示します。

表18 - 4 LIN通信時のステータス対応処理例 (UDnSRS = 1, UDnDCS = 1の場合)

UDnSSF	UDnDCE	UDnFE	UDnOVE	状 態	処理例
1	1	×	×	マスター時 ,SBF 送信中に送受信データの不一致を検出。ただし ,11 ビット以上の連続ロウ・レベルは受信しているため ,次のデータ送信準備済みであっても ,その送信は行われない。	<ul style="list-style-type: none"> 通信相手が SBF を認識できていない可能性があるため ,次のデータ (Synch Field) 送信は行わず ,次のタイム・スケジュールを待つ 通信相手が SBF を認識できていない可能性はあるが ,次のデータ (Synch Field) 送信を行うため ,すべてのステータス・フラグをクリアして ,次のデータを書き込む
1	0	×	×	マスター時 ,SBF 送信 ,SBF 受信に成功。	次のデータ (Synch Field) の送信処理を行う
				スレーブ時 ,SBF 受信に成功。	次のデータ (Synch Field) の受信処理を行う
0	1	×	×	マスター時 ,SBF 送信またはデータ送信に失敗。次のデータまたは SBF の送信準備済みであっても ,その送信は行われない。	その後の送受信データは破棄し ,次のタイム・スケジュールを待つ
				スレーブ時 ,データ送信に失敗。次のデータ送信準備済みであっても ,その送信は行われない。	その後の送受信データは破棄し ,次のタイム・スケジュールを待つ
0	0	1	×	データ受信時にフレーミング・エラーを検出。	フレーミング・エラー検出時の処理を行う
0	0	×	1	データ受信時にオーバラン・エラーを検出。直前に受信した 1 データが破棄されている。	オーバラン・エラー検出時の処理を行う

- 注意 1. いずれの処理においても , セットされているステータス・フラグはすべてクリアしてください。
2. LIN 通信においてエラーを検出 , または UDnSRS = 1 を設定時 , SBF 受信に成功したとき , 受信完了割り込み要求信号 (INTUDnR) ではなく , ステータス割り込み要求信号 (INTUDnS) を発生し , 通信状態にしたがってステータス・フラグがセットされます。

備考 × : Don't Care

18.5.11 ステータス割り込み発生要因

ステータス割り込み発生要因には、パリティ・エラー、フレーミング・エラー、オーバラン・エラーと、LIN通信時のみに発生する、データの一貫性エラー、SBF受信成功があります。これらを検出すると、ステータス割り込み要求信号 (INTUDnS) を発生します。発生要因は状態レジスタ (UDnSTR) で参照できます。ステータス割り込み処理ルーチンでUDnSTRを参照し、処理内容を決定してください。

UDnTSFを除くステータス・フラグは、ソフトウェアにて“0”書き込みでクリアする必要があります。

表18-5 ステータス割り込み発生要因

ステータス・フラグ	発生要因	内 容
UDnPE	パリティ・エラー	受信データのパリティ計算結果と受信したパリティ・ビットの値が一致しない
UDnFE	フレーミング・エラー	ストップ・ビットが検出されない (ストップ・ビット位置でロウ・レベルを検出)
UDnOVE	オーバラン・エラー	受信データ・レジスタに転送された受信データを読み出す前に次のデータ受信が完了した
UDnDCE	データの一貫性エラー	データの一貫性チェック選択ビット (UDnDCS) をセット、かつデータを送信しているとき、送信データと受信データの値が一致しない
UDnSSF	SBF受信成功	SBF受信モード選択ビット (UDnSRS) をセットしているとき、新規の SBF受信に成功した (マスクが SBFを送信した場合においても発生)

ステータス割り込み発生時、発生要因により次の処理が必要です。

- ・パリティ・エラー、データの一貫性エラー

誤ったデータを受信しているので、受信データを破棄し、再度通信を行ってください。データの一貫性エラーの場合は、データの衝突も考えられます。

- ・フレーミング・エラー

正常にストップ・ビットを検出できなかっか、スタート・ビットの誤検出によるビットずれが発生していることが考えられます。また、特にLINによる通信では送信側とポート・レートがずれていることや不充分な長さのSBFを受信した可能性もあります。

- ・オーバラン・エラー

受信データを読み出す前に次の受信が完了しているので、直前に受信した1フレーム分のデータが破棄された状態となっています。

- ・SBF受信成功

新規のSBF受信に成功しています。

注意 ステータス・フラグは、最新の状態を反映しているのではなく、ステータス・フラグのクリア後に発生したすべての要因の累積です。そのため、次の受信完了までに対応処理を完了し、ステータス・フラグをクリアしてください。

表18-6 ステータス割り込みの発生タイミングおよびステータス・フラグの変化タイミング

ステータス・フラグ	モード設定			ステータス割り込みとフラグの変化 タイミング
	SBF 受信モード 選択 (UDnSRS)	データの一貫性 チェック(UDnDCS)	SBF 受信フラグ (UDnSRF)	
UDnPE	0	0	0	データのストップ・ビットの受信サンプル・ポイント (これ以外のモードでは、パリティなしを選択)
UDnFE, UDnOVE	0	x	0	データのストップ・ビットの受信サンプル・ポイント
	0	x	1	変化しない
	1	0	x	設定禁止
	1	1	0	データのストップ・ビット以降に、入力データ“1”を検出した受信サンプル・ポイント
	1	1	1	変化しない
UDnDCE	x	0	x	変化しない
	0	1	0	ストップ・ビット送信開始時に受信動作中の場合、ストップ・ビットの受信サンプル・ポイント
				ストップ・ビット送信開始時に受信動作が停止している場合、ストップ・ビットの次のビット開始時
	0	1	1	ストップ・ビット送信開始時に、直前の入力データが“0”的場合、ストップ・ビット以降の入力データの立ち上がりエッジ検出時
				ストップ・ビット送信開始時に、直前の入力データが“1”的場合、ストップ・ビットの次のビット開始時
	1	1	0	ストップ・ビット送信開始時に受信動作中の場合、ストップ・ビット以降に、入力データ“1”を検出した受信サンプル・ポイント
				ストップ・ビット送信開始時に受信動作が停止している場合、ストップ・ビットの次のビット開始時
	1	1	1	ストップ・ビット送信以降に入力データ“1”を検出したときに、前のビットが“0”的場合、“1”を検出したビットの受信サンプル・ポイント
				ストップ・ビット送信以降に入力データ“1”を検出したときに、前のビットが“1”的場合、次のビット開始時
UDnSSF	0	x	x	変化しない
	1	0	x	設定禁止
	1	1	x	11ビット以上の入力データ“0”を検出後に、“1”を検出した受信サンプル・ポイント

備考 x : Don't Care

18.5.12 パリティの種類と動作

注意 LIN機能を使用する場合 , UDnCTL0レジスタのUDnPS1, UDnPS0ビットを“00”に固定してください。

パリティ・ビットは通信データのビット誤りを検出するためのビットです。通常は送信側と受信側のパリティ・ビットは同一の種類のものを使用します。

偶数パリティと奇数パリティでは1ビット(奇数個)の誤りを検出することができます。0パリティとパリティなしでは誤りを検出することはできません。

(1) 偶数パリティ

(a) 送信時

パリティ・ビットを含めた送信データ中の, 値が“1”的ビット数を偶数個にするように制御します。パリティ・ビットの値は次のようにになります。

- ・送信データ中に値が“1”的ビット数が奇数個 : 1
- ・送信データ中に値が“1”的ビット数が偶数個 : 0

(b) 受信時

パリティ・ビットを含めた受信データ中の, 値が“1”的ビット数をカウントし, 奇数個であった場合にパリティ・エラーを発生します。

(2) 奇数パリティ

(a) 送信時

偶数パリティとは逆に, パリティ・ビットを含めた送信データ中の, 値が“1”的ビット数を奇数個にするように制御します。パリティ・ビットの値は次のようにになります。

- ・送信データ中に, 値が“1”的ビット数が奇数個 : 0
- ・送信データ中に, 値が“1”的ビット数が偶数個 : 1

(b) 受信時

パリティ・ビットを含めた受信データ中の, 値が“1”的ビット数をカウントし, 偶数個であった場合にパリティ・エラーを発生します。

(3) 0パリティ

送信時には, 送信データによらずパリティ・ビットを“0”にします。

受信時にはパリティ・ビットの検査を行いません。したがって, パリティ・ビットが“0”でも“1”でもパリティ・エラーを発生しません。

(4) パリティなし

送信データにパリティ・ビットを付加しません。

受信時にもパリティ・ビットがないものとして受信動作を行います。パリティ・ビットがないため, パリティ・エラーを発生しません。

18.5.13 受信データのノイズ・フィルタ

プリスケーラ部出力の基本クロックでRXDDn端子をサンプリングします。

サンプリング値が同じ値を2回取ると、一致検出器の出力が変化し、入力データとしてサンプリングされます。したがって、2クロック幅を越えないデータはノイズと判定され、内部回路へは供給されません(図18-20参照)。基本クロックに関しては、18.6(1)(a) 基本クロック (Clock) を参照してください。

また、回路は図18-20のようになっているので、受信動作の内部での処理は、外部の信号状態より3クロック分遅れて動作することになります。

図18-20 ノイズ・フィルタ回路

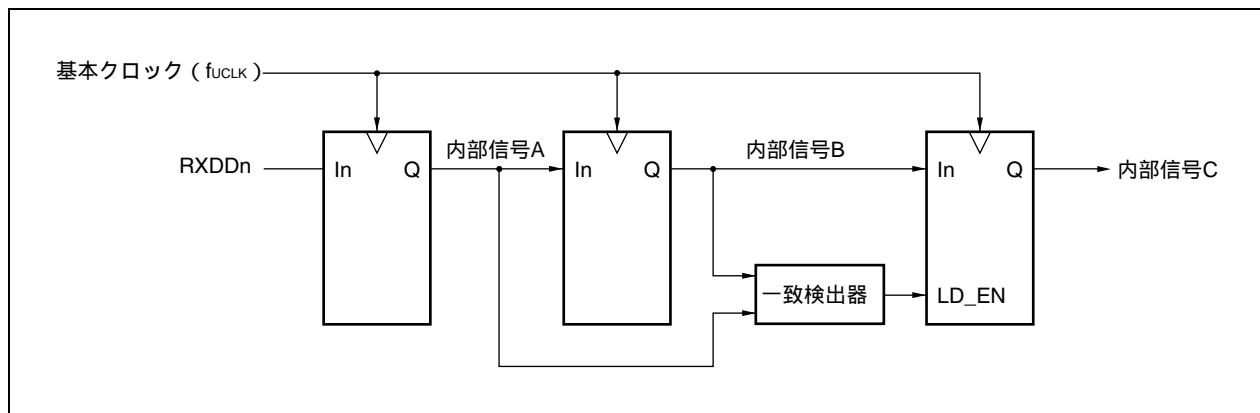
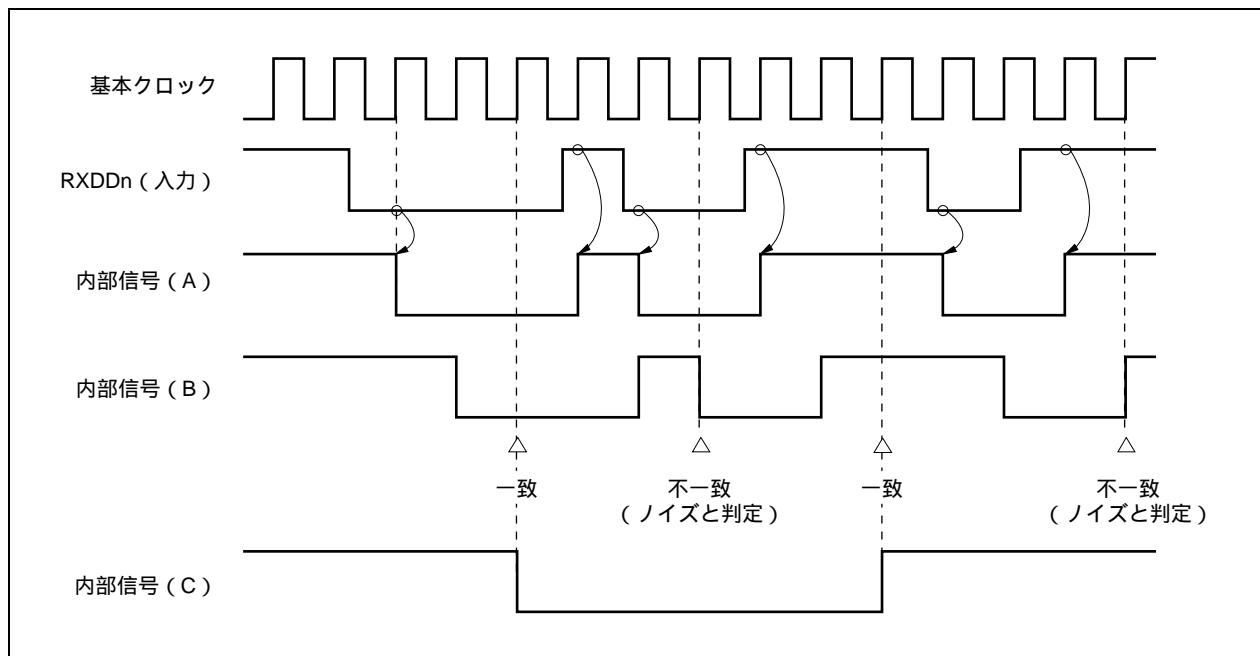


図18-21 ノイズと判定されるRXDDn信号のタイミング



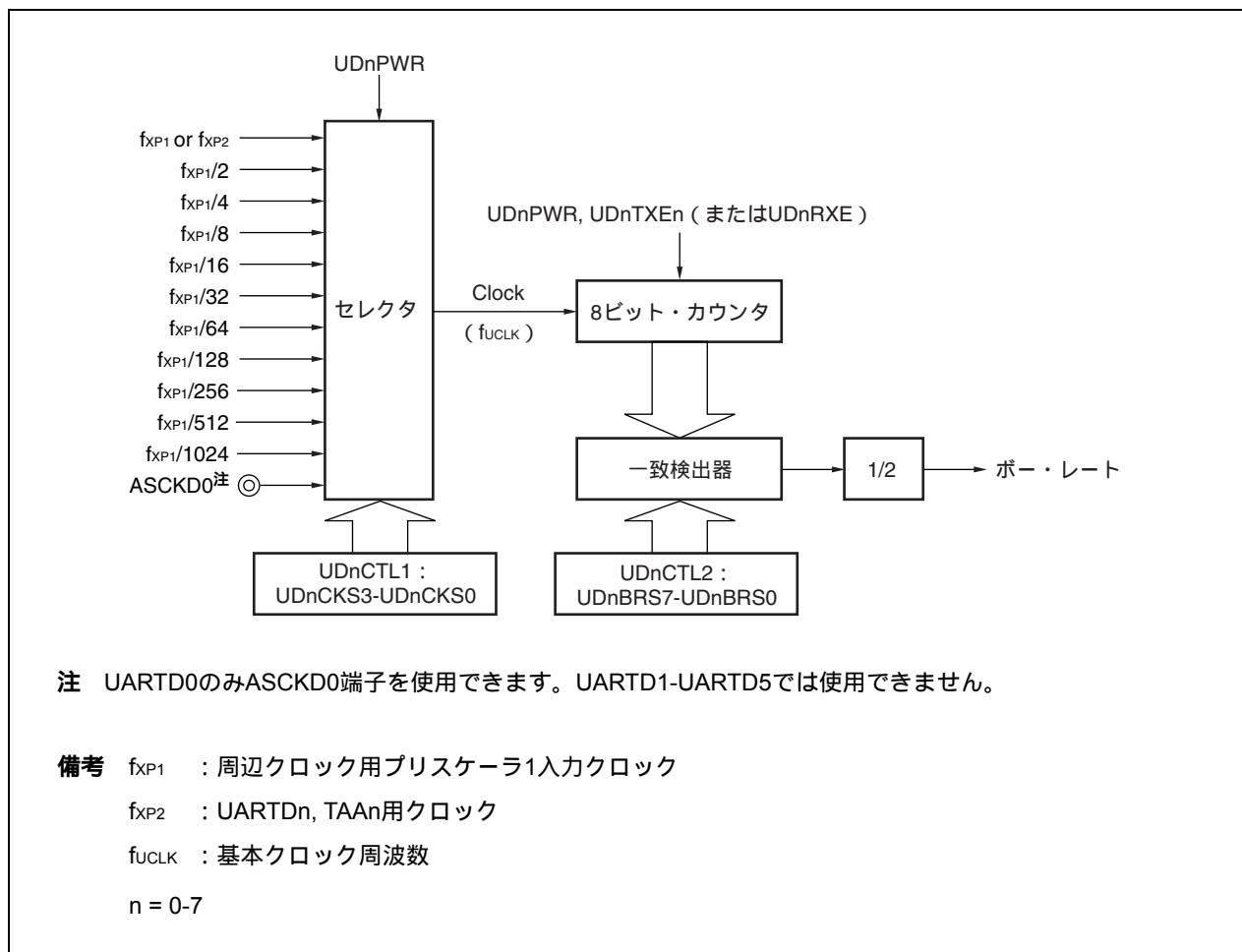
18.6 専用ポート・レート・ジェネレータ

専用ポート・レート・ジェネレータは、ソース・クロック・セレクタ部と8ビットのプログラマブル・カウンタにより構成され、UARTDnにおける送受信時のシリアル・クロックを生成します。シリアル・クロックは、チャネルごとに専用ポート・レート・ジェネレータ出力を選択できます。

なお、8ビット・カウンタは送信用と受信用が別々に存在します。

(1) ポート・レート・ジェネレータの構成

図18-22 ポート・レート・ジェネレータの構成



(a) 基本クロック (Clock)

UDnCTL0レジスタのUDnPWRビット = 1のとき、UDnCTL1レジスタのUDnCKS3-UDnCKS0ビットで選択したクロックを8ビット・カウンタに供給します。このクロックを基本クロック (Clock) と呼び、その周波数をf_{UCLK}と呼びます。

(b) シリアル・クロックの生成

UDnCTL1レジスタとUDnCTL2レジスタの設定により、シリアル・クロックを生成できます。

UDnCTL1レジスタのUDnCKS3-UDnCKS0ビット、SELCNT1レジスタのISEL15ビットにより、基本クロックを選択します。

UDnCTL2レジスタのUDnBRS7-UDnBRS0ビットにより、8ビット・カウンタの分周値を設定できます。

(2) UARTDn 制御レジスタ1 (UDnCTL1)

UDnCTL1レジスタは、UARTDnのクロックを選択するための8ビットのレジスタです。

8ビット単位でリード / ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

リセット時 : 00H R/W アドレス : UD0CTL1 : FFFFFA01H, UD1CTL1 : FFFFFA11H,
 UD2CTL1 : FFFFFA21H, UD3CTL1 : FFFFFA31H,
 UD4CTL1 : FFFFFA41H, UD5CTL1 : FFFFFA51H,
 UD6CTL1 : FFFFFA61H, UD7CTL1 : FFFFFA71H

UDnCTL1 (n = 0-7)	7	6	5	4	3	2	1	0
	0	0	0	0	UDnCKS3	UDnCKS2	UDnCKS1	UDnCKS0

SELCNTm レジスタ ^{注1}	UDnCTL1 レジスタ				入力クロック (fCLK)			
	ISELn	UDnCKS3	UDnCKS2	UDnCKS1	UDnCKS0	入力	PRSI = 0	PRSI = 1
0	0	0	0	0	0	f _{XP1}	f _{xx}	f _{xx} /2
1						f _{XP2} ^{注2}	f _{xx}	f _{xx} /2
x	0	0	0	1	1	f _{XP1} /2	f _{xx} /2	f _{xx} /4
x	0	0	1	0	0	f _{XP1} /4	f _{xx} /4	f _{xx} /8
x	0	0	1	1	1	f _{XP1} /8	f _{xx} /8	f _{xx} /16
x	0	1	0	0	0	f _{XP1} /16	f _{xx} /16	f _{xx} /32
x	0	1	0	1	1	f _{XP1} /32	f _{xx} /32	f _{xx} /64
x	0	1	1	0	0	f _{XP1} /64	f _{xx} /64	f _{xx} /128
x	0	1	1	1	1	f _{XP1} /128	f _{xx} /128	f _{xx} /256
x	1	0	0	0	0	f _{XP1} /256	f _{xx} /256	f _{xx} /512
x	1	0	0	1	1	f _{XP1} /512	f _{xx} /512	f _{xx} /1024
x	1	0	1	0	0	f _{XP1} /1024	f _{xx} /1024	f _{xx} /2048
x	1	0	1	1	1	-	ASCKD0 ^{注3}	設定禁止
上記以外						-	設定禁止	

- 注1. SELCNTmレジスタの詳細については、第4章 クロック発生機能とスタンバイ制御を参照してください。
 2. f_{XP2}は、IDLE1モードでは停止しません。
 3. UARTD0の場合のみASCKD0端子を使用できます。UARTD1-UARTD5では設定禁止です。

注意 UDnCTL0レジスタのUDnPWRビット = 0の場合のみ書き換え可能です。

備考 PRSIはオプション・バイトで設定できます。

- PRSI = 0 : f_{xx} 32 MHzの場合 (f_{xx} > 32 MHzの場合は設定禁止)
- PRSI = 1 : f_{xx} 48 MHzの場合

詳細は第8章 オプション・バイトを参照してください。

(3) UDnCTL2レジスタ (UDnCTL2)

UDnCTL2レジスタは、UARTDnのポート・レート(シリアル転送スピード)クロックを選択するための8ビットのレジスタです。

8ビット単位でリード / ライト可能です。

リセットによりFFHになります。

リセット時 : FFH R/W アドレス : UD0CTL2 : FFFFFA02H, UD1CTL2 : FFFFFA12H,
 UD2CTL2 : FFFFFA22H, UD3CTL2 : FFFFFA32H,
 UD4CTL2 : FFFFFA42H, UD5CTL2 : FFFFFA52H,
 UD6CTL2 : FFFFFA62H, UD7CTL2 : FFFFFA72H

	7	6	5	4	3	2	1	0
UDnCTL2 (n = 0-7)	UDnBRS7	UDnBRS6	UDnBRS5	UDnBRS4	UDnBRS3	UDnBRS2	UDnBRS1	UDnBRS0

UDnBRS7	UDnBRS6	UDnBRS5	UDnBRS4	UDnBRS3	UDnBRS2	UDnBRS1	UDnBRS0	規定値 (k)	シリアル・ クロック
0	0	0	0	0	0	x	x	x	設定禁止
0	0	0	0	0	1	0	0	4	fUCLK/4
0	0	0	0	0	1	0	1	5	fUCLK/5
0	0	0	0	0	1	1	0	6	fUCLK/6
:	:	:	:	:	:	:	:	:	:
1	1	1	1	1	1	0	0	252	fUCLK/252
1	1	1	1	1	1	0	1	253	fUCLK/253
1	1	1	1	1	1	1	0	254	fUCLK/254
1	1	1	1	1	1	1	1	255	fUCLK/255

注意1. UDnCTL0レジスタのUDnPWRビット = 0, またはUDnTXEビット = UDnRXEビット = 0の場合のみ書き換え可能です。

2. シリアル・クロックをさらに1/2分周したものがポート・レートとなります。

備考1. fUCLKは、UDnCTL1レジスタで選択した基本クロックの周波数です。

2. x : 任意

(4) ポート・レート

ポート・レートは次の式によって求められます。

$$\text{ポート・レート} = \frac{f_{\text{UCLK}}}{2 \times k} \text{ [bps]}$$

fUCLK = UDnCTL1レジスタのUDnCKS3-UDnCKS0ビットで選択した基本クロック (Clock) の周波数

k = UDnCTL2レジスタのUDnBRS7-UDnBRS0ビットで設定した値 (k = 4, 5, 6, ..., 255)

(5) ポー・レートの誤差

ポー・レート誤差は次の式によって求められます。

$$\text{誤差 (\%)} = \left(\frac{\text{実際のポー・レート (誤差のあるポー・レート)}}{\text{目標とするポー・レート (正常なポー・レート)}} - 1 \right) \times 100 [\%]$$

注意 1. 送信時のポー・レート誤差は、受信先の許容誤差以内にしてください。

2. 受信時のポー・レート誤差は、(7) 受信時の許容ポー・レート範囲で示す範囲を満たすようにしてください。

例 • 基本クロック (Clock) の周波数 = 16 MHz = 16,000,000 Hz

• 設定値

PRSI = 0 : f_{XP1} = f_{xx} = 32 MHz

UDnCTL1レジスタのUDnCKS3-UDnCKS0ビットの設定値 = 0001B (f_{UCLK} = f_{XP1}/2 = 16 MHz)

UDnCTL2レジスタのUDnBRS7-UDnBRS0ビットの設定値 = 00110100B (k = 52)

• 目標ポー・レート = 153600 bps

• ポー・レート = 16000000 / (2 × 52)

= 153846 [bps]

• 誤差 = (153846 / 153600 - 1) × 100

= 0.160 [%]

(6) ポー・レート設定例

表18-7 ポー・レート・ジェネレータ設定データ (通常動作, f_{XP1} = 48 MHz, PRSI = 0)

目標ポー・ レート (bps)	UDnCTL1		UDnCTL2 規定値 (k)		実効ポー・レート (bps)	ポー・レート誤差 (%)
	レジスタ値	分周比				
300	0AH	1024	4EH	78	300.48	0.16
600	09H	512	4EH	78	600.96	0.16
1200	08H	256	4EH	78	1201.92	0.16
2400	07H	128	4EH	78	2403.85	0.16
4800	06H	64	4EH	78	4807.69	0.16
9600	05H	32	4EH	78	9615.38	0.16
19200	04H	16	4EH	78	19230.77	0.16
31250	05H	32	18H	24	31250.00	0.00
38400	03H	8	4EH	78	38461.54	0.16
76800	02H	4	4EH	78	76923.08	0.16
153600	01H	2	4EH	78	153846.15	0.16
312500	00H	1	4EH	78	307692.31	-1.54

表18-8 ポー・レート・ジェネレータ設定データ (通常動作, $f_{XP1} = 32$ MHz, PRSI = 0)

目標ポー・ レート (bps)	UDnCTL1		UDnCTL2 規定値 (k)		UDnCTL1	ポー・レート誤差 (%)
	レジスタ値	分周比				
300	08H	256	D0H	208	300.48	0.16
600	08H	256	68H	104	600.96	0.16
1200	08H	256	34H	52	1201.92	0.16
2400	07H	128	34H	52	2403.85	0.16
4800	06H	64	34H	52	4807.69	0.16
9600	05H	32	34H	52	9615.38	0.16
19200	04H	16	34H	52	19230.77	0.16
31250	05H	32	10H	16	31250.00	0.00
38400	03H	8	34H	52	38461.54	0.16
76800	02H	4	34H	52	76923.08	0.16
153600	01H	2	34H	52	153846.15	0.16
312500	00H	1	34H	52	307692.31	-1.54

表18-9 ポー・レート・ジェネレータ設定データ (通常動作, $f_{XP1} = 16$ MHz, PRSI = 0)

目標ポー・ レート (bps)	UDnCTL1		UDnCTL2 規定値 (k)		UDnCTL1	ポー・レート誤差 (%)
	レジスタ値	分周比				
300	08H	256	68H	104	300.48	0.16
600	08H	256	34H	52	600.96	0.16
1200	07H	128	34H	52	1201.92	0.16
2400	06H	64	34H	52	2403.85	0.16
4800	05H	32	34H	52	4807.69	0.16
9600	04H	16	34H	52	9615.38	0.16
19200	03H	8	34H	52	19230.77	0.16
31250	03H	8	20H	32	31250.00	0.00
38400	02H	4	34H	52	38461.54	0.16
76800	01H	2	34H	52	76923.08	0.16
153600	00H	1	34H	52	153846.15	0.16
312500	00H	1	1AH	26	307692.31	-1.54

(7) 受信時の許容ポー・レート範囲

受信の際に、送信先のポー・レートのずれがどの程度まで許容できるかを次に示します。

注意 受信時のポー・レート誤差は、次に示す算出式を使用して、必ず許容誤差範囲内になるように設定してください。

図18-23 受信時の許容ポー・レート範囲

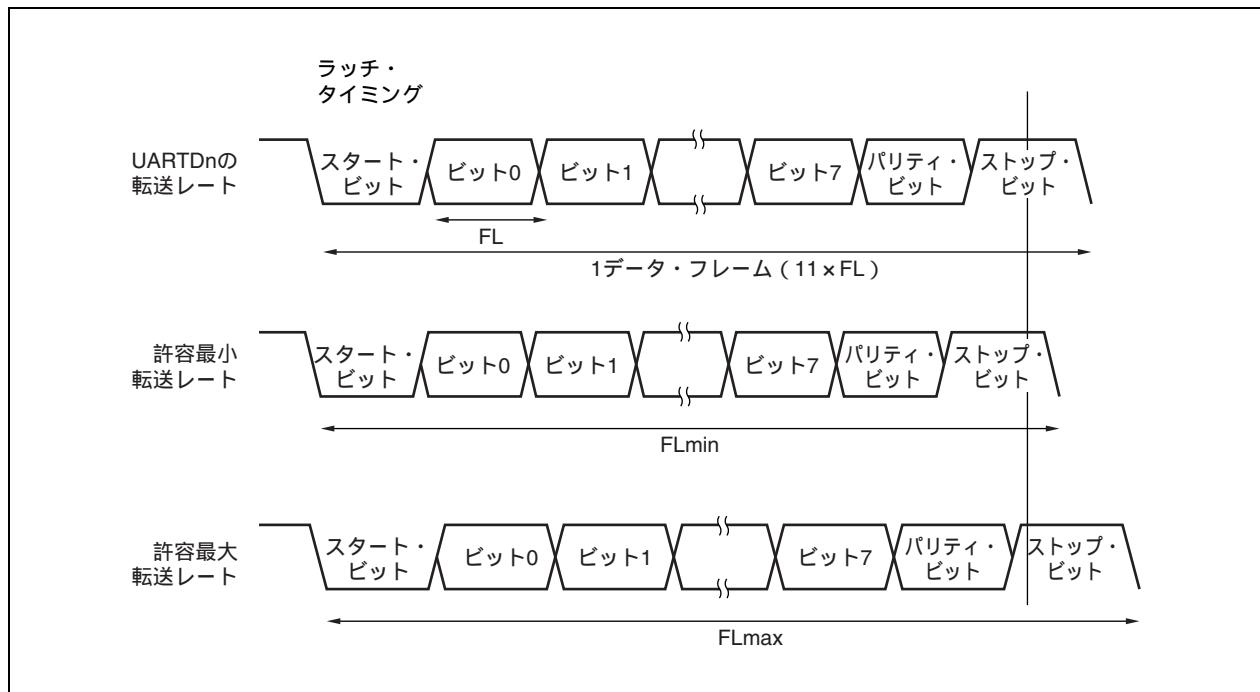


図18-23に示すように、スタート・ビット検出後はUDnCTL2レジスタで設定したカウンタにより、受信データのラッチ・タイミングが決定されます。このラッチ・タイミングに最終データ（ストップ・ビット）までが間に合えば正常に受信できます。

これを11ビット受信に当てはめると理論上、次のようにになります。

$$FL = (Brate)^{-1}$$

Brate : UARTDnのポー・レート

k : UDnCTL2の設定値

FL : 1ビット・データ長

ラッチ・タイミングのマージン : 2クロック

$$\text{許容最小転送レート} : FL_{\min} = 11 \times FL - \frac{k-2}{2k} \times FL = \frac{21k+2}{2k} \times FL$$

したがって、受信可能な送信先の最大ボーレートは次のようにになります。

$$BR_{max} = (FL_{min}/11)^{-1} = \frac{22k}{21k+2} Brate$$

同様に、許容最大転送レートを求めるとき、次のようにになります。

$$\begin{aligned} \frac{10}{11} \times FL_{max} &= 11 \times FL - \frac{k+2}{2 \times k} \times FL = \frac{21k-2}{2 \times k} FL \\ FL_{max} &= \frac{21k-2}{20k} FL \times 11 \end{aligned}$$

したがって、受信可能な送信先の最小ボーレートは次のようにになります。

$$BR_{min} = (FL_{max}/11)^{-1} = \frac{20k}{21k-2} Brate$$

前述の最小 / 最大ボーレート値の算出式から、UARTnと送信先とのボーレートの許容誤差を求めるとき、表18-10のようになります。

表18-10 許容最大 / 最小ボーレート誤差

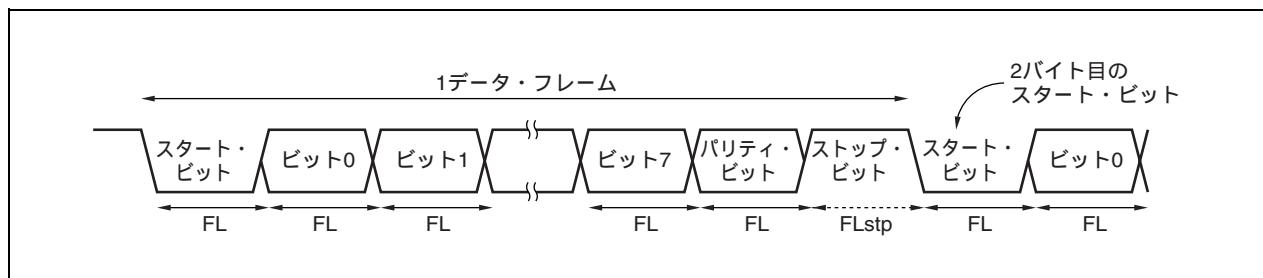
分周比 (k)	許容最大ボーレート誤差	許容最小ボーレート誤差
4	+ 2.32 %	- 2.43 %
8	+ 3.52 %	- 3.61 %
20	+ 4.26 %	- 4.30 %
50	+ 4.56 %	- 4.58 %
100	+ 4.66 %	- 4.67 %
255	+ 4.72 %	- 4.72 %

- 備考1.** 受信の精度は、1フレーム・ビット数、入力クロック周波数、分周比 (k) に依存します。入力クロック周波数が高く、分周比 (k) が大きくなるほど精度は高くなります。
2. k : UDnCTL2.UDnBRS [7:0] の設定値

(8) 連続送信時の転送レート

連続送信する場合、ストップ・ビットから次のスタート・ビットまでの転送レートが通常より2クロック分伸びます。ただし、受信側はスタート・ビットの検出により、タイミングの初期化が行われるので転送結果には影響しません。

図18-24 連続送信時の転送レート



1ビット・データ長 : FL , ストップ・ビット長 : $FLstp$, 基本クロック周波数 : f_{CLK} とすると次の式が成り立ちます。

$$FLstp = FL + 2 / f_{CLK}$$

したがって、連続送信での転送レートは次のようにになります。

$$\text{転送レート} = 11 \times FL + 2 / f_{CLK}$$

18.7 使用上の注意

(1) オンチップ・デバッグ (OCD) モード下においてbreakコマンドが起動され，かつUARTDがデータ受信したとき，オーバラン・エラーが発生します。

(2) UARTDnへの供給クロックが停止する場合（例：IDLE1, IDLE2, STOPモード）は，各レジスタはクロック停止直前の値を保持したまま動作を停止します。TXDDn端子出力も停止直前の値を保持，出力します。ただし，クロック供給の再開後の動作は保証しません。したがって，再開後はUDnCTL0.UDnPWR, UDnRXEn, UDnTXEnビット = 000とし，回路を初期化してください。

(3) UARTDnの起動は次の順序で行ってください。

UDnCTL0.UDnPWRビット = 1

ポートの設定

UDnCTL0.UDnTXEビット = 1, UDnCTL0.UDnRXEビット = 1

(4) UARTDnの停止は次の順序で行ってください。

UDnCTL0.UDnTXEビット = 0, UDnCTL0.UDnRXEビット = 0

ポートの設定，UDnCTL0.UDnPWRビット = 0（ポートの設定は変更しなくても問題ありません）

(5) 送信モード中（UDnCTL0.UDnPWRビット = 1，かつUDnCTL0.UDnTXEビット = 1）に，ソフトウェアでUDnTXレジスタの同値書き込みをしないでください。このレジスタへの書き込みにより送信が開始するためです。同値を連続送信する場合は問題ありません。

(6) 連続送信の場合，ストップ・ビットから次のスタート・ビットまでの通信レートが，通常より基本クロックの2クロック分延びます。ただし，受信側はスタート・ビットの検出でタイミングの初期化を行うため，受信結果には影響しません。

第19章 3線式シリアル・インターフェース (CSIB)

本マイクロコントローラは、3線式シリアル・インターフェース (CSIB) を搭載しています。

表19 - 1 3線式シリアル・インターフェースのチャネル数

製品 CSIB	V850ES/FE3	V850ES/FF3	V850ES/FG3	V850ES/FJ3		V850ES/FK3
	μPD70F3378, μPD70F3379, μPD70F3380	μPD70F3381, μPD70F3382	μPD70F3380	μPD70F3381, μPD70F3382	μPD70F3382	
チャネル数	2		3	4		
名称	CSIB0, CSIB1		CSIB0-CSIB2	CSIB3		

19.1 特 徵

転送速度：最大8 Mbps (f_{xx} 32 MHz , 内部クロック使用時)

マスター・モードとスレーブ・モードを選択可能

8ビット～16ビット転送，3線式シリアル・インターフェース

割り込み要求信号 (INTCBnT, INTCBnR)

シリアル・クロックとデータのフェーズ切り替えが可能

転送データ長を8～16ビットに1ビット単位で選択可能

転送データのMSB先頭/LSB先頭を切り替え可能

3線式 SOBn : シリアル・データ出力

SIBn : シリアル・データ入力

SCKBn : シリアル・クロック入出力

送信モード，受信モード，送受信モードを指定可能

備考 n = 0, 1 (V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3)

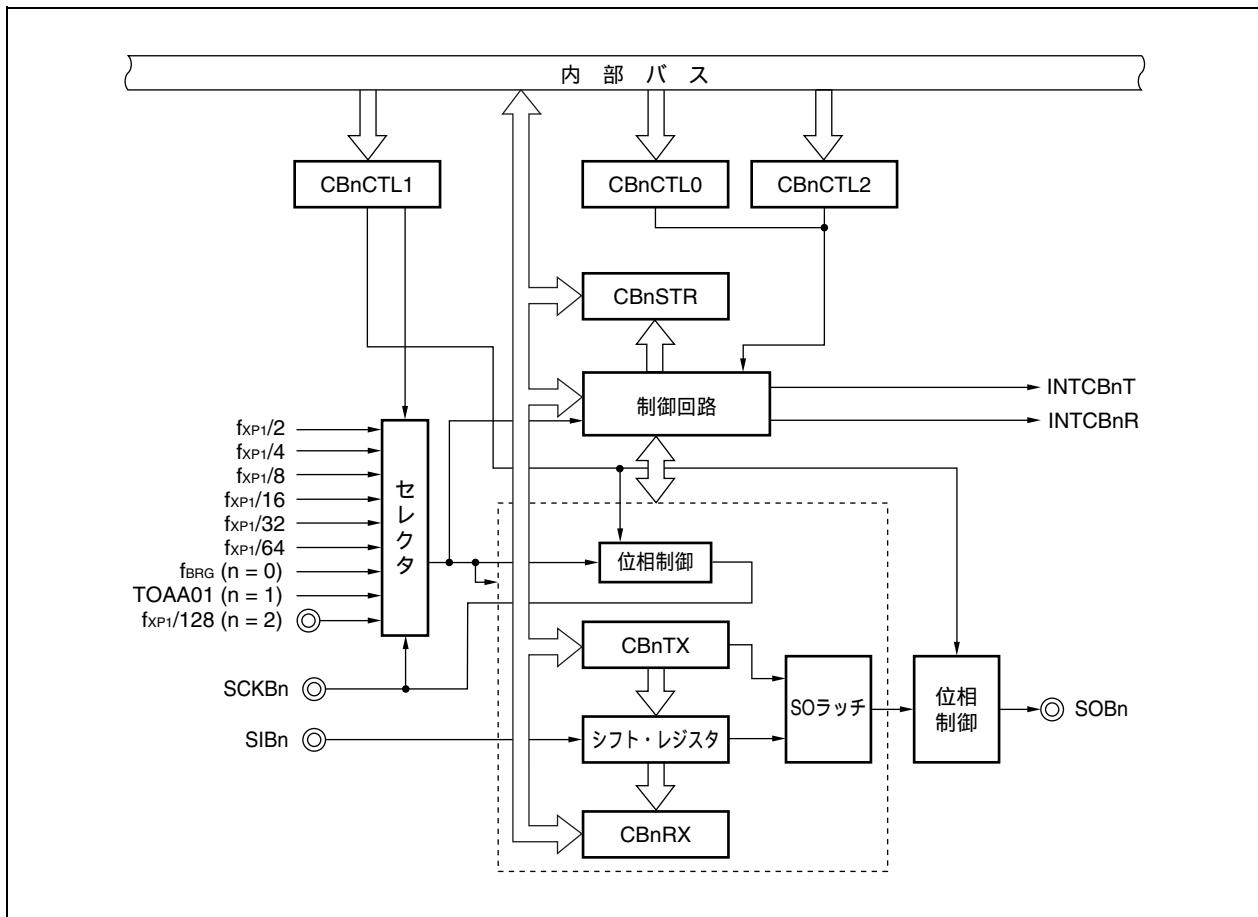
n = 0-2 (V850ES/FJ3 の μPD70F3378, 70F3379, 70F3380)

n = 0-3 (V850ES/FJ3 の μPD70F3381, 70F3382, V850ES/FK3)

この章ではn = 0-3の場合について記述しています。

19.2 構成

図19-1 3線式シリアル・インターフェースのブロック図



注意 f_{XP1} が高速内蔵発振クロック(f_{RH})をソース・クロックとするよう設定されている場合, CSIBnは, $f_{XP1}/2$, $f_{XP1}/4$, $f_{XP1}/8$, $f_{XP1}/16$, $f_{XP1}/32$, $f_{XP1}/64$, $f_{XP1}/128$ のクロックで使用できません。

備考 n = 0-3

CSIBnは, 次のハードウェアで構成されています。

表19-2 CSIBnの構成

項目	構成
レジスタ	CSIBn受信データ・レジスタ (CBnRX) CSIBn送信データ・レジスタ (CBnTX)
制御レジスタ	CSIBn制御レジスタ0-2 (CBnCTL0-CBnCTL2) CSIBn状態レジスタ (CBnSTR)

備考 n = 0-3

(1) CSIBn受信データ・レジスタ (CBnRX)

CBnRXレジスタは、受信データを保持する16ビットのバッファ・レジスタです。

16ビット単位でリードのみ可能です。

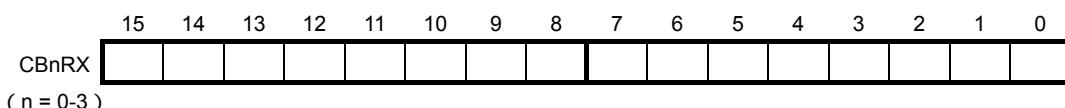
受信許可状態中は、CBnRXレジスタをリードすることにより、受信動作を開始します。

転送データ長が8ビットの場合は、CBnRXレジスタの下位8ビットをCBnRXLレジスタとして、8ビット単位でリードのみ可能です。

リセットにより0000Hになります。

リセット以外に、CBnCTL0レジスタのCBnPWRビットをクリア(0)する場合も初期化されます。

リセット時 : 0000H R アドレス : CB0RX : FFFFFD04H, CB1RX : FFFFFD14H,
CB2RX : FFFFFD24H, CB3RX : FFFFFD34H



(2) CSIBn送信データ・レジスタ (CBnTX)

CBnTXレジスタは、CSIBの転送データを書き込む16ビットのバッファ・レジスタです。

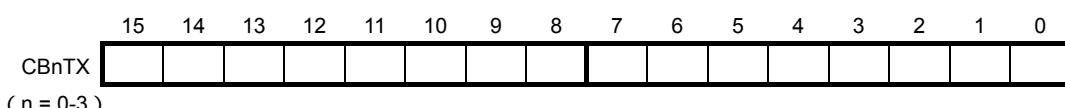
16ビット単位でリード／ライト可能です。

送信許可状態中は、CBnTXレジスタにデータをライトすることにより、送信動作を開始します。

転送データ長が8ビットの場合は、CBnTXレジスタの下位8ビットをCBnTXLレジスタとして、8ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより0000Hになります。

リセット時 : 0000H R/W アドレス : CB0TX : FFFFFD06H, CB1TX : FFFFFD16H,
CB2TX : FFFFFD26H, CB3TX : FFFFFD36H



備考 通信開始条件は、次のとおりです。

- ・送信モード (CBnTXEビット = 1, CBnRXEビット = 0)
CBnTXレジスタへの書き込み
- ・送受信モード (CBnTXEビット = 1, CBnRXEビット = 1)
CBnTXレジスタへの書き込み
- ・受信モード (CBnTXEビット = 0, CBnRXEビット = 1)
CBnRXレジスタからの読み出し

19.3 制御レジスタ

(1) CSIBn制御レジスタ0 (CBnCTL0)

CSIBのシリアル転送動作を制御するレジスタです。

8/1ビット単位でリード / ライト可能です。

リセットにより01Hになります。

(1/3)

リセット時 : 01H R/W アドレス : CB0CTL0 : FFFFFD00H, CB1CTL0 : FFFFFD10H,
CB2CTL0 : FFFFFD20H, CB3CTL0 : FFFFFD30H

	⑦	⑥	⑤	④	3	2	1	①
CBnCTL0 (n = 0-3)	CBnPWR	CBnTXE ^注	CBnRXE ^注	CBnDIR ^注	0	0	CBnTMS ^注	CBnSCE

CBnPWR ビットは、CSIBの動作クロックの制御と内部回路のリセットを行います。

CBnPWR ビットは、CSIB動作禁止 / 許可の指定

0 CSIBn動作禁止 (CBnSTRレジスタをリセット)

1 CSIBn動作許可

CBnPWR ビットは、CSIBの動作クロックの制御と内部回路のリセットを行います。

CBnTXE^注 送信動作禁止 / 許可の指定

0 送信動作禁止

1 送信動作許可

CBnTXE ビット = 0 にすることで、シリアル出力端子 SOBn 端子をロウ・レベルに固定し送信動作を禁止します。

CBnRXE^注 受信動作禁止 / 許可の指定

0 受信動作禁止

1 受信動作許可

CBnRXE ビット = 0 にすることで、受信動作を禁止するため、規定のデータを転送されても受信完了割り込みは出力されず、受信データ CBnRX レジスタは更新されません。

CBnDIR^注 転送方向モード (MSB/LSB) の指定

0 MSBファースト

1 LSBファースト

注 CBnPWR ビット = 0 の場合のみ書き換えできます。ただし、同時に CBnPWR ビット = 1 とすることや動作中の同値書き込みが可能です。

注意 送受信を強制中断する場合は (CBnTXE ビット, CBnRXE ビットではなく) CBnPWR ビットをクリア (0) してください。このときクロック出力も停止します。

CBnTMS ^注	転送モードの指定
0	シングル転送モード
1	連続転送モード

【シングル転送モード】

通信の完了で受信完了割り込み (INTCBnR) を発生します。

送信許可 (CBnTXEビット = 1) の場合でも、送信許可割り込み (INTCBnT) は発生しません。

通信中 (CBnSTR.CBnTSFビット = 1) に次の送信データをライトしても無視され、次の通信は起動しません。また、受信のみの通信に設定したとき (CBnTXEビット = 0, CBnRXEビット = 1) も、通信中 (CBnSTR.CBnTSFビット = 1) に受信データをリードしても次の通信は起動しません。

【連続転送モード】

通信中 (CBnSTR.CBnTSFビット = 1) に次の送信データをライトすることで連続送信が可能です。

次の送信データがライト可能になるのは、送信許可割り込み (INTCBnT) 発生後です。

また、連続転送モードで受信のみの通信に設定 (CBnTXEビット = 0, CBnRXEビット = 1) すると、CBnRXレジスタのリード操作に関係なく、受信完了割り込み (INTCBnR) 後、連続して次の受信を開始します。

そのため、速やかにCBnRXレジスタから受信データを読み出してください。読み出しが遅れるとオーバラン・エラー (CBnOVEビット = 1) が発生します。

注 CBnPWRビット = 0の場合のみ書き換えできます。ただし、同時にCBnPWRビット = 1とすることは可能です。

CBnSCE	通信起動禁止 / 許可の指定
0	通信起動トリガ無効
1	通信起動トリガ有効

・マスタ・モード時
通信起動トリガの有効 / 無効を制御するビットです。

(a) シングル送信 / 送受信モード, 連続送信 / 送受信モード時
CBnSCEビットの設定は、動作に影響ありません。

(b) シングル受信モード時
受信データ (CBnRXレジスタ) のリードで受信動作が起動されるため、最終受信データのリードを行う前にCBnSCEビットを“0”に設定して次の受信動作の起動を無効にしてください。^{注1}

(c) 連続受信モード時
最終データの受信が完了する1通信クロック前までにCBnSCEビットを“0”に設定して最終データ受信後の受信動作の起動を無効にしてください。^{注2}

・スレーブ・モード時
通信起動トリガの有効 / 無効を制御するビットです。
CBnSCEビットは“1”に設定してください。

【CBnSCEビットの使用方法】

・シングル受信モード時
INTCBnR割り込み処理で最終データの受信が完了している場合には、CBnSCEビット = 0にしてからCBnRXレジスタを読み出す。
CBnSTR.CBnTSFビット = 0を確認後、受信を禁止する場合、CBnRXEビット = 0とする。続けて受信をする場合には、CBnSCEビット = 1にしてCBnRXレジスタのダミー・リードにより次の受信動作を起動する。

・連続受信モード時
INTCBnR割り込み処理で最終データ受信中にCBnSCEビット = 0とする。
CBnRXレジスタを読み出す。
CBnTIR割り込みを受けて、CBnRXレジスタを読み出すことで、最終受信データを読み出す。
CBnSTR.CBnTSFビット = 0を確認後、受信を禁止する場合、CBnRXEビット = 0とする。続けて受信をする場合には、CBnSCEビット = 1にしてCBnRXレジスタのダミー・リードにより次の受信動作まで待つ。

- 注1.** CBnSCEビットが“1”的ときに読み出されると、次の通信動作が開始されます。
- 2.** 最終データの受信を完了する1通信クロック前までにCBnSCEビットを“0”にしない場合、自動的に次回の通信動作が起動されます。

注意 ビット3, 2には必ず0を設定してください。

(2) CSIBn制御レジスタ1 (CBnCTL1)

CSIBnの送受信タイミングおよび入力クロックを選択する8ビット・レジスタです。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

注意 CBnCTL1レジスタは、CBnCTL0レジスタのCBnPWRビット = 0の場合のみ書き換えが可能です。

(1/2)

リセット時 : 00H R/W アドレス : CB0CTL1 : FFFFFD01H, CB1CTL1 : FFFFFD11H,
CB2CTL1 : FFFFFD21H, CB3CTL1 : FFFFFD31H

	7	6	5	4	3	2	1	0
CBnCTL1	0	0	0	CBnCKP	CBnDAP	CBnCKS2	CBnCKS1	CBnCKS0
(n = 0-3)								

	CBnCKP	CBnDAP	SCKBnに対するデータの送受信タイミングの指定
通信タイプ1	0	0	<p>Diagram illustrating the timing for Communication Type 1. The SCKBn signal (input/output) is at the top, showing high and low pulses. Below it, the SOBn signal (output) is shown as a sequence of bytes D7, D6, D5, D4, D3, D2, D1, D0. Arrows point from each byte to the corresponding edge of the SCKBn pulse. The SInキャプチャ (capture) signal is labeled below the bytes.</p>
通信タイプ2	0	1	<p>Diagram illustrating the timing for Communication Type 2. The SCKBn signal (input/output) is at the top. Below it, the SOBn signal (output) is shown as a sequence of bytes D7, D6, D5, D4, D3, D2, D1, D0. Arrows point from each byte to the rising edge of the SCKBn pulse. The SInキャプチャ (capture) signal is labeled below the bytes.</p>
通信タイプ3	1	0	<p>Diagram illustrating the timing for Communication Type 3. The SCKBn signal (input/output) is at the top. Below it, the SOBn signal (output) is shown as a sequence of bytes D7, D6, D5, D4, D3, D2, D1, D0. Arrows point from each byte to the falling edge of the SCKBn pulse. The SInキャプチャ (capture) signal is labeled below the bytes.</p>
通信タイプ4	1	1	<p>Diagram illustrating the timing for Communication Type 4. The SCKBn signal (input/output) is at the top. Below it, the SOBn signal (output) is shown as a sequence of bytes D7, D6, D5, D4, D3, D2, D1, D0. Arrows point from each byte to the rising edge of the SCKBn pulse. The SInキャプチャ (capture) signal is labeled below the bytes.</p>

(2/2)

注1. M : マスター・モード , S : スレーブ・モード

2. $f_{xx} > 16 \text{ MHz}$ の場合 , 設定禁止。
3. $f_{xx} > 32 \text{ MHz}$ の場合 , 設定禁止。
4. ボーレート・ジェネレータの出力は時計タイマにも使用されます。詳細は , 4.2.5 プリスケーラ・モード・レジスタ0を参照してください。
5. TAA0出力

注意 f_{XP1} が , 高速内蔵発振クロック (f_{RH}) をソース・クロックとするよう設定されている場合 , CSIBnは , $f_{XP1}/2$, $f_{XP1}/4$, $f_{XP1}/8$, $f_{XP1}/16$, $f_{XP1}/32$, $f_{XP1}/64$, $f_{XP1}/128$ のクロックで使用できません。

備考 PRSIはオプション・バイトで設定できます。

- PRSI = 0 : $f_{xx} = 32 \text{ MHz}$ の場合 ($f_{xx} > 32 \text{ MHz}$ の場合は設定禁止)
- PRSI = 1 : $f_{xx} = 48 \text{ MHz}$ の場合

詳細は第8章 オプション・バイトを参照してください。

(3) CSIBn制御レジスタ2 (CBnCTL2)

CSIBのシリアル転送ビット数を制御する8ビットのレジスタです。

8ビット単位でリード / ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

注意 CBnCTL2レジスタは , CBnCTL0レジスタのCBnPWRビット = 0 , またはCB0TXE, CB0RXEビット = 0の場合のみ書き換えが可能です。

リセット時 : 00H R/W アドレス : CB0CTL2 : FFFFFD02H, CB1CTL2 : FFFFFD12H,
CB2CTL2 : FFFFFD22H, CB3CTL2 : FFFFFD32H

CBnCTL2	7	6	5	4	3	2	1	0
(n = 0-3)	0	0	0	0	CBnCL3	CBnCL2	CBnCL1	CBnCL0

CBnCL3	CBnCL2	CBnCL1	CBnCL0	シリアル・レジスタのビット長
0	0	0	0	8ビット
0	0	0	1	9ビット
0	0	1	0	10ビット
0	0	1	1	11ビット
0	1	0	0	12ビット
0	1	0	1	13ビット
0	1	1	0	14ビット
0	1	1	1	15ビット
1	x	x	x	16ビット

注意 転送ビット数が8/16ビットではない場合には , CBnTX, CBnRXレジスタの最下位ビットから詰めてデータを準備して使用してください。

備考 x : 任意

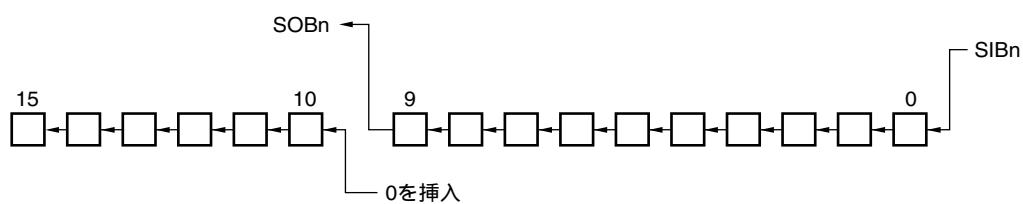
(a) 転送データ長変更機能

CSIBの転送データ長はCBnCTL2レジスタのCBnCL3-CBnCL0ビットによって、8-16ビットに1ビット単位で設定可能です。

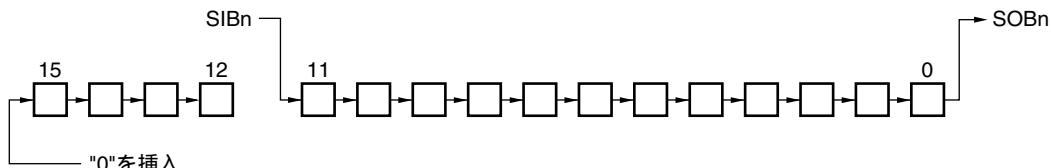
転送ビット長を16ビット以外に設定した場合、CBnTX、CBnRXレジスタへは、転送先頭ビットがMSBであってもLSBであっても最下位ビットから詰めてデータをセットしてください。使用しない上位ビットにセットするデータは任意ですが、シリアル転送後の受信データは“0”になります。

図19-2 転送データ長の変更

(a) 転送ビット長 = 10ビット、MSBファーストの場合



(b) 転送ビット長 = 12ビット、LSBファーストの場合



(4) CSIBn状態レジスタ (CBnSTR)

CSIBの状態を示す8ビットのレジスタです。

8/1ビット単位でリード / ライト可能ですが、CBnTSFフラグはリードのみ可能です。

リセットにより00Hになります。

リセット以外に、CBnCTL0レジスタのCBnPWRビットをクリア(0)する場合も初期化されます。

リセット時 : 00H R/W アドレス : CB0STR : FFFFFD03H, CB1STR : FFFFFD13H,
CB2STR : FFFFFD23H, CB3STR : FFFFFD33H

CBnSTR (n = 0-3)	⑦	6	5	4	3	2	1	①
	CBnTSF	0	0	0	0	0	0	CBnOVE

CBnTSF	転送動作状態フラグ
0	通信停止中
1	通信中
送信時にはCBnTXレジスタにデータを準備したタイミングでセットされ、受信時にはCBnRXレジスタをダミー・リードしたタイミングでセットされます。	
転送終了時、クロックの最終エッジでクリアされます。	

CBnOVE	オーバラン・エラー・フラグ
0	オーバランなし
1	オーバランあり
<ul style="list-style-type: none"> 受信時もしくは受信動作完了後に、受信バッファの値をCPUがリードせずに次の受信が開始した場合、オーバラン・エラーとなります。 CBnOVEフラグは、このような場合のオーバラン・エラーの発生状態を示します。 シングル転送モード時もCBnOVEビットは有効です。そのため、送信のみで使用する場合は、次のように対応してください。 <ul style="list-style-type: none"> CBnOVEフラグのチェックを行わない。 受信データを読み出す必要がない場合でも読み出す。 CBnOVEフラグは“0”ライト、またはCBnCTL0.CBnRXEを“0”としたときにクリア(0)されます。“1”ライトしてもセットされません。 	

備考 オーバラン・エラーの場合、受信割り込み (INTCBnR) は転送モードにより動作が異なります。

- 連続転送モード

受信割り込み (INTCBnR) が発生します。

- シングル転送モード

割り込みは発生しません。

どちらの場合も、CBnSTRレジスタのCBnOVEビット(オーバフロー・フラグ)が“1”にセットされ、CBnRX内の前のデータは新しいデータで上書きされます。

19.4 割り込み要求信号

CSIBnからは次の2種類の割り込み要求信号を発生します。

- ・受信完了割り込み要求信号 (INTCBnR)
- ・連続送信書き込み許可割り込み要求信号 (INTCBnT)

これら2種類の割り込み要求信号のディフォールト・プライオリティは、受信完了割り込み要求信号の方が高く、連続送信書き込み許可割り込み要求信号の方が低くなっています。

表19-3 発生する割り込みとディフォールト・プライオリティ

割り込み	優先順位
受信完了	高
連続送信書き込み許可	低

(1) 受信完了割り込み要求信号 (INTCBnR)

受信許可状態で,CBnRXレジスタに受信データが転送されると受信完了割り込み要求信号が発生します。

受信完了割り込み要求信号は、オーバラン・エラーが起こった場合にも発生します（連続モードのみ）。

受信完了割り込み要求信号を受け付け、データを読み出すときに、CBnSTRレジスタを読み出して受信結果がエラーでないか確認してください。

また、シングル転送モード時は送信のみにおいても、送信完了のタイミングで、INTCBnR信号が発生します。

(2) 連続送信書き込み許可割り込み要求信号 (INTCBnT)

連続送信 / 連続送受信モードにおいて、CBnTXレジスタから送信データが転送され、CBnTXへの書き込みが可能となった時点での連続送信書き込み許可割り込み要求信号を発生します。

シングル送信 / シングル送受信モードにおいては、INTCBnT信号は発生しません。

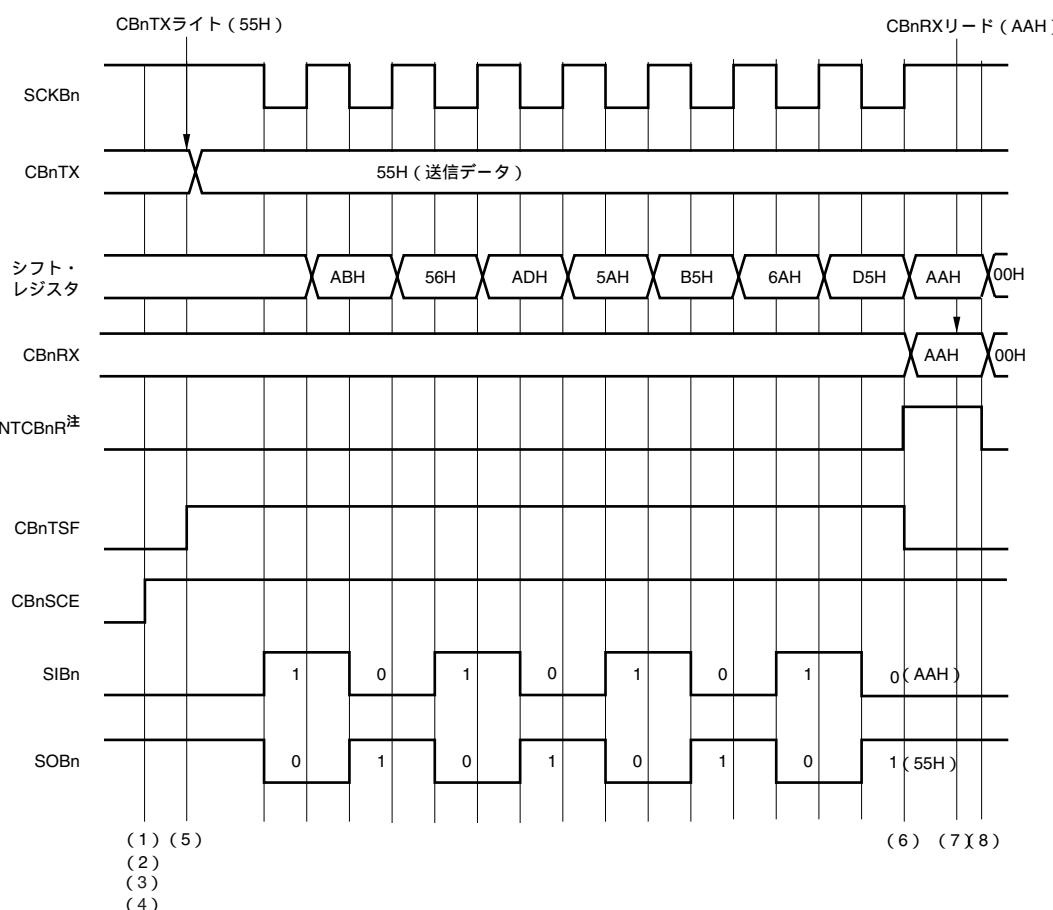
19.5 動 作

19.5.1 シングル転送モード (マスタ・モード, 送受信モード)

MSBファースト (CBnCTL0レジスタのCBnPWRビット = 0), 通信タイプ1 (19.3(2) CSIBn制御レジスタ1 (CBnCTL1) 参照), 転送データ長8ビット (CBnCTL2レジスタのCBnCL3-CBnCL0ビット = 0, 0, 0, 0) の場合の転送タイミングを図19-3に示します。

図19-3 シングル転送タイミング (マスタ・モード, 送受信モード)

(1/2)



- (1) CBnCTL0レジスタのCBnPWRビットを“0”にクリアする。
- (2) CBnCTL1, CBnCTL2レジスタを設定し, 転送モードを指定する。
- (3) CBnCTL0レジスタのCBnDIRビットによって転送モードを指定すると同時に, CBnCTL0レジスタのCBnTXE, CBnRXEビットを“1”にして送受信許可状態にする。
- (4) CBnCTL0レジスタのCBnPWRビット = 1 にして, CSIBnの動作を許可する。
- (5) CBnTXレジスタに, 転送データをライトする (送信開始)。
- (6) 受信完了割り込み要求信号 (INTCBnR) を発生。
- (7) CBnPWRビットを“0”にする前にCBnRXレジスタをリードする。
- (8) CBnSTRレジスタのCBnTSFビット = 0 を確認し, CBnPWRビットを“0”にしてCSIBnの動作を停止する (送受信終了)。

さらに転送を行いたい場合には,(8)の前に(5)～(7)を繰り返す。

送信モードまたは送受信モードでは, CBnRXレジスタの読み出しで通信は開始しません。

注 シングル転送モード時、INTCBnT信号は発生しません。

通信完了時にはINTCBnR信号が発生します。

注意 CSIBインターフェースが次の状態で動作する場合は、次の事柄に注意してください。

- ・シングル送受信モード (CBnCTL0レジスタのCBnTMSビット = 0)
- ・通信タイプ2とタイプ4 (CBnCTL1レジスタのCBnDAPビット = 1)

受信完了割り込み (INTCBnR) の発生直後に次の送信が開始される場合、CBnTXレジスタへの書き込みは、通信ステータス・フラグが通信中であることを示している (CBnTSF = 1) かぎり、無視されます。したがって、新しい送信は開始されません。

連続してデータを送信するには、次のいずれかの方法で行ってください。

- ・連続転送モードを使用する (CBnCTL0レジスタのCBnTMSビット = 1)。DMAコントローラによるデータの自動転送では、このモードだけが使用できます。
- ・シングル転送モードを使用する (CBnCTL0レジスタのCBnTMSビット = 0) 場合、CBnTXレジスタにデータを書き込む前に、CBnSTRレジスタのCBnTSFビット = 0であるとの確認が必要です。

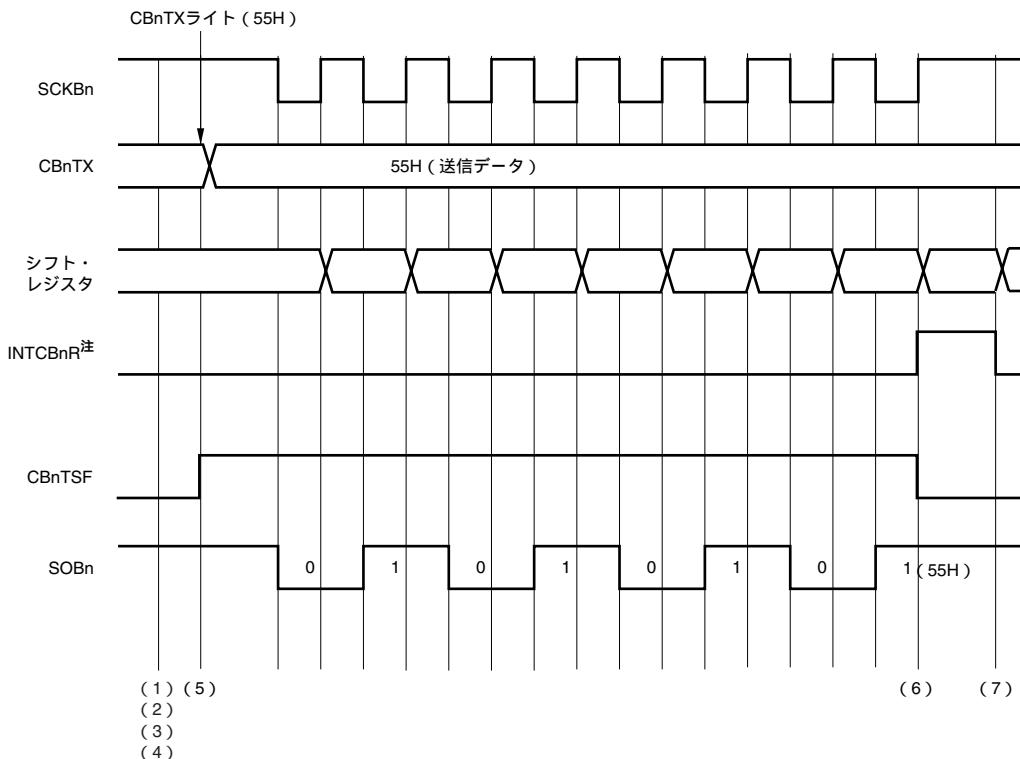
備考1. (3),(4) の処理は同時に設定可能です。

2. n = 0-3

19.5.2 シングル転送モード(マスター・モード, 送信モード)

MSBファースト (CBnCTL0レジスタのCBnDIRビット = 0), 通信タイプ1 (19.3(2) CSIBn制御レジスタ1 (CBnCTL1) 参照), 転送データ長8ビット (CBnCTL2レジスタのCBnCL3-CBnCL0ビット = 0, 0, 0, 0) の場合の転送タイミングを図19-4に示します。

図19-4 シングル転送タイミング(マスター・モード, 送信モード)



さらに転送を行いたい場合には,(7)の前に(5),(6)を繰り返す。

注 シングル転送モード時, INTCBnT信号は発生しません。

通信完了時にはINTCBnR信号が発生します。

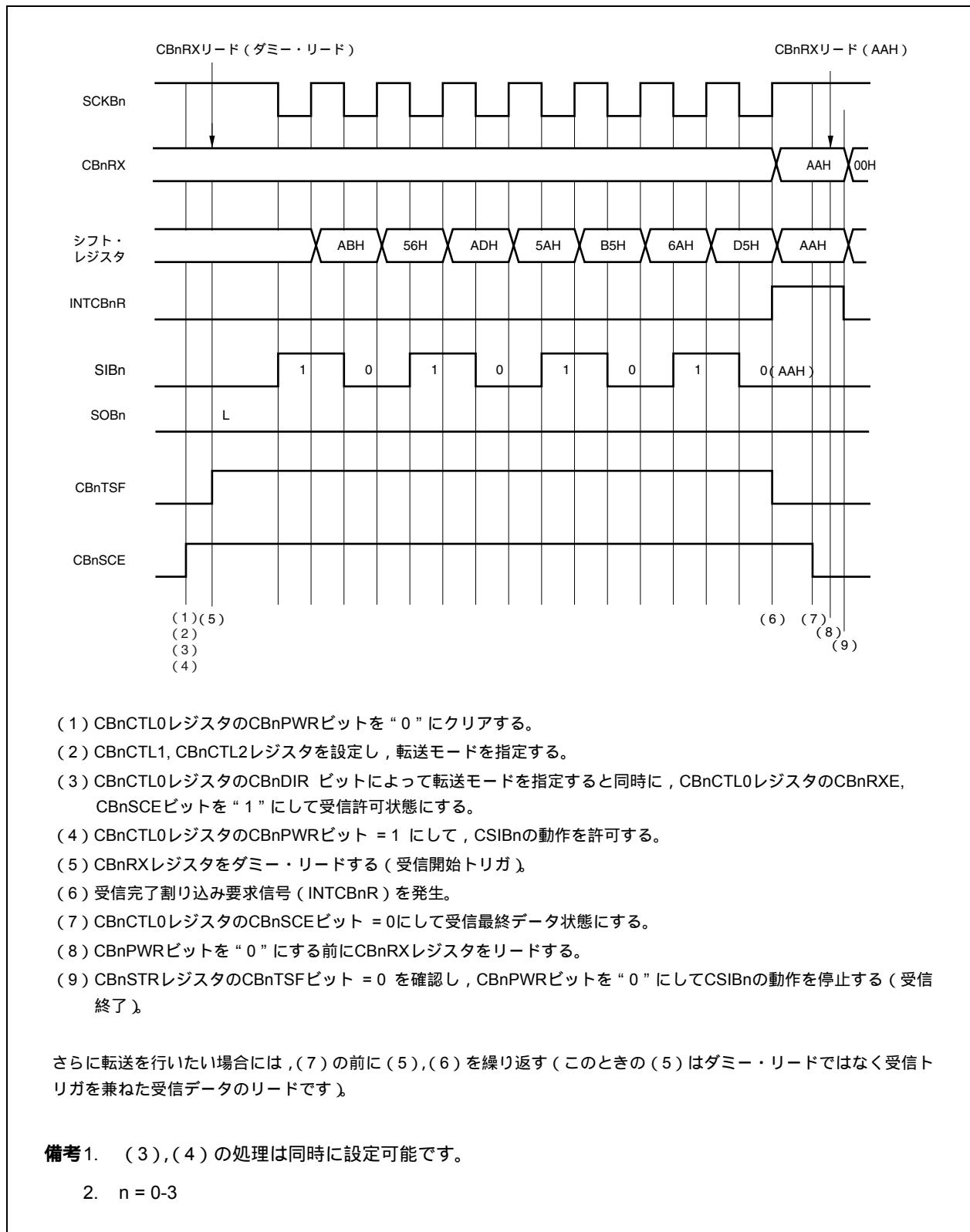
備考1. (3),(4)の処理は同時に設定可能です。

2. n = 0-3

19.5.3 シングル転送モード(マスター・モード, 受信モード)

MSBファースト (CBnCTL0レジスタのCBnDIRビット = 0), 通信タイプ1 (19.3(2) CSIBn制御レジスタ1 (CBnCTL1) 参照), 転送データ長8ビット (CBnCTL2レジスタのCBnCL3-CBnCL0ビット = 0, 0, 0, 0) の場合の転送タイミングを図19-5に示します。

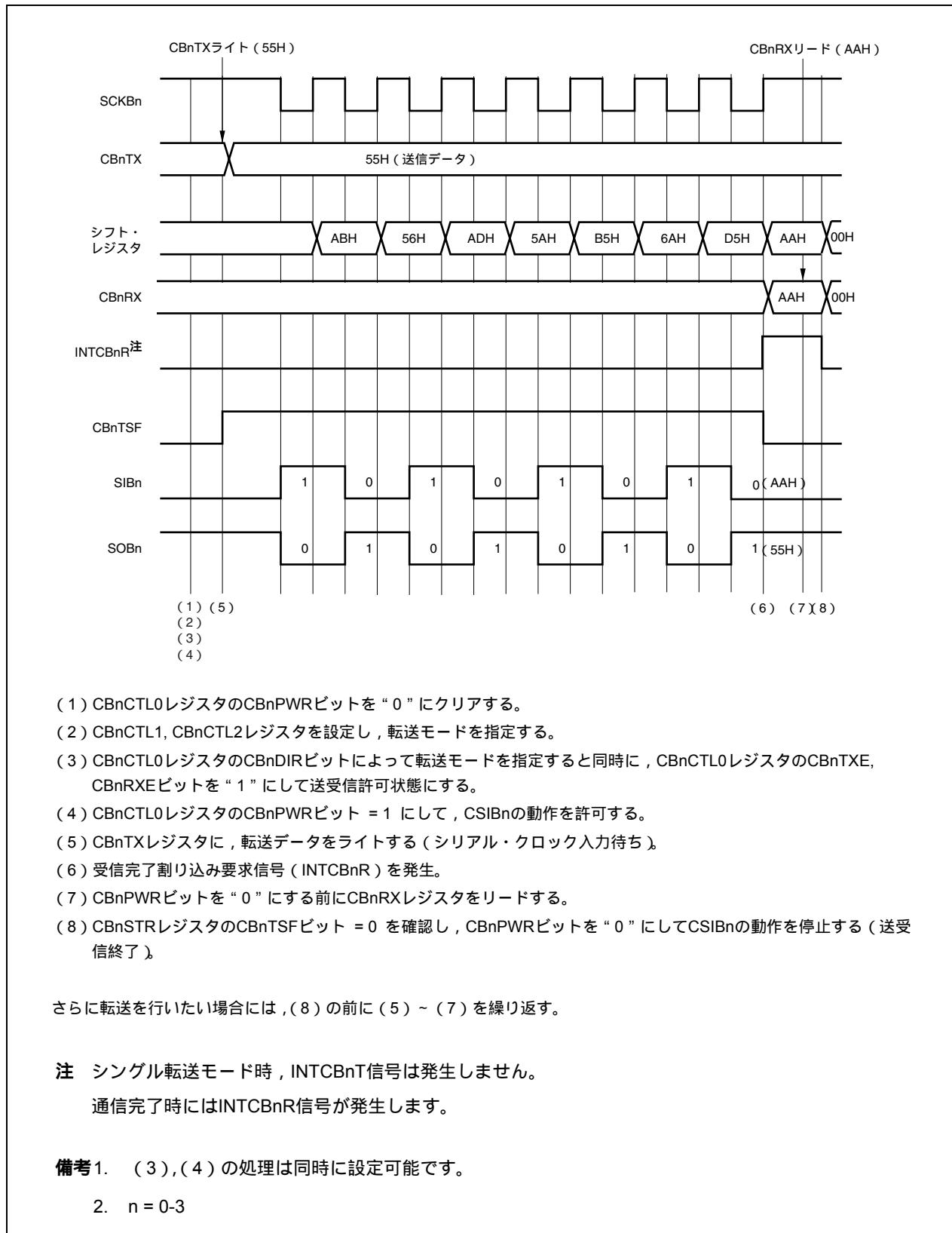
図19-5 シングル転送タイミング(マスター・モード, 受信モード)



19.5.4 シングル転送モード(スレーブ・モード, 送受信モード)

MSBファースト (CBnCTL0レジスタのCBnDIRビット = 0), 通信タイプ1 (19.3(2)CSIBn制御レジスタ1 (CBnCTL1)参照), CBnCKS2-CBnCKS0 = 1, 1, 1, 転送データ長8ビット (CBnCTL2レジスタのCBnCL3-CBnCL0ビット = 0, 0, 0, 0) の場合の転送タイミングを図19-6に示します。

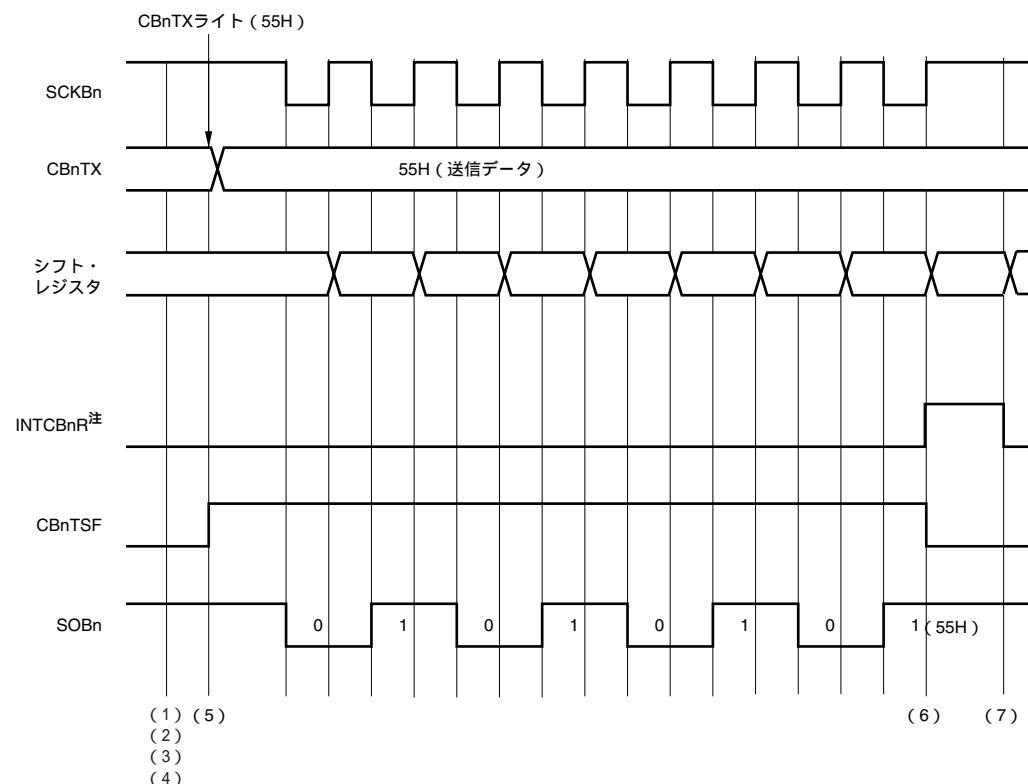
図19-6 シングル転送タイミング(スレーブ・モード, 送受信モード)



19.5.5 シングル転送モード(スレーブ・モード, 送信モード)

MSBファースト (CBnCTL0レジスタのCBnDIRビット = 0), 通信タイプ1 (19.3(2) CSIBn制御レジスタ1 (CBnCTL1) 参照), CBnCKS2-CBnCKS0 = 1, 1, 1, 転送データ長8ビット (CBnCTL2レジスタのCBnCL3-CBnCL0ビット = 0, 0, 0, 0) の場合の転送タイミングを図19-7に示します。

図19-7 シングル転送タイミング(スレーブ・モード, 送信モード)



- (1) CBnCTL0レジスタのCBnPWRビットを“0”にクリアする。
- (2) CBnCTL1, CBnCTL2レジスタを設定し, 転送モードを指定する。
- (3) CBnCTL0レジスタのCBnDIRビットによって転送モードを指定すると同時に, CBnCTL0レジスタのCBnTXEビットを“1”にして送信許可状態にする。
- (4) CBnCTL0レジスタのCBnPWRビット = 1にして, CSIBnの動作を許可する。
- (5) CBnTXレジスタに, 転送データをライトする(シリアル・クロック入力待ち)。
- (6) 受信完了割り込み要求信号 (INTCBnR) を発生。
- (7) CBnSTRレジスタのCBnTSFビット = 0を確認し, CBnPWRビットを“0”にしてCSIBnの動作を停止する(送信終了)。

さらに転送を行いたい場合には,(7)の前に(5),(6)を繰り返す。

注 シングル転送モード時, INTCBnT信号は発生しません。

通信完了時にはINTCBnR信号が発生します。

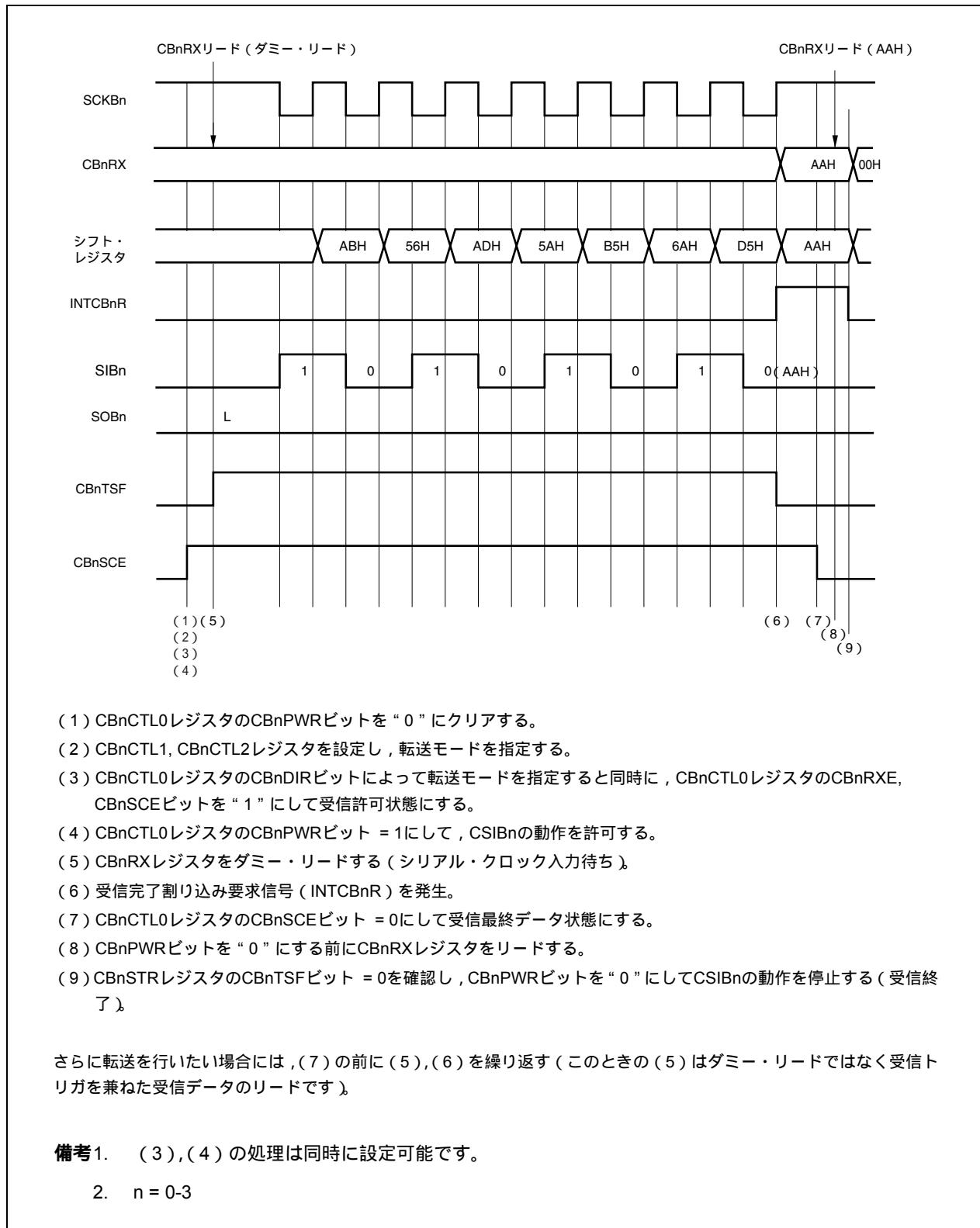
備考1. (3),(4)の処理は同時に設定可能です。

2. n = 0-3

19.5.6 シングル転送モード(スレーブ・モード, 受信モード)

MSBファースト (CBnCTL0レジスタのCBnDIRビット = 0), 通信タイプ1 (19.3(2)CSIBn制御レジスタ1 (CBnCTL1)参照), CBnCKS2-CBnCKS0 = 1, 1, 1, 転送データ長8ビット (CBnCTL2レジスタのCBnCL3-CBnCL0ビット = 0, 0, 0, 0) の場合の転送タイミングを図19-8に示します。

図19-8 シングル転送タイミング(スレーブ・モード, 受信モード)

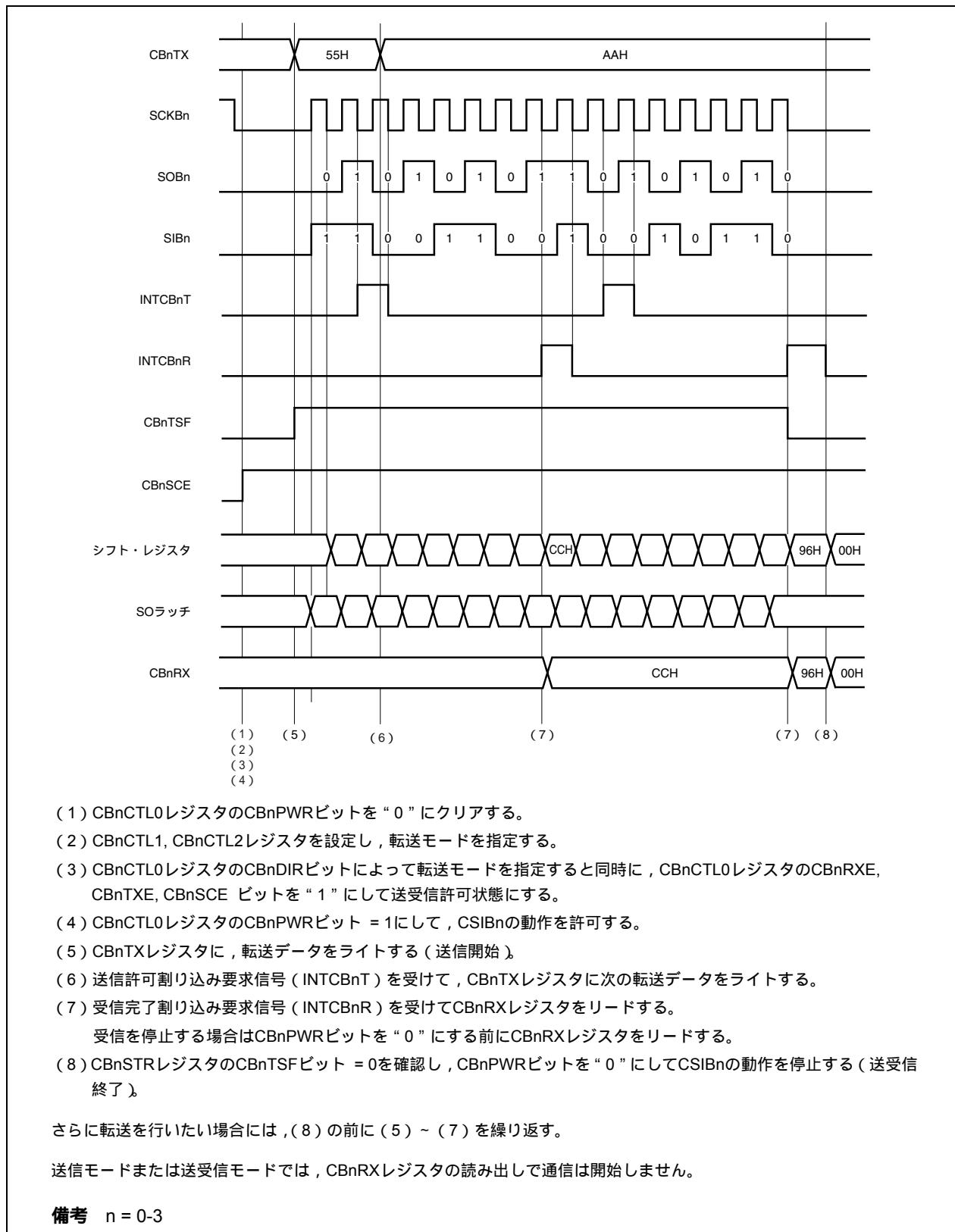


19.5.7 連続モード(マスタ・モード, 送受信モード)

MSBファースト (CBnCTL0レジスタのCBnDIRビット = 0), 通信タイプ3 (19.3(2) CSIBn制御レジスタ1 (CBnCTL1) 参照), 転送データ長8ビット (CBnCTL2レジスタのCBnCL3-CBnCL0ビット = 0, 0, 0, 0) の場合の転送タイミングを

図19-9に示します。

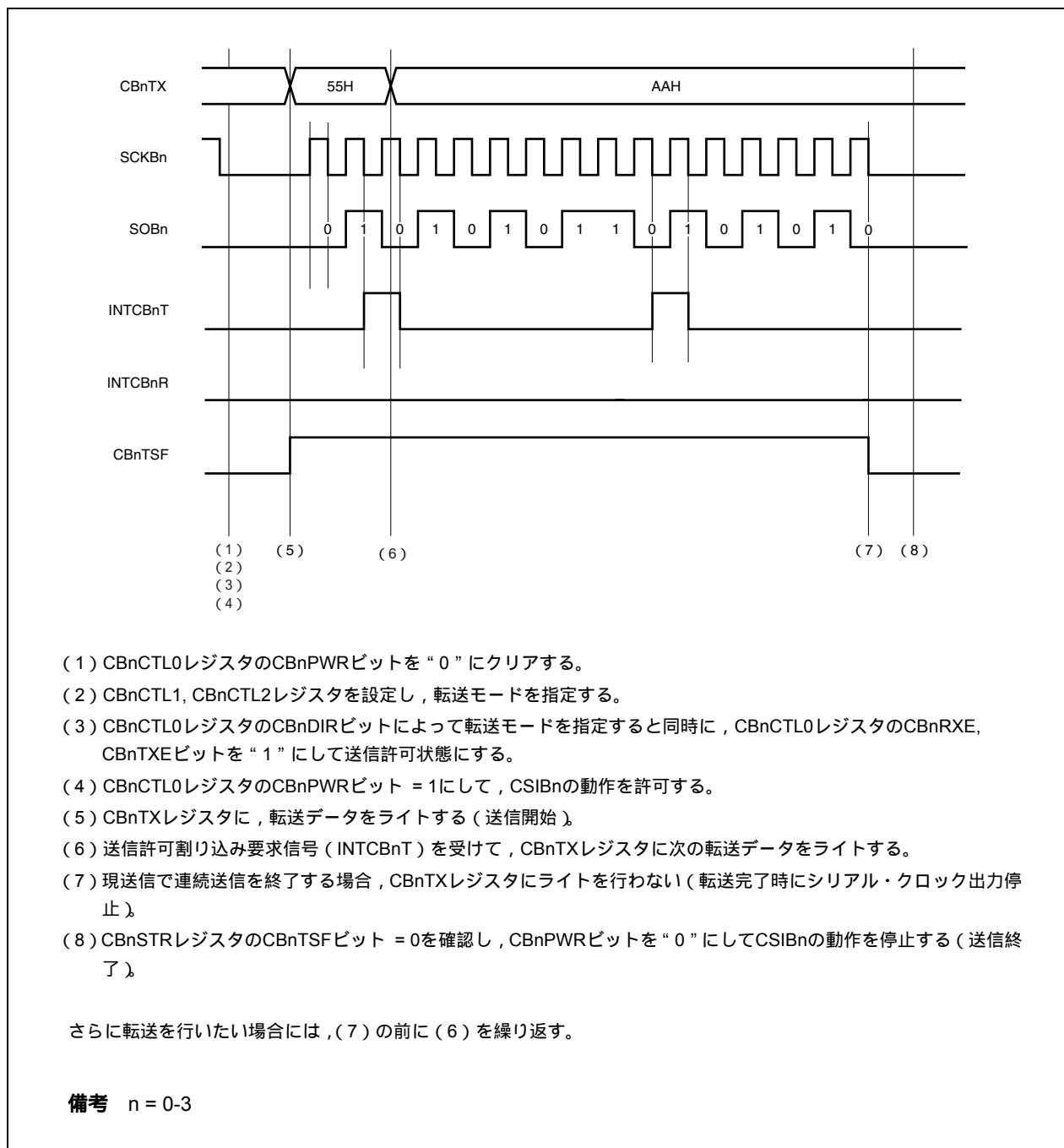
図19-9 連続転送タイミング(マスタ・モード, 送受信モード)



19.5.8 連続モード(マスタ・モード, 送信モード)

MSBファースト (CBnCTL0レジスタのCBnDIRビット = 0), 通信タイプ3 (19.3(2) CSIBn制御レジスタ1 (CBnCTL1) 参照), 転送データ長8ビット (CBnCTL2レジスタのCBnCL3-CBnCL0ビット = 0, 0, 0, 0) の場合の転送タイミングを図19-10に示します。

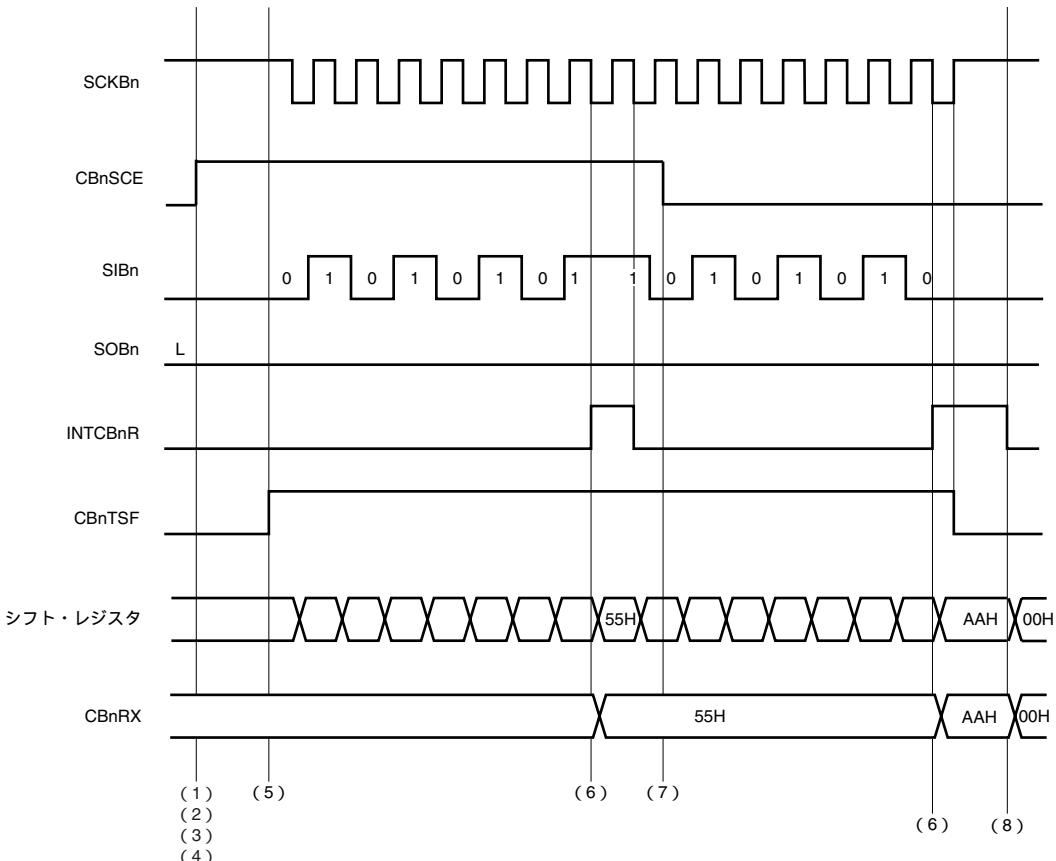
図19-10 連続転送タイミング(マスタ・モード, 送信モード)



19.5.9 連続モード(マスタ・モード, 受信モード)

MSBファースト (CBnCTL0レジスタのCBnDIRビット = 0), 通信タイプ2 (19.3(2) CSIBn制御レジスタ1 (CBnCTL1) 参照), 転送データ長8ビット (CBnCTL2レジスタのCBnCL3-CBnCL0ビット = 0, 0, 0, 0) の場合の転送タイミングを図19-11に示します。

図19-11 連続転送タイミング(マスタ・モード, 受信モード)



- (1) CBnCTL0レジスタのCBnPWRビットを“0”にクリアする。
- (2) CBnCTL1, CBnCTL2レジスタを設定し, 転送モードを指定する。
- (3) CBnCTL0レジスタのCBnDIRビットによって転送モードを指定すると同時に, CBnCTL0レジスタのCBnRXE, CBnSCEビットを“1”にして受信許可状態にする。
- (4) CBnCTL0レジスタのCBnPWRビット = 1にして, CSIBnの動作を許可する。
- (5) CBnRXレジスタをダミー・リードする(受信開始トリガ)。
- (6) 受信完了割り込み要求信号 (INTCBnR) を発生。
- (7) 最終データ受信中にCBnCTL0レジスタのCBnSCEビット = 0にして受信最終データ状態にする。
- (8) CBnSTRレジスタのCBnTSFビット = 0を確認し, CBnPWRビットを“0”にしてCSIBnの動作を停止する
(受信終了)。

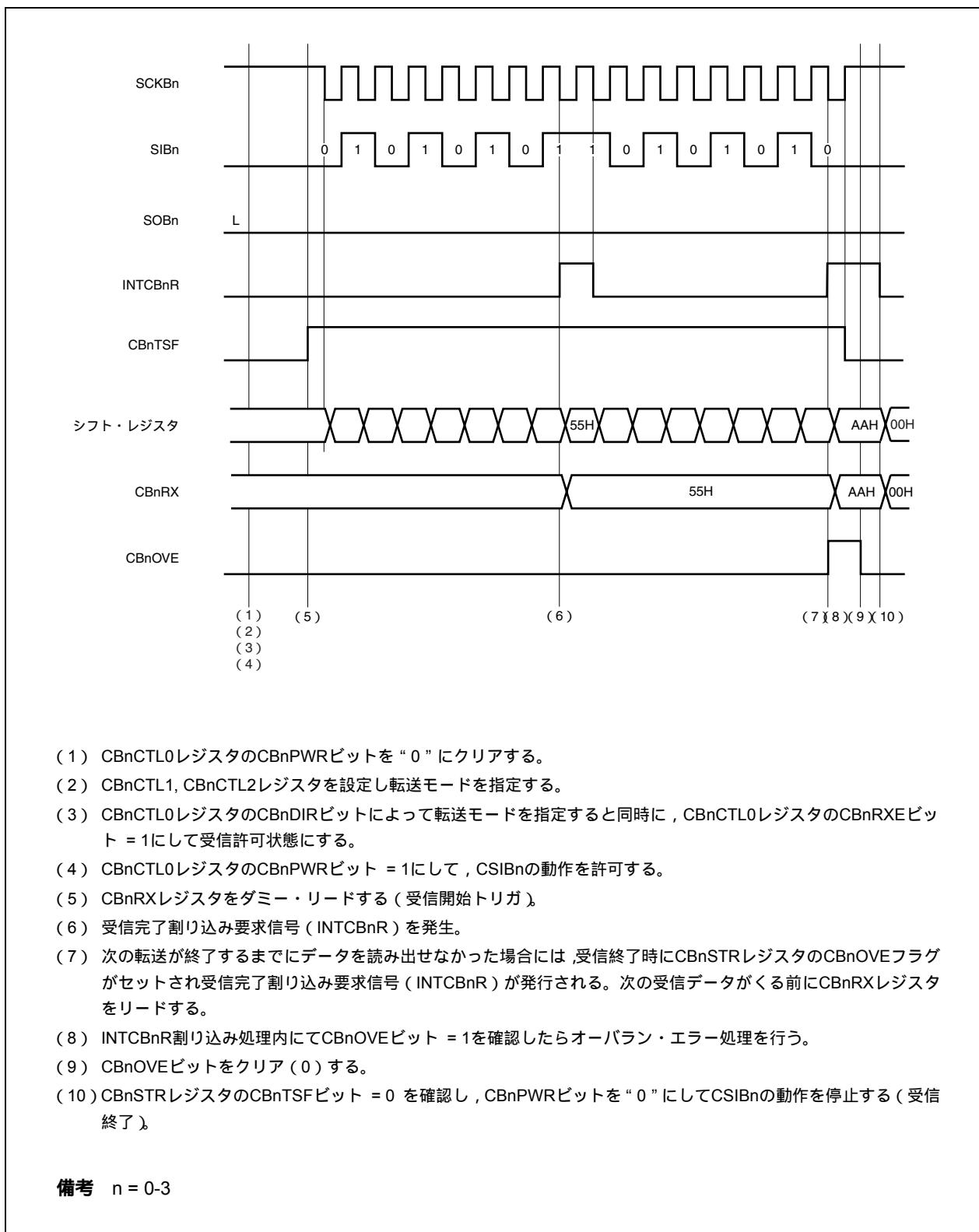
さらに転送を行いたい場合には,(7)の前に(5),(6)を繰り返す。(このときの(5)はダミー・リードではなく受信トリガを兼ねた受信データのリードです)。

備考 n = 0-3

19.5.10 連続受信モード (エラー時)

MSBファースト (CBnCTL0レジスタのCBnDIRビット = 0), 通信タイプ2 (19.3(2) CSIBn制御レジスタ1 (CBnCTL1) 参照), 転送データ長8ビット (CBnCTL2レジスタのCBnCL3-CBnCL0ビット = 0, 0, 0, 0) の場合の転送タイミングを図19-12に示します。

図19-12 連続転送タイミング (エラー時)

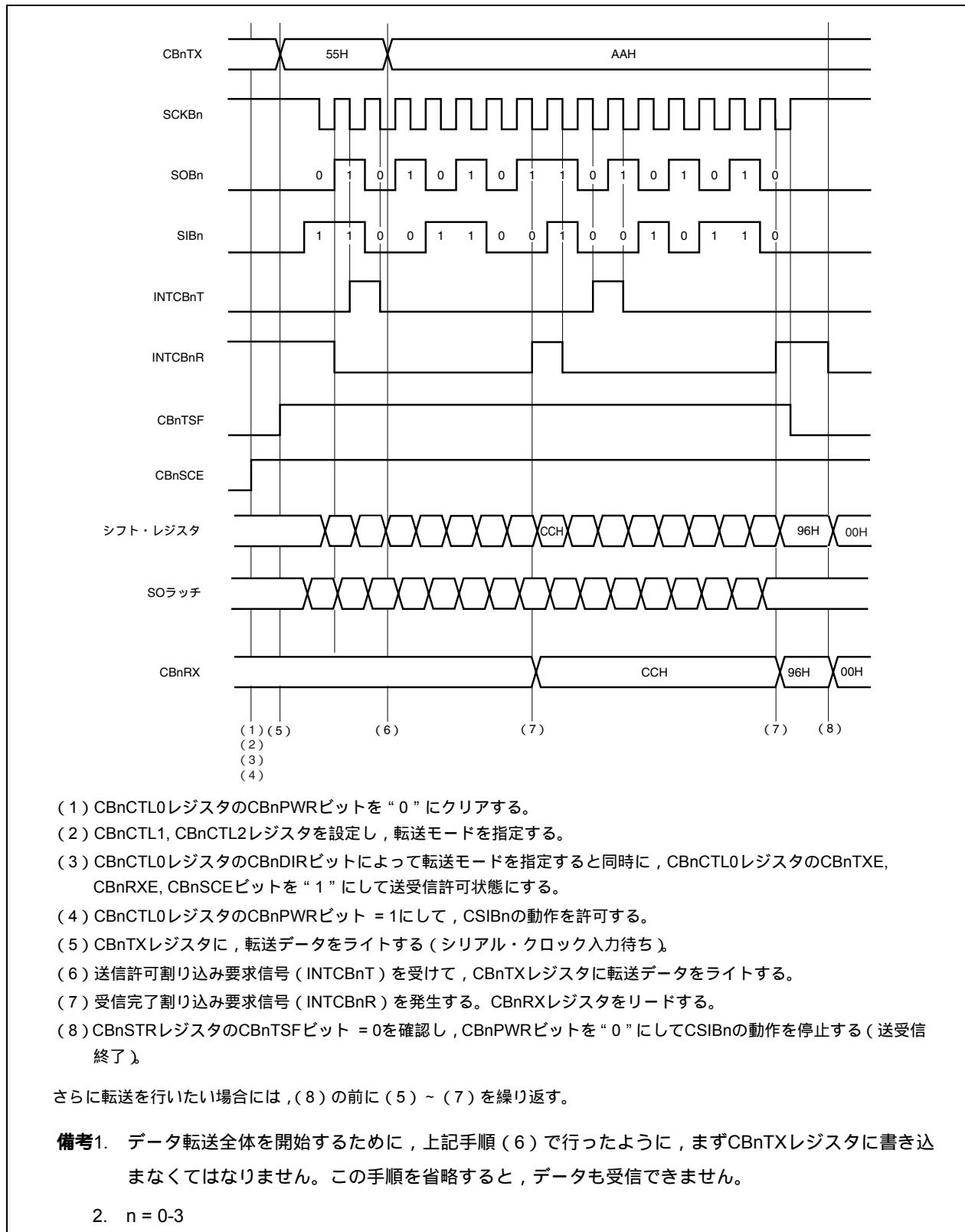


19.5.11 連続モード(スレーブ・モード, 送受信モード)

MSBファースト (CBnCTL0レジスタのCBnDIRビット = 0), 通信タイプ2 (19.3(2)CSIBn制御レジスタ1 (CBnCTL1)参照), CBnCKS2-CBnCKS0 = 1, 1, 1, 転送データ長8ビット (CBnCTL2レジスタのCBnCL3-CBnCL0ビット = 0, 0, 0, 0) の場合の転送タイミングを図19-13に示します。

図19-13 連続転送タイミング(スレーブ・モード, 送受信モード)

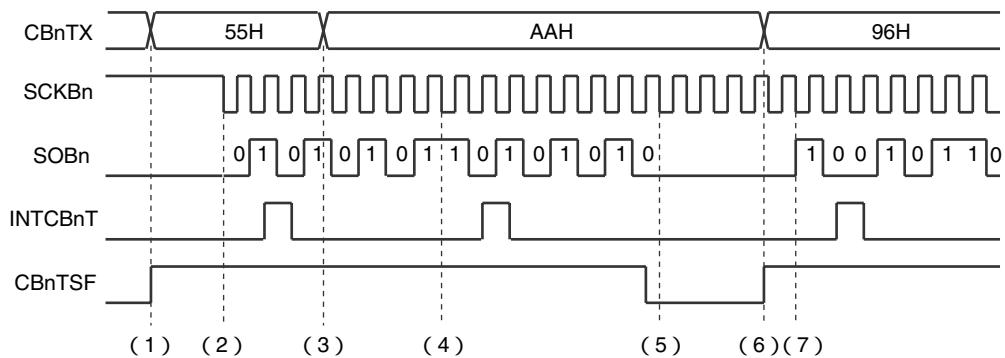
(1/2)



<非連續送信に対する注意>

CSIBが連続スレーブ送信モード (CBnCTL0レジスタのCBnTMSビット = 1, CBnCTL1レジスタのCBnCKS2-CBnCKS0ビット = 1, 1, 1) で動作し, かつ新しいデータがCBnTXレジスタに書き込まれない場合, SOBn端子は最終ビットのレベルを出力します。

下図に非連續スレーブ送信の動作概要を示します。



例では2つのデータ・バイト (55H, AAH) が正しく送信されていますが, 3番目 (96H) は失敗しています。

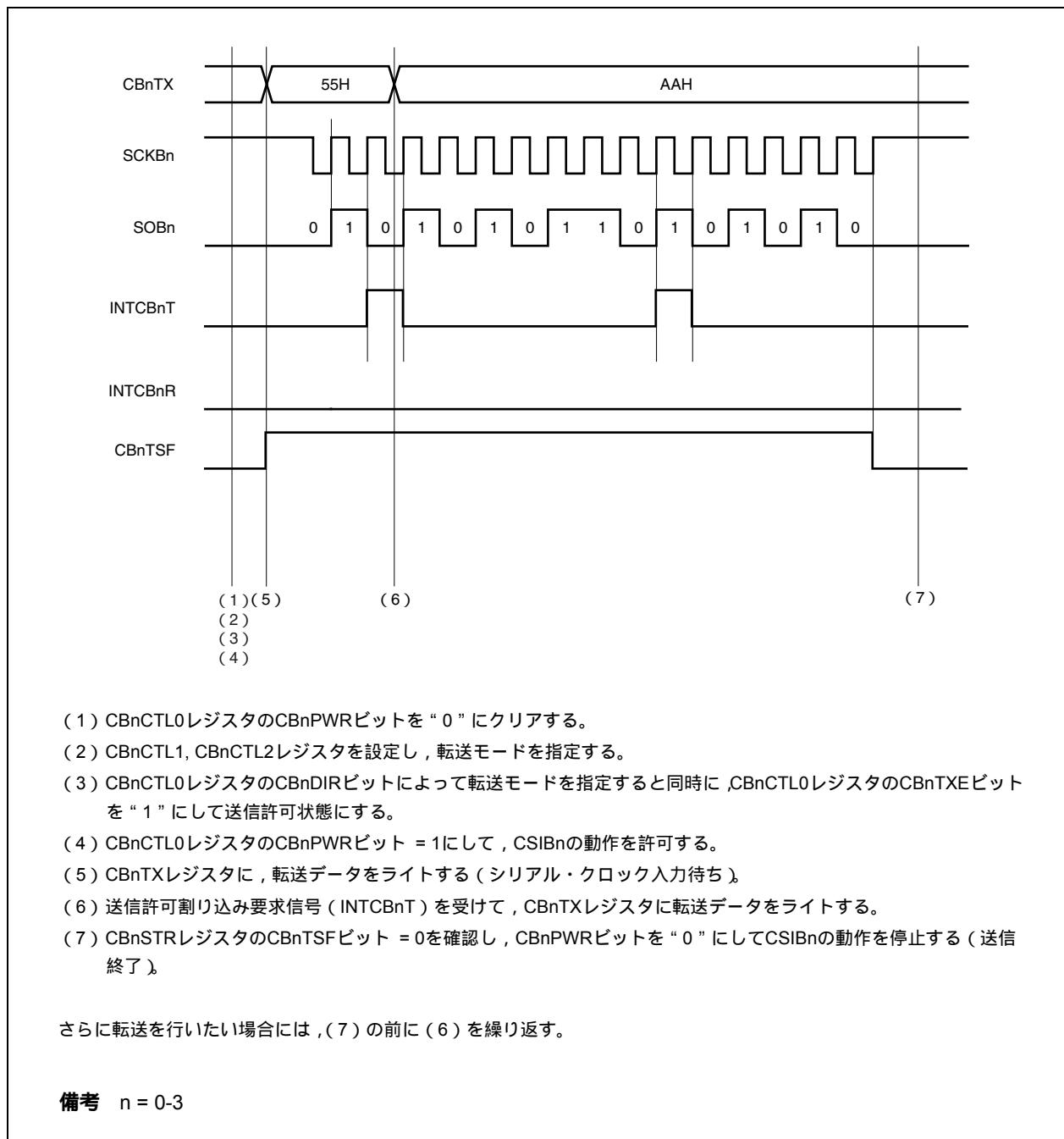
- (1) データ55HがCBnTXに (CPUまたはDMAにより) 書き込まれる。
- (2) マスターがクロックSCKBnを出力し, 55Hの送信が開始する。
- (3) INTCBnTが発生し, 次のデータAAHが間を空けずに, つまり最初のデータが完全に送信される前に, CBnTXに書き込まれる。
- (4) 2番目のデータAAHの送信が正しく継続し, INTCBnTが発生する。このとき, 次のデータをタイミングどおりにCBnTXへ書き込まない。
- (5) 送信する新しいデータがCBnTX内にないがマスターはSCKBnクロックを供給し続けるため, SOBnは送信された最後のビットのレベルのままになっている。
- (6) 新しいデータ (96H) がCBnTXに書き込まれる。
- (7) 次のSCKBnサイクルで新しいデータ (96H) の送信が開始する。

結果としてマスターは,(5)以降破壊されたデータ・バイトを受信します。このデータは, 前のデータの最終ビットの任意の数の繰り返しと, 新しいデータの最初の数ビットでできています。

19.5.12 連続モード(スレーブ・モード, 送信モード)

MSBファースト (CBnCTL0レジスタのCBnDIRビット = 0), 通信タイプ2 (19.3(2)CSIBn制御レジスタ1 (CBnCTL1)参照), CBnCKS2-CBnCKS0 = 1, 1, 1, 転送データ長8ビット (CBnCTL2レジスタのCSnCL3-CBnCL0ビット = 0, 0, 0, 0) の場合の転送タイミングを図19-14に示します。

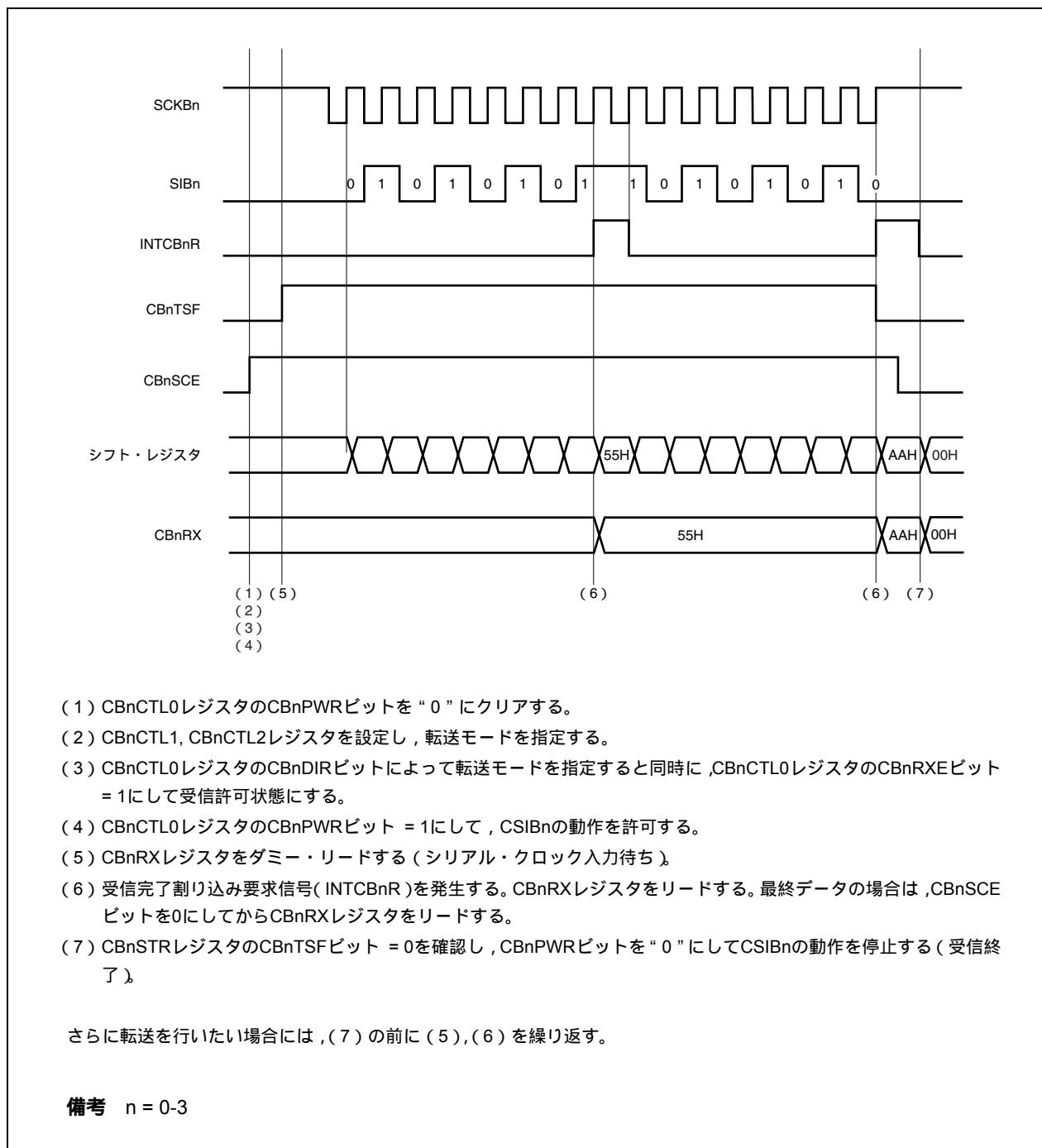
図19-14 連続転送タイミング(スレーブ・モード, 送信モード)



19.5.13 連続モード(スレーブ・モード, 受信モード)

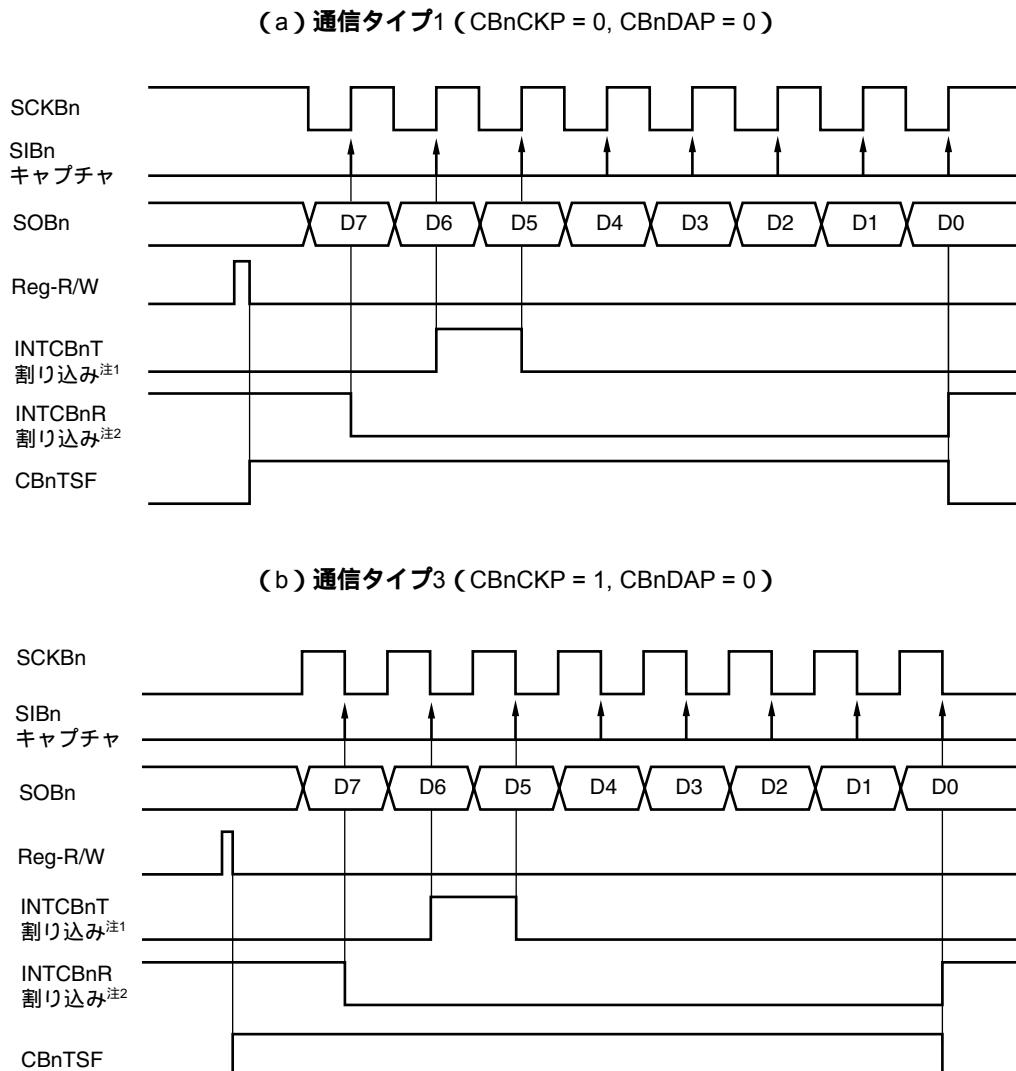
MSBファースト (CBnCTL0レジスタのCBnDIRビット = 0), 通信タイプ1 (19.3(2) CSIBn制御レジスタ1 (CBnCTL1) 参照), CBnCKS2-CBnCKS0 = 1, 1, 1, 転送データ長8ビット (CBnCTL2レジスタのCSnCL3-CBnCL0ビット = 0, 0, 0, 0) の場合の転送タイミングを図19-15に示します。

図19-15 連続転送タイミング(スレーブ・モード, 受信モード)



19.5.14 クロック・タイミング

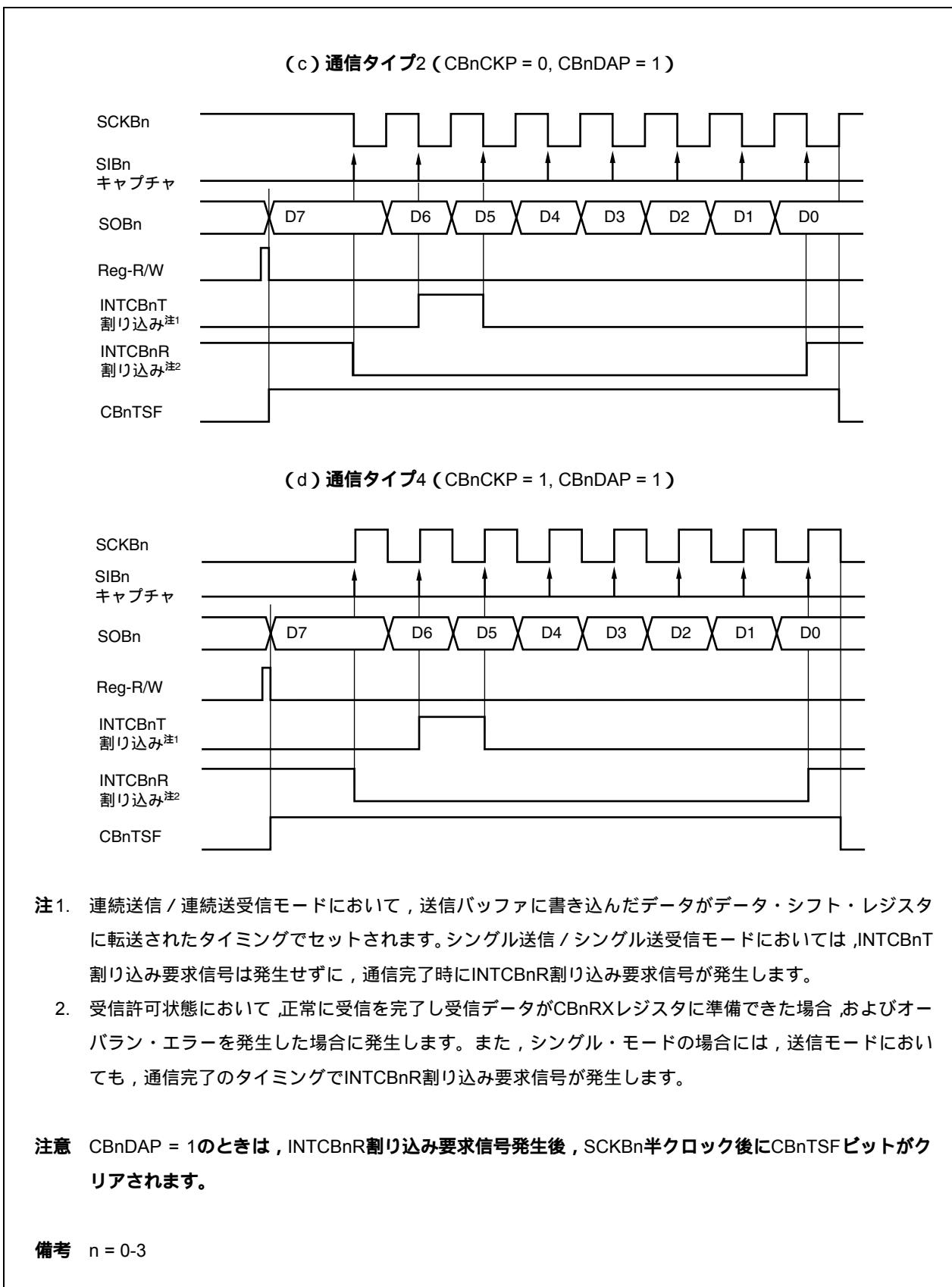
図19-16 クロック・タイミング (1/2)



- 注1.** 連続送信 / 連続送受信モードにおいて、送信バッファに書き込んだデータがデータ・シフト・レジスタに転送されたタイミングでセットされます。シングル送信 / シングル送受信モードにおいては、INTCBnT割り込み要求信号は発生せずに、通信完了時にINTCBnR割り込み要求信号が発生します。
- 2.** 受信許可状態において、正常に受信を完了し受信データがCBnRXレジスタに準備できた場合、およびオーバラン・エラーを発生した場合に発生します。また、シングル・モードの場合には、送信モードにおいても、通信完了のタイミングでINTCBnR割り込み要求信号が発生します。

備考 n = 0-3

図19-16 クロック・タイミング (2/2)



19.5.15 動作禁止時の出力端子状態

(1) SCKBn端子

CSIBn動作禁止 (CBnCTL0レジスタのCBnPWRビット = 0) のとき, SCKBn端子出力状態は次のようになります。

CBnCKS2	CBnCKS1	CBnCKS0	CBnCKP	SCKBn端子出力
1	1	1	x	ハイ・インピーダンス
上記以外			0	ハイ・レベル固定
			1	ロウ・レベル固定

- 備考**
1. CBnCTL1レジスタのCBnCKP, CBnCKS2-CBnCKS0ビットのいずれかを書き換えるとSCKBn端子の出力が変化します。
 2. n = 0-3
 3. x : 任意

(2) SOBn端子

CSIBn動作禁止 (CBnPWRビット = 0) のとき, SOBn端子出力状態は次のようになります。

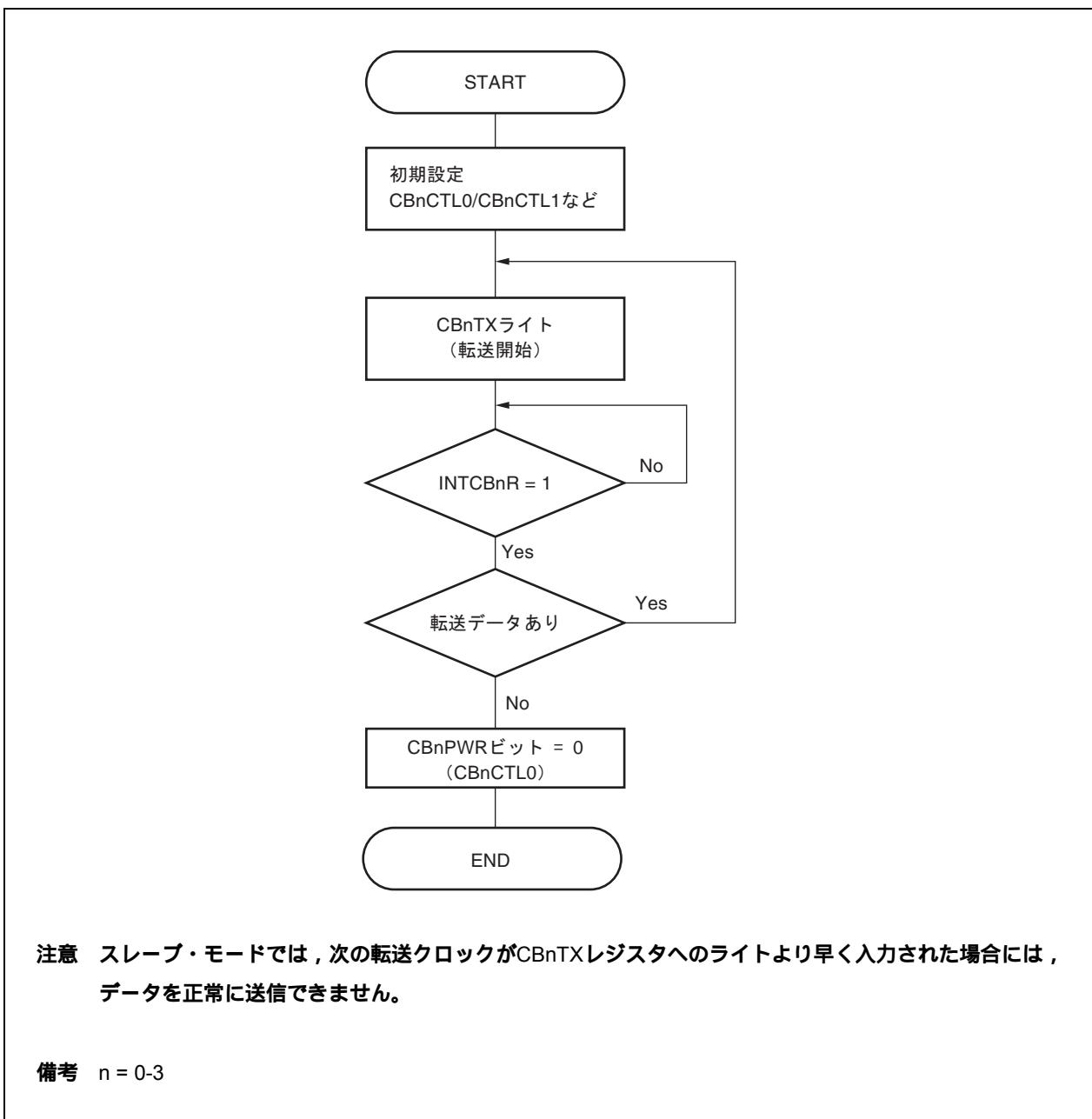
CBnTXE	CBnDAP	CBnDIR	SOBn端子出力
0	x	x	ロウ・レベル固定
1	0	x	SOBnラッチの値 (ロウ・レベル)
1	1	0	CBnTXの値 (MSB)
1	1	1	CBnTXの値 (LSB)

- 備考**
1. CBnCTL0レジスタのCBnTXE, CBnDIRビット, CBnCTL1レジスタのCBnDAPビットのいずれかを書き換えるとSOBn端子の出力が変化します。
 2. n = 0-3
 3. x : 任意

19.6 動作フロー

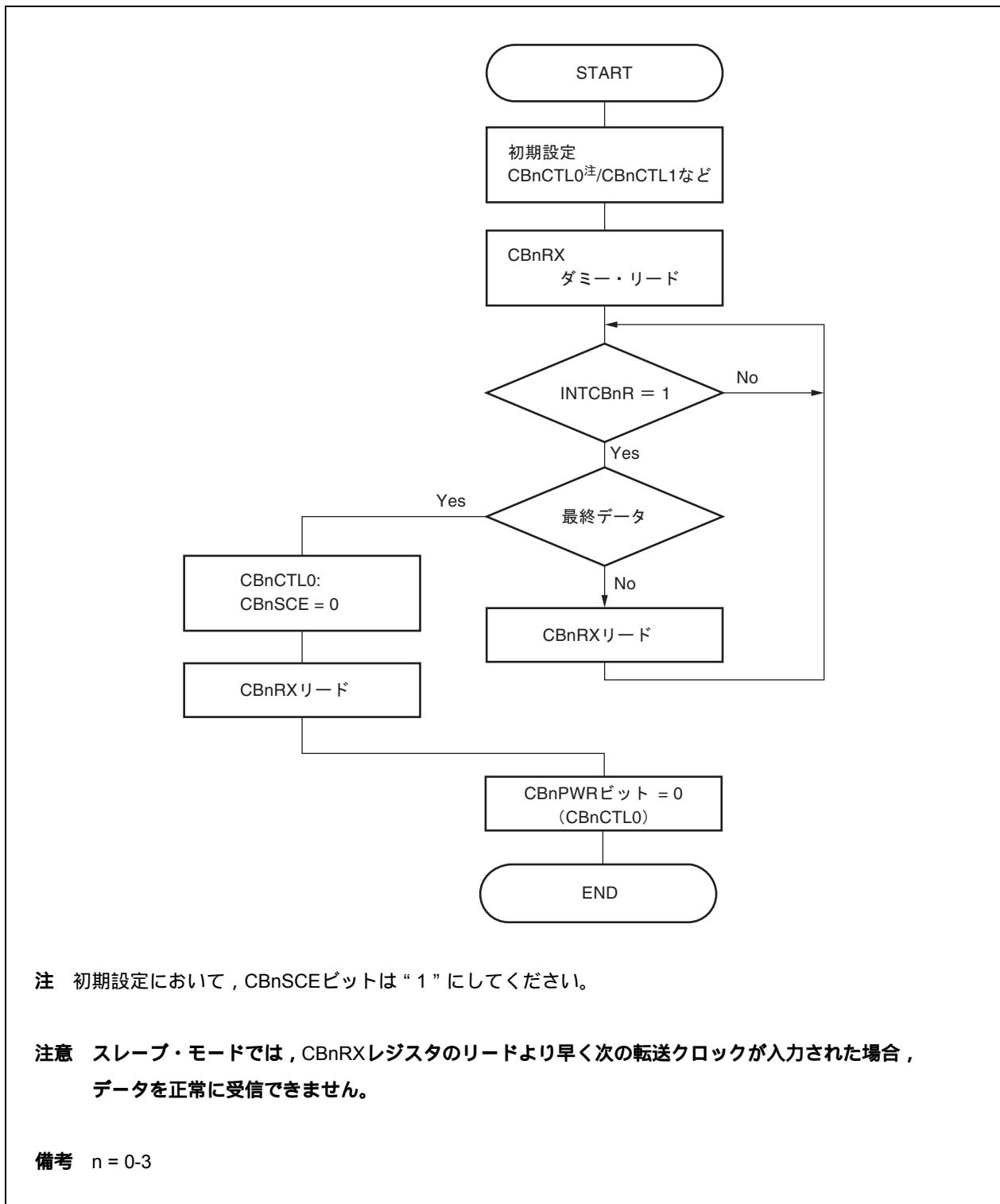
(1) シングル送信

図19-17 シングル送信フロー



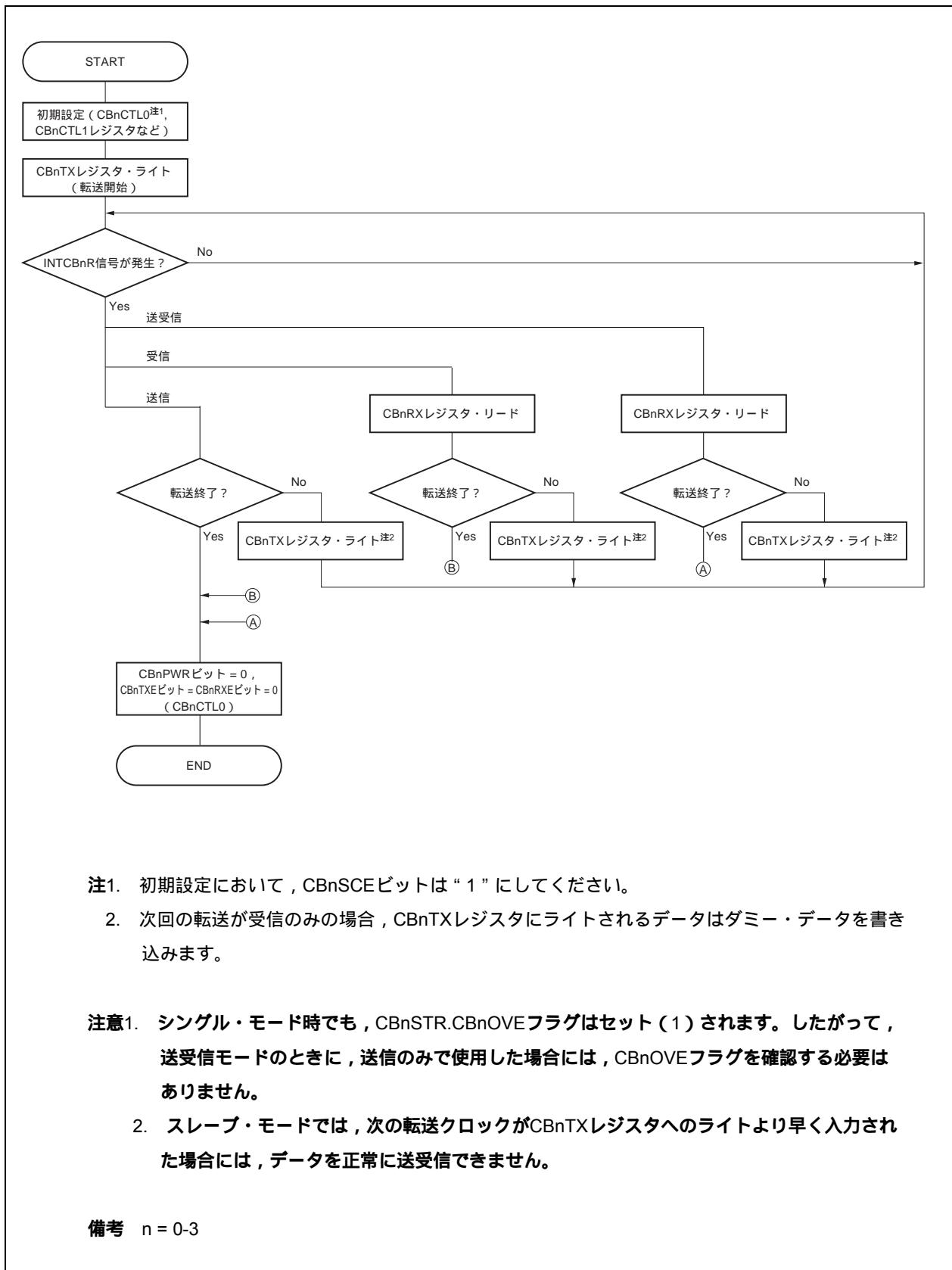
(2) シングル受信

図19-18 シングル受信フロー



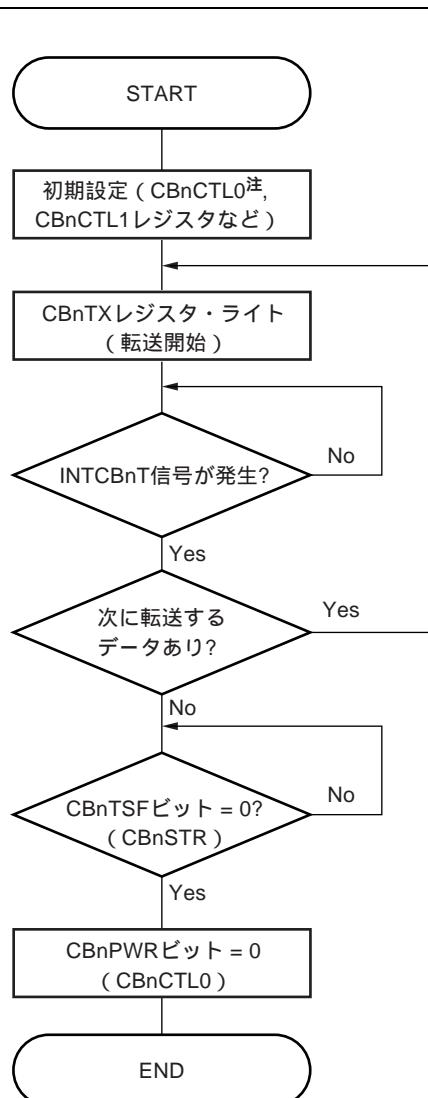
(3) シングル送受信

図19-19 シングル送受信フロー



(4) 連続送信

図19-20 連続送信フロー



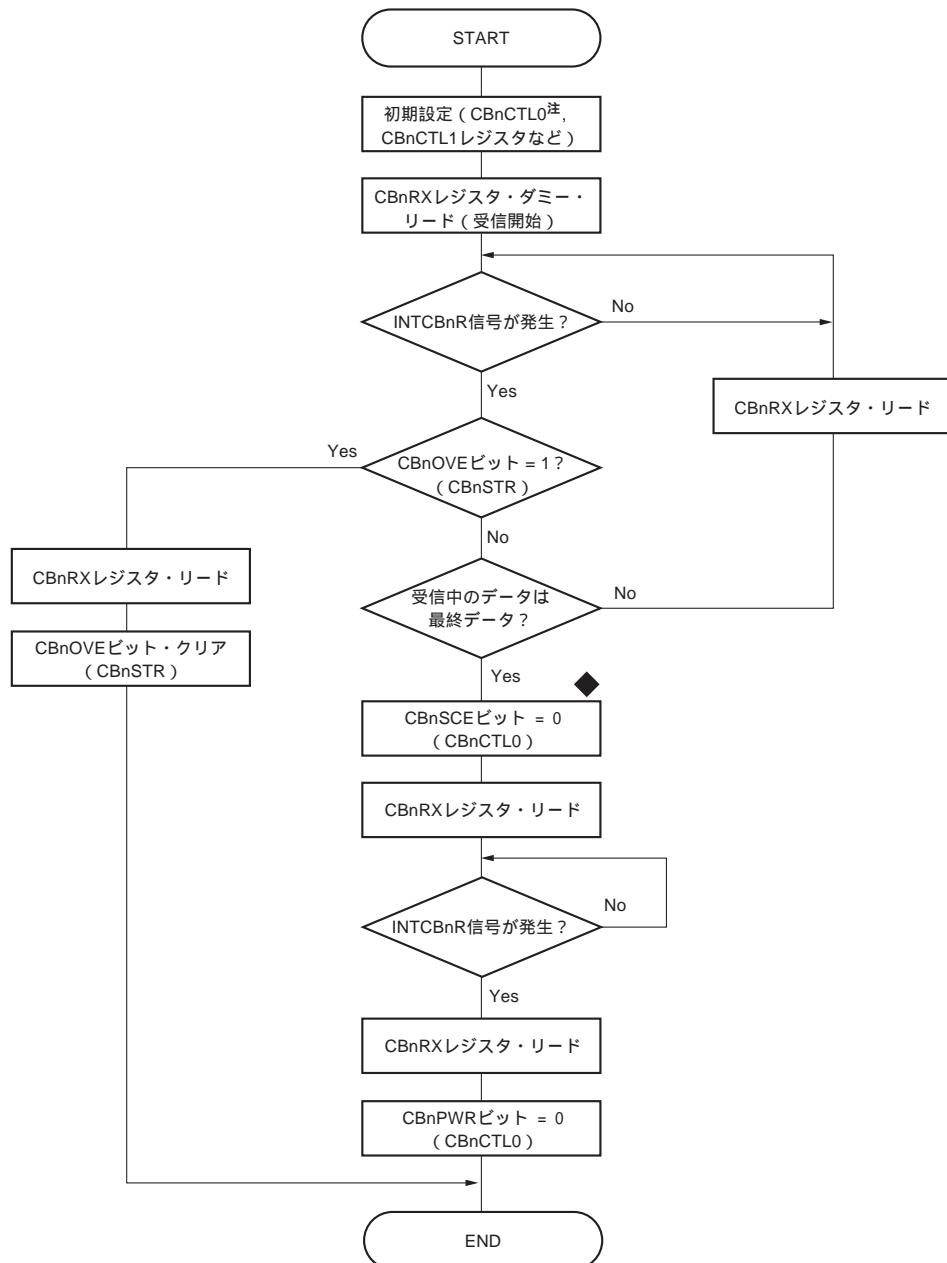
注 初期設定において、CBnSCEビットは“1”にしてください。

注意 スレーブ・モードでは、次の転送クロックがCBnTXレジスタへのライトより早く入力された場合には、データを正常に送信できません。

備考 n = 0-3

(5) 連続受信

図19-21 連続受信フロー



注 初期設定において、CBnSCEビットは“1”にしてください。

注意1. マスター・モードの場合、CBnRXレジスタのダミー・リードにより、クロックは無制限に出力します。

停止させる場合には、フロー中の が付いているフローを実行してください。

スレーブ・モードの場合には、フロー中の が付いているフローを実行することにより、通信待機中のノイズによる誤動作などがなくなります。

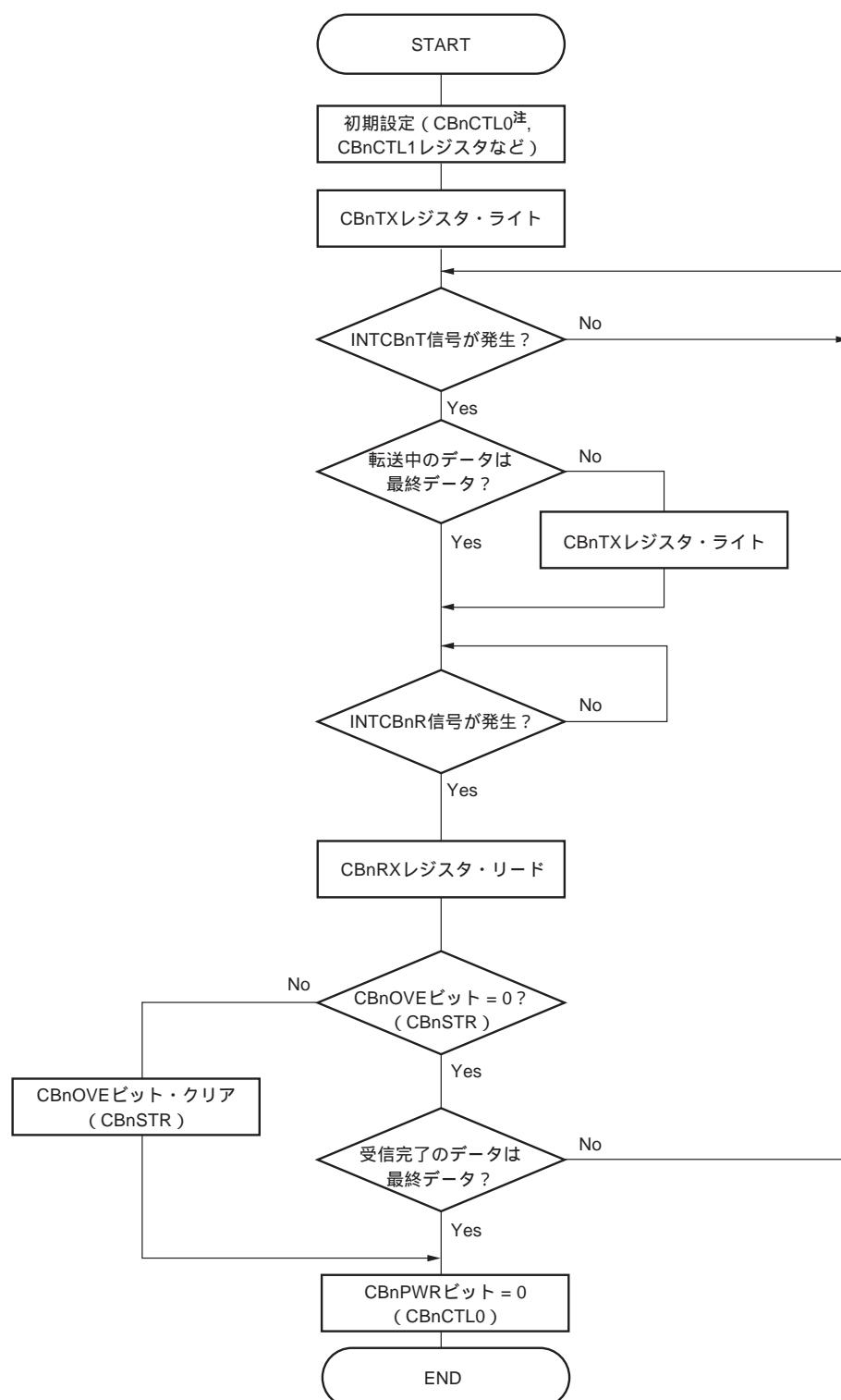
また、通信を再開する場合には、CBnCTL0.CBnSCEビットを“1”にし、CBnRXレジスタのダミー・リードをしてから再開してください。

2. スレーブ・モードでは、CBnRXレジスタのリードより早く次の転送クロックが入力された場合、データを正常に受信できません。

備考 n = 0-3

(6) 連続送受信

図19-22 連続送受信フロー



注 初期設定において、CBnSCEビットは“1”にしてください。

注意 スレーブ・モードでは、次の転送クロックがCBnTXレジスタへのライトより早く入力された場合には、データを正常に送受信できません。

備考 n = 0-3

19.7 注意事項

- (1) DMA転送により、送信データ、受信データの転送を行う場合、シリアル転送中にオーバラン・エラーが発生してもエラー処理を行えません。DMA転送終了後にCBnSTRレジスタのCBnOVEビットを読み出してオーバラン・エラーがなかったことを確認してください。
- (2) 動作中 (CBnCTL0レジスタのCBnPWRビット = 1) の書き換えを禁止しているレジスタに対して、動作中に誤って書き換えを行ってしまった場合は、一度CBnCTL0レジスタのCBnPWRビット = 0に設定してCSIBnを初期化してください。
動作中の書き換えが禁止されているレジスタを次に示します。
- CBnCTL0レジスタ : CBnTXE, CBnRXE, CBnDIR, CBnTMSビット
 - CBnCTL1レジスタ : CBnCKP, CBnDAP, CBnCKS2-CBnCKS0ビット
 - CBnCTL2レジスタ : CBnCL3-CBnCL0ビット
- (3) シングル転送モード (CBnCTL0レジスタのCBnTMSビット = 0) で、CBnCTL1レジスタのCBnDAPビット = 1を設定し、受信完了割り込みINTCBnRを使用して次の送信、受信を起動する場合、受信完了割り込みINTCBnR発生後、SCKBnの0.5クロック分の間は、CBnTXレジスタにライトあるいは、CBnRXレジスタをリードしても2回目以降の送信動作および受信動作が行われません。連続して転送を行う場合は、連続転送モードを使用してください。
- (4) スレーブ・モード (CBnCTL1.CBnCKS2-CBnCKS0ビット = 1, 1, 1) 時、転送(通信)動作中以外で、かつ外部クロック (SCKBn端子) が入力されているときに送信データ・レジスタへ書き込みを行った場合、CSIBn動作が停止する可能性があります。
そのため、CBnTXへの書き込み中に、外部クロック (SCKBn端子) を入力しないでください。
動作が停止した場合、外部リセット、もしくは制御レジスタ(CBnCTL0-CBnCTL2)を初期値に変更し、再度設定を行ったあと、CBnCTL0.CBnPWRビットをセットして動作を再開させてください。

備考 n = 0-3

第20章 I²Cバス

本マイクロコントローラは、I²Cバス・インターフェース（IIC0）を搭載しています。

20.1 特 徴

I²Cは次のような特徴を持つ同期型シリアル・インターフェースです。

- ・マスター / スレーブ・モードのサポート
- ・8ビット・データ転送
- ・転送速度
 - ~ 100 kbit/s (標準モード)
 - ~ 400 kbit/s (高速モード)
- ・2線式インターフェース
 - SCL : シリアル・クロック
 - SDA : シリアル・データ
- ・SCL, SDA入力ノイズ・フィルタ

I²C00には、次の2種類のモードがあります。

- ・動作停止モード
- ・I²C (Inter IC) バス・モード (マルチマスター対応)

(1) 動作停止モード

シリアル転送を行わないときに使用するモードです。消費電力を低減できます。

(2) I²Cバス・モード (マルチマスター対応)

シリアル・クロック端子 (SCL00) とシリアル・データ・バス端子 (SDA00) の2本のラインにより、複数のデバイスと8ビット・データ転送を行うモードです。

I²Cバス・フォーマットに準拠しており、マスターはスレーブに対してシリアル・データ・バス上に“スタート・コンディション”，“アドレス”，“転送方向指定”，“データ”および“ストップ・コンディション”を生成できます。スレーブは、受信したこれらの状態およびデータをハードウェアにより自動的に検出します。この機能により応用プログラムのI²Cバス制御部分を簡単にすることができます。

I²C00では、SCL00端子とSDA00端子はN-chオープン・ドレーン出力で使用するため、シリアル・クロック・ラインおよびシリアル・データ・バス・ラインにはブルアップ抵抗が必要です。

20. 2 I²C端子構成

この機能を使用する場合は、P914/SDA00, P915/SCL00端子を兼用端子として使用し、N-chオープン・ドレン出力に設定してください。

20. 2. 1 UARTD4とI²C00のモード切り替え

本マイクロコントローラでは、UARTD4[※]とI²C00は端子が兼用になっており、同時に使用できません。I²C00を使用するときは、あらかじめPMC9, PFC9, PFCE9レジスタで設定する必要があります。

注 UARTD4は、V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3のμPD70F3374, 70F3375, V850ES/FJ3のμPD70F3378には搭載されていません。

注意 UARTD4とI²C00において、送信あるいは受信動作中にモードの切り替えを行った場合の送受信に関する動作は保証できません。使用しないユニットは必ず動作禁止にしてください。

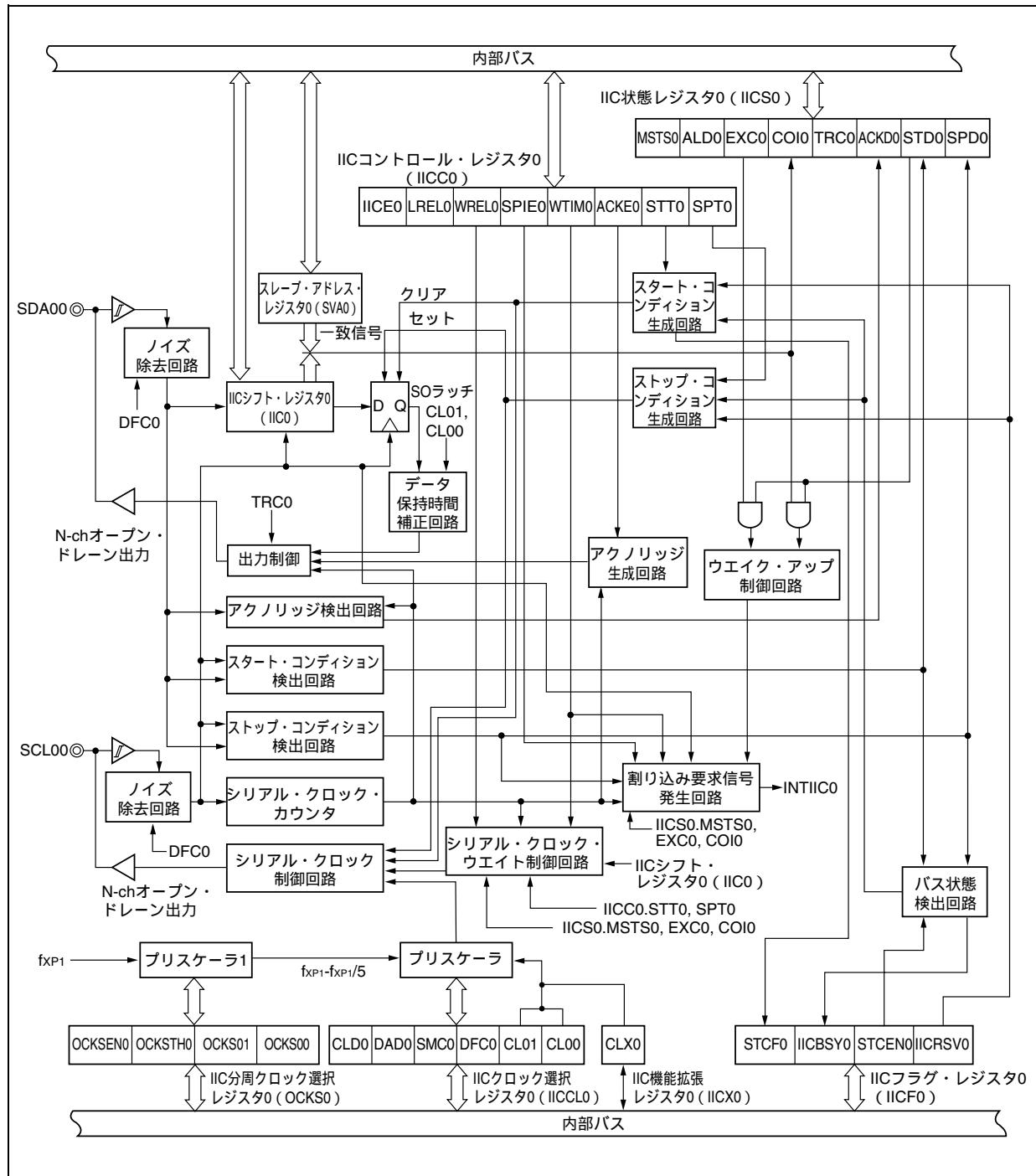
図20 - 1 UARTD4とI²C00のモード切り替え設定

リセット時 : 0000H R/W アドレス : FFFFF452H, FFFFF453H																					
PMC9																					
15 14 13 12 11 10 9 8																					
PMC915 PMC914 PMC913 PMC912 PMC911 PMC910 PMC99 PMC98																					
PMC97 PMC96 PMC95 PMC94 PMC93 PMC92 PMC91 PMC90																					
リセット時 : 0000H R/W アドレス : FFFFF472H, FFFFF473H																					
PFC9																					
15 14 13 12 11 10 9 8																					
PFC915 PFC914 PFC913 PFC912 PFC911 PFC910 PFC99 PFC98																					
PFC97 PFC96 PFC95 PFC94 PFC93 PFC92 PFC91 PFC90																					
リセット時 : 0000H R/W アドレス : FFFFF712H, FFFFF713H																					
PFCE9																					
15 14 13 12 11 10 9 8																					
PFCE915 PFCE914 PFCE913 PFCE912 PFCE911 PFCE910 PFCE99 PFCE98																					
PFCE97 PFCE96 PFCE95 PFCE94 PFCE93 PFCE92 PFCE91 PFCE90																					
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">PMC9n</th><th style="width: 33%;">PFCE9n</th><th style="width: 33%;">PFC9n</th><th style="width: 100%;">動作モード</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td><td style="text-align: center;">1</td><td style="text-align: center;">0</td><td>I²C00モード</td></tr> <tr> <td style="text-align: center;">1</td><td style="text-align: center;">1</td><td style="text-align: center;">1</td><td>UARTD4モード</td></tr> </tbody> </table>										PMC9n	PFCE9n	PFC9n	動作モード	1	1	0	I ² C00モード	1	1	1	UARTD4モード
PMC9n	PFCE9n	PFC9n	動作モード																		
1	1	0	I ² C00モード																		
1	1	1	UARTD4モード																		
備考 1. 製品ごとに搭載するビットが異なります。詳細は、第2章 端子機能を参照してください。 2. n = 14, 15																					

20.3 構成

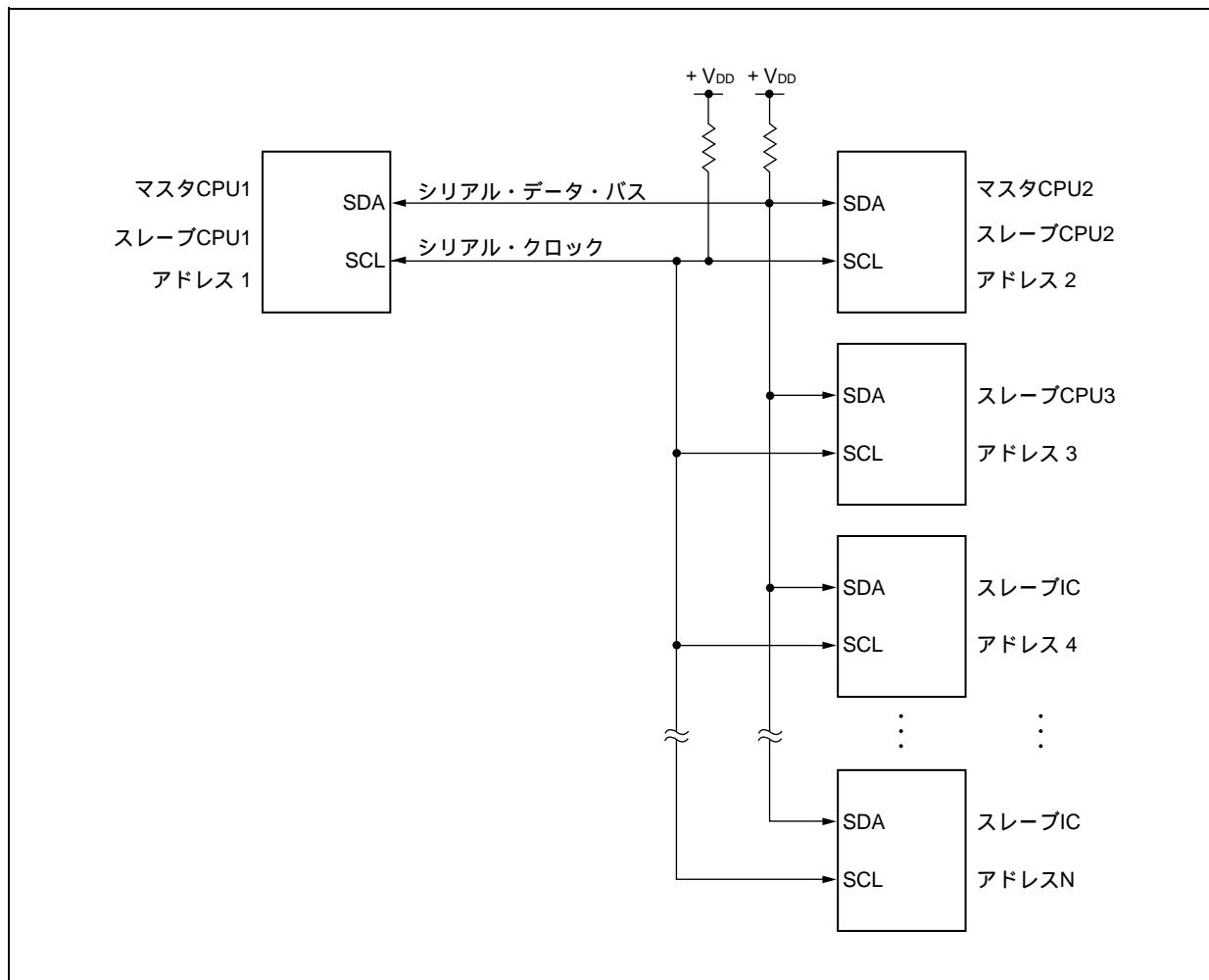
I²C00のブロック図を次に示します。

図20-2 I²C00のブロック図



次にシリアル・バス構成例を示します。

図20-3 I²Cバスによるシリアル・バス構成例



I²C00は、次のハードウェアで構成されています。

表20 - 1 I²C00の構成

項 目	構 成
レジスタ	IICシフト・レジスタ0 (IIC0) スレーブ・アドレス・レジスタ0 (SVA0)
制御レジスタ	IICコントロール・レジスタ0 (IICC0) IIC状態レジスタ0 (IICS0) IICフラグ・レジスタ0 (IICF0) IICクロック選択レジスタ0 (IICCL0) IIC機能拡張レジスタ0 (IICX0) IIC分周クロック選択レジスタ0 (OCKS0)

(1) IICシフト・レジスタ0 (IIC0)

IIC0レジスタは、8ビットのシリアル・データを8ビットのパラレル・データに、8ビットのパラレル・データを8ビットのシリアル・データに変換するレジスタです。IIC0レジスタは送信および受信の両方に使用されます。

IIC0レジスタに対する書き込み／読み出しにより、実際の送受信動作が制御されます。

8ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

(2) スレーブ・アドレス・レジスタ0 (SVA0)

スレーブとして使用する場合に、自局アドレスを設定するレジスタです。

8ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

(3) SOラッチ

SOラッチは、SDA00端子出力レベルを保持するラッチです。

(4) ウエイク・アップ制御回路

SVA0レジスタに設定したアドレス値と受信アドレスが一致した場合、または拡張コードを受信した場合に割り込み要求信号 (INTIIC0) を発生させる回路です。

(5) プリスケーラ

使用的するサンプリング・クロックを選択します。

(6) シリアル・クロック・カウンタ

送信／受信動作時に出力する、または入力されるシリアル・クロックをカウントし、8ビット・データの送受信が行われたことを調べます。

(7) 割り込み要求信号発生回路

割り込み要求信号 (INTIIC0) の発生を制御します。

I²C割り込みは、次の2つのトリガで発生します。

- ・シリアル・クロックの8クロック目または9クロック目の立ち下がり (IICC0.WTIM0ビットで設定)
- ・ストップ・コンディション検出による割り込み発生 (IICC0.SPIE0ビットで設定)

(8) シリアル・クロック制御回路

マスタ・モード時に、SCL00端子に出力するクロックをサンプリング・クロックから生成します。

(9) シリアル・クロック・ウェイト制御回路

ウェイト・タイミングを制御します。

(10) アクノリッジ生成回路、ストップ・コンディション検出回路、スタート・コンディション検出回路、**アクノリッジ検出回路**

各状態の生成および検出を行います。

(11) データ保持時間補正回路

SCL00端子の立ち下がりに対するデータの保持時間を生成するための回路です。

(12) スタート・コンディション生成回路

IICC0.STT0ビットがセットされるとスタート・コンディションを生成します。

ただし、通信予約禁止状態 (IICF0.IICRSV0ビット = 1) で、かつバスが解放されていない (IICF0.IICBSY0ビット = 1) 場合には、この要求は無視し、IICF0.STCF0ビットをセット (1) します。

(13) ストップ・コンディション生成回路

IICC0.SPT0ビットがセットされるとストップ・コンディションを生成します。

(14) バス状態検出回路

スタート・コンディションおよびストップ・コンディションの検出により、バスが解放されているか、解放されていないかを検出します。

ただし、動作直後はバス状態を検出できないため、IICF0.STCEN0ビットにより、バス状態検出回路の初期状態を設定してください。

20.4 レジスタ

I²C00は、次のレジスタで制御します。

- ・IICコントロール・レジスタ0 (IICC0)
- ・IIC状態レジスタ0 (IICS0)
- ・IICフラグ・レジスタ0 (IICF0)
- ・IICクロック選択レジスタ0 (IICCL0)
- ・IIC機能拡張レジスタ0 (IICX0)
- ・IIC分周クロック選択レジスタ0 (OCKS0)

また、次のレジスタも使用します。

- ・IICシフト・レジスタ0 (IIC0)
- ・スレーブ・アドレス・レジスタ0 (SVA0)

備考 兼用端子の設定は第2章 端子機能を参照してください。

(1) IICコントロール・レジスタ0 (IICC0)

I²C00の動作許可 / 停止、ウェイト・タイミングの設定、その他I²C動作の設定を行うレジスタです。

8/1ビット単位でリード / ライト可能です。ただし、SPIE0, WTIM0, ACKE0ビットは、IICE0ビット = 0 のとき、またはウェイト期間中に設定してください。IICE0ビットを“0”から“1”に設定するときに、同時にこれらのビットを設定できます。

リセットにより00Hになります。

(1/4)

リセット時 : 00H R/W アドレス : FFFFFD82H

IICC0	⑦ IICE0	⑥ LREL0	⑤ WREL0	④ SPIE0	③ WTIM0	② ACKE0	① STT0	⑦ SPT0
-------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	-----------	-----------

IICE0	I ² C0動作許可 / 禁止の指定						
0	動作停止。IICSOレジスタをリセット ^{注1} 。内部動作も停止。						
1	動作許可。						
このビットのセット(1)は、必ずSCL00, SDA00ラインがハイ・レベルの状態で行ってください。							
クリアされる条件(IICE0ビット = 0)				セットされる条件(IICE0ビット = 1)			
・命令によるクリア				・命令によるセット			
・リセット時							

LREL0 ^{注2}	通信退避													
0	通常動作。													
1	現在行っている通信から退避し、待機状態。実行後自動的にクリアされる。 自局に関係ない拡張コードを受信したときなどに使用する。 SCL00, SDA00ラインはハイ・インピーダンス状態になる。 STT0, SPT0ビット, IICSO.MSTS0, EXC0, COI0, TRC0, ACKD0, STD0ビットがクリアされる。													
次の通信参加条件が満たされるまでは、通信から退避した待機状態となる。														
ストップ・コンディション検出後、マスターとしての起動 スタート・コンディション後のアドレス一致または拡張コード受信														
クリアされる条件(LREL0ビット = 0)				セットされる条件(LREL0ビット = 1)										
・実行後、自動的にクリア				・命令によるセット										
・リセット時														

WREL0 ^{注2}	ウエイト解除の制御													
0	ウエイトを解除しない。													
1	ウエイト解除する。ウエイト解除後、自動的にクリアされる。													
クリアされる条件(WREL0ビット = 0)														
セッタれる条件(WREL0ビット = 1)														
・実行後、自動的にクリア				・命令によるセット										
・リセット時														

注1. リセットされるのはIICSOレジスタ, IICF0.STCF0, IICBSY0ビット, IICCL0.CLD0, DAD0ビットです。

2. IICE0ビット = 0により、このフラグの信号を無効にします。

注意 SCL00ラインがハイ・レベル, SDA00ラインがロウ・レベルの状態で, I²C0を動作許可(IICE0ビット = 1)した場合、直後にスタート・コンディションを検出してしまいます。I²C0を動作許可(IICE0ビット = 1)したあと、連続してビット操作命令によりLREL0ビットをセット(1)してください。

備考 LREL0, WREL0ビットは、データ設定後に読み出すと0になっています。

(2/4)

SPIE0 ^注	ストップ・コンディション検出による割り込み要求発生の許可 / 禁止	
0	禁止	
1	許可	
クリアされる条件 (SPIE0ビット = 0)		セットされる条件 (SPIE0ビット = 1)
<ul style="list-style-type: none"> ・命令によるクリア ・リセット時 		<ul style="list-style-type: none"> ・命令によるセット

WTIM0 ^注	ウェイトおよび割り込み要求発生の制御	
0	8クロック目の立ち下がりで割り込み要求発生。 マスタの場合 : 8クロック出力後, クロック出力をロウ・レベルにしたままウェイト スレーブの場合 : 8クロック入力後, クロックをロウ・レベルにしてマスタをウェイト	
1	9クロック目の立ち下がりで割り込み要求発生。 マスタの場合 : 9クロック出力後, クロック出力をロウ・レベルにしたままウェイト スレーブの場合 : 9クロック入力後, クロックをロウ・レベルにしてマスタをウェイト	
<p>アドレス転送中はこのビットの設定にかかわらず, 9クロック目の立ち下がりで割り込みが発生します。</p> <p>アドレス転送終了後このビットの設定が有効になります。またマスタ時, アドレス転送中は9クロックの立ち下がりにウェイトが入ります。自局アドレスを受信したスレーブは, アクノリッジ(ACK)発生後の9クロック目の立ち下がりでウェイトに入ります。ただし拡張コードを受信したスレーブは, 8クロック目の立ち下がりでウェイトに入ります。</p>		
クリアされる条件 (WTIM0ビット = 0)		セットされる条件 (WTIM0ビット = 1)
<ul style="list-style-type: none"> ・命令によるクリア ・リセット時 		<ul style="list-style-type: none"> ・命令によるセット

ACKE0 ^注	アクノリッジ制御	
0	アクノリッジを禁止。	
1	アクノリッジを許可。9クロック期間中にSDA00ラインをロウ・レベルにする。	
<p>アドレス受信のときは, ACKE0ビットの設定は無効です。この場合, アドレスが一致したときはアクノリッジを生成します。</p> <p>ただし, 拡張コードを受信するときは, ACKE0ビットの設定は有効になります。</p>		
クリアされる条件 (ACKE0ビット = 0)		セットされる条件 (ACKE0ビット = 1)
<ul style="list-style-type: none"> ・命令によるクリア ・リセット時 		<ul style="list-style-type: none"> ・命令によるセット

注 IICE0ビット = 0により, このフラグの信号を無効にします。

(3/4)

STT0注	スタート・コンディション・トリガ
0	スタート・コンディションを生成しない。
1	<p>バスが解放されているとき（ストップ状態）：</p> <p>スタート・コンディションを生成する（マスタとしての起動）。SCL0ラインがハイ・レベルの状態でSDA00ラインをハイ・レベルからロウ・レベルに変化させ、スタート・コンディションを生成する。その後、規格の時間を確保し、SCL00ラインをロウ・レベルにする。</p> <p>第三者が通信中のとき：</p> <p>通信予約機能許可の場合（IICF0.IICRSV0ビット = 0）</p> <ul style="list-style-type: none"> スタート・コンディション予約フラグとして機能。セット（1）されると、バスが解放されたあと自動的にスタート・コンディションを生成する。 <p>通信予約機能禁止の場合（IICRSV0ビット = 1）</p> <ul style="list-style-type: none"> IICF0.STCF0ビットをセット（1）し、STT0ビットにセット（1）した情報をクリアする。 スタート・コンディションは生成しない。 <p>ウェイト状態（マスタ時）：</p> <p>ウェイトを解除してリストアート・コンディションを生成する。</p>

セット・タイミングに関する注意

マスタ受信の場合：転送中のセット（1）は禁止です。ACKE0ビット = 0に設定し、受信の最後であることをスレーブに伝えたあとにだけセット（1）可能です。

マスタ送信の場合：アクノリッジ期間中は、正常にスタート・コンディションが生成されないことがあります。9クロック目出力後のウェイト期間中にセット（1）してください。

スレーブの場合：通信予約機能禁止（IICRSV0ビット = 1）の場合でも、通信予約状態になってしまします。

- SPT0ビットと同時にセット（1）することは禁止です。
- STT0ビットをセット（1）後、クリア（0）される前に再度セット（1）することは禁止です。

クリアされる条件（STT0ビット = 0）	セットされる条件（STT0ビット = 1）
<ul style="list-style-type: none"> 通信予約禁止状態でのSTT0ビットのセット（1） アービトレーションに負けたとき マスタでのスタート・コンディション生成後クリア LREL0ビット = 1（通信退避）によるクリア IICE0ビット = 0（動作停止）のとき リセット時 	<ul style="list-style-type: none"> 命令によるセット

注 IICE0ビット = 0により、このフラグを無効にします。

備考 STT0ビットは、データ設定後に読み出すと0になっています。

SPT0注1	ストップ・コンディション・トリガ
0	ストップ・コンディションを生成しない。
1	ストップ・コンディションを生成する（マスタとしての転送終了）。 SDA00ラインをロウ・レベルにしたあと、SCL00ラインをハイ・レベルにするか、またはSCL00端子がハイ・レベルになるのを待つ。その後、規格の時間を確保し、SDA00ラインをロウ・レベルからハイ・レベルに変化させ、ストップ・コンディションを生成する。
セット・タイミングに関する注意	
<p>マスタ受信の場合：転送中のセット（1）は禁止です。ACKE0ビット = 0に設定し、受信の最後であること をスレーブに伝えたあとのウエイト期間中にだけセット（1）可能です。</p> <p>マスタ送信の場合：アクノリッジ受信期間中は、正常にストップ・コンディションが生成されないことがあります。9クロック目出力後のウエイト期間中にセット（1）してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・STT0ビットと同時にセット（1）することは禁止です。 ・SPT0ビットのセット（1）は、マスタのときのみ行ってください注2。 ・WTIM0ビット = 0設定時に、8クロック出力後のウエイト期間中にSPT0ビットをセット（1）すると、ウエイト解除後、9クロック目のハイ・レベル期間中にストップ・コンディションを生成するので注意してください。8クロック出力後のウエイト期間中にWTIM0ビット = 0 1にセットし、9クロック目出力後のウエイト期間中にSPT0ビットをセット（1）してください。 ・SPT0ビットをセット（1）後、クリア（0）される前に再度セット（1）することは禁止です。 	
クリアされる条件（SPT0ビット = 0）	セットされる条件（SPT0ビット = 1）
<ul style="list-style-type: none"> ・アービトレーションに負けたとき ・ストップ・コンディション検出後、自動的にクリア ・LREL0ビット = 1（通信退避）によるクリア ・IICE0ビット = 0（動作停止）のとき ・リセット時 	<ul style="list-style-type: none"> ・命令によるセット

注1. IICE0ビット = 0により、このフラグを無効にします。

2. SPT0ビットのセット（1）は、マスタのときのみ行ってください。ただし、IICRSV0ビットが0の場合、動作許可後最初のストップ・コンディションを検出する前にマスタ動作を行うには、一度SPT0ビットをセット（1）してストップ・コンディションを生成する必要があります。詳細は、20.15 注意事項を参照してください。

注意 TRC0ビット = 1のとき 9クロック目にWREL0ビットをセット（1）してウエイト解除すると、TRC0ビットをクリア（0）してSDA00ラインをハイ・インピーダンスにします。

備考 SPT0ビットは、データ設定後に読み出すと0になっています。

(2) IIC状態レジスタ0 (IICS0)

I²C00のステータスを表すレジスタです。

8/1ビット単位でリードのみ可能です。ただし、IICS0レジスタは、IICC0.STT0ビット = 1のとき、またはウエイト期間中だけリード可能です。

リセットにより00Hになります。

注意 次に示す状態において、IICS0レジスタへのアクセスは禁止です。

- ・CPUがサブクロックで動作し、かつメイン・クロック発振を停止している場合
- ・CPUが低速内蔵発振クロックで動作している場合

(1/3)

リセット時 : 00H R アドレス : FFFFFFD86H

IICS0	⑦ MSTS0	⑥ ALD0	⑤ EXC0	④ COI0	③ TRC0	② ACKD0	① STD0	① SPD0
-------	------------	-----------	-----------	-----------	-----------	------------	-----------	-----------

MSTS0	マスタの状態	
0	スレーブ状態または通信待機状態。	
1	マスタ通信状態。	
クリアされる条件 (MSTS0ビット = 0)		セットされる条件 (MSTS0ビット = 1)
<ul style="list-style-type: none"> ・ストップ・コンディション検出時 ・ALD0ビット = 1 (アービトレーション負け) のとき ・IICC0.LREL0ビット = 1 (通信退避) によるクリア ・IICC0.IICE0ビット = 1 0 (動作停止) のとき ・リセット時 		<ul style="list-style-type: none"> ・スタート・コンディション生成時

ALD0	アービトレーション負け検出	
0	アービトレーションが起こっていない状態。またはアービトレーションに勝った状態。	
1	アービトレーションに負けた状態。MSTS0ビットがクリア(0)される。	
クリアされる条件 (ALD0ビット = 0)		セットされる条件 (ALD0ビット = 1)
<ul style="list-style-type: none"> ・IICS0レジスタ読み出し後、自動的にクリア<small>注</small> ・IICE0ビット = 1 0 (動作停止) のとき ・リセット時 		<ul style="list-style-type: none"> ・アービトレーションに負けたとき

EXC0	拡張コード受信検出	
0	拡張コードを受信していない。	
1	拡張コードを受信。	
クリアされる条件 (EXC0ビット = 0)		セットされる条件 (EXC0ビット = 1)
<ul style="list-style-type: none"> ・スタート・コンディション検出時 ・ストップ・コンディション検出時 ・LREL0ビット = 1 (通信退避) によるクリア ・IICE0ビット = 1 0 (動作停止) のとき ・リセット時 		受信したアドレス・データの上位4ビットが“0000” または“1111”的とき (8クロック目の立ち上がり でセット)

注 IICS0レジスタのほかのビットに対しひびき操作命令を実行した場合もクリアされます。

COI0	アドレス一致検出	
0	アドレスが一致していない。	
1	アドレスが一致している。	
クリアされる条件 (COI0ビット = 0)	セットされる条件 (COI0ビット = 1)	
<ul style="list-style-type: none"> ・スタート・コンディション検出時 ・トップ・コンディション検出時 ・LREL0ビット = 1 (通信退避) によるクリア ・IICE0ビット = 1 0 (動作停止) のとき ・リセット時 	受信アドレスが自局アドレス (SVA0レジスタ) と一致したとき (8クロック目の立ち上がりでセット)	

TRC0	送信 / 受信状態検出	
0	受信状態 (送信状態以外)。SDA00ラインをハイ・インピーダンスにする。	
1	送信状態。SDA00ラインにSOラッチの値が出力できるようにする (1バイト目の9クロック目の立ち上がり以降有効)	
クリアされる条件 (TRC0ビット = 0)	セットされる条件 (TRC0ビット = 1)	
<ul style="list-style-type: none"> ・トップ・コンディション検出時 ・LREL0ビット = 1 (通信退避) によるクリア ・IICE0ビット = 1 0 (動作停止) のとき ・IICC0.WREL0ビット = 1によるクリア<small>注</small> ・ALD0ビット = 0 1 (アービトレーション負け) のとき ・リセット時 <p>マスターの場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1バイト目の LSB (転送方向指定ビット) に “1” を出力したとき <p>スレーブの場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタート・コンディション検出時 <p>通信不参加の場合</p>	<p>マスターの場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタート・コンディション生成時 ・1バイト目の LSB (転送方向指定ビット) に “0” を出力したとき <p>スレーブの場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1バイト目の LSB (転送方向指定ビット) に “1” を入力したとき 	

ACKD0	アクノリッジ (ACK) 検出	
0	アクノリッジを検出していない。	
1	アクノリッジを検出。	
クリアされる条件 (ACKD0ビット = 0)	セットされる条件 (ACKD0ビット = 1)	
<ul style="list-style-type: none"> ・トップ・コンディション検出時 ・次のバイトの1クロック目の立ち上がり時 ・LREL0ビット = 1 (通信退避) によるクリア ・IICE0ビット = 1 0 (動作停止) のとき ・リセット時 	SCL00端子の9クロック目の立ち上がり時に SDA00 端子がロウ・レベルであったとき	

注 TRC0ビット = 1のとき，9クロック目にWREL0ビットをセット (1) してウエイトを解除すると，TRC0ビットをクリア (0) してSDA00ラインをハイ・インピーダンスにします。

(3/3)

STD0		スタート・コンディション検出
0	スタート・コンディションを検出していない。	
1	スタート・コンディションを検出。アドレス転送期間であることを示す。	
クリアされる条件 (STD0ビット = 0)		セットされる条件 (STD0ビット = 1)
<ul style="list-style-type: none"> ・ストップ・コンディション検出時 ・アドレス転送後の次のバイトの1クロック目の立ち上がり時 ・LREL0ビット = 1 (通信退避) によるクリア ・IICE0ビット = 1 0 (動作停止) のとき ・リセット時 		<ul style="list-style-type: none"> ・スタート・コンディション検出時

SPD0		ストップ・コンディション検出
0	ストップ・コンディションを検出していない。	
1	ストップ・コンディションを検出。マスターでの通信が終了し、バスが解放される。	
クリアされる条件 (SPD0ビット = 0)		セットされる条件 (SPD0ビット = 1)
<ul style="list-style-type: none"> ・このビットのセット後で、スタート・コンディション検出後の、アドレス転送バイトの1クロック目の立ち上がり時 ・IICE0ビット = 1 0 (動作停止) のとき ・リセット時 		<ul style="list-style-type: none"> ・ストップ・コンディション検出時

(3) I²Cフラグ・レジスタ0 (IICF0)

I²C00の動作モードの設定と、I²Cバスの状態を表すレジスタです。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。ただし、STCF0, IICBSY0ビットはリードのみ可能です。

IICRSV0ビットにより通信予約機能の禁止／許可を設定します（20.14 通信予約参照）。

また、STCEN0ビットにより、IICBSY0ビットの初期値を設定します（20.15 注意事項参照）。

IICRSV0, STCEN0ビットは、I²C00が動作禁止(IICC0.IICE0ビット = 0)のときのみ書き込み可能です。

動作許可後、IICF0レジスタは読み出し可能となります。

リセットにより00Hになります。

リセット時 : 00H R/W注 アドレス : FFFFFD8AH

	(7)	(6)	5	4	3	2	(1)	(0)
IICF0	STCF0	IICBSY0	0	0	0	0	STCEN0	IICRSV0

STCF0	STT0ビット・クリア	
0	スタート・コンディション発行	
1	スタート・コンディション発行できずSTT0ビット・クリア	
クリアされる条件 (STCF0ビット = 0)		セットされる条件 (STCF0ビット = 1)
・IICC0.STT0ビット = 1によるクリア ・IICC0.IICE0ビット = 0のとき ・リセット時		・通信予約禁止 (IICRSV0ビット = 1) 設定時にスタート・コンディション発行できず, STT0フラグ・クリア(0)されたとき

IICBSY0	I ² C00バス状態	
0	バス解放状態 (STCEN0ビット = 1時の通信初期状態)	
1	バス通信状態 (STCEN0ビット = 0時の通信初期状態)	
クリアされる条件 (IICBSY0ビット = 0)		セットされる条件 (IICBSY0ビット = 1)
・ストップ・コンディション検出時 ・IICE0ビット = 0のとき ・リセット時		・スタート・コンディション検出時 ・STCEN0ビット = 0のときIICE0ビットのセット

STCEN0	初期スタート許可トリガ	
0	動作許可 (IICE0ビット = 1) 後, ストップ・コンディションを検出するまで, スタート・コンディションを生成できない。	
1	動作許可 (IICE0ビット = 1) 後, ストップ・コンディションを検出しなくても, スタート・コンディションを生成できる。	
クリアされる条件 (STCEN0ビット = 0)		セットされる条件 (STCEN0ビット = 1)
・スタート・コンディション検出時 ・リセット時		・命令によるセット

IICRSV0	通信予約機能禁止ビット	
0	通信予約許可	
1	通信予約禁止	
クリアされる条件 (IICRSV0ビット = 0)		セットされる条件 (IICRSV0ビット = 1)
・命令によるクリア ・リセット時		・命令によるセット

注 ビット6, 7はリード・オンリーです。

- 注意1. STCEN0ビットへの書き込みは, 動作停止 (IICE0ビット = 0) 時のみ行ってください。
2. STCEN0ビット = 1とした場合, I²C動作許可直後は実際のバス状態にかかわらずバス解放状態 (IICBSY0ビット = 0) と認識しますので, 1回目のスタート・コンディションを発行 (STT0ビット = 1) する場合は他の通信を破壊しないようにバスが解放されていることを確認する必要があります。
3. IICRSV0ビットへの書き込みは, 動作停止 (IICE0ビット = 0) 時のみ行ってください。

(4) I²Cクロック選択レジスタ0 (IICCL0)

I²C00の転送クロックを設定するレジスタです。

8/1ビット単位でリード / ライト可能です。ただし、CLD0, DAD0ビットはリードのみ可能です。

IICCL0レジスタは、IICC0.IICE0ビット = 0のときに設定してください。

SMC0, CL01, CL00ビットの設定は、IICX0.CLX0ビットと、OCKS0.OCKSTH0, OCKS01, OCKS00ビットと組み合わせて設定します（20.4(7) 転送クロックの設定参照）。

リセットにより00Hになります。

リセット時 : 00H R/W^注 アドレス : FFFFFD84H

	7	6	(5)	(4)	3	2	1	0
IICCL0	0	0	CLD0	DAD0	SMC0	DFC0	CL01	CL00

CLD0	SCL00端子のレベル検出 (IICC0.IICE0ビット = 1のときのみ有効)
0	SCL00端子がロウ・レベルであることを検出
1	SCL00端子がハイ・レベルであることを検出
クリアされる条件 (CLD0ビット = 0)	セットされる条件 (CLD0ビット = 1)
<ul style="list-style-type: none"> ・ SCL00端子がロウ・レベルのとき ・ IICE0ビット = 0 (動作停止) のとき ・ リセット時 	<ul style="list-style-type: none"> ・ SCL00端子がハイ・レベルのとき

DAD0	SDA00端子のレベル検出 (IICE0ビット = 1のときのみ有効)
0	SDA00端子がロウ・レベルであることを検出
1	SDA00端子がハイ・レベルであることを検出
クリアされる条件 (DAD0ビット = 0)	セットされる条件 (DAD0ビット = 1)
<ul style="list-style-type: none"> ・ SDA00端子がロウ・レベルのとき ・ IICE0ビット = 0 (動作停止) のとき ・ リセット時 	<ul style="list-style-type: none"> ・ SDA00端子がハイ・レベルのとき

SMC0	動作モードの切り替え
0	標準モードで動作
1	高速モードで動作

DFC0	デジタル・フィルタの動作制御
0	デジタル・フィルタ・オフ
1	デジタル・フィルタ・オン
デジタル・フィルタは、高速モード時にのみ使用できます。	
高速モード時は、DFC0ビットの設定により転送クロックが変化することはありません。	
デジタル・フィルタは、高速モード時にノイズ除去のために使用します。	

注 ビット5, 4はリード・オンリーです。

注意 ビット7, 6には必ず“0”を設定してください。

備考 IICC0.IICE0ビット = 0のとき、CLD0, DAD0ビットは0がリードされます。

(5) I²C機能拡張レジスタ0 (IICX0)

I²C00の機能拡張を設定するレジスタです（高速モード時のみ有効）。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

CLX0ビットの設定は ,IICCL0.SMC0, CL01, CL00ビットと ,OCKS0.OCKSTH0, OCKS01, OCKS00ビットと組み合わせて設定します（20.4(7)転送クロックの設定参照）。

IICX0レジスタは ,IICC0.IICE0ビット = 0のときに設定してください。

リセットにより00Hになります。

リセット時 : 00H R/W アドレス : FFFFFD85H

IICX0	7	6	5	4	3	2	1	①
	0	0	0	0	0	0	0	CLX0

(6) I²C分周クロック選択レジスタ0 (OCKS0)

プリスケーラ1が出力するクロックから ,I²Cインターフェース機能に入力するクロックを選択するレジスタです。

8ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

リセット時 : 00H R/W アドレス : FFFFF340H

OCKS0	7	6	5	4	3	2	1	0
	0	0	0	OCKSEN0	OCKSTH0	0	OCKS01	OCKS00

OCKSEN0	I ² C分周クロック動作指定
0	I ² C分周クロック動作停止
1	I ² C分周クロック動作許可

OCKSTH0	OCKS01	OCKS00	I ² C分周クロック選択
0	0	0	f _{XP1} /2
0	0	1	f _{XP1} /3
0	1	0	f _{XP1} /4
0	1	1	f _{XP1} /5
1	x	x	f _{XP1}

備考1. PRSIは ,オプション・バイトで設定します。

- PRSI = 0 : f_{xx} 32 MHzの場合 (f_{xx} > 32 MHzの場合は設定禁止)
- PRSI = 1 : f_{xx} 48 MHzの場合

2. OB_7B.PRSI = 0 設定時 : f_{XP1} = f_{xx}

OB_7B.PRSI = 1 設定時 : f_{XP1} = f_{xx}/2

(7) 転送クロックの設定

I²Cインターフェースの転送クロックは、周辺クロック用プリスケーラ1入力クロック (f_{XP1}) のソース・クロックであるメイン・クロック (f_{xx}) を元にします。

- ・プリスケーラ1が生成するクロックから、I²Cインターフェースに入力するクロック ($f_{XP1}-f_{XP}/5$) を選択します。分周クロックは、OCKS0.OCKSTH0およびOCKS0.OCKST01, OCKST00で設定します（20. 4 (6) I²C分周クロック選択レジスタ0 (OCKS0) 参照）。選択したクロックをIICLKPSと表します。
- ・I²Cインターフェース機能には、IICLKPSおよび f_{XP1} が入力されています。それらクロックはさらに分周され、転送用クロック (IICLKTC) となります。IICL0.CL01, CL00ビット、IICX0.CLX0ビットで設定します。

注意 I²Cインターフェース入力クロック (IICLKPS) は1 MHz～10 MHzの範囲にしてください。

次の表に転送レート設定の概要を示します。

OB7B.PRSI	IICCL0.SMC0	モード	表
0	0	標準	表20 - 2
0	1	高速	表20 - 3
1	0	標準	表20 - 4
1	1	高速	表20 - 5

備考1. PRSIはオプション・バイトで設定します。

- ・PRSI = 0 : f_{xx} 32 MHzの場合 ($f_{xx} > 32$ MHzの場合は設定禁止)
- ・PRSI = 1 : f_{xx} 48 MHzの場合

詳細は第8章 オプション・バイトを参照してください。

- OB_7B.PRSI = 0設定時 : $f_{XP1} = f_{xx}$
OB_7B.PRSI = 1設定時 : $f_{XP1} = f_{xx}/2$

表20-2 PRSI = 0：標準モード時の転送レート設定 (IICCL0.SMC0 = 0)

IICX0. CLX0 ビット	IICCL0. CL01 ビット	IICCL0. CL00 ビット	選択クロック	OCKS0 レジスタ	転送クロック	設定可能なメイン・ クロック周波数 (f _{xx}) 範囲		転送速度 (参考値)
						下限	上限	
0	0	0	f _{xx} /2	10H	f _{xx} /88	4 MHz	8.38 MHz	45.5 kHz ~ 95.2 kHz
			f _{xx} /3	11H	f _{xx} /132	6 MHz	12.57 MHz	45.5 kHz ~ 95.2 kHz
			f _{xx} /4	12H	f _{xx} /176	8 MHz	16.76 MHz	45.5 kHz ~ 95.2 kHz
			f _{xx} /5	13H	f _{xx} /220	10 MHz	20.95 MHz	45.5 kHz ~ 95.2 kHz
			f _{xx}	18H	f _{xx} /44	4 MHz	4.19 MHz	90.9 kHz ~ 95.2 kHz
0	0	1	f _{xx} /2	10H	f _{xx} /172	8.38 MHz	16.76 MHz	48.7 kHz ~ 97.4 kHz
			f _{xx} /3	11H	f _{xx} /258	12.57 MHz	25.14 MHz	48.7 kHz ~ 97.4 kHz
			f _{xx} /4	12H	f _{xx} /344	16.76 MHz	32 MHz	48.7 kHz ~ 93.0 kHz
			f _{xx} /5	13H	f _{xx} /430	20.95 MHz	32 MHz	48.7 kHz ~ 74.4 kHz
0	1	0	f _{xx} ^注	-	f _{xx} /86	4.19 MHz	8.38 MHz	48.7 kHz ~ 97.4 kHz
0	1	1	f _{xx} /2	10H	f _{xx} /132	12.80 MHz		97.0 kHz
			f _{xx} /3	11H	f _{xx} /198	19.20 MHz		97.0 kHz
			f _{xx} /4	12H	f _{xx} /264	25.60 MHz		97.0 kHz
			f _{xx} /5	13H	f _{xx} /330	32 MHz		97.0 kHz
			f _{xx}	18H	f _{xx} /66	6.40 MHz		97.0 kHz
上記以外			設定禁止		-	-	-	-

注 OCKS0ビットの設定によらずf_{xx}になるので、OCKS0 = 00Hに設定してください。

備考 OB_7B.PRSI = 0設定時 : f_{XP1} = f_{xx}

表20-3 PRSI = 0：高速モード時の転送レート設定 (IICCL0.SMC0 = 1)

IICX0. CLX0 ビット	IICCL0. CL01 ビット	IICCL0. CL00 ビット	選択クロック	OCKS0 レジスタ	転送クロック	設定可能なメイン・ クロック周波数 (f _{xx}) 範囲		転送速度 (参考値)
						下限	上限	
0	0	x	f _{xx} /2	10H	f _{xx} /48	8 MHz	16.76 MHz	166.7 kHz ~ 349.2 kHz
			f _{xx} /3	11H	f _{xx} /72	12 MHz	25.14 MHz	166.7 kHz ~ 349.2 kHz
			f _{xx} /4	12H	f _{xx} /96	16 MHz	32 MHz	166.7 kHz ~ 333.3 kHz
			f _{xx} /5	13H	f _{xx} /120	20 MHz	32 MHz	166.7 kHz ~ 266.7 kHz
0	1	0	f _{xx} ^注	-	f _{xx} /24	4 MHz	8.38 MHz	166.7 kHz ~ 349.2 kHz
0	1	1	f _{xx} /2	10H	f _{xx} /36	12.80 MHz		355.6 kHz
			f _{xx} /3	11H	f _{xx} /54	19.20 MHz		355.6 kHz
			f _{xx} /4	12H	f _{xx} /72	25.60 MHz		355.6 kHz
			f _{xx} /5	13H	f _{xx} /90	32 MHz		355.6 kHz
			f _{xx}	18H	f _{xx} /18	6.40 MHz		355.6 kHz
1	0	x	f _{xx} /2	10H	f _{xx} /24	8 MHz	8.38 MHz	333.3 kHz ~ 349.2 kHz
			f _{xx} /3	11H	f _{xx} /36	12 MHz	12.57 MHz	333.3 kHz ~ 349.2 kHz
			f _{xx} /4	12H	f _{xx} /48	16 MHz	16.76 MHz	333.3 kHz ~ 349.2 kHz
			f _{xx} /5	13H	f _{xx} /60	20 MHz	20.95 MHz	333.3 kHz ~ 349.2 kHz
1	1	0	f _{xx} ^注	-	f _{xx} /12	4 MHz	4.19 MHz	333.3 kHz ~ 349.2 kHz
上記以外			設定禁止		-	-	-	-

注 OCKS0ビットの設定によらずf_{xx}になるので、OCKS0 = 00Hに設定してください。

備考 OB_7B.PRSI = 0設定時 : f_{XP1} = f_{xx}

表20-4 PRSI = 1: 標準モード時の転送レート設定 (IICCL0.SMC0 = 0)

IICX0. CLX0 ビット	IICCL0. CL01 ビット	IICCL0. CL00 ビット	選択クロック	OCKS0 レジスタ	転送クロック	設定可能なメイン・ クロック周波数 (fxx) 範囲		転送速度 (参考値)
						下限	上限	
0	0	0	fxx/4	10H	fxx/176	8 MHz	16.76 MHz	45.5 kHz ~ 95.2 kHz
			fxx/6	11H	fxx/264	12 MHz	25.14 MHz	45.5 kHz ~ 95.2 kHz
			fxx/8	12H	fxx/352	16 MHz	33.52 MHz	45.5 kHz ~ 95.2 kHz
			fxx/10	13H	fxx/440	20 MHz	41.90 MHz	45.5 kHz ~ 95.2 kHz
			fxx/2	18H	fxx/88	4 MHz	8.38 MHz	90.9 kHz ~ 95.2 kHz
0	0	1	fxx/4	10H	fxx/344	16.76 MHz	33.52 MHz	48.7 kHz ~ 97.4 kHz
			fxx/6	11H	fxx/516	25.14 MHz	48 MHz	48.7 kHz ~ 93.0 kHz
			fxx/8	12H	fxx/688	33.52 MHz	48 MHz	48.7 kHz ~ 69.8 kHz
			fxx/10	13H	fxx/860	41.90 MHz	48 MHz	48.7 kHz ~ 55.8 kHz
0	1	0	fxx/2 ^注	-	fxx/172	8.38 MHz	16.76 MHz	48.7 kHz ~ 97.4 kHz
0	1	1	fxx/4	10H	fxx/264	25.60 MHz		97.0 kHz
			fxx/6	11H	fxx/396	38.40 MHz		97.0 kHz
			fxx/2	18H	fxx/132	12.80 MHz		97.0 kHz
上記以外			設定禁止		-	-	-	-

注 OCKS0ビットの設定によらずfxx/2になるので、OCKS0 = 00Hに設定してください。

備考 OB_7B.PRSI = 1設定時 : f_{XP1} = fxx/2

表20-5 PRSI = 1: 高速モード時の転送レート設定 (IICCL0.SMC0 = 1)

IICX0. CLX0 ビット	IICCL0. CL01 ビット	IICCL0. CL00 ビット	選択クロック	OCKS0 レジスタ	転送クロック	設定可能なメイン・ クロック周波数 (fxx) 範囲		転送速度 (参考値)
						下限	上限	
0	0	x	fxx/4	10H	fxx/96	16 MHz	33.52 MHz	166.7 kHz ~ 349.2 kHz
			fxx/6	11H	fxx/144	24 MHz	48 MHz	166.7 kHz ~ 333.3 kHz
			fxx/8	12H	fxx/192	32 MHz	48 MHz	166.7 kHz ~ 250.0 kHz
			fxx/10	13H	fxx/240	40 MHz	48 MHz	166.7 kHz ~ 200.0 kHz
0	1	0	fxx/2 ^注	-	fxx/48	8 MHz	8.38 MHz	166.7 kHz ~ 349.2 kHz
0	1	1	fxx/4	10H	fxx/72	25.60 MHz		355.6 kHz
			fxx/6	11H	fxx/108	38.40 MHz		355.6 kHz
			fxx/2	18H	fxx/36	12.80 MHz		355.6 kHz
1	0	x	fxx/4	10H	fxx/48	16 MHz	16.76 MHz	333.3 kHz ~ 349.2 kHz
			fxx/6	11H	fxx/72	24 MHz	25.14 MHz	333.3 kHz ~ 349.2 kHz
			fxx/8	12H	fxx/96	32 MHz	33.52 MHz	333.3 kHz ~ 349.2 kHz
			fxx/10	13H	fxx/120	40 MHz	41.90 MHz	333.3 kHz ~ 349.2 kHz
1	1	0	fxx/2 ^注	-	fxx/24	8 MHz	8.38 MHz	333.3 kHz ~ 349.2 kHz
上記以外			設定禁止		-	-	-	-

注 OCKS0ビットの設定によらずfxx/2になるので、OCKS0 = 00Hに設定してください。

備考 OB_7B.PRSI = 1設定時 : f_{XP1} = fxx/2

(8) I²C0の転送クロックの設定

I²C0の転送クロック周波数(f_{SCL})は、次の計算式により求められます。

$$f_{SCL} = 1 / (m \times T + t_R + t_F)$$

$m = 12, 18, 24, 36, 44, 48, 54, 60, 66, 72, 86, 88, 90, 96, 108, 120, 132, 144, 172, 176, 192, 198,$
 $220, 240, 258, 264, 330, 344, 352, 396, 440, 516, 688, 860$

(表20-2 PRSI = 0:標準モード時の転送レート設定(IICCL0.SMC0 = 0) ~ 表20-5 PRSI = 1:高速モード時の転送レート設定(IICCL0.SMC0 = 1)内、転送クロックの分母値を参照)

T : $1/f_{xx}$

t_R : SCL00端子立ち上がり時間

t_F : SCL00端子立ち下がり時間

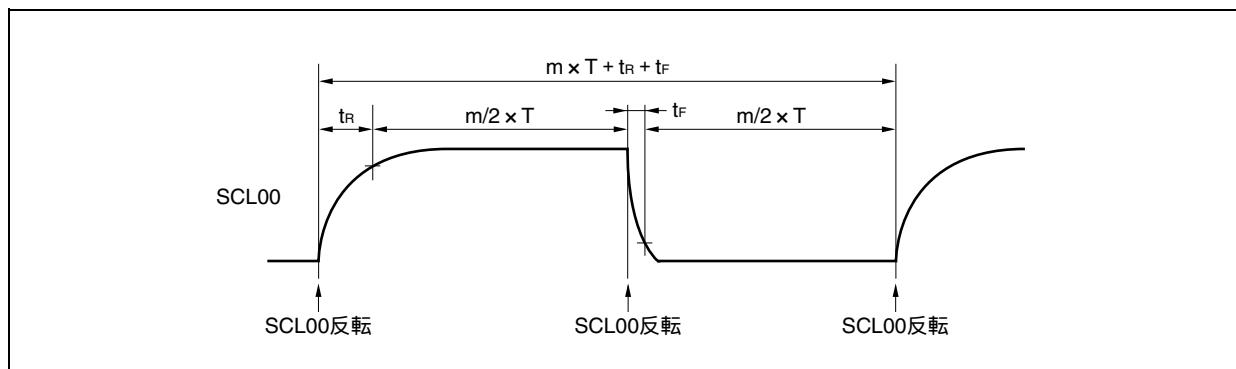
f_{xx} : メイン・クロック周波数

備考 OB_7B.PRSI = 0設定時 : $f_{XP1} = f_{xx}$

OB_7B.PRSI = 1設定時 : $f_{XP1} = f_{xx}/2$

たとえば、 $f_{xx} = 19.2\text{ MHz}$, $m = 198$, $t_R = 200\text{ ns}$, $t_F = 50\text{ ns}$ の場合のI²C0の転送クロック周波数(f_{SCL})は、次の計算式により求められます。

$$f_{SCL} = 1 / (198 \times 52\text{ ns} + 200\text{ ns} + 50\text{ ns}) = 94.7\text{ kHz}$$



選択クロックは、IICCL0.SMC0, CL01, CL00ビット, IICX0.CLX0ビット, OCKS0.OCKSTH0, OCKS01, OCKS00ビットを組み合わせて設定します。

(9) IICシフト・レジスタ0 (IIC0)

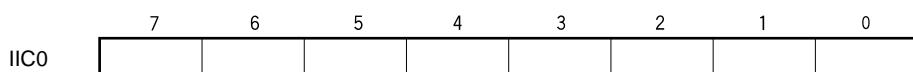
このレジスタは、シリアル・クロックに同期してシリアル送受信(シフト動作)を行うためのものです。

8ビット単位でリード / ライト可能ですが、データ転送中にIIC0レジスタへデータを書き込まないでください。

IIC0レジスタには、ウェイト期間中にだけアクセス(リード / ライト)してください。ウェイト期間中を除く通信状態でのIIC0レジスタのアクセスは禁止です。ただし、マスタになる場合は、送信トリガ・ピット(IICC0.STT0ビット)をセット(1)したあと、1回だけライトできます。

ウェイト期間中のIIC0レジスタへの書き込みにより、ウェイト解除しデータ転送を開始します。
リセットにより00Hになります。

リセット時 : 00H R/W アドレス : FFFFFD80H



(10) スレーブ・アドレス・レジスタ0 (SVA0)

SVA0レジスタには、I²Cバスのスレーブ・アドレスを格納します。

8ビット単位でリード/ライト可能ですが、ビット0は0に固定されています。ただし、IICSD0.STD0ビット = 1(スタート・コンディション検出)のときの書き換えは禁止です。
リセットにより00Hになります。

リセット時 : 00H R/W アドレス : FFFFFD83H

SVA0	7	6	5	4	3	2	1	0
								0

20.5 I²Cバス・モードの機能

20.5.1 端子構成

シリアル・クロック端子 (SCL00) と、シリアル・データ・バス端子 (SDA00) の構成は、次のようになっています。

SCL00 … シリアル・クロックを入出力するための端子。

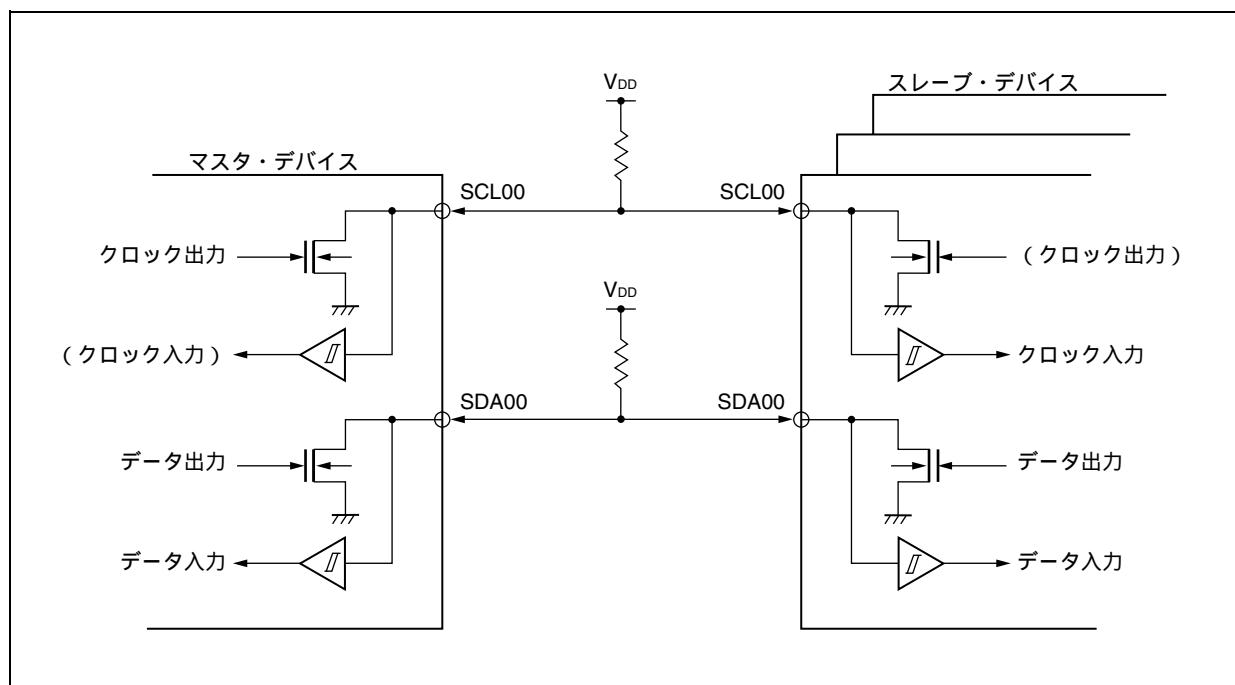
マスタ、スレーブとともに、出力はN-chオープン・ドレーン。入力はシュミット入力。

SDA00 … シリアル・データの入出力兼用端子。

マスタ、スレーブとともに、出力はN-chオープン・ドレーン。入力はシュミット入力。

シリアル・クロック・ラインおよびシリアル・データ・バス・ラインは、出力がN-chオープン・ドレーンのため、外部にプルアップ抵抗が必要となります。

図20-4 端子構成図

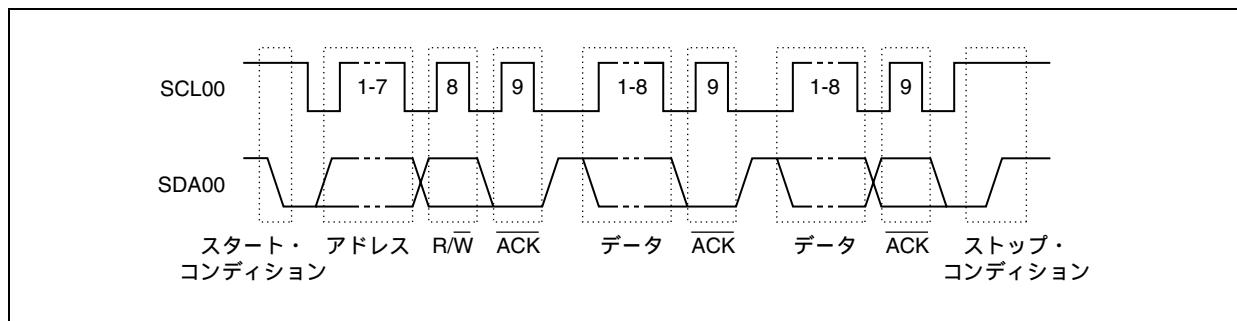


20.6 I²Cバスの定義および制御方法

I²Cバスのシリアル・データ通信フォーマットおよび、使用する信号の意味について次に説明します。

I²Cバスのシリアル・データ・バス上に生成されている“スタート・コンディション”，“アドレス”，“転送方向指定”，“データ”および“ストップ・コンディション”的各転送タイミングを次に示します。

図20-5 I²Cバスのシリアル・データ転送タイミング



スタート・コンディション，スレーブ・アドレス，ストップ・コンディションはマスタが生成します。

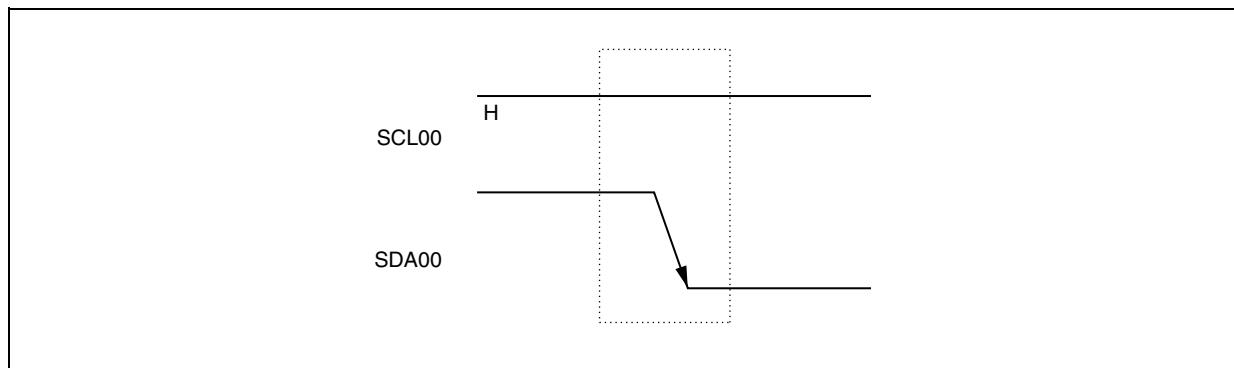
アクノリッジ(ACK)は，マスタ，スレーブのどちらでも生成できます（通常，8ビット・データの受信側が生成します）。

シリアル・クロック(SCL00)は，マスタが出力し続けます。ただし，スレーブはSCL00端子のロウ・レベル期間を延長し，ウェイトを挿入できます。

20.6.1 スタート・コンディション

SCL00端子がハイ・レベルのときに，SDA00端子がハイ・レベルからロウ・レベルに変化するとスタート・コンディションとなります。SCL00, SDA00端子のスタート・コンディションはマスタがスレーブに対してシリアル転送を開始するときに出力する信号です。スレーブとして使用する場合は，スタート・コンディションを検出できます。

図20-6 スタート・コンディション



スタート・コンディションは，ストップ・コンディション検出状態 (IICSO.SPDnビット = 1) のときにIICC0.STT0ビットをセット(1)すると出力されます。また，スタート・コンディションを検出すると，IICSO.STD0ビットがセット(1)されます。

注意 ほかのデバイス同士の通信中にマイクロコントローラのIICC0.IICE0ビットをセット(1)した場合，通信ラインの状態によってスタート・コンディションを検出することがあります。IICC0.IICE0ビットのセット(1)は，必ずSCL00, SDA00ラインがハイ・レベルの状態で行ってください。

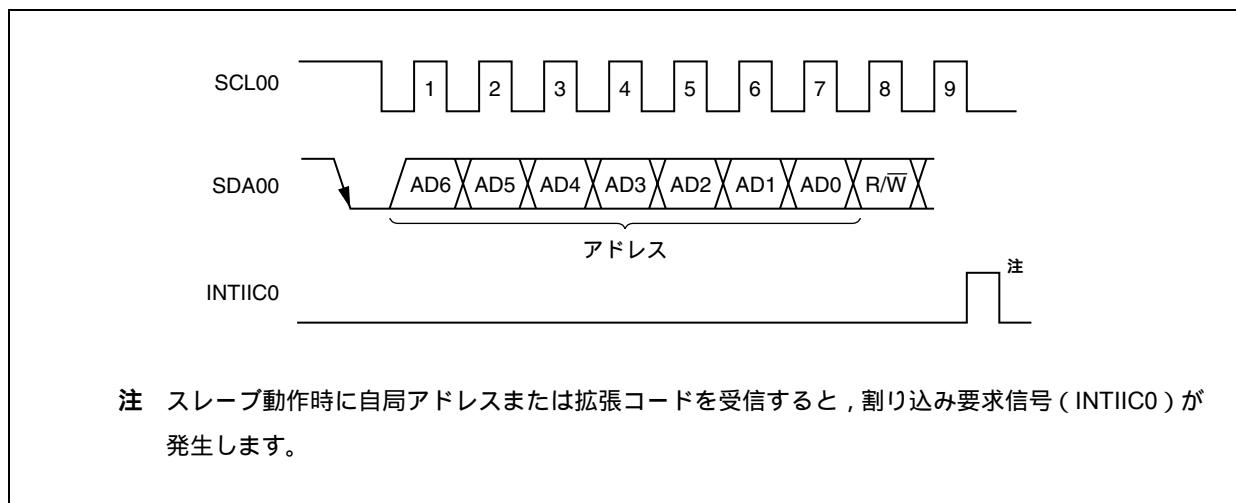
20.6.2 アドレス

スタート・コンディションに続く7ビット・データはアドレスと定義されています。

アドレスは、マスタがバス・ラインに接続されている複数のスレーブの中から、特定のスレーブを選択するために出力する7ビット・データです。したがって、バス・ライン上のスレーブは、すべて異なるアドレスにしておく必要があります。

スレーブは、ハードウェアでこの条件を検出し、さらに、7ビット・データがSVA0レジスタと一致しているかを調べます。このとき、7ビット・データとSVA0レジスタの値が一致すると、そのスレーブが選択されたことになり、以後、マスタがスタート・コンディションまたはトップ・コンディションを生成するまでマスターとの通信を行います。

図20-7 アドレス



アドレスは、スレーブのアドレスと20.6.3 転送方向指定に説明する転送方向を合わせて8ビットとしてIIC0レジスタに書き込むと出力します。また、受信したアドレスはIIC0レジスタに書き込まれます。

なお、スレーブのアドレスは、IIC0レジスタの上位7ビットに割り当てられます。

20.6.3 転送方向指定

マスタは、7ビットのアドレスに続いて、転送方向を指定するための1ビット・データを送信します。

この転送方向指定ビットが0のとき、マスタがスレーブにデータを送信することを示します。また、転送方向指定ビットが1のとき、マスタがスレーブからデータを受信することを示します。

図20-8 転送方向指定



20.6.4 アクノリッジ(ACK)

アクノリッジ(ACK)によって、送信側と受信側におけるシリアル・データの状態を確認することができます。

受信側は、8ビット・データを受信するごとにアクノリッジを返します。

送信側は通常、8ビット・データ送信後、アクノリッジを受信します。受信側からアクノリッジが返されたとき、受信が正しく行われたものとして処理を続けます。アクノリッジの検出は、IICS0.ACKD0ビットで確認できます。

マスタが受信で最終データを受信したときはアクノリッジを返さず、ストップ・コンディションを生成します。スレーブが受信でアクノリッジを返さないとき、マスタはストップ・コンディションまたはリストート・コンディションを出力し、送信を中止します。アクノリッジが返らない場合、次の要因が考えられます。

受信が正しく行われていない。

最終データの受信が終わっている。

アドレス指定した受信側が存在しない。

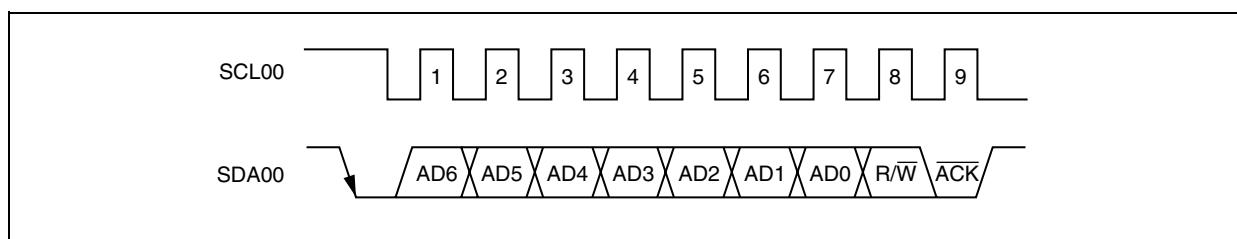
アクノリッジ生成は、受信側が9クロック目にSDA00ラインをロウ・レベルにすることによって行われます(正常受信)。

IICC0.ACKE0ビットをセット(1)することによって、アクノリッジが自動生成可能な状態になります。7ビットのアドレス情報に続く8ビット目のデータによりIICS0.TRC0ビットが設定されます。受信(TRC0ビット = 0)の場合は、通常、ACKE0ビットをセット(1)してください。

スレーブ受信動作時(TRC0ビット = 0)にデータを受信できなくなったときは、ACKE0ビットをクリア(0)し、マスタ側に受信ができないことを示してください。

マスタ受信動作時(TRC0ビット = 0)に、次のデータを必要としない場合、アクノリッジを生成しないようACKE0ビットをクリア(0)してください。これによって、スレーブ送信側にデータの終わりを知らせます(送信停止)。

図20-9 アクノリッジ



自局アドレス受信時は、ACKE0ビットの値にかかわらずアクノリッジを自動生成します。自局アドレス以外の受信時は、アクノリッジを生成しません(NACK)。

拡張コード受信時は、あらかじめACKE0ビットをセット(1)しておくことによってアクノリッジを生成します。

データ受信時のアクノリッジ生成方法は、ウェイト・タイミングの設定により次のように異なります。

- ・8クロック・ウェイト選択時 (IICC0.WTIM0ビット = 0) :

ウェイト解除を行う前にACKE0ビットをセット(1)することによって, SCL00端子の8クロック目の立ち下がりに同期してアクリングを生成します。
- ・9クロック・ウェイト選択時 (WTIM0ビット = 1) :

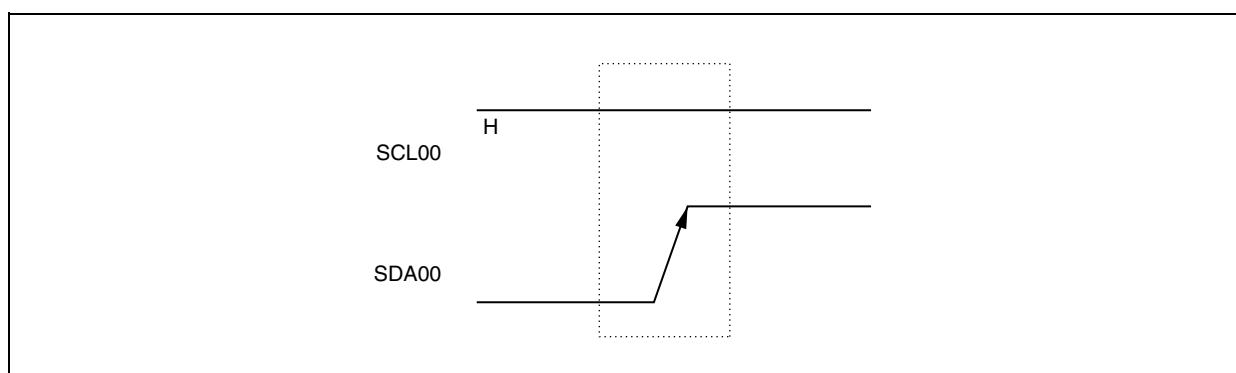
あらかじめACKE0ビットをセット(1)することによって, アクリングを生成します。

20.6.5 ストップ・コンディション

SCL00端子がハイ・レベルのときに, SDA00端子がロウ・レベルからハイ・レベルに変化すると, ストップ・コンディションとなります。

ストップ・コンディションは, マスタがスレーブに対してシリアル転送が終了したときに生成します。スレーブとして使用する場合は, ストップ・コンディションを検出できます。

図20-10 ストップ・コンディション



ストップ・コンディションは, IICC0.SPT0ビットをセット(1)すると発生します。また, ストップ・コンディションを検出するとIICS0.SPD0ビットがセット(1)され, IICC0.SPIE0ビットがセット(1)されている場合には割り込み要求信号 (INTIIC0) が発生します。

20.6.6 ウエイト

ウエイトは、マスタまたはスレーブがデータの送受信が準備中（ウエイト状態）であることを相手に知らせます。

SCL00端子をロウ・レベルにすることにより、相手にウエイト状態を知らせます。マスタ、スレーブ両方のウエイト状態が解除されると、次の転送を開始できます。

図20-11 ウエイト (1/2)

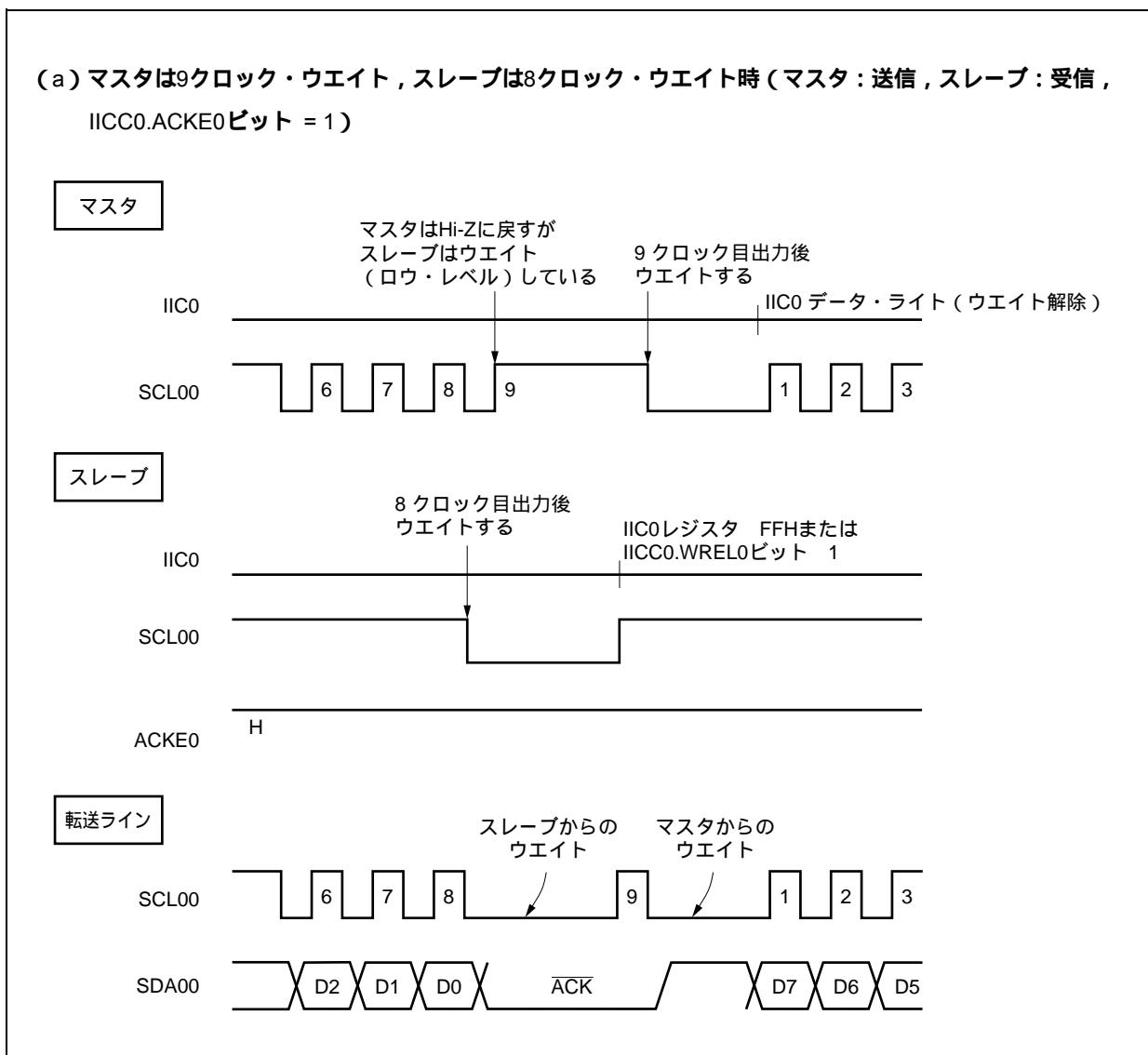
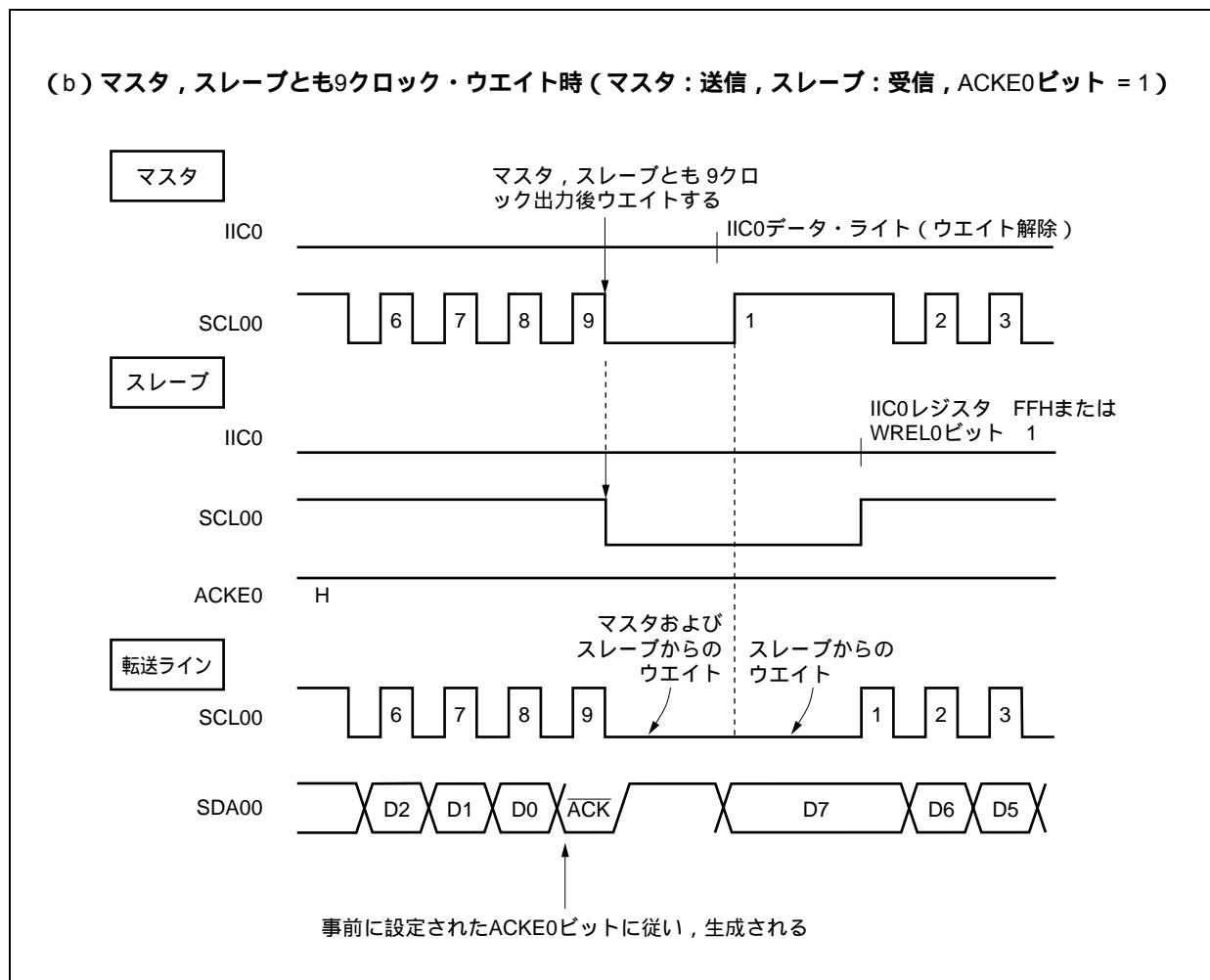


図20-11 ウエイト(2/2)



ウェイトは, IICC0.WTIM0ビットの設定により自動的に発生します。

通常, 受信側はWREL0ビット = 1またはIIC0レジスタ FFHライトにするとウェイトを解除し, 送信側はIIC0レジスタにデータを書き込むとウェイトを解除します。

マスタの場合は, 次の方法でもウェイトを解除できます。

- IICC0.STT0ビット = 1
- IICC0.SPT0ビット = 1

20.6.7 ウエイト解除方法

I²C00では、通常、次のような処理でウエイトを解除できます。

- ・IIC0レジスタへのデータの書き込み
- ・IICC0.WREL0ビットのセット(1)（ウエイト解除）
- ・IICC0.STT0ビットのセット(1)（スタート・コンディションの生成）
- ・IICC0.SPT0ビットのセット(1)（ストップ・コンディションの生成）

これらのウエイト解除処理を実行した場合、I²C00はウエイトを解除し通信が再開されます。

ウエイトを解除してデータ（アドレスを含む）を送信する場合には、IIC0レジスタにデータを書き込んでください。

ウエイト解除後にデータを受信する場合、またはデータ送信を完了する場合には、WREL0ビットをセット(1)してください。

ウエイト解除後にリスタート・コンディションを生成する場合には、STT0ビットをセット(1)してください。

ウエイト解除後にストップ・コンディションを生成する場合には、SPT0ビットをセット(1)してください。

1回のウエイト状態に対して、1回だけ解除処理を実行してください。

たとえば、WREL0ビットのセット(1)によるウエイト解除後、IIC0レジスタへのデータ書き込みを実施した場合には、SDA0ラインの変化タイミングとIIC0レジスタへの書き込みタイミングの競合により、SDA0ラインへの出力データが間違った値になる可能性があります。

このような処理以外でも、通信を途中で中止した場合には、IICC0.IICE0ビットをクリア(0)すると通信を停止するので、ウエイトを解除できます。

I²Cバスがノイズなどによりデッド・ロックしてしまった場合には、IICC0.LREL0ビットをセット(1)すると通信から退避するので、ウエイトを解除できます。

20.7 I²C割り込み要求信号(INTIIC0)

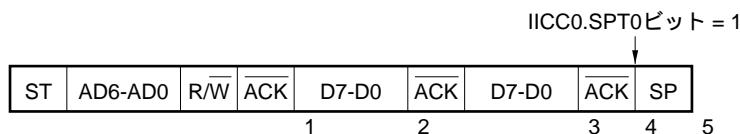
次に, INTIIC0割り込み要求信号発生タイミングと, INTIIC0信号タイミングでのIICCS0レジスタの値を示します。

備考	ST	: スタート・コンディション
	AD6-AD0	: アドレス
	R/W	: 転送方向指定
	ACK	: アクノリッジ
	D7-D0	: データ
	SP	: ストップ・コンディション

20.7.1 マスタ動作

(1) Start ~ Address ~ Data ~ Data ~ Stop (通常送受信)

IICC0.WTIM0ビット = 0のとき



1 : IICS0レジスタ = 1000X110B

2 : IICS0レジスタ = 1000X000B

3 : IICS0レジスタ = 1000X000B (WTIM0ビット = 1)

4 : IICS0レジスタ = 1000XX00B

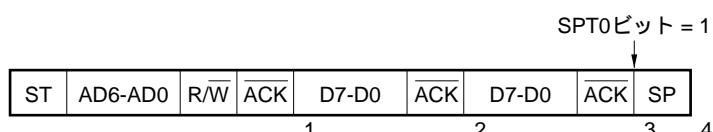
5 : IICS0レジスタ = 00000001B

備考 必ず発生

SPIE0ビット = 1のときだけ発生

X 任意

WTIM0ビット = 1のとき



1 : IICS0レジスタ = 1000X110B

2 : IICS0レジスタ = 1000X100B

3 : IICS0レジスタ = 1000XX00B

4 : IICS0レジスタ = 00000001B

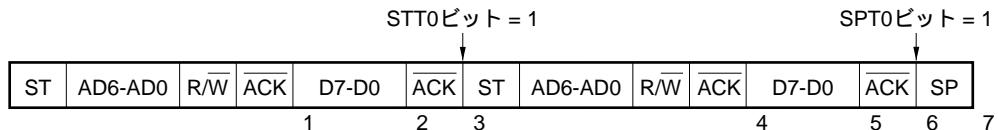
備考 必ず発生

SPIE0ビット = 1のときだけ発生

X 任意

(2) Start ~ Address ~ Data ~ Start ~ Address ~ Data ~ Stop (リスタート)

WTIM0ビット = 0のとき



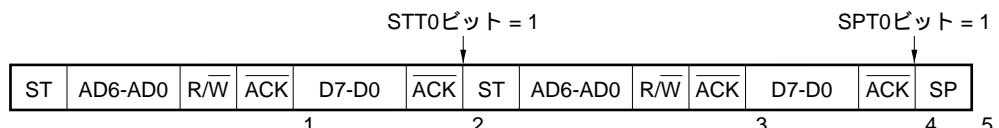
- 1 : IICS0レジスタ = 1000X110B
- 2 : IICS0レジスタ = 1000X000B (WTIM0ビット = 1)
- 3 : IICS0レジスタ = 1000XX00B (WTIM0ビット = 0)
- 4 : IICS0レジスタ = 1000X110B (WTIM0ビット = 0)
- 5 : IICS0レジスタ = 1000X000B (WTIM0ビット = 1)
- 6 : IICS0レジスタ = 1000XX00B
- 7 : IICS0レジスタ = 00000001B

備考 必ず発生

SPIE0ビット = 1のときだけ発生

X 任意

WTIM0ビット = 1のとき



- 1 : IICS0レジスタ = 1000X110B
- 2 : IICS0レジスタ = 1000XX00B
- 3 : IICS0レジスタ = 1000X110B
- 4 : IICS0レジスタ = 1000XX00B
- 5 : IICS0レジスタ = 00000001B

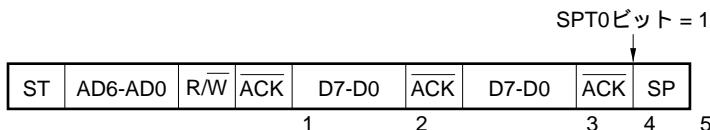
備考 必ず発生

SPIE0ビット = 1のときだけ発生

X 任意

(3) Start ~ Code ~ Data ~ Data ~ Stop (拡張コード送信)

WTIM0ビット = 0のとき



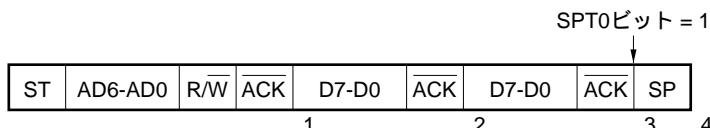
- 1 : IICSOレジスタ = 1010X110B
- 2 : IICSOレジスタ = 1010X000B
- 3 : IICSOレジスタ = 1010X000B (WTIM0ビット = 1)
- 4 : IICSOレジスタ = 1010XX00B
- 5 : IICSOレジスタ = 00000001B

備考 必ず発生

SPIE0ビット = 1のときだけ発生

X 任意

WTIM0ビット = 1のとき



- 1 : IICSOレジスタ = 1010X110B
- 2 : IICSOレジスタ = 1010X100B
- 3 : IICSOレジスタ = 1010XX00B
- 4 : IICSOレジスタ = 00000001B

備考 必ず発生

SPIE0ビット = 1のときだけ発生

X 任意

20.7.2 スレーブ動作(スレーブ・アドレス・データ受信時(アドレス一致))

(1) Start ~ Address ~ Data ~ Data ~ Stop

IICC0.WTIM0ビット = 0のとき

ST	AD6-AD0	R/W	$\overline{\text{ACK}}$	D7-D0	$\overline{\text{ACK}}$	D7-D0	$\overline{\text{ACK}}$	SP
1				2		3		4

1 : IICS0レジスタ = 0001X110B

2 : IICS0レジスタ = 0001X000B

3 : IICS0レジスタ = 0001X000B

4 : IICS0レジスタ = 00000001B

備考 必ず発生

IICC0.SPIE0ビット = 1のときだけ発生

X 任意

WTIM0ビット = 1のとき

ST	AD6-AD0	R/W	$\overline{\text{ACK}}$	D7-D0	$\overline{\text{ACK}}$	D7-D0	$\overline{\text{ACK}}$	SP
1				2		3		4

1 : IICS0レジスタ = 0001X110B

2 : IICS0レジスタ = 0001X100B

3 : IICS0レジスタ = 0001XX00B

4 : IICS0レジスタ = 00000001B

備考 必ず発生

SPIE0ビット = 1のときだけ発生

X 任意

(2) Start ~ Address ~ Data ~ Start ~ Address ~ Data ~ Stop

WTIM0ビット = 0のとき(リスタート後, アドレス一致)

ST	AD6-AD0	R/W	ACK	D7-D0	ACK	ST	AD6-AD0	R/W	ACK	D7-D0	ACK	SP
1				2					3	4		5

1 : IICS0レジスタ = 0001X110B

2 : IICS0レジスタ = 0001X000B

3 : IICS0レジスタ = 0001X110B

4 : IICS0レジスタ = 0001X000B

5 : IICS0レジスタ = 00000001B

備考 必ず発生

SPIE0ビット = 1のときだけ発生

X 任意

WTIM0ビット = 1のとき(リスタート後, アドレス一致)

ST	AD6-AD0	R/W	ACK	D7-D0	ACK	ST	AD6-AD0	R/W	ACK	D7-D0	ACK	SP
1				2					3	4		5

1 : IICS0レジスタ = 0001X110B

2 : IICS0レジスタ = 0001XX00B

3 : IICS0レジスタ = 0001X110B

4 : IICS0レジスタ = 0001XX00B

5 : IICS0レジスタ = 00000001B

備考 必ず発生

SPIE0ビット = 1のときだけ発生

X 任意

(3) Start ~ Address ~ Data ~ Start ~ Code ~ Data ~ Stop

WTIM0ビット = 0のとき（リスタート後，拡張コード受信）

ST	AD6-AD0	R/W	ACK	D7-D0	ACK	ST	AD6-AD0	R/W	ACK	D7-D0	ACK	SP
1				2				3		4		5

- 1 : IICSOレジスタ = 0001X110B
- 2 : IICSOレジスタ = 0001X000B
- 3 : IICSOレジスタ = 0010X010B
- 4 : IICSOレジスタ = 0010X000B
- 5 : IICSOレジスタ = 00000001B

備考 必ず発生

SPIE0ビット = 1のときだけ発生

X 任意

WTIM0ビット = 1のとき（リスタート後，拡張コード受信）

ST	AD6-AD0	R/W	ACK	D7-D0	ACK	ST	AD6-AD0	R/W	ACK	D7-D0	ACK	SP
1				2				3	4	5		6

- 1 : IICSOレジスタ = 0001X110B
- 2 : IICSOレジスタ = 0001XX00B
- 3 : IICSOレジスタ = 0010X010B
- 4 : IICSOレジスタ = 0010X110B
- 5 : IICSOレジスタ = 0010XX00B
- 6 : IICSOレジスタ = 00000001B

備考 必ず発生

SPIE0ビット = 1のときだけ発生

X 任意

(4) Start ~ Address ~ Data ~ Start ~ Address ~ Data ~ Stop

WTIM0ビット = 0のとき（リスタート後，アドレス不一致（拡張コード以外））

ST	AD6-AD0	R/W	ACK	D7-D0	ACK	ST	AD6-AD0	R/W	ACK	D7-D0	ACK	SP
1				2					3			4

1 : IICS0レジスタ = 0001X110B

2 : IICS0レジスタ = 0001X000B

3 : IICS0レジスタ = 00000X10B

4 : IICS0レジスタ = 00000001B

備考 必ず発生

SPIE0ビット = 1のときだけ発生

X 任意

WTIM0ビット = 1のとき（リスタート後，アドレス不一致（拡張コード以外））

ST	AD6-AD0	R/W	ACK	D7-D0	ACK	ST	AD6-AD0	R/W	ACK	D7-D0	ACK	SP
1				2					3			4

1 : IICS0レジスタ = 0001X110B

2 : IICS0レジスタ = 0001XX00B

3 : IICS0レジスタ = 00000X10B

4 : IICS0レジスタ = 00000001B

備考 必ず発生

SPIE0ビット = 1のときだけ発生

X 任意

20.7.3 スレーブ動作(拡張コード受信時)

拡張コード受信時は常に通信に参加しています。

(1) Start ~ Code ~ Data ~ Data ~ Stop

IICC0.WTIM0ビット = 0のとき

ST	AD6-AD0	R/W	$\overline{\text{ACK}}$	D7-D0	$\overline{\text{ACK}}$	D7-D0	$\overline{\text{ACK}}$	SP
1				2		3		4

1 : IICS0レジスタ = 0010X010B

2 : IICS0レジスタ = 0010X000B

3 : IICS0レジスタ = 0010X000B

4 : IICS0レジスタ = 00000001B

備考 必ず発生

IICC0.SPIE0ビット = 1のときだけ発生

X 任意

WTIM0ビット = 1のとき

ST	AD6-AD0	R/W	$\overline{\text{ACK}}$	D7-D0	$\overline{\text{ACK}}$	D7-D0	$\overline{\text{ACK}}$	SP
1	2			3		4		5

1 : IICS0レジスタ = 0010X010B

2 : IICS0レジスタ = 0010X110B

3 : IICS0レジスタ = 0010X100B

4 : IICS0レジスタ = 0010XX00B

5 : IICS0レジスタ = 00000001B

備考 必ず発生

SPIE0ビット = 1のときだけ発生

X 任意

(2) Start ~ Code ~ Data ~ Start ~ Address ~ Data ~ Stop

WTIM0ビット = 0のとき(リスタート後, アドレス一致)

ST	AD6-AD0	R/W	ACK	D7-D0	ACK	ST	AD6-AD0	R/W	ACK	D7-D0	ACK	SP
		1		2					3	4		5

- 1 : IICS0レジスタ = 0010X010B
- 2 : IICS0レジスタ = 0010X000B
- 3 : IICS0レジスタ = 0001X110B
- 4 : IICS0レジスタ = 0001X000B
- 5 : IICS0レジスタ = 00000001B

備考 必ず発生

SPIE0ビット = 1のときだけ発生

X 任意

WTIM0ビット = 1のとき(リスタート後, アドレス一致)

ST	AD6-AD0	R/W	ACK	D7-D0	ACK	ST	AD6-AD0	R/W	ACK	D7-D0	ACK	SP
		1	2		3				4	5		6

- 1 : IICS0レジスタ = 0010X010B
- 2 : IICS0レジスタ = 0010X110B
- 3 : IICS0レジスタ = 0010XX00B
- 4 : IICS0レジスタ = 0001X110B
- 5 : IICS0レジスタ = 0001XX00B
- 6 : IICS0レジスタ = 00000001B

備考 必ず発生

SPIE0ビット = 1のときだけ発生

X 任意

(3) Start ~ Code ~ Data ~ Start ~ Code ~ Data ~ Stop

WTIM0ビット = 0のとき（リスタート後，拡張コード受信）

ST	AD6-AD0	R/W	ACK	D7-D0	ACK	ST	AD6-AD0	R/W	ACK	D7-D0	ACK	SP
1				2					3	4		5

1 : IICSOレジスタ = 0010X010B

2 : IICSOレジスタ = 0010X000B

3 : IICSOレジスタ = 0010X010B

4 : IICSOレジスタ = 0010X000B

5 : IICSOレジスタ = 00000001B

備考 必ず発生

SPIE0ビット = 1のときだけ発生

X 任意

WTIM0ビット = 1のとき（リスタート後，拡張コード受信）

ST	AD6-AD0	R/W	ACK	D7-D0	ACK	ST	AD6-AD0	R/W	ACK	D7-D0	ACK	SP
1	2				3				4	5		6 7

1 : IICSOレジスタ = 0010X010B

2 : IICSOレジスタ = 0010X110B

3 : IICSOレジスタ = 0010XX00B

4 : IICSOレジスタ = 0010X010B

5 : IICSOレジスタ = 0010X110B

6 : IICSOレジスタ = 0010XX00B

7 : IICSOレジスタ = 00000001B

備考 必ず発生

SPIE0ビット = 1のときだけ発生

X 任意

(4) Start ~ Code ~ Data ~ Start ~ Address ~ Data ~ Stop

WTIM0ビット = 0のとき（リスタート後，アドレス不一致（拡張コード以外））

ST	AD6-AD0	R/W	ACK	D7-D0	ACK	ST	AD6-AD0	R/W	ACK	D7-D0	ACK	SP
1				2					3			4

- 1 : IICSOレジスタ = 0010X010B
- 2 : IICSOレジスタ = 0010X000B
- 3 : IICSOレジスタ = 00000X10B
- 4 : IICSOレジスタ = 00000001B

備考 必ず発生

SPIE0ビット = 1のときだけ発生

X 任意

WTIM0ビット = 1のとき（リスタート後，アドレス不一致（拡張コード以外））

ST	AD6-AD0	R/W	ACK	D7-D0	ACK	ST	AD6-AD0	R/W	ACK	D7-D0	ACK	SP
1	2			3					4			5

- 1 : IICSOレジスタ = 0010X010B
- 2 : IICSOレジスタ = 0010X110B
- 3 : IICSOレジスタ = 0010XX00B
- 4 : IICSOレジスタ = 00000X10B
- 5 : IICSOレジスタ = 00000001B

備考 必ず発生

SPIE0ビット = 1のときだけ発生

X 任意

20.7.4 通信不参加の動作

(1) Start ~ Code ~ Data ~ Data ~ Stop

ST	AD6-AD0	R/W	ACK	D7-D0	ACK	D7-D0	ACK	SP
----	---------	-----	-----	-------	-----	-------	-----	----

1

1 : IICCS0レジスタ = 00000001B

備考 SPIE0ビット = 1のときだけ発生

20.7.5 アービトレーション負けの動作（アービトレーション負けのあと，スレーブとして動作）

(1) スレーブ・アドレス・データ送信中にアービトレーションに負けた場合

IICC0.WTIM0ビット = 0のとき

ST	AD6-AD0	R/W	$\overline{\text{ACK}}$	D7-D0	$\overline{\text{ACK}}$	D7-D0	$\overline{\text{ACK}}$	SP
1				2		3		4

1 : IICS0レジスタ = 0101X110B (例 割り込み処理中にIICS0.ALD0ビットをリード)

2 : IICS0レジスタ = 0001X000B

3 : IICS0レジスタ = 0001X000B

4 : IICS0レジスタ = 00000001B

備考 必ず発生

IICC0.SPIE0ビット = 1のときだけ発生

X 任意

WTIM0ビット = 1のとき

ST	AD6-AD0	R/W	$\overline{\text{ACK}}$	D7-D0	$\overline{\text{ACK}}$	D7-D0	$\overline{\text{ACK}}$	SP
1				2		3		4

1 : IICS0レジスタ = 0101X110B (例 割り込み処理中にALD0ビットをリード)

2 : IICS0レジスタ = 0001X100B

3 : IICS0レジスタ = 0001XX00B

4 : IICS0レジスタ = 00000001B

備考 必ず発生

SPIE0ビット = 1のときだけ発生

X 任意

(2) 拡張コード送信中にアービトレーションに負けた場合

WTIM0ビット = 0のとき

ST	AD6-AD0	R/W	ACK	D7-D0	ACK	D7-D0	ACK	SP
			1	2		3		4

- 1 : IICSOレジスタ = 0110X010B (例 割り込み処理中にALD0ビットをリード)
 2 : IICSOレジスタ = 0010X000B
 3 : IICSOレジスタ = 0010X000B
 4 : IICSOレジスタ = 00000001B

備考 必ず発生

SPIE0ビット = 1のときだけ発生

X 任意

WTIM0ビット = 1のとき

ST	AD6-AD0	R/W	ACK	D7-D0	ACK	D7-D0	ACK	SP
			1	2		3		4 5

- 1 : IICSOレジスタ = 0110X010B (例 割り込み処理中にALD0ビットをリード)
 2 : IICSOレジスタ = 0010X110B
 3 : IICSOレジスタ = 0010X100B
 4 : IICSOレジスタ = 0010XX00B
 5 : IICSOレジスタ = 00000001B

備考 必ず発生

SPIE0ビット = 1のときだけ発生

X 任意

20.7.6 アービトレーション負けの動作(アービトレーション負けのあと, 不参加)

(1) スレーブ・アドレス・データ送信中にアービトレーションに負けた場合

ST	AD6-AD0	R/W	$\overline{\text{ACK}}$	D7-D0	$\overline{\text{ACK}}$	D7-D0	$\overline{\text{ACK}}$	SP
1								2

1 : IICS0レジスタ = 01000110B (例 割り込み処理中にIICS0.ALD0ビットをリード)

2 : IICS0レジスタ = 00000001B

備考 必ず発生

IICC0.SPIE0ビット = 1のときだけ発生

(2) 拡張コード送信中にアービトレーションに負けた場合

ST	AD6-AD0	R/W	$\overline{\text{ACK}}$	D7-D0	$\overline{\text{ACK}}$	D7-D0	$\overline{\text{ACK}}$	SP
1								2

1 : IICS0レジスタ = 0110X010B (例 割り込み処理中にALD0ビットをリード)

ソフトウェアでIICC0.LREL0ビット = 1を設定

2 : IICS0レジスタ = 00000001B

備考 必ず発生

SPIE0ビット = 1のときだけ発生

X 任意

(3) データ転送時にアービトレーションに負けた場合

IICC0.WTIM0ビット = 0のとき

ST	AD6-AD0	R/W	$\overline{\text{ACK}}$	D7-D0	$\overline{\text{ACK}}$	D7-D0	$\overline{\text{ACK}}$	SP
				1	2			3

1 : IICS0レジスタ = 10001110B

2 : IICS0レジスタ = 01000000B (例 割り込み処理中にALD0ビットをリード)

3 : IICS0レジスタ = 00000001B

備考 必ず発生

SPIE0ビット = 1のときだけ発生

X 任意

WTIM0ビット = 1のとき

ST	AD6-AD0	R/W	$\overline{\text{ACK}}$	D7-D0	$\overline{\text{ACK}}$	D7-D0	$\overline{\text{ACK}}$	SP
				1	2			3

1 : IICS0レジスタ = 10001110B

2 : IICS0レジスタ = 01000100B (例 割り込み処理中にALD0ビットをリード)

3 : IICS0レジスタ = 00000001B

備考 必ず発生

SPIE0ビット = 1のときだけ発生

X 任意

(4) データ転送時にリスタート・コンディションで負けた場合

拡張コード以外(例 アドレス不一致)

ST	AD6-AD0	R/W	ACK	D7-Dn	ST	AD6-AD0	R/W	ACK	D7-D0	ACK	SP
				1					2		3

1 : IICSOレジスタ = 1000X110B

2 : IICSOレジスタ = 01000110B (例 割り込み処理中にALD0ビットをリード)

3 : IICSOレジスタ = 00000001B

備考 必ず発生

SPIE0ビット = 1のときだけ発生

X 任意

Dn = D6-D0

拡張コード

ST	AD6-AD0	R/W	ACK	D7-Dn	ST	AD6-AD0	R/W	ACK	D7-D0	ACK	SP
				1					2		3

1 : IICSOレジスタ = 1000X110B

2 : IICSOレジスタ = 0110X010B (例 割り込み処理中にALD0ビットをリード)

ソフトウェアでIICC0.LREL0ビット = 1を設定

3 : IICSOレジスタ = 00000001B

備考 必ず発生

SPIE0ビット = 1のときだけ発生

X 任意

Dn = D6-D0

(5) データ転送時にストップ・コンディションで負けた場合

ST	AD6-AD0	R/W	ACK	D7-Dn	SP
1			2		

1 : IICS0レジスタ = 1000X110B

2 : IICS0レジスタ = 01000001B

備考 必ず発生

SPIE0ビット = 1のときだけ発生

X 任意

Dn = D6-D0

(6) リスタート・コンディションを発生しようとしたが、SDA00端子がロウ・レベルでアービトリエーションに負けた場合

WTIM0ビット = 0のとき

IICC0.STT0ビット = 1

ST	AD6-AD0	R/W	ACK	D7-D0	ACK	D7-D0	ACK	D7-D0	ACK	SP
1	2	3	4						5	

1 : IICS0レジスタ = 1000X110B

2 : IICS0レジスタ = 1000X000B (WTIM0ビット = 1)

3 : IICS0レジスタ = 1000XX00B (WTIM0ビット = 0)

4 : IICS0レジスタ = 01000000B (例 割り込み処理中にALD0ビットをリード)

5 : IICS0レジスタ = 00000001B

備考 必ず発生

SPIE0ビット = 1のときだけ発生

X 任意

WTIM0ビット = 1のとき

IICC0.STT0ビット = 1

ST	AD6-AD0	R/W	ACK	D7-D0	ACK	D7-D0	ACK	D7-D0	ACK	SP
1	2			3					4	

1 : IICS0レジスタ = 1000X110B

2 : IICS0レジスタ = 1000XX00B

3 : IICS0レジスタ = 01000100B (例 割り込み処理中にALD0ビットをリード)

4 : IICS0レジスタ = 00000001B

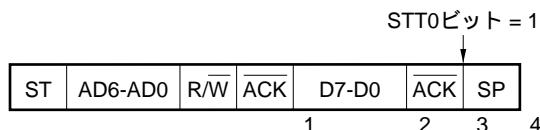
備考 必ず発生

SPIE0ビット = 1のときだけ発生

X 任意

(7) リスタート・コンディションを発生しようとして、ストップ・コンディションでアービトレーションに負けた場合

WTIM0ビット = 0のとき



1 : IICS0レジスタ = 1000X110B

2 : IICS0レジスタ = 1000X000B (WTIM0ビット = 1)

3 : IICS0レジスタ = 1000XX00B

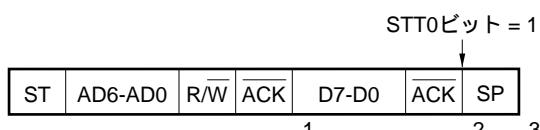
4 : IICS0レジスタ = 01000001B

備考 必ず発生

SPIE0ビット = 1のときだけ発生

X 任意

WTIM0ビット = 1のとき



1 : IICS0レジスタ = 1000X110B

2 : IICS0レジスタ = 1000XX00B

3 : IICS0レジスタ = 01000001B

備考 必ず発生

SPIE0ビット = 1のときだけ発生

X 任意

(8) ストップ・コンディションを発生しようとしたが、SDA00端子がロウ・レベルでアービトレーションに負けた場合

WTIM0ビット = 0のとき

IICC0.SPT0ビット = 1

ST	AD6-AD0	R/W	ACK	D7-D0	ACK	D7-D0	ACK	D7-D0	ACK	SP
1	2	3		4		5				

1 : IICS0レジスタ = 1000X110B

2 : IICS0レジスタ = 1000X000B (WTIM0ビット = 1)

3 : IICS0レジスタ = 1000XX00B (WTIM0ビット = 0)

4 : IICS0レジスタ = 01000000B (例 割り込み処理中にALD0ビットをリード)

5 : IICS0レジスタ = 00000001B

備考 必ず発生

SPIE0ビット = 1のときだけ発生

X 任意

WTIM0ビット = 1のとき

IICC0.SPT0ビット = 1

ST	AD6-AD0	R/W	ACK	D7-D0	ACK	D7-D0	ACK	D7-D0	ACK	SP
1				2		3		4		

1 : IICS0レジスタ = 1000X110B

2 : IICS0レジスタ = 1000XX00B

3 : IICS0レジスタ = 01000000B (例 割り込み処理中にALD0ビットをリード)

4 : IICS0レジスタ = 00000001B

備考 必ず発生

SPIE0ビット = 1のときだけ発生

X 任意

20.8 割り込み要求信号(INTIIC0)発生タイミングおよびウエイト制御

IICC0.WTIM0ビットの設定で、次に示すタイミングでINTIIC0信号が発生して、ウエイト制御を行います。

表20-6 INTIIC0信号発生タイミングおよびウエイト制御

WTIM0ビット	スレーブ動作時			マスタ動作時		
	アドレス	データ受信	データ送信	アドレス	データ受信	データ送信
0	9 ^{注1,2}	8 ^{注2}	8 ^{注2}	9	8	8
1	9 ^{注1,2}	9 ^{注2}	9 ^{注2}	9	9	9

- 注1. スレーブのINTIIC0信号およびウエイトは、SVA0レジスタに設定しているアドレスと一致したときにのみ、9クロック目の立ち下がりで発生します。
 また、このとき、IICC0.ACKE0ビットの設定にかかわらず、アクノリッジが生成されます。拡張コードを受信したスレーブは8クロック目の立ち下がりでINTIIC0信号を発生します。
 ただし、リスタート後にアドレス不一致になった場合には、9クロック目の立ち下がりでINTIIC0信号を発生しますが、ウエイトは発生しません。
2. SVA0レジスタと受信したアドレスが一致せず、かつ拡張コードを受信していない場合は、INTIIC0信号もウエイトも発生しません。

備考 表中の数字は、シリアル・クロックのクロック数を示しています。また、割り込み要求、ウエイト制御ともにシリアル・クロックの立ち下がりに同期します。

(1) アドレス送受信時

- スレーブ動作時：WTIM0ビットにかかわらず、上記の注1、注2の条件により、割り込みおよびウエイト・タイミングが決まります。
- マスタ動作時：WTIM0ビットにかかわらず、割り込みおよびウエイト・タイミングは、9クロック目の立ち下がりで発生します。

(2) データ受信時

マスタ / スレーブ動作時：WTIM0ビットにより、割り込みおよびウエイト・タイミングが決まります。

(3) データ送信時

マスタ / スレーブ動作時：WTIM0ビットにより、割り込みおよびウエイト・タイミングが決まります。

(4) ウエイト解除方法

ウエイトの解除方法には次の4つがあります。

- ・IICC0.WREL0ビット = 1
- ・IIC0レジスタのライト動作
- ・スタート・コンディションのセット (IICC0.STT0ビット = 1)^注
- ・ストップ・コンディションのセット (IICC0.SPT0ビット = 1)^注

注 マスタのみ

8クロック・ウェイト選択 (WTIM0ビット = 0) 時は、ウェイト解除前にアクノリッジの生成の有無を決定する必要があります。

(5) ストップ・コンディション検出

ストップ・コンディションを検出すると、INTIIC0信号を発生します。

20.9 アドレスの一致検出方法

I²Cバス・モードでは、マスタがスレーブ・アドレスを送信することにより、特定のスレーブ・デバイスを選択できます。

アドレス一致の検出は、ハードウェアで自動的に行えます。SVA0レジスタに自局アドレスを設定した場合、マスタから送信されたスレーブ・アドレスとSVA0レジスタに設定したアドレスが一致したとき、または拡張コードを受信した場合だけ、INTIIC0信号が発生します。

20.10 エラーの検出

I²Cバス・モードでは、送信中のシリアル・バス端子（SDA00）の状態が、送信しているデバイスのIIC0レジスタにも取り込まれるため、送信開始前と送信終了後のIIC0レジスタのデータを比較することにより、送信エラーを検出できます。この場合、2つのデータが異なっていれば送信エラーが発生したものと判断します。

20.11 拡張コード

(1) 受信アドレスの上位4ビットが“0000”と“1111”的きを拡張コード受信として、拡張コード受信フラグ（IICCS0.EXC0ビット）をセットし、8クロック目の立ち下がりで割り込み要求信号（INTIIC0）を発生します。

SVA0レジスタに格納された自局アドレスは影響しません。

(2) 10ビット・アドレス転送で、SVA0レジスタに“11110xx0”を設定し、マスタから“11110xx0”が転送されてきた場合は、次のようにになります。ただしINTIIC0信号は、8クロック目の立ち下がりで発生します。

上位4ビット・データの一致：EXC0ビット = 1

7ビット・データの一致：IICCS0.CO10ビット = 1

(3) 割り込み要求信号発生後の処理は、拡張コードに続くデータによって異なるため、ソフトウェアが行います。

たとえば拡張コード受信後、スレーブとして動作したくない場合は、IICC0.LREL0ビット = 1に設定し、次の通信待機状態となります。

表20-7 拡張コードのビットの定義

スレーブ・アドレス	R/Wビット	説明
0000 000	0	ジェネラル・コール・アドレス
0000 000	1	スタート・バイト
0000 001	×	CBUSアドレス
0000 010	×	異なるバス・フォーマット用に予約されているアドレス
1111 0xx	×	10ビット・スレーブ・アドレス指定

20.12 アービトレーション

複数のマスタがスタート・コンディションを同時に生成した場合 (IICCS0.STD0ビット = 1になる前にIICC0.STT0ビット = 1にしたとき) , データが異なるまでクロックの調整をしながら , マスタ通信を行います。この動作をアービトレーションと呼びます。

アービトレーションに負けたマスタは , アービトレーションに負けたタイミングで , アービトレーション負けフラグ (IICCS0.ALD0ビット) をセット (1) し , SCL00, SDA00ラインともハイ・インピーダンス状態にしてバスを解放します。

アービトレーションに負けたことは , 次の割り込み要求信号 (INTIIC0) 発生タイミング (8または9クロック目 , ストップ・コンディション検出など) で , ソフトウェアでALD0ビット = 1になっていることで検出します。

割り込み発生タイミングについては , 20.7 I²C割り込み要求信号 (INTIIC0) を参照してください。

図20-12 アービトレーション・タイミング例

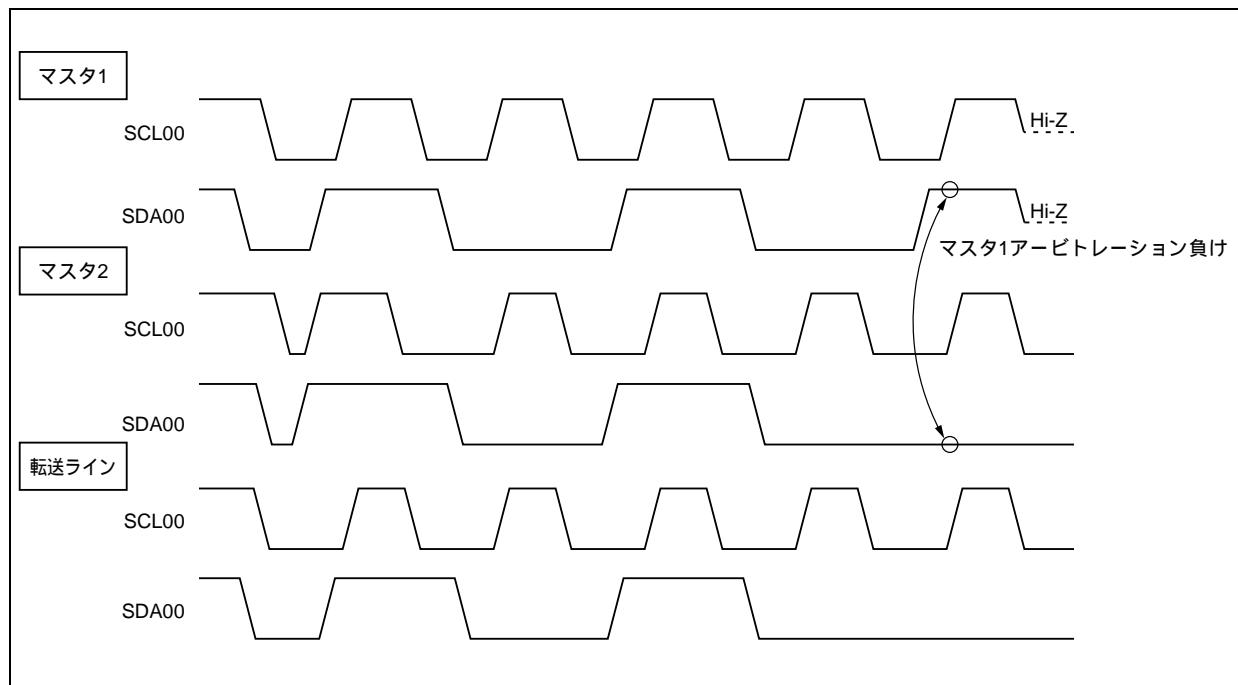


表20-8 アービトレーション発生時の状態と割り込み要求信号発生タイミング

アービトレーション発生時の状態	割り込み要求発生タイミング
アドレス送信中	バイト転送後8または9クロック目の立ち下がり ^{注1}
アドレス送信後のリード／ライト情報	
拡張コード送信中	
拡張コード送信後のリード／ライト情報	
データ送信中	
データ受信後のアクノリッジ転送期間中	
データ転送中、リストア・コンディション検出	ストップ・コンディション生成時 (IICC0.SPIE0ビット = 1時) ^{注2}
データ転送中、ストップ・コンディション検出	ストップ・コンディション生成時 (IICC0.WTIM0ビット = 1時) ^{注1}
リストア・コンディションを生成しようとしたがSDA00端子がロウ・レベル	バイト転送後8または9クロック目の立ち下がり ^{注1}
リストア・コンディションを生成しようとしたがストップ・コンディション検出	ストップ・コンディション生成時 (SPIE0ビット = 1時) ^{注2}
ストップ・コンディションを生成しようとしたがSDA00端子がロウ・レベル	バイト転送後8または9クロック目の立ち下がり ^{注1}
リストア・コンディションを生成しようとしたがSCL00端子がロウ・レベル	

注1. IICC0.WTIM0ビット = 1の場合には、9クロック目の立ち下がりタイミングでINTIIC0信号を発生します。

WTIM0ビット = 0および拡張コードのスレーブ・アドレス受信時には、8クロック目の立ち下がりタイミングでINTIIC0信号を発生します。

2. アービトレーションが起こる可能性がある場合、マスタ動作ではSPIE0ビット = 1にしてください。

20.13 ウエイク・アップ機能

I²Cバスのスレーブ機能で、自局アドレスまたは拡張コードを受信したときに割り込み要求信号 (INTIIC0) が発生する機能です。アドレスが一致しないときは不要なINTIIC0信号を発生せず、効率よく処理できます。

スタート・コンディションを検出すると、ウエイク・アップ待機状態となります。マスタ (スタート・コンディションを生成した場合) でも、アービトレーション負けでスレーブになる可能性があるため、アドレスを送信しながらウエイク・アップ待機状態になります。

ただしストップ・コンディションを検出すると、ウエイク・アップ機能に関係なく、IICC0.SPIE0ビットの設定によって、INTIIC0信号の発生許可／禁止が決定します。

20. 14 通信予約

20. 14. 1 通信予約機能許可の場合 (IICF0.IICRSV0ビット = 0)

バスに不参加の状態で、次にマスタ通信を行いたい場合は、通信予約を行うことにより、バス解放時にスタート・コンディションを送信できます。この場合のバスの不参加とは次の2つの状態を含みます。

- ・アービトレーションでマスタにもスレーブにもなれなかった場合
- ・拡張コードを受信してスレーブとして動作しない(アクノリッジを返さず、IICC0.LREL0ビット = 1でバスを解放した)とき

バスに不参加の状態で、IICC0.STT0ビットをセット(1)すると、バスが解放されたあと(ストップ・コンディション検出後)に、自動的にスタート・コンディションを生成し、ウェイト状態になります。

バスの解放を検出(ストップ・コンディション検出)すると、IIC0レジスタ・ライト操作により、マスタとしてのアドレス転送を開始します。このとき、IICC0.SPIE0ビットをセット(1)しておいてください。

STT0ビットをセット(1)したとき、スタート・コンディションとして動作するか通信予約として動作するかはバスの状態により決定されます。

- | | | |
|---------------------|-------|----------------|
| バスが解放されているとき | | スタート・コンディション生成 |
| バスが解放されていないとき(待機状態) | .. | 通信予約 |

通信予約として動作するのかどうかを確認するには、STT0ビットをセット(1)し、ウェイト時間をとったあと、IICS0.MSTS0ビットを確認することで行います。

ウェイト時間は、表20-9に示す時間をソフトウェアにより確保してください。

表20-9 ウエイト時間

IICX0. CLX0	IICCL0.			I ² Cn0の選択クロック	ウエイト時間 (fx _x クロック数)	
	SMC0	CL01	CL00		OB_7B.PRSI = 0設定時	OB_7B.PRSI = 1設定時
0	0	0	0	f _{P1} /2 (OCKS0 = 10H設定時)	46クロック	92クロック
0	0	0	0	f _{P1} /3 (OCKS0 = 11H設定時)	69クロック	138クロック
0	0	0	0	f _{P1} /4 (OCKS0 = 12H設定時)	92クロック	184クロック
0	0	0	0	f _{P1} /5 (OCKS0 = 13H設定時)	115クロック	230クロック
0	0	0	0	f _{P1} (OCKS0 = 18H設定時)	23クロック	46クロック
0	0	0	1	f _{P1} /2 (OCKS0 = 10H設定時)	86クロック	172クロック
0	0	0	1	f _{P1} /3 (OCKS0 = 11H設定時)	129クロック	258クロック
0	0	0	1	f _{P1} /4 (OCKS0 = 12H設定時)	172クロック	344クロック
0	0	0	1	f _{P1} /5 (OCKS0 = 13H設定時)	215クロック	430クロック
0	0	1	0	f _{P1}	43クロック	86クロック
0	0	1	1	f _{P1} /2 (OCKS0 = 10H設定時)	68クロック	136クロック
0	0	1	1	f _{P1} /3 (OCKS0 = 11H設定時)	102クロック	204クロック
0	0	1	1	f _{P1} /4 (OCKS0 = 12H設定時)	136クロック	-
0	0	1	1	f _{P1} /5 (OCKS0 = 13H設定時)	170クロック	-
0	0	1	1	f _{P1} (OCKS0 = 18H設定時)	34クロック	68クロック
0	1	0	x	f _{P1} /2 (OCKS0 = 10H設定時)	30クロック	60クロック
0	1	0	x	f _{P1} /3 (OCKS0 = 11H設定時)	45クロック	90クロック
0	1	0	x	f _{P1} /4 (OCKS0 = 12H設定時)	60クロック	120クロック
0	1	0	x	f _{P1} /5 (OCKS0 = 13H設定時)	75クロック	150クロック
0	1	1	0	f _{P1}	15クロック	30クロック
0	1	1	1	f _{P1} /2 (OCKS0 = 10H設定時)	24クロック	48クロック
0	1	1	1	f _{P1} /3 (OCKS0 = 11H設定時)	36クロック	72クロック
0	1	1	1	f _{P1} /4 (OCKS0 = 12H設定時)	48クロック	-
0	1	1	1	f _{P1} /5 (OCKS0 = 13H設定時)	60クロック	-
0	1	1	1	f _{P1} (OCKS0 = 18H設定時)	12クロック	24クロック
1	1	0	x	f _{P1} /2 (OCKS0 = 10H設定時)	18クロック	36クロック
1	1	0	x	f _{P1} /3 (OCKS0 = 11H設定時)	27クロック	54クロック
1	1	0	x	f _{P1} /4 (OCKS0 = 12H設定時)	36クロック	72クロック
1	1	0	x	f _{P1} /5 (OCKS0 = 13H設定時)	45クロック	90クロック
1	1	1	0	f _{P1}	9クロック	18クロック

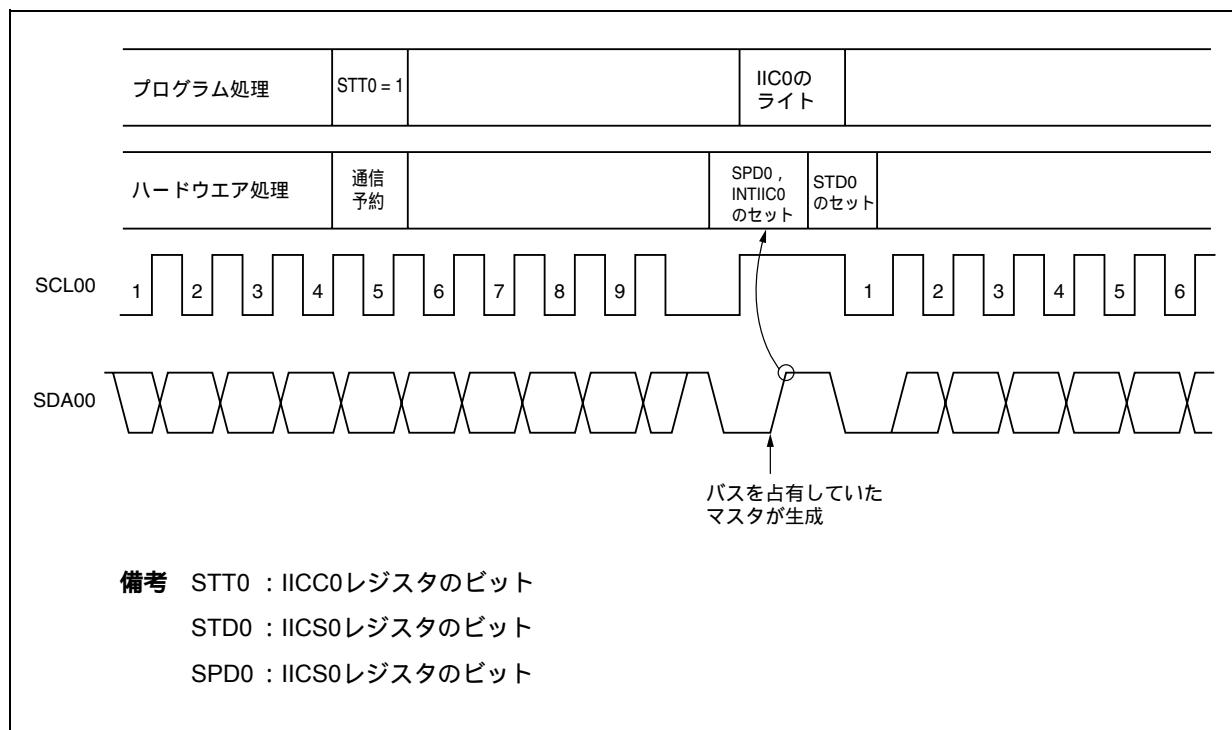
備考1. x = Don't care

2. OB_7B.PRSI = 0設定時 : f_{P1} = fx_x

OB_7B.PRSI = 1設定時 : f_{P1} = fx_x/2

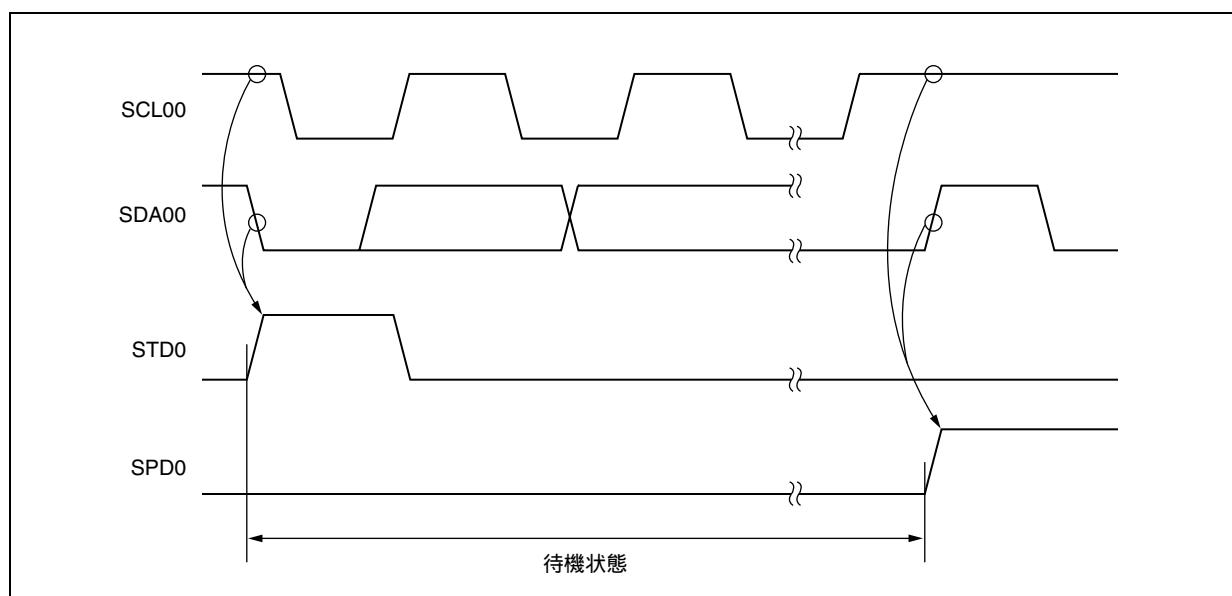
通信予約のタイミングを次に示します。

図20-13 通信予約のタイミング



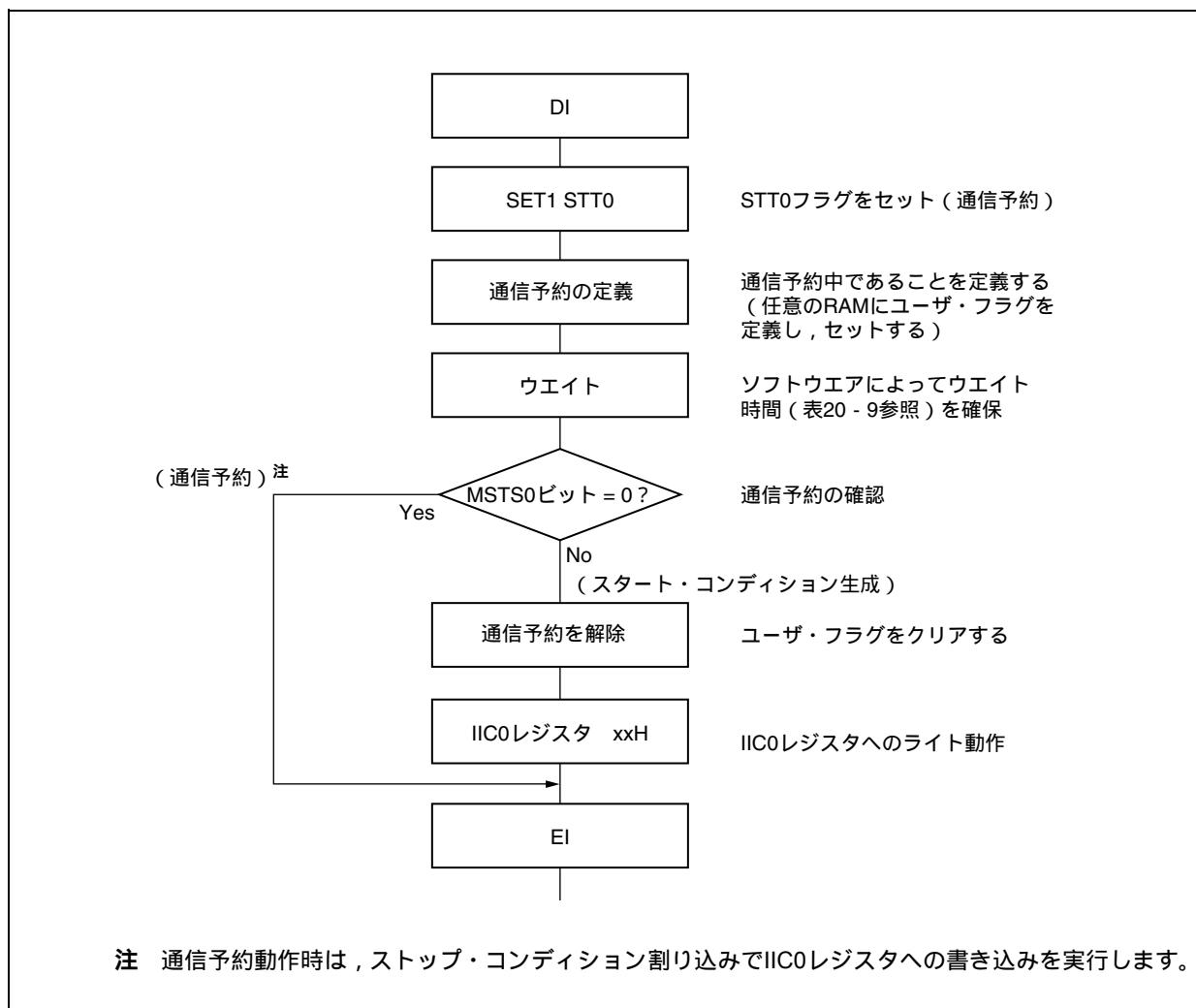
通信予約は次のタイミングで受け付けられます。IICS0.STD0ビット = 1になったあと、ストップ・コンディション検出までにIICC0.STT0ビット = 1で通信予約をします。

図20-14 通信予約受け付けタイミング



次に通信予約の手順を示します。

図20-15 通信予約の手順



20.14.2 通信予約機能禁止の場合 (IICF0.IICRSV0ビット = 1)

バスが通信中で、この通信に不参加の状態でIICC0.STT0ビットをセットすると、この要求を拒絶しスタート・コンディションを生成しません。この場合のバスの不参加とは次の2つの状態を含みます。

- アービトレーションでマスタにもスレーブにもなれなかった場合
- 拡張コードを受信してスレーブとして動作しない(アクノリッジを返さず、IICC0.LREL0ビット = 1でバスを解放した)とき。

スタート・コンディションが生成されたか拒絶されたかを確認するには、IICF0.STCF0フラグを確認することにより行います。STT0ビット = 1としてからSTCF0フラグがセットされるまで表20-10に示す時間がかかりますので、ソフトウェアによりこの時間を確保してください。

表20-10 ウエイト時間

OCKSEN0	OCKS01	OCKS00	CL01	CL00	ウエイト時間
1	0	0	0	X	6クロック
1	0	1	0	X	9クロック
1	1	0	0	X	12クロック
1	1	1	0	X	15クロック
0	0	0	1	0	3クロック

備考 X : Don't care

20.15 注意事項

(1) IICF0.STCEN0ビット = 0の場合

I²C0動作許可直後、実際のバス状態にかかわらず通信状態 (IICF0.IICBSY0ビット = 1) と認識します。ストップ・コンディションを検出していない状態からマスタ通信を行おうとする場合は、まずストップ・コンディションを生成し、バスを解放してからマスタ通信を行ってください。

ストップ・コンディションの生成は次の順番で行ってください。

IICCL0レジスタの設定

IICC0.IICE0ビットのセット

IICC0.SPT0ビットのセット

(2) IICF0.STCEN0ビット = 1の場合

I²C0動作許可直後、実際のバス状態にかかわらず解放状態 (IICBSY0ビット = 0) と認識しますので、1回目のスタート・コンディションを生成 (IICC0.STT0ビット = 1) する場合は、ほかの通信を破壊しないようにバスが解放されていることを確認する必要があります。

(3) ほかのデバイス同士の通信中にマイクロ・コントローラのIICC0.IICE0ビットをセット(1)した場合、通信ラインの状態によってスタート・コンディションを検出することがあります。IICC0.IICE0ビットのセット(1)は、必ずSCL00, SDA00ラインがハイ・レベルの状態で行ってください。

(4) 動作許可 (IICC0.IICE0ビット = 1) する前にIICCL0, IICX0, OCKS0レジスタで動作クロック周波数を決定してください。動作クロック周波数を変更する場合は、一度IICC0.IICE0ビットをクリア(0)してください。

(5) IICC0.STT0, SPT0ビットをセット(1)したあと、クリア(0)される前の再セットは禁止します。

(6) 送信予約をした場合には、IICC0.SPIE0ビットをセット(1)してストップ・コンディション検出で割り込み要求が発生するようにしてください。割り込み要求発生後にI²C0に通信データをライトすることによってウエイトが解除され転送が開始します。ストップ・コンディション検出で割り込みを発生させないと、スタート時には割り込み要求が発生しないため、ウエイト状態で停止します。ただし、ソフトウェアでIICS0.MSTS0ビットを検出する場合には、SPIE0ビットをセット(1)する必要はありません。

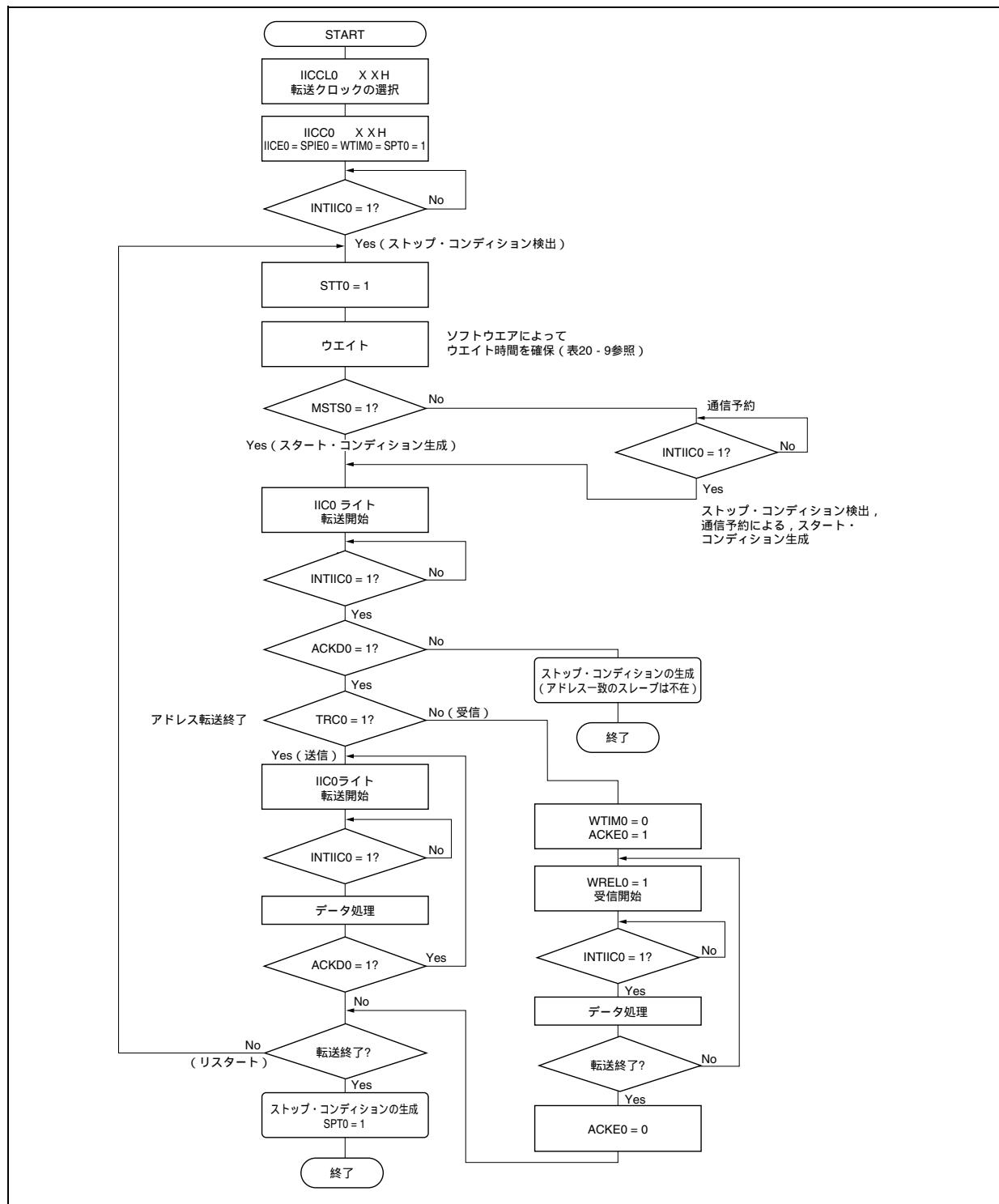
20. 16 通信動作

備考 第2章 端子機能を参照して、通信動作を行う前にP914, P915端子をI²Cモード（SDA00, SCL00）に設定してください。

20. 16. 1 マスタ動作1

通信予約機能許可（IICF0.IICRSV0ビット = 0），およびストップ・コンディション検出後スタート時（IICF0.STCEN0ビット = 0）におけるマスタ通信手順の例を次に示します。

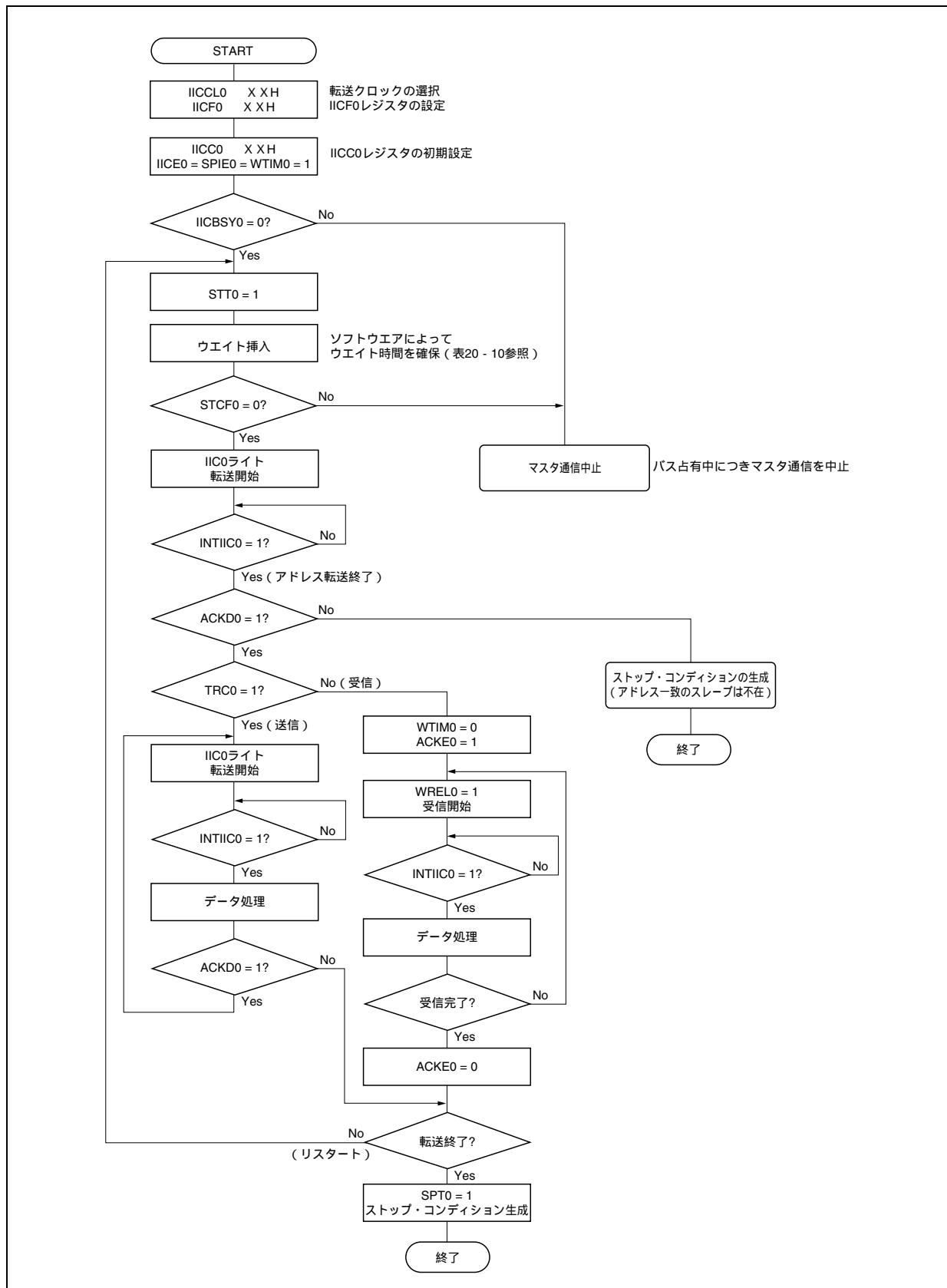
図20 - 16 マスタ動作手順（1）



20.16.2 マスタ動作2

通信予約機能禁止 (IICRSV0ビット = 1) およびストップ・コンディション未検出によるスタート (STCEN0ビット = 1) 時における通信手順の例を次に示します。

図20-17 マスタ動作手順 (2)



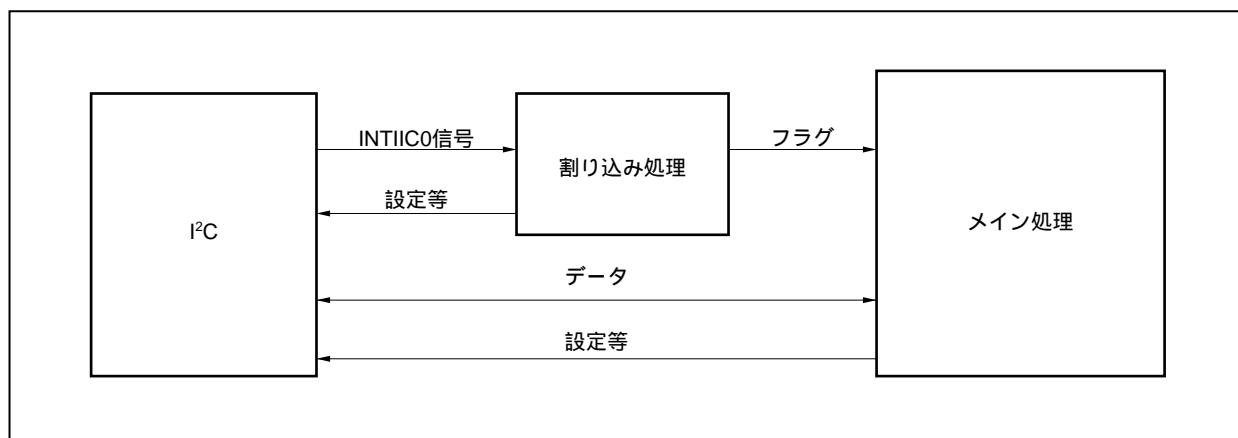
20.16.3 スレープ動作

スレープ動作の処理手順を次に示します。

基本的にスレープの場合には、イベント・ドリブンでの動作となります。このためINTIIC0割り込みによる処理（通信中のストップ・コンディション検出など、動作状態を大きく変更する必要がある処理）が必要となります。

この説明では、データ通信は拡張コードには対応しないものとします。またINTIIC0割り込み処理では状態遷移の処理だけを行い、実際のデータ通信はメイン処理で行うものとします。

図20-18 スレープ動作時のソフトウェア概要



このため、3つのフラグを準備し、これをINTIIC0信号の代わりにメイン処理に渡すことでデータ転送処理を行います。

(1) 通信モード・フラグ

次の2つの通信状態を示します。

- | | |
|---------|--|
| クリア・モード | : データ通信を行っていない状態 |
| 通信モード | : データの通信を行っている状態 (有効アドレス検出～ストップ・コンディション検出、マスタからのアクノリッジ未検出、アドレス不一致) |

(2) レディ・フラグ

データ通信が可能になったことを示します。通常のデータ転送ではINTIIC0割り込みと同じです。割り込み処理部でセットし、メイン処理部でクリアします。通信の開始時には、割り込み処理部でクリアしておきます。ただし、送信の最初のデータについては、レディ・フラグは割り込み処理部でセットされませんので、クリア処理をしないで最初のデータを送信することになります（アドレス一致自体が次のデータの要求と解釈します）。

(3) 通信方向フラグ

通信の方向を示すフラグで、IICS0.TRC0ビットの値と同じです。

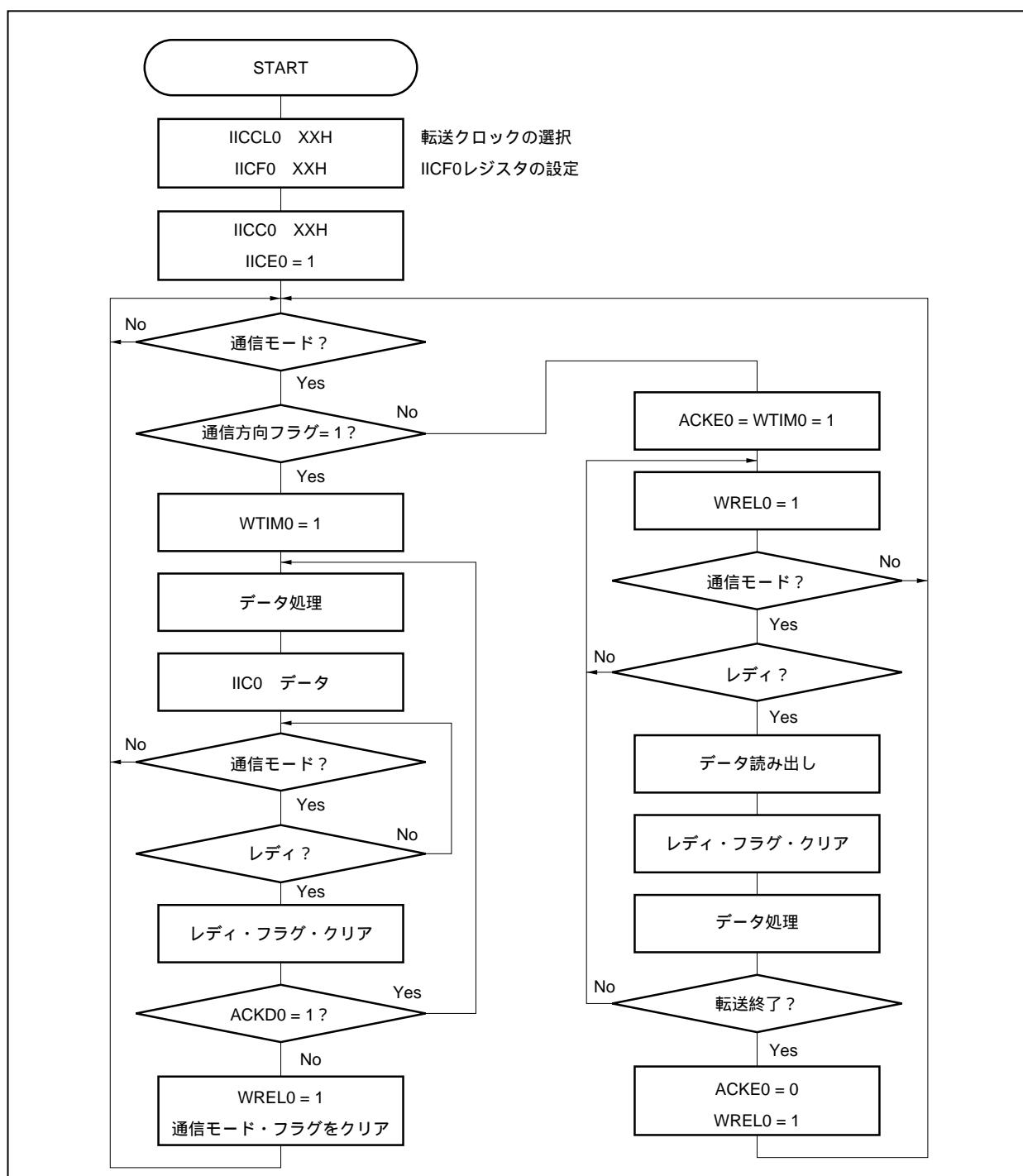
次にスレーブ動作でのメイン処理部の動作を示します。

I²C00を起動し、通信可能状態になるのを待ちます。通信可能状態になったら、通信モード・フラグとレディ・フラグを使って転送を行います（トップ・コンディションやスタート・コンディションの処理は割り込みで行いますので、ここではフラグで確認します）。

送信ではマスタからアクノリッジが来なくなるまで送信動作を繰り返します。マスタからアクノリッジが戻らなかったら転送を完了します。

受信では必要な数のデータを受信し、転送完了したら次のデータでアクノリッジを戻さないようにします。その後、マスタはトップ・コンディションまたはリストート・コンディションを発行します。これにより、通信状態から抜け出します。

図20-19 スレーブ動作手順(1)



スレーブのINTIIC0割り込みでの処理手順例を示します(ここでは拡張コードはないものとして処理します)。INTIIC0割り込みではステータスを確認して、次のように行います。

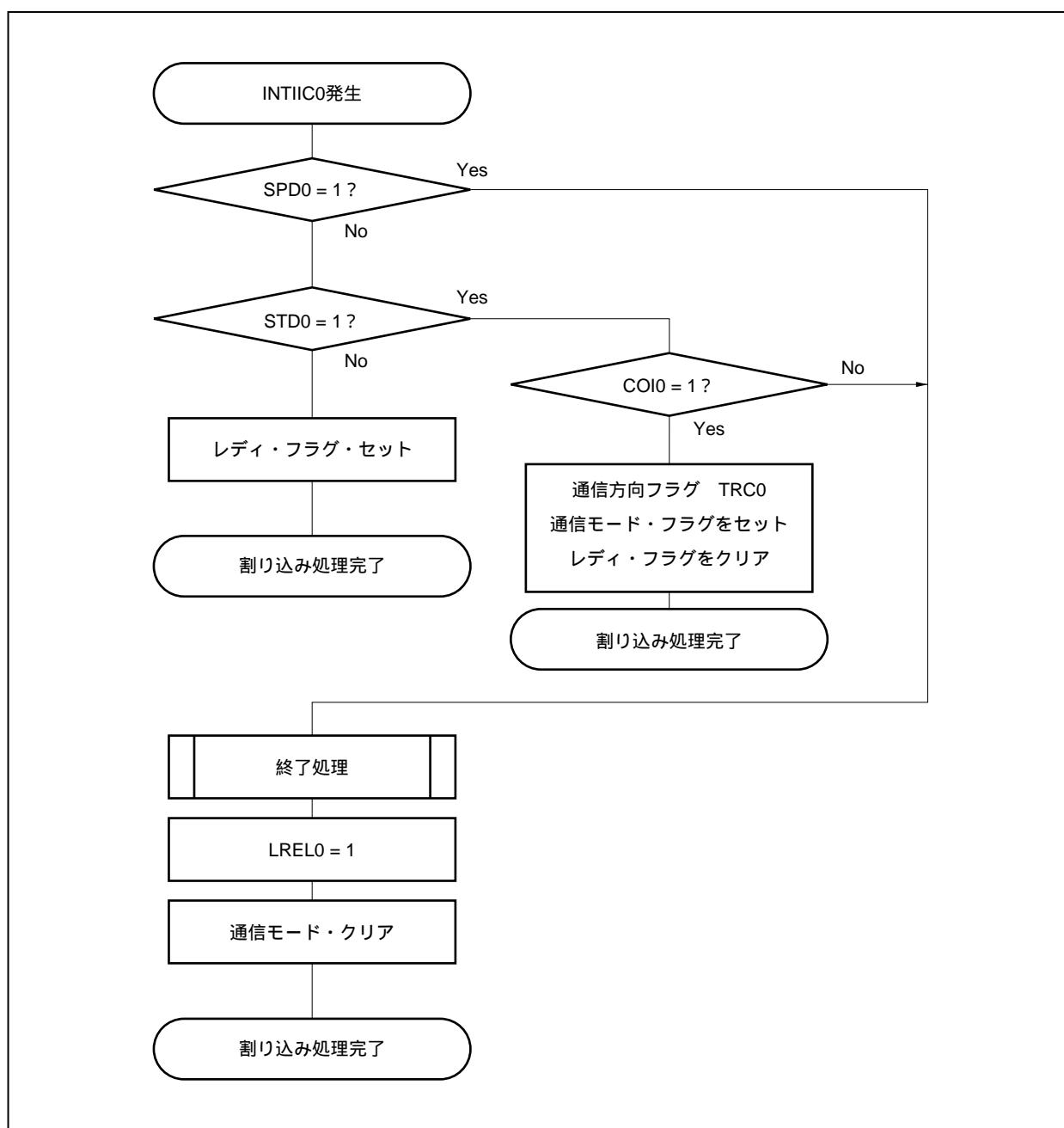
ストップ・コンディションの場合、通信を終了します。

スタート・コンディションの場合、アドレスを確認し、一致していないければ通信を終了します。アドレスが一致していれば、モードを通信モードに設定し、ウェイトを解除して、割り込みから戻ります(レディ・フラグはクリアする)。

データ送受信の場合、レディ・フラグをセットするだけで、I²C00バスはウェイト状態のまま、割り込みから戻ります。

備考 上述の～は、図20-20 スレーブ動作手順(2)の～と対応しています。

図20-20 スレーブ動作手順(2)



20.17 データ通信のタイミング

I²Cバス・モードでは、マスタがシリアル・バス上にアドレスを出力することで複数のスレーブ・デバイスの中から通信対象となるスレーブ・デバイスを1つ選択します。

マスタは、スレーブ・アドレスの次にデータの転送方向を示すIIC0.TR0ビットを送信し、スレーブとのシリアル通信を開始します。

シリアル・クロック端子（SCL00）の立ち下がりに同期してIIC0レジスタのシフト動作が行われ、送信データがSOラッチに転送され、SDA00端子からMSBファーストで出力されます。

また、SCL00端子の立ち上がりでSDA00端子に入力されたデータがIIC0レジスタに取り込まれます。

データ通信のタイミングを次に示します。

図20-21 マスタ スレーブ通信例(マスタ,スレーブとも9クロック・ウェイト選択時)(1/3)

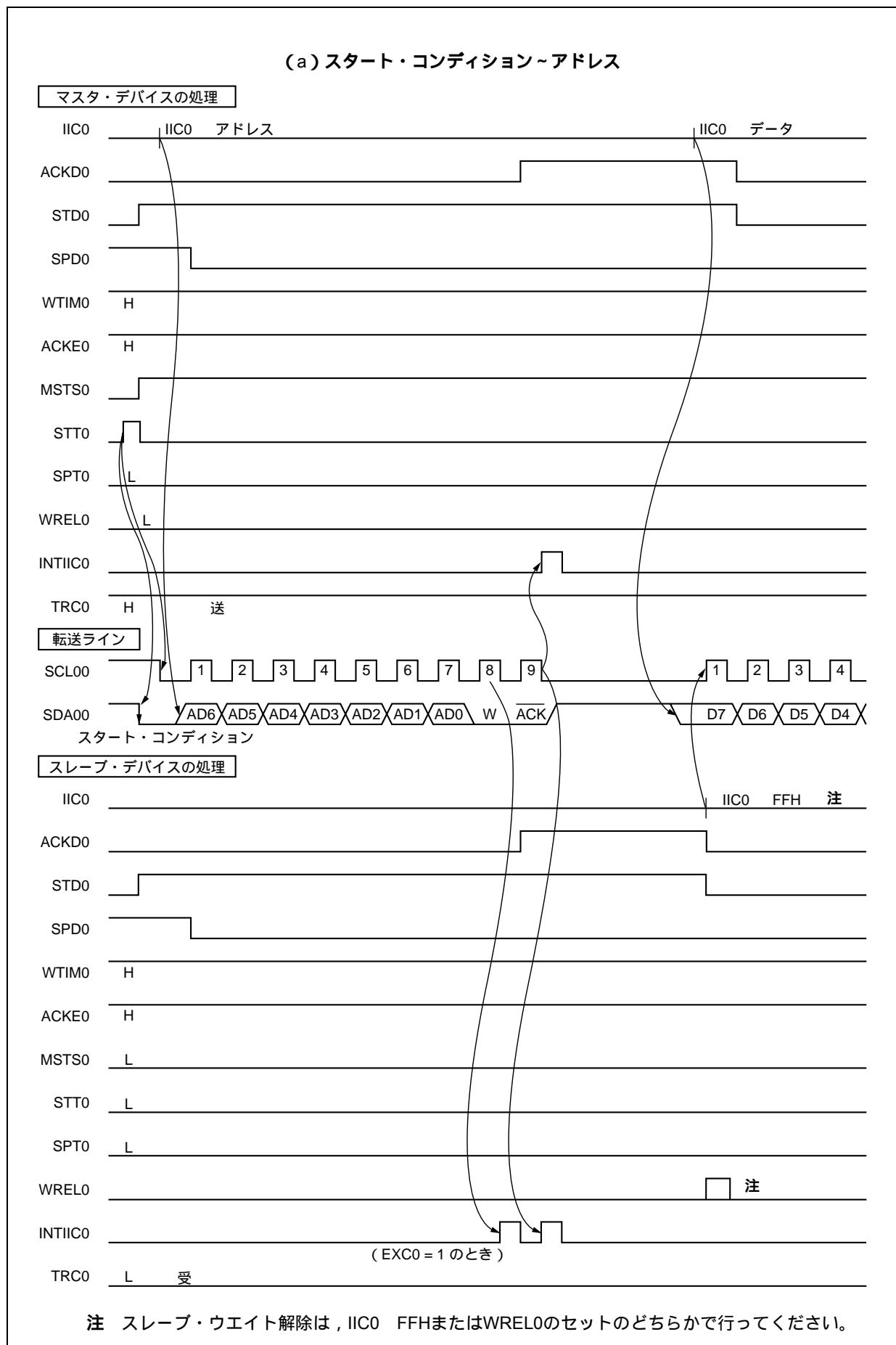


図20-21 マスタ スレーブ通信例(マスタ,スレーブとも9クロック・ウェイト選択時)(2/3)

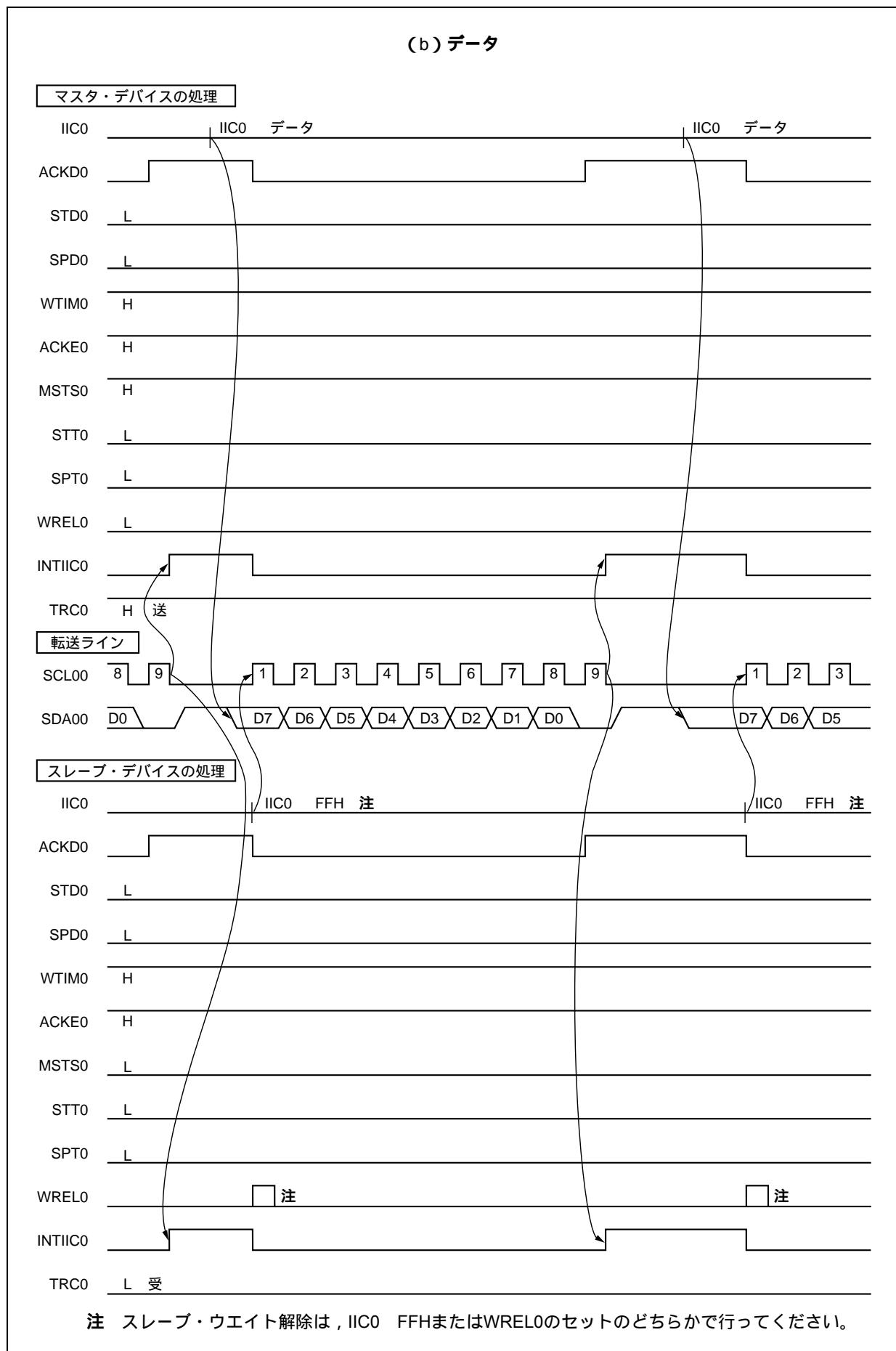


図20-21 マスタ スレーブ通信例(マスタ,スレーブとも9クロック・ウェイト選択時)(3/3)

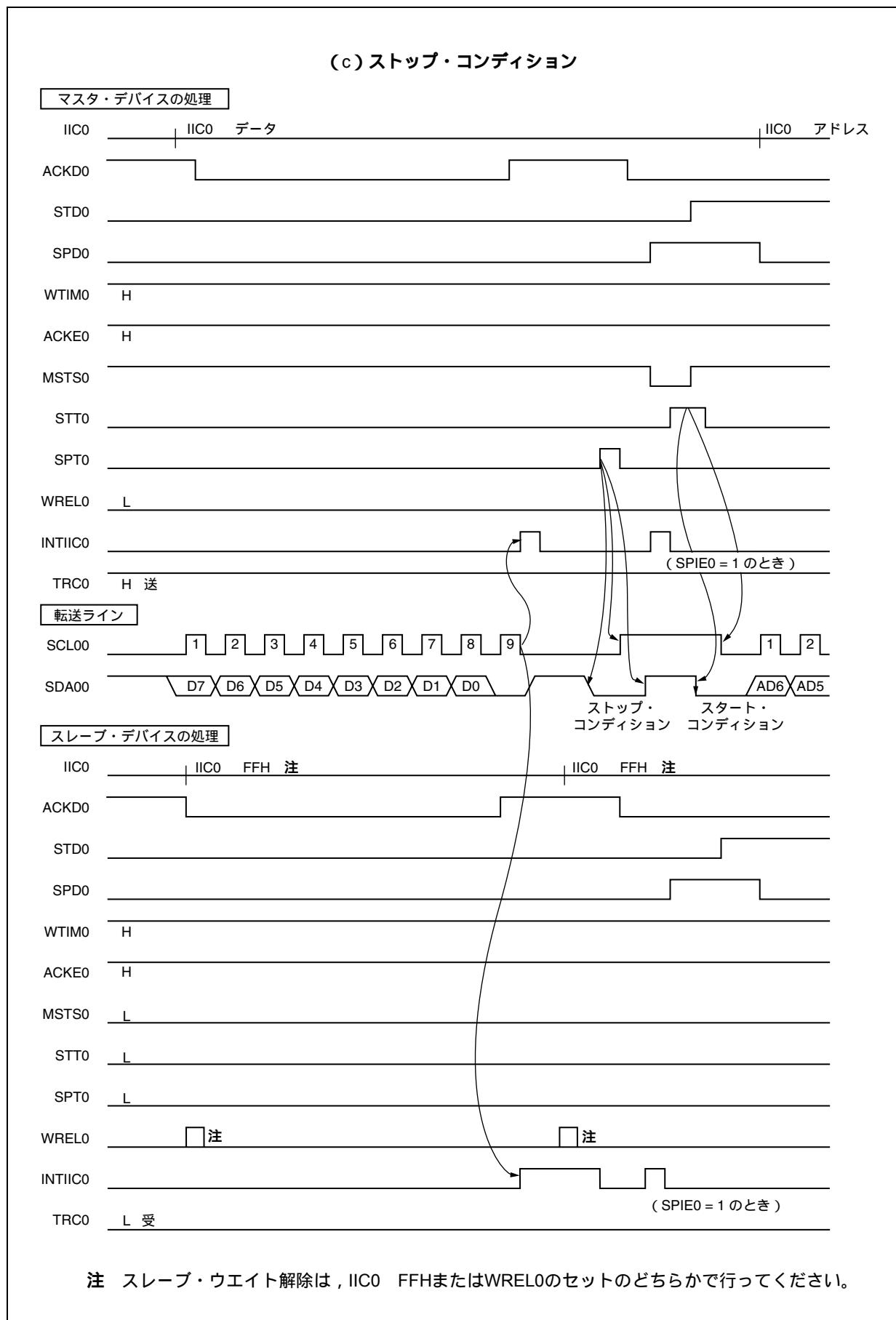


図20-22 スレーブ マスタ通信例(マスタ,スレーブとも9クロック・ウェイト選択時)(1/3)

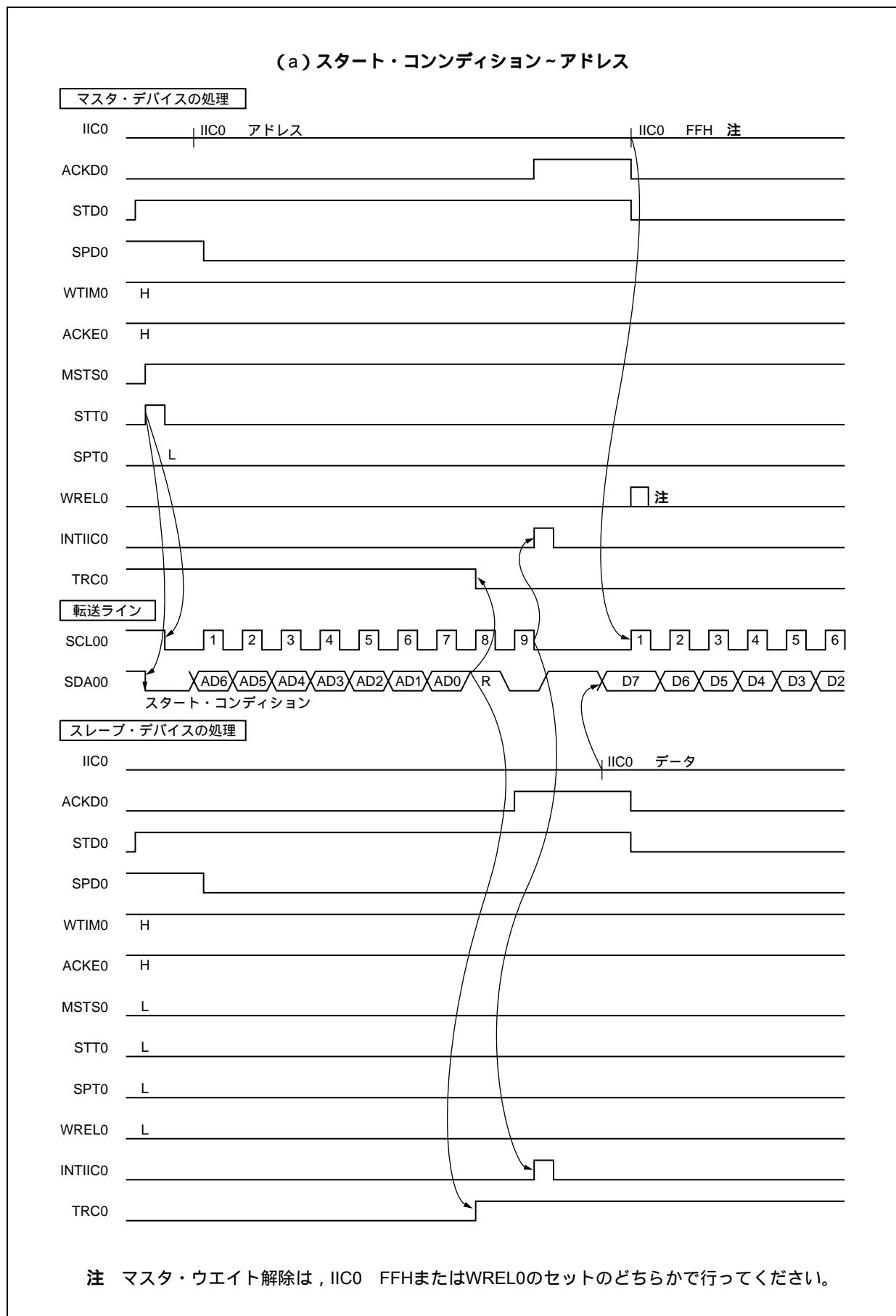


図20-22 スレーブ マスタ通信例(マスタ,スレーブとも9クロック・ウェイト選択時)(2/3)

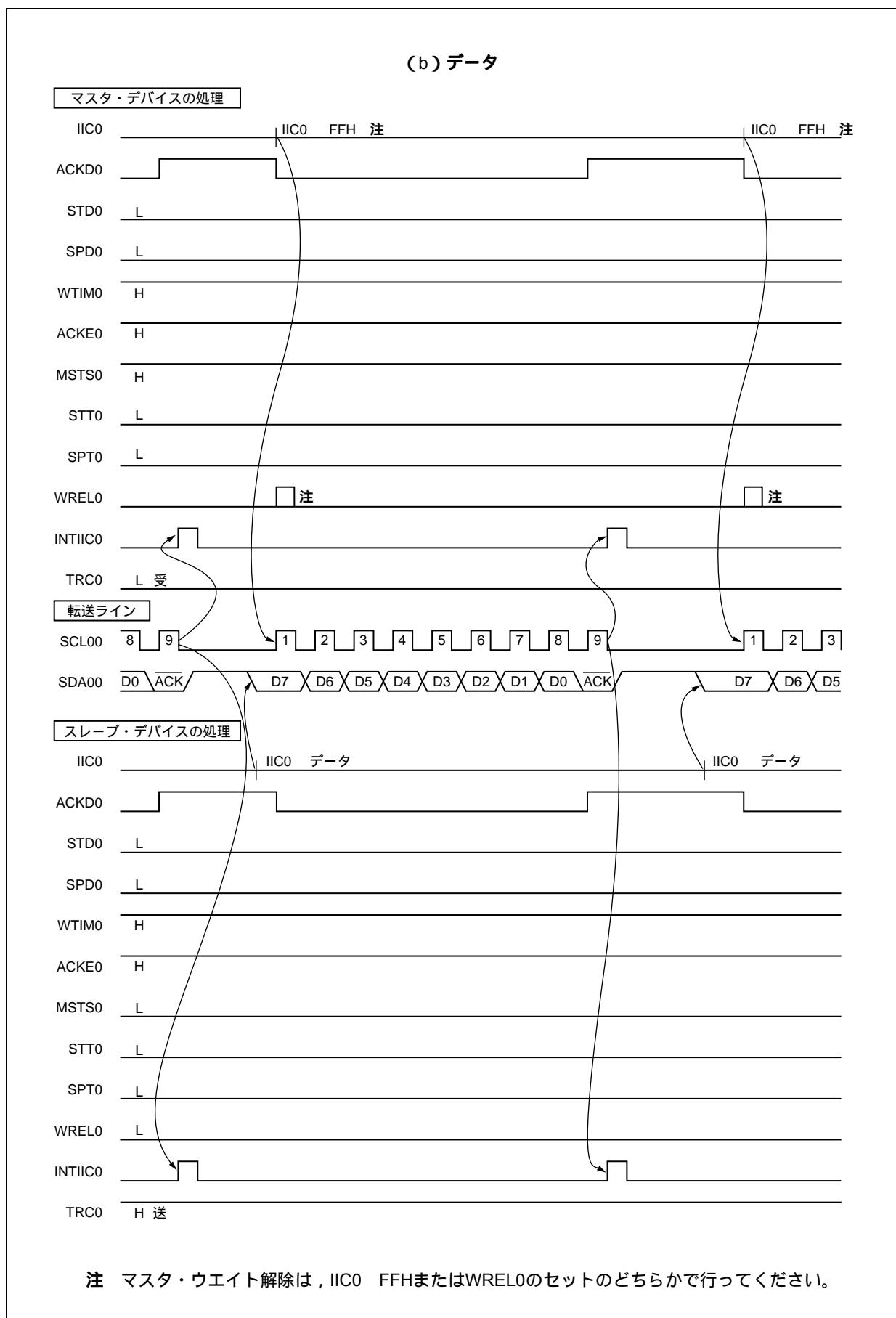
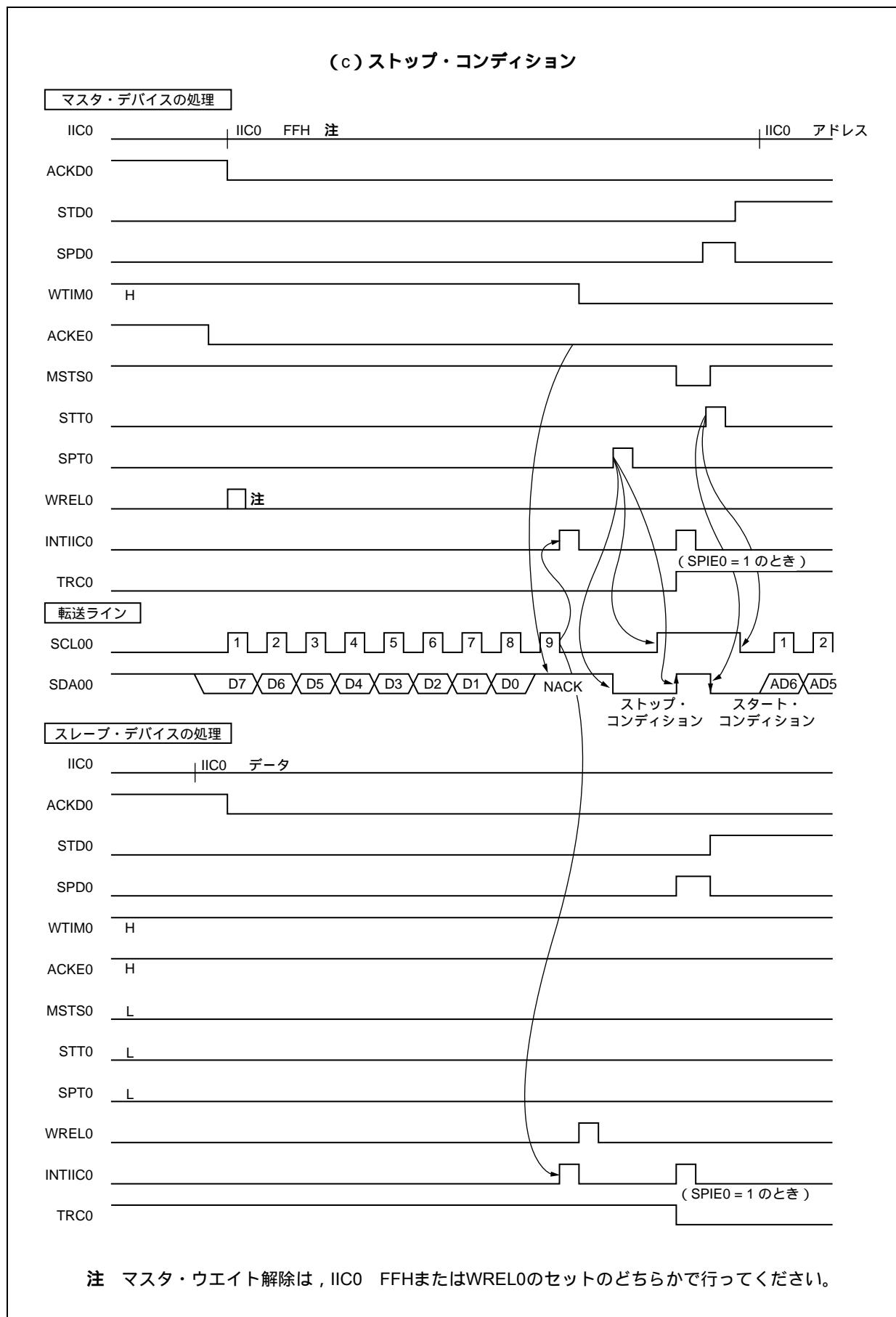


図20-22 スレーブ マスタ通信例(マスタ,スレーブとも9クロック・ウェイト選択時)(3/3)



第21章 CANコントローラ

21.1 概 要

本製品は、CANプロトコルISO11898に準拠したCAN (Controller Area Network) コントローラを内蔵しています。次の表に各製品のチャネル数を示します。

製 品	V850ES/FE3	V850ES/FF3	V850ES/FG3	V850ES/FJ3		V850ES/FK3
				μ PD70F3378	μ PD70F3379, μ PD70F3380, μ PD70F3381, μ PD70F3382	
CAN						
チャネル数	1	2	3	4	5	
名 称	CAN0	CAN0, CAN1	CAN0-CAN2	CAN0-CAN3	CAN0-CAN4	

21.1.1 特 徴

CANプロトコルISO11898準拠，ISO/DIS16845 (CANコンフォーマンス・テスト) 実施

標準フレーム，拡張フレームの送信／受信が可能

転送速度 最大1 Mbps (CANの入力クロック 8 MHz時)

32メッセージ・バッファ / 1チャネル

受信 / 送信ヒストリ・リスト機能

自動ブロック送信機能

マルチ・バッファ受信ブロック機能

チャネルごとに4パターンのマスクを設定可能

備考 n = 0 (V850ES/FE3, V850ES/FF3)

n = 0, 1 (V850ES/FG3)

n = 0-2 (V850ES/FJ3の μ PD70F3378)

n = 0-3 (V850ES/FJ3の μ PD70F3379, 70F3380, 70F3381, 70F3382)

n = 0-4 (V850ES/FK3)

m = 0-31

この章ではn = 0-4, m = 0-31の場合について記述しています。

21.1.2 機能概要

表21-1に機能概要を示します。

表21-1 機能概要

機能	詳細
プロトコル	CANプロトコル ISO11898（標準および拡張フレームの送受信）
ポートレート	最大1 Mbps (CANクロック入力 8 MHz時)
データ・ストレージ	CAN専用RAMにメッセージを格納
メッセージ数	<ul style="list-style-type: none"> ・32メッセージ・バッファ / 1チャネル ・各メッセージ・バッファは、送信メッセージ・バッファまたは受信メッセージ・バッファとして設定可能
メッセージ受信	<ul style="list-style-type: none"> ・各メッセージ・バッファに固有のIDを設定可能 ・チャネルごとに4パターンのマスクを設定可能 ・メッセージ・バッファごとに受信完了割り込みの許可 / 禁止が設定可能 ・複数の受信用メッセージ・バッファをFIFO受信のバッファとして使用することが可能（マルチ・バッファ受信ロック機能） ・受信ヒストリ・リスト機能
メッセージ送信	<ul style="list-style-type: none"> ・各メッセージ・バッファに固有のIDを設定可能 ・メッセージ・バッファごとに送信完了割り込みの許可 / 禁止が設定可能 ・送信メッセージ・バッファとして指定されたメッセージ・バッファ番号0-7は、自動ブロック転送に使用可能、またメッセージ送信間隔はプログラマブルに変更可能（自動ブロック送信機能（以下、ABTと記述）） ・送信ヒストリ・リスト機能
リモート・フレーム処理	送信用メッセージ・バッファによるリモート・フレーム処理
タイム・スタンプ機能	<ul style="list-style-type: none"> ・16ビット・タイマとの併用でメッセージ受信に対してタイム・スタンプ機能を設定可能 ・タイム・スタンプ・キャプチャ・トリガの選択が可能（CANメッセージ・フレーム内のSOFまたはEOF検出に切り替え可能）
診断機能	<ul style="list-style-type: none"> ・リード可能なエラー・カウンタ ・バス接続確認用“有効プロトコル動作フラグ” ・受信オンリー・モード ・シングル・ショット・モード ・CANプロトコル・エラーの判別 ・セルフ・テスト・モード
バスオフ復帰機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトウェアにより強制的にバスオフから復帰させることが可能（タイミングの制約を無視） ・バスオフからの自動復帰不可（ソフトウェアによる復帰要求が必要）
パワー・セーブ・モード	<ul style="list-style-type: none"> ・CANスリープ・モード（CANバスによりウエイク・アップ可能） ・CANストップ・モード（CANバスによるウエイク・アップ不可）

21.1.3 構成

CANコントローラは、次の4つのブロックから構成されています。

(1) NPBインターフェース

NPB(NEC周辺I/Oバス)とのインターフェースと、CAN内部モジュールとCPUとのインターフェースを行うための機能ブロックです。

(2) MCM (Memory Control Module)

CANモジュール内のCANプロトコル・レイヤとCAN RAMへのアクセスを制御している機能ブロックです。

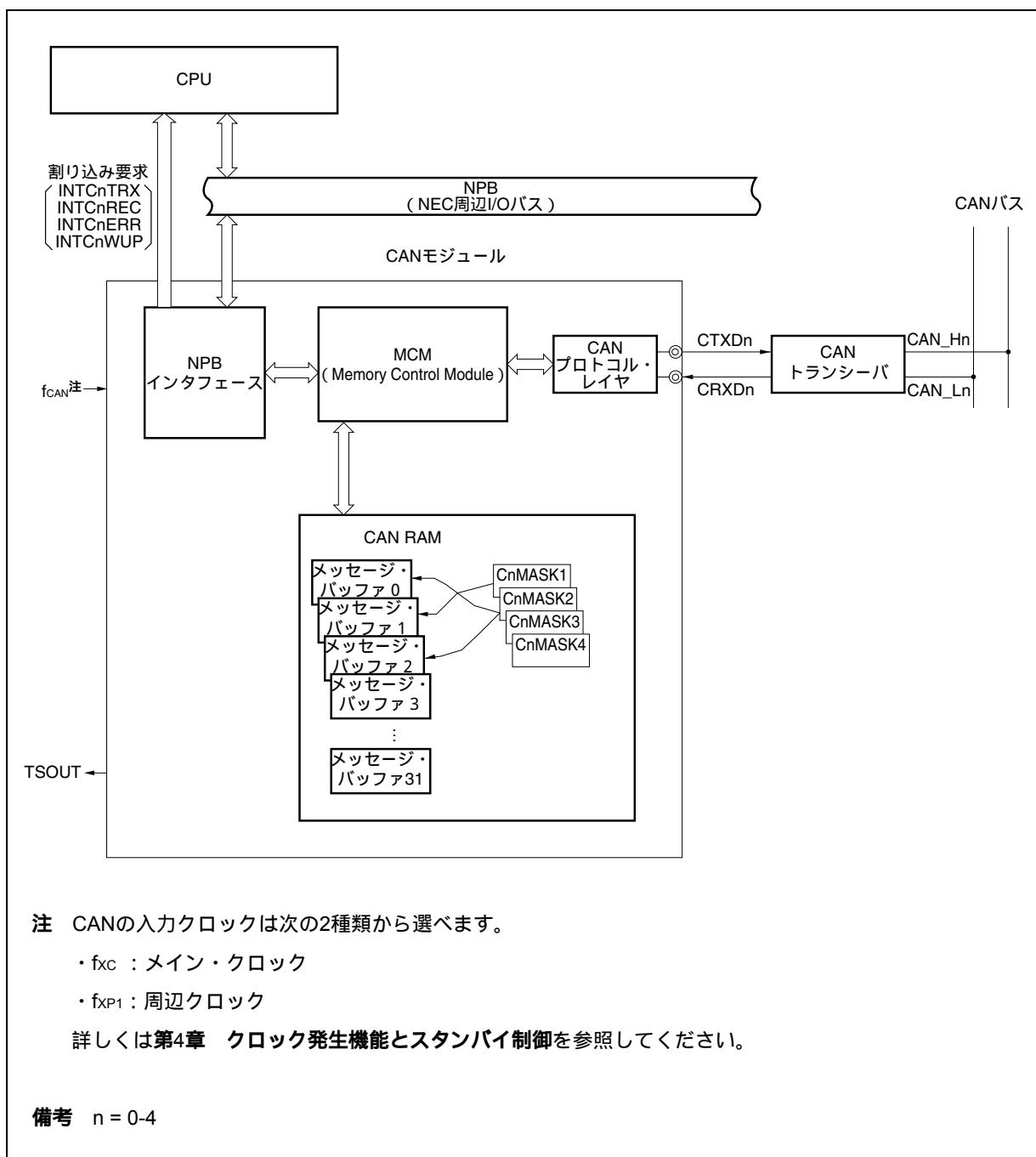
(3) CANプロトコル・レイヤ

CANのプロトコル・レイヤとその設定を行う機能ブロックです。

(4) CAN RAM

メッセージIDやメッセージ・データなどを格納するCAN専用のメモリ機能ブロックです。

図21-1 CANのブロック図



注 CANの入力クロックは次の2種類から選べます。

- f_{XC} : メイン・クロック
- f_{XP1} : 周辺クロック

詳しくは第4章 クロック発生機能とスタンバイ制御を参照してください。

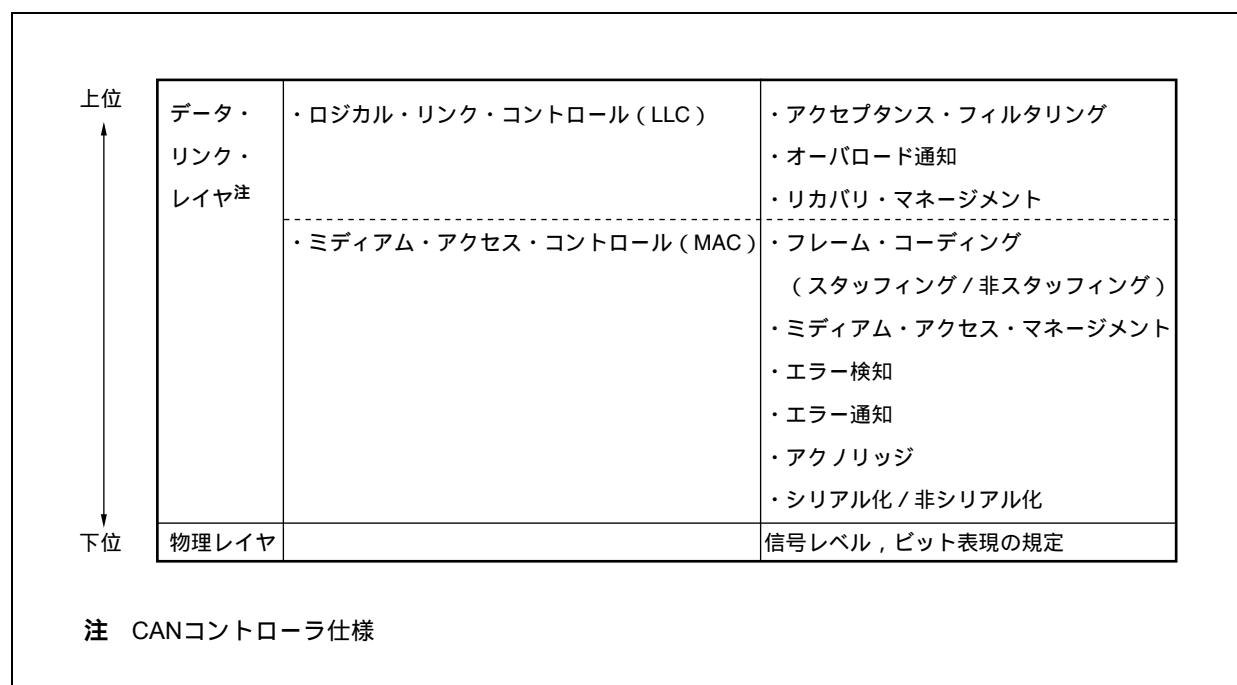
備考 $n = 0\text{--}4$

21.2 CANプロトコル

CAN(Controller Area Network)は、車輛内リアルタイム通信用(クラスC)高速多重通信プロトコルです。CANはISO 11898で規定されています。詳細は、ISO 11898仕様を参照してください。

CANの仕様は、大きく分けて2つのレイヤ(物理レイヤとデータ・リンク・レイヤ)に分類されます。さらに、データ・リンク・レイヤは、ロジカル・リンク・コントロールとミディアム・アクセス・コントロールにより構成されています。各レイヤの構成は、次のようになります。

図21-2 各レイヤの構成



21.2.1 フレーム・フォーマット

(1) 標準フォーマット・フレーム

- 標準フォーマット・フレームでは、アイデンティファイアが11ビットのため、2048種類のメッセージを扱うことができます。

(2) 拡張フォーマット・フレーム

- 拡張フォーマット・フレームでは、アイデンティファイアが29ビット（11ビット + 18ビット）に拡張され、扱えるメッセージ数が 2048×2^{18} 個になります。
- アービトレーション・フィールドのSRR/IDEビットがともに“レセシブ・レベル”（CMOSレベル = 1）の場合、拡張フォーマット・フレームになります。

21.2.2 フレーム・タイプ

CANプロトコルのフレームは、次の4種類に分けられます。

表21-2 フレームの種類

フレーム種類	説明
データ・フレーム	データを送信するためのフレーム
リモート・フレーム	データ・フレームを要求するためのフレーム
エラー・フレーム	エラー検知を通知するためのフレーム
オーバロード・フレーム	次のデータ・フレームまたはリモート・フレームを遅らせるためのフレーム

(1) バスの値

バスの値には、ドミナントとレセシブの2通りがあります。

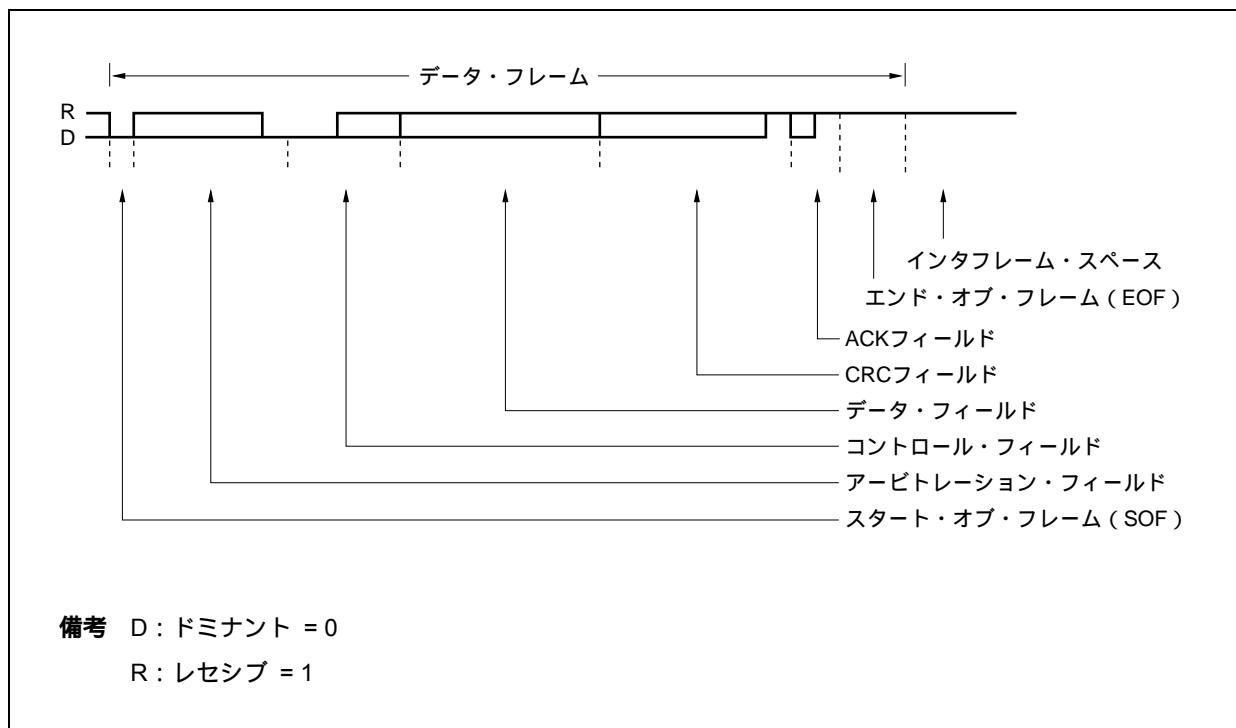
- ドミナント・レベルは論理0で表します。
- レセシブ・レベルは論理1で表します。
- ドミナント・レベルとレセシブ・レベルが同時送信された場合、バスの値はドミナント・レベルになります。

21.2.3 データ・フレーム/リモート・フレーム

(1) データ・フレーム

データ・フレームは、7つのフィールドにより構成されます。

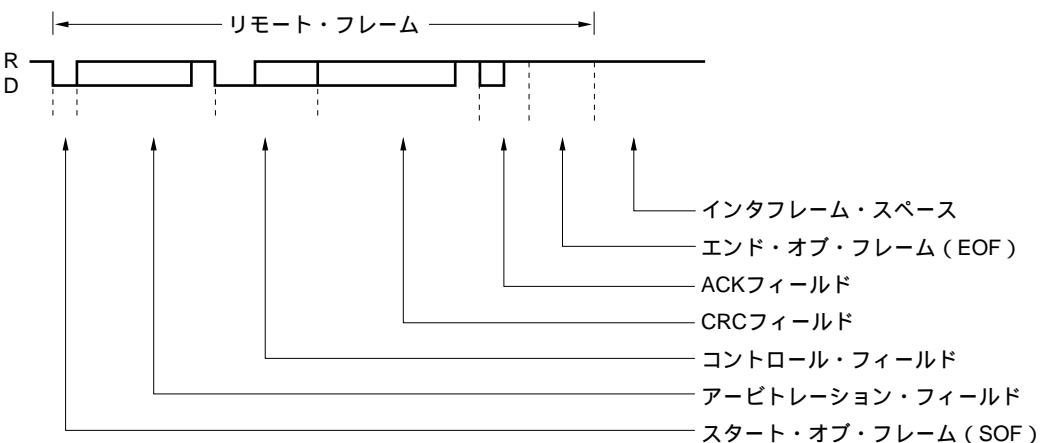
図21-3 データ・フレーム



(2) リモート・フレーム

リモート・フレームは、6つのフィールドにより構成されます。

図21-4 リモート・フレーム



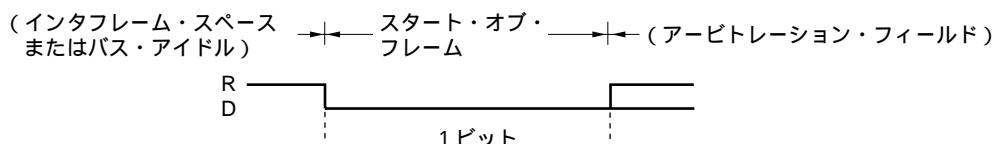
- 備考1.** コントロール・フィールドのデータ長コード “0000B” でもデータ・フィールドは転送しません。
2. D : ドミナント = 0
 R : レセシブ = 1

(3) 各フィールドの説明

スタート・オブ・フレーム (SOF)

スタート・オブ・フレームは、データ・フレーム、リモート・フレームの開始を示します。

図21-5 スタート・オブ・フレーム (SOF)



- 備考** D : ドミナント = 0
 R : レセシブ = 1

- バス・アイドル中にドミナント・レベルを検出すると、ハードウェア同期が実行されます（その際、該当するTQがシンク・セグメントになります）。
- ハードウェア同期に続くサンプル・ポイントで、ドミナント・レベルがサンプリングされると、そのビットはSOFになります。もし、レセシブ・レベルが検出されたときは、前述のドミナント・パルスはノイズと判断され、プロトコル・レイヤがバス・アイドル状態に戻ります。この場合はエラー・フレームを発生しません。

アービトレーション・フィールド

アービトレーション・フィールドは、プライオリティ、データ・フレーム/リモート・フレーム、フレーム・フォーマットの設定をします。

図21-6 アービトレーション・フィールド（標準フォーマット・モード時）

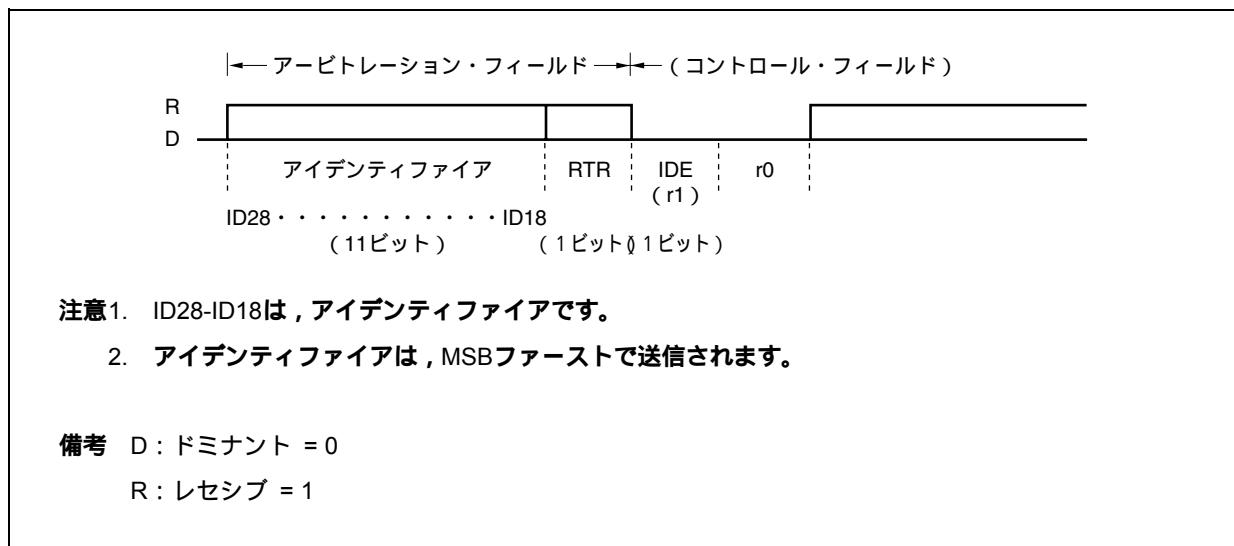


図21-7 アービトレーション・フィールド（拡張フォーマット・モード時）

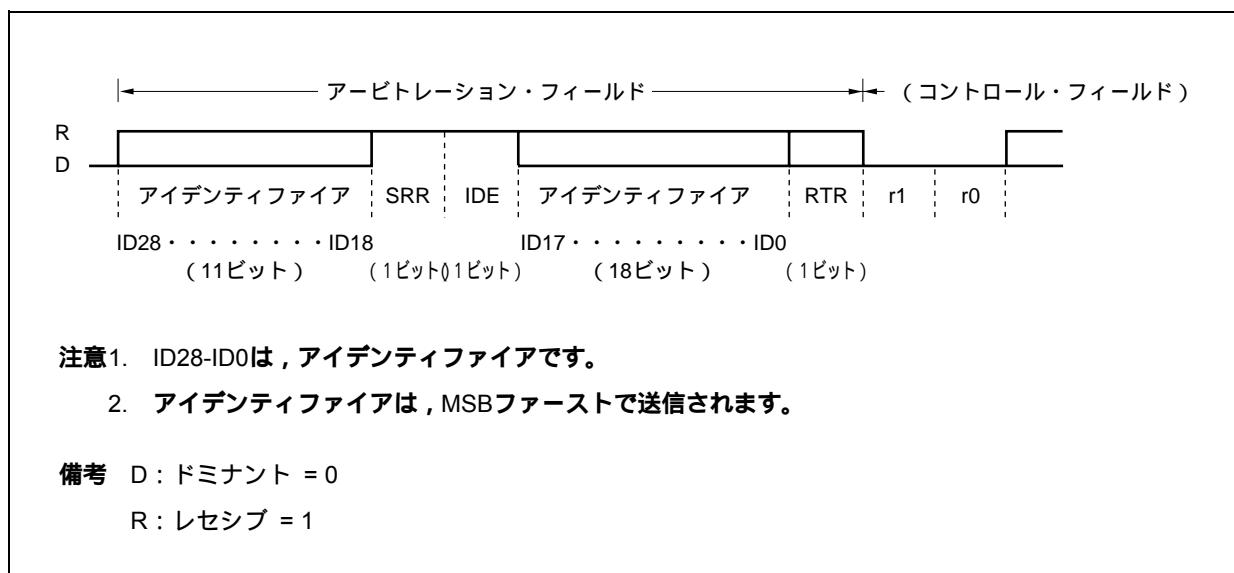


表21-3 RTRフレームの設定

フレームの種類	RTRビット
データ・フレーム	0 (D)
リモート・フレーム	1 (R)

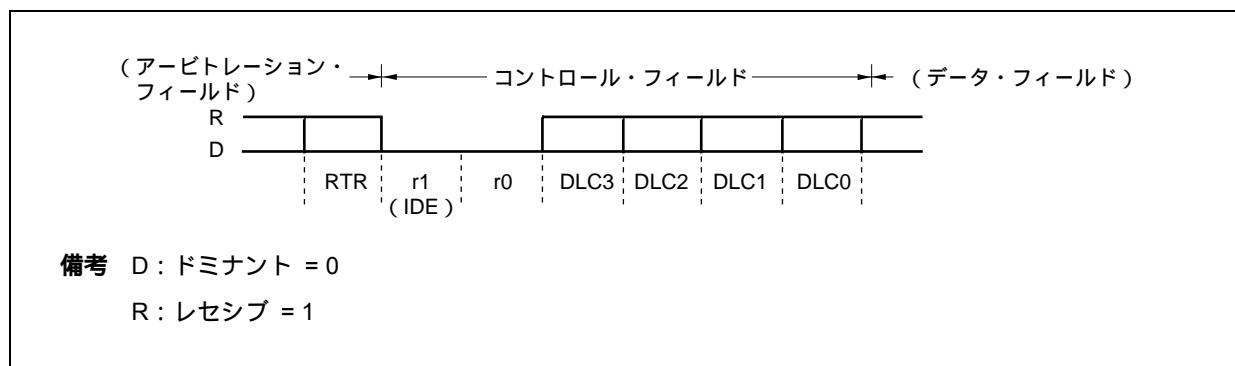
表21-4 フレーム・フォーマットの設定 (IDEビット) とアイデンティファイア (ID) のビット数

フレーム・フォーマット	SRRビット	IDEビット	ビット数
標準フォーマット・モード	なし	0 (D)	11ビット
拡張フォーマット・モード	1 (R)	1 (R)	29ビット

コントロール・フィールド

コントロール・フィールドは、データ・フィールドのデータ・バイト数DLCの設定をします(DLC = 0-8)。

図21-8 コントロール・フィールド



標準フォーマット・フレームでは、コントロール・フィールドのIDEビットとr1ビットは、同一となります。

表21-5 データ長の設定

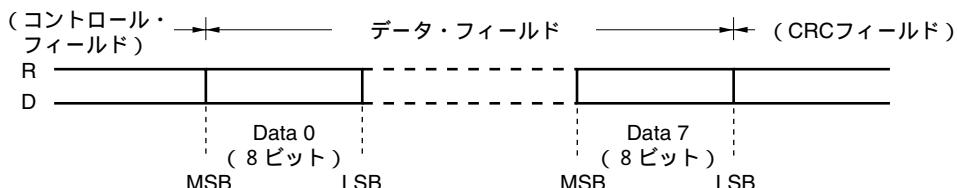
データ長コード				データのバイト数
DLC3	DLC2	DLC1	DLC0	
0	0	0	0	0バイト
0	0	0	1	1バイト
0	0	1	0	2バイト
0	0	1	1	3バイト
0	1	0	0	4バイト
0	1	0	1	5バイト
0	1	1	0	6バイト
0	1	1	1	7バイト
1	0	0	0	8バイト
上記以外				DLC3-DLC0の値にかかわらず8バイトになります。

注意 リモート・フレームの場合、データ長コード 0000B であってもデータ・フィールドは発生しません。

データ・フィールド

データ・フィールドは、コントロール・フィールドで設定した個数のデータ群（バイト単位）で、最大8データ設定できます。

図21-9 データ・フィールド



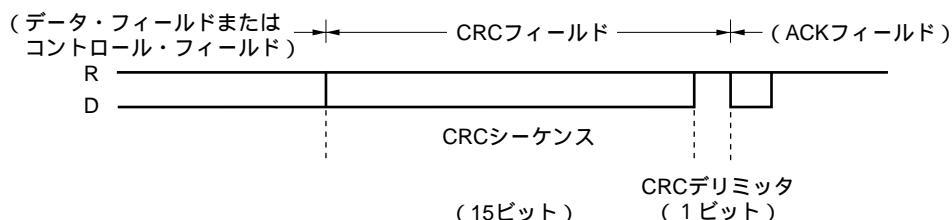
備考 D：ドミナント = 0

R: レセシブ = 1

CRCフィールド

CRCフィールドは、送信データの誤りをチェックするための16ビットのフィールドです。

図21-10 CRCフィールド



備考 D：ドミナント = 0

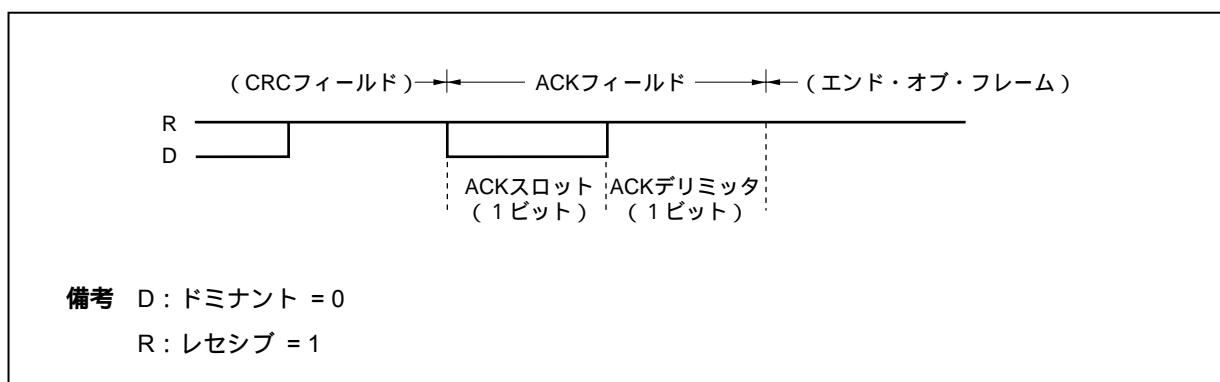
R : レセシブ = 1

- ・15ビットのCRCシーケンスを生成する多項式 $P(X)$ は、次のようにになります。
$$P(X) = X^{15} + X^{14} + X^{10} + X^8 + X^7 + X^4 + X^3 + 1$$
 - ・送信ノード：スタート・オブ・フレーム、アービトレーション・フィールド、コントロール・フィールド、データ・フィールドのデータ（ビット・スタッフ処理前のデータ）より計算したCRCシーケンスを送信します。
 - ・受信ノード：受信データのスタッフ・ビットを除いたデータ・ビットから計算したCRCシーケンスとCRCフィールドのCRCシーケンスを比較します。一致しない場合、ノードはエラー・フレームを送信します。

ACKフィールド

ACKフィールドは、正常受信確認のためのフィールドです。

図21-11 ACKフィールド

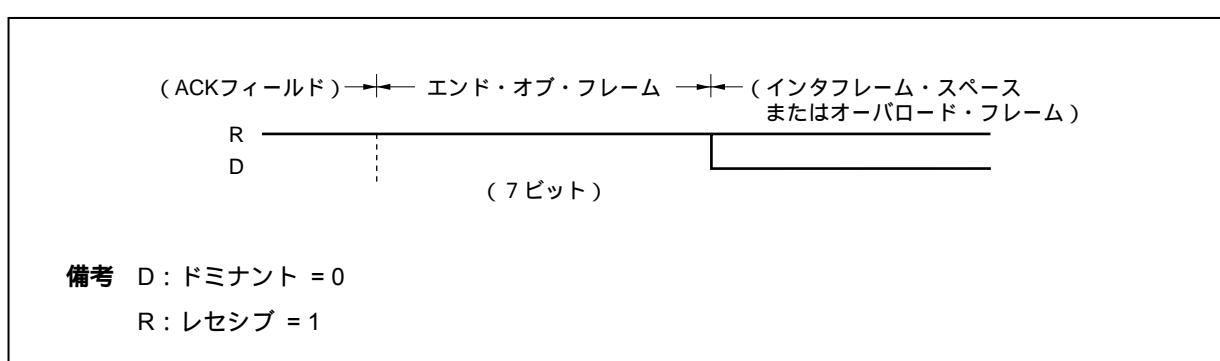


- ・CRCエラーが検出されない場合、受信ノードはACKスロットをドミナント・レベルにします。
- ・送信ノードは、2ビットのレセシブ・レベルを出力します。

エンド・オブ・フレーム(EOF)

エンド・オブ・フレームは、データ・フレーム/リモート・フレームの終了を示します。

図21-12 エンド・オブ・フレーム(EOF)



インタフレーム・スペース

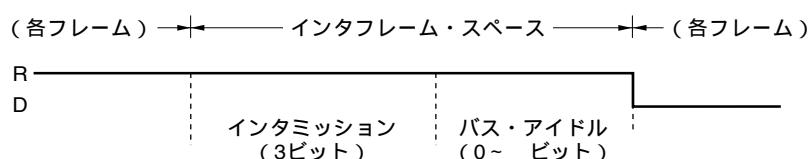
データ・フレーム、リモート・フレーム、エラー・フレーム、オーバロード・フレームから次のフレームの間に挿入されるフレームで、各フレーム間の区切りを示します。

- バスの状態は、エラー・ステータスにより異なります。

(a) エラー・アクティブ状態のノードの場合

3ビットのインタミッションとバス・アイドルより構成

図21-13 インタフレーム・スペース(エラー・アクティブ状態のノードの場合)



備考1. バス・アイドル：各ノードがバスを使用していない状態を示します。

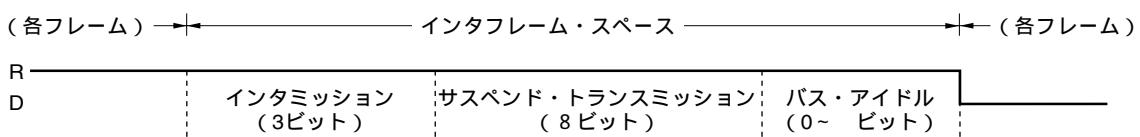
2. D: ドミナント = 0

R: レセシブ = 1

(b) エラー・パッシブ状態のノードの場合

インタミッション、サスペンド・トランスマッショント、バス・アイドルより構成

図21-14 インタフレーム・スペース(エラー・パッシブ状態のノードの場合)



備考1. バス・アイドル : 各ノードがバスを使用していない状態を示します。

サスペンド・トランスマッショント : エラー・パッシブ状態にあるノードにより送信される8ビットのレセシブ

2. D: ドミナント = 0

R: レセシブ = 1

通常、インタミッションは3ビットです。しかし、送信ノードがインタミッションの3ビット目でドミナント・レベルを検出した場合、送信を行います。

- ・エラー状態による動作

表21-6 エラー状態による動作

エラー状態	動作
エラー・アクティブ	3ビットのインタミッション後、ただちに送信可能状態になります。
エラー・パッシブ	インタミッションを終えてから、さらに8ビット待って送信可能状態になります。

21.2.4 エラー・フレーム

エラー・フレームはエラーを検出したノードが出力します。

図21-15 エラー・フレーム

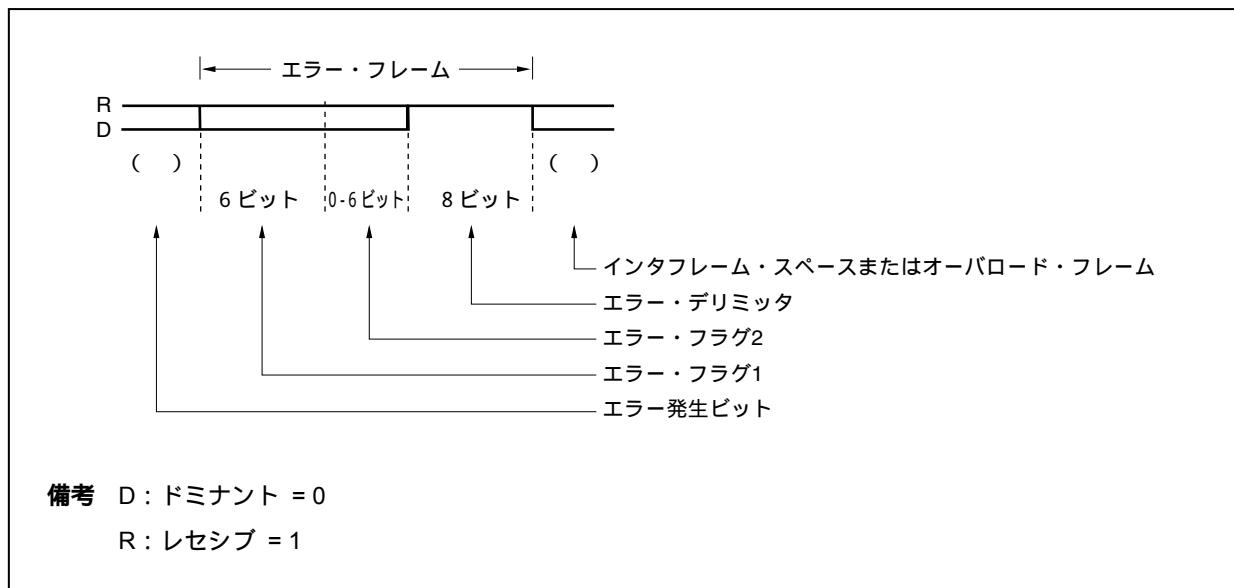


表21-7 エラー・フレームの各フィールドの定義

	名 称	ビット数	定 義
	エラー・フラグ1	6	エラー・アクティブ・ノード：6ビットのドミナント・レベルを連続出力します。 エラー・パッシブ・ノード：6ビットのレセシブ・レベルを連続出力します。 パッシブ・エラー・フラグを出力中，ほかのノードがドミナント・レベルを出力した場合，パッシブ・エラー・フラグは，同一レベルを6ビット連続して検出するまで終了しません。
	エラー・フラグ2	0~6	エラー・フラグ1を受信したノードが，ビット・スタッフ・エラーを検出して再度出力するエラー・フラグです。
	エラー・デリミッタ	8	8ビットのレセシブ・レベルを連続出力します。 8ビット目にドミナント・レベルを検出した場合，次のビットからオーバロード・フレームを送信します。
	エラー発生ビット	-	エラーが検出されたビットです。 エラー・フラグは，エラー発生ビットの次のビットから出力されます。 CRCエラーの場合は，ACKデリミッタに続いて出力されます。
	インタフレーム・スペース / オーバロード・フレーム	-	インタフレーム・スペース，またはオーバロード・フレームが続きます。

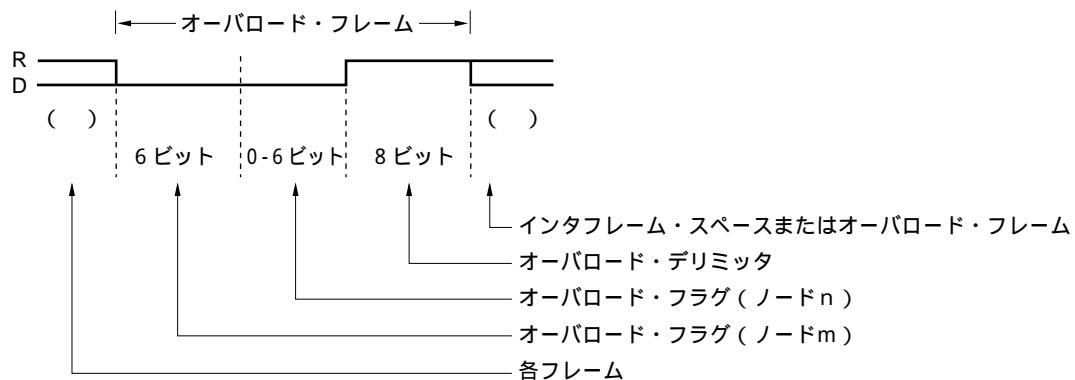
21.2.5 オーバロード・フレーム

オーバロード・フレームは、次の条件が発生した場合に送信されます。

- 受信ノードが受信動作未了のとき^注
- インタミッション中の最初の2ビットにドミナント・レベルを検出したとき
- エンド・オブ・フレームの最終ビット（7ビット目）、またはエラー・デリミッタ／オーバロード・デリミッタの最終ビット（8ビット目）にドミナント・レベルを検出したとき

注 CANでは、内部処理が十分に早いため、オーバロード・フレームを出力することなく、すべての受信フレームを取り込むことができます。

図21-16 オーバロード・フレーム



備考1. D: ドミナント = 0

R: レセシブ = 1

2. ノードn ノードm

表21-8 オーバロード・フレームの各フィールドの定義

No	名 称	ビット数	定 義
	オーバロード・フラグ	6	6ビットのドミナント・レベルを連続出力します。
	他ノードからのオーバロー ド・フラグ	0~6	インタフレーム・スペース中にオーバロード・フラグを受信し たノードは、オーバロード・フラグを出力します。
	オーバロード・デリミッタ	8	8ビットのレセシブ・レベルを連続出力します。 8ビット目にドミナント・レベルを検出した場合、次のビットか らオーバロード・フレームを送信します。
	各フレーム	-	エンド・オブ・フレーム、エラー・デリミッタ、オーバロード・ デリミッタに続いて出力します。
	インタフレーム・スペース / オーバロード・フレーム	-	インタフレーム・スペース、またはオーバロード・フレームが 続きます。

21.3 機能

21.3.1 バス・プライオリティの決定

(1) 1個のノードが送信を開始した場合

- ・バス・アイドル中に、先にデータを出力したノードが送信をします。

(2) 複数のノードが送信を開始した場合

- ・アービトレーション・フィールドの第1ビットから、ドミナント・レベルを最も長く連続出力したノードがバス・プライオリティを獲得します（ドミナント・レベルとレセシブ・レベルが同時送信された場合、バスの値はドミナント・レベルになります）。
- ・送信ノードは、自分の出力したアービトレーション・フィールドとバス上のデータ・レベルを比較します。

表21-9 バス・プライオリティの決定

レベルの一致	送信を継続します。
レベルの不一致	不一致を検出した次のビットからデータ出力を停止し、受信動作になります。

(3) データ・フレームとリモート・フレームのプライオリティ

- ・データ・フレームとリモート・フレームがバス上で競合した場合、アービトレーション・フィールドの最終ビットであるRTRがドミナント・レベルであるデータ・フレームが優先されます。

注意 拡張フォーマット・フレームのデータ・フレームと標準フォーマット・フレームのリモート・フレームがバス上で競合した場合（双方のID28-ID18が同じ場合）、標準フォーマット・フレームのリモート・フレームが優先されます。

21.3.2 ピット・スタッフ

ピット・スタッフは、バースト・エラーを防ぐために、同一レベルが5ビット連続した場合、1ビットの反転データを附加して、同期をとる仕組みです。

表21-10 ピット・スタッフ

送 信	データ・フレーム、リモート・フレームを送信する際に、スタート・オブ・フレーム～CRCフィールド間のデータで同一レベルが5ビット連続した場合、次のビットの前に、前5ビットのレベルを反転した1ビットのレベル・データを挿入します。
受 信	データ・フレーム、リモート・フレームの受信時、スタート・オブ・フレーム～CRCフィールド間のデータで同一レベルが5ビット連続した場合、次の1ビットを削除して受信します。

21.3.3 マルチマスタ

アイデンティファイアによりバス・プライオリティ（送信権利を獲得するノード）を決定するため、どのノードでもバス・マスタになることができます。

21.3.4 マルチキャスト

送信ノードは1つですが、同一のアイデンティファイアを複数のノードに設定できるため、複数のノードで同時に同一データの受信ができます。

21.3.5 CANスリープ・モード / CANストップ・モード機能

CANスリープ・モード / CANストップ・モード機能により、CANコントローラを待機状態にすることで消費電力を低減できます。

CANスリープ・モードはバスの動作でウェイク・アップしますが、CANストップ・モードはバスの動作でウェイク・アップしません（CPUアクセスにより制御されます）。

21.3.6 エラー制御機能

(1) エラーの種類

表21-11 エラーの種類

エラーの種類	エラーの説明		検出する状態	
	検出方法	検出条件	送信 / 受信	フィールド / フレーム
ピット・エラー	出力レベルとバス上のレベルとの比較	両レベルの不一致	送信 / 受信ノード	スタート・オブ・フレーム～エンド・オブ・フレーム、エラー・フレーム、オーバロード・フレームでバス上にデータを出力しているピット。
スタッフ・エラー	スタッフ・ピットでの受信データのチェック	同一レベル・データの6ビット連続	受信ノード	スタート・オブ・フレーム～CRCシーケンス
CRCエラー	受信データから生成したCRCと受信したCRCシーケンスとの比較	CRCの不一致	受信ノード	CRCフィールド
フォーム・エラー	固定フォーマットのフィールド / フレームのチェック	固定フォーマット違反の検出	受信ノード	・CRCデリミッタ ・ACKフィールド ・エンド・オブ・フレーム ・エラー・フレーム ・オーバロード・フレーム
ACKエラー	送信ノードによるACKスロットのチェック	ACKスロットでレセシブ・レベルを検出	送信ノード	ACKスロット

(2) エラー・フレームの出力タイミング

表21-12 エラー・フレームの出力タイミング

エラーの種類	出力タイミング
ピット・エラー、スタッフ・エラー、フォーム・エラー、ACKエラー	エラーを検出した次のピット・タイミングからエラー・フレームを出力します。
CRCエラー	ACKデリミッタの次のピット・タイミングからエラー・フレームを出力します。

(3) エラー発生時の処置

送信ノードは、エラー・フレーム後にデータ・フレーム、またはリモート・フレームの再送を行います。
(ただし、シングル・ショット・モード時には再送は行いません)。

(4) エラー状態

(a) エラー状態の種類

CANスペックで規定されているエラーの状態には次の3種類があります。

- ・ エラー・アクティブ
- ・ エラー・パッシブ
- ・ バスオフ

これらは、CANエラー・カウンタ・レジスタ (CnERC) のTEC7-TEC0ビット (送信エラー・カウンタ・ビット) およびREC6-REC0ビット (受信エラー・カウンタ・ビット) の値によって表21-13のように分類されます。

現在のエラー状態はCANモジュール情報レジスタ (CnINFO) に表示されています。

各エラー・カウンタ値がエラー・ワーニング・レベル(96)以上になると、CnINFOレジスタのTECS0ビットあるいはRECS0ビットが1にセットされます。この場合、バスに重度の障害があると考えられるため、バス状態をテストする必要があります。各エラー・カウンタ値が128以上になると、エラー・パッシブ状態となり、CnINFOレジスタのTECS1ビットあるいはRECS1ビットがセット(1)されます。

- ・ 送信エラー・カウンタ値が256以上（実際には送信エラー・カウンタ値は256以上の値は表示しません）になると、バスオフ状態となり、CnINFOレジスタのBOFFビットがセット(1)されます。
- ・ スタート・アップ時、バス上に1個のノードしかアクティブでない場合（=自局のみバスに接続されている場合）、データを送信してもACKが返ってこないためエラー・フレームとデータの再送を繰り返しますが、エラー・パッシブ状態に移行したとの送信エラー・カウンタはインクリメントされず、バスオフには移行しません。

備考 n = 0-4

表21-13 エラー状態の種類

エラー状態の種類	動作	エラー・カウンタの値	CnINFOレジスタの表示	そのエラー状態特有の動作
エラー・アクティブ	送信	0-95	TECS1, TECS0が00	・エラー検知時にアクティブ・エラー・フラグ(6ビットのドミナント・レベルの連続)を出力
	受信	0-95	RECS1, RECS0が00	
	送信	96-127	TECS1, TECS0が01	
	受信	96-127	RECS1, RECS0が01	
エラー・パッシブ	送信	128-255	TECS1, TECS0が11	・エラー検知時にパッシブ・エラー・フラグ(6ビットのレセシブ・レベルの連続)を出力 ・送信と送信の間に、インタミッションに続いて8ビットのレセシブ・レベルを送信(サスペンド・トランスマッショ)
	受信	128以上	RECS1, RECS0が11	
バスオフ	送信	256以上(表示はしない) [*]	BOFFが1, TECS1, TECS0が11	・通信できません。 ただし、フレーム受信時にメッセージは格納しませんが、以下の、の動作を行います。 TSOUTがトグルします。 RECが+/-します。 VALIDビットがセットされます。 ・初期化モードに遷移し、のちに初期化モード以外のいずれかの動作モードに遷移要求を行ったあと、11ビット連続でレセシブ・レベルが128回発生すると、エラー・カウンタが0にリセットされ、エラー・アクティブ状態に戻ることができます。

注 送信エラー・カウンタ(TEC)の値は、BOFFビットがセットされたときには意味を持ちません。送信エラー・カウンタが248-255の範囲の値のとき、さらに+8のインクリメントを行うようなエラーを検知した際は、カウンタ値はインクリメントされずにバスオフ状態となります。

備考 n = 0-4

(b) エラー・カウンタ

エラー・カウンタは、エラーが発生した場合にカウント・アップし、送信、受信が正常に行われた場合にカウント・ダウントします。カウント・アップのタイミングは、エラーが検出された直後になります。

表21-14 エラー・カウンタ

状態	送信エラー・カウンタ (TEC7-TEC0ビット)	受信エラー・カウンタ (REC6-REC0ビット)
受信ノードがエラーを検出 (アクティブ・エラー・フラグ、オーバロード・フラグ中のビット・エラーを除く)	変化なし	+1 (REPSビット = 0時)
受信ノードがエラー・フレームのエラー・フラグ出力の次にドミナント・レベルを検出	変化なし	+8 (REPSビット = 0時)
送信ノードがエラー・フラグを送信 [例外として、次の場合のエラー・カウンタは変化しません] エラー・パッシブ状態で、ACKエラーを検出しパッシブ・エラー・フラグを出力中にドミナント・レベルを未検出 アービトレーション・フィールド中にスタッフ・エラーを検出し、それがスタッフ・ビットとしてレセシブ・レベルを送信したが、ドミナント・レベルを検出	+8	変化なし
アクティブ・エラー・フラグ、オーバロード・フラグ出力中のビット・エラー検出 (エラー・アクティブの送信ノード)	+8	変化なし
アクティブ・エラー・フラグ、オーバロード・フラグ出力中のビット・エラー検出 (エラー・アクティブの受信ノード)	変化なし	+8 (REPSビット = 0時)
各ノードがアクティブ・エラー・フラグ、オーバロード・フラグの最初から14個の連続したドミナント・レベルを検出、およびそれ以降の8個連続のドミナント・レベルを検出 各ノードがパッシブ・エラー・フラグのあと、8個連続のドミナント・レベルを検出	+8 (送信時)	+8 (受信時, REPSビット = 0時)
送信ノードがエラーなしで、送信を完了 (エラー・カウンタ = 0の場合は±0)	-1	変化なし
受信ノードがエラーなしで、受信を完了	変化なし	• -1 (1 REC6-REC0 127, REPSビット = 0時) • ±0 (REC6-REC0 = 0, REPSビット = 0時) • 119 ~ 127のいずれかの値をセットする。 (REPSビット = 1時)

(c) インタミッション中のビット・エラーの発生

オーバロード・フレームを発生します。

注意 エラー発生時のエラー制御は、そのエラーが発生する前の送信エラー・カウンタと受信エラー・カウンタの内容によって行います。エラー・カウンタの値はエラー・フラグを出力したあとに加算します。

(5) バスオフ状態からの復帰動作

CANモジュールが、バスオフ状態になった場合、CANバスから切り離された送信端子 (CTxDn) は、常にレセシブ・レベルの出力となります。

バスオフ状態からの復帰は、次に示すバスオフ復帰（リカバリ）シーケンスにより行います。

CAN初期化モードへの移行要求

CAN動作モードへの移行要求

(a) 通常リカバリ・シーケンスによる復帰動作

(b) リカバリ・シーケンスをスキップする強制復帰動作

(a) 通常リカバリ・シーケンスによるバスオフからの復帰動作

まず、初期化モードへの移行要求を行います（図21-17中のタイミング 参照）。この移行要求は直ちに受け付けられ、CnCTRLレジスタのOPMODEビットは000Bとなります。アプリケーション・ソフトウェアにより、バスオフの原因となった故障の解析、CANモジュールおよびメッセージ・バッファの再定義、あるいはGOMビットをクリア（0）することで、CANモジュール自体の動作停止といった処置を行うことが可能です。

次に、初期化モードから任意の動作モードへの移行要求を行います（図21-17中のタイミング 参照）。この任意の動作モードへの移行要求を行うことで、バスオフからのリカバリ動作が開始されます。バスオフからのリカバリ条件は、CANプロトコルISO11898に規定されており、11ビットの連続したレセシブ・ビットを128回以上検出することが必要です。このとき、任意の動作モードへの移行要求はバスオフのリカバリ条件が満足するまでは保留され、バスオフのリカバリ条件が満足した時点（図21-17中のタイミング 参照）でCANモジュールは要求された動作モードに移行します。この間、CANモジュールは初期化モードを維持し、任意の動作モードへの移行の完了は、CnCTRLレジスタのOPMODEをリードすることにより確認できます。なお、任意の動作モードへの移行が完了するまでは、OPMODE [2:0] = 000Bがリードされます。

バスオフ期間中およびバスオフ・リカバリ・シーケンス中は、CnINFOレジスタのBOFFビットはセット（1）を継続します。バスオフ・リカバリ・シーケンスは、受信エラー・カウンタ（REC [6:0]）により、バス上で検出される11ビットの連続したレセシブ・ビットの回数をカウントしていますので、REC [6:0]をリードすることにより復帰状況を確認することができます。

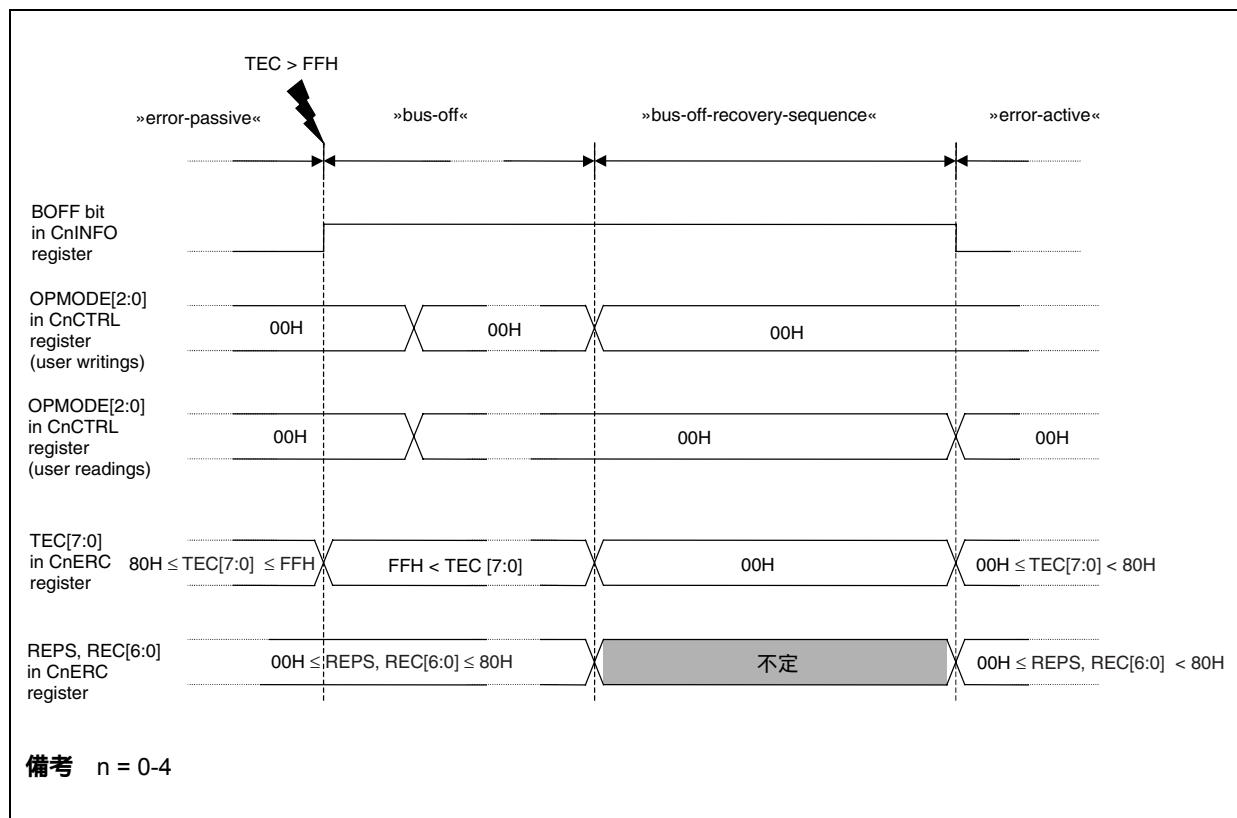
注意1. バスオフ・リカバリ・シーケンス中にもう一度バスオフ・リカバリ・シーケンスを行うために、初期化モードから任意の動作モードへ移行要求を行った場合は、最初からバスオフ・リカバリ・シーケンスが開始され、もう一度バス上に11ビットの連続したレセシブ・ビットを128回カウントすることになります。

2. バスオフ・リカバリ・シーケンス中は、REC [6:0]は11ビットの連続したレセシブ・ビットを検出するたびにカウントアップ（+1）します。

バスオフ期間中でもCANモジュールはCANスリープ・モードやCANストップ・モードに移行することができます。バスオフを解除するためには、初期化モードにいったん移行が必要ですが、CANモジュールがCANスリープ・モードやCANストップ・モードである場合は、直接初期化モードへは移行することができません。この場合は初期化モードへの移行を行わなくても、CANスリープ・モードが解除される際に同時にバスオフ・リカバリ・シーケンスが開始されます。ソフトウェアによるPSMODEのクリアのほかにも、CANバス上のドミナント・エッジ検知によるウエイク・アップによっても、バスオフ・リカバリ・シーケンスは開始されます（CANクロックが供給されている状態では、ドミナント・エッジ検知後にソフトウェアによるPSMODEのクリアが必要となります）。

備考 n = 0-4

図21-17 通常リカバリ・シーケンスによるバスオフからの復帰動作



(b) バスオフ・リカバリ・シーケンスをスキップする強制復帰動作

バスオフ・リカバリ・シーケンスをスキップすることで、バスの状態によらずCANモジュールを強制的にバスオフから復帰させることができます。手順を以下に示します。

まず、初期化モードへの移行要求を行います。このときの動作および注意事項は、21.3.6(5)(a) 通常リカバリ・シーケンスによるバスオフからの復帰動作を参照してください。

次に、任意の動作モードへの移行要求を行い、同時にCnCTRLレジスタのCCERCビットをセット(1)します。

これにより、CANプロトコルISO11898で規定されているバスオフのリカバリ・シーケンスがスキップされ、ただちに動作モードへの移行が行われます。この場合、CANバスへの再接続はCANモジュールが連続した11ビットのレセシプ・ビットのモニタ後に行われます。詳細は、図21-55 バスオフからのリカバリ処理(ABT付き通常動作モード以外の場合)を参照してください。

注意 この機能は、CANプロトコルISO11898に規定されておりませんので、ご使用の際にはネットワーク・システムへの影響を十分にご確認ください。

備考 n = 0-4

(6) 初期化モード中のCANモジュール・エラー・カウンタ・レジスタ(CnERC)の初期化

プログラム・デバッガや評価のために、CANモジュール・エラー・カウンタ・レジスタ(CnERC)、およびCANモジュール情報レジスタ(CnINFO)の初期化が必要となる場合には、初期化モード中にCnCTRLレジスタのCCERCビットをセット(1)することで、CnERC、CnINFOレジスタは初期値に初期化されます。初期化が完了すると、CCERCビットは自動的にクリア(0)されます。

- 注意1.** この機能は、初期化モード中でのみ有効です。任意のCAN動作モード中でCCERCビットをセット(1)したとしても、CnERC、CnINFOレジスタは初期化されません。
2. CCERCビットのセットは、任意のCAN動作モードへの移行要求と同時にを行うことも可能です。

備考 n = 0-2

21.3.7 ポー・レート制御機能

(1) プリスケーラ

CANコントローラは、CANへの供給クロック(f_{CAN})を分周するプリスケーラを持っています。また、プリスケーラは、CANモジュール・システム・クロック(f_{CANMOD})を1-256分周したCANプロトコル・レイヤ基本クロック(f_{TQ})を発生します(21.6(12)CANモジュール・ビット・レート・プリスケーラ・レジスタ(CnBRP)参照)。

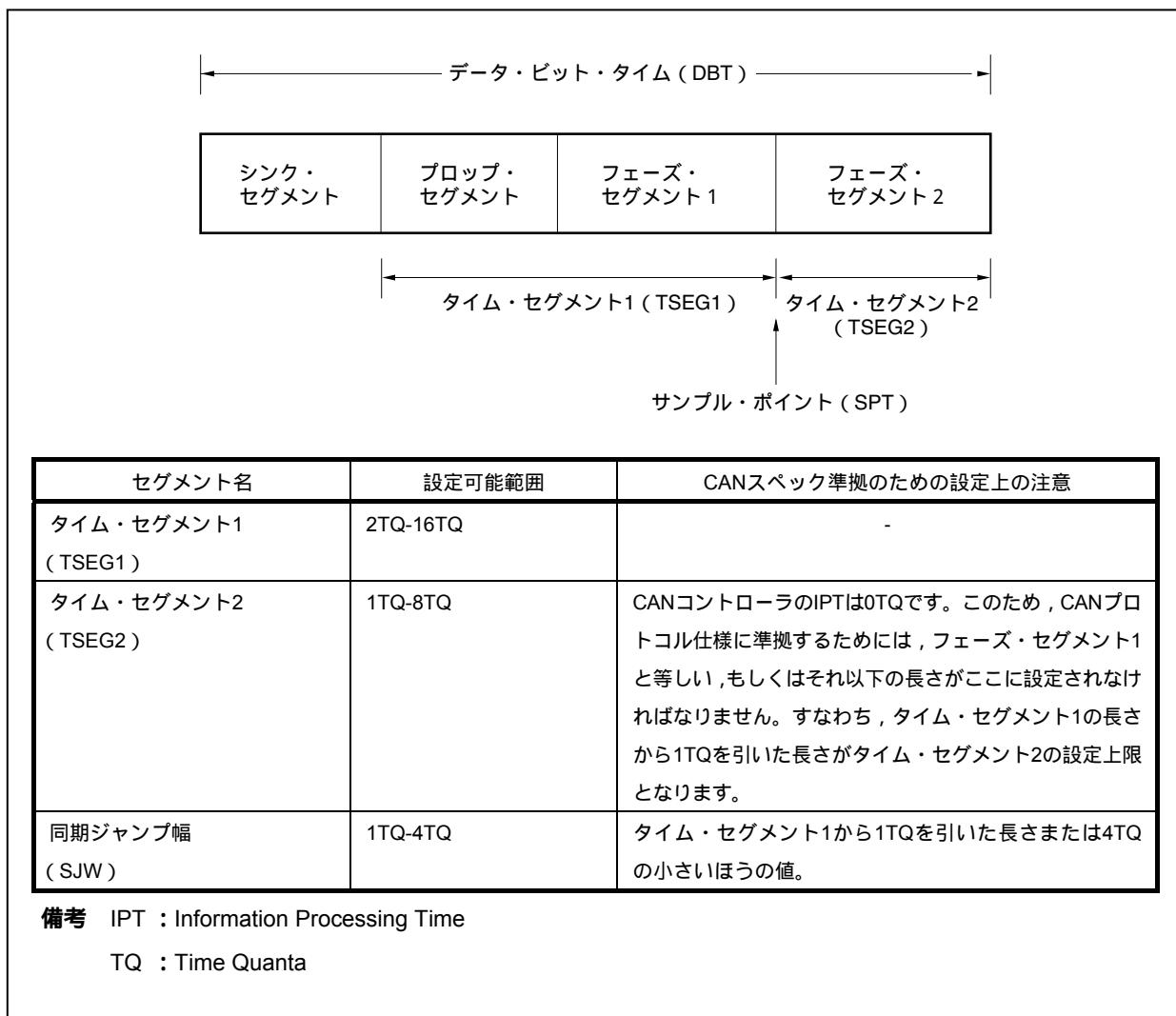
(2) データ・ビット・タイム(8-25 Time Quanta)

1データ・ビット・タイムは、図21-18のように定義されています。

$$1 \text{ Time Quanta} = 1/f_{TQ}$$

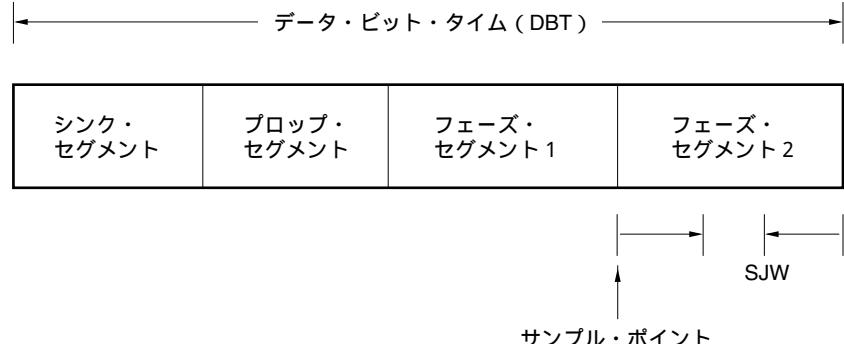
図21-18で示すようなタイム・セグメント1、タイム・セグメント2、同期ジャンプ幅(SJW)といったビット・タイミングのパラメータに置き換えて設定されます。タイム・セグメント1は、CANプロトコル仕様で規定されているプロップ・セグメントとフェーズ・セグメント1の合計に該当します。タイム・セグメント2は、フェーズ・セグメント2に該当します。

図21-18 セグメントの設定



参考：CANプロトコル仕様では、データ・ビット・タイムを構成する各セグメントは、図21-19のように規定されています。

図21-19 CANスペック上のデータ・ビット・タイムの構成



セグメント名	セグメント長	説明
シンク・セグメント (Synchronization Segment)	1	ハードウェア同期がかかると、レセシブからドミナントに移行するエッジでこのセグメントが始まります。
プロップ・セグメント (Propagation Segment)	1-8のプログラマブル、またはそれ以上	出力バッファ、CANバス、入力バッファの遅延を吸収するためのセグメントです。 フェーズ・セグメント1の開始までにACKが戻ってくるように設定します。 プロップ・セグメントの時間（出力バッファの遅延）+ $2 \times (\text{CANバスの遅延}) + (\text{入力バッファの遅延})$
フェーズ・セグメント1 (Phase Buffer Segment 1)	1-8のプログラマブル	データ・ビット・タイムの誤差を補償するためのセグメントで、大きいほど許容範囲が大きくなりますが、通信スピードは遅くなります。
フェーズ・セグメント2 (Phase Buffer Segment 2)	フェーズ・セグメント1とIPTとのうち大きい方の値	
SJW (reSynchronization Jump Width)	1TQからセグメント1TQまたは4TQの小さい方までの範囲でプログラマブル	再同期の際のフェーズ・セグメントの伸縮の上限を設定します。

備考 IPT : Information Processing Time

TQ : Time Quanta

(3) データ・ビットの同期

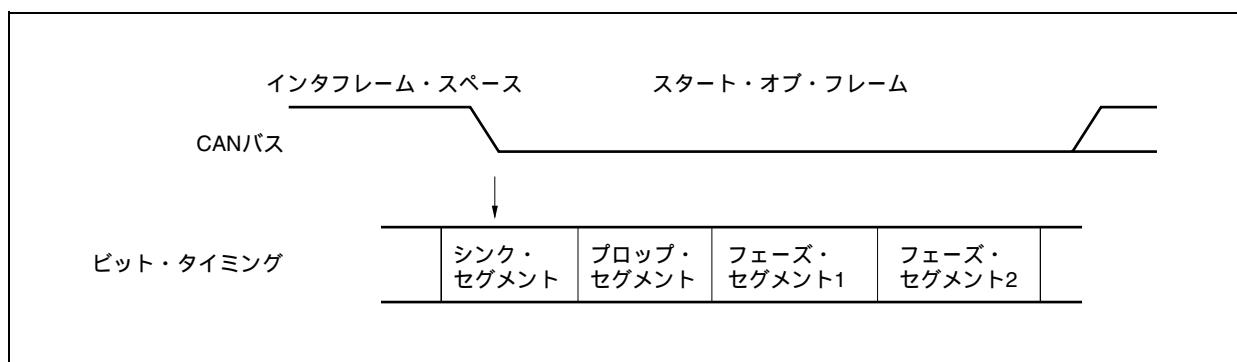
- 受信ノードは、同期信号がないため、バス上のレベル変化で同期をとります。
- 送信ノードは、送信ノードのビット・タイミングに同期してデータの送信を行います。

(a) ハードウェア同期

受信ノードが、インタフレーム・スペースでスタート・オブ・フレームを検出した場合に行うビット同期です。

- バス上の立ち下がりエッジを検出すると、そのTQがシンク・セグメントで、次がプロップ・セグメントとなります。この場合、SJWには無関係に同期をとります。

図21-20 バス・アイドル中のドミナント・レベル検出によるハードウェア同期



(b) 再同期

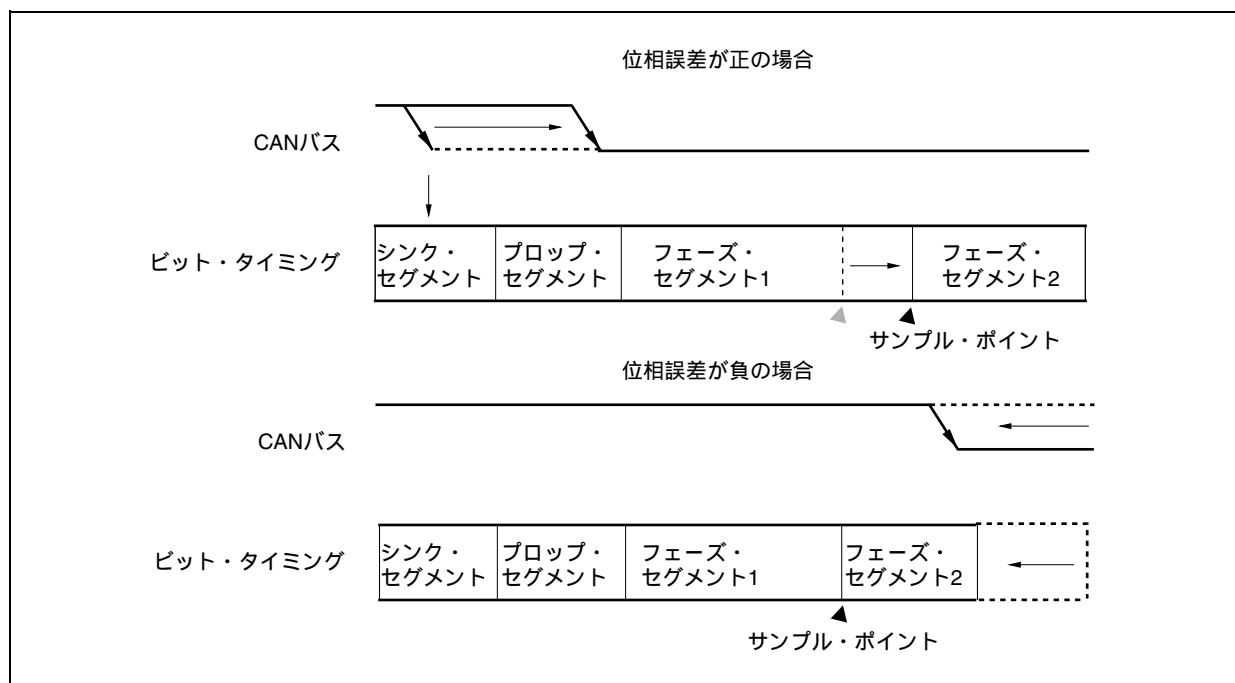
受信中に、バス上のレベル変化を検出した場合(前回のサンプリングがレセシブ・レベル時のみ)、再同期を行います。

- エッジの位相誤差は、検出されたエッジとシンク・セグメントの相対位置により与えられます。

<位相誤差の符号>

- 0: エッジがシンク・セグメント内にある場合
- 正: エッジがサンプル・ポイントより前にある場合(フェーズ・エラー)
- 負: エッジがサンプル・ポイントより後ろにある場合(フェーズ・エラー)
- 位相誤差が正の場合: フェーズ・セグメント1は指定したSJW分だけ長くなります。
- 位相誤差が負の場合: フェーズ・セグメント2は指定したSJW分だけ短くなります。
- 送信ノードと受信ノードのポート・レートの“ずれ”により、受信ノードでのデータのサンプル・ポイントが相対的に移動します。

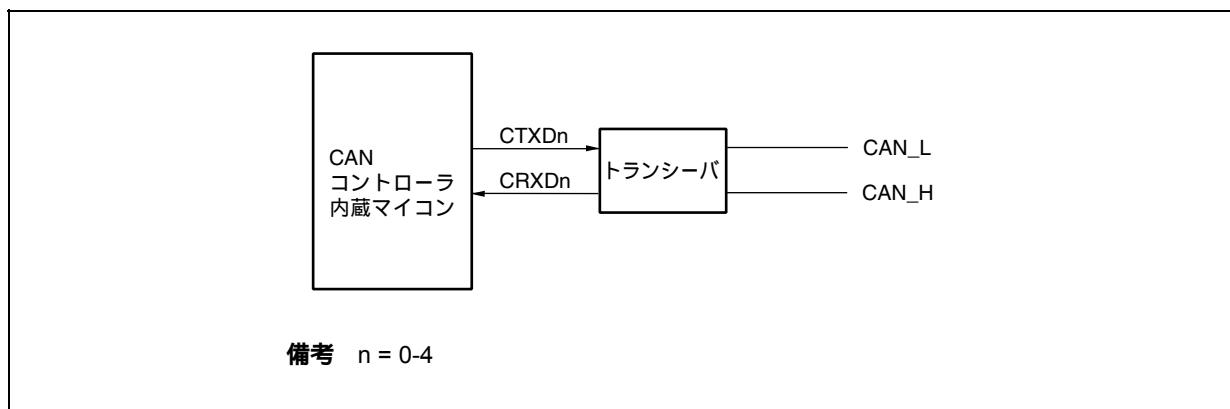
図21-21 再同期



21.4 ターゲット・システムとの接続

CANコントローラ内蔵マイコンは、外部トランシーバを使用してCANバスに接続しなければなりません。

図21-22 CANバスへの接続



21.5 CANコントローラの内部レジスタ

21.5.1 CANモジュール・レジスタとメッセージ・バッファ・アドレス

この章では、制御、設定レジスタ、およびメッセージ・バッファ・レジスタのアドレス表記は、ベース・アドレス（表21-15参照）に対するオフセット・アドレスとして表記します。CANコントローラ機能に関するレジスタは、プログラマブル周辺I/O領域に配置されています（3.5.1(4) プログラマブル周辺I/O領域または10.2.2(2) プログラマブル周辺I/O領域を参照してください）。次の表では、この章内の説明で使用する複数のベース・アドレスを、プログラマブル周辺I/O領域の最下位アドレス（PBA）に対するオフセット・アドレスとして表記しています。

PBA = 03FEC000H

表21-15にこの章全体で使われるベース・アドレスを示します。

表21-15 CANモジュール・ベース・アドレス

ベース・アドレス名	対象	アドレス	物理アドレス
C0RBaseAddr	CAN0レジスタ	PBA + 000H	03FEC000H
C0MBaseAddr	CAN0メッセージ・バッファ	PBA + 100H	03FEC100H
C1RBaseAddr	CAN1レジスタ	PBA + 600H	03FEC600H
C1MBaseAddr	CAN1メッセージ・バッファ	PBA + 700H	03FEC700H
C2RBaseAddr	CAN2レジスタ	PBA + C00H	03FECC00H
C2MBaseAddr	CAN2メッセージ・バッファ	PBA + D00H	03FECD00H
C3RBaseAddr	CAN3レジスタ	PBA + 1200H	03FED200H
C3MBaseAddr	CAN3メッセージ・バッファ	PBA + 1300H	03FED300H
C4RBaseAddr	CAN4レジスタ	PBA + 1800H	03FED800H
C4MBaseAddr	CAN4メッセージ・バッファ	PBA + 1900H	03FED900H

以降、CnRBaseAddrおよび対応するCnMBaseAddrは、CANチャネルnのベース・アドレス名とします。

21.5.2 CANコントローラの構成

表21-16 CANコントローラのレジスター覧

項目	レジスタ名
CANグローバル・レジスタ	CANグローバル制御レジスタ (CnGMCTRL)
	CANグローバル・クロック選択レジスタ (CnGMCS)
	CANグローバル自動ブロック送信制御レジスタ (CnGMABT)
	CANグローバル自動ブロック送信遅延設定レジスタ (CnGMABTD)
CANモジュール・レジスタ	CANモジュール・マスク1レジスタ (CnMASK1L, CnMASK1H)
	CANモジュール・マスク2レジスタ (CnMASK2L, CnMASK2H)
	CANモジュール・マスク3レジスタ (CnMASK3L, CnMASK3H)
	CANモジュール・マスク4レジスタ (CnMASK4L, CnMASK4H)
	CANモジュール制御レジスタ (CnCTRL)
	CANモジュール最終エラー情報レジスタ (CnLEC)
	CANモジュール情報レジスタ (CnINFO)
	CANモジュール・エラー・カウンタ・レジスタ (CnERC)
	CANモジュール割り込み許可レジスタ (CnIE)
	CANモジュール割り込みステータス・レジスタ (CnINTS)
	CANモジュール・ビットレート・プリスケーラ・レジスタ (CnBRP)
	CANモジュール・ビットレート・レジスタ (CnBTR)
	CANモジュール最終受信ポインタ・レジスタ (CnLIPT)
	CANモジュール受信ヒストリ・リスト・レジスタ (CnRGPT)
	CANモジュール最終送信ポインタ・レジスタ (CnLOPT)
	CANモジュール送信ヒストリ・リスト・レジスタ (CnTGPT)
	CANモジュール・タイム・スタンプ・レジスタ (CnTS)
メッセージ・バッファ・レジスタ	CANメッセージ・データ・バイト01レジスタm (CnMDATA01m)
	CANメッセージ・データ・バイト0レジスタm (CnMDATA0m)
	CANメッセージ・データ・バイト1レジスタm (CnMDATA1m)
	CANメッセージ・データ・バイト23レジスタm (CnMDATA23m)
	CANメッセージ・データ・バイト2レジスタm (CnMDATA2m)
	CANメッセージ・データ・バイト3レジスタm (CnMDATA3m)
	CANメッセージ・データ・バイト45レジスタm (CnMDATA45m)
	CANメッセージ・データ・バイト4レジスタm (CnMDATA4m)
	CANメッセージ・データ・バイト5レジスタm (CnMDATA5m)
	CANメッセージ・データ・バイト67レジスタm (CnMDATA67m)
	CANメッセージ・データ・バイト6レジスタm (CnMDATA6m)
	CANメッセージ・データ・バイト7レジスタm (CnMDATA7m)
	CANメッセージ・データ長レジスタm (CnMDLCm)
	CANメッセージ・コンフィギュレーション・レジスタm (CnMCONFm)
	CANメッセージIDレジスタm (CnMIDLm, CnMIDHm)
	CANメッセージ制御レジスタm (CnMCTRLm)

備考 n = 0-4

m = 0-31

21.5.3 CANレジスタ概要

(1) CAN0モジュール・レジスタ

CAN0レジスタ・ベース・アドレス (C0RBaseAddr) に対するアドレス・オフセットを次に示します。

C0RBaseAddr = PBA

表21-17 CAN0グローバル・レジスタ, モジュール・レジスタ

アドレス	レジスタ名	略号	R/W	操作可能ビット			初期値
				1	8	16	
000H	CAN0グローバル制御レジスタ	C0GMCTRL	R/W	-	-	○	0000H
002H	CAN0グローバル・クロック選択レジスタ	C0GMCS	R/W	-	○	-	0FH
006H	CAN0グローバル自動ブロック送信制御 レジスタ	C0GMABT	R/W	-	-	○	0000H
008H	CAN0グローバル自動ブロック送信遅延設 定レジスタ	C0GMABTD	R/W	-	○	-	00H
040H	CAN0モジュール・マスク1レジスタ	C0MASK1L	R/W	-	-	○	不定
042H		C0MASK1H					
044H	CAN0モジュール・マスク2レジスタ	C0MASK2L	R/W	-	-	○	不定
046H		C0MASK2H					
048H	CAN0モジュール・マスク3レジスタ	C0MASK3L	R/W	-	-	○	不定
04AH		C0MASK3H					
04CH	CAN0モジュール・マスク4レジスタ	C0MASK4L	R/W	-	-	○	不定
04EH		C0MASK4H					
050H	CAN0モジュール制御レジスタ	C0CTRL	R/W	-	-	○	0000H
052H	CAN0モジュール最終エラー情報レジスタ	C0LEC	R/W	-	○	-	00H
053H	CAN0モジュール情報レジスタ	C0INFO	R	-	○	-	00H
054H	CAN0モジュール・エラー・カウンタ・ レジスタ	C0ERC	R	-	-	○	0000H
056H	CAN0モジュール割り込み許可レジスタ	C0IE	R/W	-	-	○	0000H
058H	CAN0モジュール割り込みステータス・ レジスタ	C0INTS	R/W	-	-	○	0000H
05AH	CAN0モジュール・ピット・レート・ プリスケーラ・レジスタ	C0BRP	R/W	-	○	-	FFH
05CH	CAN0モジュール・ピット・レート・ レジスタ	C0BTR	R/W	-	-	○	370FH
05EH	CAN0モジュール最終受信ポインタ・ レジスタ	C0LIPT	R	-	○	-	不定
060H	CAN0モジュール受信ヒストリ・リスト・ レジスタ	C0RGPT	R/W	-	-	○	xx02H
062H	CAN0モジュール最終送信ポインタ・ レジスタ	C0LOPT	R	-	○	-	不定
064H	CAN0モジュール・送信ヒストリ・リスト・ レジスタ	C0TGPT	R/W	-	-	○	xx02H
066H	CAN0モジュール・タイム・スタンプ・ レジスタ	C0TS	R/W	-	-	○	0000H

表21 - 18のアドレスは、CAN0メッセージ・バッファのベース・アドレス(C0MBaseAddr)に対するオフセットを示します。

$$\text{C0MBaseAddr} = \text{PBA} + 100\text{H}$$

例 CAN0、メッセージ・バッファ・レジスタm = 14 = EH、バイト6(C0MDATA614)のアドレスは次のとおりです。

$$\text{EH} \times 20\text{H} + 6\text{H} + \text{C0MBaseAddr}$$

備考 略号のメッセージ・レジスタ番号mは2桁です。

C0MDATA01mはm = 0のときC0MDATA0100になります。

表21 - 18 CAN0メッセージ・バッファ・レジスタ

アドレス	機能レジスタ名称	略号	R/W	操作可能ビット			初期値
				1	8	16	
m × 20H + 0H	CAN0メッセージ・データ・バイト0レジスタm	C0MDATA01m	R/W				不定
m × 20H + 0H	CAN0メッセージ・データ・バイト0レジスタm	C0MDATA0m					不定
m × 20H + 1H	CAN0メッセージ・データ・バイト1レジスタm	C0MDATA1m					不定
m × 20H + 2H	CAN0メッセージ・データ・バイト23レジスタm	C0MDATA23m					不定
m × 20H + 2H	CAN0メッセージ・データ・バイト2レジスタm	C0MDATA2m					不定
m × 20H + 3H	CAN0メッセージ・データ・バイト3レジスタm	C0MDATA3m					不定
m × 20H + 4H	CAN0メッセージ・データ・バイト45レジスタm	C0MDATA45m					不定
m × 20H + 4H	CAN0メッセージ・データ・バイト4レジスタm	C0MDATA4m					不定
m × 20H + 5H	CAN0メッセージ・データ・バイト5レジスタm	C0MDATA5m					不定
m × 20H + 6H	CAN0メッセージ・データ・バイト67レジスタm	C0MDATA67m					不定
m × 20H + 6H	CAN0メッセージ・データ・バイト6レジスタm	C0MDATA6m					不定
m × 20H + 7H	CAN0メッセージ・データ・バイト7レジスタm	C0MDATA7m					不定
m × 20H + 8H	CAN0メッセージ・データ長コード・レジスタm	C0MDLCm					0000xxxxB
m × 20H + 9H	CAN0メッセージ・コンフィギュレーション・レジスタm	C0MCONFm					不定
m × 20H + AH	CAN0メッセージIDレジスタm	C0MIDLm					不定
m × 20H + CH		C0MIDHm					不定
m × 20H + EH	CAN0メッセージ制御レジスタm	C0MCTRLm					00x00000 000xx000B

(2) CAN1モジュール・レジスタ

CAN1レジスタ・ベース・アドレス (C1RBaseAddr) に対するアドレス・オフセットを次に示します。

C1RBaseAddr = PBA + 600H

表21-19 CAN1グローバル・レジスタ, モジュール・レジスタ

アドレス	レジスタ名	略号	R/W	操作可能ビット			初期値
				1	8	16	
000H	CAN1グローバル制御レジスタ	C1GMCTRL	R/W	-	-	○	0000H
002H	CAN1グローバル・クロック選択レジスタ	C1GMCS	R/W	-	○	-	0FH
006H	CAN1グローバル自動ブロック送信制御 レジスタ	C1GMABT	R/W	-	-	○	0000H
008H	CAN1グローバル自動ブロック送信遅延設 定レジスタ	C1GMABTD	R/W	-	○	-	00H
040H	CAN1モジュール・マスク1レジスタ	C1MASK1L	R/W	-	-	○	不定
042H		C1MASK1H					
044H	CAN1モジュール・マスク2レジスタ	C1MASK2L	R/W	-	-	○	不定
046H		C1MASK2H					
048H	CAN1モジュール・マスク3レジスタ	C1MASK3L	R/W	-	-	○	不定
04AH		C1MASK3H					
04CH	CAN1モジュール・マスク4レジスタ	C1MASK4L	R/W	-	-	○	不定
04EH		C1MASK4H					
050H	CAN1モジュール制御レジスタ	C1CTRL	R/W	-	-	○	0000H
052H	CAN1モジュール最終エラー情報レジスタ	C1LEC	R/W	-	○	-	00H
053H	CAN1モジュール情報レジスタ	C1INFO	R	-	○	-	00H
054H	CAN1モジュール・エラー・カウンタ・ レジスタ	C1ERC	R	-	-	○	0000H
056H	CAN1モジュール割り込み許可レジスタ	C1IE	R/W	-	-	○	0000H
058H	CAN1モジュール割り込みステータス・ レジスタ	C1INTS	R/W	-	-	○	0000H
05AH	CAN1モジュール・ピット・レート・ プリスケーラ・レジスタ	C1BRP	R/W	-	○	-	FFH
05CH	CAN1モジュール・ピット・レート・ レジスタ	C1BTR	R/W	-	-	○	370FH
05EH	CAN1モジュール最終受信ポインタ・ レジスタ	C1LIPT	R	-	○	-	不定
060H	CAN1モジュール受信ヒストリ・リスト・ レジスタ	C1RGPT	R/W	-	-	○	xx02H
062H	CAN1モジュール最終送信ポインタ・ レジスタ	C1LOPT	R	-	○	-	不定
064H	CAN1モジュール・送信ヒストリ・リスト・ レジスタ	C1TGPT	R/W	-	-	○	xx02H
066H	CAN1モジュール・タイム・スタンプ・ レジスタ	C1TS	R/W	-	-	○	0000H

表21 - 20のアドレスは、CAN1メッセージ・バッファのベース・アドレス(C1MBaseAddr)に対するオフセットを示します。

$$\text{C1MBaseAddr} = \text{PBA} + 700\text{H}$$

例 CAN1, メッセージ・バッファ・レジスタm = 23 = 17H, バイト3(C1MDATA323)のアドレスは次のとおりです。

$$17\text{H} \times 20\text{H} + 3\text{H} + \text{C1MBaseAddr}$$

備考 略号のメッセージ・レジスタ番号mは2桁です。

C1MDATA01mはm = 13のときC1MDATA0113になります。

表21 - 20 CAN1メッセージ・バッファ・レジスタ

アドレス	機能レジスタ名称	略号	R/W	操作可能ビット			初期値
				1	8	16	
m × 20H + 0H	CAN1メッセージ・データ・バイト0レジスタm	C1MDATA01m	R/W				不定
m × 20H + 0H	CAN1メッセージ・データ・バイト0レジスタm	C1MDATA0m					不定
m × 20H + 1H	CAN1メッセージ・データ・バイト1レジスタm	C1MDATA1m					不定
m × 20H + 2H	CAN1メッセージ・データ・バイト23レジスタm	C1MDATA23m					不定
m × 20H + 2H	CAN1メッセージ・データ・バイト2レジスタm	C1MDATA2m					不定
m × 20H + 3H	CAN1メッセージ・データ・バイト3レジスタm	C1MDATA3m					不定
m × 20H + 4H	CAN1メッセージ・データ・バイト45レジスタm	C1MDATA45m					不定
m × 20H + 4H	CAN1メッセージ・データ・バイト4レジスタm	C1MDATA4m					不定
m × 20H + 5H	CAN1メッセージ・データ・バイト5レジスタm	C1MDATA5m					不定
m × 20H + 6H	CAN1メッセージ・データ・バイト67レジスタm	C1MDATA67m					不定
m × 20H + 6H	CAN1メッセージ・データ・バイト6レジスタm	C1MDATA6m					不定
m × 20H + 7H	CAN1メッセージ・データ・バイト7レジスタm	C1MDATA7m					不定
m × 20H + 8H	CAN1メッセージ・データ長コード・レジスタm	C1MDLCm					0000xxxxB
m × 20H + 9H	CAN1メッセージ・コンフィギュレーション・レジスタm	C1MCONFm					不定
m × 20H + AH	CAN1メッセージIDレジスタm	C1MIDLm					不定
m × 20H + CH		C1MIDHm					不定
m × 20H + EH	CAN1メッセージ制御レジスタm	C1MCTRLm					00x00000 000xx000B

(3) CAN2モジュール・レジスタ

CAN2レジスタ・ベース・アドレス (C2RBaseAddr) に対するアドレス・オフセットを次に示します。

C2RBaseAddr = PBA + C00H

表21-21 CAN2グローバル・レジスタ, モジュール・レジスタ

アドレス	レジスタ名	略号	R/W	操作可能ビット			初期値
				1	8	16	
000H	CAN2グローバル制御レジスタ	C2GMCTRL	R/W	-	-	○	0000H
002H	CAN2グローバル・クロック選択レジスタ	C2GMCS	R/W	-	○	-	0FH
006H	CAN2グローバル自動ブロック送信制御 レジスタ	C2GMABT	R/W	-	-	○	0000H
008H	CAN2グローバル自動ブロック送信遅延設 定レジスタ	C2GMABTD	R/W	-	○	-	00H
040H	CAN2モジュール・マスク1レジスタ	C2MASK1L	R/W	-	-	○	不定
042H		C2MASK1H					
044H	CAN2モジュール・マスク2レジスタ	C2MASK2L	R/W	-	-	○	不定
046H		C2MASK2H					
048H	CAN2モジュール・マスク3レジスタ	C2MASK3L	R/W	-	-	○	不定
04AH		C2MASK3H					
04CH	CAN2モジュール・マスク4レジスタ	C2MASK4L	R/W	-	-	○	不定
04EH		C2MASK4H					
050H	CAN2モジュール制御レジスタ	C2CTRL	R/W	-	-	○	0000H
052H	CAN2モジュール最終エラー情報レジスタ	C2LEC	R/W	-	○	-	00H
053H	CAN2モジュール情報レジスタ	C2INFO	R	-	○	-	00H
054H	CAN2モジュール・エラー・カウンタ・ レジスタ	C2ERC	R	-	-	○	0000H
056H	CAN2モジュール割り込み許可レジスタ	C2IE	R/W	-	-	○	0000H
058H	CAN2モジュール割り込みステータス・ レジスタ	C2INTS	R/W	-	-	○	0000H
05AH	CAN2モジュール・ピット・レート・ プリスケーラ・レジスタ	C2BRP	R/W	-	○	-	FFH
05CH	CAN2モジュール・ピット・レート・ レジスタ	C2BTR	R/W	-	-	○	370FH
05EH	CAN2モジュール最終受信ポインタ・ レジスタ	C2LIPT	R	-	○	-	不定
060H	CAN2モジュール受信ヒストリ・リスト・ レジスタ	C2RGPT	R/W	-	-	○	xx02H
062H	CAN2モジュール最終送信ポインタ・ レジスタ	C2LOPT	R	-	○	-	不定
064H	CAN2モジュール・送信ヒストリ・リスト・ レジスタ	C2TGPT	R/W	-	-	○	xx02H
066H	CAN2モジュール・タイム・スタンプ・ レジスタ	C2TS	R/W	-	-	○	0000H

表21 - 22のアドレスは、CAN2メッセージ・バッファのベース・アドレス(C2MBaseAddr)に対するオフセットを示します。

$$\text{C2MBaseAddr} = \text{PBA} + \text{D00H}$$

例 CAN2、メッセージ・バッファ・レジスタm = 30 = 1EH、バイト6(C2MDATA630)のアドレスは次のとおりです。

$$1EH \times 20H + 6H + \text{C2MBaseAddr}$$

備考 略号のメッセージ・レジスタ番号mは2桁です。

C2MDATA01mはm = 13のときC2MDATA0113になります。

表21 - 22 CAN2メッセージ・バッファ・レジスタ

アドレス	機能レジスタ名称	略号	R/W	操作可能ビット			初期値
				1	8	16	
m × 20H + 0H	CAN2メッセージ・データ・バイト0レジスタm	C2MDATA01m	R/W				不定
m × 20H + 0H	CAN2メッセージ・データ・バイト0レジスタm	C2MDATA0m					不定
m × 20H + 1H	CAN2メッセージ・データ・バイト1レジスタm	C2MDATA1m					不定
m × 20H + 2H	CAN2メッセージ・データ・バイト23レジスタm	C2MDATA23m					不定
m × 20H + 2H	CAN2メッセージ・データ・バイト2レジスタm	C2MDATA2m					不定
m × 20H + 3H	CAN2メッセージ・データ・バイト3レジスタm	C2MDATA3m					不定
m × 20H + 4H	CAN2メッセージ・データ・バイト45レジスタm	C2MDATA45m					不定
m × 20H + 4H	CAN2メッセージ・データ・バイト4レジスタm	C2MDATA4m					不定
m × 20H + 5H	CAN2メッセージ・データ・バイト5レジスタm	C2MDATA5m					不定
m × 20H + 6H	CAN2メッセージ・データ・バイト67レジスタm	C2MDATA67m					不定
m × 20H + 6H	CAN2メッセージ・データ・バイト6レジスタm	C2MDATA6m					不定
m × 20H + 7H	CAN2メッセージ・データ・バイト7レジスタm	C2MDATA7m					不定
m × 20H + 8H	CAN2メッセージ・データ長コード・レジスタm	C2MDLCm					0000xxxxB
m × 20H + 9H	CAN2メッセージ・コンフィギュレーション・レジスタm	C2MCONFm					不定
m × 20H + AH	CAN2メッセージIDレジスタm	C2MIDLm					不定
m × 20H + CH		C2MIDHm					不定
m × 20H + EH	CAN2メッセージ制御レジスタm	C2MCTRLm					00x00000 000xx000B

(4) CAN3モジュール・レジスタ

CAN3レジスタ・ベース・アドレス (C3RBaseAddr) に対するアドレス・オフセットを次に示します。

C3RBaseAddr = PBA + 1200H

表21-23 CAN3グローバル・レジスタ、モジュール・レジスタ

アドレス	レジスタ名	略号	R/W	操作可能ビット			初期値
				1	8	16	
000H	CAN3グローバル制御レジスタ	C3GMCTRL	R/W	-	-	○	0000H
002H	CAN3グローバル・クロック選択レジスタ	C3GMCS	R/W	-	○	-	0FH
006H	CAN3グローバル自動ブロック送信制御レジスタ	C3GMABT	R/W	-	-	○	0000H
008H	CAN3グローバル自動ブロック送信遅延設定レジスタ	C3GMABTD	R/W	-	○	-	00H
040H	CAN3モジュール・マスク1レジスタ	C3MASK1L	R/W	-	-	○	不定
042H		C3MASK1H					
044H	CAN3モジュール・マスク2レジスタ	C3MASK2L	R/W	-	-	○	不定
046H		C3MASK2H					
048H	CAN3モジュール・マスク3レジスタ	C3MASK3L	R/W	-	-	○	不定
04AH		C3MASK3H					
04CH	CAN3モジュール・マスク4レジスタ	C3MASK4L	R/W	-	-	○	不定
04EH		C3MASK4H					
050H	CAN3モジュール制御レジスタ	C3CTRL	R/W	-	-	○	0000H
052H	CAN3モジュール最終エラー情報レジスタ	C3LEC	R/W	-	○	-	00H
053H	CAN3モジュール情報レジスタ	C3INFO	R	-	○	-	00H
054H	CAN3モジュール・エラー・カウンタ・レジスタ	C3ERC	R	-	-	○	0000H
056H	CAN3モジュール割り込み許可レジスタ	C3IE	R/W	-	-	○	0000H
058H	CAN3モジュール割り込みステータス・レジスタ	C3INTS	R/W	-	-	○	0000H
05AH	CAN3モジュール・ピット・レート・プリスケーラ・レジスタ	C3BRP	R/W	-	○	-	FFH
05CH	CAN3モジュール・ピット・レート・レジスタ	C3BTR	R/W	-	-	○	370FH
05EH	CAN3モジュール最終受信ポインタ・レジスタ	C3LIPT	R	-	○	-	不定
060H	CAN3モジュール受信ヒストリ・リスト・レジスタ	C3RGPT	R/W	-	-	○	xx02H
062H	CAN3モジュール最終送信ポインタ・レジスタ	C3LOPT	R	-	○	-	不定
064H	CAN3モジュール・送信ヒストリ・リスト・レジスタ	C3TGPT	R/W	-	-	○	xx02H
066H	CAN3モジュール・タイム・スタンプ・レジスタ	C3TS	R/W	-	-	○	0000H

表21 - 24のアドレスは、CAN3メッセージ・バッファのベース・アドレス(C3MBaseAddr)に対するオフセットを示します。

$$\text{C3MBaseAddr} = \text{PBA} + 1300\text{H}$$

例 CAN3、メッセージ・バッファ・レジスタm = 12 = CH、バイト5(C3MDATA512)のアドレスは次のとおりです。

$$\text{CH} \times 20\text{H} + 5\text{H} + \text{C3MBaseAddr}$$

備考 略号のメッセージ・レジスタ番号mは2桁です。

C3MDATA01mはm = 4のときC2MDATA0104になります。

表21 - 24 CAN3メッセージ・バッファ・レジスタ

アドレス	機能レジスタ名称	略号	R/W	操作可能ビット			初期値
				1	8	16	
m × 20H + 0H	CAN3メッセージ・データ・バイト0レジスタm	C3MDATA01m	R/W				不定
m × 20H + 0H	CAN3メッセージ・データ・バイト0レジスタm	C3MDATA0m					不定
m × 20H + 1H	CAN3メッセージ・データ・バイト1レジスタm	C3MDATA1m					不定
m × 20H + 2H	CAN3メッセージ・データ・バイト23レジスタm	C3MDATA23m					不定
m × 20H + 2H	CAN3メッセージ・データ・バイト2レジスタm	C3MDATA2m					不定
m × 20H + 3H	CAN3メッセージ・データ・バイト3レジスタm	C3MDATA3m					不定
m × 20H + 4H	CAN3メッセージ・データ・バイト45レジスタm	C3MDATA45m					不定
m × 20H + 4H	CAN3メッセージ・データ・バイト4レジスタm	C3MDATA4m					不定
m × 20H + 5H	CAN3メッセージ・データ・バイト5レジスタm	C3MDATA5m					不定
m × 20H + 6H	CAN3メッセージ・データ・バイト67レジスタm	C3MDATA67m					不定
m × 20H + 6H	CAN3メッセージ・データ・バイト6レジスタm	C3MDATA6m					不定
m × 20H + 7H	CAN3メッセージ・データ・バイト7レジスタm	C3MDATA7m					不定
m × 20H + 8H	CAN3メッセージ・データ長コード・レジスタm	C3MDLCm					0000xxxxB
m × 20H + 9H	CAN3メッセージ・コンフィギュレーション・レジスタm	C3MCONFm					不定
m × 20H + AH	CAN3メッセージIDレジスタm	C3MIDLm					不定
m × 20H + CH		C3MIDHm					不定
m × 20H + EH	CAN3メッセージ制御レジスタm	C3MCTRLm					00x00000 000xx000B

(5) CAN4モジュール・レジスタ

CAN4レジスタ・ベース・アドレス (C4RBaseAddr) に対するアドレス・オフセットを次に示します。

C4RBaseAddr = PBA + 1800H

表21-25 CAN4グローバル・レジスタ、モジュール・レジスタ

アドレス	レジスタ名	略号	R/W	操作可能ビット			初期値
				1	8	16	
000H	CAN4グローバル制御レジスタ	C4GMCTRL	R/W	-	-	○	0000H
002H	CAN4グローバル・クロック選択レジスタ	C4GMCS	R/W	-	○	-	0FH
006H	CAN4グローバル自動ブロック送信制御レジスタ	C4GMABT	R/W	-	-	○	0000H
008H	CAN4グローバル自動ブロック送信遅延設定レジスタ	C4GMABTD	R/W	-	○	-	00H
040H	CAN4モジュール・マスク1レジスタ	C4MASK1L	R/W	-	-	○	不定
042H		C4MASK1H					
044H	CAN4モジュール・マスク2レジスタ	C4MASK2L	R/W	-	-	○	不定
046H		C4MASK2H					
048H	CAN4モジュール・マスク3レジスタ	C4MASK3L	R/W	-	-	○	不定
04AH		C4MASK3H					
04CH	CAN4モジュール・マスク4レジスタ	C4MASK4L	R/W	-	-	○	不定
04EH		C4MASK4H					
050H	CAN4モジュール制御レジスタ	C4CTRL	R/W	-	-	○	0000H
052H	CAN4モジュール最終エラー情報レジスタ	C4LEC	R/W	-	○	-	00H
053H	CAN4モジュール情報レジスタ	C4INFO	R	-	○	-	00H
054H	CAN4モジュール・エラー・カウンタ・レジスタ	C4ERC	R	-	-	○	0000H
056H	CAN4モジュール割り込み許可レジスタ	C4IE	R/W	-	-	○	0000H
058H	CAN4モジュール割り込みステータス・レジスタ	C4INTS	R/W	-	-	○	0000H
05AH	CAN4モジュール・ピット・レート・プリスケーラ・レジスタ	C4BRP	R/W	-	○	-	FFH
05CH	CAN4モジュール・ピット・レート・レジスタ	C4BTR	R/W	-	-	○	370FH
05EH	CAN4モジュール最終受信ポインタ・レジスタ	C4LIPT	R	-	○	-	不定
060H	CAN4モジュール受信ヒストリ・リスト・レジスタ	C4RGPT	R/W	-	-	○	xx02H
062H	CAN4モジュール最終送信ポインタ・レジスタ	C4LOPT	R	-	○	-	不定
064H	CAN4モジュール・送信ヒストリ・リスト・レジスタ	C4TGPT	R/W	-	-	○	xx02H
066H	CAN4モジュール・タイム・スタンプ・レジスタ	C4TS	R/W	-	-	○	0000H

表21 - 26のアドレスは、CAN4メッセージ・バッファのベース・アドレス(C4MBaseAddr)に対するオフセットを示します。

$$\text{C4MBaseAddr} = \text{PBA} + 1900\text{H}$$

例 CAN4、メッセージ・バッファ・レジスタm = 12 = CH、バイト5(C4MDATA512)のアドレスは次のとおりです。

$$\text{CH} \times 20\text{H} + 5\text{H} + \text{C4MBaseAddr}$$

備考 略号のメッセージ・レジスタ番号mは2桁です。

C4MDATA01mはm = 4のときC2MDATA0104になります。

表21 - 26 CAN4メッセージ・バッファ・レジスタ

アドレス	機能レジスタ名称	略号	R/W	操作可能ビット			初期値
				1	8	16	
m × 20H + 0H	CAN4メッセージ・データ・バイト0レジスタm	C4MDATA01m	R/W				不定
m × 20H + 0H	CAN4メッセージ・データ・バイト0レジスタm	C4MDATA0m					不定
m × 20H + 1H	CAN4メッセージ・データ・バイト1レジスタm	C4MDATA1m					不定
m × 20H + 2H	CAN4メッセージ・データ・バイト23レジスタm	C4MDATA23m					不定
m × 20H + 2H	CAN4メッセージ・データ・バイト2レジスタm	C4MDATA2m					不定
m × 20H + 3H	CAN4メッセージ・データ・バイト3レジスタm	C4MDATA3m					不定
m × 20H + 4H	CAN4メッセージ・データ・バイト45レジスタm	C4MDATA45m					不定
m × 20H + 4H	CAN4メッセージ・データ・バイト4レジスタm	C4MDATA4m					不定
m × 20H + 5H	CAN4メッセージ・データ・バイト5レジスタm	C4MDATA5m					不定
m × 20H + 6H	CAN4メッセージ・データ・バイト67レジスタm	C4MDATA67m					不定
m × 20H + 6H	CAN4メッセージ・データ・バイト6レジスタm	C4MDATA6m					不定
m × 20H + 7H	CAN4メッセージ・データ・バイト7レジスタm	C4MDATA7m					不定
m × 20H + 8H	CAN4メッセージ・データ長コード・レジスタm	C4MDLCm					0000xxxxB
m × 20H + 9H	CAN4メッセージ・コンフィギュレーション・レジスタm	C4MCONFm					不定
m × 20H + AH	CAN4メッセージIDレジスタm	C4MIDLm					不定
m × 20H + CH		C4MIDHm					不定
m × 20H + EH	CAN4メッセージ制御レジスタm	C4MCTRLm					00x00000 000xx000B

21.5.4 レジスタのピット構成

表21-27 CANグローバル・レジスタのピット構成

アドレス	略号	ピット7/15	ピット6/14	ピット5/13	ピット4/12	ピット3/11	ピット2/10	ピット1/9	ピット0/8
03FExx00H	CnGMCTRL (W)	0	0	0	0	0	0	0	Clear GOM
03FExx01H		0	0	0	0	0	0	Set EFSD	Set GOM
03FExx00H	CnGMCTRL (R)	0	0	0	0	0	0	EFSD	GOM
03FExx01H		MBON	0	0	0	0	0	0	0
03FExx02H	CnGMCS	0	0	0	0	CCP3	CCP2	CCP1	CCP0
03FExx06H	CnGMABT (W)	0	0	0	0	0	0	0	Clear ABTRG
03FExx07H		0	0	0	0	0	0	Set ABTCLR	Set ABTRG
03FExx06H	CnGMABT (R)	0	0	0	0	0	0	ABTCLR	ABTRG
03FExx07H		0	0	0	0	0	0	0	0
03FExx08H	CnGMABTD	0	0	0	0	ABTD3	ABTD2	ABTD1	ABTD0

備考 n = 0-4

表21-28 CANモジュール・レジスタのビット構成(1/2)

アドレス	略号	ビット7/15	ビット6/14	ビット5/13	ビット4/12	ビット3/11	ビット2/10	ビット1/9	ビット0/8
03FEExx40H	CnMASK1L	CMID1 [7:0]							
03FEExx41H		CMID1 [15:8]							
03FEExx42H	CnMASK1H	CMID1 [23:16]							
03FEExx43H		0	0	0	CMID1 [28:24]				
03FEExx44H	CnMASK2L	CMID2 [7:0]							
03FEExx45H		CMID2 [15:8]							
03FEExx46H	CnMASK2H	CMID2 [23:16]							
03FEExx47H		0	0	0	CMID2 [28:24]				
03FEExx48H	CnMASK3L	CMID3 [7:0]							
03FEExx49H		CMID3 [15:8]							
03FEExx4AH	CnMASK3H	CMID3 [23:16]							
03FEExx4BH		0	0	0	CMID3 [28:24]				
03FEExx4CH	CnMASK4L	CMID4 [7:0]							
03FEExx4DH		CMID4 [15:8]							
03FEExx4EH	CnMASK4H	CMID4 [23:16]							
03FEExx4FH		0	0	0	CMID4 [28:24]				
03FEExx50H	CnCTRL (W)	0	Clear AL	Clear VALID	Clear PSMODE1	Clear PSMODE0	Clear OPMODE2	Clear OPMODE1	Clear OPMODE0
03FEExx51H		Set CCERC	Set AL	0	Set PSMODE1	Set PSMODE0	Set OPMODE2	Set OPMODE1	Set OPMODE0
03FEExx50H	CnCTRL (R)	CCERC	AL	VALID	PS MODE1	PS MODE0	OP MODE2	OP MODE1	OP MODE0
03FEExx51H		0	0	0	0	0	0	RSTAT	TSTAT
03FEExx52H	CnLEC (W)	0	0	0	0	0	0	0	0
03FEExx52H	CnLEC (R)	0	0	0	0	0	LEC2	LEC1	LEC0
03FEExx53H	CnINFO	0	0	0	BOFF	TECS1	TECS0	RECS1	RECS0
03FEExx54H	CnERC	TEC [7:0]							
03FEExx55H		REPS	REC [6:0]						
03FEExx56H	CnIE (W)	0	0	Clear CIE5	Clear CIE4	Clear CIE3	Clear CIE2	Clear CIE1	Clear CIE0
03FEExx57H		0	0	Set CIE5	Set CIE4	Set CIE3	Set CIE2	Set CIE1	Set CIE0
03FEExx56H	CnIE (R)	0	0	CIE5	CIE4	CIE3	CIE2	CIE1	CIE0
03FEExx57H		0	0	0	0	0	0	0	0
03FEExx58H	CnINTS (W)	0	0	Clear CINTS5	Clear CINTS4	Clear CINTS3	Clear CINTS2	Clear CINTS1	Clear CINTS0
03FEExx59H		0	0	0	0	0	0	0	0
03FEExx58H	CnINTS (R)	0	0	CINTS5	CINTS4	CINTS3	CINTS2	CINTS1	CINTS0
03FEExx59H		0	0	0	0	0	0	0	0

備考 n = 0-4

表21 - 28 CANモジュール・レジスタのビット構成 (2/2)

アドレス	略号	ビット7/15	ビット6/14	ビット5/13	ビット4/12	ビット3/11	ビット2/10	ビット1/9	ビット0/8
03FExx5AH	CnBRP	TQPRS [7:0]							
03FExx5CH	CnBTR	0	0	0	0	TSEG1 [3:0]			
03FExx5DH		0	0	SJW [1:0]		0	TSEG2 [2:0]		
03FExx5EH	CnLIPT	LIPT [7:0]							
03FExx60H	CnRGPT (W)	0	0	0	0	0	0	0	Clear ROVF
03FExx61H		0	0	0	0	0	0	0	0
03FExx60H	CnRGPT (R)	0	0	0	0	0	0	RHPM	ROVF
03FExx61H		RGPT [7:0]							
03FExx62H	CnLOPT	LOPT [7:0]							
03FExx64H	CnTGPT (W)	0	0	0	0	0	0	0	Clear TOVF
03FExx65H		0	0	0	0	0	0	0	0
03FExx64H	CnTGPT (R)	0	0	0	0	0	0	THPM	TOVF
03FExx65H		TGPT [7:0]							
03FExx66H	CnTS (W)	0	0	0	0	0	Clear TSLOCK	Clear TSSEL	Clear TSEN
03FExx67H		0	0	0	0	0	Set TSLOCK	Set TSSEL	Set TSEN
03FExx66H	CnTS (R)	0	0	0	0	0	TSLOCK	TSSEL	TSEN
03FExx67H		0	0	0	0	0	0	0	0
03FExx68H- 03FExxFFH	-	アクセス禁止 (reserved for future use)							

備考 n = 0-4

表21-29 メッセージ・バッファ・レジスタのビット構成

アドレス	略号	ビット 7/15	ビット 6/14	ビット 5/13	ビット 4/12	ビット 3/11	ビット 2/10	ビット 1/9	ビット 0/8
03FExxx0H	CnMDATA01m	メッセージ・データ (バイト0)							
03FExxx1H		メッセージ・データ (バイト1)							
03FExxx0H	CnMDATA0m	メッセージ・データ (バイト0)							
03FExxx1H	CnMDATA1m	メッセージ・データ (バイト1)							
03FExxx2H	CnMDATA23m	メッセージ・データ (バイト2)							
03FExxx3H		メッセージ・データ (バイト3)							
03FExxx2H	CnMDATA2m	メッセージ・データ (バイト2)							
03FExxx3H	CnMDATA3m	メッセージ・データ (バイト3)							
03FExxx4H	CnMDATA45m	メッセージ・データ (バイト4)							
03FExxx5H		メッセージ・データ (バイト5)							
03FExxx4H	CnMDATA4m	メッセージ・データ (バイト4)							
03FExxx5H	CnMDATA5m	メッセージ・データ (バイト5)							
03FExxx6H	CnMDATA67m	メッセージ・データ (バイト6)							
03FExxx7H		メッセージ・データ (バイト7)							
03FExxx6H	CnMDATA6m	メッセージ・データ (バイト6)							
03FExxx7H	CnMDATA7m	メッセージ・データ (バイト7)							
03FExxx8H	CnMDLCm	0				MDLC3	MDLC2	MDLC1	MDLC0
03FExxx9H	CnMCONFm	OWS	RTR	MT2	MT1	MT0	0	0	MA0
03FExxxAH	CnMDLM	ID7	ID6	ID5	ID4	ID3	ID2	ID1	ID0
03FExxxBH		ID15	ID14	ID13	ID12	ID11	ID10	ID9	ID8
03FExxxCH	CnMIDHM	ID23	ID22	ID21	ID20	ID19	ID18	ID17	ID16
03FExxxDH		IDE	0	0	ID28	ID27	ID26	ID25	ID24
03FExxxEH	CnMCTRLm (W)	0	0	0	Clear MOW	Clear IE	Clear DN	Clear TRQ	Clear RDY
03FExxxFH		0	0	0	0	Set IE	0	Set TRQ	Set RDY
03FExxxEH	CnMCTRLm (R)	0	0	0	MOW	IE	DN	TRQ	RDY
03FExxxFH		0	0	MUC	0	0	0	0	0
03FExxx0- 03FExxxFH	-	アクセス禁止 (reserved for future)							

備考 n = 0-4

m = 0-31

21.6 ピットのセット / クリア機能

CANの制御レジスタには、ピットのセット / クリアがCPUとCANインターフェースの両方で行われるレジスタがあります。次に示すレジスタに直接値を書き込むと誤作動するため、値の直接書き込み（ピット操作、リード・モディファイ・ライト、目標値の直接書き込み）をしないでください。

- ・CANグローバル制御レジスタ（CnGMCTRL）
- ・CANグローバル自動ブロック送信制御レジスタ（CnGMABT）
- ・CANモジュール制御レジスタ（CnCTRL）
- ・CANモジュール割り込み許可レジスタ（CnIE）
- ・CANモジュール割り込みステータス・レジスタ（CnINTS）
- ・CANモジュール受信ヒストリ・リスト・レジスタ（CnRGPT）
- ・CANモジュール送信ヒストリ・リスト・レジスタ（CnTGPT）
- ・CANモジュール・タイム・スタンプ・レジスタ（CnTS）
- ・CANメッセージ制御レジスタm（CnMCTRLm）

備考 n = 0-4

m = 0-31

上記レジスタの16ビットは、すべて通常の方法で読むことができます。下位8ビットのピット・セットやピット・クリアは図21-23の手順で行ってください。

上記レジスタの下位8ビットのセット / クリアは、上位8ビットと下位8ビットの組み合わせで行います（図21-24 セット / クリア設定後のピット状態参照）。図21-23のように、setビットとclearビットの値により、該当するレジスタのピットをセット / クリア / 変化なしと操作できます。

図21-23 ピットのセット／クリアの操作例

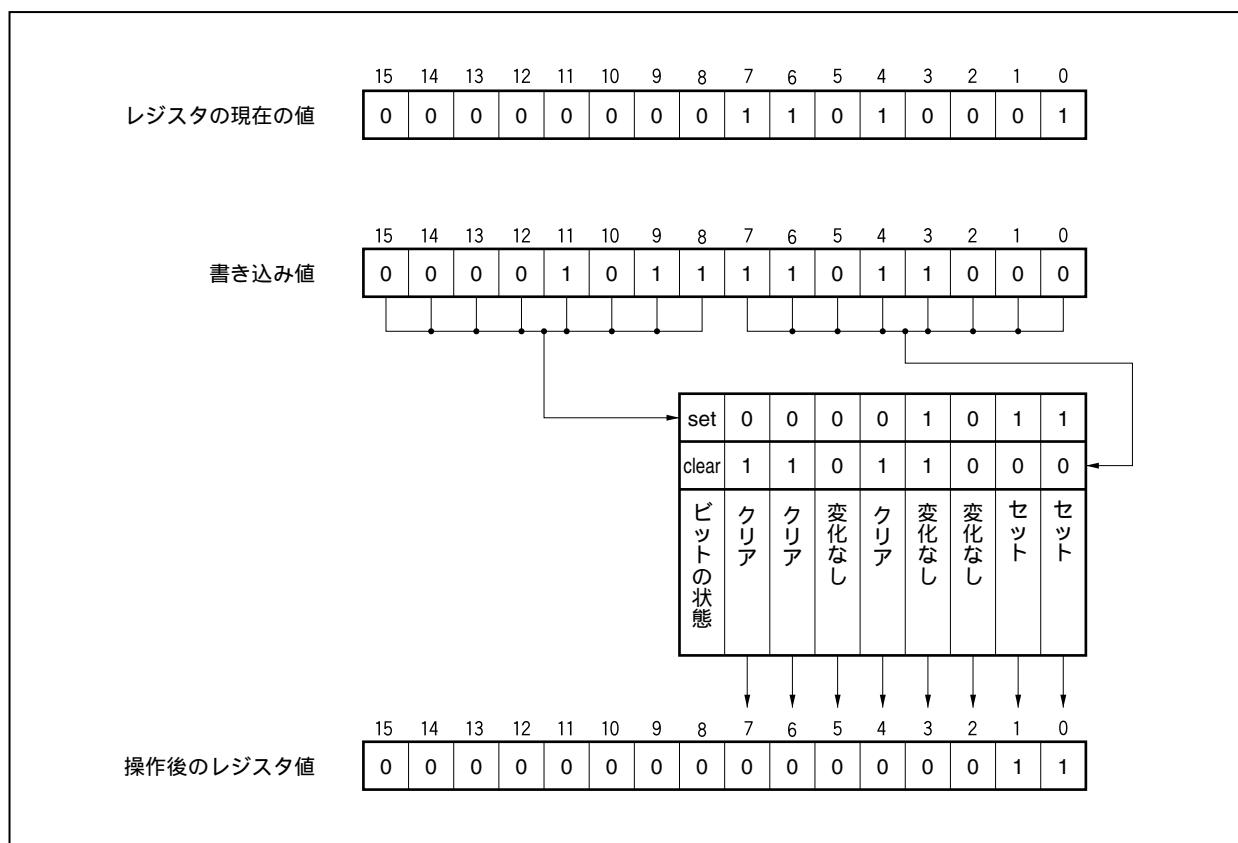
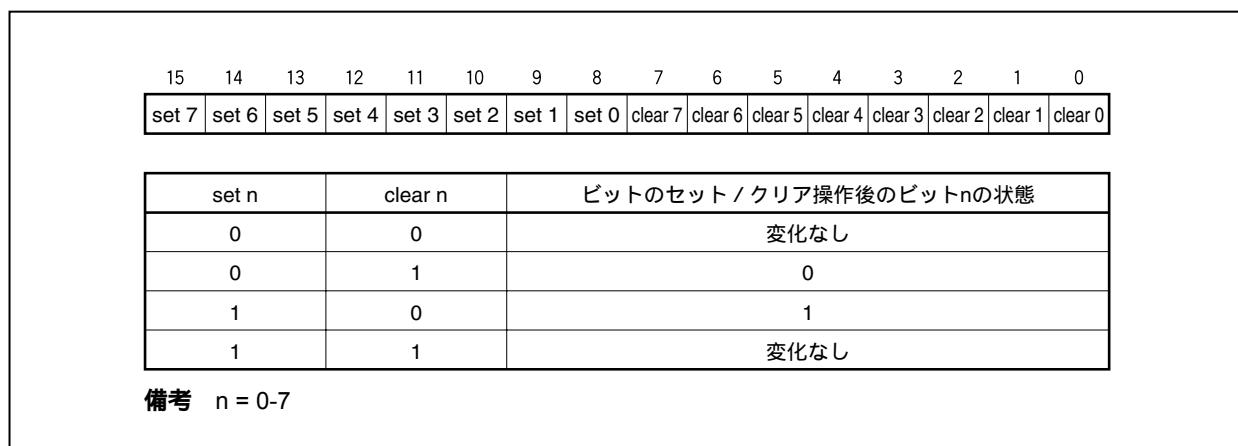


図21-24 セット／クリア設定後のピット状態



21.7 制御レジスタ

備考 n = 0-4

$$m = 0\text{--}31$$

(1) CANグローバル制御レジスタ (CnGMCTRL)

CnGMCTRLレジスタは、CANモジュールの動作を制御します。

(1/2)

リセット時 : 0000H R/W アドレス : C0GMCTRL 03FEC000H, C1GMCTRL 03FEC600H
C2GMCTRL 03FECC00H, C3GMCTRL 03FED200H

(a) リード時

(b) ライト時

(a) リード時

MBON	メッセージ・バッファ・レジスタおよび送信・受信ヒストリ・レジスタへのアクセス有効ビット
0	メッセージ・バッファ・レジスタおよび送信・受信ヒストリ・レジスタへのライト・アクセスおよびリード・アクセスは無効
1	メッセージ・バッファ・レジスタおよび送信・受信ヒストリ・レジスタへのライト・アクセスおよびリード・アクセス是有効

- 注意1. MBONビットがクリア(0)されている間は、ソフトウェアによるメッセージ・バッファ(CnMDATA0m, CnMDATA1m, CnMDATA01m, CnMDATA2m, CnMDATA3m, CnMDATA23m, CnMDATA4m, CnMDATA5m, CnMDATA45m, CnMDATA6m, CnMDATA7m, CnMDATA67m, CnMDLCm, CnMCONFm, CnMIDLm, CnMIDHm, CnMCTRLm)および送信ヒストリ,受信ヒストリに関連したレジスタ(CnLOPT, CnTGPT, CnLIPT, CnRGPT)へのアクセスは無効です。
 2. このビットはリード・オンリーです。MBON = 0の状態で1を書き込みしても, MBONは変化せず, メッセージ・バッファ・レジスタおよび送信ヒストリ, 受信ヒストリに関連したレジスタへのアクセスは無効のままです。

備考 CANスリープ・モード / CANストップ・モードに移行した場合、または、GOMビットをクリア(0)した場合に、MBONビットがクリア(0)されます。CANスリープ・モード / CANストップ・モードを解除した場合、またはGOMビットをセット(1)した場合に、MBONビットがセット(1)されます。

EFSD	強制シャット・ダウン有効ビット
0	GOM = 0による強制シャット・ダウンは無効
1	GOM = 0による強制シャット・ダウンは有効

注意 強制シャット・ダウンの要求を行う場合は、EFSDビットをセット(1)した直後に、GOMビットをクリア(0)してください。EFSDビットをセット(1)した直後にGOMビットをクリア(0)しないで、その他のレジスタ・アクセス(CnGMCTRLレジスタのリード含む)の実行をすると、EFSDビットは自動的にクリア(0)され、強制シャット・ダウンの要求は無効になります。

GOM	グローバル操作モード・ビット
0	CANモジュールは動作禁止状態
1	CANモジュールは動作許可状態

注意 GOMビットは、初期化モードのとき、またはEFSDビットをセット(1)した直後にのみクリア(0)可能です。

(b) ライト時

Set EFSD	EFSDビットの設定
0	EFSDビットの変更なし
1	EFSDビットをセット(1)する

Set GOM	Clear GOM	GOMビットの設定
0	1	GOMビットをクリア(0)する
1	0	GOMビットをセット(1)する
上記以外		GOMビットの変更なし

注意 GOMビットの設定とEFSDビットの設定は、常に別々に行ってください。

(2) CANグローバル・クロック選択レジスタ (CnGMCS)

CnGMCSレジスタは、CANモジュール・システム・クロックを選択します。

リセット時 : 0FH R/W アドレス : C0GMCS 03FEC002H, C1GMCS 03FEC602H
 C2GMCS 03FECC02H, C3GMCS 03FED202H

CnGMCS	7	6	5	4	3	2	1	0
	0	0	0	0	CCP3	CCP2	CCP1	CCP0

CCP3	CCP2	CCP1	CCP0	CANモジュール・システム・クロック (fCANMOD)
0	0	0	0	fCAN/1
0	0	0	1	fCAN/2
0	0	1	0	fCAN/3
0	0	1	1	fCAN/4
0	1	0	0	fCAN/5
0	1	0	1	fCAN/6
0	1	1	0	fCAN/7
0	1	1	1	fCAN/8
1	0	0	0	fCAN/9
1	0	0	1	fCAN/10
1	0	1	0	fCAN/11
1	0	1	1	fCAN/12
1	1	0	0	fCAN/13
1	1	0	1	fCAN/14
1	1	1	0	fCAN/15
1	1	1	1	fCAN/16 (初期値)

備考 fCAN = CANへの供給クロック = fXC, またはfXP1

(3) CANグローバル自動ブロック送信制御レジスタ (CnGMABT)

CnGMABTレジスタは、自動ブロック送信 (ABT) 動作を制御します。

(1/2)

リセット時 : 0000H R/W アドレス : C0GMABT 03FEC006H, C1GMABT 03FEC606H
 C2GMABT 03FECC06H, C3GMABT 03FED206H

(a) リード時

CnGMABT	15	14	13	12	11	10	9	8
	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
	0	0	0	0	0	0	ABTCLR	ABTTRG

(b) ライト時

CnGMABT	15	14	13	12	11	10	9	8
	0	0	0	0	0	0	Set	Set
	7	6	5	4	3	2	1	0
	0	0	0	0	0	0	0	Clear ABTTRG

注意 ABT付き通常動作モードから初期化モードに移行する前には、CnGMABTレジスタには必ず初期値(0000H)を設定し、設定後はCnGMABTレジスタが0000Hに初期化されたことを確実に確認してください。

(a) リード時

ABTCLR	自動ブロック送信エンジン・クリア・ステータス・ビット
0	自動ブロック送信エンジンのクリア処理を完了
1	自動ブロック送信エンジンのクリア処理中

- 備考1.** ABTCLRビットはABTTRGビットがクリア(0)されている状態でセット(1)してください。ABTTRGビットがセット(1)されている状態で、ABTCLRビットをセット(1)した場合の動作保証はしません。
- ABTCLRビットのセット(1)による自動ブロック送信エンジンのクリアは、クリア要求の処理が完了した時点ではABTCLRビットが直ちに自動的にクリア(0)されます。

ABTTRG	自動ブロック送信ステータス・ビット
0	自動ブロック送信の停止中
1	自動ブロック送信の実行中

- 注意** 初期化モード中にABTTRGビットを設定(ABTTRG = 1)しないでください。
- 初期化モード中にABTTRGビットを設定した場合、ABT付き通常動作モード移行後の動作は保証しません。TSTATビットがセット(1)されている間は、ABTTRGビットをセット(1)しないでください。ABTTRGビットをセット(1)する前に、TSTAT = 0であることを直接事前に確認してください。

(b) ライト時

Set ABTCLR	自動ブロック送信エンジンのクリア要求ビット	
0	自動ブロック送信エンジンはアイドル状態または動作中	
1	自動ブロック送信エンジンのクリア要求 自動ブロック送信エンジンのクリア後は、ABTTRGビットのセット(1)による自動ブロック送信はメッセージ・バッファ0から開始されます。	

Set ABTTRG	Clear ABTTRG	自動ブロック送信開始ビット
0	1	自動ブロック送信の停止を要求
1	0	自動ブロック送信の開始を要求
上記以外		ABTTRGビットの変更なし

注意 ABTTRGビットをセット(1)しても、他ノードからメッセージを受信していた場合やABTメッセージ以外のメッセージ(メッセージ・バッファ8~メッセージ・バッファ31)を送信していた場合などの状況により、即時に送信を行わない可能性があります。
 また、ABTTRG ビットをクリア(0)しても、送信の途中で中断されることはありません。
 送信中の場合には、送信が完了(成功/失敗問わず)するまで送信を継続します。

(4) CANグローバル自動ブロック送信遅延設定レジスタ (CnGMABTD)

CnGMABTDレジスタは ,ABT付き通常動作モードにおいて ,ABTに割り付けられたメッセージ・バッファの送信間隔を設定します。

リセット時 : 00H R/W アドレス : C0GMABTD 03FEC008H, C1GMABTD 03FEC608H
 C2GMABTD 03FECC08H, C3GMABTD 03FED208H

CnGMABTD	7	6	5	4	3	2	1	0
	0	0	0	0	ABTD3	ABTD2	ABTD1	ABTD0

ABTD3	ABTD2	ABTD1	ABTD0	自動ブロック送信時のデータ・フレーム間隔(単位はデータ・ビット・タイム ; DBT)
0	0	0	0	0 DBT (初期値)
0	0	0	1	2^5 DBT
0	0	1	0	2^6 DBT
0	0	1	1	2^7 DBT
0	1	0	0	2^8 DBT
0	1	0	1	2^9 DBT
0	1	1	0	2^{10} DBT
0	1	1	1	2^{11} DBT
1	0	0	0	2^{12} DBT
上記以外				設定禁止

- 注意1. ABTRGビットがセット (1) されている場合は , CnGMABTDレジスタの内容は変更しないでください。
2. 実際にCANバス上に送信されるABTメッセージのタイミングは ,他局からの送信状況あるいはABTメッセージ以外のメッセージ (メッセージ・バッファ8~メッセージ・バッファ31) に対する送信要求の設定状況によって変化します。

(5) CANモジュール・マスク制御レジスタ (CnMASKaL, CnMASKaH) (a = 1, 2, 3, 4)

CnMASKaL/CnMASKaHレジスタは、メッセージのアイデンティファイア (ID) の一部をマスクすることで、マスクされた部分のID比較を無効にし、同一メッセージ・バッファ内の受信可能なメッセージ数を拡張します。

(1/2)

・CANモジュール・マスク1レジスタ (CnMASK1L, CnMASK1H)

リセット時：不定 R/W アドレス : C0MASK1L 03FEC040H, C1MASK1L 03FEC640H
 C2MASK1L 03FECC40H, C3MASK1L 03FED240H
 C0MASK1H 03FEC042H, C1MASK1H 03FEC642H
 C2MASK1H 03FECC42H, C3MASK1H 03FED242H

	15	14	13	12	11	10	9	8
CnMASK1L	CMID15	CMID14	CMID13	CMID12	CMID11	CMID10	CMID9	CMID8
	7	6	5	4	3	2	1	0
	CMID7	CMID6	CMID5	CMID4	CMID3	CMID2	CMID1	CMID0
	15	14	13	12	11	10	9	8
CnMASK1H	0	0	0	CMID28	CMID27	CMID26	CMID25	CMID24
	7	6	5	4	3	2	1	0
	CMID23	CMID22	CMID21	CMID20	CMID19	CMID18	CMID17	CMID16

・CANモジュール・マスク2レジスタ (CnMASK2L, CnMASK2H)

リセット時：不定 R/W アドレス : C0MASK2L 03FEC044H, C1MASK2L 03FEC644H
 C2MASK2L 03FECC44H, C3MASK2L 03FED244H
 C0MASK2H 03FEC046H, C1MASK2H 03FEC646H
 C2MASK2H 03FECC46H, C3MASK2L 03FED246H

	15	14	13	12	11	10	9	8
CnMASK2L	CMID15	CMID14	CMID13	CMID12	CMID11	CMID10	CMID9	CMID8
	7	6	5	4	3	2	1	0
	CMID7	CMID6	CMID5	CMID4	CMID3	CMID2	CMID1	CMID0
	15	14	13	12	11	10	9	8
CnMASK2H	0	0	0	CMID28	CMID27	CMID26	CMID25	CMID24
	7	6	5	4	3	2	1	0
	CMID23	CMID22	CMID21	CMID20	CMID19	CMID18	CMID17	CMID16

・CANモジュール・マスク3レジスタ (CnMASK3L, CnMASK3H)

リセット時：不定 R/W アドレス：C0MASK3L 03FEC048H, C1MASK3L 03FEC648H
 C2MASK3L 03FECC48H, C3MASK3L 03FED248H
 C0MASK3H 03FEC04AH, C1MASK3H 03FEC64AH
 C2MASK3H 03FECC4AH, C3MASK3H 03FED24AH

	15	14	13	12	11	10	9	8
CnMASK3L	CMID15	CMID14	CMID13	CMID12	CMID11	CMID10	CMID9	CMID8
	7	6	5	4	3	2	1	0
	CMID7	CMID6	CMID5	CMID4	CMID3	CMID2	CMID1	CMID0
	15	14	13	12	11	10	9	8
CnMASK3H	0	0	0	CMID28	CMID27	CMID26	CMID25	CMID24
	7	6	5	4	3	2	1	0
	CMID23	CMID22	CMID21	CMID20	CMID19	CMID18	CMID17	CMID16

・CANモジュール・マスク4レジスタ (CnMASK4L, CnMASK4H)

リセット時：不定 R/W アドレス：C0MASK4L 03FEC04CH, C1MASK4L 03FEC64CH
 C2MASK4L 03FECC4CH, C3MASK4L 03FED24CH
 C0MASK4H 03FEC04EH, C1MASK4H 03FEC64EH
 C2MASK4H 03FECC4EH, C3MASK4H 03FED24EH

	15	14	13	12	11	10	9	8
CnMASK4L	CMID15	CMID14	CMID13	CMID12	CMID11	CMID10	CMID9	CMID8
	7	6	5	4	3	2	1	0
	CMID7	CMID6	CMID5	CMID4	CMID3	CMID2	CMID1	CMID0
	15	14	13	12	11	10	9	8
CnMASK4H	0	0	0	CMID28	CMID27	CMID26	CMID25	CMID24
	7	6	5	4	3	2	1	0
	CMID23	CMID22	CMID21	CMID20	CMID19	CMID18	CMID17	CMID16

CMID28-CMID0	IDビットのマスク・パターンを設定
0	CMID28-CMID0ビットに設定されたメッセージ・バッファのIDビットと受信メッセージ・フレームのIDビットを比較します。
1	CMID28-CMID0ビットに設定されたメッセージ・バッファのIDビットと受信メッセージ・フレームのIDビットを比較しません（マスクします）。

備考 マスクは常に29ビットのID長で定義されます。マスクが標準IDのメッセージに割り当てられた場合、CMID17-CMID0は無視されます。したがって、受信IDはCMID28-CMID18のみマスクされます。なお、標準および拡張IDはともに同一マスクを使用することができます。

(6) CANモジュール制御レジスタ (CnCTRL)

CnCTRLレジスタは、CANモジュールの動作モードを制御します。

(1/4)

リセット時 : 0000H R/W アドレス : C0CTRL 03FEC050H, C1CTRL 03FEC650H
 C2CTRL 03FECC50H, C3CTRL 03FED250H

(a) リード時

CnCTRL	15	14	13	12	11	10	9	8
	0	0	0	0	0	0	RSTAT	TSTAT
	7	6	5	4	3	2	1	0
	CCERC	AL	VALID	PSMODE1	PSMODE0	OPMODE2	OPMODE1	OPMODE0

(b) ライト時

CnCTRL	15	14	13	12	11	10	9	8
	Set	Set	0	Set	Set	Set	Set	Set
	CCERC	AL		PSMODE1	PSMODE0	OPMODE2	OPMODE1	OPMODE0
	0	Clear	Clear	Clear	Clear	Clear	Clear	Clear
		AL	VALID	PSMODE1	PSMODE0	OPMODE2	OPMODE1	OPMODE0

(a) リード時

RSTAT	受信ステータス・ビット
0	受信停止状態
1	受信動作状態

備考 -RSTATビットは、次の条件(タイミング)でセット(1)されます。

- ・受信フレームのSOFビット
 - ・送信フレーム中のアービトレーション・ロスト発生時
- RSTATビットは、次の条件(タイミング)でクリア(0)されます。
- ・インタフレーム・スペースの2ビット目にレセシブを検出時
 - ・インタフレーム・スペースの先頭ビットで初期化モードに遷移したとき

TSTAT	送信ステータス・ビット
0	送信停止状態
1	送信動作状態

備考 -TSTATビットは、次の条件(タイミング)でセット(1)されます。

- ・送信フレームのSOFビット

-TSTATビットは、次の条件(タイミング)でクリア(0)されます。

- ・バスオフ移行時
- ・送信フレーム中のアービトレーション・ロスト発生時
- ・インタフレーム・スペースの2ビット目にレセシプを検出時
- ・インタフレーム・スペースの先頭ビットで初期化モードに遷移したとき

CCERC	エラー・カウンタ・クリア・ビット
0	初期化モードにおいて、CnERCレジスタとCnINFOレジスタのクリア中ではありません。
1	初期化モードにおいて、CnERCレジスタとCnINFOレジスタがクリア中です。

- 備考** 1. CCERCビットは、再初期化やバスオフ強制復帰の際に、CnERCレジスタとCnINFOレジスタをクリアするために使用します。初期化モードでのみ、セット(1)が可能です。
 2. CnERCおよびCnINFOレジスタがクリアされるとCCERCビットも自動的にクリア(0)されます。
 3. 初期化モードから任意の動作モードへの遷移要求と同時にCCERCビットのセット(1)が可能です。
 4. セルフ・テスト・モードでINITモード移行直後にCCERCビットをセット(1)した場合、受信データが破壊される可能性があります。

AL	アービトレーション・ロスト時の動作設定ビット
0	シングル・ショット・モードにおいて、アービトレーション・ロストが発生した場合、再送信されません。
1	シングル・ショット・モードにおいて、アービトレーション・ロストが発生した場合、再送信されます。

備考 ALビットは、シングル・ショット・モードにおいてのみ有効です。

VALID	有効な受信メッセージ・フレーム検出ビット
0	VALIDビットが最後にクリア(0)されてから、有効なメッセージ・フレーム受信がありません。
1	VALIDビットが最後にクリア(0)されてから、有効なメッセージ・フレーム受信があります。

- 備考** 1. 有効な受信メッセージ・フレームの検出には、受信メッセージ・バッファへの格納(データ・フレーム)または送信メッセージ・バッファへの格納(リモート・フレーム)の有無に依存しません。
 2. 初期化モードから任意の動作モードに移行する前に、VALIDビットをクリア(0)してください。
 3. CANバスにCANノードが2つのみ接続され、一方のCANノードが通常動作モードでメッセージ・フレームを送信し、もう一方のCANノードが受信オンリー・モードである場合は、受信オンリー・モードではACKが発生しないため、VALIDビットは送信ノードがエラー・パッシブになる前にセット(1)されることはありません。
 4. VALIDビットをクリアする際は、Clear VALIDビットをセット(1)したあと、VALIDビットがクリアされることを確認してください。クリアされていない場合は、再度クリア処理を行ってください。

PSMODE1	PSMODE0	パワー・セーブ・モード
0	0	パワー・セーブ・モードは選択されていません。
0	1	CANスリープ・モード
1	0	設定禁止
1	1	CANストップ・モード

- 注意1. CANストップ・モードへの遷移およびCANストップ・モードからの遷移は、必ずCANスリープ・モードを経由してください。直接の遷移要求は無視されます。
2. パワー・セーブ・モードを解除したあと、再度メッセージ・バッファへアクセスする前にCnGMCTRLレジスタのMBONフラグを確認する必要があります。
 3. CANスリープ・モードへの遷移要求は、ソフトウェアによりキャンセルされるかあるいはCANバスがバス・アイドル状態に遷移するまで保留されます。PSMODEビットを読み出すことでソフトウェアはCANスリープ・モードへの遷移状況を確認することができます。

OPMODE2	OPMODE1	OPMODE0	動作モード
0	0	0	動作モードは選択されていません (CANモジュールは初期化モード状態)。
0	0	1	通常動作モード
0	1	0	自動ブロック送信機能付き通常動作モード (ABT付き通常動作モード)
0	1	1	受信オンリー・モード
1	0	0	シングル・ショット・モード
1	0	1	セルフ・テスト・モード
上記以外		設定禁止	

注意 初期化モードまたはパワー・セーブ・モードへの移行は、ある程度の時間がかかる可能性があるので、処理を実行する前にレジスタ値を読み込むことにより、モードの移行が成功したかどうかを必ず確認してください。

備考 CANスリープ・モードまたはCANストップ・モード中、OPMODE [2:0]ビットはリード・オーリーです。

(b) ライト時

Set CCERC	CCERCビットの設定	
1	CCERCビットをセット (1) する	
上記以外	CCERCビットの変更なし	

Set AL	Clear AL	ALビットの設定
0	1	ALビットをクリア (0) する
1	0	ALビットをセット (1) する
上記以外		ALビットの変更なし

Clear VALID	VALIDビットの設定	
0	VALIDビットの変更なし	
1	VALIDビットをクリア (0) する	

(4/4)

Set PSMODE0	Clear PSMODE0	PSMODE0ビットの設定
0	1	PSMODE0ビットをクリア(0)する
1	0	PSMODE0ビットをセット(1)する
上記以外		PSMODE0ビットの変更なし

Set PSMODE1	Clear PSMODE1	PSMODE1ビットの設定
0	1	PSMODE1ビットをクリア(0)する
1	0	PSMODE1ビットをセット(1)する
上記以外		PSMODE1ビットの変更なし

Set OPMODE0	Clear OPMODE0	OPMODE0ビットの設定
0	1	OPMODE0ビットをクリア(0)する
1	0	OPMODE0ビットをセット(1)する
上記以外		OPMODE0ビットの変更なし

Set OPMODE1	Clear OPMODE1	OPMODE1ビットの設定
0	1	OPMODE1ビットをクリア(0)する
1	0	OPMODE1ビットをセット(1)する
上記以外		OPMODE1ビットの変更なし

Set OPMODE2	Clear OPMODE2	OPMODE2ビットの設定
0	1	OPMODE2ビットをクリア(0)する
1	0	OPMODE2ビットをセット(1)する
上記以外		OPMODE2ビットの変更なし

(7) CANモジュール最終エラー情報レジスタ (CnLEC)

CnLECレジスタは、CANプロトコルのエラー情報を示します。

リセット時 : 00H R/W アドレス : C0LEC 03FEC052H, C1LEC 03FEC652H
 C2LEC 03FECC52H, C3LEC 03FED252H

CnLEC	7	6	5	4	3	2	1	0
	0	0	0	0	0	LEC2	LEC1	LEC0

- 備考**
1. CnLECレジスタの内容は、任意の動作モードから初期化モードへの移行では、クリアされません。
 2. CnLECレジスタに対してソフトウェアにより00H以外の値を書き込みしようとした場合、アクセスは無視されます。

LEC2	LEC1	LEC0	最終のCANプロトコル・エラー情報
0	0	0	エラーなし
0	0	1	スタッフ・エラー
0	1	0	フォーム・エラー
0	1	1	ACKエラー
1	0	0	ピット・エラー (CANモジュールは送信メッセージの一部として、レセシブ・ピットの送信をしようとしたが(アビトリレーション・フィールドを除く), CANバス上の値はドミナント・ピットであった場合)
1	0	1	ピット・エラー (CANモジュールは送信メッセージ, ACKピット, エラー・フレームまたはオーバロード・フレームの一部として、ドミナント・ピットの送信をしようとしたが, CANバス上の値はレセシブ・ピットであった場合)
1	1	0	CRCエラー
1	1	1	未定義

(8) CANモジュール情報レジスタ (CnINFO)

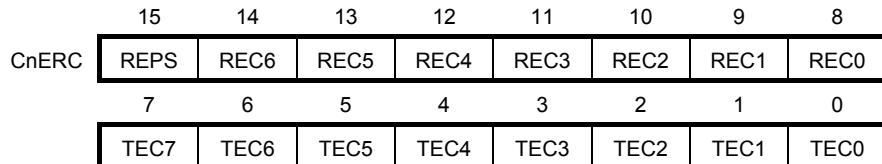
CnINFOレジスタは、CANモジュールのステータスを示します。

リセット時 : 00H R アドレス : C0INFO 03FEC053H, C1INFO 03FEC653H C2INFO 03FECC53H, C3INFO 03FED253H																																															
7 6 5 4 3 2 1 0																																															
CnINFO																																															
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 12.5%;">BOFF</td> <td colspan="7" style="text-align: center;">バスオフ状態ビット</td></tr> <tr> <td>0</td> <td colspan="7">バスオフ状態ではありません (送信エラー・カウンタ < 255) (送信エラー・カウントが256未満)</td></tr> <tr> <td>1</td> <td colspan="7" rowspan="2">バスオフ状態 (送信エラー・カウンタ > 255) (送信エラーのカウントが256以上)</td></tr> </table>							BOFF	バスオフ状態ビット							0	バスオフ状態ではありません (送信エラー・カウンタ < 255) (送信エラー・カウントが256未満)							1	バスオフ状態 (送信エラー・カウンタ > 255) (送信エラーのカウントが256以上)																							
BOFF	バスオフ状態ビット																																														
0	バスオフ状態ではありません (送信エラー・カウンタ < 255) (送信エラー・カウントが256未満)																																														
1	バスオフ状態 (送信エラー・カウンタ > 255) (送信エラーのカウントが256以上)																																														
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 12.5%;">TECS1</td> <td style="width: 12.5%;">TECS0</td> <td colspan="6" style="text-align: center;">送信エラー・カウンタ状態ビット</td></tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td colspan="6">送信エラー・カウンタはワーニング・レベル未満 (< 96)</td></tr> <tr> <td>0</td> <td>1</td> <td colspan="6">送信エラー・カウンタはワーニング・レベル範囲 (96.....127)</td></tr> <tr> <td>1</td> <td>0</td> <td colspan="6">未定義</td></tr> <tr> <td>1</td> <td>1</td> <td colspan="6" rowspan="2">送信エラー・カウンタはエラー・パッシブまたはバスオフ範囲 (128)</td></tr> </table>								TECS1	TECS0	送信エラー・カウンタ状態ビット						0	0	送信エラー・カウンタはワーニング・レベル未満 (< 96)						0	1	送信エラー・カウンタはワーニング・レベル範囲 (96.....127)						1	0	未定義						1	1	送信エラー・カウンタはエラー・パッシブまたはバスオフ範囲 (128)					
TECS1	TECS0	送信エラー・カウンタ状態ビット																																													
0	0	送信エラー・カウンタはワーニング・レベル未満 (< 96)																																													
0	1	送信エラー・カウンタはワーニング・レベル範囲 (96.....127)																																													
1	0	未定義																																													
1	1	送信エラー・カウンタはエラー・パッシブまたはバスオフ範囲 (128)																																													
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 12.5%;">RECS1</td> <td style="width: 12.5%;">RECS0</td> <td colspan="6" style="text-align: center;">受信エラー・カウンタ状態ビット</td></tr> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td colspan="6">受信エラー・カウンタはワーニング・レベル未満 (< 96)</td></tr> <tr> <td>0</td> <td>1</td> <td colspan="6">受信エラー・カウンタはワーニング・レベル範囲 (96.....127)</td></tr> <tr> <td>1</td> <td>0</td> <td colspan="6">未定義</td></tr> <tr> <td>1</td> <td>1</td> <td colspan="6">受信エラー・カウンタはエラー・パッシブ範囲 (128)</td></tr> </table>								RECS1	RECS0	受信エラー・カウンタ状態ビット						0	0	受信エラー・カウンタはワーニング・レベル未満 (< 96)						0	1	受信エラー・カウンタはワーニング・レベル範囲 (96.....127)						1	0	未定義						1	1	受信エラー・カウンタはエラー・パッシブ範囲 (128)					
RECS1	RECS0	受信エラー・カウンタ状態ビット																																													
0	0	受信エラー・カウンタはワーニング・レベル未満 (< 96)																																													
0	1	受信エラー・カウンタはワーニング・レベル範囲 (96.....127)																																													
1	0	未定義																																													
1	1	受信エラー・カウンタはエラー・パッシブ範囲 (128)																																													

(9) CANモジュール・エラー・カウンタ・レジスタ (CnERC)

CnERCレジスタは、送受信エラー・カウンタのカウント値を示します。

リセット時 : 0000H R アドレス : C0ERC FFFEC054H, C1ERC FFFEC654H
 C2ERC FFFECC54H, C3ERC FFFED254H



REPS	受信エラー・パッシブ・ステータス・ビット
0	受信エラー・カウンタは、エラー・パッシブではない (< 128)
1	受信エラー・カウンタは、エラー・パッシブ範囲 (128)

REC6-REC0	受信エラー・カウンタ・ビット
0-127	受信エラー・カウント数 受信エラー・カウンタの状態を反映します。カウント数はCANプロトコルにより定義されています。

備考 受信エラー・パッシブ状態 (CnINFO.RECS [1:0] = 11B) では、受信エラー・カウンタ REC6-REC0は無効です。

TEC7-TEC0	送信エラー・カウンタ・ビット
0-255	送信エラー・カウント数 送信エラー・カウンタの状態を反映します。カウント数はCANプロトコルにより定義されています。

備考 バスオフ中 (CnINFO.BOFF = 1) では、送信エラー・カウンタTEC7-TEC0は無効です。

(10) CANモジュール割り込み許可レジスタ (CnIE)

CnIEレジスタは、CANモジュールの割り込み許可／禁止を設定します。

(1/2)

リセット時 : 0000H R/W アドレス : C0IE 03FEC056H, C1IE 03FEC656H
 C2IE 03FECC56H, C3IE 03FED256H

(a) リード時

	15	14	13	12	11	10	9	8
CnIE	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
	0	0	CIE5	CIE4	CIE3	CIE2	CIE1	CIE0

(b) ライト時

	15	14	13	12	11	10	9	8
CnIE	0	0	Set	Set	Set	Set	Set	Set
			CIE5	CIE4	CIE3	CIE2	CIE1	CIE0
	7	6	5	4	3	2	1	0
	0	0	Clear	Clear	Clear	Clear	Clear	Clear
			CIE5	CIE4	CIE3	CIE2	CIE1	CIE0

(a) リード時

CIE5-CIE0	CANモジュール割り込み許可ビット	
0	割り込みステータス・レジスタCINTS5-CINTS0に対応する割り込み出力禁止	
1	割り込みステータス・レジスタCINTS5-CINTS0に対応する割り込み出力許可	

(b) ライト時

Set CIE5	Clear CIE5	CIE5ビットの設定
0	1	CIE5ビットをクリア(0)する
1	0	CIE5ビットをセット(1)する
上記以外		CIE5ビットの変更なし

Set CIE4	Clear CIE4	CIE4ビットの設定
0	1	CIE4ビットをクリア(0)する
1	0	CIE4ビットをセット(1)する
上記以外		CIE4ビットの変更なし

Set CIE3	Clear CIE3	CIE3ビットの設定
0	1	CIE3ビットをクリア(0)する
1	0	CIE3ビットをセット(1)する
上記以外		CIE3ビットの変更なし

(2/2)

Set CIE2	Clear CIE2	CIE2ビットの設定
0	1	CIE2ビットをクリア(0)する
1	0	CIE2ビットをセット(1)する
上記以外		CIE2ビットの変更なし

Set CIE1	Clear CIE1	CIE1ビットの設定
0	1	CIE1ビットをクリア(0)する
1	0	CIE1ビットをセット(1)する
上記以外		CIE1ビットの変更なし

Set CIE0	Clear CIE0	CIE0ビットの設定
0	1	CIE0ビットをクリア(0)する
1	0	CIE0ビットをセット(1)する
上記以外		CIE0ビットの変更なし

(11) CANモジュール割り込みステータス・レジスタ (CnINTS)

CnINTSレジスタは、CANモジュールの割り込みステータスを示します。

リセット時 : 0000H R/W アドレス : C0INTS 03FEC058H, C1INTS 03FEC658H
 C2INTS 03FECC58H, C3INTS 03FED258H

(a) リード時

CnINTS	15	14	13	12	11	10	9	8
	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
	0	0	CINTS5	CINTS4	CINTS3	CINTS2	CINTS1	CINTS0

(b) ライト時

CnINTS	15	14	13	12	11	10	9	8
	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
	0	0	Clear CINTS5	Clear CINTS4	Clear CINTS3	Clear CINTS2	Clear CINTS1	Clear CINTS0

(a) リード時

CINTS5-CINTS0	CAN割り込みステータス・ビット
0	関連する割り込みソース・イベント未発生
1	関連する割り込みソース・イベント発生

割り込み ステータス・ビット	関連する割り込みソース・イベント
CINTS5	CANスリープ・モードからのウェイクアップ割り込み ^注
CINTS4	アービトレーション・ロスト割り込み
CINTS3	CANプロトコル・エラー割り込み
CINTS2	CANエラー・ステータス割り込み
CINTS1	メッセージ・バッファmへの有効なメッセージ・フレーム受信完了割り込み
CINTS0	メッセージ・バッファmからのメッセージ・フレームの正常な送信完了割り込み

注 CANバス動作によるCANスリープ・モードからのウェイクアップによってのみ、CINTS5がセット(1)されます。ソフトウェアによるCANスリープ・モードの解除ではCINTS5はセット(1)されません。

(b) ライト時

Clear CINTS5-CINTS0	CINTS5-CINTS0ビットの設定
0	CINTS5-CINTS0ビットの変更なし
1	CINTS5-CINTS0ビットをクリア(0)する

注意 このレジスタのステータス・ビットは自動的にクリアされることはありませんので、割り込み処理内で各ステータスの確認が必要な場合には、ソフトウェアにてクリア(0)を行ってください。

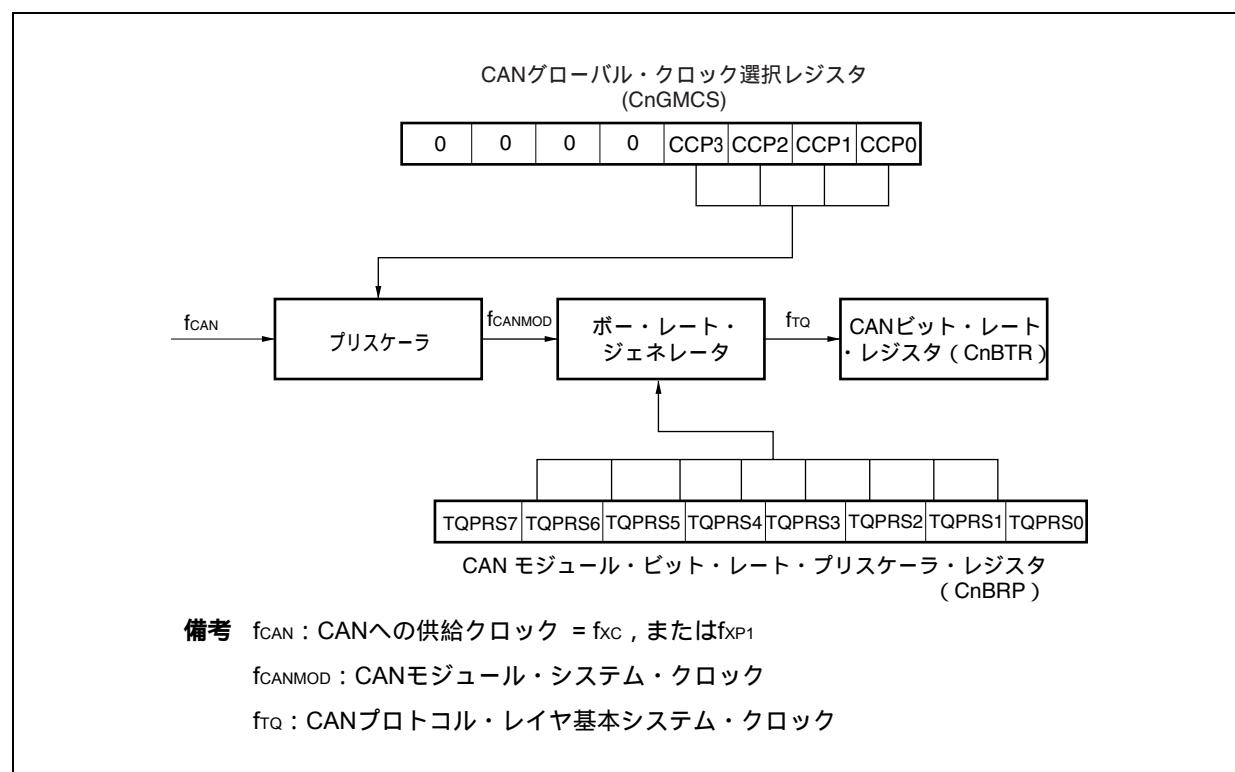
(12) CANモジュール・ピット・レート・プリスケーラ・レジスタ (CnBRP)

CnBRPレジスタは、CANプロトコル・レイヤ基本クロック(f_{TQ})を選択します。また、通信ポート・レジスタは、CnBTRレジスタに設定されます。

注意 CnBRPレジスタは、初期化モードのときのみライト・アクセス可能です。

リセット時 : FFH	R/W	アドレス : C0BRP 03FEC05AH, C1BRP 03FEC65AH C2BRP 03FECC5AH, C3BRP 03FED25AH
	7 6 5 4 3 2 1 0	
CnBRP	TQPRS7 TQPRS6 TQPRS5 TQPRS4 TQPRS3 TQPRS2 TQPRS1 TQPRS0	
TQPRS7-TQPRS0	CANプロトコル・レイヤ基本システム・クロック (f_{TQ})	
0	$f_{CANMOD}/1$	
1	$f_{CANMOD}/2$	
n	$f_{CANMOD}/(n+1)$	
.....	
255	$f_{CANMOD}/256$ (初期値)	

図21-25 CANモジュールのクロック



(13) CANモジュール・ビット・レート・レジスタ (CnBTR)

CnBTRレジスタは、通信ポート・レートのデータ・ビット・タイムを制御します。

(1/2)

リセット時 : 370FH R/W アドレス : C0BTR 03FEC05CH, C1BTR 03FEC65CH
 C2BTR 03FECC5CH, C3BTR 03FED25CH

CnBTR	15	14	13	12	11	10	9	8
	0	0	SJW1	SJW0	0	TSEG22	TSEG21	TSEG20
	7	6	5	4	3	2	1	0
	0	0	0	0	TSEG13	TSEG12	TSEG11	TSEG10

図21-26 データ・ビット・タイム



(2/2)

SJW1	SJW0	同期ジャンプ幅の長さ
0	0	1TQ
0	1	2TQ
1	0	3TQ
1	1	4TQ (初期値)

TSEG22	TSEG21	TSEG20	タイム・セグメント2の長さ
0	0	0	1TQ
0	0	1	2TQ
0	1	0	3TQ
0	1	1	4TQ
1	0	0	5TQ
1	0	1	6TQ
1	1	0	7TQ
1	1	1	8TQ (初期値)

TSEG13	TSEG12	TSEG11	TSEG10	タイム・セグメント1の長さ
0	0	0	0	設定禁止
0	0	0	1	2TQ ^注
0	0	1	0	3TQ ^注
0	0	1	1	4TQ
0	1	0	0	5TQ
0	1	0	1	6TQ
0	1	1	0	7TQ
0	1	1	1	8TQ
1	0	0	0	9TQ
1	0	0	1	10TQ
1	0	1	0	11TQ
1	0	1	1	12TQ
1	1	0	0	13TQ
1	1	0	1	14TQ
1	1	1	0	15TQ
1	1	1	1	16TQ (初期値)

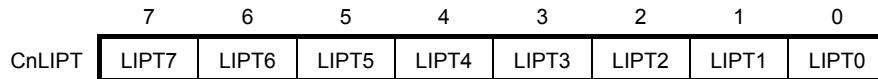
注 CnBRPレジスタ = 00Hの場合は、本設定は使用できません。

備考 TQ = 1/f_{TQ} (f_{TQ} : CANプロトコル・レイヤ基本システム・クロック)

(14) CANモジュール最終受信ポインタ・レジスタ (CnLIPT)

CnLIPTレジスタは、最後に受信格納したメッセージ・バッファ番号を示します。

リセット時：不定 R アドレス : C0LIPT 03FEC05EH, C1LIPT 03FEC65EH
C2LIPT 03FECC5EH, C3LIPT 03FED25EH



最終受信ポインタ・レジスタ (CnLIPT)	
0.....31	CnLIPTレジスタをリードすると、受信ヒストリ・リストの最終受信ポインタ (LIPT) でインデクスされるエレメントの内容が読み出されます。これによりデータ・フレームまたはリモート・フレームが最後に受信格納されたメッセージ・バッファ番号が得られます。

備考 メッセージ・バッファにデータ・フレームまたはリモート・フレームが一度も受信格納されていない場合は、CnLIPTレジスタの読み出し値は不定です。したがって、初期化モードから任意の動作モードに移行後にCnRGPTレジスタのRHPMビットがセット(1)されている場合には、CnLIPTレジスタの読み出し値は不定となります。

(15) CANモジュール受信ヒストリ・リスト・レジスタ (CnRGPT)

CnRGPTレジスタは、受信ヒストリ・リストを読み出すためのレジスタです。

(1/2)

リセット時 : xx02H R/W アドレス : C0RGPT 03FEC060H, C1RGPT 03FEC660H
C2RGPT 03FECC60H, C3RGPT 03FED260H

(a) リード時

	15	14	13	12	11	10	9	8
CnRGPT	RGPT7	RGPT6	RGPT5	RGPT4	RGPT3	RGPT2	RGPT1	RGPT0
	7	6	5	4	3	2	1	0
	0	0	0	0	0	0	RHPM	ROVF

(b) ライト時

	15	14	13	12	11	10	9	8
CnRGPT	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
	0	0	0	0	0	0	0	Clear ROVF

(a) リード時

RGPT7-RGPT0	受信ヒストリ・リスト読み出しポインタ
0.....31	CnRGPTレジスタをリードすると、受信ヒストリ・リストの読み出しポインタ (RGPT) でインデックスされるエレメントの内容が読み出されます。これによりデータ・フレームまたはリモート・フレームが受信格納されたメッセージ・バッファ番号が得られます。

RHPM ^{注1}	受信ヒストリ・リストのポインター一致
0	受信ヒストリ・リストには、少なくとも1つのリードされていないメッセージ・バッファ番号があります。
1	受信ヒストリ・リストには、リードされていないメッセージ・バッファ番号がありません。

ROVF ^{注2}	受信ヒストリ・リスト・オーバフロー・ビット
0	読み出されていないメッセージ・バッファ番号はすべて保存されます。 新規にデータ・フレームまたはリモート・フレームを受信格納したメッセージ・バッファ番号はすべて受信ヒストリ・リストに記録されます（受信ヒストリ・リストに空きのエレメントが存在します）。
1	ホスト・プロセッサが受信ヒストリ・リスト (RHL) を最後に使用（たとえば、CnRGPT レジスタの読み込みなど）してから少なくとも23個のエントリが格納されています。 ROVFビットがセットされていると、すべてのメッセージ・バッファ番号はLIPT - 1に格納されるため、最初の22個のエントリは順番に格納されていますが、最後のエントリは新たなメッセージを受信格納するたびに上書きされます。したがって、受信した順番を完全に回復することができません。

注 1. RHPM = 1 のとき、RGPT0-RGPT7 のリード値は無効です。

2. ROVFビットがセット(1)されている状態で、CnRGPTレジスタによりすべての受信履歴が読み出されている場合、RHPMビットは新たな受信格納があってもクリア(0)されずセット(1)されたままになります。

(2/2)

(b) ライト時

Clear ROVF	ROVFビットの設定
0	ROVFビットの変更なし
1	ROVFビットをクリア(0)する

(16) CANモジュール最終送信ポインタ・レジスタ (CnLOPT)

CnLOPTレジスタは、最後に送信したメッセージ・バッファ番号を示します。

リセット時：不定 R アドレス : C0LOPT 03FEC062H, C1LOPT 03FEC662H

C2LOPT 03FECC62H, C3LOPT 03FED262H

7 6 5 4 3 2 1 0

CnLOPT	LOPT7	LOPT6	LOPT5	LOPT4	LOPT3	LOPT2	LOPT1	LOPT0
--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

LOPT7-LOPT0 送信ヒストリ・リストの最終送信ポインタ (LOPT)

0.....31	CnLOPTレジスタをリードすると、送信ヒストリ・リストの最終送信ポインタ (LOPT) でインデックスされるエレメントの内容が読み出されます。これによりデータ・フレームまたはリモート・フレームが最後に送信されたメッセージ・バッファ番号が得られます。
----------	---

備考 メッセージ・バッファからデータ・フレームまたはリモート・フレームが一度も送信されていない場合は、CnLOPTレジスタの読み出し値は不定です。したがって、初期化モードから任意の動作モードに移行後にTHPMビットがセット(1)されている場合には、CnLOPTレジスタの読み出し値は不定となります。

(17) CANモジュール送信ヒストリ・リスト・レジスタ (CnTGPT)

CnTGPTレジスタは、送信ヒストリ・リストを読み出すためのレジスタです。

(1/2)

リセット時 : xx02H R/W アドレス : C0TGPT 03FEC064H, C1TGPT 03FEC664H
 C2TGPT 03FECC64H, C3TGPT 03FED264H

(a) リード時

CnTGPT	15	14	13	12	11	10	9	8
	TGPT7	TGPT6	TGPT5	TGPT4	TGPT3	TGPT2	TGPT1	TGPT0
	7	6	5	4	3	2	1	0
	0	0	0	0	0	0	THPM	TOVF

(b) ライト時

CnTGPT	15	14	13	12	11	10	9	8
	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
	0	0	0	0	0	0	0	Clear TOVF

(a) リード時

TGPT7-TGPT0	送信ヒストリ・リスト読み出しポインタ
0.....31	CnTGPTレジスタをリードすると、送信ヒストリ・リストの読み出しポインタ (TGPT) でインデックスされるエレメントの内容が読み出されます。これにより、データ・フレームまたはリモート・フレームが送信されたメッセージ・バッファ番号が得られます。

THPM ^{注1}	送信ヒストリ・リストのポインター一致
0	送信ヒストリ・リストには、少なくとも1つのリードされていないメッセージ・バッファ番号があります。
1	送信ヒストリ・リストには、リードされていないメッセージ・バッファ番号がありません。

TOVF ^{注2}	送信ヒストリ・リスト・オーバフロー・ビット
0	読み出されていないメッセージ・バッファ番号はすべて保存されます。 新規にデータ・フレームまたはリモート・フレームを送信完了したメッセージ・バッファ番号はすべて送信ヒストリ・リストに記録されます（送信ヒストリ・リストに空きのエレメントが存在します）。
1	ホスト・プロセッサが送信ヒストリ・リスト (THL) を最後に使用（たとえば、CnTGPT レジスタの読み込みなど）してから少なくとも7個のエントリが格納されています。TOVF ビットがセットされていると、すべてのメッセージ・バッファ番号はLOPT - 1に格納されるため、最初の6個のエントリは順番に格納されていますが、最後のエントリは新たなメッセージの送信が完了するたびに上書きされます。したがって、送信した順番を完全に回復することができません。

注 1. THPM = 1のとき、TGPT0-TGPT7のリード値は無効です。

2. TOVFビットがセット(1)されている状態で、CnTGPTレジスタによりすべての送信履歴が読み出されている場合、THPMビットは新たな送信完了があってもクリア(0)されずセット(1)されたままになります。

備考 ABT付き通常動作モードでは、メッセージ・バッファ0-7からの送信は送信ヒストリ・リストには記録されません。

(2/2)

(b) ライト時

Clear TOVF	TOVFビットの設定
0	TOVFビットの変更なし
1	TOVFビットをクリア(0)する

(18) CANモジュール・タイム・スタンプ・レジスタ(CnTS)

CnTSレジスタは、タイム・スタンプ機能を制御します。

(1/2)

リセット時 : 0000H R/W アドレス : C0TS 03FEC066H, C1TS 03FEC666H
 C2TS 03FECC66H, C3TS 03FED266H

(a) リード時

CnTS	15	14	13	12	11	10	9	8
	0	0	0	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0

CnTS	15	14	13	12	11	10	9	8
	0	0	0	0	0	Set	Set	Set
	7	6	5	4	3	TSLOCK	TSSEL	TSEN

(b) ライト時

CnTS	15	14	13	12	11	10	9	8
	0	0	0	0	0	Set	Set	Set
	7	6	5	4	3	2	1	0

CnTS	15	14	13	12	11	10	9	8
	0	0	0	0	0	Clear	Clear	Clear
	7	6	5	4	3	TSLOCK	TSSEL	TSEN

備考 ABT付き通常動作モードの場合は、タイム・スタンプ機能のロック機能を使用することができます。

(a) リード時

TSLOCK	タイム・スタンプのロック機能許可ビット
0	タイム・スタンプのロック機能停止 選択されたタイム・スタンプ・キャプチャ・イベントごとにTSOUT信号がトグルします。
1	タイム・スタンプのロック機能許可 選択されたタイム・スタンプ・キャプチャ・イベントごとにTSOUT信号がトグルします。 ただし、メッセージ・バッファ0にデータ・フレームが正常に格納されたあとは、TSOUT信号の出力がロックされます。 ^注

注 TSENビットは自動的にクリア(0)されます。

TSSEL	タイム・スタンプ・キャプチャ・イベント選択ビット
0	タイム・スタンプ・キャプチャ・イベントはSOFです。
1	タイム・スタンプ・キャプチャ・イベントはEOFの最終ビットです。

TSEN	TSOUT動作設定ビット
0	TSOUTトグル動作禁止
1	TSOUTトグル動作許可

備考 TSOUT信号はCANコントローラからタイマへ出力されます。詳細については第12章 16ビット・タイマ/イベント・カウンタAAを参照してください。

(b) ライト時

Set TSLOCK	Clear TSLOCK	TSLOCKビットの設定
0	1	TSLOCKビットをクリア(0)する
1	0	TSLOCKビットをセット(1)する
上記以外		TSLOCKビットの変更なし

Set TSSEL	Clear TSSEL	TSSELビットの設定
0	1	TSSELビットをクリア(0)する
1	0	TSSELビットをセット(1)する
上記以外		TSSELビットの変更なし

Set TSEN	Clear TSEN	TSENビットの設定
0	1	TSENビットをクリア(0)する
1	0	TSENビットをセット(1)する
上記以外		TSENビットの変更なし

(19) CANメッセージ・データ・バイト・レジスタ(CnMDATAxm)(x=0-7), (CnMDATAzm)(z=01, 23, 45, 67)

CnMDATAxmレジスタは、送受信メッセージのデータを格納し、8ビット単位でR/W可能なレジスタです。

CnMDATAzmレジスタは、CnMDATAxmレジスタを16ビット単位でアクセス可能なレジスタです。

(1/2)

リセット時：不定 R/W アドレス：21.5.3 CANレジスタ概要を参照してください。

	15	14	13	12	11	10	9	8
CnMDATA01m	MDATA 0115	MDATA 0114	MDATA 0113	MDATA 0112	MDATA 0111	MDATA 0110	MDATA 0119	MDATA 0118
	7	6	5	4	3	2	1	0
	MDATA 017	MDATA 016	MDATA 015	MDATA 014	MDATA 013	MDATA 012	MDATA 011	MDATA 010
CnMDATA0m	MDATA 07	MDATA 06	MDATA 05	MDATA 04	MDATA 03	MDATA 02	MDATA 01	MDATA 00
CnMDATA1m	MDATA 17	MDATA 16	MDATA 15	MDATA 14	MDATA 13	MDATA 12	MDATA 11	MDATA 10
	15	14	13	12	11	10	9	8
CnMDATA23m	MDATA 2315	MDATA 2314	MDATA 2313	MDATA 2312	MDATA 2311	MDATA 2310	MDATA 239	MDATA 238
	7	6	5	4	3	2	1	0
	MDATA 237	MDATA 236	MDATA 235	MDATA 234	MDATA 233	MDATA 232	MDATA 231	MDATA 230
CnMDATA2m	MDATA 27	MDATA 26	MDATA 25	MDATA 24	MDATA 23	MDATA 22	MDATA 21	MDATA 20
CnMDATA3m	MDATA 37	MDATA 36	MDATA 35	MDATA 34	MDATA 33	MDATA 32	MDATA 31	MDATA 30
	15	14	13	12	11	10	9	8
CnMDATA45m	MDATA 4515	MDATA 4514	MDATA 4513	MDATA 4512	MDATA 4511	MDATA 4510	MDATA 459	MDATA 458
	7	6	5	4	3	2	1	0
	MDATA 457	MDATA 456	MDATA 455	MDATA 454	MDATA 453	MDATA 452	MDATA 451	MDATA 450
CnMDATA4m	MDATA 47	MDATA 46	MDATA 45	MDATA 44	MDATA 43	MDATA 42	MDATA 41	MDATA 40
CnMDATA5m	MDATA 57	MDATA 56	MDATA 55	MDATA 54	MDATA 53	MDATA 52	MDATA 51	MDATA 50

(2/2)

	15	14	13	12	11	10	9	8
CnMDATA67m	MDATA 6715	MDATA 6714	MDATA 6713	MDATA 6712	MDATA 6711	MDATA 6710	MDATA 679	MDATA 678
	7	6	5	4	3	2	1	0
	MDATA 677	MDATA 676	MDATA 675	MDATA 674	MDATA 673	MDATA 672	MDATA 671	MDATA 670
	7	6	5	4	3	2	1	0
CnMDATA6m	MDATA 67	MDATA 66	MDATA 65	MDATA 64	MDATA 63	MDATA 62	MDATA 61	MDATA 60
	7	6	5	4	3	2	1	0
CnMDATA7m	MDATA 77	MDATA 76	MDATA 75	MDATA 74	MDATA 73	MDATA 72	MDATA 71	MDATA 70

(20) CANメッセージ・データ長レジスタm (CnMDLCm)

CnMDLCmレジスタは、メッセージ・バッファのデータ・フィールドのバイト数を設定します。

リセット時 : 0000xxxxB R/W アドレス : 21.5.3 CANレジスタ概要を参照してください。

	7	6	5	4	3	2	1	0
CnMDLCm	0	0	0	0	MDLC3	MDLC2	MDLC1	MDLC0

MDLC3	MDLC2	MDLC1	MDLC0	送受信メッセージのデータ長
0	0	0	0	0バイト
0	0	0	1	1バイト
0	0	1	0	2バイト
0	0	1	1	3バイト
0	1	0	0	4バイト
0	1	0	1	5バイト
0	1	1	0	6バイト
0	1	1	1	7バイト
1	0	0	0	8バイト
1	0	0	1	設定禁止
1	0	1	0	(送信時に設定した場合、データ・フレームの送信では設定したDLC値に問わらず8バイトのデータが送信されます。ただし、実際にCANバスに送信されるDLCはこのレジスタに設定したDLC値になります) ^注
1	0	1	1	
1	1	0	0	
1	1	0	1	
1	1	1	0	
1	1	1	1	

注 CANバス上に実際に送信されるデータとDLC値は以下のとおりです。

送信フレーム種類	送信されるデータの長さ	送信されるDLC
データ・フレーム	DLCで指定されたバイト数 (ただしDLC 8の場合は8バイト)	MDLC[3:0]
リモート・フレーム	0バイト	

注意 1. ビット7-4には必ず0000Bを設定してください。

2. メッセージ受信時には、受信フレームのDLCに対応するバイト数(ただし、8が上限)分のCnMDATAxに受信データが格納されます。データが格納されなかったCnMDATAxは不定です。

(21) CANメッセージ・コンフィギュレーション・レジスタm (CnMCONFm)

CnMCONFmレジスタは、メッセージ・バッファのタイプとマスク設定の指定を行います。

(1/2)

リセット時：不定 R/W アドレス：21.5.3 CANレジスタ概要を参照してください。

CnMCONFm	7	6	5	4	3	2	1	0
	OWS	RTR	MT2	MT1	MT0	0	0	MA0

OWS	オーバライト制御ビット
0	すでに受信しているメッセージ・バッファ ^注 に対して、新しく受信したデータ・フレームは上書きしません。新しく受信したデータ・フレームは破棄されます。
1	すでに受信しているメッセージ・バッファに対して、新しく受信したデータ・フレームを上書きします。

注 “すでに受信しているメッセージ・バッファ”とは、DNビットがセット(1)されている受信メッセージ・バッファを意味します。

備考 リモート・フレームの受信格納に際しては、OWSおよびDNの設定には依存せず、その他の条件が合致(IDが一致、RTR = 0, TRQ = 0)したリモート・フレームは必ず該当するメッセージ・バッファに受信格納(割り込み生成、DNフラグのセット、MDLC [3:0]ビットの更新、および受信ヒストリ・リストへの記録)されます。

RTR	リモート・フレームの要求ビット ^注
0	データ・フレーム送信
1	リモート・フレーム送信

注 RTRビットは、送信メッセージ・バッファとして定義されたメッセージ・バッファから送信されるメッセージ・フレームの種類を指定します。

有効なリモート・フレームを受信しても、受信した送信メッセージ・バッファのRTRはクリア(0)されたままです。

リモート・フレーム送信のために送信メッセージ・バッファのRTRビットをセット(1)した状態で、CANバスからIDが合致するリモート・フレームを受信した場合でも、そのリモート・フレームの受信格納(割り込み生成、DNフラグのセット、MDLC [3:0]ビットの更新および受信ヒストリ・リストへの記録)は行われません。

MT2	MT1	MT0	メッセージ・バッファ・タイプ設定ビット
0	0	0	送信メッセージ・バッファ
0	0	1	受信メッセージ・バッファ(マスク設定なし)
0	1	0	受信メッセージ・バッファ(マスク1設定)
0	1	1	受信メッセージ・バッファ(マスク2設定)
1	0	0	受信メッセージ・バッファ(マスク3設定)
1	0	1	受信メッセージ・バッファ(マスク4設定)
上記以外		設定禁止	

(2/2)

MA0	メッセージ・バッファの割り付けビット
0	メッセージ・バッファを使用しない
1	メッセージ・バッファを使用する

注意 ピット2, 1には、必ず0を書き込んでください。

(22) CANメッセージIDレジスタm (CnMIDLm, CnMIDHm)

CnMIDLm, CnMIDHmレジスタは、アイデンティファイア (ID) を設定します。

リセット時：不定 R/W アドレス：21.5.3 CANレジスタ概要を参照してください。

CnMIDLm	15	14	13	12	11	10	9	8
	ID15	ID14	ID13	ID12	ID11	ID10	ID9	ID8
	7	6	5	4	3	2	1	0
CnMIDHm	ID7	ID6	ID5	ID4	ID3	ID2	ID1	ID0
	15	14	13	12	11	10	9	8
	IDE	0	0	ID28	ID27	ID26	ID25	ID24

CnMIDHm	15	14	13	12	11	10	9	8
	IDE	0	0	ID28	ID27	ID26	ID25	ID24
	7	6	5	4	3	2	1	0
	ID23	ID22	ID21	ID20	ID19	ID18	ID17	ID16

IDE	フォーマット・モード指定ビット
0	標準フォーマット・モード (ID28-ID18 : 11ビット) ^注
1	拡張フォーマット・モード (ID28-ID0 : 29ビット)

注 ID17-ID0ビットは使用されません。

ID28-ID0	メッセージID
ID28-ID18	11ビットの標準ID値 (IDE = 0のとき)
ID28-ID0	29ビットの拡張ID値 (IDE = 1のとき)

- 注意 1. CnMIDHmレジスタのピット14, 13には、必ず0を書き込んでください。
 2. 必ず、このレジスタに与えられたビット位置に従って登録するID値を並べてください。
 標準IDに関してID値はID28からID18のビット位置をシフトしてください。

(23) CANメッセージ制御レジスタm (CnMCTRLm)

CnMCTRLmレジスタは、メッセージ・バッファの動作を制御します。

(1/3)

リセット時 : 00x00000 R/W アドレス : 21.5.3 CANレジスタ概要を参照してください。
000xx000B

(a) リード時

CnMCTRLm	15	14	13	12	11	10	9	8
	0	0	MUC	0	0	0	0	0
	7	6	5	4	3	2	1	0
	0	0	0	MOW	IE	DN	TRQ	RDY

(b) ライト時

CnMCTRLm	15	14	13	12	11	10	9	8
	0	0	0	0	Set	0	Set	Set
					IE		TRQ	RDY
	0	0	0	Clear	Clear	Clear	Clear	Clear
				MOW	IE	DN	TRQ	RDY

(a) リード時

MUC ^注	メッセージ・バッファへのデータ更新中ビット
0	CANモジュールによるメッセージ・バッファの更新(受信格納)中ではありません。
1	CANモジュールによるメッセージ・バッファの更新(受信格納)中です。

注 MUCビットは最初の受信格納が行われるまで不定です。

MOW	メッセージ・バッファ・オーバライト・ステータス・ビット
0	メッセージ・バッファは、新しく受信したデータ・フレームによって上書きされていません。
1	メッセージ・バッファは、新しく受信したデータ・フレームによって上書きされています。

備考 DN = 1 の送信メッセージ・バッファに対してリモート・フレームを受信格納しても、MOW はセット(1)されません。

IE	メッセージ・バッファ割り込み要求許可ビット
0	受信用メッセージ・バッファのとき：有効なメッセージ受信完了割り込み禁止 送信用メッセージ・バッファのとき：正常なメッセージ送信完了割り込み禁止
1	受信用メッセージ・バッファのとき：有効なメッセージ受信完了割り込み許可 送信用メッセージ・バッファのとき：正常なメッセージ送信完了割り込み許可

DN	メッセージ・バッファ・データ更新ビット
0	メッセージ・バッファにデータ・フレームまたはリモート・フレームが格納されていません。
1	メッセージ・バッファにデータ・フレームまたはリモート・フレームが格納されています。

TRQ	メッセージ・バッファ送信要求ビット
0	メッセージ・バッファ内に保留中または送信中のメッセージ・フレーム送信要求はありません。
1	メッセージ・バッファは、メッセージ・フレームの送信保留中または送信中です。

注意 TRQ ビットと RDY ビットを同時にセット(1)しないでください。TRQ ビットをセット(1)する場合は、事前に RDY ビットを必ずセット(1)してください。

RDY	メッセージ・バッファ準備ビット
0	ソフトウェアによりメッセージ・バッファに書き込みできます。CANモジュールはメッセージ・バッファに書き込みができません。
1	ソフトウェアによるメッセージ・バッファへの書き込みは無視されます(RDYビット, TRQビット, DNビットおよびMOWビットへのライト・アクセスを除く)。CANモジュールはメッセージ・バッファに書き込みが可能です。

注意 1. メッセージ送信中に、RDY ビットをクリア(0)しないでください。再定義のための RDY ビットのクリアは、送信中断処理に従ってください。
 2. RDY ビットのクリア処理を行ってもクリアされていない場合は、もう一度クリア処理を行ってください。
 3. メッセージ・バッファ・レジスタに書き込む前に、RDY ビットがクリア(0)されたことを確認してください。確認は RDY ビットを読み返して行ってください。
 ただし、CnMCTRLm レジスタの TRQ ビットまたは RDY ビットのセット(1), DN ビットまたは MOW ビットのクリア(0)については確認する必要はありません。

(b) ライト時

Clear MOW	MOWビットの設定
0	MOWビットの変更なし
1	MOWビットをクリア(0)する

Set IE	Clear IE	IEビットの設定
0	1	IEビットをクリア(0)する
1	0	IEビットをセット(1)する
上記以外		IEビットの変更なし

注意 IEビットの設定とRDYビットの設定は、常に別々に行ってください。

Clear DN	DNビットの設定
1	DNビットをクリア(0)する
0	DNビットの変更なし

注意 ソフトウェアにより、DNビットをセット(1)しないでください。ビット10には、必ず0を書き込んでください。

(3/3)

Set TRQ	Clear TRQ	TRQビットの設定
0	1	TRQビットをクリアする(0)
1	0	TRQビットをセット(1)する
上記以外		TRQビットの変更なし

注意 TRQビットをセット(1)しても、他ノードからメッセージを受信していた場合や他のメッセージ・バッファからメッセージを送信していた場合などの状況により、即時に送信を行わない可能性があります。

また、TRQビットをクリア(0)しても、送信の途中で中断されることはありません。送信中の場合には、送信が完了(成功/失敗問わず)するまで送信を継続します。

Set RDY	Clear RDY	RDYビットの設定
0	1	RDYビットをクリア(0)する
1	0	RDYビットをセット(1)する
上記以外		RDYビットの変更なし

注意 TRQビットの設定とRDYビットの設定は、常に別々に行ってください。

21.8 CANコントローラの初期化処理

21.8.1 CANモジュールの初期化

CANモジュールの動作を許可する前に、ソフトウェアによりCnGMCSレジスタのCCP [3:0] ビットを設定し、CANモジュール・システム・クロックを決める必要があります。CANモジュール・システム・クロックの設定は、CANモジュールの動作が許可されたあとは変更できません。

CANモジュールは、CnGMCTRLレジスタのGOMビットをセット(1)することで動作を許可します。初期化処理手順については、21.16 CANコントローラの動作を参照してください。

21.8.2 メッセージ・バッファの初期化

CANモジュールの動作を許可したあと、メッセージ・バッファの値が不定のものがあります。初期化モードから任意の動作モードに移行する前に、すべてのメッセージ・バッファに対して初期化をしてください。アプリケーションで使用しないメッセージ・バッファに対しても次の設定を行ってください。

- CnMCTRLmレジスタのRDYビット、TRQビット、DNビットをクリア(0)する。
- CnMCONFmレジスタのMA0ビットをクリア(0)する。

備考 n = 0-4

m = 0-31

21.8.3 メッセージ・バッファの再定義

メッセージ・バッファの再定義とは、メッセージ受信中または送信中に他の送受信動作に影響を与えることなく、メッセージ・バッファのIDや制御情報を変更することをいいます。

(1) 初期化モード中にメッセージ・バッファの再定義を行う場合

一度、初期化モードに移行し、初期化モード中にメッセージ・バッファのIDや制御情報を変更してください。メッセージ・バッファの変更後、任意の動作モードに移行してください。

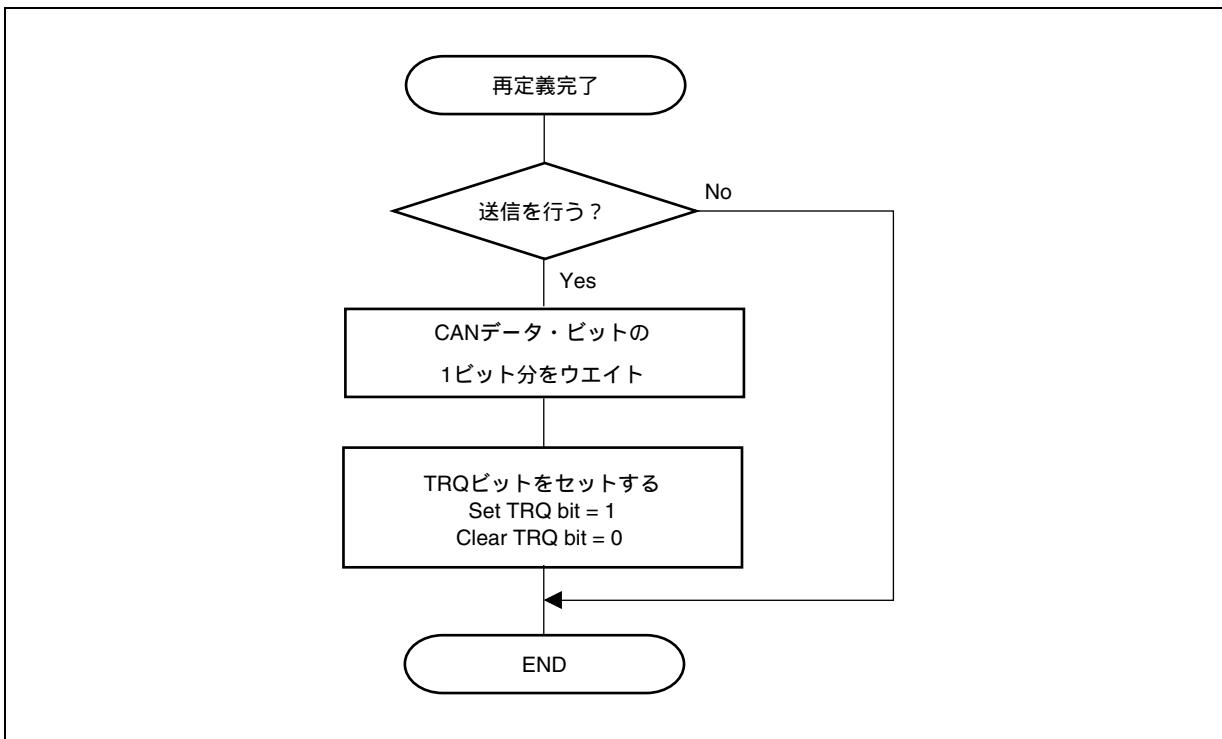
(2) 受信中にメッセージ・バッファの再定義を行う場合

図21-39にしたがって処理してください。

(3) 送信中にメッセージ・バッファの再定義を行う場合

送信要求がセットされている送信メッセージ・バッファの内容を書き換える場合には、送信中断処理(21.10.4(1)自動ロック送信機能(ABT)付き通常動作モード以外での送信中断処理、21.10.4(2)自動ロック送信機能(ABT)付き通常動作モードでのABT送信以外の送信中断処理参照)を行い、送信が中断されたこと、あるいは送信が完了したことを確認したあとにメッセージ・バッファの再定義を行ってください。送信メッセージ・バッファの再定義後に送信要求をセットする場合は、次の処理手順にしたがって処理してください。ただし、送信中断処理を伴わない再定義を行った送信メッセージ・バッファに対して送信要求をセットする場合には、1ビット分のウェイトは必要ありません。

図21-27 送信メッセージ・バッファの再定義後の送信要求(TRQ)の設定



注意1. メッセージ受信時には、各受信メッセージ・バッファに設定されたIDおよびマスク設定にもとづいて受信フィルタリングが行われます。図21-39 メッセージ・バッファの再定義の手順に従わなかった場合には、メッセージ・バッファの再定義後の内容と受信結果(受信フィルタリング結果)が矛盾する場合があります。

そのような場合は、メッセージ・バッファの再定義後に該当するメッセージ・バッファの最初の受信格納時に格納されているIDおよびIDEが再定義後の内容であることを確認してください。再定義後のIDおよびIDEが格納されていない場合は、再度メッセージ・バッファの再定義を行ってください。

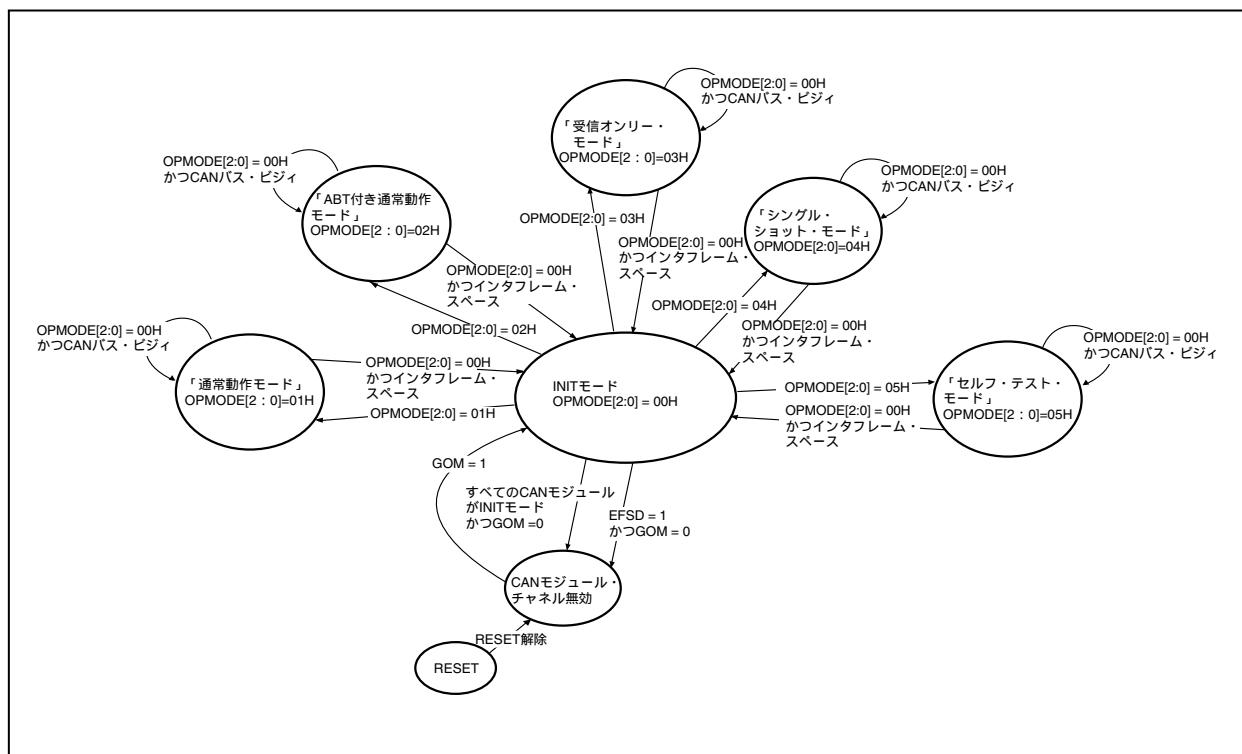
2. メッセージ送信時には、送信要求がセットされている各送信メッセージ・バッファに設定されたID, IDEおよびRTRビットにもとづいて送信優先順位判定を行い、最高位の優先順位をもつ送信メッセージ・バッファを選択して送信が行われます。図21-27の手順に従わなかった場合には、再定義後のIDが最高位のIDではないメッセージが送信される場合があります。

21.8.4 動作モードへの移行

CANモジュールは、次の動作モードに切り替えることができます。

- ・通常動作モード
- ・ABT付き通常動作モード
- ・受信オンリー・モード
- ・シングル・ショット・モード
- ・セルフ・テスト・モード

図21-28 動作モードへの移行



初期化モードから動作モードへの移行は、CnCTRLレジスタのOPMODE [2:0]ビットで設定します。

ある動作モードから別の動作モードに移行するには、一度初期化モードに移行する必要があります。直接、ある動作モードから別の動作モードに移行しないでください。直接、動作モードを移行した場合の動作保証はありません。

動作モードから初期化モードへの移行要求は、CANバスがインタフレーム・スペースでないとき（フレーム受信または送信が実行中）は保留され、インタフレーム・スペースの1ビット目に初期化モードへ移行します（OPMODE [2:0]ビットの値が000Bに変化します）。初期化モードへの移行要求のあとには、OPMODE [2:0]ビットが000Bになるまで、OPMODE [2:0]ビットをリードして、初期化モードへ移行したことを確認してください（図21-37 再初期化参照）。

備考 n = 0-4

21.8.5 CANモジュールのエラー・カウンタCnERCのリセット

再初期化やバスオフ強制復帰の際に、CANモジュール・エラー・カウンタCnERCと、CANモジュール情報レジスタCnINFOをリセットする必要がある場合には、初期化モード中にCnCTRLレジスタのCCERCビットをセット(1)してください。CCERCビットをセット(1)すると、CANモジュール・エラー・カウンタCnERCとCANモジュール情報レジスタCnINFOは初期値にクリアされます。

備考 n = 0-4

21.9 メッセージ受信

21.9.1 メッセージ受信

すべての動作モードにおいて、新規受信メッセージを格納するため、一致するバッファを全メッセージ・バッファ領域に対し、検索します。次の条件を満たすすべてのメッセージ・バッファがその検索に含まれます。

- ・メッセージ・バッファとして使用している。
(CnMCONFmレジスタのMA0ビットを1Bに設定)
- ・受信用メッセージ・バッファとして設定している。
(CnMCONFmレジスタのMT [2:0]ビットを001B, 010B, 011B, 100B, 101Bに設定)
- ・受信準備ができている。
(CnMCTRLmレジスタのRDYビットがセット(1)されている)

複数のメッセージ・バッファにメッセージを受信した場合、受信メッセージの格納優先順位は次のようになります。メッセージは、必ず優先順位の高い受信メッセージ・バッファに格納されます。優先順位の低い受信メッセージ・バッファには格納されません。たとえば、マスクされていない受信メッセージ・バッファとマスク1にリンクした受信メッセージ・バッファに同一IDが設定されていた場合、マスクされていない受信メッセージ・バッファがすでにメッセージを受信していたとしても、メッセージを受信していないマスク1にリンクした受信メッセージ・バッファには受信メッセージの格納はしません。つまり2つ以上の優先順位の異なるメッセージ・バッファで格納する条件が整った場合には、必ず優先順位の高いメッセージ・バッファが受信格納対象となり優先順位の低いメッセージ・バッファは受信格納対象とはなりません。これは優先順位の高いメッセージ・バッファが受信格納できない条件（たとえば、OWS = 0により上書き禁止ですでに受信しているDN = 1の場合など）でも同様です。この場合、受信格納候補である優先順位の高いメッセージ・バッファには実際格納されませんが、それだからといって優先順位の低いメッセージ・バッファに格納されることはありません。

優先順位	同一IDを設定した場合の格納条件	
1(高)	マスクされていないメッセージ・バッファ	DN = 0
		DN = 1かつOWS = 1
2	マスク1とリンクしたメッセージ・バッファ	DN = 0
		DN = 1かつOWS = 1
3	マスク2とリンクしたメッセージ・バッファ	DN = 0
		DN = 1かつOWS = 1
4	マスク3とリンクしたメッセージ・バッファ	DN = 0
		DN = 1かつOWS = 1
5(低)	マスク4とリンクしたメッセージ・バッファ	DN = 0
		DN = 1かつOWS = 1

備考 n = 0-4

m = 0-31

21.9.2 受信データの読み出し

ソフトウェアによりCANメッセージ・バッファから一貫してデータを読み出す必要がある場合には、図21-49～21-51の推奨処理手順で行ってください。

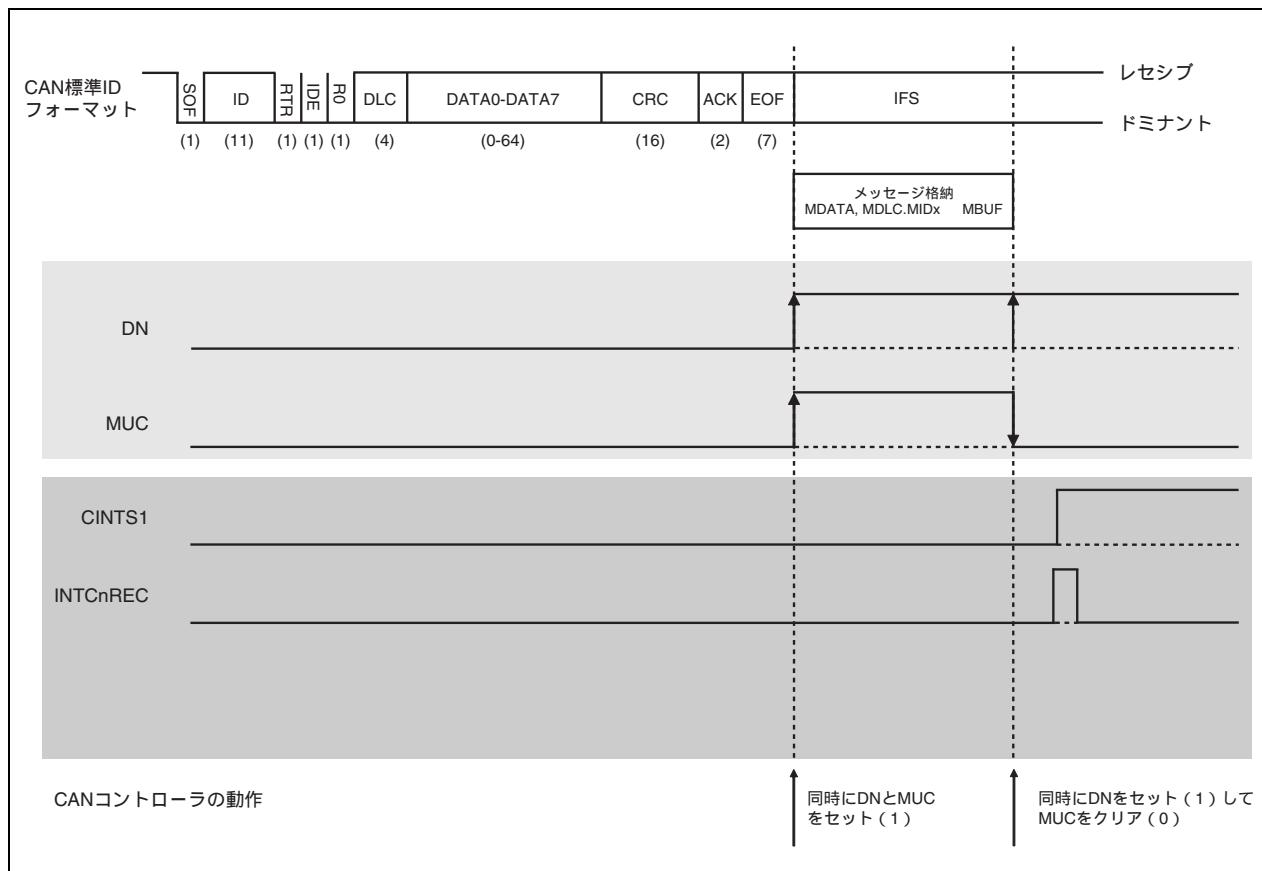
メッセージ受信中、CANモジュールはCnMCTRLmレジスタのDNビットをメッセージ・バッファへのデータ格納処理の始まりと、この格納処理の終わりに2回セット(1)します。この格納処理の間、メッセージ・バッファのCnMCTRLmレジスタのMUCビットはセット(1)されています(図21-29参照)。

データ格納が完了する前には受信ヒストリ・リストへの書き込みが行われます。またこのデータ格納期間(MUC = 1)は、格納対象となっているメッセージ・バッファのCnMCTRLmレジスタのRDYビットはCPUによる書き換えが禁止されています。このデータ格納処理はCPUによるいずれかのメッセージ・バッファへのアクセスにより処理完了が遅れことがあります。

備考 n = 0-4

m = 0-31

図21-29 DN, MUCビットのセット期間(標準IDフォーマットの場合)



21.9.3 受信ヒストリ・リスト機能

受信ヒストリ・リスト機能は、データ・フレームまたはリモート・フレームを受信格納するごとに受信ヒストリ・リスト (RHL) へ受信格納したメッセージ・バッファ番号の記録を行います。RHLは、最大23メッセージ分の格納エレメントと、受信ヒストリ・リスト書き込みポインタ (LIPT) に対応するCnLIPTレジスタ、および受信ヒストリ・リスト読み出しポインタ (RGPT) に対応するCnRGPTレジスタで構成されます。

初期化モードから任意の動作モードへの遷移直後、RHLは不定です。

CnLIPTレジスタは、LIPTポインタ - 1で示されるRHLエレメントの内容を保持しますので、CnLIPTレジスタを読み出すことで最後に受信格納したメッセージ・バッファ番号を知ることができます。LIPTポインタは、RHLにおけるメッセージ・バッファ番号の記録先を示す書き込みポインタとして機能します。データ・フレームあるいはリモート・フレームの受信格納が発生すると、対応するメッセージ・バッファ番号がLIPTポインタで示されるRHLエレメントに記録されます。RHLへの記録が完了するごとに、LIPTポインタは自動的にインクリメントされます。このように受信格納を行ったメッセージ・バッファの番号は時系列的に記録されていきます。

RGPTポインタは、記録されたメッセージ・バッファ番号をRHLから読み出す際の読み出しポインタとして機能します。RGPTポインタはCPUがまだ読み出しを行っていない最初のRHLエレメントを示しています。ソフトウェアにより、CnRGPTレジスタを読み出すことにより、受信格納したメッセージ・バッファの番号を読み出すことができます。CnRGPTレジスタからメッセージ・バッファ番号を読み出すごとに、RGPTポインタは自動的にインクリメントされます。

RGPTポインタとLIPTポインタが一致した場合には、CnRGPTレジスタのRHPMビット（受信ヒストリ・リスト・ポインター一致）がセット(1)されます。RHPMビットがセット(1)されていることで、RHLには読み出していないメッセージ・バッファ番号が残っていないことを知ることができます。また、受信格納に新しくメッセージ・バッファ番号の記録が行われると、LIPTポインタがインクリメントされポインタが一致しなくなり、RHPMビットはクリア(0)されます。つまり、RHL内には未読のメッセージ・バッファ番号が存在することになります。

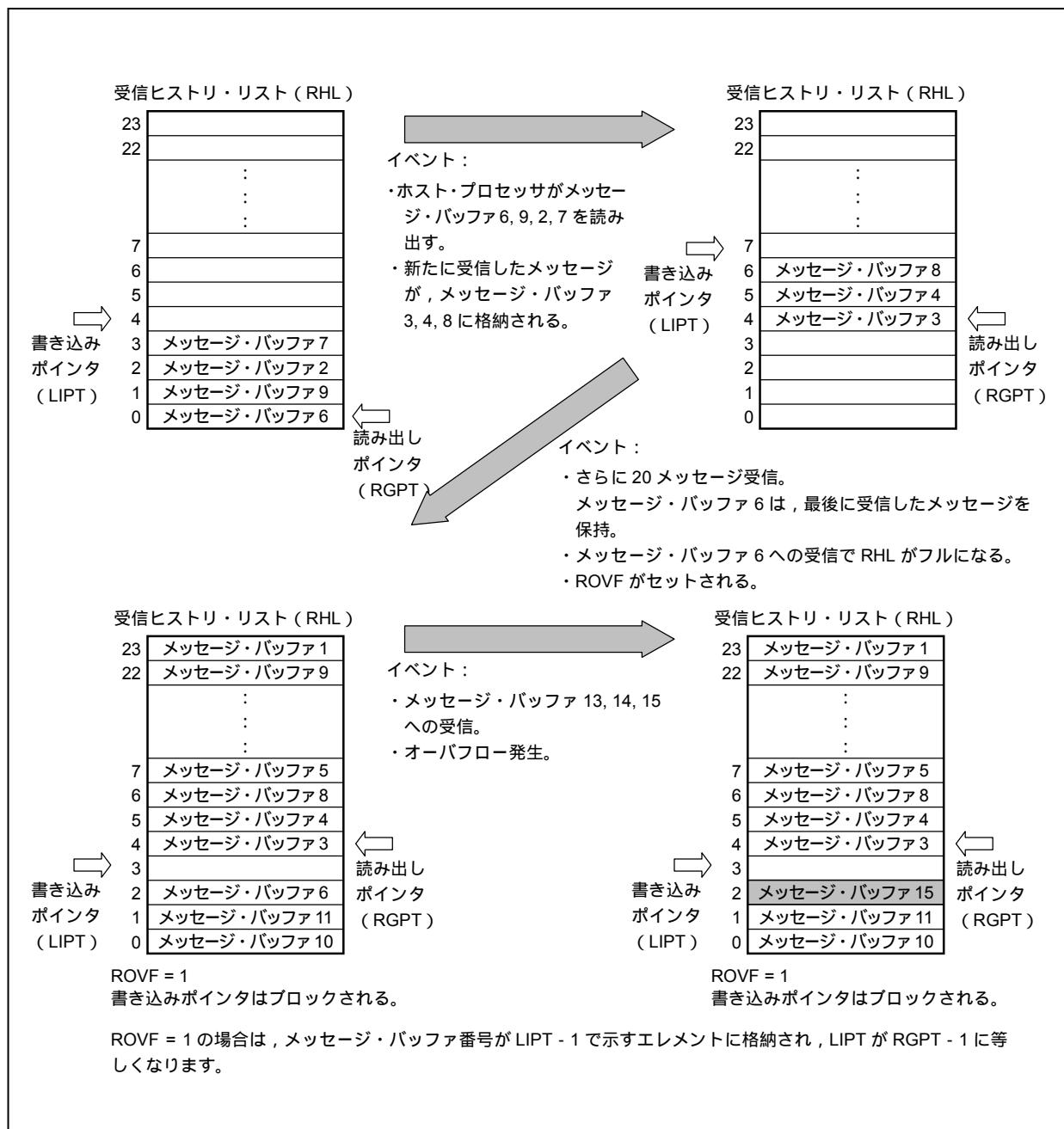
また、インクリメントされたLIPTポインタがRGPTポインタ-1と一致した場合には、CnRGPTレジスタのROVFビット（受信ヒストリ・リスト・オーバフロー）がセット(1)されます。この状態は、まだ読み出されていないメッセージ・バッファ番号でRHLがフルに記録されている状態を示します。さらに、メッセージの受信格納が新たに発生すると、最後に記録したメッセージ・バッファ番号を常に上書きすることで新しく受信格納したメッセージ・バッファ番号の記録を継続します。その場合、ROVFビットがセット(1)されたあと、RHLに保持しているメッセージ・バッファ番号は完全には時系列にはならなくなります。ただし、受信したメッセージ自体は正しく格納されます。CPU操作による各メッセージ・バッファのDNビットをサーチすることで、受信格納したメッセージ・バッファ番号を特定することができます。

注意 受信ヒストリ・リストがオーバフローした状態($ROVF = 1$)でも、未読の履歴がなくなりRHPMビットがセット(1)されるまで受信履歴を読み出すことが可能ですが。ただし、ROVFビットはソフトウェアによりクリア(0)されるまではセット(1)された状態（=オーバフローしている）を継続します。この状態では、ROVFビットがクリア(0)されないかぎり、新たに受信格納が発生して新しい受信履歴が書き込まれた場合でもRHPMビットはクリア(0)されません。したがって、 $ROVF = 1$ かつ $RHPM = 1$ で受信ヒストリ・リストがオーバフロー状態である場合には、新しい受信格納が発生してもRHPMビットは未読の受信履歴がない状態を示しますので注意してください。

備考 n = 0-4

受信ヒストリ・リストは未読の状態で23個以下の受信履歴を保持している場合には受信格納順は保持されますが、ホスト・プロセッサが読み出しを行わない状態で受信格納された場合には、受信格納順は完全には読み出せないことがあります。

図21-30 受信ヒストリ・リスト



21.9.4 マスク機能

受信に使用するいくつかのメッセージ・バッファのために、4つのグローバル受信マスクの1つを割り当てるか、またはマスクなしかを選択することができます。

メッセージIDの比較はマスクされたビットにより軽減されるため、1つのバッファの中にいくつかの異なったIDの受信を許容します。

マスク機能が働いているとき、マスクにて“1”と定義されたビットは受信したメッセージのアイデンティファイアとメッセージ・バッファのアイデンティファイアとの比較を行いません。

マスクにて“0”と定義されたビットについては比較を行います。

たとえば、ID27-ID25が“0”，ID24とID22が“1”と設定された標準フォーマットIDを持つすべてのメッセージをメッセージ・バッファ14に格納したい場合、次に示す手順で行ってください。

メッセージ・バッファに格納したいアイデンティファイア

ID28	ID27	ID26	ID25	ID24	ID23	ID22	ID21	ID20	ID19	ID18
x	0	0	0	1	x	1	x	x	x	x

x = don't care

メッセージ・バッファ14に設定したアイデンティファイア（例）

(CAN0メッセージIDレジスタL14, H14 (C0MIDL14, C0MIDH14) を使用)

ID28	ID27	ID26	ID25	ID24	ID23	ID22	ID21	ID20	ID19	ID18
x	0	0	0	1	x	1	x	x	x	x
ID17	ID16	ID15	ID14	ID13	ID12	ID11	ID10	ID9	ID8	ID7
x	x	x	x	x	x	x	x	x	x	x
ID6	ID5	ID4	ID3	ID2	ID1	ID0				
x	x	x	x	x	x	x				

ID27-ID25が“0”に設定され、ID24とID22が“1”に設定されているIDをメッセージ・バッファ14に登録（初期化）します。

備考 メッセージ・バッファ14をマスク1にリンクする (CnMCONF14レジスタのMT [2:0] = 010Bに設定) 標準フォーマット・アイデンティファイアとして設定します。

CANモジュール1(マスク1)のマスク設定(例)

(CAN1モジュール・マスク1レジスタL, H(C1MASK1L, C1MASK1H)を使用)

CMID28	CMID27	CMID26	CMID25	CMID24	CMID23	CMID22	CMID21	CMID20	CMID19	CMID18	
1	0	0	0	0	1	0	1	1	1	1	
CMID17	CMID16	CMID15	CMID14	CMID13	CMID12	CMID11	CMID10	CMID9	CMID8	CMID7	
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
CMID6	CMID5	CMID4	CMID3	CMID2	CMID1	CMID0					
1	1	1	1	1	1	1					

1: 比較しない(マスクする)

0: 比較する

CMID27-CMID24およびCMID22のビットは“0”，CMID28, CMID23, CMID21-CMID0のビットは“1”に設定します。

21.9.5 マルチ・バッファ受信ブロック機能

マルチ・バッファ受信ブロック(MRB)機能(以下, MRBと記述)は, 同じメッセージ・バッファ・タイプを持つ複数のメッセージ・バッファに同じIDを設定することにより, CPUを介さずにデータ・ブロックとして複数のメッセージ・バッファに順に格納する機能です。これらのメッセージ・バッファはメッセージ・バッファ・メモリ内の任意の場所に配置できます。また, 互いに隣接して配置されていません。

たとえば, メッセージ・バッファ10からメッセージ・バッファ19の10個のメッセージ・バッファが同じメッセージ・バッファ・タイプに設定されていて, さらにそれぞれのメッセージ・バッファに同じIDが設定されている場合には, 最初にIDが一致するメッセージを受信した場合, メッセージ・バッファ10に格納します。この時点でメッセージ・バッファ10はDNビットがセットされ, そのメッセージ・バッファに対して上書きが禁止されます。

次に, IDが一致するメッセージを受信した場合, メッセージ・バッファ11に受信格納されます。以降, IDが一致するメッセージを受信するたびにメッセージ・バッファ12, 13, …, 18, 19とメッセージ・バッファの番号順(昇順)に格納されていきます。このように, 複数のメッセージからなるデータ・ブロックを受信する場合でも, IDが一致した古い受信データを上書きすることなく, 複数のメッセージを受信格納することができます。

また, 各メッセージ・バッファのCnMCTRLmレジスタのIEビットを設定することで, データ・ブロックの受信格納の完了を知ることができます。たとえば, データ・ブロックがk個のメッセージで構成されている場合は, データ・ブロック受信用にk個のメッセージ・バッファを初期化します。メッセージ・バッファ0から(k-2)までは, IEビットをクリア(0)しておき(割り込み無効), メッセージ・バッファk-1では, IEビットをセット(1)します(割り込み有効)。この場合, メッセージ・バッファk-1への受信格納が完了した時点で受信完了割り込みを発生させることで, MRBがフルになったことを知ることができます。あるいは, メッセージ・バッファ0から(k-3)までは, IEビットをクリア(0)しておきメッセージ・バッファk-2のIEビットをセット(1)しておくことで, MRBがオーバフローしそうであることのワーニングとすることができます。

MRBにおいても, 各メッセージ・バッファの受信データの基本的な格納条件は, 単一のメッセージ・バッファに対する格納条件と同じです。

- 注意1. MBRBは、同一のメッセージ・バッファ・タイプごとに構成することができます。したがって、メッセージ・バッファ・タイプが異なるが、IDが一致する他のMBRBのメッセージ・バッファに空きがあった場合でも、そのメッセージ・バッファには格納を行わず、受信メッセージは破棄されます。
2. MBRBは、リング構造をもっていません。したがって、MBRBを構成するメッセージ・バッファ番号が一番大きいメッセージ・バッファへ格納した以降のメッセージに対しては、再び一番小さいメッセージ・バッファから順に格納を行いません。
3. MBRBは、受信格納条件に基づく動作であり、機能有効ビット等のMBRB専用の設定はありません。複数のメッセージ・バッファに対し、同一のメッセージ・バッファ・タイプおよびIDを設定することで自動的にMBRBが構成されます。
4. MBRBにおける「IDが一致する」とは「マスク後のIDの一致する」という意味です。各メッセージ・バッファに設定したIDが必ずしも同一でなくても、マスク・レジスタによるマスク後のIDが一致するものは、IDが一致したものとみなされメッセージの格納対象先のバッファとして扱われます。
5. 各MBRB間の優先順位は、21.9.1 メッセージ受信で示す優先順位に従います。

備考 n = 0-4

m = 0-31

21.9.6 リモート・フレーム受信

リモート・フレームの受信時には、すべての動作モードで、次の条件を満たすすべてのメッセージ・バッファに対し、格納すべきかどうかの検索を行います。

- ・メッセージ・バッファとして使用している。
(CnMCONFmレジスタのMA0ビットがセット(1)されている)
- ・送信用メッセージ・バッファとして設定している。
(CnMCONFmレジスタのMT[2:0]ビットを000Bに設定)
- ・受信準備ができている。
(CnMCTRLmレジスタのRDYビットがセット(1)されている)
- ・メッセージ送信に設定されている。
(CnMCONFmレジスタのRTRビットがクリア(0)されている)
- ・送信要求が設定されていない。
(CnMCTRLmレジスタのTRQビットがクリア(0)されている)

上記の条件を満足し、かつ受信したリモート・フレームとIDが合致するメッセージ・バッファに対しては、次の受信格納動作が行われます。

- ・CnMDLCmレジスタのDLC[3:0]は受信したDLC値を格納します。
- ・データ領域CnMDATA0m～CnMDATA7mは更新されません(受信前のデータが保存されます)。
- ・CnMCTRLmレジスタのDNビットがセット(1)されます。
- ・CnINTSレジスタのCINTS1ビットがセット(1)されます(受信格納するメッセージ・バッファのCnMCTRLmレジスタのIEビットがセット(1)されている場合)。
- ・受信完了割り込み(INTCnREC)が出力されます(受信格納するメッセージ・バッファのCnMCTRLmレジスタのIEビットがセット(1)されており、かつCnIEレジスタのCIE1ビットがセット(1)されている場合)。
- ・メッセージ・バッファ番号を受信ヒストリ・リストに記録します

注意 リモート・フレームの受信におけるメッセージ・バッファ検索および受信格納に際しては、メッセージ・バッファのCnMCONFmレジスタのOWSビットによるオーバライト制御の設定およびCnMCTRLmレジスタのDNビットには影響を受けません。OWSビットの設定は無視され、どんな場合でもDNビットがセット(1)されます。

複数の送信メッセージ・バッファが同一IDを持ち、受信したリモート・フレームのIDが合致した場合には、最小のメッセージ・バッファ番号を持つ送信メッセージ・バッファに格納されます。

備考 n = 0-4

m = 0-31

21.10 メッセージ送信

21.10.1 メッセージ送信

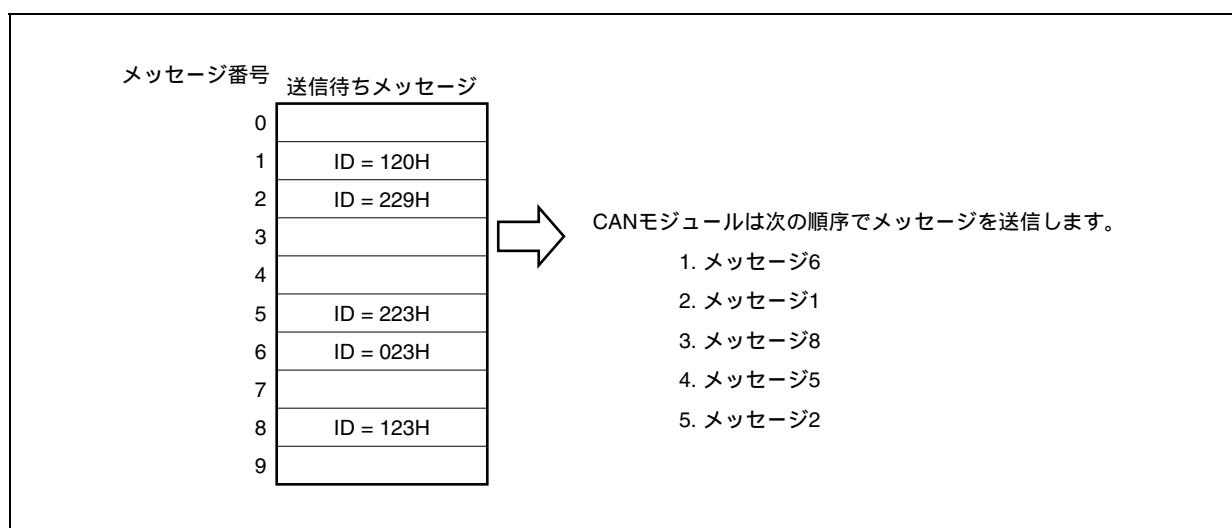
すべての動作モードで、次の条件を満たすメッセージ・バッファにTRQビットがセット(1)されているとき、送信するメッセージ・バッファの検索を行います。

- ・メッセージ・バッファとして使用している。
(CnMCONFmレジスタのMA0ビットがセット(1)されている)
- ・送信用メッセージ・バッファとして設定している。
(CnMCONFmレジスタのMT [2:0]ビットを000Bに設定)
- ・送信準備ができている。
(CnMCTRLmレジスタのRDYビットがセット(1)されている)

CANはマルチ・マスタ方式の通信システムです。このようなシステムでは、メッセージの送信優先順位はメッセージのIDによって決定されます。ソフトウェアによる送信処理を容易にするため、CANモジュールは複数の送信待ちメッセージが存在する場合、有効なメッセージのどれが最高優先順位を持っているのかハードウェアによりIDを検索して自動的に判断します。したがって、ソフトウェアにより優先順位制御を行う必要がありません。

アイデンティファイア (ID) による送信プライオリティ制御を行います。

図21-31 メッセージ処理例



送信メッセージの検索は、保留されている送信要求を持つ送信メッセージ・バッファ (TRQビットがあらかじめセット(1)されたメッセージ・バッファ) のうち、最高位の優先度を持つ送信メッセージが送信されます。

また、新しく送信要求が設定された場合は、新しい送信要求を持つ送信メッセージ・バッファと保留されている送信要求を持つ送信メッセージ・バッファを比較します。新しい送信要求が最高位の優先度を持つ場合、低位の優先度を持つ送信メッセージの送信が開始されていなければ、最高位の優先度を持つ送信メッセージが送信されます。ただし、すでに低位の優先度を持つ送信メッセージの送信が開始されている場合には、新しい送信要求はあとで送信されます。この優先度の逆転を解決するために、ソフトウェアにより低優先度のメッセージに対し送信中断要求を実行できます。最高位の優先度は、次のように決定されます。

優先順位	条件	説明
1(高)	IDの先頭11ビットの値 [ID28 : ID18]	IDの先頭11ビットで最小の値を持つメッセージ・フレームが最初に送信されます。11ビット標準IDの値が29ビット拡張IDの先頭11ビットと同一あるいは小さい場合は、11ビット標準IDが29ビット拡張IDを持つメッセージ・フレームよりも高い優先度を持ちます。
2	フレーム・タイプ	11ビット標準IDを持つデータ・フレーム(RTRビットがクリア(0))は、標準IDを持つリモート・フレームや拡張IDを持つメッセージ・フレームよりも高い優先度を持ちます。
3	IDタイプ	標準IDを持つメッセージ・フレーム(IDEビットがクリア(0))は、拡張IDを持つメッセージ・フレームよりも高い優先度を持ちます。
4	IDの下位18ビットの値 [ID17:ID0]	IDの先頭11ビットが同じ値を持ち、フレーム・タイプが同じ(RTRビット値が等しい)、拡張IDを持つ2つ以上のメッセージ・フレームが送信保留中の場合、拡張IDの下位18ビットが最小の値を表すメッセージ・フレームが最初に送信されます。
5(低)	メッセージ・バッファ番号	2つ以上のメッセージ・バッファが同じIDを持つメッセージ・フレームの送信要求がある場合に、最小のメッセージ・バッファ番号を持つメッセージ・バッファからのメッセージが最初に送信されます。

備考 1. ABT付き通常動作モードで、自動ブロック送信要求ABTTRGビットをセット(1)した場合、ABTメッセージ・バッファ・グループの1つのメッセージ・バッファのみTRQビットがセット(1)されます。

ABT付き通常動作モードでは、ABTTRGビットにより開始されるとABT領域(バッファ0~7)に1つのTRQビットがセットされます。このTRQビット以外に、アプリケーションは、ABT領域以外の送信メッセージ・バッファに対し、送信要求ができます。その場合に内部送信検索処理(TXサーチ)により、検索されたメッセージが次に送信されます。この検索処理は、TRQビットがセットされたすべての送信メッセージ・バッファを検索し、次の送信として最も高い優先順位のアイデンティファイアを含むメッセージ・バッファを選択します。高い優先順位を持つアイデンティファイアが2個またはそれ以上あった場合(たとえば同一IDなど)、最も小さいメッセージ・バッファ番号に配置されたメッセージが先に送信されます。

メッセージ・フレームの送信が成功すると、次の動作を行います。

- ・対応する送信メッセージ・バッファのTRQビットが自動的にクリア(0)されます。
 - ・CnINTSレジスタの送信完了ステータス・ビットCINTS0がセット(1)されます。
(対応する送信メッセージ・バッファの割り込み許可ビット(IE)がセット(1)されている場合)
 - ・CnIEレジスタのCIE0ビットをセット(1)，かつ対応する送信メッセージ・バッファの割り込み許可ビット(IE)がセット(1)されている場合、INTCnTRXの割り込み要求信号が出力されます。
2. 送信メッセージ・バッファの内容を変更する際は、内容を更新する前にこのバッファのRDYフラグをクリアしなければなりません。内部処理の移行中、RDYフラグが一時的にロックされている可能性があるので、変更後はRDYフラグの状態をソフトウェアにより確認する必要があります。
3. n = 0-4
m = 0-31

21.10.2 送信ヒストリ・リスト機能

送信ヒストリ・リスト機能は、データ・フレームまたはリモート・フレームを送信するごとに送信ヒストリ・リスト (THL) へメッセージ・バッファ番号の記録を行います。THLは、最大7メッセージ分の格納エレメントと、送信ヒストリ・リスト書き込みポインタ (LOPT) に対応するCnLOPTレジスタおよび送信ヒストリ・リスト読み出しポインタ (TGPT) に対応するCnTGPTレジスタで構成されます。

初期化モードから任意の動作モードへの遷移直後、THLは不定です。

CnLOPTポインタは、LOPTポインタ-1で示されるTHLエレメントの内容を保持しますので、CnLOPTレジスタを読み出すことで一番最後に送信したメッセージ・バッファ番号を知ることができます。LOPTポインタは、THLにおけるメッセージ・バッファ番号の記録先を示す書き込みポインタとして機能します。データ・フレームあるいはリモート・フレームの送信完了が発生すると、対応するメッセージ・バッファ番号がLOPTポインタで示されるTHLエレメントに記録されます。THLへの記録が完了するごとに、LOPTポインタは自動的にインクリメントされます。このように送信完了を行ったメッセージ・バッファの番号は時系列的に記録されていきます。

TGPTポインタは、記録されたメッセージ・バッファ番号をTHLから読み出す際の読み出しポインタとして機能します。TGPTポインタはCPUがまだ読み出しを行っていない最初のTHLエレメントを示しています。ソフトウェアにより、CnTGPTレジスタを読み出すことにより、送信完了したメッセージ・バッファの番号を読み出すことができます。CnTGPTレジスタからメッセージ・バッファ番号を読み出すごとに、TGPTポインタは自動的にインクリメントされます。

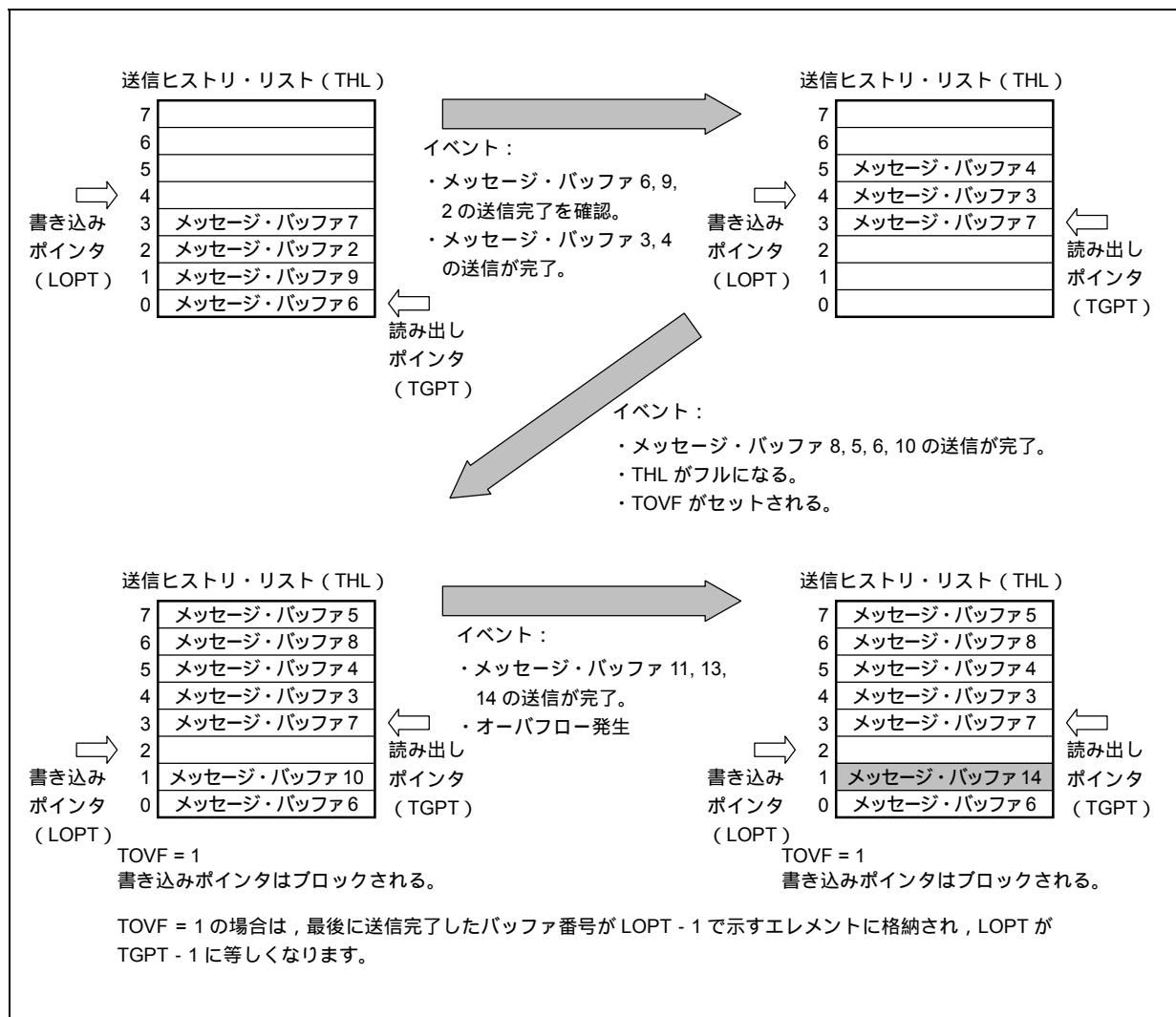
TGPTポインタとLOPTポインタが一致した場合には、CnTGPTレジスタのTHPMビット（送信ヒストリ・リスト・ポインター一致）がセット（1）されます。THPMビットがセット（1）されていることで、THLには読み出しているないメッセージ・バッファ番号が残っていないことを知ることができます。また、送信完了により新しくメッセージ・バッファ番号の記録が行われると、LOPTポインタがインクリメントされポインタが一致しなくなり、THPMビットはクリア（0）されます。つまり、THL内には未読のメッセージ・バッファ番号が存在することになります。

また、インクリメントされたLOPTポインタがTGPTポインタ - 1と一致した場合には、CnTGPTレジスタのTOVFビット（送信ヒストリ・リスト・オーバフロー）がセット（1）されます。この状態は、まだ読み出されていないメッセージ・バッファ番号でTHLがフルに記録されている状態を示します。さらに、メッセージの送信完了が新たに発生すると、最後に記録したメッセージ・バッファ番号を常に上書きすることで新しく送信完了したメッセージ・バッファ番号の記録を継続します。その場合、TOVFビットがセット（1）されたあと、THLに保持しているメッセージ・バッファ番号は完全に時系列にはならなくなります。ただし、その場合でもCPUはすべての送信バッファをサーチすることで送信完了したメッセージ・バッファの番号を特定することができます（CPUが送信再設定を行う前に実行）。TOVFに関わらず6つの送信メッセージ・バッファ番号はTHLに保存されます。

注意 送信ヒストリ・リストがオーバフローした状態(TOVF = 1)でも、未読の履歴がなくなりTHPMビットがセット（1）されるまで送信履歴を読み出すことが可能です。ただし、TOVFビットはソフトウェアによりクリア（0）されるまではセット（1）された状態（= オーバフローしている）を継続します。この状態では、TOVFビットがクリア（0）されないかぎりは新たに送信完了が発生し新しい送信履歴が書き込まれた場合でもTHPMビットはクリア（0）されません。したがって、TOVFビット = 1かつTHPMビット = 1で送信ヒストリ・リストがオーバフロー状態である場合には、新しい送信完了が発生してもTHPMビットは未読の送信履歴がない状態を示しますので注意してください。

備考 n = 0-4

図21-32 送信ヒストリ・リスト



21.10.3 自動ブロック送信機能 (ABT : Automatic Block Transmission)

自動ブロック送信機能（以下、ABTと記述）は、CPUを介さずに複数のデータ・フレームを連続的に送信することができる機能です。ABT用に割り付けられる送信メッセージ・バッファ数は、メッセージ・バッファ0からメッセージ・バッファ7までの8メッセージ固定です。

ABTは、CnCTRLレジスタのOPMODE [2:0]ビットを010Bに設定することで，“自動ブロック送信機能付き通常動作モード”（以下、ABT付き通常動作モードと記述）に選択できます。

ABTの送信要求を発行する前にソフトウェアにより、メッセージ・バッファを定義してください。ABT用のすべてのメッセージ・バッファに対して、MA0ビットをセット(1)し、さらにMT [2:0]ビットに000Bを設定し送信メッセージ・バッファとして定義してください。ABT用メッセージ・バッファで使用されるIDは、すべてのメッセージ・バッファのIDが同一として使用する場合でも、必ず各メッセージ・バッファにIDを設定してください。また、複数のIDを使用する場合は、CnMDLm、CnMIDHmレジスタで各メッセージ・バッファのIDを設定して使用してください。CnMDLCmレジスタおよびCnMDATA0m-CnMDATA7mレジスタは、ABTモードでABTの送信要求の発行前に設定してください。

ABT用のメッセージ・バッファの初期化が終了したあとに、RDYビットをセット(1)してください。ABTでは、TRQビットをソフトウェアにより設定する必要はありません。

ABT用のメッセージ・バッファにデータを準備したあと、自動ブロック送信は、ABTTRGビットをセット(1)することで開始されます。ABTが開始されると、最初のメッセージ・バッファ（メッセージ・バッファ0）のTRQビットが自動的にセット(1)され送信が始まります。メッセージ・バッファ0の送信が終了したら、次のメッセージ・バッファ1のTRQビットが自動的にセットされ、以降順次送信を行います。

このとき、連続送信中の送信要求（TRQ）の自動セットをする間にプログラマブルで遅延の挿入ができます。挿入する遅延量はCnGMABTDレジスタで設定を行い、単位はDBT（データ・ビット・タイム）です。DBTはCnBRPレジスタおよびCnBTRレジスタで設定される時間に依存します。

ABTは、ABT送信バッファ内での送信IDの優先順位の検索は行わず、メッセージ・バッファ0から最大メッセージ・バッファ7まで順に送信し、メッセージ・バッファ7からのデータ・フレームの送信が完了すると、ABTTRGビットは自動的にクリア(0)され、ABT送信が完了します。

ABT送信中に、ABT用メッセージ・バッファの中にRDYビットがクリア(0)されたメッセージ・バッファがあると、そのメッセージ・バッファからの送信を行わずにABT送信を停止しABTTRGビットがクリアされます。その後、ソフトウェアによりRDYビットをセット(1)し、ABTTRGビットをセット(1)することでABT送信を停止したメッセージ・バッファからの送信を再開させることができます。停止したメッセージ・バッファから送信を再開させたくない場合は、ABT送信が停止しABTTRGビットがクリア(0)された状態でABTCLRビットをセット(1)することで内部のABT送信エンジンをリセットすることができます。この場合、ABTCLRビットをクリア(0)後、ABTTRGビットをセット(1)するとメッセージ・バッファ0から送信を開始します。

ABT用のすべてのメッセージ・バッファからデータ・フレームが送信されたことを確認するためには割り込みを使用できます。このとき、最後のメッセージ・バッファ以外のCnMCTRLmレジスタのIEビットをクリア(0)しておく必要があります。

ABT用メッセージ・バッファ以外の送信メッセージ・バッファ（メッセージ・バッファ8～バッファ31）が送信メッセージ・バッファに割り付けられている場合は、現在送信が保留されているABT用メッセージ・バッファの送信IDとそれらABT用メッセージ・バッファ以外の送信メッセージ・バッファの間の優先順位判定により、最終的に送信されるメッセージの優先順位が決定されます。

ABT用メッセージ・バッファからのデータ・フレームの送信は、送信ヒストリ・リスト（THL）に記録されません。

- 注意1.** ABT付き通常動作モードをメッセージ・バッファ0から再開するためには、ABTCLRビットはABTTRGビットがクリア(0)されている状態でセット(1)してください。ABTTRGビットがセット(1)されている状態で、ABTCLRビットをセット(1)した場合には、以降の動作を保証いたしません。
2. ABTCLRビットのセット(1)による自動ブロック送信エンジンのクリアは、クリア要求の処理が完了した時点でABTCLRビットがただちに自動的にクリア(0)されることで確認できます。
 3. 初期化モード中にはABTTRGビットを設定しないでください。初期化モード中にABTTRGビットを設定した場合、初期化モードからABTモードへの移行後の正常動作は保証いたしません。
 4. ABT付き通常動作モードでは、ABT用メッセージ・バッファのTRQビットはソフトウェアでセット(1)しないでください。セットした場合には動作は保証いたしません。
 5. CnGMABTDレジスタは、ABTモードにおいて順次送信するABT用の各メッセージに対しメッセージ番号順に送信要求をセットする際の、前ABTメッセージの送信完了から、次のABTメッセージのTRQビットのセットまでの期間に挿入される遅延量を設定するものです。実際にCANバス上に送信されるタイミングは、他局からの送信状況あるいはABTメッセージ以外のメッセージ（メッセージ・バッファ8～バッファ31）に対する送信要求の設定状況に依存して変化します。
 6. ABTメッセージ以外のメッセージに対して送信要求を設定した場合に、かつABT送信による送信要求の自動セットの間に遅延が挿入されない場合（CnGMABTD = 00H）でも、ABTメッセージ以外のメッセージがABTメッセージとの優先順位の高低によらず送信されることがあります。
 7. ABTTRG = 1の状態で、RDYビットをクリア(0)しないでください。
 8. ABT付き通常動作モード時、他ノードからメッセージを受信した場合、CnGMABTDレジスタ = 00Hの設定時でも1フレーム分待ってからABTメッセージを送信する場合があります。

21.10.4 送信中断処理

(1) 自動ブロック送信機能 (ABT) 付き通常動作モード以外での送信中断処理

送信要求を中断する必要がある場合には、CnMCTRLmレジスタのTRQビットをクリア(0)します。TRQビットはすぐにクリア(0)されますが、送信中断が成功したかどうかは、CANバス上の送信状態を示すCnCTRLレジスタのTSTATビットとCnTGPTレジスタを確認してください（詳細は、図21-46 送信中断処理（ABT付き通常動作モード以外）の処理を参照してください）。

(2) 自動ブロック送信機能 (ABT) 付き通常動作モードでのABT送信以外の送信中断処理

送信要求を中断する必要がある場合には、最初にCnGMABTレジスタのABTTRGビットをクリア(0)します。CnGMABTレジスタのABTTRGビットがクリア(0)されたことを確認したあとで、CnMCTRLmレジスタのTRQビットをクリアします。TRQビットはすぐにクリア(0)されますが、送信中断が成功したかどうかは、CANバス上の送信状態を示すCnCTRLレジスタのTSTATビットとCnTGPTレジスタを確認してください（詳細は、図21-47 ABT送信以外の送信中断処理（ABT付き通常動作モード）を参照してください）。

(3) 自動ブロック送信機能 (ABT) 付き通常動作モードでの送信中断処理

すでに連続送信が開始されたABTを中断する必要がある場合は、CnGMABTレジスタのABTTRGビットをクリア(0)します。この場合、現在ABTメッセージの送信であれば、送信が完了（成功、失敗問わず）するまでABTTRG = 1を保持し、送信が完了した時点でABTTRGはクリア(0)されます。これによりABT送信が中断されます。

送信中断前に最後に行った送信が成功した場合、ABT付き通常動作モードでは内部のABTポインタは次に送信されるメッセージ・バッファを指したままになっています。

送信中断の際に送信エラーがあった場合は、内部ABTポインタは最後に送信されたメッセージ・バッファのTRQビットの状態に依存します。ABTTRGビットのクリア(0)要求をする時点で、TRQビットがセット(1)されている場合には、内部ABTポインタは送信中断前に最後に送信されたメッセージ・バッファを指しています（詳細は、図21-48 ABT送信中断処理（ABT付き通常動作モード）の処理を参照してください）。ABTTRGビットのクリアを要求する時点で、TRQビットがクリア(0)されている場合には、内部ABTポインタは+1インクリメントされ、ABT領域の次のメッセージ・バッファを指します（詳細は、図21-49 ABT送信中断処理（ABT付き通常動作モード）の処理を参照してください）。

注意 ABT送信の中断は必ずABTTRGビット = 0によって行ってください。RDYクリアによる送信中断を要求した場合は、動作を保証いたしません。

ABT中断後にABTTRGをセット(1)することでABT付き通常動作モードが再開する場合、再開後に送信されるABTメッセージ・バッファは次のとおりです。

ABT用メッセージ・バッファのTRQビットの状態	成功送信完了後に中断	送信エラー後に中断
セット(1)	ABT領域の次のメッセージ・バッファ ^注	ABT領域の同じメッセージ・バッファ
クリア(0)	ABT領域の次のメッセージ・バッファ ^注	ABT領域の次のメッセージ・バッファ ^注

注 ABT領域に、ABT送信が可能な状態のメッセージ・バッファが存在する場合のみ、上記中断後の再開動作が可能です。たとえば、メッセージ・バッファ7のABT送信中に発行された中断要求は、メッセージ・バッファ7の送信が成功完了した場合は、ABTTRGビットがクリア(0)されても、中断ではなくABT送信の完了とみなされます。

また、ABT領域の次のメッセージ・バッファのRDYビットがクリア(0)されている場合などは、内部ABTポインタは保持されますが、ABTTRGビットをセット(1)しても再開動作は行わずにただちにABT送信を終了します。

21.10.5 リモート・フレーム送信

リモート・フレームは、送信メッセージ・バッファからのみ送信することができます。CnMCONFmレジスタのRTRビットにより、データ・フレーム送信かリモート・フレーム送信かを設定します。RTRビットをセット(1)することにより、リモート・フレーム送信ができます。

21.11 パワー・セーブ・モード

21.11.1 CANスリープ・モード

CANスリープ・モードにより、CANコントローラを待機状態にすることで消費電力を低減することができます。CANスリープ・モードは、すべての動作モードから移行することができます。CANスリープ・モードが解除されても、CANスリープ・モードに移行前と同じ動作モードを保持します。

CANスリープ・モードでは、送信要求が発行または保留されていてもメッセージを送信しません。

(1) CANスリープ・モードへの移行

CnCTRLレジスタのPSMODE [1:0]ビットを01Bに設定することで、CANスリープ・モードの要求を行います。この要求は次の場合に受け付けられます。

(i) CANモジュールがすでに次の動作モードにある場合

- ・ 通常動作モード
- ・ ABT付き通常動作モード
- ・ 受信オンリー・モード
- ・ シングル・ショット・モード
- ・ セルフ・テスト・モード
- ・ 上記のすべての動作モードにおいてCANストップ・モードである

(ii) CANバス状態がバス・アイドルの場合（インタフレーム・スペースの4ビット目がレセシブである）^注

(iii) 送信要求が保留されていない

注 CANバスがドミナントに固着している場合には、CANスリープ・モードへの移行要求は保留されます。また、CANストップ・モードではCANスリープ・モードへの遷移はCANバスの状態には依存しません。

備考 CANスリープ・モード遷移要求が保留されている状態で受信が終了すると、CANスリープ・モード遷移要求はキャンセルされることなく、受信格納が処理されてから受け付けられCANスリープ・モードに移行します。このとき、CPUが受信割り込み処理を実行する際には、CANスリープ・モード状態になっていることになります。したがって、CANスリープ・モードを使用する場合には、割り込み処理でMBONフラグをチェックすることにより、メッセージ・バッファおよび受信ヒストリ・レジスタへのアクセス可否を確認する必要があります。

同様に、CANスリープ・モード遷移要求が保留されている状態で送信が終了すると、CANスリープ・モード遷移要求はキャンセルされることなく受け付けられ、CANスリープ・モードに移行します。このとき、CPUが送信割り込み処理を実行する際には、CANスリープ・モード状態になっていることになります。したがって、CANスリープ・モードを使用する場合には、割り込み処理でMBONフラグをチェックすることにより、メッセージ・バッファおよび送信ヒストリ・レジスタへのアクセス可否を確認する必要があります。

上記の条件の1つでも満たされない場合は、次のように動作します。

- ・初期化モードにおいてCANスリープ・モードの要求が行われた場合、その要求は無視され初期化モードのままになります。
- ・任意の動作モードにおいてCANバス状態がバス・アイドルではない（CANバス状態が送信中または受信中）ときにCANスリープ・モードの要求が行われた場合、CANスリープ・モードへただちに移行しません。その場合、CANスリープ・モードの要求はCANバス状態がバス・アイドル（インタフレーム・スペースの4ビット目がレセシブ）になるまで保留されます。CANスリープ・モードの要求を行ってから実際に移行が完了するまでは、PSMODE [1:0]ビットは00Bの設定のままになっていますが、移行が完了するとPSMODE [1:0] = 01Bになります。
- ・任意の動作モードにおいて、初期化モード遷移要求とCANスリープ・モード要求が同時に発行された場合には、初期化モード遷移要求のみが有効となり、CANモジュールは所定のタイミングで初期化モードに移行します。このときCANスリープ・モード要求は保留されず無視されます。
- ・また、初期化モード遷移要求とCANスリープ・モード要求が同時に発行されなかった場合（つまり最初に発行された一方の要求がまだ受け付けられていない状態で他方の要求が発行された場合）でも初期化モード遷移要求はCANスリープ・モード要求より優先されます。たとえば、CANスリープ・モード要求が保留され実行が保留されている状態で初期化モード遷移要求が発行された場合、初期化モード遷移要求の発行時点でCANスリープ・モード要求は直ちに無効となります。また初期化モード遷移要求が保留されている状態でCANスリープ・モード要求が発行された場合、CANスリープ・モード要求の発行時点で直ちにCANスリープ・モード要求が無効になります。

（2）CANスリープ・モードの状態

CANスリープ・モードへ移行後は、CANモジュールは次の状態となります。

- ・内部動作クロックが停止し、低消費電力状態となります。
- ・CANバスからのウェイク・アップのためにCAN受信端子（CRXDn）の立ち下がりエッジ検出は機能しています。
- ・CPUからのウェイク・アップのためにCANモジュール制御レジスタ（CnCTRL）のPSMODE [1:0]ビットは書き込みができますが、それ以外のCANモジュール・レジスタおよびビットには書き込みできません。
- ・CANモジュール・レジスタからの読み出しは、CnLIPT, CnRGPT, CnLOPT, CnTGPTを除いて可能です。
- ・CANメッセージ・バッファ・レジスタは書き込みと読み出しができません。
- ・CANグローバル制御レジスタ（CnGMCTRL）のMBONビットがクリアされます。
- ・初期化モードへの移行要求は受け付けられません。無視されます。

(3) CANスリープ・モードの解除

CANスリープ・モードは次の動作により解除されます。

- ・CnCTRLレジスタのPSMODE[1:0]ビットに00Bを設定した場合
- ・CAN受信端子(CRXDn)の立ち下がりエッジの検出(レセシブからドミナントへのCANバス変化)

- 注意** 1. この立ち下がりエッジが受信メッセージのSOFであった場合、そのメッセージは受信および格納はされません。CANスリープ・モード中、CANへのクロックが停止されていると、CPUによりCANへのクロックを供給されない限り、CANスリープ・モードは解除されずPSMODE[1:0]ビットは01Bのままとなります。また、それ以降の受信メッセージについても受信されません。
2. CANクロックが供給されている状態で、CAN受信端子(CRXDn)に立ち下がりエッジを検出した場合には、ソフトウェアによるPSMODE0ビットのクリアが必要となります(詳細は、図21-54の処理を参照してください)。

CANスリープ・モードが解除されたあとは、CANスリープ・モードが要求される前の動作モードに戻り、CnCTRLレジスタのPSMODE[1:0]ビットは00Bにリセットされます。CANスリープ・モードが、CANバス変化によって解除された場合、CnIEレジスタのCIEビットに関わらずCnINTSレジスタのCINTS5がセット(1)されます。またCANスリープ・モード解除後は、CANモジュールは自動的にCANバス上に連続した11ビットのレセシブを検出することでCANバスへの再参加を行います。また、スリープ・モードを解除したあと、アプリケーションにより再度メッセージ・バッファにアクセスする前にMBON = 1を確認しなければなりません。

CANスリープ・モードのときに初期化モードの要求が行われると、その要求は無視されます。初期化モードに移行させるにはソフトウェアによりCANスリープ・モードをいったん解除してください。

注意 CANバスのイベントによるCANスリープ・モードの解除では、スリープ・モード移行直後にCANバスのイベントが発生した場合でもウエイク・アップ割り込みが発生しますので、いつでも発生する可能性があることを意識してください。

備考 n = 0-4

21.11.2 CANストップ・モード

CANストップ・モードにより、CANコントローラを待機状態にすることで消費電力を低減することができます。CANストップ・モードは、CANスリープ・モードからのみ移行することができます。CANストップ・モードを解除することによって、CANスリープ・モードに移行します。

CANストップ・モードは、CnCTRLレジスタのPSMODE [1:0]ビットを01Bに設定することでのみ解除（CANスリープ・モードへの移行）が可能で、CANバスの変化によっては解除されません。送信要求が発行または保留されてもメッセージを送信しません。

（1）CANストップ・モードへの移行

CnCTRLレジスタのPSMODE [1:0]ビットを11Bに設定することで、CANストップ・モードの要求を行います。CANストップ・モードの要求は、CANモジュールがCANスリープ・モードの場合のみ受け付けられます。CANスリープ・モードでない状態では、CANストップ・モードの移行要求は無視されます。

注意 CANストップ・モード移行のためには、CANモジュールがCANスリープ・モードであることが必要です。その確認のためにPSMODE [1:0] = 01Bであることを確認したあとに、CANストップ・モード要求を行ってください。ただし、これらの処理の間にCAN受信端子（CRXD_n）のバス変化が発生した場合、CANスリープ・モードが自動的に解除されますので、その場合にはCANストップ・モード要求は受け付けられなくなります（ただし、CANクロックが供給されている状態では、CAN受信端子（CRXD_n）のバス変化が発生したあとで、ソフトウェアによるPSMODE0ビットのクリアが必要となります）。

（2）CANストップ・モードの状態

CANストップ・モードへ移行後は、CANモジュールは下記の状態となります。

- ・ 内部動作クロックが停止し、低消費電力状態となります。
- ・ CPUからのウエイク・アップのためにCANモジュール制御レジスタ（CnCTRL）のPSMODE [1:0]ビットは書き込みができますが、それ以外のCANモジュール・レジスタおよびビットには書き込みできません。
- ・ CANモジュール・レジスタからの読み出しへ、CnLIPT, CnRGPT, CnLOPT, CnTGPTを除いて可能です。
- ・ CANメッセージ・バッファ・レジスタは書き込みと読み出しができません。
- ・ CANグローバル制御レジスタ（CnGMCTRL）のMBONビットがクリアされます。
- ・ 初期化モードへの移行要求は受け付けられません。無視されます。

（3）CANストップ・モードの解除

CANストップ・モードは、CnCTRLレジスタのPSMODE [1:0]ビットを01Bに設定することによってのみ解除されます。解除後はCANスリープ・モードに移行します。

CANストップ・モードのときに初期化モードの要求が行われると、その要求は無視されます。初期化モードに移行させるにはソフトウェアによりCANストップ・モードを解除し、さらにCANスリープ・モードを解除してください。CANストップ・モードからCANスリープ・モードを経ずに直接任意の動作モードに移行することはできません。そのような移行要求は無視されます。

備考 n = 0-4

21.11.3 パワー・セーブ・モード使用例

アプリケーション・システムにおいて、消費電力を低減するためにCPUをパワー・セーブ・モードに設定することが必要となる場合があります。このとき、CANモジュール固有のパワー・セーブ・モードとCPU固有のパワー・セーブ・モードを連携させることで、パワー・セーブ状態のCPUをCANバスからウエイク・アップさせることができます。

次に使用例を説明します。

まず、CANモジュールをCANスリープ・モードに移行させます(PSMODE [1:0]ビット = 01B)。次に、CPUをパワー・セーブ・モードに移行させます。この状態で、CAN受信端子(CRXDn)がレセシブからドミナントへのエッジ変化を検出した場合、CANモジュールのCINTS5ビットがセット(1)され、さらにCnCTRLレジスタのCIE5ビットがセット(1)されている場合には、ウエイク・アップ割り込み(INTCnWUP)が発生します。

CANモジュールは、CANスリープ・モードが自動的に解除(PSMODE[1:0]ビット = 00B)され、通常動作モードに復帰します(ただし、CANクロックが供給されている状態では、CAN受信端子(CRXDn)がバス変化を検出したあとで、ソフトウェアによるPSMODE0ビットのクリアが必要となります)。一方、CPUはINTCnWUPを受けて、CPU自身のパワー・セーブ・モードを解除し、通常動作モードに復帰することができます。

CPUのさらなる消費電力の低減を図るために、CANモジュールを含めた内部クロックを停止させることができます。この場合、上述のように、CANモジュールをCANスリープ・モードに移行させたあとに、CANモジュールに供給されている動作クロックを停止します。その後、CPUはCPUへのクロック供給を停止するパワー・セーブ・モードに移行させます。この状態で、CAN受信端子(CRXDn)がレセシブからドミナントへのエッジ変化を検出した場合、CANモジュールはクロック供給がない状態でもCINTS5ビットのセット(1)とウエイク・アップ割り込み(INTCnWUP)を発生することができます。ただし、それ以外の機能は、CANモジュールへのクロック供給が止まっているため動作せず、CANスリープ・モード状態を維持します。CPUは、INTCnWUPを受けて、CPUのパワー・セーブ・モードを解除し、たとえば発振安定時間経過後に、CANモジュールへのクロックを含めた内部クロックの供給を再開し、所定の命令実行動作を開始します。CANモジュールは、クロック供給が再開されると直ちにCANスリープ・モードを解除し、通常動作モード(PSMODE [1:0]ビット=00B)に復帰します。

21.12 割り込み機能

CANモジュールには、6つの割り込み要因があります。

これらの割り込み要因の発生は、割り込みステータス・レジスタに格納されます。6つの割り込み要因から、4つの割り込み要求が発生します。複数の割り込み要因が集約されている割り込み要求信号の発生時には、割り込みステータス・レジスタを使用して、割り込み要因の特定ができます。割り込み要因の発生後、ソフトウェアにより対応する割り込みステータス・ビットをクリア(0)する必要があります。

表21-30 CANモジュール割り込み要因一覧

No.	割り込みステータス・ ビット		割り込み許可ビット		割り込み要求信号	割り込み要因の説明
	ビット名	レジスタ	ビット名	レジスタ		
1	CINTS0 ^{注1}	CnINTS	CIE0 ^{注1}	CnIE	INTCnTRX	メッセージ・バッファmからの メッセージ・フレームの正常な 送信完了割り込み
2	CINTS1 ^{注1}	CnINTS	CIE1 ^{注1}	CnIE	INTCnREC	メッセージ・バッファmへの有 効なメッセージ・フレーム受信 完了割り込み
3	CINTS2	CnINTS	CIE2	CnIE	INTCnERR	CANモジュール・エラー状態 割り込み ^{注2}
4	CINTS3	CnINTS	CIE3	CnIE		CANモジュール・プロトコ ル・エラー割り込み ^{注3}
5	CINTS4	CnINTS	CIE4	CnIE		CANモジュール・アービト レーション・ロスト割り込み
6	CINTS5	CnINTS	CIE5	CnIE	INTCnWUP	CANスリープ・モードからの ウエイク・アップ割り込み ^{注4}

注1. メッセージ・バッファでは、割り込みを発生させたいメッセージ・バッファのCnMCTRLレジスタのIEビット

(メッセージ・バッファ割り込み許可ビット)をセット(1)する必要があります。

2. 送受信エラー・カウンタがワーニング・レベル、エラー・パッシブおよびバスオフ状態になることが要因で
発生する割り込みです。
3. スタッフ・エラー、フォーム・エラー、ACKエラー、ピット・エラー、CRCエラーが要因で発生する割り込
みです。
4. CAN受信端子の立ち下がりエッジの検出(レセシプからドミナントへのCANバス変化)によるCANスリー
プ・モードからのウエイク・アップが要因で発生する割り込みです。

備考 n = 0-4

m = 0-31

21.13 診断機能と特殊動作モード

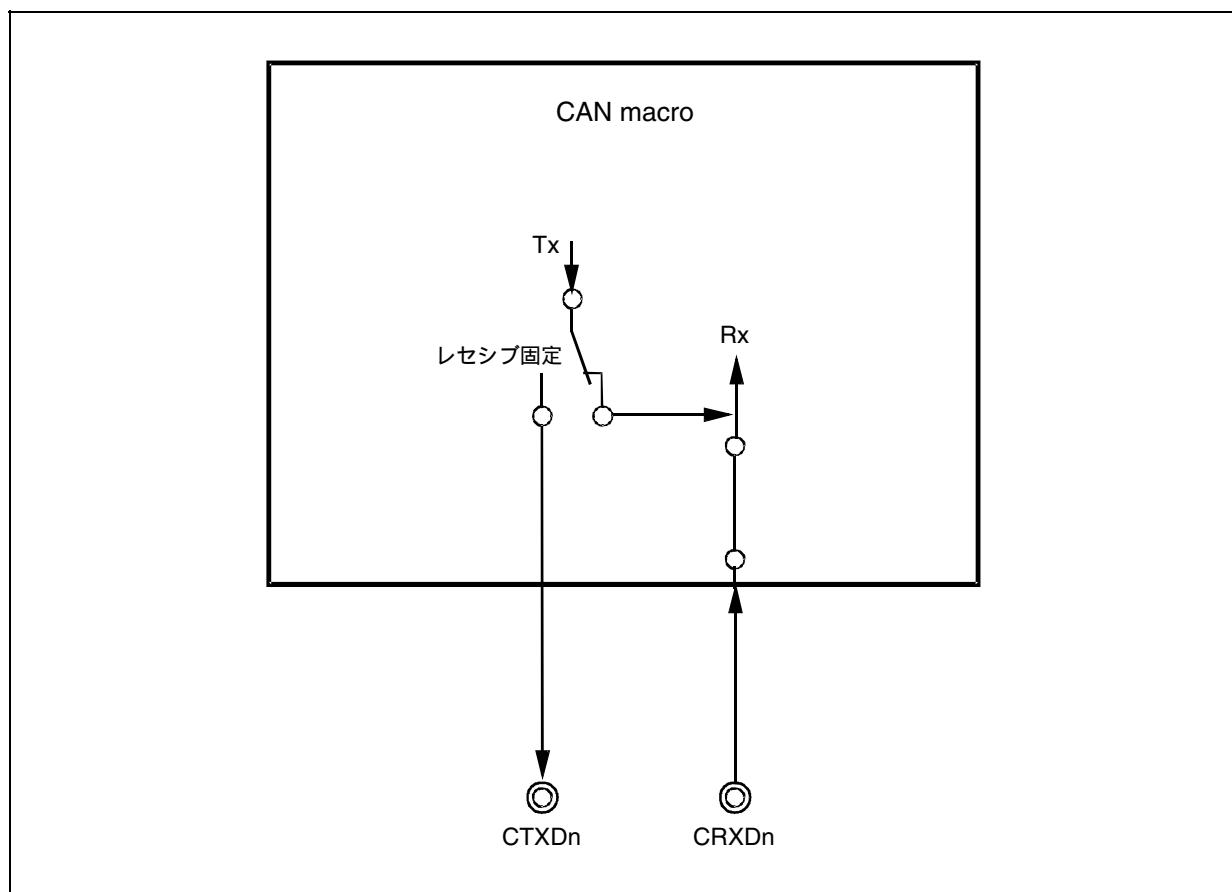
CANモジュールは、CANバス診断機能および特殊なCAN通信方法の動作をサポートするための受信オンリー・モード、シングル・ショット・モード、セルフ・テスト・モードを利用できます。

21.13.1 受信オンリー・モード

受信オンリー・モードは、CANバスに影響を与えることなく受信メッセージをモニタするモードで、CANバス分析ノード用に使用できます。

たとえば、自動ポー・レート検出に利用できます。“有効な受信”が検出されるまでCANモジュールのポー・レートを変化させ、互いのポー・レートを合わせ込むことができます（“有効な受信”とは、エラーが発生せず、CANバスに接続されたノードによる適切なACK応答を伴って、CANプロトコル・レイヤ層で受信されたメッセージ・フレームを意味します）。有効な受信では、受信メッセージ・バッファ（データ・フレーム）または送信メッセージ・バッファ（リモート・フレーム）へのメッセージ・フレームの格納は必要ありません。有効な受信は、CnCTRLレジスタのVALIDビットがセット（1）されることで確認できます。

図21-33 受信オンリー・モードにおけるCAN端子接続



受信オンリー・モードでは、CANモジュールからCANバスにメッセージ・フレームは送信しません。送信メッセージ・バッファとして定義されたメッセージ・バッファに発行された送信要求は保留されます。

受信オンリー・モードでは、CANモジュールのCAN送信端子 (CTXDn) は、レセシブ・レベルに固定されています。したがって、メッセージ・フレームの受信中にCANバス・エラーが検出された場合でも、CANモジュールからアクティブ・エラー・フラグをCANバスに送信しません。また、CANモジュールから送信を発行できないため、送信エラー・カウンタTECは更新されません。したがって、受信オンリー・モードのCANモジュールは、バスオフ状態になりません。

さらに、受信オンリー・モードでは、有効なメッセージ・フレームの受信時に、CANバスにACKを返却しません。内部的には自ノードはACKを送信したと認識します。オーバロード・フレームをCANバスに送信することができます。

注意 2つのCANノードのみがCANバスに接続されており、CANノードの1つが「受信オンリー・モード」で動作している場合は、CANバスでACK応答はありません。ACK応答がないため、送信ノードはアクティブ・エラー・フラグを送信し、メッセージ・フレームの送信を繰り返します。送信ノードは、メッセージ・フレームを16回送信したあとにエラー・パッシブになります（エラー・カウンタが最初に0であり、ほかのエラーが発生しなかった場合）。メッセージ・フレームの17回目を送信したあとに、送信ノードはパッシブ・エラー・フラグを送信します。したがって、受信オンリー・モードの受信ノードは、この時点で、初めて有効なメッセージ・フレームを検出することになり、VALIDビットが初めてセット(1)されます。

21.13.2 シングル・ショット・モード

シングル・ショット・モードでは、CANプロトコルで定義された自動再送信は行いません（CANプロトコルでは、アビトリレーション・ロスト発生またはエラー発生によって中止されたメッセージ・フレーム送信は、ソフトウェアによる制御なしで再送信される必要があります）。シングル・ショット・モードのその他の動作は通常動作モードと同一です。シングル・ショット・モードの機能はABT付き通常動作モードでは使用できません。

シングル・ショット・モードでは、CnCTRLレジスタのALビットの設定に従って、中止されたメッセージ・フレーム送信の再送信を無効にします。ALビットがクリア(0)されている場合は、アビトリレーション・ロスト発生時またはエラー発生時の再送信が無効になります。ALビットがセット(1)されている場合は、エラー発生時の再送信は無効になりますが、アビトリレーション・ロスト発生時の再送信は有効になります。したがって、送信メッセージ・バッファとして定義されたメッセージ・バッファのTRQビットは、次のイベントでクリア(0)されます。

- ・メッセージ・フレームの正常送信完了
- ・メッセージ・フレームのアビトリレーション・ロスト発生
- ・メッセージ・フレーム送信中のエラー発生

アビトリレーション・ロスト発生とエラー発生は、それぞれCnINTSレジスタのCINTS4ビット、CINTS3ビットを確認し、エラーの種類はCnLECレジスタのLEC [2:0]ビットをリードすることで区別することができます。

メッセージ・フレームの送信完了時、CnINTSレジスタの送信完了割り込みCINTS0は、セット(1)されます。そのとき、CnIEレジスタのCIE0ビットがセット(1)されている場合には、割り込み要求信号が出力されます。

シングル・ショット・モードは、タイム・トリガの通信方法 (TTCANレベル1など) をエミュレートするために使用することができます。

注意 ALビットは、シングル・ショット・モードでのみ有効です。他の動作モードでは、アビトリレーション・ロスト時の再送動作に影響を与えません。

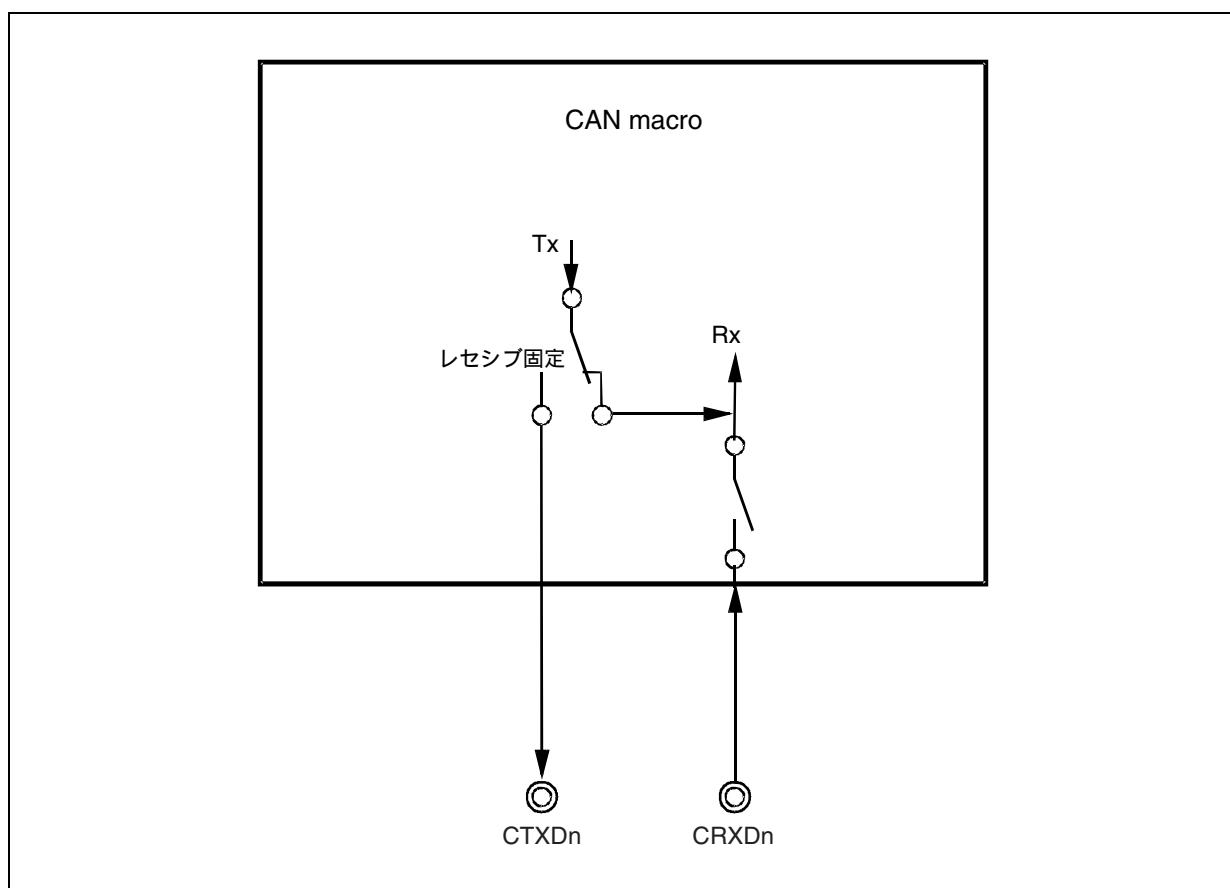
21.13.3 セルフ・テスト・モード

セルフ・テスト・モードでは、CANノードをCANバスに接続することなく、つまり、CANバスに影響を与えるずにメッセージ・フレーム送信とメッセージ・フレーム受信をテストすることができます。

セルフ・テスト・モードでは、CANモジュールがCANバスから完全に切断されていますが、内部的に送信と受信はループ・バックされています。CAN送信端子（CTXDn）は、レセシプ・レベルに固定されています。

ただし、セルフ・テスト・モードではCANスリープ・モードに移行したあと、CAN受信端子（CRXDn）の立ち下がりエッジの検出をすると、他の動作モードと同様にCANスリープ・モードから解除されます（ただし、CANクロックが供給されている状態でスリープ・モードを解除したい場合は、CAN受信端子（CRXDn）の立ち下がりエッジの検出後、ソフトウェアによるPSMODE0ビットのクリアが必要となります）。CANスリープ・モードから解除されないようにするには、CAN受信端子（CRXDn）をポートに切り替えて使用してください。

図21-34 セルフ・テスト・モードにおけるCAN端子接続



21.13.4 各動作モードにおける送受信動作

各動作モードにおける送受信動作の概略を表21-31に示します。

表21-31 各動作モードにおける送受信動作の概要

動作モード	データ・フレーム /リモート・ フレーム送信	ACK送信	エラー・フレーム /オーバロード・ フレーム送信	再送信	自動ブロック 送信 (ABT)	VALID ビットの セット	メッセージ・ バッファへの データ格納
初期化モード	-	-	-	-	-	-	-
通常動作モード					-		
ABT付き通常動作 モード							
受信オンリー・ モード	-	-	-	-	-		
シングル・ ショット・モード				注 ¹	-		
セルフ・テスト・ モード	注 ²	注 ²	注 ²	注 ²	-	注 ²	注 ²

注1. アービトレーション・ロスト時, CnCTRLレジスタのALビットにより, 再送信の設定が可能です。

2. 各信号は外部に出力されませんが, CANモジュール内部で発生します。

21.14 タイム・スタンプ機能

CANは非同期のシリアル通信プロトコルです。したがって、CANバスに接続されているすべてのノードは、それぞれが独自のローカルなクロックを使っています。そのため、各ノードで使われているクロックの間には何の相互関係もありません（つまり各クロックは非同期であり、周波数が完全に合致していないことがあります）。

しかし、アプリケーションによっては、ネットワーク全体で使われる共通タイム・ベース（=グローバル・タイム・ベース）が必要となるものがあります。グローバル・タイム・ベースを確立するためには、タイム・スタンプ機能が用いられます。タイム・スタンプ機能に必要となるメカニズムは、CANバス上の信号をトリガとしてタイム値をキャプチャすることです。

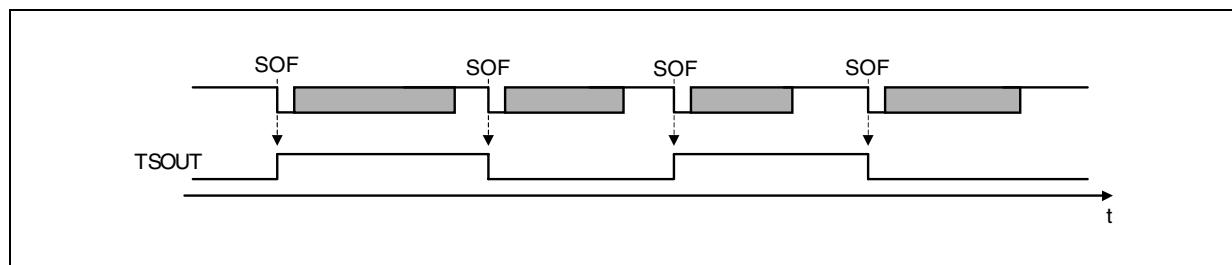
21.14.1 タイム・スタンプ機能

CANコントローラは、特定フレームをトリガとしてタイム値をキャプチャする場合に必要となる機能をサポートしています。そのために、CANコントローラに加え製品に内蔵されている16ビットのキャプチャ／タイマ・ユニットを使用します。この場合、16ビット・キャプチャ・タイマ・ユニットは、CANコントローラからデータ・フレームの受信時に出力されるキャプチャ用のトリガ信号（TSOUT）に応じて、タイム値をキャプチャします。CPUはそのキャプチャ値を読み出すことにより、キャプチャ・イベントの発生時刻、すなわちCANバスから受信したメッセージのタイム・スタンプを得ることができます。TSOUTは、次の2つのイベント・ソースから選択することができ、CnTSレジスタのTSSELビットにより指定します。

- ・SOFイベント（スタート・オブ・フレーム）（TSSEL = 0）
- ・EOFイベント（エンド・オブ・フレームの最終ビット）（TSSEL = 1）

またTSOUT信号は、CnTSレジスタのTSENビットをセット（1）することで動作許可状態になります。

図21-35 キャプチャ用信号TSOUTのタイミング図



TSOUTは、データ・フレームの受信時に、選択されたイベントが発生するたびにそのレベルがトグルします（上図は、SOFをトリガのイベント・ソースとした場合のタイミング図です）。このTSOUTによるキャプチャを行うためには、キャプチャ／タイマ・ユニット側では、キャプチャ信号の検出は立ち上がり、および立ち下がりの両エッジで行う必要があります。

これらのタイム・スタンプの機能は、CnTSレジスタのTSLOCKビットにより制御することができます。TSLOCKビットがクリア（0）されている場合には、選択したイベントが発生するたびにTSOUTがトグルします。TSLOCKビットがセット（1）されている場合には、選択したイベントが発生するたびにTSOUTがトグルしますが、データ・フレームがメッセージ・バッファ0への受信格納開始時にTSENビットが自動的にクリア（0）されることで、トグル動作を停止させることができます。これにより、以降のTSOUTのトグル発生を抑え、最後にトグルした（=最後にキャプチャした）タイム・スタンプ値を、メッセージ・バッファ0にデータ・フレームを受信した時刻のタイム・スタンプ値として保存することができます。

注意 TSLOCKビットを使ったタイム・スタンプ機能は、メッセージ・バッファ0へのデータ・フレーム受信によりTSOUTのトグルを停止させるものです。そのためには、メッセージ・バッファ0は受信メッセージ・バッファとして設定されている必要があります。受信メッセージ・バッファにはリモート・フレームを受信できませんので、リモート・フレーム受信によりTSOUTのトグルを停止させることはできません。またメッセージ・バッファ0以外のメッセージ・バッファへのデータ・フレーム受信ではTSOUTのトグルは停止しません。

上記の理由で、CANモジュールがABT付き通常モードに設定されている場合には、メッセージ・バッファ0は送信メッセージ・バッファとして設定する必要があるため、メッセージ・バッファ0へのデータ・フレーム受信はできません。したがって、この動作モードではTSLOCKビットによるTSOUTのトグルの停止機能は使用できません。

備考 n = 0-4

21.15 ポー・レート設定について

21.15.1 ピット・レート設定条件

CANを正常に動作させるために、次の条件に設定してください。

- (a) 5TQ SPT (サンプル・ポイント) 17TQ
 $SPT = TSEG1 + 1TQ$
- (b) 8TQ DBT (データ・ピット・タイム) 25TQ
 $DBT = TSEG1 + TSEG2 + 1TQ = TSEG2 + SPT$
- (c) 1TQ SJW (同期ジャンプ幅) 4TQ
 $SJW = DBT - SPT$
- (d) 4TQ TSEG1 16TQ [3 TSEG1[3:0]の設定値 15]
TSEG1 [3:0] (CANnピット・レート・レジスタ (CnBTR) のビット3-0)
- (e) 1TQ TSEG2 8TQ [0 TSEG2[2:0]の設定値 7]
TSEG2 [2:0] (CANnピット・レート・レジスタ (CnBTR) のビット10-8)

- 備考**
1. $TQ = 1/f_{TQ}$ (f_{TQ} : CANプロトコル・レイヤ基本システム・クロック)
TSEG1 [3:0] (CANnピット・レート・レジスタ (CnBTR) のビット3-0)
TSEG2 [2:0] (CANnピット・レート・レジスタ (CnBTR) のビット10-8)
 2. $n = 0\text{-}4$

上記条件を満たすピット・レートの組み合わせを表21-32に示します。

表21-32 設定可能なピット・レート組み合わせ(1/3)

DBTの長さ	有効なピット・レート設定				CnBTRレジスタ設定値		サンプル・ポイント (単位: %)
	SYNC SEGMENT	PROP SEGMENT	PHASE SEGMENT1	PHASE SEGMENT2	TSEG1 [3:0]	TSEG2 [2:0]	
25	1	8	8	8	1111	111	68.0
24	1	7	8	8	1110	111	66.7
24	1	9	7	7	1111	110	70.8
23	1	6	8	8	1101	111	65.2
23	1	8	7	7	1110	110	69.6
23	1	10	6	6	1111	101	73.9
22	1	5	8	8	1100	111	63.6
22	1	7	7	7	1101	110	68.2
22	1	9	6	6	1110	101	72.7
22	1	11	5	5	1111	100	77.3
21	1	4	8	8	1011	111	61.9
21	1	6	7	7	1100	110	66.7
21	1	8	6	6	1101	101	71.4
21	1	10	5	5	1110	100	76.2
21	1	12	4	4	1111	011	81.0
20	1	3	8	8	1010	111	60.0
20	1	5	7	7	1011	110	65.0
20	1	7	6	6	1100	101	70.0
20	1	9	5	5	1101	100	75.0
20	1	11	4	4	1110	011	80.0
20	1	13	3	3	1111	010	85.0
19	1	2	8	8	1001	111	57.9
19	1	4	7	7	1010	110	63.2
19	1	6	6	6	1011	101	68.4
19	1	8	5	5	1100	100	73.7
19	1	10	4	4	1101	011	78.9
19	1	12	3	3	1110	010	84.2
19	1	14	2	2	1111	001	89.5
18	1	1	8	8	1000	111	55.6
18	1	3	7	7	1001	110	61.1
18	1	5	6	6	1010	101	66.7
18	1	7	5	5	1011	100	72.2
18	1	9	4	4	1100	011	77.8
18	1	11	3	3	1101	010	83.3
18	1	13	2	2	1110	001	88.9
18	1	15	1	1	1111	000	94.4

備考 n = 0-4

表21-32 設定可能なビット・レート組み合わせ(2/3)

DBTの長さ	有効なビット・レート設定					CnBTRレジスタ設定値		サンプル・ポイント (単位: %)
	SYNC SEGMENT	PROP SEGMENT	PHASE SEGMENT1	PHASE SEGMENT2	TSEG1 [3:0]	TSEG2 [2:0]		
17	1	2	7	7	1000	110	58.8	
17	1	4	6	6	1001	101	64.7	
17	1	6	5	5	1010	100	70.6	
17	1	8	4	4	1011	011	76.5	
17	1	10	3	3	1100	010	82.4	
17	1	12	2	2	1101	001	88.2	
17	1	14	1	1	1110	000	94.1	
16	1	1	7	7	0111	110	56.3	
16	1	3	6	6	1000	101	62.5	
16	1	5	5	5	1001	100	68.8	
16	1	7	4	4	1010	011	75.0	
16	1	9	3	3	1011	010	81.3	
16	1	11	2	2	1100	001	87.5	
16	1	13	1	1	1101	000	93.8	
15	1	2	6	6	0111	101	60.0	
15	1	4	5	5	1000	100	66.7	
15	1	6	4	4	1001	011	73.3	
15	1	8	3	3	1010	010	80.0	
15	1	10	2	2	1011	001	86.7	
15	1	12	1	1	1100	000	93.3	
14	1	1	6	6	0110	101	57.1	
14	1	3	5	5	0111	100	64.3	
14	1	5	4	4	1000	011	71.4	
14	1	7	3	3	1001	010	78.6	
14	1	9	2	2	1010	001	85.7	
14	1	11	1	1	1011	000	92.9	
13	1	2	5	5	0110	100	61.5	
13	1	4	4	4	0111	011	69.2	
13	1	6	3	3	1000	010	76.9	
13	1	8	2	2	1001	001	84.6	
13	1	10	1	1	1010	000	92.3	
12	1	1	5	5	0101	100	58.3	
12	1	3	4	4	0110	011	66.7	
12	1	5	3	3	0111	010	75.0	
12	1	7	2	2	1000	001	83.3	
12	1	9	1	1	1001	000	91.7	

備考 n = 0-4

表21 - 32 設定可能なピット・レート組み合わせ (3/3)

DBTの長さ	有効なピット・レート設定					CnBTRレジスタ設定値		サンプル・ ポイント (単位 : %)
	SYNC SEGMENT	PROP SEGMENT	PHASE SEGMENT1	PHASE SEGMENT2	TSEG1 [3:0]	TSEG2 [2:0]		
11	1	2	4	4	0101	011	63.6	
11	1	4	3	3	0110	010	72.7	
11	1	6	2	2	0111	001	81.8	
11	1	8	1	1	1000	000	90.9	
10	1	1	4	4	0100	011	60.0	
10	1	3	3	3	0101	010	70.0	
10	1	5	2	2	0110	001	80.0	
10	1	7	1	1	0111	000	90.0	
9	1	2	3	3	0100	010	66.7	
9	1	4	2	2	0101	001	77.8	
9	1	6	1	1	0110	000	88.9	
8	1	1	3	3	0011	010	62.5	
8	1	3	2	2	0100	001	75.0	
8	1	5	1	1	0101	000	87.5	
7 ^注	1	2	2	2	0011	001	71.4	
7 ^注	1	4	1	1	0100	000	85.7	
6 ^注	1	1	2	2	0010	001	66.7	
6 ^注	1	3	1	1	0011	000	83.3	
5 ^注	1	2	1	1	0010	000	80.0	
4 ^注	1	1	1	1	0001	000	75.0	

注 DBT値が7以下の設定は、CnBRPレジスタ = 00H以外の場合のみ有効です。

注意 表21 - 32は、ネットワーク・システムの動作を保証するものではありません。発振誤差やCANバス、CANトランシーバなどの遅延などを考慮して、ネットワーク・システムへの影響を十分にご確認ください。

備考 n = 0-4

21.15.2 代表的なボーレート設定例

代表的なボーレート設定例を表21-33および表21-34に示します。

表21-33 代表的なボーレート設定例 ($f_{CANMOD} = 8\text{MHz}$ 設定時) (1/2)

ボーレート設定値 (単位 : kbps)	CnBRPによる分周比	CnBRPレジスタ設定値 TQPRS [7:0]	有効なビット・レート設定(単位 : TQ)					CnBTRレジスタ設定値		サンプル・ポイント (単位 : %)
			DBTの長さ	SYNC SEGM ENT	PROP SEGM ENT	PHASE SEGM ENT1	PHASE SEGM ENT2	TSEG1 [3:0]	TSEG2 [2:0]	
1000	1	00000000	8	1	1	3	3	0011	010	62.5
1000	1	00000000	8	1	3	2	2	0100	001	75.0
1000	1	00000000	8	1	5	1	1	0101	000	87.5
500	1	00000000	16	1	1	7	7	0111	110	56.3
500	1	00000000	16	1	3	6	6	1000	101	62.5
500	1	00000000	16	1	5	5	5	1001	100	68.8
500	1	00000000	16	1	7	4	4	1010	011	75.0
500	1	00000000	16	1	9	3	3	1011	010	81.3
500	1	00000000	16	1	11	2	2	1100	001	87.5
500	1	00000000	16	1	13	1	1	1101	000	93.8
500	2	00000001	8	1	1	3	3	0011	010	62.5
500	2	00000001	8	1	3	2	2	0100	001	75.0
500	2	00000001	8	1	5	1	1	0101	000	87.5
250	2	00000001	16	1	1	7	7	0111	110	56.3
250	2	00000001	16	1	3	6	6	1000	101	62.5
250	2	00000001	16	1	5	5	5	1001	100	68.8
250	2	00000001	16	1	7	4	4	1010	011	75.0
250	2	00000001	16	1	9	3	3	1011	010	81.3
250	2	00000001	16	1	11	2	2	1100	001	87.5
250	2	00000001	16	1	13	1	1	1101	000	93.8
250	4	00000011	8	1	3	2	2	0100	001	75.0
250	4	00000011	8	1	5	1	1	0101	000	87.5
125	4	00000011	16	1	1	7	7	0111	110	56.3
125	4	00000011	16	1	3	6	6	1000	101	62.5
125	4	00000011	16	1	5	5	5	1001	100	68.8
125	4	00000011	16	1	7	4	4	1010	011	75.0
125	4	00000011	16	1	9	3	3	1011	010	81.3
125	4	00000011	16	1	11	2	2	1100	001	87.5
125	4	00000011	16	1	13	1	1	1101	000	93.8
125	8	00000111	8	1	3	2	2	0100	001	75.0
125	8	00000111	8	1	5	1	1	0101	000	87.5

注意 表21-33は、ネットワーク・システムの動作を保証するものではありません。発振誤差やCANバス、CANトランシーバなどの遅延などを考慮して、ネットワーク・システムへの影響を十分にご確認ください。

備考 n=0-4

表21 - 33 代表的なポー・レート設定例 ($f_{CANMOD} = 8\text{ MHz}$ 設定時) (2/2)

ポー・ レート 設定値 (単位： kbps)	CnBRP による 分周比	CnBRP レジスタ 設定値 TQPRS [7:0]	有効なビット・レート設定 (単位 : TQ)					CnBTRレジスタ 設定値		サンプル・ ポイント (単位 : %)
			DBTの 長さ	SYNC SEGM ENT	PROP SEGM ENT	PHASE SEGM ENT1	PHASE SEGM ENT2	TSEG1 [3:0]	TSEG2 [2:0]	
100	4	00000011	20	1	7	6	6	1100	101	70.0
100	4	00000011	20	1	9	5	5	1101	100	75.0
100	5	00000100	16	1	7	4	4	1010	011	75.0
100	5	00000100	16	1	9	3	3	1011	010	81.3
100	8	00000111	10	1	3	3	3	0101	010	70.0
100	8	00000111	10	1	5	2	2	0110	001	80.0
100	10	00001001	8	1	3	2	2	0100	001	75.0
100	10	00001001	8	1	5	1	1	0101	000	87.5
83.3	4	00000011	24	1	7	8	8	1110	111	66.7
83.3	4	00000011	24	1	9	7	7	1111	110	70.8
83.3	6	00000101	16	1	5	5	5	1001	100	68.8
83.3	6	00000101	16	1	7	4	4	1010	011	75.0
83.3	6	00000101	16	1	9	3	3	1011	010	81.3
83.3	6	00000101	16	1	11	2	2	1100	001	87.5
83.3	8	00000111	12	1	5	3	3	0111	010	75.0
83.3	8	00000111	12	1	7	2	2	1000	001	83.3
83.3	12	00001011	8	1	3	2	2	0100	001	75.0
83.3	12	00001011	8	1	5	1	1	0101	000	87.5
33.3	10	00001001	24	1	7	8	8	1110	111	66.7
33.3	10	00001001	24	1	9	7	7	1111	110	70.8
33.3	12	00001011	20	1	7	6	6	1100	101	70.0
33.3	12	00001011	20	1	9	5	5	1101	100	75.0
33.3	15	00001110	16	1	7	4	4	1010	011	75.0
33.3	15	00001110	16	1	9	3	3	1011	010	81.3
33.3	16	00001111	15	1	6	4	4	1001	011	73.3
33.3	16	00001111	15	1	8	3	3	1010	010	80.0
33.3	20	00010011	12	1	5	3	3	0111	010	75.0
33.3	20	00010011	12	1	7	2	2	1000	001	83.3
33.3	24	00010111	10	1	3	3	3	0101	010	70.0
33.3	24	00010111	10	1	5	2	2	0110	001	80.0
33.3	30	00011101	8	1	3	2	2	0100	001	75.0
33.3	30	00011101	8	1	5	1	1	0101	000	87.5

注意 表21 - 33は、ネットワーク・システムの動作を保証するものではありません。発振誤差やCANバス、CANトランシーバなどの遅延などを考慮して、ネットワーク・システムへの影響を十分にご確認ください。

備考 n = 0-4

表21-34 代表的なポー・レート設定例 ($f_{CANMOD} = 16\text{ MHz}$ 設定時) (1/2)

ポー・ レート 設定値 (単位： kbps)	CnBRP による 分周比	CnBRP レジスタ 設定値 TQPRS [7:0]	有効なビット・レート設定 (単位 : TQ)					CnBTRレジスタ設 定値		サンプル・ ポイント (単位 : %)
			DBTの 長さ	SYNC SEGM ENT	PROP SEGM ENT	PHASE SEGM ENT1	PHASE SEGM ENT2	TSEG1 [3:0]	TSEG2 [2:0]	
1000	1	00000000	16	1	1	7	7	0111	110	56.3
1000	1	00000000	16	1	3	6	6	1000	101	62.5
1000	1	00000000	16	1	5	5	5	1001	100	68.8
1000	1	00000000	16	1	7	4	4	1010	011	75.0
1000	1	00000000	16	1	9	3	3	1011	010	81.3
1000	1	00000000	16	1	11	2	2	1100	001	87.5
1000	1	00000000	16	1	13	1	1	1101	000	93.8
1000	2	00000001	8	1	3	2	2	0100	001	75.0
1000	2	00000001	8	1	5	1	1	0101	000	87.5
500	2	00000001	16	1	1	7	7	0111	110	56.3
500	2	00000001	16	1	3	6	6	1000	101	62.5
500	2	00000001	16	1	5	5	5	1001	100	68.8
500	2	00000001	16	1	7	4	4	1010	011	75.0
500	2	00000001	16	1	9	3	3	1011	010	81.3
500	2	00000001	16	1	11	2	2	1100	001	87.5
500	2	00000001	16	1	13	1	1	1101	000	93.8
500	4	00000011	8	1	3	2	2	0100	001	75.0
500	4	00000011	8	1	5	1	1	0101	000	87.5
250	4	00000011	16	1	3	6	6	1000	101	62.5
250	4	00000011	16	1	5	5	5	1001	100	68.8
250	4	00000011	16	1	7	4	4	1010	011	75.0
250	4	00000011	16	1	9	3	3	1011	010	81.3
250	4	00000011	16	1	11	2	2	1100	001	87.5
250	8	00000111	8	1	3	2	2	0100	001	75.0
250	8	00000111	8	1	5	1	1	0101	000	87.5
125	8	00000111	16	1	3	6	6	1000	101	62.5
125	8	00000111	16	1	7	4	4	1010	011	75.0
125	8	00000111	16	1	9	3	3	1011	010	81.3
125	8	00000111	16	1	11	2	2	1100	001	87.5
125	16	00001111	8	1	3	2	2	0100	001	75.0
125	16	00001111	8	1	5	1	1	0101	000	87.5

注意 表21-34は、ネットワーク・システムの動作を保証するものではありません。発振誤差やCANバス、CANトランシーバなどの遅延などを考慮して、ネットワーク・システムへの影響を十分にご確認ください。

備考 n = 0-4

表21-34 代表的なポー・レート設定例 ($f_{CANMOD} = 16\text{ MHz}$ 設定時) (2/2)

ポー・ レート 設定値 (単位： kbps)	CnBRP による 分周比	CnBRP レジスタ 設定値 TQPRS [7:0]	有効なビット・レート設定 (単位 : TQ)					CnBTRレジスタ設 定値		サンプル・ ポイント (単位 : %)
			DBTの 長さ	SYNC SEGM ENT	PROP SEGM ENT	PHASE SEGM ENT1	PHASE SEGM ENT2	TSEG1 [3:0]	TSEG2 [2:0]	
100	8	00000111	20	1	9	5	5	1101	100	75.0
100	8	00000111	20	1	11	4	4	1110	011	80.0
100	10	00001001	16	1	7	4	4	1010	011	75.0
100	10	00001001	16	1	9	3	3	1011	010	81.3
100	16	00001111	10	1	3	3	3	0101	010	70.0
100	16	00001111	10	1	5	2	2	0110	001	80.0
100	20	00010011	8	1	3	2	2	0100	001	75.0
83.3	8	00000111	24	1	7	8	8	1110	111	66.7
83.3	8	00000111	24	1	9	7	7	1111	110	70.8
83.3	12	00001011	16	1	7	4	4	1010	011	75.0
83.3	12	00001011	16	1	9	3	3	1011	010	81.3
83.3	12	00001011	16	1	11	2	2	1100	001	87.5
83.3	16	00001111	12	1	5	3	3	0111	010	75.0
83.3	16	00001111	12	1	7	2	2	1000	001	83.3
83.3	24	00010111	8	1	3	2	2	0100	001	75.0
83.3	24	00010111	8	1	5	1	1	0101	000	87.5
33.3	30	00011101	24	1	7	8	8	1110	111	66.7
33.3	30	00011101	24	1	9	7	7	1111	110	70.8
33.3	24	00010111	20	1	9	5	5	1101	100	75.0
33.3	24	00010111	20	1	11	4	4	1110	011	80.0
33.3	30	00011101	16	1	7	4	4	1010	011	75.0
33.3	30	00011101	16	1	9	3	3	1011	010	81.3
33.3	32	00011111	15	1	8	3	3	1010	010	80.0
33.3	32	00011111	15	1	10	2	2	1011	001	86.7
33.3	37	00100100	13	1	6	3	3	1000	010	76.9
33.3	37	00100100	13	1	8	2	2	1001	001	84.6
33.3	40	00100111	12	1	5	3	3	0111	010	75.0
33.3	40	00100111	12	1	7	2	2	1000	001	83.3
33.3	48	00101111	10	1	3	3	3	0101	010	70.0
33.3	48	00101111	10	1	5	2	2	0110	001	80.0
33.3	60	00111011	8	1	3	2	2	0100	001	75.0
33.3	60	00111011	8	1	5	1	1	0101	000	87.5

注意 表21-34は、ネットワーク・システムの動作を保証するものではありません。発振誤差やCANバス、CANトランシーバなどの遅延などを考慮して、ネットワーク・システムへの影響を十分にご確認ください。

備考 n = 0-4

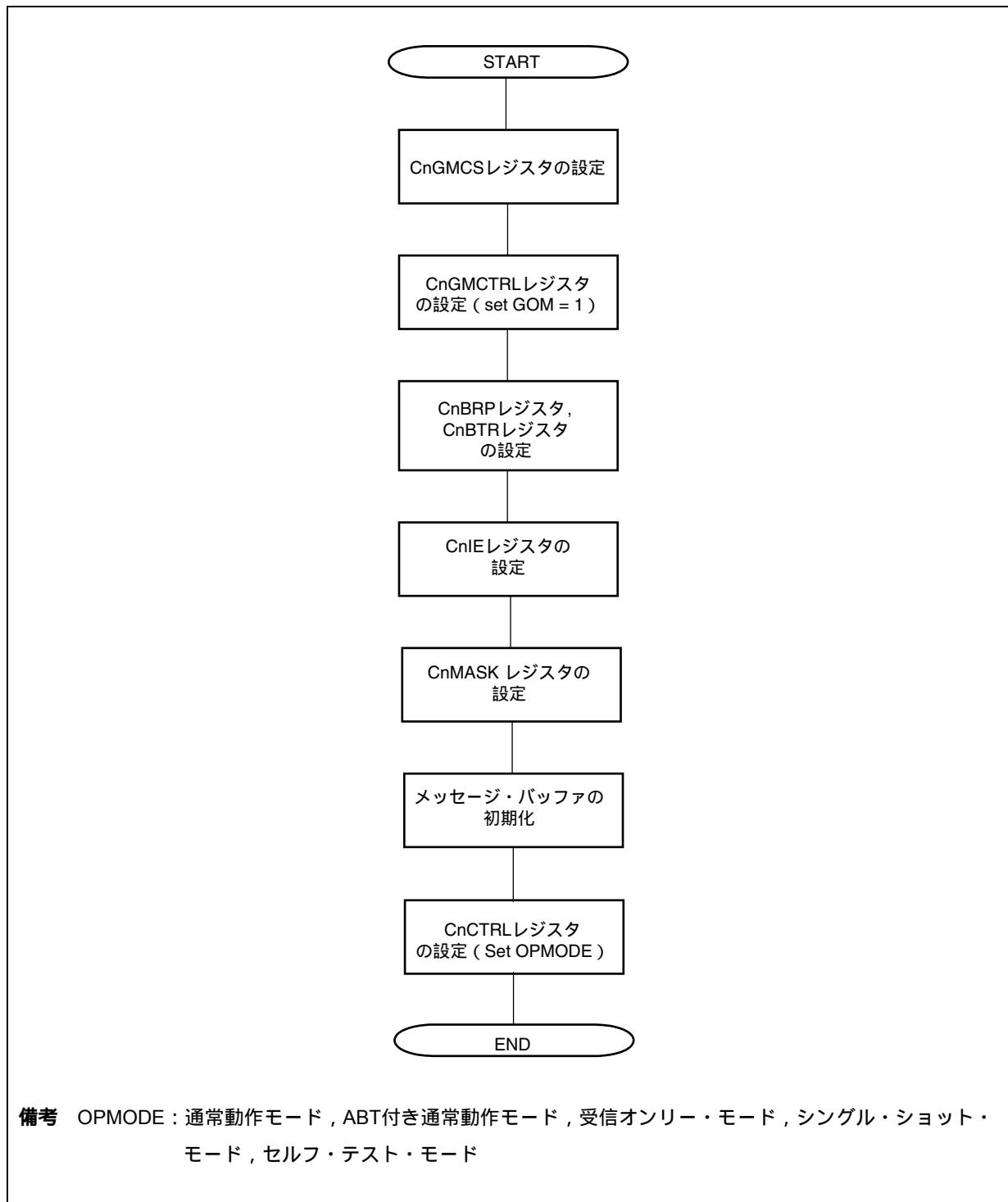
21.16 CANコントローラの動作

ここで示す処理手順は、CANコントローラを動作させるための推奨処理手順となります。この推奨処理手順を参考にプログラム開発を行ってください。

備考 n = 0-4

m = 0-31

図21-36 初期化



備考 OPMODE : 通常動作モード , ABT付き通常動作モード , 受信オンリー・モード , シングル・ショット・モード , セルフ・テスト・モード

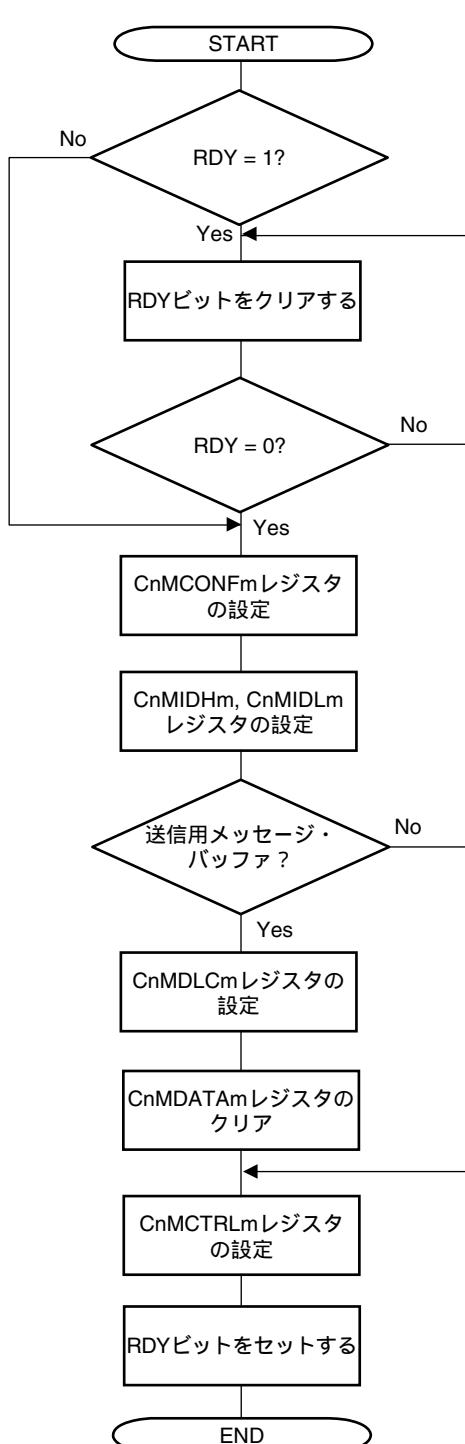
図21-37 再初期化



注意 初期化モードへ移行したあとに、連続して任意の動作モードへ移行しないでください。連続して任意の動作モードへ移行する場合には、必ずCnCTRL, CnGMCTRLレジスタ以外のレジスタへアクセス（メッセージ・バッファの設定など）を行ってください。

備考 OPMODE：通常動作モード、ABT付き通常動作モード、受信オンリー・モード、シングル・ショット・モード、セルフ・テスト・モード

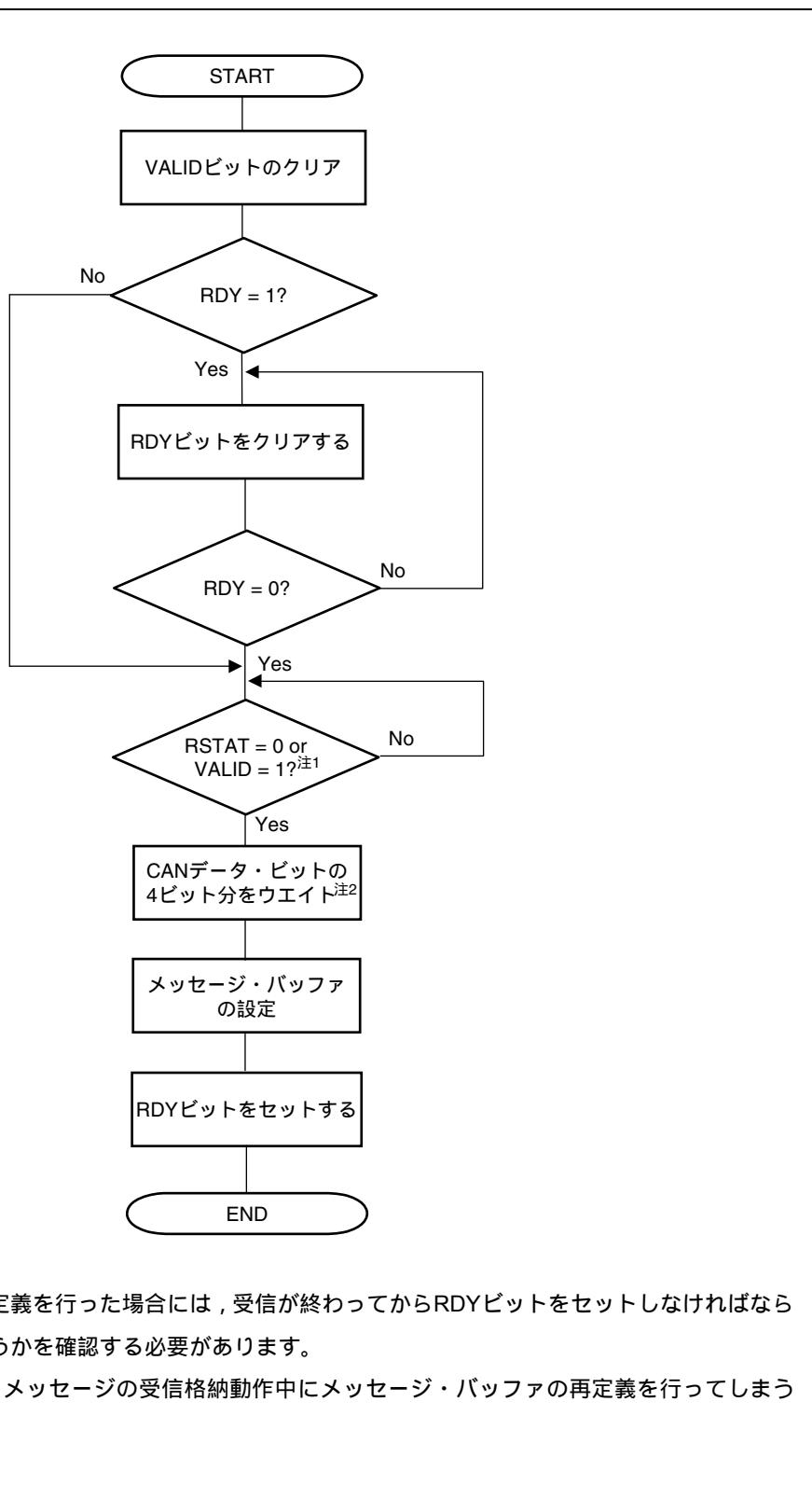
図21-38 メッセージ・バッファの初期化



- 注意1. メッセージ・バッファを初期化する前に、RDYビットをクリアしてください。
2. アプリケーションで使用しないメッセージ・バッファに対しては次の設定を行ってください。
 - ・CnMCTRLmレジスタのRDYビット、TRQビット、DNビットをクリア(0)する。
 - ・CnMCONFmレジスタのMA0ビットをクリア(0)する。

図21-39は、受信メッセージ・バッファに対する処理です(CnMCONFmレジスタのMT[2:0]ビット = 001B-101B)。

図21-39 メッセージ・バッファの再定義



- 注1. メッセージ受信中に再定義を行った場合には、受信が終わってからRDYビットをセットしなければならないため、受信中かどうかを確認する必要があります。
- 2. この4ビットの期間は、メッセージの受信格納動作中にメッセージ・バッファの再定義を行ってしまう可能性があります。

図21-40は、送信中の送信メッセージ・バッファに対する処理です（CnMCONFmレジスタのMT[2:0]ビット = 000B）。

図21-40 送信中のメッセージ・バッファの再定義

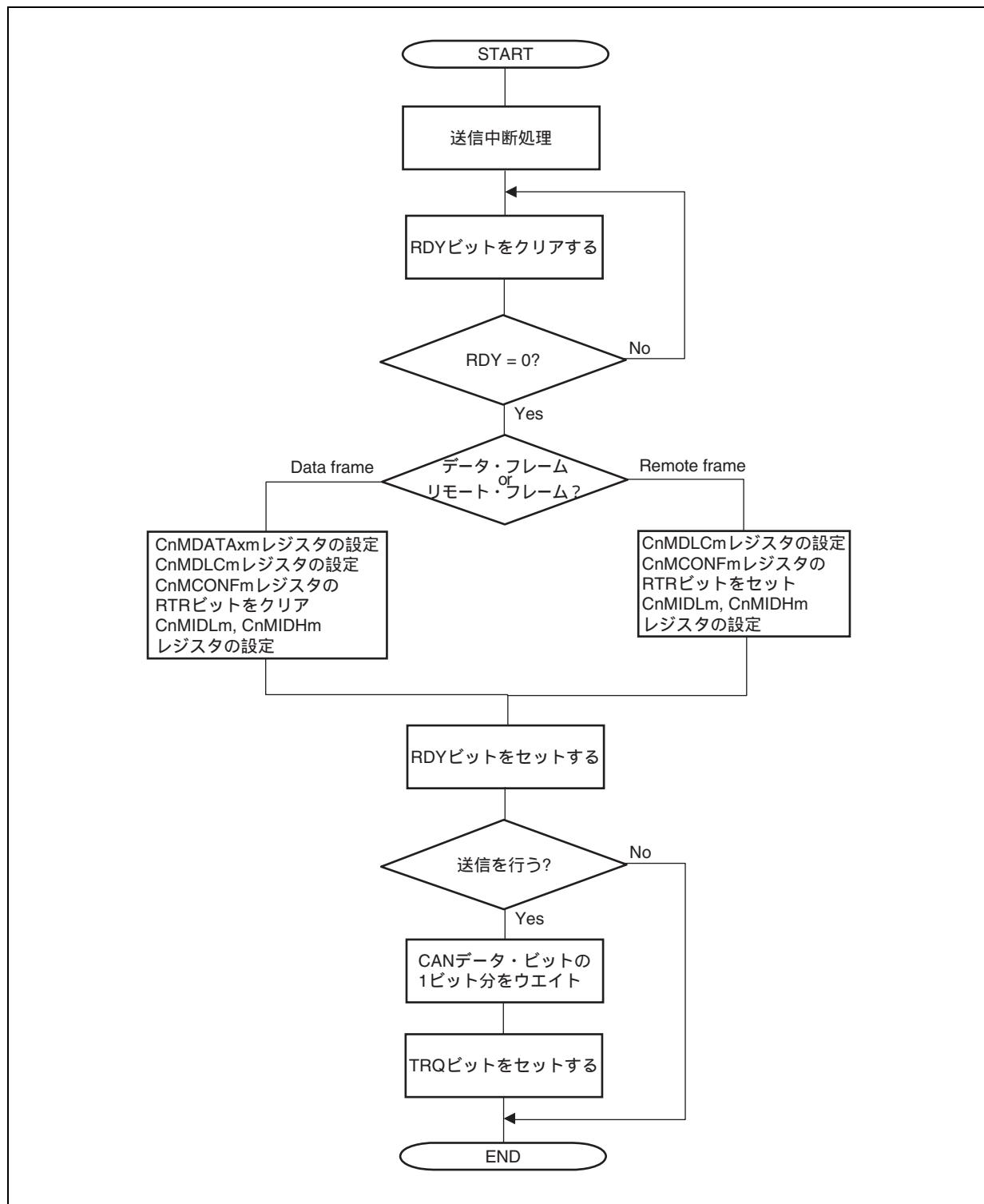


図21-41は、送信メッセージ・バッファに対する処理です(CnMCONFmレジスタのMT [2:0]ビット = 000B)。

図21-41 メッセージ送信処理

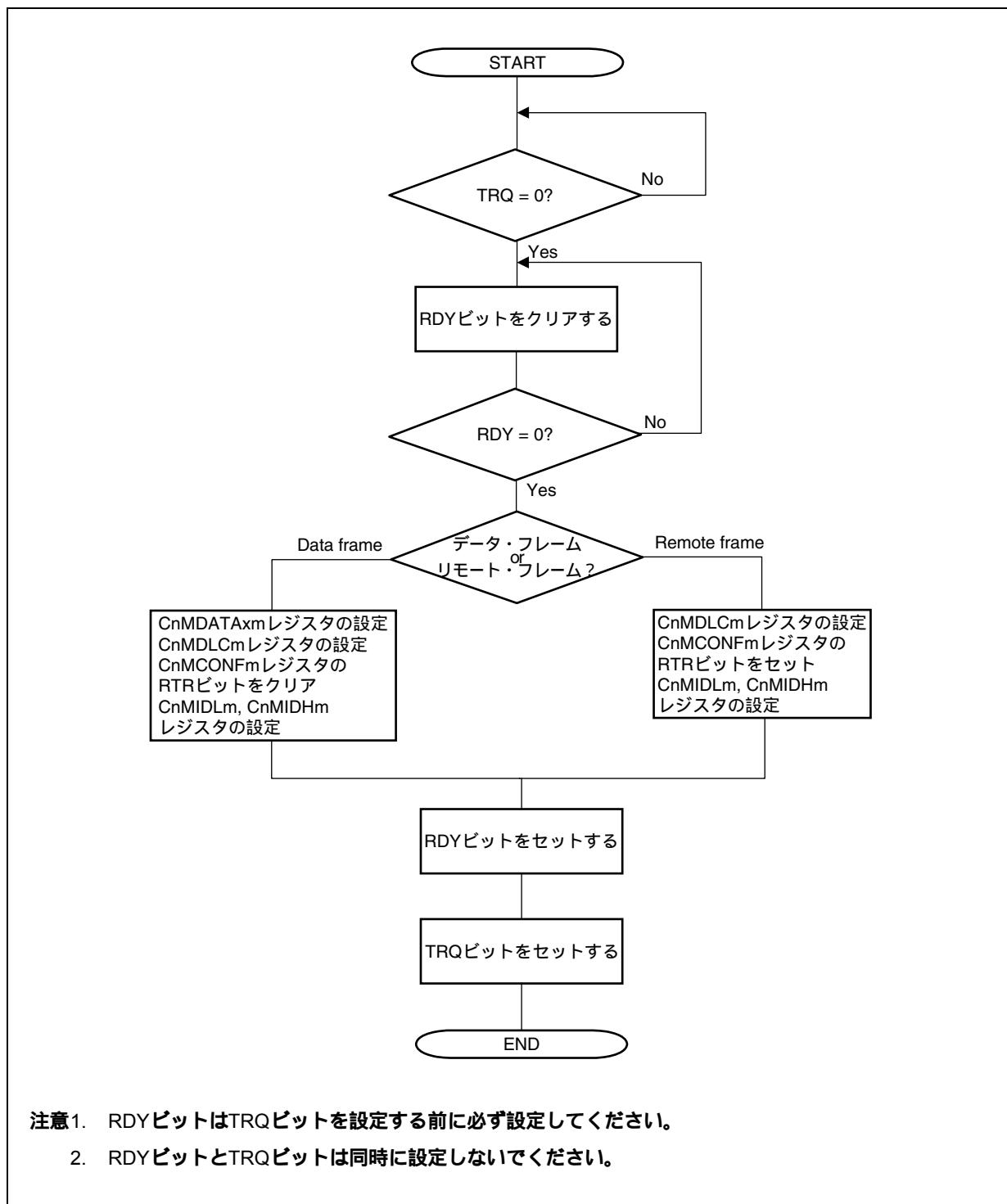
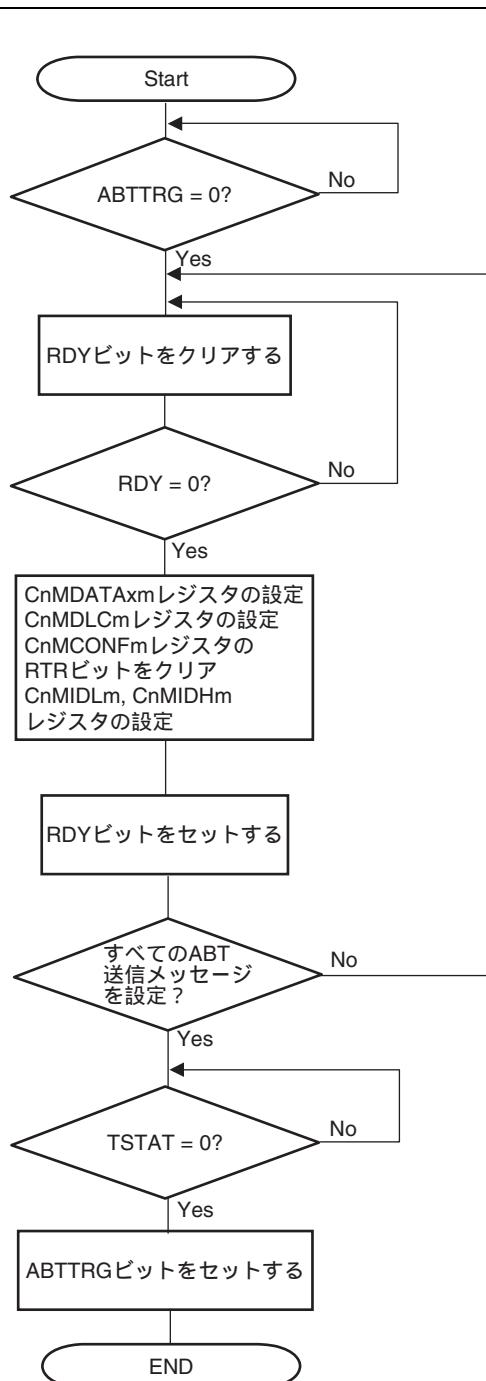


図21-42は、送信メッセージ・バッファに対する処理です（CnMCONFmレジスタのMT [2:0]ビット = 000B）。

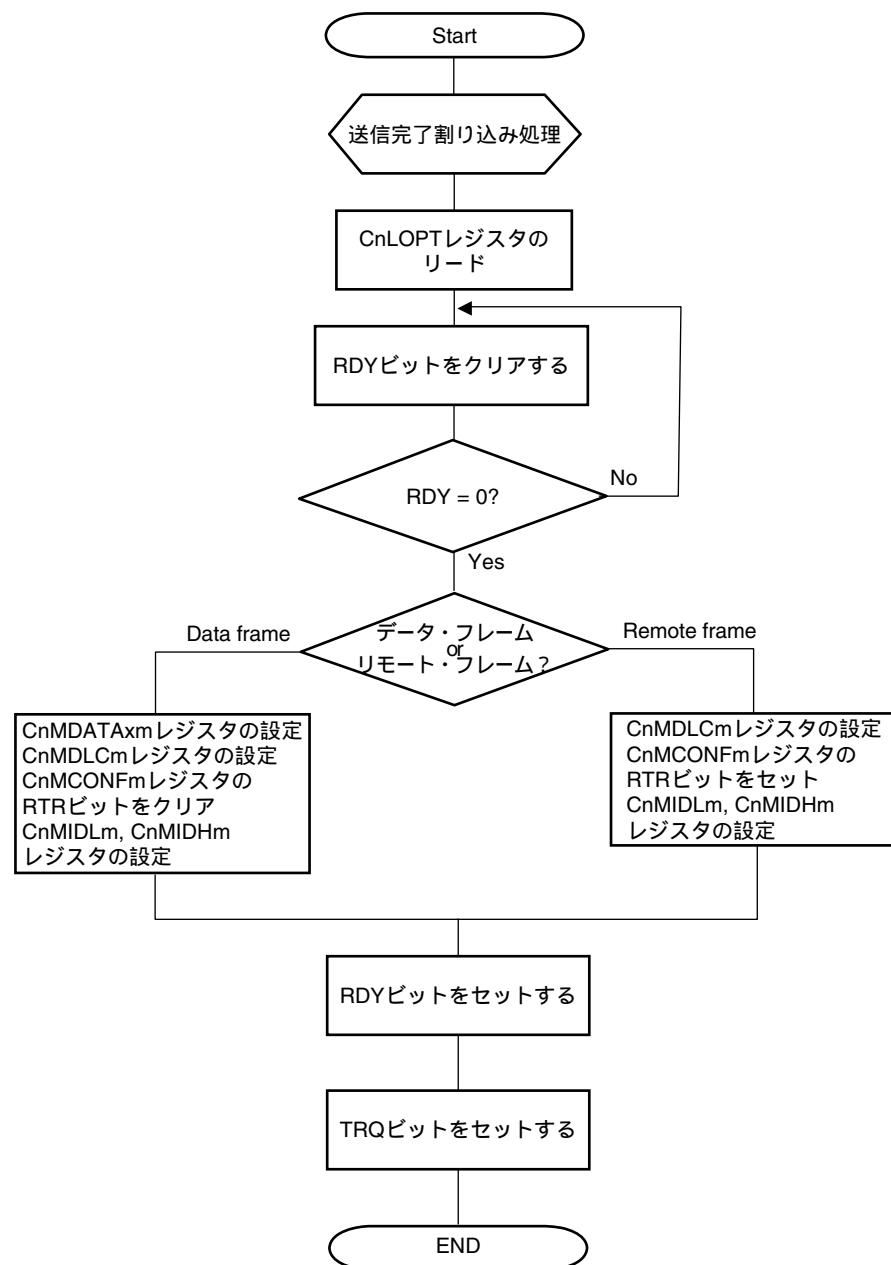
図21-42 ABTメッセージ送信処理



注意 ABTTRGビットのセット(1)は、TSTATビットがクリア(0)されてから行ってください。TSTATビットの確認とABTTRGビットのセット(1)は、連続的に処理を行う必要があります。

備考 この処理(ABTメッセージ送信処理)は、メッセージ・バッファ0-7のみで使用できます。ABT用メッセージ・バッファ以外のメッセージ・バッファについては、図21-41を参照してください。

図21-43 割り込みによる送信処理(CnLOPTレジスタを使用する場合)

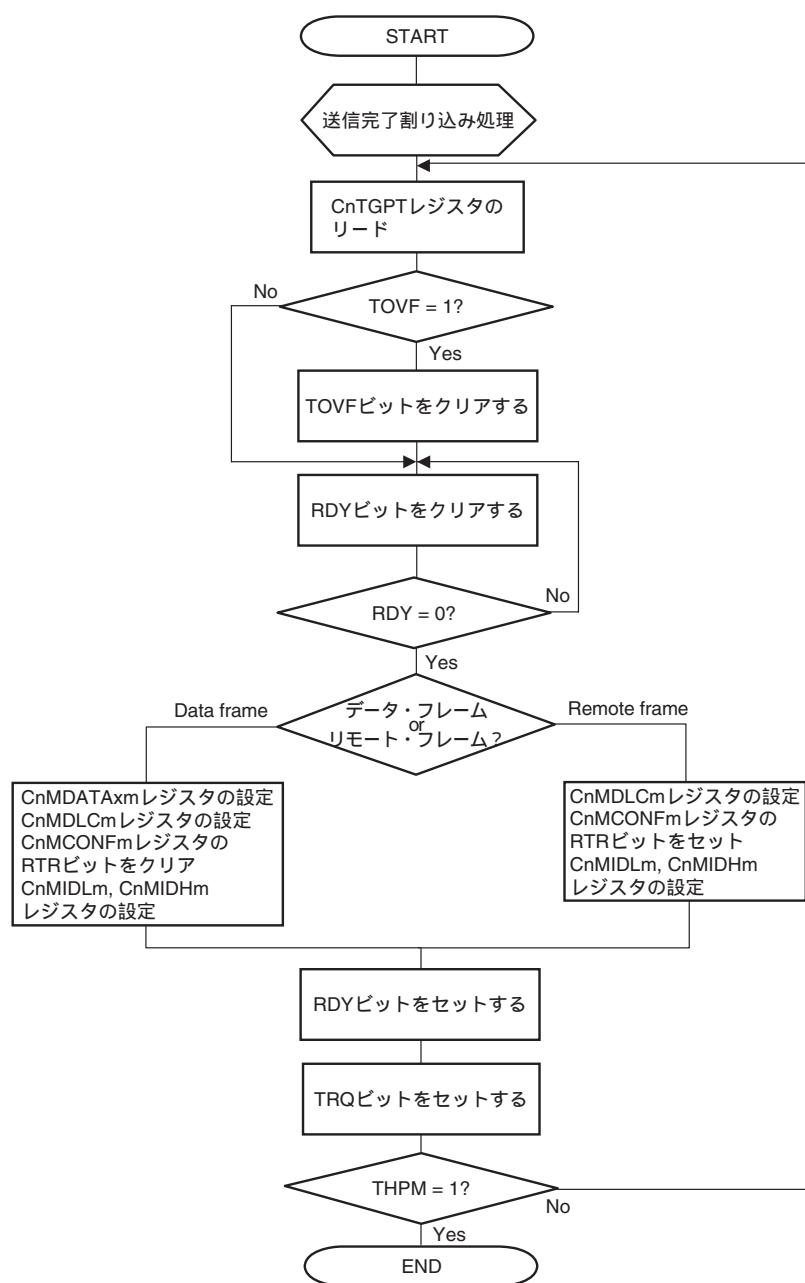


注意1. RDYビットはTRQビットを設定する前に必ず設定してください。

2. RDYビットとTRQビットは同時に設定しないでください。

備考 保留されていたCANスリープ・モード遷移要求が実行されている場合がありますので、メッセージ・パッファおよび送信ヒストリ・レジスタへのアクセスが可能であることを確かめるために、割り込みルーチンの開始と終了時にはMBONビットを確認してください。その際にMBONビットがクリア(0)されていた場合には、実行中の処理を中止し、MBONビットが再度セット(1)されたあとで処理を再実行してください。この様な理由により、送信割り込み処理を実行する前にはCANスリープ・モード遷移要求をキャンセルすることを推奨します。

図21-44 割り込みによる送信処理(CnTGPTレジスタを使用する場合)

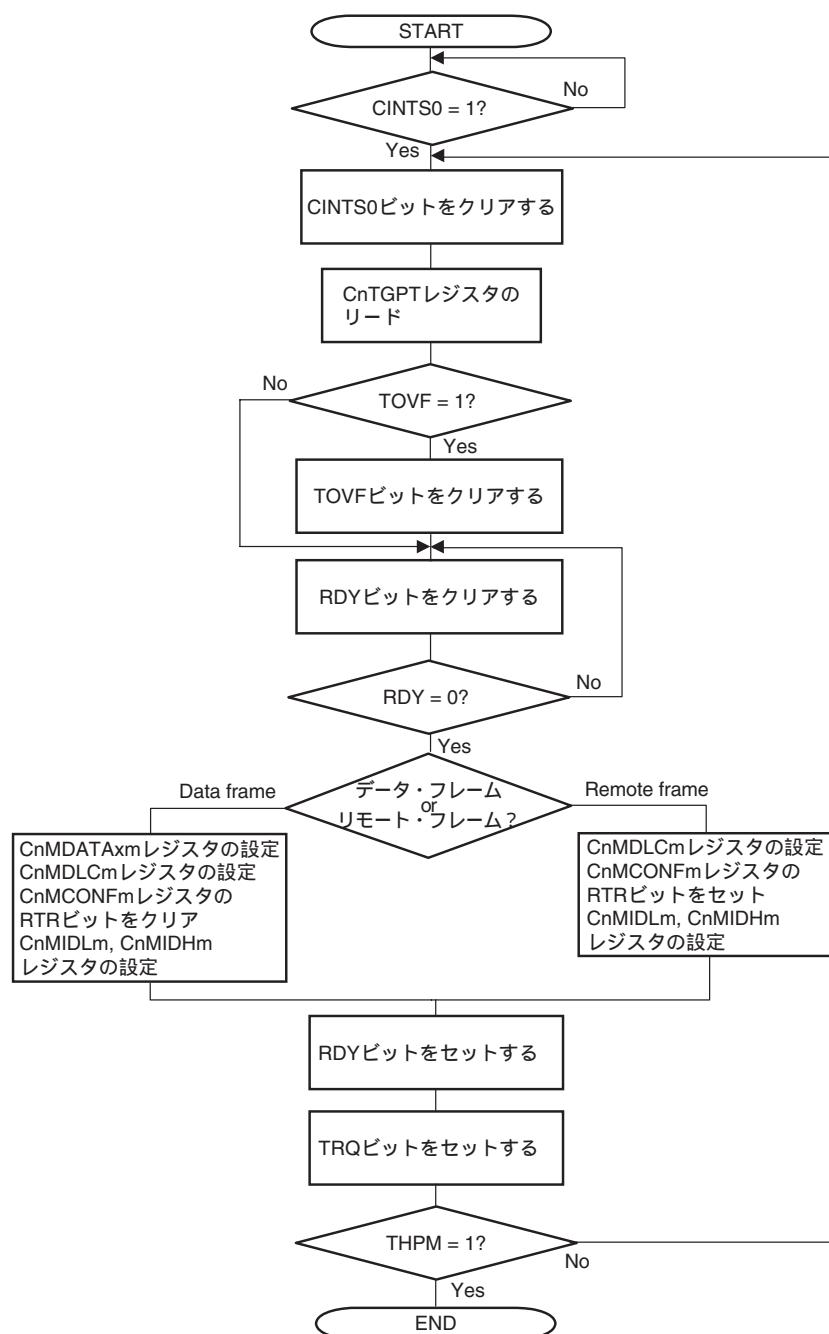


注意1. RDYビットはTRQビットを設定する前に必ず設定してください。

2. RDYビットとTRQビットは同時に設定しないでください。

- 備考1.** 保留されていたCANスリープ・モード遷移要求が実行されている場合がありますので、メッセージ・バッファおよび送信ヒストリ・レジスタへのアクセスが可能であることを確かめるために、割り込みルーチンの開始と終了時にはMBONビットを確認してください。その際にMBONビットがクリア(0)されていた場合には、実行中の処理を中止し、MBONビットが再度セット(1)されたあとで処理を再実行してください。この様な理由により、送信割り込み処理を実行する前にはCANスリープ・モード遷移要求をキャンセルすることを推奨します。
2. TOVFビットが一度セット(1)された場合、送信ヒストリ・リストは矛盾するので、送信完了した送信メッセージ・バッファのすべてをスキャンしてください。

図21-45 ソフトウェア・ポーリングによる送信処理

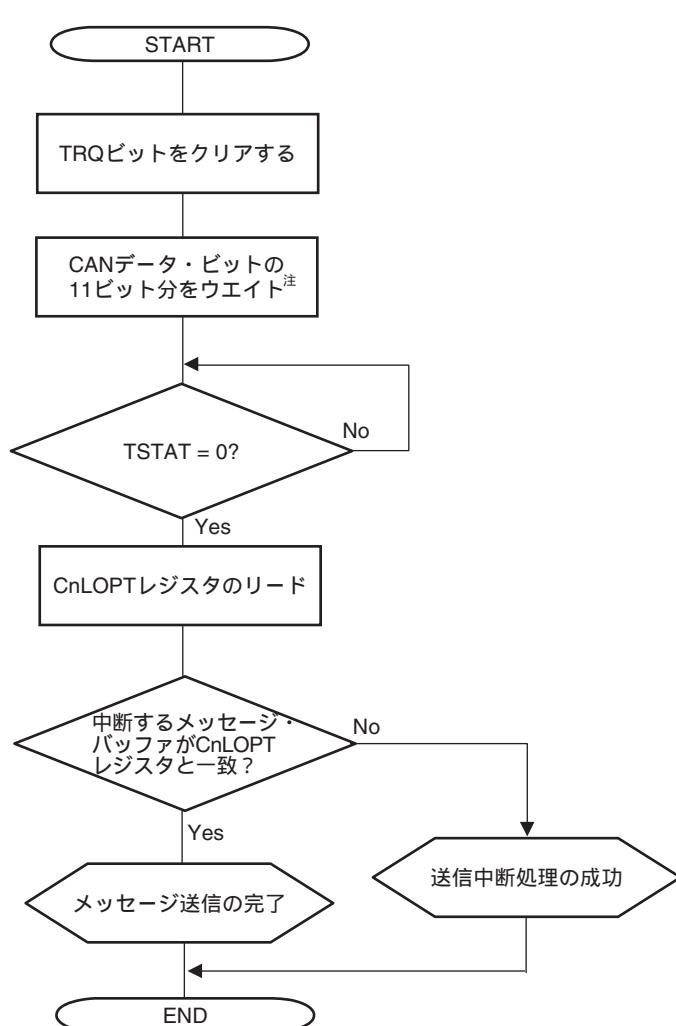


注意1. RDYビットはTRQビットを設定する前に必ず設定してください。

2. RDYビットとTRQビットは同時に設定しないでください。

- 備考1.** 保留されていたCANスリープ・モード遷移要求が実行されている場合がありますので、メッセージ・バッファおよび送信ヒストリ・レジスタへのアクセスが可能であることを確かめるために、ポーリング・ルーチンの開始と終了時にはMBONビットを確認してください。その際にMBONビットがクリア(0)されていた場合には、実行中の処理を中止し、MBONビットが再度セット(1)されたあとで処理を再実行してください。
2. TOVFビットが一度セット(1)された場合、送信ヒストリ・リストは矛盾するので、送信完了した送信メッセージ・バッファのすべてをスキャンしてください。

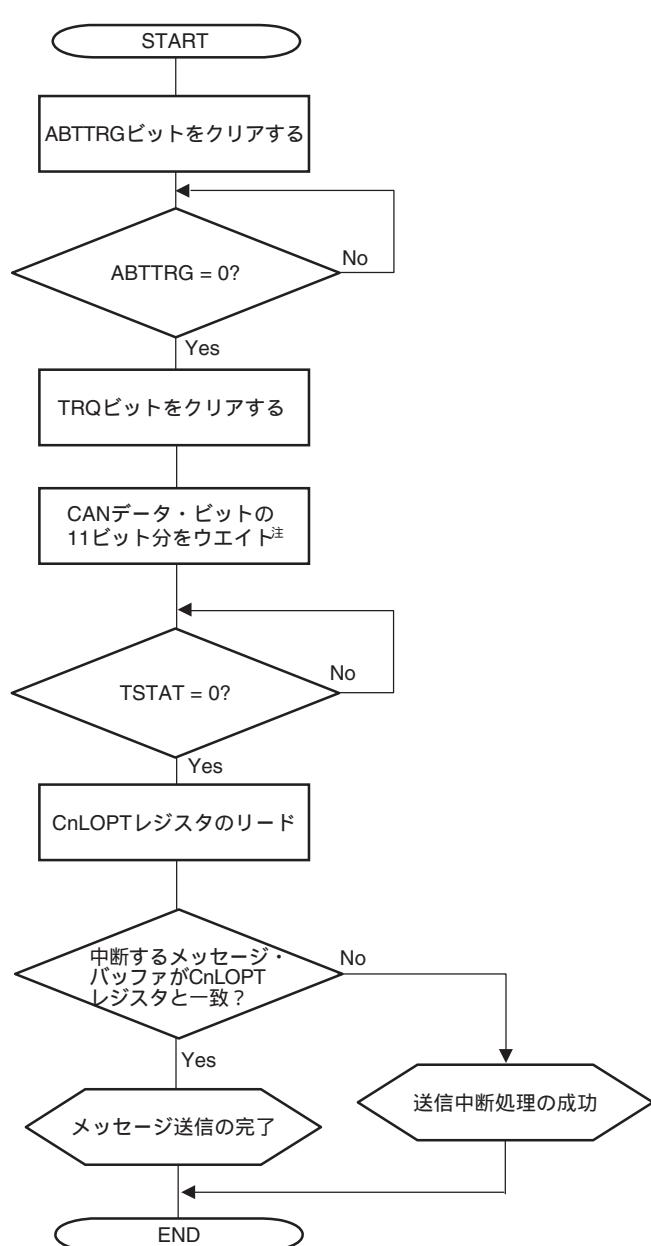
図21-46 送信中断処理(ABT付き通常動作モード以外)



注 インタ・フレーム・スペース(3ビット)とサスペンド・トランスマッシュション(8ビット)の合計11ビットの期間は、すでにプロトコル・レイヤに送信要求が受け付けられている場合があるため、TRQビットをクリアしても中断されずに送信を開始してしまう可能性があります。

1. 送信要求アポート処理は、RDYビットをクリアして実行するのではなく、TRQクリアにより実行してください。
2. スリープ要求を行う場合は、このフローにより送信要求が完全になくなつたことを確認したあとに行ってください。
3. TSTATビットの確認は、ユーザ・アプリケーションにより周期的に行うか、送信完了割り込み後に行うこととも可能です。
4. 送信中断処理を実行中に、他のメッセージ・バッファを含め新しい送信要求を行わないでください。
5. 同一メッセージ・バッファを連続で送信する場合や1つのみのメッセージ・バッファを使用する場合には、送信中断の成否判定で矛盾が生じる可能性があります。その場合、CnTGPTの履歴情報などを使用することにより判定を行ってください。

図21-47 ABT送信以外の送信中断処理(ABT付き通常動作モード)

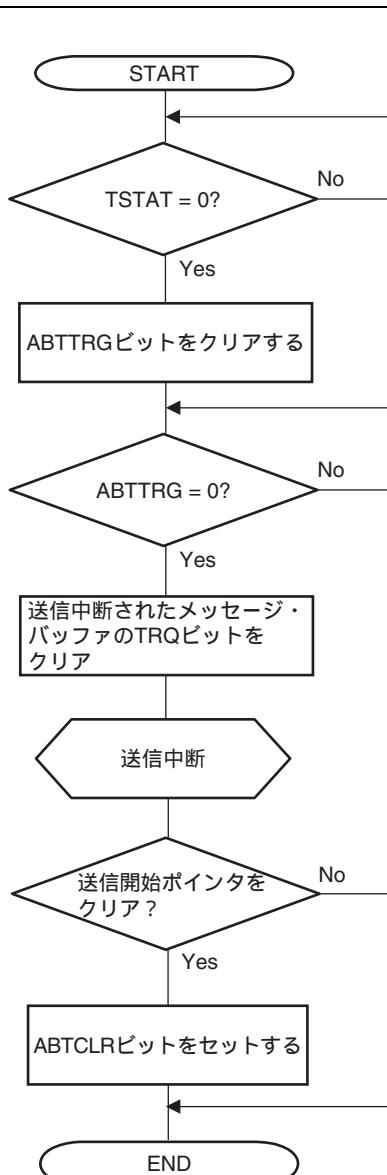


注 インタ・フレーム・スペース(3ビット)とサスペンド・トランスマッシュション(8ビット)の合計11ビットの期間は、すでにプロトコル・レイヤに送信要求が受け付けられている場合があるため、TRQビットをクリアしても中断されずに送信を開始してしまう可能性があります。

- 注意1.** 送信中断処理は、RDYビットをクリアして実行するのではなく、TRQビットのクリアにより実行してください。
2. スリープ要求を行う場合は、このフローにより送信要求が完全になくなつたことを確認したあとに行ってください。
 3. TSTATビットの確認は、ユーザ・アプリケーションにより周期的に行うか、送信完了割り込み後に行ふことも可能です。
 4. 送信中断処理を実行中に、他のメッセージ・バッファを含め新しい送信要求を行わないでください。
 5. 同一メッセージ・バッファを連続で送信する場合や1つのみのメッセージ・バッファを使用する場合には、送信中断の成否判定で矛盾が生じる可能性があります。その場合、CnTGPTの履歴情報などを使用することにより判定を行ってください。

図21-48は、ABT用メッセージ・バッファの送信中断時に未送信のメッセージを送信再開したときにスキップしないための処理です。

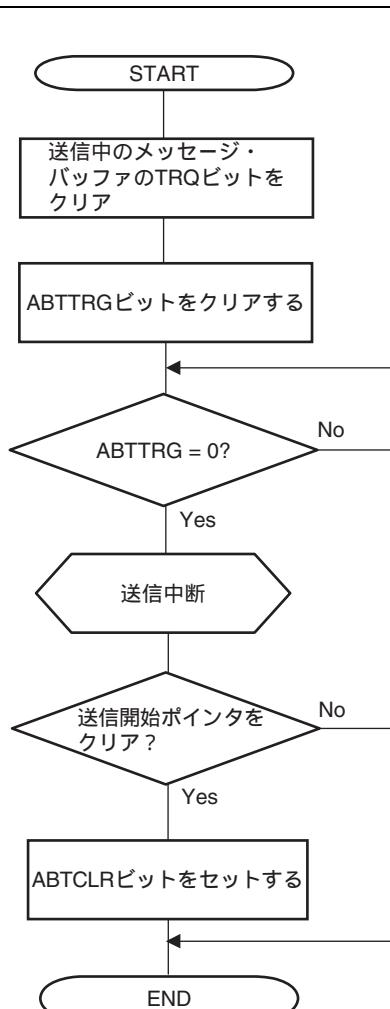
図21-48 ABT送信中断処理(ABT付き通常動作モード)



- 注意1. ABT送信中断処理中は、いかなる送信要求もセットしないでください。
- 2. CANスリープ・モード / CANストップ・モードの要求は、図21-48または図21-49により、ABTTRG ピットがクリアされてから（連続送信であるABTモードを停止させてから）、行ってください。ABT 領域以外の送信要求をクリアする場合は、図21-46に従ってください。

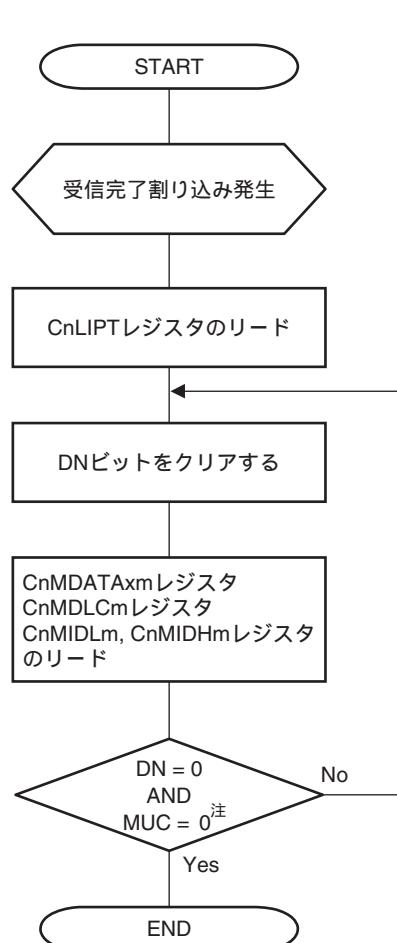
図21-49は、ABT用メッセージ・バッファの送信中断時に未送信のメッセージを送信再開したときにスキップするための処理です。

図21-49 ABT送信中断処理(ABT付き通常動作モード)



- 注意1. ABT送信中断処理中は、いかなる送信要求もセットしないでください。
- 2. CANスリープ・モード / CANストップ・モードの要求は、図21-48または図21-49により、ABTTRG ビットがクリアされてから（連続送信であるABTモードを停止させてから）、行ってください。ABT 領域以外の送信要求をクリアする場合は、図21-46に従ってください。

図21-50 割り込みによる受信処理(CnLIPTレジスタを使用する場合)



注 MUCビットとDNビットは別々にリードしないでください。

備考 保留されていたCANスリープ・モード遷移要求が実行されている場合がありますので、メッセージ・パッファおよび受信ヒストリ・レジスタへのアクセスが可能であることを確かめるために、割り込みルーチンの開始と終了時にはMBONビットを確認してください。その際にMBONビットがクリア(0)されていた場合には、実行中の処理を中止し、MBONビットが再度セット(1)されたあとで処理を再実行してください。この様な理由により、受信割り込み処理を実行する前にはCANスリープ・モード遷移要求をキャンセルすることを推奨します。

図21-51 割り込みによる受信処理 (CnRGPTレジスタを使用する場合)

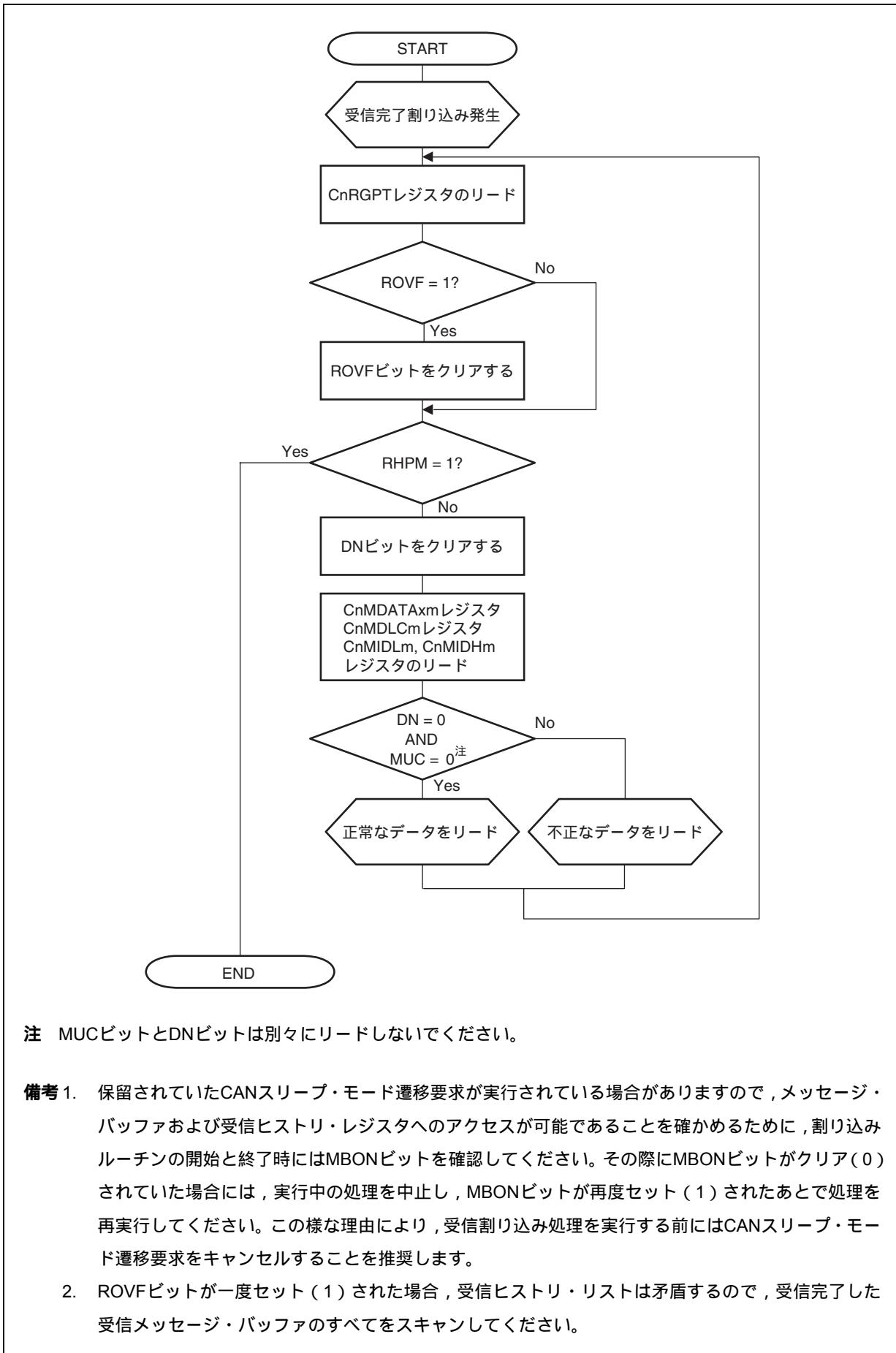
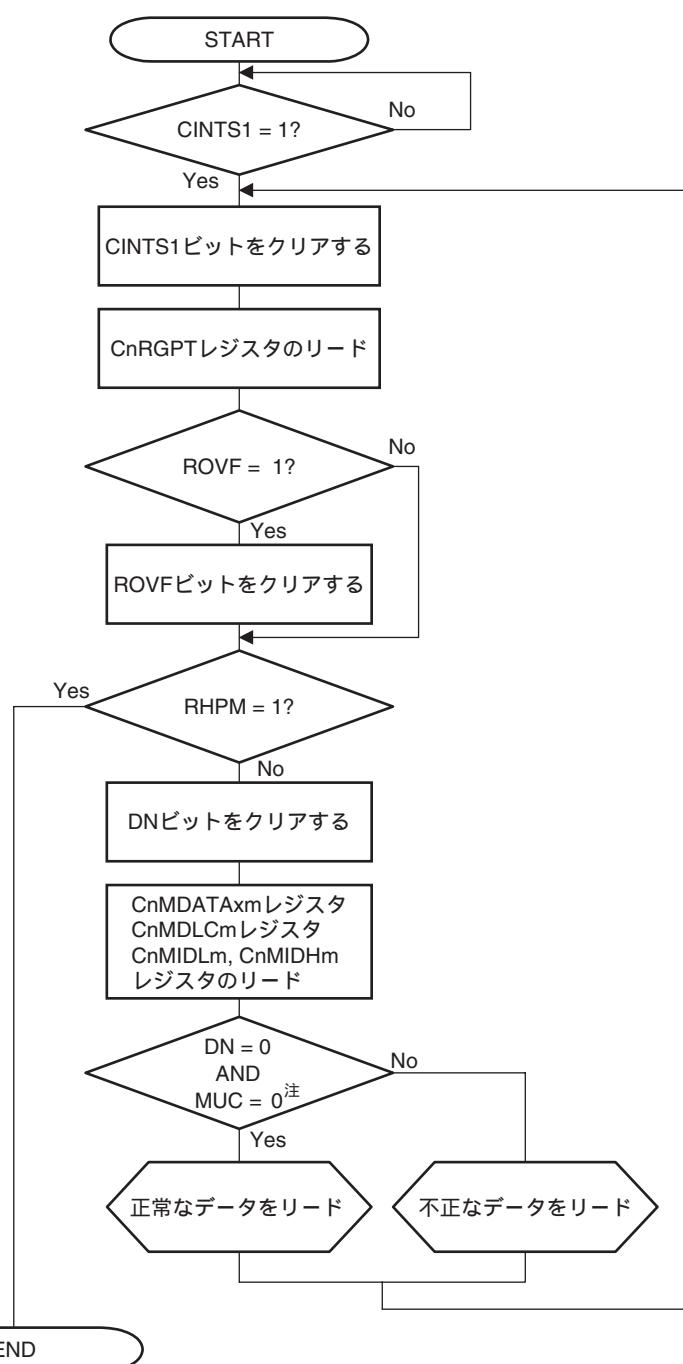


図21-52 ソフトウェア・ポーリングによる受信処理



注 MUCビットとDNビットは別々にリードしないでください。

- 備考1.** 保留されていたCANスリープ・モード遷移要求が実行されている場合がありますので、メッセージ・バッファおよび受信ヒストリ・レジスタへのアクセスが可能であることを確かめるために、ポーリング・ルーチンの開始と終了時にはMBONビットを確認してください。その際にMBONビットがクリア(0)されていた場合には、実行中の処理を中止し、MBONビットが再度セット(1)されたあとで処理を再実行してください。
2. ROVFビットが一度セット(1)された場合、受信ヒストリ・リストは矛盾するので、受信完了した受信メッセージ・バッファのすべてをスキャンしてください。

図21-53 CANスリープ・モード/CANストップ・モードの設定

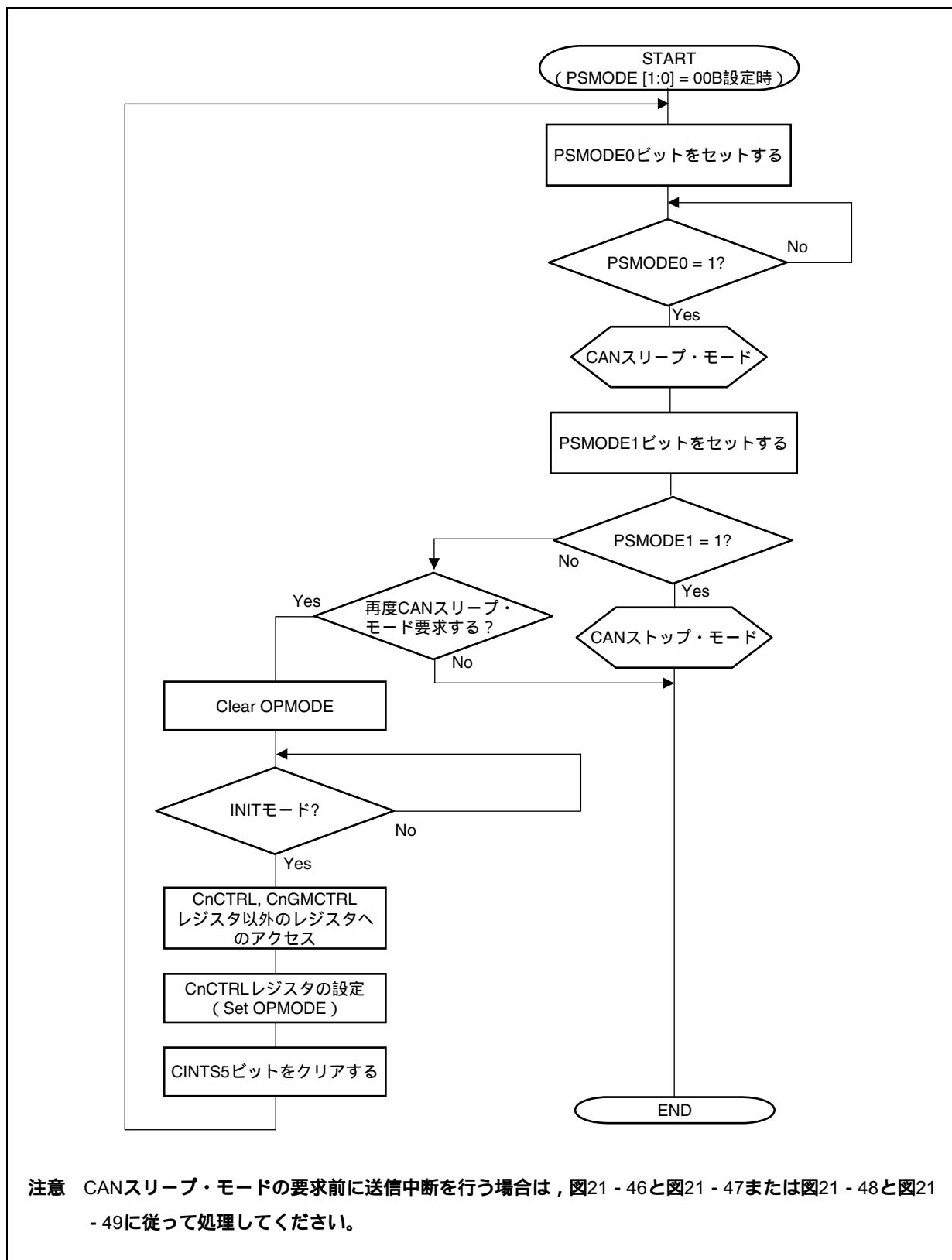


図21-54 CANスリープ・モード/CANストップ・モードの解除

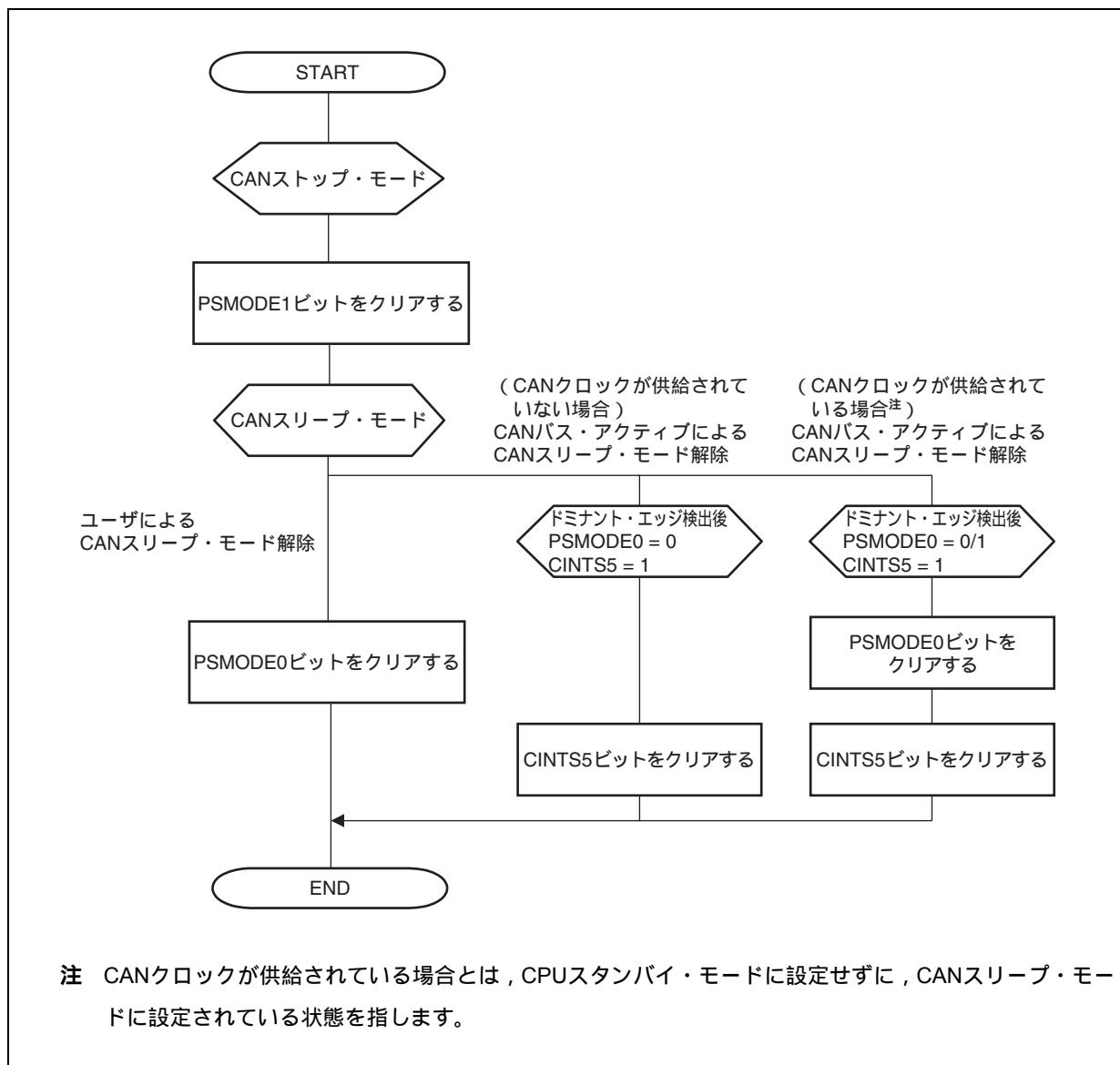
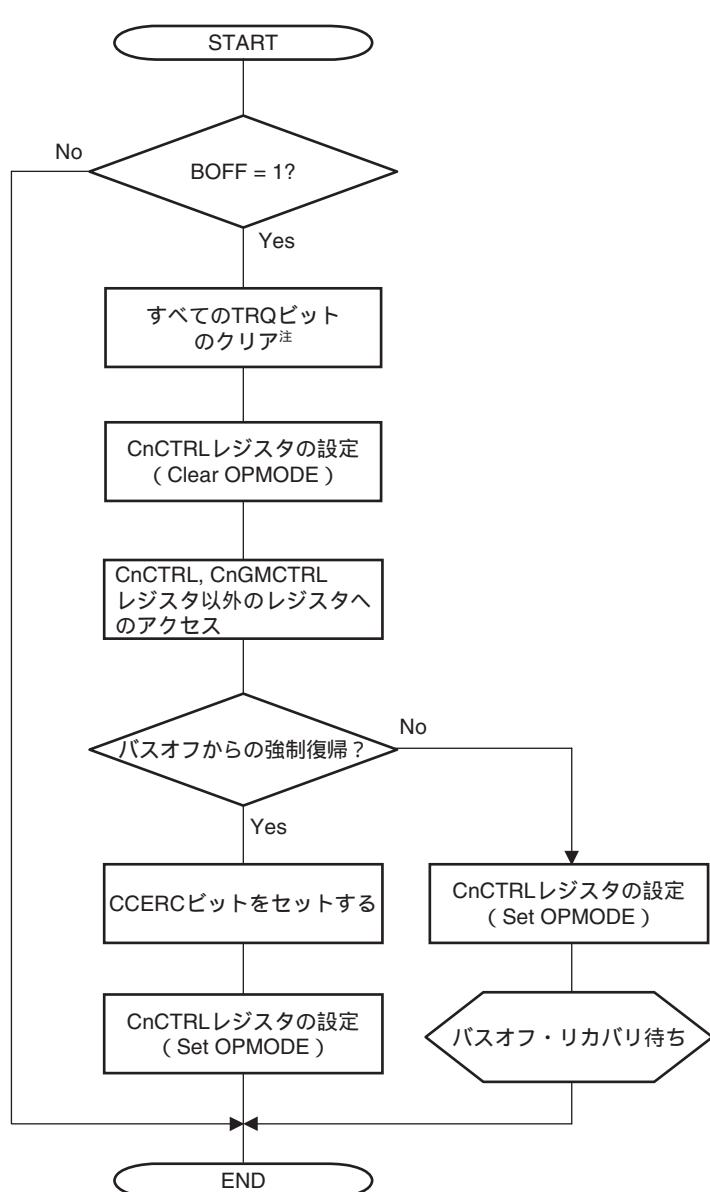


図21-55 バスオフからのリカバリ処理(ABT付き通常動作モード以外の場合)

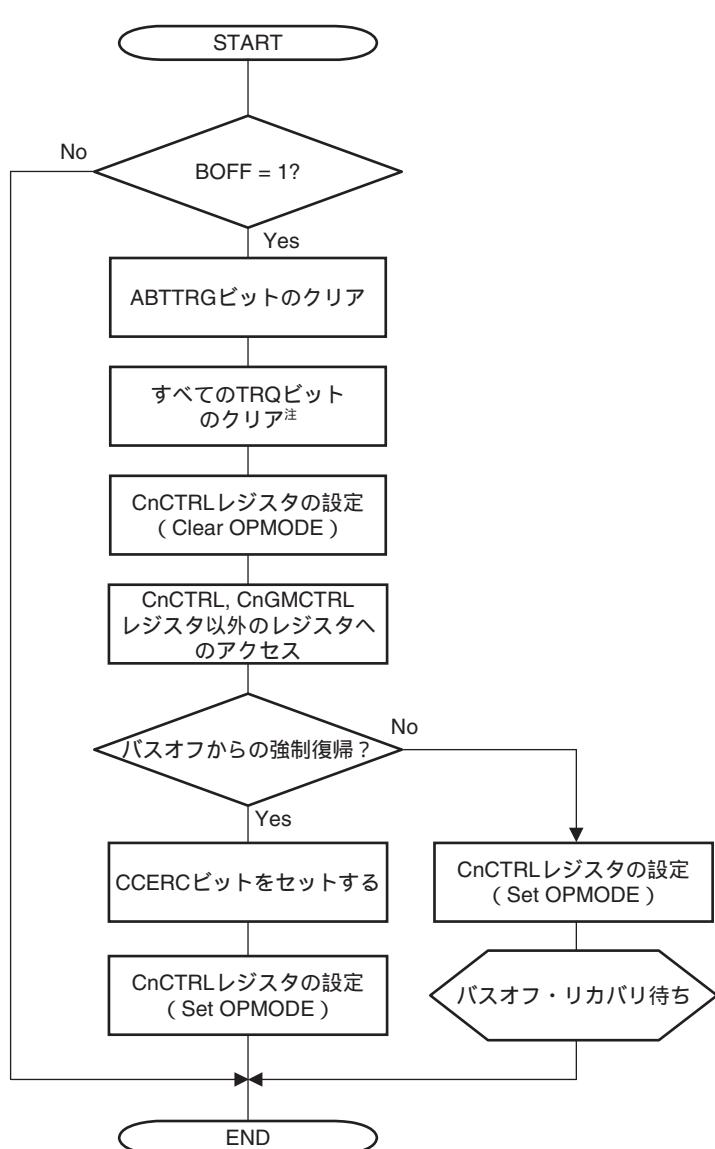


注 バスオフ・リカバリ・シーケンス開始前に、RDYビットをクリアしてメッセージ・バッファの再初期化をする場合は、すべてのTRQビットをクリアしてください。

注意 バスオフ・リカバリ・シーケンス中にもう一度バスオフ・リカバリ・シーケンスを行うために、初期化モードから任意の動作モードへ遷移要求をしたとき、受信エラー・カウンタ(REC [6:0])がクリアされます。したがって、もう一度バス上に11ビットの連続したレセシプ・ビットを128回検出することが必要です。

備考 OPMODE：通常動作モード、ABT付き通常動作モード、受信オンリー・モード、シングル・ショット・モード、セルフ・テスト・モード

図21-56 バスオフからのリカバリ処理(ABT付き通常動作モードの場合)



注 バスオフ・リカバリ・シーケンス開始前に、RDYビットをクリアしてメッセージ・バッファの再初期化をする場合は、すべてのTRQビットをクリアしてください。

注意 バスオフ・リカバリ・シーケンス中にもう一度バスオフ・リカバリ・シーケンスを行うために、初期化モードから任意の動作モードへ遷移要求をしたとき、受信エラー・カウンタ(REC [6:0])がクリアされます。したがって、もう一度バス上に11ビットの連続したレセシプ・ビットを128回検出することが必要です。

備考 OPMODE: 通常動作モード、ABT付き通常動作モード、受信オンリー・モード、シングル・ショット・モード、セルフ・テスト・モード

図21-57 通常シャット・ダウン処理

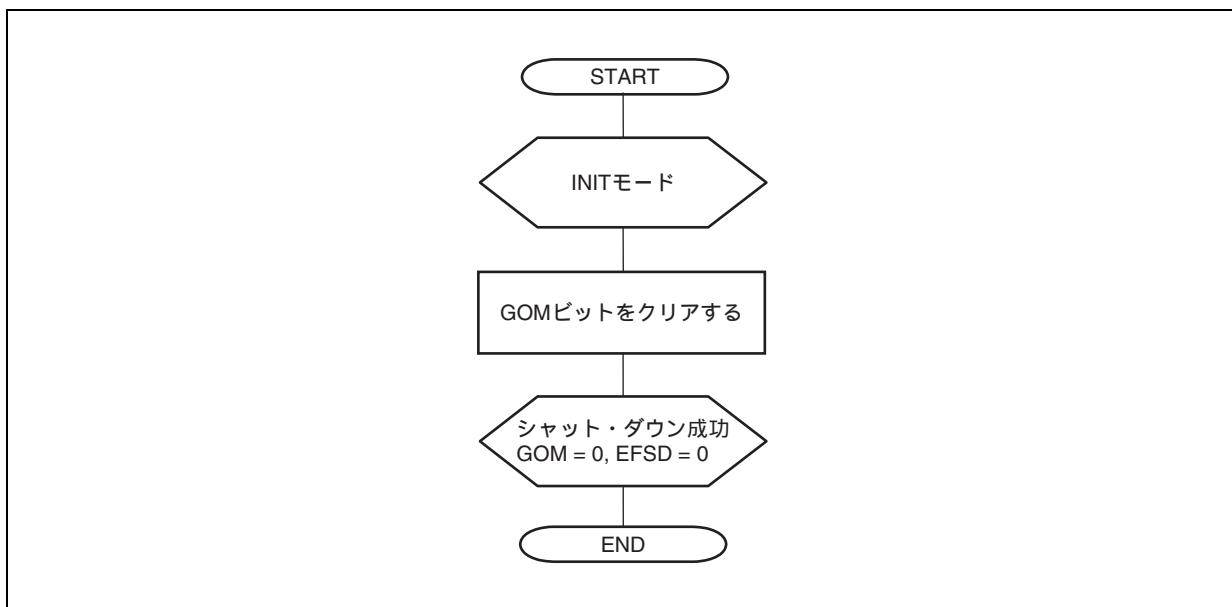


図21-58 強制シャット・ダウン処理

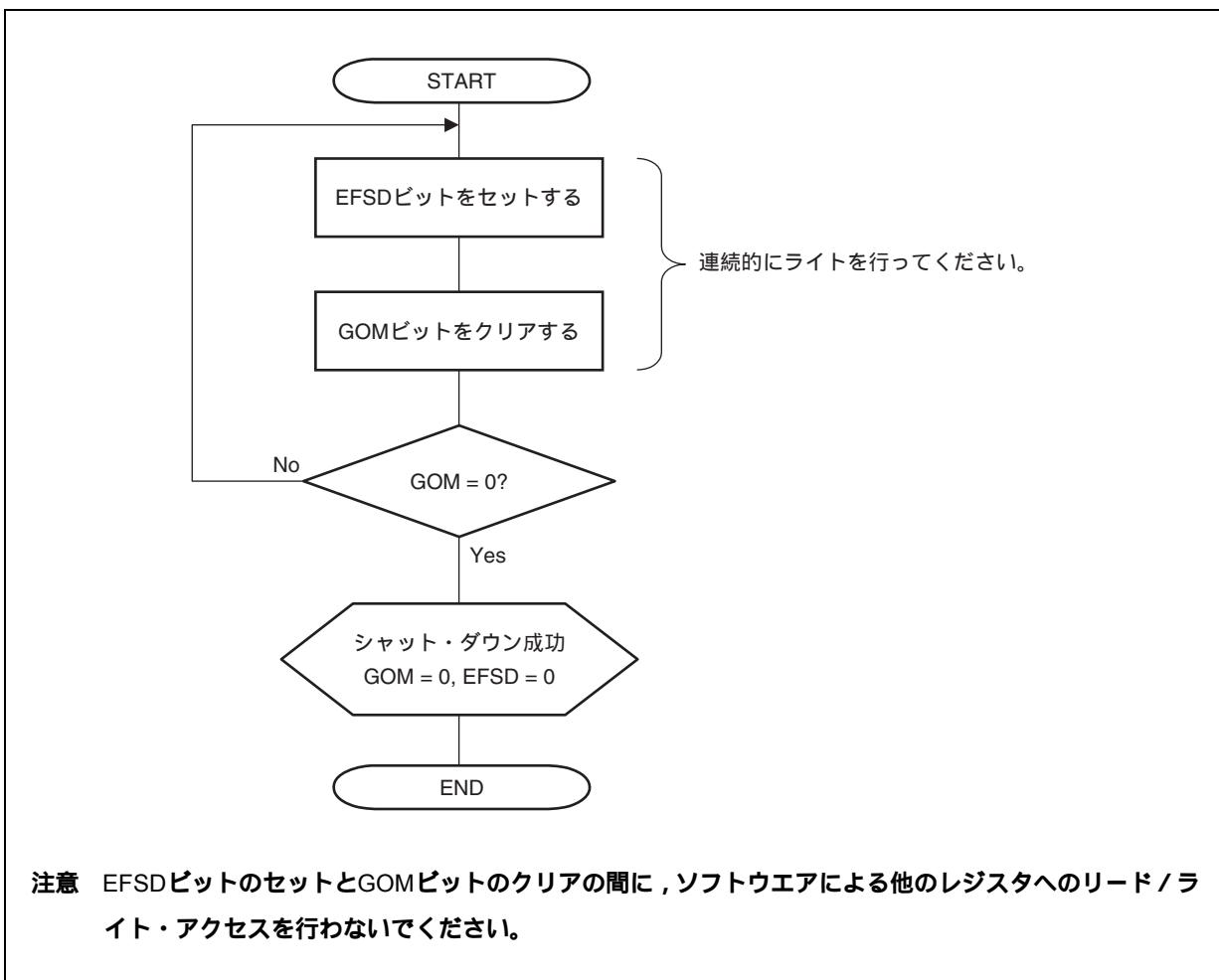


図21-59 エラー処理

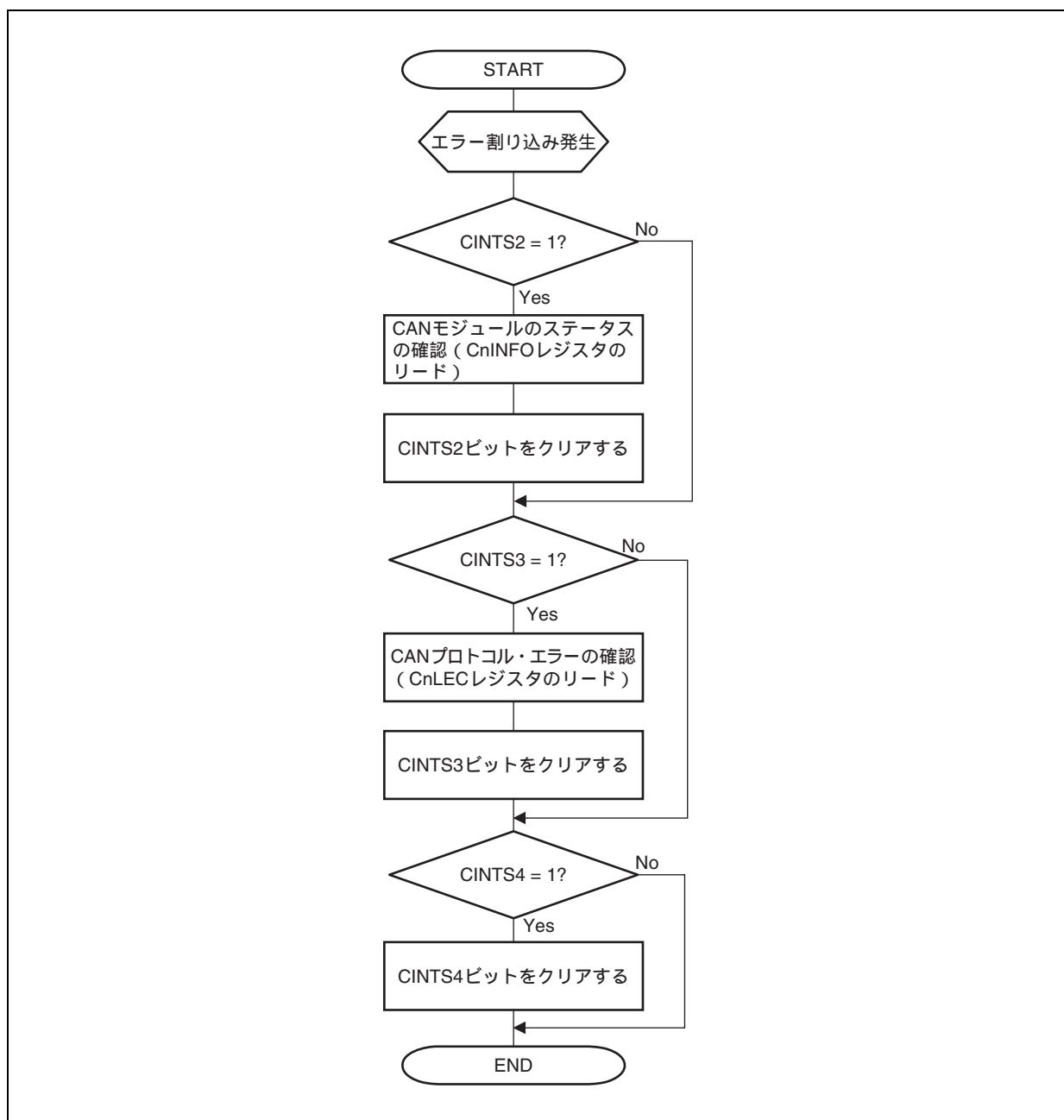
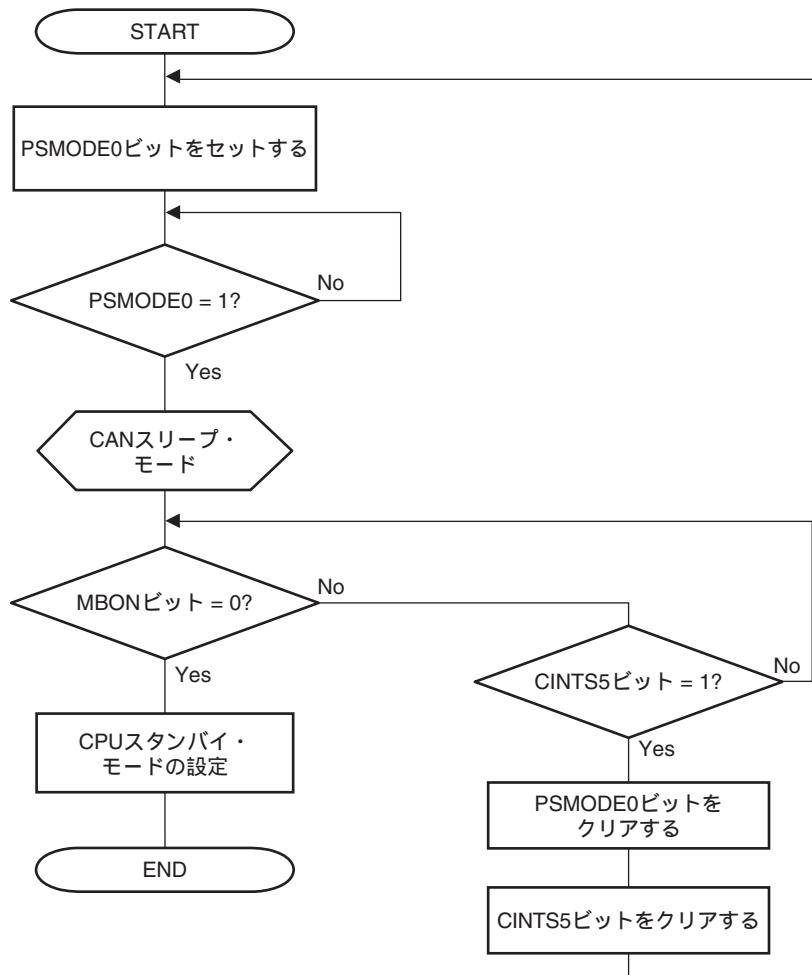
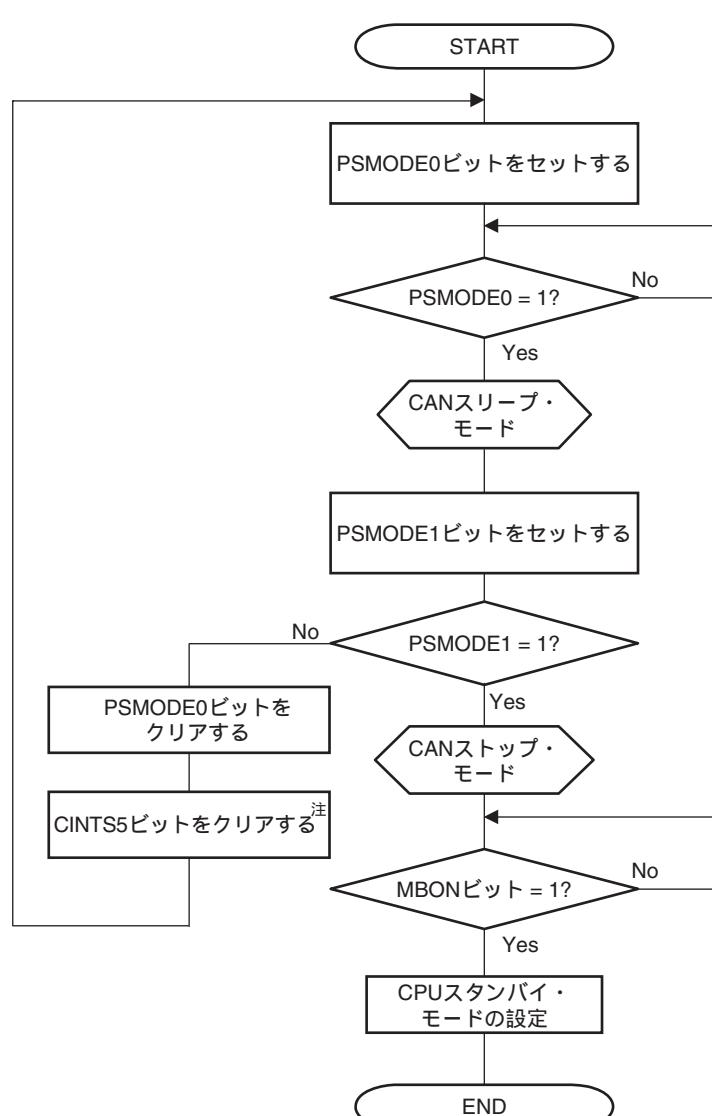


図21-60 CPUスタンバイ処理(CANスリープ・モードからの移行)



注意 CPUをスタンバイ・モードに設定する前に、CANスリープ・モードかどうかを確認してください。ただし、CANスリープ・モードかどうかを確認してから、CPUをスタンバイ・モードに設定するまでに、ウェイクアップによってCANスリープ・モードが解除されることがあります。

図21-61 CPUスタンバイ処理(CANストップ・モードからの移行)



注 ウエイクアップ割り込み使用時

注意 CANストップ・モードは、CnCTRLレジスタのPSMODE [1:0]ビットを01Bに設定することでのみ解除が可能で、CANバスの変化によって解除されません。

第22章 A/Dコンバータ

本マイクロコントローラは、A/Dコンバータ（ADC）を搭載しています。

各製品により、チャネル数が異なります。次の表に各製品のチャネル数を示します。

製品 ADC	V850ES/FE3	V850ES/FF3	V850ES/FG3	V850ES/FJ3	V850ES/FK3
数	1	1	1	1	2
名称	ADA0	ADA0	ADA0	ADA0	ADA0, ADA1
チャネル数	10	12	16	24	ADA0 : 24 ADA1 : 16

備考 n = 0 (V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3, V850ES/FJ3)

n = 0, 1 (V850ES/FK3)

ADA0 : m = 0-9 (V850ES/FE3)

ADA0 : m = 0-11 (V850ES/FF3)

ADA0 : m = 0-15 (V850ES/FG3)

ADA0 : m = 0-23 (V850ES/FJ3, V850ES/FK3)

ADA1 : m = 0-15 (V850ES/FK3)

この章ではV850ES/FK3の場合について記述しています。

22.1 機能

A/Dコンバータは、アナログ入力をデジタル値に変換するコンバータです。

次にA/Dコンバータの特徴について示します。

10ビット分解能

最大24 + 16チャネル

各製品によりチャネル数は異なります。製品ごとのチャネル数は以下のとおりです。

- ・V850ES/FE3 : ADA0 10チャネル
- ・V850ES/FF3 : ADA0 12チャネル
- ・V850ES/FG3 : ADA0 16チャネル
- ・V850ES/FJ3 : ADA0 24チャネル
- ・V850ES/FK3 : ADA0 24チャネル, ADA1 16チャネル

逐次比較変換方式

動作電圧 : $AV_{REF0} = 4.0 \sim 5.5 \text{ V}$

アナログ入力電圧 : 0 V ~ AV_{REF0}

動作モードとして、次の機能があります。

- ・連続セレクト・モード
- ・連続スキャン・モード
- ・ワンショット・セレクト・モード
- ・ワンショット・スキャン・モード

トリガ・モードとして、次の機能があります。

- ・ソフトウェア・トリガ・モード
- ・外部トリガ・モード（外部1本）
- ・タイマ・トリガ・モード（3本）

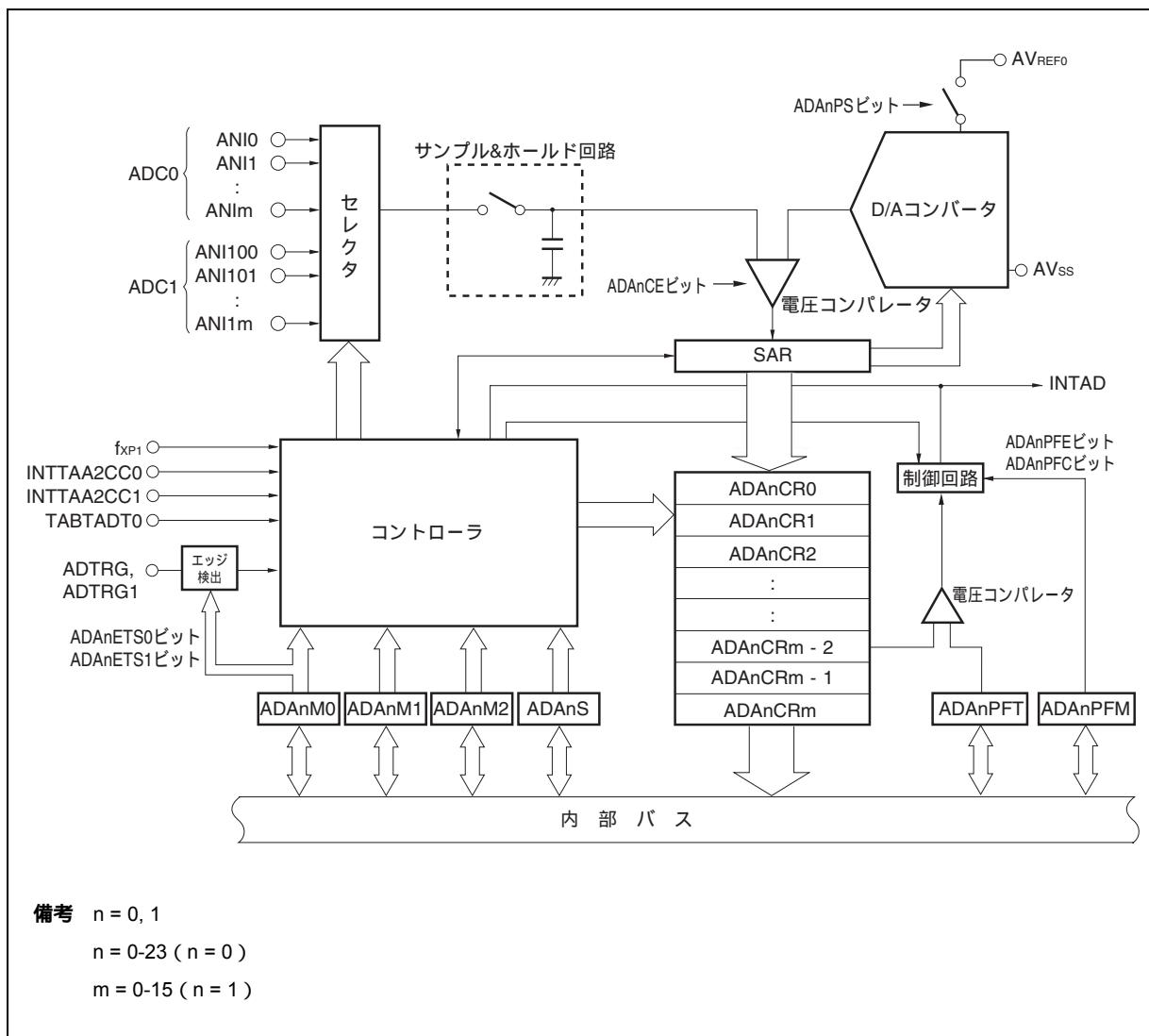
パワー・フェイル監視機能（変換結果比較機能）

自己診断機能

ディスクレーパー機能

次にブロック図を示します。

図22-1 A/Dコンバータのブロック図



22.2 構成

A/Dコンバータは、次のハードウェアで構成しています。

表22-1 A/Dコンバータの構成

項目	構成
アナログ入力	24チャネル (ANI0-ANI23端子) 16チャネル (ANI100-ANI115端子)
レジスタ	逐次変換レジスタ (SAR) A/D変換結果レジスタ0-23 (ADA0CR0-ADA0CR23) A/D変換結果レジスタ0-15 (ADA1CR0-ADA1CR15) A/D変換結果レジスタ0H-23H (ADC0R0H-ADC0R23H) : 上位8ビットだけ読み出し可能 A/D変換結果レジスタ0H-15H (ADC1R0H-ADC1R15H) : 上位8ビットだけ読み出し可能 パワー・フェイル比較モード・レジスタ (ADAnPFM) パワー・フェイル比較しきい値レジスタ (ADAnPFT)
制御レジスタ	A/Dnコンバータ・モード・レジスタ0-2 (ADAnM0-ADAnM2) A/Dnコンバータ・チャネル指定レジスタ (ADAnS)

(1) 逐次変換レジスタ (SAR)

アナログ入力の電圧値とD/Aコンバータの出力電圧の値を比較し、その結果を最上位ビット (MSB) から保持するレジスタです。

最下位ビット (LSB) まで保持すると (A/D変換終了) , SARレジスタの内容はADAnCRnレジスタに転送されます。

(2) A/D変換結果レジスタm (ADAnCRm) , A/D変換結果レジスタmH (ADAnCRmH)

ADAnCRmレジスタはA/D変換の結果を格納する16ビットのレジスタです。24本のレジスタで構成されており、A/D変換結果はアナログ入力に対応したADAnCRmレジスタの上位10ビットに格納します(下位6ビットは0に固定)。

ADAnCRmレジスタは、16ビット単位でリードのみ可能です。

A/D変換結果の上位8ビットだけを使用する場合、ADAnCRmHレジスタは8ビット単位でリードのみ可能です。

注意 ADAnM0, ADAnSレジスタに対する書き込み操作により、ADAnCRmレジスタの内容が不定になる場合があります。変換後、ADAnM0, ADAnSレジスタに書き込む前に変換結果を読み出してください。これ以外の手順を取った場合、正しい変換結果が読み出せません。

(3) パワー・フェイル比較しきい値レジスタ (ADAnPFT)

A/D変換結果レジスタmH (ADAnCRmH) と大小比較する場合のしきい値を設定するレジスタです。

ADAnPFTレジスタに設定した8ビット・データとA/D変換結果レジスタの上位8ビット (ADAnCRmH) が比較されます。

備考 n = 0, 1

m = 0-23 (n = 0)

m = 0-15 (n = 1)

(4) サンプル&ホールド回路

サンプル&ホールド回路は、入力回路で選択されたアナログ入力信号をサンプリングし、電圧コンパレータに送ります。また、そのサンプリングしたアナログ入力電圧値をA/D変換中は保持します。

(5) 電圧コンパレータ

電圧コンパレータは、サンプリングされ保持された電圧値とD/Aコンバータの出力電圧を比較します。

(6) D/Aコンバータ

D/AコンバータはAV_{REF0}-AV_{ss}間に接続されており、アナログ入力と比較する電圧を発生します。

(7) ANI0-ANI23, ANI100-ANI115端子

A/Dコンバータへの40チャネルのアナログ入力端子です。A/D変換するアナログ信号を入力します。

ADAnSレジスタでアナログ入力として選択した端子以外は、入出力ポートとして使用できます。

- 注意1.** ANI0-ANI23, ANI100-ANI115端子入力電圧は規格の範囲内で使用してください。特にAV_{REF0}以上の電圧が入力されると、そのチャネルの変換値が不定となり、またほかのチャネルの変換値にも影響を与えることがあります。
2. アナログ入力(ANI0-ANI23, ANI100-ANI115)端子は入力ポート(P20-P215, P70-P79, P710-P715, P120-P127)端子と兼用になっています。ANI0-ANI23, ANI100-ANI115のいずれかを選択してA/D変換する場合、変換中にポート2, 7, 12に対する入力命令は実行しないでください。変換分解能が低下することがあります。

(8) AV_{REF0}端子

A/Dコンバータの基準電圧を入力する端子です。AV_{REF0}, AV_{ss}間にかかる電圧に基づいて、ANI0-ANI23, ANI100-ANI115端子に入力される信号をデジタル信号に変換します。

(9) AV_{ss}端子

A/Dコンバータのグランド電位端子です。A/Dコンバータを使用しないときでも、常にV_{ss}端子と同電位で使用してください。

22.3 制御レジスタ

A/Dコンバータは、次に示すレジスタで制御します。

- ・A/Dコンバータ・モード・レジスタ0-2 (ADAnM0-ADAnM2)
- ・A/Dコンバータ・チャネル指定レジスタ0 (ADAnS)
- ・パワー・フェイル比較モード・レジスタ (ADAnPFM)

また、次のレジスタも使用します。

- ・A/D変換結果レジスタm (ADAnCRm)
- ・A/D変換結果レジスタmH (ADAnCRmH)
- ・パワー・フェイル比較しきい値レジスタ (ADAnPFT)

備考 n = 0, 1

(1) A/Dコンバータ・モード・レジスタ0 (ADAnM0)

動作モードの指定および変換動作の制御を行う8ビットのレジスタです。

8/1ビット単位でリード / ライト可能です。ただし、ビット0はリードのみ可能です。

リセットにより、00Hになります。

(1/2)

リセット時 : 00H R/W アドレス : ADA0M0 FFFFF200H, ADA1M0 FFFFF240H

(7)	(6)	5	4	3	2	1	(0)
-----	-----	---	---	---	---	---	-----

ADAnM0	ADAnCE	ADAnPS	ADAnMD1	ADAnMD0	ADAnETS1	ADAnETS0	ADAnTMD	ADAnEF
--------	--------	--------	---------	---------	----------	----------	---------	--------

ADAnCE	A/D変換動作の制御
0	変換動作停止
1	変換動作許可

ADAnPS	A/D変換制御
0	A/D電源OFF
1	A/D電源ON

備考 A/Dコンバータは、A/D電源オン後、安定時間を必要とします。ADAnPS = 1(電源オン)後、安定時間が経過してから最初の変換結果が有効となります。

ADAnMD1	ADAnMD0	A/Dコンバータ動作モードを指定
0	0	連続セレクト・モード
0	1	連続スキャン・モード
1	0	ワンショット・セレクト・モード
1	1	ワンショット・スキャン・モード

ADAnETS1	ADAnETS0	外部トリガ (ADTRG端子) 入力の有効エッジを指定
0	0	エッジ検出なし
0	1	立ち下がりエッジ検出
1	0	立ち上がりエッジ検出
1	1	立ち上がり / 立ち下がり両エッジ検出

ADAnTMD	トリガ・モードを指定
0	ソフトウェア・トリガ・モード
1	外部トリガ・モード / タイマ・トリガ・モード

ADAnEF	A/Dコンバータの状態 (ステータス)
0	A/D変換停止中
1	A/D変換動作中

備考 n = 0, 1

(2 / 2)

- 注意1. ADA_nEFビットに書き込みを行った場合，書き込みは無視されます。
2. 変換動作中 (ADA_nCEビット = 1) は，ADA_nM1レジスタのADA_nFR3-ADA_nFR0ビットの変更は禁止です。
 3. A/Dコンバータを使用しない場合は，消費電流を小さくするために，ADA_nCEビット = 0として動作を停止してください。
 4. A/D変換開始直後の最初の入力端子の変換分解能が低下する可能性があります。詳細は22.5(7) AV_{REF0}端子についてを参照してください。
 5. サブクロック動作時，かつメイン・クロック停止時のADA_nM0レジスタへのアクセスは禁止です。

備考 n = 0, 1

(2) A/Dコンバータ・モード・レジスタ1 (ADAnM1)

変換時間の指定を行う8ビットのレジスタです。

8/1ビット単位でリード / ライト可能です。

リセットにより, 00Hになります。

リセット時 : 00H R/W アドレス : ADA0M1 FFFFF201H, ADA1M1 FFFFF241H								
7	6	5	4	3	2	1	0	
ADAnM1	0	0	0	0	ADAnFR3	ADAnFR2	ADAnFR1	ADAnFR0

注意 1. ビット7-4には必ず“0”を設定してください。

2. 変換動作中 (ADAnCE0ビット = 1) は, ADAnM1レジスタのADAnFR3-ADAnFR0ビットの変更是禁止です。

備考 A/D変換時間の設定例は表22 - 2を参照してください。

表22 - 2 変換モード時の設定例

ADAnFR3-ADAnFR0				A/D変換時間		サンプリング・ タイム	A/D変換時間 (ADAnDISC = 0の場合)					
							f _{XP1} = 32 MHz	f _{XP1} = 24 MHz	f _{XP1} = 20 MHz	f _{XP1} = 16 MHz	f _{XP1} = 10 MHz	f _{XP1} = 4 MHz
3	2	1	0	ADAnDISC = 0	ADAnDISC = 1 (含まれる ディスチャージ時間) ^注							
0	0	0	0	32/f _{XP1}	34/f _{XP1} (4/f _{XP1})	17/f _{XP1}	設定禁止	設定禁止	設定禁止	設定禁止	3.20 μs	8.00 μs
0	0	0	1	64/f _{XP1}	68/f _{XP1} (8/f _{XP1})	34/f _{XP1}	設定禁止	設定禁止	3.20 μs	4.00 μs	6.40 μs	16.00 μs
0	0	1	0	96/f _{XP1}	102/f _{XP1} (12/f _{XP1})	51/f _{XP1}	設定禁止	4.00 μs	4.80 μs	6.00 μs	9.60 μs	設定禁止
0	0	1	1	128/f _{XP1}	136/f _{XP1} (16/f _{XP1})	68/f _{XP1}	4.00 μs	5.34 μs	6.40 μs	8.00 μs	12.80 μs	設定禁止
0	1	0	0	160/f _{XP1}	170/f _{XP1} (20/f _{XP1})	85/f _{XP1}	5.00 μs	6.67 μs	8.00 μs	10.00 μs	16.00 μs	設定禁止
0	1	0	1	192/f _{XP1}	204/f _{XP1} (24/f _{XP1})	102/f _{XP1}	6.00 μs	8.00 μs	9.60 μs	12.00 μs	設定禁止	設定禁止
0	1	1	0	224/f _{XP1}	238/f _{XP1} (28/f _{XP1})	119/f _{XP1}	7.00 μs	9.34 μs	11.20 μs	14.00 μs	設定禁止	設定禁止
0	1	1	1	256/f _{XP1}	272/f _{XP1} (32/f _{XP1})	136/f _{XP1}	8.00 μs	10.67 μs	12.80 μs	16.00 μs	設定禁止	設定禁止
1	0	0	0	288/f _{XP1}	306/f _{XP1} (36/f _{XP1})	153/f _{XP1}	9.00 μs	12.00 μs	14.40 μs	設定禁止	設定禁止	設定禁止
1	0	0	1	320/f _{XP1}	340/f _{XP1} (40/f _{XP1})	170/f _{XP1}	10.00 μs	13.34 μs	16.00 μs	設定禁止	設定禁止	設定禁止
1	0	1	0	352/f _{XP1}	374/f _{XP1} (44/f _{XP1})	187/f _{XP1}	11.00 μs	14.67 μs	設定禁止	設定禁止	設定禁止	設定禁止
1	0	1	1	384/f _{XP1}	408/f _{XP1} (48/f _{XP1})	204/f _{XP1}	12.00 μs	16.00 μs	設定禁止	設定禁止	設定禁止	設定禁止
1	1	0	0	416/f _{XP1}	442/f _{XP1} (52/f _{XP1})	221/f _{XP1}	13.00 μs	設定禁止	設定禁止	設定禁止	設定禁止	設定禁止
1	1	0	1	448/f _{XP1}	476/f _{XP1} (56/f _{XP1})	238/f _{XP1}	14.00 μs	設定禁止	設定禁止	設定禁止	設定禁止	設定禁止
1	1	1	0	480/f _{XP1}	510/f _{XP1} (60/f _{XP1})	255/f _{XP1}	15.00 μs	設定禁止	設定禁止	設定禁止	設定禁止	設定禁止
1	1	1	1	512/f _{XP1}	544/f _{XP1} (64/f _{XP1})	272/f _{XP1}	16.00 μs	設定禁止	設定禁止	設定禁止	設定禁止	設定禁止

注 A/D変換時間からディスチャージ時間を差し引いた時間が, A/Dコンバータ特性 (各製品のデータ・シート

参照) の変換時間 (f_{CONV}) を逸脱しないようにしてください。

備考 n = 0, 1

(3) A/Dコンバータ・モード・レジスタ2 (ADAnM2)

ハードウェア・トリガのモードを指定します。

8/1ビット単位でリード / ライト可能です。

リセットにより, 00Hになります。

リセット時 : 00H R/W アドレス : ADA0M2 FFFFF203H, ADA1M2 FFFFF243H

7	6	(5)	(4)	3	2	1	0	
ADAnM2	0	0	ADAnDIAG	ADAnDISC	0	0	ADAnTMD1	ADAnTMD0

ADAnDIAG	診断機能許可
0	診断機能禁止
1	診断機能許可

ADAnDISC	ディスチャージ機能許可
0	ディスチャージ機能禁止
1	ディスチャージ機能許可

注意 ディスチャージ機能は, A/D変換終了後にV_{SS}電圧を一定期間サンプリングします(サンプリング動作のみ行い, 比較動作は行いません)。このため, ディスチャージ機能許可時のA/D変換時間は, 禁止時に比べ長くなります。

ADAnTMD1	ADAnTMD0	ハードウェア・トリガ・モードの指定	
		AD0	AD1
0	0	外部トリガ・モード (ADTRG端子の有効エッジ検出時)	外部トリガ・モード (ADTRG1端子の有効エッジ検出時)
0	1	タイマ・トリガ・モード0 (INTTAA2CC0割り込み要求発生時)	タイマ・トリガ・モード0 (INTTAA5CC0割り込み要求発生時)
1	0	タイマ・トリガ・モード1 (INTTAA2CC1割り込み要求発生時)	タイマ・トリガ・モード1 (INTTAA5CC1割り込み要求発生時)
1	1	タイマ・トリガ・モード2 (TABTADT0 ^注 信号発生時)	タイマ・トリガ・モード2 (TABTADT1 ^注 信号発生時)

注 TABTADT0, TABTADT1 : 6相PWM出力回路(モータ制御)からのタイマ・トリガ

1. ビット7, 6, 3, 2には必ず“0”を設定してください。
2. ディスチャージ機能において、オープンの端子をディスチャージ AD変換と繰り返しても0 Vまで下がりません。

備考 n = 0, 1

(4) A/Dコンバータ・チャネル指定レジスタ0 (ADAnS)

A/D変換するアナログ電圧の入力ポートを指定するレジスタです。

8/1ビット単位でリード / ライト可能です。

リセットにより, 00Hになります。

(1/2)

リセット時 : 00H R/W アドレス : ADA0S FFFFF202H, ADA1S FFFFF242H
・V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3

	7	6	5	4	3	2	1	0
ADA0S	0	0	0	0	ADA0S3	ADA0S2	ADA0S1	ADA0S0

・V850ES/FJ3, V850ES/FK3

	7	6	5	4	3	2	1	0
ADAnS	0	0	0	ADAnS4	ADAnS3	ADAnS2	ADAnS1	ADAnS0

ADAnS4-ADAnS0					変換アナログ入力			
					ADAnDIAG = 0 (診断機能なし)		ADAnDIAG = 1 (診断機能あり)	
4	3	2	1	0	セレクト・モード	スキャン・モード	セレクト・モード	スキャン・モード
0	0	0	0	0	ANI0	ANI0	AV _{REF0}	ANI0-AV _{REF} -AV _{SS}
0	0	0	0	1	ANI1	ANI0-ANI1	AV _{SS}	ANI0-ANI1-AV _{REF} -AV _{SS}
0	0	0	1	0	ANI2	ANI0-ANI1-ANI2	設定禁止	ANI0-ANI1-ANI2-AV _{REF} -AV _{SS}
0	0	0	1	1	ANI3	ANI0-ANI1...-ANI3	設定禁止	ANI0-ANI1...-ANI3-AV _{REF} -AV _{SS}
0	0	1	0	0	ANI4	ANI0-ANI1...-ANI4	設定禁止	ANI0-ANI1...-ANI4-AV _{REF} -AV _{SS}
0	0	1	0	1	ANI5	ANI0-ANI1...-ANI5	設定禁止	ANI0-ANI1...-ANI5-AV _{REF} -AV _{SS}
0	0	1	1	0	ANI6	ANI0-ANI1...-ANI6	設定禁止	ANI0-ANI1...-ANI6-AV _{REF} -AV _{SS}
0	0	1	1	1	ANI7	ANI0-ANI1...-ANI7	設定禁止	ANI0-ANI1...-ANI7-AV _{REF} -AV _{SS}
0	1	0	0	0	ANI8	ANI0-ANI1...-ANI8	設定禁止	ANI0-ANI1...-ANI8-AV _{REF} -AV _{SS}
0	1	0	0	1	ANI9	ANI0-ANI1...-ANI9	設定禁止	ANI0-ANI1...-ANI9-AV _{REF} -AV _{SS}
0	1	0	1	0	ANI10	ANI0-ANI1...-ANI10	設定禁止	ANI0-ANI1...-ANI10-AV _{REF} -AV _{SS}
0	1	0	1	1	ANI11	ANI0-ANI1...-ANI11	設定禁止	ANI0-ANI1...-ANI11-AV _{REF} -AV _{SS}
0	1	1	0	0	ANI12	ANI0-ANI1...-ANI12	設定禁止	ANI0-ANI1...-ANI12-AV _{REF} -AV _{SS}
0	1	1	0	1	ANI13	ANI0-ANI1...-ANI13	設定禁止	ANI0-ANI1...-ANI13-AV _{REF} -AV _{SS}
0	1	1	1	0	ANI14	ANI0-ANI1...-ANI14	設定禁止	ANI0-ANI1...-ANI14-AV _{REF} -AV _{SS}
0	1	1	1	1	ANI15	ANI0-ANI1...-ANI15	設定禁止	ANI0-ANI1...-ANI15-AV _{REF} -AV _{SS}
1	0	0	0	0	ANI16	ANI0-ANI1...-ANI16	設定禁止	ANI0-ANI1...-ANI16-AV _{REF} -AV _{SS}
1	0	0	0	1	ANI17	ANI0-ANI1...-ANI17	設定禁止	ANI0-ANI1...-ANI17-AV _{REF} -AV _{SS}
1	0	0	1	0	ANI18	ANI0-ANI1...-ANI18	設定禁止	ANI0-ANI1...-ANI18-AV _{REF} -AV _{SS}
1	0	0	1	1	ANI19	ANI0-ANI1...-ANI19	設定禁止	ANI0-ANI1...-ANI19-AV _{REF} -AV _{SS}
1	0	1	0	0	ANI20	ANI0-ANI1...-ANI20	設定禁止	ANI0-ANI1...-ANI20-AV _{REF} -AV _{SS}
1	0	1	0	1	ANI21	ANI0-ANI1...-ANI21	設定禁止	ANI0-ANI1...-ANI21-AV _{REF} -AV _{SS}
1	0	1	1	0	ANI22	ANI0-ANI1...-ANI22	設定禁止	ANI0-ANI1...-ANI22-AV _{REF} -AV _{SS}
1	0	1	1	1	ANI23	ANI0-ANI1...-ANI23	設定禁止	ANI0-ANI1...-ANI23-AV _{REF} -AV _{SS}
上記以外					設定禁止 ^注			

注 アナログ入力が存在しないチャネルを設定すると, 変換結果が不定になります。

備考 n = 0, 1

(2/2)

ADAnS3-ADAnS0				変換アナログ入力			
				ADAnDIAG = 0 (診断機能なし)		ADAnDIAG = 1 (診断機能あり)	
3	2	1	0	セレクト・モード	スキャン・モード	セレクト・モード	スキャン・モード
0	0	0	0	ANI100	ANI100	AV _{REF}	ANI100-AV _{REF1} -AV _{SS1}
0	0	0	1	ANI101	ANI100-ANI101	AV _{SS}	ANI100-ANI101-AV _{REF1} -AV _{SS1}
0	0	1	0	ANI102	ANI100-ANI101-ANI102	設定禁止	ANI100-ANI101-ANI102-AV _{REF1} -AV _{SS1}
0	0	1	1	ANI103	ANI100-ANI101...-ANI103	設定禁止	ANI100-ANI101...-ANI103-AV _{REF1} -AV _{SS1}
0	1	0	0	ANI104	ANI100-ANI101...-ANI104	設定禁止	ANI100-ANI101...-ANI104-AV _{REF1} -AV _{SS1}
0	1	0	1	ANI105	ANI100-ANI101...-ANI105	設定禁止	ANI100-ANI101...-ANI105-AV _{REF1} -AV _{SS1}
0	1	1	0	ANI106	ANI100-ANI101...-ANI106	設定禁止	ANI100-ANI101...-ANI106-AV _{REF1} -AV _{SS1}
0	1	1	1	ANI107	ANI100-ANI101...-ANI107	設定禁止	ANI100-ANI101...-ANI107-AV _{REF1} -AV _{SS1}
1	0	0	0	ANI108	ANI100-ANI101...-ANI108	設定禁止	ANI100-ANI101...-ANI108-AV _{REF1} -AV _{SS1}
1	0	0	1	ANI109	ANI100-ANI101...-ANI109	設定禁止	ANI100-ANI101...-ANI109-AV _{REF1} -AV _{SS1}
1	0	1	0	ANI110	ANI100-ANI101...-ANI110	設定禁止	ANI100-ANI101...-ANI110-AV _{REF1} -AV _{SS1}
1	0	1	1	ANI111	ANI100-ANI101...-ANI111	設定禁止	ANI100-ANI101...-ANI111-AV _{REF1} -AV _{SS1}
1	1	0	0	ANI112	ANI100-ANI101...-ANI112	設定禁止	ANI100-ANI101...-ANI112-AV _{REF1} -AV _{SS1}
1	1	0	1	ANI113	ANI100-ANI101...-ANI113	設定禁止	ANI100-ANI101...-ANI114-AV _{REF1} -AV _{SS1}
1	1	1	0	ANI114	ANI100-ANI101...-ANI114	設定禁止	ANI100-ANI101...-ANI114-AV _{REF1} -AV _{SS1}
1	1	1	1	ANI115	ANI100-ANI101...-ANI115	設定禁止	ANI100-ANI101...-ANI115-AV _{REF1} -AV _{SS1}

備考 n = 0, 1

(5) A/D変換結果レジスタm, mH (ADAnCRm, ADAnCRmH)

ADAnCRmレジスタはA/D変換の結果を格納する16ビットのレジスタです。A/D変換結果はアナログ入力に対応したADAnCRmレジスタの上位10ビットに格納します（下位6ビットは0に固定）。

ADAnCRmレジスタは、16ビット単位でリードのみ可能です。また、A/D変換結果の上位8ビットだけ使用する場合、ADAnCRmHレジスタは8ビット単位でリードのみ可能です。

注意1. ADAnM0-ADAnM2, ADAnS, ADAnPFM, ADAnPFTレジスタに対して書き込み動作を行ったとき、ADAnCRmレジスタの内容は不定になることがあります。変換結果は、変換動作終了後、ADAnM0-ADAnM2, ADAnS, ADAnPFM, ADAnPFTレジスタに対して書き込み動作を行う前に読み出してください。

また、外部／タイマ・トリガを受け付けたときも、ADAnCRmレジスタの内容は不定になることがあります。変換結果は、変換動作終了後、次の外部／タイマ・トリガを受け付ける前に読み出してください。上記以外のタイミングでは、正しい変換結果が読み出されないことがあります。

2. サブクロック動作時、かつメイン・クロック停止時のADAnCRm, ADAnCRmHレジスタへのアクセスは禁止です。

備考 n = 0, 1

m = 0-23 (n = 0)

m = 0-15 (n = 1)

リセット時 : 00H R アドレス : ADA0CR0 FFFFF210H, ADA0CR1 FFFFF212H ,
 ADA0CR2 FFFFF214H, ADA0CR3 FFFFF216H
 ADA0CR4 FFFFF218H, ADA0CR5 FFFFF21AH
 ADA0CR6 FFFFF21CH, ADA0CR7 FFFFF21EH
 ADA0CR8 FFFFF220H, ADA0CR9 FFFFF222H
 ADA0CR10 FFFFF224H, ADA0CR11 FFFFF226H
 ADA0CR12 FFFFF228H, ADA0CR13 FFFFF22AH
 ADA0CR14 FFFFF22CH, ADA0CR15 FFFFF22EH
 ADA0CR16 FFFFF230H, ADA0CR17 FFFFF232H
 ADA0CR18 FFFFF234H, ADA0CR19 FFFFF236H
 ADA0CR20 FFFFF238H, ADA0CR21 FFFFF23AH
 ADA0CR22 FFFFF23CH, ADA0CR23 FFFFF23EH

ADA1CR0 FFFFF250H, ADA1CR1 FFFFF252H ,
 ADA1CR2 FFFFF254H, ADA1CR3 FFFFF256H
 ADA1CR4 FFFFF258H, ADA1CR5 FFFFF25AH
 ADA1CR6 FFFFF25CH, ADA1CR7 FFFFF25EH
 ADA1CR8 FFFFF260H, ADA1CR9 FFFFF262H
 ADA1CR10 FFFFF264H, ADA1CR11 FFFFF266H
 ADA1CR12 FFFFF268H, ADA1CR13 FFFFF26AH
 ADA1CR14 FFFFF26CH, ADA1CR15 FFFFF26EH
 ADA1CR16 FFFFF270H, ADA1CR17 FFFFF272H
 ADA1CR18 FFFFF274H, ADA1CR19 FFFFF276H
 ADA1CR20 FFFFF278H, ADA1CR21 FFFFF27AH
 ADA1CR22 FFFFF27CH, ADA1CR23 FFFFF27EH

	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
ADAnCRm	AD9	AD8	AD7	AD6	AD5	AD4	AD3	AD2	AD1	AD0	0	0	0	0	0	0

備考 n = 0, 1

m = 0-23 (n = 0)

m = 0-15 (n = 1)

(2 / 2)

リセット時 : 00H R アドレス : ADA0CR0H FFFFF211H, ADA0CR1H FFFFF213H ,
 ADA0CR2H FFFFF215H, ADA0CR3H FFFFF217H
 ADA0CR4H FFFFF219H, ADA0CR5H FFFFF21BH
 ADA0CR6H FFFFF21DH, ADA0CR7H FFFFF21FH
 ADA0CR8H FFFFF221H, ADA0CR9H FFFFF223H
 ADA0CR10H FFFFF225H, ADA0CR11H FFFFF227H
 ADA0CR12H FFFFF229H, ADA0CR13H FFFFF22BH
 ADA0CR14H FFFFF22DH, ADA0CR15H FFFFF22FH
 ADA0CR16H FFFFF231H, ADA0CR17H FFFFF233H
 ADA0CR18H FFFFF235H, ADA0CR19H FFFFF237H
 ADA0CR20H FFFFF239H, ADA0CR21H FFFFF23BH
 ADA0CR22H FFFFF23DH, ADA0CR23H FFFFF23FH

 ADA1CR0H FFFFF251H, ADA1CR1H FFFFF253H ,
 ADA1CR2H FFFFF255H, ADA1CR3H FFFFF257H
 ADA1CR4H FFFFF259H, ADA1CR5H FFFFF25BH
 ADA1CR6H FFFFF25DH, ADA1CR7H FFFFF25FH
 ADA1CR8H FFFFF261H, ADA1CR9H FFFFF263H
 ADA1CR10H FFFFF265H, ADA1CR11H FFFFF267H
 ADA1CR12H FFFFF269H, ADA1CR13H FFFFF26BH
 ADA1CR14H FFFFF26DH, ADA1CR15H FFFFF26FH
 ADA1CR16H FFFFF271H, ADA1CR17H FFFFF273H
 ADA1CR18H FFFFF275H, ADA1CR19H FFFFF277H
 ADA1CR20H FFFFF279H, ADA1CR21H FFFFF27BH
 ADA1CR22H FFFFF27DH, ADA1CR23H FFFFF27FH

	7	6	5	4	3	2	1	0
ADAnCRmH	AD9	AD8	AD7	AD6	AD5	AD4	AD3	AD2

備考 n = 0, 1

m = 0-23 (n = 0)

m = 0-15 (n = 1)

アナログ入力端子 (ANI0-ANI23, ANI100-ANI115) に入力されたアナログ入力電圧とA/D変換結果 (A/D 変換結果レジスタm (ADAnCRm)) には次式に示す関係があります。

$$ADAnCR = INT \left(\frac{V_{IN}}{AV_{REF0}} \times 1024 + 0.5 \right)$$

または、

$$(ADAnCR - 0.5) \times \frac{AV_{REF0}}{1024} \leq V_{IN} < (ADAnCR + 0.5) \times \frac{AV_{REF0}}{1024}$$

INT () : () 内の値の整数部を返す関数

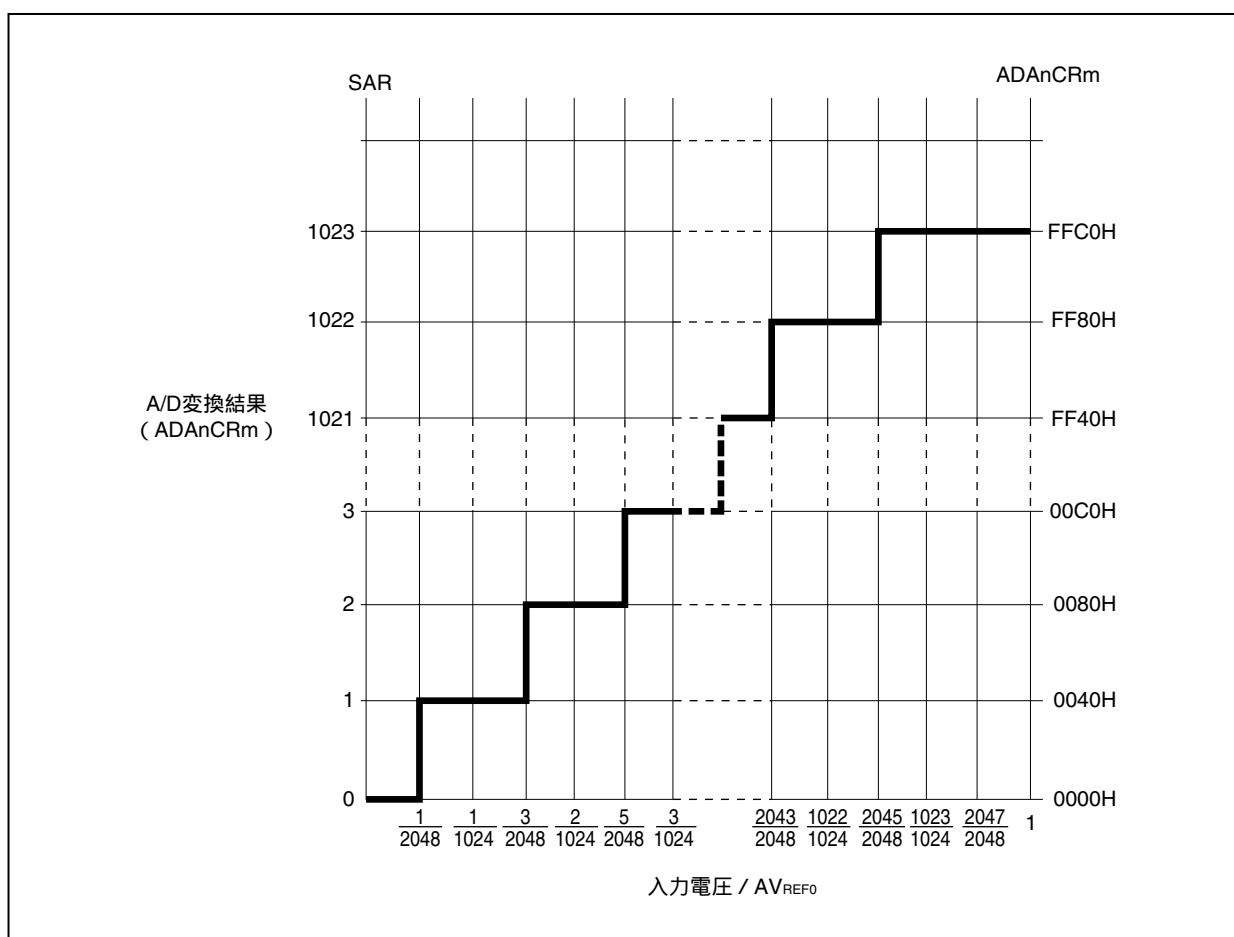
V_{IN} : アナログ入力電圧

AV_{REF0} : AV_{REF0} 端子電圧

ADAnCR : A/D変換結果レジスタm (ADAnCRm) の値

図22-2にアナログ入力電圧とA/D変換結果の関係を示します。

図22-2 アナログ入力電圧とA/D変換結果の関係



備考 $n = 0, 1$

$m = 0-23 (n = 0)$

$m = 0-15 (n = 1)$

(6) AV_{REF} A/D変換診断レジスタ (ADAnCRDD, ADAnCRDDH)

ADAnCRDD, ADAnCRDDHレジスタは, ADC診断機能が許可されている場合(ADAnM2.ADAnDIAG = 1), AV_{REF}変換の結果を格納します。

これらのレジスタは, 16ビットまたは8ビット単位でリードのみ可能ですが, AD0CRDDレジスタは16ビット単位でアクセス, ADAnCRDDHレジスタは8ビットでアクセスするように指定してください。変換結果の10ビットはADAnCRDDレジスタの上位10ビットから読み出され, 下位6ビットからは0が読み出されます。変換結果の上位8ビットは, ADAnCRDDHレジスタから読み出されます。

リセット時 : 0000H R アドレス : ADA0CRDD FFFFF20CH, ADA1CRDD FFFFF24CH															
15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
ADAnCRDD															
AD9	AD8	AD7	AD6	AD5	AD4	AD3	AD2	AD1	AD0	0	0	0	0	0	0
リセット時 : 00H R アドレス : ADA0CRDDH FFFFF20DH, ADA1CRDDH FFFFF24DH															
7	6	5	4	3	2	1	0								
ADAnCRDDH															
AD9	AD8	AD7	AD6	AD5	AD4	AD3	AD2								

注意 A/D変換の精度は使用条件により異なるため, AV_{REF}を変換した場合の結果は, 必ずしもオール1 (ADAnCRDD = FFC0H) になるわけではありません。

(7) AV_{ss} A/D変換診断レジスタ (ADAnCRSS, ADAnCRSSH)

ADAnCRSS, ADAnCRSSHレジスタは, ADC診断機能が許可されている場合(ADAnM2.ADAnDIAG = 1), AV_{ss}変換の結果を格納します。

これらのレジスタは, 16ビットまたは8ビット単位でリードのみ可能ですが, ADAnCRSSレジスタは16ビット単位でアクセス, ADAnCRSSHレジスタは8ビットでアクセスするように指定してください。変換結果の10ビットはADAnCRSSレジスタの上位10ビットから読み出され, 下位6ビットからは1が読み出されます。変換結果の上位8ビットは, ADAnCRSSHレジスタから読み出されます。

リセット時 : FFFFH R アドレス : ADA0CRSS FFFFF20EH, ADA1CRSS FFFFF24EH															
15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
ADAnCRSS															
AD9	AD8	AD7	AD6	AD5	AD4	AD3	AD2	AD1	AD0	1	1	1	1	1	1
リセット時 : FFH R アドレス : ADA0CRSS FFFFF20FH, ADA1CRSS FFFFF24FH															
7	6	5	4	3	2	1	0								
ADAnCRSSH															
AD9	AD8	AD7	AD6	AD5	AD4	AD3	AD2								

注意 A/D変換の精度は使用条件により異なるため, AV_{ss}を変換した場合の結果は, 必ずしもオール0 (ADAnCRSS = 003FH) になるわけではありません。

備考 n = 0, 1

m = 0-23 (n = 0)

m = 0-15 (n = 1)

(8) パワー・フェイル比較モード・レジスタ (ADAnPFM)

ADAnPFMレジスタは、パワー・フェイル比較モードの設定を行う8ビットのレジスタです。
8/1ビット単位でリード／ライト可能です。
リセットにより、00Hになります。

リセット時 : 00H R/W アドレス : ADA0PFM FFFFF204H, ADA1PFM FFFFF244H							
(7)	(6)	5	4	3	2	1	0
ADAnPFM	ADAnPFE	ADAnPFC	0	0	0	0	0

ADAnPFE	パワー・フェイル比較許可 / 禁止の選択
0	パワー・フェイル比較禁止
1	パワー・フェイル比較許可

ADAnPFC	パワー・フェイル比較モードの選択
0	ADAnCRm ADAnPFTで割り込み要求信号 (INTAD) を発生
1	ADAnCRm < ADAnPFTで割り込み要求信号 (INTAD) を発生

- 注意1. セレクト・モードではADAnPFTレジスタに設定した8ビット・データとADAnSレジスタで指定したADAnCRmHレジスタの値を比較し、結果がADAnPFCビットで設定された条件に一致した場合はADAnCRmレジスタに変換結果を格納しINTAD信号が発生しますが、一致しない場合は割り込みを発生しません。
2. スキャン・モードではADAnPFTレジスタに設定した8ビット・データとADAnCR0Hレジスタを比較し、結果がADAnPFCビットで設定された条件に一致した場合はADAnCR0レジスタに変換結果を格納しINTAD信号を発生させますが、一致しない場合はINTAD信号を発生させません。また比較結果にかかわらず、比較後はスキャン動作を継続します。スキャン終了までADAnCRmレジスタに変換結果は格納しますが、スキャン終了後のINTAD信号は発生しません。

(9) パワー・フェイル比較しきい値レジスタ (ADAnPFT)

A/D変換結果レジスタmH (ADAnCRmH) と大小比較する場合のしきい値を設定するレジスタです。
ADAnPFTレジスタに設定した8ビット・データとA/D変換結果レジスタの上位8ビット (ADAnCRmH) が比較されます。

ADAnPFTレジスタは8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

リセット時 : 00H R/W アドレス : ADA0PFT FFFFF205H, ADA1PFT FFFFF245H								
(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	(0)	
ADAnPFT	ADAnPFT7	ADAnPFT6	ADAnPFT5	ADAnPFT4	ADAnPFT3	ADAnPFT2	ADAnPFT1	ADAnPFT0

備考 n = 0, 1

m = 0-23 (n = 0)

m = 0-15 (n = 1)

22.4 動 作

22.4.1 基本動作

A/D変換する動作モード , トリガ・モード , 変換時間などをADAnM0, ADAnM1, ADAnM2, ADAnSレジスタで設定します。ADAnM0レジスタのADAnCEビットをセットすると , ソフトウェア・トリガ・モード時は変換を開始し , 外部 / タイマ・トリガ・モード時はトリガ待機状態になります。

A/D変換が開始されると選択されたアナログ入力チャネルに入力されている電圧を , サンプル&ホールド回路でサンプリングします。

一定時間サンプリングを行うとサンプル&ホールド回路はホールド状態となり , 入力されたアナログ電圧をA/D変換が終了するまで保持します。

逐次変換レジスタ (SAR) のビット9をセットし , D/Aコンバータの電圧を (1/2) AV_{REF0}にします。

D/Aコンバータの電圧とアナログ入力との電圧差を電圧コンパレータで比較します。もし , アナログ入力が (1/2) AV_{REF0}よりも大きければ , SARレジスタのMSBをセットしたままでます。また , (1/2) AV_{REF0}よりも小さければMSBをリセットします。

次にSARレジスタのビット8が自動的にセットされ , 次の比較に移ります。ここではすでに結果がセットされているビット9の値によって , 次に示すようにD/Aコンバータの電圧が選択されます。

- ・ビット9 = 1 : (3/4) AV_{REF0}
- ・ビット9 = 0 : (1/4) AV_{REF0}

このD/Aコンバータの電圧とアナログ入力電圧を比較し , その結果でSARレジスタのビット8を次のように操作します。

アナログ入力電圧 D/Aコンバータの電圧 : ビット8 = 1

アナログ入力電圧 D/Aコンバータの電圧 : ビット8 = 0

このような比較をSARレジスタのビット0まで続けます。

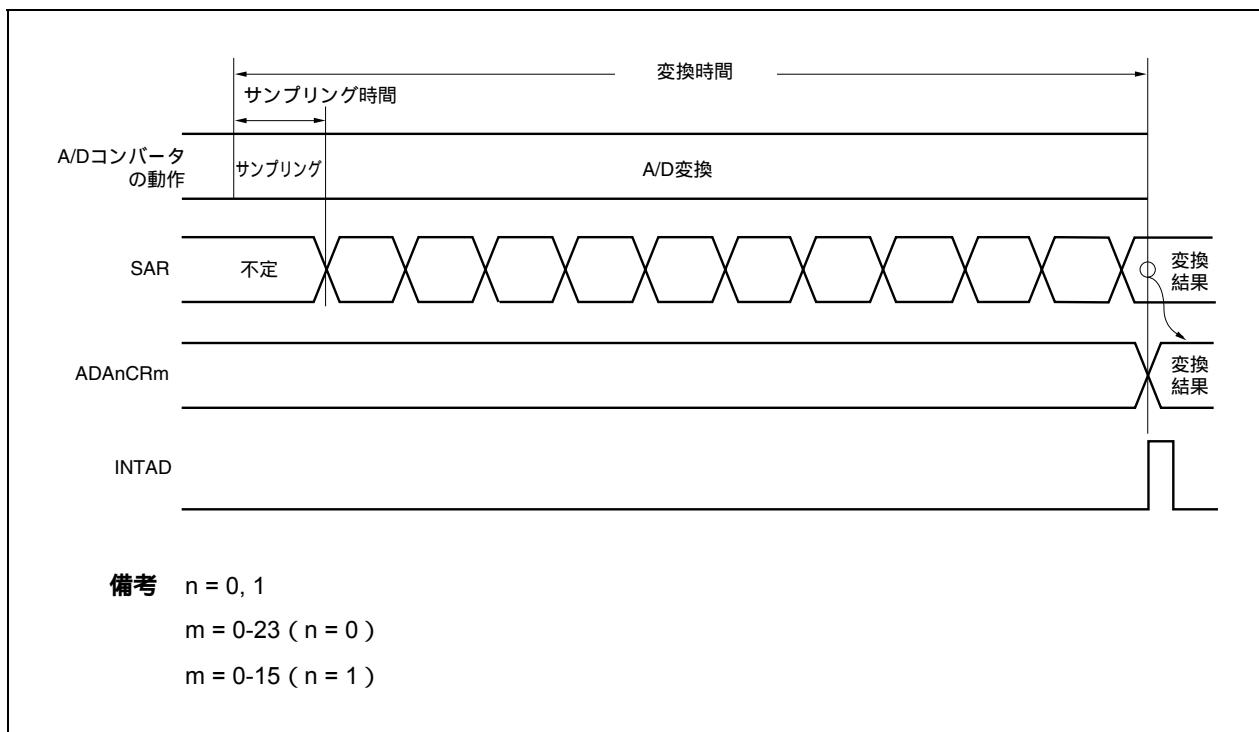
10ビットの比較が終了したとき , SARレジスタには有効なディジタルの結果が残り , その値がADAnCRmレジスタに転送され格納されます。同時に , A/D変換終了割り込み要求信号 (INTAD, INTAD1) を発生します。

備考 n = 0, 1

m = 0-23 (n = 0)

m = 0-15 (n = 1)

図22-3 A/Dコンバータの基本動作



22.4.2 トリガ・モード

トリガ・モードの設定により、変換動作の開始タイミングの指定を行います。トリガ・モードにはソフトウェア・トリガ・モード、ハードウェア・トリガ・モードがあり、ハードウェア・トリガ・モードでは、タイマ・トリガ・モード0, 1, 外部トリガ・モードの3つがあります。トリガ・モードの設定はADAnM0レジスタのADAnTMDビットで行い、ハードウェア・トリガ・モードの設定はADAnM2レジスタのADAnTMD1, ADAnTMD0ビットで行います。

(1) ソフトウェア・トリガ・モード

ADAnM0レジスタのADAnCEビットを“1”に設定すると、ADAnSレジスタで指定したアナログ入力(ANI0-ANI23, ANI100-ANI115端子)に対し、変換動作を開始します。変換を終了すると、変換結果をADAnCRmレジスタに格納します。セレクト・モード選択時には格納と同時に、スキャン・モード選択時には指定したチャネルの変換動作が一巡してからA/D変換終了割り込み要求信号(INTAD)を発生します。

ADAnM0レジスタのADAnMD1, ADAnMD0ビットで設定される動作モードが、連続セレクト／スキャン・モードであれば、変換終了後はADAnCEビットを“0”にしないかぎり、次の変換を繰り返し行います。動作モードがワンショット・セレクト／スキャン・モードであれば、1回(1巡)で変換を終了します。

変換が開始されると、ADAnEFビット = 1(動作中)となり、変換が終了すると、ADAnEFビット = 0(停止中)になります。

変換動作中にADAnM0, ADAnM2, ADAnS, ADAnPFM, ADAnPFTレジスタに書き込みを行った場合、変換は中断され、再度最初から変換を行います。

(2) 外部トリガ・モード

外部トリガ(ADTRG端子)の入力により、ADAnSレジスタで指定したアナログ入力(ANI0-ANI23, ANI100-ANI115端子)に対し、変換動作を開始するモードです。ADAnM0レジスタのADAnETS1, ATA0ETS0ビットの設定により、外部トリガのエッジ検出(立ち上がり、立ち下がり、立ち上がり／立ち下がりの両エッジ)の指定ができます。ADAnM0レジスタのADAnCEビットをセット(1)設定するとトリガ待機状態となり、外部トリガが入力された後に変換を開始します。

変換を終了すると、変換結果をADAnCRmレジスタに格納します。セレクト・モード選択時には格納と同時に、スキャン・モード選択時には指定したチャネルの変換動作が一巡してからA/D変換終了割り込み要求信号(INTAD)を発生します。

ADAnM0レジスタのADAnMD1, ADAnMD0ビットで設定される動作モードが、連続セレクト／スキャン・モードであれば、変換終了後はADAnCEビットを“0”にしないかぎり、次の変換を繰り返し行います。動作モードがワンショット・セレクト／スキャン・モードであれば、1回(1巡)で変換を終了します。

変換が開始されると、ADAnEFビット = 1(動作中)となり、変換が終了すると、ADAnEFビット = 0(停止中)になります。変換動作中に有効なトリガが入力されると、変換は中断され、再度最初から変換を行います。

変換動作中にADAnM0, ADAnM2, ADAnS, ADAnPFM, ADAnPFTレジスタに書き込みを行った場合、変換は中断され、再度トリガ待機状態になります。

備考 n = 0, 1

m = 0-23 (n = 0)

m = 0-15 (n = 1)

(3) タイマ・トリガ・モード

タイマに接続されたキャプチャ / コンペア・レジスタのコンペア一致割り込み要求信号 (INTTAA2CC0, INTTAA2CC1) により, ADAAnSレジスタで指定したアナログ入力 (ANI0-ANI23, ANI100-ANI115端子) に対し, 変換動作を開始するモードです。ADAAnM2レジスタのADAAnTMD1, ADAAnTMD0ビットの設定により, タイマのコンペア一致割り込み要求信号 (INTTAA2CC0, INTTAA2CC1) のいずれかを指定し, 指定されたコンペア一致割り込み要求信号の立ち上がりエッジで変換を開始します。ADAAnM0レジスタのADAAnCEビットをセット (1) するとトリガ待機状態となり, タイマのコンペア一致割り込み信号が入力されたあとに変換を開始します。

変換を終了すると, 変換結果をADAAnCRmレジスタに格納します。セレクト・モード選択時には格納と同時に, スキャン・モード選択時には指定したチャネルの変換動作が一巡してからA/D変換終了割り込み要求信号 (INTAD) を発生します。

ADAAnM0レジスタのADAAnMD1, ADAAnMD0ビットで設定される動作モードが, 連続セレクト / スキャン・モードであれば, 変換終了後はADAAnCEビットを“0”にしないかぎり, 次の変換を繰り返し行います。動作モードがワンショット・セレクト / スキャン・モードであれば, 1回 (1巡) で変換を終了します。

変換が開始されると, ADAAnEFビット = 1(動作中) となり, 変換が終了すると, ADAAnEFビット = 0(停止中) になります。変換動作中に有効なトリガが入力されると変換は中断され, 再度最初から変換を行います。

変換動作中にADAAnM0, ADAAnM2, ADAAnS, ADAAnPFM, ADAAnPFTレジスタに書き込みを行った場合, 変換は中断され, 再びトリガ待機状態になります。

備考 n = 0, 1

m = 0-23 (n = 0)

m = 0-15 (n = 1)

22.4.3 動作モード

動作モードには、ANI0-ANI23, ANI100-ANI115端子を設定するモードとして、連続セレクト・モード、連続スキヤン・モード、ワンショット・セレクト・モードおよびワンショット・スキヤン・モードの4つがあります。

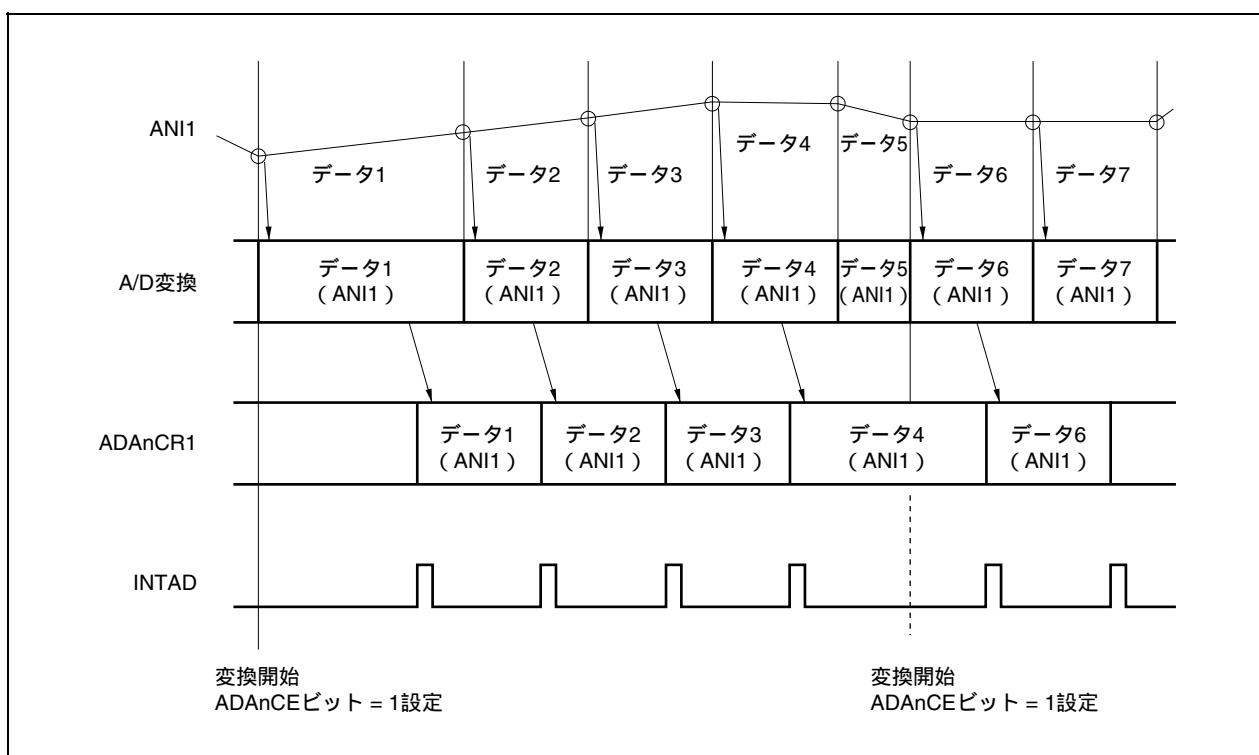
動作モードはADAnM0レジスタのADAnMD1, ADAnMD0ビットで設定します。

(1) 連続セレクト・モード

ADAnSレジスタで指定される1つのアナログ入力端子の電圧を連続してA/D変換します。

変換結果はアナログ入力端子に対応したADAnCRmレジスタに格納されます。このモードではアナログ入力端子とADAnCRmレジスタは1対1に対応しており、1回のA/D変換終了ごとにA/D変換終了割り込み要求信号(INTAD)が発生します。変換終了後はADAnM0レジスタのADAnCEビットを“0”にしないかぎり、次の変換を繰り返し行います。

図22-4 連続セレクト・モード動作タイミング例 (ADAnS = 01H)



(2) 連続スキヤン・モード

ANI0端子からADAnSレジスタで指定したアナログ入力端子まで順に選択し、A/D変換を連続で行います。

変換結果はアナログ入力端子に対応したADAnCRmレジスタに格納されます。ADAnSレジスタで指定したアナログ入力端子の変換を終了すると、A/D変換終了割り込み要求信号(INTAD)が発生し、ADAnM0レジスタのADAnCEビットを“0”にしないかぎり、再びANI0端子からA/D変換を開始します。

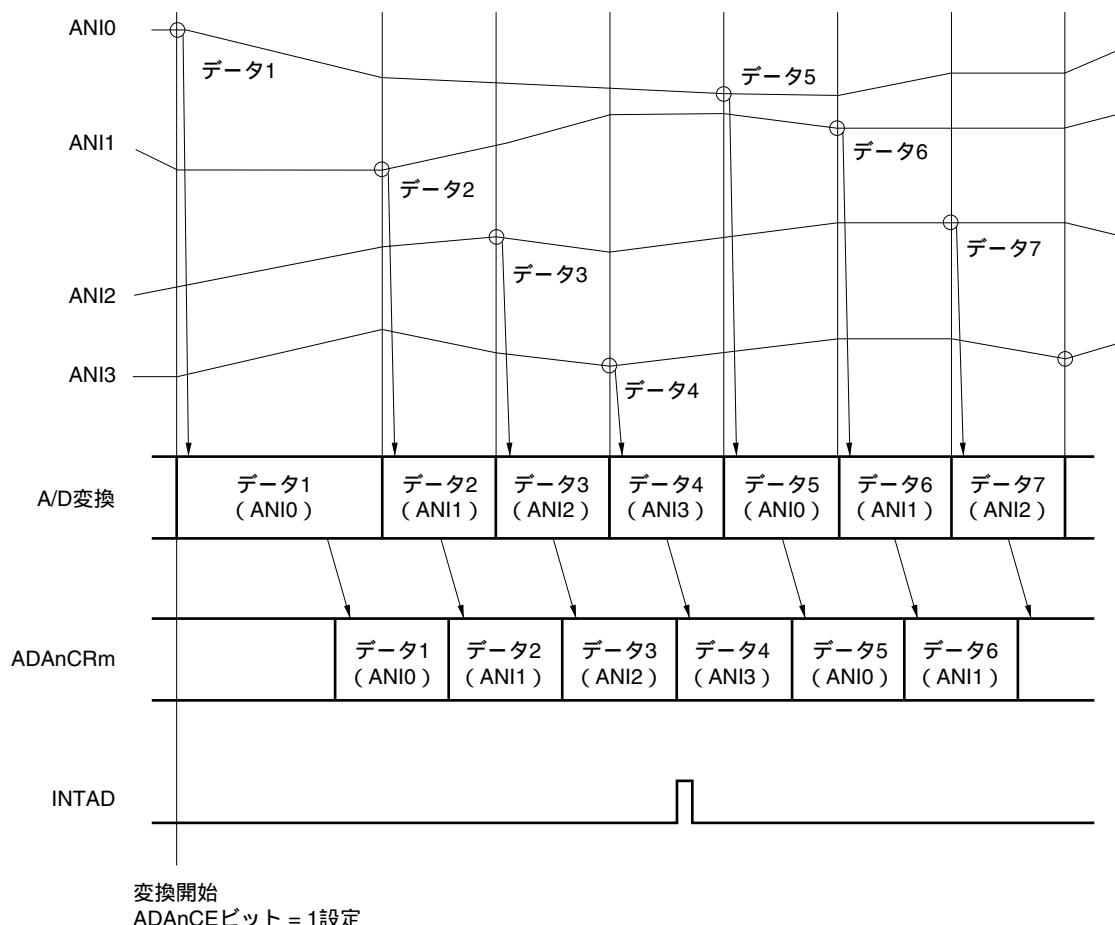
備考 n = 0, 1

m = 0-23 (n = 0)

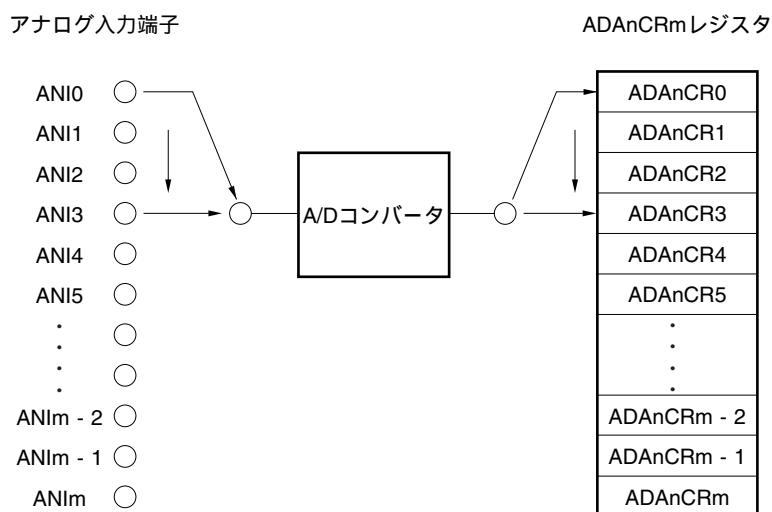
m = 0-15 (n = 1)

図22-5 連続スキャン・モード動作タイミング例 (ADAnSレジスタ = 03H)

(a) タイミング例



(b) ブロック図

**備考** n = 0, 1

m = 0-23 (n = 0)

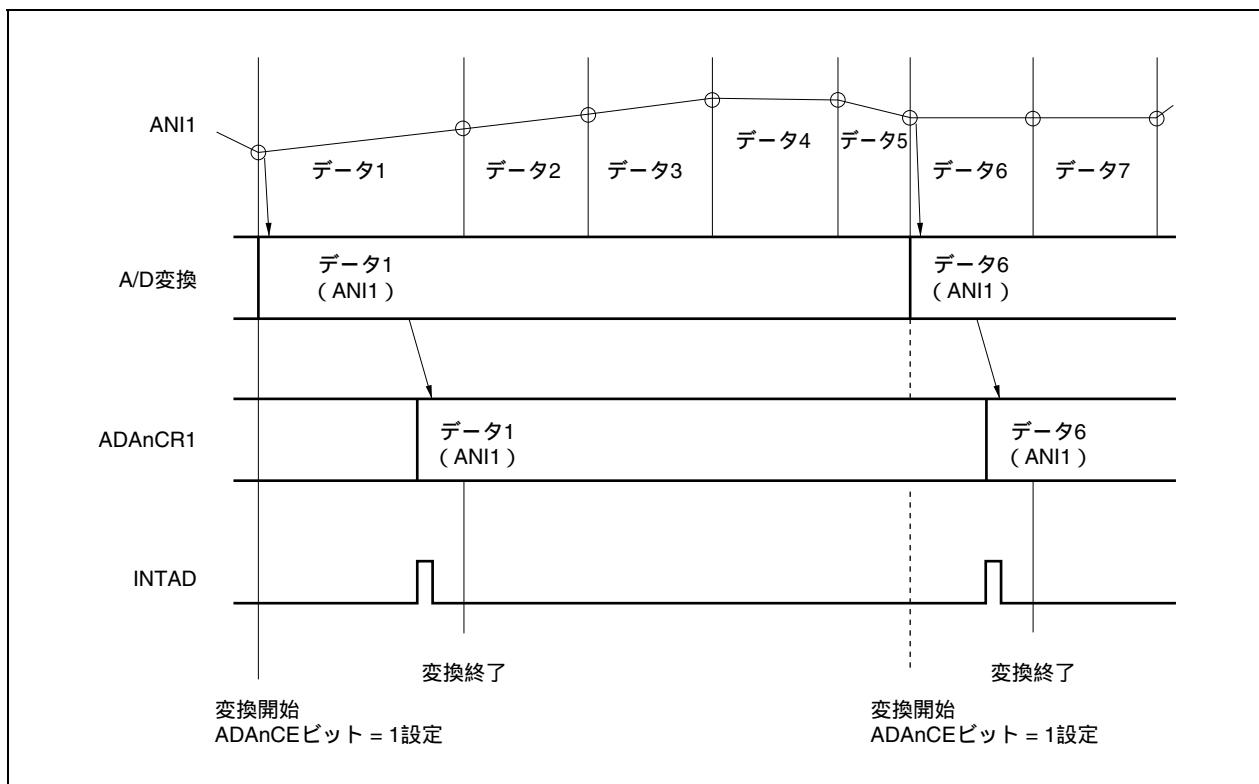
m = 0-15 (n = 1)

(3) ワンショット・セレクト・モード

ADAnSレジスタで指定される1つのアナログ入力端子を1回のみA/D変換します。

変換結果はアナログ入力端子に対応したADAnCRmレジスタに格納されます。このモードではアナログ入力端子とADAnCRmレジスタは1対1に対応しており、1回のA/D変換終了後、INTAD信号が発生します。A/D変換終了後はA/D変換動作を停止します。

図22-6 ワンショット・セレクト・モード動作タイミング例 (ADAnSレジスタ = 01H)



(4) ワンショット・スキャン・モード

ANIO端子からADAnSレジスタで指定したアナログ入力端子まで順に選択し、A/D変換します。

変換結果はアナログ入力端子に対応したADAnCRmレジスタに格納されます。ADAnSレジスタで指定したアナログ入力端子の変換を終了すると、INTAD信号が発生し、A/D変換終了後はA/D変換動作を停止します。

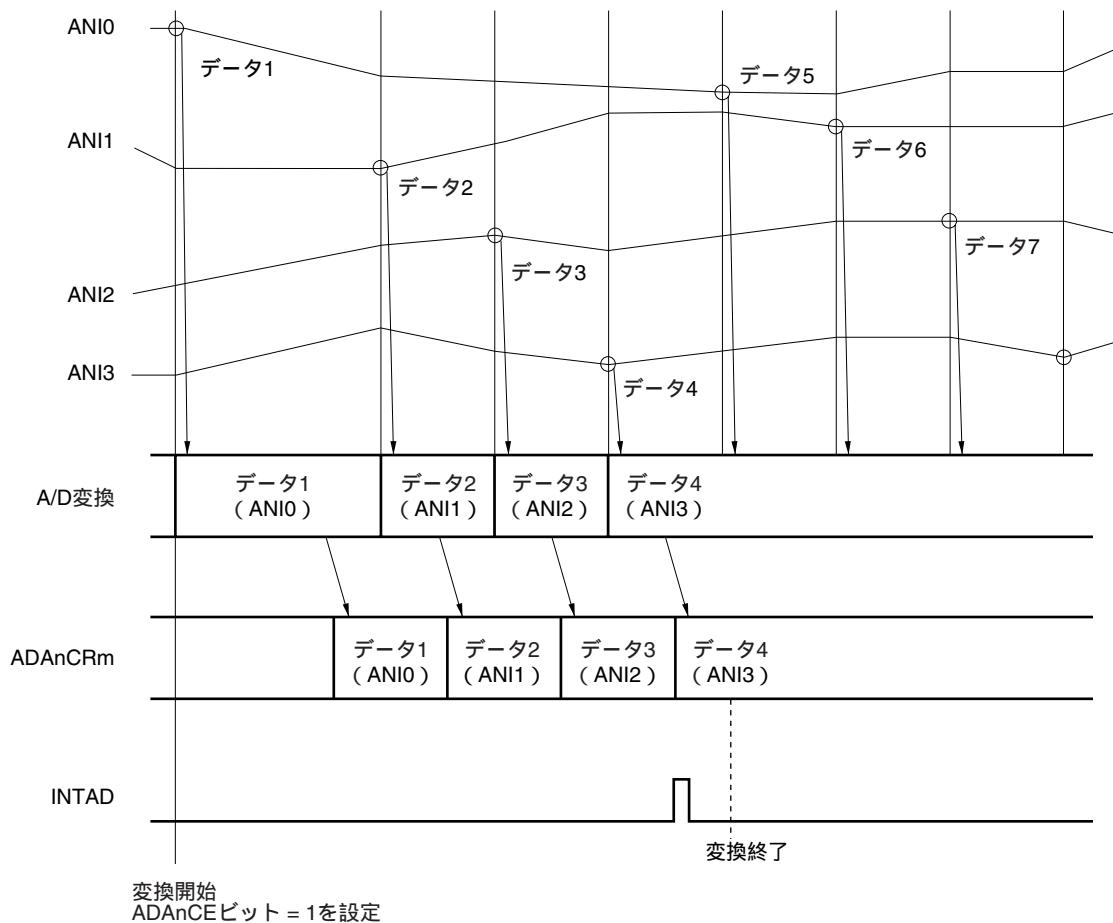
備考 n = 0, 1

m = 0-23 (n = 0)

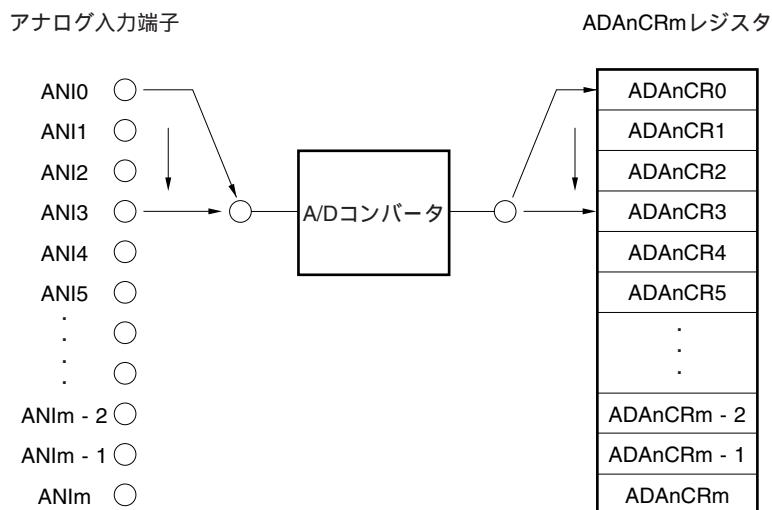
m = 0-15 (n = 1)

図22-7 ワンショット・スキャン・モード動作タイミング例 (ADAnSレジスタ = 03H)

(a) タイミング例



(b) ブロック図

**備考** n = 0, 1

m = 0-23 (n = 0)

m = 0-15 (n = 1)

(5) 自己診断モード

自己診断モードを起動 (ADAnM2レジスタのADADIAGビットをセット) すると, 指定されたANImの範囲の変換が終了したあとAV_{REF}端子とAV_{ss}端子の電圧がサンプリングされます。

結果の値はADAnCRDD, ADAnCRDDH, ADAnCRSSおよびADAnCRSSHレジスタで確認できます。

AD変換の精度は使用状況に影響されるため, AV_{REF}を変換するときも結果は必ずしも1になりません。

(6) ディスチャージ・モード

ディスチャージ・モードを起動 (ADAnM2レジスタのADADISCビットをセット) すると, A/D変換終了後にV_{ss}電圧を一定期間サンプリングします (サンプリング動作のみを行い, 比較動作は行いません)。このため, ディスチャージ機能許可時のA/D変換時間は, 禁止時に比べ長くなります。

備考 n = 0, 1

m = 0-23 (n = 0)

m = 0-15 (n = 1)

22.4.4 パワー・フェイル比較モード

ADAnPFM, ADAnPFTレジスタにより,A/D変換終了割り込み要求信号(INTAD)を次のように制御できます。

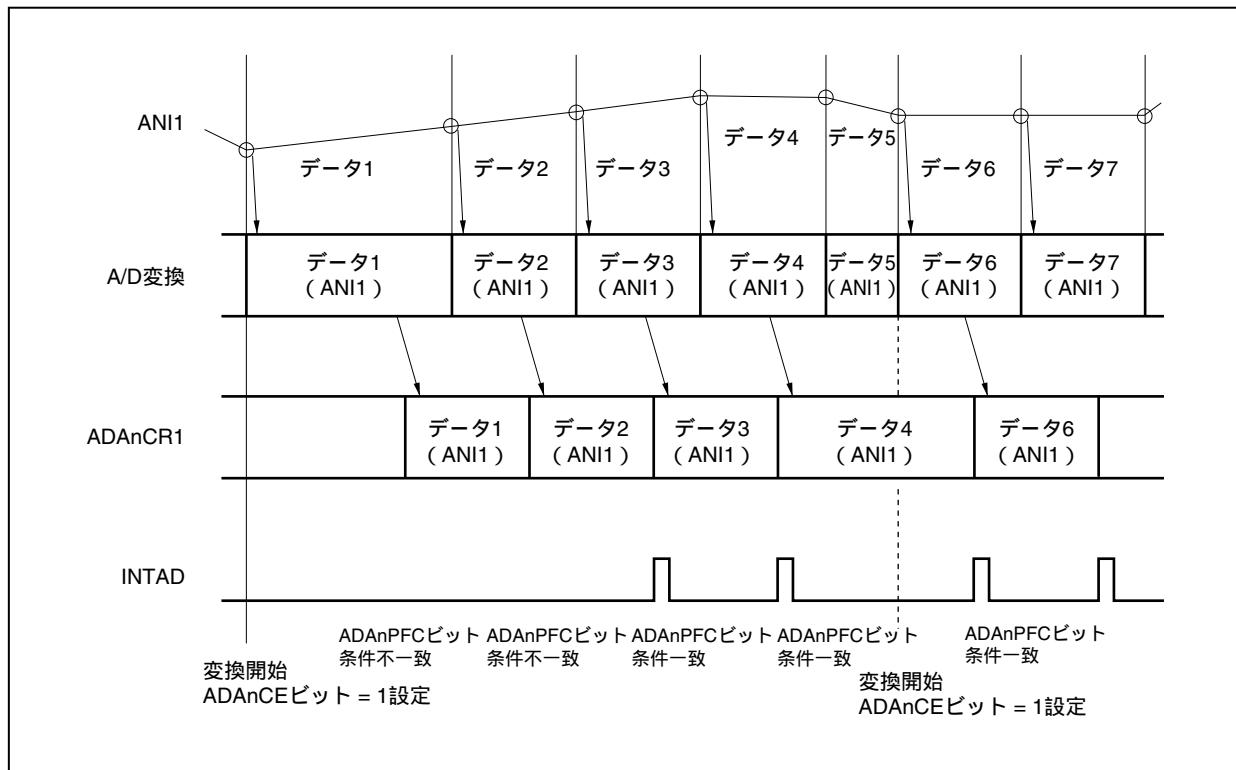
- ADAnPFEビット = 0の場合 , 変換終了ごとにINTAD信号が発生します (通常のA/Dコンバータとして使用)。
- ADAnPFEビット = 1かつADAnPFCビット = 0の場合 , 変換終了タイミングでADAnCRmHレジスタとADAnPFTレジスタの値を比較し , ADAnCR0H < ADAnPFTの場合のみ , INTAD信号を発生します。
- ADAnPFEビット = 1かつADAnPFCビット = 1の場合 , 変換終了タイミングでADAnCRmHレジスタとADAnPFTレジスタの値を比較し , ADAnCR0H < ADAnPFTの場合のみ , INTAD信号を発生します。

パワー・フェイル比較モードにもANI0-ANI23, ANI100-ANI115端子を設定するモードとして , 連続セレクト・モード , 連続スキャン・モードの2つがあります。

(1) 連続セレクト・モード

ADAnSレジスタで指定された1つのアナログ入力端子電圧の変換結果とADAnPFTレジスタの設定値を比較します。パワー・フェイル比較した結果がADAnPFMレジスタのADAnPFCビットで設定された条件に一致した場合 , 変換結果をADAnCRmレジスタに格納し , INTAD信号が発生します。一致しない場合 , 変換結果をADAnCRmレジスタに格納し , INTAD信号を発生しません。変換終了後はADAnM0レジスタのADAnCEビットを“ 0 ”にしないかぎり , 次の変換を繰り返し行います(n = 0 : m = 0-23, n = 1 : m = 0-15)。

図22-8 連続セレクト・モード動作タイミング例 (パワー・フェイル比較時 : ADAnSレジスタ = 01H)



備考 n = 0, 1

m = 0-23 (n = 0)

m = 0-15 (n = 1)

(2) 連続スキャン・モード

ANIO端子からADAnSレジスタで指定したアナログ入力端子まで順に選択した変換結果を格納し，チャネル0のADAnCR0HレジスタとADAnPFTレジスタの設定値を比較します。パワー・フェイル比較した結果がADAnPFMレジスタのADAnPFCビットで設定された条件に一致した場合，変換結果をADAnCR0レジスタに格納し，INTAD信号を発生します。一致しない場合，変換結果をADAnCR0レジスタに格納し，INTAD信号を発生しません。

ADAnCR0レジスタに格納後，ADAnSレジスタで指定されたアナログ入力端子まで順に変換結果を格納します。変換終了後はADAnM0レジスタのADAnCEビットを“0”にしないかぎり，再びANIO端子から変換を開始します。

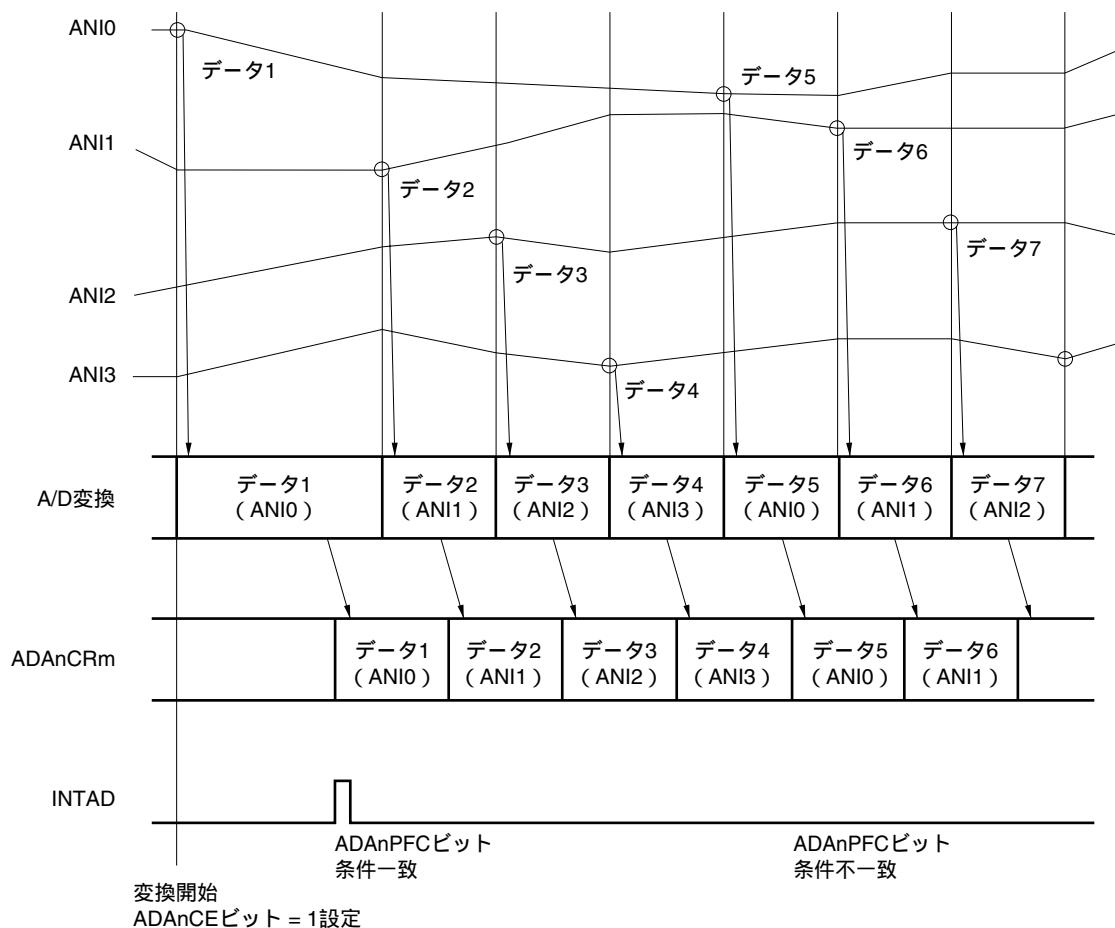
備考 n = 0, 1

m = 0-23 (n = 0)

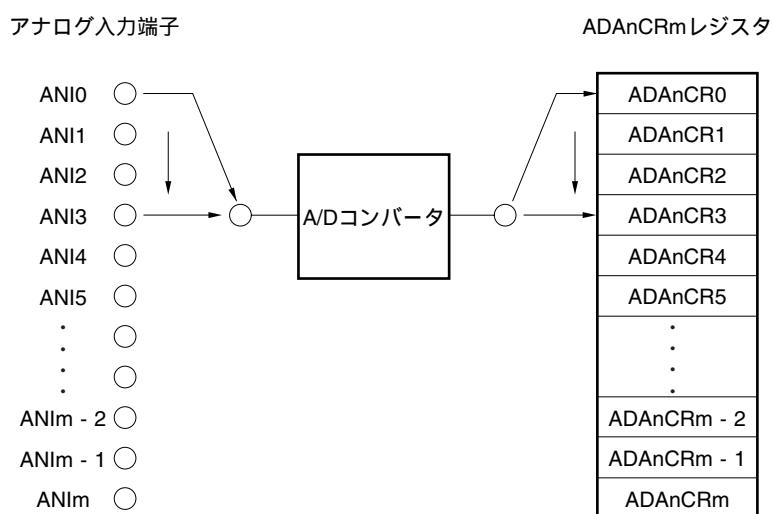
m = 0-15 (n = 1)

図22-9 連続スキャン・モード動作タイミング例(パワー・フェイル比較時:ADAnSレジスタ = 03H)

(a) タイミング例



(b) ブロック図

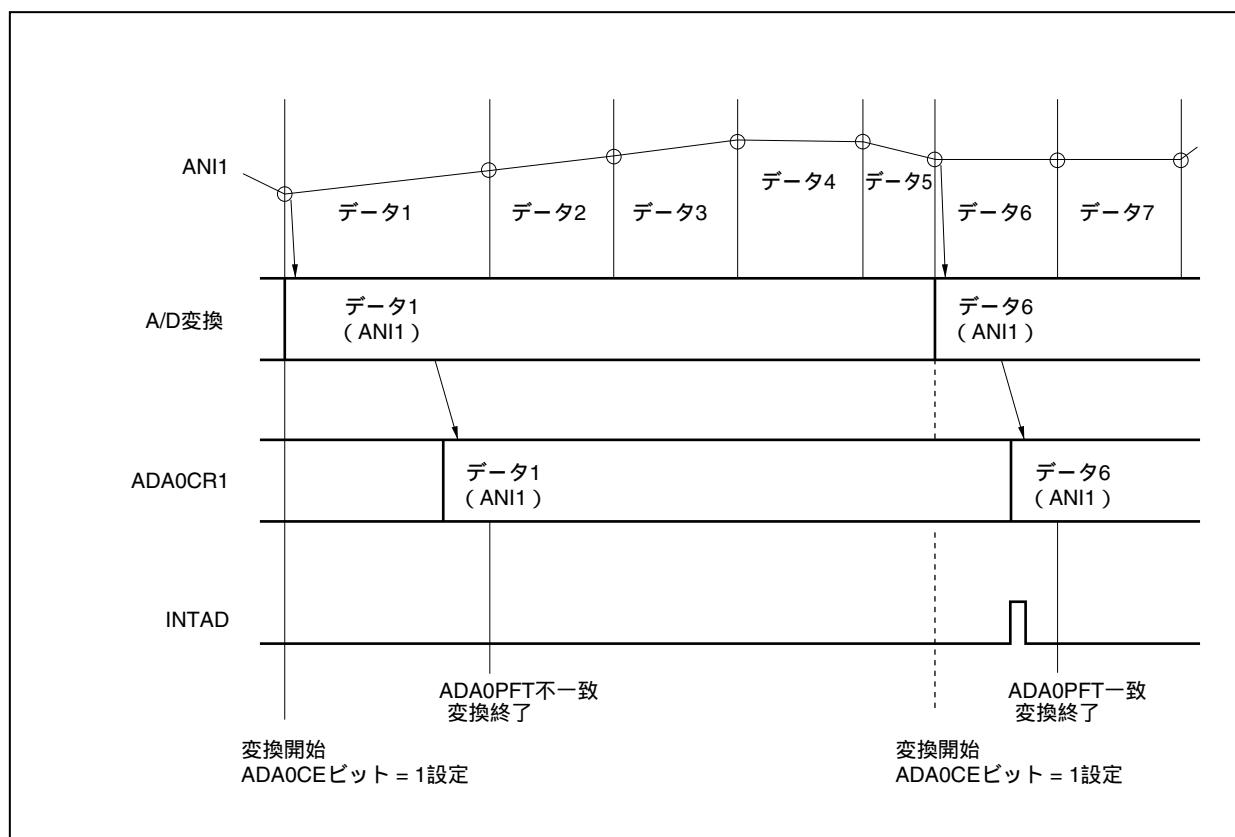


備考 $n = 0, 1$
 $m = 0-23 (n = 0)$
 $m = 0-15 (n = 1)$

(3) ワンショット・セレクト・モード

ADA0Sレジスタで指定された1つのアナログ入力端子の変換結果とADA0PFTレジスタの設定値を比較します。パワー・フェイル比較した結果がADA0PFCビットで設定された条件に一致した場合、変換結果をADA0CRnレジスタに格納し、INTAD信号が発生します。一致しない場合、変換結果をADA0CRnレジスタに格納し、INTAD信号を発生しません。変換終了後は変換を停止します。

図22-10 ワンショット・セレクト・モード動作タイミング例(パワー・フェイル比較時: ADA0Sレジスタ = 01H)



備考

- n = 0, 1
- m = 0-23 (n = 0)
- m = 0-15 (n = 1)

(4) ワンショット・スキャン・モード

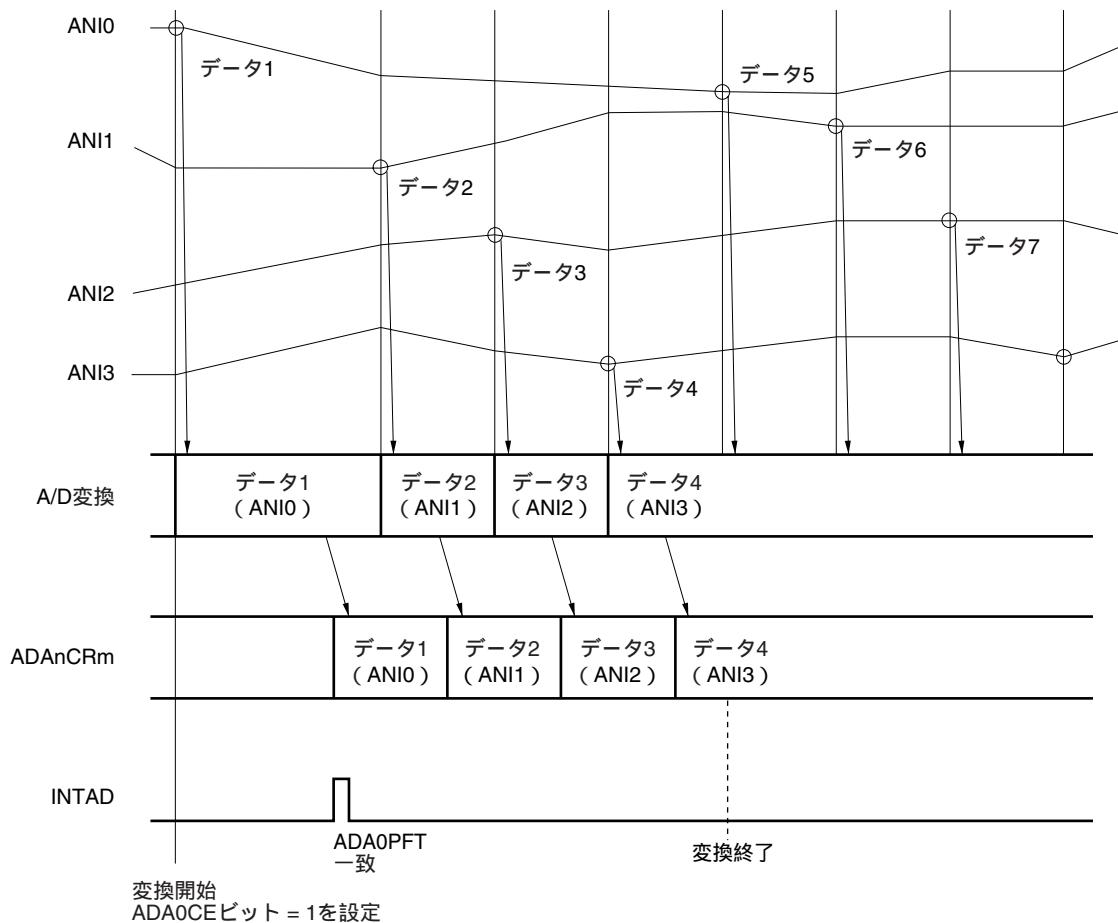
ANIO端子からADAnSレジスタで指定したアナログ入力端子まで順に選択した変換結果を格納し，チャネル0のADAnCR0HレジスタとADAnPFTレジスタの設定値を比較します。パワー・フェイル比較した結果がADAnPFCビットで設定された条件に一致した場合，変換結果をADAnCR0レジスタに格納し，INTAD信号を発生します。一致しない場合，変換結果をADAnCR0レジスタに格納し，INTAD信号を発生しません。ADAnCR0レジスタに格納後，ADAnSレジスタで指定されたアナログ入力端子まで順に変換結果を格納します。変換終了後は変換を停止します。ただし，A/D変換直後，一回目の変換精度が悪化する可能性があります。

詳細は22.5(6)AV_{REF0}端子についてをご覧ください。

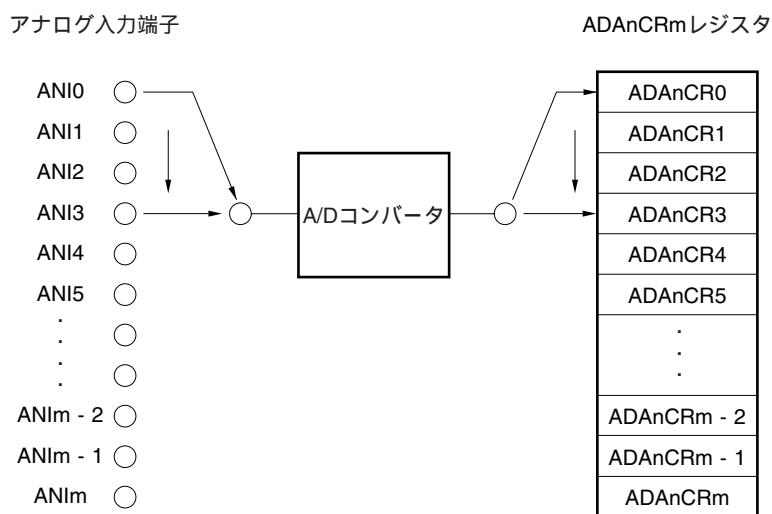
備考 n = 0, 1

図22-11 ワンショット・スキャン・モード動作タイミング例(パワー・フェイル比較時: ADAnSレジスタ = 03H)

(a) タイミング例



(b) ブロック図



備考

- n = 0, 1
- m = 0-23 (n = 0)
- m = 0-15 (n = 1)

22.5 注意事項

(1) A/Dコンバータ未使用時について

未使用時は, ADA_nM0レジスタのADA_nCEビット = 0およびADA_nPSビット = 0とすることにより消費電力を低減できます。

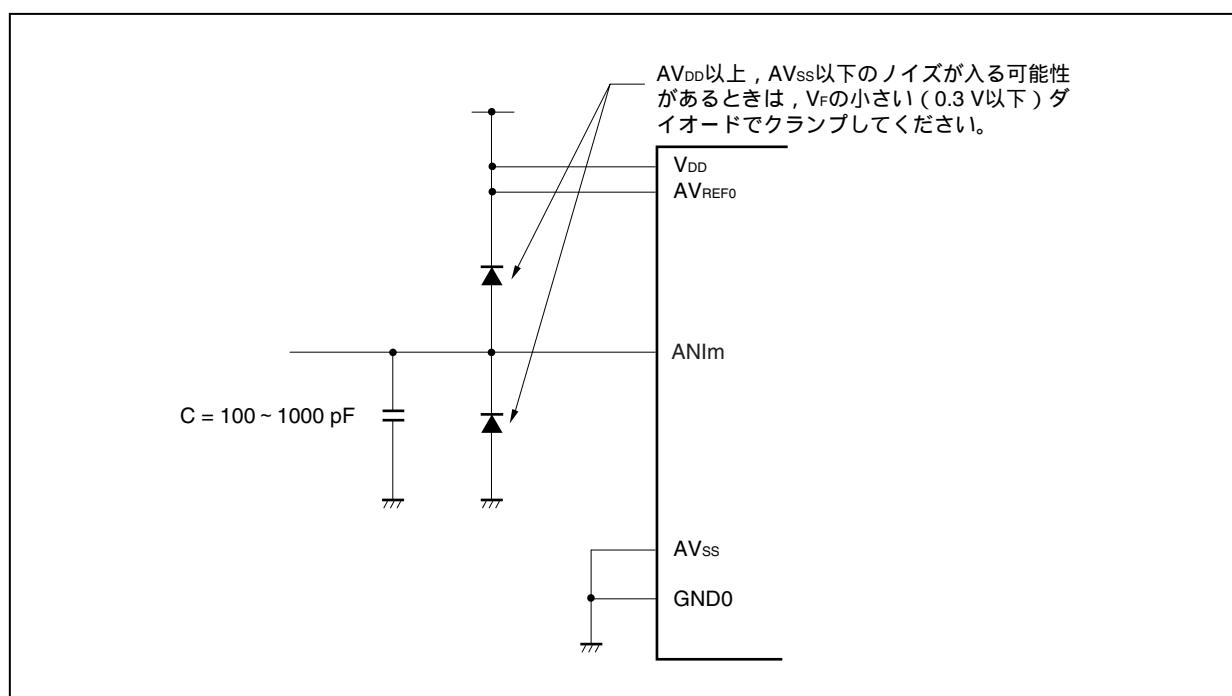
(2) ANI0-ANI23, ANI100-ANI115端子入力範囲について

ANI0-ANI23, ANI100-ANI115端子の入力電圧は規格の範囲内で使用してください。ただし, 絶対最大定格の範囲内であってもAV_{REF0}以上, AV_{SS}以下の電圧が入力されると, そのチャネルの変換値が不定となります。また, ほかのチャネルの変換値にも影響を与えることがあります。

(3) ノイズ対策について

10ビット分解能を保つためには, ANI0-ANI23, ANI100-ANI115端子へのノイズに注意する必要があります。アナログ入力源の出力インピーダンスが高いほど影響が大きくなりますので, ノイズを低減するために図22-12のようにコンデンサを外付けすることを推奨します。

図22-12 アナログ入力端子の処理



備考 n = 0, 1

m = 0-23 (n = 0)

m = 0-15 (n = 1)

(4) 兼用入出力について

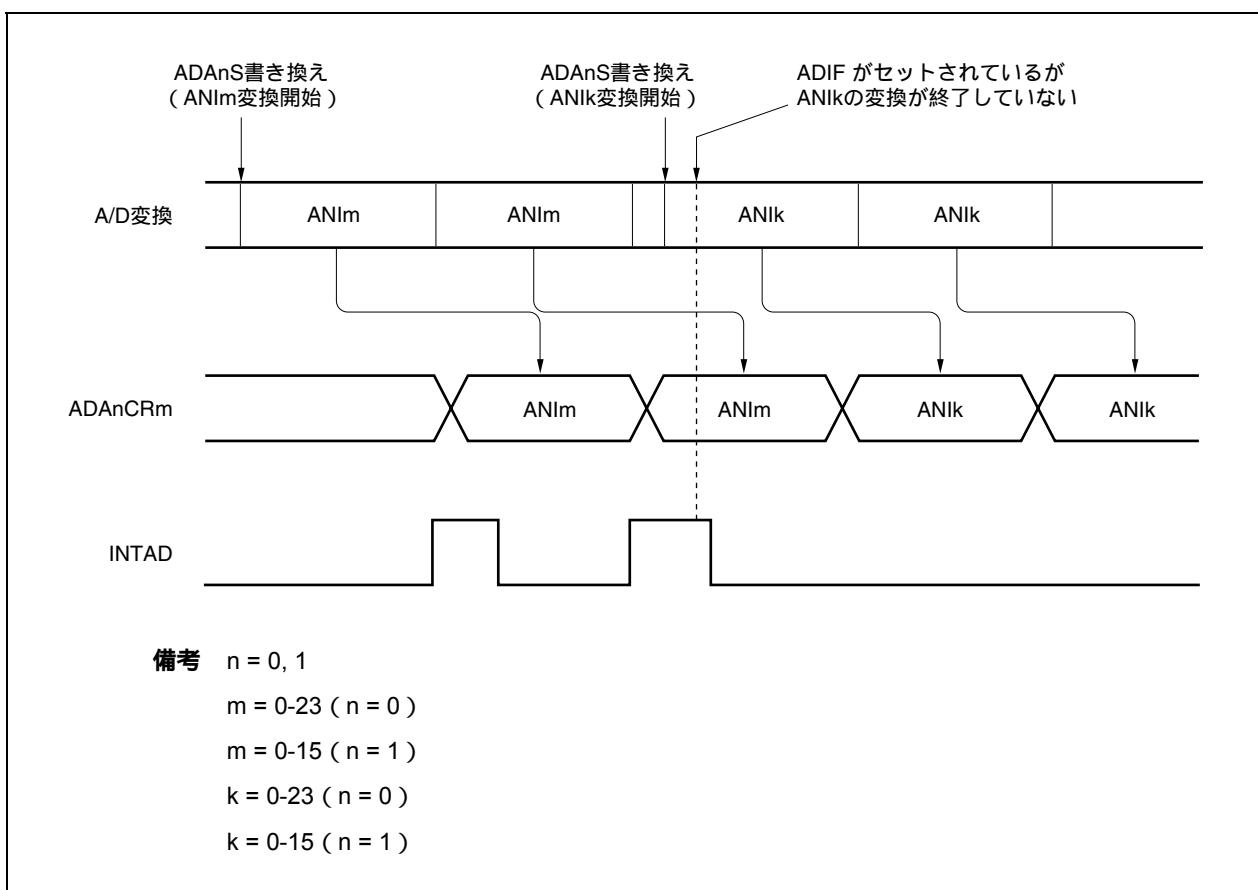
アナログ入力 (ANI0-ANI23, ANI100-ANI115) 端子はポート端子と兼用になっています。ANI0-ANI23, ANI100-ANI115端子のいずれかを選択してA/D変換をする場合、変換中に入力ポートへの読み出し命令、または出力ポートへの書き込み命令を実行しないでください。変換分解能が低下することがあります。

また、A/D変換中に出力ポートに設定している端子でポートに接続される外部回路の影響で出力電流が変動する場合も、変換分解能が低下することがあります。A/D変換中の端子に隣接する端子へディジタル・パルスを印加したりディジタル・パルスを出力したりすると、カップリング・ノイズによってA/D変換値が期待どおりに得られないこともあります。したがって、A/D変換中の端子に隣接する端子へのパルス印加またはパルス出力はしないでください。

(5) 割り込み要求フラグ (ADIF) について

ADAnSレジスタを変更しても、割り込み要求フラグ (ADIF) はクリアされません。したがって、A/D変換中にアナログ入力端子の変更を行った場合、ADAnSレジスタ書き換え直前に変更前のアナログ入力に対するA/D変換結果および変換終了割り込み要求フラグがセットされる場合があり、ADAnSレジスタ書き換え直後にADIFフラグを読み出すと、変更後のアナログ入力に対するA/D変換が終了していないにもかかわらずADIFフラグがセットされている場合がありますので注意してください。また、A/D変換を一度停止させて再開する場合は、再開する前にADIFフラグをクリアしてください。

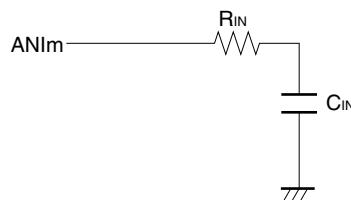
図22 - 13 A/D変換終了割り込み要求発生タイミング



(6) 内部等価回路

アナログ入力部の等価回路を次に示します。

図22-14 ANIm端子内部等価回路

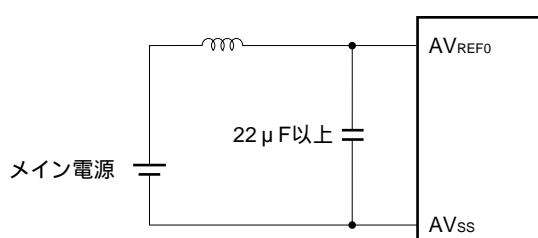


	R _{IN}	C _{IN}
m = 0-23 (n = 0)	2.6 kΩ	6.2 pF
m = 0-15 (n = 1)	2.3 kΩ	5.5 pF

備考 値は参考値です。

(7) AV_{REF0}端子について

- (a) AV_{REF0}端子はA/Dコンバータの電源端子を兼用しており、また兼用ポートにも電源を供給しています。したがって、バックアップ電源に切り替えるようなアプリケーションにおいても図22-12のように必ずV_{DD}と同じ電位を印加してください。
- (b) AV_{REF0}端子はA/Dコンバータ用の基準電圧端子を兼用しています。したがって、AV_{REF0}端子への供給部のインピーダンス値が高い場合や、電源の電流供給能力が低い場合、変換時に流れる電流（特に変換動作許可ADAnCEビット = 1とした直後）により基準電圧が変動し、変換精度が悪くなるおそれがあります。これを避けるため図22-15のようにAV_{REF0}端子とAV_{SS}端子間にコンデンサを接続し変動を抑えるようにすることを推奨します。
- (c) AV_{REF0}端子への供給部に直流抵抗値（ダイオード挿入など）が高いと、A/D変換電流による電圧降下により、変換動作停止時より動作許可時の電圧が低くなる可能性があります。

図22-15 AV_{REF0}端子の処理例

(8) ADAAnCRmレジスタの読み出しについて

ADAAnM0-ADAAnM2, ADAAnS, ADAAnPFM, ADAAnPFTレジスタに対して書き込み動作を行ったとき, ADAAnCRmレジスタの内容は不定になることがあります。変換結果は, 変換動作終了後, ADAAnM0-ADAAnM2, ADAAnS, ADAAnPFM, ADAAnPFTレジスタに対して書き込み動作を行う前に読み出してください。

また, 外部 / タイマ・トリガを受け付けたときも, ADAAnCRmレジスタの内容は不定になることがあります。変換結果は, 変換動作終了後, 次の外部 / タイマ・トリガを受け付ける前に読み出してください。上記以外のタイミングでは, 正しい変換結果が読み出されないことがあります。

(9) A/D変換結果について

アナログ入力端子および基準電圧入力端子にノイズがある場合は, ノイズにより不正な変換結果が生じことがあります。この不正な変換結果により, システムに悪影響を与えることを避けるために, ソフトウェア処理が必要です。次にソフトウェア処理の例を示します。

- ・複数回のA/D変換結果の平均値をA/D変換結果として使用する。
- ・複数回のA/D変換を連続して行い, 特異な変換結果が得られた場合, この値を除外した変換結果を使用する。
- ・システムに異常が発生したと判断されるようなA/D変換結果が得られた場合, ただちに異常処理を行わず, 再度異常発生を確認した上で異常処理を行う。

(10) スタンバイ・モードについて

A/Dコンバータは, STOPモード時に動作が停止するため, 変換結果は無効になり消費電力を低減できます。STOPモード解除後, 再び動作を開始しますが, STOPモード解除後のA/D変換結果は無効です。STOPモード解除後にA/Dコンバータを使用する場合は, STOPモード設定前または解除後にADAAnCEビット = 0およびADAAnPSビット = 0に設定してからSTOPモード解除後にADAAnCEビット = 1およびADAAnPSビット = 1に設定してください。

IDLE1, IDLE2モード, サブクロック動作モードでは動作が保持されるため, 消費電力を低減する場合にはADAAnCEビット = 0およびADAAnPSビット = 0にしてください。ただし, IDLE1, IDLE2モード期間中は, アナログ入力電圧値が保持できなくなるため, IDLE1, IDLE2モード解除後のA/D変換結果は無効です。また, IDLE1, IDLE2モード設定前のA/D変換結果は有効です。

備考 n = 0, 1

m = 0-23 (n = 0)

m = 0-15 (n = 1)

(11) A/D変換のヒステリシス特性について

逐次比較型A/Dコンバータは、内部のサンプル&ホールド用コンデンサにアナログ入力電圧を保持し、その後A/D変換を行います。A/D変換が終了したあとも、内部のサンプル&ホールド用コンデンサには、アナログ入力電圧が残っています。このため次のような現象が起きことがあります。

- 同一チャネルでA/D変換を実行する場合、以前のA/D変換時よりも高い電圧、または低い電圧に変化していると、変換結果が以前の値に影響されるヒステリシス特性が現れ、同じ電位でも変換結果が異なる。
- アナログ入力チャネルを切り換える場合、1つのA/Dコンバータを用いてA/D変換を行っているため、変換結果が以前のチャネルの値に影響されるヒステリシス特性が現れ、同じ電位でも変換結果が異なる。

このため、より正確な変換結果を得たい場合は、同一チャネルで2回連続A/D変換を行い、1回目の変換結果を廃棄してください。

22.6 A/Dコンバータ特性表の読み方

A/Dコンバータに特有な用語について説明します。

(1) 分解能

識別可能な最小アナログ入力電圧、つまり、ディジタル出力1ビットあたりのアナログ入力電圧の比率を1 LSB (Least Significant Bit)といいます。1 LSBのフルスケールに対する比率を%FSR (Full Scale Range)で表します。%FSRとは変換可能なアナログ入力電圧範囲に対する比率を百分率で表したもので分解能に関係なく次のような式になります。

$$\begin{aligned} 1\% \text{FSR} &= (\text{変換可能なアナログ入力電圧の最大値} - \text{変換可能なアナログ入力電圧の最小値}) / 100 \\ &= (AV_{REF0} - 0) / 100 \\ &= AV_{REF0} / 100 \end{aligned}$$

分解能10ビットのとき、1 LSBは次のようになります。

$$\begin{aligned} 1 \text{LSB} &= 1/2^{10} = 1/1024 \\ &= 0.098 \% \text{FSR} \end{aligned}$$

精度は分解能とは関係なく、総合誤差によって決まります。

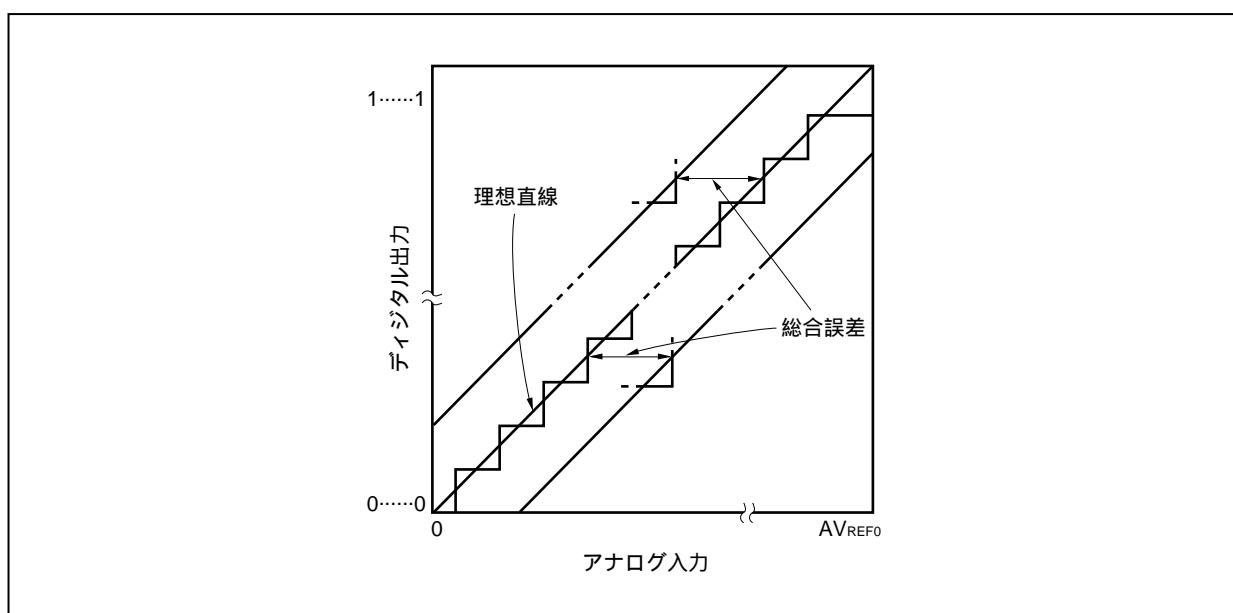
(2) 総合誤差

実測値と理論値との差の最大値を指しています。

ゼロスケール誤差、フルスケール誤差、直線性誤差、およびそれらの組み合わせから生じる誤差を総合したものです。

なお、特性表の総合誤差には量子化誤差は含まれていません。

図22-16 総合誤差

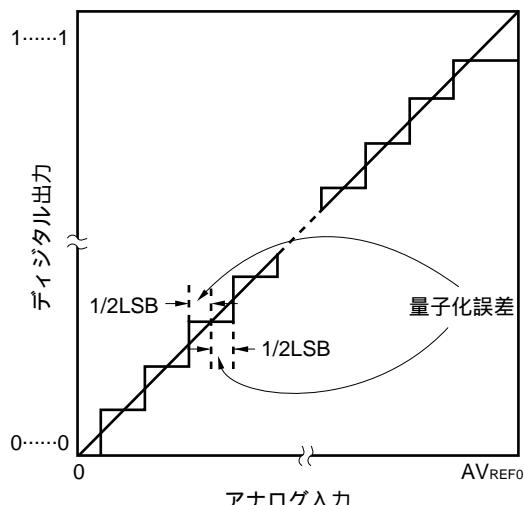


(3) 量子化誤差

アナログ値をデジタル値に変換するとき、必然的に生じる $\pm 1/2\text{LSB}$ の誤差です。A/Dコンバータでは、 $\pm 1/2\text{LSB}$ の範囲にあるアナログ入力電圧は、同じデジタル・コードに変換されるため、量子化誤差を避けることはできません。

なお、特性表の総合誤差には含まれていません。

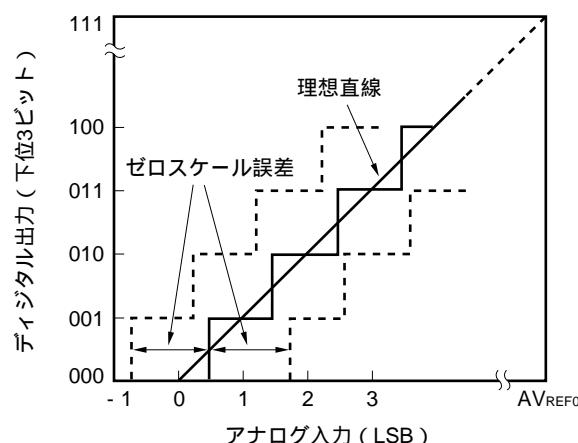
図22-17 量子化誤差



(4) ゼロスケール誤差

デジタル出力が0.....000から0.....001に変化するときの、アナログ入力電圧の実測値と理論値(1/2LSB)との差を表します。

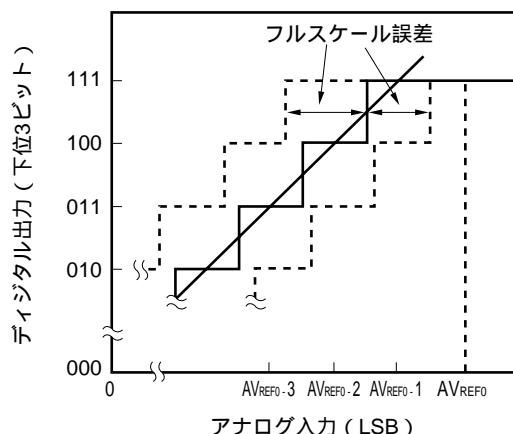
図22-18 ゼロスケール誤差



(5) フルスケール誤差

デジタル出力が1.....110から1.....111に変化するときの、アナログ入力電圧の実測値と理論値(フルスケール - 3/2LSB)との差を表します。

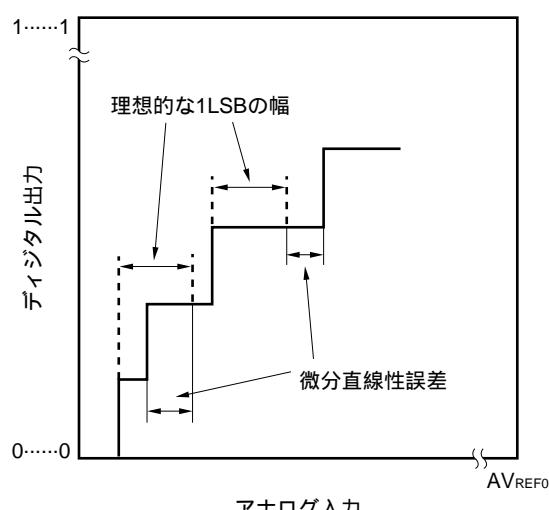
図22-19 フルスケール誤差



(6) 微分直線性誤差

理想的にはあるコードを出力する幅は1LSBですが、あるコードを出力する幅の実測値と理想値との差を表します。

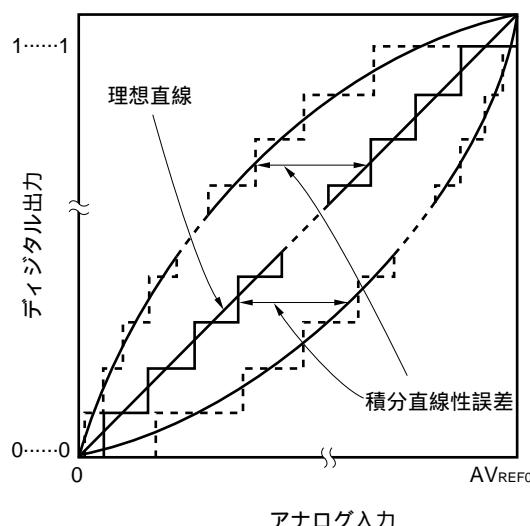
図22-20 微分直線性誤差



(7) 積分直線性誤差

変換特性が、理想的な直線関係からはずれている程度を指します。ゼロスケール誤差、フルスケール誤差を0としたときの、実測値と理想直線との差の最大値を表します。

図22-21 積分直線性誤差



(8) 変換時間

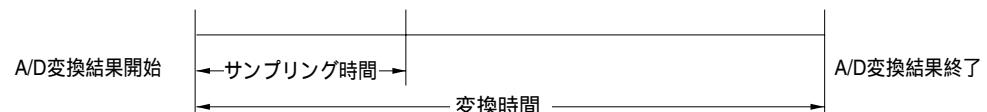
各トリガが発生してから、デジタル出力が得られるまでの時間を表します。

特性表の変換時間にはサンプリング時間が含まれています。

(9) サンプリング時間

アナログ電圧をサンプル&ホールド回路に取り込むため、アナログ・スイッチがオンしている時間です。

図22-22 サンプリング時間



第23章 モータ制御機能

23.1 機能概要

タイマAB0 (TAB0) とTAB0オプション (TABOP0) によりモータ制御用のインバータ機能として使用します。またタイマAA4 (TAA4) と同調動作を行い、TAA4のコンペア一致タイミングで、A/DコンバータのA/D変換を起動することができます。モータ制御機能は、次のような動作を行うことができます。

- ・16ビット精度の6相PWM出力機能（デッド・タイム付き、上アームおよび下アーム用）
 - ・タイマ同調動作機能（TAA4と同調動作可能）
 - ・任意の周期設定機能
 - （山割り込み、谷割り込みでの動作中の変更可能）
 - ・コンペア・レジスタ書き換え：随時書き換え／一斉書き換え／間欠一斉書き換え選択機能（TAB0動作中の変更可能）
 - ・割り込み機能および転送間引き機能
 - ・任意のデッド・タイム設定機能
 - ・A/DコンバータのA/Dトリガの任意タイミング機能（4種類のタイミング生成が可能）
 - ・0 %出力と100 %出力が可能
 - ・山割り込み、谷割り込みでの0 %, 100 %出力切り替え可能
 - ・強制出力停止機能
- 外部端子入力 (INTP1, INTP3) による有効エッジ検出時

23.2 構成

モータ制御は次のハードウェアで構成されています。

項目	構成
タイマ・レジスタ	デッド・タイム・カウンタ1-3
コンペア・レジスタ	TAB0デッド・タイム・コンペア・レジスタ (TAB0DTCレジスタ)
制御レジスタ	TAB0オプション・レジスタ0 (TAB0OPT0) TAB0オプション・レジスタ1 (TAB0OPT1) TAB0オプション・レジスタ2 (TAB0OPT2) TAB0オプション・レジスタ3 (TAB0OPT3) ^注 TAB0I/O制御レジスタ3 (TAB0IOC3) ハイ・インピーダンス出力制御レジスタ0, 1 (HZA0CTL0, HZA0CTL1)

注 V850ES/FK3のみ

- TAB0の出力 (TOAB01, TOAB02, TOAB03) を使用し, デッド・タイム付きの6相PWM出力が可能です。
- 6相PWM出力の出力レベルは個別に設定できます。
- TAB0の16ビット・タイマ・カウンタは, アップ / ダウンの三角波カウントを行います。アンダフロー発生時と周期一致発生時に割り込みを発生しますが, 最大31回までの割り込み発生を間引くことができます。
- TAA4は, TAB0とカウント動作を同時に行うことができます (タイマ同調動作機能)。TAA4は, 2種類のA/Dトリガ・ソース (INTTAA4CC0, INTTAA4CC1) が生成でき, TAB0のアンダフロー割り込み (INTTAB0OV) と周期一致割り込み (INTTAB0CC0) の2種類と合わせ, 合計4種類の設定ができます。

図23-1 モータ制御のブロック図

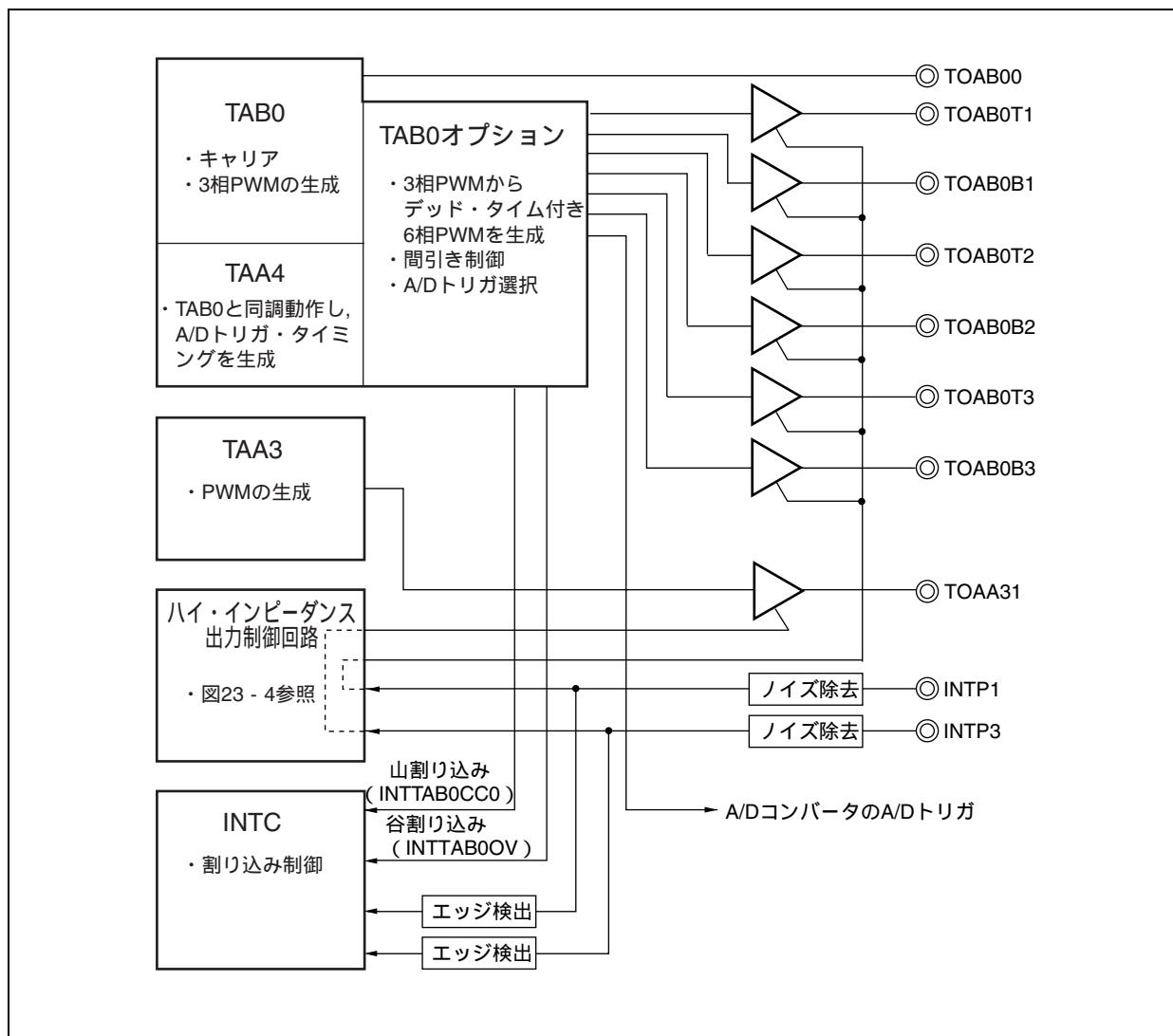
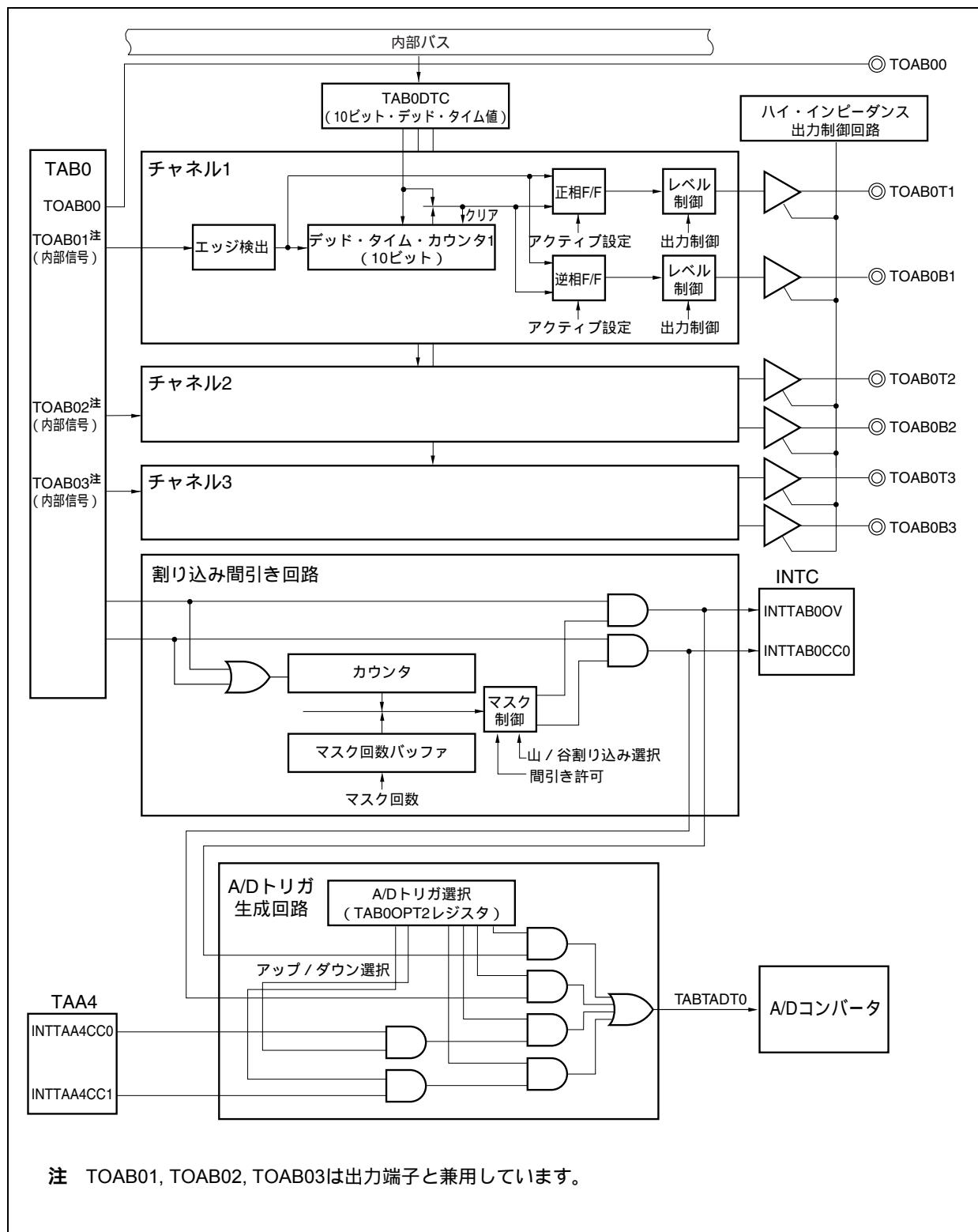


図23-2 TAB0オプション



(1) TAB0デッド・タイム・コンペア・レジスタ (TAB0DTC)

TAB0DTCレジスタは、デッド・タイム値を指定する10ビットのコンペア・レジスタです。

TAB0CTL0.TAB0CEビット = 1のとき、TAB0DTCレジスタの書き換えは禁止です。

16ビット単位でリード / ライト可能です。

リセットにより0000Hになります。

リセット時 : 0000H R/W アドレス : FFFFF564H

TAB0DTC	15	10 9	0
		000000	TAB0DTC9-TAB0DTC0

(2) デッド・タイム・カウンタ1-3

デッド・タイム・カウンタはデッド・タイムをカウントする10ビットのカウント・レジスタです。

TAB0のTOAB0m出力信号の立ち上がり / 立ち下がりエッジにより、クリア / カウント・アップ動作を行い、TAB0DTCレジスタとの一致でクリア & ストップします。カウント・クロックはTAB0のTAB0CTL0.TAB0CKS2-TAB0CKS0ビットで設定したカウント・クロックと同じカウント・クロックです。

備考1. TAB0OPT2.TAB0DTMビット = 1とした場合は、動作が異なります。詳細は、23.4.2(4)デッド・タイム幅の自動縮小機能 (TAB0OPT2.TAB0DTMビット = 1) を参照してください。

2. m = 1-3

23.3 制御レジスタ

(1) TAB0オプション・レジスタ0 (TAB0OPT0)

タイマABオプション機能を制御する8ビットのレジスタです。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。ただしTAB0CUFビットはリードのみ可能です。

リセットにより00Hになります。

注意 TAB0CMS, TAB0CUFビットは6相PWM出力モード時のみ設定可能です。TAB0単体では必ず“0”を設定してください。

リセット時 : 00H R/W アドレス : FFFFF545H

TAB0OPT0	7	6	5	4	3	2	1	①
	TAB0CCS3 ^{注1}	TAB0CCS2 ^{注1}	TAB0CCS1 ^{注1}	TAB0CCS0 ^{注1}	0	TAB0CMS	TAB0CUF	TAB0OVF ^{注2}

TAB0CMS	コンペア・レジスタの書き換えモード選択
0	一斉書き換えモード指定（転送動作指定）
1	随時書き換えモード指定
<ul style="list-style-type: none"> • TAB0CMSビットは、6相PWM出力モード（TAB0CTL1.TAB0MD2-TAB0MD0ビット = 111）設定時のみ有効です。それ以外のモードでは、TAB0CMSビット = 0としてください。 • TAB0CMSビットは、タイマ動作中（TAB0CTL0.TAB0CEビット = 1）の書き換えが可能です。 • 一斉書き込みモード選択時、対象になるレジスタは次のとおりです。 TAB0CCR0-TAB0CCR3, TAA40CCR0, TAA40CCR1, TAB0OPT1レジスタ 	

TAB0CUF	タイマAB0のアップ・カウント／ダウン・カウント・フラグ
0	タイマAB0がアップ・カウント中
1	タイマAB0がダウン・カウント中
TAB0CUFビットは、6相PWM出力モード（TAB0CTL1.TAB0MD2-TAB0MD0ビット = 111）設定時のみ有効です。	

- 注1. 6相PWM出力モード時はTAB0CCS3-TAB0CCS0ビットは必ず“0”を設定してください。
2. TAB0OVFビットの詳細は、第13章 16ビット・タイマ／イベント・カウンタABを参照してください。

(2) TAB0オプション・レジスタ1(TAB0OPT1)

タイマAB0オプション機能から発生する割り込み要求信号を制御する8ビットのレジスタです。

TAB0CTL0.TAB0CEビット = 1のときも、TAB0OPT1レジスタの書き換えができます。

書き換え方法は、TAB0OPT0.TAB0CMSビットにより、一斉書き込みモードと随時書き込みモードの2種類を選択できます。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

リセット時 : 00H R/W アドレス : FFFFF560H

	(7)	(6)	5	4	3	2	1	0
TAB0OPT1	TAB0ICE	TAB0IOE	0	TAB0ID4	TAB0ID3	TAB0ID2	TAB0ID1	TAB0ID0

TAB0ICE	山割り込み (INTTAB0CC0信号) 許可
0	INTTAB0CC0信号を使用しない(割り込み間引きのカウント信号としない)
1	INTTAB0CC0信号を使用する(割り込み間引きのカウント信号とする)

TAB0IOE	谷割り込み (INTTAB0OV信号) 許可
0	INTTAB0OV信号を使用しない(割り込み間引きのカウント信号としない)
1	INTTAB0OV信号を使用する(割り込み間引きのカウント信号とする)

TAB0ID4	TAB0ID3	TAB0ID2	TAB0ID1	TTAB0ID0	割り込み回数の選択
0	0	0	0	0	間引きなし(すべての割り込みを出力)
0	0	0	0	1	1マスク(2回に1回の割り込みを出力)
0	0	0	1	0	2マスク(3回に1回の割り込みを出力)
0	0	0	1	1	3マスク(4回に1回の割り込みを出力)
:	:	:	:	:	:
1	1	1	0	0	28マスク(29回に1回の割り込みを出力)
1	1	1	0	1	29マスク(30回に1回の割り込みを出力)
1	1	1	1	0	30マスク(31回に1回の割り込みを出力)
1	1	1	1	1	31マスク(32回に1回の割り込みを出力)



(3) TAB0オプション・レジスタ2 (TAB0OPT2)

タイマABオプション機能を制御する8ビットのレジスタです。

TAB0CTL0.TAB0CEビット = 1のときも ,TAB0OPT2レジスタの書き換えが可能です。ただし ,TAB0DTMビットはTAB0CEビット = 1のとき ,書き換え禁止です。同値書き込みは可能です。

8/1ビット単位でリード / ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

(1/2)

リセット時 : 00H R/W アドレス : FFFFF561H

	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	(0)
TAB0OPT2	TAB0RDE	TAB0DTM	TAB0ATM3	TAB0ATM2	TAB0AT3	TAB0AT2	TAB0AT1	TAB0AT0

TAB0RDE	転送間引き許可
0	転送の間引きなし (山, 谷で毎回転送タイミングが発生)
1	TAB0OPT1レジスタで設定した割り込み間引きと同じ間隔で転送を間引く

TAB0DTM	デッド・タイム・カウンタ動作モード選択
0	通常のアップ・カウントを行い , TAB0のTOAB0m出力が狭間 (TOAB0m出力幅 < デッド・タイム幅) の場合は , デッド・タイム・カウンタをクリアし再カウントを行う。
1	通常のアップ・カウントを行い , TAB0のTOAB0m出力が狭間隔 (TOAB0m出力幅 < デッド・タイム幅) の場合は , デッド・タイム・カウンタはダウン・カウント動作に切り替わり , デッド・タイム制御幅が自動的に狭くなる。
TAB0DTMビットは , タイマ動作中の書き換えは禁止です。誤って書き換えた場合は , 一度TAB0CEビット = 0にしてタイマ動作を停止してから , 再度設定を行ってください。	

TAB0ATM3	TAB0ATM3モード選択
0	INTTAA4CC1割り込みのA/Dトリガ信号 (TABTADT0) をアップ・カウント時に出力
1	INTTAA4CC1割り込みのA/Dトリガ信号 (TABTADT0) をダウン・カウント時に出力

TAB0ATM2	TAB0ATM2モード選択
0	INTTAA4CC0割り込みのA/Dトリガ信号 (TABTADT0) をアップ・カウント時に出力
1	INTTAA4CC0割り込みのA/Dトリガ信号 (TABTADT0) をダウン・カウント時に出力

注意 割り込み間引きを使用する場合 (TAB0OPT1.TAB0ID4-TAB0ID0ビット = 00000以外)には ,必ずTAB0RDEビット = 1に設定してください。
このため , 割り込みと転送は同じタイミングで発生します。別々の設定はできません。別々の設定を行った場合 (TAB0RDEビット = 0) は転送が正常に行われません。

備考 m = 1-3

(2/2)

TAB0AT3 ^注	A/Dトリガ出力制御3
0	INTTAA4CC1割り込みのA/Dトリガ信号 (TABTADT0) の出力禁止
1	INTTAA4CC1割り込みのA/Dトリガ信号 (TABTADT0) の出力許可

TAB0AT2 ^注	A/Dトリガ出力制御2
0	INTTAA4CC0割り込みのA/Dトリガ信号 (TABTADT0) の出力禁止
1	INTTAA4CC0割り込みのA/Dトリガ信号 (TABTADT0) の出力許可

TAB0AT1 ^注	A/Dトリガ出力制御1
0	INTTAB0CC0 (山割り込み) のA/Dトリガ信号 (TABTADT0) の出力禁止
1	INTTAB0CC0 (山割り込み) のA/Dトリガ信号 (TABTADT0) の出力許可

TAB0AT0 ^注	A/Dトリガ出力制御0
0	INTTAB0OV (谷割り込み) のA/Dトリガ信号 (TABTADT0) の出力禁止
1	INTTAB0OV (谷割り込み) のA/Dトリガ信号 (TABTADT0) の出力許可

注 TAB0AT3-TAB0AT0ビットの設定については、23.4.6 A/D変換開始

トリガ出力機能を参照してください。

(4) TAB0オプション・レジスタ3 (TAB0OPT3)

タイマABオプション機能を制御する8ビットのレジスタです。

TAB0CTL0.TAB0CEビット = 1のときも、TAB0OPT3レジスタの書き換えが可能です。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

注意 TAB0OPT3レジスタはV850ES/FK3のみ

リセット時 : 00H R/W アドレス : TAB0OPT3 FFFFF563H

	7	6	(5)	(4)	(3)	(2)	(1)	(0)
TAB0OPT3	0	0	TAB0ATM7	TAB0ATM6	TAB0AT7	TAB0AT6	TAB0AT5	TAB0AT4

TAB0ATM7	TAB0ATM7モード選択
0	INTTAA4CC1割り込みのA/Dトリガ信号 (TABTADT1) をアップ・カウント時に出力
1	INTTAA4CC1割り込みのA/Dトリガ信号 (TABTADT1) をダウン・カウント時に出力

TAB0ATM6	TAB0ATM6モード選択
0	INTTAA4CC0割り込みのA/Dトリガ信号 (TABTADT1) をアップ・カウント時に出力
1	INTTAA4CC0割り込みのA/Dトリガ信号 (TABTADT1) をダウン・カウント時に出力

TAB0AT7	A/Dトリガ出力制御7
0	INTTAA4CC1割り込みのA/Dトリガ信号 (TABTADT1) の出力禁止
1	INTTAA4CC1割り込みのA/Dトリガ信号 (TABTADT1) の出力許可

TAB0AT6	A/Dトリガ出力制御6
0	INTTAA4CC0割り込みのA/Dトリガ信号 (TABTADT1) の出力禁止
1	INTTAA4CC0割り込みのA/Dトリガ信号 (TABTADT1) の出力許可

TAB0AT5	A/Dトリガ出力制御5
0	INTTAB0CC0 (山割り込み) のA/Dトリガ信号 (TABTADT1) の出力禁止
1	INTTAB0CC0 (山割り込み) のA/Dトリガ信号 (TABTADT1) の出力許可

TAB0AT4	A/Dトリガ出力制御4
0	INTTAB0OV (谷割り込み) のA/Dトリガ信号 (TABTADT1) の出力禁止
1	INTTAB0OV (谷割り込み) のA/Dトリガ信号 (TABTADT1) の出力許可

注意 割り込み間引きを使用する場合 (TAB0OPT1.TAB0ID4-TAB0ID0ビット = 00000以外)には、必ずTAB0RDEビット = 1に設定してください。
このため、割り込みと転送は同じタイミングで発生します。別々の設定はできません。別々の設定を行った場合 (TAB0RDEビット = 0) は転送が正常に行われません。

備考 m = 1-3

(5) TAB0 I/O制御レジスタ3 (TAB0IOC3)

タイマAB0オプション機能の出力を制御する8ビットのレジスタです。

TOAB0Tm端子を出力するためには、TAB0IOC0.TAB0OE_mビット = 1に設定してからTAB0IOC3レジスタを設定してください。

TAB0CTL0.TAB0CEビット = 0のときのみ、TAB0IOC3レジスタの書き換えが可能です。

TAB0CTL0.TAB0CEビット = 1のとき、TAB0IOC3レジスタの各ビットの書き換えは禁止です。

TAB0CTL0.TAB0CEビット = 1のとき、TAB0IOC3レジスタの各ビットの同値書き込みは可能です。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセットによりA8Hになります。

注意 6相PWM出力モード以外のモードでタイマを使用する場合はTAB0IOC3レジスタの値はリセット値(A8H)に設定してください。

備考 TOAB0Tm端子の出力レベルの設定は、TAB0IOC0レジスタで行ってください。

リセット時 : A8H R/W アドレス : FFFFF562H

	(7)	(6)	(5)	(4)	(3)	(2)	1	0
TAB0IOC3	TAB0OLB3	TAB0OEB3	TAB0OLB2	TAB0OEB2	TAB0OLB1	TAB0OEB1	0	0

TAB0OLB _m		TOAB0B _m 端子出力レベルの設定
0		TOAB0B _m 端子出力反転禁止
1		TOAB0B _m 端子出力反転許可

TAB0OEB _m		TOAB0B _m 端子出力の設定
0		TOAB0B _m 端子出力禁止 ・ TAB0OLB _m ビット = 0 のときTOAB0B _m 端子からロウ・レベルを出力 ・ TAB0OLB _m ビット = 1 のときTOAB0B _m 端子からハイ・レベルを出力
1		TOAB0B _m 端子出力許可

備考 m = 1-3

(a) TOAB0Tm, TOAB0Bm端子出力

TOAB0Tm端子出力は, TAB0IOC0.TAB0OLm, TAB0OEmビットによって制御されます。TOAB0Bm端子出力は, TAB0IOC3.TAB0OLBm, TAB0OEBmビットによって制御されます。

6相PWM出力モードにおける各設定でのタイマ出力を次に示します。

図23 - 3 TOAB0Tm, TOAB0Bm端子出力制御

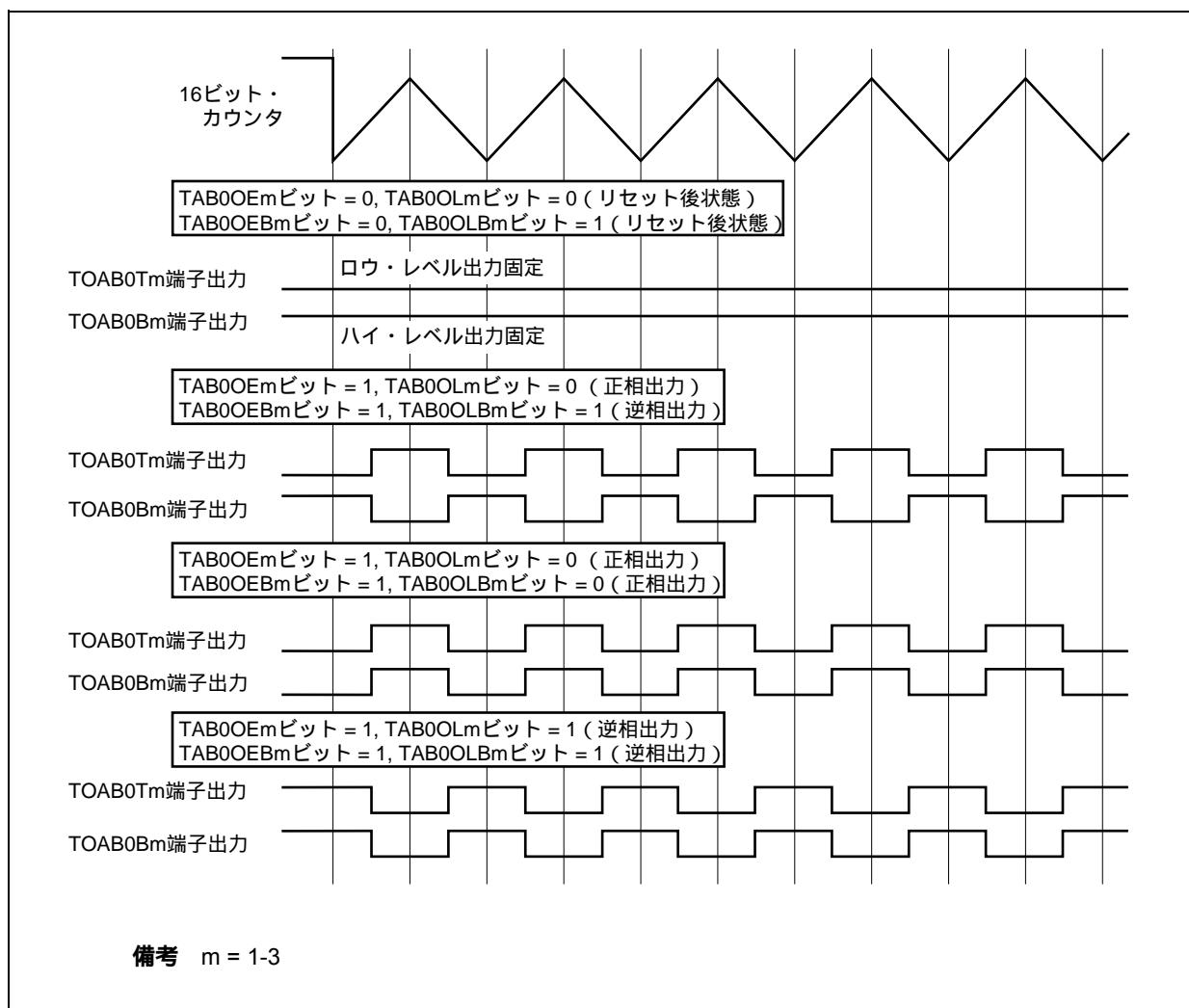


表23 - 1 TOAB0Tm端子出力

TAB0OLmビット	TAB0OE _m ビット	TAB0CEビット	TOAB0Tm端子出力
0	0	X	ロウ・レベル出力
	1	0	ロウ・レベル出力
		1	TOAB0Tm正相出力
1	0	X	ハイ・レベル出力
	1	0	ハイ・レベル出力
		1	TOAB0Tm逆相出力

備考 m = 1-3

表23 - 2 TOAB0Bm端子出力

TAB0OLBmビット	TAB0OEB _m ビット	TAB0CEビット	TOAB0Bm端子出力
0	0	X	ロウ・レベル出力
	1	0	ロウ・レベル出力
		1	TOAB0Bm正相出力
1	0	X	ハイ・レベル出力
	1	0	ハイ・レベル出力
		1	TOAB0Bm逆相出力

備考 m = 1-3

(5) ハイ・インピーダンス出力制御レジスタ0, 1 (HZA0CTL0, HZA0CTL1)

HZA0CTL0, HZA0CTL1レジスタは、出力バッファのハイ・インピーダンス制御をする8ビットのレジスタです。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。ただしHZA0DCF0, HZA0DCF1ビットは、リードのみ可能で、ライト動作を行っても書き込めません。

16ビット・アクセスは、できません。

リセットにより00Hになります。

HZA0CTL0, HZA0CTL1レジスタは、常時ソフトウェアでの同値書き込みが可能です。

検出要因／制御レジスタの関係を次に示します。

ハイ・インピーダンス制御対象端子	ハイ・インピーダンス制御要因	制御レジスタ
	外部端子	
TOAB0T1-TOAB0T3出力時	INTP1	HZA0CTL0
TOAB0B1-TOAB0B3出力時		
TOAA31出力時	INTP3	HZA0CTL1

注意 ハイ・インピーダンス制御が行われるのは、対象ポートを表中の対象端子に設定した場合にかぎります。

リセット時 : 00H R/W アドレス : HZA0CTL0 FFFFF570H, HZA0CTL1 FFFFF571H

HZA0CTLn	(7) HZA0DCEn	(6) HZA0DCMn	5 HZA0DCNn	4 HZA0DCPn	(3) HZA0DCTn	(2) HZA0DCCn	1 0	(0) HZA0DCFn
(n = 0, 1)								

HZA0DCEn		ハイ・インピーダンス出力の制御						
0		ハイ・インピーダンス出力制御動作禁止。対象端子出力可能						
1		ハイ・インピーダンス出力制御動作許可						

HZA0DCMn		HZA0DCCnビットによるハイ・インピーダンス解除の条件						
0		外部端子注入力に関係なく、HZA0DCCnビットの設定が有効						
1		外部端子注入力が異常検出したレベル（アクティブ・レベル）を保持している期間はHZA0DCCnビットの設定が無効。						
HZA0DCMnビットを書き換える場合はHZA0DCEnビット = 0のとき行ってください。								

HZA0DCNn HZA0DCPn			外部端子注の入力エッジ指定					
0	0		有効エッジなし（外部端子注入力によるHZA0DCFnビットのセット禁止）					
0	1		外部端子注の入力の立ち上がりエッジを有効（立ち上がりエッジ入力で異常検出）					
1	0		外部端子注の入力の立ち下がりエッジを有効（立ち下がりエッジ入力で異常検出）					
1	1		設定禁止					

- ・ HZA0DCNn, HZA0DCPnビットを書き換える場合はHZA0DCEnビット = 0のとき行ってください。
- ・ INTP0-INTP3端子のエッジ指定については、 第5章 割り込みコントローラ（INTC）を参照してください。
- ・ 外部端子のエッジ指定は、まずINTP1, INTP3端子から行ってください。
その後、INTP1, INTP3端子以外の外部端子のエッジ指定を行ってください。
それ以外の場合には、INTP1, INTP3端子のエッジ指定時に不定なエッジを検出することがあります。
- ・ ハイ・インピーダンス出力制御は動作許可（HZA0DCEnビット = 1）後に有効エッジが入力された場合に行われます。したがって、動作許可する時点で外部端子注がアクティブ・レベルである場合は、ハイ・インピーダンス出力制御は行われません。

注 HZA0CTL0 : INTP1端子, HZA0CTL1 : INTP3端子

(2/2)

HZA0DCTn	ハイ・インピーダンス出力トリガ・ビット
0	非動作
1	ソフトウェアで対象端子をハイ・インピーダンスにして、HZA0DCFnビットがセット(1)されます。

・外部端子注に異常を示すエッジが入力(HZA0DCNn, HZA0DCPnビットの設定により検出)された場合、HZA0DCTnビットに1を設定しても無効です。
 ・HZA0DCTnビットはソフトウェア・トリガ・ビットなのでリードすると必ず0が読み出されます。
 ・HZA0DCEnビット = 0のとき、HZA0DCTnビットに1を設定しても無効です。
 ・HZA0DCTnビットとHZA0DCCnビットを同時に1に設定することは禁止です。

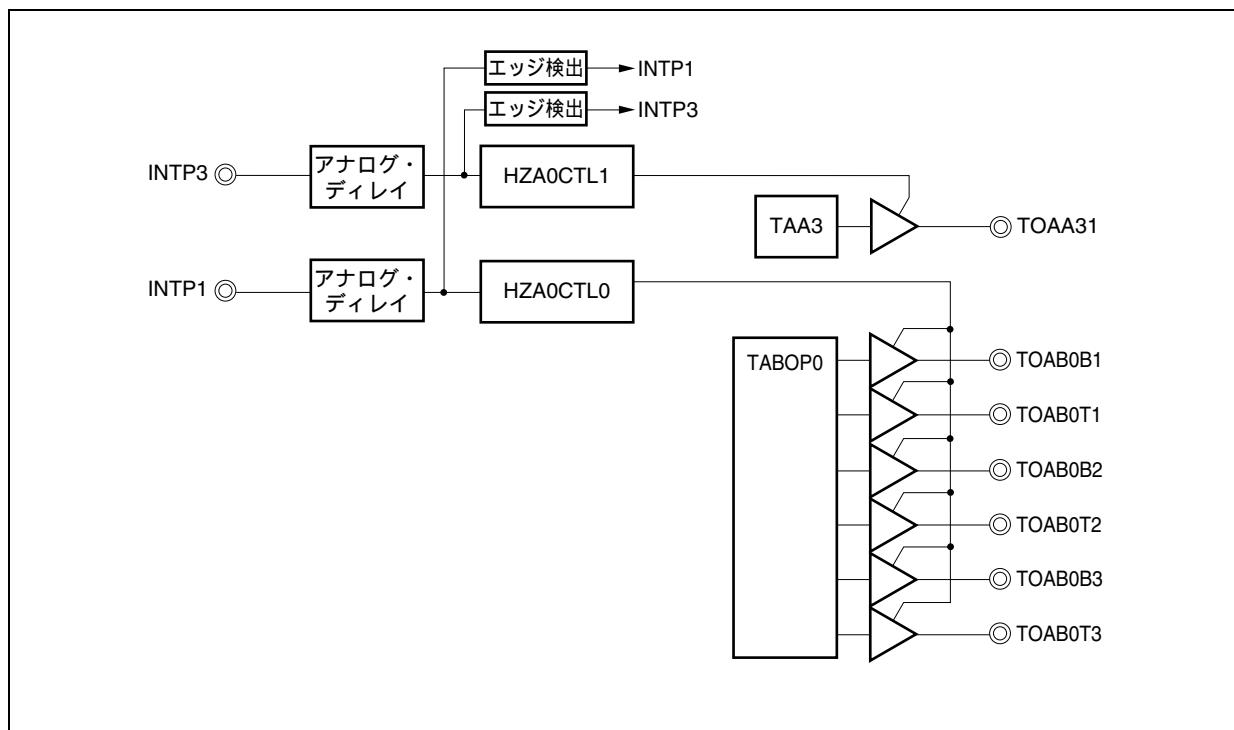
HZA0DCCn	ハイ・インピーダンス出力制御クリア・ビット
0	非動作
1	ハイ・インピーダンス状態の対象端子をソフトウェアで出力許可状態にして、HZA0DCFnビットがクリア(0)されます。

・HZA0DCMビット = 0のとき、外部端子注の状態にかかわらず対象端子の出力が可能です。
 ・HZA0DCMビット = 1のとき、外部端子注に異常を示すエッジが入力(HZA0DCNn, HZA0DCPnビットの設定により検出)された場合、HZA0DCCnビットに1を設定しても無効です。
 ・HZA0DCCnビットはリードすると必ず0が読み出されます。
 ・HZA0DCEnビット = 0のとき、HZA0DCCnビットに1を設定しても無効です。
 ・HZA0DCTnビットとHZA0DCCnビットを同時に1に設定することは禁止です。

HZA0DCFn	ハイ・インピーダンス出力状態フラグ
0	対象端子の出力が可能状態であることを示します。 ・HZA0DCEnビット = 0によりクリア(0)されます。 ・HZA0DCCnビット = 1によりクリア(0)されます。
1	対象端子の出力がハイ・インピーダンス状態であることを示します。 ・HZA0DCTnビット = 1によりセット(1)されます。 ・外部端子注に異常を示すエッジが入力(HZA0DCNn, HZA0DCPnビットの設定により検出)された場合、セット(1)されます。

注 HZA0CTL0 : INTP1端子, HZA0CTL1 : INTP3端子

図23-4 ハイ・インピーダンス出力制御回路構成



(a) 設定手順

(i) ハイ・インピーダンス制御動作を設定する方法

- <1> HZA0DCMn, HZA0DCNn, HZA0DCPnビットの設定
- <2> HZA0DCEnビット = 1 (ハイ・インピーダンス制御の許可)

(ii) ハイ・インピーダンス制御許可設定後に変更する方法

- <1> HZA0DCEnビット = 0 (ハイ・インピーダンス制御動作の停止)。
- <2> HZA0DCMn, HZA0DCNn, HZA0DCPnビットの変更設定。
- <3> HZA0DCEnビット = 1 (ハイ・インピーダンス制御の再許可)。

(iii) 端子がハイ・インピーダンス状態のとき、出力を再開する方法

HZA0DCMnビット = 1の場合、外部端子^注の有効エッジ検出後、ハイ・インピーダンス状態の解除のためHZA0DCCnビットに1をセットしますが、外部端子^注の入力レベルがインアクティブ状態のときにセットしなければハイ・インピーダンス状態の解除はできません。

- <1> HZA0DCCnビット = 1 (ハイ・インピーダンス状態の解除命令信号)。
- <2> HZA0DCFnビットをリードし、フラグの状態を確認。
- <3> HZA0DCFnビット = 1ならば<1>の操作に戻る。外部端子^注の入力レベルの確認が必要。
HZA0DCFnビット = 0ならば端子出力可能。

(iv) ソフトウェアにより端子をハイ・インピーダンスにする方法

ソフトウェアによりHZA0DCTnビット = 1を設定し、端子をハイ・インピーダンスにするには、外部端子^注の入力レベルがインアクティブ状態のときにセットしなければなりません。次の手順は、HZA0DCMnビットの設定に依存しない例です。

- <1> HZA0DCTnビット = 1 (ハイ・インピーダンス出力命令)。
- <2> HZA0DCFnビットをリードし、フラグの状態を確認。
- <3> HZA0DCFnビット = 0ならば<1>の操作に戻る。外部端子^注の入力レベルの確認が必要。
HZA0DCFnビット = 1ならばハイ・インピーダンス状態。

ただし、HZA0DCPnビット = 0, HZA0DCNnビット = 0に設定し、外部端子^注入力を使用しない場合は、HZA0DCTnビットに1をセットすることでハイ・インピーダンス状態になります。

注 HZA0CTL0 : INTP1端子, HZA0CTL1 : INTP3端子

23.4 動 作

23.4.1 システム概要説明

(1) 6相PWM出力概要

6相PWM出力モードは、6相PWM出力波形を生成するためにTAB0とTAB0オプションを組み合わせて使用します。

6相PWM出力モードはTAB0のTAB0CTL1.TAB0MD2-TAB0MD0ビットを“111”に設定することにより有効となります。

基本3相波生成用にTAB0の1本の16ビット・カウンタと4本の16ビット・コンペア・レジスタを使用します。

コンペア・レジスタの機能は次のとおりです。

また、A/Dコンバータの変換開始トリガ・ソース用に、TAA4はTAB0と同調動作を行うことができます。

コンペア・レジスタ	機 能	設定可能範囲
TAB0CCR0レジスタ	周期の設定	0002H ~ m FFFEH
TAB0CCR1レジスタ	U相の出力幅の指定	0000H ~ i m + 1
TAB0CCR2レジスタ	V相の出力幅の指定	0000H ~ j m + 1
TAB0CCR3レジスタ	W相の出力幅の指定	0000H ~ k m + 1

備考 m = TAB0CCR0レジスタの設定値

i = TAB0CCR1レジスタの設定値

j = TAB0CCR2レジスタの設定値

k = TAB0CCR3レジスタの設定値

生成された基本3相波を3本の10ビット・デッド・タイム・カウンタと1本のコンペア・レジスタでデッド・タイム間隔生成を行って、基本3相波の逆相波を作り、6相PWM出力波形(U, \bar{U} , V, \bar{V} , W, \bar{W})を生成します。

基本3相波生成用の16ビット・カウンタは、アップ / ダウン・カウント動作を行います。動作開始後はアップ・カウント動作を行い、TAB0CCR0レジスタに設定された周期値と一致するとダウン・カウント動作に切り替わります。次に0001Hとの一致が起こると再びアップ・カウント動作に切り替わります。つまりTAB0CCR0レジスタに設定した値 + 1の2倍の値がキャリア周期となります。

デッド・タイム間隔生成用の10ビットのデッド・タイム・カウンタ1-3は、アップ・カウント動作を行うので、TAB0デッド・タイム・コンペア・レジスタ(TAB0DTC)に設定した値がデッド・タイム値そのものになります。また、カウンタは3本ありデッド・タイム生成をU相、V相、W相に対し独立に行うことができますが、デッド・タイム値の指定レジスタ(TAB0DTC)は1本であるため、3相とも同じデッド・タイム値となります。

図23-5 6相PWM出力モードの概要

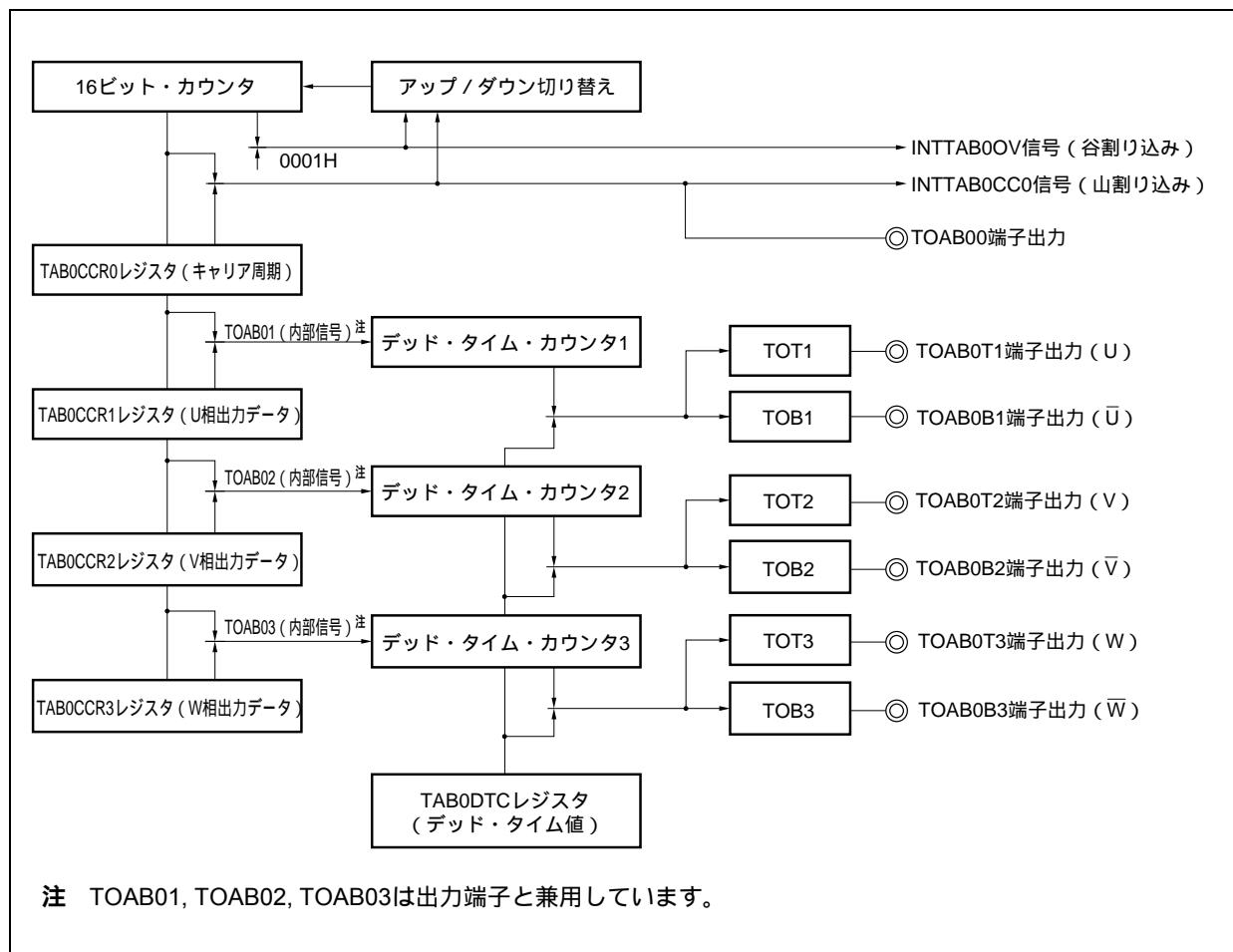
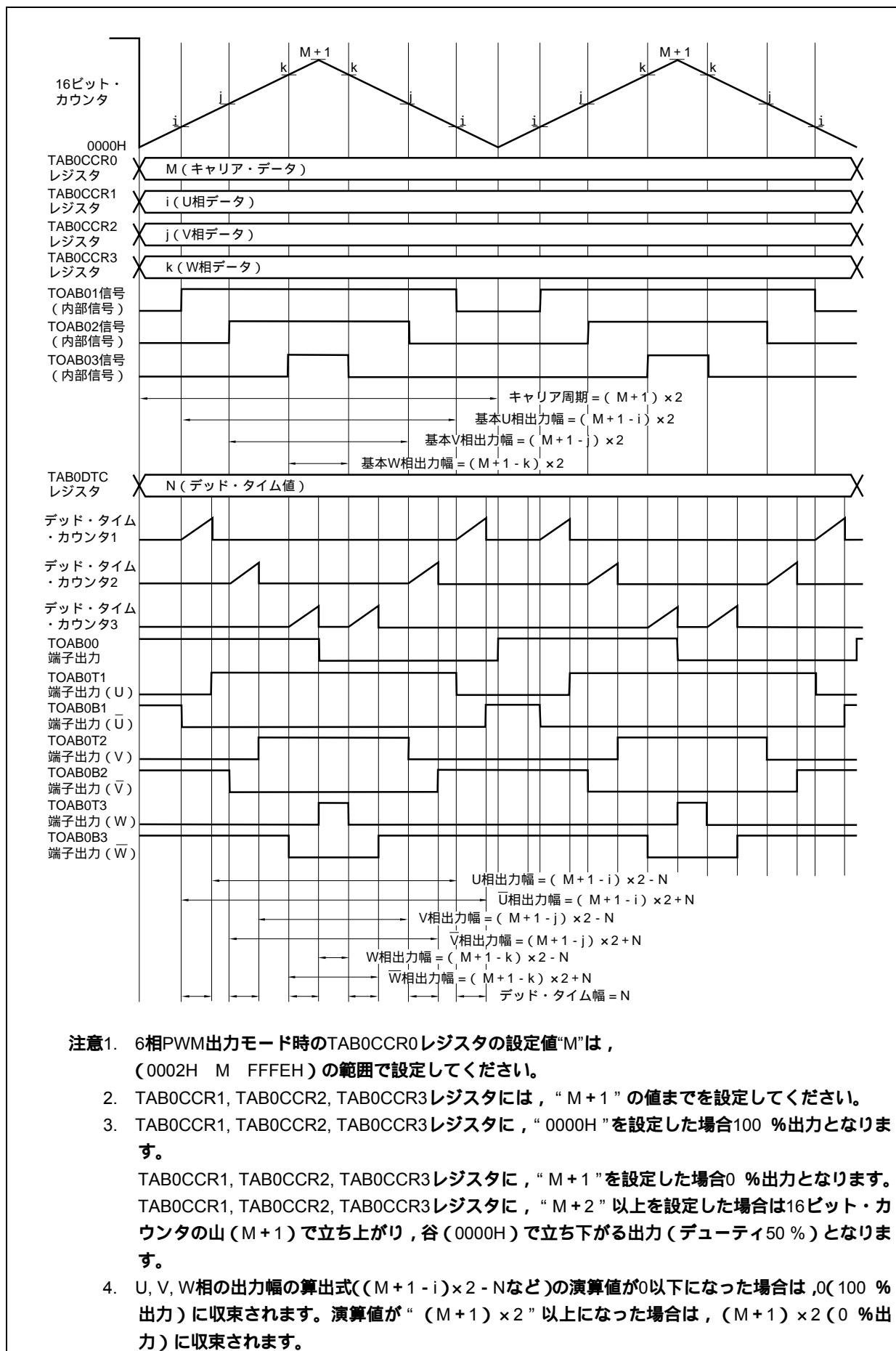


図23-6 6相PWM出力モードのタイミング図



(2) 割り込み要求

割り込み要求は、INTTAB0CC0（山割り込み）とINTTAB0OV（谷割り込み）の2種類あります。

INTTAB0CC0, INTTAB0OVは、TAB0OPT1レジスタで割り込み要求を間引くことができます。

割り込み間引きに関しての詳細は、23.4.3 割り込み間引き機能を参照してください。

- ・INTTAB0CC0（山割り込み）：アップ・カウント時の16ビット・カウンタの値とTAB0CCR0レジスタの値との一致割り込み
- ・INTTAB0OV（谷割り込み）：ダウン・カウント時の16ビット・カウンタの値と0001Hの一致割り込み

(3) タイマ動作中のレジスタの書き換えについて

次のレジスタには、バッファ・レジスタがあり、隨時書き換え、一斉書き換え、間欠一斉書き換えのいずれかの方法で書き換ができます。

関係ユニット	レジスタ
タイマAA4	TAA4キャプチャ / コンペア・レジスタ0 (TAA4CCR0) TAA4キャプチャ / コンペア・レジスタ1 (TAA4CCR1)
タイマAB0	TAB0キャプチャ / コンペア・レジスタ0 (TAB0CCR0) TAB0キャプチャ / コンペア・レジスタ1 (TAB0CCR1) TAB0キャプチャ / コンペア・レジスタ2 (TAB0CCR2) TAB0キャプチャ / コンペア・レジスタ3 (TAB0CCR3)
タイマAB0オプション	TAB0オプション・レジスタ1 (TAB0OPT1)

コンペア・レジスタの転送機能に関しての詳細は、23.4.4 転送機能付きレジスタの書き換え操作を参照してください。

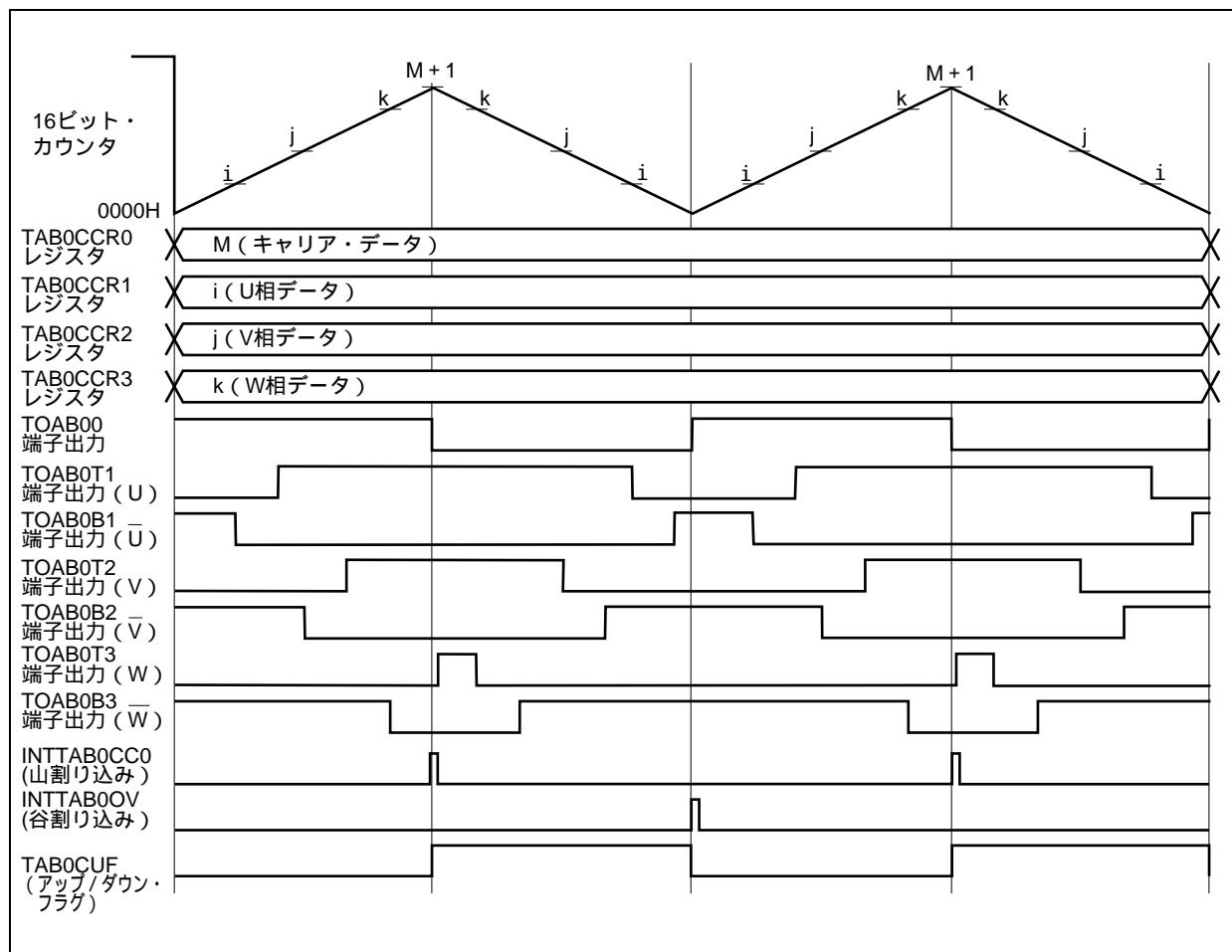
(4) 16ビット・カウンタのアップ／ダウン・カウント動作

16ビット・カウンタの動作状態は、TAB0オプション・レジスタ0 (TAB0OPT0) のTAB0CUFビットにより確認できます。

TAB0CUFビットの状態	16ビット・カウンタの状態	16ビット・カウンタの値の範囲
TAB0CUFビット = 0	アップ・カウント	0000H - m
TAB0CUFビット = 1	ダウン・カウント	(m + 1) - 0001H

備考 m = TAB0CCR0レジスタの設定値

図23-7 割り込みとアップ/ダウン・フラグ



23.4.2 デッド・タイム制御(逆相波信号の生成)

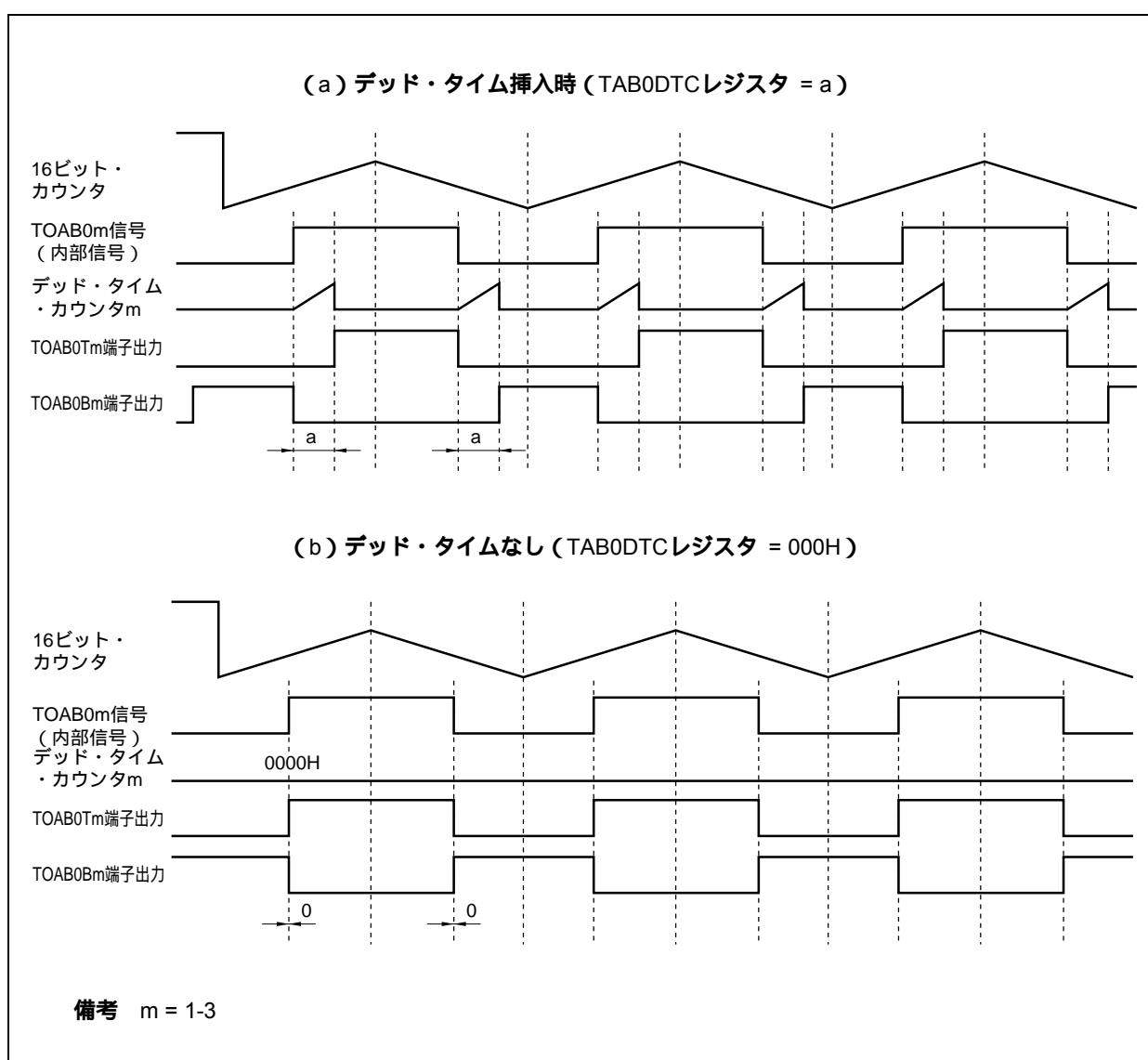
(1) デッド・タイム制御機構

6相PWM出力モードではデューティ用の設定レジスタはコンペア・レジスタ1-3 (TAB0CCR1, TAB0CCR2, TAB0CCR3)とし, 周期用の設定レジスタはコンペア・レジスタ0(TAB0CCR0)となります。

この4種類のレジスタを設定し, TABを動作させることでデューティ可変型の3種類のPWM出力波形(基本3相波)を生成します。この3種類のPWM出力波形をタイマABオプション・ユニット(TABOP0)で受け, デッド・タイムを付加した反転信号を作成することで, 3組6本のPWM波形を生成します。

TABOP0ユニットは, TAB0のカウント・クロックに同期して動作する3本の10ビット・カウンタ(デッド・タイム・カウンタ1-3)とデッド・タイムの時間を指定するTAB0デッド・タイム・コンペア・レジスタ(TAB0DTC)で構成されます。TAB0DTCレジスタに“a”を設定するとデッド・タイム値は“a”となり, 正相波と逆相波の間に“a”的間隔が作られます。

図23-8 デッド・タイム付加後のPWM出力波形(1)



(2) 0 % / 100 %のPWM出力

本マイクロコントローラは、PWM出力の0 %波形出力、および100 %波形出力が可能です。

0 %波形出力は、TOAB0Tm端子からロウ・レベルを出力し続けます。100 %波形はTOAB0Tm端子からハイ・レベルを出力し続けます。

0 %波形は、TAB0CCR0レジスタ = Mの場合、TAB0CCRmを“M + 1”に設定することにより出力されます。

100 %波形は、TAB0CCRmレジスタを“0000H”に設定することにより出力されます。

なお、タイマ動作中にTAB0CCRmレジスタの書き換えは許可されており、山割り込み(INTTAB0CC0)および谷割り込み(INTTAB0OV)のポイントで0 %波形出力 / 100 %波形出力に切り替えできます。

備考 m = 1-3

図23-9 0 % PWM出力波形図(デッド・タイムなし)

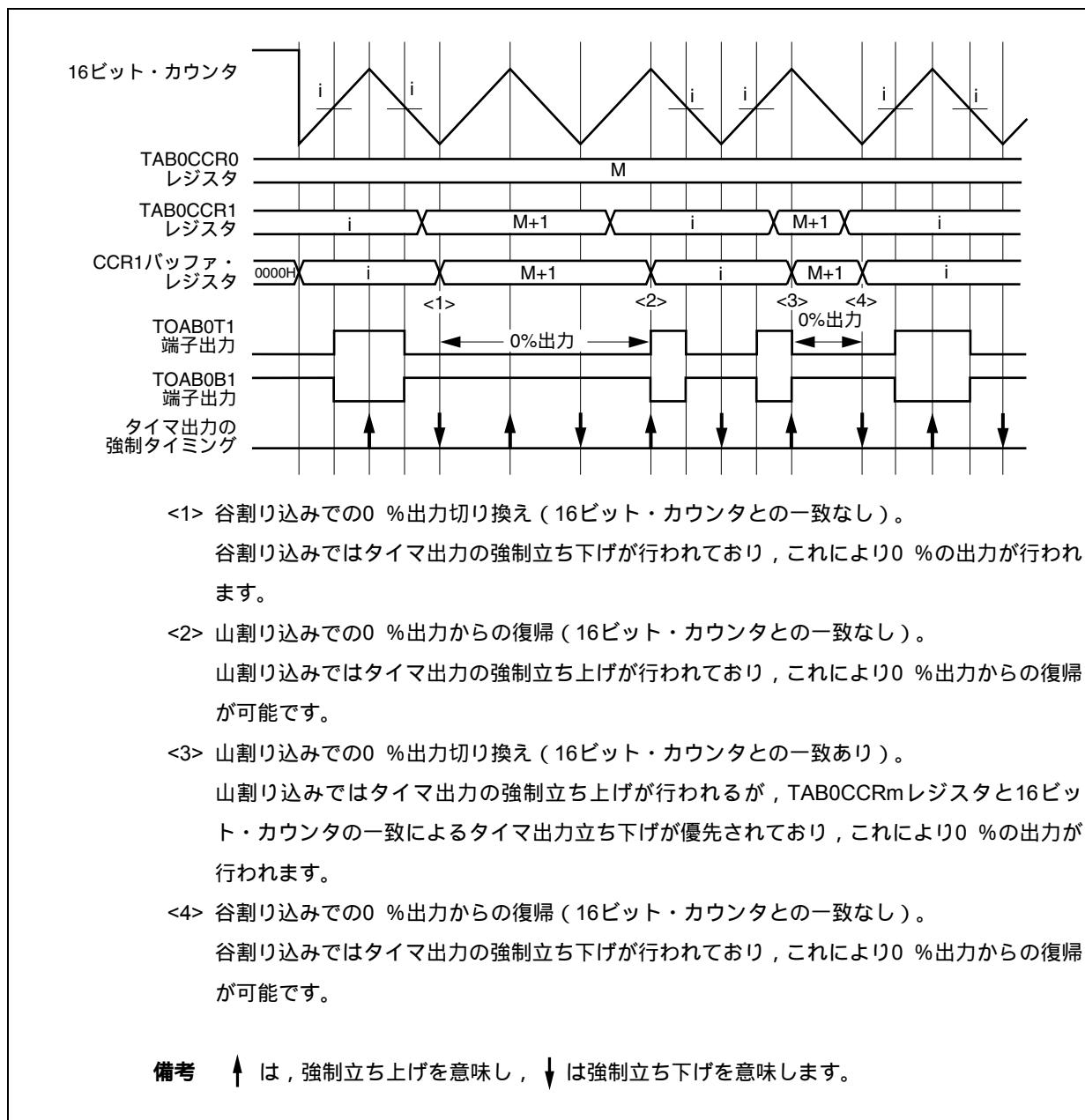


図23-10 100 %PWM出力波形図(デッド・タイムなし)

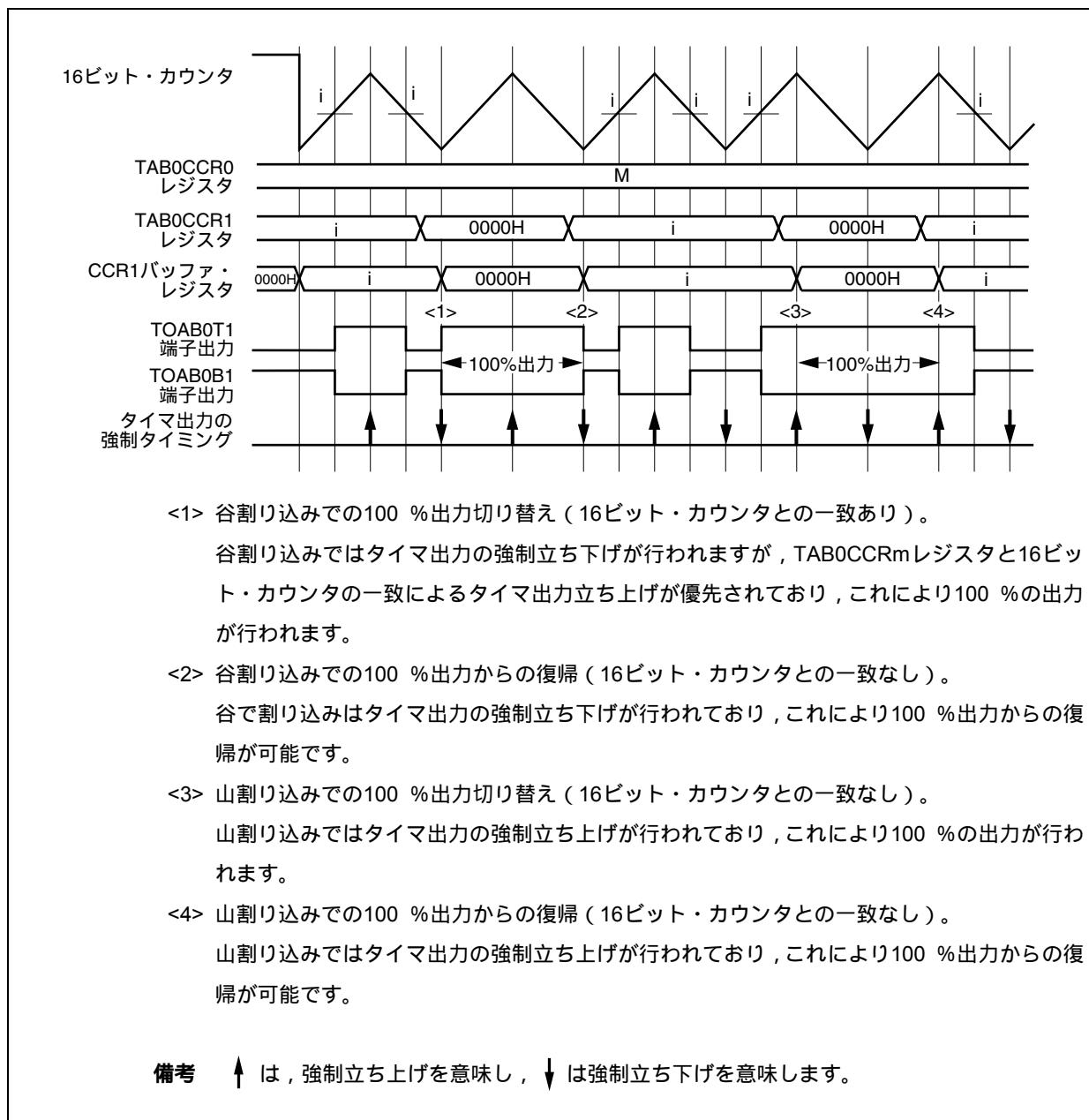
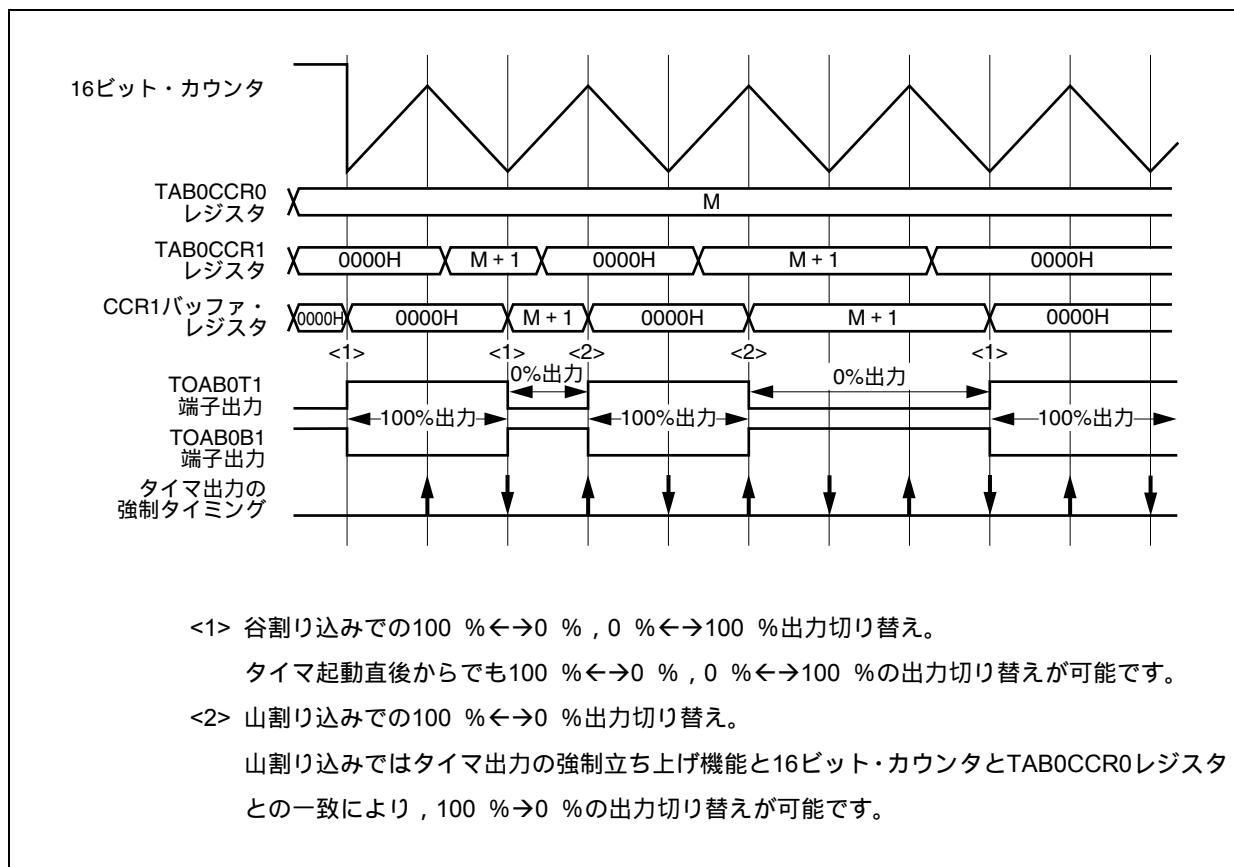


図23-11 0 %から100 %, 100 %から0 %のPWM出力波形図(デッド・タイムなし)



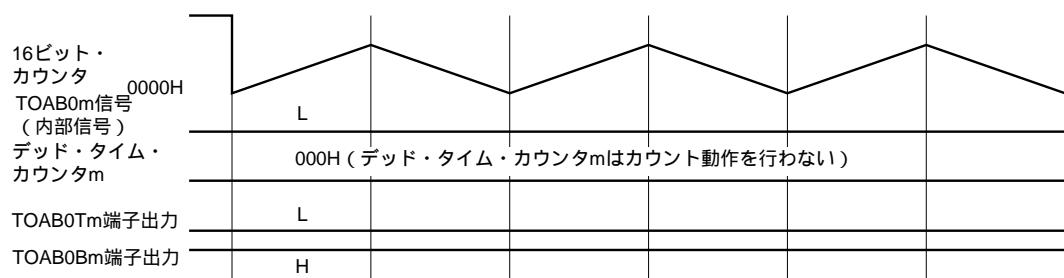
(3) 0 %, 100 %出力近傍の出力波形

デッド・タイム・カウント中にコンペア・レジスタと16ビット・カウンタとの一致割り込みが発生した場合、デッド・タイム・カウンタはクリアされ、再びカウント動作をします。

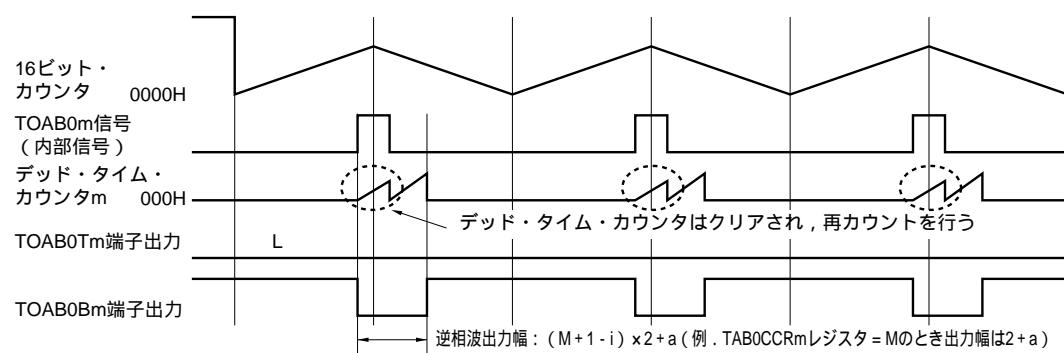
0 %, 100 %出力の近傍でのデッド・タイム制御の出力波形を次に示します。

図23-12 デッド・タイム付加後のPWM出力波形(2)

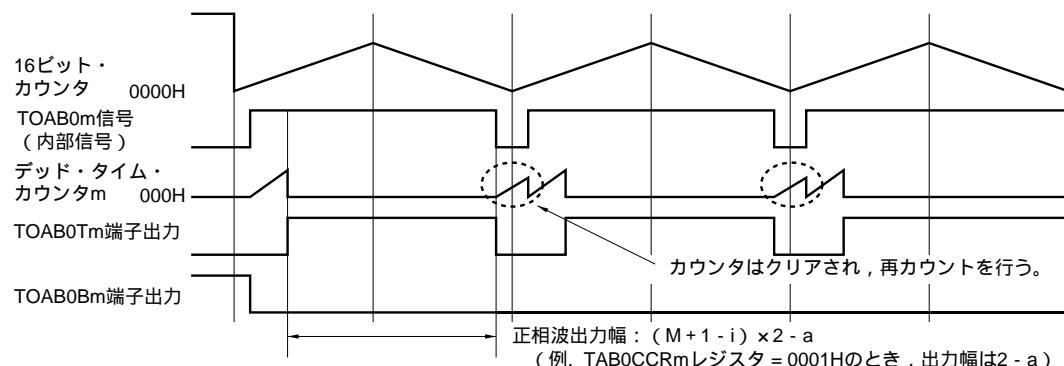
(a) 0 %出力 (TAB0CCRmレジスタ = M + 1, TAB0CCR0レジスタ = M, TAB0DTCレジスタ = a)



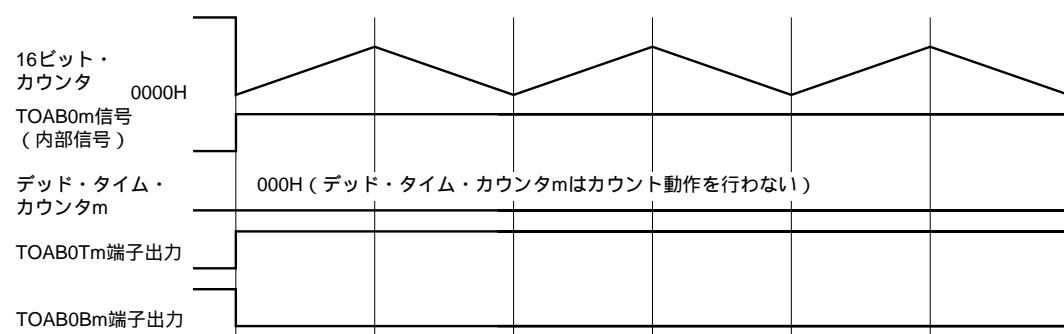
(b) 0 %出力近傍 (TAB0CCRmレジスタ = i - M + 1 - a/2, TAB0CCR0レジスタ = M, TAB0DTCレジスタ = a)



(c) 100 %出力近傍 (TAB0CCRmレジスタ = i - a/2, TAB0CCR0レジスタ = M, TAB0DTCレジスタ = a)



(d) 100 %出力 (TAB0CCRmレジスタ = 0000H, TAB0CCR0レジスタ = M, TAB0DTCレジスタ = a)



備考 m = 1-3

(4) デッド・タイム幅の自動縮小機能 (TAB0OPT2.TAB0DTMビット = 1)

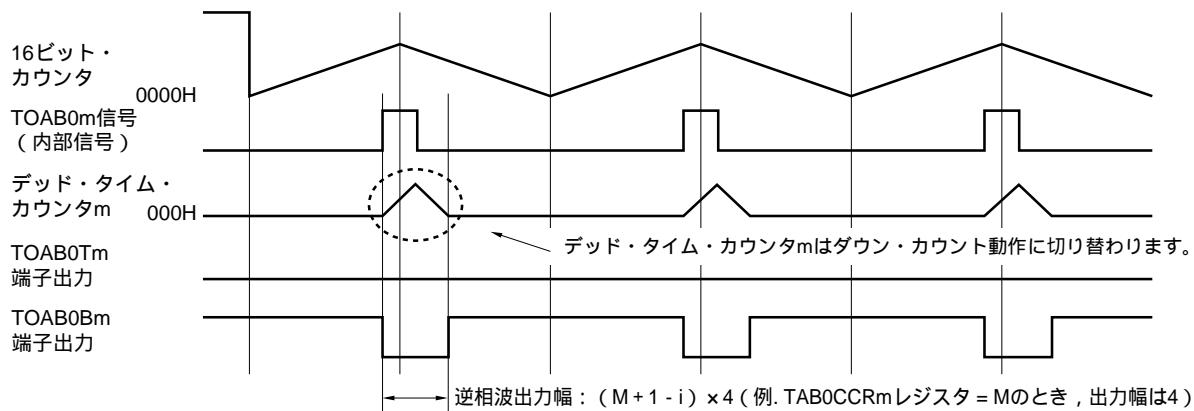
TAB0OPT2.TAB0DTMビットを“1”に設定することにより, 0 %出力近傍 / 100 %出力近傍でのデッド・タイム幅を自動で縮小できます。

TAB0DTMビット = 1に設定することにより, デッド・タイム・カウント中に再度のタイマABのTOAB0m (内部信号) 出力変化が起こった場合, カウンタ・クリア動作は行わず, デッド・タイム・カウンタはダウン・カウント動作に切り替わります。

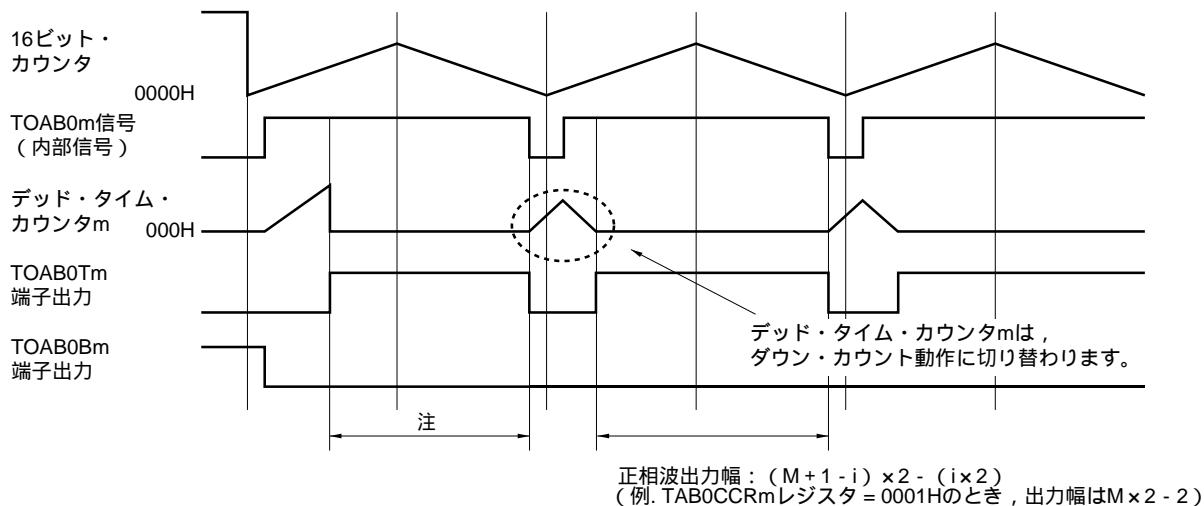
TAB0DTMビット = 1に設定した場合のタイミング・チャートを次に示します。

図23-13 デッド・タイム・カウンタmの動作(1)

(a) 0 %出力近傍 (TAB0CCRmレジスタ = i M + 1 - a/2, TAB0CCR0レジスタ = M, TAB0DTCレジスタ = a)



(b) 100 %出力近傍 (TAB0CCRmレジスタ = i a/2, TAB0CCR0レジスタ = M, TAB0DTCレジスタ = a)



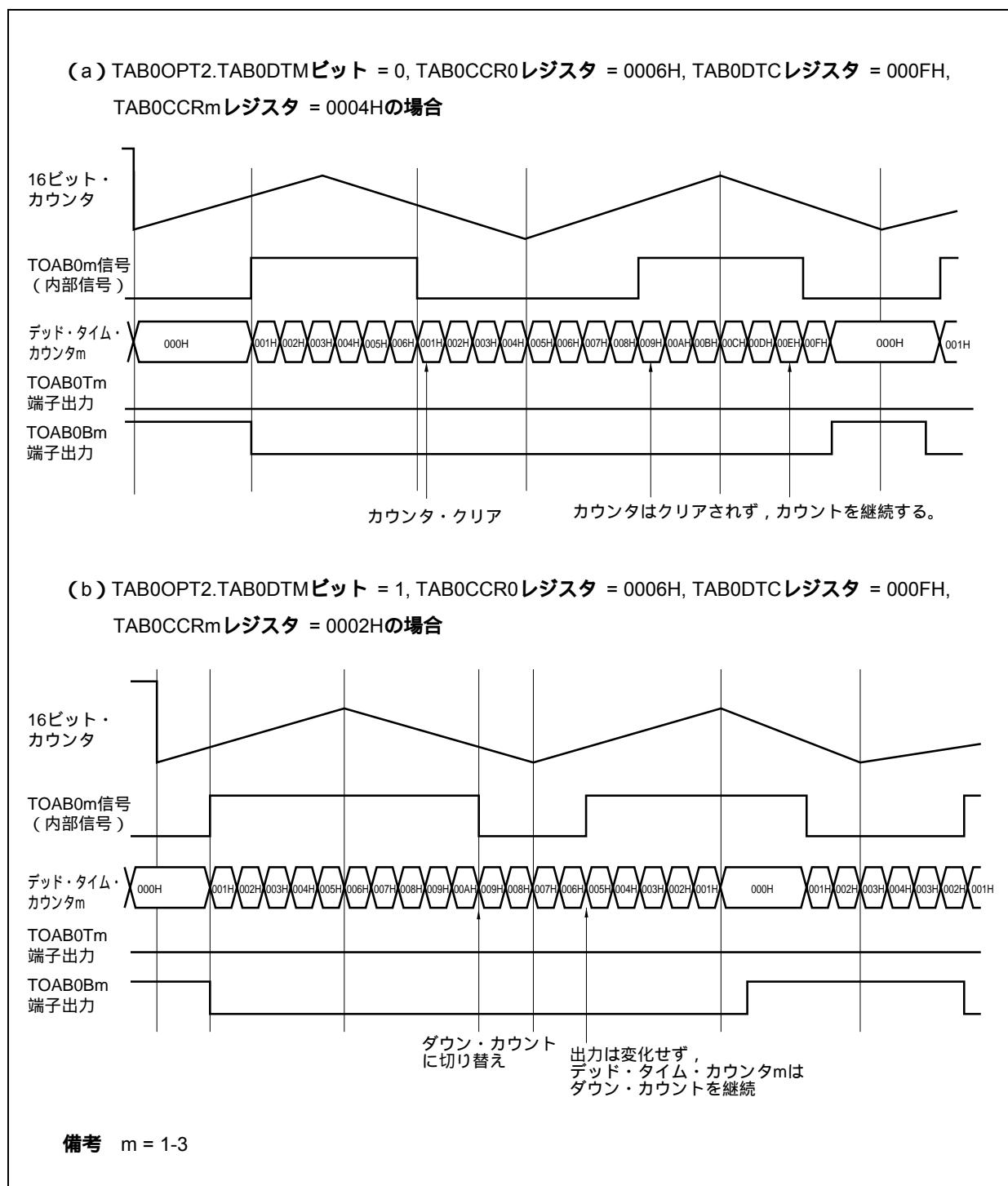
注 TAB0CTL0.TAB0CEビット = 1直後の第1波の出力幅と第2波以降の出力幅は異なります。第1波が第2波以降に比べ, デッド・タイムをフルカウントする分短くなります。

備考 m = 1-3

(5) 異常設定時のデッド・タイム制御

通常使用であれば、デッド・タイム・カウント中に再度のTAB0のTOAB0m（内部信号）出力変化が起こるのは1度だけで、0 %, 100 %出力の近傍のみです。ここでは、TAB0CCR0レジスタ（キャリア周期）とTAB0DTCレジスタ（デッド・タイム値）の設定を誤り異常な設定をした場合の動作を示します。異常設定をすると、デッド・タイム・カウント中に2, 3度のTAB0のTOAB0m（内部信号）出力変化が起ります。この場合の6相PWM出力波形の出力例を示します。

図23-14 デッド・タイム・カウンタmの動作(2)



23.4.3 割り込み間引き機能

- ・間引き対象割り込みは、INTTAB0CC0（山割り込み）とINTTAB0OV（谷割り込み）です。
- ・TAB0OPT1.TAB0ICEビットで、INTTAB0CC0割り込みの出力許可と間引きカウント対象指定を行います。
- ・TAB0OPT1.TAB0IOEビットで、INTTAB0OV割り込みの出力許可と間引きカウント対象指定を行います。
- ・TAB0OPT2.TAB0RDEビットで、転送の間引きあり／なしが指定可能です。
- ・間引きありに指定した場合は、間引き後の割り込み出力と同タイミングにて転送が実行されます。
間引きなしに指定した場合は、TAB0CCR1レジスタ書き込み後の転送タイミングで転送が実行されます。
- ・TAB0OPT0.TAB0CMSビットで、一斉書き換え／随時書き換えが指定可能。
- ・TAB0CMSビット = 0のときは転送に同期してレジスタ値が更新されますが、TAB0CMSビット = 1のときは書き込み後、ただちにレジスタ値が更新されます。
- ・転送タイミングは、割り込み間引きタイミングに同期して、TAB0CCRmレジスタからCCRmバッファ・レジスタに転送されます。

注意1. 一斉書き換えモード（転送モード）で割り込み間引き機能を使用する場合には、必ず間欠一斉書き換えモード（転送間引きモード）で行ってください。
2. 割り込みは間引き後のタイミングで発生します。

(1) 割り込み間引き動作

図23-15 TAB0OPT1.TAB0ICEビット = 1, TAB0IOEビット = 1, TAB0OPT2.TAB0RDEビット = 1での割り込み
間引き動作(山/谷割り込み出力)

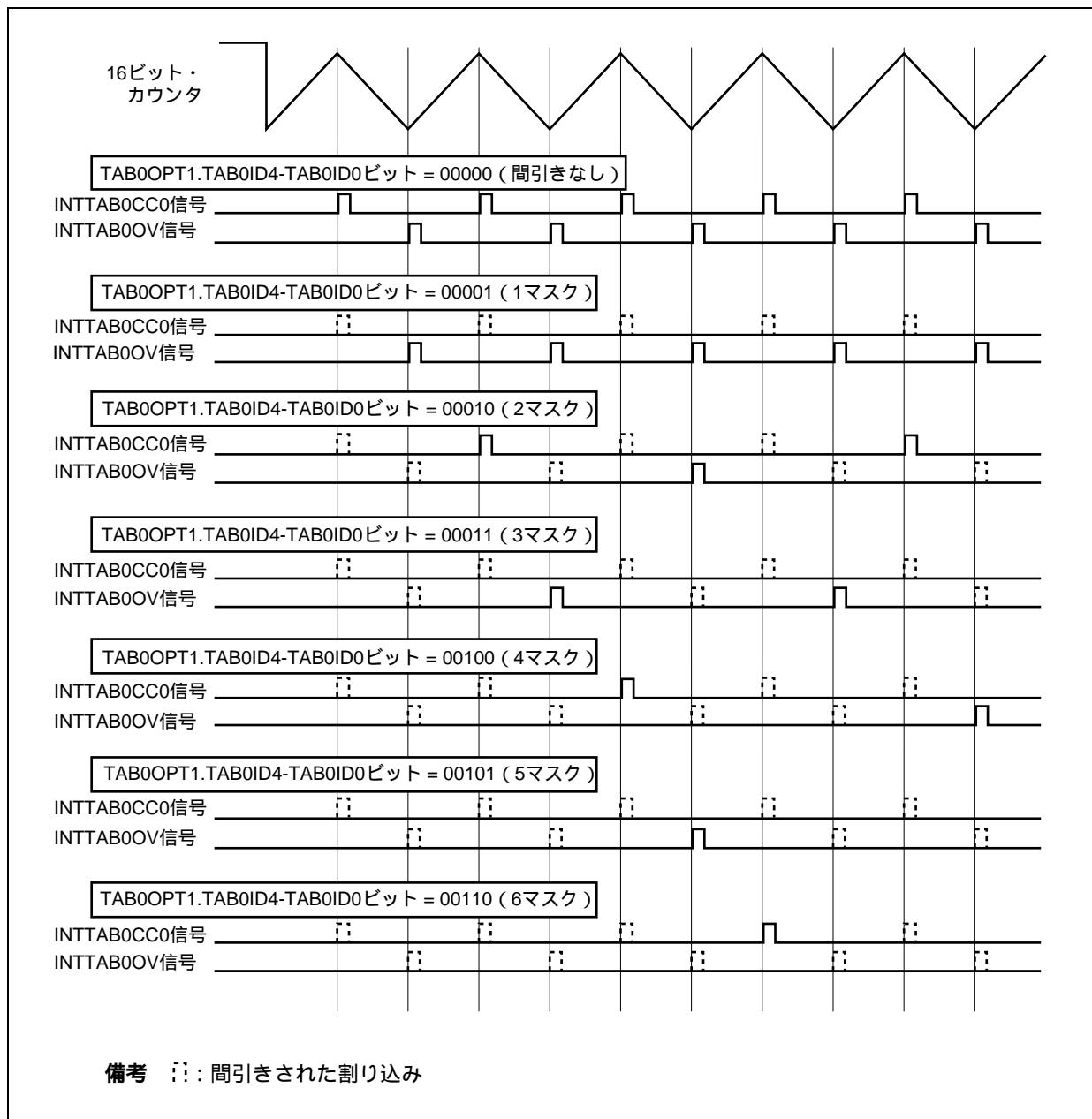


図23-16 TAB0OPT1.TAB0ICEビット = 1, TAB0IOEビット = 0, TAB0OPT2.TAB0RDEビット = 1での割り込み
間引き動作（山割り込みのみ出力）

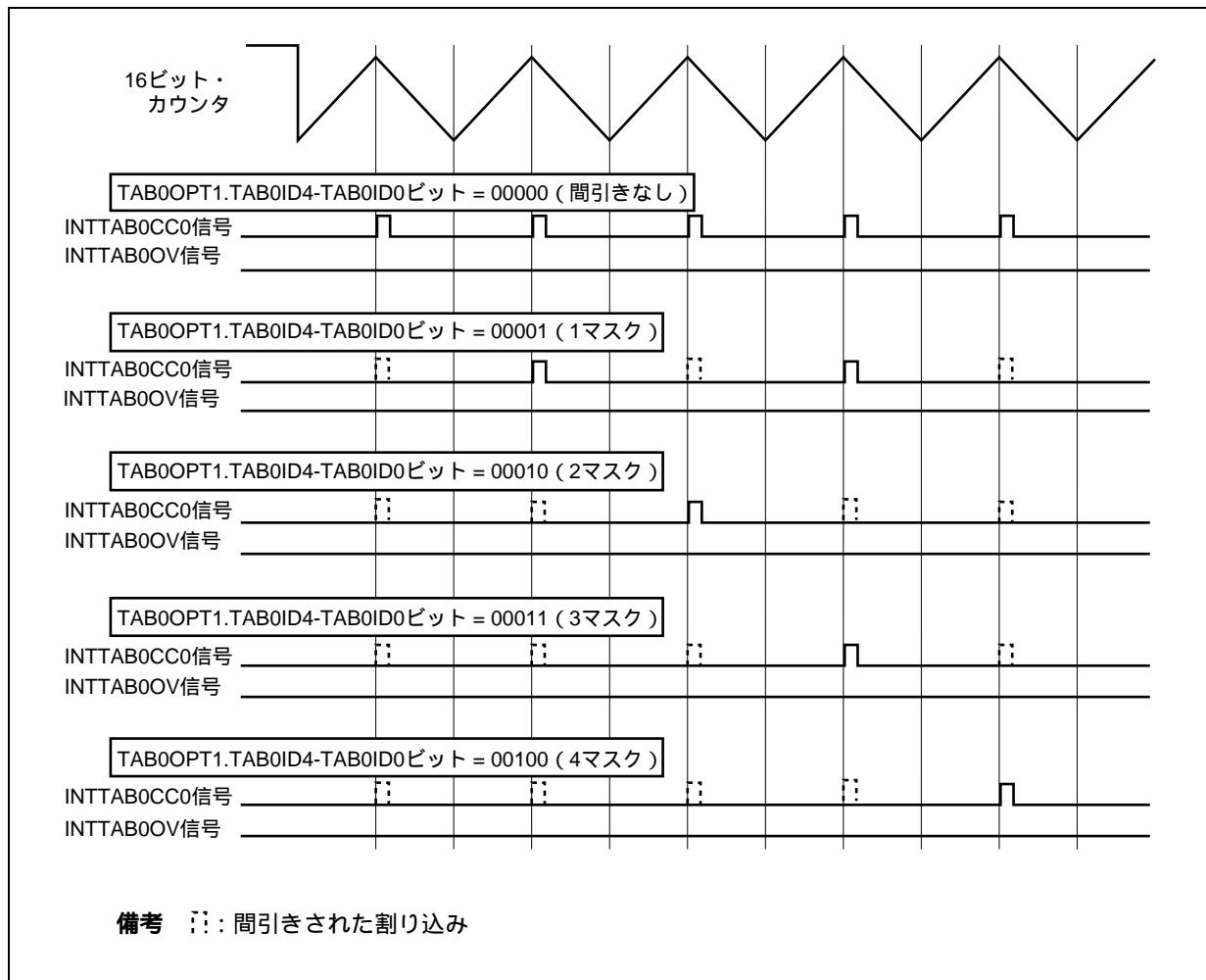
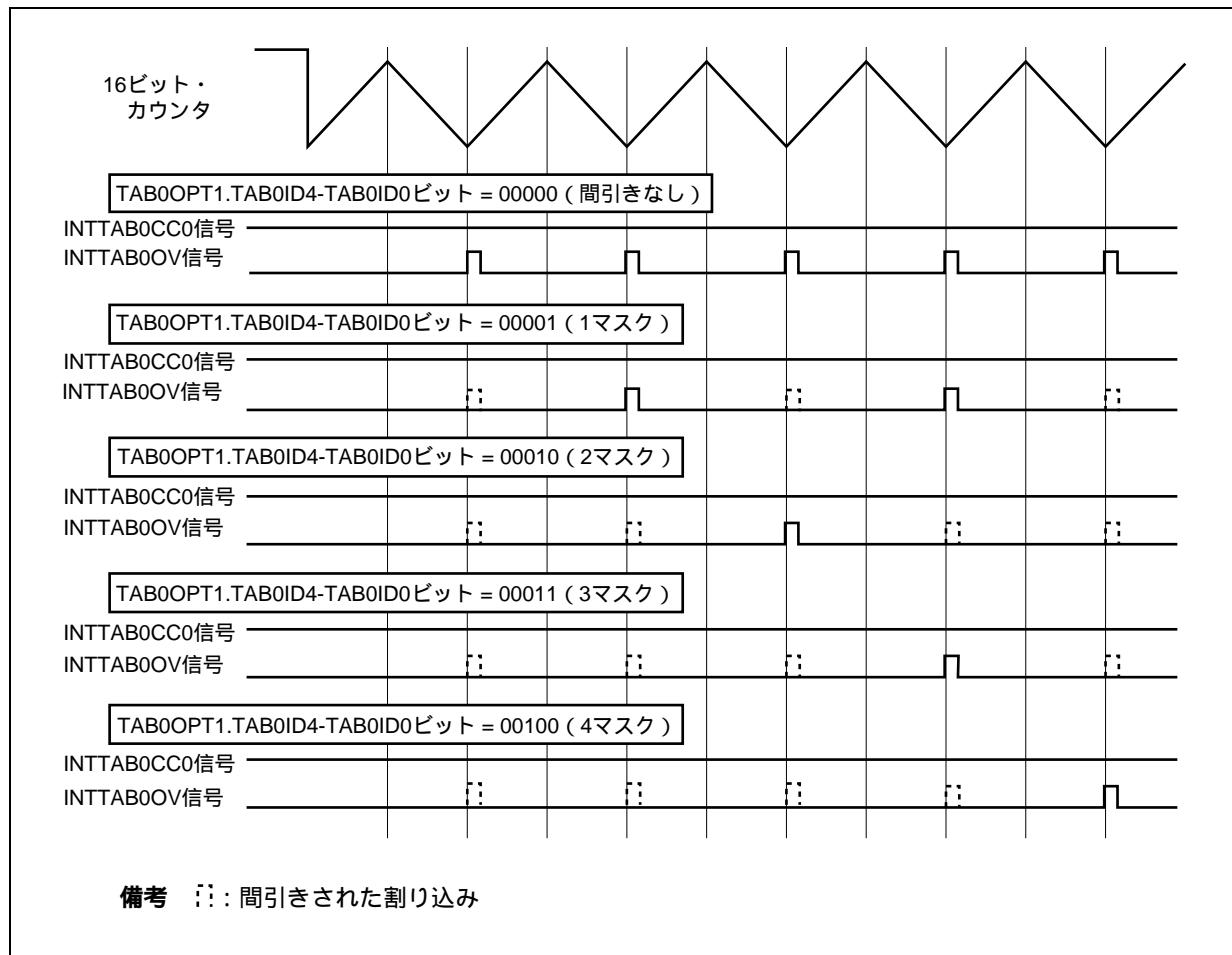


図23-17 TAB0OPT1.TAB0ICEビット = 0, TAB0IOEビット = 1, TAB0OPT2.TAB0RDEビット = 1での割り込み
間引き動作（谷割り込みのみ出力）

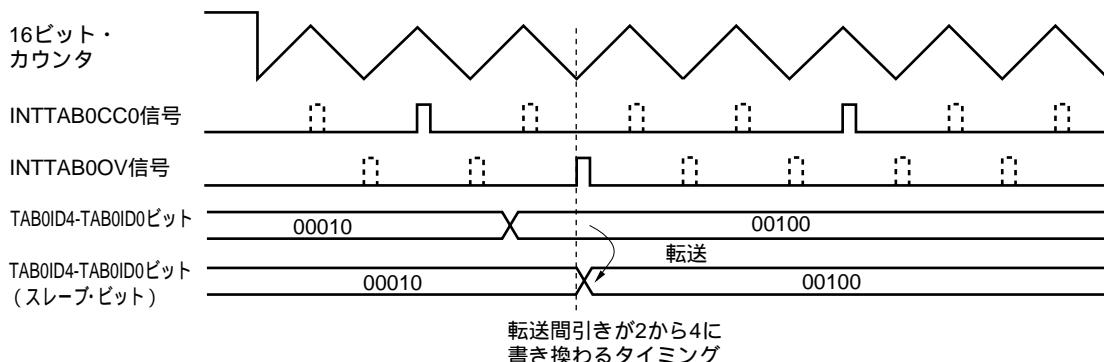


(2) 山割り込み(INTTAB0CC0)と谷割り込み(INTTAB0OV)を交互出力する場合

山割り込みと谷割り込みを交互に出力するにはTAB0OPT1.TAB0ICE, TAB0IOEビットとともに“1”に設定してください。

図23-18 山／谷割り込み出力

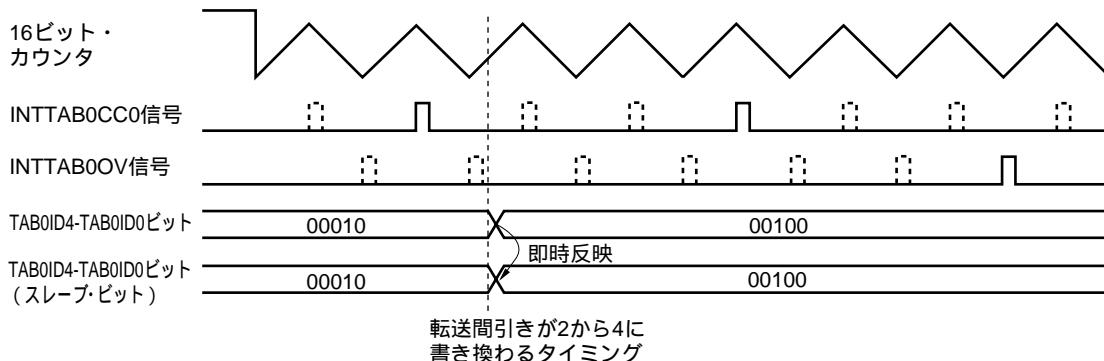
(a) TAB0OPT0.TAB0CMSビット = 0, TAB0OPT2.TAB0RDEビット = 1(転送間引き制御あり)



備考1. 間引きされたあとの割り込み出力タイミングで転送される。ほかの転送タイミングは無視されます。

2. [] : 間引きされた割り込み

(b) TAB0CMSビット = 1, TAB0RDEビット = 0または1(転送制御なし)



備考1. 書き換え後、ただちに反映されます。転送タイミングは無視されます。

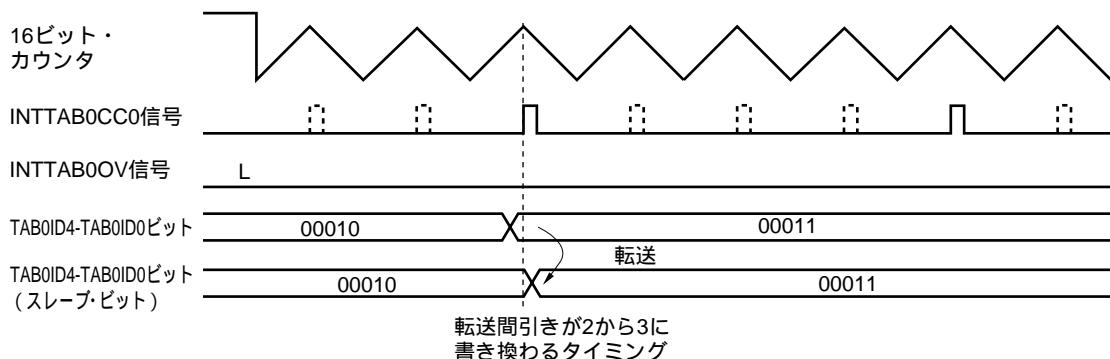
2. [] : 間引きされた割り込み

(3) 山割り込み(INTTAB0CC0)のみを出力する場合

TAB0OPT1.TAB0ICEビット = 1, TAB0IOEビット = 0に設定してください。

図23-19 山割り込み出力

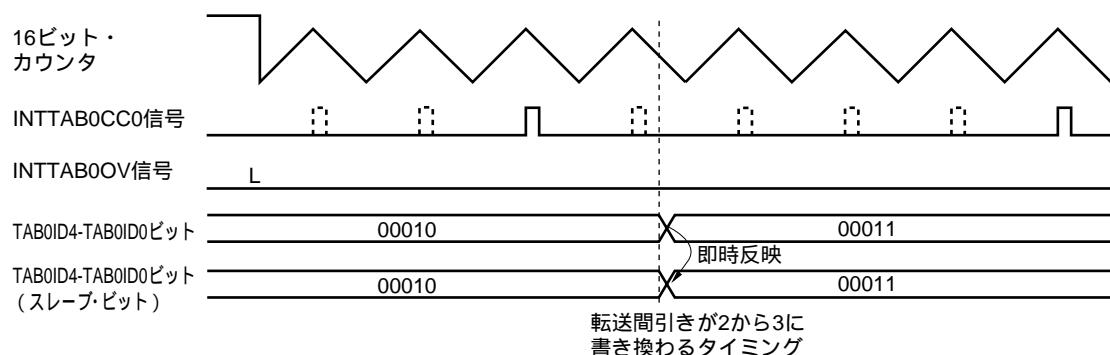
(a) TAB0OPT0.TAB0CMSビット = 0, TAB0OPT2.TAB0RDEビット = 1(転送間引き制御あり)



備考1. 間引きされたあとの割り込み出力タイミングで転送される。ほかの転送タイミングは無視されます。

2. : 間引きされた割り込み

(b) TAB0CMSビット = 1, TAB0RDEビット = 0または1(転送制御なし)



備考1. 書き換え後、ただちに反映されます。転送タイミングは無視されます。

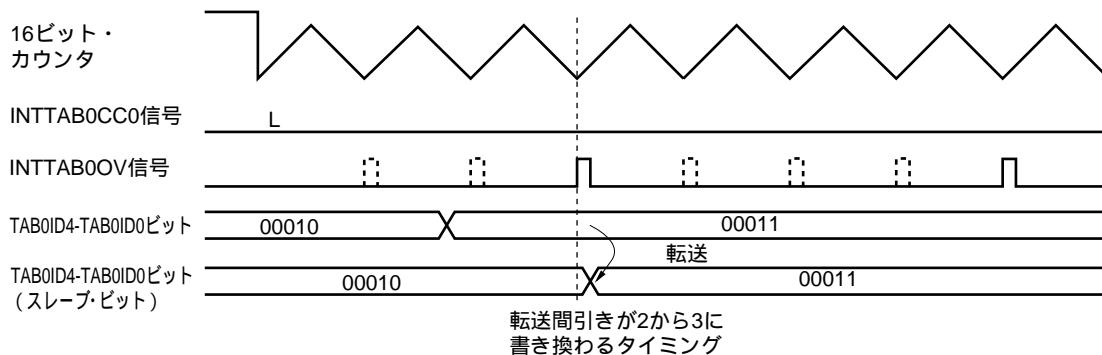
2. : 間引きされた割り込み

(4) 谷割り込み(INTTAB0OV)のみを出力する場合

TAB0OPT1.TAB0ICEビット = 0, TAB0IOEビット = 1に設定してください。

図23-20 谷割り込み出力

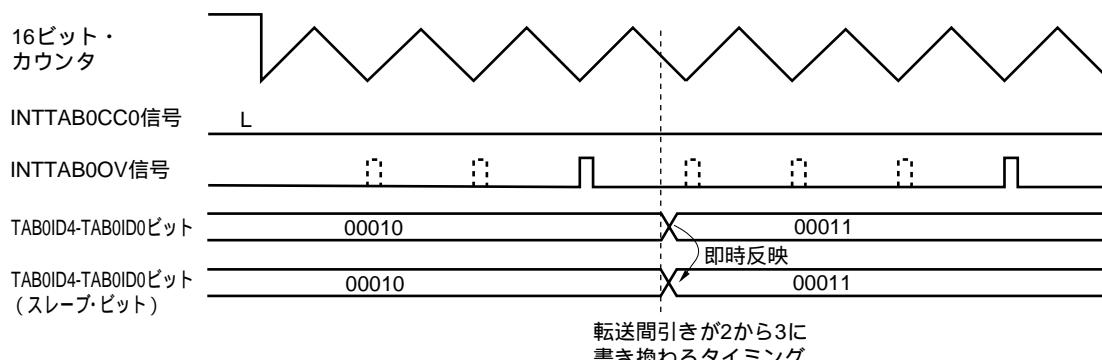
(a) TAB0OPT0.TAB0CMSビット = 0, TAB0OPT2.TAB0RDEビット = 1(転送間引き制御あり)



備考1. 間引きされたあとの割り込み出力タイミングで転送されます。ほかの転送タイミングは無視されます。

2. □: 間引きされた割り込み

(b) TAB0CMSビット = 1, TAB0RDEビット = 0または1(転送制御なし)



備考1. 書き換え後、ただちに反映されます。転送タイミングは無視されます。

2. □: 間引きされた割り込み

23.4.4 転送機能付きレジスタの書き換え操作

モータ制御に使用し,転送機能があるレジスタは次の7種類です。それぞれにバッファ・レジスタがあります。

- TAB0CCR0 : 16ビット・カウンタ(TAB)の周期指定用レジスタ
- TAB0CCR1 : TOAB0T1(U), TOAB0B1(̄U)のデューティ指定用レジスタ
- TAB0CCR2 : TOAB0T2(V), TOAB0B2(̄V)のデューティ指定用レジスタ
- TAB0CCR3 : TOAB0T3(W), TOAB0B3(̄W)のデューティ指定用レジスタ
- TAB0OPT1 : 割り込み間引き指定用レジスタ
- TAA4CCR0 : A/D変換開始トリガ生成タイミング指定用レジスタ(同調動作時のTAA4)
- TAA4CCR1 : A/D変換開始トリガ生成タイミング指定用レジスタ(同調動作時のTAA4)

また、転送機能があるレジスタには、次の3種類の書き換えモードがあります。

- 隨時書き換えモード

TAB0OPT0.TAB0CMSビット = 1で設定します。

このモードでは、各コンペア・レジスタが独立して更新動作を行い、各コンペア・レジスタに書き込むと同時に書き込み値が更新されます。

- 一斉書き換えモード(転送モード)

TAB0OPT0.TAB0CMSビット = 0, TAB0OPT1.TAB0ID4-TAB0ID0ビット = 00000, TAB0OPT2.TAB0RDEビット = 0で設定します。

TAB0CCR1レジスタへの書き込みを行うと、次の転送タイミングで7つのレジスタからバッファ・レジスタに一斉に転送されます。ほかの6つのレジスタへの書き込みをしてもTAB0CCR1レジスタへの書き込みを行わないと転送動作は起こりません。

転送タイミングは、割り込みとは関係なく毎回の山(16ビット・カウンタとTAB0CCR0レジスタの一致)タイミングと谷(16ビット・カウンタと0001Hの一致)タイミングです。

- 間欠一斉書き換えモード(転送間引きモード)

TAB0OPT0.TAB0CMSビット = 0, TAB0OPT2.TAB0RDEビット = 1で設定します。

TAB0CCR1レジスタへの書き込みを行うと、次の転送タイミングで7つのレジスタからバッファ・レジスタに一斉に転送されます。ほかの6つのレジスタへの書き込みをしてもTAB0CCR1レジスタへの書き込みを行わないと転送動作は起こりません。

転送は、TAB0OPT1レジスタで指定した割り込み間引きにあわせて転送タイミングが間引かれ、間引かれたあとでの山割り込み(16ビット・カウンタとTAB0CCR0レジスタの一致)タイミング、または谷割り込み(16ビット・カウンタと0001Hの一致)タイミングにより7つのレジスタに対して一斉に行われます。

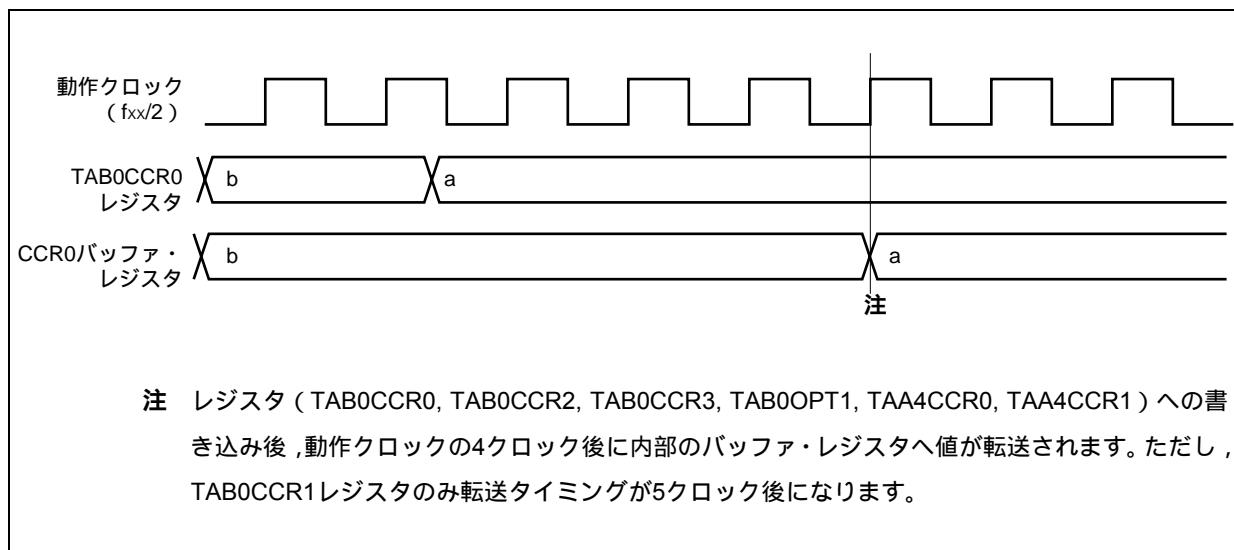
割り込み間引き機能についての詳細は、23.4.3 割り込み間引き機能を参照してください。

(1) 随時書き換えモード

TAB0OPT0.TAB0CMSビット = 1で設定します。TAB0OPT2.TAB0RDEビットの設定は無視されます。

各転送機能付きレジスタへの書き込み値が、すぐに内部のバッファ・レジスタに転送されカウンタ値との比較対象になるモードです。このモードではTAB0CCRmと16ビット・カウンタの一致が発生後に書き換えると、一度一致が発生したあとの再度の一致は無視されるので書き換え値は反映されません。アップ・カウント中に書き換えた場合はダウン・カウントに切り替わったあとの一致で有効になります。

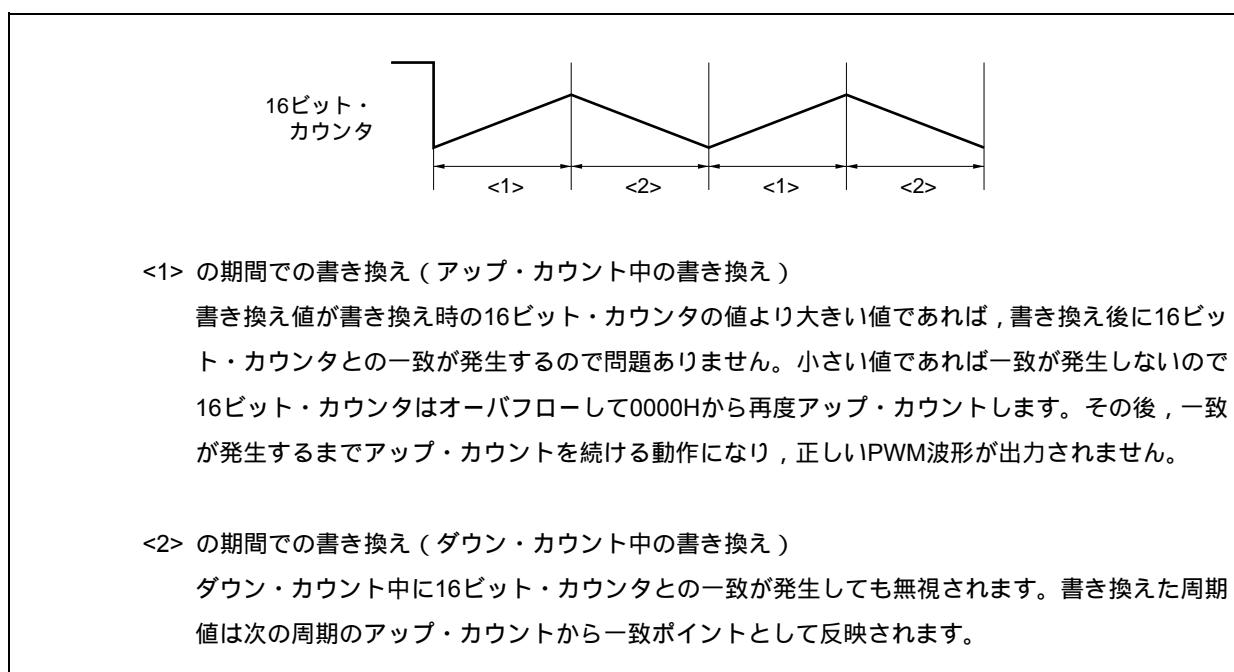
図23-21 書き換え値の反映タイミング



(a) TAB0CCR0レジスタの書き換え

TAB0CCR0レジスタを随時書き換えモードで書き換えても、すぐには値が反映されない場合があります。

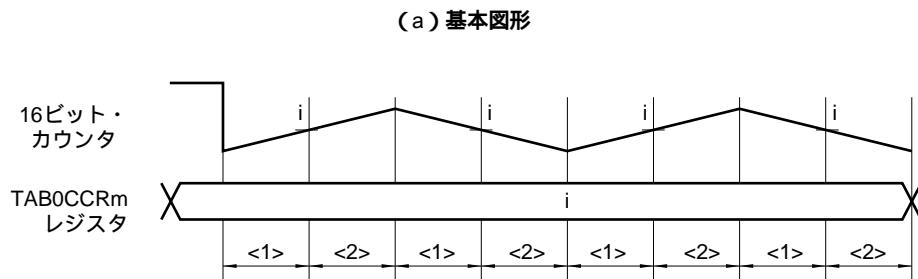
図23-22 TAB0CCR0レジスタの書き換え例



(b) TAB0CCRmレジスタの書き換え

図23-24に16ビット・カウンタとTAB0CCRmレジスタが一致する前に書き換えた場合のタイミング(図23-23の<1>)を、図23-25に16ビット・カウンタとTAB0CCRmレジスタが一致したあとに書き換えた場合のタイミング(図23-23の<2>)を示します。

図23-23 16ビット・カウンタとTAB0CCRmレジスタの基本動作



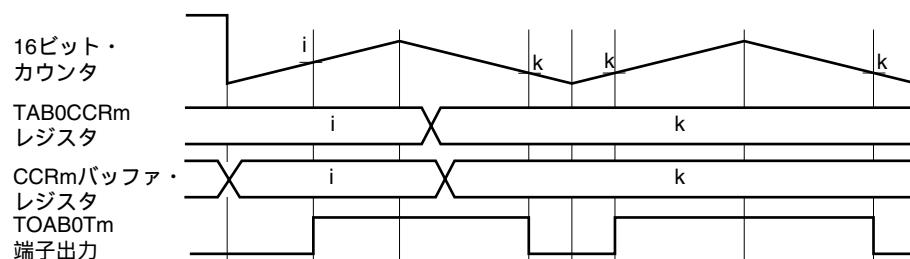
備考1. i = TAB0CCRmレジスタの設定値

2. m = 1-3

図23-24 TAB0CCR1-TAB0CCR3レジスタの書き換え例（一致発生前の書き換え）

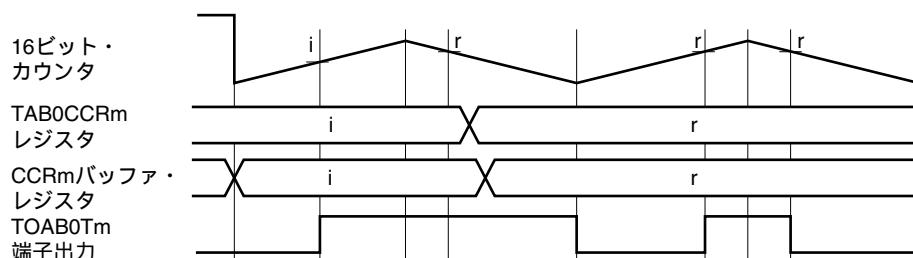
(a)

TAB0CCRmレジスタと16ビット・カウンタの一致が発生する前に書き換えると、書き換え後に16ビット・カウンタとの一致が発生するので書き換え値が即時に反映されます。



(b)

一致が発生する前でも、16ビット・カウンタより小さい値（ダウン・カウント時は大きい値）を書き込んだ場合は一致が発生しないので次のような出力波形となります。



一致が発生しない場合は、TOAB0Tm端子出力は変化しません。ただし、16ビット・カウンタとTAB0CCRmレジスタとの一致が発生しなくても山割り込み時ではハイ・レベルに、谷割り込み時ではロウ・レベルにTOAB0Tm端子出力は強制変化します。

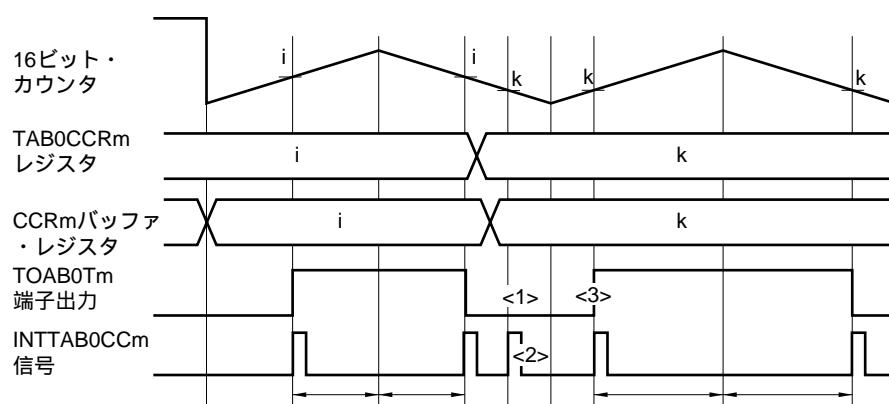
これは、0 %出力、100 %出力のために設けられている機能です。

詳細は23.4.2 (2) 0 % / 100 %のPWM出力を参照してください。

備考1. i, r, k = TAB0CCRmレジスタの設定値

2. m = 1-3

図23-25 TAB0CCR1-TAB0CCR3レジスタの書き換え例（一致発生後の書き換え）



- <1> 一致信号発生後の書き換えによる一致は無視されPWM出力は変化しません。
 <2> PWM出力は変化しなくても16ビット・カウンタとTAB0CCRmレジスタの一致割り込み(INTTAB0CCm)は出力します。
 <3> アップ / ダウンが切り替わった次の一致から有効となりPWM出力は変化します。

TAB0CCRmレジスタと16ビット・カウンタの一致が発生後にTAB0CCRmレジスタを書き換えると、一度一致が発生したとの再度の一致は無視され、TOAB0Tm端子出力には反映されません。アップ・カウント中に書き換えた場合はダウン・カウントに切り替わったとの一致で有効になります（ダウン・カウント中はアップ・カウントに切り替わったあとで有効）。

備考1. i, r, k = TAB0CCRmレジスタの設定値

2. m = 1-3

(c) TAB0OPT1レジスタの書き換え

TAB0OPT1レジスタへの書き込みで割り込み間引きカウンタはクリアされます。割り込み間引きカウンタがクリアされることにより、それまで計測していた割り込み発生数は破棄されるので、一時的に割り込み発生間隔が長くなるので注意してください。

この動作を避けるためには、間欠一斉書き換えモード（転送間引きモード）での書き換えをしてください。

TAB0OPT1レジスタへの書き換えについての詳細は、23.4.3 割り込み間引き機能を参照してください。

(2) 一斉書き換えモード(転送モード)

TAB0OPT0.TAB0CMSビット = 0, TAB0OPT1.TAB0ID4-TAB0ID0ビット = 00000, TAB0OPT2.TAB0RDEビット = 0で設定します。

各コンペア・レジスタへの書き込み値が、転送タイミングで一斉に内部のバッファ・レジスタに転送され、カウンタ値との比較対象になるモードです。

(a) 書き換え操作手順

TAB0CCR1レジスタへの書き込みが行われると、TAB0CCR0-TAB0CCR3, TAB0OPT1, TAA4CCR0, TAA4CCR1レジスタが次の転送タイミングで一斉に内部のバッファ・レジスタに転送されます。したがって、TAB0CCR1レジスタへの書き込みは最後に行ってください。また、TAB0CCR1レジスタへの書き込み後は、転送タイミング(山(16ビット・カウンタとTAB0CCR0レジスタの一致)タイミング、または谷(16ビット・カウンタと0001Hの一致)タイミング)が発生するまで、レジスタへの書き込みは禁止です。操作手順を次に示します。

TAB0CCR0, TAB0CCR2, TAB0CCR3, TAB0OPT1, TAA4CCR0, TAA4CCR1レジスタの書き換え
(書き換えが必要ないレジスタは書き換え不要)

TAB0CCR1レジスタの書き換え

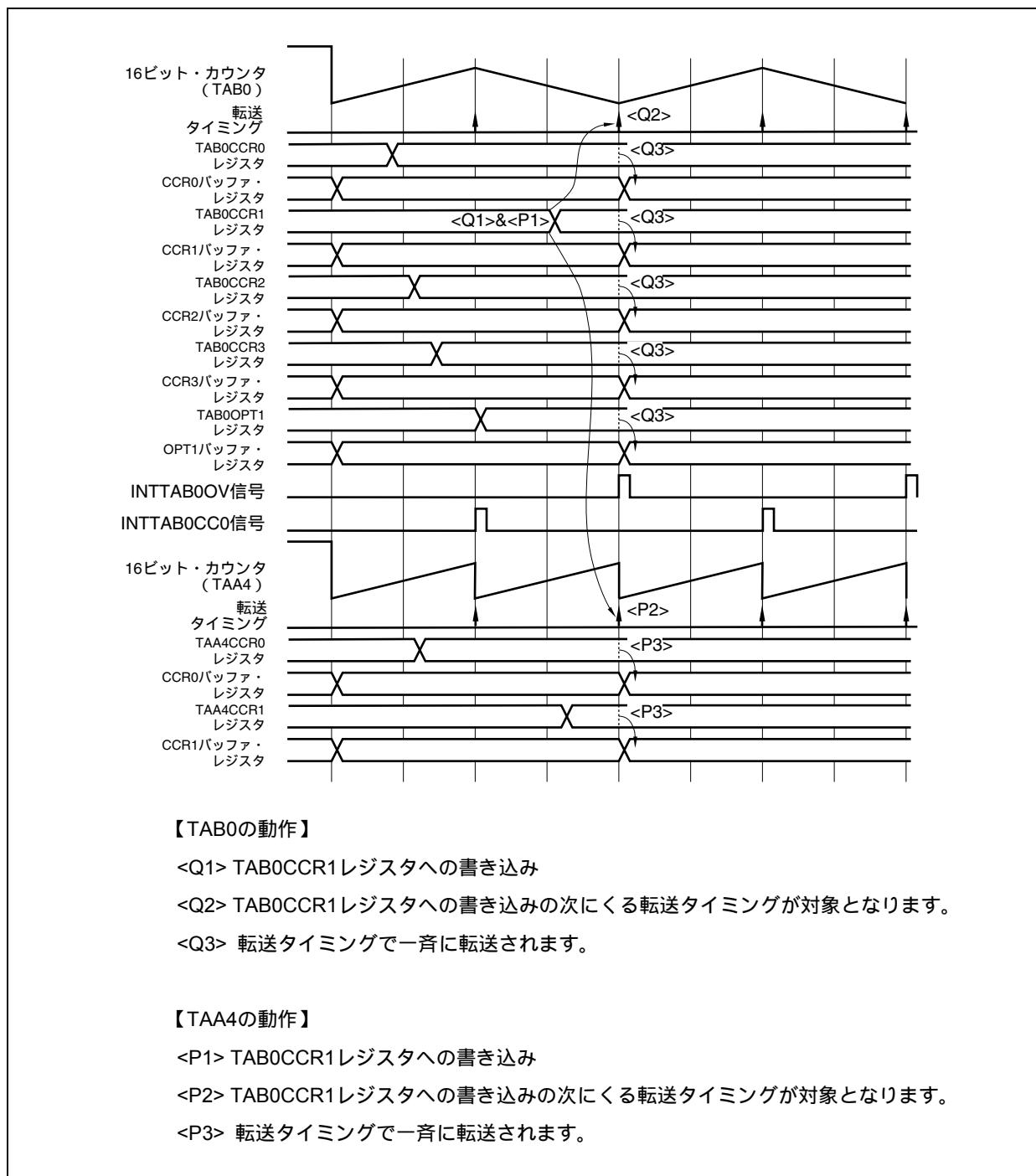
(TAB0CCR1レジスタを書き換える必要がない場合でも、同じ値を再書き込みする)

転送タイミングが発生するまで次の書き換えを保留

(INTTAB0OVまたはINTTAB0CC0割り込みの発生を確認してから次の書き換えをする)

に戻る

図23-26 一斉書き込みモードの基本動作



【TAB0の動作】

- <Q1> TAB0CCR1レジスタへの書き込み
- <Q2> TAB0CCR1レジスタへの書き込みの次にくる転送タイミングが対象となります。
- <Q3> 転送タイミングで一斉に転送されます。

【TAA4の動作】

- <P1> TAB0CCR1レジスタへの書き込み
- <P2> TAB0CCR1レジスタへの書き込みの次にくる転送タイミングが対象となります。
- <P3> 転送タイミングで一斉に転送されます。

(b) TAB0CCR0レジスタの書き換え

TAB0CCR0レジスタを一斉書き換えモードで書き換える場合、転送が山（16ビット・カウンタとTAB0CCR0レジスタの一一致）タイミング、谷（16ビット・カウンタと0001Hの一致）タイミングのどちらで起こるかにより出力波形が変わります。通常は、ダウン・カウント中に書き換えを行い、転送タイミングが谷タイミングのときに転送する操作を推奨します。

図23-28にアップ・カウント中（図23-27の<1>の期間）のTAB0CCR0レジスタの書き換え例を、図23-29にダウン・カウント中（図23-27の<2>の期間）のTAB0CCR0レジスタの書き換え例を示します。

図23-27 16ビット・カウンタの基本動作

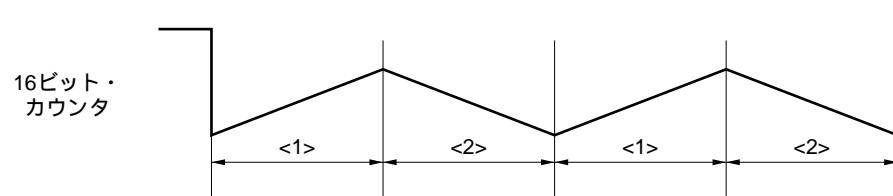


図23-28の転送タイミングは山タイミングのポイントになるので、ダウン・カウント側は周期が変わり非対称の三角波波形を出力します。また、周期が変化するので、デューティ比（電圧データ値）も書き換えてください。

図23-28 TAB0CCR0レジスタの書き換え例（アップ・カウント時）

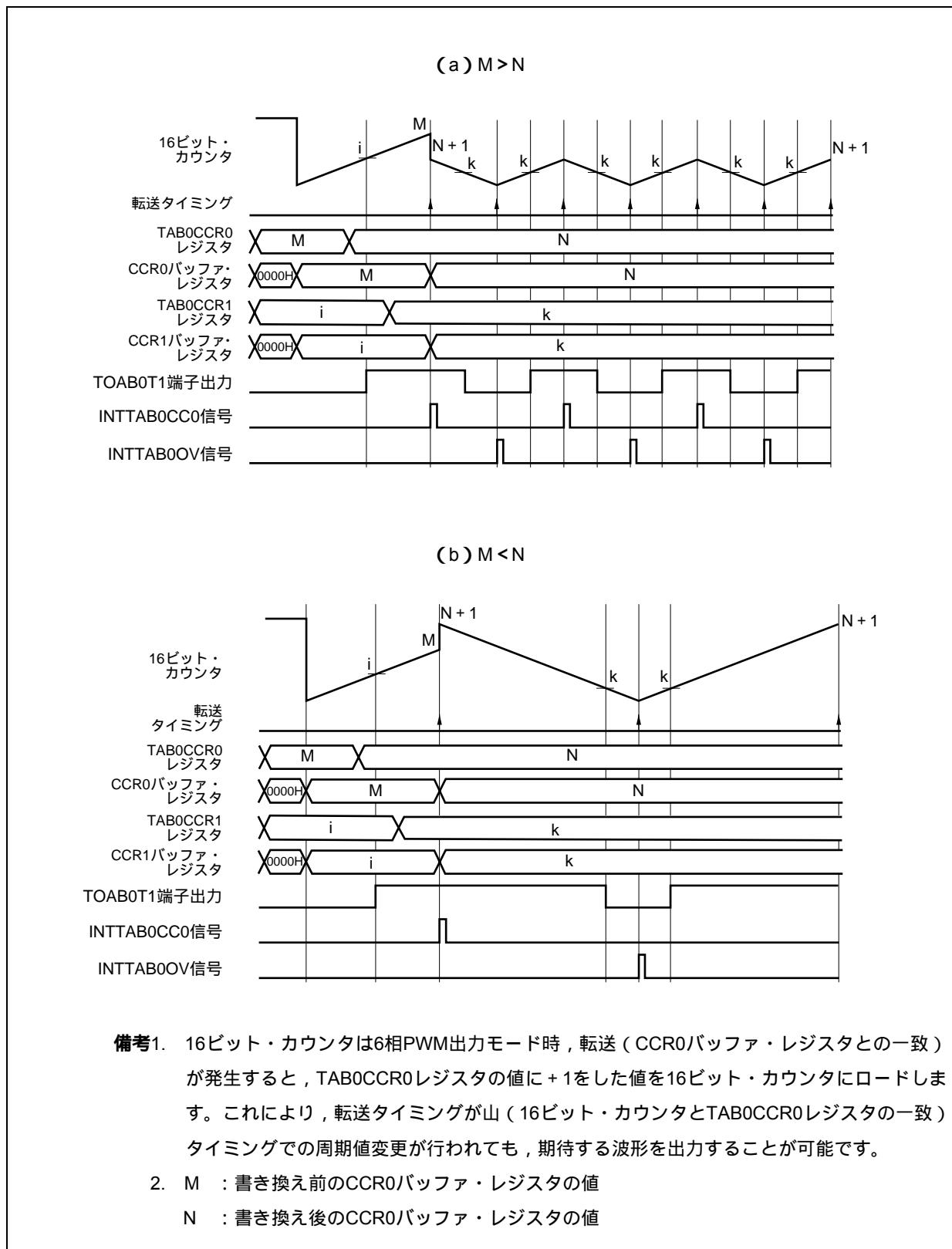
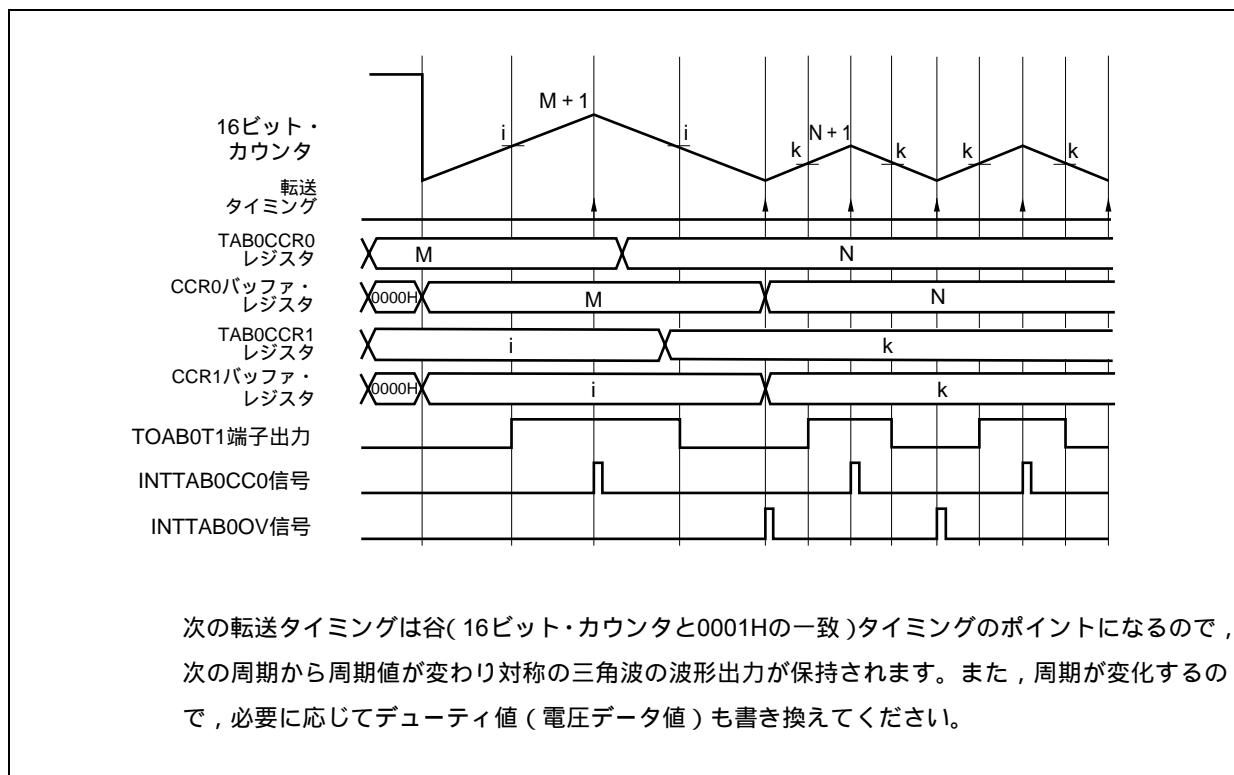
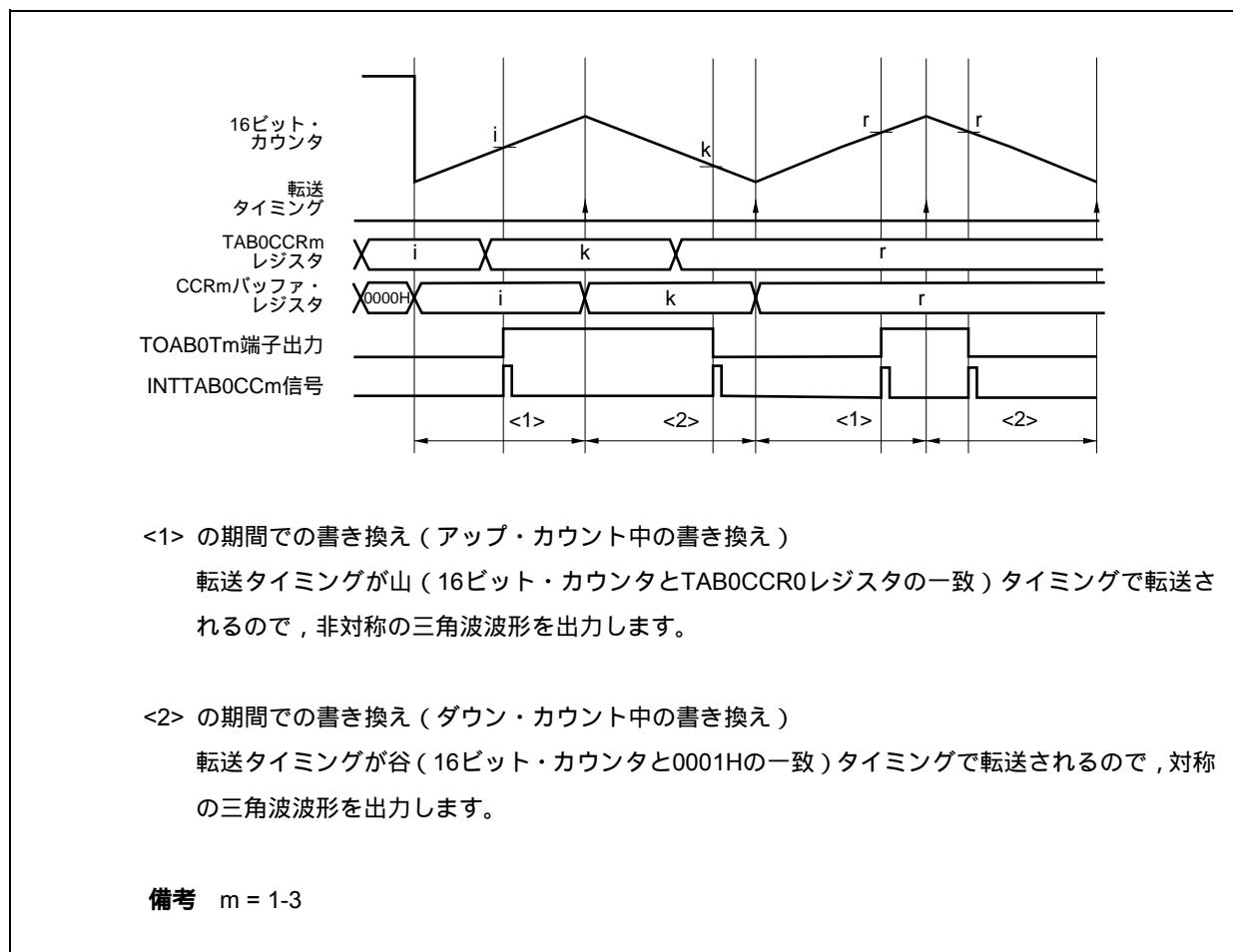


図23-29 TAB0CCR0レジスタの書き換え例(ダウン・カウント時)



(c) TAB0CCRmレジスタの書き換え

図23-30 TAB0CCRmレジスタの書き換え例



(d) TAB0OPT1レジスタの転送

TAB0OPT1.TAB0ID4-TAB0ID0ビット = 00000以外の値は設定しないでください。割り込み間引き機能を使用する場合は、間欠一斉書き換えモード（転送間引きモード）で書き換えてください。

TAB0OPT1レジスタへの書き換えについての詳細は、23.4.3 割り込み間引き機能を参照してください。

(3) 間欠一斉書き換えモード(転送間引きモード)

TAB0OPT0.TAB0CMSビット = 0, TAB0OPT2.TAB0RDEビット = 1で設定します。

各コンペア・レジスタへの書き込み値が、間引きされたあとの転送タイミングで一斉に内部のバッファ・レジスタに転送されカウンタ値との比較対象になるモードです。転送タイミングは、割り込み間引きによる割り込み発生 (INTTAB0CC0, INTTAB0OV) タイミングになります。

割り込み間引き機能についての詳細は、23.4.3 割り込み間引き機能を参照してください。

(a) 書き換え操作手順

TAB0CCR1レジスタへの書き込みが行われるとTAB0CCR0-TAB0CCR3, TAB0OPT1, TAA4CCR0, TAA4CCR1レジスタが次の転送タイミングで一斉に内部のバッファ・レジスタに転送されます。したがって、TAB0CCR1レジスタへの書き込みは最後に行ってください。また、TAB0CCR1レジスタへの書き込み後は、転送タイミングが発生するまで (INTTAB0OV, INTTAB0CC0の割り込み発生まで) レジスタへの書き込みは禁止です。操作手順を次に示します。

TAB0CCR0, TAB0CCR2, TAB0CCR3, TAB0OPT1, TAA4CCR0, TAA4CCR1レジスタの書き換え
(書き換えが必要ないレジスタは書き換え不要)

TAB0CCR1レジスタの書き換え

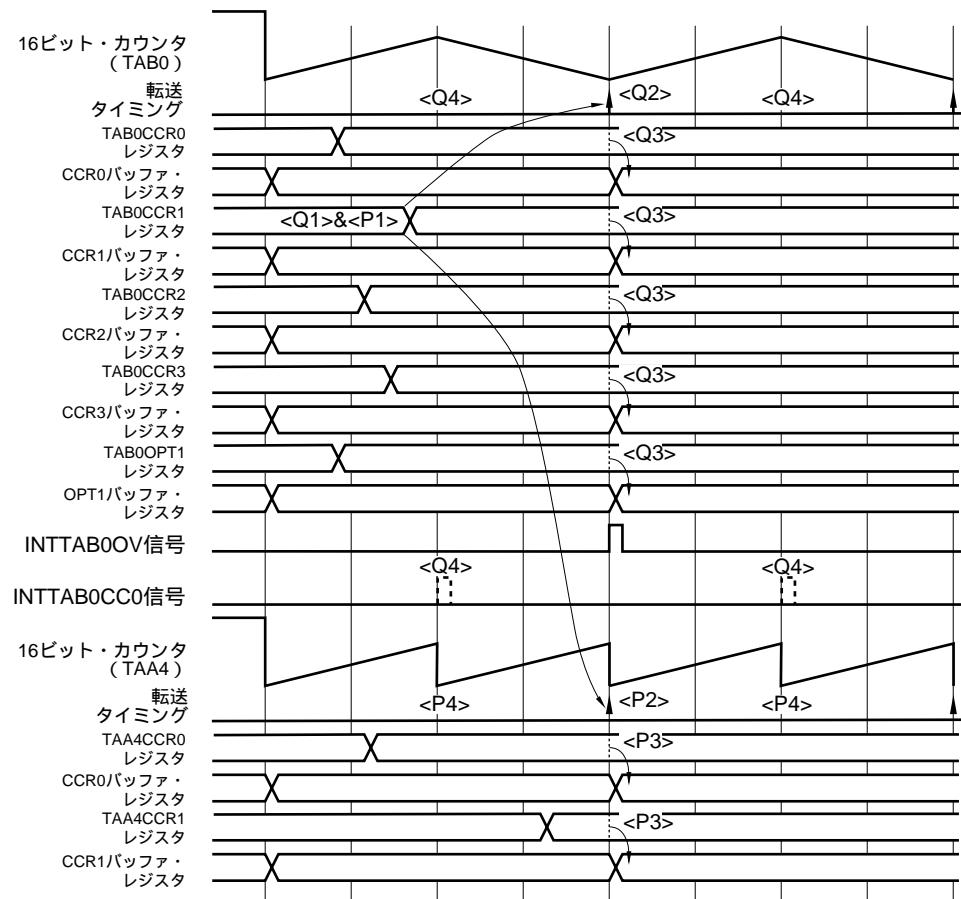
(TAB0CCR1レジスタを書き換える必要がない場合でも同じ値を再書き込みする)

転送タイミングが発生するまで次の書き換えを保留

(INTTAB0OVまたはINTTAB0CC0の割り込み発生を確認してから次の書き換えをする)

に戻る

図23-31 間欠一斉書き込みモードの基本動作

**【TAB0の動作】**

- <Q1> TAB0CCR1レジスタへの書き込み
- <Q2> TAB0CCR1レジスタへの書き込みの次にくる転送タイミングが対象となります。
- <Q3> 転送タイミングで一斉に転送されます。
- <Q4> 割り込み間引きにあわせて、転送タイミングも間引かれます。

【TAA4の動作】

- <P1> TAB0CCR1レジスタへの書き込み
- <P2> TAB0CCR1レジスタへの書き込みの次にくる転送タイミングが対象となります。
- <P3> 転送タイミングで一斉に転送されます。
- <P4> 割り込み間引きにあわせて、転送タイミングも間引かれます。

備考 TAB0OPT1.TAB0ICEビット = 1, TAB0IOEビット = 1, TAB0ID4-TAB0ID0ビット = 00001の設定値における動作例です。

(b) TAB0CCR0レジスタの書き換え

TAB0CCR0レジスタを間欠一斉書き換えモードで書き換える場合、割り込み間引き設定で山／谷割り込み発生をどこに指定しているかで出力波形が変わります。次に割り込み間引き設定での出力波形の変化を示します。

図23-32 TAB0CCR0レジスタの書き換え（山割り込みを設定時）

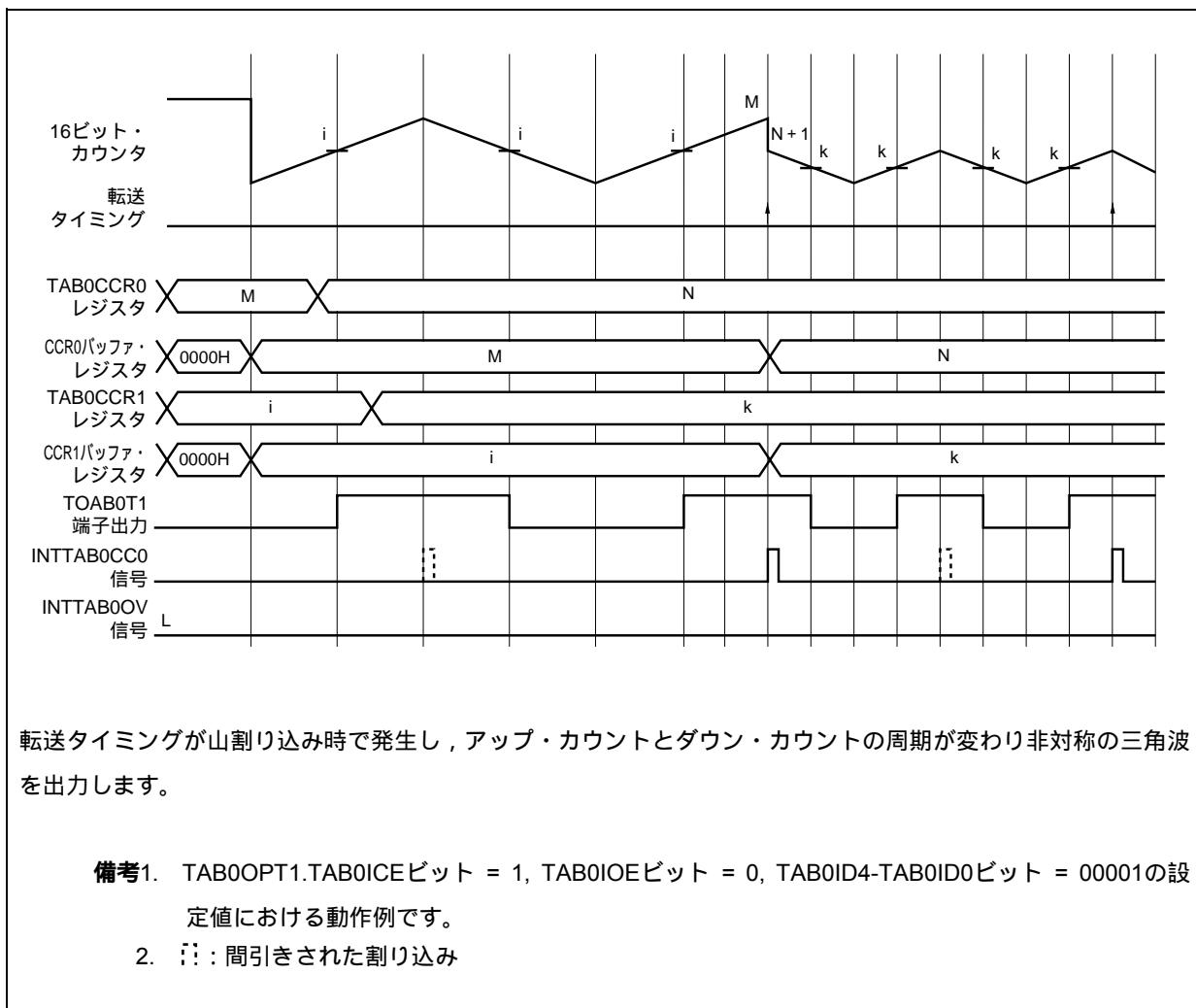
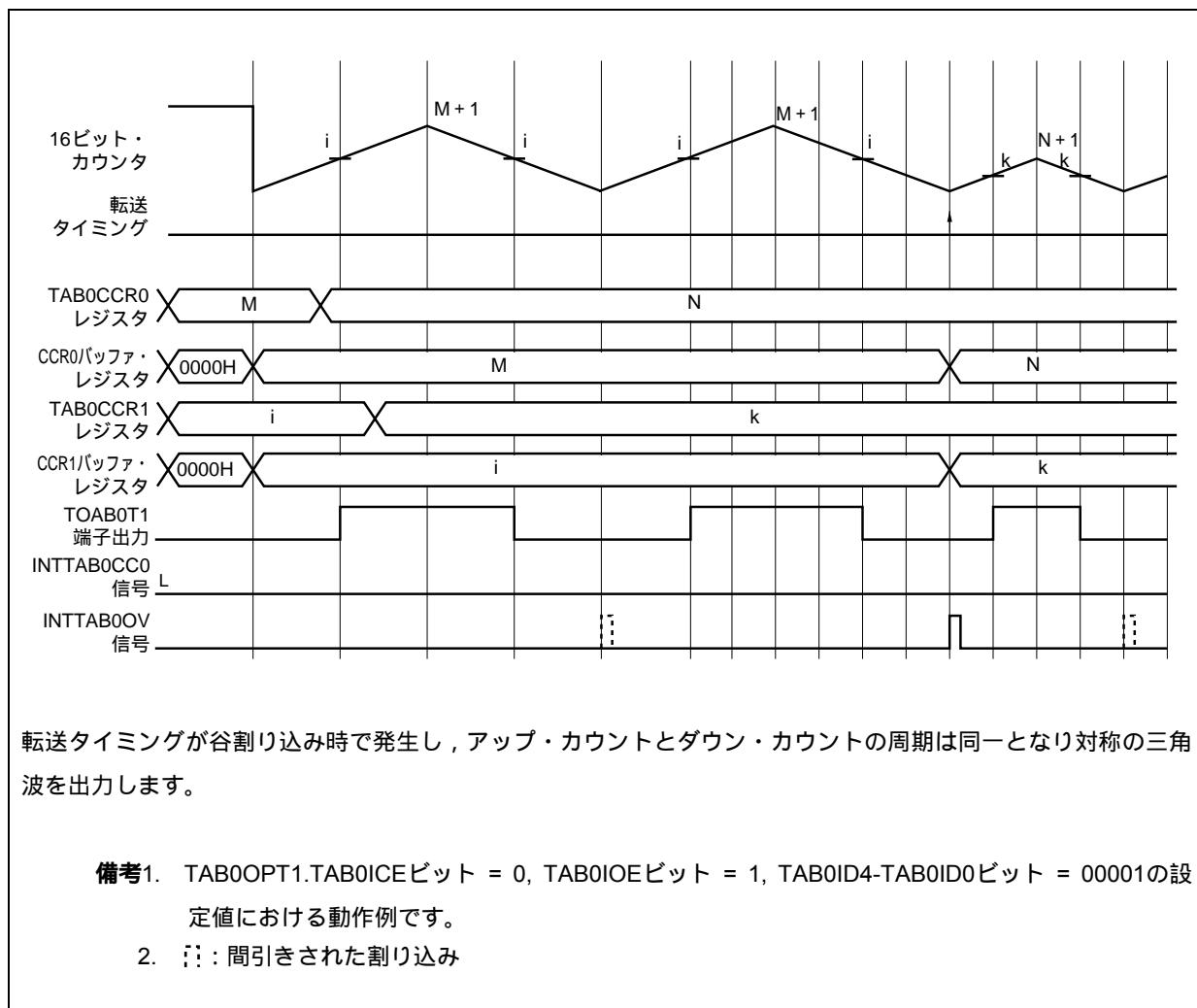


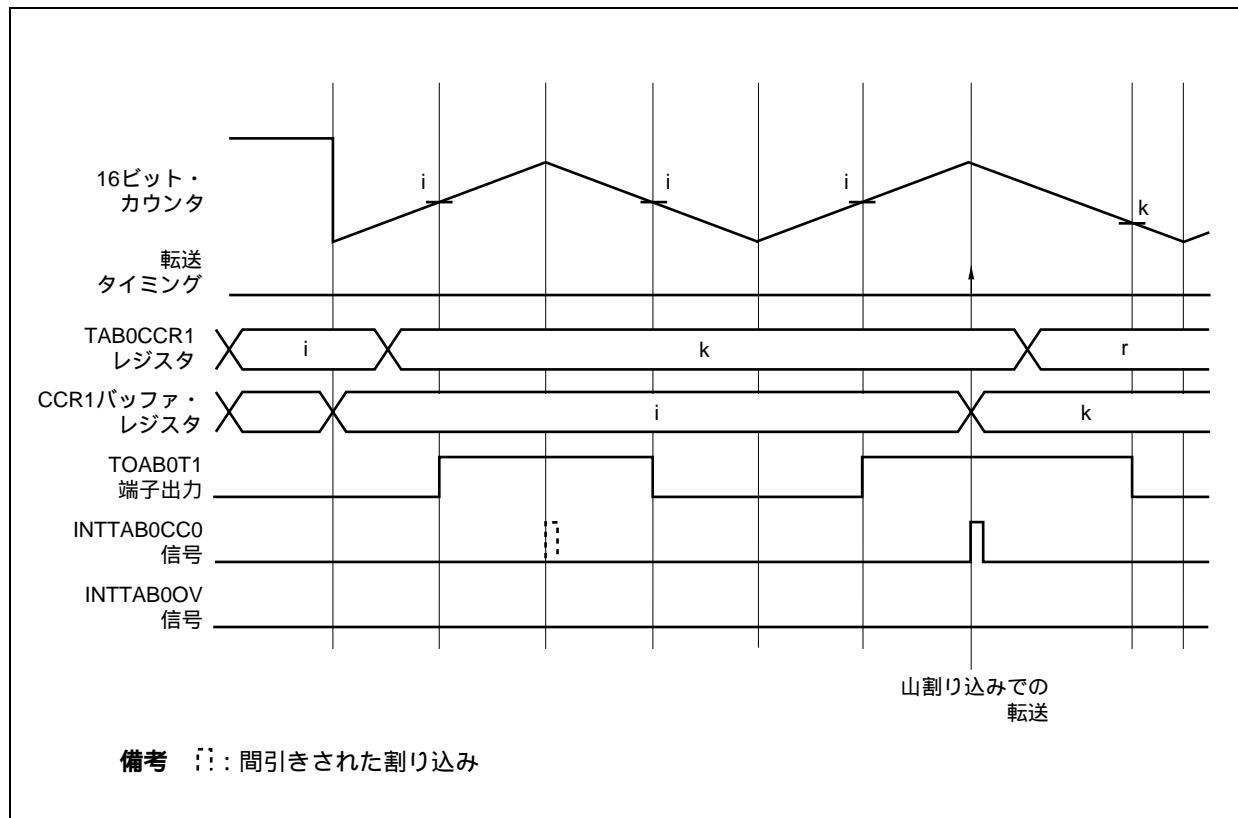
図23-33 TAB0CCR0レジスタの書き換え(谷割り込みを設定時)



(c) TAB0CCR1-TAB0CCR3レジスタの書き換え

- ・山割り込みを設定した場合に山で転送された場合
山の転送タイミングで転送されるので、非対称の三角波波形を出力します。

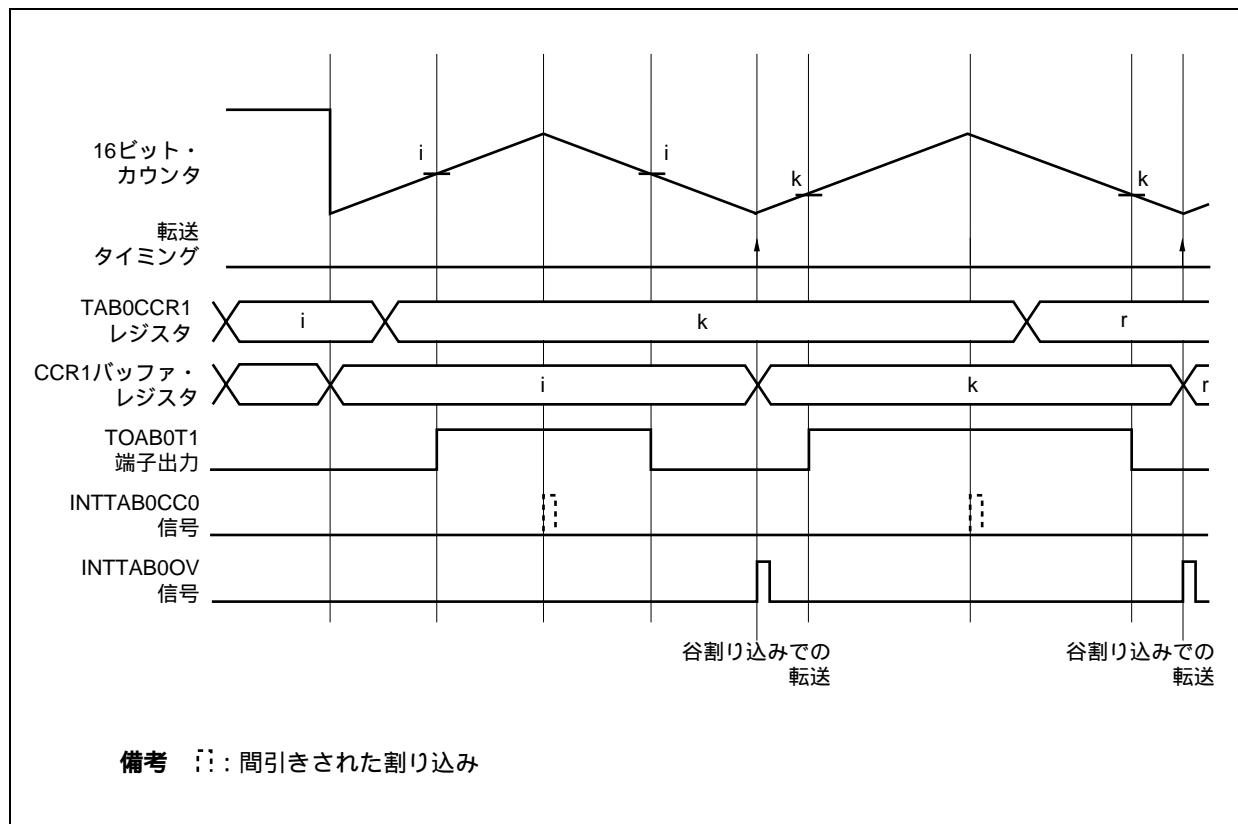
図23-34 TAB0CCR1レジスタの書き換え (TAB0OPT1.TAB0ICEビット = 1, TAB0IOEビット = 0, TAB0ID4-TAB0ID0 = 00001の場合)



- ・ 谷割り込みを設定した場合に谷で転送された場合

谷の転送タイミングで転送されるので、対称の三角波波形を出力します。

図23-35 TAB0CCR1レジスタの書き換え(TAB0OPT1.TAB0ICEビット = 1, TAB0IOEビット = 1, TAB0ID4-TAB0ID0 = 00001の場合)



(d) TAB0OPT1レジスタの書き換え

割り込み間引きカウンタが一致したときに、新しい割り込み間引き値が転送されるため、次から設定した間隔で割り込みが発生します。

TAB0OPT1レジスタへの書き換えについての詳細は、23.4.3 割り込み間引き機能を参照してください。

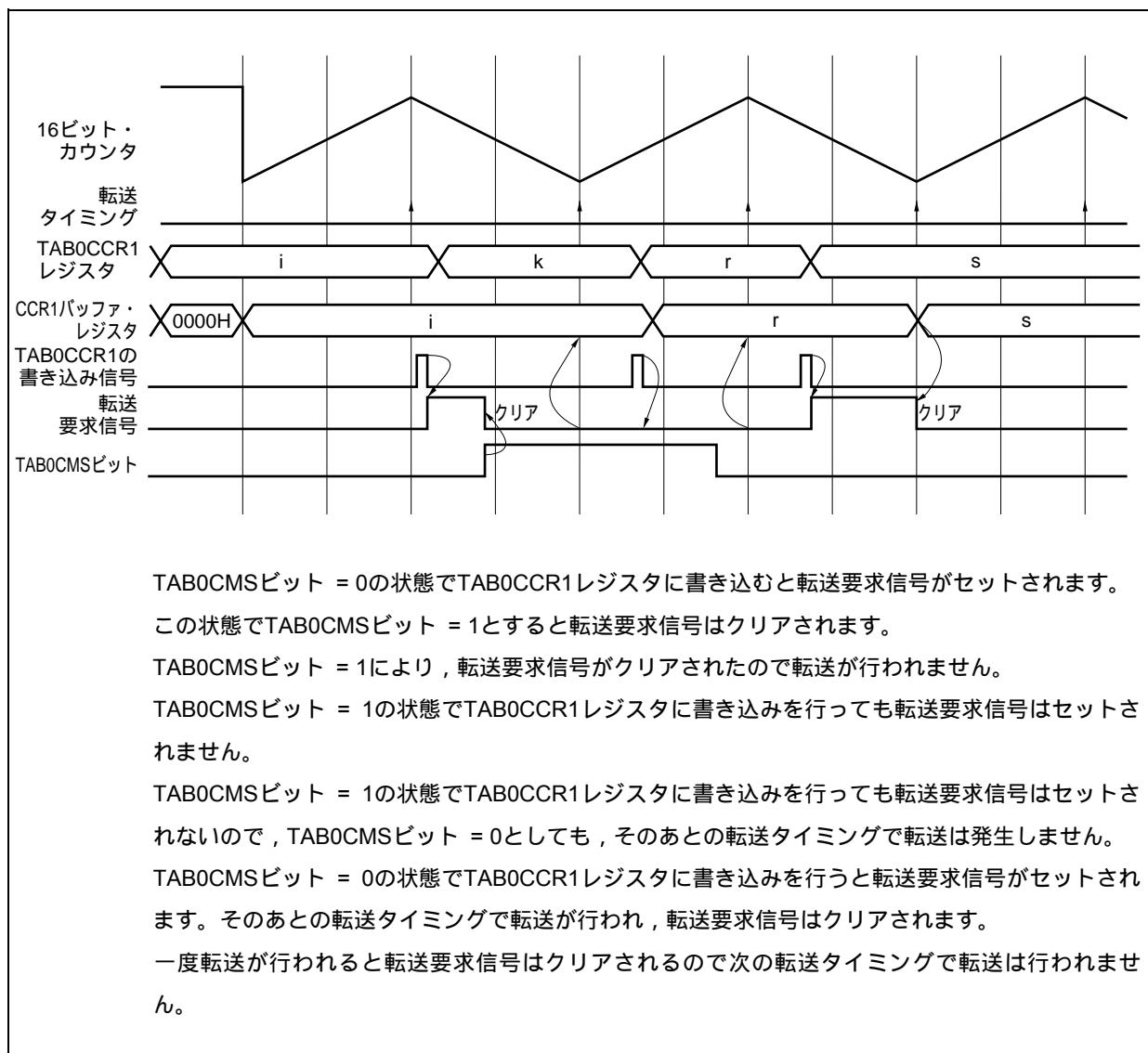
(4) TAB0OPT0.TAB0CMSビットの書き換え

TAB0CMSビットは、随時書き換えモードと一斉書き換えモードの切り替えができます。タイマ動作中(TAB0CTL0.TAB0CEビット = 1)の書き換えが可能ですが、図23-36で示す動作および注意が必要です。

TAB0CMSビット = 0の状態でTAB0CCR1レジスタに書き込むと転送要求信号(内部信号)がセットされます。

転送要求信号がセットされていると、次の転送タイミングで転送を行い、転送要求信号がクリアされます。この転送要求信号は、TAB0CMSビット = 1によってもクリアされます。

図23-36 TAB0CMSビットの書き換え



23.4.5 A/D変換開始トリガ信号出力用TAA4の同調動作

6相PWM出力モードで使用する場合の，TAA4およびTAB0の同調動作について示します。

6相PWM出力モードでは，TAB0をマスタとし，TAA4をスレーブとして同調動作を行い，A/D変換開始トリガ・ソースとしてTAA4のINTTAA4CC0, INTTAA4CC1信号とTAB0のINTTAB0OV, INTTAB0CC0信号でA/Dコンバータの変換開始トリガ信号を設定できます。

(1) 同調動作開始手順

同調動作を行わせるためのTAA4, TAB0のレジスタの設定手順を次に示します。

(a) TAA4レジスタ設定 (TAB0, TAA4は動作停止状態 (TAB0CTL0.TAB0CEビット = 0, TAA4CTL0.TAA4CEビット = 0)にしてください)

- ・TAA4CTL1レジスタ = 85Hに設定 (同調動作スレーブ・モード, フリー・ランニング・タイマ・モードに設定)
- ・TAA4CCR0, TAA4CCR1レジスタに適切な値を設定 (動作開始時のコンペア初期値を設定)

(b) TAB0レジスタ設定

- ・TAB0CTL1レジスタ = 07Hに設定 (マスタ・モード, 6相PWM出力モードに設定)
- ・TAB0IOC0レジスタに適切な値を設定 (TOAB0T1-TOAB0T3の出力モードを設定)
ただし，TAB0OL0, TAB0OE0ビットは必ずTAB0OL0ビット = 0, TAB0OE0ビット = 1に設定 (正相の出力許可) してください。この設定を行わない場合は，山割り込み (INTTAB0CC0), 谷割り込み (INTTAB0OV) が発生しないため，A/Dコンバータの変換開始トリガ信号が正常に発生しません。
- ・TAB0OPT0レジスタ = 00Hに設定 (コンペア・レジスタ選択にする)
- ・TAB0CCR0-TAB0CCR3レジスタに適切な値を設定 (動作開始時のコンペア初期値を設定)
- ・TAB0CTL0レジスタ = 0xHに設定 (TAB0CEビットは0, TAB0の動作クロックを設定する)
TAB0CTL0レジスタで設定したTAB0の動作クロックは，TAA4にも供給され，同じタイミングでカウント動作を行います。TAA4CTL0レジスタで設定したTAA4の動作クロックは無視されます。

(c) TABOP0n (TAB0オプション) レジスタ設定

- ・TAB0OPT1, TAB0OPT2レジスタに適切な値を設定
- ・TAB0IOC3レジスタに適切な値を設定 (TOAB0B1-TOAB0B3の出力モードを設定)
- ・TAB0DTCレジスタに適切な値を設定 (動作開始時のコンペア初期値を設定)

(d) 兼用機能設定

- ・ポート・コントロール・モードにより，ポートを兼用機能にする。

(e) TAA4CEビット = 1に設定し,直後にTAB0CEビット = 1に設定し,6相PWM出力動作を開始

動作中におけるTAB0CTL0, TAB0CTL1, TAB0IOC1, TAB0IOC2, TAA4CTL0, TAA4CTL1, TAA4IOC0, TAA4IOC1, TAA4IOC2レジスタの書き換えは禁止です。書き換えた場合の動作, および, PWM出力波形は保証できません。ただし, TAB0CTL0.TAB0CEビット = 0にするためのTAB0CEビットの書き換えは許可します。また, TAA4CTL0.TAA4CEビット = 1としたあとTAB0CEビット = 1とするまでは, ほかのTAB0, TAA4, TAB0オプションの各レジスタ操作(読み出し/書き込み)は一切禁止です。

注意 6相PWM出力モードでTAA4を同調動作させるときはTOAA00, TOAA01端子出力は禁止です。TAA0IOC0.TAA0OE0, TAA0OE1ビットは“0”に設定してください。

(2) 同調動作解除手順

同調動作を解除し, 6相PWM出力モードを終了するためのTAA4, TAB0レジスタの設定手順を次に示します。

TAB0CTL0.TAB0CEビット = 0に設定し, タイマ動作を停止
 TAA4CTL0.TAA4CEビット = 0に設定し, TAA4は分離可能状態
 TAB0IOC0, TAA4IOC0レジスタによりタイマ出力を停止
 TAA4CTL1.TAA4SYEビット = 0に設定し, 同調動作を解除

注意 TAB0CEビット = 0としたあとTAA4CEビット = 0とするまでは, ほかのTAB0, TAA4, TAB0オプションの各レジスタ操作(読み出し/書き込み)は一切禁止です。

(3) TAA4を同調動作させない場合について

A/Dコンバータの変換開始トリガ・ソースとしてTAA4の一致割り込み信号を使用しない場合は, TAA4を同調動作させず単独動作させて別機能のタイマとして使用できます。この場合, 6相PWM出力モードにおいて, A/D変換開始トリガ・ソースとしてTAA4の一一致割り込み信号を使用しないため, TAB0OPT2.TAB0AT00-TAB0AT03ビット, TAB0OPT3.TAB0AT10-TAB0AT13ビットは0固定にして使用してください。

ほかの制御ビットは, TAA4を同調動作させた場合と同様に使用できます。

TAA4を同調動作させていない場合, TAA4のコンペア・レジスタ(TAA4CCR0, TAA4CCR1)は, TAB0OPT0.TAB0CMSビット, TAB0OPT2.TAB0RDEビットの設定による影響を受けません。TAA4を同調動作させない場合の初期設定手順は, 23.4.5(1) 同調動作開始手順に示した手順の(b)-(e)を行ってください。(a)は同調動作させるTAA4の設定なので不要です。

(4) 同調動作時のTAA4の基本動作

TAA4の16ビット・カウンタは、アップ・カウント動作のみを行います。TAB0CCR0レジスタによる周期設定値でTAA4の16ビット・カウンタがクリアされ0000Hから再カウントを行います。したがって、TAB0の16ビット・カウンタがアップ・カウント時はTAA4の16ビット・カウンタと同値ですが、ダウン・カウント時はTAA4のカウント値は同じではありません。

- TAB0がアップ・カウント時（同値）

TAB0の16ビット・カウンタ : 0000H M (アップ・カウント)

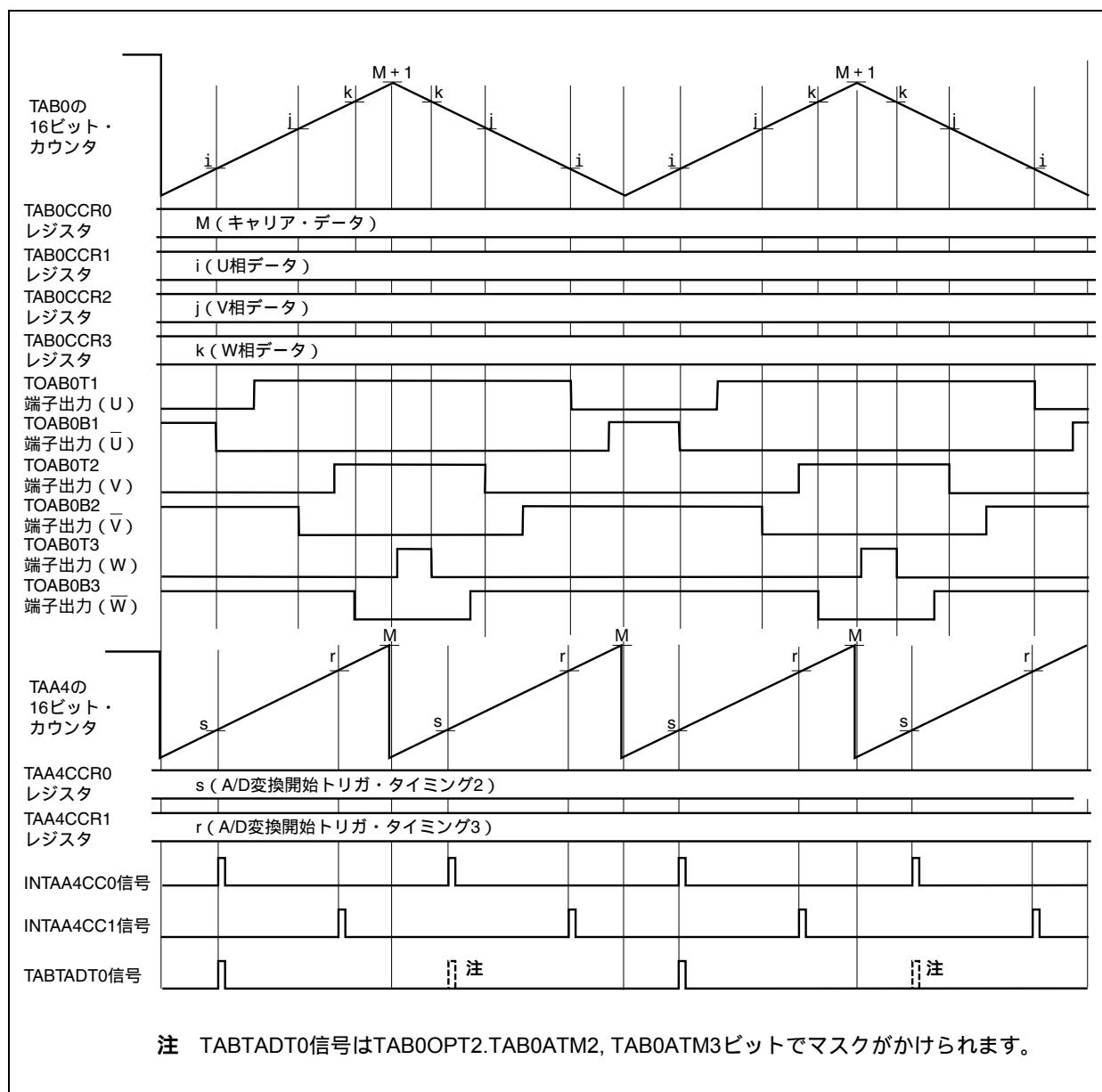
TAA4の16ビット・カウンタ : 0000H M (アップ・カウント)

- TAB0がダウン・カウント時（同値でない）

TAB0の16ビット・カウンタ : M + 1 0001H (ダウン・カウント)

TAA4の16ビット・カウンタ : 0000H M (アップ・カウント)

図23-37 同調動作時のTAA4



23.4.6 A/D変換開始トリガ出力機能

本マイクロコントローラには、4つのトリガ・ソース（INTTAB0OV, INTTAB0CC0, INTTAA4CC0, INTTAA4CC1）を自由に選択して、A/Dコンバータの変換開始トリガ信号（TABTADT0）を生成する機能があります。

トリガ・ソースは、TAB0OPT2.TAB0AT0-TAB0AT3ビットで指定します。

- TAB0AT0ビット = 1
: INTTAB0OV (カウンタ・アンダフロー) 発生時にA/D変換開始トリガ信号を発生
- TAB0AT1ビット = 1
: INTTAB0CC0 (周期一致) 発生時にA/D変換開始トリガ信号を発生
- TAB0AT2ビット = 1
: INTTAA4CC0 (同調動作TAA4のTAA4CCR0レジスタとの一致) 発生時にA/D変換開始トリガ信号を発生
- TAB0AT3ビット = 1
: INTTAA4CC1 (同調動作TAA4のTAA4CCR1レジスタとの一致) 発生時にA/D変換開始トリガ信号を発生

TAB0AT0-TAB0AT3ビットにより選択されたA/D変換開始トリガ信号は、すべてORされて出力されるため、複数のトリガ・ソースを同時に指定できます。

TAB0AT0, TAB0AT1ビットによって選択されるINTTAB0OV, INTTAB0CC0信号は割り込み間引き後の信号となります。

したがって、割り込み間引き制御を受けたタイミングでの出力となり、割り込みの出力イネーブル（TAB0OPT1.TAB0ICE, TAB0IOEビット）を許可にしていない場合は、A/D変換開始トリガ信号も出力されません。

TAA4からのトリガ・ソース（INTTAA4CC0, INTTAA4CC1）は、TAB0AT2, TAB0AT3ビットの設定により、16ビット・カウンタのアップ・カウント／ダウン・カウントの状態によって、A/D変換開始トリガ信号をマスクする機能があります。

- TAB0ATM2ビット
: TAB0AT2ビットに対応し、TAA4のINTTAA4CC0 (一致割り込み信号) を制御
 - TAB0ATM2ビット = 0
: 16ビット・カウンタがアップ・カウント時 (TAB0OPT0.TAB0CUFビット = 0) はA/D変換開始トリガ信号を出力し、ダウン・カウント時 (TAB0CUFビット = 1) はA/D変換開始トリガ信号を出力しない。
 - TAB0ATM2ビット = 1
: 16ビット・カウンタがダウン・カウント時 (TAB0CUFビット = 1) はA/D変換開始トリガ信号を出力し、アップ・カウント時 (TAB0CUFビット = 0) はA/D変換開始トリガ信号を出力しない。
- TAB0ATM3ビット
: TAB0AT3ビットに対応し、TAA4のINTTAA4CC1 (一致割り込み信号) を制御
 - TAB0ATM3ビット = 0
: 16ビット・カウンタがアップ・カウント時 (TAB0CUFビット = 0) はA/D変換開始トリガ信号を出力し、ダウン・カウント時 (TAB0CUFビット = 1) はA/D変換開始トリガ信号を出力しない。
 - TAB0ATM3ビット = 1
: 16ビット・カウンタがダウン・カウント時 (TAB0CUFビット = 1) はA/D変換開始トリガ信号を出力し、アップ・カウント時 (TAB0CUFビット = 0) はA/D変換開始トリガ信号を出力しない。

TAB0ATM3, TAB0ATM2, TAB0AT3-TAB0AT0ビットは、タイマ動作中に書き換えができます。タイマ動作中にA/D変換開始トリガ信号の設定ビットを書き換えると、即時にA/D変換開始トリガ信号の出力状態に反映されます。これらの制御ビットは、転送機能を持たず、随時書き換えモードのみ可能です。

- 注意1. TAB0AT2, TAB0AT3ビットの設定におけるA/Dの変換開始トリガ信号出力は、TAA4がTAB0のスレーブ・タイマとして同調動作している場合にかぎり利用できます。TAB0, TAA4が同調動作を行っていない場合、および6相PWM出力モード以外で使用している場合は、出力を保証できません。
2. 16ビット・カウンタのアップ／ダウン・カウントの状態判定には、TOAB00信号出力を内部で利用しています。したがって、TAB0IOC0.TAB0OL0ビット = 0, TAB0OE0ビット = 1と設定し、TOAB00端子出力を有効にしてください。

図23-38 A/D変換開始トリガ(TABTADT0)信号出力例 (TAB0OPT1.TAB0ICEビット = 1, TAB0IOEビット = 1, TAB0ID4-TAB0ID0ビット = 00000 : 割り込み間引きなし)

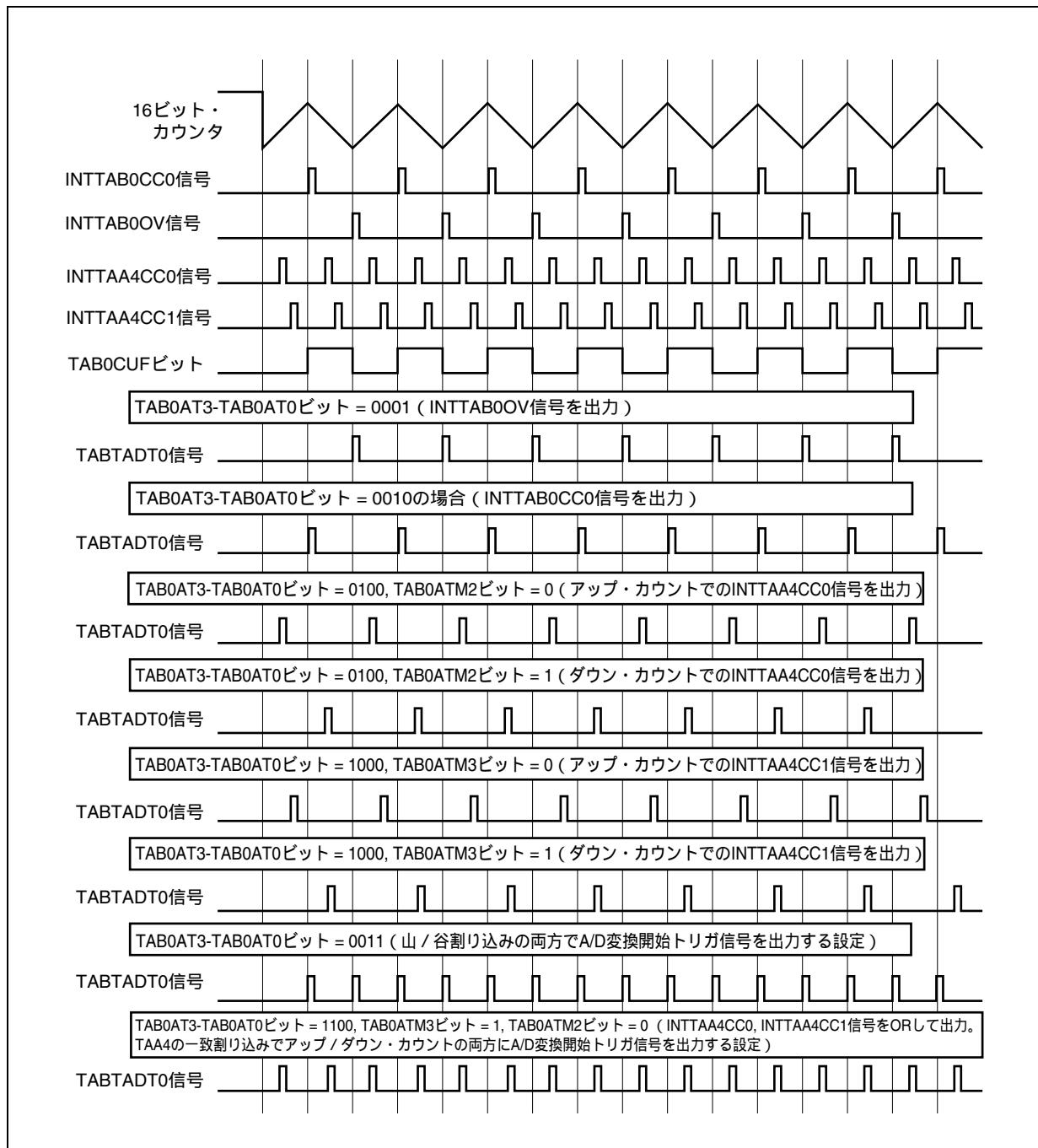


図23-39 A/D変換開始トリガ(TABTADT0)信号出力例 (TAB0OPT1.TAB0ICEビット = 0,
TAB0IOEビット = 1, TAB0ID4-TAB0ID0ビット = 00010 : 割り込み間引きあり) (1)

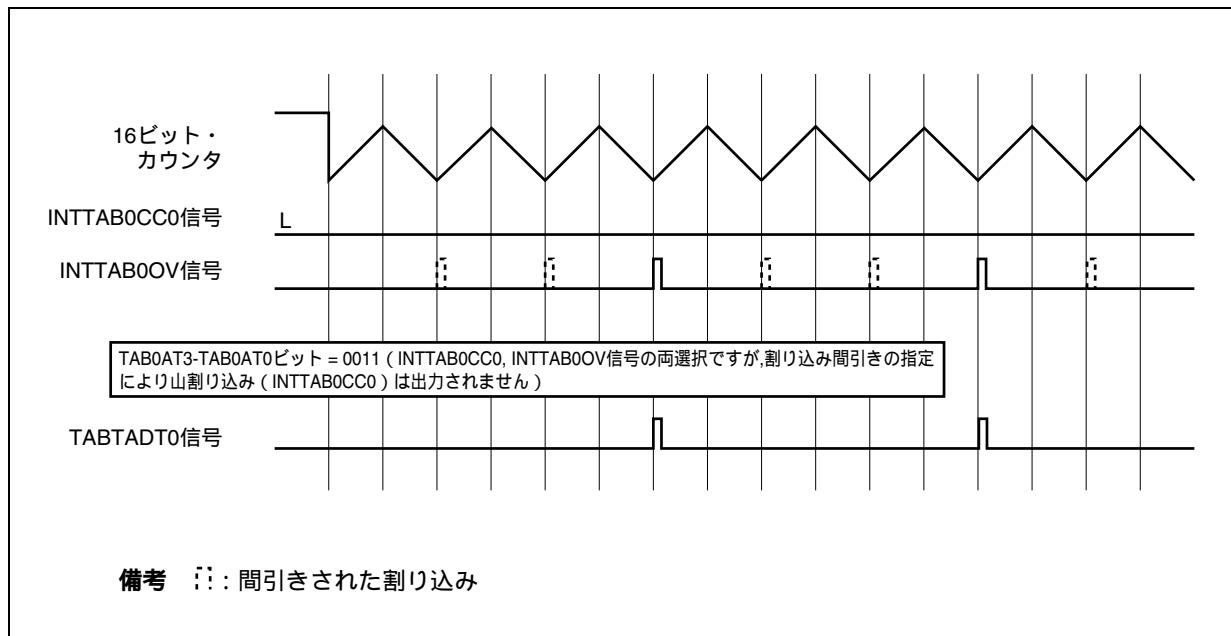
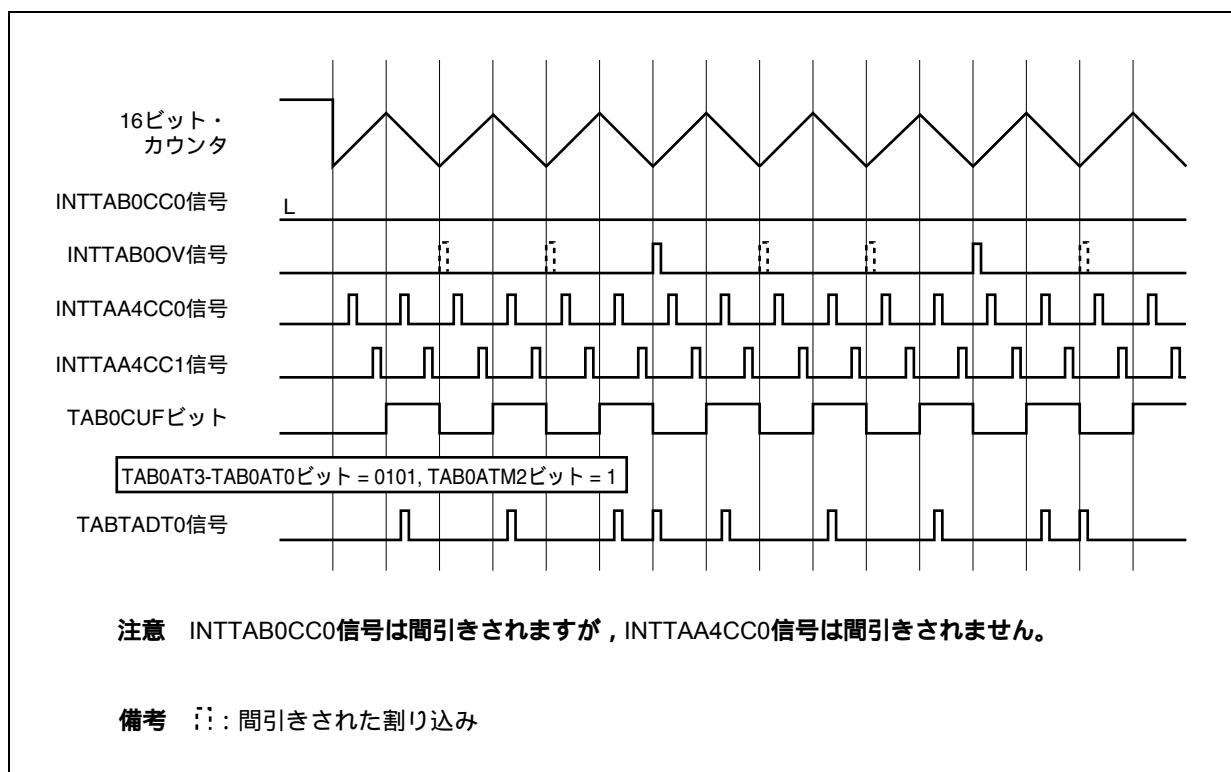


図23-40 A/D変換開始トリガ(TABTADT0)信号出力例 (TAB0OPT1.TAB0ICEビット = 0,
TAB0IOEビット = 1, TAB0ID4-TAB0ID0ビット = 00010 : 割り込み間引きあり) (2)



(1) 境界条件での動作(16ビット・カウンタとINTTAA4CC0信号の一致発生時の動作説明)

表23-3 TAB0CCR0レジスタ = M, TAB0AT2ビット = 1, TAB0ATM2ビット = 0(アップ・カウント期間選択)
の動作

TAA4CCR0レジスタ の値	TAB0の16ビット・ カウンタの値	TAA4の16ビット・ カウンタの値	TAB0の16ビット・ カウンタの状態	INTTAA4CC0信号による TABTADT0信号の出力
0000H	0000H	0000H	-	出力する
0000H	M + 1	0000H	-	出力しない
0001H	0001H	0001H	アップ・カウント	出力する
0001H	M	0001H	ダウン・カウント	出力しない
M	M	M	アップ・カウント	出力する
M	0001H	M	ダウン・カウント	出力しない

表23-4 TAB0CCR0レジスタ = M, TAB0AT2ビット = 1, TAB0ATM2ビット = 1(ダウン・カウント期間選択)
の動作

TAA4CCR0レジスタ の値	TAB0の16ビット・ カウンタの値	TAA4の16ビット・ カウンタの値	TAB0の16ビット・ カウンタの状態	INTTAA4CC0信号による TABTADT0信号の出力
0000H	0000H	0000H	-	出力しない
0000H	M + 1	0000H	-	出力する
0001H	0001H	0001H	アップ・カウント	出力しない
0001H	M	0001H	ダウン・カウント	出力する
M	M	M	アップ・カウント	出力しない
M	0001H	M	ダウン・カウント	出力する

注意 TAA4CCRmレジスタは, TAB0CCR0レジスタ = Mのとき, “0”から“M”までの設定を許可します。

“M + 1”以上は設定禁止です。

“M + 1”以上の値を設定した場合は,TAA4の16ビット・カウンタは“M”でクリアされるため,TABTADT0
信号は出力されません。

第24章 電 源

本製品は、発振器ブロック、内部ロジック回路、I/Oバッファに電圧を供給するため、複数の電圧端子を備えています。これらの電源端子は、内蔵レギュレータやI/Oバッファへ接続されています。

内蔵レギュレータは、発振器ブロックと内部ロジック回路（A/Dコンバータ、I/Oバッファを除く）に、V_{DD}電源電圧を降圧した電圧（2.5 V（TYP.））を供給します。

24.1 概 要

電源供給には次の端子を使用します。

表24-1 電源端子と接続先

端 子	接 続 先			
	V850ES/FE3, V850ES/FF3	V850ES/FG3	V850ES/FJ3	V850ES/FK3
A _{VREF0} /A _{Vss}	A/Dコンバータ0、ポート7、ポート12			
A _{VREF1} /A _{Vss1}	-			A/Dコンバータ1、 ポート2
V _{DD} /V _{SS}	CPUコア、内蔵メモリ、内部ロジック回路（A/Dコンバータを除く）、発振器ブロック			
EV _{DD} /EV _{SS}	数字I/Oポート、 アルファベットI/Oポート	数字I/Oポート		
V _{DD1} /V _{SS1}	-	CPUコア、内蔵メモリ、内部回路（A/Dコンバータを除く）、発振回路 ^注	CPUコア、内蔵メモリ、内部回路（A/Dコンバータを除く）、発振回路	
BV _{DD} /BV _{SS}	-	アルファベットI/Oポート		
REGC	内蔵レギュレータ用容量接続端子			

注 V850ES/FG3のμPD70F3376A, 70F3377A, V850ES/FJ3のμPD70F3379, 70F3380, 70F3381, 70F3382のみ

備考1. 電気的特性については、次のデータ・シートを参照してください。

μPD70F3370A, 70F3371 データ・シート (U18640J)

μPD70F3372, 70F3373 データ・シート (U18639J)

μPD70F3374, 70F3375, 70F3376A, 70F3377A データ・シート (U18638J)

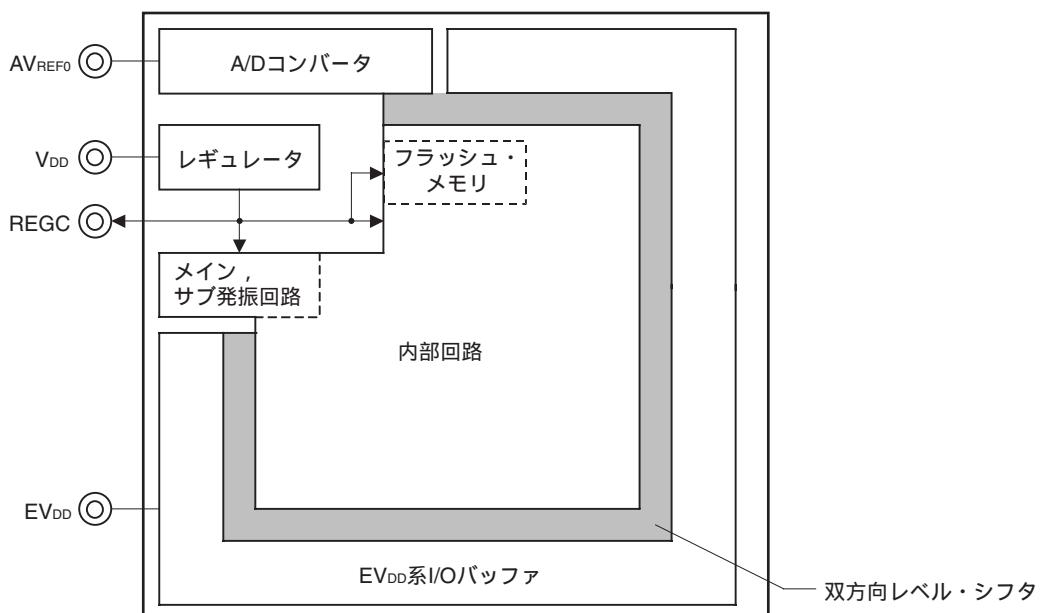
μPD70F3378, 70F3379, 70F3380, 70F3381, 70F3382 データ・シート (U18608J)

μPD70F3383, 70F3384, 70F3385 データ・シート (U18637J)

2. 数字I/Oポート： ポート0, 1, 3-6, 8, 9, 15

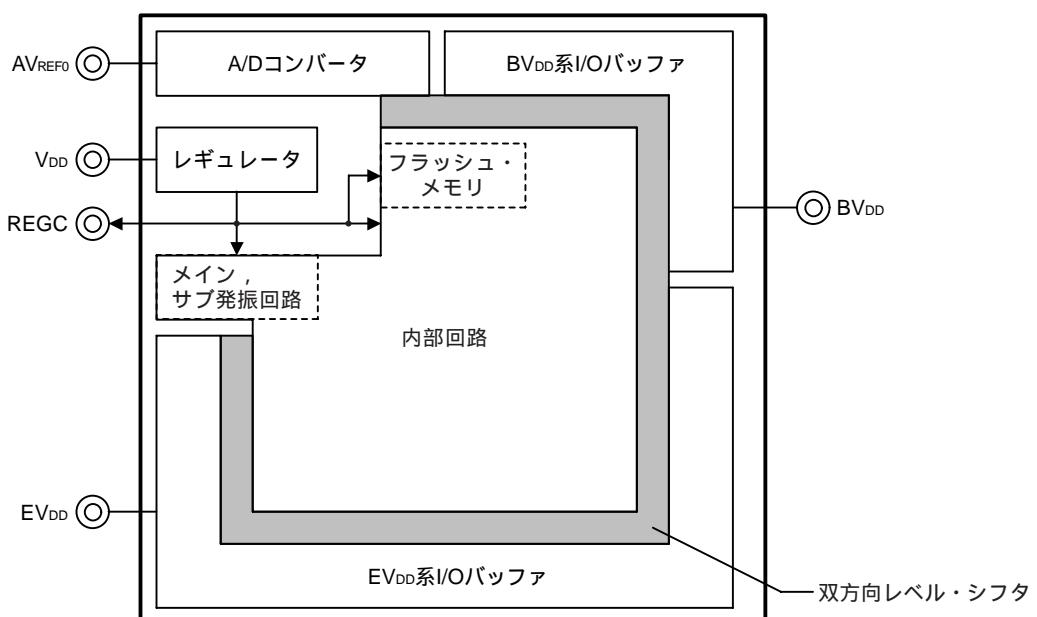
アルファベットI/Oポート：ポートCD, CM, CS, CT, DL

図24-1 電源端子 (V850ES/FE3, V850ES/FF3)



備考 図に正確な端子の位置は示していません。

図24-2 電源端子 (V850ES/FG3, PD70F3374, 70F3375, V850ES/FJ3, PD70F3378)



備考 図に正確な端子の位置は示していません。

図24-3 電源端子

(V850ES/FG3のμPD70F3376A, 70F3377A, V850ES/FJ3のμPD70F3379, 70F3380, 70F3381, 70F3382)

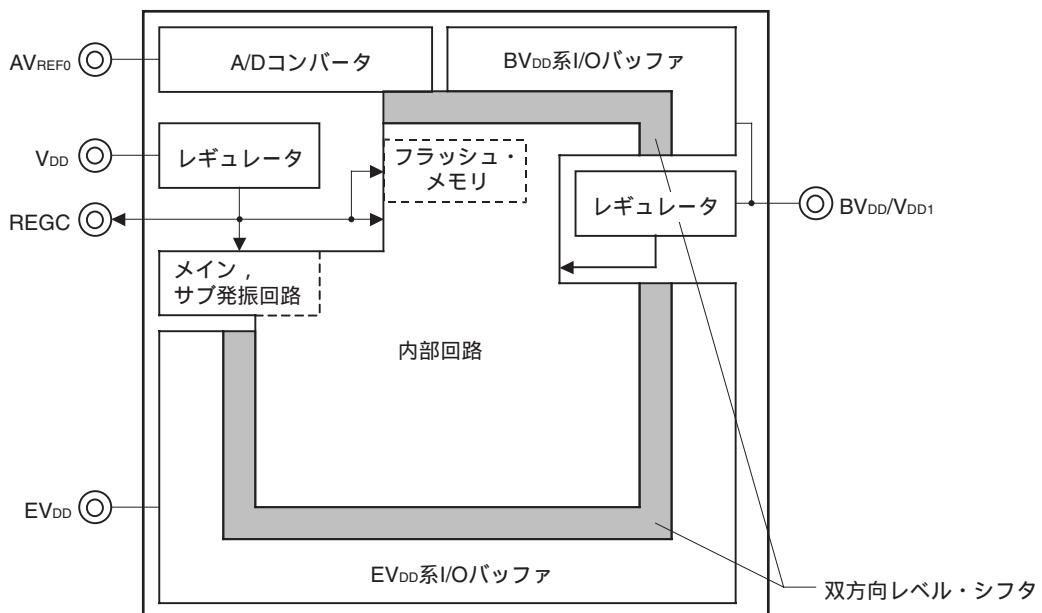
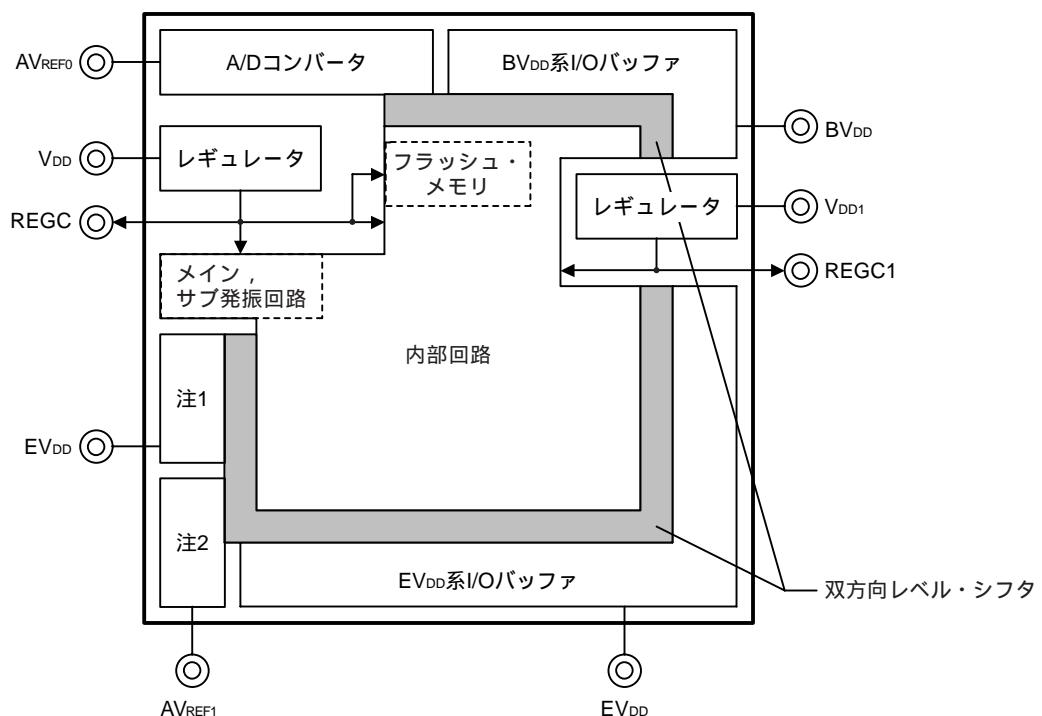
**備考** 図に正確な端子の位置は示していません。

図24-4 電源端子 (V850ES/FK3)

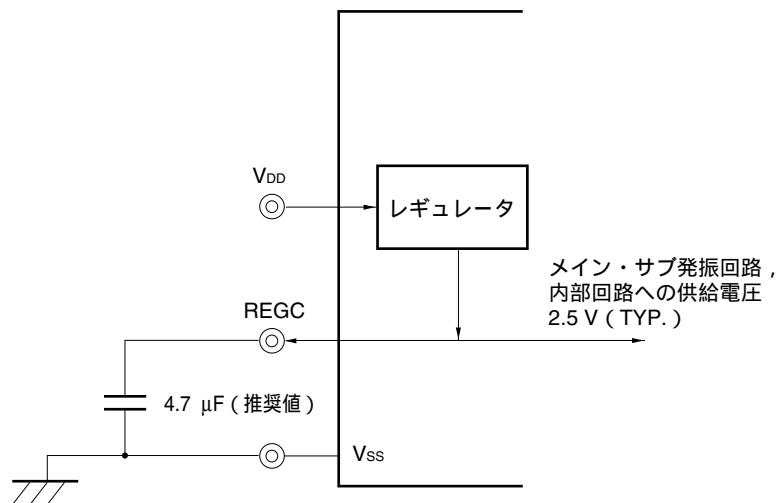
**注1.** EV_{DD}系I/Oバッファ

2. A/Dコンバータ

備考 図に正確な端子の位置は示していません。

24.2 内蔵レギュレータ

内蔵レギュレータは、すべての動作モード（通常動作、HALT, IDLE1, IDLE2, STOP, サブクロック, リセット中）で、常に動作します。



備考 レギュレータの出力電圧を安定させるためにREGC端子に容量（ $4.7 \mu F$ （推奨値））を接続してください。配線は極力短くしてください。詳細は、次のデータ・シートを参照してください。

μ PD70F3370A, 70F3371 データ・シート (U18640J)

μ PD70F3372, 70F3373 データ・シート (U18639J)

μ PD70F3374, 70F3375, 70F3376A, 70F3377A データ・シート (U18638J)

μ PD70F3378, 70F3379, 70F3380, 70F3381, 70F3382 データ・シート (U18608J)

μ PD70F3383, 70F3384, 70F3385 データ・シート (U18637J)

第25章 リセット機能

25.1 概 要

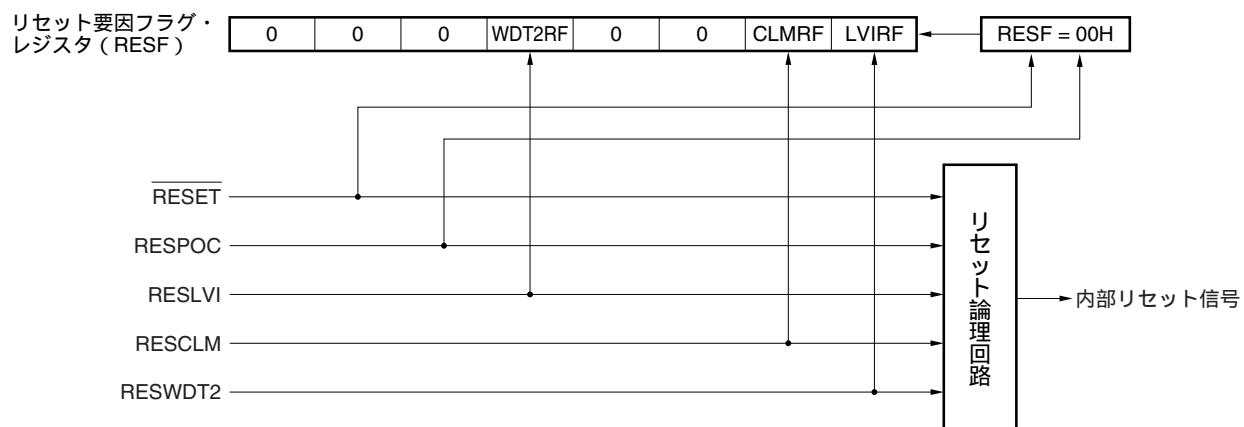
特 徴：内部システム・リセット信号SYSRESは次の要因から発生します。

- ・外部リセット信号RESET
- ・パワーオン・クリア（RESPOC）
- ・ウォッチドッグ・タイマ2（RESWDT2）
- ・クロック・モニタ（RESCLM）
- ・低電圧検出回路（RESLVI）

25.1.1 リセット機能

リセット機能に関する信号を次に示します。

図25-1 リセット機能の信号図



すべてのリセットは非同期で行います。したがって、リセットはどの内部クロックにも同期していません。そのため、すべての内部クロックが動作しない場合でも、マイクロコントローラをリセット状態に移行できます。

(1) ハードウェアの状態

ハードウェアは、各リセット機能によって初期化されます。リセット状態を解除すると、プログラムの実行を開始します。

リセット中とリセット解除後のクロックと内蔵モジュールの状態を次に示します。

表25-1 リセット中とリセット後のハードウェア状態

項目	リセット中	リセット後
クロック供給	4.1.4 リセット期間中およびリセット解除時の発振動作を参照してください。	
内蔵周辺機能		
ウォッチ・タイマWT	f _{XT} で動作	内蔵発振安定後、f _{RL} で動作開始
ウォッチドッグ・タイマWDT2	停止	
その他	停止	
CPU	初期化	内蔵発振安定後、f _{RH} でプログラム実行開始
I/O端子（ポート／兼用機能端子）	すべての端子は入力ポート・モード ^注 。第2章 端子機能を参照してください。	

注 リセット後のN-Wireデバッグ・インターフェース端子DRST(P05), DDI(P52), DDO(P53), DCK(P54), DMS(P55)の状態は、OCDMレジスタのリセット値と、リセット要因に応じて変化します。詳細は第2章 端子機能を参照してください。

(2) レジスタの状態

CPU, 内蔵RAM, 内蔵周辺I/Oのレジスタは、各リセット機能によって初期化されます。リセット後、必ずレジスタをプログラムで必要な値に設定してください。

表25-2 リセット後のCPUと内蔵RAMの初期値

内蔵ハードウェア	レジスタ名	リセット後の初期値
CPU	汎用レジスタ(r0)	00000000H
	汎用レジスタ(r1-r31)	不定
	プログラム・カウンタ(PC)	プログラム・フラッシュ・メモリ領域にリセット・ベクタをプログラム ^注
システム・レジスタ	割り込み時状態退避レジスタ(EIPC, EIPSW)	不定
	NMI時状態退避レジスタ(FEPC, FEPFW)	不定
	割り込み要因レジスタ(ECR)	00000000H
	プログラム・ステータス・ワード(PSW)	00000020H
	CALLT実行時状態退避レジスタ(CTPC, CTPSW)	不定
	例外/デバッグ・トラップ時状態退避レジスタ(DBPC, DBPSW)	不定
	CALLTベース・ポインタ(CTBP)	不定
内蔵RAM		不定
周辺機能	各制御レジスタ	各レジスタのリセット値については、周辺機能の章を参照してください。

注 リセット後、リセット・ベクタ・ハンドリング機能の設定に応じて、プログラムの分岐が行われます。

内蔵RAMは、パワーオン時のリセット、またはCPUによるRAMへのデータ・アクセスとリセット入力が競合（データ破壊）した場合、不定になります。

本マイクロコントローラは、内部システム・リセット解除後、ファームウェアにより内蔵RAMの一部が使用されます。したがって、パワーオン状態でのリセットでも一部領域のRAM内容を保持しません（RAMの先頭アドレスから150バイト、および最終アドレスから100バイト）。

（ファームウェアが使用する内蔵RAMの領域）

RAMサイズ8 Kバイト製品	: 03FFD000H-03FFD095H、および03FFEF9CH-03FFEFFFFH
RAMサイズ16 Kバイト製品	: 03FFB000H-03FFB095H、および03FFEF9CH-03FFEFFFFH
RAMサイズ24 Kバイト製品	: 03FF9000H-03FF9095H、および03FFEF9CH-03FFEFFFFH
RAMサイズ32 Kバイト製品	: 03FF7000H-03FF7095H、および03FFEF9CH-03FFEFFFFH
RAMサイズ40 Kバイト製品	: 03FF5000H-03FF5095H、および03FFEF9CH-03FFEFFFFH
RAMサイズ48 Kバイト製品	: 03FF3000H-03FF3095H、および03FFEF9CH-03FFEFFFFH
RAMサイズ60 Kバイト製品	: 03FF0000H-03FF0095H、および03FFEF9CH-03FFEFFFFH

25.1.2 パワーオン・リセット

パワーオン・クリア回路（POC）は常に電源電圧（ V_{DD} ）と内部基準電圧（ V_{IP} ）を比較し、電源電圧が規定電圧以上でマイクロコントローラが動作します。

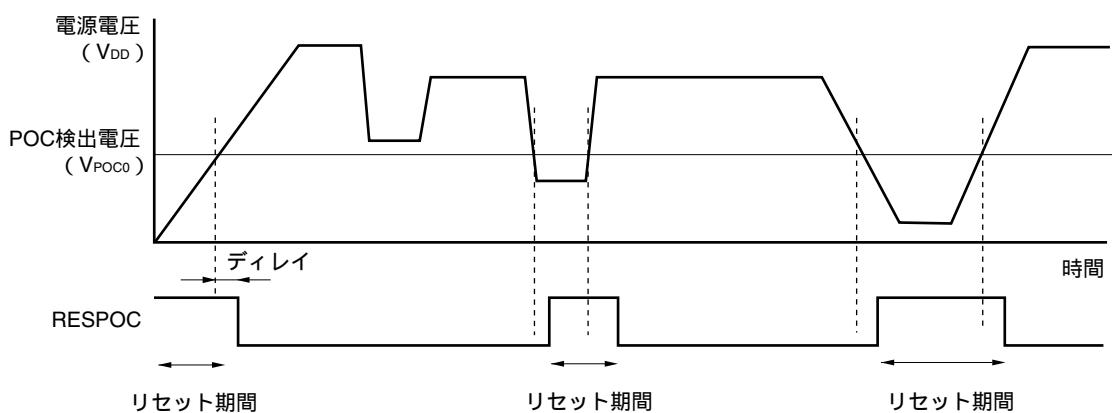
電源電圧が内部基準電圧以下に降下すると（ $V_{DD} < V_{IP}$ ），内部リセット信号RESPOCを発生します。

パワーオン・クリア・リセット後、RESFレジスタはクリアされ、内部リセット信号SYSRESを発生します。

パワーオン・クリア回路がRESPOC信号を発生するタイミングを図25-2に示します。

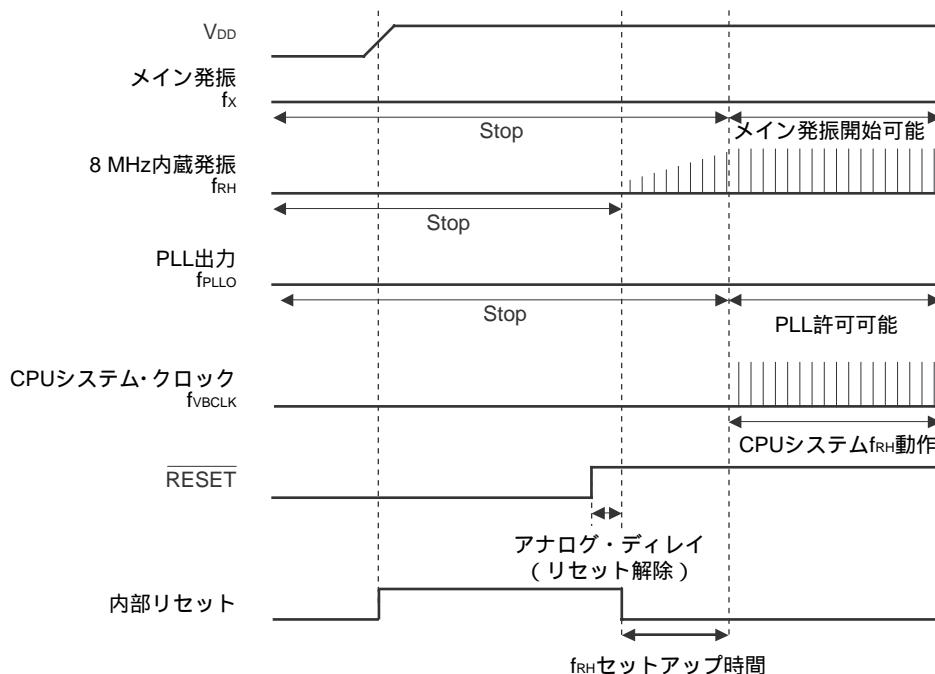
パワーオン・クリア機能は、電源電圧がスレッシュホールド・レベルの V_{POC0} を越えないかぎり、マイクロコントローラをリセット状態に保持します。

図25-2 パワーオン・クリア回路によるリセット発生



パワーオン・クリア後のCPUシステムの起動の概略を図25-3に示します。

図25-3 パワーオン・クリア後のCPUシステム起動



25.1.3 外部RESET

RESET端子にロウ・レベル信号を印加すると、リセットを実行します。

リセット状態は、RESET端子に印加した信号がロウ・レベルからハイ・レベルに変化すると、解除されます。

外部RESETの解除後、RESFレジスタはクリアされ、内部システム・リセット信号SYSRESを発生します。

RESET端子は、アナログ・フィルタを搭載しています。マイクロコントローラでクロックが動作していないなくても、外部RESETはマイクロコントローラをリセット状態に移行できます。

外部RESET実行時のタイミングを次に示します。

アナログ・ディレイは、アナログ入力フィルタによるものです。最小RESETパルス幅については、データ・シート^注を参照してください。

注 μ PD70F3370A, 70F3371 データ・シート (U18640J)

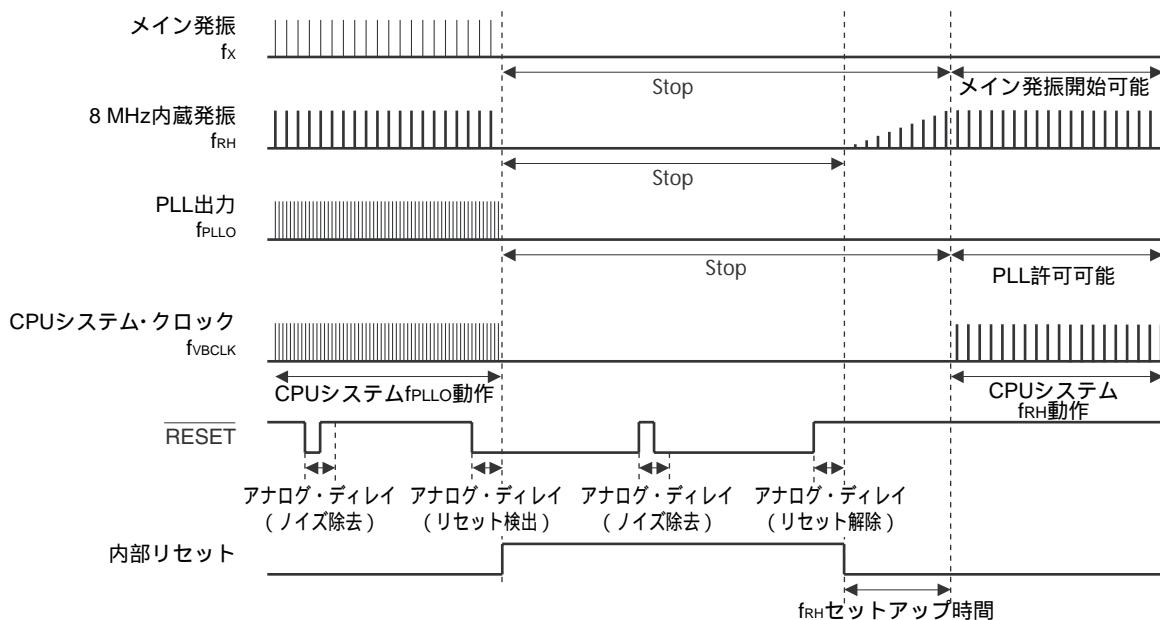
μ PD70F3372, 70F3373 データ・シート (U18639J)

μ PD70F3374, 70F3375, 70F3376A, 70F3377A データ・シート (U18638J)

μ PD70F3378, 70F3379, 70F3380, 70F3381, 70F3382 データ・シート (U18608J)

μ PD70F3383, 70F3384, 70F3385 データ・シート (U18637J)

図25-4 外部RESETのタイミング



25.1.4 ウオッチドッグ・タイマ2によるリセット

ウォッチドッグ・タイマは、オーバフローするとリセット信号を発生するように設定されています。ウォッチドッグ・リセット後、RESF.WDT2RFビットはセットされ、システム・リセット信号SYSRESを発生します。

ウォッチドッグ・タイマのオーバフロー後、所定の時間リセット状態となり、その後リセット状態を自動的に解除します。

25.1.5 クロック・モニタによるリセット

クロック・モニタは、メイン発振回路の停止を検出した場合、リセット信号を発生します。クロック・モニタ・リセット後、対応するRESF.CLMRFビットはセットされ、システム・リセット信号SYSRESを発生します。

クロック・モニタのリセット後、所定の時間リセット状態となり、その後リセット状態を自動的に解除します。

25.1.6 低電圧検出回路によるリセット

低電圧検出回路は、電源電圧V_{DD}が基準電圧VLVIを下回った場合にリセット信号RESLVIを発生します。

RESLVIはRESF.LVIRFビットをセットし、システム・リセット信号SYSRESを発生します。

25.2 リセット要因を確認するレジスタ

(1) リセット要因フラグ・レジスタ (RESF)

RESFレジスタは、最後にパワーオン・クリアまたは外部RESETが発生してから、発生したリセットの種類を示す8ビットのレジスタです。

各リセット条件によって、このレジスタの対応するフラグがセットされます。たとえば、パワーオン・クリア・リセット完了後にウォッチドッグ・タイマ・リセットが発生した場合、RESFの読み出し値は00010000Bとなります。

RESFレジスタは特定レジスタです。特定のシーケンスによってのみ、書き込みが可能です。

アクセス： 8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

アドレス： FFFF888H

初期値： パワーオン・クリア・リセットと外部RESETにより00Hになります。

7	6	5	4	3	2	1	0
0	0	0	WDT2RF	0	0	CLMRF	LVIRF
R	R	R	R/W	R	R	R/W	R/W

表25-3 RESFレジスタの内容

ビット位置	ビット名	機能
4	WDT2RF	ウォッチドッグ・タイマによるリセット 0：発生なし 1：発生あり
1	CLMRF	クロック・モニタによるリセット 0：発生なし 1：発生あり
0	LVIRF	低電圧検出回路によるリセット 0：発生なし 1：発生あり

注意 ビット7-5, 3, 2には必ず"0"を設定してください。

備考 各ビットへの書き込みは"0"ライトのみ可能です。書き込みとフラグ・セット（リセットの発生）によるレジスタのクリアが競合した場合、フラグ・セットが優先されます。

第26章 低電圧検出回路

26. 1 機能

低電圧検出回路 (LVI) は次のような機能を持ちます。

- ・電源電圧 (V_{DD}) と基準電圧 (V_{LVI}) を比較し、次の条件のとき、内部割り込み信号もしくは内部リセット信号を発生します。

内部割り込み信号： $V_{DD} < V_{LVI}$, $V_{DD} > V_{LVI}$

内部リセット信号： $V_{DD} < V_{LVI}$

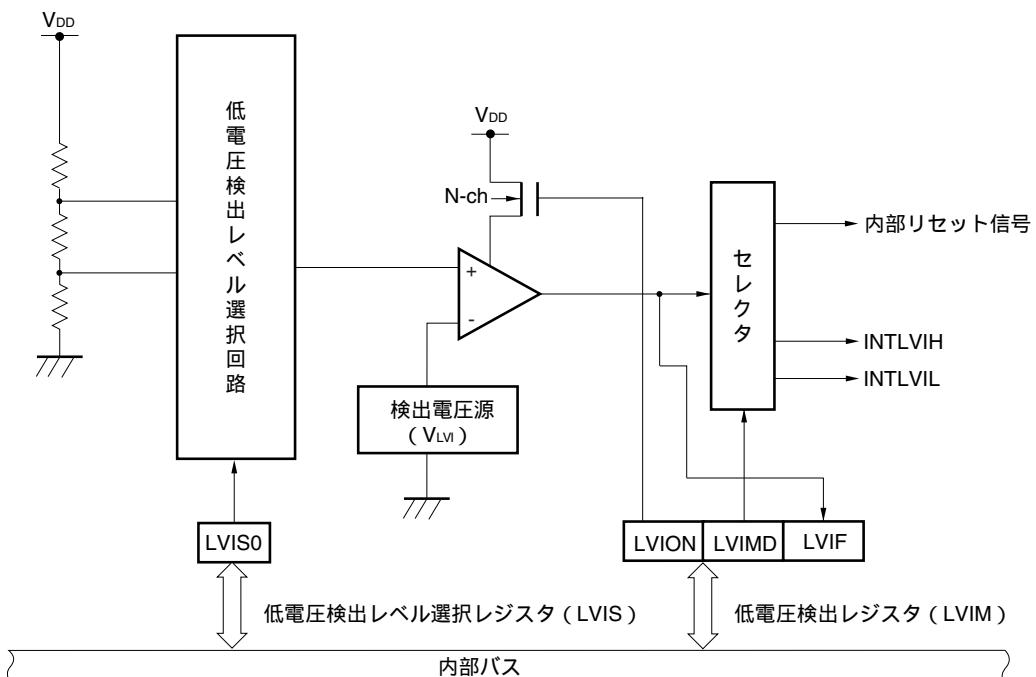
- ・電源電圧の検出レベル（2段階）をソフトウェアにて変更できます。
- ・割り込み／リセットをソフトウェアにて選択できます。
- ・STOPモードにおいても動作可能です。
- ・ソフトウェアにて動作停止可能です。

低電圧検出回路をリセットとして使用した場合に、リセット信号が発生するとリセット要因フラグ・レジスタ (RESF) のビット0 (LVIRF) がセット (1) されます。RESFについての詳細は、[第25章 リセット機能](#)を参照してください。

26. 2 構成

低電圧検出回路のブロック図を図26-1に示します。

図26-1 低電圧検出回路のブロック図



26.3 レジスタ

低電圧検出回路は次のレジスタで制御します。

- ・低電圧検出レジスタ (LVIM)
- ・低電圧検出レベル選択レジスタ (LVIS)

(1) 低電圧検出レジスタ (LVIM)

LVIMレジスタは特定レジスタです。特定のシーケンスによってのみ書き込みが可能です(3.6 特定レジスタ参照)。

LVIMレジスタは、低電圧検出の許可 / 禁止、低電圧検出回路の動作モードを設定するレジスタです。

8/1ビット単位でリード / ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

リセット時 : 00H R/W アドレス : FFFFFF890H

	(7)	6	5	4	3	2	(1)	(0)
LVIM	LVION	0	0	0	0	0	LVIMD	LVIF

LVION	低電圧検出動作の許可 / 禁止
0	動作禁止
1	動作許可

LVIMD	低電圧検出の動作モード選択
0	電源電圧 (V_{DD}) < 基準電圧 (V_{LVI}) 時に割り込み要求信号INTLVILを発生 電源電圧 (V_{DD}) > 基準電圧 (V_{LVI}) 時に割り込み要求信号INTLVIHを発生
1	電源電圧 (V_{DD}) < 基準電圧 (V_{LVI}) 時に内部リセット信号LVIRESを発生

LVIF	低電圧検出フラグ
0	電源電圧 (V_{DD}) > 基準電圧 (V_{LVI}) , または動作禁止時 (LVIM.LVION = 0)
1	接続する電源電圧 (V_{DD}) < 基準電圧 (V_{LVI})

注意1. LVIONビット = 1設定後, 指定した時間ウエイトしてから, LVIFビットで電圧を確認してください。

ウエイト時間については, 次のデータ・シートを参照してください。

μ PD70F3370A, 70F3371 データ・シート (U18640J)

μ PD70F3372, 70F3373 データ・シート (U18639J)

μ PD70F3374, 70F3375, 70F3376A, 70F3377A データ・シート (U18638J)

μ PD70F3378, 70F3379, 70F3380, 70F3381, 70F3382 データ・シート (U18608J)

μ PD70F3383, 70F3384, 70F3385 データ・シート (U18637J)

2. LVIFフラグの値は, LVIONビット = 1かつLVIMDビット = 0の場合に, 出力信号INTLVIとして出力されます。

3. LVIFビットは, リード・オンリーです。

4. ビット6-2には, 必ず0を設定してください。

注意5. LVIを動作停止 (LVIM.LVIONを1から0へ変更) する場合, 次の手順で行ってください。

INTLVIH割り込みをマスク (割り込み処理を禁止) する。

(LVIHIC.LVIHMK = 1, またはIMR0.LVIHMK = 1)

LVIの動作を停止設定する。

(LVIM.LVIONを1から0へ変更)

INTLVIH割り込みの割り込み要求フラグをクリアする。

(LVIHIC.LVIHIF = 0)

(2) 低電圧検出レベル選択レジスタ (LVIS)

LVISレジスタは, 低電圧検出レベルを選択するレジスタです。

8ビット単位でリード / ライト可能です。

リセットにより00Hになります。

リセット時 : 00H R/W アドレス : FFFFFF891H

	7	6	5	4	3	2	1	0
LVIS	0	0	0	0	0	0	0	LVIS0

LVIS0	検出レベル
0	4.0 V ± 0.2 V ^注
1	3.7 V ± 0.2 V ^注

注 次のデータ・シートを参照してください。

μPD70F3370A, 70F3371 データ・シート (U18640J)

μPD70F3372, 70F3373 データ・シート (U18639J)

μPD70F3374, 70F3375, 70F3376A, 70F3377A データ・シート (U18638J)

μPD70F3378, 70F3379, 70F3380, 70F3381, 70F3382 データ・シート (U18608J)

μPD70F3383, 70F3384, 70F3385 データ・シート (U18637J)

注意1. LVIM.LVION = 1, LVIM.LVIMD = 1に設定した場合は, 低電圧検出以外のリセットが発生するまでこのレジスタへの書き込みはできません。

2. ビット7-1には, 必ず0を設定してください。

(3) 内蔵RAMデータ・ステータス・レジスタ (RAMS)

RAMSレジスタは、電源電圧が特定のデータ保持電圧より降下したことを示すフラグ・レジスタです。

8/1ビット単位でリード / ライト可能です。

このレジスタへの書き込みは、命令の特定のシーケンスによって保護されています。3.6 特定レジスタを参照してください。

備考 セット条件：検出レベル以下の電圧検出、命令によるセット

クリア条件：命令によるクリア

リセット時 : 01H R/W アドレス : FFFFFF892H

	7	6	5	4	3	2	1	①
RAMS	0	0	0	0	0	0	0	RAMF

RAMF	内蔵RAMデータ有効 / 無効
0	電源電圧 > データ保持電圧, RAM有効
1	電源電圧 < データ保持電圧, RAM無効

データ保持電圧の仕様については、データ・シート[#]を参照してください。

注 μ PD70F3370A, 70F3371 データ・シート (U18640J)

μ PD70F3372, 70F3373 データ・シート (U18639J)

μ PD70F3374, 70F3375, 70F3376A, 70F3377A データ・シート (U18638J)

μ PD70F3378, 70F3379, 70F3380, 70F3381, 70F3382 データ・シート (U18608J)

μ PD70F3383, 70F3384, 70F3385 データ・シート (U18637J)

備考 このレジスタは、リセットによる影響を受けません。RAMのデータ保持の詳細については、26.

4.3 RAM保持電圧検出動作を参照してください。

(4) 周辺エミュレーション・レジスタ1(PEMU1)

インサーキット・エミュレータ使用時、デバッガ上で、このレジスタを操作することにより、擬似的にRAM保持フラグ（RAMFビット；RAMSレジスタのビット0）動作を制御し、エミュレーションを実現することができます。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

なお、このレジスタは、エミュレーション・モード時のみ有効で、通常モードでは無効になります。

リセット時：00H R/W アドレス：FFFFF9FEH

	7	6	5	4	3	2	1	0
PEMU1	0	0	0	0	0	EVARAMIN	0	0

EVARAMIN	RAM保持電圧検出信号擬似指定
0	RAM保持電圧以下を非検出
1	RAM保持電圧以下を検出（RAMFフラグをセット）

注意 このビットは、自動的にクリアされません。

[使用方法]

インサーキット・エミュレータ使用時、デバッガ上でこのレジスタの書き換えを行うことにより、RAMFの擬似エミュレーションを実現します。

CPUブレーク（CPU動作停止）

レジスタ書き込みコマンドにより、EVARAMINビットを“1”にします。

EVARAMINビットを“1”にすることにより、ハード上でRAMFビットが“1”（内蔵RAMデータが無効）になります。

再度、レジスタ書き込みコマンドにより、EVARAMINビットを“0”にします。

この動作を行わない（EVARAMINビットを“1 0”）場合は、CPU動作命令にてRAMFビットをクリア（“0”）にすることができないなります。

CPUをRUNし、エミュレーションを再開します。

26.4 動 作

LVIMDビットの設定により、割り込み信号（INTLVIL, INTLVIH）もしくは内部リセット信号を発生します。下記に動作設定方法とタイミング図を示します。

26.4.1 LVI (LVIM.LVIMD = 1) からのリセット発生

<動作開始時>

LVIの割り込みをマスクします。

LVIS.LVIS0ビットにて検出電圧を設定します。

LVIM.LVIONビット = 1に設定（動作許可）します。

ソフトウェアにて十分なウエイト時間を挿入します（データ・シート^注参照）。

LVIM.LVIFビットで電源電圧（V_{DD}）>基準電圧（V_{LVI}）であることを確認します。

LVIM.LVIMDビット = 1（内部リセット信号発生）を設定します。

注 μPD70F3370A, 70F3371 データ・シート (U18640J)

μPD70F3372, 70F3373 データ・シート (U18639J)

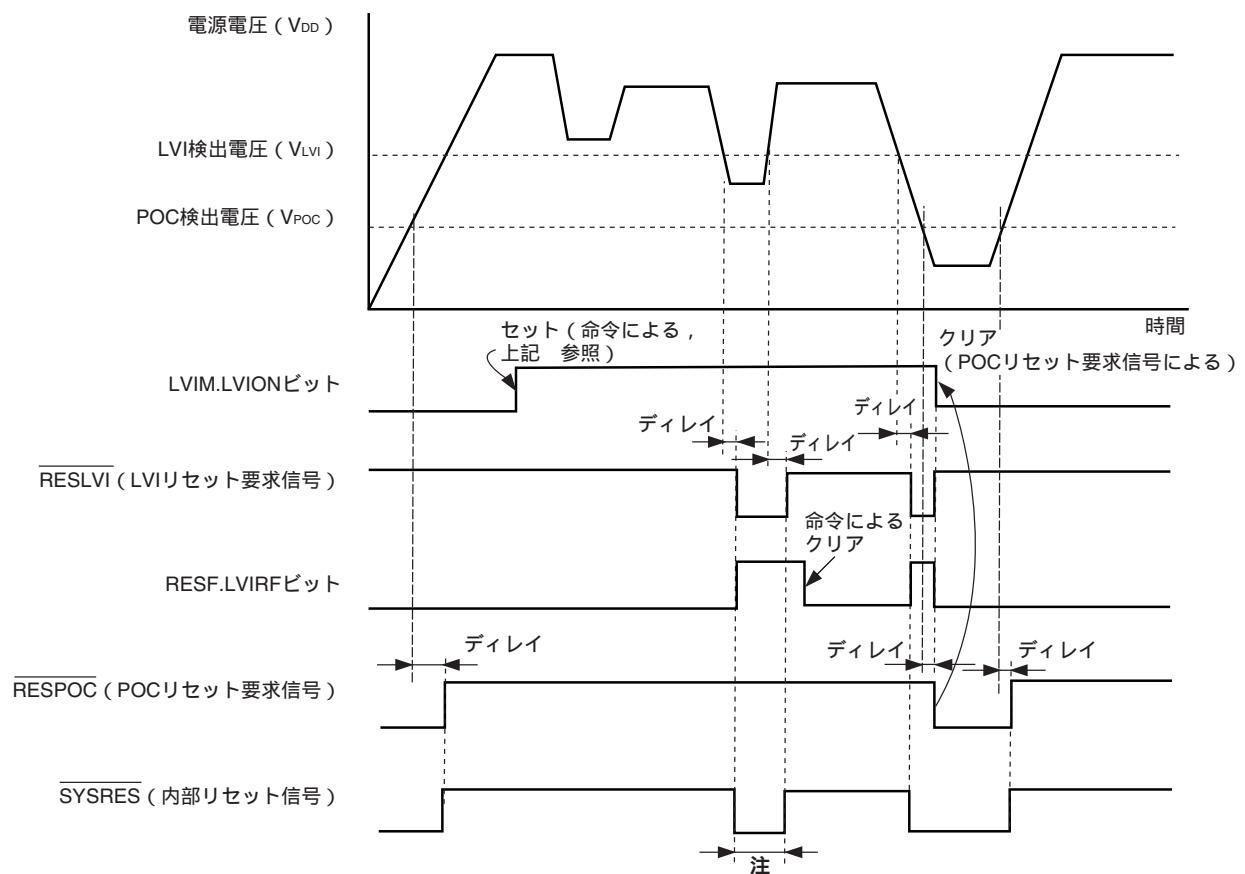
μPD70F3374, 70F3375, 70F3376A, 70F3377A データ・シート (U18638J)

μPD70F3378, 70F3379, 70F3380, 70F3381, 70F3382 データ・シート (U18608J)

μPD70F3383, 70F3384, 70F3385 データ・シート (U18637J)

注意 LVIM.LVIMD = 1に設定した場合、LVI以外のリセット要求が発生するまで、LVIM, LVISレジスタの変更はできません。

図26-2 低電圧検出回路の動作タイミング (LVIM.LVIMD = 1)



注 供給電圧が設定している低電圧以下の期間中は、内部リセット信号が保持されます（内部リセット状態）。

26.4.2 LVI (LVIM.LVIMD = 0) からの割り込み発生

<動作開始時>

LVIの割り込みをマスクします。
 LVIS.LVIS0ビットにて検出電圧を設定します。
 LVIM.LVIONビット = 1に設定（動作許可）します。
 ソフトウェアにて十分なウエイト時間を挿入します（データ・シート[#]参照）。
 LVIMLVIFビットで電源電圧（V_{DD}）>基準電圧（V_{LVI}）であることを確認します。
 LVIの割り込み要求フラグをクリアします。
 LVIの割り込みマスクを解除します。

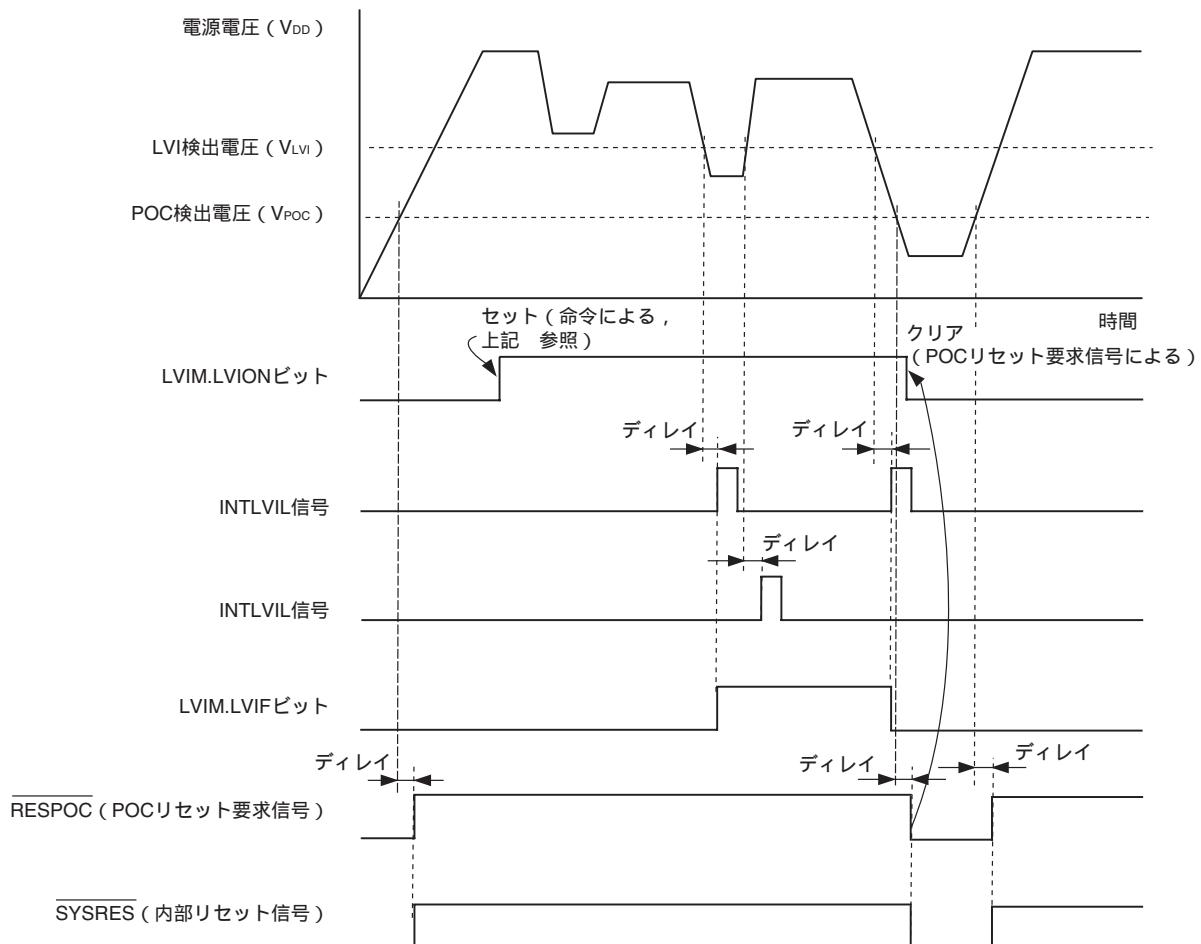
注 μ PD70F3370A, 70F3371 データ・シート (U18640J)
 μ PD70F3372, 70F3373 データ・シート (U18639J)
 μ PD70F3374, 70F3375, 70F3376A, 70F3377A データ・シート (U18638J)
 μ PD70F3378, 70F3379, 70F3380, 70F3381, 70F3382 データ・シート (U18608J)
 μ PD70F3383, 70F3384, 70F3385 データ・シート (U18637J)

<動作停止時>

LVIM.LVIONビット = 0に設定します。
 LVIを動作停止（LVIM.LVIONを1から0へ変更）する場合、次の手順で行ってください。

INTLVIH割り込みをマスク（割り込み処理を禁止）する。
 (LVIHIC.LVIHMK = 1, またはIMR0.LVIHMK = 1)
 LVIの動作を停止設定する。
 (LVIM.LVIONを1から0へ変更)
 INTLVIH割り込みの割り込み要求フラグをクリアする。
 (LVIHIC.LVIHIF = 0)

図26-3 低電圧検出回路の動作タイミング (LVIM.LVIMD = 0)



<使用上の注意>

V_{DD} がLVI検出レベル (V_{LVI}) 付近で揺れている場合、INTLVIHまたはINTLVLIL割り込み処理の判断を誤る可能性があるので注意してください。

例えば、INTLVIH割り込み処理中に V_{DD} が揺れることでINTLVIHとINTLVLIL割り込みが複数回ずつ発生すると、最後に発生した割り込みがどちらかを検出できません。これにより、 $V_{DD} > V_{LVI}$ になっているにもかかわらず、最後にINTLVLIL割り込み処理が行われると、ソフトウェアは $V_{DD} < V_{LVI}$ と誤判断してしまいます。

したがって、LVI検出割り込み処理時は、次のLVI検出が発生する前に完了するようにソフトウェアを組み、かつ V_{DD} を制御する、またはLVIFフラグをモニタするなどしてください。

26.4.3 RAM保持電圧検出動作

電源電圧とデータ保持電圧を比較し、電源電圧がデータ保持電圧を下回った場合（電源投入時も含みます）、RAMFビットをセットします。

データ保持電圧の仕様については、[データ・シート^注](#)を参照してください。

RAMS.RAMFフラグは、次のように動作します。

- 電源投入後にRAMS.RAMFフラグをセットします。
- RAMS.RAMFフラグはソフトウェアによってのみリセット可能です。
- 供給電圧がデータ保持電圧を上回っている限り、RAMS.RAMFフラグは0のままでです。
- RAMS.RAMFフラグはリセットによる影響を受けません。
- 供給電圧がパワー・オン・クリア基準電圧を下回っているが、データ保持電圧を上回っている場合は、POCリセットが適用されますがRAMS.RAMFフラグは0のままでです。

注 μ PD70F3370A, 70F3371 データ・シート (U18640J)

μ PD70F3372, 70F3373 データ・シート (U18639J)

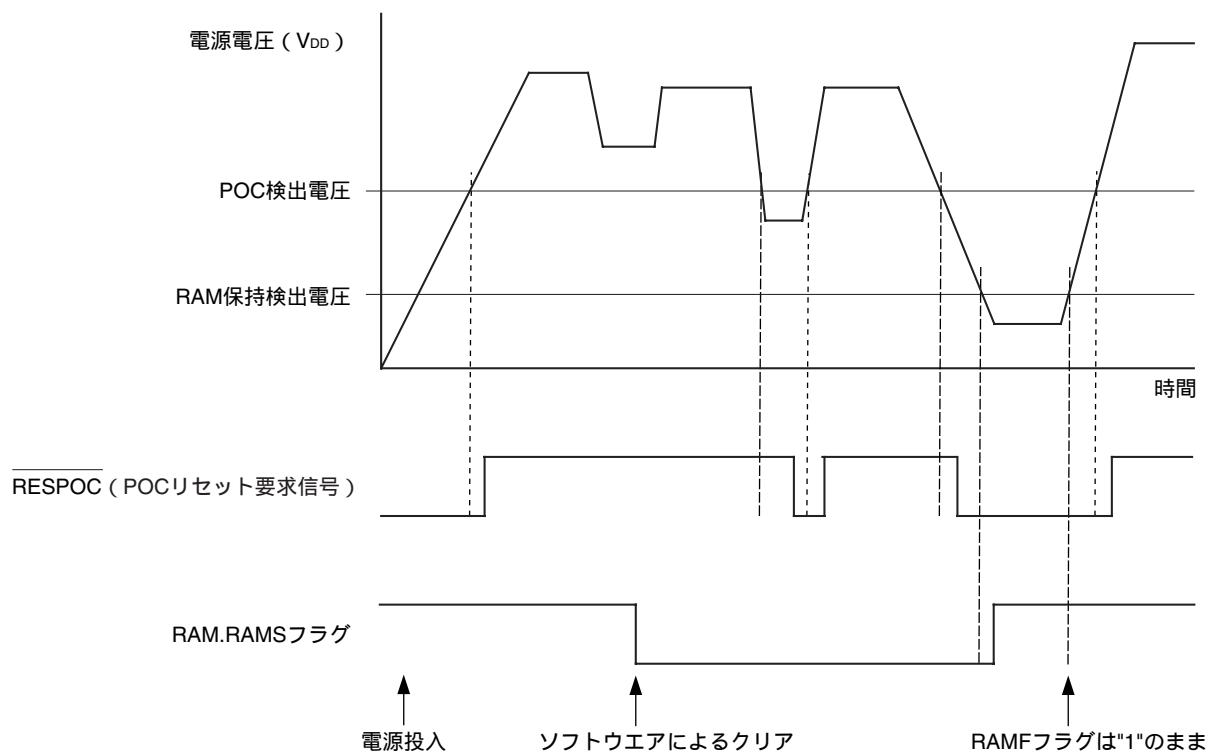
μ PD70F3374, 70F3375, 70F3376A, 70F3377A データ・シート (U18638J)

μ PD70F3378, 70F3379, 70F3380, 70F3381, 70F3382 データ・シート (U18608J)

μ PD70F3383, 70F3384, 70F3385 データ・シート (U18637J)

注意 CPUのRAMアクセス時に外部RESETが適用されると、RAMの内容の一部が偶然変更される可能性があります。このような場合は、RAMS.RAMFフラグをセットしません。

図26-4 RAM保持電圧検出機能の動作タイミング



第27章 オンチップ・デバッグ・ユニット

本マイクロコントローラは、オンチップ・デバッグ・ユニットを搭載しています。オンチップ・デバッグ・エミュレータ（N-Wire型エミュレータ）と接続することにより、マイクロコントローラ単体でのオンチップ・デバッグを実現することができます。

注意 以下に示すデバッグ機能は、マイクロコントローラとしてサポートしている機能であり、使用可能かどうかはデバッガによって異なります。詳細なデバッグ機能は使用するデバッガのユーザーズ・マニュアルを参照してください。

27.1 機能概要

27.1.1 オンチップ・デバッグ・ユニットの種類

本マイクロコントローラに搭載しているオンチップ・デバッグ・ユニットはRCU1（Run Control Unit 1）です。

27.1.2 デバッグ機能

(1) デバッグ・インターフェース

\overline{DRST} , DCK, DMS, DDI, DDO信号によりオンチップ・デバッグ・エミュレータを通して、ホスト・マシンとの通信を行います。インターフェースにはN-Wireの通信仕様を利用しています。

(2) オンチップ・デバッグ

ターゲット・システム上にオンチップ・デバッグ用の配線やコネクタを用意することで、オンチップ・デバッグが可能です。エミュレータ接続用のコネクタには、オンチップ・デバッグ・エミュレータを接続します。

オンチップ・デバッグ・モードを使用しないときは、OCDM0ビットをクリア（0）してください。詳細につきましては、表2-17 ポート・グループ0：端子機能とポート・タイプを参照してください。

(3) 強制リセット機能

マイクロコントローラ全体を強制的にリセットできます。

(4) ブレーク・リセット機能

CPUのリセット解除直後からCPUをデバッグ・モードで起動できます。

(5) 強制ブレーク機能

ユーザ・プログラムの実行を強制的に中断できます（ただし、不正命令コード例外のハンドラ（先頭アドレス：00000060H）は使用できません）。

(6) ハードウェア・ブレーク機能

命令系 / アクセス系兼用ブレーク・ポイントを2ポイント使用できます。命令系のブレーク・ポイントによって、プログラムの実行を任意のアドレスで中断できます。アクセス系のブレーク・ポイントによって、任意のアドレスへのデータ・アクセスでプログラムの実行を中断できます。

(7) ソフトウェア・ブレーク機能

内蔵ROM領域には、最大4ポイントのソフトウェア・ブレークを設定できます。RAM領域に設定できるソフトウェア・ブレーク・ポイント数は使用するデバッガによって異なります。

(8) ダイナミック・メモリ・モディフィケーション機能 (DMM機能)

プログラム実行中にRAMの内容の書き換えが可能です。

(9) デバッグ・モニタ機能

デバッグ中はユーザのメモリ空間とは異なるデバッグ用のメモリ空間を使用します（バググラウンド・モニタ形式）。ユーザ・プログラムを任意のアドレスから実行開始可能です。

また、ユーザ・プログラム中断中のユーザ・リソース（メモリ、I/Oなど）のリード／ライトやユーザ・プログラムのダウンロードが可能です。

(10) マスク機能

各種信号をマスクすることができます。

オンチップ・デバッグ・エミュレータのマスク機能との対応を以下に示します。

NMI0マスク機能	: NMI端子
NMI1マスク機能	: WDT2割り込み
NMI2マスク機能	: -
STOPマスク機能	: -
HOLDマスク機能	: <u>HLD</u> RQ端子
RESETマスク機能	: <u>RESET</u> 端子, WDT2リセット, POCリセット [#] , LVIリセット, クロック・モニタ・リセット
DBINTマスク機能	: -
WAITマスク機能	: <u>WAIT</u> 端子のマスク

注 パワーオン・クリア機能対応製品のみ該当します。

(11) タイマ機能

ユーザ・プログラムの実行時間を測定可能です。

(12) ブレーク中の周辺マクロ動作／停止選択機能

使用するデバッガにより、ブレーク中に周辺マクロを動作させるか、停止させるかを選択することができます。

ブレーク中は必ず停止する機能

- ・クロック・モニタ
 - ・ウォッチドッグ・タイマ2
- ブレーク中、動作／停止を選択できる機能（ただし個別の選択はできません。）
- ・タイマAA
 - ・タイマAB
 - ・タイマM
 - ・時計タイマ
 - ・モータ制御

ブレーク中に動作を継続する周辺機能（停止できない機能）

- ・上記以外の周辺機能

(13) パワー・セーブ・モード時の機能

パワー・セーブ・モードに設定したとき、デバッグ動作はできません。パワー・セーブ・モードを抜けると、オンチップ・デバッグ・ユニットは動作を継続します。

N-Wireインターフェースは、パワー・セーブ・モード時でもアクセスできます。

- ・オンチップ・デバッグ・エミュレータはステータス情報をオンチップ・デバッグ・ユニットから取得できます。
- ・オンチップ・デバッグ・エミュレータによってストップ・モードを解除できます。

(14) セキュリティ機能

本マイクロコントローラでは、デバッガの起動時にIDコードの入力をユーザに求めるN-Wireセキュリティ機能があります。

N-Wireセキュリティの詳細な情報については、第9章 データ保護とセキュリティを参照してください。

27.1.3 インタフェース信号

インタフェース信号について説明します。

(1) $\overline{\text{DRST}}$

オンチップ・デバッグ・ユニット用のリセット入力信号です。デバッグ・コントロール・ユニットを非同期に初期化するための負論理の信号です。

オンチップ・デバッグ・エミュレータは、統合デバッガの起動後にターゲット・システムのV_{DD}を検出すると、 $\overline{\text{DRST}}$ 信号をロウ・レベルからハイ・レベルに立ち上げて、対象デバイス内のオンチップ・デバッグ・ユニットを起動させます。

また、 $\overline{\text{DRST}}$ 信号がロウ・レベルからハイ・レベルに立ち上がることにより、CPUにもリセットが発生します。

統合デバッガを起動してデバッグを開始する際には、必ずCPUリセットが発生します。

(2) DCK

クロック入力信号です。オンチップ・デバッグ・エミュレータから20 MHzのクロックを供給します。オンチップ・デバッグ・ユニット内で、DCK信号の立ち上がりに同期してDMS, DDI信号をサンプリングし、DCK信号の立ち下がりに同期してデータDDOを出力します。

(3) DMS

転送モード選択信号です。DMS信号のレベルによりデバッグ・ユニット内の転送状態が遷移します。

(4) DDI

データ入力信号です。オンチップ・デバッグ・ユニット内でDCKの立ち上がりに同期してサンプリングします。

(5) DDO

データ出力信号です。オンチップ・デバッグ・ユニットからDCK信号の立ち下がりに同期して出力されます。

(6) EV_{DD}

ターゲット・システムのVDD検出用です。ターゲット・システムからのVDDが未検出の場合は、オンチップ・デバッグ・エミュレータからの出力信号 ($\overline{\text{DRST}}$, DCK, DMS, DDI, FLMD0, $\overline{\text{RESET}}$ 端子) はハイ・インピーダンスになります。

(7) FLMD0

統合デバッガによるフラッシュ・メモリへのダウンロード機能は、フラッシュ・セルフ・プログラミング機能を利用しています。フラッシュ・セルフ・プログラミング中はFLMD0端子をハイ・レベルにする必要があります。また、FLMD0端子にはプルダウン抵抗を接続してください。

FLMD0端子の制御方法として、次の2種類のうち、どちらかの方法を選択してください。

オンチップ・デバッグ・エミュレータから制御する場合

オンチップ・デバッグ・エミュレータからのFLMD0信号をデバイスのFLMD0端子に接続します。

通常モード時はオンチップ・デバッグ・エミュレータからは何もドライブしません(ハイ・インピーダンス)。

ブレーク中、統合デバッガのダウンロード機能を実行した際にオンチップ・デバッグ・エミュレータはFLMD0端子をハイ・レベルに制御します。

ポートから制御する場合

デバイスの任意のポートをFLMD0端子に接続します。

ユーザ・プログラムにおいてフラッシュ・セルフ・プログラミング機能を実現する場合と同じポート端子で問題ありません。

統合デバッガのコンソールによって、ダウンロード機能実行前にポート端子をハイ・レベルにする、または、ダウンロード機能実行後にポート端子をロウ・レベルにする設定を行ってください。

詳細はID850QB Ver3.20 統合デバッガ ユーザーズ・マニュアル 操作編(U17964J)を参照してください。

(8) RESET

システム・リセット入力信号です。ユーザ・プログラムにおいてOCDMレジスタのOCDM0ビットの値によって、DRST端子を無効としたあとは、オンチップ・デバッグは行えません。そのため、オンチップ・デバッグ・エミュレータからRESET端子によるリセットを与えて、DRST端子を有効(初期化)にします。

27.1.4 セキュリティ機能

本マイクロコントローラでは、オンチップ・デバッグ・エミュレータを接続するときに、あらかじめ内蔵ROM領域に書き込んだIDコードと、デバッガ起動時に入力するIDコードを比較することで、オンチップ・デバッグ・エミュレータの起動を制限するセキュリティ機能があります。この機能により、第三者による内蔵ROM領域の読み出しを防止することができます。

(1) IDコード

内蔵ROMにプログラムを書き込む際には、必ずIDコードを書き込んでください。

IDコードの領域は、00000070H-00000079H番地の10バイトです。

メモリ消去状態のIDコードを次に示します。

アドレス	IDコード
00000079H	FFH
00000078H	FFH
00000077H	FFH
00000076H	FFH
00000075H	FFH
00000074H	FFH
00000073H	FFH
00000072H	FFH
00000071H	FFH
00000070H	FFH

(2) セキュリティ・ビット

00000079H番地のビット7は、オンチップ・デバッグ・エミュレータの使用許可ビットになります。

- 00000079H番地のビット7

0：使用禁止

1：使用許可

- 注意**
- 00000079H番地の値が00H-7FHの場合は、オンチップ・デバッグ・エミュレータの接続ができません。
 - 00000079H番地の値が80H-FFHの場合は、オンチップ・デバッグ・エミュレータ接続時に入力する10バイトのIDコードが一致すれば、オンチップ・デバッグ・エミュレータが使用できます。

(3) 設定方法

例 0x70-0x79番地に次の値を設定する場合

番地	値
0x70	0x12
0x71	0x34
0x72	0x56
0x73	0x78
0x74	0x9A
0x75	0xBC
0x76	0xDE
0x77	0xF1
0x78	0x23
0x79	0xD4

次に、CA850をご使用の場合のプログラム例を示します。

[プログラム例]

```
#-----
# SECURITY_ID
#-----

.section "SECURITY_ID"
.word 0x78563412 --0-3 byte code,Address is 0x70-0x73
.word 0xF1DEBC9A --4-7 byte code,Address is 0x74-0x77
.hword 0xD423 --8-9 byte code,Address is 0x78-0x79
```

注意 CA850 Ver3.00より、リンクによるセキュリティID付加機能が追加されています。

上記プログラム例の他、リンクの+XsidオプションでもIDを設定することができます。

また、これによりCA850の旧バージョン使用時に、0x60番地のハンドラ(ILGOP)を利用して、セキュリティID(0x70～0x79番地)の設定をしていた場合には、リンクの際にエラーになります。

エラー・メッセージ：

```
F4264: start address(0x00000070) of section "SECURITY_ID" overlaps
previous section "ILGOP" ended before address (0xFFFFFFFF).
```

リンクの+Xsidオプションを指定するか、ILGOPを使用せず、プログラム例のようにセキュリティIDのセクションを使用するようにプログラムを変更して、回避してください。

詳細はCA850のユーザーズ・マニュアルを参照してください。

27.2 制御レジスタ

N-Wireインターフェース端子 \overline{DRST} , DDI, DDO, DCK, DMSはポート機能と兼用になっています(表27 - 1参照)。デバッグ中は、各デバイス端子は強制的にN-Wireインターフェース・モードにされ、ポート機能は使用できません。通常、N-Wireデバッグはフラッシュ・メモリのIDコード領域(*0x00000079 [bit7] = 1)内セキュリティ・ビットで許可しなくてはならないので注意してください。

デバッガが接続されていない場合にN-Wireインターフェースをリセットしておくために、内蔵プルダウン抵抗(ソフトウェアにより切断可能)が \overline{DRST} 端子に装備されています。

表27 - 1 N-Wireインターフェース端子

GPIO	N-Wire機能		
	端子	入出力	説明
P05	\overline{DRST}	入力	N-Wire RCUリセット
P52	DDI	入力	N-Wireデバッグ・データ・イン
P53	DDO	出力	N-Wireデバッグ・データ・アウト
P54	DCK	入力	N-Wireインターフェース・クロック
P55	DMS	入力	N-Wireモード

(1) オンチップ・デバッグ・モード・レジスタ (OCDM)

通常動作モードとオンチップ・デバッグ・モードを切り替えるレジスタです。OCDMレジスタは特定レジスタです。特定のシーケンスによってのみ書き込みができます(3.6 特定レジスタ参照)。

OCDM0ビットが“1”状態でかつ \overline{DRST} 端子の入力がハイ・レベルの場合、オンチップ・デバッグ・モードとなります。

端子リセット後、OCDM0ビットの初期値は“1”なので、オンチップ・デバッグ機能を使用しない場合はOCDM0ビットを“0”にクリアする必要があります、それまでの間、 \overline{DRST} 端子をロウ・レベルに保つ必要があります(図27 - 1参照)。なお、 \overline{DRST} 端子は、OCDM0ビットが“1”的間、内部でプルダウンしていますので、端子処理はオープンでも可能です。

POCリセット後、OCDM0ビットの初期値は“0”で、通常動作モードになります。したがって、オンチップ・デバッグをする際には端子リセットによってOCDM0ビットの値を“1”にする必要があります。

また、オンチップ・デバッグ中にPOCリセットが発生した際には、エミュレータとの通信は中断してしまいます。したがって、POCによるリセットのエミュレーションは行うことができません(図27 - 2参照)。

8/1ビット単位でリード／ライト可能です。

リセット時 : 01H^{注1} R/W アドレス : FFFFF9FCH

OCDM	7	6	5	4	3	2	1	0
	0	0	0	0	0	0	0	OCDM0

OCDM0	オンチップ・デバッグ機能の兼用端子指定 ^{注2}
0	ポート / 周辺機能端子として使用
1	オンチップ・デバッグ用端子として使用

注 1. $\overline{\text{RESET}}$ 端子 (外部リセット) 入力時 : OCDM0 = 1

パワーオン・クリアによるリセット時 : OCDM0 = 0

内部要因リセット (パワーオン・クリア以外) 発生時 : OCDMレジスタはリセット発生前の値を保持します。

2. P05/INTP2/ $\overline{\text{DRST}}$

P52/KR2/TIAB03/TOAB03/TOAB0T2/DDI

P53/KR3/TIAB00/TOAB00/TOAB0B2/DDO

P54/KR4/TOAB0T3/DCK

P55/KR5/TOAB0B3/DMS

図27 - 1 通常動作モードへの移行タイミング・チャート

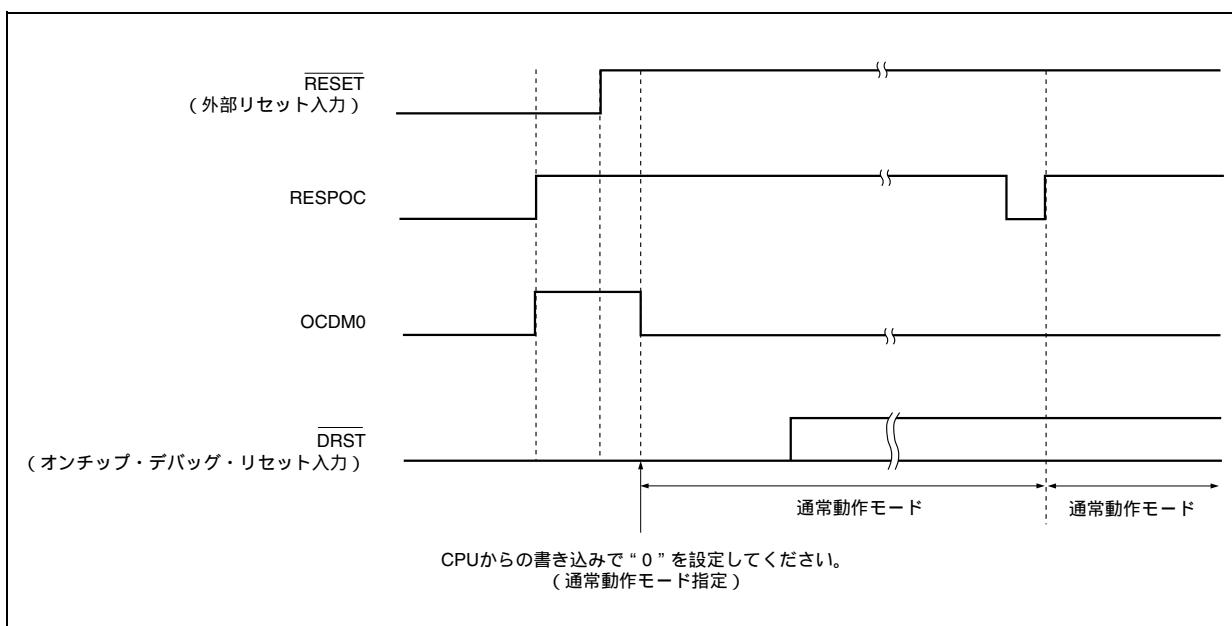
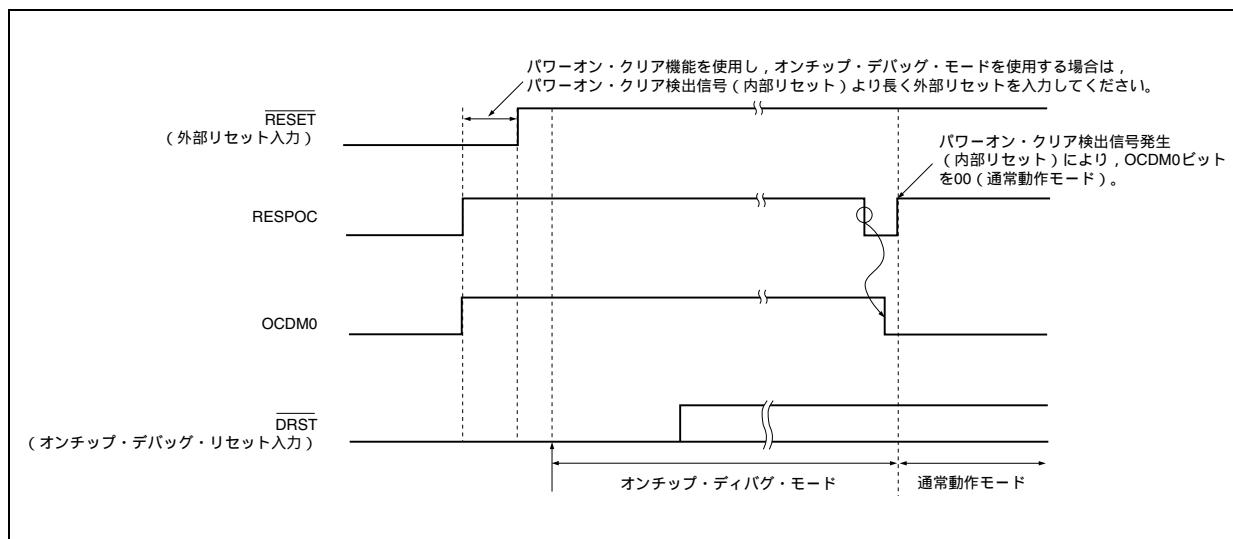


図27-2 オンチップ・デバッグ・モードへの移行タイミング・チャート



(2) パワーオン・クリア (RESPOC)

RESPOCリセットによりOCDM.OCDMO = 0になり、端子はポート端子に設定されます。デバッガはコントローラと通信できず、N-Wireデバッグ回路は使用できません。RESPOC後の最初のCPU命令は、デバッガからは制御できません。アプリケーション・ソフトウェアでOCDM.OCDMO = 1に設定し、N-Wireインターフェースを使用可能にし、デバッガがオンチップ・デバッグ・ユニットにアクセスできるようにしてください。

POCリセット (OCDM.OCDMO = 0) 中およびその後は、P05, P52-P55端子は入力ポートに設定されます。

(3) 外部RESET

RESET端子による外部リセットにより、OCDM.OCDMO = 1になり、端子はN-Wireインターフェース端子に設定されます。デバッガが接続されている場合は、オンチップ・デバッグ・ユニットと通信でき、CPUの制御を引き取ります。

RESET中およびその後は、P05, P52-P55端子は次のように設定されます。

- ・DRST, DDI, DCK, DMSは入力
- ・DDIは出力、ただしDRST = 0の間はハイ・インピーダンス状態

(4) その他のリセット

その他のすべてのリセット要因からのリセットは、P05, P52-P55端子に影響を与えません。

内蔵プルダウン抵抗がP05/ \overline{DRST} 端子に装備されています。どのリセット中およびその後でも、P05/ \overline{DRST} に抵抗が接続されており、デバッガが接続されていない場合にはN-Wireインターフェースは必ずリセット状態に保たれています。内蔵プルダウン抵抗はどの要因によるリセットでも接続され、ポート・コンフィグレーション・レジスタのビットPFC0.PDC05を介して切断できます。

\overline{DRST} 信号はN-Wireインターフェースのリセット信号を表しています。 $\overline{DRST} = 0$ の場合、オンチップ・デバッグ・ユニットはリセット状態に保たれ、通常のコントローラ動作に影響を与えません。 \overline{DRST} はデバッガが接続されていれば、デバッガにより駆動されます。デバッガは $\overline{DRST} = 1$ に設定することでコントローラと通信を開始します。

(a) 端子構成

N-Wireデバッグ・モードでは、N-Wireインターフェース端子の構成を端子のコンフィグレーション・レジスタで変更できません。レジスタの内容は変更されますが、端子構成には影響がありません。

27.3 N-Wire使用方法

本マイクロコントローラの動作モードは、OCDM.OCDM0および \overline{DRST} によって決まります。

表27-2 通常動作とオンチップ・デバッグ制御

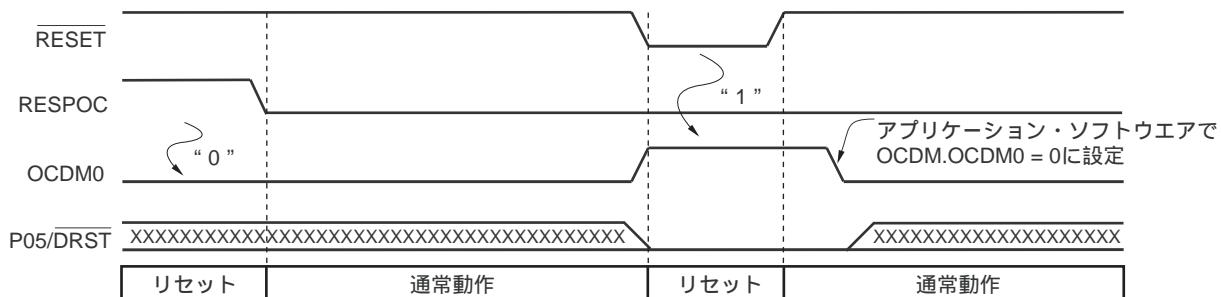
\overline{DRST}	OCDM.OCDM0	動作モード
0	x	通常動作
1	0	
	1	オンチップ・デバッグ

27.3.1 \overline{RESET} およびRESPOC後の通常動作開始

“通常動作”のために、リセット・イベント後はP05, P52-P55端子がポート端子として使用できなくてはなりません。したがって、ソフトウェアでOCDM.OCDM0 = 0を実行し、 \overline{RESET} 後に端子をポート端子として使用できるようにしてください。

\overline{RESET} 端子を介したどのような外部リセット後も、OCDM.OCDM0は“1”にセットされ、ソフトウェアでOCDM.OCDM0 = 0に設定するまでP05, P52-P55端子はアプリケーション機能端子として使用できないので注意してください。

図27-3 N-Wire起動なしの開始



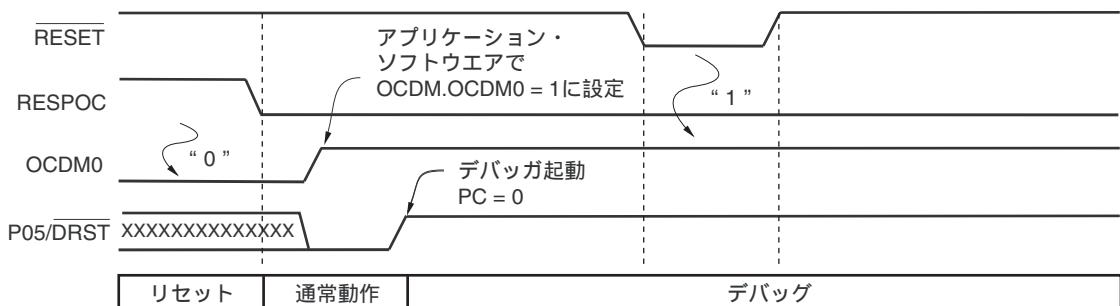
27.3.2 \overline{RESET} およびRESPOC後のデバッガ起動

N-WireインターフェースがRESPOCイベントによっても使用許可されるよう、ソフトウェアでOCDM.OCDM0 = 1に設定してください。その後デバッガが起動し、 \overline{DRST} 端子をハイ・レベルに設定してコントローラとの通信確立を開始し、CPUの制御を引き取ります。

デバッガの起動によりコントローラ全体がリセットされ、すなわち全レジスタがディフォルト状態に設定され、CPUのプログラム・カウンタはリセット・ベクタ00000000Hに設定されます。

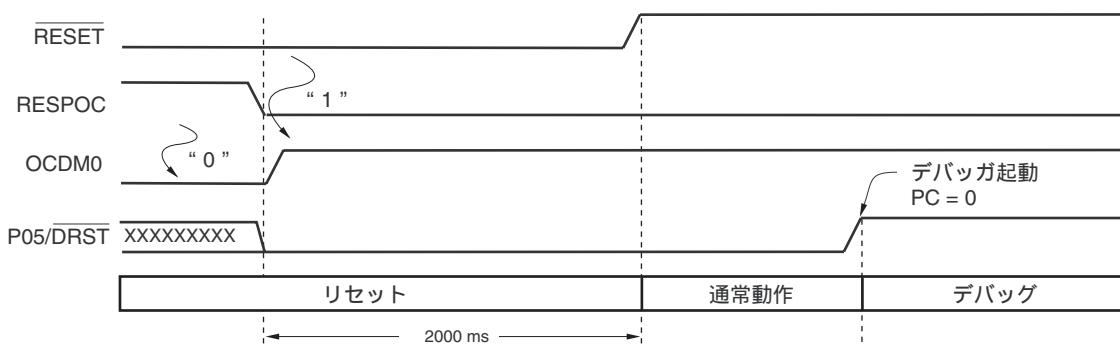
備考 RESPOC後、コントローラはデバッガの制御なしで動作しています。したがって、ソフトウェアでOCDM.OCDM0 = 1に設定するまで、全CPU命令はデバッガできません。デバッガの制御下でユーザ・プログラムを最初から開始するには、図27-4に示すように、デバッガ起動後に外部 \overline{RESET} を印加してください。これによりプログラムはリストートします。ただし、コントローラの状態がRESPOCの直後と同じではありません。これは外部 \overline{RESET} を印加したときに内蔵RAMがすでに初期化されていることによるものです。

図27-4 N-Wire起動ありの開始



27.3.3 RESET端子によるN-Wire起動

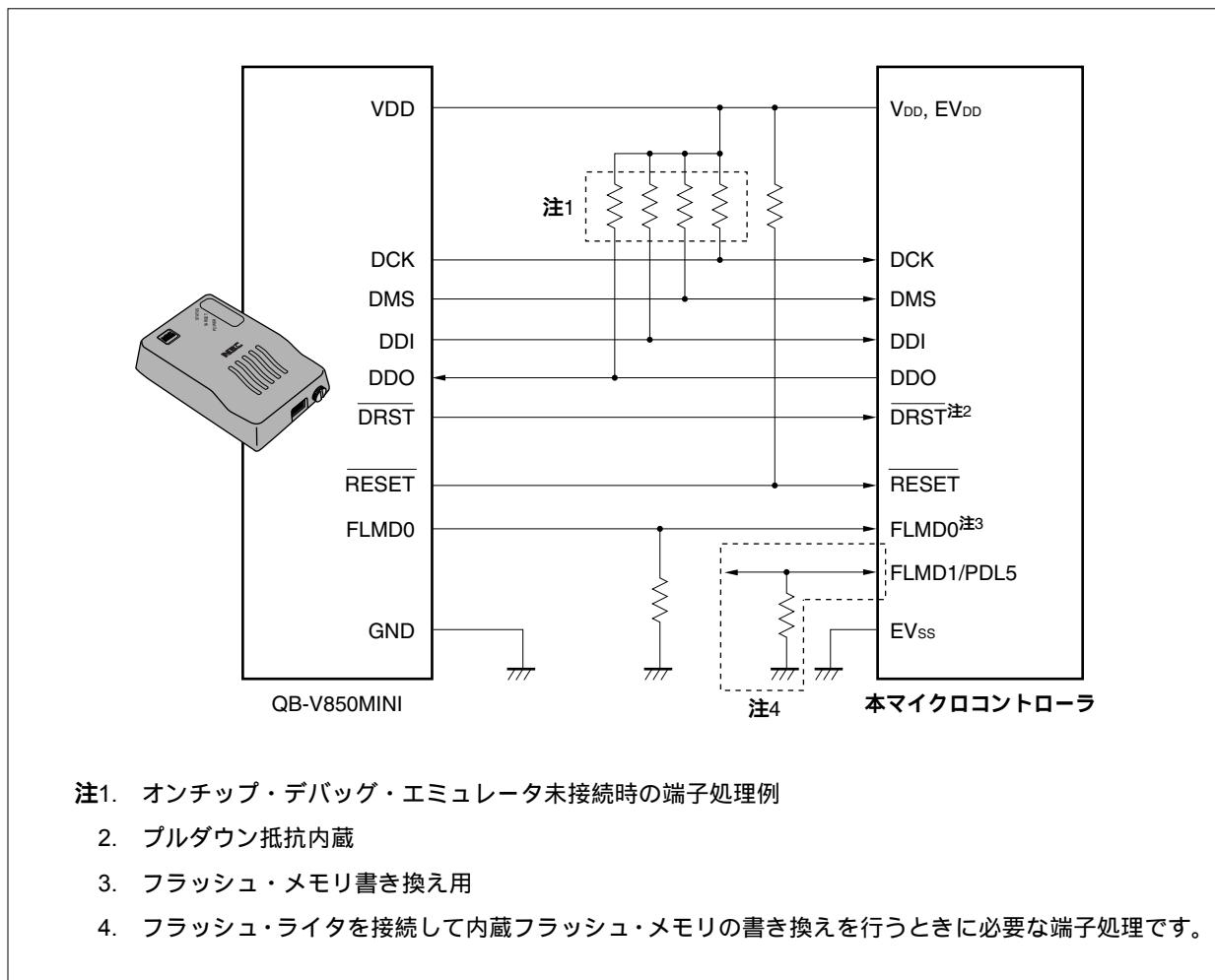
RESPOC解除後, RESETをアクティブに保つことにより, N-Wireインターフェースは電源投入後に起動することもできます。これによりOCDM.OCDM0は“1”にセットされ, N-Wireインターフェースが使用できます。この方法では, ユーザ・プログラムでOCDM.OCDM0 = 1を実行する必要がありません。

図27-5 RESET端子によるN-Wire起動

27.4 オンチップ・デバッグ・エミュレータとの接続

オンチップ・デバッグ・エミュレータを接続するためには、ターゲット・システム上に接続用回路を実装する必要があります。

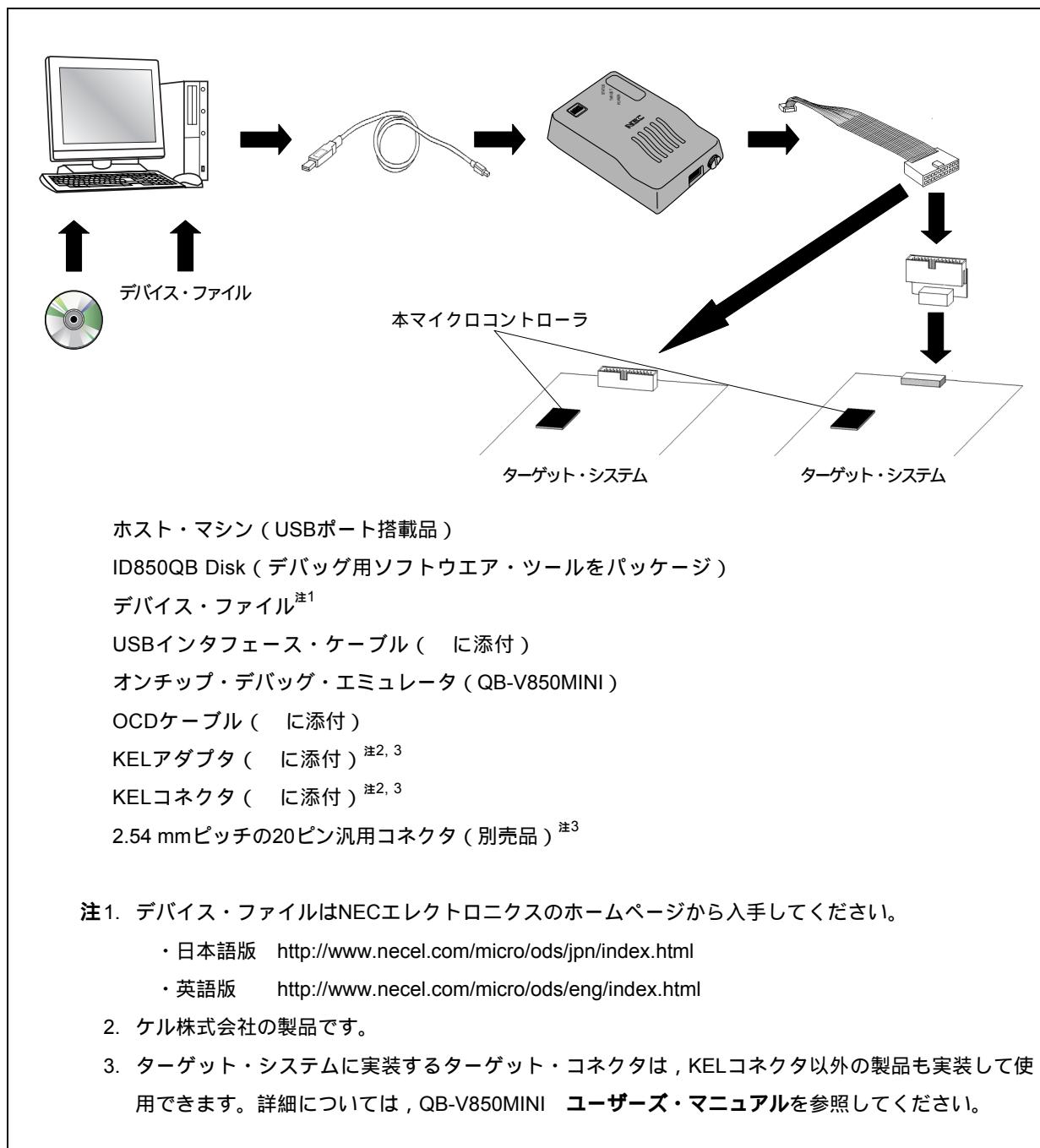
27.4.1 接続回路例



27.4.2 MINICUBE QB-V850MINIを使用する場合

QB-V850MINIとホスト・マシン（PC-9821シリーズ、PC/AT互換機）を接続して使用する場合のシステム構成を次に示します。

図27-6 システム構成例（QB-V850MINIを使用する場合）



27.5 オンチップ・デバッグ時の注意事項

- ・デバッグに使用したデバイスを、量産製品に搭載しないでください（デバッグ中にフラッシュ・メモリの書き換えをしており、フラッシュ・メモリの書き換え回数を保障することができないためです）。
- ・RUN中（プログラム実行中）にリセット入力（ターゲット・システムからのリセット入力や内部リセット要因によるリセット）があった場合、ブレーク機能が誤動作することがあります。
- ・リセットをマスク機能でマスクしていても、端子リセットが入力された際に入出力バッファ（ポート端子等）がリセット状態になります。
- ・ブレーク中の端子リセットはマスクされ、CPUや周辺I/Oはリセットされません。また、ユーザ・プログラム実行中に、DMMで書き換える瞬間やRAMモニタ機能で読み出す瞬間に、端子リセットや内部リセットが発生した場合、CPUや周辺I/Oが正しくリセットされない場合があります。
- ・POCリセット動作のエミュレーションはできません（POC搭載製品のみ）。
- ・オンチップ・デバッグ・ユニットは、ソフトウェア・ブレーク・ポイント（DBTRAP, 第5章 割り込みコントローラ（INTC）を参照）に例外ベクタ・アドレス60Hを使用します。そのため、次の例外のいずれかが発生したときはデバッガが制御を引き取ります。

デバッグ・トラップ（DBTRAP）

不正オペコード検出（ILGOP）

デバッガは独自の例外ハンドラを実行します。したがって、アドレス60Hのユーザ例外ハンドラは実行されません。

- ・オンチップ・デバッグを行うときは、OCDMレジスタのOCDM0ビットを1にする必要がありますので、端子リセットを入力する必要があります。

詳細については、27.2(1) オンチップ・デバッグ・モード・レジスタ（OCDM）を参照してください。

- ・オンチップ・デバッグ（OCD）モード下においてbreakコマンドが起動され、さらにアプリケーション・ソフトウェアがUARTA/CSIB/CAN周辺I/Oレジスタにアクセス時、リセットせずに再開するとCSIB、UARTAおよびCANは正常に動作しない可能性があります。

注意 フラッシュ・メモリがデバッグ・セッション中にプログラミングされ、オプション・バイトが変更された場合、新しいオプション・バイトの設定を有効にするためターゲットのリセット・コマンドを発行する必要があります。

付録A 周辺I/Oレジスタとプログラマブル周辺I/Oレジスタ

A. 1 プログラマブル周辺I/O領域に割り付けられているレジスタ

CANコントローラを制御するレジスタは、プログラマブル周辺領域に割り付けられています。

表A - 1にCANコントローラを制御するレジスタを示します。

表A - 1 CANコントローラ制御用レジスタ (1/4)

アドレス	レジスタ名	略号	操作可能ビット			初期値
			1	8	16	
03FEC000H	CAN0グローバル制御レジスタ	C0GMCTRL	-	-	R/W	0000H
03FEC002H	CAN0グローバル・クロック選択レジスタ	C0GMCS	-	R/W	-	0FH
03FEC006H	CAN0グローバル自動ブロック送信制御レジスタ	C0GMABT	-	-	R/W	0000H
03FEC008H	CAN0グローバル自動ブロック送信遅延設定レジスタ	C0GMABTD	-	R/W	-	00H
03FEC040H	CAN0モジュール・マスク1レジスタ	C0MASK1L	-	-	R/W	不定
03FEC042H		C0MASK1H	-	-	R/W	不定
03FEC044H	CAN0モジュール・マスク2レジスタ	C0MASK2L	-	-	R/W	不定
03FEC046H		C0MASK2H	-	-	R/W	不定
03FEC048H	CAN0モジュール・マスク3レジスタ	C0MASK3L	-	-	R/W	不定
03FEC04AH		C0MASK3H	-	-	R/W	不定
03FEC04CH	CAN0モジュール・マスク4レジスタ	C0MASK4L	-	-	R/W	不定
03FEC04EH		C0MASK4H	-	-	R/W	不定
03FEC050H	CAN0モジュール制御レジスタ	C0CTRL	-	-	R/W	0000H
03FEC052H	CAN0モジュール最終エラー情報レジスタ	C0LEC	-	R/W	-	00H
03FEC053H	CAN0モジュール情報レジスタ	C0INFO	-	R	-	00H
03FEC054H	CAN0モジュール・エラー・カウンタ・レジスタ	C0ERC	-	-	R	0000H
03FEC056H	CAN0モジュール割り込み許可レジスタ	C0IE	-	-	R/W	0000H
03FEC058H	CAN0モジュール割り込みステータス・レジスタ	C0INTS	-	-	R/W	0000H
03FEC05AH	CAN0モジュール・ピット・レート・プリスケーラ・レジスタ	C0BRP	-	R/W	-	FFH
03FEC05CH	CAN0モジュール・ピット・レート・レジスタ	C0BTR	-	-	R/W	370FH
03FEC05EH	CAN0モジュール最終受信ポインタ・レジスタ	C0LIPT	-	R	-	不定
03FEC060H	CAN0モジュール受信ヒストリ・リスト・レジスタ	C0RGPT	-	-	R/W	xx02H
03FEC062H	CAN0モジュール最終送信ポインタ・レジスタ	C0LOPT	-	R	-	不定
03FEC064H	CAN0モジュール送信ヒストリ・リスト・レジスタ	C0TGPT	-	-	R/W	xx02H
03FEC066H	CAN0モジュール・タイム・スタンプ・レジスタ	C0TS	-	-	R/W	0000H
03FEC100H-03FEC4EEH	CAN0メッセージ・バッファ・レジスタ (表21 - 18参照)					
03FEC600H	CAN1グローバル制御レジスタ	C1GMCTRL	-	-	R/W	0000H
03FEC602H	CAN1グローバル・クロック選択レジスタ	C1GMCS	-	R/W	-	0FH
03FEC606H	CAN1グローバル自動ブロック送信制御レジスタ	C1GMABT	-	-	R/W	0000H
03FEC608H	CAN1グローバル自動ブロック送信遅延設定レジスタ	C1GMABTD	-	R/W	-	00H

表A - 1 CANコントローラ制御用レジスタ (2/4)

アドレス	レジスタ名	略号	操作可能ビット			初期値
			1	8	16	
03FEC640H	CAN1モジュール・マスク1レジスタ	C1MASK1L	-	-	R/W	不定
03FEC642H		C1MASK1H	-	-	R/W	不定
03FEC644H	CAN1モジュール・マスク2レジスタ	C1MASK2L	-	-	R/W	不定
03FEC646H		C1MASK2H	-	-	R/W	不定
03FEC648H	CAN1モジュール・マスク3レジスタ	C1MASK3L	-	-	R/W	不定
03FEC64AH		C1MASK3H	-	-	R/W	不定
03FEC64CH	CAN1モジュール・マスク4レジスタ	C1MASK4L	-	-	R/W	不定
03FEC64EH		C1MASK4H	-	-	R/W	不定
03FEC650H	CAN1モジュール制御レジスタ	C1CTRL	-	-	R/W	0000H
03FEC652H	CAN1モジュール最終エラー情報レジスタ	C1LEC	-	R/W	-	00H
03FEC653H	CAN1モジュール情報レジスタ	C1INFO	-	R	-	00H
03FEC654H	CAN1モジュール・エラー・カウンタ・レジスタ	C1ERC	-	-	R	0000H
03FEC656H	CAN1モジュール割り込み許可レジスタ	C1IE	-	-	R/W	0000H
03FEC658H	CAN1モジュール割り込みステータス・レジスタ	C1INTS	-	-	R/W	0000H
03FEC65AH	CAN1モジュール・ビット・レート・ブリスケーラ・レジスタ	C1BRP	-	R/W	-	FFH
03FEC65CH	CAN1モジュール・ビット・レート・レジスタ	C1BTR	-	-	R/W	370FH
03FEC65EH	CAN1モジュール最終受信ポインタ・レジスタ	C1LIPT	-	R	-	不定
03FEC660H	CAN1モジュール受信ヒストリ・リスト・レジスタ	C1RGPT	-	-	R/W	xx02H
03FEC662H	CAN1モジュール最終送信ポインタ・レジスタ	C1LOPT	-	R	-	不定
03FEC664H	CAN1モジュール送信ヒストリ・リスト・レジスタ	C1TGPT	-	-	R/W	xx02H
03FEC666H	CAN1モジュール・タイム・スタンプ・レジスタ	C1TS	-	-	R/W	0000H
03FEC700H-03FECAEEH	CAN1メッセージ・バッファ・レジスタ (表21 - 20参照)					
03FECC00H	CAN2グローバル制御レジスタ	C2GMCTRL	-	-	R/W	0000H
03FECC02H	CAN2グローバル・クロック選択レジスタ	C2GMCS	-	R/W	-	0FH
03FECC06H	CAN2グローバル自動プロック送信制御レジスタ	C2GMABT	-	-	R/W	0000H
03FECC08H	CAN2グローバル自動プロック送信遅延設定レジスタ	C2GMABTD	-	R/W	-	00H
03FECC40H	CAN2モジュール・マスク1レジスタ	C2MASK1L	-	-	R/W	不定
03FECC42H		C2MASK1H	-	-	R/W	不定
03FECC44H	CAN2モジュール・マスク2レジスタ	C2MASK2L	-	-	R/W	不定
03FECC46H		C2MASK2H	-	-	R/W	不定
03FECC48H	CAN2モジュール・マスク3レジスタ	C2MASK3L	-	-	R/W	不定
03FECC4AH		C2MASK3H	-	-	R/W	不定
03FECC4CH	CAN2モジュール・マスク4レジスタ	C2MASK4L	-	-	R/W	不定
03FECC4EH		C2MASK4H	-	-	R/W	不定
03FECC50H	CAN2モジュール制御レジスタ	C2CTRL	-	-	R/W	0000H
03FECC52H	CAN2モジュール最終エラー情報レジスタ	C2LEC	-	R/W	-	00H
03FECC53H	CAN2モジュール情報レジスタ	C2INFO	-	R	-	00H
03FECC54H	CAN2モジュール・エラー・カウンタ・レジスタ	C2ERC	-	-	R	0000H
03FECC56H	CAN2モジュール割り込み許可レジスタ	C2IE	-	-	R/W	0000H
03FECC58H	CAN2モジュール割り込みステータス・レジスタ	C2INTS	-	-	R/W	0000H

表A - 1 CANコントローラ制御用レジスタ (3/4)

アドレス	レジスタ名	略号	操作可能ビット			初期値
			1	8	16	
03FECC5AH	CAN2モジュール・ビット・レート・プリスケーラ・レジスタ	C2BRP	-	R/W	-	FFH
03FECC5CH	CAN2モジュール・ビット・レート・レジスタ	C2BTR	-	-	R/W	370FH
03FECC5EH	CAN2モジュール最終受信ポインタ・レジスタ	C2LIPT	-	R	-	不定
03FECC60H	CAN2モジュール受信ヒストリ・リスト・レジスタ	C2RGPT	-	-	R/W	xx02H
03FECC62H	CAN2モジュール最終送信ポインタ・レジスタ	C2LOPT	-	R	-	不定
03FECC64H	CAN2モジュール送信ヒストリ・リスト・レジスタ	C2TGPT	-	-	R/W	xx02H
03FECC66H	CAN2モジュール・タイム・スタンプ・レジスタ	C2TS	-	-	R/W	0000H
03FECD00H-	CAN2メッセージ・バッファ・レジスタ (表21 - 22参照)					
03FED0EEH						
03FED200H	CAN3グローバル制御レジスタ	C3GMCTRL	-	-	R/W	0000H
03FED202H	CAN3グローバル・クロック選択レジスタ	C3GMCS	-	R/W	-	0FH
03FED206H	CAN3グローバル自動プロック送信制御レジスタ	C3GMABT	-	-	R/W	0000H
03FED208H	CAN3グローバル自動プロック送信遅延設定レジスタ	C3GMABTD	-	R/W	-	00H
03FED240H	CAN3モジュール・マスク1レジスタ	C3MASK1L	-	-	R/W	不定
03FED242H		C3MASK1H	-	-	R/W	不定
03FED244H	CAN3モジュール・マスク2レジスタ	C3MASK2L	-	-	R/W	不定
03FED246H		C3MASK2H	-	-	R/W	不定
03FED248H	CAN3モジュール・マスク3レジスタ	C3MASK3L	-	-	R/W	不定
03FED24AH		C3MASK3H	-	-	R/W	不定
03FED24CH	CAN3モジュール・マスク4レジスタ	C3MASK4L	-	-	R/W	不定
03FED24EH		C3MASK4H	-	-	R/W	不定
03FED250H	CAN3モジュール制御レジスタ	C3CTRL	-	-	R/W	0000H
03FED252H	CAN3モジュール最終エラー情報レジスタ	C3LEC	-	R/W	-	00H
03FED253H	CAN3モジュール情報レジスタ	C3INFO	-	R	-	00H
03FED254H	CAN3モジュール・エラー・カウンタ・レジスタ	C3ERC	-	-	R	0000H
03FED256H	CAN3モジュール割り込み許可レジスタ	C3IE	-	-	R/W	0000H
03FED258H	CAN3モジュール割り込みステータス・レジスタ	C3INTS	-	-	R/W	0000H
03FED25AH	CAN3モジュール・ビット・レート・プリスケーラ・レジスタ	C3BRP	-	R/W	-	FFH
03FED25CH	CAN3モジュール・ビット・レート・レジスタ	C3BTR	-	-	R/W	370FH
03FED25EH	CAN3モジュール最終受信ポインタ・レジスタ	C3LIPT	-	R	-	不定
03FED260H	CAN3モジュール受信ヒストリ・リスト・レジスタ	C3RGPT	-	-	R/W	xx02H
03FED262H	CAN3モジュール最終送信ポインタ・レジスタ	C3LOPT	-	R	-	不定
03FED264H	CAN3モジュール送信ヒストリ・リスト・レジスタ	C3TGPT	-	-	R/W	xx02H
03FED266H	CAN3モジュール・タイム・スタンプ・レジスタ	C3TS	-	-	R/W	0000H
03FED300H-	CAN3メッセージ・バッファ・レジスタ (表21 - 24参照)					
03FED6EEH						
03FED800H	CAN4グローバル制御レジスタ	C4GMCTRL	-	-	R/W	0000H
03FED802H	CAN4グローバル・クロック選択レジスタ	C4GMCS	-	R/W	-	0FH
03FED806H	CAN4グローバル自動プロック送信制御レジスタ	C4GMABT	-	-	R/W	0000H
03FED808H	CAN4グローバル自動プロック送信遅延設定レジスタ	C4GMABTD	-	R/W	-	00H

表A - 1 CANコントローラ制御用レジスタ (4/4)

アドレス	レジスタ名	略号	操作可能ビット			初期値
			1	8	16	
03FED840H	CAN4モジュール・マスク1レジスタ	C4MASK1L	-	-	R/W	不定
03FED842H		C4MASK1H	-	-	R/W	不定
03FED844H	CAN4モジュール・マスク2レジスタ	C4MASK2L	-	-	R/W	不定
03FED846H		C4MASK2H	-	-	R/W	不定
03FED848H	CAN4モジュール・マスク3レジスタ	C4MASK3L	-	-	R/W	不定
03FED84AH		C4MASK3H	-	-	R/W	不定
03FED84CH	CAN4モジュール・マスク4レジスタ	C4MASK4L	-	-	R/W	不定
03FED84EH		C4MASK4H	-	-	R/W	不定
03FED850H	CAN4モジュール制御レジスタ	C4CTRL	-	-	R/W	0000H
03FED852H	CAN4モジュール最終エラー情報レジスタ	C4LEC	-	R/W	-	00H
03FED853H	CAN4モジュール情報レジスタ	C4INFO	-	R	-	00H
03FED854H	CAN4モジュール・エラー・カウンタ・レジスタ	C4ERC	-	-	R	0000H
03FED856H	CAN4モジュール割り込み許可レジスタ	C4IE	-	-	R/W	0000H
03FED858H	CAN4モジュール割り込みステータス・レジスタ	C4INTS	-	-	R/W	0000H
03FED85AH	CAN4モジュール・ビット・レート・ブリスケーラ・レジスタ	C4BRP	-	R/W	-	FFH
03FED85CH	CAN4モジュール・ビット・レート・レジスタ	C4BTR	-	-	R/W	370FH
03FED85EH	CAN4モジュール最終受信ポインタ・レジスタ	C4LIPT	-	R	-	不定
03FED860H	CAN4モジュール受信ヒストリ・リスト・レジスタ	C4RGPT	-	-	R/W	xx02H
03FED862H	CAN4モジュール最終送信ポインタ・レジスタ	C4LOPT	-	R	-	不定
03FED864H	CAN4モジュール送信ヒストリ・リスト・レジスタ	C4TGPT	-	-	R/W	xx02H
03FED866H	CAN4モジュール・タイム・スタンプ・レジスタ	C4TS	-	-	R/W	0000H
03FED900H-03FEDCEEH	CAN4メッセージ・バッファ・レジスタ (表21-24参照)					

A.2 周辺I/O領域に割り付けられているレジスタ

表A-2 周辺I/Oレジスタ (1/17)

アドレス	レジスタ名	略号	操作可能ビット			初期値
			1	8	16	
0xFFFFF004	ポートDL	PDL	-	-	R/W	不定
0xFFFFF004	ポートDLL	PDLL	R/W	R/W	-	不定
0xFFFFF005	ポートDLH	PDLH	R/W	R/W	-	不定
0xFFFFF008	ポートCS	PCS	R/W	R/W	-	不定
0xFFFFF00A	ポートCT	PCT	R/W	R/W	-	不定
0xFFFFF00C	ポートCM	PCM	R/W	R/W	-	不定
0xFFFFF00E	ポートCD	PCD	R/W	R/W	-	不定
0xFFFFF024	ポート・モード・レジスタDL	PMDL	-	-	R/W	FFFFH
0xFFFFF024	ポート・モード・レジスタDLL	PMDLL	R/W	R/W	-	FFH
0xFFFFF025	ポート・モード・レジスタDLH	PMDLH	R/W	R/W	-	FFH
0xFFFFF028	ポート・モード・レジスタCS	PMCS	R/W	R/W	-	FFH
0xFFFFF02A	ポート・モード・レジスタCT	PMCT	R/W	R/W	-	FFH
0xFFFFF02C	ポート・モード・レジスタCM	PMCM	R/W	R/W	-	FFH
0xFFFFF02E	ポート・モード・レジスタCD	PMCD	R/W	R/W	-	FFH
0xFFFFF044	ポート・モード・コントロール・レジスタDL	PMCDL	-	-	R/W	0000H
0xFFFFF044	ポート・モード・コントロール・レジスタDLL	PMCDLL	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF045	ポート・モード・コントロール・レジスタDLH	PMCDLH	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF048	ポート・モード・コントロール・レジスタCS	PMCCS	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF04A	ポート・モード・コントロール・レジスタCT	PMCCT	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF04C	ポート・モード・コントロール・レジスタCM	PMCCM	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF064	周辺I/O領域セレクト制御レジスタ	BPC	-	-	R/W	0000H
0xFFFFF066	バス・サイズ・コンフィギュレーション・レジスタ	BSC	-	-	R/W	5555H
0xFFFFF06E	システム・ウェイト・コントロール・レジスタ	VSWC	-	R/W	-	77H
0xFFFFF080	DMAソース・アドレス・レジスタ0L	DSA0L	-	-	R/W	不定
0xFFFFF082	DMAソース・アドレス・レジスタ0H	DSA0H	-	-	R/W	不定
0xFFFFF084	DMAデスティネーション・アドレス・レジスタ0L	DDA0L	-	-	R/W	不定
0xFFFFF086	DMAデスティネーション・アドレス・レジスタ0H	DDA0H	-	-	R/W	不定
0xFFFFF088	DMAソース・アドレス・レジスタ1L	DSA1L	-	-	R/W	不定
0xFFFFF08A	DMAソース・アドレス・レジスタ1H	DSA1H	-	-	R/W	不定
0xFFFFF08C	DMAデスティネーション・アドレス・レジスタ1L	DDA1L	-	-	R/W	不定
0xFFFFF08E	DMAデスティネーション・アドレス・レジスタ1H	DDA1H	-	-	R/W	不定
0xFFFFF090	DMAソース・アドレス・レジスタ2L	DSA2L	-	-	R/W	不定
0xFFFFF092	DMAソース・アドレス・レジスタ2H	DSA2H	-	-	R/W	不定
0xFFFFF094	DMAデスティネーション・アドレス・レジスタ2L	DDA2L	-	-	R/W	不定
0xFFFFF096	DMAデスティネーション・アドレス・レジスタ2H	DDA2H	-	-	R/W	不定
0xFFFFF098	DMAソース・アドレス・レジスタ3L	DSA3L	-	-	R/W	不定
0xFFFFF09A	DMAソース・アドレス・レジスタ3H	DSA3H	-	-	R/W	不定
0xFFFFF09C	DMAデスティネーション・アドレス・レジスタ3L	DDA3L	-	-	R/W	不定
0xFFFFF09E	DMAデスティネーション・アドレス・レジスタ3H	DDA3H	-	-	R/W	不定
0xFFFFF0C0	DMA転送カウント・レジスタ0	DBC0	-	-	R/W	不定

表A - 2 周辺I/Oレジスタ (2/17)

アドレス	レジスタ名	略号	操作可能ビット			初期値
			1	8	16	
0xFFFFF0C2	DMA転送カウント・レジスタ1	DBC1	-	-	R/W	不定
0xFFFFF0C4	DMA転送カウント・レジスタ2	DBC2	-	-	R/W	不定
0xFFFFF0C6	DMA転送カウント・レジスタ3	DBC3	-	-	R/W	不定
0xFFFFF0D0	DMAアドレシング・コントロール・レジスタ0	DADC0	-	-	R/W	0000H
0xFFFFF0D2	DMAアドレシング・コントロール・レジスタ1	DADC1	-	-	R/W	0000H
0xFFFFF0D4	DMAアドレシング・コントロール・レジスタ2	DADC2	-	-	R/W	0000H
0xFFFFF0D6	DMAアドレシング・コントロール・レジスタ3	DADC3	-	-	R/W	0000H
0xFFFFF0E0	DMAチャネル・コントロール・レジスタ0	DCHC0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF0E2	DMAチャネル・コントロール・レジスタ1	DCHC1	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF0E4	DMAチャネル・コントロール・レジスタ2	DCHC2	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF0E6	DMAチャネル・コントロール・レジスタ3	DCHC3	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF100	割り込みマスク・レジスタ0	IMR0	-	-	R/W	FFFFH
0xFFFFF100	割り込みマスク・レジスタ0L	IMR0L	R/W	R/W	-	FFH
0xFFFFF101	割り込みマスク・レジスタ0H	IMR0H	R/W	R/W	-	FFH
0xFFFFF102	割り込みマスク・レジスタ1	IMR1	-	-	R/W	FFFFH
0xFFFFF102	割り込みマスク・レジスタ1L	IMR1L	R/W	R/W	-	FFH
0xFFFFF103	割り込みマスク・レジスタ1H	IMR1H	R/W	R/W	-	FFH
0xFFFFF104	割り込みマスク・レジスタ2	IMR2	-	-	R/W	FFFFH
0xFFFFF104	割り込みマスク・レジスタ2L	IMR2L	R/W	R/W	-	FFH
0xFFFFF105	割り込みマスク・レジスタ2H	IMR2H	R/W	R/W	-	FFH
0xFFFFF106	割り込みマスク・レジスタ3	IMR3	-	-	R/W	FFFFH
0xFFFFF106	割り込みマスク・レジスタ3L	IMR3L	R/W	R/W	-	FFH
0xFFFFF107	割り込みマスク・レジスタ3H	IMR3H	R/W	R/W	-	FFH
0xFFFFF108	割り込みマスク・レジスタ4	IMR4	-	-	R/W	FFFFH
0xFFFFF108	割り込みマスク・レジスタ4L	IMR4L	R/W	R/W	-	FFH
0xFFFFF109	割り込みマスク・レジスタ4H	IMR4H	R/W	R/W	-	FFH
0xFFFFF10A	割り込みマスク・レジスタ5	IMR5	-	-	R/W	FFFFH
0xFFFFF10A	割り込みマスク・レジスタ5L	IMR5L	R/W	R/W	-	FFH
0xFFFFF10B	割り込みマスク・レジスタ5H	IMR5H	R/W	R/W	-	FFH
0xFFFFF10C	割り込みマスク・レジスタ6	IMR6	-	-	R/W	FFFFH
0xFFFFF10C	割り込みマスク・レジスタ6L	IMR6L	R/W	R/W	-	FFH
0xFFFFF10D	割り込みマスク・レジスタ6H	IMR6H	R/W	R/W	-	FFH
0xFFFFF10E	割り込みマスク・レジスタ7	IMR7	-	-	R/W	001FH
0xFFFFF10E	割り込みマスク・レジスタ7L	IMR7L	R/W	R/W	-	1FH
0xFFFFF110	割り込み制御レジスタ	LVILIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF112	割り込み制御レジスタ	LVIHIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF114	割り込み制御レジスタ	PIC0	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF116	割り込み制御レジスタ	PIC1	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF118	割り込み制御レジスタ	PIC2	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF11A	割り込み制御レジスタ	PIC3	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF11C	割り込み制御レジスタ	PIC4	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF11E	割り込み制御レジスタ	PIC5	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF120	割り込み制御レジスタ	PIC6	R/W	R/W	-	47H

表A - 2 周辺I/Oレジスタ (3/17)

アドレス	レジスタ名	略号	操作可能ビット			初期値
			1	8	16	
0xFFFFF122	割り込み制御レジスタ	PIC7	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF124	割り込み制御レジスタ	TAB0OVIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF126	割り込み制御レジスタ	TAB0CCIC0	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF128	割り込み制御レジスタ	TAB0CCIC1	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF12A	割り込み制御レジスタ	TAB0CCIC2	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF12C	割り込み制御レジスタ	TAB0CCIC3	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF12E	割り込み制御レジスタ	TAA0OVIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF130	割り込み制御レジスタ	TAA0CCIC0	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF132	割り込み制御レジスタ	TAA0CCIC1	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF134	割り込み制御レジスタ	TAA1OVIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF136	割り込み制御レジスタ	TAA1CCIC0	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF138	割り込み制御レジスタ	TAA1CCIC1	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF13A	割り込み制御レジスタ	TAA2OVIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF13C	割り込み制御レジスタ	TAA2CCIC0	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF13E	割り込み制御レジスタ	TAA2CCIC1	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF140	割り込み制御レジスタ	TAA3OVIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF142	割り込み制御レジスタ	TAA3CCIC0	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF144	割り込み制御レジスタ	TAA3CCIC1	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF146	割り込み制御レジスタ	TAA4OVIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF148	割り込み制御レジスタ	TAA4CCIC0	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF14A	割り込み制御レジスタ	TAA4CCIC1	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF14C	割り込み制御レジスタ	TM0EQIC0	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF14E	割り込み制御レジスタ	CB0RIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF150	割り込み制御レジスタ	CB0TIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF152	割り込み制御レジスタ	CB1RIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF154	割り込み制御レジスタ	CB1TIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF156	割り込み制御レジスタ	UD0SIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF158	割り込み制御レジスタ	UD0RIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF15A	割り込み制御レジスタ	UD0TIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF15C	割り込み制御レジスタ	UD1SIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF15E	割り込み制御レジスタ	UD1RIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF160	割り込み制御レジスタ	UD1TIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF162	割り込み制御レジスタ	IIC0IC UD4SIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF164	割り込み制御レジスタ	ADIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF166	割り込み制御レジスタ	C0ERRIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF168	割り込み制御レジスタ	C0WUPIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF16A	割り込み制御レジスタ	C0RECIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF16C	割り込み制御レジスタ	C0TRXIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF16E	割り込み制御レジスタ	DMAIC0	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF170	割り込み制御レジスタ	DMAIC1	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF172	割り込み制御レジスタ	DMAIC2	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF174	割り込み制御レジスタ	DMAIC3	R/W	R/W	-	47H

表A - 2 周辺I/Oレジスタ (4/17)

アドレス	レジスタ名	略号	操作可能ビット			初期値
			1	8	16	
0xFFFFF176	割り込み制御レジスタ	KRIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF178	割り込み制御レジスタ	WTIIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF17A	割り込み制御レジスタ	WTIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF17E	割り込み制御レジスタ	FLIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF180	割り込み制御レジスタ	PIC8	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF182	割り込み制御レジスタ	PIC9	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF184	割り込み制御レジスタ	PIC10	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF186	割り込み制御レジスタ	TAB1OVIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF188	割り込み制御レジスタ	TAB1CCIC0	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF18A	割り込み制御レジスタ	TAB1CCIC1	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF18C	割り込み制御レジスタ	TAB1CCIC2	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF18E	割り込み制御レジスタ	TAB1CCIC3	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF190	割り込み制御レジスタ	UD2SIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF192	割り込み制御レジスタ	UD2RIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF194	割り込み制御レジスタ	UD2TIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF196	割り込み制御レジスタ	C1ERRIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF198	割り込み制御レジスタ	C1WUPIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF19A	割り込み制御レジスタ	C1RECIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF19C	割り込み制御レジスタ	C1TRXIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF19E	割り込み制御レジスタ	PIC11	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF1A0	割り込み制御レジスタ	PIC12	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF1A2	割り込み制御レジスタ	PIC13	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF1A4	割り込み制御レジスタ	PIC14	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF1A6	割り込み制御レジスタ	UD3SIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF1A8	割り込み制御レジスタ	UD3RIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF1AA	割り込み制御レジスタ	UD3TIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF1AC	割り込み制御レジスタ	UD4RIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF1AE	割り込み制御レジスタ	UD4TIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF1B0	割り込み制御レジスタ	TAB2OVIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF1B2	割り込み制御レジスタ	TAB2CCIC0	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF1B4	割り込み制御レジスタ	TAB2CCIC1	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF1B6	割り込み制御レジスタ	TAB2CCIC2	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF1B8	割り込み制御レジスタ	TAB2CCIC3	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF1BA	割り込み制御レジスタ	UD5SIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF1BC	割り込み制御レジスタ	CB2RIC UD5RIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF1BE	割り込み制御レジスタ	CB2TIC UD5TIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF1C0	割り込み制御レジスタ	C2ERRIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF1C2	割り込み制御レジスタ	C2WUPIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF1C4	割り込み制御レジスタ	C2RECIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF1C6	割り込み制御レジスタ	C2TRXIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF1C8	割り込み制御レジスタ	C3ERRIC	R/W	R/W	-	47H

表A - 2 周辺I/Oレジスタ (5/17)

アドレス	レジスタ名	略号	操作可能ビット			初期値
			1	8	16	
0xFFFFF1CA	割り込み制御レジスタ	C3WUPIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF1CC	割り込み制御レジスタ	C3RECIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF1CE	割り込み制御レジスタ	C3TRXIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF1D0	割り込み制御レジスタ	PIC15	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF1D2	割り込み制御レジスタ	TAA5OVIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF1D4	割り込み制御レジスタ	TAA5CCIC0	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF1D6	割り込み制御レジスタ	TAA5CCIC1	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF1D8	割り込み制御レジスタ	TAA6OVIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF1DA	割り込み制御レジスタ	TAA6CCIC0	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF1DC	割り込み制御レジスタ	TAA6CCIC1	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF1DE	割り込み制御レジスタ	TAA7OVIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF1E0	割り込み制御レジスタ	TAA7CCIC0	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF1E2	割り込み制御レジスタ	TAA7CCIC1	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF1E4	割り込み制御レジスタ	UD6SIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF1E6	割り込み制御レジスタ	CB3RIC UD6RIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF1E8	割り込み制御レジスタ	CB3TIC UD6TIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF1EA	割り込み制御レジスタ	UD7SIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF1EC	割り込み制御レジスタ	UD7RIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF1EE	割り込み制御レジスタ	UD7TIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF1F0	割り込み制御レジスタ	AD1IC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF1F2	割り込み制御レジスタ	C4ERRIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF1F4	割り込み制御レジスタ	C4WUPIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF1F6	割り込み制御レジスタ	C4RECIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF1F8	割り込み制御レジスタ	C4TRXIC	R/W	R/W	-	47H
0xFFFFF1FA	インサービス・プライオリティ・レジスタ	ISPR	R	R	-	00H
0xFFFFF1FC	コマンド・レジスタ	PRCMD	-	W	-	不定
0xFFFFF1FE	パワー・セーブ・コントロール・レジスタ	PSC	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF200	A/D0コンバータ・モード・レジスタ0	ADA0M0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF201	A/D0コンバータ・モード・レジスタ1	ADA0M1	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF202	A/D0コンバータ・チャネル指定レジスタ0	ADA0S	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF203	A/D0コンバータ・モード・レジスタ2	ADA0M2	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF204	AD0パワー・フェイル比較モード・レジスタ	ADA0PFM	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF205	AD0パワー・フェイル比較しきい値レジスタ	ADA0PFT	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF20C	AV _{REF} A/D0変換診断レジスタ	ADA0CRDD	-	-	R	0000H
0xFFFFF20D	AV _{REF} A/D0変換診断レジスタH	ADA0CRDDH	-	R	-	00H
0xFFFFF20E	AV _{SS} A/D0変換診断レジスタ	ADA0CRSS	-	-	R	FFFFH
0xFFFFF20F	AV _{SS} A/D0変換診断レジスタH	ADA0CRSSH	-	R	-	FFH
0xFFFFF210	A/D0変換結果レジスタ0	ADA0CR0	-	-	R	0000H
0xFFFFF211	A/D0変換結果レジスタ0H	ADA0CR0H	-	R	-	00H
0xFFFFF212	A/D0変換結果レジスタ1	ADA0CR1	-	-	R	0000H
0xFFFFF213	A/D0変換結果レジスタ1H	ADA0CR1H	-	R	-	00H

表A - 2 周辺I/Oレジスタ (6/17)

アドレス	レジスタ名	略号	操作可能ビット			初期値
			1	8	16	
0xFFFFF214	A/D0変換結果レジスタ2	ADA0CR2	-	-	R	0000H
0xFFFFF215	A/D0変換結果レジスタ2H	ADA0CR2H	-	R	-	00H
0xFFFFF216	A/D0変換結果レジスタ3	ADA0CR3	-	-	R	0000H
0xFFFFF217	A/D0変換結果レジスタ3H	ADA0CR3H	-	R	-	00H
0xFFFFF218	A/D0変換結果レジスタ4	ADA0CR4	-	-	R	0000H
0xFFFFF219	A/D0変換結果レジスタ4H	ADA0CR4H	-	R	-	00H
0xFFFFF21A	A/D0変換結果レジスタ5	ADA0CR5	-	-	R	0000H
0xFFFFF21B	A/D0変換結果レジスタ5H	ADA0CR5H	-	R	-	00H
0xFFFFF21C	A/D0変換結果レジスタ6	ADA0CR6	-	-	R	0000H
0xFFFFF21D	A/D0変換結果レジスタ6H	ADA0CR6H	-	R	-	00H
0xFFFFF21E	A/D0変換結果レジスタ7	ADA0CR7	-	-	R	0000H
0xFFFFF21F	A/D0変換結果レジスタ7H	ADA0CR7H	-	R	-	00H
0xFFFFF220	A/D0変換結果レジスタ8	ADA0CR8	-	-	R	0000H
0xFFFFF221	A/D0変換結果レジスタ8H	ADA0CR8H	-	R	-	00H
0xFFFFF222	A/D0変換結果レジスタ9	ADA0CR9	-	-	R	0000H
0xFFFFF223	A/D0変換結果レジスタ9H	ADA0CR9H	-	R	-	00H
0xFFFFF224	A/D0変換結果レジスタ10	ADA0CR10	-	-	R	0000H
0xFFFFF225	A/D0変換結果レジスタ10H	ADA0CR10H	-	R	-	00H
0xFFFFF226	A/D0変換結果レジスタ11	ADA0CR11	-	-	R	0000H
0xFFFFF227	A/D0変換結果レジスタ11H	ADA0CR11H	-	R	-	00H
0xFFFFF228	A/D0変換結果レジスタ12	ADA0CR12	-	-	R	0000H
0xFFFFF229	A/D0変換結果レジスタ12H	ADA0CR12H	-	R	-	00H
0xFFFFF22A	A/D0変換結果レジスタ13	ADA0CR13	-	-	R	0000H
0xFFFFF22B	A/D0変換結果レジスタ13H	ADA0CR13H	-	R	-	00H
0xFFFFF22C	A/D0変換結果レジスタ14	ADA0CR14	-	-	R	0000H
0xFFFFF22D	A/D0変換結果レジスタ14H	ADA0CR14H	-	R	-	00H
0xFFFFF22E	A/D0変換結果レジスタ15	ADA0CR15	-	-	R	0000H
0xFFFFF22F	A/D0変換結果レジスタ15H	ADA0CR15H	-	R	-	00H
0xFFFFF230	A/D0変換結果レジスタ16	ADA0CR16	-	-	R	0000H
0xFFFFF231	A/D0変換結果レジスタ16H	ADA0CR16H	-	R	-	00H
0xFFFFF232	A/D0変換結果レジスタ17	ADA0CR17	-	-	R	0000H
0xFFFFF233	A/D0変換結果レジスタ17H	ADA0CR17H	-	R	-	00H
0xFFFFF234	A/D0変換結果レジスタ18	ADA0CR18	-	-	R	0000H
0xFFFFF235	A/D0変換結果レジスタ18H	ADA0CR18H	-	R	-	00H
0xFFFFF236	A/D0変換結果レジスタ19	ADA0CR19	-	-	R	0000H
0xFFFFF237	A/D0変換結果レジスタ19H	ADA0CR19H	-	R	-	00H
0xFFFFF238	A/D0変換結果レジスタ20	ADA0CR20	-	-	R	0000H
0xFFFFF239	A/D0変換結果レジスタ20H	ADA0CR20H	-	R	-	00H
0xFFFFF23A	A/D0変換結果レジスタ21	ADA0CR21	-	-	R	0000H
0xFFFFF23B	A/D0変換結果レジスタ21H	ADA0CR21H	-	R	-	00H
0xFFFFF23C	A/D0変換結果レジスタ22	ADA0CR22	-	-	R	0000H
0xFFFFF23D	A/D0変換結果レジスタ22H	ADA0CR22H	-	R	-	00H
0xFFFFF23E	A/D0変換結果レジスタ23	ADA0CR23	-	-	R	0000H

表A - 2 周辺I/Oレジスタ (7/17)

アドレス	レジスタ名	略号	操作可能ビット			初期値
			1	8	16	
0xFFFFF23F	A/D0変換結果レジスタ23H	ADA0CR23H	-	R	-	00H
0xFFFFF240	A/D1コンバータ・モード・レジスタ0	ADA1M0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF241	A/D1コンバータ・モード・レジスタ1	ADA1M1	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF242	A/D1コンバータ・チャネル指定レジスタ0	ADA1S	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF243	A/D1コンバータ・モード・レジスタ2	ADA1M2	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF244	A/D1パワー・フェイル比較モード・レジスタ	ADA1PFM	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF245	A/D1パワー・フェイル比較しきい値レジスタ	ADA1PFT	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF24C	AV _{REF} A/D1変換診断レジスタ	ADA1CRDD	-	-	R	0000H
0xFFFFF24D	AV _{REF} A/D1変換診断レジスタH	ADA1CRDDH	-	R	-	00H
0xFFFFF24E	AV _{SS} A/D1変換診断レジスタ	ADA1CRSS	-	-	R	FFFFH
0xFFFFF24F	AV _{SS} A/D1変換診断レジスタH	ADA1CRSSH	-	R	-	FFH
0xFFFFF250	A/D1変換結果レジスタ0	ADA1CR0	-	-	R	0000H
0xFFFFF251	A/D1変換結果レジスタ0H	ADA1CR0H	-	R	-	00H
0xFFFFF252	A/D1変換結果レジスタ1	ADA1CR1	-	-	R	0000H
0xFFFFF253	A/D1変換結果レジスタ1H	ADA1CR1H	-	R	-	00H
0xFFFFF254	A/D1変換結果レジスタ2	ADA1CR2	-	-	R	0000H
0xFFFFF255	A/D1変換結果レジスタ2H	ADA1CR2H	-	R	-	00H
0xFFFFF256	A/D1変換結果レジスタ3	ADA1CR3	-	-	R	0000H
0xFFFFF257	A/D1変換結果レジスタ3H	ADA1CR3H	-	R	-	00H
0xFFFFF258	A/D1変換結果レジスタ4	ADA1CR4	-	-	R	0000H
0xFFFFF259	A/D1変換結果レジスタ4H	ADA1CR4H	-	R	-	00H
0xFFFFF25A	A/D1変換結果レジスタ5	ADA1CR5	-	-	R	0000H
0xFFFFF25B	A/D1変換結果レジスタ5H	ADA1CR5H	-	R	-	00H
0xFFFFF25C	A/D1変換結果レジスタ6	ADA1CR6	-	-	R	0000H
0xFFFFF25D	A/D1変換結果レジスタ6H	ADA1CR6H	-	R	-	00H
0xFFFFF25E	A/D1変換結果レジスタ7	ADA1CR7	-	-	R	0000H
0xFFFFF25F	A/D1変換結果レジスタ7H	ADA1CR7H	-	R	-	00H
0xFFFFF260	A/D1変換結果レジスタ8	ADA1CR8	-	-	R	0000H
0xFFFFF261	A/D1変換結果レジスタ8H	ADA1CR8H	-	R	-	00H
0xFFFFF262	A/D1変換結果レジスタ9	ADA1CR9	-	-	R	0000H
0xFFFFF263	A/D1変換結果レジスタ9H	ADA1CR9H	-	R	-	00H
0xFFFFF264	A/D1変換結果レジスタ10	ADA1CR10	-	-	R	0000H
0xFFFFF265	A/D1変換結果レジスタ10H	ADA1CR10H	-	R	-	00H
0xFFFFF266	A/D1変換結果レジスタ11	ADA1CR11	-	-	R	0000H
0xFFFFF267	A/D1変換結果レジスタ11H	ADA1CR11H	-	R	-	00H
0xFFFFF268	A/D1変換結果レジスタ12	ADA1CR12	-	-	R	0000H
0xFFFFF269	A/D1変換結果レジスタ12H	ADA1CR12H	-	R	-	00H
0xFFFFF26A	A/D1変換結果レジスタ13	ADA1CR13	-	-	R	0000H
0xFFFFF26B	A/D1変換結果レジスタ13H	ADA1CR13H	-	R	-	00H
0xFFFFF26C	A/D1変換結果レジスタ14	ADA1CR14	-	-	R	0000H
0xFFFFF26D	A/D1変換結果レジスタ14H	ADA1CR14H	-	R	-	00H
0xFFFFF26E	A/D1変換結果レジスタ15	ADA1CR15	-	-	R	0000H
0xFFFFF26F	A/D1変換結果レジスタ15H	ADA1CR15H	-	R	-	00H

表A - 2 周辺I/Oレジスタ (8/17)

アドレス	レジスタ名	略号	操作可能ビット			初期値
			1	8	16	
0xFFFFF300	キー・リターン・モード・レジスタ	KRM	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF308	セレクタ動作制御レジスタ0	SELCNT0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF30A	セレクタ動作制御レジスタ1	SELCNT1	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF30C	セレクタ動作制御レジスタ2	SELCNT2	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF30E	セレクタ動作制御レジスタ3	SELCNT3	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF318	デジタル・ノイズ・フィルタ制御レジスタ	NFC	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF340	IIC分周クロック選択レジスタ	OCKS0	-	R/W	-	00H
0xFFFFF3F0	SSCG制御レジスタ	SSCGCTL	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF3F1	SSCG周波数制御レジスタ0	SFC0	-	R/W	-	00H
0xFFFFF3F2	SSCG周波数制御レジスタ1	SFC1	-	R/W	-	00H
0xFFFFF3F8	セレクタ動作制御レジスタ4	SELCNT4	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF3FA	セレクタ動作制御レジスタ5	SELCNT5	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF400	ポート0	P0	R/W	R/W	-	不定
0xFFFFF402	ポート1	P1	R/W	R/W	-	不定
0xFFFFF404	ポート2L	P2L	R/W	R/W	-	不定
0xFFFFF405	ポート2H	P2H	R/W	R/W	-	不定
0xFFFFF406	ポート3	P3	-	-	R/W	不定
0xFFFFF406	ポート3L	P3L	R/W	R/W	-	不定
0xFFFFF407	ポート3H	P3H	R/W	R/W	-	不定
0xFFFFF408	ポート4	P4	R/W	R/W	-	不定
0xFFFFF40A	ポート5	P5	R/W	R/W	-	不定
0xFFFFF40C	ポート6	P6	-	-	R/W	不定
0xFFFFF40C	ポート6L	P6L	R/W	R/W	-	不定
0xFFFFF40D	ポート6H	P6H	R/W	R/W	-	不定
0xFFFFF40E	ポート7L	P7L	R/W	R/W	-	不定
0xFFFFF40F	ポート7H	P7H	R/W	R/W	-	不定
0xFFFFF410	ポート8	P8	R/W	R/W	-	不定
0xFFFFF412	ポート9	P9	-	-	R/W	不定
0xFFFFF412	ポート9L	P9L	R/W	R/W	-	不定
0xFFFFF413	ポート9H	P9H	R/W	R/W	-	不定
0xFFFFF418	ポート12	P12	R/W	R/W	-	不定
0xFFFFF41E	ポート15	P15	R/W	R/W	-	不定
0xFFFFF420	ポート・モード・レジスタ0	PM0	R/W	R/W	-	FFH
0xFFFFF422	ポート・モード・レジスタ1	PM1	R/W	R/W	-	FFH
0xFFFFF424	ポート・モード・レジスタ2L	PM2L	R/W	R/W	-	FFH
0xFFFFF425	ポート・モード・レジスタ2H	PM2H	R/W	R/W	-	FFH
0xFFFFF426	ポート・モード・レジスタ3	PM3	-	-	R/W	FFFFH
0xFFFFF426	ポート・モード・レジスタ3L	PM3L	R/W	R/W	-	FFH
0xFFFFF427	ポート・モード・レジスタ3H	PM3H	R/W	R/W	-	FFH
0xFFFFF428	ポート・モード・レジスタ4	PM4	R/W	R/W	-	FFH
0xFFFFF42A	ポート・モード・レジスタ5	PM5	R/W	R/W	-	FFH
0xFFFFF42C	ポート・モード・レジスタ6	PM6	-	-	R/W	FFFFH
0xFFFFF42C	ポート・モード・レジスタ6L	PM6L	R/W	R/W	-	FFH

表A - 2 周辺I/Oレジスタ (9/17)

アドレス	レジスタ名	略号	操作可能ビット			初期値
			1	8	16	
0xFFFFF42D	ポート・モード・レジスタ6H	PM6H	R/W	R/W	-	FFH
0xFFFFF42E	ポート・モード・レジスタ7L	PM7L	R/W	R/W	-	FFH
0xFFFFF42F	ポート・モード・レジスタ7H	PM7H	R/W	R/W	-	FFH
0xFFFFF430	ポート・モード・レジスタ8	PM8	R/W	R/W	-	FFH
0xFFFFF432	ポート・モード・レジスタ9	PM9	-	-	R/W	FFFFH
0xFFFFF432	ポート・モード・レジスタ9L	PM9L	R/W	R/W	-	FFH
0xFFFFF433	ポート・モード・レジスタ9H	PM9H	R/W	R/W	-	FFH
0xFFFFF438	ポート・モード・レジスタ12	PM12	R/W	R/W	-	FFH
0xFFFFF43E	ポート・モード・レジスタ15	PM15	R/W	R/W	-	FFH
0xFFFFF440	ポート・モード・コントロール・レジスタ0	PMC0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF442	ポート・モード・コントロール・レジスタ1	PMC1	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF444	ポート・モード・コントロール・レジスタ2L	PMC2L	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF445	ポート・モード・コントロール・レジスタ2H	PMC2H	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF446	ポート・モード・コントロール・レジスタ3	PMC3	-	-	R/W	0000H
0xFFFFF446	ポート・モード・コントロール・レジスタ3L	PMC3L	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF447	ポート・モード・コントロール・レジスタ3H	PMC3H	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF448	ポート・モード・コントロール・レジスタ4	PMC4	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF44A	ポート・モード・コントロール・レジスタ5	PMC5	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF44C	ポート・モード・コントロール・レジスタ6	PMC6	-	-	R/W	0000H
0xFFFFF44C	ポート・モード・コントロール・レジスタ6L	PMC6L	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF44D	ポート・モード・コントロール・レジスタ6H	PMC6H	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF44E	ポート・モード・コントロール・レジスタ7L	PMC7L	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF44F	ポート・モード・コントロール・レジスタ7H	PMC7H	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF450	ポート・モード・コントロール・レジスタ8	PMC8	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF452	ポート・モード・コントロール・レジスタ9	PMC9	-	-	R/W	0000H
0xFFFFF452	ポート・モード・コントロール・レジスタ9L	PMC9L	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF453	ポート・モード・コントロール・レジスタ9H	PMC9H	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF458	ポート・モード・コントロール・レジスタ12	PMC12	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF45E	ポート・モード・コントロール・レジスタ15	PMC15	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF460	ポート・ファンクション・コントロール・レジスタ0	PFC0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF466	ポート・ファンクション・コントロール・レジスタ3L	PFC3L	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF468	ポート・ファンクション・コントロール・レジスタ4	PFC4	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF46A	ポート・ファンクション・コントロール・レジスタ5	PFC5	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF46C	ポート・ファンクション・コントロール・レジスタ6	PFC6	-	-	R/W	0000H
0xFFFFF46C	ポート・ファンクション・コントロール・レジスタ6L	PFC6L	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF46D	ポート・ファンクション・コントロール・レジスタ6H	PFC6H	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF472	ポート・ファンクション・コントロール・レジスタ9	PFC9	-	-	R/W	0000H
0xFFFFF472	ポート・ファンクション・コントロール・レジスタ9L	PFC9L	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF473	ポート・ファンクション・コントロール・レジスタ9H	PFC9H	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF47E	ポート・ファンクション・コントロール・レジスタ15	PFC15	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF484	データ・ウェイト・コントロール・レジスタ	DWC0	-	-	R/W	7777H
0xFFFFF488	アドレス・セットアップ・ウェイト・コントロール・レジスタ	AWC	-	-	R/W	FFFFH

表A - 2 周辺I/Oレジスタ (10/17)

アドレス	レジスタ名	略号	操作可能ビット			初期値
			1	8	16	
0xFFFFF48A	バス・サイクル・コントロール・レジスタ	BCC	-	-	R/W	AAAAH
0xFFFFF540	TAB0制御レジスタ0	TAB0CTL0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF541	TAB0制御レジスタ1	TAB0CTL1	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF542	TAB0 I/O制御レジスタ0	TAB0IOC0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF543	TAB0 I/O制御レジスタ1	TAB0IOC1	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF544	TAB0 I/O制御レジスタ2	TAB0IOC2	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF545	TAB0オプション・レジスタ0	TAB0OPT0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF546	TAB0キャプチャ／コンペア・レジスタ0	TAB0CCR0	-	-	R/W	0000H
0xFFFFF548	TAB0キャプチャ／コンペア・レジスタ1	TAB0CCR1	-	-	R/W	0000H
0xFFFFF54A	TAB0キャプチャ／コンペア・レジスタ2	TAB0CCR2	-	-	R/W	0000H
0xFFFFF54C	TAB0キャプチャ／コンペア・レジスタ3	TAB0CCR3	-	-	R/W	0000H
0xFFFFF54E	TAB0カウンタ・リード・バッファ・レジスタ	TAB0CNT	-	-	R	0000H
0xFFFFF550	TAB0 I/O制御レジスタ4	TAB0IOC4	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF560	TAB0オプション・レジスタ1	TAB0OPT1	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF561	TAB0オプション・レジスタ2	TAB0OPT2	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF562	TAB0 I/O制御レジスタ3	TAB0IOC3	R/W	R/W	-	A8H
0xFFFFF563	TAB0オプション・レジスタ3	TAB0OPT3	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF564	TAB0デッド・タイム・コンペア・レジスタ	TAB0DTC	-	-	R/W	0000H
0xFFFFF570	ハイ・インピーダンス出力制御レジスタ0	HZA0CTL0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF571	ハイ・インピーダンス出力制御レジスタ1	HZA0CTL1	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF590	TAA0制御レジスタ0	TAA0CTL0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF591	TAA0制御レジスタ1	TAA0CTL1	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF592	TAA0 I/O制御レジスタ0	TAA0IOC0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF593	TAA0 I/O制御レジスタ1	TAA0IOC1	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF594	TAA0 I/O制御レジスタ2	TAA0IOC2	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF595	TAA0オプション・レジスタ0	TAA0OPT0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF596	TAA0キャプチャ／コンペア・レジスタ0	TAA0CCR0	-	-	R/W	0000H
0xFFFFF598	TAA0キャプチャ／コンペア・レジスタ1	TAA0CCR1	-	-	R/W	0000H
0xFFFFF59A	TAA0カウンタ・リード・バッファ・レジスタ	TAA0CNT	-	-	R	0000H
0xFFFFF59C	TAA0 I/O制御レジスタ4	TAA0IOC4	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF5A0	TAA1制御レジスタ0	TAA1CTL0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF5A1	TAA1制御レジスタ1	TAA1CTL1	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF5A2	TAA1 I/O制御レジスタ0	TAA1IOC0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF5A3	TAA1 I/O制御レジスタ1	TAA1IOC1	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF5A4	TAA1 I/O制御レジスタ2	TAA1IOC2	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF5A5	TAA1オプション・レジスタ0	TAA1OPT0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF5A6	TAA1キャプチャ／コンペア・レジスタ0	TAA1CCR0	-	-	R/W	0000H
0xFFFFF5A8	TAA1キャプチャ／コンペア・レジスタ1	TAA1CCR1	-	-	R/W	0000H
0xFFFFF5AA	TAA1カウンタ・リード・バッファ・レジスタ	TAA1CNT	-	-	R	0000H
0xFFFFF5AC	TAA1 I/O制御レジスタ4	TAA1IOC4	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF5AD	TAA1オプション・レジスタ1	TAA1OPT1	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF5B0	TAA2制御レジスタ0	TAA2CTL0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF5B1	TAA2制御レジスタ1	TAA2CTL1	R/W	R/W	-	00H

表A - 2 周辺I/Oレジスタ (11/17)

アドレス	レジスタ名	略号	操作可能ビット			初期値
			1	8	16	
0xFFFFF5B2	TAA2 I/O制御レジスタ0	TAA2IOC0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF5B3	TAA2 I/O制御レジスタ1	TAA2IOC1	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF5B4	TAA2 I/O制御レジスタ2	TAA2IOC2	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF5B5	TAA2オプション・レジスタ0	TAA2OPT0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF5B6	TAA2キャプチャ / コンペア・レジスタ0	TAA2CCR0	-	-	R/W	0000H
0xFFFFF5B8	TAA2キャプチャ / コンペア・レジスタ1	TAA2CCR1	-	-	R/W	0000H
0xFFFFF5BA	TAA2カウンタ・リード・バッファ・レジスタ	TAA2CNT	-	-	R	0000H
0xFFFFF5BC	TAA2 I/O制御レジスタ4	TAA2IOC4	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF5C0	TAA3制御レジスタ0	TAA3CTL0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF5C1	TAA3制御レジスタ1	TAA3CTL1	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF5C2	TAA3 I/O制御レジスタ0	TAA3IOC0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF5C3	TAA3 I/O制御レジスタ1	TAA3IOC1	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF5C4	TAA3 I/O制御レジスタ2	TAA3IOC2	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF5C5	TAA3オプション・レジスタ0	TAA3OPT0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF5C6	TAA3キャプチャ / コンペア・レジスタ0	TAA3CCR0	-	-	R/W	0000H
0xFFFFF5C8	TAA3キャプチャ / コンペア・レジスタ1	TAA3CCR1	-	-	R/W	0000H
0xFFFFF5CA	TAA3カウンタ・リード・バッファ・レジスタ	TAA3CNT	-	-	R	0000H
0xFFFFF5CC	TAA3 I/O制御レジスタ4	TAA3IOC4	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF5CD	TAA3オプション・レジスタ1	TAA3OPT1	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF5D0	TAA4制御レジスタ0	TAA4CTL0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF5D1	TAA4制御レジスタ1	TAA4CTL1	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF5D2	TAA4 I/O制御レジスタ0	TAA4IOC0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF5D3	TAA4 I/O制御レジスタ1	TAA4IOC1	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF5D4	TAA4 I/O制御レジスタ2	TAA4IOC2	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF5D5	TAA4オプション・レジスタ0	TAA4OPT0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF5D6	TAA4キャプチャ / コンペア・レジスタ0	TAA4CCR0	-	-	R/W	0000H
0xFFFFF5D8	TAA4キャプチャ / コンペア・レジスタ1	TAA4CCR1	-	-	R/W	0000H
0xFFFFF5DA	TAA4カウンタ・リード・バッファ・レジスタ	TAA4CNT	-	-	R	0000H
0xFFFFF5DC	TAA4 I/O制御レジスタ4	TAA4IOC4	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF5E0	TAA5制御レジスタ0	TAA5CTL0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF5E1	TAA5制御レジスタ1	TAA5CTL1	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF5E2	TAA5 I/O制御レジスタ0	TAA5IOC0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF5E3	TAA5 I/O制御レジスタ1	TAA5IOC1	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF5E4	TAA5 I/O制御レジスタ2	TAA5IOC2	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF5E5	TAA5オプション・レジスタ0	TAA5OPT0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF5E6	TAA5キャプチャ / コンペア・レジスタ0	TAA5CCR0	-	-	R/W	0000H
0xFFFFF5E8	TAA5キャプチャ / コンペア・レジスタ1	TAA5CCR1	-	-	R/W	0000H
0xFFFFF5EA	TAA5カウンタ・リード・バッファ・レジスタ	TAA5CNT	-	-	R	0000H
0xFFFFF5EC	TAA5 I/O制御レジスタ4	TAA5IOC4	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF5F0	TAA6制御レジスタ0	TAA6CTL0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF5F1	TAA6制御レジスタ1	TAA6CTL1	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF5F2	TAA6 I/O制御レジスタ0	TAA6IOC0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF5F3	TAA6 I/O制御レジスタ1	TAA6IOC1	R/W	R/W	-	00H

表A - 2 周辺I/Oレジスタ (12/17)

アドレス	レジスタ名	略号	操作可能ビット			初期値
			1	8	16	
0xFFFFF5F4	TAA6 I/O制御レジスタ2	TAA6IOC2	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF5F5	TAA6オプション・レジスタ0	TAA6OPT0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF5F6	TAA6キャプチャ／コンペア・レジスタ0	TAA6CCR0	-	-	R/W	0000H
0xFFFFF5F8	TAA6キャプチャ／コンペア・レジスタ1	TAA6CCR1	-	-	R/W	0000H
0xFFFFF5FA	TAA6カウンタ・リード・バッファ・レジスタ	TAA6CNT	-	-	R	0000H
0xFFFFF5FC	TAA6 I/O制御レジスタ4	TAA6IOC4	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF5FD	TAA6オプション・レジスタ1	TAA6OPT1	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF600	TAA7制御レジスタ0	TAA7CTL0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF601	TAA7制御レジスタ1	TAA7CTL1	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF602	TAA7 I/O制御レジスタ0	TAA7IOC0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF603	TAA7 I/O制御レジスタ1	TAA7IOC1	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF604	TAA7 I/O制御レジスタ2	TAA7IOC2	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF605	TAA7オプション・レジスタ0	TAA7OPT0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF606	TAA7キャプチャ／コンペア・レジスタ0	TAA7CCR0	-	-	R/W	0000H
0xFFFFF608	TAA7キャプチャ／コンペア・レジスタ1	TAA7CCR1	-	-	R/W	0000H
0xFFFFF60A	TAA7カウンタ・リード・バッファ・レジスタ	TAA7CNT	-	-	R	0000H
0xFFFFF60C	TAA7 I/O制御レジスタ4	TAA7IOC4	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF610	TAB1制御レジスタ0	TAB1CTL0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF611	TAB1制御レジスタ1	TAB1CTL1	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF612	TAB1 I/O制御レジスタ0	TAB1IOC0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF613	TAB1 I/O制御レジスタ1	TAB1IOC1	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF614	TAB1 I/O制御レジスタ2	TAB1IOC2	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF615	TAB1オプション・レジスタ0	TAB1OPT0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF616	TAB1キャプチャ／コンペア・レジスタ0	TAB1CCR0	-	-	R/W	0000H
0xFFFFF618	TAB1キャプチャ／コンペア・レジスタ1	TAB1CCR1	-	-	R/W	0000H
0xFFFFF61A	TAB1キャプチャ／コンペア・レジスタ2	TAB1CCR2	-	-	R/W	0000H
0xFFFFF61C	TAB1キャプチャ／コンペア・レジスタ3	TAB1CCR3	-	-	R/W	0000H
0xFFFFF61E	TAB1カウンタ・リード・バッファ・レジスタ	TAB1CNT	-	-	R	0000H
0xFFFFF620	TAB2制御レジスタ0	TAB2CTL0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF621	TAB2制御レジスタ1	TAB2CTL1	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF622	TAB2 I/O制御レジスタ0	TAB2IOC0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF623	TAB2 I/O制御レジスタ1	TAB2IOC1	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF624	TAB2 I/O制御レジスタ2	TAB2IOC2	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF625	TAB2オプション・レジスタ0	TAB2OPT0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF626	TAB2キャプチャ／コンペア・レジスタ0	TAB2CCR0	-	-	R/W	0000H
0xFFFFF628	TAB2キャプチャ／コンペア・レジスタ1	TAB2CCR1	-	-	R/W	0000H
0xFFFFF62A	TAB2キャプチャ／コンペア・レジスタ2	TAB2CCR2	-	-	R/W	0000H
0xFFFFF62C	TAB2キャプチャ／コンペア・レジスタ3	TAB2CCR3	-	-	R/W	0000H
0xFFFFF62E	TAB2カウンタ・リード・バッファ・レジスタ	TAB2CNT	-	-	R	0000H
0xFFFFF660	TAB1 I/O制御レジスタ4	TAB1IOC4	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF670	TAB2 I/O制御レジスタ4	TAB2IOC4	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF680	時計タイマ動作モード・レジスタ	WTM	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF690	TMM0制御レジスタ0	TM0CTL0	R/W	R/W	-	00H

表A - 2 周辺I/Oレジスタ (13/17)

アドレス	レジスタ名	略号	操作可能ビット			初期値
			1	8	16	
0xFFFFF694	TMM0コンペア・レジスタ0	TM0CMP0	-	-	R/W	0000H
0xFFFFF6C0	発振安定時間選択レジスタ	OSTS	-	R/W	-	06H
0xFFFFF6C1	PLLロックアップ時間指定レジスタ	PLLS	-	R/W	-	03H
0xFFFFF6C2	発振安定時間カウント・ステータス・レジスタ	OSTC	R	R	-	00H
0xFFFFF6D0	ウォッチドッグ・タイマ・モード・レジスタ2	WDTM2	-	R/W	-	67H
0xFFFFF6D1	ウォッチドッグ・タイマ・イネーブル・レジスタ	WDTE	-	R/W	-	9AH
0xFFFFF700	ポート・ファンクション・コントロール拡張レジスタ0	PFCE0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF706	ポート・ファンクション・コントロール拡張レジスタ3L	PFCE3L	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF708	ポート・ファンクション・コントロール拡張レジスタ4	PFCE4	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF70A	ポート・ファンクション・コントロール拡張レジスタ5	PFCE5	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF70C	ポート・ファンクション・コントロール拡張レジスタ6L	PFCE6L	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF712	ポート・ファンクション・コントロール拡張レジスタ9	PFCE9	-	-	R/W	0000H
0xFFFFF712	ポート・ファンクション・コントロール拡張レジスタ9L	PFCE9L	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF713	ポート・ファンクション・コントロール拡張レジスタ9H	PFCE9H	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF802	システム・レジスタ	SYS	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF80C	内蔵発振モード・レジスタ	RCM	R/W	R/W	-	80H
0xFFFFF810	DMAトリガ要因レジスタ0	DTFR0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF812	DMAトリガ要因レジスタ1	DTFR1	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF814	DMAトリガ要因レジスタ2	DTFR2	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF816	DMAトリガ要因レジスタ3	DTFR3	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF820	パワー・セーブ・モード・コントロール・レジスタ	PSMR	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF824	ロック・レジスタ	LOCKR	R	R	-	01H
0xFFFFF828	プロセッサ・クロック・コントロール・レジスタ	PCC	R/W	R/W	-	40H
0xFFFFF82C	PLLコントロール・レジスタ	PLLCTL	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF82E	CPU動作クロック・ステータス・レジスタ	CCLS	R	R	-	00H
0xFFFFF82F	プログラマブル・クロック・モード・レジスタ	PCLM	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF860	メイン・システム・クロック・モード・レジスタ	MCM	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF870	メイン・クロック発振回路クロック・モニタ・モード・レジスタ	CLM	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF888	リセット要因フラグ・レジスタ	RESF	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF890	低電圧検出レジスタ	LVIM	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFF891	低電圧検出レベル選択レジスタ	LVIS	-	R/W	-	00H
0xFFFFF892	内蔵RAMデータ・ステータス・レジスタ	RAMS	R/W	R/W	-	01H
0xFFFFF8B0	プリスケーラ・モード・レジスタ	PRSM0	-	R/W	-	00H
0xFFFFF8B1	プリスケーラ・コンペア・レジスタ	PRSCM0	-	R/W	-	00H
0xFFFFF9FC	オンチップ・デバッグ・モード・レジスタ	OCDM	R/W	R/W	-	0xH
0xFFFFF9FE	周辺エミュレーション・レジスタ1	PEMU1	R/W	R/W	-	00H/0xH
0xFFFFFA00	UARTD0制御レジスタ0	UD0CTL0	R/W	R/W	-	10H
0xFFFFFA01	UARTD0制御レジスタ1	UD0CTL1	-	R/W	-	00H
0xFFFFFA02	UARTD0制御レジスタ2	UD0CTL2	-	R/W	-	FFH
0xFFFFFA03	UARTD0オプション制御レジスタ0	UD0OPT0	R/W	R/W	-	14H
0xFFFFFA04	UARTD0状態レジスタ	UD0STR	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFA05	UARTD0オプション制御レジスタ1	UD0OPT1	-	R/W	-	00H

表A - 2 周辺I/Oレジスタ (14/17)

アドレス	レジスタ名	略号	操作可能ビット			初期値
			1	8	16	
0xFFFFFA06	UARTD0受信データ・レジスタ	UD0RX	-	R	-	FFH
0xFFFFFA07	UARTD0送信データ・レジスタ	UD0TX	-	R/W	-	FFH
0xFFFFFA10	UARTD1制御レジスタ0	UD1CTL0	R/W	R/W	-	10H
0xFFFFFA11	UARTD1制御レジスタ1	UD1CTL1	-	R/W	-	00H
0xFFFFFA12	UARTD1制御レジスタ2	UD1CTL2	-	R/W	-	FFH
0xFFFFFA13	UARTD1オプション制御レジスタ0	UD1OPT0	R/W	R/W	-	14H
0xFFFFFA14	UARTD1状態レジスタ	UD1STR	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFA15	UARTD1オプション制御レジスタ1	UD1OPT1	-	R/W	-	00H
0xFFFFFA16	UARTD1受信データ・レジスタ	UD1RX	-	R	-	FFH
0xFFFFFA17	UARTD1送信データ・レジスタ	UD1TX	-	R/W	-	FFH
0xFFFFFA20	UARTD2制御レジスタ0	UD2CTL0	R/W	R/W	-	10H
0xFFFFFA21	UARTD2制御レジスタ1	UD2CTL1	-	R/W	-	00H
0xFFFFFA22	UARTD2制御レジスタ2	UD2CTL2	-	R/W	-	FFH
0xFFFFFA23	UARTD2オプション制御レジスタ0	UD2OPT0	R/W	R/W	-	14H
0xFFFFFA24	UARTD2状態レジスタ	UD2STR	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFA25	UARTD2オプション制御レジスタ1	UD2OPT1	-	R/W	-	00H
0xFFFFFA26	UARTD2受信データ・レジスタ	UD2RX	-	R	-	FFH
0xFFFFFA27	UARTD2送信データ・レジスタ	UD2TX	-	R/W	-	FFH
0xFFFFFA30	UARTD3制御レジスタ0	UD3CTL0	R/W	R/W	-	10H
0xFFFFFA31	UARTD3制御レジスタ1	UD3CTL1	-	R/W	-	00H
0xFFFFFA32	UARTD3制御レジスタ2	UD3CTL2	-	R/W	-	FFH
0xFFFFFA33	UARTD3オプション制御レジスタ0	UD3OPT0	R/W	R/W	-	14H
0xFFFFFA34	UARTD3状態レジスタ	UD3STR	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFA35	UARTD3オプション制御レジスタ1	UD3OPT1	-	R/W	-	00H
0xFFFFFA36	UARTD3受信データ・レジスタ	UD3RX	-	R	-	FFH
0xFFFFFA37	UARTD3送信データ・レジスタ	UD3TX	-	R/W	-	FFH
0xFFFFFA40	UARTD4制御レジスタ0	UD4CTL0	R/W	R/W	-	10H
0xFFFFFA41	UARTD4制御レジスタ1	UD4CTL1	-	R/W	-	00H
0xFFFFFA42	UARTD4制御レジスタ2	UD4CTL2	-	R/W	-	FFH
0xFFFFFA43	UARTD4オプション制御レジスタ0	UD4OPT0	R/W	R/W	-	14H
0xFFFFFA44	UARTD4状態レジスタ	UD4STR	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFA45	UARTD4オプション制御レジスタ1	UD4OPT1	-	R/W	-	00H
0xFFFFFA46	UARTD4受信データ・レジスタ	UD4RX	-	R	-	FFH
0xFFFFFA47	UARTD4送信データ・レジスタ	UD4TX	-	R/W	-	FFH
0xFFFFFA50	UARTD5制御レジスタ0	UD5CTL0	R/W	R/W	-	10H
0xFFFFFA51	UARTD5制御レジスタ1	UD5CTL1	-	R/W	-	00H
0xFFFFFA52	UARTD5制御レジスタ2	UD5CTL2	-	R/W	-	FFH
0xFFFFFA53	UARTD5オプション制御レジスタ0	UD5OPT0	R/W	R/W	-	14H
0xFFFFFA54	UARTD5状態レジスタ	UD5STR	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFA55	UARTD5オプション制御レジスタ1	UD5OPT1	-	R/W	-	00H
0xFFFFFA56	UARTD5受信データ・レジスタ	UD5RX	-	R	-	FFH
0xFFFFFA57	UARTD5送信データ・レジスタ	UD5TX	-	R/W	-	FFH
0xFFFFFA60	UARTD6制御レジスタ0	UD6CTL0	R/W	R/W	-	10H

表A - 2 周辺I/Oレジスタ (15/17)

アドレス	レジスタ名	略号	操作可能ビット			初期値
			1	8	16	
0xFFFFFA61	UARTD6制御レジスタ1	UD6CTL1	-	R/W	-	00H
0xFFFFFA62	UARTD6制御レジスタ2	UD6CTL2	-	R/W	-	FFH
0xFFFFFA63	UARTD6オプション制御レジスタ0	UD6OPT0	R/W	R/W	-	14H
0xFFFFFA64	UARTD6状態レジスタ	UD6STR	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFA65	UARTD6オプション制御レジスタ1	UD6OPT1	-	R/W	-	00H
0xFFFFFA66	UARTD6受信データ・レジスタ	UD6RX	-	R	-	FFH
0xFFFFFA67	UARTD6送信データ・レジスタ	UD6TX	-	R/W	-	FFH
0xFFFFFA70	UARTD7制御レジスタ0	UD7CTL0	R/W	R/W	-	10H
0xFFFFFA71	UARTD7制御レジスタ1	UD7CTL1	-	R/W	-	00H
0xFFFFFA72	UARTD7制御レジスタ2	UD7CTL2	-	R/W	-	FFH
0xFFFFFA73	UARTD7オプション制御レジスタ0	UD7OPT0	R/W	R/W	-	14H
0xFFFFFA74	UARTD7状態レジスタ	UD7STR	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFA75	UARTD7オプション制御レジスタ1	UD7OPT1	-	R/W	-	00H
0xFFFFFA76	UARTD7受信データ・レジスタ	UD7RX	-	R	-	FFH
0xFFFFFA77	UARTD7送信データ・レジスタ	UD7TX	-	R/W	-	FFH
0xFFFFFC00	外部割り込み立ち下がりエッジ指定レジスタ0	INTF0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFC02	外部割り込み立ち下がりエッジ指定レジスタ1	INTF1	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFC06	外部割り込み立ち下がりエッジ指定レジスタ3	INTF3	-	-	R/W	0000H
0xFFFFFC06	外部割り込み立ち下がりエッジ指定レジスタ3L	INTF3L	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFC07	外部割り込み立ち下がりエッジ指定レジスタ3H	INTF3H	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFC08	外部割り込み立ち下がりエッジ指定レジスタ4	INTF4	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFC0C	外部割り込み立ち下がりエッジ指定レジスタ6	INTF6	-	-	R/W	0000H
0xFFFFFC0C	外部割り込み立ち下がりエッジ指定レジスタ6L	INTF6L	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFC0D	外部割り込み立ち下がりエッジ指定レジスタ6H	INTF6H	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFC10	外部割り込み立ち下がりエッジ指定レジスタ8	INTF8	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFC13	外部割り込み立ち下がりエッジ指定レジスタ9H	INTF9H	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFC20	外部割り込み立ち上がりエッジ指定レジスタ0	INTR0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFC22	外部割り込み立ち上がりエッジ指定レジスタ1	INTR1	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFC26	外部割り込み立ち上がりエッジ指定レジスタ3	INTR3	-	-	R/W	0000H
0xFFFFFC26	外部割り込み立ち上がりエッジ指定レジスタ3L	INTR3L	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFC27	外部割り込み立ち上がりエッジ指定レジスタ3H	INTR3H	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFC28	外部割り込み立ち上がりエッジ指定レジスタ4	INTR4	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFC2C	外部割り込み立ち上がりエッジ指定レジスタ6	INTR6	-	-	R/W	0000H
0xFFFFFC2C	外部割り込み立ち上がりエッジ指定レジスタ6L	INTR6L	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFC2D	外部割り込み立ち上がりエッジ指定レジスタ6H	INTR6H	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFC30	外部割り込み立ち上がりエッジ指定レジスタ8	INTR8	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFC33	外部割り込み立ち上がりエッジ指定レジスタ9H	INTR9H	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFC40	プルアップ抵抗オプション・レジスタ0	PU0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFC42	プルアップ抵抗オプション・レジスタ1	PU1	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFC46	プルアップ抵抗オプション・レジスタ3	PU3	-	-	R/W	0000H
0xFFFFFC46	プルアップ抵抗オプション・レジスタ3L	PU3L	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFC47	プルアップ抵抗オプション・レジスタ3H	PU3H	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFC48	プルアップ抵抗オプション・レジスタ4	PU4	R/W	R/W	-	00H

表A - 2 周辺I/Oレジスタ (16/17)

アドレス	レジスタ名	略号	操作可能ビット			初期値
			1	8	16	
0xFFFFFC4A	プルアップ抵抗オプション・レジスタ5	PU5	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFC4C	プルアップ抵抗オプション・レジスタ6	PU6	-	-	R/W	0000H
0xFFFFFC4C	プルアップ抵抗オプション・レジスタ6L	PU6L	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFC4D	プルアップ抵抗オプション・レジスタ6H	PU6H	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFC50	プルアップ抵抗オプション・レジスタ8	PU8	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFC52	プルアップ抵抗オプション・レジスタ9	PU9	-	-	R/W	0000H
0xFFFFFC52	プルアップ抵抗オプション・レジスタ9L	PU9L	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFC53	プルアップ抵抗オプション・レジスタ9H	PU9H	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFC5E	プルアップ抵抗オプション・レジスタ15	PU15	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFC73	ポート・ファンクション・レジスタ9H	PF9H	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFCC8	製品選択レジスタL	PRDSELL	-	-	R	製品に依存する
0xFFFFFCCA	製品選択レジスタH	PRDSELH	-	-	R	製品に依存する
0xFFFFFCF8	データ・フラッシュ・コントロール・レジスタ	DFLCTL	R/W	R/W	-	03H
0xFFFFFD00	CSIB0制御レジスタ0	CB0CTL0	R/W	R/W	-	01H
0xFFFFFD01	CSIB0制御レジスタ1	CB0CTL1	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFD02	CSIB0制御レジスタ2	CB0CTL2	-	R/W	-	00H
0xFFFFFD03	CSIB0状態レジスタ	CB0STR	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFD04	CSIB0受信データ・レジスタ	CB0RX	-	-	R	0000H
0xFFFFFD04	CSIB0受信データ・レジスタL	CB0RXL	-	R	-	00H
0xFFFFFD06	CSIB0送信データ・レジスタ	CB0TX	-	-	R/W	0000H
0xFFFFFD06	CSIB0送信データ・レジスタL	CB0TXL	-	R/W	-	00H
0xFFFFFD10	CSIB1制御レジスタ0	CB1CTL0	R/W	R/W	-	01H
0xFFFFFD11	CSIB1制御レジスタ1	CB1CTL1	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFD12	CSIB1制御レジスタ2	CB1CTL2	-	R/W	-	00H
0xFFFFFD13	CSIB1状態レジスタ	CB1STR	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFD14	CSIB1受信データ・レジスタ	CB1RX	-	-	R	0000H
0xFFFFFD14	CSIB1受信データ・レジスタL	CB1RXL	-	R	-	00H
0xFFFFFD16	CSIB1送信データ・レジスタ	CB1TX	-	-	R/W	0000H
0xFFFFFD16	CSIB1送信データ・レジスタL	CB1TXL	-	R/W	-	00H
0xFFFFFD20	CSIB2制御レジスタ0	CB2CTL0	R/W	R/W	-	01H
0xFFFFFD21	CSIB2制御レジスタ1	CB2CTL1	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFD22	CSIB2制御レジスタ2	CB2CTL2	-	R/W	-	00H
0xFFFFFD23	CSIB2状態レジスタ	CB2STR	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFD24	CSIB2受信データ・レジスタ	CB2RX	-	-	R	0000H
0xFFFFFD24	CSIB2受信データ・レジスタL	CB2RXL	-	R	-	00H
0xFFFFFD26	CSIB2送信データ・レジスタ	CB2TX	-	-	R/W	0000H
0xFFFFFD26	CSIB2送信データ・レジスタL	CB2TXL	-	R/W	-	00H
0xFFFFFD30	CSIB3制御レジスタ0	CB3CTL0	R/W	R/W	-	01H
0xFFFFFD31	CSIB3制御レジスタ1	CB3CTL1	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFD32	CSIB3制御レジスタ2	CB3CTL2	-	R/W	-	00H
0xFFFFFD33	CSIB3状態レジスタ	CB3STR	R/W	R/W	-	00H

表A - 2 周辺I/Oレジスタ (17/17)

アドレス	レジスタ名	略号	操作可能ビット			初期値
			1	8	16	
0xFFFFFD34	CSIB3受信データ・レジスタ	CB3RX	-	-	R	0000H
0xFFFFFD34	CSIB3受信データ・レジスタL	CB3RXL	-	R	-	00H
0xFFFFFD36	CSIB3送信データ・レジスタ	CB3TX	-	-	R/W	0000H
0xFFFFFD36	CSIB3送信データ・レジスタL	CB3TXL	-	R/W	-	00H
0xFFFFFD80	IICシフト・レジスタ0	IIC0	-	R/W	-	00H
0xFFFFFD82	IICコントロール・レジスタ0	IICC0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFD83	スレーブ・アドレス・レジスタ0	SVA0	-	R/W	-	00H
0xFFFFFD84	IICクロック選択レジスタ0	IICCL0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFD85	IIC機能拡張レジスタ0	IICX0	R/W	R/W	-	00H
0xFFFFFD86	IIC状態レジスタ0	IICS0	R	R	-	00H
0xFFFFFD8A	IICフラグ・レジスタ0	IICF0	R/W	R/W	-	00H

付録B レジスタ索引

(1/21)

略号	レジスタ名	ユニット	ページ
AD1IC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
ADA0CR0	A/D0変換結果レジスタ0	ADC	910
ADA0CR0H	A/D0変換結果レジスタ0H	ADC	910
ADA0CR1	A/D0変換結果レジスタ1	ADC	910
ADA0CR1H	A/D0変換結果レジスタ1H	ADC	910
ADA0CR2	A/D0変換結果レジスタ2	ADC	910
ADA0CR2H	A/D0変換結果レジスタ2H	ADC	910
ADA0CR3	A/D0変換結果レジスタ3	ADC	910
ADA0CR3H	A/D0変換結果レジスタ3H	ADC	910
ADA0CR4	A/D0変換結果レジスタ4	ADC	910
ADA0CR4H	A/D0変換結果レジスタ4H	ADC	910
ADA0CR5	A/D0変換結果レジスタ5	ADC	910
ADA0CR5H	A/D0変換結果レジスタ5H	ADC	910
ADA0CR6	A/D0変換結果レジスタ6	ADC	910
ADA0CR6H	A/D0変換結果レジスタ6H	ADC	910
ADA0CR7	A/D0変換結果レジスタ7	ADC	910
ADA0CR7H	A/D0変換結果レジスタ7H	ADC	910
ADA0CR8	A/D0変換結果レジスタ8	ADC	910
ADA0CR8H	A/D0変換結果レジスタ8H	ADC	910
ADA0CR9	A/D0変換結果レジスタ9	ADC	910
ADA0CR9H	A/D0変換結果レジスタ9H	ADC	910
ADA0CR10	A/D0変換結果レジスタ10	ADC	910
ADA0CR10H	A/D0変換結果レジスタ10H	ADC	910
ADA0CR11	A/D0変換結果レジスタ11	ADC	910
ADA0CR11H	A/D0変換結果レジスタ11H	ADC	910
ADA0CR12	A/D0変換結果レジスタ12	ADC	910
ADA0CR12H	A/D0変換結果レジスタ12H	ADC	910
ADA0CR13	A/D0変換結果レジスタ13	ADC	910
ADA0CR13H	A/D0変換結果レジスタ13H	ADC	910
ADA0CR14	A/D0変換結果レジスタ14	ADC	910
ADA0CR14H	A/D0変換結果レジスタ14H	ADC	910
ADA0CR15	A/D0変換結果レジスタ15	ADC	910
ADA0CR15H	A/D0変換結果レジスタ15H	ADC	910
ADA0CR16	A/D0変換結果レジスタ16	ADC	910
ADA0CR16H	A/D0変換結果レジスタ16H	ADC	910
ADA0CR17	A/D0変換結果レジスタ17	ADC	910
ADA0CR17H	A/D0変換結果レジスタ17H	ADC	910
ADA0CR18	A/D0変換結果レジスタ18	ADC	910
ADA0CR18H	A/D0変換結果レジスタ18H	ADC	910

(2/21)

略号	レジスタ名	ユニット	ページ
ADA0CR19	A/D0変換結果レジスタ19	ADC	910
ADA0CR19H	A/D0変換結果レジスタ19H	ADC	910
ADA0CR20	A/D0変換結果レジスタ20	ADC	910
ADA0CR20H	A/D0変換結果レジスタ20H	ADC	910
ADA0CR21	A/D0変換結果レジスタ21	ADC	910
ADA0CR21H	A/D0変換結果レジスタ21H	ADC	910
ADA0CR22	A/D0変換結果レジスタ22	ADC	910
ADA0CR22H	A/D0変換結果レジスタ22H	ADC	910
ADA0CR23	A/D0変換結果レジスタ23	ADC	910
ADA0CR23H	A/D0変換結果レジスタ23H	ADC	910
ADA0CRDD	AV _{REF} A/D0変換診断レジスタ	ADC	914
ADA0CRDDH	AV _{REF} A/D0変換診断レジスタH	ADC	914
ADA0CRSS	AV _{SS} A/D0変換診断レジスタ	ADC	914
ADA0CRSSH	AV _{SS} A/D0変換診断レジスタH	ADC	914
ADA0M0	A/D0コンバータ・モード・レジスタ0	ADC	904
ADA0M1	A/D0コンバータ・モード・レジスタ1	ADC	906
ADA0M2	A/D0コンバータ・モード・レジスタ2	ADC	907
ADA0PFM	AD0パワー・フェイル比較モード・レジスタ	ADC	915
ADA0PFT	AD0パワー・フェイル比較しきい値レジスタ	ADC	915
ADA0S	A/D0コンバータ・チャネル指定レジスタ0	ADC	908
ADA1CR0	A/D1変換結果レジスタ0	ADC	910
ADA1CR0H	A/D1変換結果レジスタ0H	ADC	910
ADA1CR1	A/D1変換結果レジスタ1	ADC	910
ADA1CR1H	A/D1変換結果レジスタ1H	ADC	910
ADA1CR2	A/D1変換結果レジスタ2	ADC	910
ADA1CR2H	A/D1変換結果レジスタ2H	ADC	910
ADA1CR3	A/D1変換結果レジスタ3	ADC	910
ADA1CR3H	A/D1変換結果レジスタ3H	ADC	910
ADA1CR4	A/D1変換結果レジスタ4	ADC	910
ADA1CR4H	A/D1変換結果レジスタ4H	ADC	910
ADA1CR5	A/D1変換結果レジスタ5	ADC	910
ADA1CR5H	A/D1変換結果レジスタ5H	ADC	910
ADA1CR6	A/D1変換結果レジスタ6	ADC	910
ADA1CR6H	A/D1変換結果レジスタ6H	ADC	910
ADA1CR7	A/D1変換結果レジスタ7	ADC	910
ADA1CR7H	A/D1変換結果レジスタ7H	ADC	910
ADA1CR8	A/D1変換結果レジスタ8	ADC	910
ADA1CR8H	A/D1変換結果レジスタ8H	ADC	910
ADA1CR9	A/D1変換結果レジスタ9	ADC	910
ADA1CR9H	A/D1変換結果レジスタ9H	ADC	910
ADA1CR10	A/D1変換結果レジスタ10	ADC	910
ADA1CR10H	A/D1変換結果レジスタ10H	ADC	910
ADA1CR11	A/D1変換結果レジスタ11	ADC	910
ADA1CR11H	A/D1変換結果レジスタ11H	ADC	910

(3/21)

略号	レジスタ名	ユニット	ページ
ADA1CR12	A/D1変換結果レジスタ12	ADC	910
ADA1CR12H	A/D1変換結果レジスタ12H	ADC	910
ADA1CR13	A/D1変換結果レジスタ13	ADC	910
ADA1CR13H	A/D1変換結果レジスタ13H	ADC	910
ADA1CR14	A/D1変換結果レジスタ14	ADC	910
ADA1CR14H	A/D1変換結果レジスタ14H	ADC	910
ADA1CR15	A/D1変換結果レジスタ15	ADC	910
ADA1CR15H	A/D1変換結果レジスタ15H	ADC	910
ADA1CRDD	AV _{REF} A/D1変換診断レジスタ	ADC	914
ADA1CRDDH	AV _{REF} A/D1変換診断レジスタH	ADC	914
ADA1CRSS	AV _{SS} A/D1変換診断レジスタ	ADC	914
ADA1CRSSH	AV _{SS} A/D1変換診断レジスタH	ADC	914
ADA1M0	A/D1コンバータ・モード・レジスタ0	ADC	904
ADA1M1	A/D1コンバータ・モード・レジスタ1	ADC	906
ADA1M2	A/D1コンバータ・モード・レジスタ2	ADC	907
ADA1PFM	A/D1パワー・フェイル比較モード・レジスタ	ADC	915
ADA1PFT	A/D1パワー・フェイル比較しきい値レジスタ	ADC	915
ADA1S	A/D1コンバータ・チャネル指定レジスタ0	ADC	908
ADIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
AWC	アドレス・セットアップ・ウエイト・コントロール・レジスタ	BCU	382
BCC	バス・サイクル・コントロール・レジスタ	BCU	384
BPC	周辺I/O領域セレクト制御レジスタ	CPU	187, 379
BSC	バス・サイズ・コンフィギュレーション・レジスタ	BCU	380
C0BRP	CAN0モジュール・ビット・レート・プリスケーラ・レジスタ	CAN	815
C0BTR	CAN0モジュール・ビット・レート・レジスタ	CAN	816
C0CTRL	CAN0モジュール制御レジスタ	CAN	805
C0ERC	CAN0モジュール・エラー・カウンタ・レジスタ	CAN	811
C0ERRIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
C0GMABT	CAN0グローバル自動ブロック送信制御レジスタ	CAN	800
C0GMABTD	CAN0グローバル自動ブロック送信遅延設定レジスタ	CAN	802
C0GMCS	CAN0グローバル・クロック選択レジスタ	CAN	799
C0GMCTRL	CAN0グローバル制御レジスタ	CAN	797
C0IE	CAN0モジュール割り込み許可レジスタ	CAN	812
C0INFO	CAN0モジュール情報レジスタ	CAN	810
C0INTS	CAN0モジュール割り込みステータス・レジスタ	CAN	814
C0LEC	CAN0モジュール最終エラー情報レジスタ	CAN	809
C0LIPT	CAN0モジュール最終受信ポインタ・レジスタ	CAN	818
C0LOPT	CAN0モジュール最終送信ポインタ・レジスタ	CAN	820
C0MASK1H	CAN0モジュール・マスク1レジスタH	CAN	803
C0MASK1L	CAN0モジュール・マスク1レジスタL	CAN	803
C0MASK2H	CAN0モジュール・マスク2レジスタH	CAN	803
C0MASK2L	CAN0モジュール・マスク2レジスタL	CAN	803
C0MASK3H	CAN0モジュール・マスク3レジスタH	CAN	803
C0MASK3L	CAN0モジュール・マスク3レジスタL	CAN	803

(4/21)

略号	レジスタ名	ユニット	ページ
C0MASK4H	CAN0モジュール・マスク4レジスタH	CAN	803
C0MASK4L	CAN0モジュール・マスク4レジスタL	CAN	803
C0MCONFm	CAN0メッセージ・コンフィギュレーション・レジスタm	CAN	827
C0MCTRLm	CAN0メッセージ制御レジスタm	CAN	829
C0MDATA01m	CAN0メッセージ・データ・バイト0レジスタm	CAN	824
C0MDATA0m	CAN0メッセージ・データ・バイト0レジスタm	CAN	824
C0MDATA1m	CAN0メッセージ・データ・バイト1レジスタm	CAN	824
C0MDATA23m	CAN0メッセージ・データ・バイト23レジスタm	CAN	824
C0MDATA2m	CAN0メッセージ・データ・バイト2レジスタm	CAN	824
C0MDATA3m	CAN0メッセージ・データ・バイト3レジスタm	CAN	824
C0MDATA45m	CAN0メッセージ・データ・バイト45レジスタm	CAN	824
C0MDATA4m	CAN0メッセージ・データ・バイト4レジスタm	CAN	824
C0MDATA5m	CAN0メッセージ・データ・バイト5レジスタm	CAN	824
C0MDATA67m	CAN0メッセージ・データ・バイト67レジスタm	CAN	824
C0MDATA6m	CAN0メッセージ・データ・バイト6レジスタm	CAN	824
C0MDATA7m	CAN0メッセージ・データ・バイト7レジスタm	CAN	824
C0MDLCm	CAN0メッセージ・データ長レジスタm	CAN	826
C0MIDHm	CAN0メッセージIDレジスタmH	CAN	828
C0MIDLm	CAN0メッセージIDレジスタmL	CAN	828
C0RECIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
C0RGPT	CAN0モジュール受信ヒストリ・リスト・レジスタ	CAN	819
C0TGPT	CAN0モジュール送信ヒストリ・リスト・レジスタ	CAN	821
C0TRXIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
C0TS	CAN0モジュール・タイム・スタンプ・レジスタ	CAN	822
C0WUPIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
C1BRP	CAN1モジュール・ピット・レート・プリスケーラ・レジスタ	CAN	815
C1BTR	CAN1モジュール・ピット・レート・レジスタ	CAN	816
C1CTRL	CAN1モジュール制御レジスタ	CAN	805
C1ERC	CAN1モジュール・エラー・カウンタ・レジスタ	CAN	811
C1ERRIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
C1GMABT	CAN1グローバル自動ブロック送信制御レジスタ	CAN	800
C1GMABTD	CAN1グローバル自動ブロック送信遅延設定レジスタ	CAN	802
C1GMCS	CAN1グローバル・クロック選択レジスタ	CAN	799
C1GMCTRL	CAN1グローバル制御レジスタ	CAN	797
C1IE	CAN1モジュール割り込み許可レジスタ	CAN	812
C1INFO	CAN1モジュール情報レジスタ	CAN	810
C1INTS	CAN1モジュール割り込みステータス・レジスタ	CAN	814
C1LEC	CAN1モジュール最終エラー情報レジスタ	CAN	809
C1LIPT	CAN1モジュール最終受信ポインタ・レジスタ	CAN	818
C1LOPT	CAN1モジュール最終送信ポインタ・レジスタ	CAN	820
C1MASK1H	CAN1モジュール・マスク1レジスタH	CAN	803
C1MASK1L	CAN1モジュール・マスク1レジスタL	CAN	803
C1MASK2H	CAN1モジュール・マスク2レジスタH	CAN	803
C1MASK2L	CAN1モジュール・マスク2レジスタL	CAN	803

(5/21)

略号	レジスタ名	ユニット	ページ
C1MASK3H	CAN1モジュール・マスク3レジスタH	CAN	803
C1MASK3L	CAN1モジュール・マスク3レジスタL	CAN	803
C1MASK4H	CAN1モジュール・マスク4レジスタH	CAN	803
C1MASK4L	CAN1モジュール・マスク4レジスタL	CAN	803
C1MCONFm	CAN1メッセージ・コンフィギュレーション・レジスタm	CAN	827
C1MCTRLm	CAN1メッセージ制御レジスタm	CAN	829
C1MDATA01m	CAN1メッセージ・データ・バイト0レジスタm	CAN	824
C1MDATA0m	CAN1メッセージ・データ・バイト0レジスタm	CAN	824
C1MDATA1m	CAN1メッセージ・データ・バイト1レジスタm	CAN	824
C1MDATA23m	CAN1メッセージ・データ・バイト23レジスタm	CAN	824
C1MDATA2m	CAN1メッセージ・データ・バイト2レジスタm	CAN	824
C1MDATA3m	CAN1メッセージ・データ・バイト3レジスタm	CAN	824
C1MDATA45m	CAN1メッセージ・データ・バイト45レジスタm	CAN	824
C1MDATA4m	CAN1メッセージ・データ・バイト4レジスタm	CAN	824
C1MDATA5m	CAN1メッセージ・データ・バイト5レジスタm	CAN	824
C1MDATA67m	CAN1メッセージ・データ・バイト67レジスタm	CAN	824
C1MDATA6m	CAN1メッセージ・データ・バイト6レジスタm	CAN	824
C1MDATA7m	CAN1メッセージ・データ・バイト7レジスタm	CAN	824
C1MDLCm	CAN1メッセージ・データ長レジスタm	CAN	826
C1MIDHm	CAN1メッセージIDレジスタmH	CAN	828
C1MIDLm	CAN1メッセージIDレジスタmL	CAN	828
C1RECIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
C1RGPT	CAN1モジュール受信ヒストリ・リスト・レジスタ	CAN	819
C1TGPT	CAN1モジュール送信ヒストリ・リスト・レジスタ	CAN	821
C1TRXIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
C1TS	CAN1モジュール・タイム・スタンプ・レジスタ	CAN	822
C1WUPIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
C2BRP	CAN2モジュール・ビット・レート・プリスケーラ・レジスタ	CAN	815
C2BTR	CAN2モジュール・ビット・レート・レジスタ	CAN	816
C2CTRL	CAN2モジュール制御レジスタ	CAN	805
C2ERC	CAN2モジュール・エラー・カウンタ・レジスタ	CAN	811
C2ERRIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
C2GMABT	CAN2グローバル自動ブロック送信制御レジスタ	CAN	800
C2GMABTD	CAN2グローバル自動ブロック送信遅延設定レジスタ	CAN	802
C2GMCS	CAN2グローバル・クロック選択レジスタ	CAN	799
C2GMCTRL	CAN2グローバル制御レジスタ	CAN	797
C2IE	CAN2モジュール割り込み許可レジスタ	CAN	812
C2INFO	CAN2モジュール情報レジスタ	CAN	810
C2INTS	CAN2モジュール割り込みステータス・レジスタ	CAN	814
C2LEC	CAN2モジュール最終エラー情報レジスタ	CAN	809
C2LIPT	CAN2モジュール最終受信ポインタ・レジスタ	CAN	818
C2LOPT	CAN2モジュール最終送信ポインタ・レジスタ	CAN	820
C2MASK1H	CAN2モジュール・マスク1レジスタH	CAN	803
C2MASK1L	CAN2モジュール・マスク1レジスタL	CAN	803

(6/21)

略号	レジスタ名	ユニット	ページ
C2MASK2H	CAN2モジュール・マスク2レジスタH	CAN	803
C2MASK2L	CAN2モジュール・マスク2レジスタL	CAN	803
C2MASK3H	CAN2モジュール・マスク3レジスタH	CAN	803
C2MASK3L	CAN2モジュール・マスク3レジスタL	CAN	803
C2MASK4H	CAN2モジュール・マスク4レジスタH	CAN	803
C2MASK4L	CAN2モジュール・マスク4レジスタL	CAN	803
C2MCONFm	CAN2メッセージ・コンフィギュレーション・レジスタm	CAN	827
C2MCTRLm	CAN2メッセージ制御レジスタm	CAN	829
C2MDATA01m	CAN2メッセージ・データ・バイト01レジスタm	CAN	824
C2MDATA0m	CAN2メッセージ・データ・バイト0レジスタm	CAN	824
C2MDATA1m	CAN2メッセージ・データ・バイト1レジスタm	CAN	824
C2MDATA23m	CAN2メッセージ・データ・バイト23レジスタm	CAN	824
C2MDATA2m	CAN2メッセージ・データ・バイト2レジスタm	CAN	824
C2MDATA3m	CAN2メッセージ・データ・バイト3レジスタm	CAN	824
C2MDATA45m	CAN2メッセージ・データ・バイト45レジスタm	CAN	824
C2MDATA4m	CAN2メッセージ・データ・バイト4レジスタm	CAN	824
C2MDATA5m	CAN2メッセージ・データ・バイト5レジスタm	CAN	824
C2MDATA67m	CAN2メッセージ・データ・バイト67レジスタm	CAN	824
C2MDATA6m	CAN2メッセージ・データ・バイト7レジスタm	CAN	824
C2MDATA7m	CAN2メッセージ・データ・バイト8レジスタm	CAN	824
C2MDLCm	CAN2メッセージ・データ長レジスタm	CAN	826
C2MIDHm	CAN2メッセージIDレジスタmH	CAN	828
C2MIDLm	CAN2メッセージIDレジスタmL	CAN	828
C2RECIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
C2RGPT	CAN2モジュール受信ヒストリ・リスト・レジスタ	CAN	819
C2TGPT	CAN2モジュール送信ヒストリ・リスト・レジスタ	CAN	821
C2TRXIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
C2TS	CAN2モジュール・タイム・スタンプ・レジスタ	CAN	822
C2WUPIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
C3BRP	CAN3モジュール・ピット・レート・プリスケーラ・レジスタ	CAN	815
C3BTR	CAN3モジュール・ピット・レート・レジスタ	CAN	816
C3CTRL	CAN3モジュール制御レジスタ	CAN	805
C3ERC	CAN3モジュール・エラー・カウンタ・レジスタ	CAN	811
C3ERRIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
C3GMABT	CAN3グローバル自動ブロック送信制御レジスタ	CAN	800
C3GMABTD	CAN3グローバル自動ブロック送信遅延設定レジスタ	CAN	802
C3GMCS	CAN3グローバル・クロック選択レジスタ	CAN	799
C3GMCTRL	CAN3グローバル制御レジスタ	CAN	797
C3IE	CAN3モジュール割り込み許可レジスタ	CAN	812
C3INFO	CAN3モジュール情報レジスタ	CAN	810
C3INTS	CAN3モジュール割り込みステータス・レジスタ	CAN	814
C3LEC	CAN3モジュール最終エラー情報レジスタ	CAN	809
C3LIPT	CAN3モジュール最終受信ポインタ・レジスタ	CAN	818
C3LOPT	CAN3モジュール最終送信ポインタ・レジスタ	CAN	820

(7/21)

略号	レジスタ名	ユニット	ページ
C3MASK1H	CAN3モジュール・マスク1レジスタH	CAN	803
C3MASK1L	CAN3モジュール・マスク1レジスタL	CAN	803
C3MASK2H	CAN3モジュール・マスク2レジスタH	CAN	803
C3MASK2L	CAN3モジュール・マスク2レジスタL	CAN	803
C3MASK3H	CAN3モジュール・マスク3レジスタH	CAN	803
C3MASK3L	CAN3モジュール・マスク3レジスタL	CAN	803
C3MASK4H	CAN3モジュール・マスク4レジスタH	CAN	803
C3MASK4L	CAN3モジュール・マスク4レジスタL	CAN	803
C3MCONFm	CAN3メッセージ・コンフィギュレーション・レジスタm	CAN	827
C3MCTRLm	CAN3メッセージ制御レジスタm	CAN	829
C3MDATA01m	CAN3メッセージ・データ・バイト0レジスタm	CAN	824
C3MDATA0m	CAN3メッセージ・データ・バイト0レジスタm	CAN	824
C3MDATA1m	CAN3メッセージ・データ・バイト1レジスタm	CAN	824
C3MDATA23m	CAN3メッセージ・データ・バイト23レジスタm	CAN	824
C3MDATA2m	CAN3メッセージ・データ・バイト2レジスタm	CAN	824
C3MDATA3m	CAN3メッセージ・データ・バイト3レジスタm	CAN	824
C3MDATA45m	CAN3メッセージ・データ・バイト45レジスタm	CAN	824
C3MDATA4m	CAN3メッセージ・データ・バイト4レジスタm	CAN	824
C3MDATA5m	CAN3メッセージ・データ・バイト5レジスタm	CAN	824
C3MDATA67m	CAN3メッセージ・データ・バイト67レジスタm	CAN	824
C3MDATA6m	CAN3メッセージ・データ・バイト6レジスタm	CAN	824
C3MDATA7m	CAN3メッセージ・データ・バイト7レジスタm	CAN	824
C3MDLCm	CAN3メッセージ・データ長レジスタm	CAN	826
C3MIDHm	CAN3メッセージIDレジスタmH	CAN	828
C3MIDLm	CAN3メッセージIDレジスタmL	CAN	828
C3RECIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
C3RGPT	CAN3モジュール受信ヒストリ・リスト・レジスタ	CAN	819
C3TGPT	CAN3モジュール送信ヒストリ・リスト・レジスタ	CAN	821
C3TRXIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
C3TS	CAN3モジュール・タイム・スタンプ・レジスタ	CAN	822
C3WUPIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
C4BRP	CAN4モジュール・ピット・レート・プリスケーラ・レジスタ	CAN	815
C4BTR	CAN4モジュール・ピット・レート・レジスタ	CAN	816
C4CTRL	CAN4モジュール制御レジスタ	CAN	805
C4ERC	CAN4モジュール・エラー・カウンタ・レジスタ	CAN	811
C4ERRIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
C4GMABT	CAN4グローバル自動ブロック送信制御レジスタ	CAN	800
C4GMABTD	CAN4グローバル自動ブロック送信遅延設定レジスタ	CAN	802
C4GMCS	CAN4グローバル・クロック選択レジスタ	CAN	799
C4GMCTRL	CAN4グローバル制御レジスタ	CAN	797
C4IE	CAN4モジュール割り込み許可レジスタ	CAN	812
C4INFO	CAN4モジュール情報レジスタ	CAN	810
C4INTS	CAN4モジュール割り込みステータス・レジスタ	CAN	814
C4LEC	CAN4モジュール最終エラー情報レジスタ	CAN	809

(8/21)

略号	レジスタ名	ユニット	ページ
C4LIPT	CAN4モジュール最終受信ポインタ・レジスタ	CAN	818
C4LOPT	CAN4モジュール最終送信ポインタ・レジスタ	CAN	820
C4MASK1H	CAN4モジュール・マスク1レジスタH	CAN	803
C4MASK1L	CAN4モジュール・マスク1レジスタL	CAN	803
C4MASK2H	CAN4モジュール・マスク2レジスタH	CAN	803
C4MASK2L	CAN4モジュール・マスク2レジスタL	CAN	803
C4MASK3H	CAN4モジュール・マスク3レジスタH	CAN	803
C4MASK3L	CAN4モジュール・マスク3レジスタL	CAN	803
C4MASK4H	CAN4モジュール・マスク4レジスタH	CAN	803
C4MASK4L	CAN4モジュール・マスク4レジスタL	CAN	803
C4MCONFm	CAN4メッセージ・コンフィギュレーション・レジスタm	CAN	827
C4MCTRLm	CAN4メッセージ制御レジスタm	CAN	829
C4MDATA01m	CAN4メッセージ・データ・バイト0レジスタm	CAN	824
C4MDATA0m	CAN4メッセージ・データ・バイト0レジスタm	CAN	824
C4MDATA1m	CAN4メッセージ・データ・バイト1レジスタm	CAN	824
C4MDATA23m	CAN4メッセージ・データ・バイト23レジスタm	CAN	824
C4MDATA2m	CAN4メッセージ・データ・バイト2レジスタm	CAN	824
C4MDATA3m	CAN4メッセージ・データ・バイト3レジスタm	CAN	824
C4MDATA45m	CAN4メッセージ・データ・バイト45レジスタm	CAN	824
C4MDATA4m	CAN4メッセージ・データ・バイト4レジスタm	CAN	824
C4MDATA5m	CAN4メッセージ・データ・バイト5レジスタm	CAN	824
C4MDATA67m	CAN4メッセージ・データ・バイト67レジスタm	CAN	824
C4MDATA6m	CAN4メッセージ・データ・バイト6レジスタm	CAN	824
C4MDATA7m	CAN4メッセージ・データ・バイト7レジスタm	CAN	824
C4MDLCm	CAN4メッセージ・データ長レジスタm	CAN	826
C4MIDHm	CAN4メッセージIDレジスタmH	CAN	828
C4MIDLm	CAN4メッセージIDレジスタmL	CAN	828
C4RECIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
C4RGPT	CAN4モジュール受信ヒストリ・リスト・レジスタ	CAN	819
C4TGPT	CAN4モジュール送信ヒストリ・リスト・レジスタ	CAN	821
C4TRXIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
C4TS	CAN4モジュール・タイム・スタンプ・レジスタ	CAN	822
C4WUPIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
CB0CTL0	CSIB0制御レジスタ0	CSI	638
CB0CTL1	CSIB0制御レジスタ1	CSI	641
CB0CTL2	CSIB0制御レジスタ2	CSI	642
CB0RIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
CB0RX	CSIB0受信データ・レジスタ	CSI	637
CB0RXL	CSIB0受信データ・レジスタL	CSI	637
CB0STR	CSIB0状態レジスタ	CSI	644
CB0TIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
CB0TX	CSIB0送信データ・レジスタ	CSI	637
CB0TXL	CSIB0送信データ・レジスタL	CSI	637
CB1CTL0	CSIB1制御レジスタ0	CSI	638

(9/21)

略号	レジスタ名	ユニット	ページ
CB1CTL1	CSIB1制御レジスタ1	CSI	641
CB1CTL2	CSIB1制御レジスタ2	CSI	642
CB1RIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
CB1RX	CSIB1受信データ・レジスタ	CSI	637
CB1RXL	CSIB1受信データ・レジスタL	CSI	637
CB1STR	CSIB1状態レジスタ	CSI	644
CB1TIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
CB1TX	CSIB1送信データ・レジスタ	CSI	637
CB1TXL	CSIB1送信データ・レジスタL	CSI	637
CB2CTL0	CSIB2制御レジスタ0	CSI	638
CB2CTL1	CSIB2制御レジスタ1	CSI	641
CB2CTL2	CSIB2制御レジスタ2	CSI	642
CB2RIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
CB2RX	CSIB2受信データ・レジスタ	CSI	637
CB2RXL	CSIB2受信データ・レジスタL	CSI	637
CB2STR	CSIB2状態レジスタ	CSI	644
CB2TIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
CB2TX	CSIB2送信データ・レジスタ	CSI	637
CB2TXL	CSIB2送信データ・レジスタL	CSI	637
CB3CTL0	CSIB3制御レジスタ0	CSI	638
CB3CTL1	CSIB3制御レジスタ1	CSI	641
CB3CTL2	CSIB3制御レジスタ2	CSI	642
CB3RIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
CB3RX	CSIB3受信データ・レジスタ	CSI	637
CB3RXL	CSIB3受信データ・レジスタL	CSI	637
CB3STR	CSIB3状態レジスタ	CSI	644
CB3TIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
CB3TX	CSIB3送信データ・レジスタ	CSI	637
CB3TXL	CSIB3送信データ・レジスタL	CSI	637
CCLS	CPU動作クロック・ステータス・レジスタ	CG	219
CLM	メイン・クロック発振回路クロック・モニタ・モード・レジスタ	CLM	241
DADC0	DMAアドレシング・コントロール・レジスタ0	DMA	405
DADC1	DMAアドレシング・コントロール・レジスタ1	DMA	405
DADC2	DMAアドレシング・コントロール・レジスタ2	DMA	405
DADC3	DMAアドレシング・コントロール・レジスタ3	DMA	405
DBC0	DMA転送カウント・レジスタ0	DMA	404
DBC1	DMA転送カウント・レジスタ1	DMA	404
DBC2	DMA転送カウント・レジスタ2	DMA	404
DBC3	DMA転送カウント・レジスタ3	DMA	404
DCHC0	DMAチャネル・コントロール・レジスタ0	DMA	406
DCHC1	DMAチャネル・コントロール・レジスタ1	DMA	406
DCHC2	DMAチャネル・コントロール・レジスタ2	DMA	406
DCHC3	DMAチャネル・コントロール・レジスタ3	DMA	406
DDA0H	DMAデスティネーション・アドレス・レジスタ0H	DMA	403

(10/21)

略号	レジスタ名	ユニット	ページ
DDA0L	DMAデスティネーション・アドレス・レジスタ0L	DMA	403
DDA1H	DMAデスティネーション・アドレス・レジスタ1H	DMA	403
DDA1L	DMAデスティネーション・アドレス・レジスタ1L	DMA	403
DDA2H	DMAデスティネーション・アドレス・レジスタ2H	DMA	403
DDA2L	DMAデスティネーション・アドレス・レジスタ2L	DMA	403
DDA3H	DMAデスティネーション・アドレス・レジスタ3H	DMA	403
DDA3L	DMAデスティネーション・アドレス・レジスタ3L	DMA	403
DFLCTL	データ・フラッシュ・コントロール・レジスタ	フラッシュ	338
DMAIC0	割り込み制御レジスタ	INTC	297
DMAIC1	割り込み制御レジスタ	INTC	297
DMAIC2	割り込み制御レジスタ	INTC	297
DMAIC3	割り込み制御レジスタ	INTC	297
DSA0H	DMAソース・アドレス・レジスタ0H	DMA	402
DSA0L	DMAソース・アドレス・レジスタ0L	DMA	402
DSA1H	DMAソース・アドレス・レジスタ1H	DMA	402
DSA1L	DMAソース・アドレス・レジスタ1L	DMA	402
DSA2H	DMAソース・アドレス・レジスタ2H	DMA	402
DSA2L	DMAソース・アドレス・レジスタ2L	DMA	402
DSA3H	DMAソース・アドレス・レジスタ3H	DMA	402
DSA3L	DMAソース・アドレス・レジスタ3L	DMA	402
DTFR0	DMAトリガ要因レジスタ0	DMA	407
DTFR1	DMAトリガ要因レジスタ1	DMA	407
DTFR2	DMAトリガ要因レジスタ2	DMA	407
DTFR3	DMAトリガ要因レジスタ3	DMA	407
DWC0	データ・ウェイト・コントロール・レジスタ	BCU	383
FLIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
HZA0CTL0	ハイ・インピーダンス出力制御レジスタ0	TAB	953
HZA0CTL1	ハイ・インピーダンス出力制御レジスタ1	TAB	953
IIC0	IICシフト・レジスタ0	I ² C	693
IIC0IC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
IICC0	IICコントロール・レジスタ0	I ² C	677
IICCL0	IICクロック選択レジスタ0	I ² C	687
IICFO	IICフラグ・レジスタ0	I ² C	685
IICSO	IIC状態レジスタ0	I ² C	682
IICX0	IIC機能拡張レジスタ0	I ² C	688
IMR0	割り込みマスク・レジスタ0	INTC	305
IMROH	割り込みマスク・レジスタ0H	INTC	305
IMROL	割り込みマスク・レジスタ0L	INTC	305
IMR1	割り込みマスク・レジスタ1	INTC	305
IMR1H	割り込みマスク・レジスタ1H	INTC	305
IMR1L	割り込みマスク・レジスタ1L	INTC	305
IMR2	割り込みマスク・レジスタ2	INTC	305
IMR2H	割り込みマスク・レジスタ2H	INTC	305
IMR2L	割り込みマスク・レジスタ2L	INTC	305

(11/21)

略号	レジスタ名	ユニット	ページ
IMR3	割り込みマスク・レジスタ3	INTC	305
IMR3H	割り込みマスク・レジスタ3H	INTC	305
IMR3L	割り込みマスク・レジスタ3L	INTC	305
IMR4	割り込みマスク・レジスタ4	INTC	305
IMR4H	割り込みマスク・レジスタ4H	INTC	305
IMR4L	割り込みマスク・レジスタ4L	INTC	305
IMR5	割り込みマスク・レジスタ5	INTC	305
IMR5H	割り込みマスク・レジスタ5H	INTC	305
IMR5L	割り込みマスク・レジスタ5L	INTC	305
IMR6	割り込みマスク・レジスタ6	INTC	305
IMR6H	割り込みマスク・レジスタ6H	INTC	305
IMR6L	割り込みマスク・レジスタ6L	INTC	305
IMR7	割り込みマスク・レジスタ7	INTC	305
IMR7L	割り込みマスク・レジスタ7L	INTC	305
INTF0	外部割り込み立ち下がりエッジ指定レジスタ0	INTC	311
INTF1	外部割り込み立ち下がりエッジ指定レジスタ1	INTC	311
INTF3	外部割り込み立ち下がりエッジ指定レジスタ3	INTC	311
INTF3H	外部割り込み立ち下がりエッジ指定レジスタ3H	INTC	311
INTF3L	外部割り込み立ち下がりエッジ指定レジスタ3L	INTC	311
INTF4	外部割り込み立ち下がりエッジ指定レジスタ4	INTC	311
INTF6	外部割り込み立ち下がりエッジ指定レジスタ6	INTC	311
INTF6H	外部割り込み立ち下がりエッジ指定レジスタ6H	INTC	311
INTF6L	外部割り込み立ち下がりエッジ指定レジスタ6L	INTC	311
INTF8	外部割り込み立ち下がりエッジ指定レジスタ8	INTC	311
INTF9H	外部割り込み立ち下がりエッジ指定レジスタ9H	INTC	311
INTR0	外部割り込み立ち上がりエッジ指定レジスタ0	INTC	311
INTR1	外部割り込み立ち上がりエッジ指定レジスタ1	INTC	311
INTR3	外部割り込み立ち上がりエッジ指定レジスタ3	INTC	311
INTR3H	外部割り込み立ち上がりエッジ指定レジスタ3H	INTC	311
INTR3L	外部割り込み立ち上がりエッジ指定レジスタ3L	INTC	311
INTR4	外部割り込み立ち上がりエッジ指定レジスタ4	INTC	311
INTR6	外部割り込み立ち上がりエッジ指定レジスタ6	INTC	311
INTR6H	外部割り込み立ち上がりエッジ指定レジスタ6H	INTC	311
INTR6L	外部割り込み立ち上がりエッジ指定レジスタ6L	INTC	311
INTR8	外部割り込み立ち上がりエッジ指定レジスタ8	INTC	311
INTR9H	外部割り込み立ち上がりエッジ指定レジスタ9H	INTC	311
ISPR	インサービス・プライオリティ・レジスタ	INTC	309
KRIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
KRM	キー・リターン・モード・レジスタ	KR	328
LOCKR	ロック・レジスタ	CG	229
LVIHIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
LVILIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
LVIM	低電圧検出レジスタ	LVI	1015
LVIS	低電圧検出レベル選択レジスタ	LVI	1016

(12/21)

略号	レジスタ名	ユニット	ページ
MCM	メイン・システム・クロック・モード・レジスタ	CG	220
NFC	ディジタル・ノイズ・フィルタ制御レジスタ	INTC	155
OCDM	オンチップ・デバッグ・モード・レジスタ	デバッグ	1032
OCKS0	IIC分周クロック選択レジスタ0	I ² C	688
OSTC	発振安定時間カウント・ステータス・レジスタ	CG	221
OSTS	発振安定時間選択レジスタ	WDT	222
P0	ポート0	ポート	51
P1	ポート1	ポート	51
P2H	ポート2H	ポート	51
P2L	ポート2L	ポート	51
P3	ポート3	ポート	51
P3H	ポート3H	ポート	51
P3L	ポート3L	ポート	51
P4	ポート4	ポート	51
P5	ポート5	ポート	51
P6	ポート6	ポート	51
P6H	ポート6H	ポート	51
P6L	ポート6L	ポート	51
P7H	ポート7H	ポート	51
P7L	ポート7L	ポート	51
P8	ポート8	ポート	51
P9	ポート9	ポート	51
P9H	ポート9H	ポート	51
P9L	ポート9L	ポート	51
P12	ポート12	ポート	51
P15	ポート15	ポート	51
PCC	プロセッサ・クロック・コントロール・レジスタ	CG	224
PCD	ポートCD	ポート	51
PCLM	プログラマブル・クロック・モード・レジスタ	CG	227
PCM	ポートCM	ポート	51
PCS	ポートCS	ポート	51
PCT	ポートCT	ポート	51
PDL	ポートDL	ポート	51
PDLH	ポートDLH	ポート	51
PDLL	ポートDLL	ポート	51
PEMU1	周辺エミュレーション・レジスタ1	CPU	1018
PF9H	ポート・ファンクション・レジスタ9H	ポート	54
PFC0	ポート・ファンクション・コントロール・レジスタ0	ポート	48
PFC3L	ポート・ファンクション・コントロール・レジスタ3L	ポート	48
PFC4	ポート・ファンクション・コントロール・レジスタ4	ポート	48
PFC5	ポート・ファンクション・コントロール・レジスタ5	ポート	48
PFC6	ポート・ファンクション・コントロール・レジスタ6	ポート	48
PFC6H	ポート・ファンクション・コントロール・レジスタ6H	ポート	48
PFC6L	ポート・ファンクション・コントロール・レジスタ6L	ポート	48

(13/21)

略号	レジスタ名	ユニット	ページ
PFC9	ポート・ファンクション・コントロール・レジスタ9	ポート	48
PFC9H	ポート・ファンクション・コントロール・レジスタ9H	ポート	48
PFC9L	ポート・ファンクション・コントロール・レジスタ9L	ポート	48
PFC15	ポート・ファンクション・コントロール・レジスタ15	ポート	48
PFCE0	ポート・ファンクション・コントロール拡張レジスタ0	ポート	49
PFCE3L	ポート・ファンクション・コントロール拡張レジスタ3L	ポート	49
PFCE4	ポート・ファンクション・コントロール拡張レジスタ4	ポート	49
PFCE5	ポート・ファンクション・コントロール拡張レジスタ5	ポート	49
PFCE6L	ポート・ファンクション・コントロール拡張レジスタ6L	ポート	49
PFCE9	ポート・ファンクション・コントロール拡張レジスタ9	ポート	49
PFCE9H	ポート・ファンクション・コントロール拡張レジスタ9H	ポート	49
PFCE9L	ポート・ファンクション・コントロール拡張レジスタ9L	ポート	49
PIC0	割り込み制御レジスタ	INTC	297
PIC1	割り込み制御レジスタ	INTC	297
PIC2	割り込み制御レジスタ	INTC	297
PIC3	割り込み制御レジスタ	INTC	297
PIC4	割り込み制御レジスタ	INTC	297
PIC5	割り込み制御レジスタ	INTC	297
PIC6	割り込み制御レジスタ	INTC	297
PIC7	割り込み制御レジスタ	INTC	297
PIC8	割り込み制御レジスタ	INTC	297
PIC9	割り込み制御レジスタ	INTC	297
PIC10	割り込み制御レジスタ	INTC	297
PIC11	割り込み制御レジスタ	INTC	297
PIC12	割り込み制御レジスタ	INTC	297
PIC13	割り込み制御レジスタ	INTC	297
PIC14	割り込み制御レジスタ	INTC	297
PIC15	割り込み制御レジスタ	INTC	297
PLLCTL	PLLコントロール・レジスタ	CG	230
PLLS	PLLロックアップ時間指定レジスタ	CG	231
PM0	ポート・モード・レジスタ0	ポート	47
PM1	ポート・モード・レジスタ1	ポート	47
PM2H	ポート・モード・レジスタ2H	ポート	47
PM2L	ポート・モード・レジスタ2L	ポート	47
PM3	ポート・モード・レジスタ3	ポート	47
PM3H	ポート・モード・レジスタ3H	ポート	47
PM3L	ポート・モード・レジスタ3L	ポート	47
PM4	ポート・モード・レジスタ4	ポート	47
PM5	ポート・モード・レジスタ5	ポート	47
PM6	ポート・モード・レジスタ6	ポート	47
PM6H	ポート・モード・レジスタ6H	ポート	47
PM6L	ポート・モード・レジスタ6L	ポート	47
PM7H	ポート・モード・レジスタ7H	ポート	47
PM7L	ポート・モード・レジスタ7L	ポート	47

(14/21)

略号	レジスタ名	ユニット	ページ
PM8	ポート・モード・レジスタ8	ポート	47
PM9	ポート・モード・レジスタ9	ポート	47
PM9H	ポート・モード・レジスタ9H	ポート	47
PM9L	ポート・モード・レジスタ9L	ポート	47
PM12	ポート・モード・レジスタ12	ポート	47
PM15	ポート・モード・レジスタ15	ポート	47
PMC0	ポート・モード・コントロール・レジスタ0	ポート	46
PMC1	ポート・モード・コントロール・レジスタ1	ポート	46
PMC2H	ポート・モード・コントロール・レジスタ2H	ポート	46
PMC2L	ポート・モード・コントロール・レジスタ2L	ポート	46
PMC3	ポート・モード・コントロール・レジスタ3	ポート	46
PMC3H	ポート・モード・コントロール・レジスタ3H	ポート	46
PMC3L	ポート・モード・コントロール・レジスタ3L	ポート	46
PMC4	ポート・モード・コントロール・レジスタ4	ポート	46
PMC5	ポート・モード・コントロール・レジスタ5	ポート	46
PMC6	ポート・モード・コントロール・レジスタ6	ポート	46
PMC6H	ポート・モード・コントロール・レジスタ6H	ポート	46
PMC6L	ポート・モード・コントロール・レジスタ6L	ポート	46
PMC7H	ポート・モード・コントロール・レジスタ7H	ポート	46
PMC7L	ポート・モード・コントロール・レジスタ7L	ポート	46
PMC8	ポート・モード・コントロール・レジスタ8	ポート	46
PMC9	ポート・モード・コントロール・レジスタ9	ポート	46
PMC9H	ポート・モード・コントロール・レジスタ9H	ポート	46
PMC9L	ポート・モード・コントロール・レジスタ9L	ポート	46
PMC12	ポート・モード・コントロール・レジスタ12	ポート	46
PMC15	ポート・モード・コントロール・レジスタ15	ポート	46
PMCCM	ポート・モード・コントロール・レジスタCM	ポート	46
PMCCS	ポート・モード・コントロール・レジスタCS	ポート	46
PMCCT	ポート・モード・コントロール・レジスタCT	ポート	46
PMCD	ポート・モード・レジスタCD	ポート	47
PMCDL	ポート・モード・コントロール・レジスタDL	ポート	46
PMCDLH	ポート・モード・コントロール・レジスタDLH	ポート	46
PMCDLL	ポート・モード・コントロール・レジスタDLL	ポート	46
PMCM	ポート・モード・レジスタCM	ポート	47
PMCS	ポート・モード・レジスタCS	ポート	47
PMCT	ポート・モード・レジスタCT	ポート	47
PMDL	ポート・モード・レジスタDL	ポート	47
PMDLH	ポート・モード・レジスタDLH	ポート	47
PMDLL	ポート・モード・レジスタDLL	ポート	47
PRCMD	コマンド・レジスタ	CPU	194
PRSCM0	プリスケーラ・コンペア・レジスタ	WT	240
PRSM0	プリスケーラ・モード・レジスタ	WT	239
PRDSELH	製品選択レジスタH	CPU	186
PRDSELL	製品選択レジスタL	CPU	186

(15/21)

略号	レジスタ名	ユニット	ページ
PSC	パワー・セーブ・コントロール・レジスタ	CG	237
PSMR	パワー・セーブ・モード・コントロール・レジスタ	CG	238
PU0	プルアップ抵抗オプション・レジスタ0	ポート	53
PU1	プルアップ抵抗オプション・レジスタ1	ポート	53
PU3	プルアップ抵抗オプション・レジスタ3	ポート	53
PU3H	プルアップ抵抗オプション・レジスタ3H	ポート	53
PU3L	プルアップ抵抗オプション・レジスタ3L	ポート	53
PU4	プルアップ抵抗オプション・レジスタ4	ポート	53
PU5	プルアップ抵抗オプション・レジスタ5	ポート	53
PU6	プルアップ抵抗オプション・レジスタ6	ポート	53
PU6H	プルアップ抵抗オプション・レジスタ6H	ポート	53
PU6L	プルアップ抵抗オプション・レジスタ6L	ポート	53
PU8	プルアップ抵抗オプション・レジスタ8	ポート	53
PU9	プルアップ抵抗オプション・レジスタ9	ポート	53
PU9H	プルアップ抵抗オプション・レジスタ9H	ポート	53
PU9L	プルアップ抵抗オプション・レジスタ9L	ポート	53
PU15	プルアップ抵抗オプション・レジスタ15	ポート	53
RAMS	内蔵RAMデータ・ステータス・レジスタ	CG	1017
RCM	内蔵発振モード・レジスタ	CG	228
RESF	リセット要因フラグ・レジスタ	LVI	1013
SELCNT0	セレクタ動作制御レジスタ0	タイマ	242, 433
SELCNT1	セレクタ動作制御レジスタ1	タイマ	243, 435
SELCNT2	セレクタ動作制御レジスタ2	タイマ	244
SELCNT3	セレクタ動作制御レジスタ3	タイマ	245, 436
SELCNT4	セレクタ動作制御レジスタ4	CG	246
SELCNT5	セレクタ動作制御レジスタ5	タイマ	247, 437
SFC0	SSCG周波数コントロール・レジスタ0	CG	233
SFC1	SSCG周波数コントロール・レジスタ1	CG	234
SSCGCTL	SSCGコントロール・レジスタ	CG	232
SVA0	スレーブ・アドレス・レジスタ0	I ² C	694
SYS	システム・レジスタ	CPU	195
TAA0CCIC0	割り込み制御レジスタ	INTC	297
TAA0CCIC1	割り込み制御レジスタ	INTC	297
TAA0CCR0	TAA0キャプチャ / コンペア・レジスタ0	タイマ	430
TAA0CCR1	TAA0キャプチャ / コンペア・レジスタ1	タイマ	431
TAA0CNT	TAA0カウンタ・リード・バッファ・レジスタ	タイマ	432
TAA0CTL0	TAA0制御レジスタ0	タイマ	438
TAA0CTL1	TAA0制御レジスタ1	タイマ	440
TAA0IOC0	TAA0 I/O制御レジスタ0	タイマ	442
TAA0IOC1	TAA0 I/O制御レジスタ1	タイマ	443
TAA0IOC2	TAA0 I/O制御レジスタ2	タイマ	445
TAA0IOC4	TAA0 I/O制御レジスタ4	タイマ	447
TAA0OPT0	TAA0オプション・レジスタ0	タイマ	448
TAA0OVIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297

(16/21)

略号	レジスタ名	ユニット	ページ
TAA1CCIC0	割り込み制御レジスタ	INTC	297
TAA1CCIC1	割り込み制御レジスタ	INTC	297
TAA1CCR0	TAA1キャプチャ / コンペア・レジスタ0	タイマ	430
TAA1CCR1	TAA1キャプチャ / コンペア・レジスタ1	タイマ	431
TAA1CNT	TAA1カウンタ・リード・バッファ・レジスタ	タイマ	432
TAA1CTL0	TAA1制御レジスタ0	タイマ	438
TAA1CTL1	TAA1制御レジスタ1	タイマ	440
TAA1IOC0	TAA1 I/O制御レジスタ0	タイマ	442
TAA1IOC1	TAA1 I/O制御レジスタ1	タイマ	443
TAA1IOC2	TAA1 I/O制御レジスタ2	タイマ	445
TAA1IOC4	TAA1 I/O制御レジスタ4	タイマ	447
TAA1OPT0	TAA1オプション・レジスタ0	タイマ	448
TAA1OPT1	TAA1オプション・レジスタ1	タイマ	450
TAA1OVIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
TAA2CCIC0	割り込み制御レジスタ	INTC	297
TAA2CCIC1	割り込み制御レジスタ	INTC	297
TAA2CCR0	TAA2キャプチャ / コンペア・レジスタ0	タイマ	430
TAA2CCR1	TAA2キャプチャ / コンペア・レジスタ1	タイマ	431
TAA2CNT	TAA2カウンタ・リード・バッファ・レジスタ	タイマ	432
TAA2CTL0	TAA2制御レジスタ0	タイマ	438
TAA2CTL1	TAA2制御レジスタ1	タイマ	440
TAA2IOC0	TAA2 I/O制御レジスタ0	タイマ	442
TAA2IOC1	TAA2 I/O制御レジスタ1	タイマ	443
TAA2IOC2	TAA2 I/O制御レジスタ2	タイマ	445
TAA2IOC4	TAA2 I/O制御レジスタ4	タイマ	447
TAA2OPT0	TAA2オプション・レジスタ0	タイマ	448
TAA2OVIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
TAA3CCIC0	割り込み制御レジスタ	INTC	297
TAA3CCIC1	割り込み制御レジスタ	INTC	297
TAA3CCR0	TAA3キャプチャ / コンペア・レジスタ0	タイマ	430
TAA3CCR1	TAA3キャプチャ / コンペア・レジスタ1	タイマ	431
TAA3CNT	TAA3カウンタ・リード・バッファ・レジスタ	タイマ	432
TAA3CTL0	TAA3制御レジスタ0	タイマ	438
TAA3CTL1	TAA3制御レジスタ1	タイマ	440
TAA3IOC0	TAA3 I/O制御レジスタ0	タイマ	442
TAA3IOC1	TAA3 I/O制御レジスタ1	タイマ	443
TAA3IOC2	TAA3 I/O制御レジスタ2	タイマ	445
TAA3IOC4	TAA3 I/O制御レジスタ4	タイマ	447
TAA3OPT0	TAA3オプション・レジスタ0	タイマ	448
TAA3OPT1	TAA3オプション・レジスタ1	タイマ	450
TAA3OVIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
TAA4CCIC0	割り込み制御レジスタ	INTC	297
TAA4CCIC1	割り込み制御レジスタ	INTC	297
TAA4CCR0	TAA4キャプチャ / コンペア・レジスタ0	タイマ	430

(17/21)

略号	レジスタ名	ユニット	ページ
TAA4CCR1	TAA4キャプチャ / コンペア・レジスタ1	タイマ	431
TAA4CNT	TAA4カウンタ・リード・バッファ・レジスタ	タイマ	432
TAA4CTL0	TAA4制御レジスタ0	タイマ	438
TAA4CTL1	TAA4制御レジスタ1	タイマ	440
TAA4IOC0	TAA4 I/O制御レジスタ0	タイマ	442
TAA4IOC1	TAA4 I/O制御レジスタ1	タイマ	443
TAA4IOC2	TAA4 I/O制御レジスタ2	タイマ	445
TAA4IOC4	TAA4 I/O制御レジスタ4	タイマ	447
TAA4OPT0	TAA4オプション・レジスタ0	タイマ	448
TAA4OVIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
TAA5CCIC0	割り込み制御レジスタ	INTC	297
TAA5CCIC1	割り込み制御レジスタ	INTC	297
TAA5CCR0	TAA5キャプチャ / コンペア・レジスタ0	タイマ	430
TAA5CCR1	TAA5キャプチャ / コンペア・レジスタ1	タイマ	431
TAA5CNT	TAA5カウンタ・リード・バッファ・レジスタ	タイマ	432
TAA5CTL0	TAA5制御レジスタ0	タイマ	438
TAA5CTL1	TAA5制御レジスタ1	タイマ	440
TAA5IOC0	TAA5 I/O制御レジスタ0	タイマ	442
TAA5IOC1	TAA5 I/O制御レジスタ1	タイマ	443
TAA5IOC2	TAA5 I/O制御レジスタ2	タイマ	445
TAA5IOC4	TAA5 I/O制御レジスタ4	タイマ	447
TAA5OPT0	TAA5オプション・レジスタ0	タイマ	448
TAA5OVIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
TAA6CCIC0	割り込み制御レジスタ	INTC	297
TAA6CCIC1	割り込み制御レジスタ	INTC	297
TAA6CCR0	TAA6キャプチャ / コンペア・レジスタ0	タイマ	430
TAA6CCR1	TAA6キャプチャ / コンペア・レジスタ1	タイマ	431
TAA6CNT	TAA6カウンタ・リード・バッファ・レジスタ	タイマ	432
TAA6CTL0	TAA6制御レジスタ0	タイマ	438
TAA6CTL1	TAA6制御レジスタ1	タイマ	440
TAA6IOC0	TAA6 I/O制御レジスタ0	タイマ	442
TAA6IOC1	TAA6 I/O制御レジスタ1	タイマ	443
TAA6IOC2	TAA6 I/O制御レジスタ2	タイマ	445
TAA6IOC4	TAA6 I/O制御レジスタ4	タイマ	447
TAA6OPT0	TAA6オプション・レジスタ0	タイマ	448
TAA6OPT1	TAA6オプション・レジスタ1	タイマ	450
TAA6OVIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
TAA7CCIC0	割り込み制御レジスタ	INTC	297
TAA7CCIC1	割り込み制御レジスタ	INTC	297
TAA7CCR0	TAA7キャプチャ / コンペア・レジスタ0	タイマ	430
TAA7CCR1	TAA7キャプチャ / コンペア・レジスタ1	タイマ	431
TAA7CNT	TAA7カウンタ・リード・バッファ・レジスタ	タイマ	432
TAA7CTL0	TAA7制御レジスタ0	タイマ	438
TAA7CTL1	TAA7制御レジスタ1	タイマ	440

(18/21)

略号	レジスタ名	ユニット	ページ
TAA7IOC0	TAA7 I/O制御レジスタ0	タイマ	442
TAA7IOC1	TAA7 I/O制御レジスタ1	タイマ	443
TAA7IOC2	TAA7 I/O制御レジスタ2	タイマ	445
TAA7IOC4	TAA7 I/O制御レジスタ4	タイマ	447
TAA7OPT0	TAA7オプション・レジスタ0	タイマ	448
TAACVIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
TAB0CCIC0	割り込み制御レジスタ	INTC	297
TAB0CCIC1	割り込み制御レジスタ	INTC	297
TAB0CCIC2	割り込み制御レジスタ	INTC	297
TAB0CCIC3	割り込み制御レジスタ	INTC	297
TAB0CCR0	TAB0キャプチャ / コンペア・レジスタ0	タイマ	504
TAB0CCR1	TAB0キャプチャ / コンペア・レジスタ1	タイマ	505
TAB0CCR2	TAB0キャプチャ / コンペア・レジスタ2	タイマ	506
TAB0CCR3	TAB0キャプチャ / コンペア・レジスタ3	タイマ	507
TAB0CNT	TAB0カウンタ・リード・バッファ・レジスタ	タイマ	508
TAB0CTL0	TAB0制御レジスタ0	タイマ	509
TAB0CTL1	TAB0制御レジスタ1	タイマ	511
TAB0DTC	TAB0デッド・タイム・コンペア・レジスタ	タイマ	944
TAB0IOC0	TAB0 I/O制御レジスタ0	タイマ	513
TAB0IOC1	TAB0 I/O制御レジスタ1	タイマ	514
TAB0IOC2	TAB0 I/O制御レジスタ2	タイマ	516
TAB0IOC3	TAB0 I/O制御レジスタ3	タイマ	950
TAB0IOC4	TAB0 I/O制御レジスタ4	タイマ	518
TAB0OPT0	TAB0オプション・レジスタ0	タイマ	519, 945
TAB0OPT1	TAB0オプション・レジスタ1	タイマ	946
TAB0OPT2	TAB0オプション・レジスタ2	タイマ	947
TAB0OPT3	TAB0オプション・レジスタ3	タイマ	949
TAACVIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
TAB1CCIC0	割り込み制御レジスタ	INTC	297
TAB1CCIC1	割り込み制御レジスタ	INTC	297
TAB1CCIC2	割り込み制御レジスタ	INTC	297
TAB1CCIC3	割り込み制御レジスタ	INTC	297
TAB1CCR0	TAB1キャプチャ / コンペア・レジスタ0	タイマ	504
TAB1CCR1	TAB1キャプチャ / コンペア・レジスタ1	タイマ	505
TAB1CCR2	TAB1キャプチャ / コンペア・レジスタ2	タイマ	506
TAB1CCR3	TAB1キャプチャ / コンペア・レジスタ3	タイマ	507
TAB1CNT	TAB1カウンタ・リード・バッファ・レジスタ	タイマ	508
TAB1CTL0	TAB1制御レジスタ0	タイマ	509
TAB1CTL1	TAB1制御レジスタ1	タイマ	511
TAB1IOC0	TAB1 I/O制御レジスタ0	タイマ	513
TAB1IOC1	TAB1 I/O制御レジスタ1	タイマ	514
TAB1IOC2	TAB1 I/O制御レジスタ2	タイマ	516
TAB1IOC4	TAB1 I/O制御レジスタ4	タイマ	518
TAB1OPT0	TAB1オプション・レジスタ0	タイマ	519

(19/21)

略号	レジスタ名	ユニット	ページ
TAB1OVIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
TAB2CCIC0	割り込み制御レジスタ	INTC	297
TAB2CCIC1	割り込み制御レジスタ	INTC	297
TAB2CCIC2	割り込み制御レジスタ	INTC	297
TAB2CCIC3	割り込み制御レジスタ	INTC	297
TAB2CCR0	TAB2キャプチャ / コンペア・レジスタ0	タイマ	504
TAB2CCR1	TAB2キャプチャ / コンペア・レジスタ1	タイマ	505
TAB2CCR2	TAB2キャプチャ / コンペア・レジスタ2	タイマ	506
TAB2CCR3	TAB2キャプチャ / コンペア・レジスタ3	タイマ	507
TAB2CNT	TAB2カウンタ・リード・バッファ・レジスタ	タイマ	508
TAB2CTL0	TAB2制御レジスタ0	タイマ	509
TAB2CTL1	TAB2制御レジスタ1	タイマ	511
TAB2IOC0	TAB2 I/O制御レジスタ0	タイマ	513
TAB2IOC1	TAB2 I/O制御レジスタ1	タイマ	514
TAB2IOC2	TAB2 I/O制御レジスタ2	タイマ	516
TAB2IOC4	TAB2 I/O制御レジスタ4	タイマ	518
TAB2OPT0	TAB2オプション・レジスタ0	タイマ	519
TAB2OVIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
TM0CMPO	TMM0コンペア・レジスタ0	タイマ	561
TM0CTL0	TMM0制御レジスタ0	タイマ	561
TM0EQIC0	割り込み制御レジスタ	INTC	297
UD0CTL0	UARTD0制御レジスタ0	UART	584
UD0CTL1	UARTD0制御レジスタ1	UART	627
UD0CTL2	UARTD0制御レジスタ2	UART	628
UD0OPT0	UARTD0オプション制御レジスタ0	UART	587
UD0OPT1	UARTD0オプション制御レジスタ1	UART	591
UD0RIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
UD0RX	UARTD0受信データ・レジスタ	UART	595
UD0SIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
UD0STR	UARTD0状態レジスタ	UART	592
UD0TIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
UD0TX	UARTD0送信データ・レジスタ	UART	596
UD1CTL0	UARTD1制御レジスタ0	UART	584
UD1CTL1	UARTD1制御レジスタ1	UART	627
UD1CTL2	UARTD1制御レジスタ2	UART	628
UD1OPT0	UARTD1オプション制御レジスタ0	UART	587
UD1OPT1	UARTD1オプション制御レジスタ1	UART	591
UD1RIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
UD1RX	UARTD1受信データ・レジスタ	UART	595
UD1SIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
UD1STR	UARTD1状態レジスタ	UART	592
UD1TIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
UD1TX	UARTD1送信データ・レジスタ	UART	596
UD2CTL0	UARTD2制御レジスタ0	UART	584

(20/21)

略号	レジスタ名	ユニット	ページ
UD2CTL1	UARTD2制御レジスタ1	UART	627
UD2CTL2	UARTD2制御レジスタ2	UART	628
UD2OPT0	UARTD2オプション制御レジスタ0	UART	587
UD2OPT1	UARTD2オプション制御レジスタ1	UART	591
UD2RIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
UD2RX	UARTD2受信データ・レジスタ	UART	595
UD2SIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
UD2STR	UARTD2状態レジスタ	UART	592
UD2TIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
UD2TX	UARTD2送信データ・レジスタ	UART	596
UD3CTL0	UARTD3制御レジスタ0	UART	584
UD3CTL1	UARTD3制御レジスタ1	UART	627
UD3CTL2	UARTD3制御レジスタ2	UART	628
UD3OPT0	UARTD3オプション制御レジスタ0	UART	587
UD3OPT1	UARTD3オプション制御レジスタ1	UART	591
UD3RIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
UD3RX	UARTD3受信データ・レジスタ	UART	595
UD3SIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
UD3STR	UARTD3状態レジスタ	UART	592
UD3TIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
UD3TX	UARTD3送信データ・レジスタ	UART	596
UD4CTL0	UARTD4制御レジスタ0	UART	584
UD4CTL1	UARTD4制御レジスタ1	UART	627
UD4CTL2	UARTD4制御レジスタ2	UART	628
UD4OPT0	UARTD4オプション制御レジスタ0	UART	587
UD4OPT1	UARTD4オプション制御レジスタ1	UART	591
UD4RIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
UD4RX	UARTD4受信データ・レジスタ	UART	595
UD4SIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
UD4STR	UARTD4状態レジスタ	UART	592
UD4TIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
UD4TX	UARTD4送信データ・レジスタ	UART	596
UD5CTL0	UARTD5制御レジスタ0	UART	584
UD5CTL1	UARTD5制御レジスタ1	UART	627
UD5CTL2	UARTD5制御レジスタ2	UART	628
UD5OPT0	UARTD5オプション制御レジスタ0	UART	587
UD5OPT1	UARTD5オプション制御レジスタ1	UART	591
UD5RIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
UD5RX	UARTD5受信データ・レジスタ	UART	595
UD5SIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
UD5STR	UARTD5状態レジスタ	UART	592
UD5TIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
UD5TX	UARTD5送信データ・レジスタ	UART	596
UD6CTL0	UARTD6制御レジスタ0	UART	584

(21/21)

略号	レジスタ名	ユニット	ページ
UD6CTL1	UARTD6制御レジスタ1	UART	627
UD6CTL2	UARTD6制御レジスタ2	UART	628
UD6OPT0	UARTD6オプション制御レジスタ0	UART	587
UD6OPT1	UARTD6オプション制御レジスタ1	UART	591
UD6RIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
UD6RX	UARTD6受信データ・レジスタ	UART	595
UD6SIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
UD6STR	UARTD6状態レジスタ	UART	592
UD6TIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
UD6TX	UARTD6送信データ・レジスタ	UART	596
UD7CTL0	UARTD7制御レジスタ0	UART	584
UD7CTL1	UARTD7制御レジスタ1	UART	627
UD7CTL2	UARTD7制御レジスタ2	UART	628
UD7OPT0	UARTD7オプション制御レジスタ0	UART	587
UD7OPT1	UARTD7オプション制御レジスタ1	UART	591
UD7RIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
UD7RX	UARTD7受信データ・レジスタ	UART	595
UD7SIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
UD7STR	UARTD7状態レジスタ	UART	592
UD7TIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
UD7TX	UARTD7送信データ・レジスタ	UART	596
VSWC	システム・ウェイト・コントロール・レジスタ	CPU	381
WDTE	ウォッチドッグ・タイマ・イネーブル・レジスタ	WDT	578
WDTM2	ウォッチドッグ・タイマ・モード・レジスタ2	WDT	577
WTIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
WTIIC	割り込み制御レジスタ	INTC	297
WTM	時計タイマ動作モード・レジスタ	WT	571

付録C 改版履歴

C. 1 本版で改訂された主な箇所

(1 / 2)

箇 所	内 容
U17793JJ3V0UM00 U17793JJ3V1UM00	
p.186	3. 5. 1 (6) 製品選択レジスタ (PRDSEL) を修正
p.200	図4 - 1 クロック発生回路を修正, 注を追加
p.217	表4 - 3 クロック発生回路のレジスタ概要を修正
p.218	4. 2 クロック発生回路のレジスタの本文を修正
p.239, 240	4. 2. 5 ブリスケーラ・モード・レジスタ, 4. 2. 5 (1) ブリスケーラ・モード・レジスタ (PRSM0), 4. 2. 5 (2) ブリスケーラ・コンペア・レジスタ (PRSCM0) を修正
p.387	表10 - 17 ライト・ストローブ (データ・バス幅設定16ビット時) を修正
p.688	20. 4 (6) IIC分周クロック選択レジスタ0 (OCKS0) の備考1を修正
U17793JJ3V0UM00	
p.7	レジスタ・フォーマットの見方の説明を修正
p.27	図1 - 1 V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3ブロック図を修正
p.29	図1 - 2 V850ES/FJ3, V850ES/FK3ブロック図を修正
p.53	表2 - 12 PUnレジスタの内容に注意を追加
p.186	3. 5. 1 (6) 製品選択レジスタ (PRDSEL) を追加
p.297	5. 3. 4 割り込み制御レジスタ (xxICn) に注意2を追加
p.335	表7 - 2 基本機能一覧を修正
p.341	7. 3. 2 (2) ハンドシェークなしCSIB0の本文を修正
p.342	7. 3. 2 (3) ハンドシェーク付きCSIB0 (CSIB0 + HS) の本文を修正
p.381	10. 3. 1 (3) システム・ウェイト・コントロール・レジスタ (VSWC) より表10 - 13 内部バスの推奨タイミングを削除, 表10 - 13 VSWCの設定値の表タイトルを追加
p.407	11. 3 (6) DMAトリガ要因レジスタ0-3 (DTFR0-DTFR3) の注1を削除, 注2を修正
p.419	図11 - 4 DMAの転送要求が無視される期間 (2) を修正
p.427	図12 - 1 タイマAAのブロック図を修正
p.438, 439	12. 5 (1) TAA制御レジスタ0 (TAACTL0) に注意を追加, 注意3を修正
p.509, 510	13. 4 (1) TABn制御レジスタ0 (TABnCTL0) に注意を追加, 注意3を修正
p.562	14. 3 (1) TMM0コンペア・レジスタ0 (TM0CMP0) の注意3を修正
p.570	16. 1 (1) 時計タイマに注意2を追加
p.578	17. 3 (2) ウォッヂドッグ・タイマ・イネーブル・レジスタ (WDTE) の本文を修正
p.582	図18 - 1 アシンクロナス・シリアル・インターフェースのブロック図を修正
p.585, 586	18. 3 (1) UARTDn制御レジスタ0 (UDnCTL0) を修正, 備考2を追加
p.587-590	18. 3 (4) UARTDnオプション制御レジスタ0 (UDnOPT0) を修正
p.591	18. 3 (5) UARTDnオプション制御レジスタ1 (UDnOPT1) を修正
p.593, 594	18. 3 (6) UARTDn状態レジスタ (UDnSTR), 注意を修正
p.595	18. 3 (7) UARTDn受信データ・レジスタ (UDnRX) の本文を修正
p.603	18. 5. 4 SBF受信の本文, 注意2を修正, 注意3を削除

(2/2)

箇 所	内 容
p.604	図18 - 6 SBF受信の注意を修正
p.605	18. 5. 5 データ貫性チェックの本文を修正
p.607	18. 5. 6 (1) UDnSRSビット = 0 (データ送信中は新しいISBFを検出しない) 設定の場合を修正
p.609	18. 5. 6 (2) UDnSRSビット = 1 (データの通信中に新しいISBFを検出する) 設定の場合を修正
p.611	図18 - 11 SBF受信成功時のステータス割り込みの発生タイミングを修正
p.627	18. 6 (2) UARTDn制御レジスタ1 (UDnCTL1) の備考を修正
p.629	18. 6 (5) ポー・レートの誤差の例を修正
p.642	19. 3 (2) CSIBn制御レジスタ1 (CBnCTL1) の備考を修正
p.644	19. 3 (4) CSIBn状態レジスタ (CBnSTR) を修正
p.673	図20 - 2 I ² C00のブロック図を修正
p.688	20. 4 (6) IIC分周クロック選択レジスタ0 (OCKS0) , 備考1を修正 , 備考2を追加
p.689	20. 4 (7) 転送クロックの設定の本文 , 備考1を修正 , 備考2を追加
p.690	表20 - 2 PRSI = 0 : 標準モード時の転送レート設定 (IICCL0.SMC0 = 0) , 表20 - 3 PRSI = 0 : 高速モード時の転送レート設定 (IICCL0.SMC0 = 1) を修正 , 備考を追加
p.691	表20 - 4 PRSI = 1 : 標準モード時の転送レート設定 (IICCL0.SMC0 = 0) , 表20 - 5 PRSI = 1 : 高速モード時の転送レート設定 (IICCL0.SMC0 = 1) を修正 , 備考を追加
p.692	20. 4 (8) I2C0の転送クロックの設定の本文を修正 , 備考を追加
p.732	20. 14. 1 通信予約機能許可の場合 (IICF0.IICRSV0ビット = 0) の本文を修正
p.733	表20 - 9 ウエイト時間を追加
p.750	21. 1. 1 特徴の本文を修正
p.906	表22 - 2 変換モード時の設定例に注を追加
p.914	22. 3 (7) AVSS A/D変換診断レジスタ (ADAnCRSS, ADAnCRSSH) を修正
p.918, 919	22. 4. 2 (1) ソフトウェア・トリガ・モード , (2) 外部トリガ・モード , (3) タイマ・トリガ・モードの本文を修正
p.1008	図25 - 1 リセット機能の信号図を修正
p.1060	表A - 2 周辺I/OレジスタにPRDSELL, PRDSELHレジスタを追加
p.1075	付録B 改版履歴にPRDSELL, PRDSELHレジスタを追加

C. 2 前版までの改版履歴

これまでの改版履歴を次に示します。なお、適用箇所は各版での章を示します。

(1/4)

版 数	内 容	適用箇所
第2版	U17793JJ2V0UM U17793JJ2V1UM	全体
	製品名を変更 μPD70F3370 μPD70F3370A μPD70F3376 μPD70F3376A μPD70F3377 μPD70F3377A	全体
	次のデータ・シートを追加 μPD70F3370A, 70F3371 データ・シート (U18640J) μPD70F3372, 70F3373 データ・シート (U18639J) μPD70F3374, 70F3375, 70F3376A, 70F3377A データ・シート (U18638J) μPD70F3378, 70F3379, 70F3380, 70F3381, 70F3382 データ・シート (U18608J) μPD70F3383, 70F3384, 70F3385 データ・シート (U18637J)	全体
	PG-FP5 フラッシュ・メモリ・プログラマを追加	全体
	表1 - 1 V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3, V850ES/FJ3, V850ES/FK3の機能概要のμPD70F3382のRAM容量を修正	第1章 イントロダクション
	1. 4. 1 V850ES/FE3オーダ情報を修正	
	1. 4. 3 V850ES/FG3オーダ情報を修正	
	表2 - 1 各ポート・グループの機能のポート・グループ8を修正	第2章 端子機能
	2. 2. 2 (3) ポート・ファンクション・コントロール・レジスタ (PFCn) の説明を修正	
	表2 - 12 PUnレジスタの内容の注意を修正	
	2. 2. 5 (1) ポート・ファンクション・レジスタ9H (PF9H) の備考を削除	
	表2 - 16 兼用機能と各製品の対応端子 (アルファベット順) に注1を追加	
	表2 - 16 兼用機能と各製品の対応端子 (アルファベット順) に注1, 2を追加	
	表2 - 16 兼用機能と各製品の対応端子 (アルファベット順) に注1, 2を追加	
	表2 - 31 ポート・グループ6 : 設定レジスタを修正	
	表2 - 33 ポート・グループ7 : 設定レジスタの注1, 2を修正, 注3, 4を追加	
	2. 5. 12 ポート・グループ9の備考を修正	
	表2 - 38 ポート・グループ9 : 設定レジスタ (V850ES/FE3, V850ES/FF3) の備考1を修正	
	表2 - 39 ポート・グループ9 : 設定レジスタ (V850ES/FG3, V850ES/FJ3, V850ES/FK3) の備考を修正	
	表2 - 56 未使用端子の推奨接続を修正	
	2. 9. 1 ポート端子設定上の注意事項の説明を修正	
	図3 - 1 CPUアドレス空間上のイメージを修正	第3章 CPU機能
	3. 5. 1 (2) 内蔵RAM領域の説明を修正	
	3. 7 (2) 特定の内蔵周辺I/Oレジスタへのアクセスについての表を修正	
	4. 1. 1 (a) PLLを使用する場合のクロック設定例を修正	第4章 クロック発生機能とスタンバイ制御
	表4 - 1 内部システム・クロックとCPUクロックのクロック・ソースを修正	
	表4 - 3 クロック発生回路のレジスタ概要を修正	
	4. 2 クロック発生回路のレジスタに説明を追加	

(2/4)

版数	内容	適用箇所
第2版	4. 2. 1 (4) 発振安定時間選択レジスタ (OSTS) の説明を修正 4. 2. 1 (4) 発振安定時間選択レジスタ (OSTS) の注意1, 3, 備考2を修正 表4 - 8 PCCレジスタの内容を修正 図4 - 3 動作状態遷移図の注2を修正 4. 3. 3 (1) (b) リセット信号による解除 (RESET端子入力によるリセットまたは内部リセット信号であるRESPOC信号 (パワーオン・クリア回路), WDT2RES信号 (ウォッチドッグ・タイマ2), RESLVI信号 (低電圧検出回路), SYSRES信号 (クロック・モニタ)) のタイトルを修正 4. 3. 3 (2) (b) リセット信号による解除 (RESET端子入力によるリセットまたは内部リセット信号であるRESPOC信号 (パワーオン・クリア回路), WDT2RES信号 (ウォッチドッグ・タイマ2), RESLVI信号 (低電圧検出回路), SYSRES信号 (クロック・モニタ)) のタイトルを修正 4. 3. 3 (3) (b) リセット信号による解除 (RESET端子入力によるリセットまたは内部リセット信号であるRESPOC信号 (パワーオン・クリア回路), WDT2RES信号 (ウォッチドッグ・タイマ2), RESLVI信号 (低電圧検出回路), SYSRES信号 (クロック・モニタ)) による解除のタイトルを修正 4. 3. 3 (3) (c) IDLE2モードを解除時のセットアップ時間の確保の説明を修正 4. 3. 3 (4) (c) リセット信号による解除 (RESET端子入力によるリセットまたは内部リセット信号であるRESPOC信号 (パワーオン・クリア回路), WDT2RES信号 (ウォッチドッグ・タイマ2), RESLVI信号 (低電圧検出回路), SYSRES信号 (クロック・モニタ)) のタイトルを修正 表4 - 37 サブクロック・モードの動作状態を修正 表5 - 1 V850ES/FE3, V850ES/FF3, V850ES/FG3 (割り込み / 例外要因) を修正 表5 - 3 V850ES/FJ3, V850ES/FK3 (割り込み / 例外要因) を修正 5. 3. 5 (8) 割り込みマスク・レジスタ7 (IMR7), 注意を修正 5. 4 (1) (e) 外部割り込みエッジ指定レジスタ6 (INTF6/INTR6) を修正 5. 4 (1) (g) 外部割り込みエッジ指定レジスタ9H (INTF9H/INTR9H) を修正 表5 - 7 割り込み応答時間1に説明を追加 7. 1. 3 コード・フラッシュ・メモリの機能概要の説明を修正 7. 2. 5 データ・フラッシュの書き込みの説明を修正 図7 - 7 専用フラッシュ・ライタとの通信 (ハンドシェーク付きCSIB0) を修正 表7 - 5 専用フラッシュ・ライタ (PG-FP4, PG-FP5) の信号接続の注意2に文章を追加 7. 4 コード・フラッシュ・セルフ・プログラミングの説明を修正 7. 4. 3 セルフ・プログラミング・ライブラリの機能の説明を修正 7. 4. 5 フラッシュ・セルフ・プログラミング時の割り込み処理の説明を修正 10. 5. 1 外部デバイスへの書き込みの文章を修正, 表10 - 17 ライト・ストローブ(データ・バス幅設定16ビット時)を修正 図10 - 7 タイミング: 外部 / プログラマブル・ウェイト・サイクル, アイドル・ステート挿入時のライト・データ (バス・サイズ: 16ビット) の注意2を削除, 表を追加 図10 - 8 タイミング: 外部 / プログラマブル・ウェイト・サイクル, アイドル・ステート挿入時のライト・データ (バス・サイズ: 8ビット) の注意2を削除 図10 - 9 タイミング: アドレス・セットアップ / ホールド・ウェイト挿入時のライト (バス・サイズ: 16ビット) の注意2を削除	第4章 クロック発生機能とスタンバイ制御 第5章 割り込みコントローラ (INTC) 第7章 フラッシュ・メモリ 第10章 バス, メモリ制御機能 (BCU, MEMC)

(3/4)

版 数	内 容	適用箇所
第2版	図10 - 10 タイミング：外部 / プログラマブル・ウエイト・サイクル , アイドル・ステート挿入時のリード・データ (バス・サイズ : 16ビット) の注意2を削除 , 表を追加 図10 - 11 タイミング：外部 / プログラマブル・ウエイト・サイクル , アイドル・ステート挿入時のリード・データ (バス・サイズ : 8ビット) の注意2を削除 図10 - 12 タイミング：バス・ホールド状態とアイドル・ステート挿入時のリード (バス・サイズ : 16ビット) の注意2を削除 11. 3 (2) DMAデスティネーション・アドレス・レジスタ0-3 (DDA0-DDA3) を修正 11. 3 (6) DMAトリガ要因レジスタ0-3 (DTFR0-DTFR3) に注意5を追加 12. 3 (3) TAA _n カウンタ・リード・バッファ・レジスタ (TAA _n CNT) を修正 12. 5 (1) TAA _n 制御レジスタ0 (TAA _n CTL0) の注意を修正 12. 5 (2) TAA _n 制御レジスタ1 (TAA _n CTL1) のTAA _n SYEビットの説明を修正 12. 6. 1 (2) リロードの説明を修正 図12 - 11 インターパル・タイマ・モード時の基本動作タイミングを修正 , 備考3を追加 12. 6. 2 (1) 特殊TOAAnm出力動作 (強制インアクティブ (リセット) / 強制アクティブ (セット) / 保持) を追加 12. 6. 2 (2) 特殊TOAAn0, TOAAn1出力動作 (動作停止) を追加 図12 - 13 外部イベント・カウント・モード時の基本動作タイミングの備考2を修正 12. 6. 7 (6) 特殊TOAAnm出力動作 (強制インアクティブ (リセット) / 強制アクティブ (セット) / 保持) を修正 13. 4 (1) TABn制御レジスタ0 (TABnCTL0) のTABnCEビットの備考を修正 13. 4 (2) TABn制御レジスタ1 (TABnCTL1) のTAB2SYEビットの説明を修正 13. 4 (4) TABn I/O制御レジスタ1 (TABnIOC1) の注意1を修正 13. 5. 1 (2) リロードの説明を修正 図13 - 9 外部イベント・カウント・モード時の基本動作タイミングの備考2を修正 14. 3 (2) TMM0制御レジスタ0 (TM0CTL0) の注意1を修正 図15 - 2 同調PWM機能の基本動作タイミング (TAA0, TAA1) を修正 表17 - 3 ウオッチドッグ・タイマ2のクロック選択を修正 17. 4 動作の注意を修正 18. 6 (3) UARTDn制御レジスタ2 (UDnCTL2) を修正 19. 2 (2) CSIBn送信データ・レジスタ (CBnTX) の説明を削除 19. 7 注意事項に (4) を追加 表21 - 1 機能概要を修正 21. 3. 6 (5) (a) 通常リカバリ・シーケンスによるバスオフからの復帰動作の注意1を修正 21. 7 (2) CANグローバル・クロック選択レジスタ (CnGMCS) の備考を修正 21. 7 (3) (b) ライト時のSet ABTRG, Clear ABTRGビットに注意を追加 21. 7 (6) (a) リード時のCCERCビットの備考4を削除 21. 7 (19) CANメッセージ・データ・バイト・レジスタ (CnMDATA _{x m}) (x = 0-7) , (CnMDATA _{zm}) (z = 01, 23, 45, 67) を修正	第10章 バス , メモリ制御機能 (BCU, MEMC) 第11章 DMA機能 (DMAコントローラ) 第12章 16ビット・タイマ / イベント・カウンタAA 第13章 16ビット・タイマ / イベント・カウンタAB 第14章 16ビット・インターパル・タイマM 第15章 タイマAA/AB同期動作機能 第17章 ウオッチドッグ・タイマ2 第18章 アシンクロナス・シリアル・インターフェース (UARTD) 第19章 3線式シリアル・インターフェース (CSIB) 第21章 CANコントローラ

(4/4)

版 数	内 容	適用箇所
第2版	21. 7 (23) (a) リード時のRDYビットの注意3を修正 21. 7 (23) (b) ライト時のSet TRQ, Clear TRQビットに注意を追加 21. 10. 2 送信ヒストリ・リスト機能の注意を修正 21. 11. 1 (3) CANスリープ・モードの解除に注意2を追加, 本文の注意2-4を削除 21. 15. 1 ビット・レート設定条件の説明を修正 図21 - 43 割り込みによる送信処理(CnLOPTレジスタを使用する場合)の備考を修正 図21 - 44 割り込みによる送信処理(CnTGPTレジスタを使用する場合)の備考1, 2を修正 図21 - 45 ソフトウェア・ポーリングによる送信処理の備考1, 2を修正 図21 - 46 送信中断処理(ABT付き通常動作モード以外)に注意5を追加 図21 - 47 ABT送信以外の送信中断処理(ABT付き通常動作モード)に注意5を追加 図21 - 50 割り込みによる受信処理(CnLIPTレジスタを使用する場合)の備考を修正 図21 - 51 割り込みによる受信処理(CnRGPTレジスタを使用する場合)の備考1, 2を修正 図21 - 52 ソフトウェア・ポーリングによる受信処理の備考1, 2を修正 図21 - 54 CANスリープ・モード/CANストップ・モードの解除の図, 注を修正 図21 - 57 通常シャット・ダウン処理を修正 図21 - 60 CPUスタンバイ処理(CANスリープ・モードからの移行)を修正 図21 - 61 CPUスタンバイ処理(CANストップ・モードからの移行)を修正 表22 - 2 変換モード時の設定例を修正 22. 3 (3) A/Dコンバータ・モード・レジスタ2(ADAnM2)のADAnDISCビットの注意を修正 22. 3 (7) AVss A/D変換診断レジスタ(ADAnCRSS, ADAnCRSSH)を修正 図22 - 7 ワンショット・スキャン・モード動作タイミング例(ADAnSレジスタ = 03H)を修正 22. 4. 3 (6) ディスクチャージ・モードの説明を修正 表24 - 1 電源端子と接続先, 備考2を修正 25. 1. 1 (2) レジスタの状態に説明を追加 26. 3 (1) 低電圧検出レジスタ(LVIM)に注意5を追加 26. 3 (4) 周辺エミュレーション・レジスタ1(PEMU1)に説明を追加 26. 4. 2 LVI(LVIM.LVIMD = 0)からの割り込み発生に説明を追加 27. 1. 4 セキュリティ機能の説明を削除 表A - 2 周辺I/Oレジスタを修正 付録C 改版履歴を追加	第21章 CANコントローラ 第22章 A/Dコンバータ 第24章 電源 第25章 リセット機能 第26章 低電圧検出回路 第27章 オンチップ・デバッグ・ユニット 付録A 周辺I/Oレジスタとプログラマブル周辺I/Oレジスタ 付録C 改版履歴

(メモ)

【発 行】

NECエレクトロニクス株式会社

〒211-8668 神奈川県川崎市中原区下沼部1753

電話（代表）：044(435)5111

——お問い合わせ先——

【ホームページ】

NECエレクトロニクスの情報がインターネットでご覧になれます。

URL(アドレス) <http://www.necel.co.jp/>

【営業関係、技術関係お問い合わせ先】

半導体ホットライン

（電話：午前 9:00～12:00、午後 1:00～5:00）

電話 : 044-435-9494

E-mail : info@necel.com

【資料請求先】

NECエレクトロニクスのホームページよりダウンロードいただくか、NECエレクトロニクスの販売特約店へお申し付けください。